

2017年度

シラバス
(講義概要)

白鷗大学
教育学部

シラバス（講義概要）

《本書の見方》

本書は目次とシラバス（講義概要）から構成されています。
該当するカリキュラムの目次を参照し、掲載頁のシラバス（講義概要）をご覧ください。

本書の内容は2017年2月25日現在の内容を掲載しています。
最新の情報は本学ホームページより確認することができます。

本学HP：<http://hakuoh.jp/>

学生生活

⇒⇒

シラバス検索

より確認ください。

児 (児童教育専攻).

目 次

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
外国語科目 〔必修〕	英語コミュニケーションⅠ	S. Bergman 三宅	通年	2	1～	36	
		Michael Sorey	通年	2	1～		
		Michael Morgan	通年	2	1～		
		Matthew James STANHAM	通年	2	1～		
		Madeleine 坂下	通年	2	1～		
		Miklos Juhasz	通年	2	1～		
		Richard Todd Leroux	通年	2	1～		
	英語コミュニケーションⅡ	S. Bergman 三宅	通年	2	2～	41	
		Harry Harris	通年	2	2～		
		Michael Morgan	通年	2	2～		
		Matthew James STANHAM	通年	2	2～		
		Madeleine 坂下	通年	2	2～		
		Richard Todd Leroux	通年	2	2～		
外国語・教養選択科目	基礎英語A	木村 記子	半期	1	1～	6	
	基礎英語B	木村 記子	半期	1	1～	8	
	Reading I A	吉田 守利	半期	1	1～	1	
	Reading I B	吉田 守利	半期	1	1～	2	
	Reading II A	Wayne Sumida	半期	1	2～	10	
	Reading II B	Wayne Sumida	半期	1	2～	13	
	Writing I A	Miklos Juhasz	半期	1	1～	4	
	Writing I B	Miklos Juhasz	半期	1	1～	5	
	Writing II A	Wayne Sumida	半期	1	2～	16	
	Writing II B	Wayne Sumida	半期	1	2～	19	
	VocabularyA	鈴木 宏枝	半期	1	1～	22	
	VocabularyB	鈴木 宏枝	半期	1	1～	24	
	ドイツ語ⅠA	伊藤 功	半期2コマ	2	1～	46	
		土屋 睦廣	半期2コマ	2	1～	44	
	ドイツ語ⅠB	伊藤 功	半期2コマ	2	1～	50	
		土屋 睦廣	半期2コマ	2	1～	48	
	ドイツ語ⅡA	Clemens Amann	半期	1	2～	80	
	ドイツ語ⅡB	Clemens Amann	半期	1	2～	81	
	ドイツ語ⅢA	Clemens Amann	半期	1	2～	94	
	ドイツ語ⅢB	Clemens Amann	半期	1	2～	95	
	ドイツ語ⅣA	—	半期	1	2～	—	2017年度休講
	ドイツ語ⅣB	—	半期	1	2～	—	2017年度休講
	フランス語ⅠA	Clemens Amann	半期2コマ	2	1～	52	
		羽生敦子・平賀裕貴	半期2コマ	2	1～	54	
	フランス語ⅠB	Clemens Amann	半期2コマ	2	1～	57	
		羽生敦子・平賀裕貴	半期2コマ	2	1～	59	
	フランス語ⅡA	Clemens Amann	半期	1	2～	82	
	フランス語ⅡB	Clemens Amann	半期	1	2～	84	
	フランス語ⅢA	Clemens Amann	半期	1	2～	96	
	フランス語ⅢB	Clemens Amann	半期	1	2～	98	
	フランス語ⅣA	—	半期	1	2～	—	2017年度休講
	フランス語ⅣB	—	半期	1	2～	—	2017年度休講
スペイン語ⅠA	高橋 節子	半期2コマ	2	1～	62		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
外国語・ 教養選択科目	スペイン語ⅠB	高橋 節子	半期2コマ	2	1～	64	
	スペイン語ⅡA	高橋 節子	半期	1	2～	86	
	スペイン語ⅡB	高橋 節子	半期	1	2～	88	
	スペイン語ⅢA	高橋 節子	半期	1	2～	100	
	スペイン語ⅢB	高橋 節子	半期	1	2～	101	
	スペイン語ⅣA	—	半期	1	2～	—	2017年度休講
	スペイン語ⅣB	—	半期	1	2～	—	2017年度休講
	中国語ⅠA	劉 建雲	半期2コマ	2	1～	66	
		陳 順和	半期2コマ	2	1～	68	
	中国語ⅠB	劉 建雲	半期2コマ	2	1～	70	
		陳 順和	半期2コマ	2	1～	72	
	中国語ⅡA	陳 順和	半期	1	2～	90	
	中国語ⅡB	陳 順和	半期	1	2～	92	
	中国語ⅢA	范 力	半期	1	2～	102	
	中国語ⅢB	范 力	半期	1	2～	104	
	中国語ⅣA	—	半期	1	2～	—	2017年度休講
	中国語ⅣB	—	半期	1	2～	—	2017年度休講
	韓国語ⅠA	李 映京	半期2コマ	2	1～	74	
	韓国語ⅠB	李 映京	半期2コマ	2	1～	77	
	韓国語ⅡA	盧 玟周	半期	1	2～	106	
	韓国語ⅡB	盧 玟周	半期	1	2～	107	
	韓国語ⅢA	盧 玟周	半期	1	2～	108	
	韓国語ⅢB	盧 玟周	半期	1	2～	109	
	韓国語ⅣA	—	半期	1	2～	—	2017年度休講
	韓国語ⅣB	—	半期	1	2～	—	2017年度休講
	歴史学A	上安 祥子	半期	2	1～	110	
		清水 正義	半期	2	1～	112	
	歴史学B	上安 祥子	半期	2	1～	114	
		清水 正義	半期	2	1～	116	
	日本史概論	上安 祥子	半期	2	1～	118	
	外国史概論	清水 正義	半期	2	1～	121	
	地理学A	奥澤 信行	半期	2	1～	123	
	地理学B	奥澤 信行	半期	2	1～	125	
	地理学概論（地誌を含む）	奥澤 信行	半期	2	1～	126	
	倫理学A	的場 哲朗	半期	2	1～	128	
	倫理学B	的場 哲朗	半期	2	1～	130	
	応用倫理A	渡辺 忠	半期	2	1～	135	
	応用倫理B	渡辺 忠	半期	2	1～	137	
	倫理学概論	的場 哲朗	半期	2	1～	132	
	哲学A	渡辺 忠	半期	2	1～	140	
	哲学B	渡辺 忠	半期	2	1～	142	
	哲学概論	渡辺 忠	半期	2	1～	144	
文学A	鈴木 宏枝	半期	2	1～	146		
文学B	針生 進	半期	2	1～	147		
論理学	渡辺 忠	半期2コマ	4	1～	148		
クリティカルシンキングA	—	半期	2	1～	—	2017年度休講	

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
外国語・ 教養選択科目	クリティカルシンキングB	—	半期	2	1～	—	2017年度休講
	国語表現法A	都野 祐俊	半期	2	1～	150	
	国語表現法B	都野 祐俊	半期	2	1～	152	
	美学A	益田 勇一	半期	2	1～	154	
	美学B	益田 勇一	半期	2	1～	155	
	比較文化論A	高畑 昭男	半期	2	1～	157	
		范 力	半期	2	1～	156	
	比較文化論B	高畑 昭男	半期	2	1～	160	
		范 力	半期	2	1～	159	
	文化人類学A	結城 史隆	半期	2	1～	162	
	文化人類学B	結城 史隆	半期	2	1～	164	
	社会学A	川上 代里子	半期	2	1～	168	
		山本 厚太郎	半期	2	1～	166	
	社会学B	川上 代里子	半期	2	1～	172	
		山本 厚太郎	半期	2	1～	170	
	法学A（国際法を含む）	河原 文敬	半期	2	1～	174	
	法学B（国際法を含む）	小野 義典	半期	2	1～	175	
	統計学A	森崎 初男	半期	2	1～	177	
	統計学B	森崎 初男	半期	2	1～	178	
	心理学A	神戸 文朗	半期	2	1～	187	
		津野田 聡子	半期	2	1～	181	
		細田 一秋	半期	2	1～	185	
		山本 良子	半期	2	1～	184	
		湯川 進太郎	半期	2	1～	179	
	心理学B	神戸 文朗	半期	2	1～	195	
		津野田 聡子	半期	2	1～	191	
		鶴田 利郎	半期	2	1～	197	
		山本 良子	半期	2	1～	194	
		湯川 進太郎	半期	2	1～	189	
	社会心理学A	細田 一秋	半期	2	1～	198	
	社会心理学B	細田 一秋	半期	2	1～	200	
	政治学A（国際政治を含む）	服部 一成	半期	2	1～	202	
		三浦 顕一郎	半期	2	1～	204	
	政治学B（国際政治を含む）	服部 一成	半期	2	1～	206	
		三浦 顕一郎	半期	2	1～	208	
	情報社会科学A	—	半期	2	1～	—	2017年度休講
	情報社会科学B	—	半期	2	1～	—	2017年度休講
	環境科学A	山野井 貴浩	半期	2	1～	216	
	環境科学B	山野井 貴浩	半期	2	1～	218	
	代数学	黒澤 和人	半期	2	1～	220	
	解析学	—	半期	2	1～	—	2017年度休講
	数学概論A	黒澤 和人	半期	2	1～	267	
	数学概論B	黒澤 和人	半期	2	1～	222	
	物理学A	師 啓二	半期	2	1～	224	
	物理学B	師 啓二	半期	2	1～	226	
	化学A	高林 久美子	半期	2	1～	228	

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
外国語・教養選択科目	化学B	高林 久美子	半期	2	1～	229	
	生物学A	上田 高嘉	半期	2	1～	230	
		岡田 晴恵	半期	2	1～	231	
	生物学B	上田 高嘉	半期	2	1～	233	
		岡田 晴恵	半期	2	1～	234	
	科学史A	—	半期	2	1～	—	2017年度休講
	科学史B	—	半期	2	1～	—	2017年度休講
	日本国憲法	池村 好道	半期	2	1～	213	
		岡田 順太	半期	2	1～	212	
		小野 義典	半期	2	1～	210	(幼保)
		小野 義典	半期	2	1～	214	
	健康科学	荒井 信成	半期	2	1～	254	(幼保)
		野間 明紀	半期	2	1～	253	
		藤井 和彦	半期	2	1～	252	
	体育実技A	体育担当教員	半期	1	1～	240	(幼保)
		体育担当教員	半期	1	1～	242	(小学校)
	体育実技B	体育担当教員	半期	1	1～	246	(幼保)
		体育担当教員	半期	1	1～	248	(小学校)
	情報処理	渋川 美紀	半期	2	1～	236	
		情報処理担当教員	半期	2	1～		
マナーの基本	佐藤 由利	半期	2	1～	303		
キャリアデザイン	キャリア担当教員	半期	2	1～	238		
コミュニケーション能力を磨こう	—	半期	2	1～	—	2017年度休講	
教養科目	教養特講(就活コミュ学(教職編))	渡辺 裕子	半期	2	3～	302	
	教養特講(地球環境問題)	山本 厚太郎	半期	2	1～	258	
	教養特講(病と癒しの人間史)	岡田 晴恵	半期	2	1～	259	
	教養特講(国際経済関係論)	今井 一雄	半期	2	1～	261	
	教養特講(モバイル社会とメディア)	菅谷実/KDDI総合研究所	半期	2	1～	262	
	教養特講(ソーシャルデザイン論)	小笠原 伸	半期	2	1～	264	
	教養特講(平成政治史研究)	後藤 謙次	半期	2	1～	266	
	教養特講(高齢社会と介護)	川瀬 善美	半期	2	1～	256	
専攻必修科目	フレッシュマンセミナー	浅田 晃佑	半期	1	1～	314	
		岩城 淳子	半期	1	1～		
		宇津野 花陽	半期	1	1～		
		奥澤 信行	半期	1	1～		
		渋川 美紀	半期	1	1～		
		富田 英也	半期	1	1～		
		福崎 淳子	半期	1	1～		
		山路 千華	半期	1	1～		
		山野井 貴浩	半期	1	1～		
教科専門科目	国語概説Ⅰ(書写を含む)	菊地 真貴子	半期	2	1～	515	
	国語概説Ⅱ(書写を含む)	大上 忠幸	半期	2	3～	517	
	社会科概説Ⅰ	奥澤 信行	半期	2	1～	519	
		原口 美貴子	半期	2	1～	521	
	社会科概説Ⅱ	原口 美貴子	半期	2	3～	523	
	算数概説Ⅰ	榎本 哲士	半期	2	1～	526	

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
教科専門科目	算数概説Ⅰ	洪川 美紀	半期	2	1～	525	
	算数概説Ⅱ	森本 明	半期	2	3～	527	
	理科概説Ⅰ	大高 泉	半期	2	1～	531	
		山野井 貴浩	半期	2	1～	529	
	理科概説Ⅱ	大高 泉	半期	2	3～	532	
	生活科概説Ⅰ	柳原 高文	半期	2	1～	534	
	生活科概説Ⅱ	柳原 高文	半期	2	3～	535	
	家庭科概説Ⅰ	宇津野 花陽	半期	2	1～	537	
	家庭科概説Ⅱ	宇津野 花陽	半期	2	3～	538	
	音楽概説Ⅰ	新井 恵美	半期	2	1～	542	
		富田 英也	半期	2	1～	540	
	音楽概説Ⅱ（声楽）	荒井 弘高	半期	2	3～	543	
	音楽概説Ⅲ（器楽）	今田 政成	半期	2	3～	544	
	図画工作概説Ⅰ	金子 亨	半期	2	1～	547	
		益田 勇一	半期	2	1～	546	
	図画工作概説Ⅱ（立体）	粕谷 圭司	半期	2	3～	549	
	図画工作概説Ⅲ（平面）	小久保 裕	半期	2	3～	550	
	体育概説Ⅰ	体育担当教員	半期	2	1～	552	(小学校)
		体育担当教員	半期	2	1～	554	(幼保)
	体育概説Ⅱ	内田 雄三	半期	2	3～	556	
	ソルフェージュ	荒井 弘高	通年	2	1～	328	
		今田 政成	通年	2	1～		
造形	齋藤 千明	通年	2	1～	336		
子どもの運動	内山 須美子	半期	1	2～	558		
教職専門科目	教師論	金井 正	半期	2	2～	507	
		山路 千華	半期	2	2～	511	
	教育基礎論	有馬 知江美	半期	2	1～	564	
		小泉 祥一	半期	2	1～	560	
	教育心理学	浅田 晃佑	半期	2	1～	513	
	教育制度論	荒川 麻里	半期	2	1～	320	
	教育課程論P	小泉 祥一	半期	2	3～	568	
		福崎 淳子	半期	2	3～	566	
	国語科教育法	大上 忠幸	半期	2	2～	366	
	社会科教育法	奥澤 信行	半期	2	2～	368	
		原口 美貴子	半期	2	2～	370	
	算数科教育法	石井 勉	半期	2	2～	374	
		榎本 哲士	半期	2	2～	372	
	理科教育法	森本 明	半期	2	2～	376	
		山野井 貴浩	半期	2	2～	378	
	生活科教育法	伊藤 哲章	半期	2	2～	382	
		田村 恵美	半期	2	2～	380	
	音楽科教育法	新井 恵美	半期	2	2～	386	
		富田 英也	半期	2	2～	384	
	図画工作科教育法	金子 亨	半期	2	2～	388	
		益田 勇一	半期	2	2～	387	
	家庭科教育法	宇津野 花陽	半期	2	2～	390	

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
教職専門科目	家庭科教育法	和田 早苗	半期	2	2～	392	
	体育科教育法	大津 展子	半期	2	2～	394	
	教育法演習A	榎本 哲士	半期	1	3～	570	
	教育法演習B	宇津野 花陽	半期	1	3～	571	
	教育法演習C	富田 英也	半期	1	3～	572	
	保育内容指導法（健康）	岩城 淳子	半期	2	3～	574	
	保育内容指導法（人間関係）	馬場 康宏	半期	2	3～	576	
	保育内容指導法（環境）	山路 千華	半期	2	3～	577	
	保育内容指導法（言葉）	福崎 淳子	半期	2	3～	578	
	保育内容指導法（表現①）	富田 英也	半期	2	3～	580	
	保育内容指導法（表現②）	益田 勇一	半期	2	3～	582	
	保育内容指導法（表現③）	松村 朋子	半期	2	3～	583	
	道德教育の理論と方法P	中山 和彦	半期	2	1～	585	
	特別活動の理論と方法P	金井 正	半期	2	2～	588	
	教育方法論P	山路 千華	半期	2	1～	590	
		池野 正晴	半期	2	1～	591	
	生徒指導論（進路指導を含む）	須藤 勝	半期	2	2～	595	
教育相談P	伊崎 純子	半期	2	2～	599		
教科・教職関連科目	児童文学	鈴木 宏枝	半期	2	1～	420	
	歌唱表現	荒井 弘高	通年	2	2～	331	
		伊藤 裕美	通年	2	2～		
	音楽実技Ⅰ	音楽担当教員	通年	2	1～	601	
		音楽担当教員	通年	2	2～		
	音楽実技Ⅱ	伊藤 裕美	通年	2	2～	603	
		今田 政成	通年	2	2～		
		高岩 利恵	通年	2	2～		
	音楽実技ⅢA	音楽担当教員	通年	2	3～	605	
	音楽実技ⅢB	音楽担当教員	通年	2	4	607	
	リトミック入門	吉田 裕昭	半期	1	2～	334	
	リトミック応用	—	通年	2	3～	—	2017年度休講
	絵画表現	—	通年	2	2～	—	2017年度休講
	造形Ⅱ	—	半期	1	3～	—	2017年度休講
	造形教材研究	—	半期	1	1～	—	2017年度休講
	幼児教育論	有馬 知江美	半期	2	2～	512	
	比較教育論	荒川 麻里	半期	2	2～	321	
	人権教育	荒川 麻里	半期	2	3～	609	
	特別支援教育概論	伊勢 正明	半期	2	3～	610	
	清水 浩	半期	2	3～	611		
小学校英語教育	大木 俊英	半期	2	2～	890		
	佐久間 康之	半期	2	2～	892		
保育・福祉専門科目	社会福祉	川瀬 善美	半期	2	2～	338	
		川瀬 善美	半期	2	1～		
	社会福祉B	川瀬 善美	半期	2	1～	340	
	相談援助	小出 真由美	半期	1	2～	612	
	児童家庭福祉	佐藤 ちひろ	半期	2	1～	614	
児童家庭福祉B	山中 定雄	半期	2	1～	634		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
保育・福祉専門科目	保育原理	有馬 知江美	半期	2	1～	615	
	保育原理Ⅱ	有馬 知江美	半期	2	2～	341	
	社会的養護	山中 定雄	半期	2	2～	617	
	発達心理学	浅田 晃佑	半期	2	2～	353	
	保育の心理学	浅田 晃佑	半期	1	2～	618	
	子どもの保健Ⅰ	寺門 道之	通年	4	1～	620	
	子どもの保健Ⅱ	松本 朱美	半期	1	2～	622	
	子どもの食と栄養	高橋 美保	半期2コマ	2	3～	624	
	家庭支援論	佐藤 ちひろ	半期	2	3～	348	
	保育内容総論	福崎 淳子	半期	1	2～	632	
	保育内容演習（健康）	岩城 淳子	半期	1	2～	322	
	保育内容演習（人間関係）	馬場 康宏	半期	1	2～	323	
	保育内容演習（環境）	大高 泉	半期	1	2～	325	
		山野井 貴浩	半期	1	2～	324	
	保育内容演習（言葉）	福崎 淳子	半期	1	2～	326	
	保育内容演習（表現）	齋藤千明・富田英也	半期	1	2～	635	
	乳児保育	【前期】高橋・【後期】高橋・若盛	通年	2	2～	343	
	障害児保育	伊勢 正明	通年	2	3～	346	
	社会的養護内容	中山 万里子	半期	1	2～	627	
	保育実践演習	【前期】有馬・【後期】伊勢	通年	2	2～	629	
		【前期】岩城・【後期】福崎	通年	2	2～		
	青年心理学	益子 行弘	半期	2	1～	355	
	臨床心理学	伊東 孝郎	半期	2	2～	358	
	比較保育論	—	半期	2	3～	—	2017年度休講
	児童文化	—	半期	1	2～	—	2017年度休講
	児童学研究法（概説）	有馬 知江美	半期	2	1～	631	
	フィールドワーク	山路 千華	半期	1	1～	636	
	児童学研究法	浅田 晃佑	半期	2	2～	637	
	保育相談支援	浅田 晃佑	半期	1	3～	639	
		伊崎 純子	半期	1	3～		
	病児病後児保育	沼口 知恵子	半期	2	3～	641	
	地域子育て支援論	高橋美保・若盛清美	半期	2	3～	643	
	言葉表現	—	半期	1	3～	—	2017年度休講
遊びと運動	松村 朋子	半期	1	3～	644		
社会保障論	—	通年	4	3～	—	2017年度休講	
公的扶助論	—	半期	2	2～	—	2017年度休講	
障害者福祉論	根岸 洋人	通年	4	2～	350		
地域福祉	—	半期	2	2～	—	2017年度休講	
福祉施設経営論	川瀬 善美	半期	2	1～	352		
ケアマネジメント論	—	半期	2	3～	—	2017年度休講	
課題研究	ゼミナール	浅田 晃佑	通年	4	3～	684	
		荒井 弘高	通年	4	3～	646	
		荒川 麻里	通年	4	3～	675	
		有馬 知江美	通年	4	3～	662	
		伊勢 正明	通年	4	3～	686	
	今田 政成	通年	4	3～	648		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
課題研究	ゼミナール	岩城 淳子	通年	4	3～	650	
		宇津野 花陽	通年	4	3～	658	
		榎本 哲士	通年	4	3～	693	
		大木 俊英	通年	4	3～	815	
		岡田 晴恵	通年	4	3～	665	
		奥澤 信行	通年	4	3～	652	
		金井 正	通年	4	3～	682	
		川瀬 善美	通年	4	3～	654	
		小泉 祥一	通年	4	3～	668	
		齋藤 千明	通年	4	3～	688	
		渋川 美紀	通年	4	3～	656	
		清水 浩	通年	4	3～	680	
		高橋 美保	通年	4	3～	659	
		原口 美貴子	通年	4	3～	670	
		福崎 淳子	通年	4	3～	689	
		益田 勇一	通年	4	3～	664	
		森本 明	通年	4	3～	673	
		山路 千華	通年	4	3～	692	
		山野井 貴浩	通年	4	3～	667	
		山本 良子	通年	4	3～	676	
結城 史隆	通年	4	3～	952 963	「心理学特別研究A」参照 「心理学特別研究B」参照		
和田 早苗	通年	4	3～	678			
学科共通科目	造形文化論	—	半期	2	1～	—	2017年度休講
	おもちゃ論	—	半期	2	2～	—	2017年度休講
	福祉とボランティア	川瀬 善美	半期	2	1～	694	
	レクリエーション理論	藤井 和彦	半期	2	2～	698	
	レクリエーション実技	藤井 和彦	半期	1	2～	425	
	レクリエーション実習	藤井 和彦	集中	1	3～		
	野外運動A（キャンプ）	体育担当教員	集中	2	1～	700	
	野外運動B（雪上）	体育担当教員	集中	2	1～	701	
	救急法	山下 圭輔	半期	2	1～	422	
	早期英語教育	S. Bergman 三宅	半期	2	2～	702	
	e-ラーニング	奥山 慶洋	半期	1	1～	704	
	教育情報処理	渋川 美紀	半期	2	1～	705	
	健康教育リテラシー	—	通年	4	3～	—	2017年度休講
	女性学	—	半期	2	1～	—	2017年度休講
	TOEIC	吉田 守利	半期	1	2～	26	
	TOEFL	吉田 守利	半期	1	2～	32	
	特講	専門特講（ボランティア・コーディネーション）	結城 史隆	半期	2	1～	994
専門特講（学校の危機管理）		金井 正	半期	2	3～	996	
専門特講（Situational Grammar）		Harry Harris	半期	2	2～	998	
専門特講（Media Project A）		Paul del Rosario	半期	2	2～	1000	
専門特講（Media Project B）		Paul del Rosario	半期	2	2～	1002	
専門特講（Picture Books）		S. Bergman 三宅	半期	2	1～	1003	
専門特講（会社で働くということ）		柳川 高行	半期	2	1～	1005	
専門特講（SLAリサーチ演習）		大木 俊英	半期	2	3～	1010	

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
特講	専門特講（学校感染症の対処法）	岡田 晴恵	半期	2	1～	1012	
	専門特講（Social Networking）	Paul del Rosario	半期	2	2～	1014	
卒業研究	卒業研究	荒井 弘高	集中	4	4	429	
		荒川 麻里	集中	4	4	486	
		有馬 知江美	集中	4	4	475	
		伊勢 正明	集中	4	4	501	
		今田 政成	集中	4	4	458	
		岩城 淳子	集中	4	4	433	
		宇津野 花陽	集中	4	4	428	
		大木 俊英	集中	4	4	464	
		岡田 晴恵	集中	4	4	476	
		奥澤 信行	集中	4	4	435	
		金井 正	集中	4	4	505	
		川瀬 善美	集中	4	4	437	
		小泉 祥一	集中	4	4	484	
		小久保 裕	集中	4	4	439	
		齋藤 千明	集中	4	4	503	
		渋川 美紀	集中	4	4	472	
		清水 浩	通年	4	4	494	
		高橋 美保	集中	4	4	444	
		富田 英也	集中	4	4	440	
		原口 美貴子	集中	4	4	487	
		益田 勇一	集中	4	4	448	
		森本 明	通年	4	4	492	
		山野井 貴浩	集中	4	4	478	
山本 良子	集中	4	4	490			
結城 史隆	通年	4	4	462			
和田 早苗	通年	4	4	496			
実習科目	教育実習の事前事後指導P	山路 千華※1	半期・集中	1	3～	1019	（幼稚園）
		宇津野 花陽※1	半期・集中	1	3～	1020	（小学校）
		榎本 哲士※1	半期・集中	1	3～		（小学校）
		富田 英也※1	半期・集中	1	3～		（小学校）
		益田 勇一※1	半期・集中	1	3～		（小学校）
		山野井 貴浩※1	半期・集中	1	3～		（小学校）
	教育実習 I	山路 千華	集中	4	4	1027	（幼稚園）
		益田 勇一	集中	4	3～	1028	（小学校）
	教育実習 II	山路 千華	集中	2	3～	1030	（幼稚園）
	教育実習 III	—	集中	2	4	—	2017年度休講
	教職実践演習（幼・小）	浅田 晃佑	半期	2	4	1032	（幼稚園）
		岩城 淳子	半期	2	4		（幼稚園）
		山路 千華	半期	2	4		（幼稚園）
		荒川 麻里	集中	2	4	1033	（小学校）
		榎本 哲士	集中	2	4		（小学校）
		金井 正	集中	2	4		（小学校）
	小泉 祥一	集中	2	4		（小学校）	

※1：事前指導担当教員

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
実習科目	教職実践演習（幼・小）	益田 勇一	集中	2	4	1033	(小学校)
	保育実習Ⅰ	(保育所) 高橋・福崎・(宇梶) (施設) 川瀬	集中	4	3～	305	
	保育実習Ⅱ	伊勢正明・(宇梶和代)	集中	2	4	307	
	保育実習Ⅲ	—	集中	2	4	—	該当者のみ
	保育実習指導Ⅰ	高橋美保・福崎淳子・(宇梶和代)	通年	2	3～	308	(保育所)
	保育実習指導Ⅱ	川瀬 善美	通年		3～	310	(施設)
	保育実習指導Ⅲ	伊勢正明・(宇梶和代)	半期	1	4	312	
	保育実習指導Ⅲ	—	半期	1	4	—	2017年度休講
随意科目	教職数学演習Ⅰ	榎本 哲士	半期	1	1～	1036	
	教職数学演習Ⅱ	榎本 哲士	半期	1	1～	1037	
	教職理科演習Ⅰ	奥中 栄二	半期	1	1～	1038	
	教職理科演習Ⅱ	奥中 栄二	半期	1	1～	1040	

目 次

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考	
外国語科目 〔必修〕	英語コミュニケーションⅠ	S. Bergman 三宅	通年	2	1～	34		
		Michael Sorey	通年	2	1～			
		Michael Morgan	通年	2	1～			
		Miklos Juhasz	通年	2	1～			
	英語コミュニケーションⅡ	Richard Todd Leroux	通年	2	1～	38		
		S. Bergman 三宅	通年	2	2～			
		Harry Harris	通年	2	2～			
		Michael Morgan	通年	2	2～			
外国語・ 教養選択科目	基礎英語 A	木村 記子	半期	1	1～	6		
	基礎英語 B	木村 記子	半期	1	1～	8		
	Reading I A	吉田 守利	半期	1	1～	1		
	Reading I B	吉田 守利	半期	1	1～	2		
	Reading II A	Wayne Sumida	半期	1	2～	10		
	Reading II B	Wayne Sumida	半期	1	2～	13		
	Writing I A	Miklos Juhasz	半期	1	1～	4		
	Writing I B	Miklos Juhasz	半期	1	1～	5		
	Writing II A	Wayne Sumida	半期	1	2～	16		
	Writing II B	Wayne Sumida	半期	1	2～	19		
	VocabularyA	鈴木 宏枝	半期	1	1～	22		
	VocabularyB	鈴木 宏枝	半期	1	1～	24		
	ドイツ語Ⅰ A	伊藤 功	半期2コマ	2	1～	46		
		土屋 睦廣	半期2コマ	2	1～	44		
	ドイツ語Ⅰ B	伊藤 功	半期2コマ	2	1～	50		
		土屋 睦廣	半期2コマ	2	1～	48		
	ドイツ語Ⅱ A	Clemens Amann	半期	1	2～	80		
	ドイツ語Ⅱ B	Clemens Amann	半期	1	2～	81		
	ドイツ語Ⅲ A	Clemens Amann	半期	1	2～	94		
	ドイツ語Ⅲ B	Clemens Amann	半期	1	2～	95		
	ドイツ語Ⅳ A	—	半期	1	2～	—		2017年度休講
	ドイツ語Ⅳ B	—	半期	1	2～	—		2017年度休講
	フランス語Ⅰ A	Clemens Amann	半期2コマ	2	1～	52		
		羽生敦子・平賀裕貴	半期2コマ	2	1～	54		
	フランス語Ⅰ B	Clemens Amann	半期2コマ	2	1～	57		
		羽生敦子・平賀裕貴	半期2コマ	2	1～	59		
	フランス語Ⅱ A	Clemens Amann	半期	1	2～	82		
	フランス語Ⅱ B	Clemens Amann	半期	1	2～	84		
	フランス語Ⅲ A	Clemens Amann	半期	1	2～	96		
	フランス語Ⅲ B	Clemens Amann	半期	1	2～	98		
	フランス語Ⅳ A	—	半期	1	2～	—		2017年度休講
	フランス語Ⅳ B	—	半期	1	2～	—		2017年度休講
スペイン語Ⅰ A	高橋 節子	半期2コマ	2	1～	62			
スペイン語Ⅰ B	高橋 節子	半期2コマ	2	1～	64			
スペイン語Ⅱ A	高橋 節子	半期	1	2～	86			
スペイン語Ⅱ B	高橋 節子	半期	1	2～	88			

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
外国語・ 教養選択科目	スペイン語Ⅲ A	高橋 節子	半期	1	2～	100	
	スペイン語Ⅲ B	高橋 節子	半期	1	2～	101	
	スペイン語Ⅳ A	—	半期	1	2～	—	2017年度休講
	スペイン語Ⅳ B	—	半期	1	2～	—	2017年度休講
	中国語Ⅰ A	劉 建雲	半期2コマ	2	1～	66	
		陳 順和	半期2コマ	2	1～	68	
	中国語Ⅰ B	劉 建雲	半期2コマ	2	1～	70	
		陳 順和	半期2コマ	2	1～	72	
	中国語Ⅱ A	陳 順和	半期	1	2～	90	
	中国語Ⅱ B	陳 順和	半期	1	2～	92	
	中国語Ⅲ A	范 力	半期	1	2～	102	
	中国語Ⅲ B	范 力	半期	1	2～	104	
	中国語Ⅳ A	—	半期	1	2～	—	2017年度休講
	中国語Ⅳ B	—	半期	1	2～	—	2017年度休講
	韓国語Ⅰ A	李 映京	半期2コマ	2	1～	74	
	韓国語Ⅰ B	李 映京	半期2コマ	2	1～	77	
	韓国語Ⅱ A	盧 玟周	半期	1	2～	106	
	韓国語Ⅱ B	盧 玟周	半期	1	2～	107	
	韓国語Ⅲ A	盧 玟周	半期	1	2～	108	
	韓国語Ⅲ B	盧 玟周	半期	1	2～	109	
	韓国語Ⅳ A	—	半期	1	2～	—	2017年度休講
	韓国語Ⅳ B	—	半期	1	2～	—	2017年度休講
	歴史学A	上安 祥子	半期	2	1～	110	
		清水 正義	半期	2	1～	112	
	歴史学B	上安 祥子	半期	2	1～	114	
		清水 正義	半期	2	1～	116	
	日本史概論	上安 祥子	半期	2	1～	118	
	外国史概論	清水 正義	半期	2	1～	121	
	地理学A	奥澤 信行	半期	2	1～	123	
	地理学B	奥澤 信行	半期	2	1～	125	
	地理学概論（地誌を含む）	奥澤 信行	半期	2	1～	126	
	倫理学A	的場 哲朗	半期	2	1～	128	
	倫理学B	的場 哲朗	半期	2	1～	130	
	応用倫理 A	渡辺 忠	半期	2	1～	135	
	応用倫理 B	渡辺 忠	半期	2	1～	137	
	倫理学概論	的場 哲朗	半期	2	1～	132	
	哲学A	渡辺 忠	半期	2	1～	140	
	哲学B	渡辺 忠	半期	2	1～	142	
	哲学概論	渡辺 忠	半期	2	1～	144	
	文学A	鈴木 宏枝	半期	2	1～	146	
	文学B	針生 進	半期	2	1～	147	
	論理学	渡辺 忠	半期2コマ	4	1～	148	
クリティカルシンキングA	—	半期	2	1～	—	2017年度休講	
クリティカルシンキングB	—	半期	2	1～	—	2017年度休講	
国語表現法A	都野 祐俊	半期	2	1～	150		
国語表現法B	都野 祐俊	半期	2	1～	152		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考	
外国語・ 教養選択科目	美学A	益田 勇一	半期	2	1～	154		
	美学B	益田 勇一	半期	2	1～	155		
	比較文化論A	高畑 昭男	半期	2	1～	157		
		范 力	半期	2	1～	156		
	比較文化論B	高畑 昭男	半期	2	1～	160		
		范 力	半期	2	1～	159		
	文化人類学A	結城 史隆	半期	2	1～	162		
	文化人類学B	結城 史隆	半期	2	1～	164		
	社会学A	川上 代里子	半期	2	1～	168		
		山本 厚太郎	半期	2	1～	166		
	社会学B	川上 代里子	半期	2	1～	172		
		山本 厚太郎	半期	2	1～	170		
	法学A（国際法を含む）	河原 文敬	半期	2	1～	174		
	法学B（国際法を含む）	小野 義典	半期	2	1～	175		
	統計学A	森崎 初男	半期	2	1～	177		
	統計学B	森崎 初男	半期	2	1～	178		
	心理学A	神戸 文朗	半期	2	1～	187		
		津野田 聡子	半期	2	1～	181		
		細田 一秋	半期	2	1～	185		
		山本 良子	半期	2	1～	184		
		湯川 進太郎	半期	2	1～	179		
		心理学B	神戸 文朗	半期	2	1～	195	
			津野田 聡子	半期	2	1～	191	
			鶴田 利郎	半期	2	1～	197	
			山本 良子	半期	2	1～	194	
		社会心理学A	湯川 進太郎	半期	2	1～	189	
	細田 一秋		半期	2	1～	198		
	社会心理学B	細田 一秋	半期	2	1～	200		
	政治学A（国際政治を含む）	服部 一成	半期	2	1～	202		
		三浦 顕一郎	半期	2	1～	204		
	政治学B（国際政治を含む）	服部 一成	半期	2	1～	206		
		三浦 顕一郎	半期	2	1～	208		
	情報社会科学A	—	半期	2	1～	—	2017年度休講	
	情報社会科学B	—	半期	2	1～	—	2017年度休講	
	環境科学A	山野井 貴浩	半期	2	1～	216		
	環境科学B	山野井 貴浩	半期	2	1～	218		
	代数学	黒澤 和人	半期	2	1～	220		
	解析学	—	半期	2	1～	—	2017年度休講	
	数学概論A	黒澤 和人	半期	2	1～	267		
	数学概論B	黒澤 和人	半期	2	1～	222		
物理学A	師 啓二	半期	2	1～	224			
物理学B	師 啓二	半期	2	1～	226			
化学A	高林 久美子	半期	2	1～	228			
化学B	高林 久美子	半期	2	1～	229			
生物学A	上田 高嘉	半期	2	1～	230			
	岡田 晴恵	半期	2	1～	231			

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
外国語・ 教養選択科目	生物学B	上田 高嘉	半期	2	1～	233	2017年度休講 2017年度休講
		岡田 晴恵	半期	2	1～	234	
	科学史A	—	半期	2	1～	—	
	科学史B	—	半期	2	1～	—	
	日本国憲法	池村 好道	半期	2	1～	213	
		岡田 順太	半期	2	1～	212	
		小野 義典	半期	2	1～	214	
	情報処理	渋川 美紀	半期	2	1～	236	
		情報処理担当教員	半期	2	1～		
	マナーの基本	佐藤 由利	半期	2	1～	303	
キャリアデザイン	キャリア担当教員	半期	2	1～	238		
コミュニケーション能力を磨こう	—	半期	2	1～	—	2017年度休講	
教養科目	教養特講（就活コミュ学（教職編））	渡辺 裕子	半期	2	3～	302	
	教養特講（地球環境問題）	山本 厚太郎	半期	2	1～	258	
	教養特講（病と癒しの人間史）	岡田 晴恵	半期	2	1～	259	
	教養特講（国際経済関係論）	今井 一雄	半期	2	1～	261	
	教養特講（モバイル社会とメディア）	菅谷実/KDDI総合研究所	半期	2	1～	262	
	教養特講（ソーシャルデザイン論）	小笠原 伸	半期	2	1～	264	
	教養特講（平成政治史研究）	後藤 謙次	半期	2	1～	266	
	教養特講（高齢社会と介護）	川瀬 善美	半期	2	1～	256	
専攻必修科目	フレッシュマンセミナー	網野 友雄	半期	1	1～	315	
		荒井 信成	半期	1	1～		
		金田 健史	半期	1	1～		
		野間 明紀	半期	1	1～		
教科専門科目	陸上運動Ⅰ	竹島 克己	半期	1	1～	706	
	陸上運動Ⅱ	竹島 克己	半期	1	1～	708	
	器械運動Ⅰ	濱崎 裕介	半期	1	1～	710	
	器械運動Ⅱ	濱崎 裕介	半期	1	1～	711	
		渡辺 良夫	半期	1	1～		
	ダンスⅠ	内山 須美子	半期	1	1～	712	
	ダンスⅡ	内山 須美子	半期	1	1～	714	
	バスケットボール	網野 友雄	半期	1	1～	718	
		佐藤 智信	半期	1	1～	716	
	テニス	野間 明紀	半期	1	1～	720	
	サッカー	石崎 聡之	半期	1	1～	721	
	水泳	椿本 昇三	集中	1	1～	723	
	柔道	蓬田 正郎	半期	1	2～	725	
	剣道	荒井 一美	半期	1	2～	726	
	バレーボール	大関 孝雄	半期	1	2～	728	
	野球（ソフトボール）	金田 健史	半期	1	2～	729	
	ラグビー	齊藤 武利	半期	1	2～	731	
	体づくり運動	本谷 聡	半期	1	2～	733	
	体育原理	内山 須美子	半期	2	1～	396	
	体育心理学	島崎 崇史	半期	2	2～	398	
	体育・スポーツ経営学	藤井 和彦	半期	2	2～	734	
	スポーツ社会学	中村 祐司	半期	2	2～	736	

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
教科専門科目	スポーツ行政論	中村 祐司	半期	2	2～	400	
	運動学Ⅰ	濱崎 裕介	半期	2	1～	402	
	運動学Ⅱ	濱崎 裕介	半期	2	1～	404	
	スポーツコーチング総論	網野 友雄	半期	2	2～	405	
	生理学	金田 健史	半期	2	1～	408	
	運動生理学	金田 健史	半期	2	2～	738	
	公衆衛生学	荒井 信成	半期	2	1～	409	
	学校保健Ⅰ	荒井 信成	半期	2	1～	411	
	学校保健Ⅱ	荒井 信成	半期	2	1～	413	
精神保健学	伊崎 純子	半期	2	1～	360		
教科関連科目	スポーツ科学入門	体育担当教員	半期	2	1～	739	
	解剖学(基礎)	小野 誠司	半期	2	1～	740	
	競技スポーツ理論	竹島 克己	半期	2	1～	406	
	発育発達学	金田 健史	半期	2	2～	415	
	トレーニング論Ⅰ	齊藤 武利	半期	2	2～	741	
	トレーニング論Ⅱ	齊藤 武利	半期	2	3～	742	
	スポーツ指導者論Ⅰ	齊藤武利・網野友雄	半期	2	2～	744	
	スポーツ指導者論Ⅱ	内山 須美子	半期	2	3～	745	
	スポーツ生理学	金田 健史	半期	2	2～	746	
	スポーツ医学概論	目崎 登	半期	2	2～	747	
	スポーツ産業論	—	半期	2	3～	—	2017年度休講
	スポーツマーケティング	藤井 和彦	半期	2	3～	748	
	健康・スポーツの測定と評価	野間 明紀	半期	2	3～	750	
	スポーツリハビリテーション論(テーピング含む)	齊藤 武利	半期	2	3～	752	
	障害者スポーツ	齊藤 武利	半期	2	3～	754	
	運動と健康(運動処方論)	目崎 登	半期	2	3～	756	
	スポーツ栄養学	鈴木 いづみ	半期	2	3～	757	
	スポーツ指導のバイオメカニクス	川村 卓	半期	2	3～	758	
	トレーニング実習Ⅰ	浜野 学	半期	1	2～	416	
	トレーニング実習Ⅱ	齊藤 武利	半期	1	3～	418	
		浜野 学	半期	1	3～		
	ニュースポーツ	藤井 和彦	半期	1	3～	759	
	野外運動C(アドバンス)	体育担当教員	集中	1	2～	760	
	スポーツ情報科学(入門)	齊藤 武利	半期	2	2～	764	
	スポーツ情報科学(分析)	齊藤武利・金田健史	半期	2	2～	766	
	体育・スポーツ実践事例研究	藤井 和彦	半期	2	2～	761	
	スポーツ科学実験演習	体育担当教員	集中	1	2～	763	
	スポーツインターンシップⅠ	藤井 和彦	集中	1	2～	768	
	スポーツインターンシップⅡ	体育担当教員	集中	1	2～	769	
	専門演習A1・A2	網野 友雄	半期	1	3～	781	
		荒井 信成	半期	1	3～	778	
		内田 雄三	半期	1	3～	773	
	内山 須美子	半期	1	3～	770		
	金田 健史	半期	1	3～	772		
	齊藤 武利	半期	1	3～	774		
	竹島 克己	半期	1	3～	775		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
教科関連科目	専門演習 A 1・A 2	野間 明紀	半期	1	3～	777	
		濱崎 裕介	半期	1	3～	780	
	専門演習 B 1・B 2	藤井 和彦	半期	1	3～	776	
		網野 友雄	半期	1	3～	793	
		荒井 信成	半期	1	3～	790	
		内田 雄三	半期	1	3～	785	
		内山 須美子	半期	1	3～	782	
		金田 健史	半期	1	3～	784	
		齊藤 武利	半期	1	3～	786	
		竹島 克己	半期	1	3～	787	
		野間 明紀	半期	1	3～	789	
		濱崎 裕介	半期	1	3～	792	
		藤井 和彦	半期	1	3～	788	
		教職専門科目	教師論	金井 正	半期	2	2～
教育基礎論	金井 正		半期	2	1～	562	
教育心理学	小泉 祥一		半期	2	1～	560	
	平田 乃美		半期	2	1～	513	
細田 一秋	半期		2	1～			
教育制度論	荒川 麻里		半期	2	1～	320	
教育課程論 S	小泉 祥一		半期	2	3～	794	
保健体育科教育法 I	内田 雄三		半期	2	2～	796	
保健体育科教育法 II	内田 雄三		半期	2	3～	798	
保健体育科教育法 III (保健)	荒井 信成		半期	2	3～	800	
保健体育科教育法 IV	内田 雄三		半期	2	3～	802	
道德教育の理論と方法 S	菊地 真貴子		半期	2	1～	804	
特別活動の理論と方法 S	須藤 勝		半期	2	2～	806	
教育方法論 S	小泉 祥一		半期	2	1～	809	
生徒指導論 (進路指導を含む)	榎本 和生		半期	2	2～	593	
教育相談 S	榎本 和生		半期	2	2～	811	
比較教育論	荒川 麻里	半期	2	2～	321		
人権教育	荒川 麻里	半期	2	3～	609		
学科共通科目	造形文化論	—	半期	2	1～	—	2017年度休講
	おもちゃ論	—	半期	2	2～	—	2017年度休講
	福祉とボランティア	川瀬 善美	半期	2	1～	694	
	レクリエーション理論	藤井 和彦	半期	2	2～	696	
	レクリエーション実技	藤井 和彦	半期	1	2～	424	
	レクリエーション実習	藤井 和彦	集中	1	3～		
	野外運動 A (キャンプ)	体育担当教員	集中	2	1～	700	
	野外運動 B (雪上)	体育担当教員	集中	2	1～	701	
	救急法	山下 圭輔	半期	2	1～	422	
	早期英語教育	S. Bergman 三宅	半期	2	2～	702	
	e-ラーニング	奥山 慶洋	半期	1	1～	704	
	教育情報処理	渋川 美紀	半期	2	1～	705	
	健康教育リテラシー	—	通年	4	3～	—	2017年度休講
	女性学	—	半期	2	1～	—	2017年度休講
	TOEIC	吉田 守利	半期	1	2～	26	

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
学科共通科目	TOEFL	吉田 守利	半期	1	2～	32	
専門科目	専門特講 (ボランティア・コーディネーション)	結城 史隆	半期	2	1～	994	
	専門特講 (学校の危機管理)	金井 正	半期	2	3～	996	
	専門特講 (Situational Grammar)	Harry Harris	半期	2	2～	998	
	専門特講 (Media Project A)	Paul del Rosario	半期	2	2～	1000	
	専門特講 (Media Project B)	Paul del Rosario	半期	2	2～	1002	
	専門特講 (Picture Books)	S. Bergman 三宅	半期	2	1～	1003	
	専門特講 (会社で働くということ)	柳川 高行	半期	2	1～	1005	
	専門特講 (SLA リサーチ演習)	大木 俊英	半期	2	3～	1010	
	専門特講 (学校感染症の対処法)	岡田 晴恵	半期	2	1～	1012	
専門特講 (Social Networking)	Paul del Rosario	半期	2	2～	1014		
卒業研究	卒業研究	網野 友雄	集中	4	4	500	
		荒井 信成	集中	4	4	479	
		内田 雄三	集中	4	4	456	
		内山 須美子	集中	4	4	446	
		金田 健史	集中	4	4	452	
		齊藤 武利	集中	4	4	453	
		竹島 克己	集中	4	4	426	
		野間 明紀	集中	4	4	474	
		濱崎 裕介	集中	4	4	489	
藤井 和彦	集中	4	4	455			
実習科目	教育実習の事前事後指導 S	内田 雄三 ※1	半期・集中	1	3～	1021	該当者のみ
	教育実習 I	内田 雄三	集中	4	3～	1029	
	教育実習 II	内田 雄三	集中	2	3～	1031	
	教育実習 III	—	集中	2	4	—	
	教職実践演習 (中・高)	荒井 信成	集中	2	4	1034	
		伊東 孝郎	集中	2	4		
		内田 雄三	集中	2	4		
		大木 俊英	集中	2	4		
	奥山 慶洋	集中	2	4			
随意科目	教職数学演習 I	榎本 哲士	半期	1	1～	1036	
	教職数学演習 II	榎本 哲士	半期	1	1～	1037	
	教職理科演習 I	奥中 栄二	半期	1	1～	1038	
	教職理科演習 II	奥中 栄二	半期	1	1～	1040	

※1：事前指導担当教員

目 次

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
外国語科目 〔必修〕	英語スタディースキルズ	斎藤 明宏	半期2コマ	2	1～	28	
		Harry Harris	半期2コマ	2	1～		
		宮里 恭子	半期2コマ	2	1～		
	コミュニケーションスキルズ	Paul del Rosario	通年	2	1～	30	
		Miklos Juhasz	通年	2	1～		
		Richard Todd Leroux	通年	2	1～		
外国語・ 教養選択科目	基礎英語 A	木村 記子	半期	1	1～	6	
	基礎英語 B	木村 記子	半期	1	1～	8	
	Reading I A	吉田 守利	半期	1	1～	1	
	Reading I B	吉田 守利	半期	1	1～	2	
	Reading II A	Wayne Sumida	半期	1	2～	10	
	Reading II B	Wayne Sumida	半期	1	2～	13	
	Writing I A	Miklos Juhasz	半期	1	1～	4	
	Writing I B	Miklos Juhasz	半期	1	1～	5	
	Writing II A	Wayne Sumida	半期	1	2～	16	
	Writing II B	Wayne Sumida	半期	1	2～	19	
	VocabularyA	鈴木 宏枝	半期	1	1～	22	
	VocabularyB	鈴木 宏枝	半期	1	1～	24	
	ドイツ語 I A	伊藤 功	半期2コマ	2	1～	46	
		土屋 睦廣	半期2コマ	2	1～	44	
		伊藤 功	半期2コマ	2	1～	50	
	ドイツ語 I B	土屋 睦廣	半期2コマ	2	1～	48	
		Clemens Amann	半期	1	2～	80	
		Clemens Amann	半期	1	2～	81	
	ドイツ語 II A	Clemens Amann	半期	1	2～	94	
	ドイツ語 II B	Clemens Amann	半期	1	2～	95	
	ドイツ語 III A	—	半期	1	2～	—	2017年度休講
	ドイツ語 III B	—	半期	1	2～	—	2017年度休講
	ドイツ語 IV A	Clemens Amann	半期2コマ	2	1～	52	
	ドイツ語 IV B	羽生敦子・平賀裕貴	半期2コマ	2	1～	54	
		Clemens Amann	半期2コマ	2	1～	57	
		羽生敦子・平賀裕貴	半期2コマ	2	1～	59	
	フランス語 I A	Clemens Amann	半期	1	2～	82	
	フランス語 I B	Clemens Amann	半期	1	2～	84	
		Clemens Amann	半期	1	2～	96	
		Clemens Amann	半期	1	2～	98	
	フランス語 II A	—	半期	1	2～	—	2017年度休講
	フランス語 II B	—	半期	1	2～	—	2017年度休講
	フランス語 III A	高橋 節子	半期2コマ	2	1～	62	
	フランス語 III B	高橋 節子	半期2コマ	2	1～	64	
		高橋 節子	半期	1	2～	86	
		高橋 節子	半期	1	2～	88	
フランス語 IV A	高橋 節子	半期	1	2～	100		
フランス語 IV B	高橋 節子	半期	1	2～	101		
	—	半期	1	2～	—	2017年度休講	
	—	半期	1	2～	—	2017年度休講	
スペイン語 I A	—	半期	1	2～	—	2017年度休講	
スペイン語 I B	—	半期	1	2～	—	2017年度休講	
スペイン語 II A	高橋 節子	半期2コマ	2	1～	62		
スペイン語 II B	高橋 節子	半期2コマ	2	1～	64		
	高橋 節子	半期	1	2～	86		
	高橋 節子	半期	1	2～	88		
スペイン語 III A	高橋 節子	半期	1	2～	100		
スペイン語 III B	高橋 節子	半期	1	2～	101		
	—	半期	1	2～	—	2017年度休講	
	—	半期	1	2～	—	2017年度休講	

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
外国語・ 教養選択科目	中国語ⅠA	劉 建雲	半期2コマ	2	1～	66	
		陳 順和	半期2コマ	2	1～	68	
	中国語ⅠB	劉 建雲	半期2コマ	2	1～	70	
		陳 順和	半期2コマ	2	1～	72	
	中国語ⅡA	陳 順和	半期	1	2～	90	
	中国語ⅡB	陳 順和	半期	1	2～	92	
	中国語ⅢA	范 力	半期	1	2～	102	
	中国語ⅢB	范 力	半期	1	2～	104	
	中国語ⅣA	—	半期	1	2～	—	2017年度休講
	中国語ⅣB	—	半期	1	2～	—	2017年度休講
	韓国語ⅠA	李 映京	半期2コマ	2	1～	74	
	韓国語ⅠB	李 映京	半期2コマ	2	1～	77	
	韓国語ⅡA	盧 玟周	半期	1	2～	106	
	韓国語ⅡB	盧 玟周	半期	1	2～	107	
	韓国語ⅢA	盧 玟周	半期	1	2～	108	
	韓国語ⅢB	盧 玟周	半期	1	2～	109	
	韓国語ⅣA	—	半期	1	2～	—	2017年度休講
	韓国語ⅣB	—	半期	1	2～	—	2017年度休講
	歴史学A	上安 祥子	半期	2	1～	110	
		清水 正義	半期	2	1～	112	
	歴史学B	上安 祥子	半期	2	1～	114	
		清水 正義	半期	2	1～	116	
	日本史概論	上安 祥子	半期	2	1～	118	
	外国史概論	清水 正義	半期	2	1～	121	
	地理学A	奥澤 信行	半期	2	1～	123	
	地理学B	奥澤 信行	半期	2	1～	125	
	地理学概論（地誌を含む）	奥澤 信行	半期	2	1～	126	
	倫理学A	の場 哲朗	半期	2	1～	128	
	倫理学B	の場 哲朗	半期	2	1～	130	
	応用倫理A	渡辺 忠	半期	2	1～	135	
	応用倫理B	渡辺 忠	半期	2	1～	137	
	倫理学概論	の場 哲朗	半期	2	1～	132	
	哲学A	渡辺 忠	半期	2	1～	140	
	哲学B	渡辺 忠	半期	2	1～	142	
	哲学概論	渡辺 忠	半期	2	1～	144	
	文学A	鈴木 宏枝	半期	2	1～	146	
	文学B	針生 進	半期	2	1～	147	
	論理学	渡辺 忠	半期2コマ	4	1～	148	
	クリティカルシンキングA	—	半期	2	1～	—	2017年度休講
	クリティカルシンキングB	—	半期	2	1～	—	2017年度休講
	国語表現法A	都野 祐俊	半期	2	1～	150	
	国語表現法B	都野 祐俊	半期	2	1～	152	
美学A	益田 勇一	半期	2	1～	154		
美学B	益田 勇一	半期	2	1～	155		
比較文化論A	高畑 昭男	半期	2	1～	157		
	范 力	半期	2	1～	156		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
外国語・ 教養選択科目	比較文化論B	高畑 昭男	半期	2	1～	160	
		范 力	半期	2	1～	159	
	文化人類学A	結城 史隆	半期	2	1～	162	
	文化人類学B	結城 史隆	半期	2	1～	164	
	社会学A	川上 代里子	半期	2	1～	168	
		山本 厚太郎	半期	2	1～	166	
	社会学B	川上 代里子	半期	2	1～	172	
		山本 厚太郎	半期	2	1～	170	
	法学A（国際法を含む）	河原 文敬	半期	2	1～	174	
	法学B（国際法を含む）	小野 義典	半期	2	1～	175	
	統計学A	森崎 初男	半期	2	1～	177	
	統計学B	森崎 初男	半期	2	1～	178	
	心理学A	神戸 文朗	半期	2	1～	187	
		津野田 聡子	半期	2	1～	181	
		細田 一秋	半期	2	1～	185	
		山本 良子	半期	2	1～	184	
		湯川 進太郎	半期	2	1～	179	
	心理学B	神戸 文朗	半期	2	1～	195	
		津野田 聡子	半期	2	1～	191	
		鶴田 利郎	半期	2	1～	197	
		山本 良子	半期	2	1～	194	
		湯川 進太郎	半期	2	1～	189	
	社会心理学A	細田 一秋	半期	2	1～	198	
	社会心理学B	細田 一秋	半期	2	1～	200	
	政治学A（国際政治を含む）	服部 一成	半期	2	1～	202	
		三浦 顕一郎	半期	2	1～	204	
	政治学B（国際政治を含む）	服部 一成	半期	2	1～	206	
		三浦 顕一郎	半期	2	1～	208	
	情報社会科学A	—	半期	2	1～	—	2017年度休講
	情報社会科学B	—	半期	2	1～	—	2017年度休講
	環境科学A	山野井 貴浩	半期	2	1～	216	
	環境科学B	山野井 貴浩	半期	2	1～	218	
	代数学	黒澤 和人	半期	2	1～	220	
	解析学	—	半期	2	1～	—	2017年度休講
	数学概論A	黒澤 和人	半期	2	1～	267	
	数学概論B	黒澤 和人	半期	2	1～	222	
	物理学A	師 啓二	半期	2	1～	224	
	物理学B	師 啓二	半期	2	1～	226	
	化学A	高林 久美子	半期	2	1～	228	
	化学B	高林 久美子	半期	2	1～	229	
	生物学A	上田 高嘉	半期	2	1～	230	
		岡田 晴恵	半期	2	1～	231	
	生物学B	上田 高嘉	半期	2	1～	233	
		岡田 晴恵	半期	2	1～	234	
	科学史A	—	半期	2	1～	—	2017年度休講
	科学史B	—	半期	2	1～	—	2017年度休講

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
外国語・教養選択科目	日本国憲法	池村 好道	半期	2	1～	213	
		岡田 順太	半期	2	1～	212	
		小野 義典	半期	2	1～	214	
	健康科学	荒井 信成	半期	2	1～	254	
		野間 明紀	半期	2	1～	253	
		藤井 和彦	半期	2	1～	252	
	体育実技A	体育担当教員	半期	1	1～	244	
	体育実技B	体育担当教員	半期	1	1～	250	
	情報処理	渋川 美紀	半期	2	1～	236	
		情報処理担当教員	半期	2	1～		
	マナーの基本	佐藤 由利	半期	2	1～	303	
	キャリアデザイン	キャリア担当教員	半期	2	1～	238	
	コミュニケーション能力を磨こう	—	半期	2	1～	—	2017年度休講
教養科目	教養特講（就活コミュ学（教職編））	渡辺 裕子	半期	2	3～	302	
	教養特講（地球環境問題）	山本 厚太郎	半期	2	1～	258	
	教養特講（病と癒しの人間史）	岡田 晴恵	半期	2	1～	259	
	教養特講（国際経済関係論）	今井 一雄	半期	2	1～	261	
	教養特講（モバイル社会とメディア）	菅谷実/KDDI総合研究所	半期	2	1～	262	
	教養特講（ソーシャルデザイン論）	小笠原 伸	半期	2	1～	264	
	教養特講（平成政治史研究）	後藤 謙次	半期	2	1～	266	
	教養特講（高齢社会と介護）	川瀬 善美	半期	2	1～	256	
科目専攻	フレッシュマンセミナー	大木 俊英	半期	1	1～	317	
		鈴木 宏枝	半期	1	1～		
教科専門科目	スピーキング&リスニング I A	Jeffrey Miller	半期	2	2～	828	
		Richard Todd Leroux	半期	2	2～		
	スピーキング&リスニング I B	Jeffrey Miller	半期	2	2～	831	
		Richard Todd Leroux	半期	2	2～		
	スピーキング&リスニング II A	Michael Sorey	半期	2	3～	834	
	スピーキング&リスニング II B	Michael Sorey	半期	2	3～	836	
	リーディング&ボキャブラリー I	Jeffrey Miller	半期	2	1～	838	
		Harry Harris	半期	2	1～		
		Michael Sorey	半期	2	1～		
	リーディング&ボキャブラリー II	Michael Sorey	半期	2	2～	840	
	リーディング&ボキャブラリー III	Paul del Rosario	半期	2	2～	842	
	ライティング初級	Jeffrey Miller	半期	2	1～	844	
		Harry Harris	半期	2	1～		
		Michael Morgan	半期	2	1～		
	ライティング中級	Jeffrey Miller	半期	2	1～	846	
		Harry Harris	半期	2	1～		
		Michael Morgan	半期	2	1～		
	ライティング上級	Harry Harris	半期	2	2～	848	
		Michael Sorey	半期	2	2～		
	アカデミックライティング	—	半期	2	3～	—	
基礎英文法	斎藤 明宏	半期	2	1～	850		
初級英文法	大木 俊英	半期	2	1～	852		
	斎藤 明宏	半期	2	1～			

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
教科専門科目	中級英文法	若狭 基道	半期	2	2～	853	
	上級英文法	若狭 基道	半期	2	2～	855	
	英語学概論	若狭 基道	半期	2	1～	857	
	音声学演習	S. Bergman 三宅	半期	2	1～	858	
	音声学	若狭 基道	半期	2	1～	860	
	英文学概論	鈴木 宏枝	半期	2	1～	861	
	米文学概論	針生 進	半期	2	1～	863	
	英米文学Ⅰ	鈴木 宏枝	半期	2	2～	865	
	英米文学Ⅱ	鈴木 宏枝	半期	2	2～	867	
	英米文学Ⅲ	鈴木 宏枝	半期	2	3～	868	
	英米文学特講	Jeffrey Miller	半期	2	3～	870	
	異文化理解	Jeffrey Miller	半期	2	1～	872	
	異文化間コミュニケーション論	宮里 恭子	半期	2	2～	874	
	英語圏地域研究	Jeffrey Miller	半期	2	2～	876	
	ベイシック・イングリッシュ	Paul del Rosario	半期	2	1～	898	
	アカデミック・レクチャー	Harry Harris	半期	2	3～	899	
	ディスカッション・ディベート	Paul del Rosario	半期	2	3～	901	
	教職専門科目	教師論	金井 正	半期	2	2～	509
教育基礎論		金井 正	半期	2	1～	562	
教育心理学		平田 乃美	半期	2	1～	513	
教育制度論		荒川 麻里	半期	2	1～	320	
教育課程論S		小泉 祥一	半期	2	3～	794	
英語科教育法Ⅰ		奥山 慶洋	半期	2	1～	878	
		斎藤 明宏	半期	2	1～		
		宮里 恭子	半期	2	1～		
英語科教育法Ⅱ		大木 俊英	半期	2	2～	880	
		奥山 慶洋	半期	2	2～		
英語科教育法Ⅲ		大木 俊英	半期	2	2～	882	
		奥山 慶洋	半期	2	2～		
		斎藤 明宏	半期	2	2～		
		宮里 恭子	半期	2	2～		
英語科教育法Ⅳ		大木 俊英	半期	2	3～	884	
道德教育の理論と方法S		菊地 真貴子	半期	2	1～	804	
特別活動の理論と方法S		須藤 勝	半期	2	2～	806	
教育方法論S		小泉 祥一	半期	2	1～	794	
生徒指導論（進路指導を含む）		榎本 和生	半期	2	2～	593	
教育相談S		伊東 孝郎	半期	2	2～	813	
比較教育論	荒川 麻里	半期	2	2～	321		
人権教育	荒川 麻里	半期	2	3～	609		
英語教育関連科目	教材研究	宮里 恭子	半期	2	2～	886	
	コミュニケーション英語指導法	Jeffrey Miller	半期	2	2～	888	
	小学校英語教育	大木 俊英	半期	2	2～	890	
		佐久間 康之	半期	2	2～	892	
	英語コミュニケーション教育特講	木村 記子	半期	2	1～	894	
	英語で話す日本文化	Paul del Rosario	半期	2	2～	896	
	課題研究	大木 俊英	通年	4	3～	815	

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考	
英語教育関連科目	課題研究	奥山 慶洋	通年	4	3～	824		
		斎藤 明宏	通年	4	3～	826		
		Jeffrey Miller	通年	4	3～	820		
		鈴木 宏枝	通年	4	3～	822		
		宮里 恭子	通年	4	3～	817		
		結城 史隆	通年	4	3～	952 963		
ビジネス英語関連科目	国際ビジネス英語 I	足立 綾	半期	2	1～	269		
	国際ビジネス英語 II	足立 綾	半期	2	1～	271		
	時事英語 I	高畑 昭男	半期	2	1～	296		
	時事英語 II	藤森 吉之	半期	2	1～	294		
		高畑 昭男	半期	2	1～	300		
	藤森 吉之	半期	2	1～	298			
	ビジネス実務	堀 眞由美	半期	2	1～	273		
	貿易商務論 I	貿易商務論担当教員	半期	2	1～	292		
貿易商務論 II	貿易商務論担当教員	半期	2	1～	293			
学科共通科目	造形文化論	—	半期	2	1～	—	2017年度休講	
	おもちゃ論	—	半期	2	2～	—	2017年度休講	
	福祉とボランティア	川瀬 善美	半期	2	1～	694		
	レクリエーション理論	藤井 和彦	半期	2	2～	698		
	レクリエーション実技	藤井 和彦	半期	1	2～	425		
	レクリエーション実習	藤井 和彦	集中	1	3～			
	野外運動 A (キャンプ)	体育担当教員	集中	2	1～	700		
	野外運動 B (雪上)	体育担当教員	集中	2	1～	701		
	救急法	山下 圭輔	半期	2	1～	422		
	早期英語教育	S. Bergman 三宅	半期	2	2～	702		
	e-ラーニング	奥山 慶洋	半期	1	1～	704		
	教育情報処理	渋川 美紀	半期	2	1～	705		
	健康教育リテラシー	—	通年	4	3～	—		2017年度休講
	女性学	—	半期	2	1～	—		2017年度休講
	TOEIC	吉田 守利	半期	1	2～	26		
TOEFL	吉田 守利	半期	1	2～	32			
専門科目	専門特講 (ボランティア・コーディネーション)	結城 史隆	半期	2	1～	994		
	専門特講 (学校の危機管理)	金井 正	半期	2	3～	996		
	専門特講 (Situational Grammar)	Harry Harris	半期	2	2～	998		
	専門特講 (Media Project A)	Paul del Rosario	半期	2	2～	1000		
	専門特講 (Media Project B)	Paul del Rosario	半期	2	2～	1002		
	専門特講 (Picture Books)	S. Bergman 三宅	半期	2	1～	1003		
	専門特講 (会社で働くということ)	柳川 高行	半期	2	1～	1005		
	専門特講 (TESOL 概論 B)	木村 記子	半期	2	3～	1007		
	専門特講 (SLA リサーチ演習)	大木 俊英	半期	2	3～	1010		
	専門特講 (学校感染症の対処法)	岡田 晴恵	半期	2	1～	1012		
	専門特講 (Computing Essentials)	Paul del Rosario	半期	2	3～	1013		
	専門特講 (Social Networking)	Paul del Rosario	半期	2	2～	1014		
	専門特講 (TOEFL II)	斎藤 明宏	半期	2	1～	1015		
	専門特講 (TOEIC II)	斎藤 明宏	半期	2	1～	1017		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
卒業研究	卒業研究	大木 俊英	集中	4	4	464	
		Jeffrey Miller	集中	4	4	470	
		鈴木 宏枝	通年	4	4	482	
		藤森 吉之	通年	4	4	499	
		宮里 恭子	集中	4	4	466	
		結城 史隆	通年	4	4	462	
		Lorraine Reinbold	集中	4	4	468	
実習科目	教育実習の事前事後指導S	奥山 慶洋 ※1	半期・集中	1	3～	1023	該当者のみ
	教育実習 I	奥山 慶洋	集中	4	3～	1029	
	教育実習 II	奥山 慶洋	集中	2	3～	1031	
	教育実習 III	—	集中	2	4	—	
	教職実践演習（中・高）	荒井 信成	集中	2	4	1034	
		伊東 孝郎	集中	2	4		
		内田 雄三	集中	2	4		
		大木 俊英	集中	2	4		
		奥山 慶洋	集中	2	4		
随意科目	教職数学演習 I	榎本 哲士	半期	1	1～	1036	
	教職数学演習 II	榎本 哲士	半期	1	1～	1037	
	教職理科演習 I	奥中 栄二	半期	1	1～	1038	
	教職理科演習 II	奥中 栄二	半期	1	1～	1040	

※1：事前指導担当教員

目 次

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
〔必修〕 外国語科目	英語コミュニケーション I	Matthew James STANHAM	通年	2	1～	34	
		Richard Todd Leroux	通年	2	1～		
	英語コミュニケーション II	S. Bergman 三宅	通年	2	2～	38	
		Richard Todd Leroux	通年	2	2～		
外国語・ 教養選択科目	基礎英語 A	木村 記子	半期	1	1～	6	
	基礎英語 B	木村 記子	半期	1	1～	8	
	Reading I A	吉田 守利	半期	1	1～	1	
	Reading I B	吉田 守利	半期	1	1～	2	
	Reading II A	Wayne Sumida	半期	1	2～	10	
	Reading II B	Wayne Sumida	半期	1	2～	13	
	Writing I A	Miklos Juhasz	半期	1	1～	4	
	Writing I B	Miklos Juhasz	半期	1	1～	5	
	Writing II A	Wayne Sumida	半期	1	2～	16	
	Writing II B	Wayne Sumida	半期	1	2～	19	
	VocabularyA	鈴木 宏枝	半期	1	1～	22	
	VocabularyB	鈴木 宏枝	半期	1	1～	24	
	ドイツ語 I A	伊藤 功	半期2コマ	2	1～	46	
		土屋 睦廣	半期2コマ	2	1～	44	
	ドイツ語 I B	伊藤 功	半期2コマ	2	1～	50	
		土屋 睦廣	半期2コマ	2	1～	48	
	ドイツ語 II A	Clemens Amann	半期	1	2～	80	
	ドイツ語 II B	Clemens Amann	半期	1	2～	81	
	ドイツ語 III A	Clemens Amann	半期	1	2～	94	
	ドイツ語 III B	Clemens Amann	半期	1	2～	95	
	ドイツ語 IV A	—	半期	1	2～	—	2017 年度休講
	ドイツ語 IV B	—	半期	1	2～	—	2017 年度休講
	フランス語 I A	Clemens Amann	半期2コマ	2	1～	52	
		羽生敦子・平賀裕貴	半期2コマ	2	1～	54	
	フランス語 I B	Clemens Amann	半期2コマ	2	1～	57	
		羽生敦子・平賀裕貴	半期2コマ	2	1～	59	
	フランス語 II A	Clemens Amann	半期	1	2～	82	
	フランス語 II B	Clemens Amann	半期	1	2～	84	
	フランス語 III A	Clemens Amann	半期	1	2～	96	
	フランス語 III B	Clemens Amann	半期	1	2～	98	
	フランス語 IV A	—	半期	1	2～	—	2017 年度休講
	フランス語 IV B	—	半期	1	2～	—	2017 年度休講
	スペイン語 I A	高橋 節子	半期2コマ	2	1～	62	
	スペイン語 I B	高橋 節子	半期2コマ	2	1～	64	
	スペイン語 II A	高橋 節子	半期	1	2～	86	
	スペイン語 II B	高橋 節子	半期	1	2～	88	
スペイン語 III A	高橋 節子	半期	1	2～	100		
スペイン語 III B	高橋 節子	半期	1	2～	101		
スペイン語 IV A	—	半期	1	2～	—	2017 年度休講	
スペイン語 IV B	—	半期	1	2～	—	2017 年度休講	
中国語 I A	劉 建雲	半期2コマ	2	1～	66		
	陳 順和	半期2コマ	2	1～	68		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
外国語・ 教養選択科目	中国語 I B	劉 建雲	半期2コマ	2	1 ~	70	
		陳 順和	半期2コマ	2	1 ~	72	
	中国語 II A	陳 順和	半期	1	2 ~	90	
	中国語 II B	陳 順和	半期	1	2 ~	92	
	中国語 III A	范 力	半期	1	2 ~	102	
	中国語 III B	范 力	半期	1	2 ~	104	
	中国語 IV A	—	半期	1	2 ~	—	2017 年度休講
	中国語 IV B	—	半期	1	2 ~	—	2017 年度休講
	韓国語 I A	李 映京	半期2コマ	2	1 ~	74	
	韓国語 I B	李 映京	半期2コマ	2	1 ~	77	
	韓国語 II A	盧 玟周	半期	1	2 ~	106	
	韓国語 II B	盧 玟周	半期	1	2 ~	107	
	韓国語 III A	盧 玟周	半期	1	2 ~	108	
	韓国語 III B	盧 玟周	半期	1	2 ~	109	
	韓国語 IV A	—	半期	1	2 ~	—	2017 年度休講
	韓国語 IV B	—	半期	1	2 ~	—	2017 年度休講
	歴史学 A	上安 祥子	半期	2	1 ~	110	
		清水 正義	半期	2	1 ~	112	
	歴史学 B	上安 祥子	半期	2	1 ~	114	
		清水 正義	半期	2	1 ~	116	
	地理学 A	奥澤 信行	半期	2	1 ~	123	
	地理学 B	奥澤 信行	半期	2	1 ~	125	
	倫理学 A	的場 哲朗	半期	2	1 ~	128	
	倫理学 B	的場 哲朗	半期	2	1 ~	130	
	応用倫理 A	渡辺 忠	半期	2	1 ~	135	
	応用倫理 B	渡辺 忠	半期	2	1 ~	137	
	哲学 A	渡辺 忠	半期	2	1 ~	140	
	哲学 B	渡辺 忠	半期	2	1 ~	142	
	文学 A	鈴木 宏枝	半期	2	1 ~	146	
	文学 B	針生 進	半期	2	1 ~	147	
	クリティカルシンキング A	—	半期	2	1 ~	—	2017 年度休講
	クリティカルシンキング B	—	半期	2	1 ~	—	2017 年度休講
	国語表現法 A	都野 祐俊	半期	2	1 ~	150	
	国語表現法 B	都野 祐俊	半期	2	1 ~	152	
	美学 A	益田 勇一	半期	2	1 ~	154	
	美学 B	益田 勇一	半期	2	1 ~	155	
	比較文化論 A	高畑 昭男	半期	2	1 ~	157	
		范 力	半期	2	1 ~	156	
	比較文化論 B	高畑 昭男	半期	2	1 ~	160	
		范 力	半期	2	1 ~	159	
	文化人類学 A	結城 史隆	半期	2	1 ~	162	
文化人類学 B	結城 史隆	半期	2	1 ~	164		
社会学 A	川上 代里子	半期	2	1 ~	168		
	山本 厚太郎	半期	2	1 ~	166		
社会学 B	川上 代里子	半期	2	1 ~	172		
	山本 厚太郎	半期	2	1 ~	170		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
外国語・ 教養選択科目	統計学A	森崎 初男	半期	2	1～	177	
	統計学B	森崎 初男	半期	2	1～	178	
	心理学A	神戸 文朗	半期	2	1～	187	
		津野田 聡子	半期	2	1～	181	
		細田 一秋	半期	2	1～	185	
		山本 良子	半期	2	1～	184	
		湯川 進太郎	半期	2	1～	179	
		神戸 文朗	半期	2	1～	195	
	心理学B	津野田 聡子	半期	2	1～	191	
		鶴田 利郎	半期	2	1～	197	
		山本 良子	半期	2	1～	194	
		湯川 進太郎	半期	2	1～	189	
		細田 一秋	半期	2	1～	198	
		細田 一秋	半期	2	1～	200	
	社会心理学A	—	半期	2	1～	—	2017年度休講
	社会心理学B	—	半期	2	1～	—	2017年度休講
	情報社会科学A	—	半期	2	1～	—	2017年度休講
	情報社会科学B	—	半期	2	1～	—	2017年度休講
	環境科学A	山野井 貴浩	半期	2	1～	216	
	環境科学B	山野井 貴浩	半期	2	1～	218	
	代数学	黒澤 和人	半期	2	1～	220	
	解析学	—	半期	2	1～	—	2017年度休講
	数学概論A	黒澤 和人	半期	2	1～	267	
	数学概論B	黒澤 和人	半期	2	1～	222	
	物理学A	師 啓二	半期	2	1～	224	
	物理学B	師 啓二	半期	2	1～	226	
	化学A	高林 久美子	半期	2	1～	228	
	化学B	高林 久美子	半期	2	1～	229	
	生物学A	上田 高嘉	半期	2	1～	230	
		岡田 晴恵	半期	2	1～	231	
		上田 高嘉	半期	2	1～	233	
	生物学B	岡田 晴恵	半期	2	1～	234	
		—	半期	2	1～	—	2017年度休講
	科学史A	—	半期	2	1～	—	2017年度休講
	科学史B	—	半期	2	1～	—	2017年度休講
	日本国憲法	池村 好道	半期	2	1～	213	
		岡田 順太	半期	2	1～	212	
		小野 義典	半期	2	1～	214	
		荒井 信成	半期	2	1～	254	
		野間 明紀	半期	2	1～	253	
		藤井 和彦	半期	2	1～	252	
健康科学	体育担当教員	半期	1	1～	244		
体育実技A	体育担当教員	半期	1	1～	250		
体育実技B	体育担当教員	半期	1	1～	250		
情報処理	渋谷 美紀	半期	2	1～	236		
	情報処理担当教員	半期	2	1～	—		
マナーの基本	佐藤 由利	半期	2	1～	303		
キャリアデザイン	キャリア担当教員	半期	2	1～	238		
コミュニケーション能力を磨こう	—	半期	2	1～	—	2017年度休講	

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
教養特講	教養特講（就活コミュ学（教職編））	渡辺 裕子	半期	2	3～	302	
	教養特講（地球環境問題）	山本 厚太郎	半期	2	1～	258	
	教養特講（病と癒しの人間史）	岡田 晴恵	半期	2	1～	259	
	教養特講（国際経済関係論）	今井 一雄	半期	2	1～	261	
	教養特講（モバイル社会とメディア）	菅谷実/KDDI総合研究所	半期	2	1～	262	
	教養特講（ソーシャルデザイン論）	小笠原 伸	半期	2	1～	264	
	教養特講（平成政治史研究）	後藤 謙次	半期	2	1～	266	
	教養特講（高齢社会と介護）	川瀬 善美	半期	2	1～	256	
科必専攻 目修攻	フレッシュマンセミナー	伊東 孝郎	半期	1	1～	318	
		神戸 文朗	半期	1	1～		
専攻 専門 科目	心理学概論A	玉宮 義之	半期	2	1～	902	
	心理学概論B	玉宮 義之	半期	2	1～	904	
	社会心理学 I	玉宮 義之	半期	2	1～	912	
	社会心理学 II	玉宮 義之	半期	2	1～	914	
	心理学研究法	心理学担当教員	半期	2	1～	362	
	心理統計法 I	飯田 成敏	半期	2	2～	905	
	心理統計法 II	飯田 成敏	半期	2	3～	907	
	心理学基礎実験演習	心理学担当教員	半期2コマ	4	2～	910	
	心理学実験・調査演習	心理学担当教員	半期2コマ	4	2～	908	
	学習心理学	飯田 成敏	半期	2	2～	916	
	認知心理学	神戸 文朗	半期	2	2～	356	
	発達心理学 I	津野田 聡子	半期	2	2～	917	
	発達心理学 II	—	半期	2	1～	—	2017年度休講
	青年心理学 I	伊東 孝郎	半期	2	2～	940	
	青年心理学 II	—	半期	2	2～	—	2017年度休講
	生理心理学	平田 乃美	半期	2	2～	920	
	比較心理学	—	半期	2	2～	—	2017年度休講
	人格心理学	伊東 孝郎	半期	2	2～	922	
	犯罪心理学	湯川 進太郎	半期	2	2～	924	
	臨床心理学	伊東 孝郎	半期	2	2～	358	
	健康心理学	島崎 崇史	半期	2	2～	926	
	精神医学	片山 奈理子	半期	2	2～	928	
	心身医学	—	半期	2	2～	—	2017年度休講
	障がい児・者心理学	金丸 隆太	集中	2	2～	929	
	医療心理学	—	半期	2	3～	—	2017年度休講
	環境心理学 I	平田 乃美	半期	2	2～	931	
	環境心理学 II	—	半期	2	3～	—	2017年度休講
	ビジネス心理学	玉宮 義之	半期	2	2～	933	
	心理測定法	—	半期	2	3～	—	2017年度休講
	心理学検査実習 I	伊崎 純子	半期	1	3～	934	
	心理学検査実習 II	—	半期	1	3～	—	2017年度休講
	心理学相談実習 I	伊東 孝郎	半期	1	3～	936	
	心理学相談実習 II	—	半期	1	3～	—	2017年度休講
	神経心理学	津野田 聡子	半期	2	2～	938	
人間工学	—	半期	2	3～	—	2017年度休講	
教育の測定と評価	平田 乃美	半期	2	3～	364		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
専攻専門科目	外書講読（親子関係を理解する）	伊崎 純子	半期	2	3～	988	2017年度休講
	外書講読（最新の心理学論文）	神戸 文朗	半期	2	3～	990	
	外書講読（心理学の時事英語）	平田 乃美	半期	2	3～	992	
	精神分析学Ⅰ	伊崎 純子	半期	2	2～	942	
	精神分析学Ⅱ	—	半期	2	3～	—	
	体育心理学	島崎 崇史	半期	2	2～	398	
	心理学特別研究 A	伊崎 純子	半期	2	3～	944	
		伊東 孝郎	半期	2	3～	946	
		神戸 文朗	半期	2	3～	948	
		玉宮 義之	半期	2	3～	954	
		平田 乃美	半期	2	3～	950	
		結城 史隆	半期	2	3～	952	
	心理学特別研究 B	伊崎 純子	半期	2	3～	955	
		伊東 孝郎	半期	2	3～	957	
		神戸 文朗	半期	2	3～	959	
		玉宮 義之	半期	2	3～	965	
		平田 乃美	半期	2	3～	961	
		結城 史隆	半期	2	3～	963	
	心理学特講Ⅰ（心理アセスメント論）	伊崎 純子	半期	2	2～	978	
	心理学特講Ⅰ（芸術療法）	伊東 孝郎	半期	2	3～	980	
	心理学特講Ⅰ（臨床心理実務倫理）	伊東 孝郎	半期	2	3～	982	
	心理学特講Ⅰ（実践に耐える教育工学）	鶴田 利郎	半期	2	1～	984	
	心理学特講Ⅰ（身体心理学）	湯川 進太郎	半期	2	2～	985	
	心理学特講Ⅰ（児童精神医学）	片山 奈理子	半期	2	2～	987	
キャリア心理学	伊東 孝郎	半期	2	1～	976		
教科専門科目	日本史概論	上安 祥子	半期	2	1～	118	
	外国史概論	清水 正義	半期	2	1～	121	
	地理学概論（地誌を含む）	奥澤 信行	半期	2	1～	126	
	倫理学概論	的場 哲朗	半期	2	1～	132	
	哲学概論	渡辺 忠	半期	2	1～	144	
	論理学	渡辺 忠	半期2コマ	4	1～	148	
	法学概論 A（国際法を含む）	河原 文敬	半期	2	1～	174	
	法学概論 B（国際法を含む）	小野 義典	半期	2	1～	175	
	政治学概論 A（国際政治を含む）	服部 一成	半期	2	1～	202	
		三浦 顕一郎	半期	2	1～	204	
	政治学概論 B（国際政治を含む）	服部 一成	半期	2	1～	206	
		三浦 顕一郎	半期	2	1～	208	
教職専門科目	教師論	金井 正	半期	2	2～	509	
	教育基礎論	金井 正	半期	2	1～	562	
		小泉 祥一	半期	2	1～	560	
	教育心理学	平田 乃美	半期	2	1～	513	
	教育制度論	荒川 麻里	半期	2	1～	320	
	教育課程論 S	小泉 祥一	半期	2	3～	794	
	社会科教育法Ⅰ	熊田 禎介	半期	2	2～	966	
	社会科教育法Ⅱ	熊田 禎介	半期	2	2～	968	
	社会科教育法Ⅲ	熊田 禎介	半期	2	2～	970	

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
教職専門科目	社会科・公民科教育法	熊田 禎介	半期	2	2～	972	
	公民科教育法	熊田 禎介	半期	2	2～	974	
	道徳教育の理論と方法S	菊地 真貴子	半期	2	1～	804	
	特別活動の理論と方法S	須藤 勝	半期	2	2～	806	
	教育方法論S	小泉 祥一	半期	2	1～	809	
	生徒指導論（進路指導を含む）	榎本 和生	半期	2	2～	593	
	教育相談S	伊東 孝郎	半期	2	2～	813	
	比較教育論	荒川 麻里	半期	2	2～	321	
人権教育	荒川 麻里	半期	2	3～	609		
学科共通科目	造形文化論	—	半期	2	1～	—	2017年度休講
	おもちゃ論	—	半期	2	2～	—	2017年度休講
	福祉とボランティア	川瀬 善美	半期	2	1～	694	
	レクリエーション理論	藤井 和彦	半期	2	2～	698	
	レクリエーション実技	藤井 和彦	半期	1	2～	425	
	レクリエーション実習	藤井 和彦	集中	1	3～		
	野外運動A（キャンプ）	体育担当教員	集中	2	1～	700	
	野外運動B（雪上）	体育担当教員	集中	2	1～	701	
	救急法	山下 圭輔	半期	2	1～	422	
	早期英語教育	S. Bergman 三宅	半期	2	2～	702	
	e-ラーニング	奥山 慶洋	半期	1	1～	704	
	教育情報処理	渋谷 美紀	半期	2	1～	705	
	健康教育リテラシー	—	通年	4	3～	—	2017年度休講
	女性学	—	半期	2	1～	—	2017年度休講
	TOEIC	吉田 守利	半期	1	2～	26	
TOEFL	吉田 守利	半期	1	2～	32		
専門科目	専門特講（ボランティア・コーディネーション）	結城 史隆	半期	2	1～	994	
	専門特講（学校の危機管理）	金井 正	半期	2	3～	996	
	専門特講（Situational Grammar）	Harry Harris	半期	2	2～	998	
	専門特講（Media Project A）	Paul del Rosario	半期	2	2～	1000	
	専門特講（Media Project B）	Paul del Rosario	半期	2	2～	1002	
	専門特講（Picture Books）	S. Bergman 三宅	半期	2	1～	1003	
	専門特講（会社で働くということ）	柳川 高行	半期	2	1～	1005	
	専門特講（SLA リサーチ演習）	大木 俊英	半期	2	3～	1010	
	専門特講（学校感染症の対処法）	岡田 晴恵	半期	2	1～	1012	
専門特講（Social Networking）	Paul del Rosario	半期	2	2～	1014		
卒業研究	卒業研究	伊崎 純子	集中	4	4	431	
		伊東 孝郎	集中	4	4	449	
		神戸 文朗	集中	4	4	460	
		玉宮 義之	集中	4	4	498	
		平田 乃美	集中	4	4	442	
		山本 良子	集中	4	4	490	
		結城 史隆	通年	4	4	462	
実習科目	教育実習の事前事後指導S	黒澤 和人 ※1	半期・集中	1	3～	1025	
	教育実習Ⅰ	黒澤 和人	集中	4	3～	1029	
	教育実習Ⅱ	黒澤 和人	集中	2	3～	1031	
	教育実習Ⅲ	—	集中	2	4	—	該当者のみ

※1：事前指導担当教員

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
実習科目	教職実践演習（中・高）	荒井 信成	集中	2	4	1034	
		伊東 孝郎	集中	2	4		
		内田 雄三	集中	2	4		
		大木 俊英	集中	2	4		
		奥山 慶洋	集中	2	4		
随意科目	教職数学演習 I	榎本 哲士	半期	1	1～	1036	
	教職数学演習 II	榎本 哲士	半期	1	1～	1037	
	教職理科演習 I	奥中 栄二	半期	1	1～	1038	
	教職理科演習 II	奥中 栄二	半期	1	1～	1040	

**他専攻免許科目
シラバス（講義概要）**

他専攻免許

◆小学校教諭一種免許状

2017年度

目 次

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
他専攻免許科目 (教科)	・国語概説Ⅰ（書写を含む）	菊地 真貴子	半期	2	2～	1042	
	・社会科概説Ⅰ	原口 美貴子	半期	2	2～	1044	
	・算数概説Ⅰ	渋川 美紀	半期	2	2～	525	
		榎本 哲士	半期	2	2～	526	
	・理科概説Ⅰ	山野井 貴浩	半期	2	2～	529	
	・生活科概説Ⅰ	田村 恵美	半期	2	2～	534	
	・音楽概説Ⅰ	新井 恵美	半期	2	2～	1046	
	・図画工作概説Ⅰ	村松 和彦	集中	2	2～	1047	
	・家庭科概説Ⅰ	和田 早苗	半期	2	2～	1048	
	・体育概説Ⅰ	内田 雄三	半期	2	2～	1049	
他専攻免許科目 (教職)	・教育課程論P	小泉 祥一	半期	2	4	568	
	・国語科教育法	菊地 真貴子	半期	2	3～	1051	
	・社会科教育法	原口 美貴子	半期	2	3～	1052	
	・算数科教育法	榎本 哲士	半期	2	3～	1054	
	・理科教育法	山野井 貴浩	半期	2	3～	378	
	・生活科教育法	田村 恵美	半期	2	3～	1055	
	・家庭科教育法	宇津野 花陽	半期	2	3～	1057	
	・音楽科教育法	新井 恵美	半期	2	3～	1059	
	・図画工作科教育法	村松 和彦	集中	2	3～	1060	
	・体育科教育法	大津 展子	半期	2	3～	1061	
	・道德教育の理論方法P	中山 和彦	半期	2	2～	585	
	・特別活動の理論方法P	金井 正	半期	2	3～	1063	
	・教育方法論P	池野 正晴	半期	2	2～	591	
	・教育相談P	伊崎 純子	半期	2	3～	599	
	・教育実習の事前事後指導P	金井 正 ※1	半期・集中	1	3～	1065	
	・教育実習Ⅲ	教職等課程委員会担当教員	集中	2	4	—	

※1：事前指導担当教員

他専攻免許

2017年度

◆中学校教諭一種免許状（保健体育）

目 次

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
他専攻免許科目 (教科)	・陸上運動Ⅰ	竹島 克己	半期	1	2～	706	
	・陸上運動Ⅱ	竹島 克己	半期	1	2～	708	
	・器械運動Ⅰ	濱崎 裕介	半期	1	2～	710	
	・器械運動Ⅱ	濱崎 裕介	半期	1	2～	711	
		渡辺 良夫	半期	1	2～		
	・水泳	椿本 昇三	集中	1	2～	723	
	・柔道	蓬田 正郎	半期	1	3～	725	
	・剣道	荒井 一美	半期	1	3～	726	
	・ダンスⅠ	内山 須美子	半期	1	2～	712	
	・ダンスⅡ	内山 須美子	半期	1	2～	714	
	・バスケットボール	網野 友雄	半期	1	2～	718	
		佐藤 智信	半期	1	2～	716	
	・バレーボール	大関 孝雄	半期	1	3～	728	
	・野球（ソフトボール）	金田 健史	半期	1	3～	729	
	・テニス	野間 明紀	半期	1	2～	720	
	・ラグビー	齊藤 武利	半期	1	3～	731	
	・サッカー	石崎 聡之	半期	1	2～	721	
	・体づくり運動	本谷 聡	半期	1	3～	733	
	・体育原理	内山 須美子	半期	2	2～	396	
	・体育心理学	島崎 崇史	半期	2	3～	398	
	・体育・スポーツ経営学	藤井 和彦	半期	2	3～	734	
	・スポーツ社会学	中村 祐司	半期	2	3～	736	
	・運動学Ⅰ	濱崎 裕介	半期	2	2～	402	
	・生理学	金田 健史	半期	2	2～	408	
	・運動生理学	金田 健史	半期	2	3～	738	
	・公衆衛生学	荒井 信成	半期	2	2～	409	
	・学校保健Ⅰ	荒井 信成	半期	2	2～	411	
	・学校保健Ⅱ	荒井 信成	半期	2	2～	413	
	・精神保健学	伊崎 純子	半期	2	2～	360	
	他専攻免許科目 (教職)	・教育課程論S	小泉 祥一	半期	2	4	794
・保健体育科教育法Ⅰ		内田 雄三	半期	2	3～	796	
・保健体育科教育法Ⅱ		内田 雄三	半期	2	3～	798	
・保健体育科教育法Ⅲ（保健）		荒井 信成	半期	2	3～	800	
・道德教育の理論と方法S		菊地 真貴子	半期	2	2～	804	
・特別活動の理論と方法S		須藤 勝	半期	2	3～	806	
・教育方法論S		小泉 祥一	半期	2	2～	809	
・教育相談S		伊東 孝郎	半期	2	3～	813	
		榎本 和生	半期	2	3～	811	
・教育実習の事前事後指導S		内田 雄三 ※1	半期・集中	1	3～	1021	
・教育実習Ⅲ		教職等課程委員会担当教員	集中	2	4	—	

※1：事前指導担当教員

他専攻免許

2017年度

◆中学校教諭一種免許状（英語）

目 次

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
他専攻免許科目 (教科)	・初級英文法	大木 俊英	半期	2	2～	852	
	・中級英文法	若狭 基道	半期	2	3～	853	
	・上級英文法	若狭 基道	半期	2	3～	855	
	・英語学概論	若狭 基道	半期	2	2～	857	
	・音声学	若狭 基道	半期	2	2～	860	
	・英文学概論	鈴木 宏枝	半期	2	2～	861	
	・米文学概論	針生 進	半期	2	2～	863	
	・英米文学 I	鈴木 宏枝	半期	2	3～	865	
	・英米文学 II	鈴木 宏枝	半期	2	3～	867	
	・英米文学特講	Jeffrey Miller	半期	2	4	870	
	・スピーキング&リスニング I A	Michael Sorey	半期	2	3～	828	
	・スピーキング&リスニング I B	Jeffrey Miller	半期	2	3～	831	
		Michael Sorey	半期	2	3～		
	・スピーキング&リスニング II A	Michael Sorey	半期	2	4	834	
	・スピーキング&リスニング II B	Michael Sorey	半期	2	4	836	
	・リーディング&ボキャブラリー I	Jeffrey Miller	半期	2	2～	838	
		Harry Harris	半期	2	2～		
		Michael Sorey	半期	2	2～		
	・リーディング&ボキャブラリー II	Michael Sorey	半期	2	3～	840	
	・リーディング&ボキャブラリー III	Paul del Rosario	半期	2	3～	842	
	・ライティング初級	Michael Sorey	半期	2	2～	844	
	・ライティング中級	Jeffrey Miller	半期	2	2～	846	
		Harry Harris	半期	2	2～		
		Michael Morgan	半期	2	2～		
・異文化理解	Jeffrey Miller	半期	2	2～	872		
・異文化間コミュニケーション論	宮里 恭子	半期	2	3～	874		
・英語圏地域研究	Jeffrey Miller	半期	2	3～	876		
他専攻免許科目 (教職)	・教育課程論 S	小泉 祥一	半期	2	4	794	
	・英語科教育法 I	奥山 慶洋	半期	2	2～	878	
		斎藤 明宏	半期	2	2～		
		宮里 恭子	半期	2	2～		
	・英語科教育法 II	大木 俊英	半期	2	3～	880	
		奥山 慶洋	半期	2	3～		
	・英語科教育法 III	大木 俊英	半期	2	3～	882	
		奥山 慶洋	半期	2	3～		
		斎藤 明宏	半期	2	3～		
		宮里 恭子	半期	2	3～		
	・道德教育の理論と方法 S	菊地 真貴子	半期	2	2～	804	
	・特別活動の理論と方法 S	須藤 勝	半期	2	3～	806	
	・教育方法論 S	小泉 祥一	半期	2	2～	809	
	・教育相談 S	伊東 孝郎	半期	2	3～	813	
		榎本 和生	半期	2	3～	811	
	・教育実習の事前事後指導 S	奥山 慶洋 ※1	半期・集中	1	4	1023	
	・教育実習 III	教職等課程委員会担当教員	集中	2	4	—	

※1：事前指導担当教員

目 次

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
他専攻免許科目 (教科)	・日本史概論	上安 祥子	半期	2	2～	118	
	・外国史概論	清水 正義	半期	2	2～	121	
	・地理学概論（地誌を含む）	奥澤 信行	半期	2	2～	126	
	・法学概論A（国際法を含む）	河原 文敬	半期	2	2～	174	
	・法学概論B（国際法を含む）	小野 義典	半期	2	2～	175	
	・政治学概論A（国際政治を含む）	服部 一成	半期	2	2～	202	
		三浦 顕一郎	半期	2	2～	204	
	・政治学概論B（国際政治を含む）	服部 一成	半期	2	2～	206	
		三浦 顕一郎	半期	2	2～	208	
	・社会学A	川上 代里子	半期	2	2～	168	
		山本 厚太郎	半期	2	2～	166	
	・社会学B	川上 代里子	半期	2	2～	172	
		山本 厚太郎	半期	2	2～	170	
	・ミクロ経済学I（国際経済含む）	川本 敏	半期	2	2～	288	
		吉川 薫	半期	2	2～	286	
	・マクロ経済学I（国際経済含む）	川本 敏	半期	2	2～	291	
		吉川 薫	半期	2	2～	289	
	・文化人類学A	結城 史隆	半期	2	2～	162	
	・文化人類学B	結城 史隆	半期	2	2～	164	
	・比較文化論A	高畑 昭男	半期	2	2～	157	
		范 力	半期	2	2～	156	
	・比較文化論B	高畑 昭男	半期	2	2～	160	
		范 力	半期	2	2～	159	
	・現代日本経済論I	吉川 薫	半期	2	2～	283	
	・地域経済論I	山田 徳彦	半期	2	2～	285	
	・財政学I	—	半期	2	2～	—	2017年度休講
	・銀行論I	市川 千秋	半期	2	2～	281	
	・流通論I	青崎 智行	半期	2	2～	279	
	・マーケティングI	内堀 敬則	半期	2	2～	275	
	・マーケティングII	内堀 敬則	半期	2	2～	277	
	・哲学概論	渡辺 忠	半期	2	2～	144	
	・倫理学概論	的場 哲朗	半期	2	2～	132	
・論理学	渡辺 忠	半期2コマ	4	2～	148		
他専攻免許科目 (教職)	・教育課程論S	小泉 祥一	半期	2	4	794	
	・社会科教育法I	熊田 禎介	半期	2	3～	966	
	・社会科教育法II	熊田 禎介	半期	2	3～	968	
	・社会科教育法III	熊田 禎介	半期	2	3～	970	
	・社会科・公民科教育法	熊田 禎介	半期	2	3～	972	
	・道德教育の理論と方法S	菊地 真貴子	半期	2	2～	804	
	・特別活動の理論と方法S	須藤 勝	半期	2	3～	806	
	・教育方法論S	小泉 祥一	半期	2	2～	809	
	・教育相談S	伊東 孝郎	半期	2	3～	813	
		榎本 和生	半期	2	3～	811	
	・教育実習の事前事後指導S	黒澤 和人 ※1	半期・集中	1	3～	1025	
	・教育実習III	教職等課程委員会担当教員	集中	2	4	—	

他専攻免許科目

※1：事前指導担当教員

科目名	Reading I A
	聞くように読み、その場で考えを出力する
教員名	吉田 守利

【授業の内容】

本コースでは視覚的に認識する時間を持つことのできる「読解」を更に発展させ、「聞くようなスピードで読み」、マテリアルから得た情報に対して、「自分の考えを出力する」ことまでを、リーディングマテリアルを利用して育成することを目的とする。よってコース内では、音源を聞きながら、同時に読み、音源と同様のスピードで発音し、内容もイメージ化する練習も実施する。理解をして終了ではなく、その後ナチュラルスピード(180 words/min.)で内容をしっかりとイメージしながら読むことをトレーニングすることまでを含む。また、マテリアルの内容に対し、学習者自身の考えを求めることも行う。

【到達目標】

1. ナチュラルスピードを意識した読解を通じて、読むことと同時に、聞くことを鍛える。
2. その場で考えたアイデアを、その場で口にする・書くことを意識し、達成する。
3. 文脈の中で、文脈に沿った単語・表現を習得する。

【授業計画】

- 第1回 シラバス説明、オリエンテーション
- 第2回 Unit 1 The End of Newspapers?
- 第3回 Unit 3 E-mail-Online Shopping
- 第4回 Unit 4 The Homeless Man with a Golden Voice---Part1
- 第5回 Unit 5 The Homeless Man with a Golden Voice---Part2
- 第6回 Unit 7 Improving Memory
- 第7回 Unit 8 The Brownings: A Poetic Love Story
- 第8回 Unit 12 Superheroes in the Real World
- 第9回 Unit 13 Thank You Note
- 第10回 Unit 14 Human-Poered Machines
- 第11回 Unit 15 Twitter
- 第12回 Unit 16 Twitter Feed
- 第13回 Unit 18 Jazz Club Review
- 第14回 Unit 22 Garbage at Sea
- 第15回 Unit 23 Blog Post

スケジュールは状況によって変更の可能性があります。随時コース内でお伝えします。

【授業の進め方】

授業内では、マテリアルのトピックによってペアワーク実施。学習者同士で問題を出し合うこともある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①Quick-Step English 1 ③南雲堂

【参考図書】

英和辞書等

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 30% 受講態度 30%

特記事項
授業での取り組み姿勢、授業内小テストや課題・レポートを主な評価対象とする。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

すべての授業回数の3分の2以上出席していること

【履修上の心得】

時間・労力の無駄になると有意義ではありません。取り組む姿勢のある学生が受講することを求めます。

【科目のレベル、前提科目など】

一般的な内容の読み物を音声と同様の速度で読み、自分のアイデアを英語で表現する。

【備考】

特になし

科目名	Reading I B
	聞くように読解し、トピックを通じて抱いた考えをその場で英語で出力する習慣付けをする
教員名	吉田 守利

【授業の内容】

ネイティブライクな会話力を日本国内で身に付けることは、日本の英語環境上極めて難しい。会話表現は一定の定型句を用いて行うため、個々に抱いた気持ち・考えをその通りに伝えることより、定型句の利用によって会話の円滑な進行を優先してしまうことも往々にして起こる。しかしながら、国内のみでの英語学習でも、自分の考えを英語に載せて伝える練習は可能である。日本人としてのアイデンティティを保ちつつ、英語というフォーマットで個性的なアイデアを伝えるフレキシビリティを育成することは、英語環境の少ない国内の学習において極めて重要と思われる。

本コースでは視覚的に認識する時間を持つことのできる「読解」を更に発展させ、「聞くようなスピードで読み」、リアルから得た情報に対して、「自分の考えを出力する」ことまでを、リーディング教材を利用して育成することを目的とする。よってコース内では、主にリーディング教材をトピックに、その場で読んだことに対して、即座に意見をアウトプットすることに重点を置く。音源を聞きながら、同時に読み、音源と同様のスピードで発音し、内容もイメージ化する練習も実施する。理解をして終了ではなく、その後ナチュラルスピード(180 words/min.)で内容をしっかりとイメージしながら読むことをトレーニングすることまでを含む。また、教材の内容に対し、学習者自身の考えを求めることも行う。

【到達目標】

1. ナチュラルスピードを意識した読解を通じて、読むことと同時に、聞くことを鍛える。
2. その場で考えたアイデアを、その場で口にする・書くことを意識し、達成する。
3. 文脈の中で、文脈に沿った単語・表現を習得する。

【授業計画】

- 第1回 シラバス説明、オリエンテーション
- 第2回 Lesson 1: Never Fail: Achieving Your Goals
- 第3回 Lesson 2: FYI: Cyberpsychology
- 第4回 Lesson 3: Kick it! Addictions Old and New
- 第5回 Lesson 4: Mind over Matter: Boosting Brain Power
- 第6回 Lesson 5: The Artist in You: Fostering Creativity
- 第7回 Lesson 6: Don't Worry! Handling Stress and Anxiety
- 第8回 Lesson 7: Best Behavior: A Better, Nicer You
- 第9回 Lesson 8: About Face: Appearance and Personality
- 第10回 Lesson 9: Mars or Venus? Gender and Mental Health
- 第11回 Lesson 10: Good job! Practical Psychology at Work
- 第12回 Lesson 11: True or False? Spotting Liars
- 第13回 Lesson 12: What a Jerk! Dealing with Difficult People
- 第14回 Lesson 13: So Sad: Depression in Japan
- 第15回 Lesson 14: Color Blind: Overcoming Prejudice
- 第16回 Lesson 15: For the Children's Sake: Effective Parenting

スケジュールは状況によって変更の可能性があります。随時コース内でお伝えします。

【授業の進め方】

授業内では、教材のトピックによってペアワーク実施。学習者同士で問題を出し合うこともある。(受講人数によって、講義形態の変更あり)

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①生活に役立つ実践心理 PRACTICAL PSYCHOLOGY ③南雲堂

【参考図書】

英和辞書、文法書等(手持ちのもので良い)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 30% 受講態度 30%

特記事項

授業での取り組み姿勢、授業内小テストや課題・レポートを主な評価対象とする。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

すべての授業回数の3分の2以上出席していること。

【履修上の心得】

時間・労力の無駄になると有意義ではありません。取り組む姿勢のある学生が受講することを求めます。

【科目のレベル、前提科目など】

あるトピックを英語で読み取り、それについて抱いた考えを(その場で) 英語で表現する。

科目名	Writing I A
教員名	Miklos Juhasz

【授業の内容】

Genre-based Writing

- レッソンは大学生のために書かれたオリジナルテキストを使用します。
- レッソンでは、Unit ごとに設定されたテーマに基づき、様々な形式のライティング課題を通してグループディスカッションやペアワークを行いながら、講師の指導に基づき、Writing課題を作成します。

【到達目標】

- 1) 中学・高校で学んだ語彙・熟語・文法を生かして、ライティング力を習得します。
- 2) ライティング力に加え、英語コミュニケーション力も鍛えられます（全レッスン、リスニング、スピーキングも行います）。
- 3) 英文書の色々なジャンルの特徴を理解し、自信をもって自分の言いたいことが英文で表現できるようになります。

【授業計画】

- 第1回 自己紹介／授業内容・やり方の説明／Unit 1 Writing a profile I
- 第2回 Unit 1 Writing a profile II
- 第3回 Unit 1 Writing a profile III
- 第4回 Unit 2 Writing a postcard I
- 第5回 Unit 2 Writing a postcard II
- 第6回 Unit 3 Writing a diary I
- 第7回 Unit 3 Writing a diary II
- 第8回 Unit 4 Writing a personal story I
- 第9回 Unit 4 Writing a personal story II
- 第10回 Unit 4 Writing a personal story II
- 第11回 Unit 5 Writing a news report I
- 第12回 Unit 5 Writing a news report II
- 第13回 Unit 5 Writing a news report III / Portfolioの提出
- 第14回 グループライティング
- 第15回 コース復習 / Portfolio の返却

【授業の進め方】

レッスンでは、ユニットごとのテーマに基づき、ライティング課題（Working Draft と Final Draft）を作成します。課題作成の過程では、講師がテキストを使用しながら作成にあたってのポイントを解説し、ペアやグループで課題内容に関連したアクティビティを行います。ユニットごとのレッスンの一回目は主にテキストで扱うトピックを中心に授業時間内に Working Draft（初稿）を作成し、講師へ提出します。講師は Working Draft を添削し、2 回目のレッスン冒頭に、各履修者へ返却します。その後、履修者は 20～30 分で添削内容を確認し、講師のアドバイスを受けながら Final Draft（最終稿）を完成させます。3 回目のレッスンは同じジャンルで新し課題を作成するか、必要な文法や語彙の指導や復習を行います。その後、次のユニットのレッスンを開始します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

Write to Communicate (basic coursebook) Second Edition 早稲田大学アカデミックソリューション 2,000 円+税

- * テキストには、Working Draft と Final Draft で使用する専用レポート用紙が付いています。
- * 辞書（電子辞書も可）を必ず持ってきてください。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

- 5 ユニットのうち 3 ユニット分の Draft セット（Working Draft と Final Draft のセット）= Portfolio (60%)
- Working Draft と Final Draft 以外の宿題のライティングの課題の提状況 (20%)
- 各ユニットにおける、ディスカッションやアクティビティへの参加度、遅刻も含まれた授業中の態度 (20%)

【履修上の心得】

高校レベルの英語で十分です。

科目名	Writing I B
教員名	Miklos Juhasz

【授業の内容】

Genre-based Writing

- レッソンは大学生のために書かれたオリジナルテキストを使用します。
- レッソンでは、Unit ごとに設定されたテーマに基づき、様々な形式のライティング課題を通してグループディスカッションやペアワークを行いながら、講師の指導に基づき、Writing課題を作成します

【到達目標】

- 1) 中学・高校で学んだ語彙・熟語・文法を生かして、ライティング力を習得します。
- 2) ライティング力に加え、英語コミュニケーション力も鍛えられます（全レッスン、リスニング、スピーキングも行います）。
- 3) 英文書の色々なジャンルの特徴を理解し、自信をもって自分の言いたいことが英文で表現できるようになります。

【授業計画】

- 第1回 自己紹介／授業内容・やり方の説明／Unit 1 Writing a profile I
- 第2回 Unit 1 Writing a profile II
- 第3回 Unit 6 Writing a movie review I
- 第4回 Unit 6 Writing a movie review II
- 第5回 Unit 7 Writing a letter of complaint I
- 第6回 Unit 7 Writing a letter of complaint II
- 第7回 Unit 8 Writing a comparison I
- 第8回 Unit 8 Writing a comparison II
- 第9回 Unit 9 Writing an opinion e-mail I
- 第10回 Unit 9 Writing an opinion e-mail II
- 第11回 Unit 9 Writing an opinion e-mail III
- 第12回 Unit10 Writing a fictional story I
- 第13回 Unit10 Writing a fictional story II / Portfolioの提出
- 第14回 グループライティング
- 第15回 コース復習 / Portfolio の返却

【授業の進め方】

レッスンでは、ユニットごとのテーマに基づき、ライティング課題（Working Draft と Final Draft）を作成します。課題作成の過程では、講師がテキストを使用しながら作成にあたってのポイントを解説し、ペアやグループで課題内容に関連したアクティビティを行います。ユニットごとのレッスンの一回目は主にテキストで扱うトピックを中心に授業時間内に Working Draft（初稿）を作成し、講師へ提出します。講師は Working Draft を添削し、2 回目のレッスン冒頭に、各履修者へ返却します。その後、履修者は 20～30 分で添削内容を確認し、講師のアドバイスを受けながら Final Draft（最終稿）を完成させます。3 回目のレッスンは同じジャンルで新し課題を作成するか、必要な文法や語彙の指導や復習を行います。その後、次のユニットのレッスンを開始します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

Write to Communicate (basic coursebook) Second Edition 早稲田大学アカデミックソリューション 2,000 円+税

- * テキストには、Working Draft と Final Draft で使用する専用レポート用紙が付いています。
- * 辞書（電子辞書も可）を必ず持ってきてください。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

- 5 ユニットのうち 3 ユニット分の Draft セット（Working Draft と Final Draft のセット）＝Portfolio（60%）
- Working Draft と Final Draft 以外の宿題のライティングの課題の提状況（20%）
- 各ユニットにおける、ディスカッションやアクティビティへの参加度、遅刻も含まれた授業中の態度（20%）

【履修上の心得】

高校レベルの英語で十分です。

科目名	基礎英語A
	Presentationによる4技能のbrush up
教員名	木村 記子

【授業の内容】

現行英語教育の方向は、学生たちにActive Learningを通して自ら学ぶ姿勢を育て、その過程で4技能を伸ばし、将来にわたって使える英語力を身につけていくことを奨励している。この考え方に基づく授業を作っていく。

授業は、次の2つのパートに分けて行う。

①毎回の授業で、短い英文の速読演習をする。: Reading力のaccuracy（正確さ）とfluency（流暢さ）を伸ばす。
→Input

②Power pointを使って、一人ずつpresentationを行う。毎回、1名～2名による。（履修者によって、始まってから人数は決める。）

基礎英語Aでは、テーマは、自分自身、自分の家族、自分の夢等、自身の事について英語で発表する。PresenterはPower point画面と英文の原稿を作成する。発表が終わった後、聞き手はpresentationの内容について英語で質問をし、presenterは英語で答える。→Output

聞き手はpresentationの内容と発表について評価基準に則って評価をする。

Presenterは、授業終了時点で、聞き手にpower pointのハンドアウトを配布できるように人数分準備する。

注意：Power pointの作成の仕方を教える講座ではないので、誤解のないように！ Power pointを使って発表することを学ぶ講座です。

【到達目標】

①Input：速読演習は、WPM（Words per Minuet）1分間に読める語数が、120 words/ M 以上になるようにする。

②Output：自分の身近な事柄は英語で書き、英語で話すことができるようにする。話すときには、必ず、聞き手がいることを意識し、相手にわかりやすく説明する方途を学ぶ。

③Input：聞き手は、身近な事柄を英語で聞き、趣旨が理解できるようになる。

最終的には、簡単な意思疎通は、英語で出来るようになることが望ましい。

【授業計画】

第1回 授業のintroduction。自己紹介。presentationの発表順番を決める等。

第2回 ①速読演習

②1st Presentation～2nd Presentation（履修者が決まらないとpresentationの数も決まらない。）

③質疑応答と評価

第3回 ①速読演習

②3rd Presentation

③質疑応答と評価

第4回 ①速読演習

②4th Presentation

③質疑応答と評価

第5回 ①速読演習

②5th Presentation

③質疑応答と評価

第6回 ①速読演習

②6th Presentation

③質疑応答と評価

第7回 ①速読演習

②7th Presentation

③質疑応答と評価

第8回 ①速読演習

②8th Presentation

③質疑応答と評価

第9回 ①速読演習

②9th Presentation

③質疑応答と評価

第10回 ①速読演習

②10th Presentation

③質疑応答と評価

④report 課題発表

第11回 ①速読演習

②11th Presentation

③質疑応答と評価

- 第12回 ①速読演習
②12th Presentation
③質疑応答と評価
- 第13回 ①速読演習
②13th Presentation
③質疑応答と評価
- 第14回 ①速読演習
②14th Presentation
③質疑応答と評価
- 第15回 ①速読演習
②15th Presentation
③質疑応答と評価
④前期のまとめ
⑤report課題の提出

基礎英語Aは、語りやすい自分自身のことを中心に発表する。効果的に聞き手に理解してもらえるようpower pointを使って工夫していく。

基礎英語Bは、社会的、文化的テーマを取り扱う。自分の関心のあるテーマを選んで、リサーチし、presentationで発表する。これができるようにするため、前期、基礎英語Aは、基本的なテーマで練習することになる。

発表前に十分時間をかけて、power pointを作り、練習して臨むこと。

【授業の進め方】

- ①毎回の授業の始めの20分は速読演習。読み物はこちらで準備する。必ず、読んだ結果を記録する（scoreとW/M）。記録用紙を配布するので絶対に失くさないように。前期の最後に記録用紙を回収する。
- ②順番に従ってPresentationを行う。各自のUSBに入れて持参の事。Projector, Screenの設置してある教室で行います。質問用紙、評価用紙はこちらで準備する。
- ③Power pointの作成の仕方は、特別に指導はしませんので、わからない人は自分で勉強する。Power pointの作成は各自、Computer室等で行う。
- ④次回のpresenterに当たる人は、直前週の金曜日にPower pointのハンドアウトと発表原文を書面にて指導教師に届ける。この授業は火曜日の2限目なので、前週の金曜日に私のmail boxに入れておくこと。詳しくは授業の時に。
- ⑤授業終了後、Presenter以外の聞き手に、作成したpower pointのハンドアウトを配るので、必ず人数分準備しておく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

速読演習は、毎回、こちらで教材を準備する。英文作成に十分参考になるような内容のものを選ぶ。故に、前期はテキストは購入する必要はない。

【参考図書】

特になし。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 20% 受講態度 50%

特記事項

授業内小試験は速読演習の記録とデータから判断します。記録用紙を失くすと点数が失くなってしまいます。

report課題は、後半に一部課題を課し、後日提出してもらいます。

受講態度は、presentationの出来具合、発表態度と聞き手になっているときの参加、質疑の様子、積極性等を見ます。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

本学試験実施規程第5条に試験を受ける資格は「すべての授業回数の3分の2以上出席していること」とあるので、この条件を満たす履修者が評価の対象になります。なお、授業開始時刻30分を遅れて入室した場合、授業に参加できるが欠席扱いとなる。

速読演習結果未提出、report課題未提出は、単位が取れなくなる可能性もある。

【履修上の心得】

TV、映画、歌、新聞、英語の読みもの、英会話、今は至る所で英語に触れる機会があるので、出来るだけたくさんの英語資源に触れること。

【科目のレベル、前提科目など】

Power Pointの作成方法を知っていること。

基本的な英文の読み、書き、聞き、話すことがある程度出来ること。流暢でなくてもよい。或いは4技能の力を付けた人。

【備考】

特になし。

科目名	基礎英語B
	Presentationによる4技能のbrush up
教員名	木村 記子

【授業の内容】

現行英語教育の方向は、学生たちにActive Learningを通して自ら学ぶ姿勢を育て、その過程で4技能を伸ばし、将来にわたって使える英語力を身につけていくことを奨励している。この考え方に基づく授業を作っていく。

授業は、次の2つのパートに分けて行う。

①毎回の授業で、短い英文の速読演習をする。: Reading力のaccuracy（正確さ）とfluency（流暢さ）を伸ばす。
→Input

②Power pointを使って、一人または、二人ペアでpresentationを行う。毎回、1名または1ペアによる。（履修者によって、始まってから一人でやるかペアでやるかは決める。）→Output

基礎英語Bでは、テーマは、社会的、文化的領域で、興味のあるテーマを各自リサーチし、英語で発表する。PresenterはPower point画面と英文の原稿を作成する。授業では、発表の前に数名でテーマについてDiscussionをし、発表の終わった後、聞き手はpresentationの内容について英語で質問をし、presenterは英語で答える。→Output

聞き手は、presentationの内容と発表について評価基準に則って評価をする。

Presenterは、授業終了時点で、聞き手にpower pointのハンドアウトを配布できるように人数分準備する。

注意：Power pointの作成の仕方を教える講座ではないので、誤解のないように！ Power pointを使って発表することを学ぶ講座です。

【到達目標】

①Input：速読演習は、WPM（Words per Minuet）1分間に読める語数が、150 words/ M 以上になるようにする。

②Output：社会、文化的テーマを選び、英語で書き、英語で話すことができるようにする。話すときには、必ず、聞き手がいることを意識し、相手にわかりやすく説明することができる。

③Input：聞き手は、社会、文化的テーマの発表を英語で聞き、趣旨が理解できるようになる。

④最終的には、基本的な意思疎通は、英語で出来るようになることが望ましい。

【授業計画】

第1回 授業のintroduction。自己紹介。presentationの発表順番を決める等。

第2回 ①速読演習

②1st Presentation（履修者が決まらなると単独かペアかも決まらな。）

③質疑応答と評価

第3回 ①速読演習

②2nd Presentation

③質疑応答と評価

第4回 ①速読演習

②3rd Presentation

③質疑応答と評価

第5回 ①速読演習

②4th Presentation

③質疑応答と評価

第6回 ①速読演習

②5th Presentation

③質疑応答と評価

第7回 ①速読演習

②6th Presentation

③質疑応答と評価

第8回 ①速読演習

②7th Presentation

③質疑応答と評価

第9回 ①速読演習

②8th Presentation

③質疑応答と評価

第10回 ①速読演習

②9th Presentation

③質疑応答と評価

第11回 ①速読演習

②10th Presentation

③質疑応答と評価

④report課題の発表

第12回 ①速読演習

②11th Presentation

- ③質疑応答と評価
- 第13回 ①速読演習
- ②12th Presentation
- ③質疑応答と評価
- 第14回 ①速読演習
- ②13th Presentation
- ③質疑応答と評価
- 第15回 ①速読演習
- ②14th Presentation
- ③質疑応答と評価
- ④report課題の提出期限

- ①基礎英語Bは、自分の関心のある社会的、文化的テーマを選び、リサーチし、一人或いは二人でPresentationを行う。効果的に聞き手に理解してもらえようpower pointを使って工夫して発表する。
- ②リサーチの際に、インターネットの中から抜き出した内容を利用してもよいが、情報資源が信頼のおけるものなのかをよく吟味する。何でもやみくもに使ってはいけない。これは、社会に出ても大事なことです。Power pointの最後のページに、Bibliography（参考文献）として新聞、学術書、専門書、伝記等、出典を明らかにすること。
- ③発表前に十分時間をかけて、power pointを作り、練習して臨むこと。

【授業の進め方】

- ①毎回の授業の始めの20分は速読演習。読み物はこちらで準備する。必ず、読んだ結果を記録する（scoreとW/M）。記録用紙を配布するので絶対に失くさないように。後期の最後に記録用紙を回収する。
- ②予め決めた順番に従ってPresentationを行う。各自のUSBに入れて持参の事。Projector, Screenの設置してある教室で行います。質問用紙、評価用紙はこちらで準備する。もしも、プレゼンの準備ができず、順番を変更するときは、次の人或いはペアに頼み、その旨、指導教師に連絡すること。連携を密に。
- ③Power pointの作成の仕方は、特別に指導はしないので、わからない人は自分で勉強する。Power pointの作成は各自、Computer室等で行う。
- ④次回のpresenterに当たる人は、直前週の金曜日にPower pointのハンドアウトと発表原文を書面にて指導教師に届ける。この授業は火曜日の2限目なので、前週の金曜日に私のmail boxに入れておくこと。詳しくは授業の時に。
- ⑤授業終了後、Presenter以外の聞き手に、作成したpower pointのハンドアウトを配るので、必ず人数分準備しておく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

速読演習は、毎回、こちらで教材を準備する予定。英文作成に十分参考になるような内容のものを選ぶ。

【参考図書】

各自の発表テーマに合わせて、文献を選びなさい。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 20% 受講態度 50%

特記事項

授業内小試験は速読演習の記録とデータから判断します。記録用紙を失くすと点数が失くなってしまいます。

report課題は、後半に一部課題を課し、後日提出してもらう。

受講態度は、presentationの出来具合、発表態度と聞き手になっているときの参加、質疑の様子、積極性等を見る。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

本学試験実施規程第5条に試験を受ける資格は「すべての授業回数の3分の2以上出席していること」とあるので、この条件を満たす履修者が評価の対象になります。なお、授業開始時刻30分を遅れて入室した場合、授業に参加できるが欠席扱いとなる。

速読演習結果未提出、report課題未提出は、単位が取れなくなる可能性もある。

【履修上の心得】

TV、映画、歌、新聞、英語の読みもの、英会話、今は至る所で英語に触れる機会があるので、出来るだけたくさんの英語資源に触れると共に、いろいろなテーマに興味を持ち、考え、思索すること。例えば、人間の進化、ペットの起源、高齢化社会、日本人の結婚観の変化、ある作家の作品分析、日本のアニメ文化、日本のカワイイファッション等等、アカデミックな観点から捉える。

【科目のレベル、前提科目など】

Power Pointの作成方法を知っていること。

基本的な英文の読み、書き、聞き、話すことができる程度出来ること。流暢でなくてもよい。或いは4技能を伸ばしたい人。

【備 考】

特になし。

科目名	Reading II A
教員名	Wayne Sumida

【授業の内容】

This is an elective English reading and discussion course. There will be at least two kinds of readings to prepare each week. It is expected that only those students who are interested in reading in English and who are willing to participate in discussions in English will choose to take it.

This is an English-only course.

(この講義は、英語のリーディングとディスカッションの選択科目である。毎週最低2種類のリーディング課題を出すので、リーディングに興味があり、英語による討論に積極的に参加する意志のある学生のみが履修することを薦める。講義は英語のみで進められる。)

【到達目標】

- (a) To give the student increased confidence in his or her ability to read and understand English
(英文の読解にさらに自信がもてるようになる。)
- (b) To give the student opportunities to clarify personal interpretations of ideas written in English through discussions in English
(英語で討論する中で、個人の解釈の正確性を明確にしていく。)
- (c) To give the student the opportunity to learn about a subject-area by reading about it in English
(それぞれの専門分野を英語で学ぶ機会を与える。)

【授業計画】

- 第1回 Introduction to the class
 第2回 Reading discussion
 第3回 Reading discussion
 第4回 Textbook Unit 1
 第5回 Textbook Unit 2
 第6回 Textbook Unit 3
 Textbook Quiz Unit 1
 第7回 Textbook Unit 4
 Textbook Quiz Unit 2
 第8回 Textbook Unit 5
 Textbook Quiz Unit 3
 第9回 Textbook Unit 6
 Textbook Quiz Unit 4
 第10回 Textbook Unit 7
 Textbook Quiz Unit 5
 第11回 Textbook Unit 8
 Textbook Quiz Unit 6
 第12回 Textbook Unit 9
 Textbook Quiz Unit 7
 第13回 Textbook Unit 10
 Textbook Quiz Unit 8
 第14回 Textbook Quiz Unit 9
 第15回 Textbook Quiz Unit 1-10

There will be weekly textbook assignments that include reading of a short passage and completion of vocabulary and reading comprehension exercises.

There will be weekly quizzes that cover the textbook unit just completed and one test on vocabulary studied during the semester.

Other readings may be assigned as necessary.

(毎週テキストからリーディングの課題、単語と読解の練習課題を宿題として課す。)

小テストはテキストのユニット毎に、毎週実施し、学期中に学んだ単語の中から単語テストを実施する。
必要に応じてその他にもリーディング課題を出す。)

【授業の進め方】

Students may be given class time to work on the readings required for the course. It is expected that students will take advantage of the time and use it for reading.

There will also be time given for class discussions. It is important that students prepare for the discussion before coming to class.

Quizzes for the textbook units will be available weekly for the students to complete online. This will be done independently by the students, outside of class.

(授業時間をリーディング課題を進める時間に利用できるようにすることもある。
討論をする時は、必ずその準備を前もって整えること。
小テストは毎週オンラインで受けること。各自が授業時間外で受けること。)

【教科書(必ず購入すべきもの)】

初回授業時に指示する

The textbook(s) for the course will be announced at the first class session.

(教材は第1回の授業で指示する。)

【参考図書】

English reading materials such as newspapers, magazines, and other types of information are available both in print and online. Ask your teacher for available resources.

(新聞や雑誌などの英文資料は、印刷物でもオンラインでも見ることができる。講師に資料に関しては尋ねること。)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 20% レポート・課題 40% 受講態度 40%

特記事項

Six (6) or more absences will result in an automatic failing grade for the course.

(6回以上の欠席で、自動的に単位を落とすこととなる。)

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Six (6) or more absences will result in an automatic failing grade for the course.

(6回以上の欠席で、自動的に単位を落とすこととなる。)

【履修上の心得】

There is an extensive amount of reading to do for the course. A weekly effort will be needed to keep up with the requirements for the class.

Students are expected to read and prepare for discussions in English before coming to class. This means that students must prepare outside of class time. Without this preparation, students will have difficulty participating in the required discussions. Only students who are willing to make the effort should take the course.

The course will be conducted entirely in English. This means that there will be no English to Japanese translation of any reading materials for the class, and discussions will be conducted entirely in English. The successful student in this course will come to each class with a good attitude and be prepared to participate with enthusiasm in English-only.

(リーディングの量が多いため、授業の必修課題に付いていくには毎週の課題提出などをこなしていく必要がある。
授業に出席する前に討論の準備や、使用する資料を読んできるように。準備が整っていないと、討論への参加がより難しくなる。努力することを惜しまない学生だけが受講することを薦める。
授業は英語のみで行われる。英語から日本語への翻訳資料は配布されない。討論も全て英語で行われる。)

【科目のレベル、前提科目など】

This is a pre-intermediate level English reading and discussion course.

(英語のリーディング・ディスカッション科目の中級レベルに相当する。)

【備 考】

English writing courses are an excellent complement to this reading course. Knowing what good writers do to successfully convey a message in print will help the language learner to become a better reader.

(ライティングは、このリーディングの授業の補助的役割を果たす。優れた作家がどのようにメッセージを上手く伝えるか、それを知ること、英文資料をより良く理解することができる。)

科目名	Reading II B
教員名	Wayne Sumida

【授業の内容】

This is an elective English reading and discussion course. There will be at least two kinds of readings to prepare each week. It is expected that only those students who are interested in reading in English and who are willing to participate in discussions in English will choose to take it.

This is an English-only course.

(この講義は、英語のリーディングとディスカッションの選択科目である。毎週最低2種類のリーディング課題を出すので、リーディングに興味があり、英語による討論に積極的に参加する意志のある学生のみが履修することを薦める。講義は英語のみで進められる。)

【到達目標】

- (a) To give the student increased confidence in his or her ability to read and understand English
(英文の読解にさらに自信がもてるようになる。)
- (b) To give the student opportunities to clarify personal interpretations of ideas written in English through discussions in English
(英語で討論する中で、個人の解釈の正確性を明確にしていく。)
- (c) To give the student the opportunity to learn about a subject-area by reading about it in English
(それぞれの専門分野を英語で学ぶ機会を与える。)

【授業計画】

- 第1回 Introduction to the class
 第2回 Reading discussion
 第3回 Textbook Unit 11
 Reader Chapter 1
 第4回 Textbook Unit 12
 第5回 Textbook Unit 13
 Textbook Quiz Unit 11
 第6回 Textbook Unit 14
 Textbook Quiz Unit 12
 第7回 Textbook Unit 15
 Textbook Quiz Unit 13
 第8回 Textbook Unit 16
 Textbook Quiz Unit 14
 第9回 Textbook Unit 17
 Textbook Quiz Unit 15
 第10回 Textbook Unit 18
 Textbook Quiz Unit 16
 第11回 Textbook Unit 19
 Textbook Quiz Unit 17
 第12回 Textbook Unit 20
 Textbook Quiz Unit 18
 第13回 Textbook Quiz Unit 19
 第14回 Textbook Quiz Unit 20
 第15回 Textbook Quiz Unit 11-20

There will be weekly textbook assignments that include reading of a short passage and completion of vocabulary and reading comprehension exercises.

There will be weekly quizzes that cover the textbook unit just completed and one test on vocabulary studied during the semester.

Other readings may be assigned as necessary.

(毎週テキストからリーディングの課題、単語と読解の練習課題を宿題として課す。
小テストはテキストのユニット毎に、毎週実施し、学期中に学んだ単語の中から単語テストを実施する。
必要に応じてその他にもリーディング課題を出す。)

【授業の進め方】

Students may be given class time to work on the readings required for the course. It is expected that students will take advantage of the time and use it for reading.

There will also be time given for class discussions. It is important that students prepare for the discussion before coming to class.

Quizzes for the textbook units will be available weekly for the students to complete online. This will be done independently by the students, outside of class.

(授業時間をリーディング課題を進める時間に利用できるようにすることもある。
討論をする時は、必ずその準備を前もって整えること。
小テストは毎週オンラインで受けること。各自が授業時間外で受けること。)

【教科書(必ず購入すべきもの)】

初回授業時に指示する

The textbook(s) for the course will be announced at the first class session.
(教材は第1回の授業で指示する。)

【参考図書】

English reading materials such as newspapers, magazines, and other types of information are available both in print and online. Ask your teacher for available resources.

(新聞や雑誌などの英文資料は、印刷物でもオンラインでも見ることができる。講師に資料に関しては尋ねること。)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 20% レポート・課題 40% 受講態度 40%

特記事項

Six (6) or more absences will result in an automatic failing grade for the course.

(6回以上の欠席で、自動的に単位を落とすこととなる。)

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Six (6) or more absences will result in an automatic failing grade for the course.

(6回以上の欠席で、自動的に単位を落とすこととなる。)

【履修上の心得】

There is an extensive amount of reading to do for the course. A weekly effort will be needed to keep up with the requirements for the class.

Students are expected to read and prepare for discussions in English before coming to class. This means that students must prepare outside of class time. Without this preparation, students will have difficulty participating in the required discussions. Only students who are willing to make the effort should take the course.

The course will be conducted entirely in English. This means that there will be no English to Japanese translation of any reading materials for the class, and discussions will be conducted entirely in English. The successful student in this course will come to each class with a good attitude and be prepared to participate with enthusiasm in English-only.

(リーディングの量が多いため、授業の必修課題に付いていくには毎週の課題提出などをこなしていく必要がある。
授業に出席する前に討論の準備や、使用する資料を読んできるとよい。準備が整っていないと、討論への参加がより難しくなる。努力することを惜しまない学生だけが受講することを薦める。
授業は英語のみで行われる。英語から日本語への翻訳資料は配布されない。討論も全て英語で行われる。)

【科目のレベル、前提科目など】

This is a pre-intermediate level English reading and discussion course.
(英語のリーディング・ディスカッション科目の中級レベルに相当する。)

【備 考】

English writing courses are an excellent complement to this reading course. Knowing what good writers do to successfully convey a message in print will help the language learner to become a better reader.

(ライティングは、このリーディングの授業の補助的役割を果たす。優れた作家がどのようにメッセージを上手く伝えるか、それを知ること、英文資料をより良く理解することができる。)

科目名	Writing II A
教員名	Wayne Sumida

【授業の内容】

This is an elective English writing course for the student who would like to develop his or her writing skills. Students will write on a variety of topics, including themes related to their own life experiences. Re-writes will be an important part of the course, as students work toward a finished piece of writing.

This is an English-only class.

(Writing IIは、ライティングスキルを向上させたい学生のための選択科目である。人生経験など、様々なテーマについて書いていく。推敲を何度も繰り返すことも、この科目には重要である。授業は英語のみで行う。)

【到達目標】

- (a) To give the student increased confidence in his or her ability to express ideas in written English
(英文を書くことに自信をつける。)
- (b) To have students learn through re-writes as they move toward a finished piece of writing
(何度も書き直しを繰り返す中で、英文作成の技術を学ぶ。)
- (c) To have students understand that a finished piece of writing comes through review and revision
(最終提出文にも、改訂と講評がある。)

【授業計画】

- 第1回 Introduction to the class
Long writing task
- 第2回 Introduction to the class
Long writing task
- 第3回 Short writing task
Long writing task
- 第4回 Short writing task
Long writing task
Re-writes
- 第5回 Short writing task
Long writing task
Re-writes
- 第6回 Short writing task
Long writing task
Re-writes
- 第7回 Short writing task
Long writing task
Re-writes
- 第8回 Short writing task
Long writing task
Re-writes
- 第9回 Short writing task
Long writing task
Re-writes
- 第10回 Short writing task
Long writing task
Re-writes
- 第11回 Short writing task
Long writing task
Re-writes
- 第12回 Short writing task
Long writing task
Re-writes
- 第13回 Short writing task
Long writing task
Re-writes

- 第14回 Short writing task
Long writing task
Re-writes
第15回 Review of writing - first semester

Timed-writing:

A timed-writing topic will be assigned at the beginning of each class. It will be turned in at the end of the time period.
(Timed-writing: 授業の冒頭にトピックが出され、それについて書いたものを、授業の終わりに提出する。)

In-class writing:

An in-class writing topic will be assigned. The assignment is due at the end of every class.
(In-class writing: 出題されたテーマについて書いたものを、その日の授業内で提出する。)

Re-writing:

After checking, in-class writing papers will be returned to the student for re-write. Time to do the re-writes may be available during the class period. Students are asked to return these for re-checking as soon as possible, in order to increase the opportunities for further checks and re-writes.

(添削の入ったIn-class writingの課題を学生に一旦返却する。返却したものを書き直して、再提出する。書き直す時間を授業時間内に設けることもある。書き直したものは、提出期限は特に設けないが、できるだけ早く再提出すること。執筆→添削→書き直し→再提出→添削→書き直し→再提出、この作業を何度も繰り返すことによって、より完成に近いものになっていく。)

【授業の進め方】

There will be an extensive amount of writing to do for the course. Students should expect to do a lot of writing for this course both inside and outside of class.

There will be time during class to work on writing assignments. Students must be able to use the time to work independently and use self-initiative on class assignments.

There will be occasional work to do as a class. It is expected that students will participate with a good attitude.

Handwritten work is acceptable, but it is hoped that students will begin to use the computer for their assignments. Type-written work is an important part of academic or business writing.

There are no tests for this course.

(この科目は授業時間以外でも、ライティングに長時間費やす必要がある。授業の時間を使って課題に取り組むことができるが、その時間を学生個人が有意義に使うように。クラス全体で取り組む課題を設ける場合もあるが、積極的に参加するように。手書きのものも提出も許可するが、タイプされたものが望ましい。学生として、あるいはビジネス文書として、タイプしたものの提出は重要である。試験は実施しない。)

【教科書(必ず購入すべきもの)】

初回授業時に指示する

The textbook(s) for the course will be announced on the first day of class.

(教材は第1回の授業で指示する。)

【参考図書】

初回授業時に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 85% 受講態度 15%

特記事項

Six (6) or more absences will result in an automatic failing grade for the course.

Writing assignments will be on a variety of topics. They will all require at least a first draft. The teacher will then review the drafts, and return to the student for a re-write. This review and re-write could repeat itself many times. The overall effort to write, re-write, and do other forms of writing will determine the percentage given.

There will be occasional class work in which all students must work together. Student attitude and participation will

determine the score given for this element.

(6回以上の欠席で、自動的に単位を落とすこととなる。)

ライティングのテーマは、様々な分野に亘る。初稿は必須である。講師が提出されたものを添削し、学生に返却する。返却された文書を書き直し、再提出する。この作業を何回繰り返すかによって、学生の努力を判断し、成績をつける。クラス全体で作業をする場合がある。その際は学生の授業への参加度合いと積極性を評価する。)

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Six (6) or more absences will result in an automatic failing grade for the course. Attendance gives the student a set period of time to focus on writing.

(6回以上の欠席で、自動的に単位を落とすこととなる。出席することで、その授業時間をライティング課題に取り組む時間として利用できる。)

【科目のレベル、前提科目など】

This is a low-intermediate level writing class. Those students who want the opportunity to write in English are encouraged to attend.

(中級ライティングに相当する科目である。英文書を書きたいと思っている学生に履修を勧める。)

【備 考】

English reading courses are an excellent complement to this writing course. Extensive reading can help the student to become better acquainted with how messages are conveyed in print and can also help students to improve their vocabulary.

(リーディングの授業はこのライティングの授業の最高の補助的科目である。より多くの書物を読むことで、メッセージをよりスムーズに伝えられる方法を学ぶことができる。さらに、どのような言葉(英単語)を使うことで、より自然的な文章が書けるのかを学ぶこともできる。)

科目名	Writing II B
教員名	Wayne Sumida

【授業の内容】

This is an elective English writing course for the student who would like to develop his or her writing skills. Students will write on a variety of topics, including themes related to their own life experiences. Re-writes will be an important part of the course, as students work toward a finished piece of writing.

This is an English-only class.

(Writing IIは、ライティングスキルを向上させたい学生のための選択科目である。人生経験など、様々なテーマについて書いていく。推敲を何度も繰り返すことも、この科目には重要である。授業は英語のみで行う。)

【到達目標】

- (a) To give the student increased confidence in his or her ability to express ideas in written English
(英文を書くことに自信をつける。)
- (b) To have students learn through re-writes as they move toward a finished piece of writing
(何度も書き直しを繰り返す中で、英文作成の技術を学ぶ。)
- (c) To have students understand that a finished piece of writing comes through review and revision
(最終提出文にも、改訂と講評がある。)

【授業計画】

- 第1回 Introduction to the class
Long writing task
- 第2回 Introduction to the class
Long writing task
- 第3回 Short writing task
Long writing task
- 第4回 Short writing task
Long writing task
Re-writes
- 第5回 Short writing task
Long writing task
Re-writes
- 第6回 Short writing task
Long writing task
Re-writes
- 第7回 Short writing task
Long writing task
Re-writes
- 第8回 Short writing task
Long writing task
Re-writes
- 第9回 Short writing task
Long writing task
Re-writes
- 第10回 Short writing task
Long writing task
Re-writes
- 第11回 Short writing task
Long writing task
Re-writes
- 第12回 Short writing task
Long writing task
Re-writes
- 第13回 Short writing task
Long writing task
Re-writes

- 第14回 Short writing task
Long writing task
Re-writes
第15回 Review of writing - second semester

Timed-writing:

A timed-writing topic will be assigned at the beginning of each class. It will be turned in at the end of the time period.
(Timed-writing: 授業の冒頭にトピックが出され、それについて書いたものを、授業の終わりに提出する。)

In-class writing:

An in-class writing topic will be assigned. The assignment is due at the end of every class.
(In-class writing: 出題されたテーマについて書いたものを、その日の授業内で提出する。)

Re-writing:

After checking, in-class writing papers will be returned to the student for re-write. Time to do the re-writes may be available during the class period. Students are asked to return these for re-checking as soon as possible, in order to increase the opportunities for further checks and re-writes.

(添削の入ったIn-class writingの課題を学生に一旦返却する。返却したものを書き直して、再提出する。書き直す時間を授業時間内に設けることもある。書き直したものは、提出期限は特に設けないが、できるだけ早く再提出すること。執筆→添削→書き直し→再提出→添削→書き直し→再提出、この作業を何度も繰り返すことによって、より完成に近いものになっていく。)

【授業の進め方】

There will be an extensive amount of writing to do for the course. Students should expect to do a lot of writing for this course both inside and outside of class.

There will be time during class to work on writing assignments. Students must be able to use the time to work independently and use self-initiative on class assignments.

There will be occasional work to do as a class. It is expected that students will participate with a good attitude.

Handwritten work is acceptable, but it is hoped that students will begin to use the computer for their assignments. Type-written work is an important part of academic or business writing.

There are no tests for this course.

(この科目は授業時間以外でも、ライティングに長時間費やす必要がある。授業の時間を使って課題に取り組むことができるが、その時間を学生個人が有意義に使うように。クラス全体で取り組む課題を設ける場合もあるが、積極的に参加するように。手書きのものも提出も許可するが、タイプされたものが望ましい。学生として、あるいはビジネス文書として、タイプしたものの提出は重要である。試験は実施しない。)

【教科書(必ず購入すべきもの)】

初回授業時に指示する

The textbook(s) for the course will be announced on the first day of class.

(教材は第1回の授業で指示する。)

【参考図書】

初回授業時に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 85% 受講態度 15%

特記事項

Six (6) or more absences will result in an automatic failing grade for the course.

Writing assignments will be on a variety of topics. They will all require at least a first draft. The teacher will then review the drafts, and return to the student for a re-write. This review and re-write could repeat itself many times. The overall effort to write, re-write, and do other forms of writing will determine the percentage given.

There will be occasional class work in which all students must work together. Student attitude and participation will

determine the score given for this element.

(6回以上の欠席で、自動的に単位を落とすこととなる。)

ライティングのテーマは、様々な分野に亘る。初稿は必須である。講師が提出されたものを添削し、学生に返却する。返却された文書を書き直し、再提出する。この作業を何回繰り返すかによって、学生の努力を判断し、成績をつける。クラス全体で作業をする場合がある。その際は学生の授業への参加度合いと積極性を評価する。)

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Six (6) or more absences will result in an automatic failing grade for the course. Attendance gives the student a set period of time to focus on writing.

(6回以上の欠席で、自動的に単位を落とすこととなる。出席することで、その授業時間をライティング課題に取り組む時間として利用できる。)

【科目のレベル、前提科目など】

This is a low-intermediate level writing class. Those students who want the opportunity to write in English are encouraged to attend.

(中級ライティングに相当する科目である。英文書を書きたいと思っている学生に履修を勧める。)

【備 考】

English reading courses are an excellent complement to this writing course. Extensive reading can help the student to become better acquainted with how messages are conveyed in print and can also help students to improve their vocabulary.

(リーディングの授業はこのライティングの授業の最高の補助的科目である。より多くの書物を読むことで、メッセージをよりスムーズに伝えられる方法を学ぶことができる。さらに、どのような言葉(英単語)を使うことで、より自然的な文章が書けるのかを学ぶこともできる。)

科目名	VocabularyA
教員名	鈴木 宏枝

【授業の内容】

TOEFLに必要な英単語を身につける。TOEFLの形式に慣れ、得点アップを目指す。

【到達目標】

1. TOEFL頻出の英単語を覚える
2. TOEFLの読解問題文の構造を理解し、根拠を持って解けるようにする

【授業計画】

- 第1回 Unit 1. From Couch Potato to Cabin Fever
 予習：Words and Phrases (目安：5分)
 復習：リーディングパートのシャドーイング(目安：15分)
- 第2回 Unit 2. Fireworks!
 予習：Words and Phrases (目安：5分)
 復習：リーディングパートのシャドーイング (目安：15分)
- 第3回 Unit 3. We Put Things in "Apple Pie Order"
 予習：Words and Phrases (目安：5分)
 復習：リーディングパートのシャドーイング (目安：15分)
- 第4回 Unit 4. The Big Easy and Sin City
 予習：Words and Phrases (目安：5分)
 復習：リーディングパートのシャドーイング (目安：15分)
- 第5回 Unit 5. Bigwig
 予習：Words and Phrases (目安：5分)
 復習：リーディングパートのシャドーイング (目安：15分)
- 第6回 Unit 6. Grapevine
 予習：Words and Phrases (目安：5分)
 復習：リーディングパートのシャドーイング (目安：15分)
- 第7回 Unit 7. Quit Buggin' Me!
 予習：Words and Phrases (目安：5分)
 復習：リーディングパートのシャドーイング (目安：15分)
- 第8回 Unit 8. It's Not Worth a Hill of Beans!
 予習：Words and Phrases (目安：5分)
 復習：リーディングパートのシャドーイング (目安：15分)
- 第9回 Unit 9. What's a GI Joe?
 予習：Words and Phrases (目安：5分)
 復習：リーディングパートのシャドーイング (目安：15分)
- 第10回 Unit 10. Great Scott
 予習：Words and Phrases (目安：5分)
 復習：リーディングパートのシャドーイング (目安：15分)
- 第11回 Unit 11. Swan Song
 予習：Words and Phrases (目安：5分)
 復習：リーディングパートのシャドーイング (目安：15分)
- 第12回 Unit 12. When Is a Choice Not Really a Choice?
 予習：Words and Phrases (目安：5分)
 復習：リーディングパートのシャドーイング (目安：15分)
- 第13回 Unit 13. Baloney
 予習：Words and Phrases (目安：5分)
 復習：リーディングパートのシャドーイング (目安：15分)
- 第14回 Unit 14. Mayday
 予習：Words and Phrases (目安：5分)
 復習：リーディングパートのシャドーイング (目安：15分)
- 第15回 Unit 15. Without Them, Machines Fall Apart
 予習：Words and Phrases (目安：5分)
 復習：リーディングパートのシャドーイング (目安：15分)

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①TOEFL iBT Basics: VOAで学ぶ四技能のストラテジー ②津田晶子他 ③南雲堂 ④2015年 ⑤¥1,900+税

授業外に語彙力向上アクティビティの自習も求める。

【参考図書】

田中 真紀子『聞いて覚える英単語キクタン TOEFL Test 頻出編』アルク
Deborah Phillips. Introductory Course for the TOEFL Test: the Paper Test. Longman

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 55% 授業内小試験 0% レポート・課題 15% 受講態度 30%

特記事項

授業への参加、小テスト、定期テストから総合的に判断する。6月上旬のTOEFL ITPを受験すること。

【履修上の心得】

全授業回数の1/3を越えて欠席した場合は失格とする。英語教育専攻の学生はTOEFL ITPの受験が必須である。

【科目のレベル、前提科目など】

基礎を踏まえた上でさらに語彙を中心に英語力をつけるための科目である。英文法(初級、中級、上級)、VocabularyB。

【備 考】

受講者の理解度によって進度や内容が変わる場合がある。

科目名	VocabularyB
教員名	鈴木 宏枝

【授業の内容】

TOEICの頻出語彙を中心にボキャブラリー・ビルディングをおこなうとともにTOEICの形式に慣れる。

【到達目標】

1. TOEICの頻出ボキャブラリーを覚える
2. TOEICのテスト形式に慣れる
3. ビジネスや英語コミュニケーションにおける長文で文意をすばやくつかみ、答えることができる

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
Unit 1. Traveling
予習：次週のリーディングパートを解いてくる（目安：30分）
復習：Build Up Your TOEIC Vocabulary!の英単語を完全に覚える（目安：10分）
- 第2回 Unit 2. Daily Life & Shopping
予習：次週のリーディングパートを解いてくる（目安：30分）
復習：Build Up Your TOEIC Vocabulary!の英単語を完全に覚える（目安：10分）
- 第3回 Unit 3. At Restaurants
予習：次週のリーディングパートを解いてくる（目安：30分）
復習：Build Up Your TOEIC Vocabulary!の英単語を完全に覚える（目安：10分）
- 第4回 Unit 4. Job Hunting
予習：次週のリーディングパートを解いてくる（目安：30分）
復習：Build Up Your TOEIC Vocabulary!の英単語を完全に覚える（目安：10分）
- 第5回 Unit 5. At the Office 1
予習：次週のリーディングパートを解いてくる（目安：30分）
復習：Build Up Your TOEIC Vocabulary!の英単語を完全に覚える（目安：10分）
- 第6回 Unit 6. At the Office 2
予習：次週のリーディングパートを解いてくる（目安：30分）
復習：Build Up Your TOEIC Vocabulary!の英単語を完全に覚える（目安：10分）
- 第7回 Unit 7. Review Test 1
復習：Build Up Your TOEIC Vocabulary!の英単語を完全に覚える（目安：10分）
- 第8回 Unit 8. Doing Business Online
予習：次週のリーディングパートを解いてくる（目安：30分）
復習：Build Up Your TOEIC Vocabulary!の英単語を完全に覚える（目安：10分）
- 第9回 Unit 9. Housing
予習：次週のリーディングパートを解いてくる（目安：30分）
復習：Build Up Your TOEIC Vocabulary!の英単語を完全に覚える（目安：10分）
- 第10回 Unit 10. Making Deals & Contracts
予習：次週のリーディングパートを解いてくる（目安：30分）
復習：Build Up Your TOEIC Vocabulary!の英単語を完全に覚える（目安：10分）
- 第11回 Unit 11. Public Service
予習：次週のリーディングパートを解いてくる（目安：30分）
復習：Build Up Your TOEIC Vocabulary!の英単語を完全に覚える（目安：10分）
- 第12回 Unit 12. Banking & Finance
予習：次週のリーディングパートを解いてくる（目安：30分）
復習：Build Up Your TOEIC Vocabulary!の英単語を完全に覚える（目安：10分）
- 第13回 Unit 13. At Seminars & Workshops
予習：次週のリーディングパートを解いてくる（目安：30分）
復習：Build Up Your TOEIC Vocabulary!の英単語を完全に覚える（目安：10分）
- 第14回 Unit 14. News & Media
予習：次週のリーディングパートを解いてくる（目安：30分）
復習：Build Up Your TOEIC Vocabulary!の英単語を完全に覚える（目安：10分）
- 第15回 Unit 15. Review Test 2
復習：Build Up Your TOEIC Vocabulary!の英単語を完全に覚える（目安：10分）

【授業の進め方】

教科書に沿ってTOEIC形式の問題を解く。受講者が解答し、教員が説明・補足する演習形式である。学期に数回の単語テストをおこなう。授業外の自習として語彙力向上のアクティビティをおこなう。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①Lighting Up the TOEIC® Test ②植木美千子 他 ③金星堂 ④2016年 ⑤¥2,106

【参考図書】

Raymond Murphy. Basic Grammar in Use, Third Edition. Cambridge UP, 2010.

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 15% レポート・課題 15% 受講態度 30%

特記事項

授業への参加、単語テスト、定期試験から総合的に判断する。

1月上旬のTOEIC IPを受験すること。

【履修上の心得】

全授業回数の1/3を越えて欠席した場合は失格とする。

【科目のレベル、前提科目など】

英文法(初級、中級、上級)、Vocabulary A。

科目名	TOEIC
	文脈の中で生きた単語を習得する
教員名	吉田 守利

【授業の内容】

このコースでは、主にTOEICの単語を中心に学習を進める。personnel=「職員(の)」のように、A=Bで覚えた単語に実際の場面での効果はあまり期待できない。「学費」や「電気代」を日本語で聞いた際の「イメージ」を想像してみたい。「お金」、「期限」と同様に、「ネガティブな感情 (=支払いをしなければならない)」等も喚起されているはずである。また、聞いた瞬間に「送金する」イメージ、校内にある「支払う窓口」等、取り巻く環境までがイメージされるものである。TOEICは「実用英語」的印象を抱かれるが、実際に大学生がTOEIC内で耳にし、目にする状況は、「会社での一場面」、「英語圏での環境」等、実際に日本語でも経験のないことばかりである。異なるトピックを次々に聞き、正確に理解するためには、その文脈で使われる表現を生きた形で学ぶことが一番である。前述のような形で、背景にある感覚、感情、関連する事柄までをイメージ化できるまで習得している必要がある。よって本コースでは、TOEICのテキストを利用しつつ、文脈の中で、生きた単語を習得することを第一とする。

【到達目標】

1. 文脈を伴った形で、音を通じて意味のある単語の習得
2. 各パートの解き方についての知識
3. 自宅での学習の習慣化、またその方法の指導

【授業計画】

- 第1回 シラバス説明、TOEICについてのオリエンテーション
- 第2回 問題演習：Unit1 Daily Life
単語習得：2 センテンス
- 第3回 問題演習：Unit2 Shopping
単語習得：2 センテンス
単語ミニクイズ1
- 第4回 問題演習：Unit3 Restaurant
単語習得：2 センテンス
単語ミニクイズ2
- 第5回 問題演習：Unit4 Travel
単語習得：2 センテンス
単語ミニクイズ3
- 第6回 問題演習：Unit5 People and Professions
単語習得：2 センテンス
単語ミニクイズ4
- 第7回 問題演習：Unit6 Office
単語習得：2 センテンス
単語ミニクイズ5
- 第8回 問題演習：Unit7 Recruitment
単語習得：2 センテンス
単語ミニクイズ6
- 第9回 問題演習：Unit8 Manufacturing
単語習得：2 センテンス
単語ミニクイズ7
- 第10回 問題演習：Unit9 Marketing
単語習得：2 センテンス
単語ミニクイズ8
- 第11回 問題演習：Unit10 Business Finance and Economy
単語習得：2 センテンス
単語ミニクイズ9
- 第12回 問題演習：Unit11 Weather Forecast
単語習得：2 センテンス
単語ミニクイズ10
- 第13回 問題演習：Unit12 Government and Other Organizations
単語習得：2 センテンス
単語ミニクイズ11
- 第14回 問題演習：Unit13 Social and Environmental Issues
単語習得：2 センテンス
単語ミニクイズ12

第15回 問題演習：Unit14 Entertainment

単語習得：2 センテンス

単語ミニクイズ13

スケジュールは、状況によって若干の変更の可能性があります。

【授業の進め方】

1. 単語習得（毎回2 センテンス導入）
2. 単語ミニクイズ（前回の授業の復習）
3. 問題演習（原則的に問題の解説。学生は該当Unitを予習）

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①TARGET ON THE TOEIC TEST Starter ③金星堂
①新TOEIC TEST 出る単特急 金のフレーズ ③朝日新聞出版

【参考図書】

1. 『総合英語Forest』または『ロイヤル英文法』等の文法書（手持ちのもので可）
2. 英和辞書

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 30% 受講態度 30%

特記事項

授業中の問題演習にしっかり取り組んでいるかどうか、授業内小テストや毎回の単語クイズ、二回実施予定の単語テストでの成績を主な評価対象とします。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

すべての授業回数の3分の2以上出席していること。

【履修上の心得】

この授業の目的は問題演習を通して、TOEICに活かせる単語を学ぶことであるため、受講者本人が授業外でも努力しなければ大幅な点数アップは難しいでしょう。やる気のある学生の受講を期待します。

【科目のレベル、前提科目など】

TOEIC試験対策中級レベル(600点)以上。

【備考】

特になし

科目名	英語スタディースキルズ
	English Study Skills
教員名	斎藤明宏・Harry Harris・宮里恭子

【授業の内容】

Study Skills is a required introductory course which prepares students for skill-based English courses that they will take during their four years in the English Education program. This course provides intensive training to help students learn in English versus learning about English. It is necessary to have learners acquire fundamental English skills to elevate their English levels so that they can learn in English after intensive English study skills training.

この科目は必修科目であり、本専攻でこれから4年間、スキル習得のための様々な英語の授業を受けることになるが、その準備を目的とする概論のコースである。英語について学ぶことから脱却し英語で学ぶことができるようになるため集中的に訓練する。英語のレベルを上げるためには基本的な英語のスキルを習得しなければならず、集中的な訓練を通して英語で学ぶことが可能になる。

【到達目標】

Students will work on the following skills:

Formatting rules (フォーマットの規則)

Outlining techniques (概略作成)

Reading efficiently (効果的リーディング)

Paraphrasing and summarizing short passages (言い換えと要旨)

Writing clearly formatted, well-structured, and coherent paragraphs (パラグラフライティング)

Learning through discussions (ディスカッション)

Giving effective presentations (プレゼンの仕方)

Managing studies (勉強方法)

Students who successfully complete course requirements will be able to use English in an academic environment.

このコースを修了すれば、学究的な環境で英語を使うことができるようになる。

【授業計画】

第1回 *15回授業計画は仮のもので、授業の進行状況により変更になる場合がある。

Introduction to course and textbooks, Seating arrangements, Self-introduction forms, & Name cards

第2回 Tour of English Lounge and Self-Access Learning Center (SALC)

HO: SALC, Self-study strategies and vocabulary notebook, TXB: Introduction, Writing Section

第3回 TXB: Dictionaries and Formatting Rules, HO: Using dictionaries, Pronunciation key

第4回 Outlines, Shadowing

第5回 Topic, Supporting, and Concluding Sentences, HO: Structure of a paragraph, TXB: Structure

第6回 HO: Structure of a paragraph, TXB: Structure

第7回 TXB: Spelling, Unity and Coherence, & Transitions

第8回 HO: Development of a Paragraph, TXB: London & Checklists

第9回 VOCABULARY TEST #1 (Core 2400), Paraphrasing, TXB: Outline, Extended essay, Plagiarism

第10回 TXB: Paraphrasing and Summary writing

第11回 TXB: Summary writing

第12回 HO: Studying at Hakuoh, Personality types, etc., TXB: Fact vs. opinion,

第13回 HO: Skimming, Three messages in a speech, TXB: Reading and skimming

第14回 MID-TERM TEST on Writing and Reading Sections, Delivery, TXB: Presentation

第15回 HO: Posture and eye contact, TXB: Body language, Review of graded tests, Self-introduction speeches in groups

第16回 TXB: Body language, Gestures, and Voice Control, HO: Gesture, voice inflection

第17回 Self-Introduction Speech, TXB: Prompt cards, Time management & public speaking, Show and tell speech, HO: Show and tell

第18回 Voice Control Activities, HO: Recitation, Jazz chants, Shadowing

第19回 VOCABULARY TEST #2 (Core 1900 Chapters 1 & 2), HO: Show and tell speech peer evaluation

第20回 Show and Tell (SPEECH #1), HO: Introduction, Body, Story message)

第21回 Persuasive Speech Structure, HO: Continuation of story message

第22回 Preparation for Persuasive Speech, HO: Continuation of story message

第23回 Research, Pre-Writing, TXB: Visual aids

第24回 SALC FORMS DUE, Introduction, Body, Transitions, and Conclusion, HO: Conclusion, Pre-writing, TXB: Choosing your topic, Planning and doing research, Persuasive speeches and useful expressions

第25回 Conferences, HO: Final Speech evaluation

第26回 Visual Aids, Conferences, Rehearsals and Peer review

第27回 Vocabulary Test #3, Rehearsals

第28回 Final Presentations (Speech #2)

第29回 Final Presentations

第30回 Wrap up and Course Evaluation

Course schedule is subject to change based on instructor-determined student needs. 授業計画は授業の進行状況により変更になる場合がある。

TXB = Textbook, HO = Handouts

【授業の進め方】

In this course, students will develop the four English language skills and also learn to present their own opinions. Specifically, students will read to grasp the main idea of a passage without translating into Japanese and reproduce the information in their own words using paraphrasing techniques. They will also review vocabulary studied in junior and senior high school, study new vocabulary, write short essays, give presentations, and have discussions after learning the logical structures of academic English. The basic language of instruction will be English to strengthen student listening skills.

このコースでは、英語の4機能を伸ばし、自分の意見を英語で発表することを学ぶ。具体的には、文章を日本語に翻訳しないで要旨を把握しながら読んだり、言い換えの技法を使って自分の言葉で情報を再生できるようにする。また、中学や高校で習った英単語を復習しながら新たに語彙を増やしたり、アカデミックな英語の構造を学んだ上で、小論文やプレゼン、ディスカッションなどをする。リスニング力を強化するために、基本的に英語で授業を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

① * Study Skills for College English 2nd edition ② 慶応義塾大学経済学部英語部会 ③ 慶応大学出版会 ④ 2011 ⑤ ¥1,000 ⑥ 9784766417944

① * 速読速聴・英単語 Core1900: Version 4. ② 松本 茂 (著, 監修), Robert L. Gaynor (著), Gail K. Oura (著), 藤咲 多恵 ③ z会 ④ 2011 ⑤ ¥1,900 ⑥ 9784862900746

**Core 1900 will continue to be used in the required Communication Skills course during the fall semester.

* Study Skills Handout Booklet ¥1000~

【参考図書】

松本 茂, ロバート・L. ゲイナー, 藤咲 多恵子, ゲイル・K. オーウラ, et al. (2008) 速読速聴・英単語 Basic 2400 ver.2—単語1800+熟語600.

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 45% 受講態度 15%

特記事項

Students who miss more than one third of class sessions will not pass the course.

If a student submits plagiarized assignments, machine translations, or work "borrowed" from others, s/he will fail.

学生は全授業回数の1/3を欠席した場合は単位取得できない。また、30分までの遅刻3回で、欠席1回とカウントする。文献の無断引用、日英翻訳機の使用、他人のレポートなどを自分のものとして使用した場合などは、このコースを失格とする。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Active participation and completion of all assignments is expected in this course. To keep up with and gain the most out of this intensive course, students must come to class prepared.

Students will be required to go to the Study Lounge and Self-Access Learning Center in the library to read Graded Readers and listen to the accompanying CDs.

全ての課題、宿題をこなし、積極的に授業に参加することが求められている。授業についてくるには、毎回の準備、予習が必要となる。Study Loungeへ行き留学生と英語会話をしたり、図書館のSelf-Access Learning CenterでGraded readerを読んだり、付属CDを聞くことも必須である。

【履修上の心得】

If you feel lost, do not be afraid to ask for help. Remember, the instructors want to assist you with your learning.

わからなくなったら、教師に尋ねること。早く聞くことで自分を助けることになり、また、教師は学生をサポートするために存在することを忘れないで欲しい。

【科目のレベル、前提科目など】

English Study Skills is a required subject and prerequisite for all skill-based courses in the English Program.

このコースは必修科目で、全ての英語関連のコースを取るために必要となる科目である。

科目名	コミュニケーションスキルズ / オラルプレゼンテーション
	Communication Skills (former Oral Presentation)
教員名	Paul del Rosario ・ Miklos Juhasz ・ Richard Todd Leroux

【授業の内容】

Communication Skills is a one-year required English course that engages students in a variety of enjoyable but challenging speaking and listening activities. This learner-centered course requires active student participation in real-world situations such as debates, speech making, and discussion. Students are required to be active and responsible learners and produce language. They will work upon vocabulary building, pronunciation, idea generation, information collection, organization, and presentation, so as to enable them to communicate more effectively.

コミュニケーションスキルズは通年の英語科目で、学生は楽しくも要求度の高い、様々なスピーキングやリスニング活動を行います。学習者中心のこの授業では、ディベート・スピーチ作成・ディスカッションなどの現実世界の場面における、仲間とのアクティブな活動を行っていきます。教員の支援のもと、学生は自身の英語学習を積極的に行っていくよう、より大きな責任を負うこととなります。

【到達目標】

In Communication Skills students will:

- increase their communication strategies, vocabulary, and useful expressions;
- work with collocations and language patterns;
- get involved in their own learning process;
- talk about who, what, when and where and about how and why;
- use short, basic structures in statements and questions; and
- improve fluency and pronunciation.

Upon successful completion of the course, learners should be less dependent on dictionary use and have greater confidence in their ability to speak and understand "real" English in a variety of situations inside and outside of the classroom.

講座終了後は、学習者は英語を話す、電子辞書を使わず、教室内外の様々な場面における「本物の」英語を理解することに対して更に自信を持ち、その結果としてスピーキングやリスニングのスキルを向上させることとなります。

【授業計画】

- 第1回 Course overview: Orientation
- 第2回 Self-introduction: Getting Acquainted- Who are you?
- 第3回 Speaking and listening tasks: Review & Expansion - Best time / worst time.
- 第4回 Speaking and listening tasks: Experiences - Have you ever...?
- 第5回 Speaking and listening tasks: Review & Expansion - Mini-report
- 第6回 Speaking and listening tasks: Sport & Leisure - Olympics 2020
- 第7回 Speaking and listening tasks: Review & Expansion - Olympic Aftermath: Garbage
- 第8回 Speaking and listening tasks: Shopping & Money - How much is rich?
- 第9回 Speaking and listening tasks: Review & Expansion - Future Money
- 第10回 Speaking and listening tasks: Quiz and/or review
- 第11回 Speaking and listening tasks: Food - I can / can't cook...
- 第12回 Speaking and listening tasks: Review & Expansion - My recipe.
- 第13回 Speaking and listening tasks: Test or Project Preparation
- 第14回 Semester assessments: Test or Project Preparation
- 第15回 Semester assessments: Travel - You have got to visit...
- 第16回 Speaking and listening tasks: Movies & Television - Media Mind Control
- 第17回 Speaking and listening tasks: Review & Expansion - A day without TV.
- 第18回 Speaking and listening tasks: Work - Work should be fun.
- 第19回 Speaking and listening tasks: Review & Expansion - My Own Company
- 第20回 Speaking and listening tasks: Health - Do you eat healthy?
- 第21回 Speaking and listening tasks: Review & Expansion - My weekly diet.
- 第22回 Speaking and listening tasks: Love & Marriage - Outdated tradition??
- 第23回 Speaking and listening tasks: Review & Expansion - Recipe for a good, healthy relationship
- 第24回 Speaking and listening tasks: Music & Books - Mix Media
- 第25回 Speaking and listening tasks: Quiz and / or review
- 第26回 How to talk to a big audience.
- 第27回 What makes a good PowerPoint?
- 第28回 Semester Assessments: Test or Project Preparation
- 第29回 Semester Assessments: Test or Project Preparation
- 第30回 Group Project Submission / Presentation

During the second semester, there will be vocabulary quizzes based on the final two-thirds of the CORE 1900 vocabulary textbook.

後期では、語彙参考書「CORE 1900」の後半3分の2を元に、毎週ボキャブラリー小テストを行います。

Student needs may require minor teacher-determined schedule modification.

履修者のニーズに合わせて、予定を一部変更することもあります。

【授業の進め方】

As the course meets once a week students are expected to listen to English material outside of class.

語学学習を成功させるためには練習を頻繁に行う必要がありますが、この授業は週1回しか行われないため、学生は教室外でも英語の教材を聞くようにしてください。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①PERFORMANCE ②David Harrington, Charles LeBeau ③Language Solutions Inc. ⑤2,592円 ⑥978-1929274338

松本茂、ロバート L. ゲイナー、ゲイル K. オーウラ、et al.速読速聴 英単語。(2011). Core 1900: Version 4.

Instructors: Paul del Rosario, Miklos Juhasz, Richard Todd Leroux

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 55% レポート・課題 20% 受講態度 25%

特記事項

Class tasks and homework 50%

Class attitude 25%

Core vocabulary 5%

Semester Assessment (Final project and/or assessment) 20%

クラスでの活動および宿題50%、授業態度25%、主要語彙テスト5%、学期末評価（ファイナルプロジェクトand/orアセスメント）20%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Punctual attendance and participation are very important in this course.

時間に遅れず出席することと、授業への参加がこの授業では非常に重要です。

【履修上の心得】

The small class size provides opportunities for each student to speak out often during each class session. It is natural to make mistakes when speaking a new language. It is far better to try to communicate and talk a lot rather than to try to be perfect. Be confident that you can communicate with other people in the world in English. Success in English will only come by actively trying again and again until you can do it. Do NOT give up!

少人数のクラスであるため、学生は各授業の中で発言する機会が多くあります。新しい言葉を話すときに間違ってしまうのは当然のことです。完璧であろうとするよりも、意思疎通しようとして沢山話すほうがはるかに良いことです。英語で世界の人々と意思疎通できるのだ、という自信を持ってください。英語学習における成功は、できるようになるまで積極的に何度も挑戦することでしか得られません。あきらめないでください！

科目名	TOEFL
	TOEFL単語を文脈のなかで習得
教員名	吉田 守利

【授業の内容】

この授業は、TOEFL単語の習得を目標としている。問題演習を通して、文脈でのTOEFL単語の使い方・ニュアンスを習得し、その後のTOEFL対策のベースを作る。また、小テストやリスニング、スピーキング練習により、TOEFLに必要な、「表現のための語彙の習得」を目指す。

TOEFLは北米の大学で学習するに足りる英語力を測るテストであるため、日本の大学受験で日本人が国語のテストを受験することに似ている。そこで読むことになる英文は、アカデミックな大学テキストからの抜粋が多く、高度な単語・構文知識・論理の展開、正確な読解力が要求される。本コースではauthenticなリーディングテキストを使い、英文を読む力、アカデミックな内容に対して意見を導き出す（主に英語で）能力を養いつつ、文脈のTOEFLレベルの単語を習得することを目的とする。

【到達目標】

TOEFLレベルの語彙を習得し、表現力をつける

【授業計画】

- 第1回 シラバス説明、TOEFL ITPについてのオリエンテーション
- 第2回 LESSON 1 前半
- 第3回 LESSON 1 後半
- 第4回 LESSON 2 前半
- 第5回 LESSON 2 後半
- 第6回 LESSON 3 前半
- 第7回 LESSON 3 後半
- 第8回 LESSON 4 前半
- 第9回 LESSON 4 後半
- 第10回 LESSON 5 前半
- 第11回 LESSON 5 後半
- 第12回 LESSON 6 前半
- 第13回 LESSON 6 後半
- 第14回 In-class test
- 第15回 Make-up for In-class test
- 第16回 LESSON 1 5

スケジュールは状況によって変更の可能性があります。オリエンテーション・コース内でお伝えします。

【授業の進め方】

基本的に教科書の各lessonを勉強していく。語彙の小テストも実施する。各lessonにサブハンドアウトを配布。テキストの設問を解答後、ハンドアウトを使ってその場で自身の考えをアウトプットする練習を実施する。原則的にグループでの作業となる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①Topics and Tactics for the TOEFL Test ③南雲堂

【参考図書】

TOEFL TEST必須英単語5000 コンピュータ受検決定版（ベレ出版）*自学自習用で任意に購入。授業内での情報量では足りないと思われる学生には購入を勧める

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 30% 受講態度 30%

特記事項

授業での取り組み姿勢、授業内小テストや毎回の単語クイズ、授業姿勢を主な評価対象とする。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

大学のルールに則り、欠席3分の1以上(5回以上)はHとなります。

【履修上の心得】

この授業の目的は問題演習を通して、TOEFL単語・表現を学ぶことであるため、受講者本人が授業外でも努力しなけ

れば大幅な点数アップは難しい。やる気のある学生の受講を期待する。また、単語習得の性質上、単調な学習の継続にもなりうる。自分自身の有意義な時間が無駄にならないためにも、真剣に取り組む気持ちの有無を事前によく考慮するように。

【科目のレベル、前提科目など】

TOEFL ITP・iBT対策初～中級レベル。

【備 考】

この講座はTOEFL iBT全ての対策をカバーするものとは言えない面があるため、受講の際は熟慮する事。

科目名	英語コミュニケーション I
	スポーツ健康専攻・心理学専攻 授業形態：演習
教員名	S.Miyake・Matthew James STANHAM・Michael Morgan・Michael Sorey・Miklos Juhasz・Richard Todd Leroux

【授業の内容】

This is the first of a two-course series designed to help students develop English speaking and listening skills for use in different contexts.

この授業は、「英語コミュニケーションII」と合わせて英語を“話す力”と“聴く力”をつけることを目的としている。

【到達目標】

Students who successfully complete English Communication I should be able to:

- Show improving fluency and pronunciation.
- Use basic structures to talk about who, what, when, and where, and more successfully about how and why.
- Carry out basic speech functions such as introduction, inviting, apologizing, and asking for information, confirmation, and clarification.
- Answer simple comprehension questions and identify numbers, letter names, time phrases, common names, and other word groups with increasing accuracy.
- Comprehend contractions and other sound reductions with increasing accuracy.
- Show increasing sensitivity to both verbal and non-verbal communication. For example, in contexts where cues show a change in mood or emotion, and respond with more appropriate gestures.

英語コミュニケーション I を履修すると次の項目において上達が期待できる。

- 流暢さを高め、発音を改善する。
- 簡単な文で、誰が、何を、いつ、どこで、さらに可能であれば、どのように、なぜかを話せる。
- 紹介する、依頼する、謝罪する、あるいは情報、確認、説明を求めるなど、基本的な会話ができる。
- 内容に関する簡単な質問に答えられ、数字、文字、時間表現、名詞、その他の語句をよりよく理解できる。
- 語の縮約その他の音声の弱化をよりよく理解できる。
- 言語のみでなく、非言語コミュニケーションにも注意を向ける。例えば、気分や感情の変化が感じ取られた時、より適切な身振りで対応できる。

【授業計画】

- 第1回 Communication Activities (コミュニケーション活動)
- 第2回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第3回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第4回 Communication Activities (コミュニケーション活動)
- 第5回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第6回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第7回 Communication Activities (コミュニケーション活動)
- 第8回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第9回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第10回 Communication Activities (コミュニケーション活動)
- 第11回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第12回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第13回 Catch-up/Consolidation/Assessment (復習/まとめ/評価)
- 第14回 Catch-up/Consolidation/Assessment (復習/まとめ/評価)
- 第15回 Catch-up/Consolidation/Assessment (復習/まとめ/評価)
- 第16回 Communication Activities (コミュニケーション活動)
- 第17回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第18回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第19回 Communication Activities (コミュニケーション活動)
- 第20回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第21回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第22回 Communication Activities (コミュニケーション活動)

- 第23回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第24回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第25回 Communication Activities (コミュニケーション活動)
- 第26回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第27回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第28回 Catch-up/Consolidation/Assessment (復習/まとめ/評価)
- 第29回 Catch-up/Consolidation/Assessment (復習/まとめ/評価)
- 第30回 Catch-up/Consolidation/Assessment (復習/まとめ/評価)

The above is a list of weekly lessons for two semesters (上記は1年間の授業予定です)

【授業の進め方】

The class will be conducted in simple English with active student participation using English expected. The teacher will structure the class in such a way as to facilitate the maximum amount of time for students to speak, allowing (encouraging) the students to assume the primary responsibility for learning communication skills.

クラスは平易な英語で行われ、学生は積極的に英語を使って参加することが期待される。学生が話す機会を最大限にし、学生が主体となってコミュニケーション能力を習得できるようにしたい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

Instructors will use their own communicative approach to teach their students. Textbook usage will be announced in the first class; complementary materials may be included in the course.

教員各自がそれぞれの方法でコミュニケーションを教える。教科書に関しては、最初の授業で案内する。補助教材を利用する場合がある。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

Grades will be determined based on the following criteria:

- 1) Participation
- 2) Assessment

According to the university policy, students who miss more than 1/3 of class sessions will automatically fail the course. In addition, regular attendance and positive attitude are encouraged to help improve student learning opportunities.

評価方法は下記のとおりです。

- 1) 授業への参加度
- 2) アセスメント

大学の方針としては、3分の1以上の欠席をした場合は、単位認定しないことになっている。加えて、高い出席率、積極的な受講態度が学習機会をよりよいものとするために推奨される。

- 1) Participation 60% (active in-class involvement, class work, etc)
- 2) Assessment 40% (presentations, quiz, homework, etc)

- 1) 授業への参加度 60%
- 2) アセスメント 40%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。

【履修上の心得】

全回出席を原則とする。

Instructors have their own teaching methodology and philosophy which they have determined to be in the best interests of their students. Students should take full advantage of the English environment of the class to practice understanding and using English actively. Positive attitude towards classmates, teacher, and the course will result in improved English skills and general knowledge.

教員にはそれぞれ学生にとって最善であると信じる指導法がある。学生にはこの学習機会を最大限に活用して、積極的に英語を理解し、使う練習をしてもらいたい。クラスメイト、教員、授業に積極的に関わることにより、英語力を伸ばし、知識を増やすことができる。

科目名	英語コミュニケーション I
	児童教育専攻 授業形態：演習/幼・保コース開講の場合の授業回数：30回（60時間）
教員名	S.Miyake・Matthew James STANHAM・Michael Morgan・Michael Sorey・M.坂下・Miklos Juhasz・Richard Todd Leroux

【授業の内容】

This is the first of a two-course series designed to help students develop English speaking and listening skills for use in different contexts.

この授業は、「英語コミュニケーションII」と合わせて英語を“話す力”と“聴く力”をつけることを目的としている。

【到達目標】

Students who successfully complete English Communication I should be able to:

- Show improving fluency and pronunciation.
- Use basic structures to talk about who, what, when, and where, and more successfully about how and why.
- Carry out basic speech functions such as introduction, inviting, apologizing, and asking for information, confirmation, and clarification.
- Answer simple comprehension questions and identify numbers, letter names, time phrases, common names, and other word groups with increasing accuracy.
- Comprehend contractions and other sound reductions with increasing accuracy.
- Show increasing sensitivity to both verbal and non-verbal communication. For example, in contexts where cues show a change in mood or emotion, and respond with more appropriate gestures.

英語コミュニケーション I を履修すると次の項目において上達が期待できる。

- 流暢さを高め、発音を改善する。
- 簡単な文で、誰が、何を、いつ、どこで、さらに可能であれば、どのように、なぜかを話せる。
- 紹介する、依頼する、謝罪する、あるいは情報、確認、説明を求めるなど、基本的な会話ができる。
- 内容に関する簡単な質問に答えられ、数字、文字、時間表現、名詞、その他の語句をよりよく理解できる。
- 語の縮約その他の音声の弱化をよりよく理解できる。
- 言語のみでなく、非言語コミュニケーションにも注意を向ける。例えば、気分や感情の変化が感じ取られた時、より適切な身振りで対応できる。

【授業計画】

- 第1回 Communication Activities (コミュニケーション活動)
- 第2回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第3回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第4回 Communication Activities (コミュニケーション活動)
- 第5回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第6回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第7回 Communication Activities (コミュニケーション活動)
- 第8回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第9回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第10回 Communication Activities (コミュニケーション活動)
- 第11回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第12回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第13回 Catch-up/Consolidation/Assessment (復習/まとめ/評価)
- 第14回 Catch-up/Consolidation/Assessment (復習/まとめ/評価)
- 第15回 Catch-up/Consolidation/Assessment (復習/まとめ/評価)
- 第16回 Communication Activities (コミュニケーション活動)
- 第17回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第18回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第19回 Communication Activities (コミュニケーション活動)
- 第20回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第21回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第22回 Communication Activities (コミュニケーション活動)

- 第23回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第24回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第25回 Communication Activities (コミュニケーション活動)
- 第26回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第27回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第28回 Catch-up/Consolidation/Assessment (復習/まとめ/評価)
- 第29回 Catch-up/Consolidation/Assessment (復習/まとめ/評価)
- 第30回 Catch-up/Consolidation/Assessment (復習/まとめ/評価)

The above is a list of weekly lessons for two semesters (上記は1年間の授業予定です)

【授業の進め方】

The class will be conducted in simple English with active student participation using English expected. The teacher will structure the class in such a way as to facilitate the maximum amount of time for students to speak, allowing (encouraging) the students to assume the primary responsibility for learning communication skills. The content will focus on language of interest to future teachers of young children. For example: children's games, stories, rhymes, songs, or social issues facing schools, teachers, and parents. Instructors will use their own communicative approach to teach their students.

クラスは平易な英語で行われ、学生は積極的に英語を使って参加することが期待される。学生が話す機会を最大限にし、学生が主体となってコミュニケーション能力を習得できるようにしたい。内容は、将来児童教育に携わる人にあわせたものになっている。例えば、子供向けのゲーム、物語、韻、歌、学校・教師・子どもが直面する社会問題などである。我々教員は各々にコミュニケーション方法で授業を進める予定である。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

Hello English, Chizuko Aiba, Seibido Press ; そのほか補助教材を用いることもある。¥2400

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

Grades will be determined based on the following criteria:

- 1) Participation
- 2) Assessment

According to the university policy, students who miss more than 1/3 of class sessions will automatically fail the course. In addition, regular attendance and positive attitude are encouraged to help improve student learning opportunities.

評価方法は下記のとおりです。

- 1) 授業への参加度
- 2) アセスメント

大学の方針としては、3分の1以上の欠席をした場合は、単位認定しないことになっている。加えて、高い出席率、積極的な受講態度が学習機会をよりよいものとするために推奨される。

- 1) Participation 60% (active in-class involvement, class work, etc)
- 2) Assessment 40% (presentations, quiz, homework, etc)

- 1) 授業への参加度 60%
- 2) アセスメント 40%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。
- ・受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

全回出席を原則とする。

Instructors have their own teaching methodology and philosophy which they have determined to be in the best interests of their students. Students should take full advantage of the English environment of the class to practice understanding and using English actively. Positive attitude towards classmates, teacher, and the course will result in improved English skills and general knowledge.

教員にはそれぞれ学生にとって最善であると信じる指導法がある。学生にはこの学習機会を最大限に活用して、積極的に英語を理解し、使う練習をしてもらいたい。クラスメイト、教員、授業に積極的に関わることにより、英語力を伸ばし、知識を増やすことができる。

科目名	英語コミュニケーションII
	スポーツ健康専攻・心理学専攻 授業形態：演習
教員名	S Miyake・Harry Harris・Michael Morgan・M.坂下・Richard Todd Leroux

【授業の内容】

This is the second of a two-course series designed to help students develop English speaking and listening skills for use in different contexts.

この授業は、「英語コミュニケーションI」と合わせて英語を“話す力”と“聴く力”をつけることを目的としている。

【到達目標】

Students who successfully complete English Communication II should be able to:

- Meet Communication I speaking and listening objectives, demonstrating command of these new skills in individual, pair, or group endeavors, such as presentations and discussions.
- Initiate a conversation and use their own ideas and opinions to further the conversation; use information received in a conversation to expand a discussion; ask basic follow up questions and talk about the answers they receive.
- Identify and summarize/paraphrase key points from dialogs, conversations, and other adapted listening material with increasing accuracy and provide correct answers to simple comprehension questions about a listening selection.
- Pick out reasons and cause/effect relationships in selections, with greater accuracy.
- Use simple and compound sentences with occasional use of complex sentences and attempt to use more complex structures such as modals.
- Pick out verbal cues that tell the speakers' moods and emotions with greater accuracy.
- Show some sensitivity to the need for variation in register, whether it be formal/informal, polite/casual, direct/indirect, and have a few alternate ways of expressing themselves in communicative encounters, according to such factors as degree of imposition, social position, and gender.

英語コミュニケーションIIを履修すると次の項目において上達が期待できる。

- 英語コミュニケーションIの目標を達成し、プレゼンテーションやディスカッションなどにおいてその技術を使える。
- 会話を始め、自分の考えや意見を使い、会話を継続できる。会話で得た情報を利用し、会話を広げることができる。基礎的な質問をし、その答えに関して話すことができる。
- 対話や会話、その他のリスニング教材の要点を理解し、要約・言い換えができ、その内容に関する簡単な質問に答えられる。
- 文から理由や因果関係を読み取れる。
- 時に複文を織りまぜ、簡単な単文、重文を使うことができる。さらに叙法のような複雑な構文を使うように試みることができる。
- 言葉から話者の気持ちや感情を読み取れる。
- 文体の固さ、丁寧度、直接度などの違いに敏感になり、負荷の程度、社会的地位、性別などの要素に応じて複数の表現を使えるようにする。

【授業計画】

- 第1回 Communication Activities (コミュニケーション活動)
- 第2回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第3回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第4回 Communication Activities (コミュニケーション活動)
- 第5回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第6回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第7回 Communication Activities (コミュニケーション活動)
- 第8回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第9回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第10回 Communication Activities (コミュニケーション活動)
- 第11回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第12回 Demonstration (デモンストレーション)

- 第13回 Catch-up/Consolidation/Assessment (復習/まとめ/評価)
- 第14回 Catch-up/Consolidation/Assessment (復習/まとめ/評価)
- 第15回 Catch-up/Consolidation/Assessment (復習/まとめ/評価)
- 第16回 Communication Activities (コミュニケーション活動)
- 第17回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第18回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第19回 Communication Activities (コミュニケーション活動)
- 第20回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第21回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第22回 Communication Activities (コミュニケーション活動)
- 第23回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第24回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第25回 Communication Activities (コミュニケーション活動)
- 第26回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第27回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第28回 Catch-up/Consolidation/Assessment (復習/まとめ/評価)
- 第29回 Catch-up/Consolidation/Assessment (復習/まとめ/評価)
- 第30回 Catch-up/Consolidation/Assessment (復習/まとめ/評価)

The above is a list of weekly lessons for two semesters (上記は1年間の授業予定です)

【授業の進め方】

The class will be conducted in simple English with active student participation using English expected. The teacher will structure the class in such a way as to facilitate the maximum amount of time for students to speak, allowing (encouraging) the students to assume the primary responsibility for learning communication skills.

クラスは平易な英語で行われ、学生は積極的に英語を使って参加することが期待される。学生が話す機会を最大限にし、学生が主体となってコミュニケーション能力を習得できるようにしたい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

Instructors will use their own communicative approach to teach their students. Textbook usage will be announced in the first class; complementary materials may be included in the course.

教員各自がそれぞれの方法でコミュニケーションを教える。教科書に関しては、最初の授業で案内する。補助教材を利用する場合がある。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

Grades will be determined based on the following criteria:

- 1) Participation
- 2) Assessment

According to university policy, students who miss more than 1/3 of class sessions will fail the course. In addition, regular attendance and positive attitude are encouraged to help improve student learning opportunities.

評価方法は下記のとおりです。

- 1) 授業への参加度
- 2) アセスメント

大学の方針としては、3分の1以上の欠席をした場合は、単位認定しないことになっている。加えて、高い出席率、積極的な受講態度が学習機会をよりよいものとするために推奨される。

- 1) Participation 60% (active in-class involvement, class work, etc)
- 2) Assessment 40% (presentations, quiz, homework, etc)

- 1) 授業への参加度 60%
- 2) アセスメント 40%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。

【履修上の心得】

全回出席を原則とする。

Instructors have their own teaching methodology and philosophy which they have determined to be in the best interests of their students. Students should take full advantage of the English environment of the class to practice understanding and using English actively. Positive attitude towards classmates, teacher, and the course will result in improved English skills and general knowledge.

教員にはそれぞれ学生にとって最善であると信じる指導法がある。学生にはこの学習機会を最大限に活用して、積極的に英語を理解し、使う練習をしてもらいたい。クラスメイト、教員、授業に積極的に関わることにより、英語力を伸ばし、知識を増やすことができる。

科目名	英語コミュニケーションII
	児童教育専攻 授業形態：演習
教員名	S. Miyake・Harry Harris・Michael Morgan・M. 坂下・Matthew James STANHAM・Richard Todd Leroux

【授業の内容】

This is the first of a two-course series designed to help students develop English speaking and listening skills for use in different contexts.

この授業は、「英語コミュニケーションII」と合わせて英語を“話す力”と“聴く力”をつけることを目的としている。

【到達目標】

Students who successfully complete English Communication II should be able to:

- Meet Communication I speaking and listening objectives, demonstrating command of these new skills in individual, pair, or group endeavors, such as presentations and discussions.
- Initiate a conversation and use their own ideas and opinions to further the conversation; use information received in a conversation to expand a discussion; ask basic follow up questions and talk about the answers they receive.
- Identify and summarize/paraphrase key points from dialogs, conversations, and other adapted listening material with increasing accuracy and provide correct answers to simple comprehension questions about a listening selection.
- Pick out reasons and cause/effect relationships in selections, with greater accuracy.
- Use simple and compound sentences with occasional use of complex sentences and attempt to use more complex structures such as modals.
- Pick out verbal cues that tell the speakers' moods and emotions with greater accuracy.
- Show some sensitivity to the need for variation in register, whether it be formal/informal, polite/casual, direct/indirect, and have a few alternate ways of expressing themselves in communicative encounters, according to such factors as degree of imposition, social position, and gender.

英語コミュニケーションIIを履修すると次の項目において上達が期待できる。

- 英語コミュニケーションIの目標を達成し、プレゼンテーションやディスカッションなどにおいてその技術を使える。
- 会話を始め、自分の考えや意見を使い、会話を継続できる。会話で得た情報を利用し、会話を広げることができる。基礎的な質問をし、その答えに関して話すことができる。
- 対話や会話、その他のリスニング教材の要点を理解し、要約・言い換えができ、その内容に関する簡単な質問に答えられる。
- 文から理由や因果関係を読み取れる。
- 時に複文を織りまぜ、簡単な単文、重文を使うことができる。さらに叙法のような複雑な構文を使うように試みることができる。
- 言葉から話者の気持ちや感情を読み取れる。
- 文体の固さ、丁寧度、直接度などの違いに敏感になり、負荷の程度、社会的地位、性別などの要素に応じて複数の表現を使えるようにする。

【授業計画】

- 第1回 Communication Activities (コミュニケーション活動)
- 第2回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第3回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第4回 Communication Activities (コミュニケーション活動)
- 第5回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第6回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第7回 Communication Activities (コミュニケーション活動)
- 第8回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第9回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第10回 Communication Activities (コミュニケーション活動)
- 第11回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第12回 Demonstration (デモンストレーション)

- 第13回 Catch-up/Consolidation/Assessment (復習/まとめ/評価)
- 第14回 Catch-up/Consolidation/Assessment (復習/まとめ/評価)
- 第15回 Catch-up/Consolidation/Assessment (復習/まとめ/評価)
- 第16回 Communication Activities (コミュニケーション活動)
- 第17回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第18回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第19回 Communication Activities (コミュニケーション活動)
- 第20回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第21回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第22回 Communication Activities (コミュニケーション活動)
- 第23回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第24回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第25回 Communication Activities (コミュニケーション活動)
- 第26回 Controlled Practice (パターン練習)
- 第27回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第28回 Catch-up/Consolidation/Assessment (復習/まとめ/評価)
- 第29回 Catch-up/Consolidation/Assessment (復習/まとめ/評価)
- 第30回 Catch-up/Consolidation/Assessment (復習/まとめ/評価)

The above is a list of weekly lessons for two semesters (上記は1年間の授業予定です)

【授業の進め方】

The class will be conducted in simple English with active student participation using English expected. The teacher will structure the class in such a way as to facilitate the maximum amount of time for students to speak, allowing (encouraging) the students to assume the primary responsibility for learning communication skills. The content will focus on language of interest to future teachers of young children. For example: children's games, stories, rhymes, songs, or social issues facing schools, teachers, and parents. Instructors will use their own communicative approach to teach their students.

クラスは平易な英語で行われ、学生は積極的に英語を使って参加することが期待される。学生が話す機会を最大限にし、学生が主体となってコミュニケーション能力を習得できるようにしたい。内容は、将来児童教育に携わる人にあわせたものになっている。例えば、子供向けのゲーム、物語、韻、歌、学校・教師・子どもが直面する社会問題などである。我々教員は各々にコミュニカティブな方法で授業を進める予定である。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

Instructors will use their own communicative approach to teach their students. Teacher-generated materials will be included in the course.

教員各自がそれぞれの方法でコミュニケーションを教える。教科書に関しては、最初の授業で案内する。補助教材を利用する場合がある。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

Grades will be determined based on the following criteria:

- 1) Participation
- 2) Assessment

According to the university policy, students who miss more than 1/3 of class sessions will automatically fail the course. In addition, regular attendance and positive attitude are encouraged to help improve student learning opportunities.

評価方法は下記のとおりです。

- 1) 授業への参加度
- 2) アセスメント

大学の方針としては、3分の1以上の欠席をした場合は、単位認定しないことになっている。加えて、高い出席率、積極的な受講態度が学習機会をよりよいものとするために推奨される。

- 1) Participation 60% (active in-class involvement, class work, etc)
- 2) Assessment 40% (presentations, quiz, homework, etc)

- 1) 授業への参加度 60%
- 2) アセスメント 40%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。

【履修上の心得】

全回出席を原則とする。

Instructors have their own teaching methodology and philosophy which they have determined to be in the best interests of their students. Students should take full advantage of the English environment of the class to practice understanding and using English actively. Positive attitude towards classmates, teacher, and the course will result in improved English skills and general knowledge.

教員にはそれぞれ学生にとって最善であると信じる指導法がある。学生にはこの学習機会を最大限に活用して、積極的に英語を理解し、使う練習をしてもらいたい。クラスメイト、教員、授業に積極的に関わることにより、英語力を伸ばし、知識を増やすことができる。

科目名	ドイツ語 I A
教員名	土屋 睦廣

【授業の内容】

発音の仕方から始めて、基礎的な文法事項を学ぶとともに、会話、読解の練習をします。発音を覚え、基本的な文法を修得することで、初歩的なドイツ語を理解でき、自分でも使えるようになることを目指します。さらには、ドイツとヨーロッパの社会・文化について関心と理解を深めるとともに、英語以外の外国語を学ぶことで、より広い国際的視野を身につける契機となることを望みます。

まず、発音の仕方を学びます。ドイツ語の発音の規則は比較的単純で、それさえ覚えれば、英語と違って未知の単語でも正しく発音できます。できるだけ早い時期に修得してください。発音がわからなければ、単語や文法を覚えることも難しくなります。

教科書に即して文法を学びます。ドイツ語は文法がしっかりしているので、始めは様々な変化を覚えるのに苦労するかもしれませんが、がんばってついてきてください。いったん覚えてしまえば、英語よりも上達は容易になります。折にふれ、ドイツの社会や文化などについても紹介します。

【到達目標】

ドイツ語で簡単なあいさつ、自己紹介等ができ、平易なドイツ語文を理解できるようになることを目指します。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス、ドイツ語はどんな言語か。
- 第2回 ドイツ語のアルファベット。文字と音価。
- 第3回 発音の規則。母音と基本的な子音。
- 第4回 発音の規則。組合せの規則。外来語。
- 第5回 発音の練習。
- 第6回 あいさつ表現。
- 第7回 第1課 動詞の人称変化。
- 第8回 第1課 文の構造、疑問詞。
- 第9回 第1課 対話文。
- 第10回 第1課 練習問題。
- 第11回 第2課 不規則動詞。
- 第12回 第2課 命令文。
- 第13回 第2課 対話文。
- 第14回 第2課 練習問題。
- 第15回 中間試験。
- 第16回 第3課 名詞の性・数・格。
- 第17回 第3課 定冠詞と不定冠詞の格変化。
- 第18回 第3課 対話文。
- 第19回 第3課 練習問題。
- 第20回 第4課 定冠詞類と不定冠詞類。
- 第21回 第4課 人称代名詞。
- 第22回 第4課 対話文。
- 第23回 第4課 練習問題。
- 第24回 第5課 分離動詞と非分離動詞。
- 第25回 第5課 接続詞、非人称動詞。
- 第26回 第5課 対話文。
- 第27回 第5課 練習問題。
- 第28回 数詞。
- 第29回 まとめと練習 1。
- 第30回 まとめと練習 2。

【授業の進め方】

教科書に即して、各課、文法の解説、対話文の練習、練習問題と進めていきます。例文の音読など、できれば毎時間一人ずつ発音してもらいますから、大きな声で発音するよう心がけましょう。適宜、プリントやビデオ等の教材も用います。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①『ドイツ語 1 0 0』 ②秋葉裕一ほか ③三修社 ④2012年 ⑤2300円+税 ⑥978-4-384-12253-4

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 45% 授業内小試験 45% レポート・課題 0% 受講態度 10%

特記事項

評価は試験の点数に平常点を加味します。試験は授業内の中間試験と期末の定期試験で、計2回行う予定です。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席は3分の2以上が最低条件。出席していても試験で点を取らない者には単位を与えません。

【履修上の心得】

語学の勉強は積み重ねですから、欠席や遅刻は極力しないこと。授業中は学習に集中すること。出された課題は必ずやってくる。毎時間ごとに新しいことを学ぶわけですから、学習したことは確実に身につけていくようにしましょう。疑問点やわからないことがあったら、そのまましておかず、講義中でもいいですから、質問してください。辞書は毎時間持ってきてください。積極的に授業に参加されることを期待します。

【科目のレベル、前提科目など】

ドイツ語 I B の前提となるドイツ語の基本中の基本。

科目名	ドイツ語 I A
教員名	伊藤 功

【授業の内容】

初めてドイツ語を学ぶ者を対象として発音・語彙・文法の基本を学ぶことを第一の目的とします。そしてドイツ語を通じて映画、音楽、文学や政治、経済などドイツ文化に親しむことを第二の目的とします。

【到達目標】

基礎的なドイツ語を理解し、正しく文法を活用して簡単な表現の読み書きややりとりができるようになることを目指します。

【授業計画】

- 第1回 アルファベートと発音、挨拶。学習課題：アルファベートと挨拶文例の発音を反復練習（30分）。
- 第2回 アルファベートと発音、挨拶。学習課題：アルファベートと挨拶文例の発音を反復練習（30分）。
- 第3回 第1課：動詞の現在人称変化(1)。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第4回 第1課：動詞の現在人称変化(1)。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第5回 第1課：動詞の現在人称変化(1)。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第6回 第1課：動詞の現在人称変化(1)。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く。授業後は小テストの準備（90分）。
- 第7回 第2課：冠詞・名詞の格変化、動詞habenとsein。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第8回 第2課：冠詞・名詞の格変化、動詞habenとsein。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第9回 第2課：冠詞・名詞の格変化、動詞habenとsein。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第10回 第2課：冠詞・名詞の格変化、動詞habenとsein。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く。授業後は小テストの準備（90分）。
- 第11回 第3課：動詞の現在人称変化(2)、名詞の複数形、疑問詞wer、was。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第12回 第3課：動詞の現在人称変化(2)、名詞の複数形、疑問詞wer、was。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第13回 第3課：動詞の現在人称変化(2)、名詞の複数形、疑問詞wer、was。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第14回 第3課：動詞の現在人称変化(2)、名詞の複数形、疑問詞wer、was。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く。授業後は小テストの準備（90分）。
- 第15回 第4課：定冠詞類、不定冠詞類、命令形。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第16回 第4課：定冠詞類、不定冠詞類、命令形。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第17回 第4課：定冠詞類、不定冠詞類、命令形。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第18回 第4課：定冠詞類、不定冠詞類、命令形。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く。授業後は小テストの準備（90分）。
- 第19回 第5課：前置詞、日・週・月・季節・年。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第20回 第5課：前置詞、日・週・月・季節・年。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第21回 第5課：前置詞、日・週・月・季節・年。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第22回 第5課：前置詞、日・週・月・季節・年。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く。授業後は小テストの準備（90分）。
- 第23回 第6課：人称代名詞、不定代名詞、接続詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第24回 第6課：人称代名詞、不定代名詞、接続詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第25回 第6課：人称代名詞、不定代名詞、接続詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第26回 第6課：人称代名詞、不定代名詞、接続詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く。授業後は小テストの準備（90分）。
- 第27回 第7課：話法の助動詞、未来形、知覚動詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。

- 分)。
- 第28回 第7課：話法の助動詞、未来形、知覚動詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く(60分)。
- 第29回 第7課：話法の助動詞、未来形、知覚動詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く(60分)。
- 第30回 第7課：話法の助動詞、未来形、知覚動詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く。授業後は小テストの準備(90分)。

予習段階でわからないことがあるのは当然で、わからない点をはっきりさせることにより授業でどのような点に注意を向ければよいのかを明確に意識できるようにしてください。他方、単語の意味や発音など調べればわかることは予習でしっかり確認しておいてください。

【授業の進め方】

教科書に即して授業を進めます。教科書は16課から構成されており、そのそれぞれにおいて日常的表現をキーセンテンスとして文法事項を説明したあと、いくつかの練習問題を解き、まとめに簡単な文章を読みます。そのほかドイツ映画を鑑賞するなどしてドイツ文化に触れる機会をもつようにしたいと考えています。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①新ドイツ語の泉 ②酒井明子ほか ③郁文堂 ④2005年 ⑤2,500円+税 ⑥978-4-261-01203-3

辞書も必ず購入してください。選び方については初回授業時に説明します。

【参考図書】

随時紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 30% レポート・課題 0% 受講態度 20%

特記事項

定期試験：学期末に実施し、理解度を総合的に判定します。

授業内小試験：各課終了時に小試験を実施し、その都度の理解度を判定します。

受講態度：予習として単語の発音や意味の下調べができてきているかどうか、授業内での演習に取り組んでいるかどうか、などの観点から評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業時に辞書を携行しないなど授業に参加しようとする意志が認められない場合(私語や携帯電話の操作も含む)は平常点から減点します。

【履修上の心得】

普段あまり接することのない言語なので戸惑うことも多いでしょうが、授業中は積極的に発音練習や問題演習に取り組み、授業後は教科書付録のCDを聴くなどして復習に努めてください。最初の違和感が消えればドイツ語の明晰さが実感されるようになるはずです。

【科目のレベル、前提科目など】

複数の外国語を学ぶ者は世界につながる通路を複数もつことができます。積極的に新しい言語に取り組んでください。また、この先も更に学び続ける意欲をもつ方はこの1年をかけてしっかりと基礎を固めることが目標となります。

ドイツ語初心者を対象にするので予備知識は必要ありません。ただし、説明に際しては最小限に抑えるとはいえやはり文法用語を用いるため、英文法の知識があれば理解は容易になります。

科目名	ドイツ語 I B
教員名	土屋 睦廣

【授業の内容】

ドイツ語 I A で学んだ事項を前提として、引き続き基礎的な文法事項を学ぶとともに、会話、読解の練習をします。基本的な文法を修得することで、初歩的なドイツ語を理解でき、自分でも使えるようになることを目指します。さらには、ドイツとヨーロッパの社会・文化について関心と理解を深めるとともに、英語以外の外国語を学ぶことで、より広い国際的視野を身につける契機となることを望みます。

【到達目標】

ドイツ語で簡単な日常会話ができ、平易な文章を、辞書を引きながら読めるようになることを目指します。

【授業計画】

- 第1回 ドイツ語 I A の復習。
- 第2回 第6課 前置詞。
- 第3回 第6課 前置詞。
- 第4回 第6課 対話文。
- 第5回 第6課 練習問題。
- 第6回 第7課 話法の助動詞。
- 第7回 第7課 その他の助動詞。
- 第8回 第7課 対話文。
- 第9回 第7課 練習問題。
- 第10回 第8課 形容詞の格変化。
- 第11回 第8課 比較級と最上級。
- 第12回 第8課 対話文。
- 第13回 第8課 練習問題。
- 第14回 中間試験。
- 第15回 第9課 動詞の三基本形、過去形。
- 第16回 第9課 現在完了形。
- 第17回 第9課 対話文。
- 第18回 第9課 練習問題。
- 第19回 第10課 再帰動詞。
- 第20回 第10課 zu不定詞。
- 第21回 第10課 対話文。
- 第22回 第10課 練習問題。
- 第23回 第11課 受動態。
- 第24回 第11課 対話文。
- 第25回 第11課 練習問題。
- 第26回 第12課 関係代名詞、指示代名詞。
- 第27回 第12課 対話文。
- 第28回 第12課 練習問題
- 第29回 まとめと練習 1。
- 第30回 まとめと練習 2。

【授業の進め方】

教科書に即して、各課、文法の解説、対話文の練習、練習問題と進めていきます。例文の音読など、できれば毎時間一人ずつ発音してもらいますから、大きな声で発音するよう心がけましょう。適宜、プリントやビデオ等の教材も用います。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①『ドイツ語 1 0 0』 ②秋葉裕一ほか ③三修社 ④2012年 ⑤2300円+税 ⑥978-4-384-12253-4

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 45% 授業内小試験 45% レポート・課題 0% 受講態度 10%

特記事項

評価は試験の点数に平常点を加味します。試験は授業内の中間試験と期末の定期試験で、計2回行う予定です。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席は3分の2以上が最低条件。出席していても試験で点を取らない者には単位を与えません。

【履修上の心得】

語学の勉強は積み重ねですから、欠席や遅刻は極力しないこと。授業中は学習に集中すること。出された課題は必ずやってくること。毎時間ごとに新しいことを学ぶわけですから、学習したことは確実に身につけていくようにしましょう。疑問点やわからないことがあったら、そのまましておかず、講義中でもいいですから、質問してください。辞書は毎時間持ってきてください。積極的に授業に参加されることを期待します。

【科目のレベル、前提科目など】

ドイツ語初級レベル。

科目名	ドイツ語 I B
教員名	伊藤 功

【授業の内容】

初めてドイツ語を学ぶ者を対象として発音・語彙・文法の基本を学ぶことを第一の目的とします。そしてドイツ語を通じて映画、音楽、文学や政治、経済などドイツ文化に親しむことを第二の目的とします。

【到達目標】

基礎的なドイツ語を理解し、正しく文法を活用して簡単な表現の読み書きややりとりができるようになることを目指します。

【授業計画】

- 第1回 第8課：分離動詞、非分離動詞、esの用法、時刻。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第2回 第8課：分離動詞、非分離動詞、esの用法、時刻。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第3回 第8課：分離動詞、非分離動詞、esの用法、時刻。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第4回 第8課：分離動詞、非分離動詞、esの用法、時刻。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く。授業後は小テストの準備（90分）。
- 第5回 第9課：動詞の3基本形、完了形。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第6回 第9課：動詞の3基本形、完了形。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第7回 第9課：動詞の3基本形、完了形。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第8回 第9課：動詞の3基本形、完了形。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く。授業後は小テストの準備（90分）。
- 第9回 第10課：過去形、再帰動詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第10回 第10課：過去形、再帰動詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第11回 第10課：過去形、再帰動詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第12回 第10課：過去形、再帰動詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く。授業後は小テストの準備（90分）。
- 第13回 第11課：形容詞の各語尾、序数。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第14回 第11課：形容詞の各語尾、序数。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第15回 第11課：形容詞の各語尾、序数。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第16回 第11課：形容詞の各語尾、序数。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く。授業後は小テストの準備（90分）。
- 第17回 第12課：比較表現。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第18回 第12課：比較表現。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第19回 第12課：比較表現。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第20回 第12課：比較表現。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く。授業後は小テストの準備（90分）。
- 第21回 第13課：定関係代名詞、不定関係代名詞、指示代名詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第22回 第13課：定関係代名詞、不定関係代名詞、指示代名詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第23回 第13課：定関係代名詞、不定関係代名詞、指示代名詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第24回 第13課：定関係代名詞、不定関係代名詞、指示代名詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く。授業後は小テストの準備（90分）。
- 第25回 第14課：zu不定形、分詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第26回 第14課：zu不定形、分詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第27回 第14課：zu不定形、分詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く。授業後は小テストの準備（90分）。
- 第28回 第15課：受動態。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第29回 第15課：受動態。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第30回 第15課：受動態。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く。授業後は小テストの準備（90分）。

予習段階でわからないことがあるのは当然で、わからない点をはっきりさせることにより授業でどのような点に注意を向ければよいのかを明確に意識できるようにしてください。他方、単語の意味や発音など調べればわかることは予習でしっかり確認しておいてください。

【授業の進め方】

教科書に即して授業を進める。それぞれの課において日常的表現をキーセンテンスとして文法事項を説明したあと、いくつかの練習問題を解き、まとめに簡単な文章を読む。そのほかドイツ映画を鑑賞するなどしてドイツ文化に触れる機会をもつようにしたい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①新ドイツ語の泉 ②酒井明子ほか ③郁文堂 ④2005年 ⑤2,500円＋税 ⑥978-4-261-01203-3

辞書も必ず購入してください。選び方については初回授業時に説明します。

【参考図書】

随時紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 30% レポート・課題 0% 受講態度 20%

特記事項

定期試験：学期末に実施し、理解度を総合的に判定します。

授業内小試験：各課終了時に小試験を実施し、その都度の理解度を判定します。

受講態度：予習として単語の発音や意味の下調べができているかどうか、授業内での演習に取り組んでいるかどうか、などの観点から評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業時に辞書を携行しないなど授業に参加しようとする意志が認められない場合（私語や携帯電話の操作も含む）は平常点から減点します。

【履修上の心得】

普段あまり接することのない言語なので戸惑うことも多いでしょうが、授業中は積極的に発音練習や問題演習に取り組み、授業後は教科書付録のCDを聴くなどして復習に努めてください。最初の違和感が消えればドイツ語の明晰さが実感されるようになるはずです。

【科目のレベル、前提科目など】

複数の外国語を学ぶ者は世界につながる通路を複数もてる。積極的に新しい言語に取り組んでほしい。また、この先も更に学び続ける意欲をもつ者はこの1年をかけてしっかりと基礎を固めることが目標となる。

ドイツ語初心者を対象にするので予備知識は必要ない。ただし、説明に際しては最小限に抑えるとはいえやはり文法用語を用いるため、英文法の知識があれば理解は容易になる。

【備 考】

複数の外国語を学ぶ者は世界につながる通路を複数もつことができます。積極的に新しい言語に取り組んでください。また、この先も更に学び続ける意欲をもつ方はこの1年をかけてしっかりと基礎を固めることが目標となります。

ドイツ語初心者を対象にするので予備知識は必要ありません。ただし、説明に際しては最小限に抑えるとはいえやはり文法用語を用いるため、英文法の知識があれば理解は容易になります。

科目名	フランス語 I A
教員名	Clemens Amann

【授業の内容】

Bonjourという挨拶の言葉から出発して、この授業でフランス語の基礎を勉強します。話す、読む、聞く、書く、という外国語の4つの能力を養う。それと同時にフランスの日常生活への知識を深める。フランス語を通してフランス人の日常生活、フランスのことを紹介する。語彙と単語、文法項目を最低限に絞り、簡単な会話あるいは短い文章をもとにして、発音から簡単な文型までフランス語を身につけられるように勉強する。フランス語の発音は難しいという人が少なくないが最初から文字と音の関係に注意し、聞き取りで音を区別できるようにすることを心掛ければ、フランス語は分かりやすくなる。

【到達目標】

自己紹介、自分の家族／友だちを紹介する、自分自身の一日、人の外見、時間、天気などを述べる、フランスについて、また自国のことについても話す、さまざまなテーマに触れながら基本的なフランス語を使う。文法は語学に必要なが、文法のためにフランス語を勉強するわけではない。言いたいことをフランス語で述べる、フランス語で聴くことを聞き取れるということに、この授業は重点をおいている。

【授業計画】

前期

- 第1回 挨拶、自己紹介
- 第2回 挨拶、決まり文句、日本語になったフランス語
- 第3回 第一課：ジュースを一つください。注文する
- 第4回 第一課
- 第5回 第一課
- 第6回 第二課：私の名前は Mika。自己紹介、国籍を言う
- 第7回 第二課
- 第8回 第二課
- 第9回 第二課
- 第10回 第一番目のテスト
- 第11回 第三課：彼女は女優です。身分を言う
- 第12回 第三課
- 第13回 第三課
- 第14回 第三課
- 第15回 第四課：お荷物ありますか？タクシーにて
- 第16回 第四課
- 第17回 第四課
- 第18回 第四課
- 第19回 第二番目のテスト
- 第20回 第五課：ホテルにチェックイン。部屋を予約する
- 第21回 第五課
- 第22回 第五課
- 第23回 第五課
- 第24回 第六課：絵画が好きです。好き嫌いを言う
- 第25回 第六課
- 第26回 第六課
- 第27回 第六課
- 第28回 読み物：パリのマラソン
- 第29回 第三番目のテスト
- 第30回 前期の最終授業

定期試験は実施しない。

【授業の進め方】

- すでに学んだ語彙と単語の復習
- 会話や本文のプレゼンテーション：発音、単語と文型、日本語とフランス語の比較
- 理解したかどうかを確認する
- 会話中や本文中に出てきた単語と文型に関する練習問題
- その日学習したフランス語を応用する

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①フランス語でサバイバル! ②内村瑠美子(他) ③百水社 ④2007/03/01 ⑤2,000円+税 ⑥9784560060902

教科書: Debrouillons-nous! フランス語でサバイバル! 内村瑠美子(他) 百水社、CD付き、2000円
辞書: パスポート初級仏和辞典(第3版)《シングルCD付》内藤 陽哉(他) 百水社、2730円

購入方法: Books ナカジマ

【参考図書】

パスポート初級仏和辞典(第3版)《シングルCD付》内藤 陽哉(他) 百水社、2730円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 60% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

授業内試験: 二課ごとにテストを実施: 前期3回、後期3回

授業中の努力

二課ごとにテストを実施: 前期3回、後期3回: 60%

授業中の努力: 40%

【履修上の心得】

授業態度重視。遅刻厳禁。

授業に積極的に参加することによって、外国語に興味を持つようになり、退屈せずに楽しく勉強できる。
クラスの授業態度によっては名簿順の固定座席にする、または私語の多い学生を固定座席にすることもある。
学生は各自が必ず自分のノートを作成すること。そのノートはテストのとき持ち込み可。

【科目のレベル、前提科目など】

フランス語 II, III

フランス語への入門。語彙と単語、文法項目は全国で実施される仏語検定試験5級程度である。受験を希望する学生にアドバイスをし、試験準備を手伝う。

科目名	フランス語 I A
	フランス語を学んで世界をひろげよう
教員名	羽生 敦子・平賀 裕貴

【授業の内容】

フランス語1Aは、テキスト『新装 カフェ・フランセ Cafe Francais nouveau』に従い、フランス語のアルファベから学習する

- ①基本動詞の現在形
- ②名詞について
- ③冠詞について
- ④形容詞について
- ⑤数字（フランス語の数字は10進法ではありません！）
- ⑥フランス文化について
- ⑦簡単なあいさつ文
- ⑧疑問文

以上を中心にフランス語の基礎を学びます。

【到達目標】

初級フランス語の文章の読み書きができるようになる。
フランス語の辞書を使いこなせるようにする。
フランス語検定5級レベルに到達することを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 Lecon 0
フランス語の学習の仕方
- 第2回 Lecon 1
自己紹介
復習：自己紹介文を暗記する（20分）
- 第3回 Lecon 1
アルファベ、etre動詞
復習：アルファベットを覚える（20分）
etre動詞の活用を覚える（15分）
- 第4回 Lecon 1
あいさつ、数字0～20
復習：数字を暗記する（20分）
- 第5回 Lecon 2
職業名について
etre動詞を使った応用
復習：学習した名詞をノートに書き写す（20分）
- 第6回 Lecon 2
第一規則群動詞： er動詞の活用と練習
復習：動詞の活用を暗記する（20分）
- 第7回 Lecon 2
数字21～30の学習を中心に
復習：数字を暗記する（20分）
- 第8回 Lecon 3
名詞について：男性名詞と女性名詞
復習：学習した名詞をノートに写す（20分）
- 第9回 Lecon 3
冠詞について：不定冠詞un, une, des
復習：冠詞の練習問題を行う（H.W）（20分）
- 第10回 Lecon 3
否定文について ne 動詞 pas
復習：否定文の練習問題を行う（H.W）（20分） 次回の小テストのための復習をすること
- 第11回 小テスト
復習：小テストでできなかった内容を復習する（20分）
- 第12回 フランス映画をみよう
DVD鑑賞
復習：H.Wを準備するので、それを必ず行うこと（20分）

- 第13回 フランス映画をみよう
DVD鑑賞
リアクションペーパーを提出
予習：lecon4の本文を必ずノートに書き写すこと (20分)
- 第14回 Lecon 4
動詞avoirとその応用
復習：動詞の活用を暗記すること (20分)
- 第15回 Lecon 4
否定文における不定冠詞の変化
直接目的語について
復習：H.Wを準備するので、かならず完成させること (20分)
- 第16回 Lecon 4
疑問文
復習：疑問文を3つ作成すること (例文は授業中に示す) (20分)
- 第17回 Lecon 5
所有形容詞
復習：フランス語の所有形容詞は英語に比べ多いので、しくみを理解すること、そして暗記すること (20分)
- 第18回 Lecon 5
疑問詞(1) qui, ou, commentなど
復習：教科書を見ながらかならず、学習した疑問詞について再確認すること (20分)
- 第19回 Lecon 5
国名：男性名詞の国、女性名詞の国、複数形扱いの国について
復習：国の名前をノートに書き出し、覚えること (20分)
- 第20回 Lecon 6
冠詞について：定冠詞 le, la, les
復習：教科書の練習問題を用いて、定冠詞の再確認すること (20分)
- 第21回 Lecon 6 疑問文
Qu'est-ce que c'est?
それはなんですか?
復習：教科書のDialogueを音読すること (15分)
- 第22回 数字について
復習：数字の問題を出すので、フランス語で言えるようにすること (20分)
次回の小テストのための復習をすること (40分)
- 第23回 小テスト
予習：lecon 7のDialogueを写し、知らない単語を調べておくこと (30分)
- 第24回 Lecon 7
形容詞について
形容詞の役割を復習したのち、形容詞の男性形、女性形などについて学ぶ
復習：練習問題を配布するので、かならず復習すること (20分)
- 第25回 Lecon 7
代名詞について
復習：代名詞について暗記すること (20分)
- 第26回 Lecon 7
構文 il y a
～があります
復習：il y aを使って文章を作る (日本文は、授業中に提示) (20分)
- 第27回 Lecon 8
比較級について
復習：比較級について、教科書を見ながら再確認し理解を深めること (20分)
- 第28回 lecon 8
指示形容詞 ce(cet), cette, ces、人称代名詞 (関節目的補語～に) について
* 目的語 (直接、間接) の確認
復習：この目的語は、複雑なので、かならず再確認すること (30分)
- 第29回 lecon 8
非人称構文 (天気など) について
復習：構文をノートに書き写すこと (20分)
- 第30回 これまで学習した文法事項に関する復習
復習：練習問題を配布するので、かならず復習すること (30分)

各レッスン (lecon) に対し3回を予定していますが、習熟度により加減することもあります。
全員が同じレベル、つまりゼロからのスタートです。新しい気持ちで語学学習を始めましょう。
復習が重要です。

【授業の進め方】

- ①出席の確認
- ②前回の授業内容の確認
- ③当日の授業の説明：プリントがある場合は配布する
- ④授業内容に関する質問の有無の確認
- ⑤授業の最後にプリント回収することもある

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①新装カフェ・フランセ ②ニコラ・ガイヤール、加藤豊子ほか ③朝日出版社 ④2016年1月15日 ⑤2400円+税
⑥978-255-35262-6C1085
- ①辞書 ロワイヤル・ポッシュ ③旺文社 ④2008年3月18日 ⑤2592円(税込) ⑥9784010753071

辞書は必ず準備してください (スマートフォンのアプリは認めません)

推奨：★★★ロワイヤル・ポッシュ 旺文社 (仏和・和仏が一緒に、小型で便利だと思います)

プチ・ロワイヤル仏和辞書 旺文社

クラウン仏和辞書 三省堂

プログレッシブ仏和辞典 小学館 など

電子辞書でも可だが、フランス語学習のための辞書が入っているもの

例)

セイコーSR-V5020

カシオXD-B7200

【参考図書】

雑誌『フランス』白水社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 30% 授業内小試験 20% レポート・課題 0% 受講態度 50%

特記事項

授業内小テスト2回+定期試験

課題の提出

【「成績評価の方法」に関する注意点】

平常点 (授業態度)、小テスト、定期テストを総合して評価する

【履修上の心得】

1. 準備学習、例えば単語の意味調べをしていることが好ましい。
2. 大声による私語や携帯ゲームなど授業妨害行為は、他の学習者にとり甚だ迷惑であり絶対に行わないこと。
3. わからない時は、質問すること。質問することは恥ずかしいことではありません。
4. 辞書を携帯すること (スマートホンのアプリは禁止します→授業中のスマホ使用は禁止します)。

科目名	フランス語 I B
教員名	Clemens Amann

【授業の内容】

Bonjourという挨拶の言葉から出発して、この授業でフランス語の基礎を勉強します。話す、読む、聞く、書く、という外国語の4つの能力を養う。それと同時にフランスの日常生活への知識を深める。フランス語を通してフランス人の日常生活、フランスのことを紹介する。語彙と単語、文法項目を最低限に絞り、簡単な会話あるいは短い文章をもとにして、発音から簡単な文型までフランス語を身につけられるように勉強する。フランス語の発音は難しいという人が少なくないが最初から文字と音の関係に注意し、聞き取りで音を区別できるようにすることを心掛ければ、フランス語は分かりやすくなる。

【到達目標】

自己紹介、自分の家族／友だちを紹介する、自分自身の一日、人の外見、時間、天気などを述べる、フランスについて、また自国のことについても話す、さまざまなテーマに触れながら基本的なフランス語を使う。文法は語学に必要なが、文法のためにフランス語を勉強するわけではない。言いたいことをフランス語で述べる、フランス語で聴くことを聞き取れるということに、この授業は重点をおいている。

【授業計画】

後期

- 第1回 第七課：銀行はどこですか？道を尋ねる
- 第2回 第七課
- 第3回 第七課
- 第4回 読み物：自転車でパリを回る
- 第5回 第八課：ショッピングに行かない？食べ物の量、許可を頼む
- 第6回 第八課
- 第7回 第八課
- 第8回 第八課
- 第9回 読み物：フランスの料理
- 第10回 第一番目のテスト
- 第11回 第九課：次の列車は何時に？時間、時刻表
- 第12回 第九課
- 第13回 第九課
- 第14回 第九課
- 第15回 一週間のスケジュール
- 第16回 第十課：パリの観光船、天気の実現
- 第17回 第十課
- 第18回 第十課
- 第19回 第二番目のテスト
- 第20回 第十一課：テニスの方が好きです。比較する
- 第21回 第十一課
- 第22回 第十一課
- 第23回 クイズ：フランス、日本
- 第24回 第十二課：このズボン、気に入った。買い物
- 第25回 第十一課
- 第26回 第十一課
- 第27回 第十一課
- 第28回 読み物：デパートで
- 第29回 第三番目のテスト
- 第30回 前期の最終授業

定期試験は実施しない。

【授業の進め方】

- すでに学んだ語彙と単語の復習
- 会話や本文のプレゼンテーション：発音、単語と文型、日本語とフランス語の比較
- 理解したかどうかを確認する
- 会話中や本文中に出てきた単語と文型に関する練習問題
- その日学習したフランス語を応用する

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①フランス語でサバイバル! ②内村瑠美子(他) ③百水社 ④2007/03/01 ⑤2,000円+税 ⑥9784560060902

教科書: Debrouillons-nous! フランス語でサバイバル! 内村瑠美子(他) 百水社、CD付き、2000円
辞書: パスポート初級仏和辞典(第3版)《シングルCD付》内藤 陽哉(他) 百水社、2730円

購入方法: Books ナカジマ

【参考図書】

パスポート初級仏和辞典(第3版)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 60% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

授業内試験: 二課ごとにテストを実施: 前期3回、後期3回

授業中の努力

【履修上の心得】

授業態度重視。遅刻厳禁。

授業に積極的に参加することによって、外国語に興味を持つようになり、退屈せずに楽しく勉強できる。
クラスの授業態度によっては名簿順の固定座席にする、または私語の多い学生を固定座席にすることもある。
学生は各自が必ず自分のノートを作成すること。そのノートはテストのとき持ち込み可。

【科目のレベル、前提科目など】

フランス語 II, III

フランス語への入門。語彙と単語、文法項目は全国で実施される仏語検定試験5級程度である。受験を希望する学生にアドバイスをし、試験準備を手伝う。

科目名	フランス語 I B
	フランス語を学んで世界を広げよう。
教員名	羽生 敦子・平賀 裕貴

【授業の内容】

- ①不規則動詞の学習（現在形、過去形：複合過去と半過去）
- ②代名動詞の学習
- ③動詞の過去形（複合過去・半過去）の学習
- ④人称代名詞（中性代名詞も含む）を中心に学習
- ⑤フランス文化の授業の回はフランス映画や音楽などを鑑賞予定

【到達目標】

初級フランス語の文章の読み書きができるようになる。
辞書を使いながら、簡単な現在形、過去形の文章を作れるようにする。
フランス語検定5級レベルできれば4級レベルに到達することを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 フランス語 I Aの復習
復習：授業中に練習問題を配布するので、かならず復習すること（40分）
lecon 9のDialogueを書き写すこと（15分）
- 第2回 lecon 9
部分冠詞 du, de la, de l'について
復習：教科書の練習問題で、部分冠詞について復習すること（20分）
- 第3回 Lecon 9
中性代名詞、動詞 prendre, faire
復習：不規則動詞 prendre, faireの活用をノートに書き、暗記すること（30分）
- 第4回 Lecon 9
否定疑問文
復習：prendre, faire動詞の再確認をすること、それぞれの動詞を使って文章をつくること（30分）
- 第5回 Lecon 10
動詞 aller, venir, mettre, vouloir
復習：それぞれの動詞の活用表を完成させること、まずはallerとvenirの活用を暗記すること（30分）
- 第6回 Lecon 10
疑問詞（2） combien
復習：mettre, vouloirの動詞を暗記すること（20分）
- 第7回 Lecon 10
名詞：月、曜日について
復習：月、曜日をノートに書き出し、暗記すること（30分）
次回の小テストの復習をすること（30分）
- 第8回 小テスト
復習：間違ったところを復習すること
lecon 11のDialogueを書き写すこと（30分）
- 第9回 Lecon 11
非人称構文（時間など）→数字の復習を含む
復習：時間をフランス語で言えるようにしよう。まずはノートに書いてみよう（30分）
- 第10回 Lecon 11
代名動詞：再帰的用法 se lever, se coucher などを中心に
復習：代名動詞は難しい文法事項なので、よく復習すること（30分）
- 第11回 lecon 11
代名動詞：受動的用法、本質的用法、相互的用法について
復習：授業中に練習問題を配布するのでそれを使用し、再確認すること（30分）
- 第12回 DVD鑑賞
復習：H.Wを配布します（20分）
- 第13回 DVD鑑賞
リアクションペーパーを提出
予習：lecon 12のDialogueを書き写すこと（20分）、単語を調べること
- 第14回 Lecon 12
目的語人称代名詞：
直接、間接目的語の確認
復習：練習問題を配布します、かならず完成させること（30分）
- 第15回 Lecon 12

- 疑問詞（3） pourquoi, quand
復習：疑問詞をきちんと書けるようにすること（20分）
- 第16回 Lecon 12
動詞 connaitre, voir
復習：動詞の活用表を完成させよう。活用を暗記しよう（30分）
- 第17回 目的語人称代名詞の復習
復習：練習問題を配布します（30分）
- 第18回 lecon 13
複合過去について
復習：教科書の練習問題で復習しよう。avoir動詞とetre動詞の活用の再確認＋過去分詞の学習（30分）
- 第19回 Lecon 13
複合過去について
復習：練習問題を配布します。（30分）
- 第20回 Lecon 13
半過去について
復習：教科書の練習問題で再確認すること（30分）
- 第21回 Lecon 13
半過去について
復習：練習問題を配布します（30分）
小テストのための復習をすること（30分）
- 第22回 小テスト
予習：Lecon14のDialogueを書き写すこと
- 第23回 Lecon 14
複合過去と半過去の使い分けができるかどうかの確認
復習：練習問題を配布します（30分）
- 第24回 lecon 14
複合過去と半過去の応用
復習：授業中の練習問題を使って復習すること（30分）
- 第25回 lecon 14
フランス文化について(1)
予習：フランスに関する記事をさがすこと
- 第26回 Lecon 14
フランス文化について(2)
予習：lecon 15のdialogueを書き写すこと（20分）
- 第27回 Lecon 15
命令法について
復習：tu, nous, vousの動詞活用を再確認すること（20分）
- 第28回 Lecon 15
近接未来、近接過去
復習：aller, venirの活用の再確認すること（30分）
- 第29回 lecon 15
形容詞について
復習：教科書の練習問題で形容詞について再確認すること（20分）
- 第30回 まとめ：学習した時制の再確認を中心に
復習：複合過去、半過去を中心に過去形の復習をすること（50分）

各レッスン（lecon:ルッソン）、には4回から5回の授業を予定していますが、習熟度を考慮して進める予定です。特に、フランス語独特の動詞の使い方（代名動詞など）は、じっくり学習する必要があると予想されます。必ず復習してください。

【授業の進め方】

- ①出席の確認
- ②前回の授業内容の確認
- ③当日の授業の説明：プリントがある場合は配布する
- ④授業内容に関する質問の有無の確認
- ⑤授業の最後にプリント回収することもある

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①新装 カフェ・フランセ ②ニコラ・ガイヤール、加藤豊子ほか ③朝日出版社 ④2016年1月15日 ⑤2400円＋税
⑥978-4-255-35262-6 C1085
- ①辞書 ロワイヤル・ボッシュ ③旺文社 ④2008年3月18日 ⑤2592円（税込） ⑥9784010753071

辞書は必ず準備してください（スマートフォンのアプリケーションは認めません）

推奨：ロワイヤル・ポッシュ 旺文社

プチ・ロワイヤル仏和辞書 旺文社

クラウン仏和辞書 三省堂

プログレッシブ仏和辞典 小学館 など

電子辞書でも可だが、フランス語学習のための辞書が入っているもの
例)

セイコーSR-V5020

カシオXD-B7200

【参考図書】

雑誌『ふらんす』白水社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 30% 授業内小試験 20% レポート・課題 0% 受講態度 50%

特記事項

授業内小テスト2回+定期テスト（合計3回）

課題の提出（場合に応じて）

【「成績評価の方法」に関する注意点】

平常点、小テスト、定期テストを総合して評価する

【履修上の心得】

1. 準備学習、例えば単語の意味調べをしていることが好ましい
2. 大声による私語や携帯ゲームなど授業妨害行為は、他の学習者にとり甚だ迷惑であり絶対に行わないこと
3. わからない時は、質問すること。質問することは恥ずかしいことではありません
4. 辞書を携帯すること。（スマートフォンのアプリは認めません→授業中のスマホ使用は禁止します）

【科目のレベル、前提科目など】

フランス語 I Aをすでに終了していること

【備 考】

フランス語1Bを受講する前に必ず、etre動詞、avoir動詞、er動詞くらは復習してください。

科目名	スペイン語 I A
教員名	高橋 節子

【授業の内容】

スペイン語入門（前半）（初めてスペイン語を学ぶ人向けの授業）

【到達目標】

- ①スペイン語が正しく発音できるようになること。
- ②スペイン語文法の初歩を学ぶこと（基本的な動詞の活用）
- ③単語を150語前後覚えること。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション、歌、ビデオ（復習：30分）
- 第2回 テキスト1課、歌、ビデオ（復習：30分）
- 第3回 テキスト1課、歌、ビデオ（西作文の宿題：30分）
- 第4回 テキスト2課、歌、ビデオ（復習：30分）
- 第5回 テキスト2課、歌、ビデオ（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第6回 テキスト3課、歌、ビデオ（復習：30分）
- 第7回 テキスト3課、歌、ビデオ（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第8回 テキスト4課（復習：30分）
- 第9回 授業内テスト1回目、テキスト4課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第10回 テキスト5課（復習：30分）
- 第11回 テキスト5課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第12回 テキスト6課（復習：30分）
- 第13回 テキスト6課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第14回 テキスト7課（復習：30分）
- 第15回 授業内テスト2回目、テキスト7課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第16回 テキスト8課（復習：30分）
- 第17回 テキスト8課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第18回 テキスト9課（復習：30分）
- 第19回 テキスト9課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第20回 テキスト10課（復習：30分）
- 第21回 授業内テスト3回目、テキスト10課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第22回 テキスト11課（復習：30分）
- 第23回 テキスト11課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第24回 テキスト12課（復習：30分）
- 第25回 テキスト12課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第26回 テキスト13課（復習：30分）
- 第27回 授業内テスト4回目、テキスト13課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第28回 テキスト14課（復習：30分）
- 第29回 テキスト14課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第30回 復習、授業内試験5回目

上記授業計画はだいたいの目安で、必ずしもこの通りに進む訳ではありません。あなた方の理解度に従って、多少遅くなったり、早くなったりします。それによって、授業内試験の回数が4回になる場合もあり得ます。

【授業の進め方】

- ①出席及び復習を兼ねた小テスト
- ②文法のポイントの説明
- ③単語の発音と意味
- ④例文の提示
- ⑤プリントの練習問題
- ⑥西作文（スペイン語の作文）を黒板に書き検討する。
- ⑦宿題の検討
- ⑧時間があれば、ビデオを見たり、歌を聞いたりする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリントを使用します。プリントはきちんとまとめておくように各自工夫してください。

【参考図書】

辞書は授業開始後に紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 80% レポート・課題 10% 受講態度 10%

特記事項

1. 前提条件
 - ・良好な授業態度
 - ・良好な出席状況
2. 単元テストを4～5回実施します。平均6割以上が合格ラインです。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

3課進むごとに授業内試験を実施します。定期試験は実施しません。

【履修上の心得】

ここ数年、私語が目立ちます。私語は、他の学生が良好な授業環境で授業を受ける権利を侵害する行為です。悪質な場合には単位を認定しません。

授業は全部出席するのが当たり前です。数回欠席するとすぐに分からなくなってしまうので、注意して下さい。

【科目のレベル、前提科目など】

英語の基礎を理解していることが前提条件です。

科目名	スペイン語 I B
教員名	高橋 節子

【授業の内容】

スペイン語入門(後半)

【到達目標】

- ①スペイン語が正しく発音できるようになること。
- ②スペイン語文法の初歩を学ぶこと（不規則動詞、命令、再帰動詞、等）
- ③単語を150語程度覚えること。

【授業計画】

- 第1回 前期の復習（復習：30分）
- 第2回 テキスト15課（復習：30分）
- 第3回 テキスト15課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第4回 テキスト16課（復習：30分）
- 第5回 テキスト16課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第6回 テキスト17課（復習：30分）
- 第7回 授業内テスト1回目、テキスト17課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第8回 テキスト18課（復習：30分）
- 第9回 テキスト18課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第10回 テキスト19課（復習：30分）
- 第11回 テキスト19課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第12回 テキスト20課（復習：30分）
- 第13回 授業内テスト2回目、テキスト20課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第14回 テキスト21課（復習：30分）
- 第15回 テキスト21課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第16回 テキスト22課（復習：30分）
- 第17回 テキスト22課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第18回 テキスト23課（復習：30分）
- 第19回 テキスト23課（西作文の宿題：30分 1時間）
- 第20回 授業内テスト3回目、テキスト24課（復習：30分）
- 第21回 テキスト24課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第22回 テキスト25課（復習：30分）
- 第23回 テキスト25課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第24回 テキスト26課（復習：30分）
- 第25回 テキスト26課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第26回 授業内テスト4回目、テキスト27課（復習：30分）
- 第27回 テキスト27課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第28回 テキスト28課（復習：30分）
- 第29回 テキスト28課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第30回 授業内テスト5回目、1年間の復習

上記の授業計画は、だいたい目安で、必ずしもこの通りに進む訳ではありません。あなた方の理解度に従って、多少遅くなったり、早くなったりします。授業内試験の回数が4回になることもあります。

【授業の進め方】

- ①出席及び復習を兼ねた小テスト
- ②文法のポイントの説明
- ③単語の発音と意味
- ④例文の提示
- ⑤プリントの練習問題
- ⑥西作文（スペイン語の作文）を黒板に書き検討する。
- ⑦宿題の検討
- ⑧時間があれば、ビデオを見たり、歌を聞く。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリントを使用します。プリントはきちんとまとめておくように各自工夫してください。

【参考図書】

辞書は授業内で紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 80% レポート・課題 10% 受講態度 10%

特記事項

1. 前提条件
 - ・良好な授業態度。
 - ・良好な出席状況。
2. 授業内試験を4～5回実施します。平均6割以上が合格ラインです。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

3 課進むごとに授業内試験を1回実施します。

【履修上の心得】

ここ数年、私語が目立ちます。私語は、他の学生が良好な授業環境で授業を受ける権利を侵害する行為です。悪質な場合には単位を認定しません。

授業は全部出席するのが当たり前です。数回欠席するとすぐに分からなくなってしまいますので、注意して下さい。

【科目のレベル、前提科目など】

スペイン語 I Aが前提科目です。

科目名	中国語 I A
教員名	劉 建雲

【授業の内容】

中国語初修者を対象とする。標準語の発音・語彙・文法を学び、初歩的なコミュニケーション能力の育成を図る。中国語 I Aでは、発音の基礎を固め、基本的な文型・文法に沿った簡単な会話の練習をさせながら、中国語の特徴に基づいた有効な学習法を指導し、学習内容に関連して中国人の思考様式・生活習慣などを紹介する。

【到達目標】

1. 文字と発音の基本を理解する。
2. 基礎語彙・基礎文法事項に習熟する。
3. 初歩的な中国語でコミュニケーションをすることができる。

【授業計画】

第1回 ガイダンス:授業のやり方・評価基準を説明し、中国語を概説する。

第2回 声調・単母音・特殊母音

第3回 子音その1

第4回 子音その2

第5回 複合母音

第6回 鼻母音

第7回 変調、r 化

第8回 発音内容のまとめと習熟度の確認

第9回 これは何ですか

文法:「是」の構文と指示代名詞

第10回 あなたのお名前は

文法:「叫」と「姓」の使い分け、人称代名詞

第11回 自己紹介その1

文法:副詞「也」と「都」、基本語順

第12回 あなたはどこへ行きますか

文法:疑問詞疑問文と省略疑問文

第13回 お家はどこにありますか

文法:動詞「在」、「的」の用法その1

第14回 部屋に何がありますか

文法:動詞「有」

第15回 あなたの家は何人家族ですか

文法:助数詞

第16回 自己紹介その2

文法:方位詞

第17回 あなたは毎日朝何時に起きますか

文法:年月日、曜日、時刻の言い方

第18回 お父さんはどこで仕事をしていますか

文法:前置詞「在」と状語

第19回 富士山は高いですか

文法:形容詞述語文

第20回 京都の夏は気候がどうですか

文法:主述述語文と反復疑問文

第21回 大学の紹介

文法:前置詞「離」など

第22回 あなたは香港の人ですか、それとも台湾の人ですか

文法:選択疑問文と連動文

第23回 あなたの好きな歌手は誰ですか

文法:助動詞「想」・「打算」・「要」

第24回 長城はどれぐらいの長さですか

文法:「多」+形容詞、動態助詞「了」

第25回 あなたはよく友達に電話をしますか

文法:動詞の「給」と前置詞の「給」

第26回 毎日勉強が忙しいです

文法:時量補語

第27回 あなたはご飯を食べましたか

文法:語気助詞「了」

第28回 あなたは今年おいくつですか

文法:年齢の聞き方と比較の表現

第29回 前期の学習内容の復習とテスト①

第30回 前期の学習内容の復習とテスト②

1. 毎回授業の最後に小テストを実施する。
2. 中国語の学習は暗記・暗誦が必須である。

【授業の進め方】

1. 基本的にシラバスに沿って進めていくが、みなさんの習熟度により進度を調整する場合もある。
2. 教科書各課の発音・語彙・文法を学習し、本文に基づいた会話や文章の繰り返し練習を通じて学習内容の強化を図る。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①ちょっとまじめに中国語 ②日下恒夫・史彤嵐 ③同学社 ④2013年 ⑤2400円 ⑥978-4-8120-0192-5

授業に出る前にならずブックス中島から教科書を購入しておいてください。

【参考図書】

1. 授業の進行に合わせてプリントを配布する。
2. 辞書は授業中に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 70% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

授業内試験をもとにして、出席状況と受講態度と合わせて総合的に評価する。

【履修上の心得】

1. 授業に遅刻なし出席すること。
2. 授業中に指示された予習と復習をしていくこと。

【科目のレベル、前提科目など】

中国語学習の初級課程

科目名	中国語 I A
教員名	陳 順和

【授業の内容】

初めて中国語を勉強する学生を対象とする内容（初級の発音と文法）

【到達目標】

1. 中国語を正確に発音できるようになる。
2. 中国に旅行したときに困らない程度の会話の習得ができるようになる。
3. 中国の文化・政治・社会・生活習慣・風俗等の中国人の生き方、考え方などの体得ができるようになる。

【授業計画】

第1回	中国語発音と中国語表現の特徴を解説。年間学習計画を説明、中国についての話をする。
第2回	母音発音練習 文法：「私は大学生です」の表現
第3回	母音発音練習 文法：「私は大学生です」の表現
第4回	複合母音発音練習 文法：疑問文「彼は大学生ですか」の表現
第5回	複合母音発音練習 文法：疑問文「彼は大学生ですか」の表現
第6回	複合母音発音練習 文法：疑問文「誰」と「どこ」について
第7回	複合母音発音練習 文法：疑問文「誰」と「どこ」について
第8回	子音発音練習 文法：疑問文「時刻」と「時間」について
第9回	子音発音練習 文法：疑問文「時刻」と「時間」について
第10回	四声発音練習 文法：疑問文「数量」と「程度」について
第11回	四声発音練習 文法：疑問文「数量」と「程度」について
第12回	貴方のお名前は 文法：疑問文「何ですか」と「原因・方法」について
第13回	貴方のお名前は 文法：疑問文「何ですか」と「原因・方法」について
第14回	貴方は誰ですか 文法：疑問文「どう思いますか」と「状態」について
第15回	貴方は誰ですか 文法：疑問文「どう思いますか」と「状態」について
第16回	貴方は毎日どうやって学校に来ますか 文法：主語＋副詞＋動詞
第17回	貴方は毎日どうやって学校に来ますか 文法：主語＋副詞＋動詞
第18回	私は疲れました 文法：主語＋動詞＋目的語
第19回	私は疲れました 文法：主語＋動詞＋目的語
第20回	挨拶文の練習 文法：主語＋状態副詞・副詞句＋動詞＋目的語
第21回	挨拶文の練習 文法：主語＋状態副詞・副詞句＋動詞＋目的語
第22回	挨拶文の練習とテスト 文法：主語＋動詞＋補語
第23回	挨拶文の練習とテスト 文法：主語＋動詞＋補語
第24回	数字の表現 文法：主語＋形容詞＋補語
第25回	数字の表現 文法：主語＋形容詞＋補語
第26回	数字の練習とテスト 文法：可能・願望助動詞
第27回	数字の練習とテスト 文法：可能・願望助動詞
第28回	前期の総括とテスト 文法：無主文
第29回	前期の総括と中国について 文法：無主文
第30回	復習・前期のまとめテスト

【授業の進め方】

1. 中国語を習うには、まず表音ローマ字の子音、母音、複合母音をしっかり覚えなければならぬ。これは二回の授業で覚えられるが、読み書きに熟練するか否かは、何と言っても個人の努力次第とすることになる。
2. 中国語四声の習得は、一般に容易なことではないと思われていたが、これからは特殊な教材があるので、それに依って練習に励みさえすれば、二回の授業で正確な発音ができる。
3. 会話の練習をする前に、まず中国語の言葉の流れ（イントネーション）に慣れなければならぬ。慣れてはじめてすらすらと中国語が話せるようになる。その時点では、なり振りかまわず是非簡単な文章の朗読を繰り返し練習しなければならぬ。もし講義に基づいて自宅で熱心に練習すれば、二ヶ月以内できっと中国語の文章を流暢に読めるようになる。
4. 五月末までにすべてのローマ字による表音記号をしっかりと覚えて、短い文章がすらすらと読めるようにしなくてはならない。（ローマ字なしの短い文章）

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①初級中国語 ②陳順和・李卓 ③自主出版 ④2010、2 ⑤1800
 ①簡易中国語文法 ②陳順和・李卓 ③自主出版 ④2012、4 ⑤1500

1. 教科書 よくわかる初級中国語・簡易中国語文法 陳順和・李卓著（売店で購入する）
2. プリント 授業に応じて配る
3. 辞書 授業中に指示する

【参考図書】

特になし。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 100% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

平常テストを基にして、出席状況と受講態度による加点、減点をする。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

特になし。

【履修上の心得】

1. 宿題をきちんとやること。
2. 授業に出席すること、遅刻しないこと。
3. 語学の学習は集中的に、反復練習することが大切であるから毎時間小テストを行う。
4. 一文はさほど長くない、できれば覚えてしまうこと。
5. テレビ、ラジオ講座等も併せて利用することを勧める。

【科目のレベル、前提科目など】

中国語入門および初級の課程である。

科目名	中国語 I B
教員名	劉 建雲

【授業の内容】

標準語の発音・語彙・文法を学び、初歩的なコミュニケーション能力の育成を図る。中国語 I Bでは、引き続き基本的な文型・文法の知識を学習し、徐々に会話練習の内容を増やし、場に応じて意識的に応用する習慣と能力を養う。学習内容に関連して中国人の思考様式・生活習慣などを紹介する。

【到達目標】

中国語検定試験準 4 級全員合格する。4 級も挑戦して、合格を目指す。

【授業計画】

第 1 回	春期の復習	
第 2 回	あなたはパンダを見たことがありますか	文法：過去の経験を示す「過」、「一…就…」
第 3 回	私は一度中国へ行きたいです	文法：動量補語と「的」の用法その 2
第 4 回	私は中国の歴史と文化に興味があります	文法：複文その 1、接続詞その 1
第 5 回	あなたは何をしていますか	文法：動作の進行を表す「在」
第 6 回	荷物は全部用意できましたか	文法：結果補語
第 7 回	田中さんが電話してくれた時	文法：「又…又…」、接続詞その 2
第 8 回	パスポートを見せてください	文法：動詞の重ね方、使役表現・兼語文
第 9 回	これはいくらですか	文法：名詞述語文とお金の言い方
第 10 回	あなたは中国語が話せますか	文法：助動詞「会」・「能」・「可以」
第 11 回	ただちょっと油こいです	文法：様態補語：「V+得」
第 12 回	時間が経つのは本当にはやいですね	文法：「快…了」、「就要…了」
第 13 回	誰と一緒に行きましたか	文法：「是…的」の構文
第 14 回	中国語検定試験の対応	
第 15 回	中国語検定試験の対応	
第 16 回	買ってきましたか	文法：方向補語
第 17 回	たくさんのプレゼントを買ってきました	文法：複合方向補語
第 18 回	机の上に何が置いてありますか	文法：動作・状態の持続を表す「着」
第 19 回	車の免許が取れましたか	文法：結果補語
第 20 回	中国語のラジオはまだ聞き取れません	文法：可能補語
第 21 回	窓を閉めてください	文法：「把」の構文
第 22 回	バイクは弟に乗っていかれた	文法：受け身表現
第 23 回	今日はまた忘れました	文法：禁止の表現、「再」と「又」
第 24 回	家には友達が来て…	文法：存現文
第 25 回	あなたの今年の目標は何ですか	文法：複文その 2
第 26 回	たくさんの新しい友達ができました	文法：自然現象の言い方
第 27 回	後期の学習内容の整理と復習	
第 28 回	後期の学習内容の整理と復習	
第 29 回	後期の学習内容の復習とテスト①	
第 30 回	後期の学習内容の復習とテスト②	

毎回授業の最後に小テストを実施する。
中国語の学習は暗記・暗誦が必須である。

【授業の進め方】

1. 基本的にシラバスに沿って進めていくが、みなさんの習熟度により進度を調整する場合もある。
2. 教科書各課の発音・語彙・文法を学習し、本文に基づいた会話や作文の繰り返し練習を通じて学習内容の強化を図る。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①ちょっとまじめに中国語 ②日下恒夫・史彤嵐 ③同学社 ④2013年 ⑤2400 ⑥978-4-8102-0192-5

【参考図書】

辞書：『中日辞典』小学館

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 70% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

授業内試験をもとにして、出席状況と受講態度と合わせて総合的に評価する。

【履修上の心得】

1. 授業に遅刻なし出席すること。
2. 授業中に指示された予習と復習をしていくこと。

【科目のレベル、前提科目など】

中国語初級の課程。

科目名	中国語 I B
教員名	陳 順和

【授業の内容】

初めて中国語を勉強する学生を対象とする内容（初級の発音と文法）

【到達目標】

1. 中国語を正確に発音できるようになる。
2. 中国に旅行したときに困らない程度の会話の習得ができるようになる。
3. 中国の小学三年生程度の文章を読んで、日本語に翻訳できるようになる。
4. 中国の文化・政治・社会・生活習慣・風俗等の中国人の生き方、考え方などの体得ができるようになる。
5. 本年11月に、中国語検定試験準4級合格できるようになる。

【授業計画】

第1回	春期の復習と発音テスト	
第2回	私はやり終わりました	文法：主語＋動詞＋方向補語＋目的語
第3回	私はやり終わりました	文法：主語＋動詞＋方向補語＋目的語
第4回	貴方は先生の言葉を聞き取れますか	文法：主語＋動詞＋可能・結果補語＋目的語
第5回	貴方は先生の言葉を聞き取れますか	文法：主語＋動詞＋可能・結果補語＋目的語
第6回	私は中国語を勉強して半年間になりました	文法：主語＋動詞＋数量補語＋目的語
第7回	私は中国語を勉強して半年間になりました	文法：主語＋動詞＋数量補語＋目的語
第8回	私たちの学校のキャンパスはとても美しいです	文法：主語＋動詞＋目的語＋動詞の目的補語
第9回	私たちの学校のキャンパスはとても美しいです	文法：主語＋動詞＋目的語＋動詞の目的補語
第10回	第5～8課復習とテスト	文法：主語＋形容詞句
第11回	第5～8課復習とテスト	文法：主語＋形容詞句
第12回	第5～8課復習とテスト	文法：主語＋動詞句
第13回	第5～8課復習とテスト	文法：主語＋動詞句
第14回	私は中国留学をしたいです	文法：動詞の重ねと「一下」
第15回	私は中国留学をしたいです	文法：動詞の重ねと「一下」
第16回	もうすぐ授業です	文法：有と在の使い方
第17回	もうすぐ授業です	文法：有と在の使い方
第18回	私は中国医学にとっても興味を感じます	文法：不と没の使い方
第19回	私は中国医学にとっても興味を感じます	文法：不と没の使い方
第20回	貴方はどんな外国語を勉強していますか	文法：使役の表現
第21回	貴方はどんな外国語を勉強していますか	文法：使役の表現
第22回	第9～12課復習とテスト	文法：受身の表現
第23回	第9～12課復習とテスト	文法：受身の表現
第24回	貴方は私より背が高いです	文法：助詞
第25回	貴方は私より背が高いです	文法：助詞
第26回	私の自転車は盗まれました	文法：助詞
第27回	私の自転車は盗まれました	文法：助詞
第28回	後期の総括	文法：比較
第29回	後期の総括と中国の現状について	
第30回	復習・後期のまとめテスト	

【授業の進め方】

1. 教科書に沿って進みながら前期に学んだ事項も復習する。
2. 九月になってからは会話と作文の練習に全力を注ぎ、各種の文型に習熟すれば、学期終了前には簡単な会話を中国人と交わすことや、簡単な文章を書くこともできる。
3. ビデオで中国文化、芸術、生活などを紹介する。
4. 中国語の発音記号として決してカタカナを使ってはならない。
5. できるだけ中国語検定試験（11月中旬）を受けて、準4級の合格証を取得できるように希望する。
6. 中国語の話す、聞くことをよりうまくできるよう、また、中国文化と生活情事を体で感じられるようにするため、中国に短期留学することを勧める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

1. 教科書 よくわかる初級中国語・簡易中国語文法 陳順和・李卓著（売店で購入する）
2. プリント 授業に応じて配る
3. 辞書 授業中に指示する

【参考図書】

特になし。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 100% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

平常テストを基にして、出席状況と授業態度による加点、減点をする。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

特になし。

【履修上の心得】

1. 宿題をきちんとやること。
2. 授業に出席すること、遅刻しないこと。
3. 語学の学習は集中的に、反復練習することが大切であるから毎時間小テストを行う。
4. 一文はさほど長くない、できれば覚えてしまうこと。
5. テレビ、ラジオ講座等も併せて利用することを勧める。

【科目のレベル、前提科目など】

中国語入門および初級の課程である。

【備 考】

特になし。

科目名	韓国語 I A
	韓国語入門
教員名	李 映京

【授業の内容】

- ・初めて韓国語を学ぶ学生を対象にハングル文字の読み書き、発音、基本的な文型や言い回しを学びます。
- ・約700語程度の語彙を習得し「自己紹介」「挨拶」「飲食店や道での会話」「家族や日常」などの身近なテーマについて話せるように「コミュニケーション力の基盤づくり」をしていきます。

【到達目標】

- ①ハングル文字の読み書きができること
- ②韓国語の文の基本構造（語順・助詞・動詞活用など）を理解すること
- ③‘自己紹介’‘飲食店で注文する’‘道を尋ねる’‘家族や日常生活’などの身近な場面で初歩的な意思疎通ができること

【授業計画】

第1回 ガイダンス

- ・ハングル文字の由来と体系－40分
- ・ハングル文字の形と意味－40分
- ・まとめ－10分

第2回 母音字を覚える（1）短母音－60分

- ・挨拶表現（1）－「おはようございます」「さようなら」－20分
- ・まとめ－10分

第3回 母音字を覚える（2）二重母音－60分

- ・挨拶表現（2）－「ありがとうございます」「すみません」－20分
- ・まとめ－10分

第4回 母音の確認と練習－80分

- ・まとめ－10分

第5回 子音字を覚える（1）平音－60分

- ・挨拶表現（3）－「いただきます」「御馳走さまでした」－20分
- ・まとめ－10分

第6回 子音字を覚える（2）激音と濃音－60分

- ・挨拶表現（4）－「はじめまして」「会えてうれしいです」「よろしく願います」－20分
- ・まとめ－10分

第7回 パッチム（終声）を覚える－60分

- ・ハングルを読む【パッチム】【有声音化】【連音化】－20分
- ・まとめ－10分

第8回 子音の確認と練習－80分

- ・まとめ－10分

第9回 ハングルを書く【名前】【日本語のハングル表記に挑戦】－50分

- ・ハングルの読み書きについての総まとめ－40分

第10回 実際のハングルに触れる【お菓子のパッケージ・映画題名・看板など】－30分

- ・挨拶表現の総まとめと練習－60分

第11回 1課 タナカと申します

- (1) 私は〇〇です－「一です・ですか」文を覚える－40分
- (2) 学生です－職業名を覚える－40分
- ・まとめ－10分

第12回 (3) 日本人です－国名を覚える－40分

- (4) はい、いいえの答え方－40分
- ・まとめ－10分

第13回 (5) 会話練習【自己紹介】－40分

- (6) 本文聞き取り－40分
- ・まとめ－10分

第14回 1課 確認テスト－30分

2課 これは何ですか

- (1) 「これ、それ、あれ、どれ、何」と「これは何ですか」－50分
- ・まとめv10分

第15回 (2) 〇〇です・〇〇ではありません－40分

- (3) 会話練習【食堂でメニューの料理名などを尋ねる】－40分
- ・まとめ－10分

第16回 (4) 本文聞き取り－50分

- 2課 確認テスト－30分

- ・まとめ－10分
- 第17回 3課 この方はどなたですか
(1) 「この、その、あの、どの、誰」とこの人(方、子、男の人、女の人)は誰ですか。－80分
・まとめ－10分
- 第18回 (2) 私の〇〇(家族名称)です－40分
(3) 会話練習【家族写真】－40分
・まとめ－10分
- 第19回 (4) 本文聞き取り－50分
3課 確認テスト－30分
・まとめ－10分
- 第20回 4課 売店はどこにありますか
(1) 「ここ、そこ、あそこ、どこ」と「〇〇はどこにありますか」－40分
(2) 位置を表す表現「上・下・横・前・後・右・左・中・間」－40分
・まとめ－10分
- 第21回 (3) 助詞「に」「の」「と」
(4) 否定文「ありません」「いません」
- 第22回 (5) 会話練習【道案内】－30分
(6) 本文聞き取り－30分
4課 確認テスト－30分
- 第23回 ・韓国語の発音法則①②③④－90分
- 第24回 ・韓国文化紹介(歌)45分
・韓国事情一町の風景や生活・大学の授業風景など－45分
- 第25回 5課 私の1週間のスケジュールです
(1) 「－(し)ます・－(し)ますか」－格式体語尾の作り方－80分
・まとめ－10分
- 第26回 (2) 日常動作動詞25語の語尾活用練習－80分
・まとめ－10分
- 第27回 (3) 「－(し)ません」－否定文の作り方①②－80分
・まとめ－10分
- 第28回 (4) 「時」を表す語－40分
(5) 会話練習【1週間の計画】－40分
・まとめ－10分
- 第29回 (6) 本文聞き取り－30分
(7) 5課まとめ－60分
- 第30回 5課 確認テスト－30分
1課～5課の総まとめ－60分

- ・第1回～第10回目まではプリント教材で授業を行います。
- ・第11回目からは教科書に沿って進めますが、練習用のプリントを配布し補助的に使います。
- ・定着を図るため各課ごとに語彙と基本文型について確認テストを行います。

【授業の進め方】

- ・語彙及び文型の理解については予習をしなくてもついてこれるように丁寧に説明を行います。
- ・口頭練習を徹底します。
- ・ペアワークやグループワークで疑似コミュニケーション体験を積んでいきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①『EASY KOREAN1』 ②韓国教育文化院 ③国書刊行会 ④2009年 ⑤2,300 ⑥9784336046437

【参考図書】

『朝鮮語辞典』小学館

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 20% レポート・課題 10% 受講態度 10%

特記事項

定期試験、授業内課題確認テスト、受講態度点(授業への参加度)から総合的に評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

全授業数の3分の2以上の出席で期末試験が受けられます。

【履修上の心得】

- ・「知識としての語学」ではなく「使える語学」を身に着けることに重点を置きます。
- ・「講義を聞く」スタイルの授業ではありません。
- ・語学は階段式学習が基本です。既習項目をベースに未習項目へと進みますので欠席は避けるようにしてください。

【備 考】

韓国語に関する基礎知識は特に必要ありません。

科目名	韓国語 I B
	韓国語初級
教員名	李 映京

【授業の内容】

- ・韓国語 1 Aに引き続き、不規則活用など少し進んだ文法を学びます。
- ・「日付」「時間」「値段」などの数字、交通手段、意志表現、予定と計画、勧誘、理由表現を学びコミュニケーションの幅を広げます。
- ・言語表現に含まれる韓国人特有の考え方、物事の進め方などにも触れ「異文化理解」について考えます。

【到達目標】

- ①約1000～1200語程度の基本語彙を理解し使用できること
- ②平易な不規則活用など基本的な文法事項を理解しそれをベースに簡単な生活文と実用文を書き構成できること
- ③自然な発音やイントネーションなどの韓国語の基本的なリズムを習得すること
- ④「買い物」「友人を映画に誘う」などの日常生活の私的で身近な場面で意思表示ができること

【授業計画】

- 第1回 ・ガイダンス－10分
・前期の復習－80分
- 第2回 6課 今週末どちらに行かれますか
(1)「－なさいます・－なさいますか」－格式体敬語語尾の作り方－80分
・まとめ－10分
- 第3回 (2)「○○が好きだ・嫌いだ」好みの表現－40分
(3)「音楽鑑賞・読書・運動・映画鑑賞」などの趣味に関する語－40分
・まとめ－10分
- 第4回 (4)「いつも・よく・たまに・あまり・全く」などの頻度を表す語－40分
(5) 会話練習【好き・嫌いを言う】－40分
・まとめ－10分
- 第5回 (6) 本文聞き取り－30分
・6課の総まとめ【語彙練習】－20分
・【発音法則確認】－40分
- 第6回 6課 確認テスト－30分
7課 週末何をなさいましたか
(1)「－(し)ました・－(し)ましたか」格式体過去語尾の作り方－50分
・まとめ－10分
- 第7回 (2)「－なさいました・－なさいましたか」格式体過去敬語語尾の作り方－50分
(3) 動詞活用確認－40分
- 第8回 (3)「郵便局・銀行・公園」など場所を表す25語を覚える－40分
(4)「－(し)て」－並列の連結語尾－40分
・まとめ－10分
- 第9回 (5)「時点」を表す25語を覚える－40分
(6) 会話練習【毎日の過ごし方・週末の過ごし方】－40分
・まとめ－10分
- 第10回 (7) 本文聞き取り－50分
7課 確認テスト－30分
・まとめ－10分
- 第11回 8課 今何時ですか
(1) 数字；漢字語数字と固有語数字－80分
・まとめ－10分
- 第12回 (2) 時刻・時間の言い方－80分
・まとめ－10分
- 第13回 (3) 日課と時間－80分
・まとめ－10分
- 第14回 (4) 交通手段と所要時間－40分
(5) 助詞「で」【手段と道具】「と」「－からと－まで」－40分
・まとめ－10分
- 第15回 (6) 会話練習【通学】－40分
(7) 本文聞き取り－30分
・8課まとめ－20分
- 第16回 8課 確認テスト－30分
9課 誕生日はいつですか

- (1) 「年・月・日」－日付の言い方－50分
 ・まとめ－10分
- 第17回 (2) 年齢の言い方と干支－40分
 (3) 会話練習【誕生日】－40分
 ・まとめ－10分
- 第18回 (4) 本文聞き取り－30分
 ・9課まとめ－30分
 ・9課確認テスト－30分
- 第19回 10課 趣味は何ですか
 (1) 「－です・ます」；非格式体語尾の作り方－80分
 ・まとめ－10分
- 第20回 (2) 不規則活用①「t」－20分
 (3) 「－なさいます・－なさいますか」－非格式敬語語尾の作り方－60分
 ・まとめ－10分
- 第21回 (4) 「上手・下手」の言い方－50分
 (5) 会話練習【得意なもの・不得意なもの】－30分
 ・まとめ－10分
- 第22回 (6) 本文聞き取り－30分
 ・10課まとめ－30分
 ・10課確認テスト－30分
- 第23回 ・作文練習【私】－50分
 ・不規則活用「p」－30分
 ・まとめ－10分
- 第24回 11課 パン2つと牛乳をください
 (1) 「－ください」「－してください」－80分
 ・まとめ－10分
- 第25回 (2) 物の数え方－80分
 ・まとめ－10分
- 第26回 (3) 金額の言い方－40分
 (4) 買い物表現－40分
 ・まとめ－10分
- 第27回 (5) 会話練習【買い物】－80分
 ・まとめ－10分
- 第28回 (6) 本文聞き取り－30分
 ・11課まとめ－60分
- 第29回 ・不規則活用「u」「ru」－40分
 ・会話練習「友人紹介」－50分
- 第30回 ・6課～11課 総まとめ－90分

- ・教科書に沿って進めますが、練習用のプリントを配布し補助的に使います。
- ・定着を図るため各課ごとに語彙と基本文型について確認テストを行います。

【授業の進め方】

- ・語彙及び文型の理解については予習をしなくてもついてこれるように丁寧に説明を行います。
- ・口頭練習を徹底します。
- ・ペアワークやグループワークで疑似コミュニケーション体験を積んでいきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①『日本人のためのイーージーコリアン1』 ②韓国語教育文化院 ③国書刊行会 ④2009年 ⑤2,300円＋税
 ⑥9784336046437

【参考図書】

『朝鮮語辞典』小学館

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 20% レポート・課題 10% 受講態度 10%

特記事項

定期試験、授業内課題確認テスト、平常点（授業への参加度）から総合的に評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

全授業数の3分の2以上の出席で期末試験が受けられます。

【履修上の心得】

- ・「知識としての語学」ではなく「使える語学」を身につけることに重点を置きます。
- ・「講義を聞く」スタイルの授業ではありません。
- ・教室での授業進行言語は難解な文法事項の説明時を除き韓国語になります。
- ・語学は階段式学習が基本です。既習項目をベースに未習項目へと進みますので欠席は避けるようにしてください。

【備 考】

韓国語 I Aを履修していることが必要です。

科目名	ドイツ語IIA
教員名	Clemens Amann

【授業の内容】

この授業では初級レベルのドイツ語を話せるように、読めるよういくつかのテーマについて勉強します。例えば、自己紹介、知らない都市に慣れる、自分の一日について述べる、買い物する、旅で経験したことを語るなど。それぞれのテーマに関しては会話、読み物そしてビデオを紹介し、会話の場合は聞き取り、単語と文型、発音と応用練習（ペアで似ている会話を造って話す）という順で、読み物とビデオの場合は単語クイズ、読解練習（読み物、ビデオの内容を確認する）、簡単なドイツ語で内容をまとめるという順で授業を行います。

ドイツ、オーストリア、スイスで使われている教科書の中から選んで、ドイツ語圏の国々と日常のドイツ語に触れる人たちに欠かせないテーマに絞りました。

【到達目標】

短くて簡単な会話をペアで行って、簡単な文章を書いて、日常生活で使われる文書（地図、案内状、ポスター、メールなど）を読めるようにする。

【授業計画】

- 第1回 会話：自己紹介：名前、出身の国：どこの国の出身ですか？
- 第2回 ビデオ：ドイツ語圏の国々と挨拶いろいろ。読み物：「私の名前は Mette Svendsen.」
- 第3回 ヨーロッパの地図を読む：ヨーロッパの国々と言語
- 第4回 読み物：自分と自分の家族について。「これは私の弟です」
- 第5回 ビデオ：私の家族。人の名前、住んでいる場所、年齢を言う。数字0から100まで。
- 第6回 読み物：「これは何ですか？」物事を描く
- 第7回 読み物：「これは私の時計です」
- 第8回 ビデオ：1 古物商人で 2 土産を買う
- 第9回 趣味とレジャー：あなたの趣味は？暇の時に何をしますか？
- 第10回 ビデオ：私の趣味はインラインスケートです。
- 第11回 読み物：メールとチャット：時間を言う、会う約束する、断る。
- 第12回 読み物：メールとチャット II：時間を言う、会う約束する、断る。
- 第13回 読み物：週末の活動、「一緒にプールに行きませんか？」
- 第14回 読み物：ドイツ語圏の料理と食べ物：「何を食べたいですか？」
- 第15回 ビデオ：私の一番好きなレストラン

会話、聞き取り、読解練習、作文を通して、簡単なドイツ語を身につける。

【授業の進め方】

毎回のテーマを紹介して、その内容を理解できる段階から内容について話したり、答えたりすることの出来る段階まで聞く、話す、読む、書くということを訓練します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

毎回のテーマに関するプリントを配ります。
辞書と文法本に関しては学生にアドバイスします。

【参考図書】

Menschen. Deutsch als Fremdsprache. Kursbuch. Hueber Verlag. 2012

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

課題の提出：週に一回だけの授業なので、毎回の宿題が復習のために欠かせない。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業中の努力と宿題の提出を元にして、成績評価します。

【履修上の心得】

ノートと単語帳を作成すること

【科目のレベル、前提科目など】

ドイツ語 I、ドイツ語 III/IV。ドイツ語 I を履修した学生を対象にする初級のレベル。

科目名	ドイツ語ⅡB
教員名	Clemens Amann

【授業の内容】

この授業では初級レベルのドイツ語を話せるように、読めるよういくつかのテーマについて勉強します。例えば、自己紹介、知らない都市に慣れる、自分の一日について述べる、買い物する、旅で経験したことを語るなど。それぞれのテーマに関しては会話、読み物そしてビデオを紹介し、会話の場合は聞き取り、単語と文型、発音と応用練習（ペアで似ている会話を造って話す）という順で、読み物とビデオの場合は単語クイズ、読解練習（読み物、ビデオの内容を確認する）、簡単なドイツ語で内容をまとめるという順で授業を行います。

ドイツ、オーストリア、スイスで使われている教科書の中から選んで、ドイツ語圏の国々と日常のドイツ語に触れる人たちに欠かせないテーマに絞りました。

【到達目標】

短くて簡単な会話をペアで行って、簡単な文章を書いて、日常の生活で使われる文書（地図、案内状、ポスター、メールなど）を読めるようにする。

【授業計画】

- 第1回 会話：「今、地下鉄に乗り換える」乗り物、列車と交通
- 第2回 ビデオ：家から事務所への朝の出勤
- 第3回 読み物：スイスのチューリヒ市の交通機関。チューリヒ市についてインターネットを調べる
- 第4回 ビデオ：昨日の土曜日：自分の一日を語る
- 第5回 読み物：ドイツの祭りと催し物。経験したことを語る。
- 第6回 会話：道の案内、カーナビ、市街地図
- 第7回 ビデオ：ゲーテ広場はどこにありますか？道を尋ねる、聞く。案内する。
- 第8回 読み物：ミュンヘン市の公園：公園への案内、見所を説明する
- 第9回 ブログ：私の好きな都市。ドイツの港町ハンブルク。
- 第10回 聞き取り：都市の施設、建物。
- 第11回 ブログ：私の住んでいる街。気に入ることを述べる
- 第12回 ビデオ：スイスのベルン市：観光案内、都市の特徴を説明する
- 第13回 読み物：広告を読む。音楽の学院で勉強する。
- 第14回 読み物：将来は何になりたいのですか？理由を述べる、これからやりたいことを説明する。
- 第15回 ビデオ・読み物：人たちの希望、いろいろ。

会話、聞き取り、読解練習、作文を通して、簡単なドイツ語を身につける。

【授業の進め方】

毎回のテーマを紹介して、その内容を理解できる段階から内容について話したり、答えたりすることの出来る段階まで聞く、話す、読む、書くということを訓練します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

毎回のテーマに関するプリントを配ります。
辞書と文法本に関しては学生にアドバイスします。

【参考図書】

Menschen. Deutsch als Fremdsprache. Kursbuch. Hueber Verlag. 2012

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

課題の提出：週に一回だけの授業なので、毎回の宿題が復習のために欠かせない。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業中の努力と宿題の提出を元にして、成績評価します。

【履修上の心得】

ノートと単語帳を作成すること

【科目のレベル、前提科目など】

ドイツ語 I、ドイツ語 III/IV。ドイツ語 I を履修した学生を対象にする初級のレベル。

科目名	フランス語ⅡA
教員名	Clemens Amann

【授業の内容】

フランス語Iで勉強した項目を掘り下げ、語彙と単語を増やし、初級のレベルを徹底的に身につける。『勉強したのに、どうして簡単なことさえ話せないのだろう』という疑問を持つ人が少なくない。それは知識の量に対して実際に話すトレーニングが少なすぎるからである。その問題を克服するため、まず自分が言いたいこと、あるいは表現したいことを考えてから、そのテーマに沿った授業の進め方をする。フランス語を実際的に授業中に使い、表現できる範囲を広げる。

【到達目標】

人の身分、嗜好、性格をのべる、住まいと日常の環境、フランスのモード、食生活について話す、フランス人の意見、ライフスタイルなど、それぞれの授業に一つのテーマをあげる。そのテーマについて簡単なフランス語で話す、書くことができるように、テーマに合わせて語彙と単語を復習し増やし、適切な文型を勉強する。経験したことを語り、未来のこと、仮定することを言う、助言する、依頼する、コメント、さまざまな言語能力を実際の場面で使える授業をめざす。

【授業計画】

- 第1回 久しぶりです。挨拶、名前、住所
- 第2回 クイズ：ヨーロッパの国々。国名と前置詞
- 第3回 文通メール。自己紹介：文通相手を探す。
- 第4回 文通メール。自己紹介：趣味を述べる
- 第5回 ネット上で衣服を買う。名詞グループ、数字
- 第6回 レシピ：クレープの作り方。材料、量をのべる、部分冠詞
- 第7回 どれくらい食べますか？飲み物、食べ物。冠詞類
- 第8回 Isabelleの一日。起きる時から寝る時まで。代名動詞 I
- 第9回 日曜日をどう過ごしますか？動詞の活用形、代名動詞 II
- 第10回 日曜日をどう過ごしますか？動詞の活用形、代名動詞 II
- 第11回 良い一日でした。経験したことを語る、複合過去形 I
- 第12回 どこに行きましたか？経験したことを語る、複合過去形 II
- 第13回 アルバイト先はどうでしたか？夏休みの経験をのべる：複合過去形対半過去形 I
- 第14回 アルバイト先はどうでしたか？夏休みの経験をのべる：複合過去形対半過去形 II
- 第15回 高校生のとき、大学生の今：昔と現在を比べる

【授業の進め方】

- 会話や本文のプレゼンテーション：CD、ビデオ、文章、いずれかを通して紹介する
- 発音、単語と文型、日本語とフランス語の比較
- 内容、新しい単語を理解したかどうかを確認する：おおよその理解から詳しく理解へ
- 会話中や本文中に出てきた単語と文型に関する練習問題：理解から使用へ
- その日学習したテーマについて簡単なフランス語で話す、短い文を書く

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①Taxi! ②Robert Menand ③Hachette ④2006 09 20 ⑥978-2011555083

毎回のテーマに関するプリントを配る

辞書：(フランス語 I と同様に) パスポート初級仏和辞典 (第3版)《シングルCD付》内藤 陽哉 (他) 百水社、2730

文法本：モン・プチボワソン (CD付) 金子 美都子 (他) 百水社 2008、2.300円

購入方法：学生と相談します

【参考図書】

パスポート初級仏和辞典

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

課題の提出：週に一回だけの授業なので、毎回の宿題が復習のために欠かせない。

【履修上の心得】

フランス語だけではなく、外国語は耳と口を通して学び、下手か、上手かは別にして、通じるように話してみると違和感を超えることができる。積極的にフランス語を話して、間違っても、通じればよいという考えをもってください（間違ったところは書くとき、宿題のとき直すことができる）。

ノートと単語帳を作成する。

【科目のレベル、前提科目など】

フランス語 I、III、IV

入門から初級に。語彙と単語、または文法項目は全国で実施されている仏検定試験4級にでてくる問題をカバーする。受験を希望する学生には適切なアドバイスをし、試験準備を手伝う。

科目名	フランス語ⅡB
教員名	Clemens Amann

【授業の内容】

フランス語Iで勉強した項目を掘り下げ、語彙と単語を増やし、初級のレベルを徹底的に身につける。『勉強したのに、どうして簡単なことさえ話せないのだろうか』という疑問を持つ人が少なくない。それは知識の量に対して実際に話すトレーニングが少なすぎるからである。その問題を克服するため、まず自分が言いたいこと、あるいは表現したいことを考えてから、そのテーマに沿った授業の進め方をする。フランス語を実際的に授業中に使い、表現できる範囲を広げる。

【到達目標】

人の身分、嗜好、性格をのべる、住まいと日常の環境、フランスのモード、食生活について話す、フランス人の意見、ライフスタイルなど、それぞれの授業に一つのテーマをあげる。そのテーマについて簡単なフランス語で話す、書くことができるように、テーマに合わせて語彙と単語を復習し増やし、適切な文型を勉強する。経験したことを語り、未来のこと、仮定することを言う、助言する、依頼する、コメント、さまざまな言語能力を実際の場面で使える授業をめざす。

【授業計画】

- 第1回 求人三行広告：どんな人を雇う？できることを述べる：可能、能力Ⅰ
- 第2回 求人三行広告：週末は働けますか？できることを述べる：可能、能力Ⅱ
- 第3回 電話で個人授業を取り決める：時間、一週間のスケジュール
- 第4回 タバコ吸ってもいいですか？許可、禁止、義務を述べるⅠ
- 第5回 面接のとき、どうすれば成功できるの？許可、禁止、義務を述べるⅡ
- 第6回 この人、知っていますか？CDを買う。代名詞Ⅰ
- 第7回 パーティへの招待：手紙、メールを読む。代名詞Ⅱ
- 第8回 Nadjaのファッションについての話。自分の趣味、気になることを言う。代名詞 y
- 第9回 Nadjaのファッションについての話。自分の興味、気になることを言う。代名詞 en
- 第10回 インタビュー：将来の仕事をどう思いますか？そう思う、そう思わない—自分の意見を言う。代名詞 yとen
- 第11回 十年後の自分をどう思い描きますか？未来のこと、推定、確信を表現する。未来形
- 第12回 十年後の自分をどう思い描きますか？未来のこと、推定、確信を表現する。未来形
- 第13回 クイズ：フランスの地理と名物。関係代名詞、関係文
- 第14回 読み物：パン屋のピラ、フランス人のパンの消費：昔、今、明日。動詞の時制
- 第15回 読み物・ビデオ：若い人のアルバイト。後期のまとめ。

【授業の進め方】

- 会話や本文のプレゼンテーション：CD、ビデオ、文章、いずれかを通して紹介する
- 発音、単語と文型、日本語とフランス語の比較
- 内容、新しい単語を理解したかどうかを確認する：おおよその理解から詳しく理解へ
- 会話中や本文中に出てきた単語と文型に関する練習問題：理解から使用へ
- その日学習したテーマについて簡単なフランス語で話す、短い文を書く

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①Taxi! ②Rbert Menand ③Hachette ④2006 09 20 ⑥978-2011555083

毎回のテーマに関するプリントを配る

辞書：(フランス語Ⅰと同様に) パスポート初級仏和辞典 (第3版)《シングルCD付》内藤 陽哉(他) 百水社、2730

文法本：モン・プチボワソン (CD付) 金子 美都子(他) 百水社 2008、2.300円

購入方法：学生と相談します

【参考図書】

パスポート初級仏和辞典

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

課題の提出：週に一回だけの授業なので、毎回の宿題が復習のために欠かせない。

【履修上の心得】

フランス語だけではなく、外国語は耳と口を通して学び、下手か、上手かは別にして、通じるように話してみると違和感を超えることができる。積極的にフランス語を話して、間違っても、通じればよいという考えをもってください（間違ったところは書くとき、宿題のとき直すことができる）。

ノートと単語帳を作成する。

【科目のレベル、前提科目など】

フランス語 I、III、IV

入門から初級に。語彙と単語、または文法項目は全国で実施されている仏検定試験4級にでてくる問題をカバーする。

受験を希望する学生には適切なアドバイスをし、試験準備を手伝う。

科目名	スペイン語ⅡA
教員名	高橋 節子

【授業の内容】

スペイン語の基礎（初級レベル）

スペイン語Ⅰを入門編とすると、スペイン語ⅡAは、入門編の応用になります。

スペイン語Ⅰで学習した文法を使って、実際の会話を勉強していきます。スペイン語Ⅰを終了した人はできるだけスペイン語ⅡAも受講して、スペイン語がどのように使われるのかを学んでほしいと思います。また、語学を4年間通して勉強すれば、就職活動においても大きなアピールポイントになります。積極的に受講しましょう。

【到達目標】

- ①多少長い文でもすらすら読めるようになること
- ②スペイン語文法の基礎を修得すること
- ③単語の量を増やすこと

【授業計画】

- 第1回 昨年度の復習。"Viaje al español 1" 13課
 第2回 昨年度の復習。"Viaje al español 2" 14課（予習・復習：60分）
 第3回 "Viaje al español 2" 15課（予習・復習：60分）
 第4回 "Viaje al español 2" 16課（予習・復習：60分）
 第5回 "Viaje al español 2" 17課（予習・復習：60分）
 第6回 "Viaje al español 2" 18課（予習・復習：60分）
 第7回 "Viaje al español 2" 19課（予習・復習：60分）
 第8回 "Viaje al español 2" 20課（予習・復習：60分）
 第9回 "Viaje al español 2" 21課（予習・復習：60分）
 第10回 "Viaje al español 2" 22課（予習・復習：60分）
 第11回 "Viaje al español 2" 23課（予習・復習：60分）
 第12回 "Viaje al español 2" 24課（予習・復習：60分）
 第13回 "Viaje al español 2" 25課（予習・復習：60分）
 第14回 "Viaje al español 2" 26課（予習・復習：60分）
 第15回 "Viaje al español 2" 27課（予習・復習：60分）

ビデオ教材"Viaje al español (スペイン語への旅)"を使用します。スペインを舞台とした物語で、非常によくできたビデオ教材です。内容もおもしろいです。1回の授業で1課進む予定です。開始する課は変更する可能性があります。

【授業の進め方】

- ①出席と復習を兼ねた小テスト
 - ②グループ内で小テストの答え合わせ
 - ③文法のポイントの説明
 - ④単語の発音と意味
 - ⑤読みの練習
 - ⑥グループ内でテキストの意味を検討する。
 - ⑦分からない箇所を全体で検討する。
- ★②⑤⑥はグループ単位で行う予定です。3～4人ぐらいで一つのグループを作り、グループ内で答え合わせ、読みの練習、テキストの意味の確認をしてもらいます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使いません。プリントを使用します。

【参考図書】

辞書は購入してください。最初の授業時にいくつか紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 50% 受講態度 10%

特記事項

1. 良好な出席状況、良好な授業態度が評価の前提です。
2. 基本的には予習・復習をしてきたかどうかで合否を決定します。
3. 授業開始時に行う確認テスト（授業内小試験）を成績評価の判断材料とします。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席が良好で、きちんと予習・復習をしていただければ問題のない授業内容です。

【履修上の心得】

比較的少人数の授業なので、和気あいあいとした雰囲気の中で充実した授業になります。例年、経営・法学・教育学部の学生、市民の方、留学生、後期には小学校の先生、などいろいろな方が参加します。

週一回と語学の授業としては大変少ない回数しかないので、予習と復習が非常に重要になります。予習をせずに授業に臨んで日本語の訳だけ分かって、それはもはやスペイン語の勉強とは言えません。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目はスペイン語Ⅰ。スペイン語Ⅰが未修でも、自分で不足分を補いながらスペイン語ⅡAを受講することは可能です。ただし、かなりの覚悟が要ります。

科目名	スペイン語ⅡB
教員名	高橋 節子

【授業の内容】

スペイン語の基礎

スペイン語ⅡAを入門編の応用とすると、スペイン語ⅡBは基礎編になります。具体的には、現在完了や過去形を学び、語彙数を増やします。スペイン語ⅡAを終了した方はできるだけスペイン語ⅡBも受講して、スペイン語の基礎を学んでほしいと思います。また、語学を4年間通して勉強すれば、就職活動においても大きなアピールポイントになります。

【到達目標】

- ①多少長い文でもすらすら読めるようになること
- ②スペイン語文法の基礎を修得すること
- ③単語の量を増やすこと

【授業計画】

- 第1回 前期の復習 "Viaje al español 2" 28課 (予習・復習：60分)
- 第2回 "Viaje al español 2" 29課 (予習・復習：60分)
- 第3回 "Viaje al español 2" 30課 (予習・復習：60分)
- 第4回 "Viaje al español 2" 31課 (予習・復習：60分)
- 第5回 "Viaje al español 2" 32課 (予習・復習：60分)
- 第6回 "Viaje al español 2" 33課 (予習・復習：60分)
- 第7回 "Viaje al español 2" 34課 (予習・復習：60分)
- 第8回 "Viaje al español 2" 35課 (予習・復習：60分)
- 第9回 "Viaje al español 2" 36課 (予習・復習：60分)
- 第10回 "Viaje al español 2" 37課 (予習・復習：60分)
- 第11回 "Viaje al español 2" 38課 (予習・復習：60分)
- 第12回 "Viaje al español 2" 39課 (予習・復習：60分)
- 第13回 "Viaje al español 2" 40課 (予習・復習：60分)
- 第14回 "Viaje al español 3" 41課 (予習・復習：60分)
- 第15回 "Viaje al español 3" 42課 (予習・復習：60分)

前期に続いて、ビデオ教材"Viaje al español(スペイン語への旅)"を使用します。スペインを舞台とした物語で、非常によくできたビデオ教材です。内容もおもしろいです。基本的には、1回の授業で1課進む予定ですが、受講生の理解度を確認しながら進めたいと思います。

【授業の進め方】

- ①出席と復習を兼ねた小テスト
 - ②グループ内で小テストの答え合わせ
 - ③文法のポイントの説明
 - ④単語の発音と意味
 - ⑤読みの練習
 - ⑥グループ内でテキストの意味を検討する。
 - ⑦分からない箇所を全体で検討する。
- ★②⑤⑥はグループ単位で行います。3～4人ぐらいで一つのグループを作り、グループ内で答え合わせ、読みの練習、テキストの意味の確認をしてもらいます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使いません。プリントを使用します。欠席した場合は、研究室にプリントを取りにきて下さい。

【参考図書】

西和辞書。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 50% 受講態度 10%

特記事項

1. 良好な出席状況、良好な授業態度が評価の前提です。
2. 基本的には予習・復習をしてきたかどうかで可否を決定します。
3. 授業開始時に行う小テスト、授業内テストを成績評価の判断材料とします。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席が良好で、きちんと予習・復習をしていただければ問題のない授業内容です。

【履修上の心得】

比較的少人数の授業なので、和気あいあいとした雰囲気の中で充実した授業になります。例年、経営・法学・教育学部の学生、市民の方、留学生、小学校の先生、などいろいろな方が参加します。

週一回と語学の授業としては大変少ない回数しかないので、予習・復習が非常に重要になります。予習をせずに授業に臨んで日本語の訳だけ分かって、それはもはやスペイン語の勉強とは言えません。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目はスペイン語Ⅰとスペイン語ⅡA。ただし、スペイン語ⅡAが未修でも、自分で不足分を補いながらスペイン語ⅡBを受講することは可能です。

科目名	中国語ⅡA
教員名	陳 順和

【授業の内容】

本講は1. 中国語ⅠAⅠBを勉強した学生を対象とする内容。

2. 中国語の中級文法を理解する。会話力を高める。
3. 中国の新聞・雑誌を独力で読解する能力を養う。

【到達目標】

1. 中国語の日常会話ができるようになる。
2. 中国旅行をしたときに楽しめる会話ができるようになる。
3. 中国の小学校四年生の語学力レベルを身につけることができるようになる。
4. 中国の文化・政治・社会・生活習慣・風俗等の生き方、考え方などの体得ができるようになる。
5. 中国語の新聞を読めることができるようになる。

【授業計画】

第1回	ス依米(スイミー)〈読解〉	请问您贵姓?〈会話〉
第2回	ス依米(スイミー)	你是谁?
第3回	ス依米(スイミー)	你是谁?
第4回	迪克和达克(チックとタック)	你每天怎么来学校?
第5回	迪克和达克(チックとタック)	你每天怎么来学校?
第6回	迪克和达克(チックとタック)	我累了。
第7回	剛搬家过来的美莎(引っ越して来た美沙)	我累了。
第8回	剛搬家过来的美莎(引っ越して来た美沙)	我做完了。
第9回	剛搬家过来的美莎(引っ越して来た美沙)	我做完了。
第10回	小白帽(白いぼうし)	你听得懂老师的话吗?
第11回	小白帽(白いぼうし)	你听得懂老师的话吗?
第12回	小白帽(白いぼうし)	我已学了半年中国语了。
第13回	太郎蟋蟀(太郎こおろぎ)	我已学了半年中国语了。
第14回	太郎蟋蟀(太郎こおろぎ)	<授業中テスト>
第15回	太郎蟋蟀(太郎こおろぎ)	我们学校校园很美。

本講は前期15回授業をする。テストは前期1回実施する。

【授業の進め方】

1. 日本の小学校教科書の児童文学教材を中国語に訳した文章を教材として使う。
2. 小さい頃から慣れてきた物語なので、理解しやすく、覚えやすいと思う。
3. 毎回の授業でその単語と文法の表現をよく練習し、読解力がだんだんと身につけるになる。
4. 中国語で物語を話す練習をする。
5. 毎週の授業で物語を読み取りの練習だけではなく、決まり文型で会話をよく練習する。特に一年生の時に練習した文型で実践的に会話の練習をする。
6. 中国語検定4級を合格することを一つの目標とする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

1. 児童文学の教科書を購入する必要なし。
2. 会話の教科書は授業中に指示する。
3. 授業に応じてプリントを配る。

【参考図書】

できれば電子辞書を用意する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 100% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

授業中テスト100%。他に出席状況、受講態度、予習状況による加点、減点。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

予習状況と授業態度を重視する。

【履修上の心得】

1. 宿題をきちんとやること。
2. 授業に出席すること。遅刻しないこと。
3. テレビ・ラジオ講座等も併せて利用することを勧める。

【科目のレベル、前提科目など】

特になし。

科目名	中国語ⅡB
教員名	陳 順和

【授業の内容】

- 本講は1. 中国語ⅠAⅠBを勉強した学生を対象とする内容。
 2. 中国語の中級文法を理解する。会話力を高める。
 3. 中国の新聞・雑誌を独力で読解する能力を養う。

【到達目標】

1. 中国語の日常会話ができるようになる。
2. 中国旅行をしたときに楽しめる会話ができるようになる。
3. 中国の小学校四年生の語学力レベルを身につけることができるようになる。
4. 中国の文化・政治・社会・生活習慣・風俗等の生き方、考え方などの体得ができるようになる。
5. 中国語の新聞を読めることができるようになる。

【授業計画】

第1回	年糕树 (モチモチの木)	我想去中国留学。
第2回	年糕树 (モチモチの木)	快要上课了。
第3回	年糕树 (モチモチの木)	快要上课了。
第4回	渡吊桥 (つり橋わたれ)	我对中国医学很感兴趣。
第5回	渡吊桥 (つり橋わたれ)	我对中国医学很感兴趣。
第6回	渡吊桥 (つり橋わたれ)	你在学习什么外国语？
第7回	小狐狸阿坤 (ごんぎつね)	你在学习什么外国语？
第8回	小狐狸阿坤 (ごんぎつね)	你比我高。
第9回	小狐狸阿坤 (ごんぎつね)	你比我高。
第10回	大造爷爷与雁 (大造じいさんとガン)	我的自行车被偷了。
第11回	大造爷爷与雁 (大造じいさんとガン)	我的自行车被偷了。
第12回	大造爷爷与雁 (大造じいさんとガン)	你坐几点的飞机？
第13回	捕鷹巢 (たかのす取り)	你坐几点的飞机？
第14回	捕鷹巢 (たかのす取り)	< 授業中テスト >
第15回	捕鷹巢 (たかのす取り)	我以为你今天来不及了呢。

本講は後期15回授業をする。テストは後期1回実施する。

【授業の進め方】

1. 日本の小学校教科書の児童文学教材を中国語に訳した文章を教材として使う。
2. 小さい頃から慣れてきた物語なので、理解しやすく、覚えやすいと思う。
3. 毎回の授業でその単語と文法の表現をよく練習し、読解力がだんだんと身につけるになる。
4. 中国語で物語を話す練習をする。
5. 毎週の授業で物語を読み取りの練習だけでなく、決まり文型で会話をよく練習する。特に一年生の時に練習した文型で実践的に会話の練習をする。
6. 中国語検定4級を合格することを一つの目標とする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

1. 児童文学の教科書を購入する必要なし。
2. 会話の教科書は授業中に指示する。
3. 授業に応じてプリントを配る。

【参考図書】

できれば電子辞書を用意する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 100% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

授業中テスト100%。他に出席状況、受講態度、予習状況、中国語検定試験による加点、減点。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

予習状況と授業態度を重視する。

【履修上の心得】

1. 宿題をきちんとやること。
2. 授業に出席すること。遅刻しないこと。
3. テレビ・ラジオ講座等も併せて利用することを勧める。

【科目のレベル、前提科目など】

特になし。

科目名	ドイツ語ⅢA
教員名	Clemens Amann

【授業の内容】

ドイツ語圏の国々（ドイツ、オーストリア、スイス）を紹介します。地域、都市、日常生活について短い読み物とインタビュー・ラジオ放送などの一部をもとにして簡単なドイツ語で三つの国に関する話を学びます。例えば、高校生の一日と職業訓練、ウィーンの大通りと音楽者、スイスのバーゼル市、ベルリンのカーニバル祭りなど。

学生はこの授業を通してその三つの国をのぞいたり、ドイツ語の基礎単語と文型を身につけることができます。

【到達目標】

ドイツ語 III は会話から離れて、一貫した人の説明、ビデオの解説、読み物を中心に話の内容を理解し、話について簡単なドイツ語で答えるように勉強します。聞き取り、読解練習、そして単語クイズを通してドイツ語圏の国々（ドイツ、オーストリア、スイス）に関するさまざまな話をドイツ語で学びます。

【授業計画】

- 第1回 読み物：ドイツのフライブルク市、都市計画者とのインタビュー I：都市の昔と今、動詞の三基本形
 第2回 読み物：ドイツのフライブルク市、都市計画者とのインタビュー II：外国人と共存すること、自分の街について説明する。
 第3回 ラジオ放送：ベルリン市へ I：ベルリンのカーニヴァル、ラジオの情報、中継のビデオ
 第4回 読み物：ベルリン市へ II：多文化的な都市ベルリンの外国人たち
 第5回 読み物：Evaの学校の日、外国での実習、職業訓練を述べる I、オーストリアの学校
 第6回 読み物：Evaの学校の日、外国での実習、職業訓練を述べる II、ホテルでの実習
 第7回 読み物：Evaの学校の日、外国での実習、職業訓練を述べる III、ホテルでの実習
 第8回 聞き取り：ウィーン市を訪れる：観光の路面電車で
 第9回 読み物：ウィーン市を訪れる：音楽者紹介、東欧風の音楽 I
 第10回 読み物：ウィーン市を訪れる：音楽者紹介、東欧風の音楽 II
 第11回 読み物：ウィーン市を訪れる：読み物：国連座で働く I
 第12回 読み物：ウィーン市を訪れる：読み物：国連座で働く II
 第13回 読み物：3カ国の国境に接する都市バーゼル I、地図を読む
 第14回 読み物：3カ国の国境に接する都市バーゼル II、観光びらを読む
 第15回 ビデオ：3カ国の国境に接する都市バーゼル III バーゼル市のカーニバル：ビデオと読み物

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリント配布

辞書については授業中説明する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

課題の提出：毎回の宿題。

週に一回だけの授業なので、毎回の宿題が復習のために欠かせない。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回の授業に関する宿題はできるかぎり次の授業提出してください。

【履修上の心得】

ノートを作成する、単語帳

【科目のレベル、前提科目など】

ドイツ語 I, II。ドイツ語 I, II を履修した学生を対象にする初級から中級へのレベル

科目名	ドイツ語ⅢB
教員名	Clemens Amann

【授業の内容】

ドイツ語圏の国々（ドイツ、オーストリア、スイス）を紹介します。地域、都市、日常生活について短い読み物とインタビュー・ラジオ放送などの一部をもとにして簡単なドイツ語で三つの国に関する話を学びます。例えば、高校生の一日と職業訓練、ウィーンの大通りと音楽者、スイスのバーゼル市、ベルリンのカーニバル祭りなど。

学生はこの授業を通してその三つの国をのぞいたり、ドイツ語の基礎単語と文型を身につけることができます。

【到達目標】

ドイツ語 III は会話から離れて、一貫した人の説明、ビデオの解説、読み物を中心に話の内容を理解し、話について簡単なドイツ語で答えるように勉強します。聞き取り、読解練習、そして単語クイズを通してドイツ語圏の国々（ドイツ、オーストリア、スイス）に関するさまざまな話をドイツ語で学びます。

【授業計画】

- 第1回 聞き取り：ドイツ語圏の人々からの挨拶いろいろ。
- 第2回 読み物：旅行案内のパンフレット：ドイツ語圏の国々の景色と地域 I
- 第3回 読み物：旅行案内のパンフレット：ドイツ語圏の国々の景色と地域 II
- 第4回 聞き取り：ケルン市の見物、大聖堂の案内に興味があるの？
- 第5回 読み物：ケルン市から二通のはがきと一件のメール：ケルン市の見物はどうになったか？
- 第6回 都市の名所について意見を言う：見物したい、訪れたい場所はどこですか？
- 第7回 ビデオ：ミュンヘン市の散歩、町歩き：今度、オペラを見に行きませんか？
- 第8回 読み物：ドイツ、オーストリア、スイスの催し物とイベント。コンサート、展覧会などを提案する、申し合わせる I
- 第9回 読み物：ドイツ、オーストリア、スイスの催し物とイベント。コンサート、展覧会などを提案する、申し合わせる II
- 第10回 聞き取り：ドイツ、オーストリア、スイスの催し物とイベント。コンサート、展覧会などを提案する、申し合わせる III
- 第11回 ラジオの取材：シュナイダー気の食卓：一週間の食生活
- 第12回 読み物：新聞記事。ドイツ人の食生活についてのアンケートの結果
- 第13回 聞き取り：どういふ方法でドイツ語を勉強しましたか？外国語を学ぶ経験。
- 第14回 読み物：あなたはどんなタイプの語学の学習者ですか？外国語を勉強するときになにが大切ですか。
- 第15回 読み物：インターネットなしの一週間、一つの試み。携帯なしでの生活はどんなものでしょうか？

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリント配布

辞書については授業中説明する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

課題の提出：毎回の宿題。

週に一回だけの授業なので、毎回の宿題が復習のために欠かせない。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回の授業に関する宿題はできるかぎり次の授業提出してください。

【履修上の心得】

ノートを作成する、単語帳

【科目のレベル、前提科目など】

ドイツ語 I, II。ドイツ語 I, II を履修した学生を対象にする初級から中級へのレベル

科目名	フランス語ⅢA
教員名	Clemens Amann

【授業の内容】

フランス語Ⅲは二つに分けて、前期はフランスのシャンソン（歌）を紹介して、伝統的な曲から今流行っている曲までフランスの代表的な作品を説明します：曲を聞き取り（穴埋め）で聞かせて、語彙と単語、文型を説明して、そして曲の社会的な、文化的な背景に触れます。人気のある曲を通して、フランス語を学んで、フランス人のいろいろな人生観を知ることが出来ます。

後期は宮崎監督の作品「紅の豚」のフランス語版 "Porco Rosso" をビデオで紹介し、学生はアニメのいくつかのエピソードをフランス語で聞き、読み、そして和訳します。追加的にそれぞれのエピソードの基礎の語彙と単語、文型を学びます。

【到達目標】

フランス語Ⅲは会話から離れて、一貫した文章 – 曲あるいは映画のエピソード – を元にして内容を理解し、簡単なフランス語で答えるように勉強します。聞き取り、読解練習、そして単語クイズを通してフランスに関するさまざまな話をフランス語で学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 「パリの空の下」 Sous le ciel de Paris：伝統的な曲。二人の歌手たち、一人は昔の、もう一人は今のバージョンを歌います。
- 第2回 「聞かせてよ、愛のことを」 Parlez-moi d'amour: シャンソンの伝統作品、歌手：Lucienne Boyer
- 第3回 「ダンスホールが終わった後に」 Depuis que les bals sont fermés: シャンソンとダンスの話、シャンソンとアコーディオン
- 第4回 「雨傘」 Le parapluie: シャンソンと詩 I、Georges Brassens、フランスの偉大な作詞家・作曲家。
- 第5回 「オーベルニュ人に捧げる歌」 Chanson pour l'auvergnat: シャンソンと詩 II、Georges Brassens、フランスの偉大な作詞家・作曲家。
- 第6回 「夜のパリ」「公園」 Paris at night, Le jardin: シャンソンと詩 III、Jacques Prévertの詩をシャンソンで歌う歌手：Lio
- 第7回 「五台の楽器のバラード」 Ballade pour cinq instruments: 感動を覚えるシャンソンを歌う Georges Moustaki
- 第8回 「メトロの船」 Les bateaux du métro: パリの思いがけない風景、歌手、詩人：Yves Simon
- 第9回 「田舎へ行こうよ」 Allons z' à la campagne: イギリス出身の Kent 歌手はフランス語のシャンソンでフランスでよく知られている。
- 第10回 「雪の中に足跡」 Mes pas dans la neige: 複雑な人生と孤独を歌う歌手：Karen Ann
- 第11回 「私に約束したが。」 Tu m'as promis: 約束を守らなかったことについての歌。歌手：In-grid
- 第12回 「痩せる」 Maigrir: どうやっておりこうで痩せられるかな？ 歌手：San Severino
- 第13回 「怠け者」 Paresseuse: 思い切って活動するのはなかなかできない。歌手：Benabar
- 第14回 「私に言う」 Elle me dit: 言いつけの多い母親。歌手：Mika
- 第15回 授業のまとめ

【授業の進め方】

- 本文のプレゼンテーション：CD、ビデオ、文章、いずれかを通して紹介する
- 発音、単語と文型、日本語とフランス語の比較
- 内容、新しい単語を理解したかどうかを確認する：おおよその理解から詳しい理解へ
- 本文中に出てきた単語と文型に関する練習問題：理解から使用へ
- その日学習したテーマについて簡単なフランス語で話す、短い文を書く

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリント配布

辞書については授業中説明する

【参考図書】

Dictionnaire amoureux de la chanson française

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

課題の提出：毎回の宿題

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業中の努力、毎回の宿題の提出をもとにして評価します。

【履修上の心得】

ノートを作成する、単語帳

【科目のレベル、前提科目など】

フランス語 I, II。フランス語 I, II を履修した学生を対象にする初級から中級へのレベル。

科目名	フランス語ⅢB
教員名	Clemens Amann

【授業の内容】

フランス語Ⅲは二つに分けて、前期はフランスのシャンソン（歌）を紹介して、伝統的な曲から今流行っている曲までフランスの代用的な作品を説明します：曲を聞き取り（穴埋め）で聞かせて、語彙と単語、文型を説明して、そして曲の社会的な、文化的な背景に触れます。人気のある曲を通して、フランス語を学んで、フランス人のいろいろな人生観を知ることが出来ます。

後期は宮崎監督の作品「紅の豚」のフランス語版 "Porco Rosso" をビデオで紹介します。学生はアニメのいくつかのエピソードをフランス語で聞き、読み、そして和訳します。追加的にそれぞれのエピソードの基礎の語彙と単語、文型を学びます。

【到達目標】

フランス語Ⅲは会話から離れて、一貫した文章 — 曲あるいは映画のエピソード — を元にして内容を理解し、簡単なフランス語で答えるように勉強します。聞き取り、読解練習そして単語のクイズを通してフランスに関するさまざまな話をフランス語で学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 第一エピソード：Porco Rosso et les pirates de l'air, l'enlèvement
紅の豚と海賊たち、誘拐の事件
- 第2回 第一エピソード：Porco Rosso et les pirates de l'air, l'enlèvement
紅の豚と海賊たち、誘拐の事件
- 第3回 第二のエピソード：A l'hôtel Adriano, chez Gina
アドリアノホテルで、ジーナとの出会い
- 第4回 第二のエピソード：A l'hôtel Adriano, chez Gina
アドリアノホテルで、ジーナとの出会い
- 第5回 第三のエピソード：Vers Milan, un combat de l'air perdu
ミラノへ、負け決闘
- 第6回 第四のエピソード：L'arrivée chez Piccolo, Porco Rosso rencontre Fio
ピッコロ社に到着。フィオとの出会い
- 第7回 第五エピソード：un rencontre au cinéma, un enlèvement feint
映画館での出会い、見せかけの誘拐
- 第8回 第五エピソード：un rencontre au cinéma, un enlèvement feint
映画館での出会い、見せかけの誘拐
- 第9回 第五エピソード：un rencontre au cinéma, un enlèvement feint
映画館での出会い、見せかけの誘拐
- 第10回 第六のエピソード：une rencontre inattendu sur l'île cachée
隠れ島での思いがけない出会い
- 第11回 第六のエピソード：une rencontre inattendu sur l'île cachée
隠れ島での思いがけない出会い
- 第12回 第七のエピソード：Porco Rosso raconte son histoire
紅の豚の実話
- 第13回 第七のエピソード：Porco Rosso raconte son histoire
紅の豚の実話
- 第14回 第八のエピソード：le duel final
最後の決闘
- 第15回 第八のエピソード：le duel final
最後の決闘

【授業の進め方】

- 本文のプレゼンテーション：CD、ビデオ、文章、いずれかを通して紹介する
- 発音、単語と文型、日本語とフランス語の比較
- 内容、新しい単語を理解したかどうかを確認する：おおよその理解から詳しい理解へ
- 本文中に出てきた単語と文型に関する練習問題：理解から使用へ
- その日学習したテーマについて簡単なフランス語で話す、短い文を書く

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリント配布

辞書については授業中説明する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

課題の提出：毎回の宿題

課題の提出： 毎回の宿題

評価の基準： 授業中の努力：40%

毎回の宿題：60%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回宿題の提出と授業中の努力を元にして成績をつくります。

【履修上の心得】

ノート、単語帳を作成する、

【科目のレベル、前提科目など】

フランス語 I, II。フランス語 I, II を履修した学生を対象にする初級から中級へのレベル。

科目名	スペイン語ⅢA
教員名	高橋 節子

【授業の内容】

スペイン語ⅢAは、基礎から応用へのステップとなります。El cuarto misterioso 2を教材として使用します。この教材をすでに学んだことのある人は外国人向けに書かれた探偵小説を教材にします。

【到達目標】

- ①長い文がすらすらと読めるようになること
- ②重要な文法事項（線過去、等）の学習
- ③語彙を増やし定着させること

【授業計画】

- 第1回 El cuarto misterioso 2, Episodio 1（あるいは、¿Eres tú María? 序）（予習：60分）
 第2回 El cuarto misterioso 2, Episodio 1（あるいは、¿Eres tú María? 1課）（予習・復習：60分）
 第3回 El cuarto misterioso 2, Episodio 1（あるいは、¿Eres tú María? 2課）（予習・復習：60分）
 第4回 El cuarto misterioso 2, Episodio 2（¿Eres tú María? 3課）（予習・復習：60分）
 第5回 El cuarto misterioso 2, Episodio 2（¿Eres tú María? 4課）（予習・復習：60分）
 第6回 El cuarto misterioso 2, Episodio 2（¿Eres tú María? 5課）（予習・復習：60分）
 第7回 El cuarto misterioso 2, Episodio 3（あるいは、¿Eres tú María? 6課）（予習・復習：60分）
 第8回 El cuarto misterioso 2, Episodio 3（あるいは、¿Eres tú María? 7課）（予習・復習：60分）
 第9回 El cuarto misterioso 2, Episodio 3（あるいは、¿Eres tú María? 8課）（予習・復習：60分）
 第10回 El cuarto misterioso 2, Episodio 4。あるいは、¿Eres tú María? 9課。（予習・復習：60分）
 第11回 El cuarto misterioso 2, Episodio 4。あるいは、¿Eres tú María? 10課（予習・復習：60分）
 第12回 El cuarto misterioso 2, Episodio 4。あるいは、¿Eres tú María? 11課（予習・復習：60分）
 第13回 El cuarto misterioso 2, Episodio 5。あるいは、¿Eres tú María? 12課（予習・復習：60分）
 第14回 El cuarto misterioso 2, Episodio 5。あるいは、¿Eres tú María? 13課（予習・復習：60分）
 第15回 El cuarto misterioso 2, Episodio 5。あるいは、¿Eres tú María? 14課（予習・復習：60分）

【授業の進め方】

- ①出席と復習を兼ねた小テスト
- ②グループ内で小テストの答え合わせ
- ③文法のポイントの説明
- ④単語の発音と意味
- ⑤読みの練習
- ⑥グループ内でテキストの意味を検討する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリントを使用します。

【参考図書】

西和辞書

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 60% 受講態度 0%

特記事項

1. 基本的には予習をしてきたかどうかで合否を決定します。
2. それ以外に、授業開始時に行う小テストや、単語試験を判断材料とします。

【履修上の心得】

例年、少人数の授業なので、和気あいあいとした雰囲気の中で充実した授業になります。週一回と語学の授業としては大変少ない回数なので予習が非常に重要になります。予習は場合によっては難しいこともありますので、文法事項の説明、意味のヒント、練習問題などをつけたプリントを用意します。それを参考にしながら予習をしてきてください。意味の確認はグループ単位で行います。3、4人ぐらいで一つのグループを作り、お互いの予習内容を検討しながら意味の確認をしてもらいます。

【科目のレベル、前提科目など】

スペイン語Ⅰ、スペイン語ⅡA、スペイン語ⅡB。スペイン語Ⅱは終了していなくても努力次第で履修することは可能です。

科目名	スペイン語ⅢB
教員名	高橋 節子

【授業の内容】

スペイン語ⅢBは、基礎～応用へのステップになります。

【到達目標】

- ①長い文がすらすらと読めるようになること
- ②重要な文法事項の復習・定着
- ③語彙を増やし定着させること

【授業計画】

- 第1回 "El cuarto misterioso 2" Episodio 6 (予習・復習：60分)
 第2回 "El cuarto misterioso 2" Episodio 6 (予習・復習：60分)
 第3回 "El cuarto misterioso 2" Episodio 6 (予習・復習：60分)
 第4回 "El cuarto misterioso 2" Episodio 7 (予習・復習：60分)
 第5回 "El cuarto misterioso 2" Episodio 7 (予習・復習：60分)
 第6回 "El cuarto misterioso 2" Episodio 7 (予習・復習：60分)
 第7回 "El cuarto misterioso 2" Episodio 8 (予習・復習：60分)
 第8回 "El cuarto misterioso 2" Episodio 8 (予習・復習：60分)
 第9回 "El cuarto misterioso 2" Episodio 8 (予習・復習：60分)
 第10回 "El cuarto misterioso 2" Episodio 9 (予習・復習：60分)
 第11回 "El cuarto misterioso 2" Episodio 9 (予習・復習：60分)
 第12回 "El cuarto misterioso 2" Episodio 9 (予習・復習：60分)
 第13回 "El cuarto misterioso 2" Episodio 10 (予習・復習：60分)
 第14回 "El cuarto misterioso 2" Episodio 10 (予習・復習：60分)
 第15回 "El cuarto misterioso 2" Episodio 10 (予習・復習：60分)

"El cuarto misterioso 2"をすでに学習した受講生には別な教材を準備します。

【授業の進め方】

- ①出席と復習を兼ねた小テスト
- ②グループ内で小テストの答え合わせ
- ③文法のポイントの説明
- ④単語の発音と意味
- ⑤読みの練習
- ⑥グループ内でテキストの意味を検討する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリントを使用します。欠席した場合には、次の授業時までにはプリントを研究室に取りにきて下さい。

【参考図書】

西和辞書

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 60% 受講態度 0%

特記事項

1. 基本的には予習をしてきたかどうかで合否を決定します。
2. それ以外に、授業開始時に行う小テストの成績を判断材料とします。

【履修上の心得】

週一回と語学の授業としては大変少ない回数しかないので、予習が非常に重要になります。予習は難しいこともありますので、文法事項の説明、意味のヒント、練習問題などをつけたプリントを用意します。それを参考にしながら予習をしてきてください。意味の確認はグループ単位で行います。3、4人ぐらいで一つのグループを作り、お互いの予習内容を検討しながら意味の確認をしてもらいます。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目はスペイン語Ⅰ、スペイン語ⅡA、スペイン語ⅡB、スペイン語ⅢA。スペイン語ⅢAは終了していることが望ましいのですが、終了していなくても自分である程度補えば理解可能な内容にするつもりです。

科目名	中国語ⅢA
教員名	范力

【授業の内容】

本講は、①中国語の中、上級文法を理解する、②中国の新聞・書籍を独力で読解する能力を高める、③会話力を高める、以上3項目を達成することを主要内容とする。

【到達目標】

学生は学習に専念して下さい。努力すれば、しただけ報われる。只管努力すれば①中国語の文法構造がわかる、②中国語文が正しく理解できる、③会話力を高める。

本講は、中国語文を読むことが面白くなること、会話力を高めることを到達目標とする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 我最喜欢的地方
私の一番好きな所
- 第3回 我最喜欢的地方
私の一番好きな所
- 第4回 做运动
運動をする
- 第5回 做运动
運動をする
- 第6回 我父母的婚姻
両親の婚姻
- 第7回 我父母的婚姻
両親の婚姻
- 第8回 我父母的婚姻
両親の婚姻
- 第9回 失恋
失恋
- 第10回 失恋
失恋
- 第11回 失恋
失恋
- 第12回 日本便利店提供照顾独居老人服务
日本のコンビニは独居老人へのケアサービスを提供する
- 第13回 日本便利店提供照顾独居老人服务
日本のコンビニは独居老人へのケアサービスを提供する
- 第14回 复习
復習
- 第15回 考试
試験

本講は前期15回授業をする。授業内テストは前期1回実施する。

【授業の進め方】

- (1) 「読」「説」「聴」「看」「写」
- (2) 二週間に一回宿題(作文)を出す。次の授業に回収し添削する
- (3) 時々中国語の新聞記事を読む
- (4) 聞き取りの練習もする

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①本気で学ぶ中国語 中 ②趙玲華 ③ベレ出版 ④2011年
 ①本気で学ぶ中国語 上

【参考図書】

「日中辞典」「中日辞典」

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 30% 受講態度 20%

特記事項

授業内小試験：50%

宿題・作文：30%

受講態度：20%

【履修上の心得】

レポートや宿題をしっかりとやること

【科目のレベル、前提科目など】

科目のレベルは中級、上級

前提科目は初級、中級

科目名	中国語ⅢB
教員名	范力

【授業の内容】

本講は、①中国語の中、上級文法を理解する、②中国の新聞・書籍を独力で読解する能力を高める、③会話力を高める、以上3項目を達成することを主要内容とする。

【到達目標】

学生は学習に専念して下さい。努力すれば、しただけ報われる。只管努力すれば①中国語の文法構造がわかる、②中国語文が正しく理解できる、③会話力を高める。

本講は、中国語文を読むことが面白くなること、会話力を高めることを到達目標とする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 信用卡的利与弊
クレジットカードのプラスとマイナス
- 第3回 信用卡的利与弊
クレジットカードのプラスとマイナス
- 第4回 幼儿学外语的最早适宜年龄
幼児が外語語を習う最適年齢
- 第5回 幼儿学外语的最早适宜年龄
幼児が外語語を習う最適年齢
- 第6回 幼儿学外语的最早适宜年龄
幼児が外語語を習う最適年齢
- 第7回 婚礼
結婚式
- 第8回 婚礼
結婚式
- 第9回 婚礼
結婚式
- 第10回 北京流行快乐租赁生活
北京で楽しいレンタルライフが流行っている
- 第11回 北京流行快乐租赁生活
北京で楽しいレンタルライフが流行っている
- 第12回 中国人送礼
中国人の贈り物
- 第13回 中国人送礼
中国人の贈り物
- 第14回 复习
復習
- 第15回 考试
テスト

本講は後期15回授業をする。授業内テストは後期1回実施する。

【授業の進め方】

- (1) 「読」「説」「聴」「看」「写」
- (2) 二週間に一回宿題(作文)を出す。次の授業に回収し添削する
- (3) 時々中国語の新聞記事を読む
- (4) 聞き取りの練習もする

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①本気で学ぶ中国語 中 ②趙玲華 ③ベレ出版 ④2011年
 ①本気で学ぶ中国語 上

【参考図書】

「日中辞典」「中日辞典」

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 30% 受講態度 20%

特記事項
授業内小テスト50%
宿題（作文）30%
受講態度20%

【履修上の心得】

予習と宿題をしっかりとやること

【科目のレベル、前提科目など】

科目のレベルは中級、上級
前提科目は初級、中級

科目名	韓国語ⅡA
	韓国語初中級
教員名	盧 玫周

【授業の内容】

韓国語ⅠA、ⅠBに引き続き、初級レベルの文法を復習しながら、新しい文法と表現を習得していきます。学んだ学習事項が確実に身につけられるように文法事項と関連表現のドリルを多くして、読む・書く・話す総合的な力が身につくように進めます。

【到達目標】

初級で学習した語彙と文法を定着させるとともに、これらを応用してより自然な韓国語の表現で簡単な日常会話ができることを目指す。中級文型を覚え、練習問題で理解の定着を図る。韓国語能力試験(TOPIKⅡ)の合格を目指す。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス、韓国語Ⅰの復習
- 第2回 第1課「何年度入学ですか」-数字、2種類の丁寧形
- 第3回 第1課「何年度入学ですか」-本文、会話練習
- 第4回 第2課「韓国語を一所懸命勉強するつもりです」-用言の未来形、羅列、確認
- 第5回 第2課「韓国語を一所懸命勉強するつもりです」-本文、会話練習
- 第6回 第3課「あの靴、ちょっと見せてください」-逆接、形容詞の連体形、授受表現
- 第7回 第3課「あの靴、ちょっと見せてください」-本文、会話練習
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 第4課「よく行く韓国料理のお店があれば紹介してください」-条件・仮定、動詞の現在連体形、否定形
- 第10回 第4課「よく行く韓国料理のお店があれば紹介してください」-本文、会話練習
- 第11回 第5課「一緒に撮った写真を添付しました」-動詞の過去連体形、変則用言①
- 第12回 第5課「一緒に撮った写真を添付しました」-本文、会話練習
- 第13回 第6課「発表の時間に遅れてすみません」-尊敬表現、理由、動詞の未来連体形、不可能
- 第14回 第6課「発表の時間に遅れてすみません」-本文、会話練習
- 第15回 前期のまとめテスト

【授業の進め方】

課ごとに①文法項目②文型練習問題③語彙④本文⑤ペアワーク練習⑥まとめの流れで進めていきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①改訂版・韓国語の世界へ 初中級編-コッコツ学び、カジュアルに話そう ②李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、陸宗均、山田恭子 著 ③朝日出版社 ⑤2200円+税 ⑥9784255556444

【参考図書】

『ポケットプログレッシブ 韓日・日韓辞典』油谷 幸利 他(編)、小学館
 または 韓国語辞書が入っている電子辞書

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 30% 受講態度 20%

特記事項

授業内小試験：記述試験

課題：各課の練習問題を課題として提出

受講態度：授業への参加度、貢献度等で評価します。

【履修上の心得】

楽しく、活気のある授業をするために積極的に参加しましょう。授業中は日本語ではなく、なるべく韓国語をたくさん発話しましょう。毎回、教科書の練習問題は宿題として提出してください。

【科目のレベル、前提科目など】

韓国語の授業を1年間履修しているか、同等の韓国語の学習歴を有する人を対象にします。

科目名	韓国語ⅡB
	韓国語初中級
教員名	盧 玫周

【授業の内容】

韓国語ⅡAに引き続き、初級の文法を復習しながら、新しい文法と表現を習得していきます。学んだ学習事項が確実に身につけられるように文法事項と関連表現のドリルを多くして、読む・書く・話す総合的な力が身につくように進めます。

【到達目標】

初級で学習した語彙と文法を定着させるとともに、これらを応用してより自然な韓国語の表現で簡単な日常会話ができることを目指す。中級文型を覚え、練習問題で理解の定着を図る。韓国語能力試験(TOPIKⅡ)の合格を目指す。

【授業計画】

- 第1回 前期の復習
- 第2回 第7課「暑い夏にサムゲタンを食べます」-経験、動作の継続、変則用言②
- 第3回 第7課「暑い夏にサムゲタンを食べます」-本文、会話練習
- 第4回 第8課「重くないので一人でしますよ」-結果の継続、理由、約束
- 第5回 第8課「重くないので一人でしますよ」-本文、会話練習
- 第6回 第9課「パソコンちょっと借りてもいいですか」-背景説明、許可、変則用言③
- 第7回 第9課「パソコンちょっと借りてもいいですか」-本文、会話練習
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 第10課「リムジンバスの方がいいでしょうね」-推測、理由、義務
- 第10回 第10課「リムジンバスの方がいいでしょうね」-本文、会話練習
- 第11回 第11課「陶磁器も作ってみましたか」-意向、試み、可能・不可能
- 第12回 第11課「陶磁器も作ってみましたか」-本文、会話練習
- 第13回 第12課「韓国の会社に就職しようと思っています」-推測、意図、禁止
- 第14回 第12課「韓国の会社に就職しようと思っています」-本文、会話練習
- 第15回 後期のまとめテスト

【授業の進め方】

課ごとに①文型項目②文型練習問題③語彙④本文⑤ペアワーク練習⑥まとめの流れで進めていきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①改訂版・韓国語の世界へ 初中級編-コッコツ学び、カジュアルに話そう ②李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、陸宗均、山田恭子 著 ③朝日出版社 ⑤2200円+税 ⑥9784255556444

【参考図書】

『ポケット プログレッシブ 韓日・日韓辞典』油谷幸利 他(編)、小学館

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 30% 受講態度 20%

特記事項

授業内小試験：記述試験

課題：各課の練習問題を課題として提出

受講態度：授業への参加度、貢献度等で評価します。

【履修上の心得】

楽しく、活気のある授業をするために積極的に参加しましょう。授業中は日本語ではなく、なるべく韓国語をたくさん発話しましょう。毎回、教科書の練習問題は宿題として提出してください。

【科目のレベル、前提科目など】

韓国語ⅡAを履修しているか、同等の韓国語の学習歴を有する人を対象にします。

科目名	韓国語ⅢA
	韓国語中上級会話
教員名	盧 玫周

【授業の内容】

中・上級韓国語の文法項目、語彙の定着を図って、より豊かな会話ができるようにしていきます。また、初級、中級の文法項目も随時確認しながら、さらなる語彙、句型、表現とともに会話力を養います。(授業内容は、履修人数と学生のレベル及び進度に応じて、多少変更することがあります)

【到達目標】

韓国語で会話をする機会を設け、自然なコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。中級後半～中上級レベルの慣用表現・句型などを習得し、高度な内容を理解し、自分の意見を正確に伝えることができます。様々なテーマをとりあげ、実践的な会話力を身につけます。

【授業計画】

第1回	ガイダンス	
第2回	第1課 場面：インタビューする	表現：「尊敬・条件・意図」
第3回	第1課 場面：インタビューする	表現：「尊敬・条件・意図」
第4回	第2課 場面：自己紹介をする	表現：「説明・時間の経過・動作の順序」
第5回	第2課 場面：自己紹介をする	表現：「説明・時間の経過・動作の順序」
第6回	第3課 場面：きまりを言う	表現：「義務・命令・許可・禁止」
第7回	第3課 場面：きまりを言う	表現：「義務・命令・許可・禁止」
第8回	中間まとめ	
第9回	第4課 場面：約束をする	表現：「用言の連体形・理由・決心」
第10回	第4課 場面：約束をする	表現：「用言の連体形・理由・決心」
第11回	第5課 場面：道案内をする	表現：「交通手段・動作の順序」
第12回	第5課 場面：道案内をする	表現：「交通手段・動作の順序」
第13回	第6課 場面：観想を言う	表現：「用言の連体形・経験・状況説明」
第14回	第6課 場面：観想を言う	表現：「用言の連体形・経験・状況説明」
第15回	前期のまとめテスト	

【授業の進め方】

課ごとに①文法事項②句型練習問題③語彙④本文⑤ペアワーク練習⑥まとめの流れで進めていきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

『ちょこっとチャレンジ!韓国語』金順玉・阪堂千津子・崔榮美著/白水社、2400円+税

【参考図書】

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷幸利 他(編)、小学館

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 30% 受講態度 20%

特記事項

授業内小試験：記述試験

課題：各課の練習問題を課題として提出

受講態度：授業への参加度、貢献度等で評価します。

【履修上の心得】

楽しく、活気のある授業をするために積極的に参加しましょう。授業中は日本語ではなく、なるべく韓国語をたくさん発話しましょう。毎回、教科書の練習問題は課題として提出してください。

【科目のレベル、前提科目など】

受講対象者は、次のいずれかの条件を満たしている人です。

- ①「韓国語Ⅱ」科目履修者(中級前半レベルまで履修)
- ②韓国短期語学研修経験者
- ③①、②に準ずる学習条件を備えている人。

科目名	韓国語ⅢB
	韓国語中上級会話
教員名	盧 玫周

【授業の内容】

韓国語ⅢAに引き続き、中・上級韓国語の文法項目、語彙の定着を図って、より豊かな会話ができるようにしていきます。また、初級、中級の文法項目も随時確認しながら、さらなる語彙、文型、表現とともに会話力を養います。

【到達目標】

韓国語で会話をする機会を設け、自然なコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。中級後半～中上級レベルの慣用表現・文型などを習得し、高度な内容を理解し、自分の意見を正確に伝えることができます。様々なテーマをとりあげ、実践的な会話力を身につけます。

【授業計画】

第1回	前期の復習		
第2回	第7課	場面：買い物をする	表現：「依頼・勧誘・アドバイス」
第3回	第7課	場面：買い物をする	表現：「依頼・勧誘・アドバイス」
第4回	第8課	場面：プレゼントする	表現：「根拠・感嘆・推測」
第5回	第8課	場面：プレゼントする	表現：「根拠・感嘆・推測」
第6回	第9課	場面：体の具合を言う	表現：「尊敬・不可能・時間表現」
第7回	第9課	場面：体の具合を言う	表現：「尊敬・不可能・時間表現」
第8回	中間まとめ		
第9回	第10課	場面：勉強の仕方話す	表現：「傾向・同時動作・事柄」
第10回	第10課	場面：勉強の仕方話す	表現：「傾向・同時動作・事柄」
第11回	第11課	場面：伝聞	表現：「間接話法」
第12回	第11課	場面：伝聞	表現：「間接話法」
第13回	第12課	場面：思い出を話す	表現：「過去回想連体形・結果/発見・状態の変化」
第14回	第12課	場面：思い出を話す	表現：「過去回想連体形・結果/発見・状態の変化」
第15回	後期のまとめテスト		

【授業の進め方】

課ごとに①文法項目②文型練習問題③語彙④本文⑤ペアワーク練習⑥まとめの流れで進めていきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①ちよこつとチャレンジ!韓国語 ②金順玉・阪堂千津子・崔榮美著 ③白水社 ⑤2400円+税

【参考図書】

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷 幸利 他(編)、小学館

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 30% 受講態度 20%

特記事項

授業内小試験：記述試験

課題：各課の練習問題を課題として提出

受講態度：授業への参加度、貢献度等で評価します。

【履修上の心得】

楽しく、活気のある授業をするために積極的に参加しましょう。授業中は日本語ではなく、なるべく韓国語をたくさん発話しましょう。毎回、教科書の練習問題は課題として提出してください。

【科目のレベル、前提科目など】

受講対象者は、次のいずれかの条件を満たしている人です。

- ①「韓国語Ⅱ」科目履修者(中級前半レベルまで履修)
- ②韓国短期語学研修経験者
- ③①、②に準ずる学習条件を備えている人。

科目名	歴史学A
	文化から歴史を〈思考する〉
教員名	上安 祥子

【授業の内容】

情報は、人や書物などに媒介され、運ばれるだけではない。人と人とが、情報に媒介され、社会的な関係をつくりあげていく、という側面がある。この授業では、江戸時代から明治時代を特徴づける文化的動向をとりあげ、それらが発信する情報に媒介されて生みだされる、関係の諸相や社会の近代化を読み解いていく。その作業を通じて、政治的な事件を追うことによってではなく、文化から歴史を〈思考する〉視点を学ぶ。

【到達目標】

授業でとりあげたさまざまな文化的動向やそれらにまつわる情報が、人と人とをどのように結びつけたか、またどのような社会的志向や変化を生み出していったか、を具体的な例をあげ、事実をふまえて説明できる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 近世人の〈世界〉認識
- 第3回 オランダ商館に集う人びと
- 第4回 長崎屋に集う人びと
- 第5回 「素人」、地図を売る
- 第6回 伊勢参り、そのついでにどこへ行く？
- 第7回 凝り性な殿たち
- 第8回 殿のトレードマークが流行に？
- 第9回 花を育てる人びと
- 第10回 借楽園主人とは誰か
- 第11回 公園とpublic garden
- 第12回 その辞書に、publicは載っているか？
- 第13回 身体の近代
- 第14回 時間意識の変容
- 第15回 国楽の模索

【授業の進め方】

- * 次回の授業内容に関して予習課題を出すので、簡略に答えられるように(指名する)準備をして、授業に出席すること。準備した答えが、修正を必要とする内容であっても、成績評価には関係ない。
- * 講義形式だが、受講者に質問を投げかけ、発言を求めることもある。
- * 文献史料は、授業時間内に内容を理解できるよう、原文には読み下し文を併記して配布レジュメに記載する。
- * 取り扱う史料は、文献だけではなく、地図や植物画・動物画などもあり、適宜、画像を映写する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

テキストはなし。レジュメを配布する。

【参考図書】

授業のなかで、適宜紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 55% 授業内小試験 0% レポート・課題 45% 受講態度 0%

特記事項

◆定期試験について◆

- * 形式など、詳細は、試験期間が近付いたら、授業のなかで説明する。

◆レポート・課題について◆

- * 毎授業、小レポートを提出。
- * 小レポートは毎回、授業の最後の10分程度をつかって、その日の授業内容に関して論述(60~100字程度)。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- * 欠席が、全授業回数の3分の1をこえた場合は、評価の対象外とする。
- * やむを得ない理由であっても、欠席が全授業回数の2分の1以上になれば、評価の対象外。

【履修上の心得】

予習課題、あるいは授業で扱う史料から読み取れることなど、諸君に発言を求めた際、「わかりません」という答えはしないように、予習として指示されたものについては、しっかり準備しておくこと。その場で考えるものについては、間違えることをおそれたりためらったりせず、はっきり意見を述べること。

【科目のレベル、前提科目など】

歴史学は、個々の出来事が起きた年月や関係者の名前、用語などを〈覚える〉ことを目的とする学問ではない。それらの出来事がなぜ起きたのか、なぜそのような結果に至ったのか、を〈思考する〉学問である。これまでの学習経験のなかで、〈覚える〉ことに焦点を合わせてしまっていたという諸君も、あるいはまた、それが得意ではなかったという諸君も、大歓迎。一緒に、歴史を思考する体験をしよう。

科目名	歴史学A
	現代の歴史
教員名	清水 正義

【授業の内容】

法学部であれ他のどの学部であれ専門学習をするにあたり現代史に関する知識は不可欠である。この授業では高校現代社会、高校世界史、高校日本史、高校政治経済などの知識を土台にそれを復習し、さらに深めるための講義を行う。講義は通年で行い、歴史学Aは帝国主義時代から第二次世界大戦までの70年間を、歴史学Bでは第二次世界大戦以後現在までの70年間を扱う。ただし歴史学AとBの講義は独立したものとし、受講生は両方受講しても、またいずれかひとつを受講しても構わない。歴史学Aでは19世紀末の帝国主義時代から第二次世界大戦の終結までの時代を扱うが、この時代はヨーロッパ列強のアジア、アフリカへの進出に始まり、植民地経営と新たな植民地獲得をめぐる列強間の対立が世界史上初の世界大戦に結果し、その戦後処理をめぐる争いからヨーロッパで新たな火種が生まれ、さらにアジア、アフリカ諸地域における民族独立と自立をめぐる動きが諸地域の政治統合と紛糾を生み出すなかで最終的に第二次世界大戦につながっていく。ヨーロッパでは戦後のEU統合に向けた苦い教訓を得た時代であり、またアジアでは次代の独立と自立に向けた揺籃の時代である。この時期のさまざまな経験が第二次世界大戦以後の現在にまで大きな影響を与えており、その遺産の上に現在がある。講義は通史の形をとるが70年間の短い歴史であっても世界の諸地域で生じた事態を綿密に追うのは困難であり、どうしてもエッセンスだけの講義になる。しかもそのエッセンスの多くは基本的には高校世界史で触れられている。ただその内容を正確に理解していない、あるいは理解できるほど学習していないというのが現状であろうから、この授業では高校世界史の焼き直しという批判を覚悟で敢えて基本的な事項を繰り返して講義することになる。それが嫌な人、必要ないという人には不向きな授業であり、受講の必要はない。

【到達目標】

- 現代史の大きな流れについて理解するとともに現代の諸問題について知見を深める。
- 諸地域の現代史を理解し、それぞれの地域の今後の展望について考えられるようにする。
- 現代史上の人物について関心を持ち、自分で調べてみることを。
- 現代歴史学の持っている課題について共感をもって確かめること。

【授業計画】

- 第1回 1、帝国主義時代の開幕 植民地獲得の歴史と帝国主義の定義についての基本用語（授業中に指示、以下同）を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第2回 2、第一次世界大戦 その要因と展開 第一次世界大戦の経過と事件についての基本用語を調べレポート用紙にまとめる（60分）
- 第3回 3、パリ講和会議とヴェルサイユ講和体制 ヴェルサイユ条約の基本的内容について調べレポート用紙にまとめる（60分）
- 第4回 4、1920年代のヨーロッパ 賠償問題と安全保障 20年代の相対的安定期の重要史実について調べレポート用紙にまとめる（60分）
- 第5回 5、アメリカの1920年代 共和党政権期の重要政策についての基本用語を調べレポート用紙にまとめる（60分）
- 第6回 6、ソ連社会主義の旅立 ロシア革命以後のソ連史の重要事項について調べレポート用紙にまとめる（60分）
- 第7回 7、民族自決権と東ヨーロッパの民族運動 ヴェルサイユ体制下の東ヨーロッパ諸国の自立と政治体制について調べレポート用紙にまとめる（60分）
- 第8回 8、アジアの民族自立運動1 中国と朝鮮 半植民地中国の民族自立運動と日本による植民地支配を受けた朝鮮半島における植民地の実態についての基本用語を調べレポート用紙にまとめる（60分）
- 第9回 9、アジアの民族自立運動2 インドと中東 インドの植民地化の基本事実と戦間期の独立運動についての基本用語を調べレポート用紙にまとめる（60分）
- 第10回 10、世界大恐慌とその余波 大恐慌の原因と経過、その後の政治的事態について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第11回 11、ファシズムの台頭 イタリアとドイツ ムソリーニのファシズム運動とヒトラーのナチズム運動についての基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第12回 12、ファシズムの台頭 日本 昭和恐慌以後の日本政治のファシズム化の流れについて基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第13回 13、第二次世界大戦前夜の国際政治 ナチス・ドイツの攻勢的外交政策の展開と英仏など諸列強の対抗政策について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第14回 14、第二次世界大戦の勃発と展開 第二次世界大戦の勃発にいたる事情と大戦の経過について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第15回 15、第二次世界大戦の意義と戦後世界への展望 大戦中の国際関係と戦後体制の準備について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）

【授業の進め方】

通常の講義の形態をとる。現代史のアウトラインを確認し、重要な史実を記憶し、その意味を考える。講義前の予習として重要用語を調べてレポート用紙にまとめ、毎回の授業の際に提出する。予習したことについては知識があるもの

として、それを前提に講義を行う。授業後に授業内容を再確認する作業を行い、復習は毎回の授業の直後と定期試験の前に行うことを推奨する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

テキストは使用しないが、毎回、授業内容についてのハンドアウトを配布する。

【参考図書】

参考文献は授業中に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 30% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

授業中の小テストと定期試験で成績を評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

講義への欠席が目立つ場合は失格とする。

【履修上の心得】

高校世界史の出来がこの講義の理解に大いに関係するであろうが、この授業は世界史が得意でなかった人にとくに受講してもらいたい。世界史が得意で、よく知っているという人には向いていないし、履修する必要はない。高校の歴史と大学の歴史とで扱う対象に差があるわけではないし、歴史の学習は基本に忠実に、重要事実をこまめに理解することである。面白い話を聴きたいという人は期待はずれに終わる。

【科目のレベル、前提科目など】

この講義は現代史に特化して歴史の基本線を追うものである。歴史全般、世界史全般について扱うものではない。教養科目の日本史概論、外国史概論、専門科目の西洋政治史、日本政治史などの受講が望ましい。

科目名	歴史学B
	〈つながり〉を考える
教員名	上安 祥子

【授業の内容】

災害や救済活動を軸に、人と人がどうつながっていたか、またいかにつながろうとしたか、ということを経世から近代の歴史に問いかけ、その諸相をたどっていく。言い換えれば、〈公共性〉への志向や試行を模索する過程を解き明かし、結果として実現した事柄だけではなく、可能性も含めて考察する、ということである。それは、現代社会をどう変えていくことができるのか、そのこたえを考える、導きのひとつになるはずである。

【到達目標】

授業でとりあげたさまざまな〈つながり〉について、いかなる社会的現実から形成され、選択されるにいたったか、そして、どのように社会にはたらきかけ、どのように社会を変えていったか、あるいは変えていこうとしたか、を事実をふまえて説明できる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 『犬方丈記』が運んだもの
- 第3回 闘う村民
- 第4回 奮闘する関東郡代
- 第5回 施行する人びと
- 第6回 ある名主の苦悩
- 第7回 「めんめんこう」とはなにか
- 第8回 「奇特」な人びと
- 第9回 「飢饉体質」と幕府法令
- 第10回 「一己」と「天下」
- 第11回 七分積金と江戸の町会所
- 第12回 鯰絵の世界観
- 第13回 東京の町会所と七分積金のゆくえ
- 第14回 新平さんの大風呂敷
- 第15回 男爵のバラック

【授業の進め方】

- * 次回の授業内容に関して予習課題を出すので、簡略に答えられるように(指名する)準備をして、授業に出席すること。準備した答えが、修正を必要とする内容であっても、成績評価には関係ない。
- * 講義形式だが、受講者に質問を投げかけ、発言を求めることもある。
- * 文献史料は、授業時間内に内容を理解できるよう、原文には読み下し文を併記して配布レジュメに記載する。
- * 適宜、画像資料を映写する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

テキストはなし。レジュメを配布する。

【参考図書】

授業のなかで、適宜紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 55% 授業内小試験 0% レポート・課題 45% 受講態度 0%

特記事項

◆定期試験について◆

- * 形式など、詳細は、試験期間が近付いたら、授業のなかで説明する。

◆レポート・課題について◆

- * 毎授業、小レポートを提出。
- * 小レポートは毎回、授業の最後の10分程度をつかって、その日の授業内容に関して論述(60~100字程度)。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- * 欠席が、全授業回数の3分の1をこえた場合は、評価の対象外とする。
- * やむを得ない理由であっても、欠席が全授業回数の2分の1以上になれば、評価の対象外。

【履修上の心得】

予習課題、あるいは授業で扱う史料から読み取れることなど、諸君に発言を求めた際、「わかりません」という答えはしないように、予習として指示されたものについては、しっかり準備しておくこと。その場で考えるものについて

は、間違ふことをおそれたりためらったりせず、はっきり意見を述べること。

【科目のレベル、前提科目など】

歴史学は、個々の出来事が起きた年月や関係者の名前、用語などを〈覚える〉ことを目的とする学問ではない。それらの出来事がなぜ起きたのか、なぜそのような結果に至ったのか、を〈思考する〉学問である。これまでの学習経験のなかで、〈覚える〉ことに焦点を合わせてしまっていたという諸君も、あるいはまた、それが得意ではなかったという諸君も、大歓迎。一緒に、歴史を思考する体験をしよう。

科目名	歴史学B
	戦後国際政治史の展開
教員名	清水 正義

【授業の内容】

第二次世界大戦後の現代史を概観する。第二次世界大戦の終結の仕方そのまま戦後国際政治の枠組を決定した。ヤルタ、ポツダム体制は敗戦国ドイツ、日本の戦後史を規定したし、国際連合とブレトン・ウッズ体制は戦勝国による戦後国際体制の枠組を形成した。戦争中に明らかになった米ソ対立は戦後冷戦体制として40年間にわたり国際政治を規定し、核兵器を中心とする軍拡競争を準備した。一方、欧米列強の植民地支配が続いたアジア・アフリカ諸国は50年代から60年代にかけて相次いで政治的独立を果たしたが、その後の経済建設に苦しみ、独裁体制や軍事体制が続いた。ヴェトナム戦争は植民地民衆の抵抗運動の象徴となった。転機は70年代から80年代にかけて訪れる。石油戦略に象徴される「南」の国の反転攻勢に続き、東アジア、東南アジア、ラテンアメリカなどで中進国の台頭が見られ、先進国の側では深刻な経済的不振と、その解決策としての新自由主義的な動きが強まった。社会主義圏での経済停滞と官僚体制は人々の批判を生み、次々と体制が転覆された。東西対立の終焉は冷戦体制のなかで抑止されていた諸地域の矛盾を明るみに出した。旧ユーゴスラヴィア紛争、湾岸戦争はその典型である。21世紀に入り、9・11テロはイスラム原理主義勢力の絶望的な抵抗の姿を示し、テロ対反テロの世界的抗争は現在も続いている。講義ではこうした戦後国際政治の動向をいくつかの論点に絞って解説し、現代史を大づかみに把握する。

【到達目標】

- 現代史の大きな流れについて理解するとともに現代の諸問題について知見を深める。
- 諸地域の現代史を理解し、それぞれの地域の今後の展望について考えられるようにする。
- 現代史上の人物について関心を持ち、自分で調べてみることを。
- 現代歴史学の持っている課題について共感をもって確かめること。

【授業計画】

- 第1回 1、第二次世界大戦の終結と諸地域 ヤルタ・ポツダム体制と敗戦国の戦後処理について基本用語（授業中に指示、以下同）を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第2回 2、冷戦の開始 第二次世界大戦後の政策対立と封じ込め政策の展開について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第3回 3、核兵器の歴史と核軍拡 核軍拡の実態と核抑止論の考え方について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第4回 4、核軍縮 核実験停止、核拡散防止、核弾頭と搭載手段の削減について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第5回 5、ベトナム戦争の衝撃 東南アジアの植民地と脱植民地化及びそれに対するアメリカの世界戦略について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第6回 6、中国現代史の問題 文化大革命と改革開放 中国革命と社会主義建設の問題点について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第7回 7、「イスラム」の台頭 イスラム教の基本的考え方とイラン革命以後のイスラム原理主義の展開について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第8回 8、社会主義体制の動揺 ペレストロイカの展開と帰結について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第9回 9、新しい保守主義の台頭 1980年代以降の新自由主義的政策展開について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第10回 10、冷戦の終結とベルリンの壁崩壊 東ヨーロッパの動揺と東西ドイツ統一にいたる過程について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第11回 11、地域紛争の噴出 湾岸戦争 冷戦以後の地域紛争の噴出について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第12回 12、地域紛争の噴出 ユーゴスラヴィア紛争 東欧地域の民族問題の問題性と民族浄化の実相について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第13回 13、9・11テロと国際政治 21世紀初頭の同時多発テロの背景、経過、影響について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第14回 14、「反テロ」戦争 9・11テロ事件以後の有志連合による反テロ戦争の展開について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第15回 15、国際関係と東アジア 冷戦以後の東アジア国際政治の変化と課題について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）

【授業の進め方】

通常の講義の形態をとる。現代史のアウトラインを確認し、重要な史実を記憶し、その意味を考える。講義前の予習として重要用語を調べてレポート用紙にまとめ、毎回の授業の際に提出する。予習したことについては知識があるものとして、それを前提に講義を行う。授業後に授業内容を再確認する作業を行い、復習は毎回の授業の直後と定期試験の前に行うことを推奨する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

テキストは使用しないが、毎回、授業内容についてのハンドアウトを配布する。

【参考図書】

参考文献は授業中に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 30% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

授業内の小テストと定期試験の成績とを加味して成績評価を行う。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

講義への欠席が目立つ場合は失格とする。

【履修上の心得】

高校世界史の出来がこの講義の理解に大いに関係するであろうが、この授業は世界史が得意でなかった人にとくに受講してもらいたい。世界史が得意で、よく知っているという人には向いていないし、履修する必要はない。高校の歴史と大学の歴史とで扱う対象に差があるわけではないし、歴史の学習は基本に忠実に、重要事実をこまめに理解することである。面白い話を聴きたいという人は期待はずれに終わる。地域を限定せずに問題ごとにまとめていく。全世界を対象にするので、いろいろな諸地域に対する関心を持ってもらいたい。

【科目のレベル、前提科目など】

この講義は現代史に特化して歴史の基本線を追うものである。歴史全般、世界史全般について扱うものではない。教養科目の日本史概論、外国史概論、専門科目の西洋政治史、日本政治史などの受講が望ましい。

科目名	日本史概論
教員名	上安 祥子

【授業の内容】

教員免許取得に関する科目である、という点を重視し、日本史を学ぶうえで修得するべき、基本的な事項の確認、時代の流れを把握すること、に焦点をあてる。

【到達目標】

日本史の基礎的知識を修得する。

【授業計画】

第1回 ガイダンス&原始社会－旧石器時代・縄文時代

【予習】

初回のため、なし。

【復習】

配布プリントの空欄補充問題を見直し、各時代の特徴を確認する。(60分程度)

第2回 邪馬台国連合の王－弥生時代・古墳時代

【予習】

前回配布プリントに記載した空欄補充問題。(30分程度)

【復習】

①配布プリントの空欄補充問題と史料を見直す。(60分程度)

②第2回授業で取り扱ったある人物について、さまざまな年代の人(数人程度)に、どのような人物であると認識しているか、それはどのような学習経験にもとづいているか、をリサーチし、その内容をまとめる。(60分程度)

→②のリサーチ方法は、メールなどではなく、直接会話すること。

→②は提出。

第3回 継体朝の意味、天武朝の意義－古墳時代・飛鳥時代

【予習】

前回配布プリントに記載した空欄補充問題。(30分程度)

【復習】

①配布プリントの空欄補充問題と史料を見直す。(60分程度)

②前回実施の授業内小試験を見直す。(30分程度)

→(授業内小試験の問題&解答は、次回配布のプリントに印刷)

第4回 大仏を造る理由、「軍事」と「造作」を止める理由－奈良時代・平安時代

【予習】

前回配布プリントに記載した空欄補充問題。(30分程度)

【復習】

①配布プリントの空欄補充問題と史料を見直す。(60分程度)

②前回実施の授業内小試験を見直す。(30分程度)

第5回 摂関政治の推移と院政の開始、武士の登場－平安時代

【予習】

前回配布プリントに記載した空欄補充問題。(30分程度)

【復習】

①配布プリントの空欄補充問題と史料を見直す。(60分程度)

②前回実施の授業内小試験を見直す。(30分程度)

第6回 頼朝が目指した政権、北条氏が目指した政権－鎌倉時代

【予習】

①前回配布プリントに記載した課題。(30分程度)

②①について、さまざまな年代の人(数人程度)に、何年であると学習したか、リサーチし、その内容をまとめる。(60分程度)

→リサーチ方法は、メールなどではなく、直接会話すること。

→この課題は【復習】の③とあわせて提出。

【復習】

①配布プリントの空欄補充問題と史料を見直す。(60分程度)

②前回実施の授業内小試験を見直す。(30分程度)

③授業内容をふまえて、予習課題①について、自分の意見をまとめて提出。(60分程度)

→この課題は【予習】の②とあわせて提出。

第7回 1392年の東アジア－南北朝時代・室町時代

【予習】

前回配布プリントに記載した空欄補充問題。(30分程度)

- 【復習】**
 ①配布プリントの空欄補充問題と史料を見直す。(60分程度)
 ②前回実施の授業内小試験を見直す。(30分程度)
- 第8回 「下克上」と「天下」、「将軍」の誕生－戦国時代・安土桃山時代・江戸時代
- 【予習】**
 前回配布プリントに記載した空欄補充問題。(30分程度)
- 【復習】**
 ①配布プリントの空欄補充問題と史料見直す。(60分程度)
 ②前回実施の授業内小試験を見直す。(30分程度)
- 第9回 「国益」の追求、「天下之貯」の模索－江戸時代
- 【予習】**
 前回配布プリントに記載した空欄補充問題。(30分程度)
- 【復習】**
 ①配布プリントの空欄補充問題と史料を見直す。(60分程度)
 ②前回実施の授業内小試験を見直す。(30分程度)
- 第10回 御所千度参りの波紋と公議輿論－江戸時代
- 【予習】**
 前回配布プリントに記載した空欄補充問題。(30分程度)
- 【復習】**
 ①配布プリントの空欄補充問題を史料を見直す。(60分程度)
 ②前回実施の授業内小試験を見直す。(30分程度)
- 第11回 「大日本帝国」の成立－明治
- 【予習】**
 前回配布プリントに記載した空欄補充問題。(30分程度)
- 【復習】**
 ①配布プリントの空欄補充問題を見直す。(60分程度)
 ②前回実施の授業内小試験を見直す。(30分程度)
- 第12回 しみあわない自主－明治
- 【予習】**
 前回配布プリントに記載した空欄補充問題。(30分程度)
- 【復習】**
 ①配布プリントの空欄補充問題を見直す。(60分程度)
 ②前回実施の授業内小試験を見直す。(30分程度)
- 第13回 ひきずられる国論－明治・大正・昭和
- 【予習】**
 前回配布プリントに記載した空欄補充問題。(30分程度)
- 【復習】**
 ①配布プリントの空欄補充問題と史料を見直す。(60分程度)
 ②前回実施の授業内小試験を見直す。(30分程度)
- 第14回 開戦しない論理、開戦する論理－昭和
- 【予習】**
 前回配布プリントに記載した空欄補充問題。(30分程度)
- 【復習】**
 ①配布プリントの空欄補充問題と史料見直す。(60分程度)
 ②前回実施の授業内小試験を見直す。(30分程度)
- 第15回 「戦後」から「ポスト戦後」へ－昭和・平成
- 【予習】**
 前回配布プリントに記載した空欄補充問題。(30分程度)
- 【復習】**
 ①配布プリントの空欄補充問題と史料を見直す。(60分程度)
 ②前回実施の授業内小試験を見直す。(30分程度)

※各回の授業タイトルは、中心となるトピックスをあらわしている。

【授業の進め方】

- * 予想される受講人数とそれに見合う教室の形態の都合で、基本的に講義形式だが、アクティブ・ラーニングの観点から、受講者に質問を投げかけ、発言を求めることもある。その質問は、基本的な語句など唯一の正解があるものを問うこともあれば、決して一つではないはずの、“発見”や“意見”など、やはりアクティブ・ラーニングの観点から、予習や復習課題で行う調査やディスカッションの内容を問うこともある。
- * 第2回目以降毎回、授業の最後の10～15分程度をつかって、授業内小試験を実施する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

テキストはなし。レジュメを配布する。

【参考図書】

『シリーズ 日本古代史』(全6冊、岩波新書、2010～2011年)、『シリーズ 日本中世史』(全4冊、岩波新書、2016年)、『シリーズ 日本近世史』(全5冊、岩波新書、2015年)、『シリーズ 日本近現代史』(全10冊、岩波新書、2006～2010年)。
※その他、授業のなかで、適宜紹介するものが、毎回複数ある。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 30% レポート・課題 20% 受講態度 0%

特記事項

◆授業内小試験について◆

- * 第2回以降実施。
- * 基本的には、その日の授業で取り扱った内容から、空欄補充問題を数問程度出題。
- * 各自の意見など、記述問題を追加する場合もある。

◆レポート・課題について◆

- * 第2回の復習課題と、第6回の予習&復習課題を提出。

◆定期試験について◆

- * 形式など、詳細は、試験期間が近付いたら、授業のなかで説明する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- * 欠席が、全授業回数の3分の1をこえた場合は、評価の対象外とする。
- * やむを得ない理由であっても、欠席が全授業回数の2分の1以上になれば、評価の対象外。

【履修上の心得】

- * 予習課題は、授業の理解度を高めるための、予備知識や関心をもつためのものである。内容は、各自、個人で調査する課題もあれば、複数人数で作業したり、意見を出し合ったりするような課題もある。是非、積極的に取り組んで、授業に出席してもらいたい。
- * 予想される受講者数からすると、全員が発言するのは難しいと思われるが、授業のなかで、諸君に発言を求めた際、間違えることをおそれたりためらったりせず、はっきり意見を述べること。
- * 授業でとりあげるトピックスは日本史を学ぶ“手引き”ととらえ、参考文献を読み進めて復習に役立てるとともに、理解を深める努力もしてもらいたい。とりわけ、教員免許取得を目指して履修する諸君は、将来、教え導く立場に立つことを自覚し、予習・復習にも積極的に取り組んでほしい。

科目名	外国史概論
	主要諸国の近現代史
教員名	清水 正義

【授業の内容】

外国史を学ぶ意義は、諸外国の文化や社会、政治制度、国民性、国民意識などを歴史を通じて知り、それらを尊重し、日本と世界の関係についての理解を深め、日本人として国際社会に生きていくにふさわしい知見を得ることにある。この講義では諸外国の近現代史の概略と世界史の流れや世界の一体化の進展について基礎的な事実関係を学ぶ。その際、諸外国の出来事が何らかの意味で日本社会の形成に影響を与えているという相互関連性を重視し、講義においてもそういった問題を特筆するよう心がける。もっとも、そうは言っても諸外国の歴史それ自体についての深い認識を経ずに日本との関係だけを追い求めても一知半解の知識で誤解を生むものになる。従ってこの講義では外国の歴史をそれとして追っていくことを厭わずに行いたい。ただ、外国というのは日本以外のすべての国のことだから、外国史とは日本以外の国の歴史すべてということになる。その概略であっても膨大な量になる。中学高校段階での歴史や世界史などの授業では諸外国の歴史のうち特筆すべき重要な事件、人物、歴史の流れなどを学習する。この授業では中高段階での世界史の知識を土台に、いくつかの「外国」をとりあげてその近現代史の流れを概観する。国民国家ごとに「外国」を分断して論じることの利点は、歴史の流れのまとまりのよさ、分かりやすさにある。しかしこのことは同時に諸地域の歴史の共時性を犠牲にし、今日存在する「国家」の正当性を証明するために歴史を使う危険をも内包する。歴史というものとは単なる知識ではなく、常に「今日」の正当化証明に使われる。それが歴史の強みであり、また歴史の危険性でもある。この講義ではそれを意識に置いた上で、諸外国の歴史をあえて分節的に扱う。世界を諸地域に分け、そのなかにある「外国」のうち何ヶ国かを対象に、その近現代史を略述する。履修者は講義でとりあげた諸国の近現代史に関する知識を駆使して、現代世界のあり方を理解するための一助としてもらいたい。

【到達目標】

- 世界の諸国家の近現代史についての基本的な知識を得る。
- 諸国家互の交流、発展について理解史、世界の一体化について学ぶ。
- 世界史学の基本的な概念について理解する。
- 世界史を構成する制度、思想、芸術活動について理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 1、EU諸国 イギリス 2つの島と4つの国 イギリスとヨーロッパ諸国との関係に留意し、とくにBREXIT（EU離脱）にいたるイギリス国内の政治社会情勢についてグローバルゼーションとの関連で考えさせる。講義概要を配布し、重要人物、用語などについて確認させる（60分）。
- 第2回 2、EU諸国 フランス 市民革命後の社会建設 フランスにおける個人と社会、家族と結婚との関係を取りあげ、フランス人にとっての家族関係を日本との比較において考えさせる。講義概要を配布し、重要人物、用語などについて確認させる（60分）。
- 第3回 3、EU諸国 ドイツ 領邦分立主義とふたつの世界大戦 勤勉国家ドイツに学ぶといった風潮が強いなか、ドイツ人の一般的な特徴とか国民性とかいった側面を考えるとともに、ドイツ史の負の遺産とその克服について日本との対比において考えさせる。講義概要を配布し、重要人物、用語などについて確認させる（60分）。
- 第4回 4、東欧諸国 ロシア 帝政から社会主義、そして今 ソ連とロシアの現代史を振り返りながら、とくに日本との関係を念頭に、北方領土交渉の現状と日本の立場を前提に、ロシア側がどう対応するのか考えさせる。講義概要を配布し、重要人物、用語などについて確認させる（60分）。
- 第5回 5、東欧諸国 西と「東」とのはざま 両隣に強大な国家が存在する場合の国の外交のあり方を東欧諸国の歴史の中から考えさせる。講義概要を配布し、重要人物、用語などについて確認させる（60分）。
- 第6回 6、アメリカ 独立革命から第一次世界大戦まで 移民の国の人種差別問題をインディアン戦争から黒人奴隷問題、帝国主義時代以降のアメリカ対外進出の歴史の中から考えさせる。講義概要を配布し、重要人物、用語などについて確認させる（60分）。
- 第7回 7、アメリカ 第一次世界大戦から現代まで 統規制の困難さとアメリカ的事情について憲法修正第2条問題も含めて何がこの問題の背景にあるのかを考えさせる。講義概要を配布し、重要人物、用語などについて確認させる（60分）。
- 第8回 8、アジア 中国 戦後中国の政治と社会 世界的経済大国になった中国の現代史を考え、超大国中国の将来は未だ不鮮明であることに気づかせ、この国の将来のあり方について日本との関連を念頭に考えさせる。講義概要を配布し、重要人物、用語などについて確認させる（60分）。
- 第9回 9、アジア 韓国 朝鮮近代史の流れ 韓国と日本との関係の難しさについて歴史的に考え、今とは異なる関係のあり方について模索させる。講義概要を配布し、重要人物、用語などについて確認させる（60分）。
- 第10回 10、アジア インドという世界 インドにおけるカーストと女性差別に注目し、中世末以来存続する社会制度と差別の根源について考えさせる。講義概要を配布し、重要人物、用語などについて確認させる（60分）。
- 第11回 11、イスラム圏 イスラム社会の成立と展開 イスラムが世界的に拡大している背景のひとつとして、そもそもイスラムが世界的に広まった背景を考えさせる。講義概要を配布し、重要人物、用語などについて確認させる（60分）。
- 第12回 12、イスラム圏 現代イスラム諸国の諸問題 どうしてテロが起こるのかはイスラムという宗教の問題ではなく社会経済の問題であることを押さえながら、今日のイスラム諸国の諸問題を考えさせる。講義概要を配布

し、重要人物、用語などについて確認させる（60分）。

- 第13回 13、南米 現代南米諸国の政治と社会 スペイン、ポルトガルによる植民地支配の残滓と独裁とポピュリズムの国家の歴史を考察し、民主化の行方を考えさせる。講義概要を配布し、重要人物、用語などについて確認させる（60分）。
- 第14回 14、アフリカ 現代アフリカの政治と社会 最貧大陸からの脱皮はどうやって行えるか、アフリカの地域的偏差を交えながら考察し、日本のような国や国民の役割などについて考えさせる。講義概要を配布し、重要人物、用語などについて確認させる（60分）。
- 第15回 15、現代世界史論 グローバリゼーションの歴史と現況 グローバリゼーションはどこまで進むか、何を導くかを考えさせる。講義概要を配布し、重要人物、用語などについて確認させる（60分）。

【授業の進め方】

課題解決学習の視点から受講生に対しては各国、各地域の固有の問題性を認識させたいと、それらの問題がどのような歴史的状況の中で生じてきたのか、また、それを踏まえて現代社会にどのような課題が提起されているか、その解決はどのように求められているか、日本国民としての自分たちの課題は何かといった視点を考えさせる。外国を直接体験するのは難しいが、世界各地域の情報は書籍やインターネットなどで豊富に得られるので、それらを駆使して外国経験を擬似的に行う体験学習を試みる。当該国の歴史と現状、言葉、習慣、観光地と歴史的記念地、歴史的建造物などを調べ、ICTを活用してプレゼンテーションをする課題も授業の中で行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

テキストはなし。授業各回に講義内容の概要と覚えるべき事項、考えるべき問題点などをまとめた資料を配付する。

【参考図書】

柴田三千雄、木谷勤『世界現代史』山川出版社、1985年
山川出版社『世界各国史』シリーズ（全37巻）のうち授業で扱う諸国に該当する巻

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 30% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

授業時に何回か小テストを行う。小テストは授業内容を基礎にしつつ高校世界史程度の外国史に関係するものも含む。授業内小テストと定期試験を加味して成績を評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

講義への欠席が目立つ場合は失格とする。

【履修上の心得】

歴史学とは暗記のことだと考えている人が多いと思う。確かにそれは違う。しかし歴史的感觉を持つためには、一定の歴史的知識を頭の中に入れておかないでは話にならない。暗記もまた必要だ。そこで外国の地名、人名、事件名など非常に基本的なものはなるべく紹介して覚えてもらうようにしたい。受講生はひとたびは高校生（受験生）に戻ったつもりで、歴史の勉強をしてもらうことになる。

【科目のレベル、前提科目など】

この授業は教養の外国史であり、この程度は知っておいてもらいたいという内容のものである。高校で歴史が得意で、今更という人は受講する必要性は薄い、歴史の物語を聞くのが好きという人には向いている。本講義をさらにヨーロッパ全域に広げて論じたものが専門科目の西洋政治史である。

科目名	地理学A
	自然環境（身近な地形・世界の気候）と人口問題
教員名	奥澤 信行

【授業の内容】

「地理学」を中学校で学んだ「地理」と同じように、地名や統計の暗記だけの無味乾燥な科目と考えている諸君も多いと思う。しかし「地理学」は、地表面でみられる自然現象や社会現象を多方面から分析することで、その現象の展開される空間（地域）の特殊性を明らかにし、さらに成立要因を考察することを目的としている。したがって決して暗記のみで理解できる学問ではないのである。本講では「地域の存立要因は何か？」ということを中心に置きながら、地理学的なものを見方や考え方を論じてみたい。

【到達目標】

授業では栃木県および関東地方にみられる地理的事象を取り上げて説明することが多いが、最終的には受講者がそれぞれの出身地に関してより知識を深め、客観的に地域の特性を把握できるようになることを目標とする。さらに自分が関わりを持つ地域（出身地や通学地である小山市）と他の地域との関係に常に関心を持てることが望ましい。また併せて、日本や世界の地理に関わる基本的事項の修得を目指す。

【授業計画】

- 第1回 地理学の概観① 地理学の定義と地理的な物の見方（中学校や高校で学んだ「地理」のイメージを確認する。／予習30分）
- 第2回 地理学の概観② 面的スケールの捉え方と地図（「地域」としてイメージする範囲について考察する。／予習30分）
- 第3回 地理学の概観③ 地球の概観と時差（地球上の2地点間における時差の算出法を確認する。／復習30分）
- 第4回 自然環境① 生活舞台としての平野[平野の成因と分類]（居住地の地形を確認する。／予習30分）
- 第5回 自然環境② 生活舞台としての平野[平野の土地利用]（平野の成因や規模・構造による土地利用の差異を理解する。／復習30分）
- 第6回 自然環境③ 生活舞台としての平野[扇状地と自然堤防]（国内の代表的事例を確認する。／復習30分）
- 第7回 自然環境④ 世界の気候区分と人々の生活[気候要素]（我が国の気候の特色を理解しておく。／予習30分）
- 第8回 自然環境⑤ 世界の気候区分と人々の生活[気候区分法]（ケッペンの区分法を理解する。／復習60分）
- 第9回 自然環境⑥ 世界の気候区分と人々の生活[熱帯・温帯]（熱帯および温帯の分布地域を理解する。／復習30分）
- 第10回 自然環境⑦ 世界の気候区分と人々の生活[冷帯・寒帯・乾燥帯]（冷帯および寒帯、乾燥帯の分布地域を理解する。／復習30分）
- 第11回 人口問題① 地理学の対象としての人口（居住地の市町村および都道府県の人口を確認しておく。／予習30分）
- 第12回 人口問題② 我が国における人口の変遷（明治期以降の人口の推移を理解する。／復習30分）
- 第13回 人口問題③ 人口移動の実態（世界および国内における人口移動の要因を考察する。／復習30分）
- 第14回 人口問題④ 我が国の人口問題（少子高齢化社会への対応を考察する。／復習30分）
- 第15回 まとめ（地理学的なものを見方や考え方が身に付いたか確認する。／復習30分）

【授業の進め方】

地理学で扱う事象は日々刻々変化するので、最新の話題を取り上げる場合には授業計画が若干前後する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は特に使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考図書】

- 『地理学の見方・考え方』 日本大学地理学教室 編 古今書院
『地理へのいざない』 大嶽 幸彦 著 古今書院

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

特記事項

定期試験と授業中の態度や発言で評価する。また毎時間出席カードを配布して、厳格に出席管理を行う。IDカードによる出席も併せて利用するが、出席カードとの間に差異が生じた場合には、出席カードによるデータを優先する。定期試験はマークシート方式（5択・100問）で行う。ノート等の持ち込みは一切不可である。

【履修上の心得】

かなりの早口で授業を進めるので、聞き落としのないように注意してもらいたい。板書はノートを取りやすいように配慮するので、きちんとした講義録を作成できるはずである。なお授業態度に問題のある学生を黙認することはなく、授業中に厳しく指導する。常識ある行動のできる学生の受講を希望する。

【科目のレベル、前提科目など】

本講は基礎的レベルの内容であるため、前提となる科目はない。ただし本講で触れない内容について扱う「地理学B」

もなるべく受講してもらいたい。また小学校教員免許状取得希望者のうち、社会科教育に関心のある学生は、地理的分野での知識拡充の意味からも本講の受講を薦める。高校で地理を履修していない学生にも理解できる内容である。

科目名	地理学B
	農村の変容と都市の発展（まちづくり対策を含む）
教員名	奥澤 信行

【授業の内容】

「地理学A」からの継続科目として、下記の内容について講義する。「地理学A」よりも国内の具体的事例を挙げての説明が多くなるので、その事象を確認できる地理的空間（地域）の特異性をより明確に理解できるであろう。

【到達目標】

「地理学A」と同様で、受講者それぞれが関わりを持つ地域への関心を深め、客観的に地理的事象を分析できる能力を身に付けることを目標とする。また国内の主要都市の立地や特色にも言及し、就職試験や教員採用試験で出題される日本地誌に関わる問題にも対応できるようにする。

【授業計画】

- 第1回 村落の変容① 村落の形態（居住地の景観を確認しておく。／予習30分）
 第2回 村落の変容② 都市と村落の関係（都市的機能によって生活圏が構成されていることを理解する。／復習30分）
 第3回 農業生産の地域的変容① 農業地域の構成要素（我が国における農業の実態を理解する。／復習30分）
 第4回 農業生産の地域的変容② 農村における産業構造の変容（農地からの転換による工業用地や観光産業への土地利用の変遷を理解する。／復習30分）
 第5回 都市と都市化① 中心地理論と都市システム（栃木県内における都市の規模と力関係を理解する。／復習30分）
 第6回 都市と都市化② 栃木県を構成する都市（栃木県内における都市配列の特色を理解する。／復習30分）
 第7回 都市と都市化③ 栃木県の地域性（自然環境と人文環境からみた地域区分を理解する。／復習30分）
 第8回 都市と都市化④ 都市の分類（国内における都市を規模や機能から分類できることを理解する。／復習30分）
 第9回 都市と都市化⑤ 都市力の及ぶ範囲（都市圏の定義と具体的事例を理解する。／復習30分）
 第10回 都市と都市化⑥ 都市化のパターン（農村における都市的機能の拡大による地域変容を理解する。／復習30分）
 第11回 大企業の立地① 本社立地（受講生の知っている大企業の企業イメージと本社所在地の都市イメージのマッチングを考えておく。／予習30分）
 第12回 大企業の立地② 支店立地（地方中核都市に立地する大企業の支社や支店を確認しておく。／予習30分）
 第13回 まちづくりの現状① 地域振興（居住地のまち興しを確認しておく。／予習30分）
 第14回 まちづくりの現状② 商業集積（居住地の中心商店街と大型商業施設の実態を確認しておく。／予習30分）
 第15回 まとめ（居住地を中心とした生活圏の実態を確認する。／復習30分）

【授業の進め方】

地理学で扱う事象は日々刻々変化するので、最新的话题を取り上げる場合には授業計画が若干前後することがある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は特に使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考図書】

- 『人文地理学』 竹中 克行 他編著 ミネルヴァ書房
 『地理へのいざない』 大嶽 幸彦 著 古今書院

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

特記事項

定期試験と授業時の態度や発言で評価する。また毎時間出席カードを配布して、厳格に出席管理を行う。IDカードによる出席も併せて利用するが、出席カードとの間に差異が生じた場合には、出席カードによるデータを優先する。定期試験は、マークシート方式（5択100問）で行う。ノート等の持ち込みは一切不可である。

【履修上の心得】

かなりの早口で授業を進めるので、聞き落としのないように注意してもらいたい。板書はノートを取りやすいように配慮するので、きちんとした講義録を作成できるはずである。なお授業態度に問題のある学生を黙認することはなく厳しく指導する。また然るべき理由のない遅刻は認めない。常識ある行動のできる学生の受講を希望する。

【科目のレベル、前提科目など】

本講は基礎的レベルの内容であるため、前提となる科目はない。ただし本講で触れない内容について扱う「地理学A」もなるべく受講してもらいたい。また教職課程履修者のうち、社会科教育に関心のある学生は、地理的分野での知識拡充の意味からも本講の受講を薦める。高校で地理を履修していない学生にも理解できる内容である。

科目名	地理学概論(地誌を含む)/地理学概論
	中学校社会科「地理的分野」の概要と日本地誌
教員名	奥澤 信行

【授業の内容】

本講は教養科目であると同時に、「中学校教諭（社会）一種免許状」取得希望の学生にとって、教職課程の「教科に関する科目」に指定されている。したがって同じ教養科目の「地理学A・B」よりも中学校での指導を念頭に置いた内容となっている。すなわち中学校社会科の「地理的分野」における地理学の位置付けと、現場での指導事項について論ずる。なお中学校だけでなく、小学校社会科の指導においても本講の内容は有効である。「地理的分野」が中学校において、生徒や一部教師から「暗記科目」として軽んじられている現状を打破するためにも、地理的事象の成立要因を考えることの重要性を認知してもらいたい。

【到達目標】

中学校で社会科の「地理的分野」の授業を展開する場合の地理的事象や地名等の知識に加えて、指導法に関する基本的なテクニックの習得を身に付ける。また授業内容の根幹をなす日本の地誌について、7地方区分による基礎的事項の確認を図る。

【授業計画】

- 第1回 地理学史① 古代および中世の地理学者と地理観（古代から中世のヨーロッパやイスラム圏で活躍した地理学者の思想を理解する。／復習30分）
- 第2回 地理学史② 近現代の地理学者と地理観（近現代のドイツやフランスで活躍した地理学者の科学的地理学の思想を理解する。／復習30分）
- 第3回 社会科教育の本質① 学習指導要領にみる社会科の位置付け（学習指導要領を熟読しておく。／予習60分）
- 第4回 社会科教育の本質② 授業における課題（問題解決学習の展開を理解する。／復習60分）
- 第5回 地理学習の要点① 地理教育の価値（地理は暗記科目でないことを確認する。／復習30分）
- 第6回 地理学習の要点② 日本の地域構成（我が国の7地方区分を確認しておく。／予習30分）
- 第7回 地理学習の要点③ 郷土学習と地域学習（小中学校で体験した地域での活動を整理しておく。／予習30分）
- 第8回 地理学習の要点④ 自然環境（我が国および居住地の地形や気候を確認しておく。／予習30分）
- 第9回 地理学習の要点⑤ 生産と消費（居住地で盛んな農工業と商業活動の実態を確認しておく。／予習30分）
- 第10回 日本地誌① 国土の概観（国を愛する気持ちの育成を念頭に、我が国の領土と自然環境を考察する。／復習60分）
- 第11回 日本地誌② 西日本[九州・中国および四国・近畿]（西日本の自然・人文環境を理解する。／復習30分）
- 第12回 日本地誌③ 東日本[中部・関東・東北・北海道]（東日本の自然・人文環境を理解する。／復習30分）
- 第13回 世界地誌① 世界の概観（地球規模からみた自然環境（大地形と気候）および人文環境（経済の地域格差）を理解する。／復習30分）
- 第14回 世界地誌② 先進国（先進国間の政治・経済の現状を理解する。／復習30分）
- 第15回 世界地誌③ 発展途上国（発展途上国の自然環境と経済活動の関連を理解する。／復習30分）

【授業の進め方】

講義が中心であるが、教職課程科目であることを踏まえて、自然・人文を問わず、最新の地理事象に関して受講生とディスカッションを行う。また教科指導だけでなく、生徒指導に関しても学校現場での実例を適宜取り上げて、グループ・ディスカッションを行うことによって、教職に対する受講生の意欲を高めたい。さらに地理あるいは社会科の指導内容に限定せず、教育問題全般についても触れてみたい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用せず、適宜プリントを配布する。中学校または高校で使用した地図帳があれば持参してもらいたい。

【参考図書】

『地理教育カリキュラムの創造』 山口 幸男 他編 大明堂
『図説日本の生活圏』 伊藤 喜栄 著 古今書院

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

特記事項

定期試験と授業内のレポート、授業中の態度や発言で評価する。また毎時間出席カードを配布して、厳格に出席管理を行う。IDカードによる出席も併用するが、出席カードとの間に差異が生じた場合には、出席カードのデータを優先する。試験はマークシート方式（5択100問）で、ノート等の持ち込みは認めない。

【履修上の心得】

将来教職に就くか否かは別として、教職課程を履修するからには、それなりの覚悟ができていないことと思う。教育現場の実態について具体例を挙げながら説明するので、受講生も真摯な態度で授業に臨んでもらいたい。学校や教育に関する問題を授業で取り上げるので、自分なりの考えをまとめる習慣を身に付けておくことを希望する。

【科目のレベル、前提科目など】

「地理学A・B」を履修済みまたは履修中が望ましい。中学校社会科「地理的分野」で扱う内容を基礎的なレベルで講義する。教職課程履修者向けの内容のため、一般的な地理学について学びたい学生には「地理学A・B」の受講を勧める。

科目名	倫理学A
	伝統的な倫理学を学ぼう
教員名	的場 哲朗

【授業の内容】

西欧の伝統的な倫理学を学びます。テーマとするのは、古代ギリシアの代表的な哲学者プラトンとアリストテレス、近代を代表するカントとヘーゲルの哲学思想です。プラトンは『国家』、アリストテレスは『ニコマコス倫理学』、そしてカントは『実践理性批判』、ヘーゲルは『精神現象学』について彼らの生涯と思想を追いながらその倫理思想を概観します。

ともすれば現代は、細かな知識や手近な功利性ばかりに目を奪われて、大きな世界観・全体像というものを見失う嫌がありますし、そうした大きなビジョンを避ける傾向もあるように思えてなりません。しかしこれでは、森を歩くのに、目先の木々ばかりを見て自分がいま森の中の何処にいるのかを知らないと同じではないでしょうか。ここに挙げた哲学思想が皆さんに新しい大きな世界観を与えるかどうかはわかりませんが、しかし、現代を見る大きな知的枠組みを提供することは間違いありません。あらためて伝統的な哲学思想を学び直すことにしましょう！

【到達目標】

- ・西洋の伝統的な倫理思想の大きな枠組みが理解できる。
- ・古典を読むことの楽しさ、発見の喜びが実感できる。
- ・混沌とした現代社会の中で何かしら基本となる考え方が発見できる。

【授業計画】

- 第1回 1、倫理学とは何か
倫理学は何を追求し、ほかの学問分野(科学や宗教や哲学など)とどこが違うのか、この学問を学ぶことで何が得られるのかを勉強します。倫理学という学問について下調べをしましょう(予習、30分)。新聞などを読み、倫理学の問題が現代の問題にどんな風に生かされるかをちょっと考えてみましょう(復習、30分)。
- 第2回 2、プラトンの倫理思想
古代ギリシアの哲学者プラトンの生涯と著作についてお話します。古代ギリシアはどんな時代であったかを世界史の教科書で確認しましょう(予習、60分)。プラトンの作った大学アカデメイアはどんな特色があるかを調べてみましょう(復習、60分)。
- 第3回 3、プラトンの著作『国家』
彼の著作『国家』の内容についてお話します。古代の国家ポリスははどのような特色を持っていたかを調べましょう(予習、60分)。哲人政治は現実には可能でしょうか、各自考えてみましょう(復習、60分)。
- 第4回 4、プラトンのイデア論
プラトン思想の核心はイデア論です。彼の「洞窟の比喩」について説明し、イデアとドクサの考え方について考えます。イデア論について予習しましょう(予習、60分)。イデアとはどんなものなのでしょう、各自考えましょう(復習、60分)。
- 第5回 5、アリストテレスの倫理思想
古代ギリシアの哲学者アリストテレスの生涯と著作についてお話します。彼の出身地マケドニア、彼が家庭教師をしたアレクサンダー大王について調べましょう(予習、60分)。アリストテレスの作った大学リュケイオンはどんな特色があるかを調べてみましょう(復習、60分)。
- 第6回 6、アリストテレスの著作『ニコマコス倫理学』
彼の著作『ニコマコス倫理学』の内容についてお話します。人間にとって幸福とは何でしょうか、調べましょう(予習、60分)。中庸とはどのようなことでしょうか、各自考えてみましょう(復習、60分)。
- 第7回 7、アリストテレスの形相と質料
彼の哲学思想の基本である「形相と質料」について説明します。形相と質料について、各自調べましょう(予習、60分)。アリストテレスの形相論とプラトンのイデア論を比較しなさい(復習、60分)。
- 第8回 8、カントの倫理思想
近代を代表する哲学者カントの生涯と著作についてお話します。イギリス経験論と大陸合理論について調べましょう(予習、60分)。「コペルニクスの転回」とはどのようなことでしょうか、調べてみましょう(復習、60分)。
- 第9回 9、カントの著作『実践理性批判』
彼の著作『実践理性批判』の内容についてお話します。道徳法則とは何でしょうか、調べましょう(予習、60分)。グローバル化の中で彼の道徳法則はどのような意味を持つか、各自調べてみましょう(復習、60分)。
- 第10回 10、カントの人格の倫理学
彼の哲学思想の基本である人格の倫理学について説明します。自律、世間のしがらみについて、各自調べましょう(予習、60分)。カントの人格論と古代ギリシアのポリス倫理学を比較しなさい(復習、60分)。
- 第11回 11、ヘーゲルの倫理思想
現代思想に決定的な影響を与えた哲学者ヘーゲルの生涯と著作についてお話します。フランス革命の意義について調べましょう(予習、60分)。歴史の発展とはどのようなものなのでしょう、調べてみましょう(復習、60分)。
- 第12回 12、ヘーゲルの著作『精神現象学』

彼の著作『精神現象学』の内容についてお話しします。否定や矛盾とは何でしょうか、調べましょう(予習、60分)。理性の狡知とはどのような意味を持つか、各自調べてみましょう(復習、60分)。

第13回 13、ヘーゲルの自由の倫理学

彼の哲学思想の基本である「弁証法」の論理について説明します。弁証法について、各自調べましょう(予習、60分)。カントの人格論とヘーゲルの理性の狡知を比較しなさい(復習、60分)。

第14回 14、伝統的な倫理思想と日本の倫理思想

日本の代表的な哲学者西田幾多郎の『善の研究』を紹介しながら、西欧の哲学思想と日本の哲学思想の共通点と差異について考える。西田幾多郎について調べよう(予習、60分)。仏教や神道や武士道について調べよう(復習、60分)。

第15回 15、伝統的な倫理思想と現代倫理学の課題

伝統的な倫理思想を総括し、現代の倫理的な問題(格差の問題、環境問題、医療の問題、人工知能など)について考えます。現代の倫理的な問題としてどのようなものがあるか、新聞などで調べよう(予習、60分)。伝統的な倫理思想をもとに現代の問題を考えてみよう(復習、60分)。

【授業の進め方】

講義形式の授業です。資料は随時配布します。毎回講義の最後に、その日の講義についての質問・感想・要望などをアクションペーパーに書き、次の講義の冒頭でそのいくつかを紹介、その質問に答えながら、講義をすすめます。大人数の講義ですが、基本的に対話形式で授業を進めたいと思います。ですから、毎回アクションペーパー等を提出してください。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要な資料は適宜配布します。

【参考図書】

プラトン『国家』(岩波文庫)

アリストテレス『ニコマコス倫理学』(岩波文庫)

カント『実践理性批判』(岩波文庫)

ヘーゲル『精神現象学』(平凡社ライブラリー)と『歴史哲学』(岩波文庫)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

学期末の筆記試験のみ。講義の中から重要な語句を選択し、空欄を埋めるという形式で行う。合計10問(各10点)

【履修上の心得】

物事を建前で済ませたくないと思う批判的精神があればそれで十分。特別な知識は必要ありません。「理想や夢はほんとうに自分を成長させるのだろうか、むしろ束縛となるのではないだろうか。」「挫折や涙は人生にとって否定的な価値に思えるが、しかしむしろ積極的な価値を持っているのではないだろうか。」「目標は実はそれがなくなったときにその真価が問われるのではないだろうか。」「<矛盾>なんて言葉を安易に使って、大切なことを取りこぼしていないだろうか。」「<イエス>と<ノー>の二者択一の回答しかしないうちに、いつの間にかパブロフの犬になっていないだろうか」等、ちょっと考えてもらいたい。

【科目のレベル、前提科目など】

関連科目として特に哲学・文学・美学等をあげたいが、しかし、特別な予備知識がない方がむしろ素直に考えることが出来るかもしれない。

科目名	倫理学B
	現代思想の原点を学ぼう
教員名	的場 哲朗

【授業の内容】

現代思想の原点を学びます。テーマとするのは、19世紀の代表的な思想家としてマルクス、ニーチェ、そして20世紀の代表としてウィトゲンシュタイン、ハイデガーです。マルクスは『共産党宣言』、ニーチェは『道徳の系譜』、そしてウィトゲンシュタインは『論理哲学論考』、ハイデガーは『存在と時間』を紹介します。

現代はともすれば、細かな知識や手ごろな功利性ばかりに目を奪われて、大きな世界観・全体像というものを失う嫌がありますし、そうした大きなビジョンを避ける傾向もあるように思えてなりません。しかしこれでは、森を歩くのに、目先の木々ばかりを見て自分がいま森の中の何処にいるのかを知らないと同じではないでしょうか。ここに挙げた哲学思想が皆さんに新しい大きな世界観を与えるかどうかはわかりませんが、しかし、現代を見る大きな知的枠組みを提供することは間違いありません。あらためて現代思想の原点を学び直すことにしましょう！

【到達目標】

- ・現代思想の大きな枠組みが理解できる。
- ・現代哲学を読むことの楽しさ、発見の喜びが実感できる。
- ・混沌とした現代社会の中で何かしら基本となる考え方が発見できる。

【授業計画】

- 第1回 1、倫理学とは何か
倫理学は何を追求し、ほかの学問分野(科学や宗教や哲学など)とどこが違うのか、この学問を学ぶことで何が得られるのかを勉強します。倫理学という学問について下調べをしましょう(予習、30分)。新聞などを読み、倫理学の問題が現代の問題にどんな風に生かされるかをちょっと考えてみましょう(復習、30分)。
- 第2回 2、マルクスの倫理思想
マルクスの生涯と著作についてお話しします。産業革命について世界史の教科書で確認しましょう(予習、60分)。資本主義とはどのような経済システムを調べてみましょう(復習、60分)。
- 第3回 3、マルクスの著作『共産党宣言』
彼の著作『国家』の内容についてお話しします。共産主義思想とはどのようなものかを調べましょう(予習、60分)。共産主義の国々が消滅したのはなぜかを各自考えてみましょう(復習、60分)。
- 第4回 4、マルクスのユートピアと現在
マルクスのユートピア論と格差の問題について話します。ピケティの著作『二十世紀の資本』について調べましょう(予習、60分)。格差社会とはどのようなものなのでしょうか、各自調べてみよう(復習、60分)。
- 第5回 5、ニーチェの倫理思想
ニーチェの生涯と著作についてお話しします。音楽家ワーグナーについて調べよう(予習、60分)。実存思想について調べてみましょう(復習、60分)。
- 第6回 6、ニーチェの著作『道徳の系譜』
彼の著作『道徳の系譜』の内容についてお話しします。道徳はなぜ生まれたのでしょうか、調べましょう(予習、60分)。「貴族道徳」と「奴隷道徳」とはどのようなことでしょうか、各自考えてみましょう(復習、60分)。
- 第7回 7、ニーチェと大衆の時代
彼の倫理思想の基本である「ルサンチマン(復讐心)」について説明します。深層心理学について各自調べましょう(予習、60分)。伝統的な道徳観とニーチェの道徳観を比較しなさい(復習、60分)。
- 第8回 8、ウィトゲンシュタインの倫理思想
ウィトゲンシュタインの生涯と著作についてお話しします。世紀末のオーストリアのウィーンはどんな都市だったのでしょうか、調べましょう(予習、60分)。彼はなぜ遺産を寄付し、小学校の教員になったのでしょうか、考えてみましょう(復習、60分)。
- 第9回 9、ウィトゲンシュタインの著作『論理哲学論考』
彼の著作『論理哲学論考』の内容についてお話しします。論理学とはどんな学問でしょうか、調べましょう(予習、60分)。「語りえないものについては沈黙しなければならない」という彼の文章について考えてみましょう(復習、60分)。
- 第10回 10、ウィトゲンシュタインの倫理学
彼の倫理的なもの、美的なもの、宗教的なものについてお話しします。倫理的なもの、美的なもの、宗教的なものとは具体的にどんなものなのでしょうか、各自調べましょう(予習、60分)。伝統的な倫理学と彼の倫理学との差異について調べましょう(復習、60分)。
- 第11回 11、ハイデガーの思想思想
世間に振り回されて自分の存在(=実存)を忘却してしまった現代人を厳しく批判するドイツの哲学者ハイデガーの生涯と著作についてお話しします。大衆社会について調べましょう(予習、60分)。生きることの意味とは何でしょうか、調べてみましょう(復習、60分)。
- 第12回 12、ハイデガーの著作『存在と時間』
彼の著作『存在と時間』について説明します。「実存」とは何でしょうか、調べましょう(予習、60分)。本来的存在とはどのような意味を持つか、各自調べてみましょう(復習、60分)。

第13回 13、ハイデガーの本来性の倫理学

本来的な生き方をするとはどういうことなのかについてお話しします。「死」、「生きる」とはどういうことでしょうか、各自調べましょう(予習、60分)。生きるということ、仕事をするということ、友人を持つということ、死ぬということは人間存在にとってどういうことなのか、考えなさい(復習、60分)。

第14回 14、西欧倫理思想と日本の倫理思想

日本の代表的な哲学者和辻哲郎の『人間の学としての倫理学』の内容を紹介しながら、西欧の倫理思想と日本の倫理思想の共通点と差異について考える。和辻哲郎について調べよう(予習、60分)。「人間」と「human being」の語源的な違いについて調べよう(復習、60分)。

第15回 15、現代の倫理思想と現代倫理学の課題

現代倫理思想の原点を総括し、現代の倫理的な問題(格差の問題、環境問題、医療の問題、人工知能など)について考えます。現代の倫理的問題としてどのようなものがあるか、新聞などで調べよう(予習、60分)。現代倫理思想をもとに現代の問題を考えてみよう(復習、60分)。

【授業の進め方】

講義形式の授業です。資料は随時配布します。毎回講義の最後に、その日の講義についての質問・感想・要望などをアクションペーパーに書き、次の講義の冒頭でそのいくつかを紹介、その質問に応えながら、講義をすすめます。大人数の講義ですが、基本的に対話形式で授業を進めたいと思います。ですから、毎回アクションペーパー等を提出してください。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要な資料は適宜配布します。

【参考図書】

プラトン『国家』(岩波文庫)

アリストテレス『ニコマコス倫理学』(岩波文庫)

カント『実践理性批判』(岩波文庫)

ヘーゲル『精神現象学』(平凡社ライブラリー)と『歴史哲学』(岩波文庫)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

学期末の筆記試験のみ。講義の中から重要な語句を選択し、空欄を埋めるという形式で行う。合計10問(各10点)

【履修上の心得】

物事を建前で済ませたくないと思う批判的精神があればそれで十分。特別な知識は必要ありません。「理想や夢はほんとうに自分を成長させるのだろうか、むしろ束縛となるのではないだろうか。」「挫折や涙は人生にとって否定的な価値に思えるが、しかしむしろ積極的な価値を持っているのではないだろうか。」「目標は実はそれがなくなったときにその真価が問われるのではないだろうか。」「<矛盾>なんて言葉を安易に使って、大切なことを取りこぼしていないだろうか。」「<イエス>と<ノー>の二者択一の回答しかないうちに、いつの間にかパブロフの犬になっていないだろうか」等、ちょっと考えてもらいたい。

【科目のレベル、前提科目など】

関連科目として特に哲学・文学・美学等をあげたいが、しかし、特別な予備知識がない方がむしろ素直に考えることが出来るかもしれない。

科目名	倫理学概論
	現代の倫理的な諸問題にどう対処すべきか？
教員名	的場 哲朗

【授業の内容】

出生前診断、IPS細胞、AIの登場、環境破壊、格差や労働や結婚の問題など、これまでの伝統的な倫理学では十分に対応できない様々な倫理問題が現在世界中で噴出しています。こうした問題に私たちは現在どのように対処し、どのような具体的解決策を見つけていくべきなのでしょう。本講義では、道徳法則の普遍性を力強く説いたカントの伝統的倫理学を一応の出発点としつつ、さまざまな倫理学者の論点や問題などを取り上げながら、こうした、現代生活にとっての喫緊の課題である倫理的諸問題に対して、皆さんの体験談やグループディスカッションなどを通して、解決の糸口を見つけ出していきたいと思う。

【到達目標】

- ・現代の様々な倫理問題について【発見学習】できる。
- ・現代の様々な倫理問題に対する伝統的な倫理学の長所と短所について具体的に【発見】理解し、そして【議論】し合えることができる。
- ・カント倫理学以降の近代倫理思想史を概観し、現代の倫理学の問題について【発見】し、そして【解決】の方向を学習できる。
- ・リアクションペーパーを提出することで、自分の考えを【論理的な文章でまとめる】ことができる。

【授業計画】

第1回 授業計画

私が倫理学に出会った話から、倫理学の面白さについて話します。次に、「倫理学」の語源(ギリシア語、日本語など)から倫理学の定義をし、哲学・宗教・物理学との共通点と差異、そして倫理学を学ぶことの現代的な意味についてお話しし、一緒に議論します。倫理学と物理学、哲学と宗教について調べよう(予習、60分)。生活の中で倫理的視点が必要な場面を新聞やネットで探してみよう(復習、30分)。リアクションペーパーの提出。

第2回 近代と個人の自立

近代倫理学は個々人の自立から出発します。自立とは何か。世間のしがらみとは何か。皆さんの体験を振り返りながら、「個人の自立とは何か」についてグループディスカッションをします。これに合わせて、カントの人格の倫理学を学ぶ意味についてお話しします。ドイツの哲学者カントの生涯と思想について調べてみよう(予習、60分)。カントの人格論から考えると、行動の規範はどのようになるのでしょうか。自分で考え、自分の生活の中で具体的な事例を思い起こしてみよう(調査学習、復習、60分)。リアクションペーパーの提出。

第3回 カント著『道徳形而上学原論』を読もう。

序論を読み、倫理学、物理学、論理学の違い、経験と形而上学の違いについて学びます。文化系と理科系の違いについてディベートし、「道徳の形而上学」とはどのようなものかを「人種差別」を例にして発見しましょう(体験学習)。序論を読んで、難しい表現や理解できない箇所をチェックしましょう(予習、60分)。人種差別の問題以外に今日どのような問題があるかを新聞やネットで調べなさい(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。

第4回 「善意志」について学ぼう。

道徳的行為で大切な「意志」について学びます。学問には「知性」、行為には「意志」が大切ですが、「意志」が欠落するとどうなるかを生活の中で具体的に見つけてみよう(発見学習)。では、「知性」と「意志」、理論と実践のどちらが大切でしょうか(グループ・ディスカッション)。頭が良いことと意志が強いことについて調べてみよう(予習、30分)。「意志」と「性格」と「幸福」の関係について調べなさい(調査学習、復習、60分)。リアクションペーパーの提出。

第5回 生命の尊さについて考えよう。

カントは倫理の具体的問題として小売人、友情、生命保存、愛の問題を挙げていますが、なぜカントは「生命の保存」を「義務」と考えたのかをグループ内でディスカッションしましょう。出生前診断、遺伝子組み換え、臓器移植などについて調べよう(予習、60分)。科学の進歩と道徳観の関係について調べましょう(調査学習、60分)。リアクションペーパーの提出。

第6回 現代の生命倫理について考えよう。

出生前診断、IPS細胞の研究の意味についてカントの規範倫理学をもとに考え、現代の哲学者ハーバーマスの「熟議」の意味についてディベートしましょう。「出生前診断」と「IPS細胞」について調べよう(予習、60分)。ハーバーマス、「熟議」について調べよう(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。

第7回 「愛」の問題について考えよう。

カントは、愛は義務だと主張します。「好き」と「愛」、感情と義務、感性と理性とはどのようなことかを皆で考えてみよう(問題解決学習)。エーリッヒ・フロムの『愛することについて』についてもお話しします。「好き」(like)と「愛」(love)の違いについて調べよう(予習、60分)。エーリッヒ・フロムの『愛することについて』を読んでみよう(復習、3日)。リアクションペーパーの提出。

第8回 カント倫理学の厳格主義のまとめ。

カントの「定言命法」と「仮言命法」を学び、具体的例(人命救助などの)を出して、真の道徳的行為とは何

かを考えます。「定言命法」と「仮言命法」について下調べしましょう(予習、20分)。どんなときにも「正直」は正しいのでしょうか、考えてみよう(問題解列学習、復習、30分)。リアクションペーパーの提出。

第9回 ニーチェの道徳批判。

ニーチェは人間の深層心理の立場から道徳の成立を考え、道徳批判を行います。その意味で彼は、カントの厳格主義の対局に立ちます。彼の『道徳の系譜』を紹介しながら、善悪の意味について皆でディスカッションしましょう。「怨恨」(ressentiment)という人間の心理現象について調べよう(予習、30分)。「勝った者が正義で、負けた者が悪だ」と言われますが、これはどういうことか、日本史や世界史をさかのぼって、考えてみよう(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。

第10回 ベンサムの高快計算

彼の、「高快の増大と苦痛の減少」が道徳と立法の原理だという功利主義についてグループディスカッションしましょう。功利主義、ベンサムについて調べよう(予習、30分)。自分の経験に照らして、道徳と高快の関係について考えてみよう(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。

第11回 ヘーゲルの倫理学

ヘーゲルは歴史の弁証法的な発展の中で倫理を考えます。彼の『法の哲学』について説明します。時代によって倫理は変化するかどうかについてグループディスカッションしましょう。ヘーゲルについて調べましょう(予習、60分)。マルクスのヘーゲル批判について調べましょう(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。

第12回 ハイデガールの倫理学

彼は『存在と時間』の中で、人間の本来の生き方を各自の死の自覚から説きます。ハイデガールの『存在と時間』について調べよう(予習、30分)。世人の中で生きることと、本来的に生きることの違いについて考えよう(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。

第13回 性善説と性悪説

孟子の性善説と荀子の性悪説について学び、どちらがより説得的かを皆でディスカッションしましょう。孟子と荀子、孔子について調べなさい(予習、30分)。足利市にあった足利学校の歴史について現地調査してみよう(調査学習、復習、180分)。リアクションペーパーの提出。

第14回 日本の倫理学——和辻哲郎

彼の『人間の学としての倫理学』について話します。彼の、問柄としての倫理学とカントの、人格としての倫理学との違いについてグループディスカッションをします。和辻哲郎について調べなさい(予習、60分)。日本人と西洋人の人間観・倫理観について調べてみよう(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。

第15回 伝統的な倫理学と現代の倫理問題

現代の倫理的な問題(生命倫理、環境倫理、メディア倫理等)に対する伝統的な倫理学の可能性と問題点についてグループディスカッションをします。現代の倫理問題についてネットや新聞などで調べなさい(予習、60分)。応用倫理学とはどのようなものかを調べましょう(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。

カントの『道徳形而上学原論』(岩波文庫)の中の重要な箇所を拾い読みします。伝統的な古典倫理学ですから、ちょっと難しいかもしれませんが、逃げないで下さい。これをもとに、西欧・中国・日本の様々な倫理観を紹介し、皆さんの体験談を聞いたり、グループディスカッションをしながら、現代の様々な倫理問題について一緒に考え、解決策を求めます。

【授業の進め方】

事前に、家族や友人関係や学校などをふり返ったり、新聞やテレビなどの報道を使って、現代の倫理問題について各自【調査】し、具体的な【問題】を洗い出し、自分なりの【解決】策を探しましょう。講義では毎回リアクションペーパーを課しますから、講義内容を加味しながら、そうした倫理問題に対する【問題解決】なり、新たな【問題発見】などを記入し提出して下さい。これらのリアクションペーパーをもとに、次の講義でコメントを付け加えたり、またあらたな【問題点】の【発見】・指摘などを行いますので、各自事前に十分な「理論武装」(!)を整えておいて下さい。

授業中に声をかけて皆さんの体験談を聞いたり、倫理問題について図書館やメディアなどでの【調査学習】を求めたり、また【グループ・ディスカッション】を積極的に行いますから、ただ講義を聴いてノートを取るのではなく、【対話】に臨むといった覚悟をもって【主体的】に授業に取り組んで欲しい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①道徳形而上学原論 ②カント ③岩波書店 ④1960年6月2日 ⑤648円 ⑥9784003362518

各自購入のこと。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

受講生が多いので出席はとりません。学年末試験(100%)で成績を付けます。ただし、テキストは難解なので授業に出ていない学生は試験問題に解答できません。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席は加味しません。テキストの持ち込みも不可。

【履修上の心得】

- ・倫理学概論の講義は倫理学A Bよりも専門的で難解な内容です。受講する学生はこの点をしっかりと自覚すること。
- ・講義はテキストを読み進めながら行うので、出席してください。
- ・必ずテキストを購入し、授業に出席すること。

【科目のレベル、前提科目など】

倫理学A B、美学など

実社会に出ると、倫理的な考え方は重要です。そうした視点から、倫理的な考え方の基礎をしっかりと作り上げることを目指します。

科目名	応用倫理A/応用倫理
	応用倫理へのいざない：命を奪うことの倫理
教員名	渡辺 忠

【授業の内容】

応用倫理は既存の道徳原理の応用に尽きるものではなく、倫理判断が必要となる具体的な諸問題の検討を通して、私たちの倫理的な自己理解をも問いなおそうところみだ。応用倫理Aは、この分野の全般的な理解をはかることを目的に授業を行う。今年度は、生命を奪うことに関わるテーマとして、安楽死・人工妊娠中絶などを扱う。殺すことと死ぬに任せることの道徳的差異、胎児の道徳的地位、女性の身体への裁量権と胎児の権利、潜在的人物の道徳的価値、生の質に基づく選択などに関する議論である。まず、テーマについての基礎的理解を図る講義を行う。次いで、これらのテーマを論じたいいくつかの文献を(そのうちいくつかはレジュメ作成を通して)熟読したうえで詳細に検討・議論し、錯綜した問題点を明確にして、受講者自身の倫理的理解を形成することを目的とする。また、倫理的議論において働いているさまざまな論理的推論の型を理解し、合理的な論証としての応用倫理のあり方を体得することも目的の一つである。

【到達目標】

- (1)日常生活で出会う様々な倫理問題に合理的で賢明な意思決定ができるようになること
- (2)指定教材のレジュメ作成を通して、学術文献など高度な文章の批判的読解法を身につけること
- (3)毎回のリアクションペーパー作成により、問題意識をもち意見を簡潔に言い表せるようになること
- (4)課題レポート作成を通して、自分の考えを小論文にまとめられるようになること
- (5)関連する分野の情報について、図書館やインターネットなどを用いて調査しまとめられるようになること
- (6)教材ごとの質疑応答、最終講総括討論でのグループ・ディスカッションにおいて積極的に意見を表明できること

【授業計画】

- 第1回 ・授業内容：応用倫理とはどのようなものか：概説講義
 ・学習課題(復習)：初回教材に紹介された論証例について自分はどうか判断するか考えてみる[30分]
 (予習)：次回教材を読む・メモを取る[150分]
- 第2回 ・授業内容：安楽死…終末期医療の問題
 ・学習課題(復習)：超高齢社会・終末期医療・尊厳死などについて自分の考えを確認する[30分]
 (予習)：第3回教材 レイチェルズ「積極的安楽死と消極的安楽死」を読む・レジュメを作成する[150分]
- 第3回 ・授業内容：安楽死…歴史的経緯と安楽死をめぐる論点の概要
 ・学習課題(復習)：言及されたいくつかの事件について図書館やインターネットで調べてみる[30分]
 (予習)：ネスビット「殺すことは死ぬに任せるより悪くないか」、ペレット「殺すこと、死ぬに任せること、単一相違点論法」を読む・メモを取る[150分]
- 第4回 ・授業内容：安楽死…殺すことと死ぬに任せること、哲学的論点1：レイチェルズの古典的論文と単一相違点論法
 ・学習課題(復習)：哲学的な議論の争点を整理し、自分はどうか考えるか考えてみる[30分]
 (予習)：次回教材 ケイガン「加法性の誤謬」、オディー「殺すことと死ぬに任せること」を読む・メモを取る[150分]
- 第5回 ・授業内容：安楽死…殺すことと死ぬに任せること、哲学的論点2：単一相違点論法批判・加法性と分離可能性
 ・学習課題(復習)：積極的安楽死と消極的安楽死について、道徳的議論で働いている論理の特性について考えてみる[30分]
 (予習)：安楽死をめぐる議論の様々な論点について整理し、自分の考えをまとめる[150分]
- 第6回 ・授業内容：安楽死の問題についての総括討論
 ・学習課題(復習)：他の履修者から提案された異なる考え方について、さらに自分はどうか考えるのか整理しまとめる[30分]
 (予習)：第8回教材 トムソン「人工妊娠中絶の擁護」を読む・レジュメを作るためのメモを取る[150分]
- 第7回 ・授業内容：人工妊娠中絶…ヒト発生学の初歩、中絶の現状、禁止論と擁護論の概要
 ・学習課題(復習)：言及された事柄について図書館やインターネットで調べてみる[30分]
 (予習)：第8回教材 トムソン「人工妊娠中絶の擁護」の課題レジュメを作成する[150分]
- 第8回 ・授業内容：人工妊娠中絶…よきサマリア人論法 トムソン「人工妊娠中絶の擁護」の検討
 ・学習課題(復習)：教材で提示された様々な論点について正確に理解する、疑問点をまとめてみる[30分]
 (予習)：次回教材 トゥーリー「人工妊娠中絶と新生児殺」を読む・メモを取り、込み入った論証構造を正確に理解する[150分]
- 第9回 ・授業内容：人工妊娠中絶…胎児の道徳的地位とパーソン概念、トゥーリー「人工妊娠中絶と新生児殺」の検討
 ・学習課題(復習)：教材で提示された様々な論点について正確に理解する、疑問点をまとめてみる[30分]
 (予習)：次回教材 マーキス「人工妊娠中絶はなぜ間違っているのか」を読む・課題レジュメを作成する[150分]
- 第10回 ・授業内容：人工妊娠中絶…「我々に似た未来」論法、マーキス「人工妊娠中絶はなぜ間違っているのか」の

検討

- ・学習課題(復習)：死の悪を説明した剥奪説の考え方について理解する、疑問点をまとめてみる[30分]
(予習)：次回教材 ノークロス「殺すこと、人工妊娠中絶、避妊」を読む・メモを取り正確に理解する[150分]
- 第11回 ・授業内容：人工妊娠中絶…「我々に似た未来」論法 批判、ノークロス「殺すこと、人工妊娠中絶、避妊」の検討
・学習課題(復習)：剥奪説的な中絶批判論と、中絶、避妊、子供をもつことについて自分の考えを整理する[30分]
(予習)：教材つづき ペレット「潜在性論法」を読む・メモを取り正確に理解する[150分]
- 第12回 ・授業内容：人工妊娠中絶…潜在性論法、ペレット「潜在性論法」の検討
・学習課題(復習)：人工妊娠中絶反対論の根拠である潜在性論法とその批判について整理して理解する[30分]
(予習)：次回教材 サヴァレスキュ「生殖における善行原理」を読む・メモを取り正確に理解する[150分]
- 第13回 ・授業内容：人工妊娠中絶…出生前診断と選択的中絶、サヴァレスキュ「生殖における善行原理」の検討
・学習課題(復習)：出生前診断の概要と現状について図書館やインターネットで調べて整理する[30分]
(予習)：次回教材 サンドル「完全さに抗して」を読む・課題レジュメを作成する[150分]
- 第14回 ・授業内容：生の質の選択…サンドル「完全さに抗して」の検討
・学習課題(復習)：生の質の選択について自分の考えをまとめてみる[30分]
(予習)：これまでの授業内容を整理し、学期末課題レポートの準備をする[150分]
- 第15回 ・総括討論

- ・初回を除き、使用する教材は全て白鷗大学ホーム・ページの授業支援システムWebClassにアップロードする。各自でダウンロードして事前に熟読しておくことが必要である。同システムには、授業で使用する教材のほかに、教材の解説資料やそれ以外の資料も載せる。頻繁に確認して、入手すること。また、WebClass当該ページの管理者として受講者のアクセスに関する情報は全て把握可能である。アクセス記録のない受講者は教材に目を通していないものと判断するので注意されたい。
- ・受講者の理解を最優先とするので、予定表通りに進行するとは限らず、予定した内容全てを扱うことができなくなる可能性がある。また、進行の過程で、使用教材の差し替えや省略・追加もありうる。その旨了承されたい。その都度周知するので、確認すること。

【授業の進め方】

- ・授業では教材内容の解説講義と質疑応答を主とする。
- ・授業に関する情報の全ては初回配布資料「授業案内」に記してある。授業計画・課題レジュメの提出が必須な教材およびその書式や提出方法、学期末レポートの課題、書式体裁・締め切り・提出先と提出方法などの情報が含まれるので、随時確認すること。
- ・授業時間の末尾5分程度でリアクションペーパー「出席カード」にその日の授業について受講者が考えたことや疑問などを記入し提出してもらう。簡潔でよいから必ず何かを記入すること。また、これは返却しないので、授業中の記録は必ず別途授業用のノートに記入し「出席カード」にはそのうちの必要な部分を記入すること。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書はない。印刷教材を大学ホームページ授業支援システム(WebClass)に用意する。

【参考図書】

- P.シンガー『実践の倫理(第二版)』(昭和堂)
- 江口聡(編)『妊娠中絶の生命倫理』(勁草書房)
- J.レイチェルズ『生命の終わり』(晃洋書房)
- G.ペンス『医療倫理1』『同 2』(みすず書房)
- T.ホープ『医療倫理』(岩波書店)
- 加藤尚武『現代倫理学入門』(講談社)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

- (1)平常点：必須提出物(リアクション・ペーパー、指定教材レジュメ)の状況、授業への取組・貢献度：50%
- (2)学期末課題レポート：50%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

平常点・レポートの一方だけでは単位は取れないので注意するように。また、提出物の出来についてあまり高い完成度を自ら求めてしまうと提出が困難になる傾向が見られる。ともかくもきちんと提出することを第一に心がけること。

【履修上の心得】

相応の覚悟をもって受講すること。成績評価は「甘い」と言ってよいと思うが、課題負担はやや大きい。授業の中間地点頃までに受講放棄する履修者は少なくない。因みに昨年度の単位取得者は履修登録者の半数以下である。

科目名	応用倫理B
	この世に存在するようになることの価値と非同一性問題
教員名	渡辺 忠

【授業の内容】

非同一性問題とは、ある行為や政策がとられた時点ではまだ存在していないが、やがて存在して影響を受ける人物がいる場合の、その行為や政策の倫理的評価に関わる問題だ。時間的に先立つ我々の行為はまだ存在しない人々の同一性に影響する。彼らはその行為がなければ存在しなかったかもしれない。たとえば、CO2削減策をとったときの未来の人々とそうでないときの未来の人々は顔ぶれが異なるだろう。温暖化を促進するような政策は未来の人々を苦しめるかもしれないが、彼らはその策を取らなければ存在しなかったかもしれない。少女の妊娠出産は回避すべきで大人になってからもっとよい環境で子供をもてばよいと言われる。だが、その子供は少女の時に産んでいたかもしれない子供とは別人物だ。ひどい障害をもって生まれた人物はその損害賠償を親や医師に求める(「ロングフル・ライフ訴訟」)ことができるか。その障害を除去していたならば当の人物の存在が不可能であったとしたらどうか。この世に存在することがそれだけで利益となるなら、どれも困難な問題を伴う。非同一性問題は、「障害」の概念や、社会的公正・平等、他者への加害や不正、道徳的責任、誕生と死、子供をもつことの意味、個々の人生の意味などの問題と最深部で絡み合う。授業では、まず問題設定を行ったDerek Parfitの『理由と人格』第16章「非同一性問題」を詳細に検討し、ついで様々な観点から非同一性問題を論じた文献を読み、議論し、錯綜した問題点を明確にして、受講者自身の倫理的見解を形成することを目的とする。

【到達目標】

- (1)日常生活で出会う様々な倫理問題に合理的で賢明な意思決定ができるようになること
- (2)指定教材のレジュメ作成を通して、学術文献など高度な文章の批判的読解法を身につけること
- (3)毎回のリアクションペーパー作成により、問題意識をもち意見を簡潔に言い表せるようになること
- (4)課題レポート作成を通して、自分の考えを小論文にまとめられるようになること
- (5)関連する分野の情報について、図書館やインターネットなどを用いて調査しまとめられるようになること
- (6)教材ごとの質疑応答、最終講総括討論でのグループ・ディスカッションにおいて積極的に意見を表明できること

【授業計画】

- 第1回 ・授業内容：導入講義、非同一性問題の全般的理解のための解説、C.バルショー「より多くのよりよい人々が存在すべきか」、
 ・学習課題(復習)：初回教材を読んで自分はどうか考えたかまとめてみる[30分]
 (予習)：次回教材『理由と人格』第16章「非同一性問題」119節と120節を読む・メモを取る[150分]
- 第2回 ・授業内容：同じ人々の選択、同じ人数の選択、異なる人数の選択、パーフィット『理由と人格』第16章「非同一性問題」119節と120節
 ・学習課題(復習)：三種類の選択問題について自分はどうか考えたかまとめてみる[30分]
 (予習)：次回教材『理由と人格』第16章「非同一性問題」121節と122節を読む・メモを取る[150分]
- 第3回 ・授業内容：未来の利益、D.パーフィット『理由と人格』第16章「非同一性問題」121節と122節、
 ・学習課題(復習)：未来世代の利益、思考実験「14歳の少女」について自分はどうか考えたかまとめてみる[30分]
 (予習)：次回教材『理由と人格』第16章「非同一性問題」123節と124節、を読む・メモを取る[150分]
- 第4回 ・授業内容：生の質の配慮、D.パーフィット『理由と人格』第16章「非同一性問題」123節と124節、
 ・学習課題(復習)：思考実験「資源の枯渇」、未来世代の権利について自分はどうか考えたかまとめてみる[30分]
 (予習)：次回教材『理由と人格』第16章「非同一性問題」125節と126節を読む・メモを取る[150分]
- 第5回 ・授業内容：非同一性の道徳的意味、遠い将来には曲を引き起こすこと、D.パーフィット『理由と人格』第16章「非同一性問題」125節と126節、
 ・学習課題(復習)：「医療プログラム」「危険な政策」「Ruthの選択」「Janeの選択」「危険な不妊治療」について自分の考えをまとめてみる[30分]
 (予習)：次回教材『理由と人格』第16章「非同一性問題」127節と補遺、を読む・メモを取る[150分]
- 第6回 ・授業内容：D.パーフィット『理由と人格』第16章「非同一性問題」全体を通しての理解と総括討論
 ・学習課題(復習)：非同一性問題とはどのような問題であったか、どのような考え方が提案されたか、整理し考えをまとめる[30分]
 (予習)：次回教材 G.アレニウス「潜在的人物の道徳的価値」を読む・レジュメを作るためのメモを取る[150分]
- 第7回 ・授業内容：潜在的人物の道徳的価値、G.アレニウス「潜在的人物の道徳的価値」の検討：人物影響的価値論と中立的価値論
 ・学習課題(復習)：人物影響的価値論と中立的価値論について論点や疑問点をまとめてみる[30分]
 (予習)：教材つづき G.アレニウス「潜在的人物の道徳的価値」を読む・課題レジュメを作成する[150分]
- 第8回 ・授業内容：潜在的人物の道徳的価値、G.アレニウス「潜在的人物の道徳的価値」の検討：人物と時間に関する諸説とその帰結
 ・学習課題(復習)：人物が時間に占める位置による諸説の論点とその批判について理解する、疑問点をまとめてみる[30分]
 (予習)：次回教材 D.ベネター「存在するようにならないほうがよいのはなぜか」を読む・レジュメを作るた

- めのメモを取る[150分]
- 第9回 ・授業内容：反出生主義の根拠、D.ベネター「存在するようにならないほうがよいのはなぜか」の検討：論証の理解
 ・学習課題(復習)：生まれてくることが本人にとって害悪だとする反出生主義とその論拠について自分の考えをまとめてみる[30分]
 (予習)：教材つづき D.ベネター「存在するようにならないほうがよいのはなぜか」を読む・課題レジュメを作成する[150分]
- 第10回 ・授業内容：反出生主義の帰結、D.ベネター「存在するようにならないほうがよいのはなぜか」の検討：反出生主義批判
 ・学習課題(復習)：反出生主義の直観に反する帰結とその支持根拠について理解する、疑問点をまとめてみる[30分]
 (予習)：次回教材 J.マクマハン「人物を存在させることの倫理における非対称性」を読む・レジュメを作るためのメモを取る[150分]
- 第11回 ・授業内容：問題設定の枠組み(価値・理由・非対称性/対称性、個体影響説)、J.マクマハン「人物を存在させることの倫理における非対称性」の検討
 ・学習課題(復習)：問題設定の用いられた概念枠組みを整理して理解する[30分]
 (予習)：教材つづき J.マクマハン「人物を存在させることの倫理における非対称性」を読む・課題レジュメを作成する[150分]
- 第12回 ・授業内容：対称性を採る諸説、J.マクマハン「人物を存在させることの倫理における非対称性」の検討、つづき
 ・学習課題(復習)：反出生主義的対称説・非人格的対称説について整理して理解する[30分]
 (予習)：次回教材 B.スタインボック「ロングフル・ライフと生殖に関する決定」を読む・レジュメを作るためのメモを取る[150分]
- 第13回 ・授業内容：子への害を理由とする出生回避問題、B.スタインボック「ロングフル・ライフと生殖に関する決定」の検討
 ・学習課題(復習)：創生問題、加害概念、非存在条件について整理して理解する[30分]
 (予習)：教材つづき B.スタインボック「ロングフル・ライフと生殖に関する決定」を読む・課題レジュメを作成する[150分]
- 第14回 ・授業内容：非同一性問題と代置原理、B.スタインボック「ロングフル・ライフと生殖に関する決定」の検討、つづき
 ・学習課題(復習)：有害な条件を不可避的にもつ子供の出生回避問題について自分の考えをまとめてみる[30分]
 (予習)：これまでの授業内容を整理し、学期末課題レポートの準備をする[150分]
- 第15回 ・総括討論

- ・初回を除き、使用する教材は全て白鷗大学ホーム・ページの授業支援システムWebClassにアップロードする。各自でダウンロードして事前に熟読しておくことが必要である。同システムには、授業で使用する教材のほかに、教材の解説資料やそれ以外の資料も載せる。頻繁に確認して、入手すること。また、WebClass当該ページの管理者として受講者のアクセスに関する情報は全て把握可能である。アクセス記録のない受講者は教材に目を通していないものと判断するので注意されたい。
- ・受講者の理解を最優先とするので、予定表通りに進行するとは限らず、予定した内容全てを扱うことができなくなる可能性がある。また、進行の過程で、使用教材の差し替えや省略・追加もありうる。その旨了承されたい。その都度周知するので、確認すること。

【授業の進め方】

- ・授業では教材内容の解説講義と質疑応答を主とする。
- ・授業に関する情報の全ては初回配布資料「授業案内」に記してある。授業計画・課題レジュメの提出が必須な教材およびその書式や提出方法、学期末レポートの課題、書式体裁・締め切り・提出先と提出方法などの情報が含まれるので、随時確認すること。
- ・授業時間の末尾5分程度でリアクションペーパー「出席カード」にその日の授業について受講者が考えたことや疑問などを記入し提出してもらう。簡潔でよいから必ず何かを記入すること。また、これは返却しないので、授業中の記録は必ず別途授業用のノートに記入し「出席カード」にはそのうちの必要な部分を記入すること。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書はない。印刷教材を大学ホームページ授業支援システム(WebClass)に用意する。

【参考図書】

- D.パーフィット『理由と人格』(勁草書房)
 P.シンガー『実践の倫理(第二版)』(昭和堂)
 J.グラバー『未来世界の倫理』(産業図書)
 T.ホープ『医療倫理』(岩波書店)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

(1)平常点：必須提出物(リアクション・ペーパー、指定教材レジュメ)の状況、授業への取組・貢献度：50%

(2)学期末課題レポート：50%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

平常点・レポートの一方だけでは単位は取れないので注意されたい。また、提出物の出来についてあまり高い完成度を自ら求めてしまうと提出が困難になる傾向が見られる。ともかくもきちんと提出することを第一に心がけること。

【履修上の心得】

相応の覚悟をもって受講することを求める。成績評価は「甘い」と言ってよいと思うが、課題負担はやや大きい。授業の中間地点頃までに受講放棄する履修者は少なくない。因みに昨年度の単位取得者は履修登録者の半数以下である。

科目名	哲学A
	我々は何ものか：心と人物のメタフィジクス
教員名	渡辺 忠

【授業の内容】

あなたは最も基本的な意味では何だろうか。もちろんヒトという動物である。だが、この「である」は同一性を意味するのか。そうではないという者もいる。我々は動物から「構成」された何か、人物だというのだ。では人物とは何か。ヒトでない人物もいるのか。(あるいは人物でないヒトも。) あなたがヒトという動物だとして、それはあなたの身体のことなのか。では、身体のとれだけを失ったらあなたはあなたでなくなるのか。最後の抛り所は脳だろうか。だが、別の身体にあなたの脳を移植したら、それは誰になるのか。心の哲学の有力な説では、あなたの心はあなたの脳そのものではなく、脳が「実現」している複雑な因果的システムだという。ちょうど、あなたのパソコンのソフトウェアやデータのように。ではSFのようにあなたをコピーしてバックアップをとれるのだろうか。だとしたら、あなたは不死なのか。コピーが複数あるとき、どれがあなたなのか。もう一度考えてほしい。あなたは最も基本的な意味で何なのか。

本講ではこの問題を論じた気鋭の哲学者の著作を教材に、我々の本性と、その時間の中での持続について考える。その過程で、心身問題・主観性・同一性・様相・可能的世界・付随性・本質・時間などの形而上学的概念や諸問題も検討することになる。現代の分析的形而上学の考え方がどのようなものか、その一端を垣間見ることになるだろう。問題は錯綜しており、分析の概念装置も使いこなすのは難しい。答えの糸口すら容易に見いだせぬ迷宮をさまよう15回の授業である。

【到達目標】

- (1)哲学の基本的な問題について文献資料を読みながら考え、自ら「哲学する」こと
- (2)指定教材のレジュメ作成を通して、学術文献の批判的読解法を身につけること
- (3)毎回のリアクションペーパー作成により、問題意識をもち意見を簡潔に言い表せるようになること
- (4)課題レポート作成を通して、自分の考えを小論文にまとめられること
- (5)関連する分野の情報について、図書館やインターネットなどを用いて調査しまとめられるようになること
- (6)教材ごとの質疑応答、最終講総括討論でのグループ・ディスカッションにおいて積極的に意見を表明できること

【授業計画】

- 第1回
 - ・授業内容：導入講義1、心身問題についての解説講義
 - ・学習課題(復習)：心とは何かについて自分はどうか考えたかまとめてみる[30分]
 - (予習)：第3回教材「我々は何ものかという問題」を読む・メモを取る[150分]
- 第2回
 - ・授業内容：導入講義2、人物の同一性に関する解説講義
 - ・学習課題(復習)：人物の同一性について自分はどうか考えたかまとめてみる[30分]
 - (予習)：第3回教材「我々は何ものかという問題」を読む・メモを取る[150分]
- 第3回
 - ・授業内容：人物の形而上学の諸問題の検討、「我々は何ものかという問題」
 - ・学習課題(復習)：人物の形而上学の問題設定と諸説について論点をまとめてみる[30分]
 - (予習)：次回教材「動物」を読む・メモを取る[150分]
- 第4回
 - ・授業内容：動物説の検討、「動物」
 - ・学習課題(復習)：思考する動物問題、脳移植の思考実験について自分はどうか考えたかまとめてみる[30分]
 - (予習)：次回教材「構成」を読む・メモを取る[150分]
- 第5回
 - ・授業内容：構成説の検討、「構成」
 - ・学習課題(復習)：数的に異なる物質的存在者の合致と構成という考え方について論点をまとめてみる[30分]
 - (予習)：次回教材「脳」を読む・メモを取る[150分]
- 第6回
 - ・授業内容：脳説の検討、「脳」
 - ・学習課題(復習)：脳と身体、部分と全体の形而上学、「ミニマリズム」についての論点を理解する[30分]
 - (予習)：次回教材「時間的部分」を読む・レジュメを作るためのメモを取る[150分]
- 第7回
 - ・授業内容：時間的部分説の検討1、「時間的部分」：四次元主義・変化・時間的内在的性質・様相的両立不可能性に対応者理論
 - ・学習課題(復習)：四次元主義の論拠について論点や疑問点をまとめてみる[30分]
 - (予習)：教材つづき「時間的部分」を読む・課題レジュメを作成する[150分]
- 第8回
 - ・授業内容：時間的部分説の検討2、「時間的部分」：人物同一性の難問・多の問題・人物に関する規約主義と多元主義・ステージ説
 - ・学習課題(復習)：四次元主義の問題点について論点や疑問点をまとめてみる[30分]
 - (予習)：次回教材「束」を読む・レジュメを作るためのメモを取る[150分]
- 第9回
 - ・授業内容：束説の検討1、「束」：実体と束・「もの」と「こと」
 - ・学習課題(復習)：ものごと、実体の形而上学とその批判についてまとめてみる[30分]
 - (予習)：教材つづき「束」を読む・課題レジュメを作成する[150分]
- 第10回
 - ・授業内容：束説の検討2、「束」：普遍者としての人物・プログラム説
 - ・学習課題(復習)：普遍者の束、プログラム説について論点や疑問点をまとめてみる[30分]
 - (予習)：次回教材「靈魂」を読む・レジュメを作るためのメモを取る[150分]
- 第11回
 - ・授業内容：靈魂説の検討1、「靈魂」：非物質主義の根拠・唯物論の難問・増大のパラドクス・部分論的定

常性原理

・学習課題(復習):唯物論の困難、増大のパラドクス、非物質主義の論拠について論点や疑問点をまとめてみる[30分]

(予習):教材つづき「靈魂」を読む・課題レジュメを作成する[150分]

第12回 ・授業内容:靈魂説の検討2、「靈魂」:増大のパラドクスへの四つの応答・複合的二元論・質料形相主義・単純な唯物論

・学習課題(復習):非物質主義への批判と二つの応答について論点や疑問点をまとめてみる[30分]

(予習):次回教材「非存在説」を読む・レジュメを作るためのメモを取る[150分]

第13回 ・授業内容:非存在説の検討1、「非存在説」:非存在説の意味・統合性と単純性

・学習課題(復習):非存在説の主張内容について正確に整理し、論点や疑問点をまとめてみる[30分]

(予習):教材つづき「非存在説」を読む・課題レジュメを作成する[150分]

第14回 ・授業内容:非存在説の検討2、「非存在説」:メンタリズムと原子論・非存在説の帰結

・学習課題(復習):非存在説を支持する二つの戦略について論点や疑問点をまとめてみる[30分]

(予習):これまでの授業内容を整理し、学期末課題レポートの準備をする[150分]

第15回 ・総括討論

・初回を除き、使用する教材は全て白鷗大学ホーム・ページの授業支援システムWebClassにアップロードする。各自でダウンロードして事前に熟読しておくことが必要である。同システムには、授業で使用する教材のほかに、教材の解説資料やそれ以外の資料も載せる。頻繁に確認して、入手すること。また、WebClass当該ページの管理者として受講者のアクセスに関する情報は全て把握可能である。アクセス記録のない受講者は教材に目を通していないものと判断するので注意されたい。

・受講者の理解を最優先とするので、予定表通りに進行するとは限らず、予定した内容全てを扱うことができなくなる可能性がある。また、進行の過程で、使用教材の差し替えや省略・追加もありうる。その都度周知するので、確認すること。

【授業の進め方】

・授業では教材内容の解説講義と質疑応答を主とする。

・授業に関する情報の全ては初回配布資料「授業案内」に記してある。授業計画・課題レジュメの提出が必須な教材およびその書式や提出方法、学期末レポートの課題、書式体裁・締め切り・提出先と提出方法などの情報が含まれるので、随時確認すること。

・授業時間の末尾5分程度でリアクションペーパー「出席カード」にその日の授業について受講者が考えたことや疑問などを記入し提出してもらう。簡潔でよいから必ず何かを記入すること。また、これは返却しないので、授業中の記録は必ず別途授業用のノートに記入し「出席カード」にはそのうちの必要な部分を記入すること。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書はない。印刷教材を大学ホームページ授業支援システム(WebClass)に用意する。

【参考図書】

D.パーフィット『理由と人格』(勁草書房)

R.スウィンバーン/S.シューメイカー『人格の同一性』(勁草書房)

T.サイダー/E.コニー『形而上学レッスン』(春秋社)

T.サイダー『四次元主義の哲学』(春秋社)

D.ルイス『世界の複数性について』(名古屋大学出版会)

永井均『転校生とブラックジャック』(岩波書店(文庫))

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

(1)平常点:必須提出物(リアクション・ペーパー、指定教材レジュメ)の状況、授業への取組・貢献度:50%

(2)学期末課題レポート:50%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

平常点・レポートの一方だけでは単位は取れなので注意されたい。また、提出物の出来についてあまり高い完成度を自ら求めてしまうと提出が困難になる傾向が見られる。ともかくもきちんと提出することを第一に心がけること。

【履修上の心得】

相応の覚悟をもって受講されたい。成績評価はとくに辛いものではないが、課題負担はやや大きい。授業の中間地点頃までに受講放棄する履修者は少なくない。因みに昨年度の単位取得者は履修登録者の半数以下である。

科目名	哲学B
	死のメタフィジクスと価値論
教員名	渡辺 忠

【授業の内容】

死について考える。現代哲学の中には、心を脳というハードウェアに載ったソフトウェアのように見る考え方がある。そうだとすると、そのような心は「死ぬ」ことがあるのだろうか。「誰」が死ぬのだろうか。宗教とは別の意味で「死後の生」が可能だろうか。また、古代の哲学者は、死後の非存在は誕生前の非存在の対称的な鏡像にすぎず、後者と同様前者もならおそれるに足りないと言った。だが、本当に死は何でもないものなのだろうか。価値はそのとき人が享受する快や苦だけから成り立っていると考えるべきだろうか。ありえたかもしれない可能な別の人生は現実の人生の価値に影響するだろうか。この世にあなたが生まれてきたことは、それ自体でよいことなのか。死の意味と価値を考えることは、生の意味と価値を考えることでもある。

本講では現代の分析哲学における「死の形而上学」に関する文献資料を読み、問題そのものを考えていく。その過程で、同一性・様相・可能的世界・時間などの形而上学的概念や諸問題、価値論の基本概念も検討することになるだろう。問題は錯綜しており、分析の概念装置も使いこなすのは難しい。答えの糸口すら容易に見いだせぬ迷宮をさまよう15回の授業である。

【到達目標】

- (1)哲学の基本的な問題について文献資料を読みながら考え、自ら「哲学する」こと
- (2)指定教材のレジュメ作成を通して、学術文献の批判的読解法を身につけること
- (3)毎回のリアクションペーパー作成により、問題意識をもち意見を簡潔に言い表せるようになること
- (4)課題レポート作成を通して、自分の考えを小論文にまとめられること
- (5)関連する分野の情報について、図書館やインターネットなどを用いて調査しまとめられるようになること
- (6)教材ごとの質疑応答、最終講総括討論でのグループ・ディスカッションにおいて積極的に意見を表明できること

【授業計画】

- 第1回
 - ・授業内容：導入講義、「死と存在」「死の悪さ」問題解説
 - ・学習課題(復習)：死について自分はどうか考えたかまとめてみる[30分]
 - (予習)：次回教材「死後の生と墓の中の破壊」を読む・メモを取る[150分]
- 第2回
 - ・授業内容：死と存在の問題、Olson「死後の生と墓の中の破壊」
 - ・学習課題(復習)：死後の生の可能性について自分はどうか考えたかまとめてみる[30分]
 - (予習)：次回教材「人物と死体」を読む・メモを取る[150分]
- 第3回
 - ・授業内容：死と存在の問題、Olson「人物と死体」
 - ・学習課題(復習)：持続する存在者の本性について自分はどうか考えたかまとめてみる[30分]
 - (予習)：次回教材「終焉テーゼ」を読む・メモを取る[150分]
- 第4回
 - ・授業内容：死と存在の問題、Feldman「終焉テーゼ」
 - ・学習課題(復習)：死と存在の問題について自分はどうか考えたかまとめてみる[30分]
 - (予習)：次回教材「死」を読む・メモを取る[150分]
- 第5回
 - ・授業内容：死は悪か、エピクロス説と剥奪説、基本問題、Nagel「死」
 - ・学習課題(復習)：死の悪についての二つの考え方と基本的な問題についてまとめてみる[30分]
 - (予習)：次回教材「死と生の価値 I エピクロスの論証」を読む・レジュメを作るためのメモを取る[150分]
- 第6回
 - ・授業内容：死は悪か、エピクロスの論証の基本仮定を吟味する、McMahan「死と生の価値」
 - ・学習課題(復習)：存在するようになることと存在しなくなるものの価値についての議論の論点を理解する[30分]
 - (予習)：教材つづき「死と生の価値 II 死の悪さ」を読む・レジュメを作るためのメモを取る[150分]
- 第7回
 - ・授業内容：死は悪か、死の悪についての剥奪説と反事実的条件法、McMahan「死と生の価値」つづき
 - ・学習課題(復習)：反事実的条件法と剥奪説、時間相対的利益説について論点や疑問点をまとめてみる[30分]
 - (予習)：教材つづき「死と生の価値 II 死の悪さ、III パラドクス」を読む・課題レジュメを作成する[150分]
- 第8回
 - ・授業内容：死は悪か、剥奪説・比較説に関するいくつかの問題、McMahan「死と生の価値」つづき
 - ・学習課題(復習)：生と生の比較に関わる問題点について理解する、論点や疑問点をまとめてみる[30分]
 - (予習)：次回教材「死の悪さ」をメモを取りながら読む・レジュメを作成する[150分]
- 第9回
 - ・授業内容：死は悪か、エピクロス説の再分析、感情価値連関説、価値と心的態度の対象、四次元主義、Silverstein「死の悪さ」、
 - ・学習課題(復習)：エピクロス説の基本論点(無主体問題)、価値と評価主体の存在、時間と存在の形而上学枠組みについてまとめてみる[30分]
 - (予習)：次回教材「エピクロスの擁護」をメモを取りながら読む[150分]
- 第10回
 - ・授業内容：死は悪か、価値的態度の原因と対象、時間と持続の三次元主義と四次元主義、Silverstein「死の悪さ」つづき、Rosenbaum「エピクロスの擁護」
 - ・学習課題(復習)：二つの考え方の相違について理解する、疑問点をまとめてみる[30分]
 - (予習)：次回教材「死の悪についてのいくつかの難問」をレジュメを作りながら読む[150分]
- 第11回
 - ・授業内容：死は悪か、世界間比較としての剥奪説、死の悪の永遠説、Feldman「死の悪についてのいくつか

の難問]

- ・学習課題(復習):剥奪説と死の悪の時という問題について考えをまとめてみる[30分]
(予習):次回教材「死の悪について再論」を読む[30分]
- 第12回 ・授業内容:死は悪か、価値的態の原因と対象、時間と存在の三つの枠組み、Silverstein「死の悪について再論」
・学習課題(復習):論者たちの考え方の違いについて整理しまとめてみる[30分]
(予習):次回教材「永在主義と死の悪さ」「死はいつ悪いのか」を、争点に注意しながら読む[150分]
- 第13回 ・授業内容:死は悪か、死の悪の時という問題、剥奪説の再整理、Bradley「永在主義と死の悪さ」、Silverstein「死はいつ悪いのか」
・学習課題(復習):二人の論者の考え方の違いについて整理しまとめてみる[30分]
(予習):次回教材「死はなぜ悪か」をレジュメを作成しながら読む[30分]
- 第14回 ・授業内容:死は悪か、時間的非対称性問題、Bruekner/Fischer「死はなぜ悪か」
・学習課題(復習):価値に関する態度の時間的非対称性とルクレティウスの問題について自分の考えをまとめてみる[30分]
(予習):これまでの授業内容を整理し、学期末課題レポートの準備をする[150分]
- 第15回 ・総括討論

- ・初回を除き、使用する教材は全て白鷗大学ホーム・ページの授業支援システムWebClassにアップロードする。各自でダウンロードして事前に熟読しておくことが必要である。同システムには、授業で使用する教材のほかに、教材の解説資料やそれ以外の資料も載せる。頻繁に確認して、入手すること。また、WebClass当該ページの管理者として受講者のアクセスに関する情報は全て把握可能である。アクセス記録のない受講者は教材に目を通していないものと判断するので注意されたい。
- ・受講者の理解を最優先とするので、予定表通りに進行するとは限らず、予定した内容全てを扱うことができなくなる可能性がある。また、進行の過程で、使用教材の差し替えや省略・追加もありうる。その都度周知するので、確認すること。

【授業の進め方】

- ・授業では教材内容の解説講義と質疑応答を主とする。
- ・授業に関する情報の全ては初回配布資料「授業案内」に記してある。授業計画・課題レジュメの提出が必須な教材およびその書式や提出方法、学期末レポートの課題、書式体裁・締め切り・提出先と提出方法などの情報が含まれるので、随時確認すること。
- ・授業時間の末尾5分程度でリアクションペーパー「出席カード」にその日の授業について受講者が考えたことや疑問などを記入し提出してもらう。簡潔でよいから必ず何かを記入すること。また、これは返却しないので、授業中の記録は必ず別途授業用のノートに記入し「出席カード」にはそのうちの必要な部分を記入すること。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書はない。印刷教材を大学ホームページ授業支援システム(WebClass)に用意する。

【参考図書】

T.ネーゲル『コウモリであるとはどのようなことか』勁草書房

D.パーフィット『理由と人格』(勁草書房)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

(1)平常点:必須提出物(リアクション・ペーパー、指定教材レジュメ)の状況、授業への取組・貢献度:50%

(2)学期末課題レポート:50%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

平常点・レポートの一方だけでは単位は取れないので注意されたい。また、提出物の出来についてあまり高い完成度を自ら求めてしまうと提出が困難になる傾向が見られる。ともかくもきちんと提出することを第一に心がけること。

【履修上の心得】

相応の覚悟をもって受講されたい。成績評価はとくに辛いものではないが、課題負担はやや大きい。授業の中間地点頃までに受講放棄する履修者は少なくない。因みに昨年度の単位取得者は履修登録者の半数以下である。

科目名	哲学概論
	哲学ってどんなこと？
教員名	渡辺 忠

【授業の内容】

14歳の少年少女がふと抱くような疑問から哲学の様々な問題を考える。教科書に沿って「私たちの心を超えた世界を知ることができるのか」「他人の心を知ることができるのか」「心と脳の関係はどのようなものか」「いかにして言葉は意味をもつのか」「私たちは自由意志をもっているのか」「道徳の基礎はどのようなものか」「どのような不平等は正しくないのか」「死とはどのようなものか」「人生には意味があるのか」という順に考えていく。各々の主題に関わる哲学者・思想家の考え方を、資料集や指定する図書館所蔵の文献の講読等を通して理解し、哲学史に関する概観も得られるようにしたい。

【到達目標】

- (1)哲学の諸問題について自ら「哲学する」ことを通して、論理的・批判的に思考できるようになること
- (2)それぞれの主題に関わる、哲学史上の主要な哲学者・思想家の考え方について理解すること
- (3)毎回のリアクションペーパー作成により、問題意識をもち意見を簡潔に言い表せるようになること
- (4)課題レポート作成を通して、自分の考えを小論文にまとめられるようになること

【授業計画】

- 第1回 導入：哲学ってどんなこと？(復習)授業で問われたことを考える[90分] (予習)第2章を読む[90分]
- 第2回 外部世界の知識：合理論(デカルト)と経験論(ロック、バークリ、ヒューム)(復習)授業で問われたことを考える[90分] (予習)第3章を読む[90分]
- 第3回 他人の心(デカルト、ウィトゲンシュタイン) (復習)授業で問われたことを考える[90分] (予習)第4章を読む[90分]
- 第4回 心身問題：二元論(デカルト) (復習)授業で問われたことを考える[90分] (予習)第4章を読む[90分]
- 第5回 心身問題：哲学的行動主義と心脳同一説：啓蒙思想と人間機械論 (復習)授業で問われたことを考える[90分] (予習)第4章を読む[90分]
- 第6回 心身問題：機能主義と消去主義的唯物論 (復習)授業で問われたことを考える[90分] (予習)第5章を読む[90分]
- 第7回 言葉と意味(プラトン、ロック、ラッセル、ウィトゲンシュタイン) (復習)授業で問われたことを考える[90分] (予習)第6章を読む[90分]
- 第8回 決定論と自由意思(ホップズ、カント、マルクス) (復習)授業で問われたことを考える[90分] (予習)第7章を読む[90分]
- 第9回 メタ倫理：認知主義/非認知主義、道徳的实在論/道徳的相対主義 (復習)授業で問われたことを考える[90分] (予習)第7章を読む[90分]
- 第10回 メタ倫理：理由と動機付けの内在主義と外在主義(ヒューム、カント) (復習)授業で問われたことを考える[90分] (予習)第8章を読む[90分]
- 第11回 規範倫理：義務論と帰結主義(カント、ミル) (復習)授業で問われたことを考える[90分] (予習)第8章を読む[90分]
- 第12回 配分的正義：リベラリズムとリバタリアニズム(ロールズ、ノジック) (復習)授業で問われたことを考える[90分] (予習)第8章を読む[90分]
- 第13回 配分的正義：功利主義と合理的意志決定の諸理論(ベンサム、ミル、ハーサニ) (復習)授業で問われたことを考える[90分] (予習)第9章と第10章を読む[90分]
- 第14回 死と人生の意味 (復習・予習)授業で問われたことを考える[180分]
- 第15回 総括討論

【授業の進め方】

事前に指定教科書を読み、あなた自身の考えを確認しておこう。講義は教科書の解説ではなく、教科書の主題に対する「変奏」と思ってほしい。教科書と私の講義が相俟って、あなたの思考が哲学的な問題の坩堝の中に引き込まれるならば、その日の授業は成功だ。様々な考えが次々に浮かんで、頭が熱くなっているうちに、その日のあなたの考えをリアクション・ペーパーに書き込もう。次回の授業の前半では、あなたのユニークな興味深い考えが紹介されるかもしれない。あるいは、他の受講者がどんなことを考えたのか、知ることでもできるだろう。驚きを経験するかもしれない。あなたは90分間その頭脳を使い切ることになる。こうして、たっぷり15回「哲学する」経験をする。そういう進め方をしたい。

リアクション・ペーパーは返却しないので、授業中の発想や疑問などはひとまず専用のノートに書き込むこと。紙のノートではなくPCを持ち込んでもよい。教科書を読み直し、図書館やインターネットで調べてみる。考えたこと、哲学したことをどんどんためていき、何度も考え直し、友達とも議論して、最後に学期末課題レポートを仕上げる。これらをうまく廻していくことができれば、必ずよい経験になり、上の「到達目標」は実現されているはずだ。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①『哲学ってどんなこと?』 ②T. ネーゲル ③昭和堂 ④1993年 ⑤¥2,097

【参考図書】

永井均『翔太と猫のインサイトの夏休み』ちくま学芸文庫

今井・山本『哲学原典資料集』東京大学出版会

岩崎武雄『西洋哲学史』有斐閣

S.ブラックバーン『ビッグクエスチョンズ 哲学』ディスカヴァー・トゥエンティワン

N.ウォーバートン『哲学の基礎』講談社

『入門 哲学の名著』ナカニシヤ出版

八木沢敬『分析哲学入門』講談社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

(1)平常点(毎回提出のリアクションペーパー「出席カード」記入内容の評価)：50%

(2)学期末課題レポート：50%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

(1)と(2)の両方そろわなくては単位が取れない。平常点が完璧でも学期末レポートが出ていない(またはその逆)場合、失格となる。

【備 考】

前期は水曜1限・水曜5限に本校舎、後期は水曜1限に東校舎で開講する予定。前期は同じ内容の授業が二コマ取ってあるので、できれば受講者がどちらか一方に集中するのではなく、同じくらいの受講者数になるよう、諸君の時間割の調整をしていただけるとありがたい。

科目名	文学A
	ファンタジー文学の魅力
教員名	鈴木 宏枝

【授業の内容】

文学の一領野であるファンタジーは、想像力と驚異を基軸とする文芸で、伝説や昔話などの源流から発展し、異世界や超現実的な要素を扱うことを特徴とする。この授業では各国のファンタジー文学を取り上げ、文学としての共通項を探りつつ、時代や国によって異なる特徴もテキストの中に不可分に織り込まれることを明らかにする。必要に応じて映像化作品とも比較し、原典の持つ力を再確認する。

【到達目標】

1. ファンタジー文学の特質を理解する
2. 作家、時代、共同体がいかに作品と関係するかを理解する
3. 文学の鑑賞方法を理解する

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション、ハンス・クリスチャン・アンデルセン『アンデルセン童話集』
 第2回 日常から別世界へ①：ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』
 第3回 日常から別世界へ②：ルドヤード・キップリング『ジャングル・ブック』
 第4回 日常から別世界へ③：ジェイムズ・バリ『ピーター・パン』
 第5回 日常から別世界へ④：C.S.ルイス『ライオンと魔女』
 第6回 日常から別世界へ⑤：J.K.ローリング『ハリー・ポッターと賢者の石』
 第7回 日常の中にあるもうひとつの世界①：A.A.ミルン『クマのプーさん』『プー横丁にたった家』
 第8回 日常の中にあるもうひとつの世界② メアリー・ノートン『床下の小人たち』
 第9回 日常の中にあるもうひとつの世界③ ルーマー・ゴッデン『人形の家』
 第10回 日常の中にあるもうひとつの世界④ キャサリン・ブリッグス『妖精ディックのたたかい』
 第11回 第二世界の構築①：トルキン『ホビットの冒険』
 第12回 第二世界の構築②：トーベ・ヤンソン『たのしいムーミン一家』
 第13回 第二世界の構築③：アーシュラ・ル＝グウィン『影とのたたかい』
 第14回 ファンタジーにおけるインターテクスチュアリティ① フィリップ・プルマン『黄金の羅針盤』
 第15回 ファンタジーにおけるインターテクスチュアリティ② 荻原規子『空色勾玉』

【授業の進め方】

パワーポイントやレジュメを用いて、作家の紹介、作品の紹介、時代背景の説明をし、必要に応じてDVDで映像化作品との比較も行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

配布資料やパワーポイントで講義をおこなう。

【参考図書】

ヴォルシュレイガー『不思議の国をつくる』安達まみ訳、河出書房新社。
 本多英明・桂宥子・小峰和子編『たのしく読める英米児童文学 - 作品ガイド』ミネルヴァ書房。
 井辻朱美編著『ファンタジー・ノベルの魅力』七つ森書館。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

全授業回数の1/3を越えて欠席した場合は不可とする。

【科目のレベル、前提科目など】

文学B、一般教養的な科目。

科目名	文学B
	詩の形式と主題
教員名	針生 進

【授業の内容】

英米の詩とわが国の和歌を実例にして、詩という文学形式を検討する。

【到達目標】

英米の詩とわが国の和歌について、主に形式面での基礎知識を得る。

【授業計画】

- 第1回 英詩とはどのようなものか
- 第2回 英詩の形式：(1)
- 第3回 英詩の形式：(2)
- 第4回 英詩の形式：(3)
- 第5回 英詩の形式：(4)
- 第6回 英詩の主題：(1)
- 第7回 英詩の主題：(2)
- 第8回 和歌とはどのようなものか
- 第9回 和歌の形式：(1)
- 第10回 和歌の形式：(2)
- 第11回 和歌の形式：(3)
- 第12回 和歌の形式：(4)
- 第13回 和歌の主題：(1)
- 第14回 和歌の主題：(2)
- 第15回 まとめと補足

【授業の進め方】

講義形式で行う。学期末の定期試験期間に筆記試験を実施する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

こちらで作成したプリント教材をほぼ毎回配付する。

【参考図書】

本学総合図書館の蔵書のなかから適切なものを適宜、紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 20%

特記事項

いかに多くの正確にして基本的な知識を身につけたかを問う筆記試験の結果が成績評価に大きく関わる。試験の結果が思わしくない場合でも、レポートなどを提出させて試験の点数に加算あるいは換算するような措置は講じない。受講態度などにかかわる平常点も最終判定に反映させる。

【履修上の心得】

とりあげる作品は、近代短歌をのぞけば、すべて英語で書かれているか、古文でつづられている。それも日常的な散文ではなく韻文で。しかし、言葉の意味以上に、言葉の音楽性こそ詩の重要な構成要素になる。極言すれば、内容はよくわからないとしても、声に出してある詩を読み、何らかの心地よさを感じれば、それだけでも、その詩のかなりの部分を味わえたといえるだろう。であれば、受講に際して高度な英語力や古文の読解力が要求されることはない。とはいえ、ある程度の英語の文法知識や語彙力あるいは古文読解の基礎知識が受講者には当然あるという前提で講義を進めていく。

【科目のレベル、前提科目など】

「文学A」「英文学概論」

科目名	論理学
	推論と証明の技法
教員名	渡辺 忠

【授業の内容】

論理学は、人が合理的に考えたり話したりしているときに従っているはずの、暗黙の規範を対象とする学問である。二千年以上の歴史があるが、19世紀末の大革命を経た現代論理学は、数学に範をとり、記号を用いて話を進める。論理学とは「合理的思考規範の記号を用いた探究」であり、今日では「論理学」といえば、端的にこのような数学的な記号論理学を意味する。授業では、論証の科学としての論理学の問題関心を説明した後、教科書に沿って命題論理・述語論理の順に解説と演習をする。形式言語の構成、その解釈、証明法としてのタブロー法、健全性定理・完全性定理、決定可能性など。タブロー法は他のどんな証明法よりも修得が容易である。

【到達目標】

- (1)記号論理（古典的第一階述語論理）による初等的な証明の技法を体得すること
- (2)いくつかの重要なメタ論理的定理について学習し、論理学や形式的方法についての概観を得ること
- (3)理論的で厳密な思考方法・態度を身につけること

【授業計画】

- 第1回 初回オリエンテーション、(復習)初回配布プリントの問題を解く (予習)教科書該当箇所を読み、疑問点をまとめる [合計 180分]
- 第2回 第1章 命題論理の記号言語の定義 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第3回 論理式の種類と確認手続き (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第4回 具体的解釈：論理式と日常言語の命題 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第5回 第2章 命題論理のモデル理論：真理関数、真理表 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第6回 真理値分析、質料的条件法 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第7回 真理関数の表現定理・十全性 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第8回 第3章 命題論理のタブロー：タブローの定義 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第9回 命題論理 タブロー法による証明 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第10回 第1回授業内試験 試験範囲：第1章～第3章の内容
- 第11回 第5章 述語論理の記号言語・論理式・unique readability (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第12回 具体的解釈：論理式と日常言語の命題 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第13回 具体的解釈と形式化・翻訳手続き1：原子論理式と真理関数 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第14回 具体的解釈と形式化・翻訳手続き2：量化論理式 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第15回 具体的解釈と形式化・翻訳手続き3：多重量化と複雑な論理式 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第16回 第6章 述語論理のモデル理論：真理値の定義 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第17回 真理値の確認手続き1：単純な論理式の解釈と真理値 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第18回 真理値の確認手続き2：複雑な論理式の解釈と真理値 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第19回 妥当性・充足可能性・モデル (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第20回 第二回授業内試験 試験範囲：第5章～第6章の内容
- 第21回 第7章 述語論理のタブロー：タブローの定義 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第22回 述語論理 タブロー法による証明1：論理式の証明 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第23回 述語論理 タブロー法による証明2：推論の証明 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]

- 例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第24回 第三回授業内試験 範囲：第7章の内容
- 第25回 第4章 命題論理の健全性定理・完全性定理 (復習) 授業内容を整理し疑問点を確認する (予習) 教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第26回 第8章 述語論理の健全性定理 (復習) 授業内容を整理し疑問点を確認する (予習) 教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第27回 第8章 述語論理の完全性定理1: Hintikka集合とHintikkaの定理 (復習) 授業内容を整理し疑問点を確認する (予習) 教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第28回 第8章 述語論理の完全性定理2: モデルの存在定理・体系タブロー (復習) 授業内容を整理し疑問点を確認する (予習) 教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第29回 タブローの完成と反例の構成1: 閉じない枝からの反例構成 (復習) 授業内容を整理し疑問点を確認する (予習) 教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第30回 タブローの完成と反例の構成2: 有限パラメタとHintikka集合の構成 (復習) 授業内容を整理し疑問点を確認する (予習) 教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]

教科書は初等論理学(第一階述語論理)の国際的に標準的な内容だが、初学者には内容量が多く感じられるかもしれない、受講者の理解の度合いによって授業の進行は変わりうる。授業内試験3回、定期試験1回の計4回で成績評価をする予定だが、場合によっては授業内試験を2回に減らすこともありうる。また、メタ論理的な内容の第4章と、とくに第8章は、進度によっては扱いきれない場合がある。いずれにしても、受講者の理解を第一に優先するので、受講者の同意を得たうえでその都度調整する。

【授業の進め方】

中学高校の数学の授業に似た進め方をする。解説講義・例題解法・受講者による問題解答演習を繰り返す。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①『論理学入門』 ②丹治信春 ③筑摩書房 ④2014 ⑤¥ 1,188 ⑥ISBN-13: 978-4480095183

このほか、内容理解のためのハンド・アウトを適宜用意する。

【参考図書】

- E.J.レモン『論理学初歩』世界思想社
 戸田山和久『論理学を作る』名古屋大学出版会
 N.Smith, Logic: The Laws of Truth, Princeton University Press
 V.Goranko, Logic as a Tool: A Guide to Formal Logical Reasoning, Wiley
 P.Smith, An Introduction to Formal Logic, Cambridge University Press
 D.Goldrei, Propositional and Predicate Calculus: A Model of Argument, Springer
 C.C.Leary/I.Kristiansen, A Friendly Introduction to Mathematical Logic, Milne Library
 D.Bostock, Intermediate Logic, Oxford University Press
 I.Chiswell/W.Hodges, Mathematical Logic, Oxford University Press
 R.Smullyan, First-Order Logic, Dover Publications
 M.Fitting, First-Order Logic and Automated Theorem Proving, Springer
 D.van Dalen, Logic and Structure, Springer
 J. von Plato, Elements of Logical Reasoning, Cambridge University Press

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 50% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

3回の授業内試験(あわせて50%)と定期試験(50%)の、合計4回のテストで判定する。

【履修上の心得】

授業をただ聞くだけ、教科書を定期試験前に漫然と眺めるだけでは「けっして」単位習得はできない。論理学を身に着けるには、掛け算九九を覚え、百ます計算のドリルを解く小学生のように、「紙と鉛筆」を使い自分の手を動かして理解することが必須だということを肝に銘じてほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

初級レベルである。昨年度の受講者の感想では、難易度は「中学校数学のレベル」だそうだ。大体そのくらいと思ってよいと思う。数学や記号が苦手な人は、それを克服するよいチャンスかもしれない。

科目名	国語表現法A
	国語表現への積極的展開
教員名	都野 祐俊

【授業の内容】

国語(日本語)でいかに適切に、また効果的に表現するか、その基礎能力を育成する。言語活動には、「聞く」「話す」「読む」「書く」という四つの領域があり、これらは相互に関連し合っている。このうち、「表現」は、「話す」と、「音読する・書く」とことという二つの形態に大別できる。「話す」と、「書く」との二つの行動は、異質な面もあるが、自己表現には欠かせない形態である。鍛えることは、豊かな言語生活につながる。本講座では、「話すこと」「書くこと」を中心として、楽しみながら積極的に参加できるようにし、一人一人の基礎的な表現能力を高めることにしたい。実用文やレポートなどを作成する基礎能力を養う。2分間スピーチ等も行う。実社会で要請されている待遇表現(敬語)の確認学習にも力を入れたい。

【到達目標】

「聞く」「話す」「読む」「書く」基礎能力が高められ、国語表現について楽しく、積極的に取り組めるようになる。

【授業計画】

- 第1回 言葉とは何か。(言葉の抽象性について)
- 第2回 話し言葉について(「聞く」こと。「話す」こと)
- 第3回 文字言葉について(「読む」ことと、「書く」こと)
- 第4回 表記法について(国語の表記法と特色。仮名づかい・送り仮名)
- 第5回 表記法について(国語の表記法と特色。仮名づかい・送り仮名)
- 第6回 待遇表現(敬語)について(敬語の種類・特色。理解と実践)
- 第7回 待遇表現(敬語)について(敬語の種類・特色。理解と実践)
- 第8回 待遇表現(敬語)について(敬語の種類・特色。理解と実践)
- 第9回 日本語の伝統(俳句・短歌)
- 第10回 日本語の伝統(小説・論説文)
- 第11回 日本語と音楽
- 第12回 日本語と宗教
- 第13回 方言について(語り部による民話を通して)
- 第14回 若者の言語生活
- 第15回 まとめ

【授業の進め方】

上記の内容について、教科書・補助教材プリントを用いながら講義を行う。原則として、毎時間演習等を行う。演習プリントは提出とし、出席原票として扱う。講義と演習をおおむね5対5の割合で展開する。積極的・意欲的に取り組み、展開してほしい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①日本語検定 公式 領域別問題集 敬語 ②日本語検定委員会 ③東京書籍 ⑤1143円

毎時間使用する

【参考図書】

授業時に随時配布する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

成績評価は、①授業時に行う課題・演習の提出物と、②授業への取り組み姿勢などを総合して行う。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

三分の二以上の演習プリント提出が評価の必要条件である。

【履修上の心得】

授業は社会人の職業現場と同じと心得て、休まない・遅刻しない・早退しないことに努力されたい。リハーサルに不在の音楽家は職場を失います。

【科目のレベル、前提科目など】

後半、「国語表現法B」とセットで受講することが望ましい。

【備 考】

毎時間、スピーチの演習がありますので、自己を鍛える場にしてください。

科目名	国語表現法B
	国語表現の実践的展開
教員名	都野 祐俊

【授業の内容】

国語(日本語)で適切に、効果的に表現する能力を高め、思考力を伸ばし、言語感覚を磨くことを目的とする。言語活動のうち、「読む」「書く」「話す」という領域は、学生にとって、将来に向けて、論文やレポート等を作成したり発表したりする上で、重要である。

本講座では、「国語表現法A」との関連を図りながら、要約文・論説文・意見文・説明文・記録文・報告文等を書く力を養うことを中心に講義と演習をすすめていく。様々な文章表現を分析し、文章表現を実践し、表現能力をより一層高めることに力を入れたい。並行して、2分間スピーチ演習と「漢字・表記」演習を毎時間実施する。

【到達目標】

自己の意見・自己の論評を思い通りに表現できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 要約文の作り方とその演習
- 第2回 要約文の作り方とその演習
- 第3回 要約文の作り方とその演習
- 第4回 論説文について（論説文の特徴についての理解・論説文の構成とその書き方についての理解とその実践）
- 第5回 論説文について（論説文の特徴についての理解・論説文の構成とその書き方についての理解とその実践）
- 第6回 意見文について（意見文の特徴についての理解・意見文の構成とその書き方についての理解とその実践）
- 第7回 意見文について（意見文の特徴についての理解・意見文の構成とその書き方についての理解とその実践）
- 第8回 意見文について（意見文の特徴についての理解・意見文の構成とその書き方についての理解とその実践）
- 第9回 説明文について（説明文の特徴についての理解・説明文の構成とその書き方についての理解とその実践）
- 第10回 説明文について（説明文の特徴についての理解・説明文の構成とその書き方についての理解とその実践）
- 第11回 記録文、報告文について（それぞれの役割と特徴等についての理解・情報の収集と整理の仕方）
- 第12回 記録文、報告文について（それぞれの役割と特徴等についての理解・情報の収集と整理の仕方）
- 第13回 スピーチについて（総括と展望）
- 第14回 広告文（宣伝文）について（それぞれの役割と特徴等についての理解）
- 第15回 まとめ

【授業の進め方】

教科書・補助教材プリントを用いながら講義を行う。原則として毎時間演習等を行う。スピーチの演習も行う。演習プリントは提出とし、出席原票として扱う。講義と演習は5対5の割合で行う。積極的・意欲的に授業に臨んでほしい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①日本語検定 公式 領域別問題集 漢字・表記 ②日本語検定委員会 ③東京書籍 ⑤1143円

毎時間使用する

【参考図書】

随時、配布する。各新聞の毎日の社説・コラム等参照のこと。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

成績評価は、①課題演習の提出物、②授業への取り組み姿勢などを総合して行う。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

三分の二以上の演習プリント提出が評価の必要条件である。

【履修上の心得】

次世代の社会を背負って立つ者という自覚を持ち、自分に対して欠席・遅刻・早退は厳に戒め、前向きに参加すること。

【科目のレベル、前提科目など】

「国語表現法A」を履修してから受講することが望ましい。身につけた国語表現力を、他教科にも活用し、実社会でも様々に活用してほしい。

【備 考】

2分間スピーチを演習として実施する。

科目名	美学A
	美や芸術の源流を探る
教員名	益田 勇一

【授業の内容】

古代ギリシアから中世に到るまでの美や芸術に関する思考の歴史を辿る。

それぞれの時代を代表する思想家が残した文献から、美や芸術に関する言説を拾い集め、当時それらがどのように考えられていたのかを概説する。今日われわれが抱いている美や芸術のイメージとはかなり異なる考え方が存在したことに気づかされると思う。自分自身にとって美や芸術がどのような意味を持ちうるのか、社会においてそれらがどのような役割を果たしうるのかを考察するための基礎を構築することを目指す。

【到達目標】

ヨーロッパにおいて、美や芸術についての思考がどのように始まり、中世に至るまでにそれがどのように変化してきたのかを理解し、自分なりの芸術観をもつことができる。

【授業計画】

- 第1回 美学とは(1) 美学という学問名称の由来
- 第2回 美学とは(2) 美と芸術
- 第3回 ヨーロッパ的思考の源流 ミレトス学派のアルケー／ヘラクレイトスのロゴス
- 第4回 プラトン(1) 生涯と著作／イデア論／魂の三部分説
- 第5回 プラトン(2) 美のイデア／美の階層／エロス
- 第6回 プラトン(3) 模倣的技術としての芸術／芸術の意義
- 第7回 プラトン(4) 『国家』における芸術の位置づけ
- 第8回 アリストテレス(1) 生涯と著作／質料一形相論
- 第9回 アリストテレス(2) 美の原理
- 第10回 アリストテレス(3) 悲劇の構造—ミメシスとカタルシス—
- 第11回 プロティノス—新プラトン主義の美学— 流出説と存在の階層／ヌース的なものとしての美
- 第12回 アウグスティヌス—初期キリスト教の美学— 神の美／美と永遠
- 第13回 トマス・アキナナス—中世の美学—(1) 感覚的な美と神の美
- 第14回 トマス・アキナナス—中世の美学—(2) 美の認識と普遍論争
- 第15回 イコノクラスム—イコン(聖画像)破壊運動の歴史的・思想的背景

美や芸術に関するできるだけ多くの考え方を紹介したいので、授業時間内だけでは十分に説明しきれない事柄も出てくるのが予想される。

各回の講義の後には復習として、わからない用語や事柄について調べておくこと。

【授業の進め方】

要点をスライドで映し、解説を加える。前提となる基礎知識や用語解説等については資料を配布して補うようにする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用しない。

【参考図書】

必要に応じて提示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

定期試験による評価。

【科目のレベル、前提科目など】

哲学史、世界史の知識があると理解が深まる。関連科目としては「哲学A/B」「倫理学A/B」があげられる。美学の入門となる内容。

科目名	美学B
	近代美学の成立と展開
教員名	益田 勇一

【授業の内容】

近代美学の成立と展開の過程を概観する。

ドイツの哲学者バウムガルテンによって学問的基礎を据えられた近代美学は、カントによって認識論や倫理学とならぶ哲学の一部門としての地位を確立される。しかし、17世紀以降の近代合理主義哲学の流れのなかで展開されてきた美学は、19世紀にはいると転換のときを迎え、ニーチェの反合理主義的な思考によって解体され、多様な方向性を示す20世紀の美学へと引き継がれる。哲学の動向、社会状況の変化と連動して変わっていく芸術作品の歴史にも触れる。

【到達目標】

近代美学の成立と解体の過程を、哲学の動向や社会状況の変化と関連づけて理解することができる。

【授業計画】

- 第1回 17世紀という時代 近世の幕開け—デカルトとガリレオ—
- 第2回 バウムガルテン(1) 感性的認識の学としての美学
- 第3回 バウムガルテン(2) 美と完全性
- 第4回 カント(1) 先験的感性論／先験的分析論
- 第5回 カント(2) 美的判断の特色（無関心の満足）
- 第6回 カント(3) 美的判断の特色（主観的普遍妥当性）
- 第7回 カント(4) 美的判断力の特色（目的なき合目的性／範例的必然性）
- 第8回 ロマン主義の芸術観(1) シュレーゲル兄弟の近代文学論
- 第9回 ロマン主義の芸術観(2) フランスのロマン主義（ジェリコーとドラクロワ）
- 第10回 ロマン主義の芸術観(3) ドイツのロマン主義（フリードリヒ）
- 第11回 ロマン主義の芸術観(4) ショーペンハウアーの芸術論
- 第12回 ヘーゲル 絶対者／弁証法／芸術の歴史的展開
- 第13回 ニーチェ(1) 永遠回帰と芸術
- 第14回 ニーチェ(2) カへの意志と芸術／芸術の生理学
- 第15回 ハイデガーの芸術論—芸術と技術—

美や芸術に関するできるだけ多くの考え方を紹介したいので、授業時間内だけでは十分に説明しきれない事柄も出てくるのが予想される。

各回の講義の後には復習として、わからない用語や事柄について調べておくこと。

【授業の進め方】

要点をスライドで映し、解説を加える。前提となる基礎知識や用語解説等については資料を配布して補うようにする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用しない。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

定期試験による評価。

【科目のレベル、前提科目など】

哲学史、世界史の知識があると理解が深まる。関連科目としては「美学A」「哲学A/B」「倫理学A/B」があげられる。近代美学の入門となる内容。

科目名	比較文化論A
教員名	范力

【授業の内容】

中国社会、文化について学ぶことは、我々の視野を広めるばかりでなく、我々自身を、さらには日本という国をより良く理解することにもなる。中国という世界を広く理解し、日本の置かれた立場を認識しておくことは、我々の社会をより一層活力のあるものにして行くためにも重要である。

授業では、前期（A）後期（B）を通じ中国、韓国、インド、欧米諸国などの特性及び日本との関係について学び、最終的には学生諸君とともに世界の中で日本が目指すべき将来の姿について考えたい。

【到達目標】

中国の文化や社会についての理解を深めるとともに、異なった文化、社会に対する寛容な心を養う。

これらの文化、社会の日本にとっての重要性についての理解を深める。

翻って、日本の文化や社会の特性についての理解を深める。社会に出た際に、国際的関連性を理解して仕事に取り組める能力を養う。

期末レポートの執筆を通じて、自分自身で考える力を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 賢くなる方法とは——知識＋アルファ
- 第3回 「小泉元総理に結婚相手を紹介したら、Sをやるよ！」
- 第4回 交流という視点から見た日本と中国
- 第5回 中国の近代化と日本の近代化
- 第6回 喧嘩するほど仲が良い？私の経験談
- 第7回 中国人大学生の五つのタイプ
- 第8回 日本の新幹線と中国の「高鉄」
- 第9回 各国トイレ比較
- 第10回 中国映画鑑賞会『生きる』
- 第11回 中国を正しく理解するため
- 第12回 日本は集団主義、中国は個人主義？
- 第13回 和食・中華とカルチャーショック
- 第14回 八卦（はっけ）——中国式の占いで君の悩みを占ってみよう
- 第15回 まとめ、目的達成かチェック

日中両国は近くて遠い。日中の異同を徹底的に調査、研究しながら、それぞれの文化を比較していく。

【授業の進め方】

講義、プレゼン、グループディスカッション、ビデオ鑑賞、パソコン使用授業、小テスト、ディベート、その他

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業中に指示、配布する。

【参考図書】

范力編著『民主主義を相対化する中国』時潮社、2016年

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 50% 受講態度 20%

特記事項

レポートや授業への貢献度などによる総合的に評価する。

【履修上の心得】

できるだけ講義対象地域についての解説書や新聞を読み、質問及び意見を準備して来て欲しい。

【科目のレベル、前提科目など】

比較文化論Bも受講することが望ましい。

科目名	比較文化論A
	北アメリカ
教員名	高畑 昭男

【授業の内容】

アメリカ合衆国は北米大陸の大部分を占め、その北側にはカナダ、南側にメキシコが国境を接している。アメリカとカナダは、かつて英国植民地から独立して分かれた歴史を共有し、いわば兄弟の関係にある。一方、メキシコは、かつてスペイン植民地であった歴史から、言語はスペイン語を主とし、人種・文化的には中南米諸国と兄弟の関係にある。このように、北米大陸を構成するカナダ、アメリカ、メキシコはそれぞれが隣り合いながら、南北米大陸全体へとつながっている。本講座は、アメリカを中心としつつ、カナダ、メキシコとの関係にも目を配りながら、それぞれの歴史、社会、文化、伝統、宗教などの違いや共通点を比較研究し、21世紀へ向けて北アメリカがどのような地域社会をめざしているかを学ぶ。合わせて、日本の文化や歴史、社会との違いについても比較しながら、よりよい世界と日本をめざすための工夫を探る。

講義の大部分はアクティブ・ラーニングの視点や手法を数多く取り込んだものとする。受講学生による自主的なチーム研究を中心とし、発見学習やグループ・ディスカッション、グループ・ワークを多用した「参加型」クラスをめざしている。受講生はまず自分たちで数人規模のチームを編成し、3カ国のいずれかについて自由研究テーマを選び、発見を楽しみながら積極的に自由研究を進める。期末にチームごとに最終プレゼンテーションを行う。「参加型クラス」を望まず、あるいはチーム作業に関心を持っていない人等には受講を勧めない。研究チームに所属しない人は評価対象としない。

【到達目標】

1. 北アメリカを構成するアメリカ、カナダ、メキシコの歴史や文化、伝統、その背景に関する基礎知識を深める
2. 文化や歴史などの違いを各国がいかに吸収し共存しているかを考える比較研究の視点を学ぶ
3. 多民族・多文化国家が国民をまとめる上でどんな工夫をしているかを考え、共存・共生の豊かな発想をはぐくむ
4. 比較文化のさまざまな方法論を学び、それを生かす工夫を考える探究心へつなげる
5. 日本の文化や伝統、社会との違いを考え、よりよい世界を築くための工夫や視点、発想を身につける
6. アクティブ・ラーニングの視点から、発見学習や問題解決学習、グループ研究に親しみ、協調性やチーム作業の意義を学ぶ
7. 人前で堂々と研究成果を発表する能力、プレゼンテーションの技術を磨く

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション。講師の体験などを交えて講義の概要、主な狙いなどを紹介する。チームによる自由研究の進め方を説明し、チーム編成作業を進める。本クラスが自主編成したチームによる発見学習、調査学習、グループ・ディスカッション、グループ・ワークを中心とするアクティブ・ラーニング方式に基づいていることを詳しく説明し、学生たち自身に納得させ、自覚を高める。ICTを活用した研究手法や発表方法などについても説明する。
- 第2回 チーム編成。受講生は3～6人程度の研究チームを編成し、希望に応じてアメリカ、カナダ、メキシコのいずれかを選び、歴史、文化、伝統、宗教などの好きな分野でチームの自由研究テーマを決め、クラスに紹介する(研究テーマは後で変更自由)。講師との連絡・調整役としてチームリーダーを選ぶ。各チームは自分たちのグループを中心とした発見学習、問題学習、調査学習を進めるためのグループ・ディスカッションを重ね、研究したいテーマを持ち寄ってチーム研究テーマの選定を進めていく。
- 第3回 講義方式による各国の歴史と文化(アメリカ1)。国のなりたちと歴史、文化など。3カ国は欧州植民地だった歴史が共通している。英国植民地として始まったアメリカは、当初オランダ人(ニューヨーク)、カナダ(フランス)など欧州列強が入り混じって領土争いを展開した。
- 第4回 歴史と文化(アメリカ2) 建国の過程でアフリカから多数の黒人奴隷を輸入し、南部では奴隷を使った農園でタバコ、トウモロコシ、綿花栽培で経済を豊かにした。今日の黒人問題はここから始まる。アメリカは領土を増やすために、ロシアとフランス(ナポレオン皇帝)から土地を買い上げた。プロテスタント系のアングロサクソン人が主流となっていく。
- 第5回 歴史と文化(カナダ)。フランス植民地と英植民地が並存したため、今も公用語は英語とフランス語。とくにケベック州はフランス系が多いなどの特徴がある。ケベック州とアメリカ・ルイジアナ州の関係。多民族・多文化国家のルーツ。
- 第6回 歴史と文化(メキシコ)。かつて誇り高いインカ帝国やアステカ文明が栄えたが、スペイン人の侵略によって植民地化され、カトリック教を強制的に移入された。その結果、アステカ系原住民とスペインなど白人系、混血系(メスティーソ)に大きく分かれ、今でも貧富の格差や人種差別につながっている。
- 第7回 チーム研究の中間発表(ミニプレゼン)の準備。各チームは自由研究の進捗状況について中間報告をまとめ、グループごとにどんな作業を展開しているかなどの点をクラス全体に発表する準備を行う。障害や問題点などがあれば、講師が助言し、調整する。
- 第8回 チーム研究の中間発表(ミニプレゼン)。各チームは自由研究の進捗状況をクラスに報告する。問題点などがあれば、講師が助言する。リアクションペーパーの提出。
- 第9回 チーム研究の中間発表(ミニプレゼン続き)。リアクションペーパーの提出。

- 第10回 映像資料による各国の比較（カナダ）。豊かな自然、多彩な民族。極北からアメリカ国境に至る様々な民族性と多文化国家の紹介。
- 第11回 映像資料による各国の比較（アメリカ）。ドル札に見る強烈な「例外主義」思想。独立精神に込められた建国思想など。
- 第12回 映像資料による各国の比較（メキシコ）。誇り高いアステカ文明とラテン文化の光と影、超大国と隣り合わせの複雑な歴史と民族感情など。北米自由貿易協定(NAFTA)に見るカナダ、アメリカ、メキシコの経済統合。相違を克服する工夫のあり方。
- 第13回 チーム研究最終発表（最終プレゼン）の準備作業。チームごとに発表の内容、方法、レジメ作成、発言者の調整などの作業を行う。問題点などがあれば講師が助言し、調整する。
- 第14回 チーム研究発表（最終プレゼン）。アクティブ・ラーニング方式によるチーム自由研究の成果を最終プレゼンとしてクラスに発表する。受講生は他チームの発表を聞いた感想、評価などを学生評価票（リアクションペーパー）に記入して提出する。
- 第15回 チーム研究発表（最終プレゼン続き）と全体のまとめ。各チームの最終プレゼンを聞いた上で、学生評価票に記入して提出。最終講義終了時に、各自が「このクラスで何を学んだか」についてまとめた期末レポートを提出する。

【授業の進め方】

1. アクティブ・ラーニングの手法を多用し、受講生たちのチーム作業を中心とする「参加型」クラスとする。受講生は研究チームを編成し、自由テーマを決めて、発見学習、調査学習、グループ・ディスカッションを通じて自主研究を行う。
2. 何よりも楽しみながら研究する態度と主体的な意欲が大切である。
3. チーム討論、チーム作業を重視する。リーダーを中心に協調性を発揮させ、自主的でユニークな研究を競わせる。
4. チーム作業と最終プレゼンは全員参加、全員発言を原則とする。各自でプレゼン技術を磨く

【教科書(必ず購入すべきもの)】

とくに指定しない。講師が毎回レジメなどの資料を配布する。

【参考図書】

必読ではないが、『北アメリカ』（阿部齊、自由国民社）、『早わかりアメリカ』（池田智他著、日本実業出版社）、『物語ラテン・アメリカの歴史』（増田義郎著、中公新書）、『物語メキシコの歴史』（大垣貴志郎著、中公新書）など北米3カ国の歴史、文化、民族、社会に関する教養書を自主的に読んでおくことが望ましい。チームで輪読し、内容や感想を話し合うと講義が一層わかりやすくなる。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

(1)チーム研究発表40%、(2)個人の期末レポート40%、(3)受講態度など平常点20%ーをもとに評価する。期末試験はしない。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

1. アクティブ・ラーニングの視点に基づき、チーム作業、協調性、ICT活用のあり方などを重視する
2. チーム研究参加は必須である。チームに所属しない人、チーム作業に参加しない人は評価対象としない

【履修上の心得】

講義で話すことは導入でしかない。研究発表では、各個人とチーム全体の自主性と積極性、協調性が問われる。ふだんからアメリカ、カナダ、メキシコに関するニュースや教養書、旅行ガイドブックなどを積極的に探して読み、チーム内でよく話し合うことが大切である。自分たちで選んだ研究テーマに進んで取り組み、楽しみながら関心を広げていけるか、グループ作業を生かせるかなどが研究発表の内容および成績評価を左右する。

【科目のレベル、前提科目など】

入門編に相当。専門的な知識や用語の丸暗記は不要である。異なる文化を比較して地域社会に役立てる大きな発想と教養を深める。個人およびチームによる自発的で積極的な姿勢を評価の重要な柱としたい。

科目名	比較文化論B
教員名	范力

【授業の内容】

中国社会、文化について学ぶことは、我々の視野を広めるばかりでなく、我々自身を、さらには日本という国をより良く理解することにもなる。中国という世界を広く理解し、日本の置かれた立場を認識しておくことは、我々の社会をより一層活力のあるものにして行くためにも重要である。

授業では、前期（A）後期（B）を通じ中国、香港、台湾、インド、欧米諸国などの特性及び日本との関係について学び、最終的には学生諸君とともに世界の中で日本が目指すべき将来の姿について考えたい。

【到達目標】

中国の文化や社会についての理解を深めるとともに、異なった文化、社会に対する寛容な心を養う。

これらの文化、社会の日本にとっての重要性についての理解を深める。

翻って、日本の文化や社会の特性についての理解を深める。社会に出た際に、国際的関連性を理解して仕事に取り組める能力を養う。

期末レポートの執筆を通じて、自分自身で考える力を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ごあいさつの仕方について
- 第3回 自民党「独裁」？それとも共産党独裁？
- 第4回 日中食文化の比較
- 第5回 格差と華西村
- 第6回 日本と欧州との教育はここが違う
- 第7回 映画鑑賞会・正義の行方
- 第8回 メイドインチャイナと北京オリンピック
- 第9回 日本はどうみられるか
- 第10回 インドと中国との比較
- 第11回 中国とどう付き合えば良いか
- 第12回 役人の腐敗について
- 第13回 日本とアメリカから見た中国
- 第14回 東洋思想と西洋思想
- 第15回 まとめ、目的達成かチェック

日中両国は近くて遠い。日中の異同を徹底的に調査、研究しながら、それぞれの文化を比較していく。

【授業の進め方】

講義、プレゼン、ディスカッション、映画鑑賞、パソコン使用授業、その他

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業中に指示、配布する。

【参考図書】

范力編著『民主主義を相対化する中国』時潮社、2016年

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 50% 受講態度 20%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

レポートや授業への貢献度などによる総合的に評価する。

【科目のレベル、前提科目など】

比較文化論Aの履修が望ましい。

科目名	比較文化論B
	ヨーロッパ
教員名	高畑 昭男

【授業の内容】

一口に「ヨーロッパ」といっても、例えば中欧のオーストリアと島国の英国とでは、文化、社会、歴史、伝統、宗教、民俗・習慣など多くの点で違いがある。欧州諸国の多くは過去に王室を擁し、英国やスウェーデンなどは現在も王室を堅持しているが、他の国々は共和国になっている。そうした違いがあるにもかかわらず、多くの国々は「欧州統合」の長いプロセスをたどって欧州連合(EU)という超国家連合体を構成している。文化や習慣の違いを認め合いながら、共存共栄を図っている。本講座は、文明や文化史を軸としてヨーロッパ諸国の歴史や文化、社会、伝統、宗教、民族などの違いとともに、共通点についても比較研究する。さらには、日本との違いや共通点に関心を広げることでよりよい世界を築くための工夫について学びたい。

講義の大部分はアクティブ・ラーニングの視点や手法を数多く取り込んだものとする。受講生による自主的なチーム研究を中心とし、発見学習やグループ・ディスカッション、グループ・ワークを多用した「参加型」クラスをめざしている。受講生はまず自分たちで数人規模のチームを編成し、ヨーロッパのいずれかの国について自由研究テーマを選び、発見を楽しみながら積極的に自由研究を進める。期末にチームごとに最終プレゼンテーションを行う。「参加型クラス」を望まず、あるいはチーム作業に関心を持ってない人等には受講を勧めない。研究チームに所属しない人は評価対象としない。

【到達目標】

1. ヨーロッパの歴史、文化、伝統のルーツや背景に関する基礎知識を深める
2. 文化、歴史、伝統の違いを各国がいかにか吸収し、共存しているかを考える比較研究の視点を学ぶ
3. 多民族・多文化国家が国民をまとめる上でどんな工夫をしているかを考え、共存・共生の豊かな発想をはぐくむ
4. 比較文化のさまざまな方法を学び、それを生かす工夫を考える探究心へつなげる
5. 日本の文化や伝統、社会との違いを考え、よりよい世界を築くための工夫や視点、発想を身につける
6. アクティブ・ラーニングの視点から、発見学習や問題解決学習、グループ研究に親しみ、協調性やチーム作業の意義を学ぶ
7. 人前で堂々と研究成果を発表する能力、プレゼンテーションの技術を磨く

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション。講師の体験談などを交えて、講義の概要、主な狙いなどを紹介する。チームによる自由研究の進め方を説明し、チーム編成作業を進める。本クラスが自主編成チームによる発見学習、調査学習、グループ・ディスカッション、グループ・ワークを中心とするアクティブ・ラーニング方式に基づいていることを詳しく説明し、学生たち自身に納得させ、自覚を高める。ICTを活用した研究手法や発表方法などについても説明する。
- 第2回 チーム編成。受講生は3～6人程度の研究チームを編成し、ヨーロッパのいずれかの国（複数可）を選び、歴史、文化、伝統、宗教など好きな分野でチームの自由研究テーマを決め、クラスに紹介する（研究テーマは後で変更自由）。講師との連絡・調整役としてチームリーダーを選ぶ。各チームは自分たちのグループを中心とした発見学習、問題解決学習、調査学習を進めるためのグループ・ディスカッションを重ね、研究したいテーマを持ち寄ってチーム研究テーマの選定を進めていく。
- 第3回 講義方式によるヨーロッパの歴史と文化の全体像（ヨーロッパ文明の曙）。キリスト教以前と以後のヨーロッパ文明のルーツを探る。ギリシャ、ローマ文明。ヘレニズムなど。NHK世界遺産などの映像資料を鑑賞する。
- 第4回 歴史と文化（ローマ帝国の遺産）。欧州各地に残るローマ帝国の遺産とその影響。映像資料。編成された研究チームとテーマの紹介。
- 第5回 歴史と文化（民族大移動）。ローマ人からゲルマン人へ。支配民族の交代とそれがもたらした文化的影響。フランス、ドイツ、イタリアの原型の誕生。映像資料あり。
- 第6回 歴史と文化（異文化融合とイスラム）。東ローマ帝国の衰退と多文化の融合。スペインのレコンキスタと十字軍のもたらした文化的影響。映像資料あり。
- 第7回 歴史と文化（ルネサンスとヒューマニズム）。14世紀ルネサンスがイタリアで起き、豊かな人間性と文化復興運動に発展した。チーム研究の中間発表（ミニプレゼン）の準備。各チームは研究の進捗状況をまとめ、発表準備を行う。障害や問題点などがあれば講師が助言する。
- 第8回 チーム研究の中間発表（ミニプレゼン）の準備。各チームは自由研究の進捗状況について中間報告をクラス全体に発表する。障害や問題点などがあれば講師が助言し、調整する。リアクションペーパーの提出。
- 第9回 チーム研究の中間発表（ミニプレゼン続き）。リアクションペーパーの提出。
- 第10回 歴史と文化（宗教改革と近代国家）。宗教改革を経て、各国はカトリック教会権力から自立し、絶対王政へ道を開く。
- 第11回 歴史と文化（啓蒙思想）。啓蒙思想と絶対王政への批判、近代科学、経済、思想の発展。英国など議会政治の始まりと経過を探る。
- 第12回 歴史と文化（欧州統合の歩みと意義）。二度の世界大戦を生んだ欧州は石炭、鉄鋼の戦略資源の共有を出発点に「欧州統合」の長く険しい道のりに踏み出した。その現状、課題と展望。

- 第13回 チーム研究最終発表（最終プレゼン）の準備作業。チームごとに発表の内容、方法、レジメ作成、発言者の調整などを進める。問題点などがあれば、講師が助言し、調整する。
- 第14回 チーム研究発表（最終プレゼン）。アクティブ・ラーニング方式によるチーム自由研究の成果を最終プレゼンとしてクラスに発表する。受講生は他チームの発表を聞いた感想、評価などを学生評価票（リアクションペーパー）に記入して提出する。
- 第15回 チーム研究発表（最終プレゼン続き）と全体のまとめ。各チームの最終プレゼンを聞いた上で、学生評価票に記入して提出。最終講義終了時に、各自が「このクラスで何を学んだか」についてまとめた期末レポートを提出する。

【授業の進め方】

1. アクティブ・ラーニングの手法を多用し、受講生たちのチーム作業を中心とする「参加型」クラスとする。受講生は研究チームを編成し、自由テーマを決めて、発見学習、調査学習、グループ・ディスカッションを通じて自主研究を行う。
2. 何よりも楽しみながら研究する態度と主体的な意欲が大切である。
3. チーム討論、チーム作業を重視する。リーダーを中心に協調性を発揮させ、自主的でユニークな研究を競わせる。
4. チーム作業とプレゼンは全員参加、全員発言を原則とする。各自でプレゼン技術を磨く

【教科書(必ず購入すべきもの)】

とくに指定しない。講師が毎回レジメなどの資料を配布する。

【参考図書】

必読ではないが、『世界史とヨーロッパ』（岡崎勝世著、講談社現代新書）、『ルネサンスとは何であったのか』（塩野七生著、新潮文庫）、『ヨーロッパ各国気質』（片野優著、草思社）などのヨーロッパの歴史、文化、民族、社会に関する教養書を自主的に読んでおくことが望ましい。チームで輪読などした上で、内容や感想を話し合っておくと講義が一層わかりやすくなる。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

(1)チーム研究発表40%、(2)期末レポート40%、(3)受講態度など平常点20%ーをもとに行う。期末試験はしない。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

1. アクティブ・ラーニングの視点に基づき、チーム作業、協調性、ICT活用のあり方などを重視する。
2. チーム研究参加は必須である。チームに所属しない人、チーム作業に参加しない人は評価対象としない。

【履修上の心得】

講義で話すことは導入でしかない。研究発表では、各個人とチーム全体の自主性と積極性、協調性が問われる。ふだんからヨーロッパ各国、地域に関するニュースや教養書、旅行ガイドブックなどを自主的に探して読み、テーマについてチーム内でよく話し合うことが大切である。自分たちで選んだ研究テーマに進んで取り組み、楽しみながら関心を広げていけるか、グループ作業を生かせるかなどが研究発表の内容および成績評価を左右する。

【科目のレベル、前提科目など】

入門編に相当。専門的な知識や用語の丸暗記は不要である。異なる文化を比較して地域社会に役立てる大きな発想と教養を深める。個人およびチームによる自発的で積極的な姿勢を評価の重要な柱としたい。

科目名	文化人類学A
教員名	結城 史隆

【授業の内容】

文化人類学は「人間」とは何かと考える学問である。その対象は時間的にはサルからヒトになった約500万年前から、空間的には今この地球上に生きている世界中の人々を含んでいる。

このような多様性をもった「人間」をさまざまな視点から比較考察し、その本質に迫ることをこの講義の目的としている。

「文化人類学A」では、人類の進化の過程や、環境に適応した食糧生産の方法と食生活、さらに家族や結婚などのような社会組織についての講義を行う。アジアの森の中で、アフリカの半乾燥地帯で、アンデスの高原で人々はどのように生きているのであろうか。世界のさまざまな文化や人間の身近な問題について学びたい人に受講して欲しい。

【到達目標】

1. 人類全般について、特にその「普遍性」と「多様性」について理解する。
2. サルからヒト、そしてその後の進化の過程を理解する。
3. 生業（ヒトはどのようにして食糧を得てきたか）を理解する。
4. 家族、親族、婚姻など社会組織の基本を理解する。
5. 女性と男性の関係や役割、相互補完性について理解する。
6. 焼畑耕作の実態を理解し、環境問題について考える。
7. モノの贈与・交換・分配の社会的意味を理解する。
8. 一般的な「言説」を再考し、自分の頭で考える姿勢を身につける。
9. 現代社会と今後の展望について考える。

【授業計画】

- 第1回 文化の特徴：「文化」って何？
- 第2回 異なる文化への眼差し：「未開人」を考える
- 第3回 文化人類学の誕生：「人間」の理解へむけて
- 第4回 フィールドワーク：異文化を調査すること
- 第5回 サルからヒトへ：ヒトはいつ殺人を犯し、来世を考えるようになったのだろうか？
- 第6回 採集狩猟民の世界：狩人たちはどのようにして何を獲ってきたのか
- 第7回 牧畜民の世界：家畜を中心として生活で、彼らは何を食べているのだろうか？
- 第8回 焼畑耕作民の世界：焼畑耕作って本当に環境破壊なの？
- 第9回 日本の原風景：50年前の日本を考える
- 第10回 男と女：男女の役割について考える
- 第11回 家族：家族にはどんな種類があるのか？
- 第12回 結婚：あなたにとって結婚とは何ですか。恋愛結婚のほうが世界では少ないのです
- 第13回 親族：親戚って誰のこと？
- 第14回 交換と贈与：あなたはなぜクリスマスやバレンタインデーに贈りものをするの？
- 第15回 現代社会とこれからの社会を考える

【授業の進め方】

授業はパワーポイントを使って講義形式をとる。さまざまな地域においてフィールド調査を行っているの、その実体験にもとづいた事例や写真の紹介で理解の手助けとしたい。

講義の最初に前回の講義の重要点をテストする。ノートなどの持ち込み参照は不可である。

遅刻してテストを受けられなかった場合は、欠席扱いとなるので注意。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特になし

【参考図書】

1. 『目からウロコの文化人類学』 斗鬼正一 2003 ミネルヴァ書房
 2. 『文化人類学がよ〜くわかる本』 杉下龍一郎 2006 秀和システム
 3. 『文化人類学を学ぶ人のために』 米山俊直、谷泰編 1991 世界思想社
- * 初心者には1と2がわかりやすい。もっと勉強したい人は3が体系的です。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 100% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

アクティブ・ラーニングの発想の原点は、ただ講義をきいて知識をインプットしていた大学授業に、アウトプットの要素を取り入れることにある。本講義は履修者多数のために細かいワークショップを実施することは不可能である

が、アウトプットを重視するという意味で、毎回、前回の講義の重要点を記述式で書かすことにしている。これがアクションペーパー（小テスト）である。ノート、資料などの参照は不可なので、自分の頭の中に知識を体系的に整理して回答しなければならない。そのためには、毎回復習をすることが必須となる。授業の目的は単位を与えることではなく、受講者の知識、体験、能力を向上させることにあることを理解して履修して欲しい。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ★全回出席することを大前提とする★ → 1回だけ休んでも不合格になるという覚悟が必要したがって、シラバスを読んで第1回目から必ず出席すること。（「他の授業を見ていました」というのは理由として認めない。）
- ★毎回授業の最初に前回の講義の重要点をテストする。
テストは持ち込み不可で、講義中に集中して理解し、さらに復習をしなければならない。
- ★毎回のテストを5段階で評価し、その総合得点で評価する。15回講義があるので75点満点で44点以下は不可である。
- ★毎回出席していても点数が低いと不可になることがあることを了解しておくこと。
- ★授業をやむを得ず欠席した場合は、その理由と欠席した講義の内容を要約した「欠席講義要旨」を次回出席したときに必ず提出しなければならない。（友人などに話を聞き、ノートを見せてもらって文章で書くこと。）
- ★定期試験、再試験、追試験、成績不良救済のためのレポート提出などは一切行わない。
- ★最上級生であっても特別扱いはしないので、該当者はそのことを承知の上で履修すること。

自分の能力を向上させる意識がない、ただ、単位のために講義にできるような気持ちのある人は履修しないほうがよい。中間発表で単位取得の見込みのない人は発表する。

【履修上の心得】

講義はできるだけわかりやすくするつもりなので、「人間」の多様性と普遍性を理解し楽しんで欲しい。講義時間中は頭を整理し、理解しながらノートに要点を書くこと。集中力がない人、周囲と談話する人、居眠りする人は教室からでていってもらおう。新しい知識に無関心で、努力も苦勞もせずにとただ単位だけを取得したいと安易に考えている人は、受講しないほうがよい。

【科目のレベル、前提科目など】

特になし

科目名	文化人類学B
教員名	結城 史隆

【授業の内容】

文化人類学は「人間」とは何かと考える学問である。その対象は時間的にはサルからヒトになった約500万年前から、空間的には今この地球上に生きている世界中の人々を含んでいる。

このような多様性をもった「人間」をさまざまな視点から比較考察し、その本質に迫ることをこの講義の目的としている。

人間が他の動物と異なっていることの一つに、言語を持っていること、精神世界、神や来世などの宗教心をもっていることが上げられる。この「文化人類学B」では、人間の言語の特質や広い意味での精神世界を中心に授業を進める。

【到達目標】

1. 人類全般、特に人間の普遍性と多様性を理解する。
2. 言語や非言語によるコミュニケーションについて理解する。
3. 「宗教」と「それを信じる人々の心」について理解する。
4. 伝統的・土着的な宗教について理解する。
5. 儀礼の意味を理解する。
6. 日本人が「宗教的」民族であること理解する。
7. 「言説」にとらわれず、自分の頭で考える姿勢を身につける。

【授業計画】

- 第1回 文化人類学の誕生
- 第2回 言語の特質
- 第3回 非言語コミュニケーション
- 第4回 民間信仰（アニミズム）
- 第5回 民間信仰（トーテミズム、マナ、タブー）
- 第6回 シャーマニズム
- 第7回 病因と伝統医療
- 第8回 呪術
- 第9回 人生と通過儀礼
- 第10回 強化儀礼
- 第11回 神話
- 第12回 ハレとケガレ
- 第13回 祭り
- 第14回 一神教
- 第15回 日本の仏教と宗教の生まれるとき

【授業の進め方】

授業はパワーポイントを使って講義形式をとる。さまざまな地域においてフィールド調査を行っているので、その実体験にもとづいた事例や写真の紹介で理解の手助けとしたい。

講義の最初に前回の講義の重要点をテストする。

遅刻してテストを受けられなかった場合は、欠席扱いとなるので注意。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特になし

【参考図書】

1. 『目からウロコの文化人類学』 斗鬼正一 2003 ミネルヴァ書房
 2. 『文化人類学がよ〜くわかる本』 杉下龍一郎 2006 秀和システム
 3. 『文化人類学を学ぶ人のために』 米山俊直、谷泰編 1991 世界思想社
- * 初心者には1と2がわかりやすい。もっと勉強したい人は3が体系的です。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 100% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

アクティブ・ラーニングの発想の原点は、ただ講義をきいて知識をインプットしていた大学授業に、アウトプットの要素を取り入れることにある。本講義は履修者多数のために細かいワークショップを実施することは不可能であるが、アウトプットを重視するという意味で、毎回、前回の講義の重要点を記述式で書かすことにしている。これがアクションペーパー（小テスト）である。ノート、資料などの参照は不可なので、自分の頭の中に知識を体系的に整理して回答しなければならない。そのためには、毎回復習をすることが必須となる。

授業の目的は単位を与えることではなく、受講者の知識、体験、能力を向上させることにあることを理解して履修して欲しい。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

全回出席することが大前提であるが、全回出席しても毎回のテストの点数が悪いと不合格になるという厳しい講義である。

自分の能力をあげる意識がない、ただ、単位のために講義にでるような気持ちのある人は履修しないほうがよい。

中間発表で単位取得の見込みのない人は発表する。

【履修上の心得】

講義はできるだけわかりやすくするつもりなので、「人間」の多様性と普遍性を理解し楽しんで欲しい。講義時間中は頭を整理し、理解しながらノートに要点を書くこと。集中力がない人、周囲と談話する人、居眠りする人は教室からでていってもらおう。新しい知識に無関心で、努力も苦勞もせずにただ単位だけを取得したいと安易に考えている人は、受講しないほうがよい。

【科目のレベル、前提科目など】

特になし

科目名	社会学A
教員名	山本 厚太郎

【授業の内容】

高校までの諸君の勉学は、知識の詰め込みが主体であった。「正しい」とされるものをいかに記憶するかということが優先されてきたのではないだろうか。大学で学ぶということは、それとはかなり異なる（と、私は思いたい）。何よりも問題を提起する力が求められる。どうして、なぜそうなっているのか？もっと良い方法は？考え方は？こうした諸君の問いかけこそが次代の進歩を生み出す原動力なのだ。

社会学は現在を見つめる学問である。それゆえ「……ということになっている」とつい見なしてしまうことにも光をあてて考えていく。たとえば家族だ。なぜ我々は主に“核家族”という家族形態で暮しているのか。そのことに疑問を持つ学生は決して多くはないだろう。しかし、この家族の形ももちろん社会の、経済の、政治の変遷の影響下にある。その変容を検証し、将来の予測をも打ち立てるところに、この社会学の醍醐味がある。

社会学の根本はつまるところ「個人と社会」の問題を捉え、解析していくところにあるのだ。

ごく当然のように、諸君の周囲に存在する全ての物事が学問の対象となる。

私の講義ではそれを見つめ直していくことによって、現代社会の有り様を把握し、同時に諸君の問いかける力、考える力を高めていきたい。

【到達目標】

「私」を取り巻く現代社会の見方を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 社会学という考え方：社会をどう見るか
- 第2回 社会における諸集団と変化
- 第3回 社会的役割と私たち
- 第4回 コトバと私たち：コトバとは何？
- 第5回 コトバと関係性
- 第6回 日本語の特殊性について
- 第7回 マスコミュニケーションと私たち：マスコミュニケーションとは
- 第8回 マスコミュニケーションの変容
- 第9回 インターネットの拡大とマスコミュニケーション
- 第10回 テレビ（代表的マスメディア）と私たち：テレビの歴史
- 第11回 送り手と受け手、やらせと視聴率
- 第12回 センセーショナルリズムとジャーナリズム
- 第13回 情報社会と私たち：情報って何？
- 第14回 あふれる情報と個人
- 第15回 まとめ

【授業の進め方】

この講義には毎年多くの学生が参加してくれている。それ故、どうしても一方的なレクチャーに陥りやすい。

そうした一方通行の講義はできるだけ避けたいので、アンケートを取ったり、それぞれのテーマについての意見を聞くなどするので、皆さんの積極性を期待する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない。プリントを配布する。

【参考図書】

追って指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

レポート

講義への参加度

【履修上の心得】

ビデオや新聞などを利用し、タイムリーなテーマを選んで進めていく。

ひとつのテーマを2週以上に渡って講義し、諸君と共に考察するスタイルをとる予定なので、1回目を休むと、2回目は内容についていけなくなるおそれあり。なお、受講学生数の上限を設けることとなりました。御理解をお願いします。

【科目のレベル、前提科目など】

なし。旺盛な知的好奇心のみ。

基本的な科目である。大学で何を専攻するにしろ、社会学的な考察力は必須であると思う。

科目名	社会学A
	社会学入門
教員名	川上 代里子

【授業の内容】

「社会学とは何か」と考えたとき、社会学は家族、集団、組織など人間関係を切り口として社会関係を分析していく学問であるといえるだろう。しかしその研究対象は幅広く、視点や方法も多様であるため、社会学の全体像を短期間で把握するのは難しい。そのため本講義では、我々の身近な問題を取り上げ、そのような問題を社会学がこれまでどのように扱ってきたか考察することから始める。学生には、ただ単に社会学についての知識を詰め込むのではなく、社会的にももの考える能力、つまり自分の身近に起こっている問題を、個々の問題として終わらせず、それを社会的文脈に関連付けて考察する能力を、身に付けていって欲しい。その能力は他の分野の研究にも役に立つことになるだろう。

さらに講義全体を通して、社会の仕組みは、様々な社会的な「力」が作用して形作っているのだということを、学生が実感できるよう授業を進めていきたい。

【到達目標】

社会的にももの考える能力の前提として、基本的な社会学用語を習得することを目標とする。また各回のテーマに関して、研究の流れにそって主要な理論を理解していくことを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 自我の構造：今の自分の性格を考え、社会や周りの環境から影響を受けている部分があるかどうか考えておく。そのために講義の内容について、もう一度確認する(10分)。
- 第3回 社会的役割：普段の生活における相互行為で自分が遂行している役割を挙げてみる。その役割に伴う役割期待についても考えておく。そのために講義の内容について、もう一度確認する(15分)。
- 第4回 ことばと社会：近年の英語教育の早期化について、自分の意見を考えておく。そのために必要な下調べがあれば行う(20分)。
- 第5回 社会における諸集団(1) 基礎集団と機能集団：自分の身近にある基礎集団と機能集団をそれぞれ挙げておく。そのために講義の内容について、もう一度確認する(15分)。
- 第6回 社会における諸集団(2) 組織と官僚制：自分の身近な組織(部活動など)で官僚制の逆機能といえるものを一つ挙げておく。そのために講義の内容について、もう一度確認する(20分)
- 第7回 メディアの変容(1)出版、新聞、ラジオ、映画
- 第8回 メディアの変容(2)テレビ、インターネット：マス・メディアの変容を振り返り、祖父母や両親などの家族にラジオやテレビにまつわる思い出について聞いてみる。それらをもとに現在との違いを考える(10分)。
- 第9回 日本のメディアの現状：日本のメディア状況について、日本の特徴を挙げておく。そのために講義の内容について、もう一度確認する(10分)。
- 第10回 情報化社会を考える
- 第11回 マス・コミュニケーションの理論(1)送り手の「効果」：マス・メディアにはどの程度の影響力があるのか、自分なりの意見を考えておく。そのために講義の内容について、もう一度確認する(20分)。
- 第12回 マス・コミュニケーションの理論(2)メディアと受け手、文化に関する理論：自分がメディアに接する時、どのくらい能動的にそれを行っているだろうか。よく考えてそれを選んでるか、なぜそれを選ぶのか考えてみる。そのために講義の内容について、もう一度確認する(15分)。
- 第13回 ジャーナリズムについて考える
- 第14回 情報操作、プロパガンダ、やらせ：プロパガンダとは何を意味するのかを考えておく。またメディアの役割について考えておく。そのために第13回、第14回講義の内容について、もう一度確認する(20分)
- 第15回 まとめ

【授業の進め方】

レジメに基づく講義形式の授業である。レジメや資料は随時配布する。各テーマごとに問題演習を行う。また前回の講義の内容を参考にして、授業の最初に特定のテーマについて自分なりに考え意見を書いて提出してもらうことがある。そのための簡単な下調べを予習復習として課すことがある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリントを使用する。

【参考図書】

『社会学』 アンソニー・ギデンズ著 而立書房

『マス・コミュニケーション理論上・下』 スタンリー・J・バラン/ デニス・K・デイビス著 新曜社

* これ以外にも、各回のテーマに沿った文献を紹介することがある。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

特記事項

受講態度は、授業内で指示した作業(特定のテーマについて自分の意見を書く)の提出状況などを評価します。

【履修上の心得】

前回の講義の内容を参考にして、授業の最初に特定のテーマについて自分なりに考え意見を書いて提出してもらうことがある。意見を書く際には「どのような意見を述べたか」によって評価が決まることはないので安心して欲しい。テーマとなる問題について、自分なりに考え、意見をまとめてそれを書くという作業をすること自体が大切である。まずは簡単で良いので自分なりの意見を持ち、それをフィードバックして欲しい。ただ出席するだけでなく、提示した課題に取り組み積極的に授業に参加してもらいたい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：特になし。入門的な科目である。

これまで社会学というものに触れたことのない学生に、「社会的に考える」ということを経験して欲しい。

科目名	社会学B
教員名	山本 厚太郎

【授業の内容】

高校までの諸君の勉学は、知識の詰め込みが主体であった。「正しい」とされるものをいかに記憶するかということが優先されてきたのではないだろうか。大学で学ぶということは、それとはかなり異なる（と、私は思いたい）。何よりも問題を提起する力が求められる。どうして、なぜそうなっているのか？もっと良い方法は？考え方は？こうした諸君の問いかけこそが次代の進歩を生み出す原動力なのだ。

社会学は現在を見つめる学問である。それゆえ「……ということになっている」とつい見なしてしまうことにも光をあてて考えていく。たとえば家族だ。なぜ我々は主に“核家族”という家族形態で暮しているのか。そのことに疑問を持つ学生は決して多くはないだろう。しかし、この家族の形ももちろん社会の、経済の、政治の変遷の影響下にある。その変容を検証し、将来の予測をも打ち立てるところに、この社会学の醍醐味がある。

社会学の根本はつまるところ「個人と社会」の問題を捉え、解析していくところにあるのだ。

ごく当然のように、諸君の周囲に存在する全ての物事が学問の対象となる。

私の講義ではそれを見つめ直していくことによって、現代社会の有り様を把握し、同時に諸君の問いかける力、考える力を高めていきたい。

【到達目標】

「私」を取り巻く現代社会の見方を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 社会学とは
- 第2回 家族と私たち：家族形態と社会変化
- 第3回 サービス情報化社会と家族
- 第4回 少子高齢化社会と私たち：超高齢社会の現実
- 第5回 少子高齢化の原因と対策
- 第6回 超高齢化社会の今後
- 第7回 食と私たち：日本の食料事情の現実
- 第8回 食の安全とグルメ文化
- 第9回 農業人口の減少と高齢化（農村・都市の変化）
- 第10回 食が文化に与えた多大なる影響を考える
- 第11回 地球環境問題と私たち：地球環境問題の現状
- 第12回 循環型社会という考え方
- 第13回 豊かさとは何か？大量生産、大量流通、大量消費、大量廃棄の限界
- 第14回 豊かさとは何か？広告宣伝を考える
- 第15回 まとめ

【授業の進め方】

この講義には毎年多くの学生が参加してくれている。それ故、どうしても一方的なレクチャーに陥りやすい。

そうした一方通行の講義はできるだけ避けたいので、アンケートを取ったり、それぞれのテーマについての意見を聞くなどするので、皆さんの積極性を期待する。

なお、「社会学A」を受講した学生が「社会学B」を連続して受講する場合、後期の冒頭のみ重複があるのを容赦されたい。

社会学A・Bを通して学んでいくと、現代日本の姿がはっきり見えてくると思う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない。

プリントを配布する。

【参考図書】

追って指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

レポート

講義への参加度

【履修上の心得】

ビデオや新聞などを利用し、タイムリーなテーマを選んで進めていく。

ひとつのテーマを2週以上に渡って講義し、諸君と共に考察するスタイルをとる予定なので、1回目を休むと、2回目は内容についていけなくなるおそれあり。

なお、受講学生数の上限を設けることとなりました。御理解をお願いします。

【科目のレベル、前提科目など】

なし。旺盛な知的好奇心のみ。

基本的な科目である。大学で何を専攻するにしろ、社会学的な考察力は必須であると思う。

科目名	社会学B
	社会学入門
教員名	川上 代里子

【授業の内容】

「社会学とは何か」と考えたとき、社会学は家族、集団、組織など人間関係を切り口として社会関係を分析していく学問であるといえるだろう。しかしその研究対象は幅広く、視点や方法も多様であるため、社会学の全体像を短期間で把握するのは難しい。そのため本講義では、我々の身近な問題を取り上げ、そのような問題を社会学がこれまでどのように扱ってきたか考察することから始める。学生には、ただ単に社会学についての知識を詰め込むのではなく、社会的にもものを考える能力、つまり自分の身近に起こっている問題を、個々の問題として終わらせず、それを社会的文脈に関連付けて考察する能力を、身に付けていって欲しい。その能力は他の分野の研究にも役に立つことになるだろう。

さらに講義全体を通して、社会の仕組みは、様々な社会的な「力」が作用して形作られているのだということを、学生が実感できるよう授業を進めていきたい。

【到達目標】

社会的にもものを考える能力の前提として、基本的な社会学用語を習得することを目標とする。また各回のテーマに関して、研究の流れにそって主要な理論を理解していくことを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 広告宣伝と消費社会
- 第3回 農村の変化 — 農村から都市へ
- 第4回 都市の変化：農村と都市を比較し、自分はどちらに住みたいか考えておく。そのために第3、4回の講義の内容について、もう一度確認する(20分)。
- 第5回 都市の暮らしを考える：都市の暮らしは孤独か？都市の人間関係に焦点をあてて考えておく。そのために講義の内容について、もう一度確認する(15分)
- 第6回 コミュニティと人口減少社会：過疎化問題について、自分なりに対策を考えておく。そのために講義の内容について、もう一度確認する(15分)。
- 第7回 日本のイエとムラ：日本のイエやムラについて、現在にもその名残があるか具体例を考えてみる。そのために講義の内容について、もう一度確認する(15分)。
- 第8回 家族の諸形態、家族の機能と構造：自分の家族を事例として、家族の形態や機能を挙げてみる。そのために講義の内容について、もう一度確認する(15分)。
- 第9回 家族の変化(1) 近代家族と子どもの誕生
- 第10回 家族の変化(2) フェミニズムとジェンダー：家事分担の夫と妻の間の不公平感について、解消の方法を考えてみる。そのために第9,10回の講義の内容について、もう一度確認する(20分)。
- 第11回 少子高齢化問題を考える：少子高齢化問題について、対策を考えてみる。そのために講義の内容について、もう一度確認する(15分)。
- 第12回 環境とリスク(1)食糧事情の現実—肥満と飢餓、世界フード・ビジネスのしくみ：食料供給の偏りについて、対策を考えてみる。そのために講義の内容について、もう一度確認する(15分)。
- 第13回 環境とリスク(2)食の安全をテーマとして—遺伝子組み換え作物を考える：身の回りの食品の材料表示を確認し、遺伝子組み換え作物を使っているものはないか確認する。遺伝子組み換え食品のリスクを許容できるかどうか自分なりの意見を考えてみる。そのために講義の内容について、もう一度確認する(15分)。
- 第14回 環境問題の諸相—公害・地球環境問題：フリーライダー問題について、対策を考えてみる。そのために講義の内容について、もう一度確認する(15分)。
- 第15回 まとめ

【授業の進め方】

レジメに基づく講義形式の授業である。レジメや資料は随時配布する。各テーマごとに問題演習を行う。また前回の講義の内容を参考にして、授業の最初に特定のテーマについて自分なりに考え意見を書いて提出してもらうことがある。そのための簡単な下調べを予習復習として課すことがある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリントを使用する。

【参考図書】

『社会学』 アンソニー・ギデンズ著 而立書房

『現代人の社会学・入門—グローバル化時代の生活世界』 西原和久・油井清光編 有斐閣

* これ以外にも、各回のテーマに沿った文献を紹介することがある。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

特記事項

受講態度は、授業内で指示した作業(特定のテーマについて自分の意見を書く)の提出状況などを評価します。

【履修上の心得】

前回の講義の内容を参考にして、授業の最初に特定のテーマについて自分なりに考え意見を書いて提出してもらうことがある。意見を書く際には「どのような意見を述べたか」によって評価が決まることはないので安心して欲しい。テーマとなる問題について、自分なりに考え、意見をまとめてそれを書くという作業をすること自体が大切である。まずは簡単で良いので自分なりの意見を持ち、それをフィードバックして欲しい。ただ出席するだけでなく、提示した課題に取り組み積極的に授業に参加してもらいたい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：特になし。社会学Aと連続して履修すると本講義の理解もより深まると思われるが、内容的に独立しているため、社会学Bのみの履修でも問題ありません。

科目名	法学A(国際法を含む)/法学概論A(国際法を含む)
	日常生活から見る法律
教員名	河原 文敬

【授業の内容】

法律学の基本的な事項を、私法の分野（民法や商法が主にその分野です）を対象にして説明します。法律学を通して物の見方の多様性を知ることが、今後の学習にとって意義があると考えます。

【到達目標】

基本事項の理解が目的。法に関する興味の涵養と会問題に関する理解の促進。
異世代の方との対話に必要な基礎知識が獲得される。

【授業計画】

主に民法の分野の事例を取上げて説明をする。国の基本法である憲法の仕組みに言及し、その後民法等の説明を行う。はじめに仮説的な事例を取上げて法的な思考の特徴を説明する。次に以下の項目を中心に解説する。変更の場合は、適時講義中に指示する。

- 1回：法制度を憲法の仕組みを踏まえて紹介。国内法と国際法・条約の関連にも留意して解説する。
- 2回：私法制度の概要の説明。私法と公法。
- 3回：民事裁判と刑事裁判、権利の実現の方法。
- 4回：契約の意義、契約の自由の原則とその例外。約款に基づく取引の例。
- 5回：契約の種類、その分類の意義について。
- 6回：契約の履行を担保する制度。保証と担保物権について
- 7回：債務不履行責任
- 8回：不法行為責任とは、使用者責任と国家賠償制度の異同について。
- 9回：不法行為責任に関する判例紹介と検討
- 10回：未成年者、成年後見人制度、婚姻制度。
- 11回：労働契約について。
- 12回：労働基準法の概要。
- 13回：労働法に関する事例の紹介と検討。
- 14回：現代的な問題の具体的事例を使って紹介(たばこ訴訟、自己決定に関する裁判例を題材にする予定)
- 15回：講義全体の復習。既存の法制度を維持するか変革するか、担当教員の私見の披瀝。

*理解を深めるため、各回、事前に45分程度の予習事項と135分程度の復習事項を指示する。

【授業の進め方】

講義が中心です。理解を確認する意味でもアクティブラーニングを導入する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教材：池田真朗他『法の世界へ（第6版）』（有斐閣）を予定。
出版事情によって変更がありますので、開講時に確定します。

【参考図書】

講義中に伝えます。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 20%

特記事項

期末試験の成績を中心に評価します。

具体的な評価方法は受講生の数が確定した時点で変更もあります(講義中に伝達します)。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

試験では、論理的・説得的に答案を作成して下さい。

【履修上の心得】

真面目に学習してください。講義に出て教員の話をお聴きください。講義中は携帯電話等を使わないこと。

【科目のレベル、前提科目など】

高校あるいは中学の「現代社会」「政治経済」の予備知識と法学への関心があれば十分です。
他に前提科目はありません。関連科目として法学B、憲法があります。

科目名	法学B(国際法を含む)/法学概論B(国際法を含む)
	法学の本質とは何か、ということを理解する。
教員名	小野 義典

【授業の内容】

本講義の目的は、法学の本質を理解することにある。本講義に於いては、法学の本質の理解に当って、その必要となる事柄を、教授することを予定している。具体的には、法学の様々な分野の概説を行い、それぞれの法的諸問題、判例、学説などを交えながら講義を進めることである。また同時に、講義を通じて、教養ある大学人の育成と、各種試験への対策を行うことも考えている。

講義の進め方については、下記「授業計画」に沿って進むので、各自で参照して欲しい。本講義に於いては、公法(憲法や刑法、行政法など)、私法(民法や商法など)、社会法(労働法や社会保障法など)といった国内法に加え、国際法についても概説し、法学全般についての理解を深めることを予定している。

また、この講義は、学生自らが、法的な課題を発見し、その課題の解決に向けて主体的に取り組むものである。

【到達目標】

法律は、実は身近な存在でもある。(講義の中で詳細に触れることとする。)さらに、法学は、法律学を学習するための入門段階として必要不可欠な科目である。

学習・教育の到達目標は、まず、法学で学ぶべき一通りの知識を身につけることである。また、日常生活において紛争が生じた際、どこに法的な問題があるのか、ということを見つけて出す力を養うことにある。それには、法がどのように生まれ、そしてどのように運用されるのかを理解することが必要である。その上で、実定法解釈に於ける「通説」とはどのようなものなのか、自分自身が考える「正しい解釈」とはどのような解釈であるのか、最終的には、「法とは何か」あるいは「法学とは何か」ということが、自分の言葉で説明できるようになることと、今後、法律の学習が必要になった場合も、自らの力で学習を進めることが出来るための基本を身につけ、法的なものを見方や考え方を養うことが到達目標である。

【授業計画】

- 第1回 法学を学ぶ—オリエンテーション(説明・概観)とイントロダクション(導入)
〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジメを参照しつつ、各自で復習する(30分)
- 第2回 国家と法—国家とは何か・法とは何か
〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジメを参照しつつ、各自で復習する(30分)
- 第3回 実定法—法の存在形式
〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジメを参照しつつ、各自で復習する(30分)
※教科書にある例題を解き、翌々週の授業(第5回の授業)の際に提出する(作成時間は約60分程度)。解くべき例題は、授業中に指示する。
- 第4回 裁判制度—紛争と裁判
〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジメを参照しつつ、各自で復習する(30分)
- 第5回 夫婦・子どもと法—家族とは何か
〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジメを参照しつつ、各自で復習する(30分)
- 第6回 自己決定権—基本的人権の保障
〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジメを参照しつつ、各自で復習する(30分)
- 第7回 生命倫理と法—医療技術の進展と社会
〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジメを参照しつつ、各自で復習する(30分)
※教科書にある例題を解き、翌々週の授業(第9回の授業)の際に提出する(作成時間は約60分程度)。解くべき例題は、授業中に指示する。
- 第8回 刑法—犯罪と刑罰
〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジメを参照しつつ、各自で復習する(30分)
- 第9回 社会保障—法による保障制度
〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジメを参照しつつ、各自で復習する(30分)
- 第10回 労働と法・消費者と法—労働者、消費者の保護
〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジメを参照しつつ、各自で復習する(30分)
- 第11回 行政法—身近な行政法と行政作用
〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジメを参照しつつ、各自で復習する(30分)
※教科書にある例題を解き、翌々週の授業(第13回の授業)の際に提出する(作成時間は約60分程度)。解くべき例題は、授業中に指示する。
- 第12回 環境と法—環境問題と法規制
〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジメを参照しつつ、各自で復習する(30分)
- 第13回 国際社会と法(1)—国際社会を規律する法:国際法
〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジメを参照しつつ、各自で復習する(30分)
- 第14回 国際社会と法(2)—国際組織
〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジメを参照しつつ、各自で復習する(30分)
- 第15回 国際社会と法(3)—国際紛争解決手段

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

講義内容は上記の通りであり、順番に進めていく予定である。

・毎回の講義の後、出席カードを兼用するリアクションペーパーを提出すること。用紙は、毎回の講義の冒頭に配布する。

※講義の内容は、場合によって、多少の変動もありうることを了解されたい。

【授業の進め方】

黒板への要点板書、及び口述筆記、並びに、適宜配布するレジュメにより講義を進行させる予定である。講義は、基本的に教科書の各章を基準として進む。日本国憲法や各法律、条約等の条文にも言及することが多々ある。従って、教科書の所持が必須である。また、講義中、受講者は、教員の板書と並んで、教員が述べる講義の重要部分に関して、詳細にノートして欲しい。講義進行の詳細を、第1回目の講義の際に述べる。加えて、講義の内容に応じて、毎回の講義の後は、よく復習を行うこと。

また、数回の課題を提出することになるので、毎回の講義の内容を確認した上で、調べた内容をまとめ、課題を提出すること。なお、課題を提出するためには、復習をして学んだ内容をまとめる力も必要になる。課題のまとめ方、書き方も、もう一度、自らを省みて復習を行うこと。

なお、本講義は、私語厳禁である。また、他の受講生に対する学習の妨げとなる行為を禁止する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①『ロードマップ法学』 ②小川富之ほか編 ③一学舎 ④2016年4月 ⑤2500円（税別） ⑥9784904027158

※教科書は、学内の書店にて購入のこと。

【参考図書】

抱喜久雄編『新・初めての法学〔第2版〕』（法律文化社、2005年）2700円（税別）

抱喜久雄・野畑健太郎編『法学事始』（一学舎、2008年）2500円（税別）

※上記以外にも、参考文献を、講義中に幾つか推薦する予定である。

※法学関係のものに留まらず、さまざまな書籍や新聞・雑誌等の活字に親しむことが望ましい。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

成績評価は、期末試験の点数で評価を行う。点数配分は、期末試験100点を満点とするものである。期末試験の未受験者に、教員は、成績評価を行わない。期末試験受験が成績評価の条件となるので、十分注意すること。但し、講義への参加態度、あるいは、レポートや課題、リアクションペーパーをはじめとする提出物も成績評価に加味することがある。評価方法の詳細を、第1回目の講義の際に述べるので、必ず出席のこと。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は、「履修規定」に準ずる。

【履修上の心得】

評価方法でも述べた通り、期末試験受験が成績評価の条件となるので、注意すること。

【オフィス・アワー】

教員への連絡を行いたい場合は、講義前後にコンタクトを取るか、あるいは、教員メールアドレス宛にメールを送信すること。なお、シラバスがWEB上にて公開になっている関係上、諸般の事情により、この場にメールアドレスを記載することが出来ないため、第1回目の講義の際に、受講者に直接伝える。（但し、システム上、学内のみメールアドレスが公開される場合には、そのメールアドレス宛にメールを送信すること。）

【科目のレベル、前提科目など】

特になし。法学の初学者であることを前提にして、講義を進める。

但し、社会科学の基礎となる知識を要求する科目である関係上、中等教育で培ったはずの、「公民」や「日本史」「世界史」「政治経済(政治分野)」の知識が必要になることが多分にある。良い機会であるから、これまで学んだ知識をまとめる意味でも、もう一度見直すことも検討して欲しい。

また、時事問題にも触れる機会が多くなることが予想されるので、普段から、新聞・雑誌・テレビ・ラジオ・インターネットなどで、問題意識を持ってニュースに触れること。

全学年を対象としている。もちろん、1年次からでも履修出来るように配慮しているので、安心して欲しい。なお、関連科目として、「法学A」や「日本国憲法」がある。

科目名	統計学A
	人文・社会科学で用いる統計学の基礎理論と応用
教員名	本田 重美

【授業の内容】

位置の代表値，散らばりの代表値などの統計学の基本的な考え方を学び，簡単な例題を解くことを通じ直感的に統計学を理解します。そして，記述統計から推測統計学への学問的方向性を常に念頭におき，統計学の基礎知識をを極力わかりやすく講義します。

【到達目標】

講義の最終的目標は，入門レベルの分析手法を理解し，利用できるようになるところに置き，実践的に統計手法を学びます。そして，具体的な各国経済・社会のデータを用いて，社会と経済の構造と変化の方向を把握できるように導きます。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス，統計学の考え方
- 第2回 度数分布表の作り方
- 第3回 度数分布の例題
- 第4回 位置の代表値
- 第5回 メディアン，モード
- 第6回 平均の例題
- 第7回 メディアン・モードの例題
- 第8回 年齢別人口のグラフ
- 第9回 所得・貯蓄額の分布
- 第10回 散らばりの代表値
- 第11回 分散の考え方
- 第12回 標準偏差と分布
- 第13回 所得・貯蓄額の分散
- 第14回 分布の考え方
- 第15回 授業内容の復習とまとめ

学生諸君の理解を確認しながら授業を進めます。したがって授業計画は目安で授業内容は前後することがあります。

【授業の進め方】

統計データ，参考資料は随時配布します。パソコンやプロジェクターを用いて，具体的に統計処理を体験します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①経済データの統計学 ②森崎初男 ③オーム社 ④2014年8月 ⑤2,600円 ⑥978-4-274-05020-6

【参考図書】

山根太郎，統計学，東洋経済
 ホーエル，初等統計学，培風館

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 40% 受講態度 20%

【履修上の心得】

欠席しないこと。遅刻しないこと。

【科目のレベル、前提科目など】

科目は入門レベルです。予備知識は必要ないが、エクセルの初歩的な知識があれば、実際にデータ分析をする場合に便利です。

科目名	統計学B
	世界の集計データおよび個票データを用いた統計分析
教員名	本田 重美

【授業の内容】

統計学の基本的な考え方を復習した上で、様々な例題を解き直感的に統計学を理解するように努めます。そして、推測統計学の考え方を重視しつつ、母集団・標本の関係を極力わかりやすく講義します。

【到達目標】

講義の最終的目標は分布論および回帰分析を十分に理解し、人文・社会科学研究のために利用できるようになることです。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス, 統計学Aの復習
- 第2回 正規分布の考え方
- 第3回 正規分布表の使い方
- 第4回 データによる例題
- 第5回 標本分布
- 第6回 組み合わせと標本
- 第7回 標本分布の例題
- 第8回 相関分析
- 第9回 相関分析の応用例
- 第10回 回帰分析
- 第11回 正規方程式の導出
- 第12回 正規方程式の応用
- 第13回 仮説検定の考え方
- 第14回 個票データを用いた応用例
- 第15回 授業内容の復習とまとめ

学生諸君の理解を確認しながら授業を進めます。したがって授業計画は目安で授業内容は前後することがあります。

【授業の進め方】

統計データ、参考資料は随時配布します。パソコンやプロジェクターを用いて、具体的に統計処理を体験します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①経済データの統計学 ②森崎初男 ③オーム社 ④2014年8月 ⑤2,600円 ⑥978-4-274-05020-6

【参考図書】

山根太郎, 統計学, 東洋経済
 ホーエル, 初等統計学, 培風館

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 40% 受講態度 20%

【履修上の心得】

欠席しないこと。遅刻しないこと。

【科目のレベル、前提科目など】

科目は入門レベルです。予備知識は必要ないが、エクセルの初歩的な知識があれば、実際にデータ分析をする場合に便利です。

科目名	心理学A
	人間を探る科学
教員名	湯川 進太郎

【授業の内容】

本講義は、心理学を初めて学ぶ人のための概論的な授業です。心理学の研究対象は、私たち人間の生活すべてです。そのため、心理学の扱うテーマは、非常に多岐に渡ります。本講義で扱う心理学のテーマとは、具体的には、「学習」「記憶」「発達」「性格」「態度」「感情」「意思」「集団」「組織」「経済」「脳」「進化」「文化」などです。本講義では、心理学を初めて学ぶ人のために、こうした心理学の主要なテーマにおいて、それぞれ代表的なトピックを取り上げて紹介します。また、心理学という学問の歴史についても触れます。

【到達目標】

本講義を受講することによって、心理学の基礎的な知識を身につけることを第一の目標とします。そして身につけた知識によって、自身の日常生活の中で心理学がどのように関わっているか、どのように役立っているかを考えていけるようになることを第二の目標とします。さらには、受講生それぞれの日常生活を自分自身で振り返りながら、得られた知識を将来的に役立てていけるようになることを第三の目標とします。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- ・ 授業の進め方
 - ・ 成績のつけ方（評価の仕方）
 - ・ 全15回の概要
 - ・ 心理学とはどのような学問なのか など
- 第2回 学習：古典的条件づけ、道具的条件づけ
- 第3回 記憶：短期記憶、長期記憶
- 第4回 発達：愛着、アイデンティティ
- 第5回 性格：類型論、特性論
- 第6回 態度：認知的不協和理論、態度変容
- 第7回 感情：感情の起源、認知への影響
- 第8回 意思：原因帰属、判断（意思決定）
- 第9回 集団：同調、傍観者効果
- 第10回 組織：集団思考・分極化、リーダーシップ
- 第11回 経済：ヒューリスティック、プロスペクト理論
- 第12回 脳：社会脳、内側前頭前皮質
- 第13回 進化：自然選択と遺伝、進化的適応環境
- 第14回 文化：分析的思考と包括的思考、文化的自己観
- 第15回 心理学史：精神物理学、ヴェント

【授業の進め方】

講義形式授業です。パワーポイントのスライドをスクリーンに映写しながら授業を進めていきます。必要に応じてプリント等を配布する場合がありますが、基本的には、各自がノート(メモ)を取りながら聴講してください。毎回(毎週)、授業の最後に、その授業に関連した事項について、小試験を実施します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用しません。必要に応じてプリント等を配布する場合があります。

【参考図書】

- 『心理学』 無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治（編） 2004 有斐閣
『現代社会心理学特論』 森津太子（著） 2015 放送大学教育推進会
『スタンダード社会心理学』 湯川進太郎・吉田富二雄（編） 2012 サイエンス社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 30% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

- ・ 定期試験の受験資格は、授業回数の3分の2以上に出席していることが要件です。
- ・ 授業内小試験は、授業の最後に、毎回（毎週）実施します。小試験の成績は、出席し解答した回（週）の答案の平均点を算出して評価します。
- ・ 受講態度は、「授業への積極的な参加および授業中の積極的な聴講姿勢」を評価対象とします。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

定期試験と授業内小試験と受講態度でもって、総合的に評価します。

【履修上の心得】

授業内容と関連のない私語は禁止します。私語を指摘された場合、受講態度の評価に大きく加味されます。

【科目のレベル、前提科目など】

入門(初心者) レベルです。必要な予備知識、前提となる科目は特にありません。

科目名	心理学A
	心理学の基礎
教員名	津野田 聡子

【授業の内容】

本講義では、心理学における複数の基礎的なトピックについて取り上げて概説する。心理学における主な研究アプローチとトピックについて知ることで、心理学という学問がどのように「こころ」を捉えようとしているかを理解する。

【到達目標】

- (1)心理学の基礎的なトピックを学び、理解することを通して、学問としての心理学とはどのようなものであるかがわかる。
- (2)この授業で学んだことに基づき、日常場面における心理学的ことがらについて自ら考察できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- ・心理学とはどのような学問か
 - ・心理学的アプローチのさまざま
- 《講義内容に基づき、日常生活における心理学的トピックは何かを各自で考える（30分）》
- 第2回 心理学における研究手法
- ・科学としての心理学
 - ・心理学における「データ」と研究手法
- 《各自テキスト第1章を第2回講義前に読み、自らが持っている心理学に対するイメージと科学としての心理学との類似点および相違点を考える（30分）。》
- 第3回 心理学の歴史①:心理学成立の背景まで
- ・実証主義、経験主義
 - ・連合心理学
 - ・自然科学の進歩
 - ・ウェーバーの法則、ウェーバー・フェヒナーの法則
- 《心理学成立に影響を及ぼした学問について、講義内容を各自整理し復習する（30分）。配布レジメとテキストを使用しての復習》
- 第4回 心理学の歴史②:心理学成立以降
- ・ゾントの心理学
 - ・エビングハウスによる学習と記憶の実験的研究
 - ・精神分析学、ゲシュタルト心理学、行動主義心理学
- 《テキスト第1章を読み、テキスト図1-3を参照しながら、講義で取り上げた心理学の歴史を各自復習する（30分）。配布レジメとテキストを使用しての復習》
- 第5回 心の進化
- ・比較認知科学とは
 - ・動物の高次認知能力
- 《テキスト第2章を読み、動物としての人間という観点から心を研究するアプローチを理解し、講義で取り上げたキーワードや映像資料の内容を各自整理し復習する（30分）。配布レジメとテキストを使用しての復習》
- 第6回 心の発達①
- ・赤ちゃんの認知能力を調べる方法
 - ・愛着の発達と愛着パターン
 - ・社会的参照
- 《テキスト第3章を読み、心を発達のにとらえようとするアプローチを理解し、講義で説明した発達の研究方法の特徴や研究成果を各自整理し復習する（30分）。配布レジメとテキストを使用しての復習》
- 第7回 心の発達②
- ・ことば
 - ・心の理論
 - ・ピアジェの発達段階
- 《講義で取り上げた乳幼児期の認知的発達理論について、参考資料を各自で読み理解を深める。また、心の理論課題について、テキストの図を参照しながら各自復習する（30分）。配布レジメとテキストを使用しての復習》
- 第8回 ライフサイクル①
- ・エリクソンの発達理論
- 《第8回の講義の前にテキスト第4章を読み、ライフサイクルとはどのようなものかを各自予習する（30分）》
- 第9回 ライフサイクル②
- ・エリクソンの発達理論
 - ・アイデンティティ地位
- 《講義で取り上げた発達理論、キーワード、映像資料の内容を各自整理し復習する（30分）。配布レジメとテ

- キストを使用しての復習》
- 第10回 性格
- ・類型論による性格のとらえ方
 - ・特性論による性格のとらえ方
 - ・性格検査
- 《テキスト第6章を読み、講義で取り上げた性格の諸理論および検査手法について各自整理し復習する(30分)。配布レジメとテキストを使用しての復習》
- 第11回 知能
- ・知能とは
 - ・知能の理論と知能検査
 - ・知能の因子
- 《テキスト第7章を読み、講義で取り上げた知能の諸理論および検査手法について各自整理し復習する(30分)。配布レジメとテキストを使用しての復習》
- 第12回 感覚
- ・感覚の特性
 - ・精神物理学
 - ・感覚のしくみ: ものを見る、色を見る、音を聞く、におい、味、触
- 《テキスト第10章を読み、講義で取り上げた感覚モダリティの特徴、精神物理学的アプローチとその代表的な法則を各自整理し復習する(30分)。配布レジメとテキストを使用しての復習》
- 第13回 知覚①
- ・知覚とは
 - ・形の知覚
 - ・ゲシュタルト要因
 - ・パターン認識
- 《第13回講義の前にテキスト第11章を読み、視知覚とはどのようなものかを日常的な視覚的経験と重ねて各自予習する(30分)》
- 第14回 知覚②
- ・奥行き知覚
 - ・知覚の恒常性
 - ・動き知覚
 - ・錯視
- 《テキスト11章を読み、講義で取り上げた視知覚の特徴を各自整理し復習する(30分)。配布レジメとテキストを使用しての復習》
- 第15回 まとめ
- 《講義内容全体の復習をする(120分)》

講義進行予定は上の通りである。箇条書きで示したものは講義で説明する予定の主なトピックであるが、ここに挙げているものが講義で説明する全てではない。授業計画欄に《 》で記入しているものは、受講生自らが講義内容の理解のために予習復習をする内容である。なお、配布レジメについては、講義中に受講生各自が積極的にメモをとることを前提としている。

【授業の進め方】

基本的には、パワーポイントを中心とした講義形式で行う。必要に応じて視聴覚資料等も用いる予定である。授業の最後にリアクションペーパーの提出を求める場合がある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①はじめて出会う心理学 改訂版 ②長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行 ③有斐閣アルマ

【参考図書】

適宜、講義において紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 85% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 15%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

・「白鷗大学試験規則」に準じ、定期試験日を除いた全授業回数のうち3分の2以上の回数に出席した受講生のみ定期試験の受験資格が与えられるものとする。

【履修上の心得】

・教員による講義形式の科目ではあるが、受講にあたっては、講義をもとに自ら積極的かつ発展的に考えようとする気持ちを持って受講していただきたい。

- ・出席に関する不正は厳禁である。不正には厳しく対処する。
- ・受講の補助資料としてレジメを配布するが、教科書やレジメに書かれた内容が講義のすべてではない。必要事項については各自で積極的にメモを取ることを。
- ・講義は教科書の予習復習を前提にすすめる。受講生は事前に必ず教科書の該当章を読んで予習し、事後は必ず該当章を読んで復習すること。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目は特にないが、心理学Aと心理学Bで通常の基礎領域の心理学をカバーしているので、両心理学を受講することを望む。

基礎的な内容の心理学に位置付けられる。

科目名	心理学A
	心理学をつかむ
教員名	山本 良子

【授業の内容】

- ・本講義は心理学を初めて学ぶ人のための概論的な授業です
- ・心理学という広い学問領域の中で、初めての人でも、「これだけは知っておいてほしい」という重要なトピックを取りあげて説明します
- ・すべての領域を詳しくお話しすることはできませんが、本講義を(心理学Bとあわせて)受講すれば、多くの必要な心理学の知識を得ることができます
- ・単なる知識の獲得ではなく、その知識が私たちの日常生活とどのように結びつくのかという点を考えられる授業にしたいと思っています

【到達目標】

- ・認知心理学と発達心理学について大まかな内容を理解できる
- ・授業内容を自分の言葉で説明できる
- ・授業で得た知識を自分の生活に関連づけて考えることができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 心理学とは何か
- 第3回 認知心理学①知覚
- 第4回 認知心理学②記憶
- 第5回 認知心理学③学習
- 第6回 認知心理学④認知
- 第7回 認知心理学⑤思考
- 第8回 認知心理学⑥日常認知
- 第9回 発達心理学①乳児期の発達
- 第10回 発達心理学②幼児期の発達1
- 第11回 発達心理学③幼児期の発達2
- 第12回 発達心理学④対人関係と情動の発達
- 第13回 発達心理学⑤児童期の発達
- 第14回 発達心理学⑥青年期の発達
- 第15回 発達心理学⑦成人期・老年期の発達

【授業の進め方】

パワーポイントを用いて授業を進めていきます。レジュメを配付する場合がありますが、基本的にはノートテイクが必要となります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

なし

【参考図書】

心理学をつかむ 今井久登・平林秀美・工藤恵理子・石垣琢磨(著) 有斐閣(2009年) ISBN 978-4-641-17709-3

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

期末テストの得点で評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席回数が規定に満たない者は、期末テストを受けることができません。

【履修上の心得】

心理学の基礎的知識を習得し、自分の身近な問題について考えてもらう力を身につけてもらいたいため、よく考え、積極的に知識を得る姿勢をもって授業に臨むことを期待します。

【科目のレベル、前提科目など】

心理学に関する入門科目です。

科目名	心理学A
	心のはたらきを知る
教員名	細田 一秋

【授業の内容】

人間の心理・行動を研究対象とする心理学には130年を超える歴史があります。その間に、心理学は実に広範にわたる学問として発展しました。大きな書店をのぞくと、「実験心理学」「認知心理学」「性格心理学」「発達心理学」「社会心理学」「教育心理学」「産業心理学」「健康心理学」と、たくさんの心理学書が並んでいます。いったい心理学とはどのような学問なのでしょう。本講義は、初めて心理学を学ぶ学生への心理学の紹介を目的としています。したがって、膨大な心理学の領域をできるかぎり簡明・重点的に案内するよう心がけ、講義を進めたいと計画しています。内容は下記の「講義スケジュール」に示されているとおりです。単独でトピック的にとりあげることしかできないテーマも多々ありますが、できるだけ関連性を高めた講義内容にしたいと思っています。

【到達目標】

本講義の具体的到達目標を集約します。第1には、心理学の基礎知識を獲得することです。第2に、科学的心理学の方法論を把握することによって、あなたが常識のかつ素朴に信じている自分や他者の心理・行動を、客観性・再現性のあるものに再構築します。第3に、自分や他者を分析的に見つめる態度を育成することによって、対人関係の向上と自他の健康の増進を図ります。第4には、ぜひとも自身が専攻する学問分野へ役立てましょう。

【授業計画】

- 第1回 導入（講義の形式・内容・受講留意点を説明します。重要ですから、必ず出席してください。）
 第2回 心理学の歴史（心の素朴な洞察から科学的心理学にいたる歴史を学びます。）
 第3回 研究方法（とりとめのない「ところ」をどう科学的に捉えるのか概観します。）
 第4回 感覚と知覚（あなたの思いや行動は、感覚・知覚が発端となって起こります。感覚・知覚のメカニズムについて解説します。）
 第5回 感覚と知覚（ミューラーリヤー錯視を題材として、奥行き知覚などを学びます。）
 第6回 学習-古典的条件づけ（不随意反応の学習を講義します。感情がいかん条件づけられるか、学んでください。）
 第7回 学習-オペラント条件づけ（自発行動の学習を講義します。あなたの諸スキルがどう獲得されるか、学んでください。）
 第8回 記憶（学習した結果が蓄積されてゆきます。その過程・変容・忘却などに触れてゆきます。）
 第9回 思考（考えるとは、記憶の目的再生過程です。問題解決の諸ストラテジーを紹介します。）
 第10回 動機づけ（行動が引き起こされるメカニズムを動機論から学びます。）
 第11回 発達（心理社会的発達の諸相を初期経験・母子関係と関連づけて論じます。）
 第12回 性格（個人差をどうとらえるか、性格心理学を概観します。パーソナリティ検査を実施する予定です。）
 第13回 社会（人は何よりも社会的存在です。社会が個人にどのような影響を与えるか、検討します。）
 第14回 健康（ストレス、性格と疾病、健康行動などを題材に、健康の増進を図ります。）
 第15回 まとめ（これまでの講義内容を振り返ります。ノートをかみならず持参してください。）

【授業の進め方】

受講者数との関係から、講義形式をとらざるをえないでしょう。板書と口頭説明、毎回の配布資料を用いて授業を進めてゆきます。教科書は使用しません。参考図書を下に記しましたので、積極的に活用して下さい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用しません。各回ごとに関連資料を配布します。この資料と毎回のノートが教科書代りです。教室では細心の注意を払ってノートを採って下さい。欠席などによるノートの不備は、試験に際しとても不利です。こころしてください。

【参考図書】

全般的な参考図書：

鹿取・杉本・鳥居（編著）2015「心理学 第5版」東京大学出版会 ￥2592

無藤・森・遠藤・玉瀬（著）2004「心理学」有斐閣 ￥3996

分野別参考図書：

春木・山内（編著）2001「グラフィック学習心理学—行動と認知」サイエンス社 ￥2754

山岸俊男（編）2001「社会心理学キーワード」有斐閣 ￥2052

健康心理学会（編）2002「健康心理学概論」実務教育出版 ￥2700

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

学期末に定期試験を実施します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

2/3以上出席した学生のみ受験資格をあたえます。出席に関しては、厳重に対応します。

【履修上の心得】

受講にあたっての心構えをひとつ。心理学はあなた自身を研究対象とする学問です。自分の行動をいつも意識（反省）する癖をつけましょう。そして、各回に学んだ知見を、自分を材料に確かめて下さい。講義の理解と「人を見る眼」とが格段に進歩します。単位を無事に取得するだけでなく、あなたが心理学を好きになることを、願っています。

【科目のレベル、前提科目など】

いわゆる「心理学」への入門科目で、基礎的事項を講義してゆきます。受講にあたり格別の前提条件はありません。ただ、「人への深い眼差し」は必須です。

科目名	心理学A
	こころと行動
教員名	神戸 文朗

【授業の内容】

心理学という広い学問領域の中で、一般教養の心理学として何を伝えるかということはなかなか難しいことです。多くの入門書を見ると、知覚、学習、発達、人格、社会、といった個別領域の紹介に留まっており、それら領域を一人の（あるいは集団としての）人間のもつ多面的な能力や特徴の一部として捉えようとするものは多くはないように思います。そこで、私の心理学A、Bでは、人間とは何かという問題意識を持ち続ける中で各領域の知識を関連付けながら紹介したいと思います。これにより、皆さん自身の中で個別的な知識を超えた総合的な人間観が確立できることを望んでいます。さて、心理学は「こころ」を科学的に研究する学問といわれますが、「こころ」は直接的に見ることも触ることもできません。そこで心理学では従来から人間（より広くは動物）の行動を通して「こころ」を知ろうとしてきました。心理学Aでは、人間にとって行動とはどのような意味を持ち、どのような性質を持っているのか、という問いを中心に講義を展開していくつもりです。これによって人間と他の動物との生物学的機構の共通性が明らかになるでしょう。一方、特定の行動が選択され、特定のタイミングで出現するのは脳内での複雑な情報処理の結果であるといえます。心理学Bでは、環境から入ってくる情報がどのように処理され、どのように貯蔵され、更にはどのように環境からの情報を超えたより高度な情報処理へと進んでいくかを追いかけていこうと思います。これによって、われわれの高度な認知的能力がいかなる方法で実現されているかについて展望できればと思います。

【到達目標】

心理学Aと心理学Bを受講することにより心理学の基本的知識を習得することを到達目標とします。

【授業計画】

- 第1回 心理学から見た心と行動：こころ・行動・神経（復習2時間）
- 第2回 人の神経系と感覚支配的行動（復習2時間）
- 第3回 遺伝・環境・行動の多様化（復習2時間）
- 第4回 古典的条件付け（復習2時間）
- 第5回 オペラント条件付け（復習2時間）
- 第6回 社会的学習・運動学習・シンボル学習（復習2時間）
- 第7回 基本的動機付け：脳幹と大脳辺縁系（復習2時間）
- 第8回 大脳辺縁系の機能と本能行動（復習2時間）
- 第9回 高次動機付け：社会的動機・認知的動機（復習2時間）
- 第10回 本能行動と情動：怒りと攻撃・恐れと逃走・救援と保護（復習2時間）
- 第11回 本能行動と発達：母性行動、愛着行動、不適切な育児（復習2時間）
- 第12回 非言語的コミュニケーション（復習2時間）
- 第13回 言語的コミュニケーション（復習2時間）
- 第14回 個人差：知能・人格（復習2時間）
- 第15回 社会の中の人間：社会化・社会的認知・対人関係（復習2時間）

【授業の進め方】

授業開始時に印刷した講義資料を配布し、講義では同資料を画面に投影しながら説明します。受講生は自ら熱心にノートをとることが求められます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

なし。

【参考図書】

鹿取・杉本・鳥居編「心理学第4版」（東大出版）。同書は定評のある教科書なので、本講義では触れないテーマを含めて心理学の概要を知るために講読することを勧めます。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

成績評価は基本的に定期試験の結果に基づきます。判定基準は得られた得点分布に基づきます。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席率は受験資格の確認のために使用します。

【履修上の心得】

熱心にノートをつけることによって人間とはどのような存在なのかという点に更に興味が湧いてくることを期待します。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目はありません。心理学Aと心理学Bで通常の基礎領域の心理学をカバーしているので両科目を受講することを望みます。

基礎領域の心理学。

【備 考】

特にありません。

科目名	心理学B
	心と行動の科学
教員名	湯川 進太郎

【授業の内容】

本講義は、心理学を初めて学ぶ人のための概論的な授業です。心理学の研究対象は、私たち人間の生活すべてです。そのため、心理学の扱うテーマは、非常に多岐に渡ります。本講義で扱う心理学のテーマとは、具体的には、「知覚」「思考」「学習」「記憶」「感情・動機づけ」「知能」「性格」「幼児」「青年」「高齢者」「自己」「コミュニケーション」「集団」などです。本講義では、心理学を初めて学ぶ人のために、こうした心理学の主要なテーマにおいて、それぞれ代表的なトピックを取り上げて紹介します。また、心理学という学問の方法論についても触れます。

【到達目標】

本講義を受講することによって、心理学の基礎的な知識を身につけることを第一の目標とします。そして身につけた知識によって、自身の日常生活の中で心理学がどのように関わっているか、どのように役立っているかを考えていけるようになることを第二の目標とします。さらには、受講生それぞれの日常生活を自分自身で振り返りながら、得られた知識を将来的に役立てていけるようになることを第三の目標とします。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- ・ 授業の進め方
 - ・ 成績のつけ方（評価の仕方）
 - ・ 全15回の概要
 - ・ 心理学とはどのような学問なのか など
- 第2回 知覚：ものの見え方、感じ方
- 第3回 思考：あたまを使うということ
- 第4回 学習：行動を身につける
- 第5回 記憶：コピーではない情報の蓄積
- 第6回 感情・動機づけ：喜怒哀楽が生まれる仕組み
- 第7回 知能：誤解されてきたこの言葉
- 第8回 性格：“その人らしさ”を理解する
- 第9回 幼児：人間らしくなる
- 第10回 青年：“子ども”から“大人”へ
- 第11回 高齢者：シニア世代の気持ち
- 第12回 自己：自分を見つめる
- 第13回 コミュニケーション：ひととかわる
- 第14回 集団：人々のまとまりと争い
- 第15回 研究法：行動から心を探る

【授業の進め方】

講義形式授業です。パワーポイントのスライドをスクリーンに映写しながら授業を進めていきます。必要に応じてプリント等を配布する場合がありますが、基本的には、各自がノート(メモ)を取りながら聴講してください。毎回(毎週)、授業の最後に、その授業に関連した事項について、小試験を実施します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用しません。必要に応じてプリント等を配布する場合があります。

【参考図書】

- 『30分で学ぶ心理学の基礎』 今在慶一郎（編著） 2007 北樹出版
『心理学』 無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治（編） 2004 有斐閣
『スタンダード社会心理学』 湯川進太郎・吉田富二雄（編） 2012 サイエンス社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 30% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

- ・ 定期試験の受験資格は、授業回数の3分の2以上に出席していることが要件です。
- ・ 授業内小試験は、授業の最後に、毎回（毎週）実施します。小試験の成績は、出席し解答した回（週）の答案の平均点を算出して評価します。
- ・ 受講態度は、「授業への積極的な参加および授業中の積極的な聴講姿勢」を評価対象とします。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

定期試験と授業内小試験と受講態度でもって、総合的に評価します。

【履修上の心得】

授業内容と関連のない私語は禁止します。私語を指摘された場合、受講態度の評価に大きく加味されます。

【科目のレベル、前提科目など】

入門(初心者) レベルです。必要な予備知識、前提となる科目は特にありません。

科目名	心理学B
	心理学の基礎
教員名	津野田 聡子

【授業の内容】

本講義は心理学Aと同様、心理学における複数の基礎的なトピックについて取り上げ、概説する。心理学における主な研究アプローチとトピックについて知ることで、心理学という学問がどのように「こころ」を捉えようとしているかを理解する。なお、本講義では心理学Aよりもやや発展的な内容もあつかう。

【到達目標】

- (1)心理学の基礎的なトピックを学び、理解することを通して、学問としての心理学とはどのようなものであるかがわかる。
- (2)この授業で学んだことに基づき、日常場面における心理学的ことがらについて自ら考察できるようになる。

【授業計画】

第1回 ガイダンス

- ・心理学とは
- ・科学としての心理学
- ・日常での「心理学的事象」

《各自テキスト第1章を第1回講義前に読み、自らが持っている心理学に対するイメージと科学としての心理学との類似点および相違点を各自考える（30分）。科学としての心理学とはどのようなものかを整理し各自復習する（30分）。配布レジメとテキストを使用しての復習》

第2回 動機づけと情動

- ・マズローの動機階層説
- ・動機的主要種類
- ・コンフリクト
- ・情動の理論

《テキスト第5章を読み、講義で取り上げた動機づけの理論および情動の理論、キーワードを各自整理し復習する（30分）。配布レジメとテキストを使用しての復習》

第3回 記憶①

- ・記憶とは
- ・記憶の3段階
- ・記憶の系列位置効果

《第3回講義前にテキスト第12章を読み、心理学では記憶をどのように理論的にとらえようとしているかを各自予習する（30分）。》

第4回 記憶②

- ・二重貯蔵モデル
- ・感覚記憶、短期記憶、長期記憶
- ・記憶の検査法
- ・エビングハウスの忘却曲線と節約率

《講義で取り上げた記憶に関する理論がどのように系列位置効果を説明するか、また、記憶の検査法とエビングハウスの忘却曲線がどのような内容を示しているかを各自整理し各自復習する（30分）。配布レジメとテキストを使用しての復習。》

第5回 記憶③

- ・忘却
- ・日常記憶:目撃者の証言、リアリティモニタリング

《忘却の要因および日常記憶の例について講義内容を整理し復習する。さらにテキスト第12章を読み、心理学では記憶をどのように理論的にとらえようとしているかを各自復習する（30分）。配布レジメとテキストを使用しての復習》

第6回 学習①

- ・学習とは
- ・馴化
- ・古典的条件づけ

《第6回講義前にテキスト第13章を読み、心理学では学習をどのように理論的にとらえようとしているかを各自予習する（30分）。》

第7回 学習②

- ・オペラント条件づけ
- ・学習性無力感
- ・観察学習
- ・刷り込み

《講義で取り上げたさまざまな学習について、特徴やそれぞれの相違点を整理して各自復習する（30分）。配

- 布レジメとテキストを使用しての復習》
- 第8回 ストレスとメンタルヘルス
- ・ストレスとは
 - ・ストレスを構成するもの
 - ・ストレスに関する主な理論と研究
 - ・心理病理の理論的説明
- 《テキスト第8章を読み、講義で取り上げたストレス理論と研究、キーワードを整理し各自復習する。さらに、心理病理がどのように理論的に説明されるかを各自復習する（30分）。配布レジメとテキストを使用しての復習》
- 第9回 カウンセリングと心理療法①
- ・精神分析療法
 - ・クライエント中心療法
 - ・行動療法
- 《第9回講義前にテキスト第9章を読み、テキストに書かれたケースおよび主なカウンセリングと心理療法を各自予習する（30分）。》
- 第10回 カウンセリングと心理療法②
- ・認知行動療法: 論理療法、認知療法
- 《テキスト第9章を読み、講義で取り上げたカウンセリングと心理療法、キーワードを整理し各自復習する（30分）。配布レジメとテキストを使用しての復習》
- 第11回 脳と心: 心的機能を実現する脳
- ・脳の構造
 - ・視覚処理のメカニズム
 - ・運動のコントロール
 - ・情動
 - ・認知機能
- 《テキスト第15章を読み、脳に関する基礎知識、脳と心の研究手法、どのようなことが明らかになっているかについて各自復習する（30分）。配布レジメとテキストを使用しての復習》
- 第12回 脳損傷と心の働き①
- ・脳損傷と高次脳機能障害
 - ・失認
 - ・失行
- 《第12回講義前にテキスト第16章を読み、脳損傷によって生じる高次脳機能障害について各自予習する（30分）。》
- 第13回 脳損傷と心の働き②
- ・失語
 - ・注意障害
 - ・健忘
- 《テキスト第16章を読み、講義で取り上げた失認、失行、失語、注意障害、健忘それぞれの内容について整理し各自復習する（30分）。配布レジメとテキストを使用しての復習》
- 第14回 社会の中の人、心と社会
- ・社会的促進、社会的手抜き
 - ・同調行動
 - ・流行現象
 - ・対人魅力
 - ・社会的ジレンマ
- 《事前にテキスト17章と18章を読み、社会的な場面における心理的事象がどのようなものかを各自予習する（30分）。講義で取り上げた研究やキーワードについて、整理し各自復習する（30分）。配布レジメとテキストを使用しての復習》
- 第15回 まとめ
- 《講義内容全体の復習をする（120分）》

講義進行予定は上の通りである。箇条書きで示したものは講義で説明する予定の主なトピックであるが、ここに挙げているものが講義で説明する全てではない。授業計画欄に《 》で記入しているものは、受講生自らが講義内容の理解のために予習復習をする内容である。なお、配布レジメについては、講義中に受講生各自が積極的にメモをとることを前提としている。

【授業の進め方】

基本的には、パワーポイントを中心とした講義形式で行う。必要に応じて視聴覚資料等も用いる予定である。授業の最後にリアクションペーパーの提出を求める場合がある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①はじめて出会う心理学 改訂版 ②長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行 ③有斐閣アルマ

【参考図書】

適宜、講義において紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 85% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 15%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

「白鷗大学試験規則」に準じ、定期試験日を除いた全授業回数のうち3分の2以上の回数に出席した受講生のみ定期試験の受験資格が与えられるものとする。

【履修上の心得】

- ・ 教員による講義形式の科目ではあるが、受講にあたっては、講義をもとに自ら積極的かつ発展的に考えようとする気持ちを持って受講していただきたい。
- ・ 出席に関する不正は厳禁である。不正には厳しく対処する。
- ・ 受講の補助資料としてレジメを配布するが、教科書やレジメに書かれた内容が講義のすべてではない。必要事項については各自で積極的にメモを取る。
- ・ 講義は教科書の予習復習を前提にすすめる。受講生は事前に必ず教科書の該当章を読んで予習し、事後は必ず該当章を読んで復習すること。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目は特にないが、心理学Aと心理学Bで通常の基礎領域の心理学をカバーしているので、両心理学を受講することを望む。

基礎的な内容の心理学に位置付けられる。

科目名	心理学B
	心理学をつかむ
教員名	山本 良子

【授業の内容】

- ・本講義は心理学を初めて学ぶ人のための概論的な授業です
- ・心理学という広い学問領域の中で、初めての人でも、「これだけは知っておいてほしい」という重要なトピックを取りあげて説明します
- ・すべての領域を詳しくお話しすることはできませんが、本講義を(心理学Aとあわせて)受講すれば、多くの必要な心理学の知識を得ることができます
- ・単なる知識の獲得ではなく、その知識が私たちの日常生活とどのように結びつくのかという点を考えられる授業にしたいと思っています

【到達目標】

- ・社会心理学と臨床心理学について大まかな内容を理解できる
- ・授業内容を自分の言葉で説明できる
- ・授業で得た知識を自分の生活に関連づけて考えることができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 社会心理学①自己
- 第2回 社会心理学②社会的推論
- 第3回 社会心理学③他者の理解
- 第4回 社会心理学④対人関係
- 第5回 社会心理学⑤集団
- 第6回 社会心理学⑥社会的影響
- 第7回 社会心理学⑦うわさ
- 第8回 臨床心理学①臨床心理学とは
- 第9回 臨床心理学②発達における心の問題①乳幼児期
- 第10回 臨床心理学③発達における心の問題②児童期
- 第11回 臨床心理学④発達における心の問題③青年期以降
- 第12回 臨床心理学⑤心の問題への援助法「精神分析療法」
- 第13回 臨床心理学⑥心の問題への援助法「来談者中心療法」
- 第14回 臨床心理学⑦心の問題への援助法「認知行動療法」
- 第15回 まとめ

【授業の進め方】

パワーポイントを用いて授業を進めていきます。レジュメを配付する場合がありますが、基本的にはノートテイクが必要となります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

なし

【参考図書】

心理学をつかむ 今井久登・平林秀美・工藤恵理子・石垣琢磨(著) 有斐閣(2009年) ISBN 978-4-641-17709-3

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

期末テストの得点で評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席回数が規定に満たない者は、期末テストを受けることができません。

【履修上の心得】

心理学の基礎的知識を習得し、自分の身近な問題について考えてもらう力を身につけてもらいたいため、よく考え、積極的に知識を得る姿勢をもって授業に臨むことを期待します。

【科目のレベル、前提科目など】

心理学に関する入門科目です。

科目名	心理学B
	私たちの認知能力
教員名	神戸 文朗

【授業の内容】

心理学という広い学問領域の中で、一般教養の心理学として何を伝えるかということはなかなか難しいことです。多くの入門書を見ると、知覚、学習、発達、人格、社会、といった個別領域の紹介に留まっており、それら領域を一人の（あるいは集団としての）人間のもつ多面的な能力や特徴の一部として捉えようとするものは多くはないように思います。そこで、私の心理学A、Bでは、人間とは何かという問題意識を持ち続ける中で各領域の知識を関連付けながら紹介したいと思います。これにより、皆さん自身の中で個別的な知識を超えた総合的な人間観が確立できることを望んでいます。さて、心理学は「こころ」を科学的に研究する学問といわれますが、「こころ」は直接的に見ることも触ることもできません。そこで心理学では従来から人間（より広くは動物）の行動を通して「こころ」を知ろうとしてきました。心理学Aでは、人間が生きていくために行動とはどのような意味を持ち、どのような性質を持っているのか、という問いを中心に講義を展開していくつもりです。これによって人間と他の動物との生物学的機構の共通性が明らかになるでしょう。一方、特定の行動が選択され、特定のタイミングで出現するのは脳内での複雑な情報処理の結果であるといえます。心理学Bでは、環境から入ってくる情報がどのように処理され、どのように貯蔵され、更にはどのように環境からの情報を超えたより高度な情報処理へと進んでいくかを追いかけていこうと思います。これによって、われわれの高度な認知的能力がいかなる方法で実現されているかについて展望できればと思います。

【到達目標】

心理学Aと心理学Bを受講することにより心理学の基本的知識を習得することを到達目標とします。本講義内容を知ることには認知心理学を理解する上でも重要と考えます。

【授業計画】

- 第1回 感覚と行動1：感覚受容器と感覚(復習2時間)
- 第2回 感覚と行動2：感覚間の協調および感覚と運動間の協調(復習2時間)
- 第3回 人の神経系：求心神経系・遠心神経系・大脳における機能局在(復習2時間)
- 第4回 視覚情報処理1：網膜・視覚伝導路・第1次視覚野(復習2時間)
- 第5回 視覚情報処理2：第1次視覚野の働き(復習2時間)
- 第6回 視覚情報処理3：高次視覚野の働き(復習2時間)
- 第7回 視覚の目的1：物体の背景からの分離・輪郭の検出(復習2時間)
- 第8回 視覚の目的2：物体までの距離の測定(復習2時間)
- 第9回 高次視覚にまつわる諸現象：錯視・恒常性・群化・文脈効果・不可能図形(復習2時間)
- 第10回 視覚の障害(復習2時間)
- 第11回 記憶の心理学理論：感覚記憶・短期記憶・長期記憶(復習2時間)
- 第12回 記憶の神経心理学理論：宣言的記憶・非宣言的記憶・介在する脳部位・記憶の障害(復習2時間)
- 第13回 言語とは何か：音素・語・文・文法・意味・意図(復習2時間)
- 第14回 言語情報処理：言語野・言語の障害(復習2時間)
- 第15回 大脳半球機能差と大脳の可塑性(復習2時間)

【授業の進め方】

授業開始時に印刷した講義資料を配布し、講義では同資料を画面に投影しながら説明します。受講生は自ら熱心にノートをとることが求められます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

なし。

【参考図書】

鹿取・杉本・鳥居編「心理学第4版」(東大出版)。同書は定評のある教科書なので、本講義では触れないテーマを含めて心理学の概要を知るために講読することを勧めます。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

成績評価は基本的に定期試験の結果に基づきます。判定基準は得られた得点分布に基づきます。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席率は受験資格の確認のために使用します。

【履修上の心得】

熱心にノートをつけることによって人間とはどのような存在なのかという点に更に興味が湧いてくることを期待しま

す。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目はありません。心理学Aと心理学Bで通常の基礎領域の心理学をカバーしているので両科目を受講することを望みます。

基礎領域の心理学。

【備 考】

認知心理学を受講する学生は本講義も受講することを勧めます。

科目名	心理学B
	日常生活に活かす心理学
教員名	鶴田 利郎

【授業の内容】

本講義は、心理学という広範な学問の基礎を幅広く概観するものである。
日常生活に活用するという視点に立ち、その主要な内容や研究法を紹介する。

【到達目標】

心理学の基本的な知識を理解している。
日常生活と心理学のかかわりについて考えることができる。また、心理学を日常生活での様々な場面に活かすことができる。
心理学に関わる研究を行う上で態度と倫理について理解している。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション—授業の進め方・成績のつけ方など
- 第2回 心理学の研究に用いる研究方法
- 第3回 心理学の研究における測定と評価
- 第4回 教育にかかわる心理学①
- 第5回 教育にかかわる心理学②
- 第6回 学習に関わる心理学①
- 第7回 学習に関わる心理学②
- 第8回 発達に関わる心理学①
- 第9回 発達に関わる心理学②
- 第10回 動機づけに関わる心理学
- 第11回 健康・安全に関わる心理学
- 第12回 運動・スポーツに関わる心理学
- 第13回 日常生活に関わる様々な応用心理学
- 第14回 心理学における倫理
- 第15回 要点のまとめ・総括

【授業の進め方】

基本的にはパワーポイントを中心とした講義形式で行うが、必要に応じてグループワーク等の活動も行う予定である。
また視聴覚教材を用いることもある。授業の最後にリアクションペーパーの提出を求める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特になし。授業では提示するパワーポイントを印刷したものを配布します。

【参考図書】

適宜、講義の中で紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

「白鷗大学試験規則」に準じ、定期試験日を除いた全授業回数のうち3分の2以上の回数に出席した受講生のみに定期試験の受験資格が与えられるものとする。

【履修上の心得】

出席確認はカード型端末機のみで行う。学生証不携帯は欠席扱いとなるので注意すること。
出席に関する不正は厳禁である。不正には厳しく対処する。
講義は教科書の予習復習を前提に進める。事前に必ず教科書の該当章を読んで予習すること。

【科目のレベル、前提科目など】

本講義は単独で心理学全体を概観するものである。
本講義に対応する「心理学A」は開講されないの、注意すること。

科目名	社会心理学A
	社会的行動を探る
教員名	細田 一秋

【授業の内容】

「人間は生物・心理・社会的存在である。」といわれます。私たちを理解するために、さまざまな学問が誕生しました。あなたがこれから学ぼうと企てている「社会心理学」も、そのひとつです。この学問は、内なる心理と外なる社会にまたがっており、とめどなく広範にわたる研究領域をかかえています。

半期の少ない授業回数ですから、次の2項目にしぼって、講義を進めます。まず「内なる心理」として、社会的行動をひき起こす心理過程を体系的に解説します。ついで「外なる社会」へのかかわりとして、対人行動の諸テーマを紹介してゆきます。詳しくは授業計画を参照してください。

【到達目標】

授業のなかで、あなた自身の対人関係が見直せるように、社会心理学的な方法論・ものの見方を修得してほしいと希望します。本講義の具体的到達目標を以下に列挙します。第1に、科学的心理学の方法論を把握し、客観性・再現性ある行動観を確立することを目指します。第2に、素朴かつ常識的に信じている対人関係にかかわる知識を、科学的行動観にのっとって再構築します。第3に、あなたとあなたにとって大切な人への理解を促進し、対人関係の向上を図ります。単位を無事に取得するだけでなく、「社会」人としてあなたが向上すること、願っています。

【授業計画】

- 第1回 講義の進め方と概要
- 第2回 心理学のなかでの位置づけ
- 第3回 社会心理学の研究と方法
- 第4回 生得的な社会的行動（動物行動学からのアプローチ）
- 第5回 社会的行動の学習（古典的条件づけからのアプローチ）
- 第6回 社会的行動の学習（対人感情と態度形成）
- 第7回 社会的行動の学習（オペラント条件づけからのアプローチ）
- 第8回 社会的行動の学習（社会的学習理論からのアプローチ）
- 第9回 親和行動と社会的比較理論
- 第10回 友人選択と近接・類似・交換理論
- 第11回 印象形成と対人魅力
- 第12回 促進・手抜き・同調における集団の影響
- 第13回 リーダーシップの諸理論
- 第14回 説得的コミュニケーションと説得技法
- 第15回 まとめ（ノート持参のこと）

【授業の進め方】

受講者数との関係から、講義形式を採らざるを得ません。板書と口頭説明、毎回の配布資料を用いて授業を進めてゆきます。教科書は使用しません。教室では細心の注意を払ってノートをとってください。欠席などによるノートの不備は、試験に際してとても不利です。参考図書を下に記しましたので、積極的に活用して下さい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用しません。各回ごとに関連資料を配布いたします。この資料と毎回のノートが教科書代わりです。

【参考図書】

- 「人間関係の心理学（第2版）」斉藤勇 誠信書房 ¥2,200
- 「図説 社会心理学入門」斉藤勇（編著） 誠信書房 ¥2,800
- 「グラフィック学習心理学－行動と認知」春木、山内 サイエンス社 ¥2,754
- 「社会心理学キーワード」山岸俊男 有斐閣 ¥2,052
- 「基礎からまなぶ社会心理学」脇本竜太郎（編著）サイエンス社 ¥2,484

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

定期試験を1回、学期末に実施します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

2/3以上出席した学生にのみ、受験資格をあたえます。出席に関しては厳重に対応します。出席数など十分注意してください。

【履修上の心得】

教科書を用いませんので、教室では細心の注意を払ってノートを取って下さい。

社会心理学はあなた自身をも研究対象とする学問です。自分の行動をいつも意識（反省）する癖をつけましょう。そして、各回に学んだ知識を、自分を材料に確かめて下さい。講義の理解と「人を見る眼」とが格段に進歩します。

【科目のレベル、前提科目など】

「社会心理学」を理解するために必要な基礎知識を、講義してゆきます。必要に応じて「心理学」の内容にも触れてゆきます。

科目名	社会心理学B
	社会的行動の源を探る
教員名	細田 一秋

【授業の内容】

「すべての学問は人間の理解をめざす。」と言われます。「人間とは何か？」を解くために、さまざまな学問が誕生しました。あなたが学ぼうとしている「社会心理学」も、その1つです。講義では、社会のなかで欲求し願望を実現してゆくあなたやあなたにとってかけがえのない人々を、モチベーションを軸に探ってゆきます。モチベーションは「行動の原因」を意味します。今ここで、ある行動が引き起こされる、このメカニズムを「動機づけ」の視点から講義します。家庭や学校、職場で、あなた自身を行動へと突き動かす生理的動機・内発的動機・社会的動機について、さらに職場への応用として「ワーク・モチベーション」について学んでください。

【到達目標】

社会のなかで人が行動する「動機」の理解を目標に講義をすすめます。本講義の具体的到達目標を以下に列挙します。第1に、科学的心理学の方法論を把握し、客観性・再現性あるモチベーション観を確立することを目指します。第2に、素朴かつ常識的に信じている対人行動の原因にかかわる知識を、動機づけ理論ののっとなって再構築します。第3に、あなたとあなたにとって大切な人の欲求を理解することを通して、社会的スキルの向上を図ります。さらに第4として、ぜひとも自分の専門へ役立ててください。

【授業計画】

- 第1回 講義の進め方と概要
- 第2回 社会心理学のなかでの位置づけ
- 第3回 動機づけの機能と構造
- 第4回 社会的行動と飢餓・渴動機
- 第5回 社会的行動と性動機
- 第6回 恋愛感情
- 第7回 社会的行動と感性動機・好奇心
- 第8回 認知的不協和理論・活動性動機
- 第9回 対人関係のプロトタイプとしての愛着動機
- 第10回 やる気のもと達成動機
- 第11回 援助行動をひき起こす動機
- 第12回 攻撃行動をひき起こす動機
- 第13回 ワーク・モチベーション（欲求5階層理論と動機づけ・衛生理論）
- 第14回 ワーク・モチベーション（目標設定理論と公平理論）
- 第15回 まとめ（ノート持参のこと）

【授業の進め方】

受講者数との関係から、講義形式を採らざるを得ません。板書と口頭説明、毎回の配布資料を用いて授業を進めてゆきます。教科書は使用しません。教室では細心の注意を払ってノートをとってください。欠席などによるノートの不備は、試験に際してとても不利です。参考図書を下に記しましたので、積極的に活用して下さい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しません。各回ごとに関連資料を配布いたします。この資料と毎回のノートが教科書代わりです。

【参考図書】

- 「人間関係の心理学（第2版）」斉藤勇 誠信書房 ¥2,200
- 「社会心理学キーワード」山岸俊男 有斐閣 ¥2,052
- 「基礎からまなぶ社会心理学」脇本竜太郎（編著）サイエンス社 ¥2,484
- 「キーワード 動機づけ心理学」上淵 寿 金子書房 ¥2,592
- 「産業・組織心理学」山口、芳賀 有斐閣アルマ ¥2,052

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

定期試験を1回、学期末に実施します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

2/3以上出席した学生にのみ、受験資格をあたえます。出席に関しては厳重に対応します。出席数など十分注意してください。

【履修上の心得】

教科書を用いませんので、教室では細心の注意を払ってノートを採って下さい。

社会心理学はあなた自身をも研究対象とする学問です。自分の行動をいつも意識（反省）する癖をつけましょう。そして、各回に学んだ知識を、自分を材料に確かめて下さい。講義の理解と「人を見る眼」とが格段に進歩します。

【科目のレベル、前提科目など】

「社会心理学」のなかから、社会的動機づけの分野を詳しく講義してゆきます。「心理学」をすでに学んでいれば申し分ないですが、それを前提とした講義ではありません

科目名	政治学A(国際政治を含む)/政治学概論A(国際政治を含む)
	日本政治と国際政治のルールとプレイヤー
教員名	服部 一成

【授業の内容】

自分を取り巻く日本政治と国際政治がどのようなルールに基づいて、どのようなプレイヤーが動かしているのかを一緒に学ぼう。

【到達目標】

日本政治と国際政治の本質を知り、さまざまな政治問題に関する自分独自の見解を持ち、それぞれの政治選択に的確な判断を下せる素地を培うことを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス、グローバリゼーションの退潮と国家の復権、政治（学）・国際政治（学）・国家・権力の定義
- 第2回 日本政治のルール① 日本の政治を操る！知られざる権力の正体
復習・発展学習 授業の進め方を参照（120分）
- 第3回 日本政治のルール② アメリカ大統領は世界最弱の権力者
復習・発展学習 授業の進め方を参照（120分）
- 第4回 日本政治のルール③ 世界の模範・イギリス政治の仕組み
復習・発展学習 授業の進め方を参照（120分）
- 第5回 日本政治のルール④ 政治のルールとしての日本国憲法
復習・発展学習 授業の進め方を参照（120分）
- 第6回 日本政治のルール⑤ 戦後の歴代総理の権力基盤から概観する政治のルール
復習・発展学習 授業の進め方を参照（120分）
- 第7回 日本政治のルール⑥ 誰がために日本の選挙制度はあるのか
復習・発展学習 授業の進め方を参照（120分）
- 第8回 日本政治のルール⑦ 代議士が登る4つの階段
復習・発展学習 授業の進め方を参照（120分）
- 第9回 日本政治のルール⑧ 総理大臣になるために踏むべき4つのステップ
復習・発展学習 授業の進め方を参照（120分）
- 第10回 国際政治のルールとプレイヤー① 対外政策の定義・日米対外政策の決定過程
復習・発展学習 授業の進め方を参照（120分）
- 第11回 国際政治のルールとプレイヤー② 対外政策の分析モデル
復習・発展学習 授業の進め方を参照（120分）
- 第12回 国際政治のルールとプレイヤー③ アメリカ帝国の衰退は不可避か？
復習・発展学習 授業の進め方を参照（120分）
- 第13回 国際政治のルールとプレイヤー④ 台頭する中国は、なぜ「悪魔」に変貌したのか？
復習・発展学習 授業の進め方を参照（120分）
- 第14回 国際政治のルールとプレイヤー⑤ 韓国は balanサーか、コウモリか？
復習・発展学習 授業の進め方を参照（120分）
- 第15回 国際政治のルールとプレイヤー⑥ 東南アジア諸国の合従連衡
復習・発展学習 授業の進め方を参照（120分）

日本政治のルール(①—⑧)を、第2回—第9回授業で講義する。次に、国際政治のルールとプレイヤー(①—⑥)を、第10回—第15回授業で講義する。

【授業の進め方】

- ① 参考図書に基づく講義形式授業である。
- ② 授業時に、授業内容の関連図書を適宜提示する。
- ③ 授業内小試験として、隔回授業内容の要約を作成する。その際に、自分の意見や感想、質問を併記する。
- ④ 隔回授業内容に対する受講者の意見や感想、質問を、講義の冒頭で紹介して、各自の関心や問題意識を受講者全員で共有して、できればディバートの場を用意して、さまざまな政治問題を発見し、それらの解決に向けて、それぞれの政治選択を行う思考訓練を、主体的・協働的に体験学習する。
- ⑤ 復習として、参考図書を用いて、授業ノートを充実する。
- ⑥ 発展学習として、自分が興味を持ったテーマ（問題）について、授業時に提示した関連図書や図書館で検索した図書を入手して、その解答を導くレポートの作成を主体的に行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ① 教科書は使用しないが、参考図書に基づく講義なので、それらを入手して予習・復習に役立てれば、より学習効果を上げることができる。
- ② 参考図書は、授業ノートの充実に資する。

- ③ 参考図書のサブノート作成は、学問の王道なので、大いに推奨する。
- ④ 授業時に提示する関連図書は、レポートの作成に用いるばかりでなく、知識を広めたり深めたりするのに有益である。

【参考図書】

- ① 総理の実力 官僚の支配—教科書には書かれていない「政治のルール」 倉山満 TAC出版 2015年
1404円 978-4-8132-6185-8
- ② 自民党の正体—こんなに愉快な派閥抗争史 倉山満 PHP研究所 2015年 1620円 978-4-
569-82667-7
- ③ 世界史で学べ! 地政学 茂木誠 2016年 1728円 978-4-396-61527-7

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 30% レポート・課題 30% 受講態度 0%

特記事項

- ① 授業内小試験は、隔回授業内容の要約を作成する。
- ② レポートは、自分の興味を持ったテーマで1回作成する（分量は800字以上、Wordなどで印刷したもの）。

科目名	政治学A(国際政治を含む)/政治学概論A(国際政治を含む)
	政治学
教員名	三浦 顕一郎

【授業の内容】

政治学の基礎を学ぶ。

【到達目標】

政治学の基礎を修得する。

【授業計画】

- 第1回 政治学の基礎概念：政治権力
 予習：テキストpp.2-8を読んでくる（1時間）
 復習：ノートの充足および疑問点の解消（2時間）
- 第2回 政治学の基礎概念：政治的リーダーシップ
 予習：テキストpp.9-17を読んでくる（1時間）
 復習：ノートの充足および疑問点の解消（2時間）
- 第3回 政治思想：社会契約説
 予習：テキストpp.18-25を読んでくる（1時間）
 復習：ノートの充足および疑問点の解消（2時間）
- 第4回 政治思想：自由主義と民主主義
 予習：テキストpp.26-37を読んでくる（1時間）
 復習：ノートの充足および疑問点の解消（2時間）
- 第5回 政治制度：議院内閣制と大統領制
 予習：テキストpp.38-43を読んでくる（1時間）
 復習：ノートの充足および疑問点の解消（2時間）
- 第6回 政治制度：各国の政治制度
 予習：テキストpp.44-49を読んでくる（1時間）
 復習：ノートの充足および疑問点の解消（2時間）
- 第7回 デモクラシーの理論：デモクラシーの歴史
 予習：テキストpp.50-55を読んでくる（1時間）
 復習：ノートの充足および疑問点の解消（2時間）
- 第8回 デモクラシーの理論：さまざまなデモクラシー
 予習：テキストpp.56-63を読んでくる（1時間）
 復習：ノートの充足および疑問点の解消（2時間）
- 第9回 国家
 予習：テキストpp.64-69を読んでくる（1時間）
 復習：ノートの充足および疑問点の解消（2時間）
- 第10回 議会：議会の歴史
 予習：テキストpp.70-77を読んでくる（1時間）
 復習：ノートの充足および疑問点の解消（2時間）
- 第11回 議会：多数決原理
 予習：テキストpp.78-83を読んでくる（1時間）
 復習：ノートの充足および疑問点の解消（2時間）
- 第12回 議会：各国の議会
 予習：テキストpp.84-91を読んでくる（1時間）
 復習：ノートの充足および疑問点の解消（2時間）
- 第13回 政党と政党制：政党の発生と政党制
 予習：テキストpp.92-97を読んでくる（1時間）
 復習：ノートの充足および疑問点の解消（2時間）
- 第14回 政党と政党制：各国の政党制
 予習：テキストpp.98-105を読んでくる（1時間）
 復習：ノートの充足および疑問点の解消（2時間）
- 第15回 政党と政党制：日本の政党制と政治資金
 予習：テキストpp.106-111を読んでくる（1時間）
 復習：ノートの充足および疑問点の解消（2時間）

【授業の進め方】

- ①テキストの中の疑問点を受講生諸君に投げかける。
- ②それに対する回答を考えてもらう（場合によっては翌週に回答）。
- ③その回答の当否を、受講生全員で議論してもらう。

- ④以上によって、当たり前になっていたテキストの記述の中から疑問点、すなわち政治学研究の課題を発見し、それを自ら調べ、その回答の当否の受講生全員で協働的に考える能力を養うことを目標とする。
- ⑤最終的には、教員からの疑問点の投げかけ無しに、すなわち自ら課題を主体的に発見し、協働的に解決できるようになることが目標である。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①政治学・行政学の基礎知識 [第3版] ②堀江湛編 ③一藝社 ④2014年 ⑤2700円 ⑥4863590903

【参考図書】

川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会、2012年、2,200円

三浦顕一郎『田中正造と足尾鉍毒問題：土から生まれたリベラル・デモクラシー』有志舎、2017年、2,600円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 50%

【履修上の心得】

前提として必要な知識は特にない。授業に関する疑問や不明な点は、講師に質問するなり、自分で調べるなりなどして解消するように努めること。諸君は講師に質問したり意見を述べたりする権利と自由を有しているのだから、積極的に質問し、また諸君の意見や異議申し立てを教員に発してもらいたい。

【科目のレベル、前提科目など】

教養科目。

科目名	政治学B(国際政治を含む)/政治学概論B(国際政治を含む)
	日本政治と国際政治のルールとプレイヤー
教員名	服部 一成

【授業の内容】

自分を取り巻く日本政治と国際政治がどのようなルールに基づいて、どのようなプレイヤーが動かしているのかを一緒に学ぼう。

【到達目標】

日本政治と国際政治の本質を知り、さまざまな政治問題に関する自分独自の見解を持ち、それぞれの政治選択に的確な判断を下せる素地を培うことを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 日本政治のルール⑨ 日本を支配する！霞ヶ関の実態
復習・発展学習 授業の進め方を参照 (120分)
- 第2回 日本政治のプレイヤー① 占領期の潰し合い
復習・発展学習 授業の進め方を参照 (120分)
- 第3回 日本政治のプレイヤー② 悲願と裏切りの保守合同
復習・発展学習 授業の進め方を参照 (120分)
- 第4回 日本政治のプレイヤー③ 「三角大福」の死闘と米中代理戦争
復習・発展学習 授業の進め方を参照 (120分)
- 第5回 日本政治のプレイヤー④ 閣將軍と跡目争い
復習・発展学習 授業の進め方を参照 (120分)
- 第6回 日本政治のプレイヤー⑤ 竹下支配—万人恐怖の超権力者
復習・発展学習 授業の進め方を参照 (120分)
- 第7回 日本政治のプレイヤー⑥ 失われた十年
復習・発展学習 授業の進め方を参照 (120分)
- 第8回 日本政治のプレイヤー⑦ 小泉純一郎の政治改革
復習・発展学習 授業の進め方を参照 (120分)
- 第9回 日本政治のプレイヤー⑧ どうなる自民党安倍内閣？
復習・発展学習 授業の進め方を参照 (120分)
- 第10回 国際政治のルールとプレイヤー⑦ インドの台頭は世界をどう変えるのか？
復習・発展学習 授業の進め方を参照 (120分)
- 第11回 国際政治のルールとプレイヤー⑧ ロシア—最強のランドパワーが持つ三つの顔
復習・発展学習 授業の進め方を参照 (120分)
- 第12回 国際政治のルールとプレイヤー⑨ 拡大し過ぎたヨーロッパ—統合でよみがえる悪夢
復習・発展学習 授業の進め方を参照 (120分)
- 第13回 国際政治のルールとプレイヤー⑩ 永遠の火薬庫中東① サイクス・ピコ協定にはじまる紛争
復習・発展学習 授業の進め方を参照 (120分)
- 第14回 国際政治のルールとプレイヤー⑪ 永遠の火薬庫中東② トルコ、イラン、イスラエル
復習・発展学習 授業の進め方を参照 (120分)
- 第15回 国際政治のルールとプレイヤー⑫ 収奪された母なる大地アフリカ
復習・発展学習 授業の進め方を参照 (120分)

日本政治のルール⑨から日本政治のプレイヤー(①—⑧)を、第1回—第9回授業で講義する。次に、国際政治のルールとプレイヤー(⑦—⑫)を第10回—第15回授業で講義する。

【授業の進め方】

- ① 参考図書に基づく講義形式授業である。
- ② 授業時に、授業内容の関連図書を適宜提示する。
- ③ 授業内小試験として、隔回授業内容の要約を作成する。その際に、自分の意見や感想、質問を併記する。
- ④ 隔回授業内容に対する受講者の意見や感想、質問を、講義の冒頭で紹介して、各自の関心や問題意識を受講者全員で共有して、できればディバートの場を用意して、さまざまな政治問題を発見し、それらの解決に向けて、それぞれの政治選択を行う思考訓練を、主体的・共働的に体験学習する。
- ⑤ 復習として、参考図書を用いて、授業ノートを充実する。
- ⑥ 発展学習として、自分が興味を持ったテーマ(問題)について、授業時に提示した関連図書や図書館で検索した図書を入手して、その解答を導くレポートの作成を主体的に行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ① 教科書は使用しないが、参考図書に基づく講義なので、それらを入手して予習・復習に役立てれば、より学習効果を上げることができる。

- ② 参考図書は、授業ノートの充実に資する。
- ③ 参考図書のサブノート作成は、学問の王道なので、大いに推奨する。
- ④ 授業時に提示する関連図書は、レポートの作成に用いるばかりでなく、知識を広めたり深めたりするのに有益である。

【参考図書】

- ① 総理の実力 官僚の支配—教科書には書かれていない「政治のルール」 倉山満 TAC出版 2015年
1404円 978-4-8132-6185-8
- ② 自民党の正体—こんなに愉快な派閥抗争史 倉山満 PHP研究所 2015年 1620円 978-4-
569-82667-7
- ③ 世界史で学べ! 地政学 茂木誠 2016年 1728円 978-4-396-61527-7

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 30% レポート・課題 30% 受講態度 0%

特記事項

- ① 授業内小試験は、隔回授業内容の要約を作成する。
- ② レポートは、自分の興味を持ったテーマで1回作成する（分量は800字以上、Wordなどで印刷したもの）。

科目名	政治学B(国際政治を含む)/政治学概論B(国際政治を含む)
	政治学の基礎
教員名	三浦 顕一郎

【授業の内容】

政治学の基礎を学ぶ。

【到達目標】

政治学の基礎を修得する。

【授業計画】

- 第1回 圧力団体・住民運動：圧力団体の歴史と理論
 予習：テキストpp.112-117を読んでくる（1時間）
 復習：ノートの充足および疑問点の解消（2時間）
- 第2回 圧力団体・住民運動：住民運動
 予習：テキストpp.118-125を読んでくる（1時間）
 復習：ノートの充足および疑問点の解消（2時間）
- 第3回 選挙制度：選挙制度の類型
 予習：テキストpp.126-133を読んでくる（1時間）
 復習：ノートの充足および疑問点の解消（2時間）
- 第4回 選挙制度：各国の選挙制度
 予習：テキストpp.134-139を読んでくる（1時間）
 復習：ノートの充足および疑問点の解消（2時間）
- 第5回 投票行動：投票行動の理論
 予習：テキストpp.140-145を読んでくる（1時間）
 復習：ノートの充足および疑問点の解消（2時間）
- 第6回 投票行動：無党派層
 予習：テキストpp.146-151を読んでくる（1時間）
 復習：ノートの充足および疑問点の解消（2時間）
- 第7回 政治意識
 予習：テキストpp.152-157を読んでくる（1時間）
 復習：ノートの充足および疑問点の解消（2時間）
- 第8回 政治過程と政策過程
 予習：テキストpp.158-165を読んでくる（1時間）
 復習：ノートの充足および疑問点の解消（2時間）
- 第9回 現代社会の政治
 予習：テキストpp.166-175を読んでくる（1時間）
 復習：ノートの充足および疑問点の解消（2時間）
- 第10回 政治的コミュニケーション
 予習：テキストpp.176-185を読んでくる（1時間）
 復習：ノートの充足および疑問点の解消（2時間）
- 第11回 国際政治：勢力均衡
 予習：テキストpp.186-193を読んでくる（1時間）
 復習：ノートの充足および疑問点の解消（2時間）
- 第12回 国際政治：国際機構
 予習：テキストpp.194-201を読んでくる（1時間）
 復習：ノートの充足および疑問点の解消（2時間）
- 第13回 安全保障：集団的自衛権
 予習：テキストpp.202-207を読んでくる（1時間）
 復習：ノートの充足および疑問点の解消（2時間）
- 第14回 安全保障：集団安全保障
 予習：テキストpp.208-213を読んでくる（1時間）
 復習：ノートの充足および疑問点の解消（2時間）
- 第15回 政治学の発展
 予習：テキストpp.214-219を読んでくる（1時間）
 復習：ノートの充足および疑問点の解消（2時間）

【授業の進め方】

- ①テキストの中の疑問点を受講生諸君に投げかける。
- ②それに対する回答を考えてもらう（場合によっては翌週に回答）。
- ③その回答の当否を、受講生全員で議論してもらう。

- ④以上によって、当たり前になっていたテキストの記述の中から疑問点、すなわち政治学研究の課題を発見し、それを自ら調べ、その回答の当否の受講生全員で協働的に考える能力を養うことを目標とする。
- ⑤最終的には、教員からの疑問点の投げかけ無しに、すなわち自ら課題を主体的に発見し、協働的に解決できるようになることが目標である。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①政治学・行政学の基礎知識 [第3版] ②堀江湛編 ③一藝社 ④2014年 ⑤2700円 ⑥4634590646

【参考図書】

川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会、2012年、2200円
三浦顕一郎『田中正造と足尾鉾毒問題：土から生まれたリベラル・デモクラシー』有志舎、2017年、2,600円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 50%

【履修上の心得】

前提として必要な知識は特にない。授業に関する疑問や不明な点は、講師に質問するなり、自分で調べるなりなどして解消するように努めること。諸君は講師に質問したり意見を述べたりする権利と自由を有しているのだから、積極的に質問し、また諸君の意見や異議申し立てを教員に発してもらいたい。

【科目のレベル、前提科目など】

教養科目。

科目名	日本国憲法
	憲法を考える上で、「重要なことは何なのか？」を探る。
	授業形態：講義/授業回数：15回（30時間）
教員名	小野 義典

【授業の内容】

本講義の目標は、日本国憲法の本質を理解することにある。憲法の本質の理解に当って、その必要となる事柄を、教授することを予定している。具体的には、憲法上の諸問題、憲法判例、様々な学説などを交えながら講義を進めることである。また同時に、教養ある大学人の育成と、教員採用試験への対策を行うことも、考えている。

本講義の概要は、第一に、憲法の史的展開（憲法史・立法過程を含む制定経緯など）、第二に、日本国憲法の三大原理である、国民主権・平和主義・基本的人権の尊重を中心に、日本国憲法を概観すること、第三に、日本国憲法が我が国の実社会に対して、どのような影響を与えているのかを考える、という三点にある。

講義に際して、教員は、平易な言葉で、分かりやすく、かつ、双方向の対話を心掛ける。

【到達目標】

学習・教育の到達目標は、まず、日本国憲法で学ぶべき一通りの知識を身につけることである。それには、憲法がどのように生まれ、そしてどのように運用されるのかを理解することが必要である。その上で、実定法解釈に於ける「通説」とはどのようなものなのか、自分自身が考える「正しい解釈」とはどのような解釈であるのか、最終的には、「憲法とは何か」あるいは「日本国憲法とは何か」ということが、自分の言葉で説明できるようになることが到達目標である。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション（開講に当っての説明、講義概観）とイントロダクション（講義導入）

講義を受講する際の注意事項等を伝達する。また、憲法を学ぶ際の重点を講義する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第2回 憲法史

日本国憲法が制定されるまでの経緯を概観する。また、憲法概念が生じた欧米の思想を教授する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第3回 日本国憲法上論・前文、憲法の分類

上論、前文についての法規範性、裁判規範性などを考え、大日本帝国憲法との比較も行う。

憲法の主な分類を概観する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第4回 天皇

国民主権と天皇の関係、象徴天皇制の問題、天皇の国事行為など、憲法上の諸規定を講義する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第5回 平和主義

「戦力」についての学説を理解し、また、国際協調主義と平和主義の整合性などと共に、統治行為論も検討する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第6回 基本的人権（1）人権総論・国民の権利義務

人権保障の歴史と、日本国憲法の人権保障について、権利義務関係と保障範囲を考える。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第7回 基本的人権（2）包括的人権・新しい人権・平等権

幸福追求権と新しい人権であるプライバシー権や名誉権、また平等権について、学説や判例を交えて考える。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第8回 基本的人権（3）自由権：精神的自由権

人権の中でも、歴史のある自由権について、学説や判例を通じて理解する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第9回 基本的人権（4）自由権：経済的自由権・身体的自由権

経済的自由権の「二重の基準論」や、公権力からの不当な身体的拘束を制限する身体的自由権について理解する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第10回 基本的人権（5）社会権・受益権・参政権

生存権を中心とした社会権を、判例や学説を通じて学び、また、受益権や参政権などを理解する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第11回 テーマ別講義

憲法上の諸問題で、受講者の関心が比較的高かった問題や、直近の事例について、判例や学説を検討する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第12回 三権分立

統治の機能である、司法（特に裁判所）・立法（特に国会）・行政（特に内閣）のしくみを理解する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第13回 選挙・政党

民主政の主要なアクターである政党について、選挙の役割と選挙制度を併せて理解する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第14回 財政・地方自治

国家財政の制度、続いて、地方自治の本旨を理解する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第15回 憲法保障

最高法規としての憲法の役割、及び、憲法と条約の関係などを理解する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

講義内容は上記の通りであり、順番に進めていく予定である。

※講義の内容は、場合によって、多少の変動もありうることを了解されたい。

【授業の進め方】

教員の作成したオリジナルの講義レジュメを配布する。この講義レジュメに従って、黒板への要点板書、及び口述筆記により講義を進行させる予定である。講義は、基本的に教科書の各章を基準として進む。日本国憲法の条文にも言及することが多々ある。従って、教科書の所持が必須である。また、講義中、受講者は、教員の板書と並んで、教員が述べる講義の重要部分に関して、詳細にノートして欲しい。講義進行の詳細を、第1回目の講義の際に述べる。

なお、本講義は、私語厳禁である。また、他の受講生に対する学習の妨げとなる行為を禁止する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①『憲法学事始〔第二版〕』 ②野畑健太郎・東裕編 ③一学舎 ④2017年4月

<教科書>

教科書は、学内の書店にて購入のこと。

※なお、昨年度まで使用していたものとは版が異なる（当然、内容も異なる）ので注意すること。

【参考図書】

<参考書>

特に指定しない。

※参考文献を、講義中に幾つか推薦する。

※憲法関係のものに留まらず、さまざまな書籍や新聞・雑誌等の活字に親しむことが望ましい。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

成績評価は、期末試験の点数で評価を行う。点数配分は、期末試験100点を満点とするものである。期末試験の未受験者に、教員は、成績評価を行わない。期末試験受験が成績評価の条件となるので、十分注意すること。但し、講義への参加態度、あるいは、レポートや課題をはじめとする提出物も成績評価に加味することがある。評価方法の詳細を、第1回目の講義の際に述べるので、必ず出席のこと。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は、「履修規定」に準ずる。

受験資格は、「保育士資格規定」に準ずる。

【履修上の心得】

全回出席を原則とする。

評価方法でも述べた通り、期末試験受験が成績評価の条件となるので、注意すること。

オフィス・アワー：

教員への連絡を行いたい場合は、講義前後にコンタクトを取るか、あるいは、教員メールアドレス宛にメールを送信すること。なお、シラバスがWEB上にて公開になっている関係上、諸般の事情により、この場にメールアドレスを記載することが出来ないのも、第1回目の講義の際に、受講者に直接伝える。（但し、システム上、学内のみメールアドレスが公開される場合には、そのメールアドレス宛にメールを送信すること。）

【科目のレベル、前提科目など】

特になし。憲法の初学者であることを前提にして、講義を進める。

但し、社会科学の基礎となる知識を要求する科目である関係上、中等教育で培ったはずの、「公民」や「日本史」「世界史」「政治経済(政治分野)」の知識が必要になることが多分にある。良い機会であるから、これまで学んだ知識をまとめる意味でも、もう一度見直すことも検討して欲しい。

また、時事問題にも触れる機会が多くなることが予想されるので、普段から、新聞・雑誌・TV・ラジオ・インターネットなどで、問題意識を持ってニュースに触れることが望ましい。

全学年を対象としている。もちろん、1年次からでも履修出来るように配慮しているので、安心して欲しい。

科目名	日本国憲法
	日本国憲法の基礎知識
教員名	岡田 順太

【授業の内容】

日本国憲法の基本原理である基本的人権の尊重、国民主権、平和主義を基礎に、条文・判例を踏まえつつ、憲法の基礎的な理論を講義する。

【到達目標】

我が国の最高法規である日本国憲法について、全体像を俯瞰し、体系的な理解ができるようにすることを目的とする。

【授業計画】

- 第1回 (イントロダクション—教職免許と憲法) 立憲主義ってそんなに大事なの？—憲法の基礎
- 第2回 政治に参加してみよう—選挙と参政権
- 第3回 法律はどうやって作られる？—国会の役割
- 第4回 内閣は政治の主役か、脇役か？—行政権と議院内閣制
- 第5回 裁判所の役割を知ろう！—司法権と裁判制度
- 第6回 天皇制とは何だろう？—天皇制
- 第7回 平和について考えてみよう—平和主義
- 第8回 人権ってどんな権利だろう？—人権の理念・歴史・特質
- 第9回 それって人権問題—人権総論
- 第10回 さまざまな価値観を尊重するために—信教の自由と政教分離
- 第11回 スクープなら何を書いても許される？—表現の自由
- 第12回 どこで何をして暮らしてもいいの？—経済的自由
- 第13回 もしも逮捕されたら？—人身の自由
- 第14回 もっと支え合える社会へ—社会権
- 第15回 自由って、何をしてもいいってこと？—幸福追求権と平等（全体的総括）

【予習】教科書の該当箇所を精読すること（各回90～120分）。DVD教材『事例から学ぶ日本国憲法』（全15回）（東キャンパス分館4階AV架所蔵DV-C/0069-）を予習に活用すること。

【復習】授業内容を再現しつつ、教科書で知識を補うこと。なお、各章末尾の課題は、自ら【問題発見】・【調査】・【解決】学習を行う【アクティブ・ラーニング】のための教材となっているので活用すること（各回90～120分）。

【授業の進め方】

主に講義形式で進めていくが、教職課程の必須科目として受講する学生もいることを考慮し、高等学校公民科目との関連も意識しながら授業を進めていく。なお、講義内容とは別に演習問題を行い、一般的知識を補うこととする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①プレステップ憲法 ②駒村圭吾編 ③弘文堂 ④2014年 ⑤1,800円 ⑥978-4335000911

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

特記事項

日本国憲法に関する基本的知識を有しているか、また、講義内容を的確に理解しているかどうかを考査する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

定期試験（100点）を基本とするが、履修態度なども加味し、総合的に評価する。

【履修上の心得】

出席者が極端に少ない場合などを除き、出席は取らないが、全ての講義内容は一つの体系として関連しているので、欠席をしないこと。なお、授業中に使用する資料や自習用の補助資料はWebClass上に掲載されている。

【科目のレベル、前提科目など】

法学初学者でも、高等学校までの公民科目を踏まえれば、十分理解できる内容である。また、社会における一般常識として必須の科目であるとともに、教員免許を取得する上での必修科目でもある。

【備考】

（学生へのメッセージ）法学は総合力が試される学問である。知的好奇心をもって様々な学問を修めるとともに、大学時代に得がたい友人を多く作り、豊かな人格形成に努めることが望ましい。

科目名	日本国憲法
	自己の憲法観を育もう
教員名	池村 好道

【授業の内容】

日本国憲法の基礎的理解に向け、取り上げるテーマに関する重要事項を講義する。

【到達目標】

憲法上の基礎的な諸概念を説明できる。
日本国憲法の基本構造を説明できる。
各種の憲法問題の基礎を的確に把握できる。

【授業計画】

- 第1回 憲法の意義及び性格
- 第2回 国民主権と天皇制
- 第3回 平和主義
- 第4回 国会の地位及び構成
- 第5回 国会及び議院の権能
- 第6回 内閣の地位、組織及び権限
- 第7回 司法権の独立、裁判の民主的統制、違憲審査権
- 第8回 地方自治
- 第9回 基本権の観念と種類
- 第10回 基本権の享有主体と私人間効力
- 第11回 基本権制約の法理
- 第12回 精神的自由権
- 第13回 経済的自由権
- 第14回 社会権、参政権、受益権
- 第15回 包括的基本権、平等権

各回、授業終了後には、キーワードを確認し、ノートを整理する時間を確保すること。

【授業の進め方】

プリントを適時配布し、憲法の理念と現実という問題を意識しながら、日本国憲法の入門的解説を行う。
講義で取り上げた身近な憲法事象をめぐるっては、新聞報道等を丹念に調べ、課題の発見、解決の上で不明な点については、必ず「質問用紙」の利用を通じ、積極的に担当教員と情報・意見交換を行うこと。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない。プリントを配布する。但し、最も小型のものでよいから、「六法」を用意すること。

【参考図書】

授業を進めるなかで、適宜示す。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

【履修上の心得】

私語厳禁。

【科目のレベル、前提科目など】

科目レベルは、「入門」レベルである。

科目名	日本国憲法
	憲法を考える上で、「重要なことは何なのか？」を探る。
教員名	小野 義典

【授業の内容】

本講義の目標は、日本国憲法の本質を理解することにある。憲法の本質の理解に当って、その必要となる事柄を、教授することを予定している。具体的には、憲法上の諸問題、憲法判例、様々な学説などを交えながら講義を進めることである。また同時に、教養ある大学人の育成と、教員採用試験への対策を行うことも、考えている。

本講義の概要は、第一に、憲法の史的展開（憲法史・立法過程を含む制定経緯など）、第二に、日本国憲法の三大原理である、国民主権・平和主義・基本的人権の尊重を中心に、日本国憲法を概観すること、第三に、日本国憲法が我が国の実社会に対して、どのような影響を与えているのかを考える、という三点にある。

講義に際して、教員は、平易な言葉で、分かりやすく、かつ、双方向の対話を心掛ける。

【到達目標】

学習・教育の到達目標は、まず、日本国憲法で学ぶべき一通りの知識を身につけることである。それには、憲法がどのように生まれ、そしてどのように運用されるのかを理解することが必要である。その上で、実定法解釈に於ける「通説」とはどのようなものなのか、自分自身が考える「正しい解釈」とはどのような解釈であるのか、最終的には、「憲法とは何か」あるいは「日本国憲法とは何か」ということが、自分の言葉で説明できるようになることが到達目標である。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション（開講に当っての説明、講義概観）とイントロダクション（講義導入）

講義を受講する際の注意事項等を伝達する。また、憲法を学ぶ際の重点を講義する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第2回 憲法史

日本国憲法が制定されるまでの経緯を概観する。また、憲法概念が生じた欧米の思想を教授する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第3回 日本国憲法上論・前文、憲法の分類

上論、前文についての法規範性、裁判規範性などを考え、大日本帝国憲法との比較も行う。

憲法の主な分類を概観する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第4回 天皇

国民主権と天皇の関係、象徴天皇制の問題、天皇の国事行為など、憲法上の諸規定を講義する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第5回 平和主義

「戦力」についての学説を理解し、また、国際協調主義と平和主義の整合性などと共に、統治行為論も検討する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第6回 基本的人権（1）人権総論・国民の権利義務

人権保障の歴史と、日本国憲法の人権保障について、権利義務関係と保障範囲を考える。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第7回 基本的人権（2）包括的人権・新しい人権・平等権

幸福追求権と新しい人権であるプライバシー権や名誉権、また平等権について、学説や判例を交えて考える。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第8回 基本的人権（3）自由権：精神的自由権

人権の中でも、歴史のある自由権について、学説や判例を通じて理解する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第9回 基本的人権（4）自由権：経済的自由権・身体的自由権

経済的自由権の「二重の基準論」や、公権力からの不当な身体的拘束を制限する身体的自由権について理解する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第10回 基本的人権（5）社会権・受益権・参政権

生存権を中心とした社会権を、判例や学説を通じて学び、また、受益権や参政権などを理解する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第11回 テーマ別講義

憲法上の諸問題で、受講者の関心が比較的高かった問題や、直近の事例について、判例や学説を検討する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第12回 三権分立

統治の機能である、司法（特に裁判所）・立法（特に国会）・行政（特に内閣）のしくみを理解する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第13回 選挙・政党

民主政の主要なアクターである政党について、選挙の役割と選挙制度を併せて理解する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第14回 財政・地方自治

国家財政の制度、続いて、地方自治の本旨を理解する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第15回 憲法保障

最高法規としての憲法の役割、及び、憲法と条約の関係などを理解する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

講義内容は上記の通りであり、順番に進めていく予定である。

※講義の内容は、場合によって、多少の変動もありうることを了解されたい。

【授業の進め方】

教員の作成したオリジナルの講義レジュメを配布する。この講義レジュメに従って、黒板への要点板書、及び口述筆記により講義を進行させる予定である。講義は、基本的に教科書の各章を基準として進む。日本国憲法の条文にも言及することが多々ある。従って、教科書の所持が必須である。また、講義中、受講者は、教員の板書と並んで、教員が述べる講義の重要部分に関して、詳細にノートして欲しい。講義進行の詳細を、第1回目の講義の際に述べる。

なお、本講義は、私語厳禁である。また、他の受講生に対する学習の妨げとなる行為を禁止する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①『憲法学事始〔第二版〕』 ②野畑健太郎・東裕編 ③一学舎 ④2017年4月

<教科書>

教科書は、学内の書店にて購入のこと。

※なお、昨年度まで使用していたものとは版が異なる（当然、内容も異なる）ので注意すること。

【参考図書】

<参考書>

特に指定しない。

※参考文献を、講義中に幾つか推薦する。

※憲法関係のものに留まらず、さまざまな書籍や新聞・雑誌等の活字に親しむことが望ましい。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

成績評価は、期末試験の点数で評価を行う。点数配分は、期末試験100点を満点とするものである。期末試験の未受験者に、教員は、成績評価を行わない。期末試験受験が成績評価の条件となるので、十分注意すること。但し、講義への参加態度、あるいは、レポートや課題をはじめとする提出物も成績評価に加味することがある。評価方法の詳細を、第1回目の講義の際に述べるので、必ず出席のこと。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は、「履修規定」に準ずる。

受験資格は、「保育士資格規定」に準ずる。

【履修上の心得】

全回出席を原則とする。

評価方法でも述べた通り、期末試験受験が成績評価の条件となるので、注意すること。

オフィス・アワー：

教員への連絡を行いたい場合は、講義前後にコンタクトを取るか、あるいは、教員メールアドレス宛にメールを送信すること。なお、シラバスがWEB上にて公開になっている関係上、諸般の事情により、この場にメールアドレスを記載することが出来ないため、第1回目の講義の際に、受講者に直接伝える。（但し、システム上、学内のみメールアドレスが公開される場合には、そのメールアドレス宛にメールを送信すること。）

【科目のレベル、前提科目など】

特になし。憲法の初学者であることを前提にして、講義を進める。

但し、社会科学の基礎となる知識を要求する科目である関係上、中等教育で培ったはずの、「公民」や「日本史」「世界史」「政治経済(政治分野)」の知識が必要になることが多分にある。良い機会であるから、これまで学んだ知識をまとめる意味でも、もう一度見直すことも検討して欲しい。

また、時事問題にも触れる機会が多くなることが予想されるので、普段から、新聞・雑誌・TV・ラジオ・インターネットなどで、問題意識を持ってニュースに触れることが望ましい。

全学年を対象としている。もちろん、1年次からでも履修出来るように配慮しているので、安心して欲しい。

科目名	環境科学A
	環境問題入門
教員名	山野井 貴浩

【授業の内容】

主要な環境問題について、科学的なデータをもとに、現状と背景について説明していく。環境問題の中でも「生物多様性の保全」については詳しく扱う。それぞれの環境問題の解決に向けて、現状と背景を踏まえた上で、どのような取り組みが必要なのかを考えて欲しい。自分の専攻分野（教育学・経営学・法学）の視点から、それぞれの環境問題を捉えられるようになることも期待している。また、受講する学生には環境社会検定試験（eco検定）の合格を目指してもらいたい。

【到達目標】

- ・主要な環境問題について現状と背景を説明できる。
- ・現状と背景を踏まえた上で、それぞれの環境問題の解決に向けてどのような取り組みが必要かに関して、自分の意見をもつことができる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス（eco検定の過去問を解く）
- 第2回 ゴミ問題
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第3回 公害と環境問題の違い～環境問題はなぜ解決が難しいのか～
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第4回 オゾン層の破壊①
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第5回 オゾン層の破壊②
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第6回 地球温暖化①
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第7回 地球温暖化②
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第8回 エネルギー問題①
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第9回 エネルギー問題②
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第10回 生物多様性の保全①
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第11回 生物多様性の保全②
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第12回 生物多様性の保全③
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第13回 生物多様性の保全④外来種問題
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第14回 生物多様性の保全⑤希少種の保全～コウノトリを題材として～
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第15回 まとめ、およびヒトの進化からヒトの特徴を理解する
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分

【授業の進め方】

講義はすべてパワーポイントおよび書き込み式プリントを使って説明する。初学者でも充分理解できるように努める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない。プリントを使用する。

【参考図書】

九里徳泰・左巻健男・平山明彦（編）『新訂 地球環境の教科書10講』東京書籍 2014年

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 20%

【科目のレベル、前提科目など】

化学に関連する内容があるので「化学A・B」と合わせて履修すると理解が深まるはずである。

科目名	環境科学B
	生命科学の進展がもたらした社会の変化
教員名	山野井 貴浩

【授業の内容】

科学技術の進展は我々の生活を豊かにしてきた。そしてこれからも豊かにしていくだろう。しかしながら、科学技術は万能ではなく、科学技術だけでは解決することのできない問題も生じており、これらはトランス・サイエンスの問題と呼ばれている。これらのトランス・サイエンスの問題に関しては、文系理系という壁を取り払い、学際的に考えていく必要がある。講義では、科学の中でも近年目覚ましい発展を遂げている生命科学に注目し、ヒトゲノム計画、iPS細胞、遺伝子組み換え作物等の事例を踏まえて、生命科学の進展が社会にどのような影響を及ぼしているのかを紹介する。

【到達目標】

「生命倫理」「食と安全」「科学と宗教」などのトランス・サイエンスの問題について多面的な考察をもとに自分の意見を述べることができるようになる。

【授業計画】

- 第1回 DNAから何ができるか① セントラルドグマの概要
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第2回 DNAから何ができるか② DNAからタンパク質を作る（工作）
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第3回 ヒトゲノム計画① 概要
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第4回 ヒトゲノム計画② ヒトゲノム計画がもたらした社会の変化
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第5回 細胞分裂とDNA複製に関する基礎知識
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第6回 再生医療① 幹細胞による再生医療とは
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第7回 再生医療② iPS細胞の社会への影響
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第8回 科学について考える① STAP細胞問題を事例に
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
- 第9回 がん① 概要
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第10回 がん② がんとの付き合い方を考える
- 第11回 遺伝子組み換え作物① 概要
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第12回 遺伝子組み換え作物② 遺伝子組み換え作物との付き合い方を考える
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第13回 科学と宗教 進化論と創造論を題材に
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第14回 科学について考える② 血液型性格診断を事例に
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第15回 まとめ

【授業の進め方】

講義はすべてパワーポイントと書き込み式の配付プリントを使って行う。初学者でも充分理解できるように説明する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない。プリントを使用する。

【参考図書】

武村政春・奥田宏志・小野裕剛・高野雅子（2010）「これだけはおさえておきたい生命科学」実教出版
その他の参考書は講義で随時、紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 20%

【科目のレベル、前提科目など】

生物学の内容が中心となるので「生物学A・B」と合わせて履修すると理解が深まるはずである。環境科学Aを受講していなくても問題はない。

科目名	代数学
	～Excelで学ぶ線形代数～
教員名	黒澤 和人

【授業の内容】

将来、専門分野の学習を進めていく上で、その前提知識として特に重要な役割を果たす「線形代数」（線形の数学）を取り上げ、基礎から応用までを学習する。

この授業の特徴は、次の4点である。

- (1) 多次元の行列・行列式・ベクトル空間、ならびに多元の連立一次方程式を取り扱う。
- (2) 身近な問題や現象を例に、線形代数の適用の仕方を学習する。
- (3) Excelを使って問題を数值的に解き、結果をビジュアルに表現し現象の理解に役立てる。
- (4) 実質的に、PCを使った実習科目の形態をとっている。

なお、ここでの数学は、中学・高校でやってきた受験数学のようなものではない。いわゆる紙と鉛筆を使って、式の変形をひたすら繰り返し、空欄を埋めていくような形ではないので注意。コンピュータを操作し、表計算ソフトのExcelを使って行う数値実験の繰り返しである。したがって、Excelの基礎学習は済んでいるものとして授業は進められる。学部ごとに、履修上の前提科目が決められているので注意すること。

【到達目標】

- (1) 線形空間の基本性質が理解できるようになる。
- (2) 多元連立一次方程式の解法の仕組みが理解できるようになる。
- (3) 各専門分野における線形代数の役割が理解できるようになる。
- (4) 身近に起こるさまざまな数理現象の原理や仕組みが理解できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンスおよび数学の言葉と記号。授業で取り上げたキーワードを復習する（30分）。
- 第2回 線形変換とアフィン変換。次回までに課題をWebClassにアップする（60分）。
- 第3回 多元連立一次方程式と解のタイプ。次回までに課題をWebClassにアップする（60分）。
- 第4回 状態の遷移と固有値問題。次回までに課題をWebClassにアップする（60分）。
- 第5回 正規マルコフ過程。次回までに課題をWebClassにアップする（60分）。
- 第6回 吸収マルコフ過程。次回までに課題をWebClassにアップする（60分）。
- 第7回 CG（コンピュータ・グラフィックス）の数理。次回までに課題をWebClassにアップする（60分）。
- 第8回 経路選択問題とグラフ理論。次回までに課題をWebClassにアップする（60分）。
- 第9回 生産計画問題。次回までに課題をWebClassにアップする（60分）。
- 第10回 輸送計画問題。次回までに課題をWebClassにアップする（60分）。
- 第11回 競争のモデルとゲームの理論。次回までに課題をWebClassにアップする（60分）。
- 第12回 線形符号と数理パズル。次回までに課題をWebClassにアップする（60分）。
- 第13回 線形代数と統計学。次回までに課題をWebClassにアップする（60分）。
- 第14回 検索エンジンの数理。次回までに課題をWebClassにアップする（60分）。
- 第15回 総括と今後の学習のための案内。総まとめの課題をWebClassにアップする（120分）。

課題や宿題の提出方法は、WebClassにアップするのを標準としているが、プリンタ用紙に印刷して提出してもらうことも何回かある。そのときは別途指示するので間違わないように。

毎回の授業は、表計算ソフトExcelを使ったパソコン実習の形で進められる。したがって、履修を申し込む学生は、Excelの基礎を学習済みである必要がある。すなわち、経営学部の学生は「経営情報科学Ⅰ」、教育学部の学生は「情報処理」、法学部の学生は「法学情報科学」の授業を、それぞれ履修済みであること。

【授業の進め方】

- ・各回の授業では、それぞれ1つのテーマを設定し、講義（解説）と実習（PC操作）を織り交ぜながら進めていく。
- ・講義の部分では、関連事項を一話完結のストーリーにまとめ、分かりやすく解説していく。
- ・実習の部分では、表計算ソフトのExcelを使って問題を数值的に解き、数学が身近かで具体的なものとして実感できるようにする。
- ・理解の手助けとして、映像を見せることも必要であると考えている。
- ・毎回、宿題を課すので、次回までに空いた時間を利用して、課題処理してWebClassを利用して提出すること。WebClassは自宅からも接続可能である。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ・教科書については現時点では指定なし。
- ・毎回、プリント教材を配布する予定である。

【参考図書】

- ・授業中に、理論やテーマごとにキーとなる文献を紹介していく。

・線形代数の基礎に関する大学向けテキストとして、たとえば次のようなものがある。授業と平行して読み進めていくとよい。

- [1] 寺田文行,木村宣昭「基本演習 線形代数」サイエンス社,1990.
- [2] 薩摩順吉,四ツ谷晶二「キーポイント線形代数」岩波書店,1992.
- [3] 小寺平治「クイックマスター 線形代数」共立出版,1997.

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 20% レポート・課題 50% 受講態度 30%

特記事項

出席回数が全体の3分の2を超えていることを前提に、

- (1) 授業内小試験
 - ・実習の合間に実施する確認テスト：20%
- (2) レポート・課題
 - ・期末テストに代わる最終レポートの結果：25%
 - ・宿題の提出状況：25%
- (3) 受講態度
 - ・授業ごとの実習課題の処理状況および質疑応答の状況：30%

で評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

実質的に、PCを使った実習科目となっている。したがって、前提条件としては、出席回数が全体の3分の2を超えていればよいというだけでなく、Excelを使った課題処理にきちんと時間が割かれている必要がある。遅刻・早退・実習課題の未提出が多い場合は、実習時間が確保されていないとみなされ、単位が与えられない。

【履修上の心得】

- ・中学や高校での「数学」の履修状況は問わない。
- ・高校数学や受験数学との違いは次の通り。
 - (1) 答えはただ1つとは限らない。公式を覚えてやみくもに計算し答えが出ればよいというわけではない。
 - (2) 定理や公式の意味を、身近な現象に引き寄せて具体的に考える。
 - (3) 問題の背景や適用の範囲等について考える際、各自の専門性との関係に十分配慮する。
 - (4) 多次元ベクトル空間、マルコフ過程、多変量解析、ゲームの理論といった話題が追加される。
- ・重要な箇所をノートに取り、不明な点があればその都度質問して欲しい。ただし、定義や公式や式変形といった決まり切った処理・手続きは、本やネットを見れば出ているだろう。ノートして欲しいのは、どんな例やたとえを使って分かりやすく説明しようとしているか、つまり授業展開のアイデアの部分である。

【科目のレベル、前提科目など】

[科目レベル] 数理的なものの見方・考え方を養い、専門科目への入門・導入的な役割を果たす科目である。社会科学系の学生にとって必要不可欠な計算および表現の道具としての数学が、記号や言葉遣いとともに、分類整理して提示される。

[前提科目] 経営学部の学生は「経営情報科学Ⅰ」、教育学部の学生は「情報処理」、法学部の学生は「法学情報科学」の授業を、それぞれ履修済みであること。つまり、Excelの基礎を学習済みであること。

[関連科目] 数学概論A・B、解析学、科学史、統計学、経済学、心理学、情報系の各科目。

【備考】

授業の進度、課題内容、連絡事項、等は、授業支援システムWebClass上に掲載する。

確認事項：履修申請できるためには、経営学部の学生は「経営情報科学Ⅰ」、教育学部の学生は「情報処理」または「教育情報処理」、法学部の学生は「法学情報科学」の授業を、それぞれ履修済みである必要がある。

科目名	数学概論B
	～大学生のための教養数学～
教員名	黒澤 和人

【授業の内容】

身近に起こるさまざまな現象を数的に捉え、表現し、その仕組みを理解します。そして、数学という分野固有のものの見方や考え方を知るとともに、数学の楽しさを体験します。

後期に配置された当講義では、近年になって解決された重要問題や、未だ証明されていない未解決問題なども含め、現代数学の全体像を概観します。

については、数学の主要なテーマを取り上げ、関連する話題（トピック）を一話完結のストーリーにまとめ、分かりやすく解説していきます。

【到達目標】

- (1) 数学の対象とその構造が、より厳密に理解できる。
- (2) 現象を抽象化し、モデル化することの意味が理解できる。
- (3) 他の科学や技術の表現としての数学の役割が理解できる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンスおよび数学の言葉と記号。WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第2回 パラドックスとゲーデルの不完全性定理。WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第3回 多数決と社会の選択。WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第4回 数の代数的構造。WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第5回 数学における対称性（シンメトリ）。WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第6回 繰り返し文様の数学。WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第7回 フェルマーの小定理。WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第8回 フェルマーの大定理。WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第9回 数理パズル&ゲーム。WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第10回 リーマン予想。WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第11回 音楽と数学。WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第12回 複雑さの科学。WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第13回 数学の自由性。WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第14回 思想としての数学。WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第15回 まとめと今後の学習のための案内。WebClassの資料に基づきこれまでの復習をする（60分）。

- ・授業内の「課題」、次週までの「宿題」、期限の付いた「レポート」の提出方法は、WebClassに各自アップするのを標準としていますが、場合により、A4の白い用紙に記入し2号館3階の課題提出ロッカーに投函するという場合があります。その都度指示しますが、間違わないようお願いします。
- ・履修者の反応に応じて、授業のテーマの順序を入れ替えることがあります。

【授業の進め方】

- ・講義形式の授業です。
- ・毎回、1つのテーマをとりあげ、一話完結のストーリーにまとめ、分かりやすく解説していきます。
- ・理解の手助けとして、映像を見せることもときには必要であると考えています。
- ・毎回、用紙（いわゆるリアクションペーパー）を配布して、記載されている問題に答えたり、コメントを記入したりしてもらいます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

現時点では指定しません。

代わりに、毎回、プリント教材を配布する予定です。

【参考図書】

必要に応じて随時紹介していきます。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

出席回数が全体の3分の2を超えていることを前提に、

- (1) レポート・課題
 - ・レポート（2～3回程度）提出状況
 - ・期末テストに代わる最終レポートの結果
 - ・毎回の予復習および宿題の提出状況

(2) 受講態度

・授業ごとの課題の処理状況および質疑応答の状況。いわゆる授業における活動の度合いを表すもので評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・レポートおよび宿題については、提示された日に欠席していても、出席した人と同様の条件で、処理し提出することができます。提出期限も同じ扱いですので、休んだときは、WebClassの授業記録や資料を兎に角早急に読むようにして下さい。
- ・毎回の授業に出席して、講義を聞いて質疑応答し、問題を考え、リアクションペーパーへ記入し、授業終了時に提出することで、授業の参加・活動の度合いを表す点数が加算されていきます。欠席は5回まで認められますが、欠席した日はこの点数が加算されないことになります。
- ・通院、教育実習、部活動、忌引き、などの理由を問わず、欠席は回数を数えます。しかし、正当な理由である旨の証明のある欠席届けを出していただいた上に、欠席した当日の資料をWebClassからダウンロードしたり、講義内容を出席した友人から聞くなどして、関連の事項を本やインターネットを使っておっかけて自学自習し、その成果（ノートやA4用紙などにレポートのようにまとめたもの）を提出してもらえば、一部ですが加点されます。なお、当日のリアクションペーパーを埋めて提出するだけでは、その成果には当てはまりません。

【履修上の心得】

- ・中学や高校での数学の履修状況はまったく問いません。
- ・授業では、重要箇所を整理したり、疑問点や質問箇所をメモするためにノートは必要です。ただし、定義や公式や式変形といった決まり切った処理・手続きは、本やネットを見れば出ているでしょう。ノートして欲しいのは、どんな例やたとえを使って分かりやすく説明しようとしているかの、いわゆる授業展開のアイデアの部分です。
- ・他の科学分野との相違点や相互関係について考え、数学とは何かを突き詰めようとする授業です。したがって、何を考え、何を理解したかを記録しておくことは重要です。
- ・不明な点があればその都度質問して下さい。
- ・欠席した場合は、後日、配布資料を取りに来て、授業支援システムの情報などを参考に、おっかけて勉強して下さい。
- ・当日のリアクションペーパーへの記入を友人に依頼するなどして出席を装ったことが判明した場合は、両者失格となります。

【科目のレベル、前提科目など】

[科目レベル] 数理的なものの見方・考え方を養い、専門科目への入門・導入的な役割を果たす科目です。現代人にとって必要不可欠な計算および表現の道具としての数学が、記号や言葉遣いとともに、分類整理して提示されます。

[前提科目] なし。必須ではありませんが、数学概論Aを前期に履修しておくといでしょう。

[関連科目] 数学概論A、代数学、解析学、論理学、統計学、物理学、経済学、科学史、教育方法論、心理学、情報・メディア系科目、等。

【備考】

授業の進度や課題内容、連絡事項、等は、授業支援システムWebClassに掲載します。

科目名	物理学A
	核エネルギーがキーワード
教員名	師 啓二

【授業の内容】

科学技術の発達は私たちの生活を便利で豊かなものとしたが、一方、それに伴って生じたエネルギー消費や環境汚染の問題が深刻なものとなりつつある。そもそも科学技術は自然界の法則を巧みに利用したものであるから、科学技術を正しく利用するという立場をとるならば、「暮らしの知恵」として、自然界の法則や仕組みについてある程度知っておく必要がある。物理学は実験を手段とし、数式を用いて、この自然界の法則や仕組みを厳密に調べる学問である。しかし、厳密性は失われるが、数式をあまり用いなくても、簡単な原理から自然界の仕組みのある程度は理解することができる。「物理学A」および「物理学B」は、いずれも身のまわりの自然現象を題材にして、数式にあまり頼ることをせずに、自然の法則や仕組みを学んで行こうという講義科目である。

「物理学A」では、物質の成り立ち・仕組みを主なテーマとしている。そして、その関連事項として、原子力発電所の放射能事故の問題、核融合エネルギーの平和利用、また最近話題となったニュートリノ天文学など具体的な話題を紹介し、ビデオ等を適宜使いつつ、分かりやすく解説する。それによって、目に見えない原子・分子の世界から広大な宇宙まで統一した物理学の視点で眺めて見る事が出来るであろう。

【到達目標】

自然界の仕組み・法則を理解し、それによって新しいものの見方・考え方が持てるようになること。

【授業計画】

- 第1回 授業ガイダンス、参考書の紹介
授業ガイダンスで紹介された授業計画に基づき、あらかじめ第2回の講義内容（分子・原子）についてインターネットなどで調べておくこと（30分）。
- 第2回 物質の構成(1)：分子と原子
なぜ分子のほかに「原子」という概念が必要なのか、講義で触れた事項を復習する（60分）。
- 第3回 物質の構成(2)：電子の発見、真空放電
配付された資料をよく読み、講義で触れた事項（電子の発見の経緯）を復習する（60分）。
- 第4回 物質の構成(3)：原子の構造、周期律表、中性子の発見
配付された資料をよく読み、講義で触れた内容（実験からどのようにして原子構造がわかるのか）を復習する（60分）。
- 第5回 物質の構成(4)：基本的な力と素粒子
講義で触れた内容（原子核の構成粒子として陽子の他に中性子が必要な理由）を復習する（60分）。
- 第6回 物質の構成(5)：素粒子の標準理論、ニュートリノ天文学
配付された資料をよく読み、講義で触れた内容（ニュートリノ観測実験の意味）を復習しておく（60分）。
- 第7回 原子力エネルギー(1)：同位体、放射線、原子核の崩壊
配付された資料をよく読み、講義で触れたキーワード（同位体、3種類の放射線など）について復習しておく（60分）。
- 第8回 原子力エネルギー(2)：原子核の分裂とチェルノブイリ原発事故
配付された資料をよく読み、チェルノブイリ原発事故が起きた原因について復習する（60分）。
- 第9回 原子力エネルギー(3)：原発事故の影響としての食糧汚染の問題
配付された資料をよく読み、チェルノブイリ原発事故がもたらした環境汚染問題について復習する（60分）。
- 第10回 原子力エネルギー(4)：福島第一原発事故と放射能汚染
配付された資料をよく読み、福島第一原発事故がもたらした放射能汚染の影響について復習しておく（60分）。
- 第11回 原子力エネルギー(5)：放射能の強さ、核分裂エネルギー
講義で行った、核分裂エネルギーの大きさの見積もり（計算）について復習する（60分）。
- 第12回 核融合エネルギー(1)：核融合エネルギーの平和利用
核分裂と核融合の違いについて、講義内容を復習しておく（30分）。
- 第13回 核融合エネルギー(2)：質量欠損と結合エネルギー、太陽
講義で触れた事項（原子核の「分裂」でも「融合」でもエネルギーが発生する理由）について復習する（60分）。
- 第14回 ハッブルの法則、宇宙の誕生と未来
宇宙が大爆発（ビッグバン）で始まったとする理由・証拠は何か、復習する（30分）。
- 第15回 地球の誕生
地球はどのようにして「ドロドロのマグマのかたまり状態」から「水の惑星」という温暖な環境へと変わったのか、講義内容を復習する（30分）。

ほぼ上記に示した通りの順に講義を行うが、なるべく最新的话题を紹介したいので、順序やテーマの入れ換えや変更もありえる。

【授業の進め方】

身近な物理現象を取り上げ、物理の基本法則に基づいて、「どうしてそのようなことが起こるのか」という視点で分かりやすく解説する。講義に関連した内容のビデオを見せることもあるが、その場合、ビデオの内容に関連した質問事項を記したビデオレポートに解答しながらビデオを視聴してもらう。講義内容の理解を確実なものとするための演習（簡単な問題を解くこと）もある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

毎回講義のときに、必要に応じて資料を配付する。教科書は指定しない。

【参考図書】

第1回の講義の時に参考となる書籍を紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 15% レポート・課題 85% 受講態度 0%

特記事項

課題 1回（学期末に提出すること）

判定基準 出席率2/3以上で、授業内小試験（ビデオレポート）＋レポート・課題（期末課題など）の評価が60点（100点満点）以上であること。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回必ず出席をとる。30分以上遅刻した場合は欠席とみなす。遅刻2回で欠席1回にカウントする。就職活動や教育実習で何回か休む可能性のある学生は欠席回数に特に注意を払うこと。

【履修上の心得】

私語厳禁。授業中、教室内では帽子をとり、静粛にして、飲食はしないこと。ビデオレポートに解答する場合、スマートフォンを使うことを認めていないので、その電源は切りかばんにしまっておくこと。本科目のためにはとくに予備知識はいらない。高校で物理を選択していなくても全く構わない。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：なし

関連科目：「物理学B」

取り上げているテーマが違っているので「物理学B」の講義の知識を前提とはしないが、「物理学B」の講義も聞いていれば物理学のほぼ全般にわたる統一的な理解が得られる。専門家向けの講義ではないのですぐに役に立つという内容ではないが、例えば放射能汚染についての知識があったために命が助かるということも有り得るだろう。

「簡単な基礎知識から自然がどのように理解できるか」という、ものの見方・考え方を学ぶ講義であり、入門的・導入レベルの内容である。

科目名	物理学B
	自然の仕組みを理解しよう
教員名	師 啓二

【授業の内容】

科学技術の発達は私たちの生活を便利で豊かなものとしたが、一方、それに伴って生じたエネルギー消費や環境汚染の問題が深刻なものとなりつつある。そもそも科学技術は自然界の法則を巧みに利用したものであるから、科学技術を正しく利用するという立場をとるならば、「暮らしの知恵」として、自然界の法則や仕組みについてある程度知っておく必要がある。物理学は実験を手段とし、数式を用いて、この自然界の法則や仕組みを厳密に調べる学問である。しかし、厳密性は失われるが、数式をあまり用いなくても、簡単な原理から自然界の仕組みのある程度は理解することができる。「物理学A」および「物理学B」は、いずれも身のまわりの自然現象を題材にして、数式にあまり頼ることをせずに、自然の法則や仕組みを学んで行こうという講義科目である。

「物理学B」では、「力と運動」および「エネルギー」を主たるテーマとし、天体の運動、惑星探査、天体観測、無重力下での実験、熱エネルギー、エントロピー、カオス・複雑系およびナノテクノロジーなどの具体的な話題について、ビデオなどを適宜用いつつ、分かりやすく解説する。それにより、物理学的な視点での物の見方・考え方を身につけることができれば、現象の複雑さに対して、自然界を支配する法則の単純さや美しさに驚くことであろう。

【到達目標】

自然界の仕組み・法則を理解し、それによって新しいものの見方・考え方が持てるようになること。

【授業計画】

- 第1回 授業ガイダンス、参考書の紹介
授業ガイダンスで紹介された授業計画に基づき、あらかじめ第2回の講義内容(月の運動)についてインターネットなどで調べておく(30分)。
- 第2回 力と運動：月の運動、月の探査計画
月は地球から引力を受けているにもかかわらず、なぜ落ちてこないのか、講義で触れた事項を復習する(60分)。
- 第3回 運動法則(1)：天動説と地動説、地球の自転と公転運動
配付された資料をよく読み、地球が自転している直接的な証拠など講義で触れた事項を復習する(60分)。
- 第4回 運動法則(2)：ケプラーの法則、火星探査計画
配付された資料をよく読み、「火星はなぜ何年かごとに大接近するのか」など、講義で触れた事項を復習する(60分)。
- 第5回 運動法則(3)：万有引力の法則、ボイジャーによる惑星探査・海王星
配付された資料をよく読み、「グランドツアー計画」など講義で触れた事項を復習する(60分)。
- 第6回 天体の運動(1)：惑星系の成り立ち
太陽系において木星の果たす役割とはなにか、講義で触れた事項を復習する(60分)。
- 第7回 天体の運動(2)：天体のカオス、小惑星や彗星の探査
配付された資料をよく読み、「天体現象でみられるカオス」など講義で触れた事項を復習する(60分)。
- 第8回 天体の運動(3)：人工衛星、スペース・シャトルの宇宙実験
「スペースシャトル内ではなぜ“無重力状態”となるのか」など、講義で触れた事項を復習する(60分)。
- 第9回 光学：光の反射と屈折、望遠鏡の原理、宇宙望遠鏡
配付された資料をよく読み、「ハッブル宇宙望遠鏡ではどのような観測がなされているか」など、講義で触れた事項を復習する(60分)。
- 第10回 熱(1)：熱容量・比熱、熱の物質説、ランフォードの実験
配付された資料をよく読み、講義で触れたキーワード(熱量、熱容量、比熱など)について調べておく(30分)。
- 第11回 熱(2)：熱エネルギー、ジュールの実験、不可逆現象
熱エネルギーの移動における不可逆な現象をどのように捉えていたか、講義で触れた事項を復習する(60分)。
- 第12回 熱(3)：拡散、エントロピー
不可逆な現象においてエントロピーはどのような役割を果たしているのか、講義で触れた事項を復習する(60分)。
- 第13回 熱(4)：気体分子の運動、散逸構造
気体の圧力と温度は分子の運動とどのような関係があるのか、講義で触れた事項を復習する(60分)。
- 第14回 新素材と新技術：ナノテクノロジー
配付された資料をよく読み、ナノテクノロジーは人間の未来にどのような恩恵をもたらすと考えられるのか、講義で触れた事項を復習する(60分)。
- 第15回 物理実験シミュレーション：カオス、複雑系、量子
物理実験シミュレーションでみた「カオス水車」の運動状態の変化について復習する(30分)。

上記に示した通りの順に講義を行うが、最新の話題も紹介したいので、入れ換えや変更もありえる。

【授業の進め方】

身近な物理現象を取り上げ、物理の基本法則に基づいて、「どうしてそのようなことが起こるのか」という視点で分かりやすく解説する。講義に関連した内容のビデオを見せることもあるが、その場合、ビデオの内容に関連した質問事項を記したビデオレポートに解答しながらビデオを視聴してもらう。講義内容の理解を確実なものとするため、演習（簡単な問題を解くこと）もある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

毎回講義のときに、必要に応じて資料を配布する。教科書は指定しない。

【参考図書】

第1回の講義の時に参考となる書籍を紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 15% レポート・課題 85% 受講態度 0%

特記事項

課題 1回（学期末に提出すること）

判定基準 出席率2/3以上で、授業内小試験（ビデオレポート）＋レポート・課題（期末課題など）の評価が60点（100点満点）以上であること。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回必ず出席をとる。30分以上遅刻した場合は欠席とみなす。遅刻2回で欠席1回にカウントする。就職活動や教育実習で何回か休む可能性のある学生は欠席回数に特に注意を払うこと。

【履修上の心得】

私語厳禁。授業中、教室内では帽子をとり、静粛にして、飲食はしないこと。ビデオレポートに解答する場合スマートフォンを使うことは認めないので、電源は切っておくこと。本科目のためにはとくに予備知識はいらない。高校で物理を選択していなくても全く構わない。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：なし

関連科目：「物理学A」

取り上げているテーマが違っているので「物理学A」の講義の知識を前提とはしないが、「物理学A」の講義も聞いていれば物理学のほぼ全般にわたる統一的な理解が得られる。専門家向けの講義ではないのですぐに役に立つという内容ではないが、「自然を見る目」は確実に変わることだろう。一見複雑な現象も単純な原理から理解できるということが分かればよい。

「簡単な基礎知識から自然がどのように理解できるか」という、ものの見方・考え方を学ぶ講義であり、入門的・導入レベルの内容である。

科目名	化学A
	基礎化学
教員名	高林 久美子

【授業の内容】

ますます複雑さを増す現代社会は様々な情報があふれています。その中には誤った情報、不正確な情報がたくさん混ざっています。自分が本当に必要な正しい情報を得るためには、ある程度の基本的な知識が必要となります。化学の基本的な知識もその一つです。しかし「化学」と言うと難しい化学記号が思い浮かんで拒絶反応を示す人も少なくありません。しかし、化学記号や化学式も理解できれば意味不明の記号ではなくなります。「化学A」では高校で化学を履修していない、または理解できなかった人が多いことを考慮し、化学の基礎部分を最初から丁寧に学んでいきます。

【到達目標】

化学Aの講義では、多岐にわたる化学の分野の最も初歩的な入門編として基本を学ぶだけでなく、化学的なものの見方、考え方を身につけ、現代社会の諸問題を理解するための下地を作ることを目標とします。

【授業計画】

第1回	化学の起源・測定の体系	教科書	第1・2章
第2回	物質の成り立ち	教科書	第3章(1)
第3回	原子と分子	教科書	第3章(2)
第4回	原子の構造	教科書	第4・5章
第5回	周期表	教科書	第6章
第6回	化学結合Ⅰ	教科書	第7章(1)
第7回	化学結合Ⅱ	教科書	第7章(2)
第8回	化学反応式	教科書	第8章(1)
第9回	酸化還元	教科書	第8章(2)
第10回	気体状態	教科書	第11章
第11回	反応熱Ⅰ	教科書	第10章(1)
第12回	反応熱Ⅱ	教科書	第10章(2)
第13回	溶液の化学Ⅰ	教科書	第14章(1)
第14回	溶液の化学Ⅱ	教科書	第14章(2)
第15回	酸・塩基	教科書	第15章

【授業の進め方】

化学の基礎概念を理解することを主眼とします。授業の終わりに、内容理解できたかどうか毎回(1回目から15回まで15回)簡単な小テストを行い、理解度を確認します。暗記するより理解することを目指します。そのため授業中の小テストおよび定期試験は教科書、ノート等の持込を認めます。授業内小テストは教科書の例題、練習問題のレベルとします。高校の「化学Ⅰ」「化学Ⅱ」と重複する部分があります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①化学 基本の考え方を中心に ②チャーマン 他 ③東京化学同人 ④1990年 ⑤2850円 ⑥4-8079-0334-9

学内書店で販売

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 30% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

小テスト 4点×15回×1/2=30点

【「成績評価の方法」に関する注意点】

第1回の講義から毎回小テストを行います。第1回から出席してください。

【履修上の心得】

高校で化学を履修しなかった人でも基本からやるので大丈夫ですが、しっかり授業を聞いてください。毎回(1回目から15回まで15回)小テストを行います。計算をすることが多いので電卓をもってきてください。授業中の小テストおよび定期試験は教科書、ノート等の持込を認めます。

【科目のレベル、前提科目など】

前提・関連科目は特にありませんが、現代社会において、新聞やテレビなどに出てくる話題を理解するうえで最低限要求される知識です。科学的なトピックスを解説する「化学B」もあわせて履修するとさらに効果的です。また、環境科学等他の理系科目を理解するためにも役に立ちます。

科目名	化学B
	生活の中の科学
教員名	高林 久美子

【授業の内容】

ますます複雑さを増す現代社会は様々な情報があふれています。その中には誤った情報、不正確な情報がたくさん混ざっています。自分が本当に必要な正しい情報を得るためには、ある程度の基本的な知識が必要となります。化学の基本的な知識もその一つです。この化学Bの講義では、「化学」というよりもう少し広い「科学」の立場に立ち、新聞やテレビなどに登場する私たちの日常生活の興味深い現象・事象を解説します。

【到達目標】

化学Bでは、「化学」というよりもう少し広い「科学」の立場での知識を身につけること、また、科学的なものの見方を知り、現代社会の諸問題を理解するための下地を作ること为目标とします。知識は聞いただけではなく、実践して初めて自分のものになります。そこで、この授業で学んだことを日常生活に生かせるようになることが最終到達目標です。

【授業計画】

- 第1回 水の化学（水と生命）
- 第2回 休養の化学（睡眠の化学）
- 第3回 運動の化学（ダイエットの化学）
- 第4回 栄養素の化学Ⅰ（タンパク質）
- 第5回 栄養素の化学Ⅱ（炭水化物・脂質）
- 第6回 食品の化学Ⅰ（食品衛生・特定保健用食品）
- 第7回 食品の化学Ⅱ（遺伝子組み換え食品）
- 第8回 遺伝子の化学（親から子へ）
- 第9回 免疫の化学（身を守るしくみ）
- 第10回 化粧品の化学Ⅰ（皮膚と毛髪の構造）
- 第11回 化粧品の化学Ⅱ（皮膚と紫外線）
- 第12回 化粧品の化学Ⅲ（香りの化学）
- 第13回 環境の化学Ⅰ（地球温暖化・酸性雨）
- 第14回 環境の化学Ⅱ（オゾン層の破壊・砂漠化）
- 第15回 エネルギーの化学（エネルギーの変遷）

【授業の進め方】

生活の中の現象や事柄を科学の目でみて、基礎概念を理解することを主眼とします。よって毎回の授業は日常身近にあるテーマを取り上げ、解説していくことになります。毎回授業の終わりにリアクションペーパーを提出してもらいます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 55% 授業内小試験 45% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

上記授業内小試験はリアクションペーパーによる評価です。 毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。
3点×15回=45点 45%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

リアクションペーパーの書き方は授業で説明します。この授業の最終到達目標は学んだことを日常生活に生かせるようになることなので、今後何をどう実践していくかを書いてもらいます。

【履修上の心得】

高校で化学を履修しなかった人でも大丈夫です。新聞やテレビでの情報に敏感になるよう努力しましょう。

【科目のレベル、前提科目など】

前提・関連科目は特にありませんが、現代社会において、新聞やテレビなどに出てくる話題を理解するうえで最低限要求される知識です。化学の基本事項を講義する「化学A」もあわせて履修するとさらに効果的です。また、環境科学等他の理系科目を理解するためにも役に立ちます。

化学はいうまでもなく理系科目ですが、本講義は化学の初歩的な入門レベルであり、文系の学生を対象としたものです。高校で化学を履修しなかった人又は理系科目が苦手であると思っている人でも十分理解できるように配慮します。

科目名	生物学A
	環境と生物
教員名	上田 高嘉

【授業の内容】

科学技術の進歩に伴って世の中は目まぐるしく変化し、どのように生きればいいのか混沌としている。そんな中で人間とは何かをより深く知ることが重要であり、生物学はその大きな助けになるように思える。単なる知識の積み重ねでなく、自分なりの考えを身につけていただきたい。講義の最後には身近な生物学上の問題を取り上げ議論したいと考えているが、そのためには少なくとも私の持っている知識を共有していただく必要があり、そのための講義内容になっている。

【到達目標】

自分なりの考え方を身につけ、少しでも生物学に興味を持っていただく。

【授業計画】

- 第1回 生命の誕生と生物の進化(1)
- 第2回 生命の誕生と生物の進化(2)
- 第3回 生命の誕生と生物の進化(3)
- 第4回 生命の誕生と生物の進化(4)
- 第5回 生命の誕生と生物の進化(5)
- 第6回 動物の発生
- 第7回 動物の行動(1)
- 第8回 動物の行動(2)
- 第9回 生物体の調節(1)
- 第10回 生物体の調節(2)
- 第11回 環境保全(1)
- 第12回 環境保全(2)
- 第13回 環境保全(3)
- 第14回 バイオテクノロジー(1)
- 第15回 バイオテクノロジー(2)

【授業の進め方】

講義が中心であるが、身近な問題、例えば地球温暖化を取り上げて議論していただくことも考えている。少しでも興味を持っていただけるよう努力したい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は指定せず、必要に応じて資料を配布する。

【参考図書】

参考図書はその都度紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

定期テスト、平常点、聴講態度等により総合的に判断する。

【履修上の心得】

高校で生物を選択していなくても一向に構わない。単なる知識の積み重ねになることなく、考える力を身につけることを心掛けてほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目は特に必要ないが、物理学、化学等関連させていけば論理的思考が膨らむことだろう。

生物学の入門的な内容で、社会的に話題となる生物学的諸問題について議論できる一般的知識、考え方を身につけていただく程度である。

科目名	生物学A
	微生物学の発展から分子生物学まで 感染症を例に学びます
教員名	岡田 晴恵

【授業の内容】

生物学は、地球上のさまざまな生物やその生命現象を解き明かそうとする科学です。19世紀の自然発生説の否定から21世紀の現代まで、生物学の知見と研究、技術は躍進的な進歩を遂げてきました。そのような生物学の発展を微生物学（病原微生物）に重点を置きながら学びます。

【到達目標】

自分なりの考え方を身につけ、少しでも生物学の興味をもっていただく。
みなさんが健康に生活していく上で役立つ知識の一部でも身につける。

【授業計画】

- 第1回 ヒトの誕生と微生物
病原微生物と人の生活
- 第2回 細菌 原始生物の生き残り
- 第3回 ウイルスとは？生物と無生物の間
- 第4回 ウイルスの発見と分類
- 第5回 体を守る免疫 自然免疫と適応免疫
ワクチンの開発
- 第6回 感染症とは？微生物はどこに潜む？感染成立の3要因
- 第7回 原虫とは？マラリア感染症
昆虫が媒介する微生物
- 第8回 細菌とは？腸管出血性大腸菌O157
環境と細菌
- 第9回 ウイルスの感染 インフルエンザと鳥インフルエンザ
ウイルスの遺伝子変異
- 第10回 ノロウイルスの伝播形式
環境とウイルス
- 第11回 寄生虫とは？その生活史
- 第12回 リケッチア、クラミジア
- 第13回 ワクチン 抗微生物薬、消毒、滅菌
- 第14回 地球環境の変化と生物
21世紀の微生物学
- 第15回 バイオテクノロジーの利用

【授業の進め方】

講義が中心ですが、身近な問題、たとえば微生物の引き起こす感染症の予防などのついて、議論していただくことも考えている。実生活のも役立つ講義を目指す。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①正しく怖がる感染症 ②岡田晴恵 ③ちくまプリマ新書 ④2017.3

【参考図書】

病気の社会史 岩波現代新書 立川昭二著

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 20% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

定期試験、講義内の小テスト、平常の聴講態度などで評価をします。
教育実習等を始め公欠等のある場合には、その学生にレポートを課します。レポート提出の無い場合は認めません。さらに、文科省の定める出席回数は実質的に守られるべきとします。

【履修上の心得】

周囲で講義を受けている人たちに迷惑をかけることは慎むこと。

【科目のレベル、前提科目など】

高校で生物を選択していなくとも一向に構いません。

【備 考】

生物学の入門的内容です。

科目名	生物学B
教員名	上田 高嘉

【授業の内容】

科学技術の進歩に伴って世の中は目まぐるしく変化し、どのように生きればいいのか混沌としている。そんな中で人間とは何かをより深く知ることが重要であり、生物学はその大きな助けになるように思える。単なる知識の積み重ねでなく、自分なりの考えを身につけていただきたい。講義の最後には身近な生物学上の問題を取り上げ議論したいと考えているが、そのためには少なくとも私の持っている知識を共有していただく必要があり、そのための講義内容になっている。

【到達目標】

自分の考え方を身につけ、少しでも生物学に興味を持っていただく。

【授業計画】

- 第1回 ウイルスについて(1)
- 第2回 ウイルスについて(2)
- 第3回 ウイルスについて(3)
- 第4回 細胞の構造と機能(1)
- 第5回 細胞の構造と機能(2)
- 第6回 細胞の構造と機能(3)
- 第7回 遺伝子と染色体(1)
- 第8回 遺伝子と染色体(2)
- 第9回 遺伝子と染色体(3)
- 第10回 遺伝子と染色体(4)
- 第11回 遺伝子と染色体(5)
- 第12回 性について(1)
- 第13回 性について(2)
- 第14回 生命工学(1)
- 第15回 生命工学(2)

【授業の進め方】

講義が中心であるが、身近な問題、例えば万能細胞等生命操作を取り上げて議論していただくことも考えている。少しでも興味を持っていただけるよう努力したい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は指定せず、必要に応じて資料を配布する。

【参考図書】

参考図書はその都度紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

定期テスト、平常点、聴講態度等により総合的に判断する。

【履修上の心得】

高校で生物を選択していなくても一向に構わない。単なる知識の積み重ねになることなく、考える力を身につけることを心掛けてほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目は特に必要ないが、物理学、化学等関連させていけば論理的思考が膨らむことだろう。

生物学の入門的な内容で、社会的に話題となる生物学的諸問題について議論できる一般的知識、考え方を身につけていただく程度である。

科目名	生物学B
	微生物学の発見の瞬間を共有しながら、生物学のポイントを理解します
教員名	岡田 晴恵

【授業の内容】

生物学は、地球上のさまざまな生物やその生命現象を解き明かそうとする科学です。生物は自然に発生するという自然発生説が完全に否定されたのは、19世紀中頃、そんなに古い時代ではありません。さまざまな観察や実験に役立つ多くの道具や機械が開発され、現在、生物学は躍進的な進歩を遂げています。生物史に残る発見やその科学者たちの足跡を振り返りながら、また、最新の生物学の知見までを紹介していきます。また、近年、新しい感染症の発生や流行のリスクが問題となっています。そのような新興感染症の病原体の微生物についても、注目してきます。どうして、そのような微生物が人に感染しやすくなり、私たちの周囲で流行を起しやすくなっているのか、21世紀に生きる我々の問題を考えていきます。

【到達目標】

自分なりの考え方を身につけ、少しでも生物学の興味をもっていただく。
みなさんが健康に生活していく上で役立つ知識の一部でも身につけてる。

【授業計画】

- 第1回 生物学とは何か
地球上には多様な生物が生息している
- 第2回 微生物とは何か 人との関わり
- 第3回 生物学、微生物学の偉大なる発見1
セレンディピティを共有する。
科学者が体験した何気ない出来事（現象）から、ひらめきを感じて、偉大なる発見に導く幸運な瞬間を皆さんと追体験していきます。
- 第4回 新しい感染症と病原微生物
- 第5回 偉大なる発見 セレンディピティ
- 第6回 生体、細胞の構造の機能 ウイルスや細菌
- 第7回 生物と生体を守る免疫システム
- 第8回 新興感染症 病原微生物
- 第9回 偉大なる発見 セレンディピティ
- 第10回 病原微生物 動物から人へ 遺伝子変異と適応
- 第11回 病原体による病気 呼吸器感染症
- 第12回 病原体による病気 性感染症
- 第13回 母胎の中の新しい生命
- 第14回 母子感染 胎児感染
- 第15回 利用される最新の生命工学

【授業の進め方】

講義が中心ですが、身近な問題、たとえば微生物の引き起こす感染症の予防などのついて、議論していただくことも考えている。実生活のも役立つ講義を目指す。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①知っておきたい感染症 ②岡田晴恵著 ③ちくま新書

【参考図書】

感染症とたたかった科学者たち 岡田晴恵著 岩崎書店
エボラVS人類 岡田晴恵著 PHP新書

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 20% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項
定期試験、講義内の小テスト、平常の聴講態度で評価します
教育実習などの公欠等のある学生等には、レポートを課します

【「成績評価の方法」に関する注意点】

教育実習等による欠席申請等には所定の用紙に必要事項を書き入れ、決まりに則って提出する。また、それ以外の講義には休まない心がけを持って講義に出席する。文科省の定める3分の2以上の講義の出席は遵守する努力は不可欠である。実質の講義不在が多数の場合には、単位の認定はできない。また、講義中に周囲に迷惑となる行動、振る舞いは厳に慎むべきである。学生証は必ず携帯して、出席確認を各自で行う。講義後の申請は、原則として受け付けない。

【履修上の心得】

高校で生物を選択していなくとも一向に構いません。

【科目のレベル、前提科目など】

生物学の入門的内容です。

【備 考】

周囲の人に講義中に迷惑をかける行為は慎むこと

科目名	情報処理
	ネットワーク時代の情報リテラシー
	授業形態：演習/幼・保コース開講の場合の授業回数：15回（30時間）
教員名	渋川/情報処理担当教員

【授業の内容】

マルチメディア・パソコンやインターネットの発達により音と映像が気軽に加工できるようになり、コンピュータは情報をつかんで仕事に活かすだけでなく、個人の趣味のためにはもちろん、創造的な仕事をする上でもなくてはならないものになりました。

そこで、私たちはただその機能を使いこなすだけでなく、自分にあったもの（教材など）を作り出せる道具の一つとしてコンピュータを活用できるようになることが大切です。本講義では日本語ワープロ(Microsoft Word)、電子メール(E-mail)、スプレッド・シート(Microsoft Excel)などのソフトウェアによる実習を行うことにより、まず基本的な情報処理や一般常識を学び、ひいては情報をたくみに処理し、自分にあったシステムを構築することを考えていきたいと思えます。すぐに役に立つ知識はもちろん、世の中の変化に対応できる普遍的知識も身につけて下さい。

【到達目標】

- 1.簡単なビジネス文書が作成できる。
- 2.表計算機能を使いこなした主なグラフが作成できる。
- 3.分析ツールを用いて簡単な統計解析ができる。
- 4.アンケートの集計ができる。
- 5.パワーポイントによるプレゼンテーションの資料の作成ができる。

【授業計画】

第1回	Wordの実習	文書作成の基本操作
第2回	Wordの実習	文書の装飾、図形描画
第3回	Wordの実習	表の作成他
第4回	Wordの実習	演習問題
第5回	Excelの実習	基本操作
第6回	Excelの実習	表計算
第7回	Excelの実習	棒グラフ
第8回	Excelの実習	折れ線グラフ・円グラフ
第9回	Excelの実習	基本的な関数の使い方
第10回	Excelの実習	その他の関数の使い方
第11回	Excelの実習	データベース的利用法
第12回	Excelの実習	分析ツール
第13回	Excelの実習	アンケートの集計
第14回	Excelの実習	練習問題
第15回	PowerPointの実習	まとめ・その他

【授業の進め方】

テキスト・プリント・その他を使用して実習を行います。例題を解いたのち、課題を作成するという形式ですすめていきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①現代の情報科学 ③学文社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

- ・成績評価の方法は「履修規程」に準じます。
- ・受験資格は『保育士資格規定』に準じます。
- ・成績は実習課題によって判断します。
(講義回数の2/3以上出席した学生を成績評価の対象とする。)

【履修上の心得】

全回出席を原則とします。欠席や遅刻をしないようにしましょう。特に、30分以上遅刻をしないようにしましょう(欠席扱いにします)。出欠は出席カードで調べますが、必ず授業開始30分以内にカードを受け取り、授業の間無くさないように持って下さい。また、遅刻3回で欠席1回とします。やむをえない理由で早退する場合は断って退出して下さい。早退は遅刻と同じ扱いとします。カードは授業内に提出して下さい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目はありません。コンピュータについての知識がなくても結構です。また、本講義に続く内容をもつ教育情報処理以外は特別な関連科目はありませんが、パソコンが文房具化している現代においてはほとんどの科目が関連科目であるとも言えます。

保育士資格、幼稚園・小中高教諭免許取得のための重要な科目です。レポートの作成・データの分析には必ず必要となるので、全ての科目の基礎となる科目です。

科目名	キャリアデザイン
	社会人基礎力養成講座
教員名	キャリアデザイン担当教員

【授業の内容】

1. 大学生活がどのように就職活動に影響を及ぼすのかを知る。
2. 雇用形態の違いを理解し、目指す働き方を明確にする。
3. インターンシップ参加の契機となるように会社の仕組みや利益の考え方を学ぶ。
4. 日本の現状とこれから必要とされる能力(社会人基礎力)を学ぶ。
5. 女性の結婚後のキャリアを考え、自分の将来像を意識させる。

【到達目標】

1. 大学生活と就活の関連性を理解する。
2. 働く理由を考え、正社員と非正規社員の違いを知る。
3. 会社を役割・組織・経営・労働の観点から理解する。
4. 特に重要な6つ社会人基礎力等を理解する。
5. 授業を通じて、将来のキャリアデザインを描けるようにする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
この授業を受講する目的を考えておく。(予習1時間)
- 第2回 学生時代と就活の関係
1・2年生は、大学でやるべき目標が明確になっているか確認する。3・4年生は、入学以来、何を目的として大学生活過ごしてきたかを整理しておく。(復習1時間)
- 第3回 今の自分を診断する
ワークで得た結果をもとに、今後の自分が強化すべき課題を明確にしておく。(復習1時間)
- 第4回 自立したくない心理
次回までに事例研究Ⅱについてまとめておく。(復習1時間)
- 第5回 働く理由
理解不足は、次回以降の授業に影響が出るので、十分時間をかけること。(復習2時間)
- 第6回 仕事のやりがい
ワークで得た結果をもとに、「できること・できないこと」を整理しておく。(復習1時間)
- 第7回 働き方を比べる
非正規社員の不利な面を整理しておく。(復習30分)
- 第8回 インターンシップのすすめ
インターネットからインターンシップを実施している企業を探してみる。(復習1時間)
- 第9回 会社を知ろうⅠ
特に株式会社のしくみについて理解を深めておく。(復習1時間)
- 第10回 会社を知ろうⅡ
特に「利益」と「原価」の関係に注目すること。(復習1時間)
- 第11回 日本の現状を知る
今回の授業は、いろいろな分野の話がされている。特に3年生は今後の就活のために書籍等を使い、知識を深めておいてほしい。(復習2時間)
- 第12回 社会で求められる力Ⅰ
授業で解説した能力が身についているか否かを把握し、身につけていないときには何をすべきか考え整理する。(復習1時間)
- 第13回 社会で求められる力Ⅱ
授業で解説した能力が身についているか否かを把握し、身につけていないときには何をすべきか考え整理する。(復習1時間)
- 第14回 自己分析～強みを知る～
特に3年生はワークで得た結果をもとに、自らの「強み」を明確にしておく。(復習1時間)
- 第15回 結婚と仕事との関係
これまでの授業を振り返り、将来のキャリアパスを考えてみよう。(復習2時間)

※授業の進捗如何で若干内容が変わることがある。

【授業の進め方】

講義形式(一部個人ワーク)。毎回パワーポイントを使って講義の要点を明示しながら授業を進めていく。
木曜日は栗原栄美、金曜日は石正弘が担当する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①大学生のためのキャリアデザイン ②カ石正弘・栗原栄美 共著 ⑤1200円

カジマガジマテキスト『大学生のためのキャリアデザイン』(Booksマガジマ様にて販売)を必ず購入すること。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

レポートについては、原則2回実施する。

受講態度とは、授業終了時に配付するリアクションペーパーによる評価(3回以上実施)

【履修上の心得】

例年、1～4年生に幅広く受講していただいている。大人の自覚を持って授業に臨むこと。

出席カードを配布した時は、ICカードの出欠より優先して管理する。

※私語等、他の受講生が不快に感じる行為は厳禁。

※出席に関する不正があった場合は、理由の如何を問わず【失格】とする。

【科目のレベル、前提科目など】

後期に「キャリアデザイン実践」を受講予定の3年生は、本講座の受講をお勧めする。

【備 考】

エントリーシートの書き方や面接対策等の就職活動支援講座ではない点に注意。

科目名	体育実技A
	授業形態：実技/授業回数：15回（30時間）
教員名	体育担当教員

【授業の内容】

「生涯スポーツの時代」といわれる今日、教育や保育の活動を通じ、「誰もが、それぞれの体力や技術に応じて、生涯に渡り運動やスポーツを楽しむことのできる力」を身につけられる様な指導や支援を行っていくことが必要である。

教育学部に学ぶ学生には将来の教育者・保育者としての活動にこの様な視点を据えることを学ぶだけでなく、学生時代に自らが「今持つ力の中で運動やスポーツを楽しむ」という経験を積んでもらいたい。

本講義では、自らの興味関心に基づき、スポーツを選択し楽しむと同時に、今後運動やスポーツ活動を支援していく際に必要な基礎知識、応用的なプレイや試合・ゲームの楽しみ方などを学習して行く。また、単に自分がプレイを楽しむだけでなく技術や能力が異なる集団の中で、その特性や状況を考慮した活動のあり方について考える力を養う。

実技種目は多くの仲間と交流できる良い機会でもあるため、積極的に授業に参加し、新しい仲間との関係づくりを目指してもらいたい。

【到達目標】

- ①それぞれの選択種目の技能的なレベルを高めること
 - ②種目の専門性に触れ、ルールや安全確認、準備運動の重要性などを理解すること
 - ③ボールゲームにおいてはチームとして協力して取り組むこと
 - ④受講している学生全員が本授業を通して新しい人間関係を構築していくこと
 - ⑤健康やスポーツ、運動に関する意義や理論などを理解すること
- 以上の点を達成することを目標とする。

【授業計画】

○室内スポーツ

バスケットボール、バレーボール、バドミントンなどの他、体育館で行える軽運動や体づくり運動、ニュースポーツ種目などを適宜取り入れながら進める。

○屋外スポーツ

サッカー、テニス、ソフトボールなどの他、屋外で行える軽運動や体づくり運動、ニュースポーツ種目などを適宜取り入れながら進める。

○その他

ダンス運動やウォーキング、マシンや用具を使ったフィットネス運動の他、基礎体力を高めるための運動を行う。

※オリエンテーション時に、各担当教員の実施する種目についての説明を受け、履修希望者数に基づき人数調整を行う。

1. オリエンテーション、種目の選択、決定
2. 基礎的な技能の練習（動作の理解）
3. 基礎的な技能の練習（簡単な動作の反復練習）
4. 基礎的な技能の練習（基礎技能の組み合わせ）
5. 基礎的な技能の練習（基礎技能の応用）
6. 応用的な技能の習得（攻撃技術）
7. 応用的な技能の習得（守備技術）
8. 応用的な技能の習得（戦術の理解）
9. 応用的な技能の習得（戦術に応じた基礎的・応用的な技能の選択）
10. 試合形式などの実践的な練習①（ルールなどの理解を含む）
11. 試合形式などの実践的な練習②（審判や試合運営などの理解を含む）
12. 複数チームに分けてリーグ戦（第一週：勝敗の原因分析）
13. 複数チームに分けてリーグ戦（第二週：前回の反省を活かした戦術選択）
14. 複数チームに分けてリーグ戦（第三週：リーグ戦全試合で見た自チームの成長分析）
15. まとめ

本科目は履修者の健康状態などを考慮し、フィットネストレーニングなど負荷の軽い種目を設定することもある。

【授業の進め方】

○オリエンテーション（第1回目）

人数調整を行い、担当教員を決定する。

○第2回目以降、各担当教員別クラスに分かれ実技を行っていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

○必要な資料はその都度配布する。

○原則として用具は大学のものを使用するが、個人で準備するものがあれば（服装・シューズ等を含めて）初回のオリ

エンターション時に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

授業への取り組みに加え、技術の習熟・上達度、レポート、試験等の状況を考慮して評価する。

授業への取り組み(50%)

技能の習熟度、技術的な上達度(25%)

授業内での態度、積極性やチーム活動への貢献度、レポート内容(25%)

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。
- ・受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

全回出席を原則とする。

○実技科目であるため、運動のできる服装を準備すること（普段着での参加は不可）。

○靴についても同様に、屋外用・体育館用各々を必要に応じて準備し、使い分けること。

○夏場は大量に汗をかくことも多い。また冬は運動後に身体が冷えることなども考慮し、年間を通じてタオルや着替えの準備などにも配慮すること。

※実技科目につき、希望者多数の場合には人数調整を行うことがある。第1回の授業時にオリエンテーションを行い、履修者を決定するので必ず参加すること（掲示に注意）。

【科目のレベル、前提科目など】

体育実技B、健康科学、体育概説I など

教員免許及び保育士資格に関わる科目であるため、「免許及び資格取得の手引き」を参照し、必要単位数等に留意すること。

【備 考】

実技科目は講義科目に比べて本人が授業の中で実際に取り組むことが重要であるので、出席率が全授業回数の80%を超えることが最低条件である。

科目名	体育実技A
	授業形態：実技
教員名	体育担当教員

【授業の内容】

「生涯スポーツの時代」といわれる今日、教育や保育の活動を通じ、「誰もが、それぞれの体力や技術に応じて、生涯に渡り運動やスポーツを楽しむことのできる力」を身につけられる様な指導や支援を行っていくことが必要である。

教育学部に学ぶ学生には将来の教育者・保育者としての活動にこの様な視点を据えることを学ぶだけでなく、学生時代に自らが「今持つ力の中で運動やスポーツを楽しむ」という経験を積んでもらいたい。

本講義では、自らの興味関心に基づき、スポーツを選択し楽しむと同時に、今後運動やスポーツ活動を支援していく際に必要な基礎知識、応用的なプレイや試合・ゲームの楽しみ方などを学習して行く。また、単に自分がプレイを楽しむだけでなく技術や能力が異なる集団の中で、その特性や状況を考慮した活動のあり方について考える力を養う。

実技種目は多くの仲間と交流できる良い機会でもあるため、積極的に授業に参加し、新しい仲間との関係づくりを目指してもらいたい。

【到達目標】

- ①それぞれの選択種目の技能的なレベルを高めること
 - ②種目の専門性に触れ、ルールや安全確認、準備運動の重要性などを理解すること
 - ③ボールゲームにおいてはチームとして協力して取り組むこと
 - ④受講している学生全員が本授業を通して新しい人間関係を構築していくこと
 - ⑤健康やスポーツ、運動に関する意義や理論などを理解すること
- 以上の点を達成することを目標とする。

【授業計画】

○室内スポーツ

バスケットボール、バレーボール、バドミントンなどの他、体育館で行える軽運動や体づくり運動、ニュースポーツ種目などを適宜取り入れながら進める。

○屋外スポーツ

サッカー、テニス、ソフトボールなどの他、屋外で行える軽運動や体づくり運動、ニュースポーツ種目などを適宜取り入れながら進める。

○その他

ダンス運動やウォーキング、マシンや用具をを使ったフィットネス運動の他、基礎体力を高めるための運動を行う。

※オリエンテーション時に、各担当教員の実施する種目についての説明を受け、履修希望者数に基づき人数調整を行う。

1. オリエンテーション、種目の選択、決定
2. 基礎的な技能の練習（動作の理解）
3. 基礎的な技能の練習（簡単な動作の反復練習）
4. 基礎的な技能の練習（基礎技能の組み合わせ）
5. 基礎的な技能の練習（基礎技能の応用）
6. 応用的な技能の習得（攻撃技術）
7. 応用的な技能の習得（守備技術）
8. 応用的な技能の習得（戦術の理解）
9. 応用的な技能の習得（戦術に応じた基礎的・応用的な技能の選択）
10. 試合形式などの実践的な練習①（ルールなどの理解を含む）
11. 試合形式などの実践的な練習②（審判や試合運営などの理解を含む）
12. 複数チームに分けてリーグ戦（第一週：勝敗の原因分析）
13. 複数チームに分けてリーグ戦（第二週：前回の反省を活かした戦術選択）
14. 複数チームに分けてリーグ戦（第三週：リーグ戦全試合で見た自チームの成長分析）
15. まとめ

本科目は履修者の健康状態などを考慮し、フィットネストレーニングなど負荷の軽い種目を設定することもある。

【授業の進め方】

○オリエンテーション（第1回目）

人数調整を行い、担当教員を決定する。

○第2回目以降、各担当教員別クラスに分かれ実技を行っていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

○必要な資料はその都度配布する。

○原則として用具は大学のものを使用するが、個人で準備するものがあれば（服装・シューズ等を含めて）初回のオリ

エンターション時に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

授業への取り組みに加え、技術の習熟・上達度、レポート、試験等の状況を考慮して評価する。

授業への取り組み(50%)

技能の習熟度、技術的な上達度(25%)

授業内での態度、積極性やチーム活動への貢献度、レポート内容(25%)

【履修上の心得】

○実技科目であるため、運動のできる服装を準備すること（普段着での参加は不可）。

○靴についても同様に、屋外用・体育館用各々を必要に応じて準備し、使い分けること。

○夏場は大量に汗をかくことも多い。また冬は運動後に身体が冷えることなども考慮し、年間を通じてタオルや着替えの準備などにも配慮すること。

※実技科目につき、希望者多数の場合には人数調整を行うことがある。第1回の授業時にオリエンテーションを行い、履修者を決定するので必ず参加すること（掲示に注意）。

【科目のレベル、前提科目など】

体育実技B、健康科学、体育概説I など

教員免許及び保育士資格に関わる科目であるため、「免許及び資格取得の手引き」を参照し、必要単位数等に留意すること。

【備 考】

実技科目は講義科目に比べて本人が授業の中で実際に取り組むことが重要であるので、出席率が全授業回数の80%を超えることが最低条件である。

科目名	体育実技A
	授業形態：実技
教員名	体育担当教員

【授業の内容】

「生涯スポーツの時代」といわれる今日、教育や保育の活動を通じ、「誰もが、それぞれの体力や技術に応じて、生涯に渡り運動やスポーツを楽しむことのできる力」を身につけられる様な指導や支援を行っていくことが必要である。

教育学部に学ぶ学生には将来の教育者・保育者としての活動にこの様な視点を据えることを学ぶだけでなく、学生時代に自らが「今持つ力の中で運動やスポーツを楽しむ」という経験を積んでもらいたい。

本講義では、自らの興味関心に基づき、スポーツを選択し楽しむと同時に、今後運動やスポーツ活動を支援していく際に必要な基礎知識、応用的なプレイや試合・ゲームの楽しみ方などを学習して行く。また、単に自分がプレイを楽しむだけでなく技術や能力が異なる集団の中で、その特性や状況を考慮した活動のあり方について考える力を養う。

実技種目は多くの仲間と交流できる良い機会でもあるため、積極的に授業に参加し、新しい仲間との関係づくりを目指してもらいたい。

【到達目標】

- ①それぞれの選択種目の技能的なレベルを高めること
 - ②種目の専門性に触れ、ルールや安全確認、準備運動の重要性などを理解すること
 - ③ボールゲームにおいてはチームとして協力して取り組むこと
 - ④受講している学生全員が本授業を通して新しい人間関係を構築していくこと
 - ⑤健康やスポーツ、運動に関する意義や理論などを理解すること
- 以上の点を達成することを目標とする。

【授業計画】

○室内スポーツ

バスケットボール、バレーボール、バドミントンなどの他、体育館で行える軽運動や体づくり運動、ニュースポーツ種目などを適宜取り入れながら進める。

○屋外スポーツ

サッカー、テニス、ソフトボールなどの他、屋外で行える軽運動や体づくり運動、ニュースポーツ種目などを適宜取り入れながら進める。

○その他

ダンス運動やウォーキング、マシンや用具をを使ったフィットネス運動の他、基礎体力を高めるための運動を行う。

※オリエンテーション時に、各担当教員の実施する種目についての説明を受け、履修希望者数に基づき人数調整を行う。

1. オリエンテーション、種目の選択、決定
2. 基礎的な技能の練習（動作の理解）
3. 基礎的な技能の練習（簡単な動作の反復練習）
4. 基礎的な技能の練習（基礎技能の組み合わせ）
5. 基礎的な技能の練習（基礎技能の応用）
6. 応用的な技能の習得（攻撃技術）
7. 応用的な技能の習得（守備技術）
8. 応用的な技能の習得（戦術の理解）
9. 応用的な技能の習得（戦術に応じた基礎的・応用的な技能の選択）
10. 試合形式などの実践的な練習①（ルールなどの理解を含む）
11. 試合形式などの実践的な練習②（審判や試合運営などの理解を含む）
12. 複数チームに分けてリーグ戦（第一週：勝敗の原因分析）
13. 複数チームに分けてリーグ戦（第二週：前回の反省を活かした戦術選択）
14. 複数チームに分けてリーグ戦（第三週：リーグ戦全試合で見た自チームの成長分析）
15. まとめ

本科目は履修者の健康状態などを考慮し、フィットネストレーニングなど負荷の軽い種目を設定することもある。

【授業の進め方】

○オリエンテーション（第1回目）

人数調整を行い、担当教員を決定する。

○第2回目以降、各担当教員別クラスに分かれ実技を行っていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

○必要な資料はその都度配布する。

○原則として用具は大学のものを使用するが、個人で準備するものがあれば（服装・シューズ等を含めて）初回のオリ

エンターション時に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

授業への取り組みに加え、技術の習熟・上達度、レポート、試験等の状況を考慮して評価する。

授業への取り組み(50%)

技能の習熟度、技術的な上達度(25%)

授業内での態度、積極性やチーム活動への貢献度、レポート内容(25%)

【履修上の心得】

○実技科目であるため、運動のできる服装を準備すること（普段着での参加は不可）。

○靴についても同様に、屋外用・体育館用各々を必要に応じて準備し、使い分けること。

○夏場は大量に汗をかくことも多い。また冬は運動後に身体が冷えることなども考慮し、年間を通じてタオルや着替えの準備などにも配慮すること。

※実技科目につき、希望者多数の場合には人数調整を行うことがある。第1回の授業時にオリエンテーションを行い、履修者を決定するので必ず参加すること（掲示に注意）。

【科目のレベル、前提科目など】

体育実技B、健康科学、体育概説I など

教員免許及び保育士資格に関わる科目であるため、「免許及び資格取得の手引き」を参照し、必要単位数等に留意すること。

【備 考】

実技科目は講義科目に比べて本人が授業の中で実際に取り組むことが重要であるので、出席率が全授業回数の80%を超えることが最低条件である。

科目名	体育実技B
	授業形態：実技
教員名	体育担当教員

【授業の内容】

「生涯スポーツの時代」といわれる今日、教育や保育の活動を通じ、「誰もが、それぞれの体力や技術に応じて、生涯に渡り運動やスポーツを楽しむことのできる力」を身につけられる様な指導や支援を行っていくことが必要である。

教育学部に学ぶ学生には将来の教育者・保育者としての活動にこの様な視点を据えることを学ぶだけでなく、学生時代に自らが「今持つ力の中で運動やスポーツを楽しむ」という経験を積んでもらいたい。

本講義では、自らの興味関心に基づき、スポーツを選択し楽しむと同時に、今後運動やスポーツ活動を支援していく際に必要な基礎知識、応用的なプレイや試合・ゲームの楽しみ方などを学習して行く。また、単に自分がプレイを楽しむだけでなく技術や能力が異なる集団の中で、その特性や状況を考慮した活動のあり方について考える力を養う。

実技種目は多くの仲間と交流できる良い機会でもあるため、積極的に授業に参加し、新しい仲間との関係づくりを目指してもらいたい。

【到達目標】

- ①それぞれの選択種目の技能的なレベルを高めること
 - ②種目の専門性に触れ、ルールや安全確認、準備運動の重要性などを理解すること
 - ③ボールゲームにおいてはチームとして協力して取り組むこと
 - ④受講している学生全員が本授業を通して新しい人間関係を構築していくこと
 - ⑤健康やスポーツ、運動に関する意義や理論などを理解すること
- 以上の点を達成することを目標とする。

【授業計画】

○室内スポーツ

バスケットボール、バレーボール、バドミントンなどの他、体育館で行える軽運動や体づくり運動、ニュースポーツ種目などを適宜取り入れながら進める。

○屋外スポーツ

サッカー、テニス、ソフトボールなどの他、屋外で行える軽運動や体づくり運動、ニュースポーツ種目などを適宜取り入れながら進める。

○その他

ダンス運動やウォーキング、マシンや用具を使ったフィットネス運動の他、基礎体力を高めるための運動を行う。

※オリエンテーション時に、各担当教員の実施する種目についての説明を受け、履修希望者数に基づき人数調整を行う。

1. オリエンテーション、種目の選択、決定
2. 基礎的な技能の練習（動作の理解）
3. 基礎的な技能の練習（簡単な動作の反復練習）
4. 基礎的な技能の練習（基礎技能の組み合わせ）
5. 基礎的な技能の練習（基礎技能の応用）
6. 応用的な技能の習得（攻撃技術）
7. 応用的な技能の習得（守備技術）
8. 応用的な技能の習得（戦術の理解）
9. 応用的な技能の習得（戦術に応じた基礎的・応用的な技能の選択）
10. 試合形式などの実践的な練習①（ルールなどの理解を含む）
11. 試合形式などの実践的な練習②（審判や試合運営などの理解を含む）
12. 複数チームに分けてリーグ戦（第一週：勝敗の原因分析）
13. 複数チームに分けてリーグ戦（第二週：前回の反省を活かした戦術選択）
14. 複数チームに分けてリーグ戦（第三週：リーグ戦全試合で見た自チームの成長分析）
15. まとめ

本科目は履修者の健康状態などを考慮し、フィットネストレーニングなど負荷の軽い種目を設定することもある。

【授業の進め方】

○オリエンテーション（第1回目）

人数調整を行い、担当教員を決定する。

○第2回目以降、各担当教員別クラスに分かれ実技を行っていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

○必要な資料はその都度配布する。

○原則として用具は大学のものを使用するが、個人で準備するものがあれば（服装・シューズ等を含めて）初回のオリ

エンターション時に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

授業への取り組みに加え、技術の習熟・上達度、レポート、試験等の状況を考慮して評価する。

授業への取り組み(50%)

技能の習熟度、技術的な上達度(25%)

授業内での態度、積極性やチーム活動への貢献度、レポート内容(25%)

【履修上の心得】

○実技科目であるため、運動のできる服装を準備すること（普段着での参加は不可）。

○靴についても同様に、屋外用・体育館用各々を必要に応じて準備し、使い分けること。

○夏場は大量に汗をかくことも多い。また冬は運動後に身体が冷えることなども考慮し、年間を通じてタオルや着替えの準備などにも配慮すること。

※実技科目につき、希望者多数の場合には人数調整を行うことがある。第1回の授業時にオリエンテーションを行い、履修者を決定するので必ず参加すること（掲示に注意）。

【科目のレベル、前提科目など】

体育実技A、健康科学、体育概説I など

教員免許及び保育士資格に関わる科目であるため、「免許及び資格取得の手引き」を参照し、必要単位数等に留意すること。

【備 考】

実技科目は講義科目に比べて本人が授業の中で実際に取り組むことが重要であるので、出席率が全授業回数の80%を超えることが最低条件である。

科目名	体育実技B
	授業形態：実技
教員名	体育担当教員

【授業の内容】

「生涯スポーツの時代」といわれる今日、教育や保育の活動を通じ、「誰もが、それぞれの体力や技術に応じて、生涯に渡り運動やスポーツを楽しむことのできる力」を身につけられる様な指導や支援を行っていくことが必要である。

教育学部に学ぶ学生には将来の教育者・保育者としての活動にこの様な視点を据えることを学ぶだけでなく、学生時代に自らが「今持つ力の中で運動やスポーツを楽しむ」という経験を積んでもらいたい。

本講義では、自らの興味関心に基づき、スポーツを選択し楽しむと同時に、今後運動やスポーツ活動を支援していく際に必要な基礎知識、応用的なプレイや試合・ゲームの楽しみ方などを学習して行く。また、単に自分がプレイを楽しむだけでなく技術や能力が異なる集団の中で、その特性や状況を考慮した活動のあり方について考える力を養う。

実技種目は多くの仲間と交流できる良い機会でもあるため、積極的に授業に参加し、新しい仲間との関係づくりを目指してもらいたい。

【到達目標】

- ①それぞれの選択種目の技能的なレベルを高めること
 - ②種目の専門性に触れ、ルールや安全確認、準備運動の重要性などを理解すること
 - ③ボールゲームにおいてはチームとして協力して取り組むこと
 - ④受講している学生全員が本授業を通して新しい人間関係を構築していくこと
 - ⑤健康やスポーツ、運動に関する意義や理論などを理解すること
- 以上の点を達成することを目標とする。

【授業計画】

○室内スポーツ

バスケットボール、バレーボール、バドミントンなどの他、体育館で行える軽運動や体づくり運動、ニュースポーツ種目などを適宜取り入れながら進める。

○屋外スポーツ

サッカー、テニス、ソフトボールなどの他、屋外で行える軽運動や体づくり運動、ニュースポーツ種目などを適宜取り入れながら進める。

○その他

ダンス運動やウォーキング、マシンや用具を使ったフィットネス運動の他、基礎体力を高めるための運動を行う。

※オリエンテーション時に、各担当教員の実施する種目についての説明を受け、履修希望者数に基づき人数調整を行う。

1. オリエンテーション、種目の選択、決定
2. 基礎的な技能の練習（動作の理解）
3. 基礎的な技能の練習（簡単な動作の反復練習）
4. 基礎的な技能の練習（基礎技能の組み合わせ）
5. 基礎的な技能の練習（基礎技能の応用）
6. 応用的な技能の習得（攻撃技術）
7. 応用的な技能の習得（守備技術）
8. 応用的な技能の習得（戦術の理解）
9. 応用的な技能の習得（戦術に応じた基礎的・応用的な技能の選択）
10. 試合形式などの実践的な練習①（ルールなどの理解を含む）
11. 試合形式などの実践的な練習②（審判や試合運営などの理解を含む）
12. 複数チームに分けてリーグ戦（第一週：勝敗の原因分析）
13. 複数チームに分けてリーグ戦（第二週：前回の反省を活かした戦術選択）
14. 複数チームに分けてリーグ戦（第三週：リーグ戦全試合で見た自チームの成長分析）
15. まとめ

本科目は履修者の健康状態などを考慮し、フィットネストレーニングなど負荷の軽い種目を設定することもある。

【授業の進め方】

○オリエンテーション（第1回目）

人数調整を行い、担当教員を決定する。

○第2回目以降、各担当教員別クラスに分かれ実技を行っていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

○必要な資料はその都度配布する。

○原則として用具は大学のものを使用するが、個人で準備するものがあれば（服装・シューズ等を含めて）初回のオリ

エンターション時に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

授業への取り組みに加え、技術の習熟・上達度、レポート、試験等の状況を考慮して評価する。

授業への取り組み(50%)

技能の習熟度、技術的な上達度(25%)

授業内での態度、積極性やチーム活動への貢献度、レポート内容(25%)

【履修上の心得】

○実技科目であるため、運動のできる服装を準備すること（普段着での参加は不可）。

○靴についても同様に、屋外用・体育館用各々を必要に応じて準備し、使い分けること。

○夏場は大量に汗をかくことも多い。また冬は運動後に身体が冷えることなども考慮し、年間を通じてタオルや着替えの準備などにも配慮すること。

※実技科目につき、希望者多数の場合には人数調整を行うことがある。第1回の授業時にオリエンテーションを行い、履修者を決定するので必ず参加すること（掲示に注意）。

【科目のレベル、前提科目など】

体育実技A、健康科学、体育概説I など

教員免許及び保育士資格に関わる科目であるため、「免許及び資格取得の手引き」を参照し、必要単位数等に留意すること。

【備 考】

実技科目は講義科目に比べて本人が授業の中で実際に取り組むことが重要であるので、出席率が全授業回数の80%を超えることが最低条件である。

科目名	体育実技B
	授業形態：実技
教員名	体育担当教員

【授業の内容】

「生涯スポーツの時代」といわれる今日、教育や保育の活動を通じ、「誰もが、それぞれの体力や技術に応じて、生涯に渡り運動やスポーツを楽しむことのできる力」を身につけられる様な指導や支援を行っていくことが必要である。

教育学部に学ぶ学生には将来の教育者・保育者としての活動にこの様な視点を据えることを学ぶだけでなく、学生時代に自らが「今持つ力の中で運動やスポーツを楽しむ」という経験を積んでもらいたい。

本講義では、自らの興味関心に基づき、スポーツを選択し楽しむと同時に、今後運動やスポーツ活動を支援していく際に必要な基礎知識、応用的なプレイや試合・ゲームの楽しみ方などを学習して行く。また、単に自分がプレイを楽しむだけでなく技術や能力が異なる集団の中で、その特性や状況を考慮した活動のあり方について考える力を養う。

実技種目は多くの仲間と交流できる良い機会でもあるため、積極的に授業に参加し、新しい仲間との関係づくりを目指してもらいたい。

【到達目標】

- ①それぞれの選択種目の技能的なレベルを高めること
 - ②種目の専門性に触れ、ルールや安全確認、準備運動の重要性などを理解すること
 - ③ボールゲームにおいてはチームとして協力して取り組むこと
 - ④受講している学生全員が本授業を通して新しい人間関係を構築していくこと
 - ⑤健康やスポーツ、運動に関する意義や理論などを理解すること
- 以上の点を達成することを目標とする。

【授業計画】

○室内スポーツ

バスケットボール、バレーボール、バドミントンなどの他、体育館で行える軽運動や体づくり運動、ニュースポーツ種目などを適宜取り入れながら進める。

○屋外スポーツ

サッカー、テニス、ソフトボールなどの他、屋外で行える軽運動や体づくり運動、ニュースポーツ種目などを適宜取り入れながら進める。

○その他

ダンス運動やウォーキング、マシンや用具をを使ったフィットネス運動の他、基礎体力を高めるための運動を行う。

※オリエンテーション時に、各担当教員の実施する種目についての説明を受け、履修希望者数に基づき人数調整を行う。

1. オリエンテーション、種目の選択、決定
2. 基礎的な技能の練習（動作の理解）
3. 基礎的な技能の練習（簡単な動作の反復練習）
4. 基礎的な技能の練習（基礎技能の組み合わせ）
5. 基礎的な技能の練習（基礎技能の応用）
6. 応用的な技能の習得（攻撃技術）
7. 応用的な技能の習得（守備技術）
8. 応用的な技能の習得（戦術の理解）
9. 応用的な技能の習得（戦術に応じた基礎的・応用的な技能の選択）
10. 試合形式などの実践的な練習①（ルールなどの理解を含む）
11. 試合形式などの実践的な練習②（審判や試合運営などの理解を含む）
12. 複数チームに分けてリーグ戦（第一週：勝敗の原因分析）
13. 複数チームに分けてリーグ戦（第二週：前回の反省を活かした戦術選択）
14. 複数チームに分けてリーグ戦（第三週：リーグ戦全試合で見た自チームの成長分析）
15. まとめ

本科目は履修者の健康状態などを考慮し、フィットネストレーニングなど負荷の軽い種目を設定することもある。

【授業の進め方】

○オリエンテーション（第1回目）

人数調整を行い、担当教員を決定する。

○第2回目以降、各担当教員別クラスに分かれ実技を行っていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

○必要な資料はその都度配布する。

○原則として用具は大学のもを使用するが、個人で準備するものがあれば（服装・シューズ等を含めて）初回のオリ

エンターション時に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

授業への取り組みに加え、技術の習熟・上達度、レポート、試験等の状況を考慮して評価する。

授業への取り組み(50%)

技能の習熟度、技術的な上達度(25%)

授業内での態度、積極性やチーム活動への貢献度、レポート内容(25%)

【履修上の心得】

○実技科目であるため、運動のできる服装を準備すること（普段着での参加は不可）。

○靴についても同様に、屋外用・体育館用各々を必要に応じて準備し、使い分けること。

○夏場は大量に汗をかくことも多い。また冬は運動後に身体が冷えることなども考慮し、年間を通じてタオルや着替えの準備などにも配慮すること。

※実技科目につき、希望者多数の場合には人数調整を行うことがある。第1回の授業時にオリエンテーションを行い、履修者を決定するので必ず参加すること（掲示に注意）。

【科目のレベル、前提科目など】

体育実技A、健康科学、体育概説I など

教員免許及び保育士資格に関わる科目であるため、「免許及び資格取得の手引き」を参照し、必要単位数等に留意すること。

【備 考】

実技科目は講義科目に比べて本人が授業の中で実際に取り組むことが重要であるので、出席率が全授業回数の80%を超えることが最低条件である。

科目名	健康科学
教員名	藤井 和彦

【授業の内容】

健康は私たちが豊かな生活を送る上での根本にある極めて重要な要素である。また運動は人間が生命を維持していく上で欠かすことのできない本源的な欲求に応える活動である。

本科目ではこうした健康や運動について多方面から現状や課題についての知識や理解を深めていく。

【到達目標】

健康や運動についての現状を知る

現代社会において健康や運動を推進していくことの意味を自分なりに考えられるようになる

授業で得た知識をもとに自身の生活を改善していける

【授業計画】

第1回 ①オリエンテーション 授業の進め方と自身のライフスタイルの見直し

第2回 ②運動やスポーツの重要性

第3回 ③健康づくり施策の中身とは

第4回 ④エネルギー摂取と消費

第5回 ⑤健康づくりのための運動指針

第6回 ⑥食事バランスに関する指針

第7回 ⑦肥満の問題を考える

第8回 ⑧豊かな運動の条件とスポーツの継続

第9回 ⑨豊かな運動の場としての総合型地域スポーツクラブの可能性

第10回 ⑩飲酒（アルコール）をめぐる問題

第11回 ⑪飲酒（アルコール）をめぐる問題 その2

第12回 ⑫煙草と薬物をめぐる問題

第13回 ⑬ロコモティブシンドローム

第14回 ⑭熱中症の予防と対策

第15回 ⑮まとめ

【授業の進め方】

講義では、解説を聞きながら各自がその講義ノートを作成していくことになる。講義の終わりには「講義の感想・質問票」を毎回提出する。この他、数回の小レポートを課すこともある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

参考サイトや政府の発行している啓発リーフレット等を適宜紹介していく。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

レポート・課題には、期末のレポート課題の他、授業内の小レポートなども含む。

受講態度は、各回の「講義の感想・質問票」の内容から出席の有無、講義に望む態度を判断、加点し評価の材料とする。

科目名	健康科学
教員名	野間 明紀

【授業の内容】

学生自身が健康に関する正しい知識を身につけ、また運動およびスポーツに関する科学的理解も深めることを目的として、運動の基本的原理、基礎的知識、健康の概念、栄養と肥満、睡眠、アルコールとタバコ等について講義します。

【到達目標】

運動と健康についての理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 健康の定義
- 第2回 健康の条件
- 第3回 運動と健康
- 第4回 発育発達と健康
- 第5回 運動の生理的機能
- 第6回 運動と体力
- 第7回 運動と価値
- 第8回 エネルギーと出納バランス
- 第9回 身体の組成
- 第10回 肥満の判定
- 第11回 肥満の分類・肥満の原因
- 第12回 肥満と成人病
- 第13回 睡眠とそのパターン
- 第14回 アルコールの作用と害・タバコの作用と害
- 第15回 まとめ

【授業の進め方】

- 1) 健康について
- 2) 運動の基礎知識
- 3) 栄養と肥満
- 4) 睡眠
- 5) アルコールとタバコ

上記の内容で授業を進めていきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特になし

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 20%

特記事項

- ・テスト（1回）と授業態度で評価します。

【履修上の心得】

- ・2/3以上の出席が必要です。
- ・遅刻は2回で欠席1回となります。

【科目のレベル、前提科目など】

スポーツ演習A、スポーツ演習B(経営学部・法学部開講科目)

1から4年次の選択科目です。

スポーツ演習A、スポーツ演習Bと合わせ4単位まで卒業所要単位として認められます。

科目名	健康科学
	現代社会における健康課題
	授業形態：講義/授業回数：15回（30時間）
教員名	荒井 信成

【授業の内容】

学生自身が健康に関する正しい知識を身につけ、我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことの重要性を理解できるようにする。

【到達目標】

健康に関する知識や具体的な方策についての理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 健康の定義
自身のもつ健康観とWHOなどの健康の定義を比較し、理解を深める。
学習課題（復習）：授業前後で自身の健康観がどう変化したかまとめる（30分）
- 第2回 健康の条件
人々が健康になるための条件を考える。
学習課題（復習）：自身が健康のために行なっている具体的方策を挙げる（30分）
- 第3回 身体的健康
身体的な側面から健康をとらえる。
学習課題（復習）：授業内容を踏まえて、自身の身体的健康について考える（30分）
- 第4回 精神的健康
精神的な側面から健康をとらえる。
学習課題（復習）：授業内容を踏まえて、自身の精神的健康について考える（30分）
- 第5回 社会的健康
社会的な側面から健康をとらえる。
学習課題（復習）：授業内容を踏まえて、自身の社会的健康について考える（30分）
- 第6回 喫煙
日本における喫煙問題について学び、今後の改善策を考える。
学習課題（予習）：喫煙に関するニュースや新聞記事を見つけてくる（30分）
- 第7回 飲酒・薬物乱用
日本における飲酒・薬物乱用問題について学び、今後の改善策を考える。
学習課題（予習）：飲酒・薬物乱用に関するニュースや新聞記事を見つけてくる（30分）
- 第8回 性感染症・HIV/AIDS
日本における性感染症・HIV/AIDS問題について学び、今後の改善策を考える。
学習課題（予習）：性感染症・HIV/AIDSに関するニュースや新聞記事を見つけてくる（30分）
- 第9回 悪性新生物
悪性新生物の脅威や予防について学ぶ。また、日本で推進されている「がん教育」について考える。
学習課題（予習）：文部科学省のHPなどで、がん教育について調べてくる（45分）
- 第10回 循環器系疾患
循環器系疾患の実態を学ぶ。
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードのうち、自身の理解度の低いものを調べる（30分）
- 第11回 心疾患
心疾患の実態を学ぶ。
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードのうち、自身の理解度の低いものを調べる（30分）
- 第12回 自殺
日本における自殺の実態を学ぶ。
学習課題（予習）：日本の自殺の現状について調べてくる（30分）
- 第13回 交通安全
日本における交通事故の実態を学ぶ。
学習課題（予習）：日本の交通事故の現状について調べてくる（30分）
- 第14回 保健・医療制度
保健・医療制度について学ぶ。
学習課題（予習）：保健・医療制度に関わる新聞記事を見つけてくる（30分）
- 第15回 まとめ
授業で学んだことから、自身の今後の生活をどのように変化・改善させていくか考える。
学習課題（復習）：今後の生活改善案をレポートにする（60分）

【授業の進め方】

各回において授業内レポートを提出してもらいます。

履修者同士でのディスカッションや意見交換なども取り入れていくので、積極的に参加するようにしてください。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特になし

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 0%

特記事項

テストと授業内レポートで評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。
- ・受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

- ・全回出席を原則とする。

日頃から健康に関する記事やニュースに触れ、問題意識を持つようにしてください。

【科目のレベル、前提科目など】

特にありません。

保育士資格に関わる科目であるため、「免許及び資格取得の手引き」を参照し、必要単位数等に留意すること。

科目名	教養特講(高齢社会と介護)
教員名	川瀬 善美

【授業の内容】

少子高齢を主要特性とする我が国の現状において、「老い」と言う人生のステージを生きる人々が福祉・介護サービスの利用を必要とする現状、背景について理解することを本講義の目的とする。

その上で、現在の日本社会における老人福祉の社会的背景、老人福祉の理念・目的、あるいは介護保険制度の概要を説明し、それらのサービスの体系・内容・利用手続きなどの具体的な実践活動について詳説する。とりわけ介護保険導入によってこれまでの老人福祉ないし老人医療制度がどのように変化し、また現実のサービス・プロヴァイダーはどのように戦略的な対応をとらざるを得ない状況にあるのかについても解説する。

その上で、病をもつ高齢者、障害をもつ高齢者、介護を必要とする高齢者はいかなる現実と直面しているのか、そうした現実の中どのような生活し命を繋いでいるのか、高齢者の視点にたつて分析してみたい。また、高騰・高額化する利用者負担とそれに困惑する家族の問題についても取り上げてみたい。

一方、民間参入と言う言葉に躍らせれ老人福祉・介護サービスを国家に代わって担わされている事業者・施設の現状と課題についても、事例を基に解説していきたい。

以上のような講義を進めた後に、高齢者と家族やコミュニティとの関係、社会政策・社会保障との関係、国家・地方自治体との関係についても考察していくことを目的とする。

【到達目標】

高齢者福祉の現状と歴史を正確に理解し、介護保険制度の目的や制度の内実（運営・財源・給付の現状）を現実に介護保険を利用する高齢者の視点から解説し、現在の介護保険のもとで実際にどのようなケアサービスが提供されているのか、あるいは未提供のままなのかについて検討してみる。

また、私が興味を持ち研究課題としている介護サービス・施設の経営と言う視点からも解説を行う。このとき、我が国の介護保険のある意味で原型になったとも言われているドイツ介護保険制度、イギリスの公的老人福祉・介護サービス、アメリカのメディケア・メディケイドについても触れてみたい。ドイツ介護保険下で起こった利用者負担の高額化に伴う利用者Uターン、アメリカのメディケイド対象者の利用するナーシングホームの現状から国民は老人福祉・介護サービスの何を選択し、何を自助努力とすべきかについても検討してみたい。

同時に、シルバービジネスと呼ばれる公的な老人福祉・介護サービス以外の民間セクターによるサービス（例えば高専賃・住宅型有料老人ホームなど）提供の実態と問題点についても検討を加える。

以上のような知識を身につけた後で、現状の老人福祉のさまざまな問題点を取り上げていくが、たんにその原因を我が国の社会保障制度脆弱さや、介護保険制度の不備や現実のサービスの量的不足といった問題に収斂・矮小化して理解するのではなく、具体的な事例を基に、当事者の視点に立って直視して通じて、履修生それぞれが「老いるとは何か、老人福祉とは何か、何が大切なのか、何が求められているのか」を問い直していく作業を行う予定である。

その結果、各履修生が「老人福祉」を問い直してゆく力量を身につけること、これを本講義の着地点としたい。

授業では、可能な限り具体的な事例を用いながら進めて行く予定であるが、その一環として授業においてモデルケースを基にケアプランを作成し、そのケアプランでどのようなサービスとして活用できるかと言うシュミレーションも行う予定である。また、新聞記事やビデオやスライドを利用して具体的な事例を参照しながら、実際の高齢者福祉の実践、具体的な生活支援の問題点もそれぞれに考えてもらう。また、現場の人たちによるゲスト講義も実施する予定である。

【授業計画】

- 第1回 我が国の高齢者の実態について 人口動態・人口静態から
- 第2回 高齢者の生活実態 独居・高齢者世帯・収入
- 第3回 老齢年金・後期高齢者医療制度について
- 第4回 介護保険制度について 1 保険者と被保険者、国・都道府県・市町村の役割
- 第5回 介護保険制度について 2 申請からサービス利用まで
- 第6回 介護保険制度について 3 サービスの種類と利用法
- 第7回 介護保険制度について 4 保険財政
- 第8回 介護保険制度について 5 現状と課題
- 第9回 シルバービジネスについて 1 高専賃・有料老人ホームについて
- 第10回 シルバービジネスについて 2 福祉用具について
- 第11回 シルバービジネスについて 3 将来展望
- 第12回 老人福祉・介護に携わる人たち 1 専門職として 介護福祉士・ホームヘルパー等
- 第13回 老人福祉・介護に携わる人たち 2 ボランティア・NPO
- 第14回 諸外国の高齢者サービスの現状
- 第15回 我が国の高齢者問題の現状と課題

高齢者福祉・介護に関する法律、制度は改正、変更が多いので、鍼法・新制度に基づき、講義を進めていくが、受講生はいつ時点のことであるのかを常に注視してください。

【授業の進め方】

主として講義方式で授業を進めるが、必要に応じてグループ討論や課題発表を行ってもらおう。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要なものは、授業時にレジメとして配布するが、受講者も新聞などの高齢者問題関連記事の切り抜きを行ってもらおう。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

期末に行うテストで評価を行う。絶対評価で行う。

テストは、記述方式により出題し、テーマ等については、第15回目の授業で指示する。

特に、自身の進路として介護、シルバービジネス業界を考えている学生の受講を望みます。

【履修上の心得】

授業では、老人福祉の現場で日常的に起こっている事象を数多く紹介する予定なので、履修生の授業への積極的参加を期待する。

科目名	教養特講（地球環境問題）
教員名	山本 厚太郎

【授業の内容】

「環境」とは「私」のまわりに存在する全てのもの、ことのことである。私たちはしょせん地上にしか生息できない生物で、地球のしくみから逃れることはできない。人類は宇宙に飛び立つことができるが、宇宙船の中は現在の地球環境に近似させねば、飛行士達は生きていけない。

私たちに、どうしても必要なもの－空気、水、食物は全て地球が私たちに与えてくれるものである。その地球が、そこに暮し、地球の恩恵によって生命を維持している人類に傷つけられているのである。

こうした事態に”愚かな人間たち”と嘆くのもいいが、大切なのは、できる限り事実をしっかりと認識すること。そして、問題解決のための対策を早急にとることであろう。すでに、様々な取り組みが、進められている。

本講義では、人類の文明がなしてしまった「地球環境の破壊」について、身近な部分から見ていこうと考えている。我々が日頃利便性あふれる生活のなかで見落としている大切なこと－私たちが支えている自然の有様－を少しでも把握できるよう講義を進めていきたい。

【到達目標】

皆さんが自然に配慮した生活を当たり前のようにできるよう“自然と人”の関係の理解を深める。また、社会に出たあと、必然的に出会うエコロジー関連の問題に柔軟に対処しうる教養を獲得する。

【授業計画】

- 第1回 「地球環境問題」とは。
- 第2回 地球について理解する。有限の地球という概念。
- 第3回 地球の仕組みⅠ 三大法則
- 第4回 地球の仕組みⅡ 循環の星
- 第5回 オゾン層の破壊の衝撃
- 第6回 土から「地球環境問題」を考える（砂漠化など）
- 第7回 水から「地球環境問題」を考える（酸性雨、海洋汚染など）
- 第8回 植物から「地球環境問題」を考える（森林の減少、野生生物種の減少など）
- 第9回 産業社会と地球環境問題
- 第10回 温暖化について考える
- 第11回 温暖化の対策について考える
- 第12回 循環型社会へのステップについて考える
- 第13回 法制度の変容について考える
- 第14回 倫理性について考える（私たちに今できること）
- 第15回 まとめ

【授業の進め方】

レジュメを用意する予定。一方通行の講義ではなく、質問も投げかけていく。そのつもりで緊張感をもって講義に臨んでもらいたい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特になし

【参考図書】

講義中にその都度指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

レポート

講義への参加度

【「成績評価の方法」に関する注意点】

講義中に小テストやアンケートの実施をする予定。参加度に加味される。

【科目のレベル、前提科目など】

一般教養さえあれば、前提としての知識は不要。

科目名	教養特講(病と癒しの人間史)
	医療文化史 人は病とどう折り合いをつけ、社会は伝染病とどう闘ったのか 古代から現代までの伝染病との歴史をさぐる
教員名	岡田 晴恵

【授業の内容】

感染症（伝染病）は、人命に直接関する脅威を与える一方で、社会や文化に間接的にも強い影響を与え続けてきた。ときにそれは、歴史を変えるほどの激しい社会変革を巻き起こし、文化や思想、芸術にも爪痕を残す。細菌には抗生物質、ウイルスにはワクチンが開発され、これらの感染症が一見コントロールされるようになったのは、ここ数十年のことである。しかし、医療が発達した現代において、感染症の新たな脅威が叫ばれている。高速大量輸送時代を背景に病原体が短時間で世界中に伝播され、また、高い人口密度となった大都会での感染症の爆発的流行など、社会の便利さと引き換えに感染症の流行様態が大きく変わってきている。本講義では、感染症の流行が巻き起こした社会変革を時代を追って見つめていく。また、一方では個人にもスポットをあて、その人生に影響を与えた感染症の爪痕を文学や音楽、絵画などの芸術にも探す。同時に社会が感染症とたたかうべく、取り組んだ対策や人々の相互扶助の歴史をも辿っていく。感染症を過去の脅威とするのではなく、現代のテーマとしてとらえながら、その歴史から社会としての知恵を学ぶ。

【到達目標】

感染症が巻き起こした社会変革、文化や思想、芸術に残した爪痕を見つめなおし、その中から、現代日本社会で失われつつある伝染病に対抗する知恵を見つけ活用できる教養を獲得する。

【授業計画】

- 第1回 感染症による文明の混乱と発展の歴史
- 第2回 感染症の科学 病原体（細菌、ウイルス、原虫など）と人との関係
- 第3回 聖書に描かれた感染症 ハンセン病
- 第4回 ローマの道を通ったマラリア
- 第5回 シルクロードをたどった疫病 天然痘の道
- 第6回 ペストロード 中世を終焉させた黒死病
- 第7回 公衆衛生の誕生 相互扶助による救済
- 第8回 ルネッサンス時代の疫病 梅毒
- 第9回 産業革命と結核
- 第10回 第一次世界大戦の勝敗を決めた大疫病 スペイン・インフルエンザ
- 第11回 21世紀の疫病 H5N1型鳥インフルエンザの危機管理
- 第12回 医学の発展 古代エジプト、ギリシャ文明から中世までの古代医学
- 第13回 医学の発展 近代医学のあけぼの 消毒と麻酔の開発
- 第14回 医学の発展 近代医学のあけぼの 病原体の発見 ワクチンの開発
- 第15回 病と癒しの人間史 人と病

【授業の進め方】

教科書を中心に読み進めながら解説する

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①病いと癒しの人間史 ③日本評論社

【参考図書】

- 「歴史をつくった七大伝染病」岡田晴恵著 PHP研究所
- 「人類vs感染症」岡田晴恵著 岩波ジュニア新書 780円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 20% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

定期試験、授業内試験、受講態度等で評価します
実習、公欠などの多い学生は、レポートを課します

【「成績評価の方法」に関する注意点】

教育実習等による欠席申請等には所定の用紙に必要事項を書き入れ、決まりに則って提出する。また、それ以外の講義には休まない心がけを持って講義に出席する。文科省の定める3分の2以上の講義の出席は遵守する努力は不可欠である。実質の講義不在が多数の場合には、単位の認定はできない。また、講義中に周囲に迷惑となる行動、振る舞いは厳に慎むべきである。学生証は必ず携帯して、出席確認を各自で行う。講義後の申請は、原則として受け付けない。

【履修上の心得】

講義中、常に頭を働かせ何かを感じ取る努力を惜しまないこと。

【備 考】

講義中に周囲に迷惑をかける行為は慎むこと

科目名	教養特講(国際経済関係論)
	経済開発にかかる資金調達を中心とした国際協力の諸相
教員名	今井 一雄

【授業の内容】

広範囲な分野にわたる経済開発の研究の中で、講義では開発資金調達の観点を中心に、諸外国および国際機関等による国際協力の諸相を横断的にとらえ、私の実務経験を踏まえて分析、解説する。

今や一国の経済開発にかかる必要資金調達には、国際協力が不可欠となっている現状を認識する上で、基本的理論も重要であるが、こうした経済関係の種々のケースについて可能な限り実際の経験に即した、より具体的な説明を行うことで、その実相の理解を深められるよう努める。

【到達目標】

- ・ 経済開発にかかる資金調達を通じた国際協力の実像の基礎を理解する。
- ・ 国際経済関係に、より関心を抱くことで、今後、他の国際事象にも前向きに取り組む姿勢を養う。

【授業計画】

- 第1回 経済発展(開発)とは – インドネシアとフィリピン –
- 第2回 資金調達を中心とした経済開発にかかる国際協力の諸相
- 第3回 経済開発援助の役割と効果
- 第4回 国際開発金融機関(WB, ADB, EBRD等)による支援
- 第5回 アジア開発銀行(ADB)の具体的な融資業務
- 第6回 二国間政府開発援助(ODA)
- 第7回 日本のODA政策と課題
- 第8回 Other Official Flow(OOF)による経済開発協力
– 資源開発、海外投資等 –
- 第9回 経済開発援助がもたらすマクロ経済問題
– 対外債務累積とその救済措置 –
- 第10回 経済開発環境問題としての地球温暖化防止対策と経済開発プロジェクト
- 第11回 アジア経済危機メカニズムとその対応策および課題
- 第12回 アジアにおける資本市場育成の新潮流
- 第13回 経済開発資金調達とカントリーリスク分析としての格付け
- 第14回 アジア格付機関連合(ACRAA)と民間資金の動向
- 第15回 総括

【授業の進め方】

必要に応じて参考資料を配布すると共にパワーポイントも使用予定

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリントを使用する。

【参考図書】

随時紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

評価対象資格：当該科目のすべての授業回数の3分の2以上に出席していること。

【履修上の心得】

今回は偶々経済開発にかかる国際関係の諸相を学ぶことになるが、今後、様々な国際事象を適確に判断する訓練を続け、将来、能動的に、いわゆる国際分野にかかわって行きたいとの学生諸君の意志の萌芽につながる一助になればと期待します。

【科目のレベル、前提科目など】

普段の生活の中で経済開発にかかる資金援助のケースに直接触れることはほとんどないと思われるところ、講義ではその国際関係の実像をなるべく平易に説明し、基礎的な理解を促したい。従って、格別の準備は必要ないが、日常、新聞、雑誌等で関連記事に注意を向けるよう努めて欲しい。

科目名	教養特講(モバイル社会とメディア)
	モバイル社会におけるメディアの在り方を考える
教員名	菅谷実/KDDI総合研究所

【授業の内容】

本講座は、KDDI総合研究所の寄付講座です。毎回、モバイルおよびメディア業界の第一線で活躍されている方をゲストスピーカーに迎え講義を進めていきます。

今日、スマートフォンをはじめとしたモバイル機器は日々の生活に欠かせないメディアとなっています。大学生活ではもちろんですが、社会人になっても、モバイル・メディアに関する知識は、いろいろな場面で役立つことでしょう。

本寄付講座では、モバイルだけではなくインターネットを支えるグローバル・ネットワークの発展、モバイル・コンテンツ、スマートフォンとスマートテレビの連携、ケーブルテレビの未来、さらにはメディアリテラシー、遠隔教育などについても取り上げます。

【到達目標】

日常生活には欠かせないインターネット、スマートフォンなどのメディアとネットワーク全般について、その仕組みから理解をすることにより、受講生のメディア・リテラシーの向上を目指します。

【授業計画】

- 第1回 モバイル社会を支える情報通信産業
次回講義のシラバスがWebClassにアップされるので各自予習をする (30分)
- 第2回 ケータイ電話サービスを提供する通信産業の現状
次回講義のシラバスがWebClassにアップされるので各自予習をする (30分)
- 第3回 ソーシャルメディアと社会 ～ニューヨークからの報告
次回講義のシラバスがWebClassにアップされるので各自予習をする (30分)
- 第4回 ケータイショップ
次回講義のシラバスがWebClassにアップされるので各自予習をする (30分)
- 第5回 インターネットを支える国際通信ネットワークのしくみ
次回講義のシラバスがWebClassにアップされるので各自予習をする (30分)
- 第6回 災害と情報通信
次回講義のシラバスがWebClassにアップされるので各自予習をする (30分)
- 第7回 スマホ時代の音楽ビジネス
次回講義のシラバスがWebClassにアップされるので各自予習をする (30分)
- 第8回 メディアビジネスの今後
次回講義のシラバスがWebClassにアップされるので各自予習をする (30分)
- 第9回 モバイルコンテンツ産業の業界動向
次回講義のシラバスがWebClassにアップされるので各自予習をする (30分)
- 第10回 スマートテレビとスマートフォン (1)
次回講義のシラバスがWebClassにアップされるので各自予習をする (30分)
- 第11回 スマートテレビとスマートフォン (2)
次回講義のシラバスがWebClassにアップされるので各自予習をする (30分)
- 第12回 モバイル社会と放送サービス
次回講義のシラバスがWebClassにアップされるので各自予習をする (30分)
- 第13回 IoTで変わる社会 ～あらゆるものがつながる社会へ
次回講義のシラバスがWebClassにアップされるので各自予習をする (30分)
- 第14回 遠隔教育の未来
次回講義のシラバスがWebClassにアップされるので各自予習をする (30分)
- 第15回 情報通信の未来
次回講義のシラバスがWebClassにアップされるので各自予習をする (30分)

本講座では、情報通信産業の全体像について明らかにします。コンテンツ、プラットフォーム、ネットワーク、端末という流れの中で多様なメディアサービスがケータイ電話、PC、さらにはスマートテレビで受信可能です。講義は、情報通信産業の全体像からはじまり、消費者がケータイ電話を購入するケータイショップの仕組み、モバイル社会を支える通信ネットワーク、プラットフォーム・ビジネス、コンテンツ産業へと展開されます。

【授業の進め方】

毎回、モバイル、メディア業界の実務家、メディア研究者などの特別ゲストによる講義となります。詳細は、第1回目の講義で紹介しますので、第1回目の講義には必ず参加してください。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

指定の教科書はありません

【参考図書】

指定の参考図書はありません

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

毎回、ミニレポートを提出してもらいます。

第1回講義で、本講義受講の注意点を話しますので、受講者は必ず1回目の講義から参加してください。

科目名	教養特講(ソーシャルデザイン論)
教員名	小笠原 伸

【授業の内容】

社会はいかにして変えて行けるのだろうか。多くの学生諸君はそんなことは不可能だと諦めているかもしれない。本授業では、ソーシャルデザインの基礎的な知識を提供しその状況を理解してもらう。多くの場において社会は変えうるものとして存在していることが分かるだろう。そして、社会課題はどう発見、評価し具体的に前へ進むにはどうしたらいいのか、その手法についても具体のアクションを求めながら自分のこととしての未来像を構築してゆく。社会は誰かから与えられているものだと思う学生にはこの授業は厳しく映るだろう。しかしこれからの時代は自らが動いてゆくことで社会も、そして自分自身も明確に変革を促すことが出来る。皆さんの周りにも社会を変えてゆこうとする先人がいる。その存在を知れば、決して難しいことでもつらいことでもなく、これらの試行錯誤や鍛錬は皆さんにとって必要なものであることを理解するであろう。僅かな挑戦心と少しの努力で、この社会はより面白くなる。

【到達目標】

1. ソーシャルデザインの基礎的な知識とその状況を理解する
2. 社会課題の発見、評価とその改革手法について検討する
3. 自身の生活や地域の中に有る問題を知り社会を変えてゆこうとする人々の存在を知りそのフォロワーとして立ち上がる

【授業計画】

- 第1回 ソーシャルデザインについて (1)
 予習：シラバスを読みソーシャルデザインについて知る (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第2回 ソーシャルデザインについて (2)
 予習：ソーシャルデザインについて自ら調べる (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第3回 身近な課題に取り組むソーシャルデザイン
 予習：自身の身近な場所にある社会課題を知り解決へ向け行動する (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第4回 社会の課題を知り行動につなげる
 予習：自身の身近な場所にある社会課題を知り解決へ向け行動する (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第5回 アクションを起こすための準備 (1)
 予習：自身の身近な場所にある社会課題を知り解決へ向け行動する (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第6回 フィールドワーク (地域課題調査)
 予習：フィールドワーク対象地域について自ら調べる (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第7回 ディスカッションとプレゼンテーションを試みる
 予習：フィールドワーク対象地域について自ら調べ対話準備を行う (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第8回 社会を変えてきた人々を知る
 予習：ソーシャルデザインの歴史と事例を自ら調べる (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第9回 対話から生まれるソーシャルデザインの解
 予習：調査やアクションの振り返りを行う (1.5時間)
 復習：自分らの対話のポイントや課題を整理する (1.5時間)
- 第10回 フィールドを見つける
 予習：これまでの授業内での取り組みから自らの活動フィールドを固める (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第11回 アクションを起こすための準備 (2)
 予習：これまでの授業内での取り組みから自らの活動フィールドを固める (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第12回 課題の解決手法を検討する
 予習：解決手法の発見とプレゼンテーション準備 (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第13回 課題の解決策を提案する
 予習：認識した課題の解決策を準備する (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第14回 変えた後の社会の像を構築する

- 予習：社会課題と自身との関係を考え整理する（1.5時間）
復習：プレゼンテーション準備（1.5時間）
第15回 自分を変えることで社会を変える
予習：プレゼンテーション準備（1.5時間）
復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）

【授業の進め方】

講義を行うのと平行して授業内課題やフィールドワークなどのアクティブ・ラーニングを志向した作業を随時取り入れてゆく。

グループ作業なども想定している。学生による発表やゲスト講師のレクチャーも検討したい。それゆえに本授業は欠席についてはしないよう努めて欲しい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業内で指示する。

【参考図書】

ソーシャルデザインやデザイン思考、アクティブ・ラーニングについての図書を数冊授業内で指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 0%

【履修上の心得】

対象は問わぬが、社会を変えてゆきたい、自分で地域をデザインしてゆきたいという学生を学部学科を問わず広く集う場としたい。ソーシャルメディアなどを利用することがあるので、PCを使えることが望ましいが、授業に参加して慣れていってもしっかり問題はない。

【科目のレベル、前提科目など】

前提の知識は想定しておらず、授業に前向きに取り組む学生は初学者であっても全学から参加を歓迎したい。逆に受動的な学生にはかなり厳しい授業になると覚悟をして欲しい。

科目名	教養特講(平成政治史研究)
	消費税、選挙制度、冷戦終焉が変えた国内政治
教員名	後藤 謙次

【授業の内容】

今私たちが生きているこの平成時代はどのような時代だったのか。日本政治や国際社会の動きを通して平成の時代を知る。

【到達目標】

平成時代の政治や国民生活を形成してきたものは何か、具体的な出来事を通して学び、私たちが今後どのような道を進んでいけばよいのかのヒントを掴む。

【授業計画】

- 第1回 平成元年はどのような年だったのか
- 第2回 平成政治の主役は消費税
- 第3回 政治とカネ＝リクルート事件
- 第4回 冷戦構造の崩壊と日本政治
- 第5回 選挙制度改革と政権交代
- 第6回 バブル経済の終焉
- 第7回 安全保障政策の転換
- 第8回 衆参ねじれ国会
- 第9回 天安門事件と日中関係
- 第10回 沖縄問題と普天間返還
- 第11回 なぜシャッター街が生まれたのか
- 第12回 連立政権時代の到来
- 第13回 派閥政治の終焉
- 第14回 小泉政権時代の到来
- 第15回 新制度で生まれた多党化現象

【授業の進め方】

講義形式。その時々新聞のコピー等を配布する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に無し。

【参考図書】

- ・『平成政治史全3巻』(岩波書店、後藤謙次著)
- ・週刊ダイヤモンド「永田町ライヴ！」(後藤謙次コラム)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 50%

【履修上の心得】

平成時代に起きた出来事はわたしたちの日常生活に直結している。国内政治や経済動向、国際情勢に関心を持つ。そのためには日々のニュースをチェックすること。

科目名	数学概論A
	～身近な現象を数学で考える～
教員名	黒澤 和人

【授業の内容】

身近に起こるさまざまな現象を数的に捉え、表現し、その仕組みを理解します。そして、数学という分野固有のものの方や考え方を知るとともに、数学の楽しさを体験します。

前期に配置された当講義では、中学・高校の数学から大学数学への継続性を考慮して、一部復習も取り入れ、さらに理論的な厳密化を図ります。また、大学の専門課程で利用される数理的な諸手法についての基礎固めを行います。

については、大学初年級の学生が共通に知っておくべき基礎数学の主要なテーマを取り上げ、関連する話題(トピック)を一話完結のストーリーにまとめ、分かりやすく解説していきます。

【到達目標】

- (1) 身近な現象や出来事を数的に捉え、表現することの意味が理解できるようになる。
- (2) 社会や他の専門分野における数学の役割が理解できるようになる。
- (3) 大学の専門課程で活用される数理的な諸手法の基礎が理解できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンスおよび数学の言葉と記号。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする(60分)。
 第2回 古代ギリシャと道具の歴史。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする(60分)。
 第3回 ダ・ヴィンチの手稿とルネッサンスの数学。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする(60分)。
 第4回 大航海時代と数学。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする(60分)。
 第5回 フランス革命とガロア。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする(60分)。
 第6回 青春の影～集合・写像・関係～。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする(60分)。
 第7回 自然界にみるさまざまな関数。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする(60分)。
 第8回 絵画・建築と数学。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする(60分)。
 第9回 素数の世界と未解決問題。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする(60分)。
 第10回 事件や事故の現象学～概念モデルと数理モデル～。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする(60分)。
 第11回 詰め合わせと重ね合わせ～組合せ・制御・量子～。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする(60分)。
 第12回 数学の諸相～理論・抽象・設計～。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする(60分)。
 第13回 アイデアとは何か? WebClassの資料に基づき授業の予復習をする(60分)。
 第14回 偶然とは何か? WebClassの資料に基づき授業の予復習をする(60分)。
 第15回 まとめと今後の学習のための案内。WebClassの資料に基づきこれまでの復習をする(120分)。

・課題の提出方法は、標準は、授業支援システムWebClassへのアップロードとしますが、レポートにおいては、白いA4用紙に記入して、2号館3階の課題提出ロッカーに投函という場合もありますので、注意して下さい。いずれも、WebClass上でアナウンスしますので、その都度確認して下さい。

・WebClassの資料に基づいて授業の予復習もしっかりやって下さい。

【授業の進め方】

毎回、1つのテーマを設定し、

- (1) 背景となる知識
- (2) 分野に関わる数学記号
- (3) 定理や公式の意味
- (4) 分野固有の考え方

を講義形式で、分かりやすいストーリーに仕立てて解説していきます。

理解の手助けとして、映像を見せることや、簡単な授業内課題や宿題を課すことも、ときには必要であると考えています。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

指定しません。

代わりに、毎回、プリント教材を配布する予定です。

【参考図書】

必要に応じて随時紹介していきます。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

出席回数が全体の3分の2を超えていることを前提に、

- (1) レポート・課題

- ・レポートの提出状況
- ・期末テストに代わる最終レポートの結果
- ・宿題や授業の予復習の状況

(2) 受講態度

- ・授業ごとの課題の処理状況および質疑応答の状況。リアクションペーパー（課題用紙）の記入などで評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・レポートについては、提示された日に欠席していても、出席した人と同様の条件で、処理し提出することができます。
- ・宿題についても同様です。
- ・欠席は5回まで認められます。しかし、欠席するとその日の受講態度の点数分が0点となります。
- ・病欠、教育実習、介護研修、部活動、忌引き等、理由の如何を問わず欠席回数にカウントします。ただし、正当な理由が記された欠席届けが提出されたうえに、当日の授業に関連した事柄について、WebClassの資料、友人のノート、本、インターネット、等々を手掛かりにして自学自習し、その成果をノートやレポートのような形で提出してもらえば、一部ですが加点します。なお、欠席した日に友人にとっておいてもらったリアクションペーパーの提出は自学自習には含めません。

【履修上の心得】

- ・本学学生なら誰でも履修できる教養科目の授業です。
- ・中学や高校時代の在籍コースや数学の履修状況、現在の所属、在籍学年等、一切問いません。
- ・毎回の授業では、重要な点をノートに取り、不明な点があればその都度質問をして下さい。ただし、定義や公式や式変形といった決まり切った処理・手続きは、本やネットを見れば出ているでしょう。ノートして欲しいのは、どんな例やたとえを使って分かりやすく説明しようとしているかの、いわゆる授業展開のアイデアの部分です。
- ・他の科学分野との相違点や相互関係について考え、数学とは何かを突き詰めようとする授業です。したがって、何を考え、何を理解したかを記録しておくことは重要です。
- ・欠席した場合は、友人のノートやWebClassの資料などを参考に、おっかけて勉強して下さい。
- ・当日の課題用紙への記入を友人に依頼するなどして出席を装ったことが判明した場合は、両者失格となります。

【科目のレベル、前提科目など】

[科目レベル] 数理的なものの見方・考え方を養い、専門科目への入門・導入的な役割を果たす科目です。大学生にとって必要不可欠な計算および表現の道具としての数学が、記号や言葉遣いとともに、分類整理して提示されます。

[前提科目] なし。

[関連科目] 数学概論B、代数学、解析学、論理学、統計学、物理学、経済学、科学史、教育方法論、心理学、情報・メディア系科目、等。

【備考】

授業の進度や課題内容、連絡事項、等は、授業支援システムWebClassに掲載します。

科目名	国際ビジネス英語 I
教員名	足立 綾

【授業の内容】

様々なビジネス状況に対応するための英語の基礎を、視覚・聴覚教材を含む指定の教科書に沿って総合的に学ぶ。Iでは、出張、報告・謝罪、接待、電話、アポイントメント設定、面接等の状況設定における実践的表現を扱う。

【到達目標】

空港で出張を出迎える際の打ち合わせ、出張に関して相手の予定や都合を尋ねる方法、報告や謝罪、初対面の相手への対応、レストランでの接待、会食での支払いのやりとり、電話での意思疎通、メールでの説明やアポイントメントに関するコミュニケーション方法、自分の長所や短所の説明、面接での自己アピール等における実践的な英語での表現方法を知り、自らも使えるようになる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、問題演習
 予習課題：シラバスをよくよみ、必要なものを準備する。問題集などを用い、英文法を一通り確認しておく。不明点は質問にまとめる。(1h)
 復習課題：授業の進み方や毎回のタスクなどを再確認し、新たに学んだことをノートにまとめる。(0.5h)
- 第2回 Chapter 1 Making Contact
 予習課題：3. Useful Expressions をやる。DVDをみて、4. の問題（穴埋め含む）を解いておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現をノートに写す。例文を作ってみる。(1h)
- 第3回 Chapter 1 Making Contact（続き）
 予習課題：5. Reading を読み、わからない単語や表現の意味を調べ、問題を解いておく。6. Structures, 7. Writingをよく読み、問題を解いておく。不明点を書きだしておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現等をノートに写し、まとめる。辞書の例文を参照し書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第4回 Chapter 2 Getting to Know You
 予習課題：3. Useful Expressions をやる。DVDをみて、4. の問題（穴埋め含む）を解いておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現等をノートに写し、まとめる。辞書の例文を参照し書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第5回 Chapter 2 Getting to Know You（続き）
 予習課題：5. Reading を読み、わからない単語や表現の意味を調べ、問題を解いておく。6. Structures, 7. Writingをよく読み、問題を解いておく。不明点を書きだしておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現等をノートに写し、まとめる。辞書の例文を参照し書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第6回 Chapter 3 Dining Out
 予習課題：3. Useful Expressions をやる。DVDをみて、4. の問題（穴埋め含む）を解いておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現等をノートに写し、まとめる。辞書の例文を参照し書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第7回 Chapter 3 Dining Out（続き）
 予習課題：5. Reading を読み、わからない単語や表現の意味を調べ、問題を解いておく。6. Structures, 7. Writingをよく読み、問題を解いておく。不明点を書きだしておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現等をノートに写し、まとめる。辞書の例文を参照し書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第8回 Chapter 4 Can I Ask Who Is Calling, Please?
 予習課題：3. Useful Expressions をやる。DVDをみて、4. の問題（穴埋め含む）を解いておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現等をノートに写し、まとめる。辞書の例文を参照し書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第9回 Chapter 4 Can I Ask Who Is Calling, Please?（続き）
 予習課題：5. Reading を読み、わからない単語や表現の意味を調べ、問題を解いておく。6. Structures, 7. Writingをよく読み、問題を解いておく。不明点を書きだしておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現等をノートに写し、まとめる。辞書の例文を参照し書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第10回 Chapter 5 Let's Stick to The Schedule
 予習課題：3. Useful Expressions をやる。DVDをみて、4. の問題（穴埋め含む）を解いておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現等をノートに写し、まとめる。辞書の例文を参照し書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第11回 Chapter 5 Let's Stick to The Schedule（続き）
 予習課題：5. Reading を読み、わからない単語や表現の意味を調べ、問題を解いておく。6. Structures, 7. Writingをよく読み、問題を解いておく。不明点を書きだしておく。(1h)

- 復習課題：新たに学んだ表現等をノートに写し、まとめる。辞書の例文を参照し書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第12回 Chapter 6 Tell Us about Yourself
 予習課題：3. Useful Expressions をやる。DVDをみて、4. の問題（穴埋め含む）を解いておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現等をノートに写し、まとめる。辞書の例文を参照し書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第13回 Chapter 6 Tell Us about Yourself（続き）
 予習課題：5. Reading を読み、わからない単語や表現の意味を調べ、問題を解いておく。6. Structures, 7. Writing をよく読み、問題を解いておく。不明点を書きだしておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現等をノートに写し、まとめる。辞書の例文を参照し書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第14回 単語テストおよび内容に関する予備日
 予習課題：第13回までに新たに習得した単語を中心に復習をしておく。(2h)
 復習課題：間違えた単語があれば、何度も暗唱する、例文を確認するなどして覚える。(2h)
- 第15回 全体復習および内容に関する予備日
 予習課題：テキストChapter 1-6を通して確認し、不明点があれば書き出し、質問にまとめる。(1h)
 復習課題：定期試験に備えて復習する。(6h以上)

【授業の進め方】

基本的には指定教科書に沿って、授業を進める。音源、映像教材も用いる。
 各自が予習として解いてきた問題における新出表現の解説や問題の解答を確認する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①Interactive Business English on DVD (DVDで学ぶ実践的ビジネス英語) ②Yutaka Tokuda 他 ③成美堂 (SEIBIDO) ④2011 ⑤2500 ⑥978-4-7919-3090-6

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 20% レポート・課題 10% 受講態度 20%

特記事項

定期試験の受験資格として全授業数の3分の2以上の出席が必要である。
 受講態度は、授業への基本的参加と積極的参加の2つをもって評価する。
 レポート・課題については、復習ノートの確認をもって評価することもある。

【科目のレベル、前提科目など】

指定教科書は中級レベルの英語運用能力の学生を対象としている。また、日本語発話と比較しての英語表現もあつかうため、日本語の読み書きに不自由のないレベルであることが望ましい。
 後期の「国際ビジネス英語 II」と合わせての履修が望ましい(「国際ビジネス英語II」と同じ教科書を使用するため)。

科目名	国際ビジネス英語II
教員名	足立 綾

【授業の内容】

「国際ビジネス英語 I」同様に、様々なビジネス状況に対応するための英語の基礎を、視覚・聴覚教材を含む指定の教科書に沿って総合的に学ぶ。IIでは、会議設定、会議スケジュール設定、会議でのデータ説明や進め方、会議での意見の述べ方、プレゼンテーション、効果的な説明をする、といった状況設定における実践的表現を扱う。

【到達目標】

会議設定、相手とのスケジュールの調整、会議の目的やデータの説明、会議の進め方、意見の述べ方、プレゼンテーションの基礎、プレゼンテーションにおけるデータ説明やまとめ方、プレゼンテーション時の妨害対処、効果的な説明、グループ・プレゼンテーションの進め方等における実践的な英語での表現方法を知り、自らも使えるようになる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、問題演習、
 予習課題：シラバスをよくよみ、必要なものを準備する。問題集などを用い、英文法を一通り確認しておく。
 「国際ビジネス英語 I」の履修学生は、Chapter 1-6を復習し、不明点は質問にまとめる。(1h)
 復習課題：授業の進み方や毎回のタスクなどを再確認し、新たに学んだことをノートにまとめる。(0.5h)
- 第2回 Chapter 7 Could We Meet Next Week?
 予習課題：3. Useful Expressions をやる。DVDをみて、4. の問題（穴埋め含む）を解いておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現をノートに写す。例文を作ってみる。(1h)
- 第3回 Chapter 7 Could We Meet Next Week（続き）
 予習課題：5. Reading を読み、わからない単語や表現の意味を調べ、問題を解いておく。6. Structures, 7. Writingをよく読み、問題を解いておく。不明点を書きだしておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現等をノートに写し、まとめる。辞書の例文を参照し書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第4回 Chapter 8 Can I Make a Point Here?
 予習課題：3. Useful Expressions をやる。DVDをみて、4. の問題（穴埋め含む）を解いておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現等をノートに写し、まとめる。辞書の例文を参照し書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第5回 Chapter 8 Can I Make a Point Here?（続き）
 予習課題：5. Reading を読み、わからない単語や表現の意味を調べ、問題を解いておく。6. Structures, 7. Writingをよく読み、問題を解いておく。不明点を書きだしておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現等をノートに写し、まとめる。辞書の例文を参照し書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第6回 Chapter 9 I'm Not Sure I Agree
 予習課題：3. Useful Expressions をやる。DVDをみて、4. の問題（穴埋め含む）を解いておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現等をノートに写し、まとめる。辞書の例文を参照し書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第7回 Chapter 9 I'm Not Sure I Agree（続き）
 予習課題：5. Reading を読み、わからない単語や表現の意味を調べ、問題を解いておく。6. Structures, 7. Writingをよく読み、問題を解いておく。不明点を書きだしておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現等をノートに写し、まとめる。辞書の例文を参照し書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第8回 Chapter 10 Today's Topic Is...
 予習課題：3. Useful Expressions をやる。DVDをみて、4. の問題（穴埋め含む）を解いておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現等をノートに写し、まとめる。辞書の例文を参照し書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第9回 Chapter 10 Today's Topic Is...（続き）
 予習課題：5. Reading を読み、わからない単語や表現の意味を調べ、問題を解いておく。6. Structures, 7. Writingをよく読み、問題を解いておく。不明点を書きだしておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現等をノートに写し、まとめる。辞書の例文を参照し書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第10回 Chapter 11 To Sum Up
 予習課題：3. Useful Expressions をやる。DVDをみて、4. の問題（穴埋め含む）を解いておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現等をノートに写し、まとめる。辞書の例文を参照し書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第11回 Chapter 11 To Sum Up（続き）
 予習課題：5. Reading を読み、わからない単語や表現の意味を調べ、問題を解いておく。6. Structures, 7. Writingをよく読み、問題を解いておく。不明点を書きだしておく。(1h)

復習課題：新たに学んだ表現等をノートに写し、まとめる。辞書の例文を参照し書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)

第12回 Chapter 12 Any Questions?

予習課題：3. Useful Expressions をやる。DVDをみて、4. の問題（穴埋め含む）を解いておく。(1h)

復習課題：新たに学んだ表現等をノートに写し、まとめる。辞書の例文を参照し書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)

第13回 Chapter 12 Any Questions? (続き)

予習課題：5. Reading を読み、わからない単語や表現の意味を調べ、問題を解いておく。6. Structures, 7. Writing をよく読み、問題を解いておく。不明点を書きだしておく。(1h)

復習課題：新たに学んだ表現等をノートに写し、まとめる。辞書の例文を参照し書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)

第14回 単語テストおよび内容に関する予備日

予習課題：第13回までに新たに習得した単語を中心に復習をしておく。(2h)

復習課題：間違えた単語があれば、何度も暗唱する、例文を確認するなどして覚える。(2h)

第15回 全体復習および内容に関する予備日

予習課題：テキストChapter 1-6を通して確認し、不明点があれば書き出し、質問にまとめる。(1h)

復習課題：定期試験に備えて復習する。(6h以上)

【授業の進め方】

基本的には指定教科書に沿って、授業を進める。音源、映像教材も用いる。

各自が予習として解いてきた問題における新出表現の解説や問題の解答を確認する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①Interactive Business English on DVD (DVDで学ぶ実践的ビジネス英語) ②Yutaka Tokuda 他 ③成美堂 (SEIBIDO) ④2011 ⑤2500 ⑥978-4-7919-3090-6

前期開講の「国際ビジネス英語I」を履修した学生は、引き続き同じ教科書を使います。IIのみ履修も可(教科書については応相談)。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 20% レポート・課題 10% 受講態度 20%

特記事項

定期試験の受験資格として全授業数の3分の2以上の出席が必要である。

受講態度は、授業への基本的参加と積極的参加の2つをもって評価する。

レポート・課題については、復習ノートの確認をもって評価することもある。

【科目のレベル、前提科目など】

指定教科書は中級レベルの英語運用能力の学生を対象としている。また、日本語発話と比較しての英語表現もあつかうため、日本語の読み書きに不自由のないレベルであることが望ましい。

前期の「国際ビジネス英語I」と合わせての履修が望ましい(「国際ビジネス英語I」と同じ教科書を使用するため)が必須ではない。

科目名	ビジネス実務
教員名	堀 眞由美

【授業の内容】

本講義は、社会人として必要なビジネスマナーの基礎的な知識・技能を学習する。社会の仕組みや社会人としてのマナー、ビジネスの場で職務を遂行するために必要となるコミュニケーション能力、求められるビジネス能力の基礎を理解し、「働く」ということを前向きにとらえ、社会人として目標に向かって努力できる真摯な姿勢を修得する。

【到達目標】

- ・ビジネスマナーの基本を身につけることを目標とする。
- ・就職活動の心構えを身につけることを目標とする。
- ・ビジネス系検定試験に挑戦できることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 講義概要・講義の進め方・成績評価方法・ビジネス系検定試験ガイダンス 各自の検定試験受験計画を立てる(30分)。
- 第2回 社会人の基本(1)身だしなみ テキスト第1章 授業で提示したキーワードを復習する(30分)。
- 第3回 社会人の基本(2)イメージアップ力 テキスト第1章 授業で提示したキーワードを復習する(30分)。
- 第4回 仕事の基本(3)挨拶、お辞儀、指示報告、テキスト第2章 授業で提示したキーワードを復習する(30分)。
- 第5回 仕事の基本(2)呼称、社内業務 テキスト第2章 授業で提示したキーワードを復習する(30分)。
- 第6回 ビジネスコミュニケーション(1)ビジネス会話、敬語の基本 テキスト第3章 授業で提示したキーワードを復習する(30分)。
- 第7回 ビジネスコミュニケーション(2)電話対応の基本 テキスト第3章 授業で提示したキーワードを復習する(30分)。
- 第8回 ビジネスコミュニケーション(3)来客対応の基本 テキスト第4章 授業で提示したキーワードを復習する(30分)。
- 第9回 接客・訪問の基本 テキスト第4章 授業で提示したキーワードを復習する(30分)。
- 第10回 ビジネス文書(1)社内文書の基本 テキスト第5章 社内文書を書けるように復習する(60分)。
- 第11回 ビジネス文書(2)メールの基本 テキスト第5章 メールを書けるように復習する(30分)。
- 第12回 冠婚葬祭のマナー(1)慶弔 テキスト第6章 授業で提示したキーワードを復習する(30分)。
- 第13回 冠婚葬祭のマナー(2)慶弔 テキスト第6章 授業で提示したキーワードを復習する(30分)。
- 第14回 テーブルマナー テキスト第6章 授業で提示したキーワードを復習する(30分)。
- 第15回 まとめ 全授業の復習をする(60分)。

【授業の進め方】

テキスト中心に講義形式で進めていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①さすがと言われるビジネスマナー完全版 ②高橋書店編集部 ③高橋書店 ④2014年 ⑤1,000円 ⑥9784471011253

購入場所：学内ブックスナカジマ

【参考図書】

堀眞由美著『ビジネスコミュニケーション—グローバル社会におけるビジネス基礎力と運用能力—』中央大学出版部 2017年3月

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 85% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 15%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

初回講義で成績評価の注意、授業中の注意事項を伝達するので必ず初回より出席をし確認すること。

【履修上の心得】

- ・学習したことを単に知識で終わらせないために、ビジネスの現場で実践できるよう日常の様々な場面で活用し、ビジネス系検定試験に挑戦してほしい。
- ・テキストは遅くとも第2回目までに購入し、毎回講義には持参すること。

【科目のレベル、前提科目など】

- 履修対象は、2年～4年生を推奨する。
- 「マナーの基本」（前期・後期）→本講義「ビジネスマナーⅠ」（前期）→「ビジネスマナーⅡ」（後期）の順番で履修すると効果的である。
- 本講義は、インターンシップの実習（在学中に自ら将来のキャリアに関連した就業体験）や就職活動の事前学習として履修してほしい。

科目名	マーケティング I
教員名	内堀 敬則

【授業の内容】

市場環境が刻々と変化するなかにあつて、企業が競争優位を維持し、持続的に利益を確保していくためには、顧客のニーズを探り、それを満たすように行動すること、すなわちマーケティング活動に取り組むことが欠かせなくなっている。

本講義では、マーケティング論の基本的な理論やコンセプトを理解しながら、社会に出てから顧客や組織に接する局面で有効な考え方や形式を身につけることを目的とする。

そのためにも、マーケティング戦略を策定・遂行するうえでのさまざまなツールとその問題点を明らかにしながら、具体的な企業や産業のケーススタディを提示し、理論と実態の両面についてより一層深く理解できるような構成とする。

【到達目標】

マーケティング論の基本的な理論やコンセプトを理解できるようになることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
予習：新聞・雑誌などでマーケティングに関する興味ある記事に目を通すこと。また、シラバスを熟読すること。
- 第2回 マーケティングの役割とは何か
予習：教科書の該当箇所に目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第3回 マーケティングマネジメントの基本枠組み
予習：教科書の該当箇所に目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第4回 マーケティングミックスとその基本プロセス
予習：教科書の該当箇所に目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第5回 製品・サービスとは何か
予習：教科書の該当箇所に目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第6回 製品・サービスの開発プロセスとアソートメント
予習：教科書の該当箇所に目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第7回 価格の役割と需要の価格弾力性
予習：教科書の該当箇所に目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第8回 戦略的な価格デザインとその事例
予習：教科書の該当箇所に目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第9回 流通チャネルの機能とその類型
予習：教科書の該当箇所に目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第10回 流通チャネルの有効性とその活用
予習：教科書の該当箇所に目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第11回 プロモーション戦略の選択－メッセージの選択－
予習：教科書の該当箇所に目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第12回 プロモーション戦略の選択－メディアの選択－
予習：教科書の該当箇所に目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第13回 組織をデザインするための要件
予習：教科書の該当箇所に目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第14回 「マーケティング戦略会議」 4Pデザインの実践
予習：具体的なマーケティング戦略について議論するので、最近のトレンドに関する新聞・雑誌を意識的に目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第15回 総括

予習：講座全体で配布した資料や教科書の該当箇所に目を通すこと。

復習：講座全体で配布した資料や教科書の該当箇所に目を通すこと。

テキストに沿って上記の論点を扱う。なお、授業の進捗状況と受講生の理解度を考慮し、計画を変更する可能性がある。

【授業の進め方】

毎回パワーポイントを用いながら、各種データや映像などさまざまなメディアを挿入するなどして立体的な講義を展開する。

受講者がアクティブに学ぶことができるよう、様々なデータを用いながら問いかけを行ない、発言する機会を多く設ける。また、より深い理解を得ることを狙い、講義終了後にショートレポートの提出を課し、その内容に対し翌週の講義の冒頭に解説を行う。14回目の「マーケティング戦略会議」では全員でアイデアを出しながら一つの戦略を導くような体験型授業を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①ゼミナール マーケティング入門 第2版 ②石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎 ③日本経済新聞社 ④2013
⑤3,456円 ⑥4532134390

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

受講態度（毎回の講義で課すショートレポートも含む）及び定期試験の結果を総合的に評価する。

なお、授業への積極的な参加・意見の発表も受講態度評価の対象とする。自ら進んで発言した者の名簿を作成し、加点の対象とする。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

遅刻者の受講は許可するものの、当日の評価はゼロ評価とする。

出席数が著しく少ない者は定期試験の受験資格を失う（受験資格のない者の学籍番号を試験前に張り出すので、掲示を見ること）。ただし、公欠の証明がある場合、受験資格を認めるので、「受験資格なし」の通知を受けた者のみ書面を期末にまとめて提出すること。なお、「欠席届」は定期試験の受験資格許可に限定するものであり、これによって平常点が加算されることはない。

【履修上の心得】

常に新聞や経済誌などで企業の最新のマーケティング事情をチェックし、自分なりの見方を持つこと。

指名されたときはどんな内容でも良いので意見を述べること。単に教室に座っている「受け身」の姿勢では出席の意味はない。

なお、私語する学生は座席変更や退出を命じる。また、携帯・スマートフォンなどの利用を発見した場合、没収する。

【科目のレベル、前提科目など】

マーケティング論についての入門科目。すべての学年・学部から受講可能。

【備考】

毎回の講義において学生証による電子データとショートレポート提出の両方を重視するので、必ず学生証を持参のうえ、ショートレポートを提出すること。

科目名	マーケティングII
教員名	内堀 敬則

【授業の内容】

マーケティング戦略を策定する際には、アプローチする市場について事前に分析することが欠かせない。また、産業のライフサイクルを概観したうえで、事業の統合範囲を適切に選択することや、ブランド力などの資源を市場においていかに構築するかということを経営者は常に問われている。

本講義では、こうしたマーケティング上の課題、すなわち消費者行動や競争構造など市場におけるダイナミズムについての理解を深めることを目的とする。具体的な企業や産業のケーススタディを豊富に提示しながら、理論と実態の両面についてより一層深く理解できるような構成とする。

【到達目標】

消費者行動や競争構造など市場におけるダイナミズムについての知見を深め、受講者各自がマーケティング上の手法を用いて市場を理解・分析できるようになることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
予習：新聞・雑誌などでマーケティングに関する興味ある記事に目を通すこと。また、シラバスを熟読すること。
- 第2回 消費者行動の理解 －「販売コンセプト」と「マーケティングコンセプト」
予習：教科書の該当箇所目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第3回 消費者行動の理解 －購買意思決定の分析－
予習：教科書の該当箇所目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第4回 市場細分化マーケティング －企業の対応策と市場細分化の軸－
予習：教科書の該当箇所目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第5回 市場細分化マーケティング －市場細分化戦略のポイント－
予習：教科書の該当箇所目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第6回 競争の場の枠組み
予習：教科書の該当箇所目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第7回 産業の収益性と競争構造
予習：教科書の該当箇所目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第8回 戦略グループと移動障壁
予習：教科書の該当箇所目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第9回 取引関係の構造
予習：教科書の該当箇所目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第10回 「統合」と「取引」取引コストと資源蓄積
予習：教科書の該当箇所目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第11回 取引コストと資源蓄積
予習：教科書の該当箇所目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第12回 産業のライフサイクルその1 ディファクトスタンダードと産業の離陸
予習：教科書の該当箇所目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第13回 産業のライフサイクルその2 産業の成長、成熟、衰退
予習：教科書の該当箇所目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第14回 ブランドのマネジメント
予習：教科書の該当箇所目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第15回 総括
予習：講座全体で配布した資料や教科書の該当箇所を読み返し、理解を深めること。

復習：講座全体で配布した資料や教科書の該当箇所を読み返し、理解を深めること。

テキストに沿って、上記のような論点を扱う。なお、授業の進行状況と受講生の理解度を考慮し、授業計画を変更する可能性がある。

【授業の進め方】

毎回パワーポイントを用いながら、各種データや映像などさまざまなメディアを挿入するなどして立体的な講義を展開する。

受講者がアクティブに学ぶことができるよう、様々なデータを用いながら問いかけを行ない、発言する機会を多く設ける。また、より深い理解を得ることを狙い、講義終了後にショートレポートの提出を課し、その内容に対し翌週の講義の冒頭に解説を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①ゼミナール マーケティング入門 第2版 ②石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎 ③日本経済新聞社 ④2013
⑤3,456円 ⑥4532134390

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

受講態度（毎回の講義で課すショートレポートも含む）及び定期試験の結果を総合的に評価する。

なお、授業への積極的な参加・意見の発表も受講態度評価の対象とする。自ら進んで発言した者の名簿を作成し、加点の対象とする。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

遅刻者の受講は許可するものの、当日の評価はゼロ評価とする。

出席数が著しく少ない者は定期試験の受験資格を失う（受験資格のない者の学籍番号を試験前に張り出すので、掲示を見ること）。ただし、公欠の証明がある場合、受験資格を認めるので、「受験資格なし」の通知を受けた者のみ書面を期末にまとめて提出すること。なお、「欠席届」は定期試験の受験資格許可に限定するものであり、これによって平常点が加算されることはない。

【履修上の心得】

常に新聞や経済誌などで企業の最新のマーケティング事情をチェックし、自分なりの見方を持つこと。

指名されたときはどんな内容でも良いので意見を述べること。単に教室に座っている「受け身」の姿勢では出席の意味はない。

なお、私語する学生は座席変更や退出を命じる。また、携帯・スマートフォンなどの利用を発見した場合、没収する。

【科目のレベル、前提科目など】

履修年次は問わないが、「マーケティングⅠ」を履修していることが望ましい。

「マーケティングⅠ」で学んだ基礎理論をベースに、市場の実態やマーケティング論の最新動向についてより深く理解することを狙う。

【備考】

毎回の講義において学生証による電子データとショートレポート提出の両方を重視するので、必ず学生証を持参のうえ、ショートレポートを提出すること。

科目名	流通論 I
教員名	青崎 智行

【授業の内容】

流通業は市場構造のなかにおいて最終顧客に最も近い業態であるため、顧客ニーズや社会の変化にいち早く対応することを迫られることが宿命となっている。そのため、変化がきわめて激しい産業であり、近年では情報化や国際化の荒波に晒されてきた。また、わが国においては特有の商習慣や規制の存在により、他国とは異なる発展を遂げながら、足元では着々と構造変化が進展している。

本講義では、こうした特性のある流通業やそのシステムについて基本的な考察を行う。

【到達目標】

小売業を中心に基礎理論と実態、歴史について理解することを目指す。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第2回 流通の動向
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第3回 流通とは何か①流通の役割
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第4回 流通とは何か②流通の経路
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第5回 流通の課題①P B
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第6回 流通の課題②買い物環境
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第7回 流通政策と規制緩和①百貨店法
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第8回 流通政策と規制緩和②大店法
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第9回 流通政策と規制緩和③外圧問題
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第10回 流通政策と規制緩和④まちづくり3法
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第11回 流通における業態①百貨店
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第12回 流通における業態②スーパー
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第13回 流通における業態③コンビニ
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第14回 流通における業態④カテゴリーキラー
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第15回 総括
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）

上記のような論点を扱う。なお、授業の進行状況と受講生の理解度を考慮し、授業計画を変更する可能性がある。

【授業の進め方】

流通業に関する主要な概念や基本的な構造について実際の事例を参照しながら解説していく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に教科書は指定しない。

【参考図書】

石原武政、竹村正明(2008)「1からの流通論」、碩学社、2400円+税（希望者のみ各自書店で購入）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 50%

特記事項

受講態度(出席、聴講、発言、リアクションペーパー等)と定期試験の結果を総合的に評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

遅刻や欠席は厳しくチェックされる。

【履修上の心得】

学生との対話を重視した講義を行うので、履修者は授業中積極的に発言すること。

【科目のレベル、前提科目など】

経営学やマーケティングの基礎知識を有していることが望ましい。どの学年でも履修することは可能であるものの、2年次または3年次の履修が望ましい。

科目名	銀行論 I
	銀行の本当の役割は？
教員名	市川 千秋

【授業の内容】

銀行と金融のシステムは人体に譬えれば、心臓と血液の循環に相当する。その機能の低下もまた異常な亢進も、経済社会という人体の健康を損なうことになる。これまでは、その役割の重要性から銀行（心臓）という機関（器官）は大切に扱われてきた。ところが、最近内外の情勢の変化から、手厚い保護が見直されている。しかも、わが国の銀行はそうした外部の要因のみならず、自らの内部的な要因から重い疾病に罹ってしまった。

周知の通り、最近銀行や証券会社が相次いで倒産している。環境の変化に銀行はどのようにして対応するのであるか。銀行の基本的な在り方をこの講義を通じて受講生には考えてほしい。

受講生が50人未満であれば、学生諸君が授業に参加する機会を多く設けたいと考えている。

【到達目標】

- ①銀行や証券会社の果たす役割を知ることによって産業社会のメカニズムを理解できるようになること
- ②ニュースで流れる金融機関の活動について理解できるようになること

【授業計画】

- 第1回 銀行の起源と歴史・・・金匠と両替商
- ・古代バビロニア、ローマ帝国、イタリア都市国家
 - ・イギリス ～ イングランド銀行の誕生
 - ・アメリカ ～ 州法銀行と国法銀行
 - ・復習時間30分
- 第2回 日本の銀行の歴史・・・為替会社と国立銀行
- ・明治期の通貨制度と銀行の設立
 - ・近代的な銀行制度への歩み
 - ・復習時間30分
- 第3回 銀行の業務・・・預金、貸出、為替、他
- ・銀行とはなにか ～ 銀行法上の定義
 - ・銀行の仕事
 - ・銀行業務と証券業務 ～ 利益相反とは
 - ・復習時間30分
- 第4回 金融機関の種類・・・銀行、証券会社、保険会社、投資銀行
- ・金融機関の分類
 - ・信託銀行とは
 - ・郵政改革のその後
 - ・銀行、信金、信組のちがひ
 - ・復習時間30分
- 第5回 日本銀行の制度と役割
- ・日本銀行とは ～ 沿革、目的と理念
 - ・日銀の機能 ～ 銀行の銀行、政府の銀行、銀行券の独占的発行
 - ・日銀の組織 ～ 日銀政策委員会とは
 - ・復習時間30分
- 第6回 日本銀行の金融政策・・・金融緩和、マネーストック、
- ・金融政策とは ～ 誰が 何のために
 - ・金融政策の目標 ～ 操作目標、運営目標、最終目標
 - ・金融政策の手段 ～ しつばが犬をふる・・・？
 - ・復習時間30分
- 第7回 銀行の決済機能・・・手形、小切手、為替の仕組み
- ・決済機能の効果と意味
 - ・主要な決済の仕組み
 - ・復習時間30分
- 第8回 金融仲介機能・・・間接金融の長短、仲介機能の分類
- ・金融仲介の現象と機能 ～ 直接金融、間接金融
 - ・金融仲介の経済的効果 ～ 預金者にとって、借り手にとって、社会全体にとって
- 第9回 金融取引と情報の経済学・・・レモンの原理と逆選択、銀行の意義
- ・金融仲介の意味と金融取引の情報非対称性
 - ・銀行の金融仲介の意義
 - ・決済機能と情報
 - ・復習時間60分
- 第10回 信用創造機能・・・貸出⇒預金⇒貸出⇒預金⇒……

- ・信用創造とは
 - ・信用創造の概要
 - ・信用創造の前提と現実
- 第11回 銀行業務の合理化と機能の分解・・・ネット決済、アンバンドリング
- ・銀行業務の合理化
 - ・ビジネスのIT化、ネット利用
 - ・銀行機能の分解とフィンテック
 - ・復習時間30分
- 第12回 金融構造の変化・・・自由化と金融危機
- ・金融構造の歴史的推移
 - ・金融自由化と競争の激化
 - ・復習時間30分
- 第13回 金融自由化と競争の激化・・・再編・合併、ゆうちょ銀行、ネット銀行
- ・動物園からサファリパークへ
 - ・他業態との連携
 - ・異業種の銀行業への参入
 - ・復習時間30分
- 第14回 銀行決算とリスクの増大・・・不良債権、BIS規制
- ・最近の銀行決算の推移
 - ・銀行の業務成績～数字と比率
 - ・復習時間30分
- 第15回 銀行経営の基盤・・・三つの基盤
- ・安全性とは
 - ・収益性とは
 - ・公共性とは
 - ・復習時間30分

【授業の進め方】

毎回、パワーポイントと配布資料を利用して講義を進める。

受講生が50人以下であれば、グループを編成してグループ別に時事的な話題を分析し、教室内で報告していただくことを考えている。

学生諸君の積極的な参加を望む。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は特に指定しない

【参考図書】

『エッセンシャルズ銀行論』佐野・上田・市川編著 中央経済社

『銀行読本』北原編 東洋経済

『図説・わが国の銀行』全銀協調査部 財経詳報社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

評価はテストと受講態度で行う

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席カードのタッチ&ゴーの状況によって評価方法を変える場合がある

【履修上の心得】

テキストの該当箇所をできるだけ読んでおくことが望ましい。さらに日経文庫にあるような簡単な入門書を読むことも勧めたい。そして言うまでもないことだが、講義中に退出したり、携帯電話を鳴らしたりするのは失礼な行為である。厳に慎んでほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

履修推奨年次：学部2年次生以上

前提科目：金融論、国際金融論、経済学

ステップ科目：銀行論Ⅱ、保険論Ⅰ、Ⅱ

銀行はメーカーや商社とならんで現代経済を支える重要な産業である。その動向を知ることは産業社会の理解に不可欠である。殊に昨今の状況を鑑みれば、銀行経営が安定するか否かが日本経済の命運を握っていると言っても過言ではない。

科目名	現代日本経済論 I
	日本経済入門
教員名	吉川 薫

【授業の内容】

戦後を中心とした日本経済について、歴史・制度、政策、現状・課題を経済統計および基本的な経済理論に基づき講義する。

【到達目標】

これまでの日本経済の歩みと現状を知ることによって現代の日本経済の特徴や課題を総合的に把握し、日本経済に関する新聞等の経済記事の内容を正しく理解し、自分自身で日本経済の現状・課題を考察する力を身に付けることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 課題先進国になった日本。予習；シラバスをよく読んでおくとともに、この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業で取り上げた課題をまとめる（30分）
- 第2回 日本経済の歩み①（～1980年代まで）この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）
- 第3回 日本経済の歩み②（1980年代以降）この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）
- 第4回 日本の経済政策①（経済政策の目的と分類）復習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）
- 第5回 日本の経済政策②（経済政策の変遷）この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）
- 第6回 財政のしくみと役割 この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）
- 第7回 財政の役割と再建への取組み この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業で取り上げたポイントを各自復習する（30分）
- 第8回 地域経済の現状と地方創生 この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業で取り上げたポイントを各自復習する（30分）
- 第9回 金融の役割と制度 この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業で取り上げたポイントを各自復習する（30分）
- 第10回 デフレと金融政策①（金融政策と日本銀行）この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業で取り上げたポイントを各自復習する（30分）
- 第11回 デフレと金融政策②（非伝統的金融政策の効果とリスク）この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業で取り上げたポイントを各自復習する（30分）
- 第12回 バブルと金融危機 この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業で取り上げたポイントを各自復習する（30分）
- 第13回 国際的な競争環境の変化と企業行動 この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業で取り上げたポイントを各自復習する（30分）
- 第14回 国際収支と円レート この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業で取り上げたポイントを各自復習する（30分）
- 第15回 為替レートと国際通貨体制 この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業で取り上げたポイントを各自復習する（30分）

【授業の進め方】

- ・テキストに加え、プリントを配布し、それにそって講義する。また、できるだけ最新の情報を取り入れて紹介するとともに、重要な経済用語、経済統計の見方も解説する。
- ・受講者も新聞等で経済・社会の動きに関心をもち、授業で取り上げた経済問題、社会問題について最新の統計データを調べるとともに、受講生の間でグループ・ディスカッションをし、自分の考えをまとめ、発表する。

【教科書（必ず購入すべきもの）】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①日本経済読本 ②金森久雄・大守隆編 ③東洋経済新報社 ④2016年3月3日発行 ⑤2400円＋税 ⑥978-4-492-10032-5

授業の際、教科書を持参のこと。

【参考図書】

- 「ゼミナール日本経済入門」（最新版）三橋・内田・池田編 日本経済新聞出版
 「入門・日本経済」（第5版）浅子・篠原編 有斐閣
 「日本経済の基本」（第4版）小峰隆夫編著 日経文庫ビジュアル 日本経済新聞出版

「最新日本経済入門（第5版）」小峰隆夫・村田啓子 日本評論社
「入門日本経済論」鈞雅雄 新世社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

【履修上の心得】

- ・講義の前後にテキスト・参考書等をよく読んでおくこと。
- ・「現代経済」の受講者は「現代日本経済論Ⅰ」と「現代日本経済論Ⅱ」の両方を受講すること。

【科目のレベル、前提科目など】

科目のレベル：現代日本経済論の入門

前提科目：経済学(マクロ経済学Ⅰ、ミクロ経済学Ⅰ)の受講後(あるいは並行して受講)がのぞましい。

関連科目：現代日本経済論Ⅱ、マクロ経済Ⅰ、Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ、Ⅱ、金融論、財政学など経済関連科目。

科目名	地域経済論 I
教員名	山田 徳彦

【授業の内容】

今日、私たちが生活している地域の経済的社会的環境は激変しつつある。この状態に対処するには実効性のある地方分権が欠かせない。しかしながら、それを実現する十分な方策が確立されているか否か疑問の余地がないわけではない。

本講義では、

- ・ある地域はあくまでも一国の一部であり、独立して存在しえないこと
 - ・現在の経済的社会的環境は過去からの流れとは切り離して存在しえないこと
- といった認識に基づいて、地域の経済について理解を深める。

【到達目標】

地域の経済・社会について自ら発見し、対応策を考える能力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 地域社会環境の変化
- 第3回 地域の現実
- 第4回 国と地方の展開 中央集権体制の確立－明治維新－
- 第5回 国土復興計画と地方自治制度の確立
- 第6回 高度経済成長と北関東
- 第7回 日本列島改造論と地方
- 第8回 国土計画の限界とそれから
- 第9回 地方分権に関する議論
- 第10回 市町村合併の動向と展望
- 第11回 道州制の動向と展望
- 第12回 地域活性化の条件 成功と失敗
- 第13回 地域社会と経済・産業の相互依存関係
- 第14回 国と地方のあり方
- 第15回 まとめ

【授業の進め方】

各回とも、配布資料を解説していく形で進める。その際、電子デバイスを多用する予定である。また、講義内容に合致する動画（5分程度）を用意するので、予習・復習に適宜活用されたい。

授業内容に応じて学習課題を提示するので、調べた内容をまとめておくこと。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①国土計画を考える 開発路線のゆくえ ②本間義人 ③中央公論新社 ④1999/2/25 ⑤1550 ⑥4121014618

本講義全体を通じて、問題の所在の発見と解決、調査能力の向上につながるものと期待される。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

【履修上の心得】

いろいろなものごとが絡み合っていて、現在の地域社会は構成されている。そのため一つ一つの議論をきちんと理解すること。講義全体を通じて、問題の発見と調査能力の向上につながる内容を心掛けたい。

私語厳禁

【科目のレベル、前提科目など】

2年生以上を念頭において講義を進める

科目名	ミクロ経済学Ⅰ（国際経済を含む）
教員名	吉川 薫

【授業の内容】

需要と供給、市場の機能、その背後にある消費者、企業の行動、市場が適切に機能しない場合の政府の役割などミクロ経済学の基本的な考え方、基礎的な理論を学習するとともに、その現実経済への応用について考察する。

【到達目標】

ミクロ経済学の基礎的な理論、基本的な考え方を理解し、市場経済下の消費者、生産者の行動を考察するとともに、それを使って現実の経済問題を考える力を身につけることができるようになることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 経済学とはどのような学問か 予習；シラバスをよく読むとともに、この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習（30分）
- 第2回 需要と供給 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習（30分）
- 第3回 需要曲線と消費者行動 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習（30分）演習問題を解く（45分）
- 第4回 費用の構造と供給行動 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習（30分）テキストの演習問題を解く（45分）
- 第5回 市場取引と資源配分 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習（30分）
- 第6回 余剰分析とその応用 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習（30分）テキストの演習問題を解く（45分）
- 第7回 国際経済取引と経済厚生 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習（30分）テキストの演習問題を解く（45分）
- 第8回 独占の理論 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習（30分）
- 第9回 完全競争と独占的競争 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習（30分）テキストの演習問題を解く（45分）
- 第10回 市場の失敗(1)外部効果 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習（30分）
- 第11回 市場の失敗(2)公共財、予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）費用逓減産業 授業のポイントを復習（30分）テキストの演習問題を解く（45分）
- 第12回 不確実性と経済現象 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習（30分）
- 第13回 不完全情報の経済学 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習（30分）テキストの演習問題を解く（45分）
- 第14回 ゲームの理論入門 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習（30分）
- 第15回 ゲーム理論の応用 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習（30分）テキストの演習問題を解く（45分）

【授業の進め方】

- ・テキストのほかプリントを配布し、それにしたがって講義する。
- ・それぞれの授業で学ぶ経済学の考え方を使って実際の経済現象、経済問題を考え、グループで議論する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①入門 経済学 第4版 ②伊藤元重 ③日本評論社 ④2015年2月15日 ⑤3000円

教科書はブックスナカジマ（構内売店）で購入できる。

授業の際、教科書を持参すること。

【参考図書】

1. 「経済学をまなぶ」(中公新書) 岩田規久男著 中央公論社
2. 「基礎コース経済学」塩澤修平著 新世社
3. 「ゼミナールミクロ経済学入門」岩田規久男著 日本経済新聞社
4. 「クルーグマンミクロ経済学」P.クルーグマン、ロビン・ウェルス著 東洋経済新報社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

【履修上の心得】

- ・授業の前後にテキストを十分読み、自分で図を描いて考えるとともに、テキストの演習問題を解いてみること。
- ・1～2年次で履修するとよい。なお、マクロ経済学Ⅰも合わせて受講するようにすること。(いずれも前期、後期両方で開講)
- ・旧カリ「経済学」として履修する場合は、「マクロ経済学Ⅰ」と「ミクロ経済学Ⅰ」の両方を受講すること。

【科目のレベル、前提科目など】

科目のレベル：入門

前提科目：とくにないが、数学(関数・微分など)がわかっていると理解が容易になる。

関連科目：ミクロ経済学Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ、現代日本経済論Ⅰ、Ⅱなど経済関連科目。

ミクロ経済学Ⅱはミクロ経済学Ⅰを受講後、受講するとよい。

他の経済や経営に関連した科目を学ぶうえでも基礎となる科目である。公務員試験などでも必須の科目である。

科目名	ミクロ経済学 I (国際経済を含む)
教員名	川本 敏

【授業の内容】

ミクロ経済学の入門である。経済学の基礎であるミクロ経済学の考え方を基本から学び、消費者、企業等の経済主体の行動を考察する。

【到達目標】

ミクロ経済学の基本的考え方を学び現実経済の動きを考える基礎を身に着ける。

【授業計画】

- 第1回 ミクロ経済学とは
需要と供給 (2時間)
- 第2回 需要曲線と消費者行動 (3時間)
- 第3回 費用の構造と供給構造 (3時間)
- 第4回 国際市場取引と資源配分 (3時間)
- 第5回 消費者行動の理論 (3時間)
- 第6回 消費者行動理論の展開 (3時間)
- 第7回 生産と費用 (3時間)
- 第8回 一般均衡と資源配分 (3時間)
- 第9回 独占の理論 (国際的巨大企業の行動を含む) (3.5時間)
- 第10回 ゲームの理論 (国際経済への応用を含む) (3.5時間)
- 第11回 市場の失敗 (3時間)
- 第12回 不確実性とリスク (3時間)
- 第13回 不完全情報の経済学 (3時間)
- 第14回 異時点間の資源配分 (3.5時間)
- 第15回 国際的資源配分、まとめ (3時間)

【授業の進め方】

パワーポイントを使って講義を進める。
レジメ、資料等を配布する。
教科書は必ず持参すること。

授業においては、質疑応答も重視して、学生が進んで応答しやすい環境をつくる。
授業の終りに講義内容の理解確認等のため、小テストを随時行う。翌週には、講評等を行い、それに対する学生との対話を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①ミクロ経済学 (第2版) ②伊藤元重 ③日本評論社 ④2013

【参考図書】

『ミクロ経済学パーフェクトマスター』伊藤元重・下井直毅、日本評論社、2007
『ミクロ経済学 I』, 『ミクロ経済学 II』八田達夫、東洋経済新報社、2009

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 35% レポート・課題 0% 受講態度 5%
特記事項
定期試験の結果と、毎回の授業終了前に行う確認小テストを中心に評価する。

【履修上の心得】

教科書を理解できるまで丁寧に読むこと。
授業には教科書を持参すること。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目は特になし。平易をむねとする。

科目名	マクロ経済学 I / (国際経済を含む)
教員名	吉川 薫

【授業の内容】

GDP、物価、国際収支などマクロ経済学の基本的な用語、考え方、国民所得の決定理論やマクロ経済政策の基礎的な理論を学習するとともに、その現実経済への応用について考察する。

【到達目標】

マクロ経済学の基本的な考え方や用語を理解し、現実の様々な経済現象や経済問題について論理的に考える力を身につけるとともに、マクロ経済学の基本的な考え方をを用いて、現実の経済問題や経済政策を自分自身で考察できるようになることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 経済学とはどのような学問か 予習；シラバスをよく読んでおくとともに、この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習する（30分）
- 第2回 経済をマクロからとらえる 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習する（30分）
- 第3回 GDPとは 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習する（30分）テキストの演習問題を解く（45分）
- 第4回 有効需要と乗数メカニズム 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習する（30分）テキストの演習問題を解く（45分）
- 第5回 貨幣の機能 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習する（30分）
- 第6回 貨幣供給と物価 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習する（30分）テキストの演習問題を解く（45分）
- 第7回 財政政策と金融政策 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習する（30分）テキストの演習問題を解く（45分）
- 第8回 IS-LM分析 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習する（30分）
- 第9回 インフレ 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習する（30分）
- 第10回 失業 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習する（30分）テキストの演習問題を解く（45分）
- 第11回 財政収支の短期的側面 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習する（30分）
- 第12回 高齢化と財政運営 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習する（30分）テキストの演習問題を解く（45分）
- 第13回 国際経済学①為替レート 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習する（30分）
- 第14回 国際経済学②比較優位 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習する（30分）テキストの演習問題を解く（45分）
- 第15回 経済成長と経済発展 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習する（30分）テキストの演習問題を解く（45分）

【授業の進め方】

- ・テキストに加え、プリントを配布し、それらにしたがって講義する。
- ・受講者は授業に関連した最新の経済データを自らチェックしておく。テキストの演習問題を解いてみるとともに、授業で学習した理論を使って現実の経済問題・経済政策を考察する。授業では、それぞれの回で学ぶマクロ経済学の考え方をを使って現実の経済現象、経済問題を考察し、グループで議論、自分の考えを発表する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①入門 経済学 第4版 ②伊藤元重 ③日本評論社 ④2015年2月15日 ⑤3000円 ⑥978-4-535-55817-5

教科書はブックスナカジマで購入できる。

授業には教科書を持参すること。

【参考図書】

- 「経済学をまなぶ」(中公新書) 岩田規久男著 中央公論社
 「ケインズ」(ちくま新書) 吉川 洋著 筑摩書房

「基礎コース経済学」塩澤修平著 新世社
「入門マクロ経済学（第5版）」中谷 巖著 日本評論社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

【履修上の心得】

- ・授業の前後にテキストを十分に読み、図を描いて考えるとともに、テキストの演習問題を解いてみること。
- ・ミクロ経済学Ⅰも合わせて受講するようにすること。教科書は共通であり、両方を受講して経済学の基本を学ぶことになる。

【科目のレベル、前提科目など】

科目のレベル：入門

前提科目：特にないが、数学(関数・微分など)がわかっていると理解が容易になる。

関連科目：マクロ経済学Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ、現代日本経済論Ⅰ、Ⅱなど経済関連科目および金融論、財政学など。

科目名	マクロ経済学 I (国際経済を含む)
教員名	川本 敏

【授業の内容】

マクロ経済学の入門である。国民経済の全体的な動きを解明しようとするマクロ経済学の考え方の基礎を学ぶ。

【到達目標】

マクロ経済学の基本的な考えや概念・用語を学び、現実の経済の動きや政策を理解、考察できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 マクロ経済学とは、マクロ経済学のとらえ方 (1.5時間)
- 第2回 マクロ経済と需要・供給 (3時間)
- 第3回 有効需要と乗数メカニズム (3.5時間)
- 第4回 貨幣の機能と信用創造 (3.5時間)
- 第5回 貨幣需要と利子率 (3時間)
- 第6回 財政政策の目的、有効性 (3時間)
- 第7回 財政・金融政策の影響 (3時間)
- 第8回 総需要と総供給 (2.5時間)
- 第9回 労働市場の機能と雇用・失業 (3.5時間)
- 第10回 インフレとデフレ (3時間)
- 第11回 財政破綻と財政健全化 (3.5時間)
- 第12回 金融政策と金融システム (3時間)
- 第13回 国際金融市場と為替レート (3時間)
- 第14回 通貨制度とマクロ経済政策 (3時間)
- 第15回 経済成長と経済発展 (3時間)

【授業の進め方】

パワーポイントにより講義を進める。

必要に応じてプリントを配布する。

授業の終りに講義の理解確認等のための小テストを随時行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①マクロ経済学 (第2版) ②伊藤元重 ③日本評論社 ④2012

【参考図書】

- 『マクロ経済学パーフェクトマスター』伊藤元重、下井直毅、日本評論社、2014
- 『マクロ経済学 (第3版)』吉川洋、岩波書店、2009
- 『デフレーション』吉川洋、日本経済新聞出版社、2013

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 35% レポート・課題 0% 受講態度 5%

特記事項

定期試験の結果を基本に授業内小テスト等を加味して評価する。

【履修上の心得】

教科書を納得するまで丁寧に読み理解を深めること。

授業には教科書を持参すること。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目は特にない。平易をむねとする。

科目名	貿易商務論 I
	実社会で活用できる貿易の仕組みを学ぶ
教員名	貿易商務論 I 担当教員

【授業の内容】

風俗・習慣・法律など多くのことが異なる外国との取引においては、どのような点に留意し取引をまとめ、実践していかなければならないかを研究する。

貿易売買契約の成立、契約履行過程における諸問題を取り扱う。

貿易実務に必要な取り決めがなぜ必要になったのかを考えることにより、社会人として必要な「考える」ということを習慣づける。

【到達目標】

貿易取引に関する基本知識を習得。

貿易実務検定 3 級をクリアーできる程度を目指す。

【授業計画】

- 第 1 回 貿易取引とは
- 第 2 回 貿易取引の当事者
- 第 3 回 貿易取引の流れ
- 第 4 回 取引条件（インコタームス）
- 第 5 回 取引条件（F O B, C I F）
- 第 6 回 取引条件（品質、数量、支払い）
- 第 7 回 海上輸送（在来船とコンテナ船）
- 第 8 回 海上輸送（定期船と不定期船）
- 第 9 回 航空輸送
- 第 10 回 輸出通関の仕組み
- 第 11 回 輸入通関の仕組み
- 第 12 回 信用状決済
- 第 13 回 その他の決済と外国為替について
- 第 14 回 保険の仕組み
- 第 15 回 貿易書類の機能と役割

【教科書(必ず購入すべきもの)】

黒岩章著『はじめての人の貿易入門塾』かんき出版

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 20%

特記事項

定期試験

日常点

【履修上の心得】

「貿易商務論 I・II」の両方を履修することが望ましい。

【科目のレベル、前提科目など】

貿易取引研究の基本的レベル。

科目名	貿易商務論Ⅱ
	講師達が実際に体験した貿易を通じた国際ビジネスの現状を学ぶ
教員名	貿易商務論Ⅱ担当教員

【授業の内容】

風俗・習慣・法律など多くのことが異なる外国との取引においては、どのような点に留意し取引をまとめ、実践していかなければならないか研究する。

貿易商務論Ⅱでは、国際取引の事例を中心に貿易商務の実際を学ぶ。

実際に商社で行ってきた事例にそって、貿易実務をどのように実際に応用していくかを学ぶ。

【到達目標】

現在はマネジメント能力の1つとして、貿易取引に関する知識はますますその需要を増している。

そこで、貿易取引のスペシャリスト養成のためではなく、ジェネラリスト養成を目的とする。

【授業計画】

- 第1回 輸出相手国の潜在需要の推定
- 第2回 貿易の視点から捉えた日豪関係（その1）
- 第3回 日本の輸入規制・相手国の輸出規制
- 第4回 繊維業界解説（原綿の輸入）
- 第5回 カントリーリスク（リスク等）
- 第6回 貿易の視点から捉えた日豪関係（その2）
- 第7回 アパレル業界解説（OEM, 逆委託加工貿易）
- 第8回 日系メーカーの海外進出（家電）
- 第9回 ブランドビジネス解説（高級ブランド品の輸入）
- 第10回 貿易実務とサプライチェーン
- 第11回 日系メーカーの海外進出(自動車)
- 第12回 ライセンスビジネス解説
- 第13回 外国資本の日本市場参入例
- 第14回 ネット通販解説
- 第15回 日系メーカーの海外進出（オートバイ）

【授業の進め方】

授業全般に亘って講義レジュメやパワーポイントを使用し、また適宜資料プリントやビデオを利用して進める

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書使用せず

レジュメ配布

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

レポート、日常点

【履修上の心得】

貿易商務論Ⅰを履修済、または並行履修していることを前提に授業を進める

【科目のレベル、前提科目など】

貿易取引研究の基本的レベル。

科目名	時事英語 I
教員名	藤森 吉之

【授業の内容】

インターネット上や英字新聞に登場する国内の政治、経済、社会、文化等に関する記事を読むことに慣れ親しむ。

【到達目標】

- * 英語記事の見出しの表現方法に慣れる。
- * 英語記事の構成に慣れる。
- * 英語記事に登場する時事問題に関する語彙を増強する。
- * 英語記事を読んだ後に、その概要を簡単な英語で表現できるようにする。
- * 英語記事を読んだ後に、自分の考えを簡単な英語で表現できるようにする。
- * 国内の時事的な問題に対する関心を深める。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 テーマ1
- 第3回 テーマ2
- 第4回 テーマ3
- 第5回 テーマ4
- 第6回 テーマ5
- 第7回 テーマ6
- 第8回 テーマ7
- 第9回 テーマ8
- 第10回 テーマ9
- 第11回 テーマ10
- 第12回 テーマ11
- 第13回 テーマ12
- 第14回 テーマ13
- 第15回 テーマ14

【授業の進め方】

- 1 出欠確認 (5分)
 - 2 単語テストと答え合わせ (15分)
 - 3 英文記事の読解 (15分) * 記事の長さにより増減することもある。
 - 4 英文記事の概要を英語で作成 (15分)
 - 5 上記4を英語で発表 (15分) * 毎回3人程度
 - 6 英文記事についての英語での意見交換 (15分)
 - 7 まとめ (10分)
- * 随時、英語での発信についての方略の指導も行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

おもにインターネット上で入手できる英文記事を題材とするため、教科書の購入は必要ない。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 28% レポート・課題 40% 受講態度 32%

特記事項

- ①授業内小試験「語彙テスト」(2ポイント) X14回=28ポイント
 - ②教員による積極的参加姿勢の評価 (14回):(2ポイント) X 14回=28ポイント
 - ③クラスメイトによる積極的参加姿勢の評価 (最終回に1回のみ):4ポイント
 - ④英語記事の概要説明:(10ポイント) X 2回=20ポイント
 - ⑤英語記事に対する意見発表:(10ポイント) X 2回=20ポイント
- * 上記④と⑤はレポート・課題の項目として評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業に1回欠席すると、語彙テスト3ポイント、積極的参加姿勢2ポイントの両方がマイナスになるためそれだけで4ポイントマイナスになるのでやむを得ない場合以外欠席をしないこと。
概要説明と意見発表はともに『英語』で行ってもらうため、履修開始前に文章の要約の仕方や、意見の述べ方について十分な準備をし始めておくこと。

【科目のレベル、前提科目など】

初めて英字新聞に触れる人たちを想定して授業を行うが、基礎英語力がある人を対象に授業を進める。

【備 考】

英語での発信に対して多大な抵抗感を持つ学生には履修を勧めない。

英語の4技能(Listening, Speaking, Reading, Writing)を総合的に伸ばしたい学生には是非受講してもらいたい。

科目名	時事英語 I
	英語で学ぼう！時事問題 I
教員名	高畑 昭男

【授業の内容】

【誰でもわかる時事英語】国際社会で行われている英会話のほとんどは、日本の中学校～高校で学ぶレベルの英語で十分に通用する。中でも時事英語は、日本の新聞記事が「中学生程度で読解できること」を基準に書かれているのと同様に、カレントな話題を万人に提供できるように、難解な単語や表現をできるだけ避けて構成されている場合が多い。普段から日本語で時事ニュースに親しんでいれば、英語ニュースでも大意を推測しながら読み解くことができる。難解な単語に出会ったら、辞書を引けばよい。まずは「時事英語は難しい」という先入観を捨ててしまおう。

本講座は気楽に時事英語に親しむとともに、できるだけ平易な英語やシンプルな表現で自分の主張や意見を世界に発信する力をつけることを最大の目標とする。学生諸君が将来、国際人として海外でビジネスをしたり、国内で外国人客の相手をしたりする際に、最小限必要なレベルの英語力や時事問題の基礎知識を養う。並行して英文を日本語に置き換える和訳の力も養成する。

クラスはグループに分かれて随時ディスカッションをしたり、チームで課題に取り組むグループ学習などを取り入れた「参加型」をめざしている。英語や外国人に対する恥じらいや恐怖心を取り払い、誰とでも親しく対話ができる「開かれた心」を養成する。日本語と英語を併用した映像教材を使った演習を中心とする。自分の目と耳と口を駆使して、楽しく学んでいきたい。

【到達目標】

1. 英語の時事ニュースや論文などを読んだり、聞いたりして理解する力、相手に伝える力、和訳する力を養う。
2. 中学、高校レベルの平易な英語を通じて自分の意見や主張を表現し、世界に発信する力と技術を学ぶ。
3. 日本の政治、社会、文化などの情報を英語で海外に説明できる力と基礎知識をはぐくむ。
4. 外国の人々と気楽に対話ができる「開かれた心」を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション。時事英語とは何か。どんな役に立つか。海外で活躍する日本人が英語をどのように生かしているかなどを紹介し、自分ならどうするかを考える。受講生は3人～6人程度の学習チームを編成し、チームディスカッションなどができる態勢を作る。
- 第2回 日本の文化、社会、習慣、料理などを外国に紹介したり、説明する際にどんな工夫が必要か。映像資料などをみて、チームで討論し、結果をクラスに報告する。課題として自分の意見や主張を表現する文章を作り、それを英訳する。
- 第3回 最新の時事ニュースを取り上げ、内容を理解する。どんな表現が使われているか。その意味、使い方、応用方法などを学ぶ。自分の意見を表現する短い文章を作り、英訳する。
- 第4回 時事ニュースを取り上げ、どんな表現が使われているか。その意味、使い方、応用方法などを学ぶ。短い文章を作り、英訳する。
- 第5回 日本の文化、社会、習慣、料理などを外国に紹介したり売り込むにはどんな工夫が必要か。チームで討論し、結果をクラスに報告する。短い文章を作り、英訳する。
- 第6回 時事ニュースを取り上げ、どんな表現が使われているか。その応用方法などを学ぶ。ニュースの内容などについてチームで討論し、報告する。短い文章を作り、英訳する。
- 第7回 時事ニュースを取り上げ、どんな表現が使われているか。その応用方法などを学ぶ。ニュースの内容などについてチームで討論し、報告する。自分たちで英語ニュースを作ってみる。
- 第8回 日本の文化、社会、習慣、料理などを外国に紹介したり、売り込むためにどんな工夫が必要か。チームで討論し、自分なりの答えを短い文章にまとめ、英訳する。
- 第9回 日本の文化、社会、習慣、料理などを外国に紹介したり、自分の意見や感想を文章にまとめるにはどうしたらよいか。シンプルな英語で自分の考えや主張をまとめる訓練をする。
- 第10回 時事ニュースを取り上げ、どんな表現が使われているか。その応用方法などを学ぶ。ニュースの内容などについてチームで討論し、報告する。同じような表現を使って、自分の意見や主張を英語で表現する。
- 第11回 時事ニュースを取り上げ、どんな表現が使われているか。その応用方法などを学ぶ。ニュースの内容などについてチームで討論し、報告する。自分の体験、意見や感想などをシンプルで分かりやすい英語で表現する。
- 第12回 日本の文化、社会、習慣、料理などを外国に紹介したり、説明するためにどんな工夫が必要か。チームで討論し、報告する。自分の意見や感想を短い文章にまとめ、シンプルな英語で表現する。
- 第13回 米大統領や日本の首相の演説などの映像資料をもとに、世界の指導者がスピーチをいかに工夫しているか。首相の演説を英語で海外に紹介するにはどうしたらよいか。実際に英語の演説草稿を作ってみる。
- 第14回 演習とドリル(1)。時事英語の応用方法などについてチーム作業を課す。
- 第15回 演習とドリル(2)。全体のまとめ。最終講義終了時に、個人ごとに期末レポートを提出する。

【授業の進め方】

1. 教材は基本的に毎回、講師が用意する。個人で題材を持ち寄るなど受講生からの自主的提案も大いに歓迎したい。

2. 3～6人程度のチームを編成し、チームごとに宿題の提出、討論、発表のとりまとめなどの作業をする。
3. 演習を中心とする。ほぼ毎回、短い宿題を課す。自分の意見や主張を英語で表現したり、英文を和訳する力を養う。
4. 英語または日本語で期末レポートを提出する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

とくに指定しない。普段から新聞、テレビのニュースに親しみ、身近な時事問題に関心を持って見聞を広めておくに役に立つ。

【参考図書】

英字新聞、雑誌、英語ニュースサイトなどに関心を持ち、こまめに目を通すようにしておきたい。世界で起きていることに関心を持つこと。そのためには、まず日本語の新聞を毎日読む癖をつけることが大切だ。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

(1)課題・宿題のできばえ40%、(2)期末レポート40%、(3)平常点20% (チーム作業、出席状況、受講態度などを含む)をもちに評価する。期末試験はしない。

【履修上の心得】

1. 時事問題の基礎知識を踏まえた上で、2年生以上の履修を勧める。
2. 語学の習熟それ自体を目的としたクラスではないが、英文読解や和訳など中学・高校レベルの英語の基礎知識は必須である。
3. 大切なことは日本語であれ英語であれ、明確な意見や主張を持ち、積極的に伝えようとする意志、意欲である。
4. 積極的な質問や意見の発表を歓迎する。積極的に質問する姿勢は成績評価に反映させる。
5. 他人の答案の丸写しや、いわゆる「コピペ」は有害である。絶対にやらないこと。

【科目のレベル、前提科目など】

時事英語の入門編。語学や文法よりも生きた英語を駆使して日本と世界の架け橋として積極的に発信していく態度を養うことをめざす。英語力を高めたいという向上心と意欲が何よりも必要だ。

科目名	時事英語Ⅱ
教員名	藤森 吉之

【授業の内容】

インターネット上や英字新聞に登場する海外の政治、経済、社会、文化等に関する記事を読むことに慣れ親しむ。

【到達目標】

- * 英語記事の見出しの表現方法に慣れる。
- * 英語記事の構成に慣れる。
- * 英語記事に登場する時事問題に関する語彙を増強する。
- * 英語記事を読んだ後に、その概要を簡単な英語で表現できるようにする。
- * 英語記事を読んだ後に、自分の考えを簡単な英語で表現できるようにする。
- * 海外の時事的な問題に対する関心を深める。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 テーマ1
- 第3回 テーマ2
- 第4回 テーマ3
- 第5回 テーマ4
- 第6回 テーマ5
- 第7回 テーマ6
- 第8回 テーマ7
- 第9回 テーマ8
- 第10回 テーマ9
- 第11回 テーマ10
- 第12回 テーマ11
- 第13回 テーマ12
- 第14回 テーマ13
- 第15回 テーマ14

【授業の進め方】

- 1 出欠確認 (5分)
 - 2 単語テストと答え合わせ (15分)
 - 3 英文記事の読解 (15分) * 記事の長さにより増減することもある。
 - 4 英文記事の概要を英語で作成 (15分)
 - 5 上記4を英語で発表 (15分) * 毎回3人程度
 - 6 英文記事についての英語での意見交換 (15分)
 - 7 まとめ (10分)
- * 随時、英語での発信についての方略の指導も行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

おもにインターネット上で入手できる英文記事を題材とするため、教科書の購入は必要ない。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 28% レポート・課題 40% 受講態度 32%

特記事項

- ①授業内小試験「語彙テスト」(2ポイント) X14回=28ポイント
 - ②教員による積極的参加姿勢の評価 (14回):(2ポイント) X 14回=28ポイント
 - ③クラスメイトによる積極的参加姿勢の評価 (最終回に1回のみ):4ポイント
 - ④英語記事の概要説明:(10ポイント) X 2回=20ポイント
 - ⑤英語記事に対する意見発表:(10ポイント) X 2回=20ポイント
- * 上記④と⑤はレポート・課題の項目として評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業に1回欠席すると、語彙テスト2ポイント、積極的参加姿勢2ポイントの両方がマイナスになるためそれだけで4ポイントマイナスになるのでやむを得ない場合以外欠席をしないこと。
概要説明と意見発表はともに『英語』で行ってもらうため、履修開始前に文章の要約の仕方や意見の述べ方、さらにパラフレーズの方法について十分な準備をした上で受講すること。

【科目のレベル、前提科目など】

時事英語Iを履修済みの学生を主な対象として授業を行う。

【備 考】

英語での発信に対して多大な抵抗感を持つ学生には履修を勧めない。

英語の4技能(Listening, Speaking, Reading, Writing)を総合的に伸ばしたい学生には是非受講してもらいたい。

科目名	時事英語Ⅱ
	英語で学ぼう！時事問題Ⅱ
教員名	高畑 昭男

【授業の内容】

【誰でもわかる時事英語】国際社会で行われている英会話のほとんどは、日本の中学校～高校で学ぶレベルの英語で十分に通用する。中でも時事英語は、日本の新聞記事が「中学生程度で読解できること」を基準に書かれているのと同様に、カレントな話題を万人に提供できるように、難解な単語や表現をできるだけ避けて構成されている場合が多い。普段から日本語で時事ニュースに親しんでいれば、英語ニュースでも大意を推測しながら読み解くことができる。難解な用語や表現に出会ったら、辞書を引けばよい。まずは「時事英語は難しい」という先入観を捨ててしまおう。

本講座は、前期の時事英語Ⅰをさらに発展させて、やや高度な内容をめざす。ただし、気楽に時事英語に親しむとともに、できるだけ平易でシンプルな英語を通じて自分の主張や意見を海外に発信する力をつけることを最大の目標とする点是不変。学生諸君が将来、国際人として海外でビジネスをしたり、国内で外国人客の相手をしたりする際に、最小限必要なレベルの英語力や時事問題の基礎知識を養う。並行して英文を和訳する能力を高めていく。

クラスではグループに分かれてディスカッションをしたり、チームで課題に取り組むグループ学習などを取り入れた「参加型」をめざす。英語や外国人に対する恥じらいや恐怖心を取り払い、誰とでも親しく対話ができる「開かれた心」を養成する。日本語と英語を併用した映像教材を使った演習を中心とする。自分の目と耳と口と良識を駆使して、楽しく積極的に学んでいきたい。

【到達目標】

1. 英語の時事ニュースや論文などを読んだり、聞いたりして理解する力、相手に伝える力、和訳する力を養う。
2. 中学、高校レベルの平易な英語を通じて自分の意見や主張を表現し、世界に発信する力と技術を学ぶ。
3. 日本の政治、社会、文化などの情報を英語で海外に説明できる力と基礎知識を高める。
4. 外国の人々と気楽に対話を始めることのできる「開かれた心」を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション。時事英語とは何か。どんな役に立つか。海外で活躍する日本人が英語をどのように生かしているかなどを紹介し、自分ならどうするかを考える。受講生は3人～6人程度の学習チームを編成し、チームディスカッションなどができる態勢を作る。
- 第2回 日本の文化、社会、習慣、料理などを外国に紹介したり、説明する際にどんな工夫が必要か。映像資料などをみて、チームで討論し、結果をクラスに報告する。課題として自分の意見や主張を表現する文章を作り、それを英訳する。
- 第3回 最新の時事ニュースを取り上げ、どんな表現が使われているか。その意味、使い方、応用方法などを学ぶ。自分の意見を表現する短い文章を作り、英訳する。
- 第4回 時事ニュースを取り上げ、どんな表現が使われているか。その意味、使い方、応用方法などを学ぶ。短い文章を作り、英訳する。
- 第5回 日本の文化、社会、習慣、料理などを外国に紹介したり売り込むにはどんな工夫が必要か。チームで討論し、結果を踏まえて短い文章を作り、英訳する。
- 第6回 時事ニュースを取り上げ、どんな表現が使われているか。その応用方法などを学ぶ。ニュースの内容などについてチームで討論し、報告する。短い文章を作り、英訳する。
- 第7回 時事ニュースを取り上げ、どんな表現が使われているか。その応用方法などを学ぶ。ニュースの内容などについてチームで討論し、自分たちで英語ニュースを作ってみる。
- 第8回 日本の文化、社会、習慣、料理などを外国に紹介したり、売り込むためにどんな工夫が必要か。チームで討論し、報告する。自分なりの答えを短い文章にまとめ、英訳する。
- 第9回 日本の文化、社会、習慣、料理などを外国に紹介したり、説明する際にどんな工夫が必要か。チームで討論し、報告する。自分の意見や感想を文章にまとめ、英語で表現する。
- 第10回 時事ニュースを取り上げ、どんな表現が使われているか。その応用方法などを学ぶ。ニュースの内容などについてチームで討論し、報告する。同じような表現を使って、自分の意見や主張を英語で表現する。
- 第11回 時事ニュースを取り上げ、どんな表現が使われているか。その応用方法などを学ぶ。ニュースの内容などについてチームで討論し、報告する。自分の体験、意見や感想などを英語で表現する。
- 第12回 日本の文化、社会、習慣、料理などを外国に紹介したり、説明するためにどんな工夫が必要か。チームで討論し、報告する。自分の意見や感想を短い文章にまとめ、英語で表現する。
- 第13回 米大統領や日本の首相の演説などの映像資料をもとに、世界の指導者がスピーチをいかに工夫しているか。首相の演説を英語で海外に紹介するにはどうしたらよいか。実際に英語で演説草稿を作ってみる。
- 第14回 演習とドリル(1)。時事英語の応用方法などについてチーム作業を課す。
- 第15回 演習とドリル(2)。全体のまとめ。最終講義終了時に、個人ごとに期末レポートを提出する。

【授業の進め方】

1. 教材は基本的に毎回、講師が用意する。個人で題材を持ち寄るなど受講生からの自主的提案も大いに歓迎する。

2. 3～6人程度のチームを編成し、チームごとに宿題の提出、討論、発表のとりまとめなどの作業をする。
3. 演習を中心とする。ほぼ毎回、短い宿題を課す。自分の意見や主張を英語で表現したり、和訳する力を高める。
4. 英語または日本語で期末レポートを提出する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

とくに指定しない。普段から新聞、テレビのニュースに親しみ、身近な時事問題に関心を持って見聞を広めておくに役立つ。

【参考図書】

英字新聞、雑誌、英語ニュースサイトなどに関心を持ち、こまめに目を通すようにしておきたい。英語以前の常識として、世界で起きていることに普段から関心を持つ姿勢が欠かせない。まずは日本語の新聞を毎日読む癖をつけることが大切だ。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

(1)課題・宿題のできばえ40%、(2)期末レポート40%、(3)平常点20% (チーム作業、出席状況、受講態度などを含む)をもちに評価する。期末試験はしない。

【履修上の心得】

1. 時事問題の基本的認識が必要であり、2年生以上の履修を勧める。
2. 語学の習熟それ自体を目的としたクラスではないが、英文読解や和訳など中学・高校レベルの英語の基礎知識は必須である。
3. 大切なことは日本語であれ英語であれ、明確な意見や主張を持ち、積極的に伝えようとする意志、意欲である。
4. 疑問を放置せず、積極的に質問や意見を発表する姿勢を歓迎する。積極的な姿勢は成績評価に反映させる。
5. 他人の答案の丸写しや、いわゆる「コピペ」は有害である。絶対にやらないこと。

【科目のレベル、前提科目など】

時事英語の入門編だが、前期の時事英語 I よりも高度な内容をめざしている。時事英語 I を履修しておくことが望ましい。語学や文法よりも、生きた英語を駆使して日本と世界の架け橋として積極的に発信していく態度と意欲が不可欠である。

科目名	教養特講（就活コミュニケーション学（教職編））
教員名	渡辺 裕子

【授業の内容】

教育現場では児童生徒との関わりはもちろんのこと、保護者や地域の人たちとも深く関わる場面が多々あります。多様な価値観や異世代間でのコミュニケーション力が何よりも欠かせない職業です。したがって教員採用試験の面接では、相手の話をよく聴き自分の考えをきちんと伝えることができるより優れたコミュニケーション力が求められることは言うまでもありません。

教採面接の形態には個人面接や集団面接の他に模擬授業や場面指導などがありますが、ここでは主に個人面接を想定して進めていきます。「面接を受ける心構え」や「基本的な礼儀作法」はもちろん、「自分の考えを自分の言葉でわかりやすく伝えること」「相手の話を聴くこと」を実践を通して詳しく学んでいきます。

【到達目標】

- 1 面接を受けるときの「マナーや言葉遣い」を身につけることができます。
- 2 自分の考えを、自分の言葉で、わかりやすく伝えられるようになります。
- 3 「相手の話に耳を傾けるとはどういうことか・・・」が分かります。
- 4 「教員にとって必要なコミュニケーション力とは何か・・・」が分かります。
- 5 人前で話すことに自信が持てるようになります。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 実践1 「あなたの自己PRをしてください」
- 第3回 実践2 「教員を志望する理由は何ですか」
- 第4回 実践3 「あなたが大学時代に力を入れて取り組んだことは何ですか」
- 第5回 実践4 「あなたの強みと弱みを教えてください」
- 第6回 実践5 「あなたの目指す教師像を教えてください」
- 第7回 実践6 『『アクティブラーニング』の必要性をあなたはどのようにとらえますか。』
- 第8回 実践7 「あなたの座右の銘を聞かせてください」
- 第9回 実践8 「教育実習で感動したことや苦労したことはどんなことですか」
- 第10回 実践9 「あなたはボランティア活動の経験はありますか。具体的に教えてください」
- 第11回 実践10 「宿題が苦手な児童（生徒）がいます。あなたならどのように指導しますか」
- 第12回 実践11 「あなたの卒業論文のテーマを聞かせてください」
- 第13回 実践12 「教員としてはじめて、クラスの児童（または生徒）に挨拶をします。あなたはどんな挨拶をしますか」
- 第14回 受験に備えての最終チェック！（服装、笑顔、髪型等）
- 第15回 まとめ

（尚、順番が変わることもあります。実践内容は変更や追加されることもあります。）

【授業の進め方】

- 1 ワークを中心に進めていきます。
- 2 事前に「自己PR文」などをまとめてもらいます。それを元に授業を進めます。
- 3 社会に関心を持ってもらうために、週一枚、興味関心を持った新聞記事を切り抜きて「スクラップノート」を作成してもらいます。
- 4 毎回グループを作り、互いに自分の考えを伝え合います。（発表後は相互評価表を交換し合います）
- 5 授業のはじめに軽くウォーミングアップをします。その後、腹筋を鍛える声出しと滑舌の訓練をしていきます。

【教科書（必ず購入すべきもの）】

プリントを配布します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

レポート提出、スクラップノート提出

【履修上の心得】

毎回グループワークで自己表現をしていきます。遅刻は厳禁。授業中の無断退室は欠席扱いとします。

【備考】

「手鏡」（滑舌の訓練時に使います）と1分間の砂時計を用意してください。

科目名	マナーの基本
	日本人としての素養を身につけ、社会人の基礎力を培う
教員名	佐藤 由利

【授業の内容】

本講義は、日常生活での基本的なマナーを習得することを目的とし、社会人のマナー基礎を身につけるものである。大学生活では、様々な学生が共に勉強をし、部活動に参加し、アルバイトもする。社会人になれば更に幅広い年代の人間関係の中で、価値観の違いや仕事のやり方の違いなどを乗り越えて、協力体制を築き仕事を成し遂げていくことが求められる。「マナー」とは本来、社会の秩序を保ち、社会生活をスムーズに営むためのルールや規範のことである。日本では、昔から「しきたり」を重んじてきた。価値観や習慣が異なる人々が集い、儀式を滞りなく行うためには共通のルールが必要である。その根底にある相手を思いやる気持ち、相手を尊重する心遣いは、大学生活でも社会生活でも良好なコミュニケーションをとる上で重要なことである。またグローバル社会を迎え、殊にオリンピックを控えた今、国際人としてのマナーや日本伝統の作法についても理解しておくことは必要である。

【到達目標】

日常生活の礼儀作法・日本伝統の作法・冠婚葬祭・ビジネスマナーの基礎知識を身につけ、社会に出る前段階として日本人の素養を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 講義概要、講義目的、講義の進め方、評価方法等の説明、ビジネス系検定試験ガイダンス
ビジネス系検定試験の受験計画を作成する (30分)
- 第2回 礼儀作法 (1) 身だしなみ・お辞儀・挨拶
教科書第2章と第3章の該当箇所を要約する (60分)
- 第3回 礼儀作法 (2) 言葉遣い・会話のマナー
授業内容を意識して会話する (1日につき10分)
- 第4回 日本人の美学と美徳 秩序・生活の作法
生活の作法を復習する (30分)
- 第5回 日本伝統の作法 (1) 和服・和室・器と箸の扱い方
伝統の作法を復習する (30分)
- 第6回 日本伝統の作法 (2) 参拝・墓参り・お盆・お彼岸
伝統の作法を復習する (30分)
- 第7回 お付き合いのマナー (1) 来客・訪問・手土産のマナー
授業内容に関して復習する (30分)
- 第8回 お付き合いのマナー (2) 贈答・見舞い
教科書第11章の該当箇所を要約する (30分)
- 第9回 慶弔のマナー (1) 冠婚葬祭とは・慶事のマナー
友人への結婚祝い品をインターネットで選ぶ (30分)
- 第10回 慶弔のマナー (2) 弔事のマナー・宗教別葬儀の作法
教科書第11章の該当箇所を要約する (30分)
- 第11回 国際人としてのマナー
教科書第9章を要約する (30分)
- 第12回 ビジネスコミュニケーション (1) 電話応対
教科書第5章を要約し、伝言メモを作成する (30分)
- 第13回 ビジネスコミュニケーション (2) 来客応対・企業への訪問
第7回お付き合いのマナー (1) の授業内容を復習しておく (15分) シーン毎のお辞儀と言葉がけを練習する (15分)
- 第14回 ビジネスコミュニケーション (3) eメール・ビジネス文書
教科書第10章の該当箇所を要約する (60分)
- 第15回 まとめ
これまでの授業内容について復習する (120分)

【授業の進め方】

教科書に基づく講義形式である。随時、パワーポイントと参考資料を使用する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①ビジネスコミュニケーションーグローバル社会におけるビジネス基礎力と運用能力ー ②堀真由美 ③中央大学出版部 ④2017年3月 ⑤未定 ⑥未定

教科書は、2017年3月出版予定のため現時点では定価とISBNは未定。
学内ブックスナカジマにて販売。

【参考図書】

なし

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 85% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 15%

【履修上の心得】

履修確定者は毎回必ず教科書を持参の上、出席すること。
講義中の私語は厳禁。

科目名	保育実習 I
	授業形態：実習/実習日数：22日間（180時間）
教員名	(保育所)高橋 美保・福崎 淳子・宇梶 和代 / (施設)川瀬 善美

【授業の内容】

〔施設〕

児童福祉施設での実習を通して、次のような保育者として必要な知識・技術・態度・倫理を習得することを目標にしている。

- (1)児童福祉施設の役割・機能・内容を体験を通して理解する。
- (2)児童福祉施設入所児童の心身の発達・安全の確保や児童福祉施設での生活の実際について、実践を通して把握する。
- (3)保育者の職務の内容や役割を体験しながら、保育の方法や援助のあり方を学ぶ。
- (4)実習を自己評価反省し、今後の学習課題や努力目標を明らかにする。

〔保育所〕

保育所における実習を通し、乳幼児の理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。

- (1)保育所の役割や機能について具体的に理解する。
- (2)観察や子どもへの関わりを通して子どもへの理解を深める。
- (3)既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
- (4)保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。
- (5)保育の計画と記録及び自己評価等について具体的に理解し、今後の自己の課題を明確にする。

【到達目標】

保育所保育士としての資質を養うとともに、必要な倫理を身につける。

【授業計画】

〔施設〕

保育実習は児童福祉法施行規則第39条2号1項3号により定められた修業科目及び単位数並びに履修方法、「保育実習実施基準」厚労省・雇児発 第439に示された、児童福祉施設において原則として11日間に「泊り」形態で実施される。

〔保育所〕

「保育実習実施基準」において示された保育所において、原則として11日間実施される。

【授業の進め方】

〔施設〕

保育実習は児童福祉法施行規則第39条2号1項3号により定められた修業科目及び単位数並びに履修方法、「保育実習実施基準」厚労省・雇児発 第439に示された、児童福祉施設において原則として11日間に「泊り」形態で実施される。

〔保育所〕

「保育実習実施基準」において示された保育所において、原則として11日間実施される。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①『保育士をめざす人への福祉施設実習』 ②愛知県保育実習連絡協議会 編 ③(株) みらい

〔施設〕

『保育福祉小六法』 みらい
 みらい

〔保育所〕

保育実習 まるごとガイド 改訂新版(教育技術新幼児と保育MOOK) - 寺田 清美 小学館
 保育所保育指針

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

〔施設〕

事後指導時の発表内容、実習ノート、実習報告書、巡回指導等による評価、実習施設による評価を総合して行う。

〔保育所〕

事後指導における提出物、発表内容、実習報告書、実習ノート、巡回指導等による評価、実習施設により総合的に評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。

【履修上の心得】

〔施設〕

施設実習事前指導において学習したことを十分踏まえて実習を行うこと。

〔保育所〕

保育所実習事前指導において学習したことを十分踏まえて実習を行うこと。

【科目のレベル、前提科目など】

「保育実習Ⅱ」、「保育実習Ⅲ」、その他の保育士資格関連科目
保育士資格必修

科目名	保育実習Ⅱ
授業形態	実習/実習日数：11日間（90時間） 保育所実習
教員名	伊勢 正明・宇梶 和代

【授業の内容】

事前指導を含め、これまで全ての授業等において学んだことを生かしながら保育所における実践に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。また、保育実習Ⅰの経験や自己評価・事後指導の結果を踏まえた目標を定めて参加することにより、学びを発展的に深化させることを目指す。

【主な内容】観察や実習記録の作成から、保育環境やこどもの実態と保育のねらいや内容等とのかかわり、保育士の役割や臨機応変な対応の大切さなどを体験的に理解する。また部分実習や責任実習等を通して実際に一日の指導計画の立案・保育実践・振り返り・計画の修正という保育のサイクルを体験する。その他、保育現場における実践活動を通して、自らの課題を発見し、今後の学習や活動の糧とする。

【到達目標】

- 1 保育所における養護と教育に関わる実践を通し、保育士として必要な知識・技術を習得する。
- 2 家庭と地域の生活実態にふれて、保育所に求められる多様なニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、保護者支援、家庭支援のための能力を培う。

【授業計画】

【実習の内容】

- 1 保育所の役割や機能の具体的理解
- 2 保育の観察記録スキルの向上と観察に基づく保育理解
- 3 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
- 4 指導案の作成、実践、観察、記録、評価
- 5 保育士の業務と職業倫理に基づいた実践
- 6 自己の目標に基づく保育の遂行と課題の明確化

【授業の進め方】

- ・「保育実習実施基準」において示された保育所において、原則として11日間実施される。
- ・事前/事後指導（全15回）は、保育実習指導Ⅱにおいて実施するため、授業の進め方などは「保育実習指導Ⅱ」のシラバスを参照すること。（事前指導 →実習園でのガイダンス →実習11日間 →事後指導と進む。）

【教科書(必ず購入すべきもの)】

松本【監修】(2015)流れがわかる幼稚園・保育所実習，萌文書林
 保育所保育指針（厚生労働省・最新版）、保育所実習ノート

【参考図書】

幼稚園実習 保育所・施設実習[第2版]. 大豆生田啓友ら，ミネルヴァ書房（2014）
 保育実習[第2版]. 阿部ら編，ミネルヴァ書房（2014）
 保育実習 まるごとガイド 改訂新版（教育技術新幼児と保育MOOK）. 寺田清美，小学館（2012）
 考え，実践する教育・保育実習. 上野ら編，保育出版社（2011）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

実習報告書、実習日誌、巡回指導等による評価、実習園の評価票により総合的に評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は「履修規程」に準ずる。この実習をすべて、所定の期間内で終了すること。

【履修上の心得】

- ・保育所実習Ⅰ及び保育所実習指導Ⅱ（事前指導）において学習したことを十分踏まえて実習を行うこと。
- ・実習の参加要件についての必要な単位数や教科目は、必ず自分で確認すること。
- ・履修にあたっての注意事項及び一定の条件については「教育職員免許状および資格取得の手引き」で確認すること。

【科目のレベル、前提科目など】

- ・「保育所保育指針」を熟読すること。保育士関連科目、既習の教科全ての知識や技能が基礎となる。
- ・子どもの生活、子どもの発達、文化財への取り組みなどを念頭に置き、各自で自己学習を進めておくこと。

【備考】

保育士資格のための重要な科目である。

科目名	保育実習指導 I (保育所)
授業形態	演習/授業回数：30回 (60時間) ※このうち、保育所は15回
教員名	高橋 美保・福崎 淳子・宇梶 和代

【授業の内容】

この授業は保育士課程の「保育実習 I」に含まれる科目であり、保育実習 I (保育所)の履修者は事前にこの科目を履修しなければならない。

保育所での実習を通して、現代の子どもがおかれている状況や保育所の役割等を理解する。また、子ども、保育者や職員など多くの人との貴重な出会いを通して、自分の見方、考え方、保育者としての資質が問われ、自分の進路について考える機会ともなる。

事前指導では、実習に臨むにあたっての意義や目的、子どもの発達や保育に関する知識など、これまで学習してきた基本的な知識や技術を確認する。また、実習全体像の理解を深め実習生としての心構えを促す。生活する乳幼児の日常と保育士としての役割や職業倫理、さらには子どもの最善の利益の具体化などについて教授し、これまで学習してきた教科理論を基礎として、保育現場での実践に活かす応用力を養うための指導計画の立案や教材の研究なども行なう。

事後指導で、は実習で得られた知識や技術を体系化し、4年制大学卒業保育士としての自覚を深め、新たな課題や学習目標を明確にするなど、保育者として質の向上に向けた学びとなる。

【到達目標】

事前指導

1. 保育実習 I (保育所)の意義や目的、実習の全体像を理解する。
2. 保育実習 I (保育所)の内容を理解し、自らの課題を明確にする。
3. 保育所における子どもの人権と最善の利益への考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。
4. 実習での観察・計画・実践・記録・評価の方法や内容について、具体的に理解する。

事後指導

1. 実習後の振り返りを通して、実習のまとめと自己評価を行う。
2. 新たな課題や学習目標を明確にする。

【授業計画】

- 第1回 1. はじめに：
保育所実習の意義・目的を理解する。
実習の概要(全体像)を理解する。
- 第2回 2. 実習の内容：
実習施設の概要を理解し、実習生として自らの課題を明確にする。
保育所の一日の流れと生活の日課を把握する。
- 第3回 3. 実習に際しての留意事項①：
子どもの人権と最善の利益について考慮する。
プライバシーの保護と守秘義務について理解する。
- 第4回 4. 実習の課題を明確にする：
- 第5回 5. 実習の計画と記録①：
実習における計画と実践について具体的に理解する。
- 第6回 6. 実習における計画と記録②：
実習における観察や記録の書き方を理解する①
- 第7回 7. 実習における計画と記録③：
実習記録の書き方を理解する②
- 第8回 8. 子どもや家庭への理解：
子どもへの関わりや観察を通して、乳幼児の発達を理解する。
最新の保育動向について学ぶ
- 第9回 9. 実習における計画と記録④
保育課程、指導計画を理解する。
- 第10回 10. 実習の準備①： 指導計画の立案
- 第11回 11. 実習の準備②： 実習における実践と教材の研究
- 第12回 12. 保育士として職業倫理について
- 第13回 13. 事後指導①： 実習の振り返りと自己評価
- 第14回 14. 事後指導②： 次なる課題の明確化と改善に向けた目標設定
- 第15回 15. 事後指導③： 保育実習 I (保育所)のまとめ

事前指導 (12回：第1回～第12回)

事後指導 (3回：第13回～第15回)

【授業の進め方】

講義、演習、個別面談、必要に応じて保育経験者の講話設けるなど、総合的に理解できる余剰に授業を展開する。

講義の中で最新の保育動向についても触れるが、メディアをとおして保育や子どもに関する情報を知るように努めるなど、自分達で調べ準備したことや作成した教材について、発表しあう機会も設ける。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①流れがわかる幼稚園・保育所実習 ②監修：松本峰雄 ③萌文書林 ④2015 ⑤1,800円

松本峰雄【監修】 流れがわかる幼稚園・保育所実習、萌文書林（2015）

保育所実習ノート（配布します）

保育所保育指針（厚生労働省・最新版）

毎回プリントを配布するので、プリント専用のファイルを用意すること。

【参考図書】

随時紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

受講態度を含む平常点での評価 (40%)

到達目標1～4の全てを提出物で評価 (60%)

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。

【履修上の心得】

1. 履修上の注意事項や一定の条件については、「白鷗大学教育職員免許状および資格取得の手引き」で確認すること。
2. 全回出席を原則とする、やむ負えず欠席せざるを得ない場合は事前に書面で連絡すること。
3. 欠席や遅刻等については補講を原則とするが、自己学習、グループ学習など、状況に応じて授業の形態が変わることもある。
4. 主体的に取り組み、実習に向けての自己意識や意欲の啓発を高めていくことが求められる。

【科目のレベル、前提科目など】

既習の教科全ての知識や技能が基礎となる。

【備 考】

保育士資格のための重要な科目である。

科目名	保育実習指導 I (施設)
	授業形態：演習/授業回数：30回 (60時間) ※このうち、施設は15回
教員名	川瀬 善美

【授業の内容】

この科目は、保育実習の児童福祉施設等の実習をより豊かなものにするために、各実習の事前・事後指導として行われる講義です。実習には、レベルの高い諸能力と資質が求められます。この講義の中で、それらについての理解を深め、実習に臨むための十分な準備をし、実習で体験的に把握した内容を実習後にまとめ、問題点を追及し、将来に活かせる力量を養います。

【到達目標】

到達目標は以下のとおりです。

- ・児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解し、説明することができる。
- ・入所児童の生活、入所に至る経緯等について理解し、受容することができる。
- ・実習日誌の適切な記入方法や指導案について理解し、日誌の記入や指導案の作成ができる。
- ・既習の教科の内容を踏まえ、児童福祉、障害者福祉について総合的に理解し、レポートなどで発表できる。
- ・実習に際し自己が立てた実習の計画、達成目標、記録等について自己評価を行い、自己の課題などについて具体的に理解することができる。

【授業計画】

- 第1回 実習の意義と目的 (目標1)
- 第2回 児童福祉施設の社会的役割と保育士の専門性について (目標2)
- 第3回 実習における自己目標の設定 (目標3)
- 第4回 子どもへの支援的対応について (目標4)
- 第5回 施設の概要と生活 乳児院、児童養護施設
- 第6回 施設の概要と生活 知的障害児施設、知的障害児通園施設施設、発達障害者支援法
- 第7回 施設の概要と生活 肢体不自由児施設、重度心身障害児施設、盲ろうあ児施設
- 第8回 施設の概要と生活 障害者自立支援施設、障害者総合福祉法
- 第9回 施設の概要と生活 児童デイサービスセンター、児童館
- 第10回 実習ノート、記録の意義と記入の仕方 1
- 第11回 実習ノート、記録の意義と記入の仕方 2
- 第12回 安全・及び疾病予防について、保育士としての倫理についての理解、守秘義務
- 第13回 実習の自己達成目標について、今後の課題としてまとめる
- 第14回 実習報告書の作成にもとづいてのディスカッション
- 第15回 自己目標に対する自己評価、今後の課題についての発表

事前指導 (13回：第1回～第13回)

事後指導 (2回：第14回～第15回)

(事前指導)

実習に意欲的に参加する基礎準備が整っていること、実習先で必要な最低限の能力が備わっていること。

(事後指導)

実習での体験について自分なりの考察を加え言語化する事ができること、自分の今後の課題や目標設定ができること。

【授業の進め方】

各時間毎に講義内容で揚げた項目について解説を行う。又必要に応じて実習先毎に少グループでの討論を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①『保育士をめざす人の福祉施設実習』 ②愛知県保育実習連絡協議会 編 ③(株)みらい

『保育6法』2015年度版 (株)みらい
 「施設実習ノート」を毎時間持参すること

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

必要な書類・レポート等の提出状況及び受講態度を加味し評価を行う。

各講義については、担当教員がそれぞれ評価し、総合評価する。単位付与は3年次以降となる。

なお、一度でも事前指導を無断欠席した学生には、保育実習の参加を認めない。

また、保育実習に参加しなかった場合や事後指導を欠席した場合、単位は付与しない。

なお、保育実習事前指導の評価は保育実習事前指導（保育所）と保育実習事前指導（施設）を合わせて行う。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。

【履修上の心得】

全回出席を原則とする。

欠席・遅刻等については事前に書面をもって連絡のこと。無断欠席があった場合は不可とする。

欠席を認めた場合、テーマを指定しレポートを提出してもらう。

事前指導、事後指導の両方の指導完了で履修済みとなる。

【科目のレベル、前提科目など】

保育士関係科目全般。

実習に参加するために必要な単位数・及び教科目を各自確認のこと。

科目名	保育実習指導Ⅱ
	授業形態：演習/授業回数：15回（30時間）
教員名	伊勢 正明・宇梶 和代

【授業の内容】

① 平易な科目内容

保育実習の意義・課題、指導計画の立案、教材研究、保育士の役割、保育実習総括など。

② 講義の目的

保育実習Ⅰと連動しており、保育士資格を取得するものは必ず履修しなければならない。内容に「居住型児童福祉施設等における実習の事前事後指導」と「保育所における実習の事前事後指導」を含む。ここでは「保育所における実習の事前事後指導」について述べる。

事前指導では、保育実習の意義を学び、実習生としての心構えを促す。児童福祉施設としての保育所の目的や機能、そこで生活する乳幼児の日常と保育士としての役割や職業倫理、さらには子どもの最善の利益の具体化などについて教授する。これまで学習してきた教科理論を基礎として、保育現場での実践に活かす応用力を養うため、指導計画の立案や教材研究なども行なう。

事後指導では実習で得られた知識や技術を振り返って体系化し、4年生大学卒業の保育士としての自覚を深め、ふさわしい質の高い保育者養成を目指す。

【到達目標】

- ・保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
- ・実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。
- ・保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
- ・保育士の専門性と職業倫理について理解する。
- ・より明確で実践的な課題や目標を持って実習に参加する。
- ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

【授業計画】

- 第1回 保育実習Ⅱの意義及び保育所の役割と機能の多様性について理解する
- 第2回 子どもの最善の利益の具体化と保育士の職業倫理について理解する
- 第3回 保育の観察・記録1
- 第4回 部分実習・責任実習を行う際のポイント
- 第5回 指導計画の立案・作成の実際1
- 第6回 指導計画の立案・作成の実際2
- 第7回 子どもの状態に応じた関わり
- 第8回 指導計画の立案・作成の実際3
- 第9回 保育の表現技術を生かした保育実践1
- 第10回 保育の表現技術を生かした保育実践2
- 第11回 保育の観察・記録2
- 第12回 指導計画の立案・作成の実際4
- 第13回 実習の振り返りと自己評価
- 第14回 課題の明確化と改善に向けた目標設定
- 第15回 保育実習総括

事前指導（12回：第1回～第12回）

事後指導（3回：第13回～第15回）

* 講義の順番については、実態に合わせて変更することがある。

【授業の進め方】

- ・保育実習を円滑に進めていくための知識、技術を習得し、学習内容、課題を明確にし、保育実習に臨む。
- ・実習終了後に実習で得られた知識や技術を体系化し、新たな学習課題を明確化する。
- ・事後指導での振り返りを踏まえ、国家資格として現在求められている保育者像に近づくよう自己研鑽に努める。
- ・講義の内容にそって進めるが、自分達で準備し、調べたことを発表しあう機会も設ける。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

松本【監修】(2015)流れがわかる幼稚園・保育所実習, 萌文書林
 保育所保育指針(厚生労働省・最新版)
 保育所実習ノート(配布します)

【参考図書】

幼稚園実習 保育所・施設実習[第2版]. 大豆生田啓友ら, ミネルヴァ書房(2014)
 保育実習[第2版]. 阿部ら編, ミネルヴァ書房(2014)

保育実習 まるごとガイド 改訂新版 (教育技術新幼児と保育MOOK). 寺田清美, 小学館 (2012)
考え, 実践する教育・保育実習. 上野ら編, 保育出版社 (2011)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

受講態度等を含む平常点と課題への取り組み（提出物等を含む）で評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。

【履修上の心得】

- ・全回出席を基本とする。各自責任をもって行動すること。
- ・欠席や遅刻等については、事前に連絡し、公的証明書を提出すること。
- ・全体での講義、グループ学習、発表など状況に応じて授業の形態が変わる。
- ・主体的に取り組み、実習に向けての自己の意識や意欲を高めていくことが求められる。
- ・履修にあたっての注意事項及び一定の条件については「教育職員免許状および資格取得の手引き」で確認すること。

【科目のレベル、前提科目など】

既習の教科全ての知識や技能が基礎となる。

【備 考】

保育士資格のための重要な科目である。

科目名	フレッシュマンセミナー
授業形態	演習
教員名	(小学校) 宇津野花陽・奥澤信行・渋川美紀・富田英也・山野井貴浩 (幼保) 浅田晃佑・岩城淳子・福崎淳子・山路千華

【授業の内容】

最近の大学生は、その多くが大学で学んでいる人のことを「生徒」と呼んでいる。「生徒」とは中学校と高校に在学している人のことを指すのであって、大学に籍を置く人は「学生」である。こうした状況は、大学を高校の延長のように考えている人が多いことを物語っている。「生徒」とは「ひたすら懸命に生きている人」のことで、様々な知識を年長者（教師）から授けられる状態にあることを意味している。つまり中学校から高校までは、受け身の勉強でも許されるのである。

しかし「学生」になるとそのような状況は認められなくなる。「学んで生きる」と書くように、自らが積極的に学問にチャレンジしなければならないのである。したがって前述の「生徒」のままに大学生活を送っている状況は、なんとも情けないといえる。

そこで大学に入学して間もないフレッシュマンに、大学での学び方や大学生活の望ましい過ごし方、将来の進路選択、さらには人間関係の構築の重要性などを指導するのがこの科目である。高校までの生活が、周囲の人々によって比較的保護された状態であったのに対して、大学生活は自らの手で物事に対処しなければならない。その際に本科目で取り上げる内容が有効となるであろう。

【到達目標】

大学生としての常識的な生活態度を身に付けた上で、大学での学び方を熟知し、将来への展望に関する動機付けを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 大学生としての心構え
- 第2回 授業の受け方とレポート作成の留意点
- 第3回 良好な人間関係へのアドバイス
- 第4回 将来の進路選択
- 第5回 図書館・進路指導部・学習支援センターの見学
- 第6回 はくおう幼稚園・おもちゃライブラリーの見学
- 第7回 クラスごとの課題設定①
- 第8回 クラスごとの課題設定②
- 第9回 クラスごとの課題設定③
- 第10回 クラスごとの課題設定④
- 第11回 クラスごとの課題設定⑤
- 第12回 クラスごとのビブリオバトル①
- 第13回 クラスごとのビブリオバトル②
- 第14回 ビブリオバトル全体会
- 第15回 まとめ

【教科書(必ず購入すべきもの)】

それぞれの担当教員が初回の授業で指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

レポート、授業内での発表内容等、授業への取り組みで総合的に評価する。

【履修上の心得】

半期15回の授業すべてに出席することが大切である。また積極的に授業に参加する姿勢が求められる。

【科目のレベル、前提科目など】

第1学年前期に設定されている科目であるため、前提科目はない。ただしその後履修する科目に対する受講の心構えを身に付けることができるであろう。大学生活の導入教育として位置付けられており、大学生活4年間を有意義に過ごし、希望の進路を実現するための指針となる科目である。

【備考】

施設見学はクラスによって日程が異なるので、授業内で指示する。

担当教員によって、授業内容が多少異なる場合がある。

科目名	フレッシュマンセミナー
教員名	荒井 信成・金田 健史・野間 明紀・網野 友雄

【授業の内容】

スポーツ健康専攻の導入科目として、体育やスポーツを学ぶ第一歩を踏み出す科目である。スポーツ科学の理論的な内容については同時期開講の「スポーツ科学入門」で学ぶ。これに対して、「フレッシュマンセミナー」ではスポーツの実践現場との関わりや、実際のスポーツ現象に対する分析や研究の視点を学ぶことになる。具体的には、下記の講義内容に関して、講義や演習（グループワークや研究結果のプレゼンテーションを含む）、見学等を通して取り組んでいく。

【到達目標】

フレッシュマンセミナーはどのように大学での授業に取り組むかに関するその姿勢や、大学生活における心構えを再確認する導入科目である。授業に対する積極的な取り組みはもちろんのこと、単に疑問を持つだけでなく、その解決のために自分がどう取り組むべきか、どのように教員や図書館などの大学の環境を活用していくべきかを理解し、実践できる力を身につけることが目標となる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（専攻の科目の全体像と履修計画の指導）
学習課題（復習）：自身の履修した科目などを確認し、1年間の学習計画を明確にする（30分）
- 第2回 大学における学習・研究の環境について（図書館の利用）
学習課題（復習）：興味関心のあるテーマの本を図書館で借りる（30分）
- 第3回 大学における学習・研究の環境について（コンピュータ室の利用）
学習課題（予習）：学内ネットワークへのログインパスワード等を確認しておく（10分）
- 第4回 体育・スポーツをめぐる今日的な課題の確認（ディベート等）
学習課題（予習）：ディベートの際に役立つと思われる資料を見つけてくる（60分）
- 第5回 体育・スポーツをめぐる今日的な課題の確認（ディベート等）
学習課題（予習）：ディベートの際に役立つと思われる資料を見つけてくる（60分）
- 第6回 体育・スポーツをめぐる今日的な課題の確認（ディベート等）
学習課題（予習）：ディベートの際に役立つと思われる資料を見つけてくる（60分）
- 第7回 体育・スポーツをめぐる自己の関心の確認（個人研究）
学習課題（予習）：個人研究の際に役立つと思われる資料を見つけてくる（60分）
- 第8回 体育・スポーツをめぐる自己の関心の確認（個人研究）
学習課題（予習）：個人研究の際に役立つと思われる資料を見つけてくる（60分）
- 第9回 体育・スポーツをめぐる自己の関心の確認（個人研究）
学習課題（予習）：個人研究の際に役立つと思われる資料を見つけてくる（60分）
- 第10回 体育・スポーツをめぐる自己の関心の確認（個人研究）
学習課題（予習）：個人研究の際に役立つと思われる資料を見つけてくる（60分）
- 第11回 体育・スポーツをめぐる自己の関心の確認（個人研究）
学習課題（予習）：個人研究の際に役立つと思われる資料を見つけてくる（60分）
- 第12回 体育・スポーツをめぐる自己の関心の確認（個人研究）
学習課題（予習）：個人研究の際に役立つと思われる資料を見つけてくる（60分）
- 第13回 プレゼンテーション演習（各々の研究成果のプレゼンテーション）
学習課題（予習）：プレゼンテーション資料を作成してくる（120分）
- 第14回 プレゼンテーション演習（各々の研究成果のプレゼンテーション）
学習課題（予習）：プレゼンテーション資料を作成してくる（120分）
- 第15回 プレゼンテーション演習（各々の研究成果のプレゼンテーション）
学習課題（予習）：プレゼンテーション資料を作成してくる（120分）

【教科書（必ず購入すべきもの）】

図書全般、新聞、雑誌、インターネットによる検索などスポーツ健康に関するあらゆるもの

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 20% 受講態度 80%

特記事項

授業への取り組み、グループ活動への貢献度・発表内容、レポートの完成度から評価する。

受講態度は、出席を含む平常点（50%）、授業への取り組み・グループ活動への貢献度・発表内容（30%）により評価する。この他、レポート（プレゼンテーション）の完成度（20%）も評価の対象となる。

【履修上の心得】

大学生活の第一歩です。体育やスポーツに関する課題に対して溢れんばかりの好奇心や関心を持って望むことを期待する。グループワーク等を通じた学生相互の協力、実践現場や教師から学ぶ、自律的に課題研究に取り組むといった基本的姿勢が望まれる。また、全体をスケジュール通りに進めていくためには一人ひとりが欠席しないことが前提となるので、出席は最大限に重視する。

【科目のレベル、前提科目など】

スポーツ科学入門と併せて、4年間の学びの第一歩としてもらいたい。これらの科目で持った各個人の興味関心を、2年次以降の実践研究科目（「体育・スポーツ実践事例研究、スポーツ科学実験演習、スポーツインターンシップ、専門演習AB」）へとつなげてもらいたい。
卒業必修科目。スポーツ健康専攻の1年生は全員履修すること。

科目名	フレッシュマンセミナー
教員名	大木 俊英・鈴木 宏枝

【授業の内容】

この授業は、講義・発表・グループワーク・プレゼンテーションなどを通して、大学生生活全体のガイダンスと、大学での勉強の方法を身につけることを目標とする。大学入学後、勉強の仕方の違いに戸惑ったり、目標を見失ったりして大学生生活につまづく学生が少なくない。本授業は、比較的少人数での議論を中心としたゼミナール形式の授業を通して、スムーズに大学生活や大学での勉強になじむ手伝いをしようとするものである。半期だけの科目であるが、積極的に参加すれば、日ごろから問題意識を持って考える習慣が付き、また今後一緒に学ぶ仲間をよく知ることもでき、今後4年間のよい礎となるだろう。

【到達目標】

1. 大学での勉強や生活に慣れる。
2. 人前で明瞭に話をするようになる。
3. レポートやプレゼンテーションの仕方がわかる。
4. 大学生らしい考え方ができ、積極的に討論に参加できる。
5. 卒業後の進路を計画する習慣を身につける。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション (15分)、個人カードの記入&履修登録の確認 (30分)、アイスブレイキング (45分)
 第2回 キャンパスツアー (45分)、スポーツ大会メンバー決め (45分)
 第3回 図書館ツアー (45分)、活動「良いプレゼンテーションとは？」(45分)
 第4回 グループ発表準備等 (90分)
 第5回 グループ発表① (90分)
 第6回 グループ発表② (90分)
 第7回 グループ発表③ (90分)
 第8回 文章やレポートの書き方① (90分)
 第9回 文章やレポートの書き方② (90分)
 第10回 国際交流センター講話 (45分)、進路指導講話 (45分)
 第11回 ビブリオバトル① (90分)
 第12回 ビブリオバトル② (90分)
 第13回 ビブリオバトル③ (90分)
 第14回 ビブリオバトル④ (90分)
 第15回 ブックレポートピアレビュー (90分)

【授業の進め方】

授業の様々な活動は学生主体で行われる。グループ発表やブックレポート発表の後には討論を行うので、積極的に発言してほしい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

なし

【参考図書】

なし

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 30% 受講態度 30%

特記事項

「授業内小試験」はグループ発表およびビブリオバトルでのパフォーマンスを、「レポート・課題」はブックレポートのことを指す。「受講態度」は提出物や議論における積極性などで総合的に評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・絶対評価を基本とするが、原則「A」以上の評価は各クラス上位30%を上限として与える（「S」は上位5%まで）。
- ・欠席が3回以上の場合は原則「B」以下とする。3分の1を超えた場合は原則「H」とする。

【履修上の心得】

在学中の学生生活や勉強の基礎固めの科目。卒業に必要な必修科目であるので、欠席や遅刻には特に注意してほしい。クラスメイトとの関係づくりも目標の1つであるため、他者との関わりは大事にしてほしい。

科目名	フレッシュマンセミナー
教員名	伊東 孝郎・神戸 文朗

【授業の内容】

大学という新たなキャンパスで、学生生活が始まる。高校までは「生徒」と呼ばれてきたが、これからは「学生」となる。生徒の徒の字は「仲間」「無駄に」などという意味を持つが、学生は自ら「学んで生きる」者であり、主体的に学問に取り組みながら自分の生き方を真剣に模索することになる。試行錯誤を繰り返して自分の将来に対する確固たる足場を構築してもらいたい。

本科目は新入生にとって、これから4年間の大学生活を有意義に過ごすための道標となるであろう。また心理学専攻の学生としての自覚も身につけてもらいたい。

本セミナーにおいてはまず、白鷗大学での学生生活をスタートさせるにあたり、施設などに関する必要な情報を提供する。その後は「学び」を中心に据えて、スタディ・スキルを学びつつ、学生同士での議論やグループ学習、その他さまざまな交流を通して、学習から研究へと学び方を深化させるための基本的な態度を修得する。主体的に学ぶ体験をすることともに、将来の生き方や心豊かな人間関係のあり方についても考える機会を得ることであろう。

具体的には、授業に対する姿勢、ノートの取り方、図書や情報の収集・検索・整理、レポートの作成、プレゼンテーションの方法などについて取り上げる。また進路に関する話題や情報を積極的に取り上げ、ディスカッションを積み上げることで、キャリア意識を高め、自己実現を図るための布石としたい。

【到達目標】

- 充実した大学生活のスタートを切ることができる。
- 心理学専攻の学生としての自覚が身についている。
- 高いキャリア意識を持つ。
- 大学での「学び」について理解し、実践できる。
- クラスの仲間とよい関係が築ける。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
復習(60分): 講義を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第2回 大学施設案内1
復習(60分): 講義を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第3回 大学施設案内2
復習(60分): 講義を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第4回 大学での学習1
予習(45分): テキストを読んで、当該課題について調べる
復習(45分): 講義を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第5回 大学での学習2
予習(45分): テキストを読んで、当該課題について調べる
復習(45分): 講義を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第6回 大学での学習3
予習(45分): テキストを読んで、当該課題について調べる
復習(45分): 講義を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第7回 大学での学習4
予習(45分): テキストを読んで、当該課題について調べる
復習(45分): 講義を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第8回 大学での学習5
予習(45分): テキストを読んで、当該課題について調べる
復習(45分): 講義を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第9回 キャリアについて1 (進路指導室見学)
予習(45分): テキストを読んで、当該課題について調べる
復習(45分): 講義を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第10回 キャリアについて2
予習(45分): テキストを読んで、当該課題について調べる
復習(45分): 講義を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第11回 キャリアについて3
予習(45分): テキストを読んで、当該課題について調べる
復習(45分): 講義を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第12回 グループ学習1
復習(90分): グループ分けおよびグループでの研究テーマ決定プロセスについて振り返り、気づいたことや疑問点等をまとめる

第13回 グループ学習2

予習 (90分)：グループ研究テーマについて、メンバーと共に研究を行う

復習 (90分)：グループ研究の内容について、学んだことや疑問点等をまとめる

第14回 グループ学習3 (発表)

予習 (90分)：グループ研究発表の予行演習を行う

復習 (45分)：グループ研究発表を振り返り、気づいたことや疑問点等をまとめる

第15回 まとめ

予習 (90分)：15回の講義全体を通して学んだことや疑問点等をまとめる

復習 (90分)：講義を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる

【授業の進め方】

講義、演習、見学、グループ学習、プレゼンテーション、ディスカッションなどにより、主として以下の内容について学習する。

○施設見学

大学図書館・おもちゃライブラリー・進路指導室等を見学し、同時に利用の仕方について学ぶ。

○大学での学びと大学生活について

授業への取り組み・レポート作成・キャリアデザイン・交友・社会との関わり・アルバイトなどについて議論を深める。

○グループ学習

グループごとにテーマを設定し、学習し、プレゼンテーションを行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

・キャリアデザイン・ハンドブック (入学時に配布)

【参考図書】

必要に応じて、授業の中で適宜紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

評価は、授業態度・発表への取り組み・提出物の内容による。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

全回出席を基本とする。規定の回数以上欠席した学生は評価の対象とならない。

【履修上の心得】

本科目は、クラス単位で行われる数少ない科目であり、この科目にどのような態度で臨むかによって、今後の学生生活は大きく左右されるであろう。積極的に関与し、教員や学生とコミュニケーションを密にすることが、将来必ずプラスに作用するはずである。また学生同士の対話の中から、人間関係を円滑にする術を体得してもらいたい。心理学という人間を扱う学問を学ぶ以上、円滑な対人関係スキルの維持と発展を常に心がけること。

【科目のレベル、前提科目など】

本科目で学ぶ内容は、今後履修する科目すべての基礎といえる。

1年次配当必修科目であり、心理学専攻学生としての自覚と、大学での学びと学生生活の基礎を形成するための科目である。

【備考】

本セミナーは必修科目であるため、単位未修得の場合、卒業できないことを念頭に置いてもらいたい。

科目名	教育制度論
	授業形態：講義
教員名	荒川 麻里

【授業の内容】

教育制度の基本的な仕組みについて、歴史的な経緯や改革動向を含めて考察し、理解を深める授業です。各週のテーマを設定して、関連する文献やデータを読み解きながら取り組みます。

【到達目標】

- ①教育制度の基本的な枠組みを理解する
- ②教育制度について調べる技術を身につける
- ③教育制度について多面的に考察することができる

【授業計画】

- 第1回 教育とは何か
- 第2回 教育制度のはじまり
- 第3回 初等教育と基礎教育
- 第4回 家庭教育と就学前教育
- 第5回 子どもの権利と学習権
- 第6回 特別ニーズと特別支援教育
- 第7回 いじめ・体罰・虐待：安全保持義務と学校安全への対応
- 第8回 教師の職務と教育行政：学校と地域との連携
- 第9回 中等教育と専門教育
- 第10回 生涯学習と成人教育
- 第11回 就学義務と教育義務
- 第12回 教科書と検定制度
- 第13回 大学・高等教育と入学試験
- 第14回 教育を受ける権利
- 第15回 まとめ：学び続けるために

各回、以上のテーマを設定して取り組みます。

【授業の進め方】

参加型の授業で、グループ・ワークを中心に進めていきます。多くの人と意見交換を行うことで、自らの考えを深め、言語化することを学びます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業内で資料を配布予定です。

【参考図書】

- ・教育制度研究会編『要説 教育制度』（新訂第三版）、学術図書、2011年
- ・坂田仰ほか『図解・表解教育法規』（新訂第2版）、教育開発研究所、2014年
- ・解説教育六法編修委員会『解説教育六法』（平成29年版）三省堂、2017年
- ・窪田真二／小川友次『教育法規便覧』（平成29年版）、学陽書房、2017年
- ・平原春好／寺崎昌男編『教育小事典』学陽書房、2011年

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 60% 受講態度 0%

特記事項

授業内でレポートの相互評価を行います。ここでの取り組みは重要な評価の対象となります。

【履修上の心得】

グループでの活動を中心に進めますので、積極的に「話す」「聞く」にくわえ「書く」「読む」ことが求められる授業です。

【科目のレベル、前提科目など】

教職課程の必修科目です。

科目名	比較教育論
	授業形態：講義
教員名	荒川 麻里

【授業の内容】

比較の視点から教育事象を分析的に考察する授業です。各自が自由に調査テーマを設定し、比較の視点でその問題に取り組みます。授業では多様な視点を実感するためのグループ・ワークを中心とし、世界の教育の動向についても言及します。

【到達目標】

- ①比較教育の基本的な枠組みを理解する
- ②世界の教育について調べる技術を身につける
- ③教育について多面的に考察することができる

【授業計画】

- 第1回 はじめに：比較するということ
- 第2回 カメルーンの村から…学校を考える：自分だけのオリジナルな学校をつくる
- 第3回 ハワイの海から…世界をみつめる：知らない場所の教育を調べる
- 第4回 オルタナティブな教育から…自分をみつめる：比較の枠組みを設定する ※関心のある書籍3冊を持参
- 第5回 フィンランドの子どもの目線で…自分をみつめてもらう：ブレインストーミングでテーマを設定する
- 第6回 インドの働く子どもたちから…根源的な問題を探る：なぜなぜ5回でテーマを揺さぶる
- 第7回 ドイツの高等学校（ギムナジウム）から…問題を発見する：ドイツの入試体験
- 第8回 通学路から…夢を語る：仲間の言葉を引用する
- 第9回 カラハリ砂漠から…教育概念を再考する：2枚の絵手紙を書く
- 第10回 ポスターセッション①オアフ島
- 第11回 ポスターセッション②マウイ島
- 第12回 ポスターセッション③モロカイ島
- 第13回 ポスターセッション④ビッグ・アイランド
- 第14回 イランの子どもたちから…宿題をもらう：アカデミック・ライティング作法の確認
- 第15回 まとめとレポート相互評価

【授業の進め方】

参加型の授業で、グループ・ワークを中心に進めます。他者と協働し、積極的に話し合うことが必要な授業です。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業内で資料を配布予定です

【参考図書】

- ・二宮皓『新版 世界の学校—教育制度から日常の学校風景まで』学事出版、2013年
- ・『ユネスコ国際教育政策叢書』全シリーズ12巻、東信堂、2014-2016年
- ・国立教育政策研究所『教員環境の国際比較』明石書店、2014年
- ・長島啓記『基礎から学ぶ比較教育学』学文社、2014年
- ・文部科学省『諸外国の教育動向』（各年度版）明石書店

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 30% 授業内小試験 30% レポート・課題 40% 受講態度 0%

特記事項

調査研究の個人発表（ポスター・セッション）とそれに基づくレポート提出を必須課題とします。授業内でレポートの相互評価を実施します。ここでの取り組みは重要な評価の対象となります。

【履修上の心得】

第1回の講義に参加することが、履修の条件です。いかなる理由があっても、初回に欠席・遅刻の場合は履修放棄とみなします。実習等のある場合は事前にメールで連絡をしてください。自分や他人を尊重し協働できない場合は、実質的に参加が難しい授業です。了解の上で履修してください。

【科目のレベル、前提科目など】

「教育制度論」を履修していることが望ましい。

科目名	保育内容演習（健康）
	授業形態：演習/授業回数：15回（30時間）
教員名	岩城 淳子

【授業の内容】

乳幼児期における課題の一つに、親や保護者によって庇護された生活から、自ら考え行動できる生活へと移行していくことがあげられる。保育者には、子どもが他律的な健康管理から自律的な健康管理へつながる道すじを提示し、導いていくことが求められている。そのため健康領域の内容の理解と指導や援助の方法を学ぶ必要がある。

【到達目標】

授業の到達目標は、以下の3点である。

1. 乳幼児期の健康生活とは何かが分かるようになる。
2. その基礎となる健康観について考えられるようになる。
3. 子どもの発育発達過程に即して子どもを理解できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 子どもの健康とは
- 第2回 領域「健康」とは
- 第3回 子どもの身体発育と健康
- 第4回 子どもの心の発達と健康
- 第5回 子どもの生活と健康
- 第6回 基本的生活習慣の獲得
- 第7回 基本的生活習慣の指導・援助
- 第8回 0～2歳の発育を促す運動遊び
- 第9回 3～6歳の発育を促す運動遊び
- 第10回 食育と子どもの健康
- 第11回 子どもの病気
- 第12回 子どものけが
- 第13回 安全に対する意識
- 第14回 健康指導の計画・評価
- 第15回 就学までに育むこと

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①実践保育内容シリーズ1『健康』 ②谷田貝公昭 ③(株)一藝社 ④2014.4.1. ⑤2000円

購入方法については、授業の中で指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 20% 受講態度 20%

特記事項

成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。

受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

全回出席を原則とする。

【備考】

保育士資格取得のための重要な科目である。

科目名	保育内容演習（人間関係）
	授業形態：演習/授業回数：15回（30時間）
教員名	馬場 康宏

【授業の内容】

保育所保育指針に示されている、人と関わる力を養うための領域「人間関係」の内容と考え方を理解し、乳幼児期の人と関わる力やその発達について理解を深め、保育者の援助や指導のあり方について考える。

【到達目標】

- ・領域「人間関係」の内容と考え方を理解する。
- ・乳幼児期の対人関係の発達を理解する。
- ・保育者の援助や指導のあり方について基本的な心構えをもつ。

【授業計画】

- 第1回 幼児期の人と関わる実体験の意義（授業内で挙げたキーワードを用いて、授業内容を要約する：30分）
- 第2回 保育所に対する保護者の期待や不安について考える（本時の内容復習及び要点整理：30分）
- 第3回 幼稚園教育要領および保育所保育指針の構成・内容
（事前に「幼稚園教育要領」の領域「人間関係」の記述を確認：30分）
（本時の内容復習及び要点整理：30分）
- 第4回 保育所保育指針領域「人間関係」の位置づけ・内容
（事前に「保育所保育指針」の領域「人間関係」の記述を確認：30分）
（本時の内容復習及び要点整理：30分）
- 第5回 保育実践と領域「人間関係」の内容の関連を課題を通して学ぶ（本時の内容復習及び要点整理：30分）
- 第6回 対人関係の発達（乳児期）（本時の内容復習及び要点整理：30分）
- 第7回 対人関係の発達（幼児期）
復習課題1（これまでの授業全般を復習：90分）
- 第8回 保育計画と領域「人間関係」の配慮事項（本時の内容復習及び要点整理：30分）
- 第9回 事例から学ぶ（保育者の役割）（本時の内容復習及び要点整理：30分）
- 第10回 人と関わる力の育ちと友達関係の広がり（本時の内容復習及び要点整理：30分）
- 第11回 幼児の友達とのいざこざ・けんかの発達の意味
復習課題2（これまでの授業全般を復習：90分）
- 第12回 事例から学ぶ（保育者との信頼関係）（本時の内容復習及び要点整理：30分）
- 第13回 事例から学ぶ（幼児理解）（本時の内容復習及び要点整理：30分）
- 第14回 友達とうまく関われない幼児について原因・背景や対応について考える
（本時の内容復習及び要点整理：30分）
- 第15回 授業のまとめ
復習課題3（これまでの授業全般を復習：150分）

【授業の進め方】

視野を広げ問題意識を高めるために、講義に加えて演習課題やグループごとのディスカッション及び発表を適宜取り入れる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない。

必要な資料を配布あるいは提示する。

【参考図書】

適宜紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 0%

特記事項
毎授業で実施する演習課題による評価 40%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は「履修規程」に準ずる。
受験資格は「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

全回出席を原則とする。

能動的な受講姿勢を期待する。

科目名	保育内容演習（環境）
	授業形態：演習/授業回数：15回（30時間）
教員名	山野井 貴浩

【授業の内容】

子どもの成長を促す多様な環境のうち自然環境に焦点を当てる。様々な生き物を扱った実習を通して、自然環境を利用した保育活動の方法を習得する。また、身近なものを使った活動を体験することで、物の性質への気付き、数量や図形への関心、工夫することの大切さへの気付き等を養う保育活動の方法を習得する。

【到達目標】

生き物を利用した保育活動案を作成できる。

身近なものを使った活動を通して、物の性質への気付き、数量や図形への関心、工夫することの大切さへの気付きを深める保育活動案を作成できる。

【授業計画】

- 第1回 ダンゴムシの採集と観察、レース
授業内容の復習（ワークシートの考察課題）60分
- 第2回 ダンゴムシの飼育・絵本の紹介
授業内容の復習（ワークシートの考察課題）60分
- 第3回 春の昆虫と植物～季節によってどんな変化があるのかな～
授業内容の復習（ワークシートの考察課題）60分
- 第4回 アリの採集と観察～アリはどんなふうに生活しているのかな～
授業内容の復習（ワークシートの考察課題）60分
- 第5回 アリの巣の観察・絵本の紹介
授業内容の復習（ワークシートの考察課題）60分
- 第6回 カイコの飼育
- 第7回 オオオナモミを使った的当てゲームとアメリカザリガニ釣り
授業内容の復習（ワークシートの考察課題）60分
- 第8回 生物多様性の保全について考えるロールプレイ・ディスカッション
授業内容の復習（ワークシートの考察課題）60分
- 第9回 カイコの繭を使った工作
授業内容の復習（ワークシートの考察課題）60分
- 第10回 グループ発表準備～生物を用いた保育活動の提案～
- 第11回 グループ発表
- 第12回 新聞紙を使ったあそび
授業内容の復習（ワークシートの考察課題）60分
- 第13回 オリガミバード～どんな形が飛ぶのかな～
授業内容の復習（ワークシートの考察課題）60分
- 第14回 目に見えないものの様子を探究する
授業内容の復習（ワークシートの考察課題）60分
- 第15回 泥団子作り
授業内容の復習（ワークシートの考察課題）60分

【授業の進め方】

生き物を扱うことが多い授業です。生き物の観察や採集のため、野外に行くこともあるので、それに適した服装をしてきてください。毎回、ワークシートを配付します。ワークシートには授業内容と関連した課題があるので、翌週までにまとめ、提出してください。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特になし。

【参考図書】

必要に応じて紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 20%

特記事項

授業ワークシート60% グループ発表20%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は、履修規程に準ずる。受験資格は、保育士資格規程に準ずる。

科目名	保育内容演習（環境）
	授業形態：演習/授業回数：15回（30時間）
教員名	大高 泉

【授業の内容】

領域「環境」について、保育士として必要な知識と技能の基礎を演習・実習をとおして学ぶ。特に、身近な自然環境、そこでの自然の事物・現象・生物、あるいは物的環境について幼児の認識の実態を探るとともに、それにかかわる知識や技能を観察・実験・モノづくり・表現・あそび・ゲーム等々、多様な活動を通して学び、領域「環境」に関する保育活動の基礎的・実践的力量的向上を図る。

【到達目標】

保育内容（環境）の内容と意義について理解する。

自然の事物・現象・生物、あるいは物的環境について幼児の認識の実態を踏まえて、それらの環境を理解し、保育活動に活用できる。

【授業計画】

- 第1回 講義ガイダンス：領域「環境」の目標と内容構成（1）
- 第2回 領域「環境」の目標と内容構成（2）
- 第3回 環境にかかわる力（1）
- 第4回 環境にかかわる力（2）
- 第5回 ネイチャーゲームの理論とセンスオブワンダー
- 第6回 保育内容「環境」：自然環境・自然体験（1）
- 第7回 保育内容「環境」：自然環境・自然体験（2）
- 第8回 保育内容「環境」：自然環境・自然体験（3）
- 第9回 保育内容「環境」：生命の営みと尊重・栽培と飼育
- 第10回 保育内容「環境」：ものの性質・仕組み（1）
- 第11回 保育内容「環境」：ものの性質・仕組み（2）
- 第12回 保育内容「環境」：数量と図形（1）
- 第13回 保育内容「環境」：数量と図形（2）
- 第14回 保育内容「環境」：標識・記号・マップ
- 第15回 ドイツ「森の幼稚園」の自然体験と保育の実際

【授業の進め方】

環境領域それぞれについての幼児の認識の実態を学び、大学校内・近隣河川敷公園などの自然・環境を活用し、観察・モノづくり・制作・表現などの活動・実習をとおして、領域「環境」の基礎知識と技能を学ぶことができるように授業を進める。アクティブラーニングの様々なストラテジー（討論、グループ活動、フィールドワーク等々）を導入し、受講者の主体的対話的で深い学びを実現したい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特になし。

【参考図書】

必要に応じて紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 20% 受講態度 20%
 特記事項
 授業時間の取り組み・活動：60%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は、履修規程に準ずる。受験資格は、保育士資格規程に準ずる。

【履修上の心得】

観察・モノづくり・制作・表現などの活動・実習をに積極的・主体的に参加し、自己活動・共同活動を通して、領域「環境」の基礎知識と技能を学ぶように。

【科目のレベル、前提科目など】

関連科目

・教養科目として「環境科学」がある。

この科目は、幼稚園教育要領の5つの領域(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の一つである。

また、保育内容の環境を体験的に学習する科目でもある。

環境は、物的環境と心理的環境に分けられるが、ここでは主に自然環境や物質的環境を実習を通して理解を深める。

科目名	保育内容演習（言葉）
	授業形態：演習/授業回数：15回（30時間）
教員名	福崎 淳子

【授業の内容】

人間生活の営みのなかで、文字の文化がない社会はありますが、ことばがない社会はないといわれています。ことばというものが、人間にとってどれほど重要なものであるかがうかがえます。人間は、ことばを通して社会生活を営む「人」としての育ちも獲得していきます。そのことばの意味の深さとその重要性を考え、園生活を通して豊かなことばが獲得していけるようにするための保育者の援助や役割について、具体的なエピソードをもとに学んでいきます。

子どものことばの育ちにとって、生活の中できかわりをもつ周囲のおとなや保育者のことばが果たす役割はとても大きいといえます。私たちおとなは、どのようにことばを用い、どのように理解しているのでしょうか。人と人とのやりとりにおいて、どのようにことばが用いられているかを意識しながら、「ことば」への理解を深めていきます。

また、保育内容における5領域のうち、ことばの獲得に関する領域「言葉」の観点から子どもの育ちをとらえ、子どもが健やかに成長し、その活動が豊かに展開されていくための保育者としてのあり方を考えながら、保育内容についての理解を深めていきます。

【到達目標】

1. 保育内容のとらえ方および領域「言葉」の意味とその位置づけを理解する。
2. ことばの特徴とことばが育つ環境を理解し、ことばの育ちの過程の理解を深める。
3. 子どものことばがもつ意味世界や不思議さについて理解し、子ども理解を深める。
4. ことばの環境として大切な保育者の援助や役割について理解する。

【授業計画】

- 第1回 ことばへのいざない - ことばとは -
ことばについて考えるための発見学習をめざして：「これは何だろう」（グループ・ディカッション）
学習課題：ことばとは、私たちにとってどういう意味をもっているか、考えておく
- 第2回 保育内容における領域「言葉」の意味と位置づけ
学習課題：「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「言葉」のねらいと内容を確認しておく
- 第3回 ことばの特性とことばの育つ環境
- 第4回 ことばの育つ環境として文化について考える - 絵本・紙芝居・パネルシアターなどふれながら -
- 第5回 ことばのやりとりとかわりの大切さ① - ことばの発達について① -
乳児期のエピソードをもとに、乳児期に重要なやりとりについてグループディスカッション
- 第6回 ことばのかわりの大切さ② - ことばの発達について② -
ことばを獲得していく過程について
- 第7回 子どもの意味世界と不思議さ
子どもの言葉のやりとりに関するエピソードをもとにグループディスカッション
- 第8回 ことばでつくる世界① - お話しづくりにむけて -
お話しづくりの土台について考える
- 第9回 ことばでつくる世界② - 制作（グループ発表にむけてお話しづくりのグループワーク） -
学習課題：お話のグループ発表にむけて、制作を完成させる
- 第10回 お話しづくりのグループ発表
- 第11回 ことばと虚構の世界・創造の世界について
- 第12回 子どもたちのお話しづくり
ビデオ映像をもとに、グループディスカッション
- 第13回 子どもの心の育ちとことば① - 集団生活の場で必要とされることば -
事例をもとに、子どものことばの育ちをささえるための保育者の援助や役割について、意見交換（グループワーク）しながら考える。
- 第14回 子どもの心の育ちとことば② - 関係を深めることば -
事例をもとに、子どものことばの育ちをささえるための保育者の援助や役割について、意見交換（グループワーク）しながら考える。
- 第15回 まとめ - 園生活においてことばが豊かに育まれるために -

子どものことばの世界について、自らもかわりある事象としてその意味の深さをとらえながら、将来保育の担い手となるために必要とされる「ことば」についての知識や理解を深めるとともに、子どもを理解しようとする真摯な態度で取り組むことを願っています。

また、次週までに確認しておく内容や発表のための課題および授業の準備課題などが適宜出されます。授業時間以外での取り組みも学びを深めるための大切な取り組みです。積極的に取り組んでください。

【授業の進め方】

保育現場における実践的なエピソードやビデオ視聴を通し、グループワークによるディスカッションやディベート、

調査学習も取り入れながら、演習形式で進めます。

子どもにとってことばとは何か、ことばを育てるために保育者としてどのような援助のあり方が考えられるかなど、受講生とともに考えていけるような場をめざしながら進めていきたいと思えます。

グループワークも重視しますので、積極的に参加してください。

なお、授業の進度によって、授業計画の順番や内容を一部変更する場合があります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に指定しません。授業にあわせた資料を必要に応じて配付します。

【参考図書】

- ・「保育内容『言葉』」柴崎正行他編 ミネルヴァ書房 2010年
- ・「幼稚園教育要領」文部科学省 フレーベル館、「保育所保育指針」厚生労働省 フレーベル館、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 50% 受講態度 20%

特記事項

- ・「授業内小試験」とは、授業内において適宜行う「復習シート」の取り組みです。前週に学んだ内容について、復習のために行います。
- ・「レポート・課題」とは、授業内において適宜行う記述式の課題(授業の振り返り)や提出物 および「まとめのレポート(期末時のレポート)」を含みます。課題や提出物、まとめのレポートの指示を出しますので、その指示の内容に即してまとめてください。
- ・グループ討議への参加、お話しづくりにおけるグループワークの取り組みなどを含め、その発表の成果も受講態度として評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・成績評価の方法は、「履修規定」に準じます。
- ・受験資格は、「保育士資格規定」に準じます。
- ・演習授業ですので、グループ討議への参加、お話しづくりにおけるグループワークの取り組みなど、その発表の成果も含め、復習シート、課題、まとめのレポート(期末時のレポート)とともに総合的に評価します。

【履修上の心得】

- ・全回出席を原則とします。
- ・グループワークやディスカッションに積極的に参加し、他者の意見に耳を傾けながら、真摯に取り組むことを期待しています。
- ・日常的に子どものことばにふれる機会はたくさんあります。授業以外にも、電車のなかや公園など、日常的に目にする子どもの姿を通して、子どもとおとな、あるいは子ども同士のことばのやりとりに耳を傾けてみてください。

【科目のレベル、前提科目など】

保育士資格の取得に関する教科目における「保育の内容・方法に関する科目」系列の「保育内容演習」に位置づく領域「言葉」の科目であり、各領域の「保育内容演習」科目と深くつながりをもつ科目です。

【備考】

保育士資格取得のための重要な科目です。

科目名	ソルフェージュ
	音楽の基礎
	授業形態：演習/授業回数：30回（60時間）
教員名	荒井 弘高・今田 政成

【授業の内容】

当授業は歌唱の基礎・音楽の基礎等を教材とし、「うたう」ことを中心に、楽譜を読むために必要な基礎知識、正しい音程・リズムの習得、音楽的聴覚訓練、ハーモニー感覚を養う訓練等を行う。同時に発声法を学び、詩の朗読などを通しての言葉表現法、子どもの歌・世界の歌等による歌唱法（美しい日本語の発語法指導を含む）などを修得する。また、簡易伴奏法を学び、音楽の美しさ・楽しさ・面白さを体験する。

さらにはリズム教育を兼ね、アンクルン（竹のハンドベル）の組み立て、および演奏法指導を行う。同時に歌の伴奏に用いる方法も学ぶ。

【到達目標】

ソルフェージュは音楽の基礎教育を示す言葉であり、本学の音楽関係科目の基礎科目として位置付けている。

音楽は専門的な勉強を始める以前に、楽譜の決まりごと及び音符の読み方（ドレミ）等の基礎的な知識・技術の習得が必要とされる。したがって、当授業は音楽関係科目の教授内容を効果的、かつすみやかに展開させるために必要な音楽の基礎知識・技術を修得することを目指す。同時に言葉表現法も学び、これらを通して豊かな感性と表現力を身に付けた教師および保育士を育成することを目指す。

学生諸君はしっかりと基礎を身に付け、指導法へと進んでいってほしい。

【授業計画】

- 第1回 ・音楽を学ぶ上での心構えについて（ソルフェージュとは）
・楽典の基礎知識（復習30分）
・「歩いて行こう」歌唱法① 譜読み
- 第2回 ・楽典② 音名
・「歩いて行こう」歌唱法② 表現
・コールユーブンゲンNo.1の書き取り指導（予習60分）
・コンコーネ1番（階名唱）① 譜読み
- 第3回 ・楽典③ 音符と休符
・コールユーブンゲンNo.2・3の書き取り指導（予習60分）
・「きれいなところのみずうみ」歌唱法① 譜読み
・コンコーネ1番（階名唱）② 音程練習
- 第4回 ・楽典④ 第1章から3章までの練習問題
・「きれいなところのみずうみ」歌唱法② 表現
・コールユーブンゲンNo.4の書き取り指導（予習60分）
・コンコーネ2番（階名唱）① 譜読み
- 第5回 ・楽典⑤ 音程入門
・「もしもコックさんだったなら」歌唱法① 譜読み
・コールユーブンゲンNo.5・6の書き取り指導（予習60分）
・コンコーネ2番（階名唱）② 階名唱
- 第6回 ・楽典⑥ 音程解説
・「もしもコックさんだったなら」歌唱法② 表現
・コールユーブンゲンNo.7・8の書き取り指導（予習60分）
・コンコーネ3番（階名唱）① 譜読み
・コールユーブンゲンNo.1
- 第7回 ・「もしもコックさんだったなら」歌唱法③ 替え歌
・「春が来た」「春の小川」歌唱法① 譜読み
・コールユーブンゲンNo.2
・コンコーネ3番（階名唱）② 階名唱
・楽典、音程課題消化① 練習問題（予習60分）
- 第8回 ・「もしもコックさんだったなら」歌唱法④ 替え歌の発表
・「春が来た」「春の小川」歌唱法② 表現
・コールユーブンゲンNo.3
・コンコーネ4番（階名唱）① 譜読み
・楽典、音程課題消化② 練習問題消化（予習60分）
- 第9回 ・「われは海の子」「富士山」歌唱法① 譜読み
・コールユーブンゲンおよび課題消化① No.3のe（予習60分）
・コンコーネ4番（階名唱）② 移動ド唱法入門
・楽典、音程課題消化③ 練習問題（予習60分）
- 第10回 ・「われは海の子」「富士山」歌唱法② 表現
・コールユーブンゲンおよび課題消化② No.6のe（予習60分）

- ・コンコーネ 4 番 (階名唱) ③ 移動ド唱法反復練習
- ・言葉表現法① イントネーション
- 第11回 ・「われは海の子」「富士山」歌唱法③ 詞の抑揚に合わせた歌唱法
- ・コールユープンゲンおよび課題消化③ No.13のa (予習60分)
- ・コンコーネ 5 番 (階名唱) ① 譜読み
- ・言葉表現法② 歌詞の朗読
- 第12回 ・「われは海の子」「富士山」歌唱法④ 歌唱法の復習
- ・リズムトレーニング① ステップ1・2
- ・コンコーネ 5 番 (階名唱) ② 移動ド唱法入門
- 第13回 ・「ホルデイリディア」歌唱法① 譜読み
- ・コンコーネ 5 番 (階名唱) ③ 移動ド唱法反復練習
- ・リズムトレーニング② ステップ1・2
- ・リズムトレーニング課題消化① ステップ1の7 (予習60分)
- 第14回 ・「ホルデイリディア」歌唱法② リズムトレーニングを兼ねた歌唱法
- ・コンコーネ 1 番から 5 番 (階名唱) 復習
- ・リズムトレーニング③ ステップ3
- ・リズムトレーニング課題消化② ステップ2の11 (予習60分)
- 第15回 ・コールユープンゲン総復習
- ・コンコーネ 1 番から 5 番 (階名唱) 復習
- ・リズムトレーニング課題消化③ ステップ3の7 (予習60分)
- ・前期のまとめ
- 第16回 ・子どもの頃歌って遊んだ「歌」発表会 (予習120分)
- ・コンコーネ 6 番 (階名唱) ① 譜読み
- 第17回 ・「子どもの歌」自作自演発表会 (予習120分)
- ・簡易伴奏法解説① 和音入門
- ・コンコーネ 6 番 (階名唱) ② 階名唱
- 第18回 ・アングルン (竹のハンドベル) 製作① 組み立て
- 第19回 ・アングルン製作② 音程合わせ
- 第20回 ・アングルン演奏法① グループ編成・自由曲決め
- ・簡易伴奏解説② 3コードの説明
- 第21回 ・アングルン演奏法② グループごとの練習 (予習60分)
- ・簡易伴奏解説③ 3コードハンドサイン
- 第22回 ・アングルン演奏法③及びグループごとの発表会 (予習60分)
- 第23回 ・声はどこからくるの
- ・コンコーネ 7 番 (階名唱) ① 譜読み
- ・「紅葉」歌唱法① 譜読み
- ・「七つの子」歌唱法① 譜読み
- ・「ホルデイリディア」合唱表現法① 譜読み
- 第24回 ・発声法① おなか周りの筋肉トレーニング
- ・コンコーネ 7 番 (階名唱) ② 移動ド唱法
- ・「紅葉」歌唱法② 表現
- ・「七つの子」歌唱法② 表現
- ・「ホルデイリディア」合唱表現法② 表現
- 第25回 ・発声法② 喉周りの筋肉トレーニング
- ・コンコーネ 8 番 (階名唱) ① 譜読み
- ・「ほたるこい」の合唱表現法① 譜読み (予習60分)
- 第26回 ・発声法③ 腹式呼吸
- ・コンコーネ 8 番 (階名唱) ② 移動ド唱法
- ・「ほたるこい」合唱表現法② 表現 (予習60分)
- ・言葉表現法④ 標準語について
- 第27回 ・発声法④ 表情筋トレーニング
- ・コンコーネ 9 番 (階名唱) ① 譜読み
- ・「雪」「蛙の夜まわり」歌唱法① 譜読み
- ・「ほたるこい」合唱表現法③ グループごとの練習 (予習60分)
- ・言葉表現法⑤ 標準語にて詩の朗読
- 第28回 ・発声法⑤ 総合トレーニング
- ・コンコーネ 9 番 (階名唱) ② 複合拍子の習得
- ・「蛙の夜まわり」歌唱法② 手遊び
- ・「ほたるこい」発表会 (グループごと) (予習60分)
- 第29回 ・発声法⑥ 総合トレーニングの復習
- ・コンコーネ 9 番 (階名唱) ③ 復習
- ・歌唱試験曲の歌唱法① 「富士山」 (予習60分)

- 第30回 ・発声法⑦ 反復練習
・コンコーネ 1 から 9 番 階名唱の復習
・歌唱試験曲の歌唱法② 「われは海の子」(予習60分)

【授業の進め方】

- ・ 講義内容にしたがって課題を設け、うたうことを中心に反復練習しながら、音楽の技術の習得を目指し、授業を行ってゆく。
- ・ グループワークを数多く取り入れ、お互いの良い面・足りない面をディスカッションしながら音楽技術の向上を目指す。
- ・ 人前で演奏することに慣れるため、その成果を個人およびグループでの発表する場を設ける。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①歌唱の基礎 ②荒井弘高、中尾かつ江、三沢大樹 ③圭文社 ④2013年3月 ⑤2,200円
①音楽の基礎 ②荒井弘高 ほか7名 ③圭文社 ④2008年4月 ⑤1,800円
①アンクルン(後期) ⑤2,300円

【参考図書】

授業に必要な事項は「歌唱の基礎」に盛り込まれているが、必要に応じて楽譜及び音楽系書籍の参考図書を指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 20%

特記事項

- ・ 成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。
- ・ 受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。
- ・ 受講態度、講義内容ごとの課題消化度及び歌唱試験により評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

前期授業中に行う課題消化は必ず前期のうちに終了するよう努めること。
また、課題消化が終了していない場合は単位認定はできない。

【履修上の心得】

- ・ 全回出席を原則とする。
- ・ 実技系の科目では、その基礎能力がどのくらいあるかが、その後の展開に大きく影響する。「うたって弾ける」先生を目指し、少しでも音楽的基礎能力が向上するよう、努力すること。

【科目のレベル、前提科目など】

- ・ 1年次においては、当授業において基礎を学びながら音楽実技Ⅰを履修する事が望ましい。その後音楽実技においては、音楽実技Ⅱ・音楽実技ⅢA・音楽実技ⅢBへと4年間履修が可能である。また、リトミック・歌唱表現の専門科目、保育内容指導法(音楽表現)、音楽科概説Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、音楽科教育法へと展開できる。
- ・ 児童教育専攻学生のために開講されている音楽関係科目の基礎科目である。他の音楽関係科目を履修する者は、最初に当授業を履修してほしい。
- ・ 小学校コースの学生にとっては、指導法を学ぶための基礎知識を得ることのできるたいへん重要な科目である。
- ・ 幼児教育・保育コースの学生にとっては、保育士資格取得のための重要な科目である。

科目名	歌唱表現
	日本の名歌を訪ねて（童謡を中心として）
	授業形態：演習/授業回数：30回（60時間）
教員名	荒井 弘高・伊藤 裕美

【授業の内容】

「日本の名歌を訪ねて」をテーマとし、そのルーツを探り、とかく忘れがちな日本の文化に触れながら歌唱表現法の研究を行う。

主な内容は童謡・歌曲等を教材とし、個人の能力に合わせ発声指導を行いながら歌唱における美しい日本語の発語法を学び、作品が作られた時代の状況・社会的背景を加味した歌唱表現法を、歌唱・伴奏両面から研究する。

【到達目標】

できるだけ多くの「日本の子どものうた」に触れ、歌唱できるレパートリーを増やすことを通して、自らの音楽的感性を高めることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 ・授業内容説明
・発声法の修得1 呼吸法（復習毎日15分）
・わらべうた及び戦前の童謡解説
- 第2回 ・発声法の修得2 呼吸法筋力トレーニング（復習毎日15分）
・わらべうた及び戦前の童謡歌唱表現研究1 各自戦前の歌で知っている曲を探してみよう（予習・復習30分）
- 第3回 ・発声法の修得3 腹式呼吸（復習毎日15分）
・わらべうた及び戦前の童謡歌唱表現研究2 各自戦前の歌で知っている曲を歌ってみよう（予習・復習30分）
- 第4回 ・発声法の修得4 腹式呼吸筋力トレーニング（復習毎日15分）
・わらべうた及び戦前の童謡歌唱表現研究3 各自戦前の歌で知っている曲の背景を調べてみよう（予習・復習30分）
- 第5回 ・発声法の修得5 腹式呼吸反復練習（復習毎日15分）
・わらべうた及び戦前の童謡歌唱表現研究4 各自戦前の歌で知っている曲の表現方法を探ってみよう（予習・復習30分）
- 第6回 ・発声法の修得6 腹式呼吸総合筋力トレーニング（復習毎日15分）
・わらべうた及び戦前の童謡歌唱表現研究5 各自戦前の歌で知っている曲の伴奏法を探ってみよう（予習・復習30分）
- 第7回 ・発声法の修得7 表情筋の使い方（復習毎日15分）
・わらべうた・戦前の童謡歌唱表現研究6 各自戦前の歌で興味のある曲の表現方法を探ってみよう（予習・復習30分）
- 第8回 ・発声法の修得8 表情筋トレーニング（復習毎日15分）
・戦前の童謡歌唱表現研究7 各自戦前の歌で興味のある曲の表現方法をピアノ伴奏の視点から探ってみよう（予習・復習30分）
- 第9回 ・発声法の修得9 表情筋総合トレーニング（復習毎日15分）
・戦前の童謡歌唱表現研究8 各自戦前の歌で興味のある曲の表現方法をピアノ伴奏者とアンサンブルしてみよう（予習・復習30分）
- 第10回 ・発声法の修得10 発声法総合トレーニングの解説（復習毎日15分）
・戦前の童謡歌唱表現研究9 各自戦前の歌で選曲した曲の指導上での留意点を発表してみよう（予習・復習30分）
- 第11回 ・発声法の修得11 発声法総合トレーニング（復習毎日15分）
・戦前の童謡歌唱表現研究10 各自戦前の歌で選曲した曲をピアノ伴奏者とアンサンブルしてみよう（予習・復習30分）
- 第12回 ・発声法の修得12 発声法反復トレーニングの注意点（復習毎日15分）
・戦前の童謡歌唱表現研究11 各自戦前の歌で選曲した曲を、発表会を前提に言葉の面から表現方法を探ってみよう（予習・復習30分）
- 第13回 ・発声法の修得13 発声法反復トレーニング（復習毎日15分）
・戦前の童謡歌唱表現研究12 各自戦前の歌で選曲した曲を、発表会を前提にハーモニーの面から表現方法を探ってみよう（予習・復習30分）
- 第14回 ・発声法の修得14 まとめ（復習毎日15分）
・戦前の童謡歌唱表現研究13 各自戦前の歌で選曲した曲を、発表会を前提にメロディーの面から表現方法を探ってみよう（予習・復習30分）
- 第15回 ・前期のまとめ、および各自選曲による発表会（予習60分）
- 第16回 ・発声練習（復習毎日15分）
・戦後の童謡歌唱表現研究1 作曲家研究（予習・復習30分）

- 第17回 ・発声練習（復習毎日15分）
 ・戦後の童謡歌唱表現研究 2 作詞家研究（予習・復習30分）
- 第18回 ・発声練習（復習毎日15分）
 ・戦後の童謡歌唱表現研究 3 中田喜直の世界（予習・復習30分）
- 第19回 ・発声練習（復習毎日15分）
 ・戦後の童謡歌唱表現研究 4 中田喜直の童謡を各自歌ってみよう（予習・復習30分）
- 第20回 ・発声練習（復習毎日15分）
 ・戦後の童謡歌唱表現研究 5 中田喜直の童謡を各自伴奏者とディスカッションしながら表現方法を探ってみよう（予習・復習30分）
- 第21回 ・発声練習（復習毎日15分）
 ・戦後の童謡歌唱表現研究 6 中田喜直の童謡を各自伴奏者とアンサンブルしてみよう（予習・復習30分）
- 第22回 ・発声練習（復習毎日15分）
 ・戦後の童謡歌唱表現研究 7 中田喜直の童謡を各自伴奏者と一緒にアンサンブルし、留意点等を発表してみよう（予習・復習30分）
- 第23回 ・発声練習（復習毎日15分）
 ・戦後の童謡・新しい子どものうた歌唱表現研究 1 湯山昭の世界研究（予習・復習30分）
- 第24回 ・発声練習（復習毎日15分）
 ・戦後の童謡・新しい子どものうた歌唱表現研究 2 湯山昭の知っている童謡を歌ってみよう（予習・復習30分）
- 第25回 ・発声練習（復習毎日15分）
 ・戦後の童謡・新しい子どものうた歌唱表現研究 3 湯山昭の歌ったことのない童謡を各自選曲し、その曲を分析してみよう（予習・復習30分）
- 第26回 ・発声練習（復習毎日15分）
 ・戦後の童謡・新しい子どものうた歌唱表現研究 4 湯山昭の選曲した曲を伴奏者とアンサンブルしてみよう（予習・復習30分）
- 第27回 ・発声練習（復習毎日15分）
 ・戦後の童謡・新しい子どものうた歌唱表現研究 5 湯山昭の選曲した曲を伴奏者と一緒に表現方法を探ってみよう（予習・復習30分）
- 第28回 ・発声練習（復習毎日15分）
 ・戦後の童謡・新しい子どものうた歌唱表現研究 6 湯山昭の選曲した曲を伴奏者と言葉表現を加味した表現方法を探ってみよう（予習・復習30分）
- 第29回 ・発声練習（復習毎日15分）
 ・戦後の童謡・新しい子どものうた歌唱表現研究 7 選曲した曲の表現方法を皆でディスカッションしてみよう（予習・復習30分）
- 第30回 ・発声練習（復習毎日15分）
 ・戦後の童謡・新しい子どものうた歌唱表現研究 8 湯山昭の選曲した曲を伴奏者と演奏してみよう（予習・復習30分）
 ・歌唱表現のまとめ

当授業は、発声法および歌唱表現法を個人の能力に応じて指導する。年度末試験ではその成果を発表するために白鷗ホールにて発表会形式による試験を行う。

【授業の進め方】

- ・我が国の「うた」の歴史を把握するため、前期は戦前、後期は戦後作曲された作品を中心に歌唱表現法の研究を行う。同時にCD・DVD等による鑑賞を行う。なお童謡演奏会等を鑑賞する機会も設けたい。
- ・この講義は、学生自身お互いに伴奏を弾き合い、「ピアノ」「歌唱」両面より歌唱表現法の研究を行なう。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①歌唱の基礎 ②荒井弘高、中尾かつ江、三沢大樹 ③圭文社 ④2013年3月 ⑤2,200円
- ①日本の子どもの歌 ②全国大学音楽教育学会 ③音楽之友社 ④2013年5月 ⑤2,600円

- ・1年次に購入した「歌唱の基礎」を使用する。
- ・その他必要に応じ指示した教材を各自用意すること。

【参考図書】

授業時に適時指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 50%

特記事項

- ・成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。

- ・受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。
- ・平常時の消化度、発表会形式による試験により評価する。

【履修上の心得】

- ・全回出席を原則とする。
- ・実技科目であるので、常に動きやすい服装で受講すること。
- ・授業内において習得した技術は、日常反復練習すること。

【科目のレベル、前提科目など】

- ・ソルフェージュ受講済みが前提条件である。
- ・ソルフェージュの授業で音楽の基礎知識を学び、当授業と音楽実技を受講することにより、教育現場の先生に求められる「うたって弾ける」技術を十分身につけることが出来る。勿論教育実習では大いに役立つであろう。また保育内容研究・演習(音楽表現)、音楽概説Ⅱ・Ⅲ、音楽科教育法へと容易に展開できる。
- ・特に幼児教育・保育コースの学生にとっては、保育士資格取得のための重要な科目である。
- ・当授業は専門科目であるため、受講希望者は音楽の基礎知識が必要とされる。

科目名	リトミック入門
	授業形態：演習
教員名	吉田 裕昭

【授業の内容】

リトミックは、スイスの作曲家・教育者E・J＝ダルクローズにより創始されたユニークな音楽教育法である。しかし、その目的は「感性を磨き、身体と精神の一致・調和のとれた人格形成を目指す」ことにある。すべての可能性・能力発展の源泉を身体行動の中に求め、それを通じて諸感覚機能の発展を促し、創造性・想像性の上になった教育活動の中に、人間性を高めていこうとするものである。すなわち、人間教育こそがリトミックの目指すところであり、領域“表現”の狙いと合致するところでもある。

本来、リトミックは「リズム」といわれる身体活動、「ソルフェージュ」「即興演奏」の3分野から成り立っている。聴覚を使ってしか感じる事の出来ない、抽象芸術である音楽を、全身体を使い、体験を通して具体的に学ぶというものである。

この講義では、幼児・児童教育におけるリトミックの価値を認識し、指導者としての実力向上を目指すとともに、リトミックをまさに身をもって体験し、自分自身の感覚を研ぎ澄まし、感性を養うことを目的として進めていく。

【到達目標】

他の講義とは異なる授業形態に慣れ、心地よいプレッシャーの下で自分で考え、自分で行動するということを実体験する。

【授業計画】

- 第1回 受講の際の注意事項、及びリトミックについての説明。
- 第2回 ソルフェージュ：トータルメモリー、終止感、全音、半音。(導入)
リズム：ビート、テンポ、リズム。
- 第3回 ソルフェージュ：トータルメモリー、終止感、全音、半音。(初級)
リズム：音符。
- 第4回 ソルフェージュ：トータルメモリー、終止感、全音、半音。(中級)
リズム：リズムパターン。
- 第5回 ソルフェージュ：トータルメモリー、終止感、全音、半音。(上級)
リズム：2拍子のリズム。
- 第6回 ソルフェージュ：トータルメモリー、終止感、全音、半音。(応用)
リズム：3拍子のリズム。
- 第7回 ソルフェージュ：3音列。
リズム：第6回の続き。
- 第8回 ソルフェージュ：4音列。(初級)
リズム：4拍子のリズム。
- 第9回 ソルフェージュ：4音列。(中級)
リズム：2種類のビート。
- 第10回 ソルフェージュ：長音階。
リズム：ビートの分割。
- 第11回 ソルフェージュ：音階の中の半音の働き。(導入)
リズム：カノン。
- 第12回 ソルフェージュ：音階の中の半音の働き。(初級)
リズム：8分の6拍子のリズム。
- 第13回 まとめ。および授業内テスト課題提示。
- 第14回 授業内テスト1回目。ソルフェージュ部門実施。
- 第15回 授業内テスト2回目。リズム部門実施。

この時間は、リトミックの本来の姿を体験し、音楽の3要素の中で、最も強い影響力を持つリズムとそれに伴うニュアンス、より深く音楽を感じ取り、聴き取るためのソルフェージュ力の体得を目指す。

【授業の進め方】

講義とともに、音楽がどのように出来ているか、歌い、全身体を動かし、実感として体験し、理解できるように進めていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①アロノフ先生のリトミック教室 ②フランシス・ウェバー・アロノフ著 吉田裕昭訳 ③ドレミ楽譜出版社 ⑤2000円

購入方法については初回授業で指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 60% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

平素の授業における態度・小テストの成績により、評価する。

平常点40パーセント（提出物含む）、小テスト60パーセント。

【履修上の心得】

受講の際は、動きやすく、床に直接座っても差しさわりのない服装で参加すること。スカートは認めない。裸足で行うが、場合によっては、底の薄い上履きの着用を認める。この講義は、知識を得ることだけが目的ではなく、自分自身で経験を積むことが何よりも大切なので、積極的に参加し、自分の個性を十分に発揮して、楽しく受講することを望む。講義を行う部屋のスペースの関係で、定員を50名とする。それを超えた場合は、抽選とする。

【科目のレベル、前提科目など】

ある程度(バイエル位)のピアノの技術、基本的音楽理論の知識は必要。また、それに対する向上心。

心理学・教育学・教育心理学・幼児心理学等の基本的な知識も必要。また、それに対する好奇心・探究心。

幼児教育、児童教育、音楽療法、音楽教育の分野で、多数のリトミック指導者が活躍している。将来的に最もニーズが期待されるのは、音楽療法の分野であろう。

この科目は、日本では、子供のための教育・楽器を学ぶ際の導入方法という認識が多いが、本来、音楽を学ぶ学生のソルフェージュ能力の向上を目指して、始められたものである。そして、その後の研究により、全ての年齢層の人に対応できる生涯教育として再認識されつつある。また、近年は音楽療法の分野でリトミックの価値が高く認められている。

また、リトミックの指導者には、国際免許制度があり、リトミックを取り入れている国々(アメリカ・イギリス・フランス・ドイツ・スイス・イタリア・スペイン・ポーランド・オーストラリア・カナダ等々)では、その資格が公的に認められているところも多い。現在までに、日本人の資格取得者は、約百名。

科目名	造形
	授業形態：演習/授業回数：30回（60時間）
教員名	齋藤 千明

【授業の内容】

学習指導要領をもとに造形表現活動を指導する上で必要な教材、材料、道具などに関する基本的な知識と技能を習得し、表わしたいことを絵や立体、工作に表わす活動、作品を鑑賞する活動において子どもを主体にした柔軟な題材の開発と指導の在り方について実践を通して考えていく。

【到達目標】

造形遊びは子どもの発想を広げ創造性を高めることができる中心的な活動で成長、発達に欠くことのできない重要な表現活動である。

当講座は実習演習を通して子どもの意欲をかき立て豊かな感性を育む造形活動の指導に必要な知識や技術、鑑賞について理解を深めることを目的とする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 実習内容と受講にあたっての心構えについて説明する
- 第2回 絵に表わす 絵具の種類と組成について「水彩絵の具、油絵の具、アクリル絵具」
- 第3回 絵に表わす 顔料と染料、自然素材を用いた絵の具作り「土から絵の具を作って描く」素材採集 課題①
- 第4回 絵に表わす 「土から絵の具を作って描く」展色剤を混合して絵の具を作る 課題①
- 第5回 絵に表わす 「土から絵の具を作って描く」土の色からイメージして題材を決め描画する 課題①
- 第6回 絵に表わす 「土から絵の具を作って描く」完成・発表(土絵の具の特性についてディスカッション) 課題①
- 第7回 立体に表わす 粘土の種類と特性・手作り粘土の素材と作り方解説
- 第8回 立体に表わす 土粘土で球体を作る(成形) 課題②
紙粘土を作る(古紙から作る紙粘土) 課題③
- 第9回 立体に表わす 土粘土で球体を作る(成形・乾燥・仕上げ)完成 課題②
紙粘土造形 課題③
- 第10回 立体に表わす 紙粘土造形 完成 課題③
小麦粉粘土を作る 課題④
- 第11回 立体に表わす 小麦粉粘土造形 完成
課題②③④作品発表 それぞれの特性、造形方法、完成作品についてディスカッションを行う
- 第12回 絵に表わす アクリル絵画を用いて描く「静物画」絵の具の特性と描画方法について 課題⑤
- 第13回 絵に表わす アクリル絵画を用いて描く「静物画」描画 課題⑤
- 第14回 絵に表わす アクリル絵画を用いて描く「静物画」作品完成・発表と鑑賞 課題⑤
- 第15回 絵に表わす さまざまな画材で描く 描画混合技法(各自題材を設定して描く)
(水彩・アクリル・ペン・マーカー・クレヨン・クレパス)描画材料の特性について解説後、作品制作を進める 課題⑥
- 第16回 絵に表わす さまざまな画材で描く 描画混合技法(各自題材を設定して描く)
(水彩・アクリル・ペン・マーカー・クレヨン・クレパス)作品完成 描画材料の特性と表現方法についてディスカッション 課題⑥
- 第17回 色で表わす 色彩の基礎「配色とデザイン・色彩調和の基本」 課題⑦
- 第18回 色で表わす 色画用紙を用いて作る季節のポップアップカード 課題⑦
- 第19回 色で表わす 色画用紙を用いて作る季節のポップアップカード 作品完成・発表 課題⑦
- 第20回 版に表わす 版表現について「版画の種類と技法説明」 課題⑧
- 第21回 版に表わす 紙版画制作「紙を用いた凹凸版摺りの制作方法」 課題⑧
- 第22回 版に表わす 紙版画制作・題材「人物」製版1, 紙を貼り下地を作る 課題⑧
- 第23回 版に表わす 紙版画制作・題材「人物」製版2, 版を完成させる 課題⑧
- 第24回 版に表わす 紙版画制作・題材「人物」試し摺り 課題⑧
- 第25回 版に表わす 紙版画制作・題材「人物」本摺り・完成 作品鑑賞 課題⑨
- 第26回 版に表わす 木版画制作・テーマ「白黒で表わす」題材設定 課題⑨
- 第27回 版に表わす 木版画制作・テーマ「白黒で表わす」版を彫る 課題⑨
- 第28回 版に表わす 木版画制作・テーマ「白黒で表わす」和紙に摺る 課題⑨
- 第29回 版に表わす 木版画制作・テーマ「白黒で表わす」完成・発表, 作品鑑賞 課題⑨
- 第30回 プレゼンテーション (一年間を通して学んだことを子どもたちの造形表現活動にどのように実践するか)

【授業の進め方】

各課題制作前に材料の特質や扱い方について説明する。その基本を踏まえて学生が自ら使い方や表現方法等を発見する場としたい。

1つの課題は2回～5回で完成させるが実習状況により制作課題が前後、同時進行することがある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①幼稚園教育要領 ②文部科学省 ③教育出版株式会社 ④2015年5月12日 ⑤152円＋税 ⑥978-4-316-30012-2
①幼保連携型認定こども園教育・保育要領 ②内閣府・文部科学省告示第1号・厚生労働省 ③株式会社フルーベル館
④2015年6月22日 ⑤150円＋税 ⑥978-4-577-81367-6
①小学校学習指導要領図画工作解説編 ②文部科学省 ③日本文教出版株式会社 ④2016年1月8日 ⑤81円＋税 ⑥978-4-536-59001-3

必要に応じてプリント等を用意する。

講義形態の特色は実技演習である。

各自、基本的な画材を準備する(はさみ・水性のり・定規・カッターナイフ・カッターマット(A4サイズ程度)・鉛筆・消しゴム・色鉛筆(24色程度))

上記の他、課題制作で必要となるアクリル絵の具セットと描画・工作用紙は第1回目の講義で指示する。

【参考図書】

アートフル図工の授業 内野務 中村隆介(日本文教出版)

わくわく図工レシピ集 岡田京子(東洋館出版社)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

課題9作品の提出による評価及び作品完成時のプレゼンテーション内容による

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。
- ・受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

全回出席を原則とする。

課題制作は、指導方法等を考える意識を持ちながら学んでほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

- ・美学…美術教育に幅広い視野を持つ
- ・造形教材研究…造形の講座で修得したものをより深く研究し将来の現場で生かせる講座。
- ・絵画表現法…色彩の知識と造形の修得

造形分野の基本 当講座は、入門、導入的科目であり、基本的内容の技術修得と展開を目指すことを主な目標としている。したがって、ものを制作するばかりではなく、指導者としての自覚に沿って考える講座である。

科目名	社会福祉
	授業形態：講義/授業回数：15回（30時間）
教員名	川瀬 善美

【授業の内容】

この授業では、1) 社会福祉とは何か 2) 社会福祉の必要性 3) 社会福祉の理念 4) 社会福祉の方法 5) 社会福祉の歴史 6) 社会福祉の展開について学ぶ。

具体的には以下の諸点についての理解を深めることを目的とする。

1. 現代社会における社会福祉の意義、理念について理解する。
2. 社会福祉の法体系、制度及び行財政の要旨を理解する。
3. 社会福祉サービス体系における公私の役割活動について理解する。
4. 社会福祉援助技術及び福祉専門職の役割について理解する。
5. 社会福祉の関連領域－医療福祉・地域福祉・ボランティア活動の概要を把握する。
6. 現代における利用者保護制度（第三者評価、苦情解決、権利擁護、情報提供等）を理解する。

【到達目標】

社会保障、社会福祉、公的扶助に関心を持ち、現状と課題について正しい判断と批判能力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 社会福祉とは何か
我が国の社会保障体系について学ぶ
- 第2回 社会福祉の理念
憲法13条、憲法25条の精神・具体的に意味するものについて学ぶ
- 第3回 社会福祉の理念と具現化
社会福祉6法について学ぶ
生活保護法について学ぶ
- 第4回 社会福祉の必要性と意義
児童福祉法と我が国の子供が抱える問題（子供の貧困、虐待、保育所入所待機児童問題等）
児童福祉法の概要について学ぶ
- 第5回 社会福祉の体系1
高齢者に対する社会福祉制度（介護保険等）について学ぶ
- 第6回 社会福祉の体系2
生活困窮者に対する福祉制度、生活支援に（生活保護法等）について学ぶ
- 第7回 社会福祉の体系3
障害児・者に対する福祉制度、生活支援に（障害者総合支援法等）について学ぶ
- 第8回 社会福祉の体系4
我が国の家族問題の現状について学ぶ
片親家庭への支援（母子及び寡婦福祉法）について学ぶ
- 第9回 社会福祉の行政、実施機関について学ぶ
福祉事務所、児童相談所、民生委員、社会福祉協議会等について学ぶ
- 第10回 社会福祉サービス体系における公私の役割について学び理解し、地域福祉・ボランティア活動について学ぶ
- 第11回 現代における利用者保護制度（第三者評価、苦情解決、権利擁護、情報提供等）を理解する。
- 第12回 社会保障制度の今日的動向
社会保険（特に医療保険、年金保険、介護保険）の今後予想される動向について、またそれにより国民生活にどのような影響が予想されるかについて学ぶ
- 第13回 社会福祉の今日的動向
社会福祉基礎構造改革以降の動向について学ぶ
措置から契約型へ、応能型負担から応益型負担へ、国から地方自治体への権限移譲（地域密着型サービスの出現等）について学ぶ
- 第14回 社会福祉領域で起こった歴史的出来事について考える
朝日訴訟、ハンセン氏病をめぐる裁判、足尾銅山鉱毒問題をはじめとする公害問題等が私たちに示唆することについて学ぶ
- 第15回 我が国の社会保障と社会福祉の現状と課題
この科目のまとめを行う

【授業の進め方】

主として講義方式で授業を進めるが、必要に応じてグループ討論や課題発表を行ってもらおう。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①保育をめざすひとの社会福祉 ②相澤譲治 編 ③みらい ⑤¥2000

①保育福祉小六法 2017年版 ②保育福祉小六法編集委員会 編 ③みらい ⑤¥1600

その他、必要な資料については事業時に配布する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

評価は絶対評価とする。

テストはアチーブメント方式で20題出題する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。
- ・受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

- ・全回出席を原則とする。
- ・社会福祉Bも合わせて履修することが望ましい。

【科目のレベル、前提科目など】

社会福祉B

科目名	社会福祉B
	授業形態：講義/授業回数：15回（30時間）
教員名	川瀬 善美

【授業の内容】

社会福祉Aで学習したことを踏まえ以下の視点からさらに理解を深化する。

具体的には、

1. 現代社会における社会福祉の意義と児童家庭福祉との関わりについて理解する。
2. 社会福祉の法体系、制度及び行財政の要旨を理解する。
3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。
5. 社会福祉の動向と課題について理解する。
6. 現代における利用者保護制度（第三者評価、苦情解決、権利擁護、情報提供等）を理解する。

【到達目標】

社会福祉の意義と児童家庭福祉との関わりについて理解し、保育者としての資質を涵養する。

【授業計画】

- 第1回 社会福祉と児童家庭福祉
- 第2回 子どもの権利擁護
- 第3回 家庭支援と社会福祉
- 第4回 社会福祉の制度と実施体制 福祉六法 1
- 第5回 社会福祉の制度と実施体制 福祉六法 2
- 第6回 社会福祉の制度と実施体制 福祉六法 3
- 第7回 社会福祉行財政と実施機関
- 第8回 社会福祉における利用者保護
- 第9回 情報提供と第三者評価
- 第10回 利用者の権利擁護と苦情解決
- 第11回 少子高齢社会への対応
- 第12回 在宅福祉・地域福祉の推進
- 第13回 保健・医療・福祉・教育の連携とネットワーク
- 第14回 我が国の社会保障財政の現状と課題
- 第15回 諸外国の社会保障・社会福祉の動向

【授業の進め方】

主として講義方式で授業を進めるが、必要に応じてグループ討論や課題発表を行ってもらう。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①『保育士を目指す人のため社会福祉』(株)みらい
- ①『保育6法 2017年度版』(株)みらい

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

期末に行うテストで評価を行う。絶対評価で行う。

テストは、論述方式とする。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。
- ・受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

- ・全回出席を原則とする。
- ・この授業は、基礎概念や、仕組みを学ぶことを通して、今一度「社会福祉とは何か？」について考える科目です。

科目名	保育原理Ⅱ
	授業形態：講義/授業回数：15回（30時間）
教員名	有馬 知江美

【授業の内容】

保育原理における基礎的・基本的理解をもとに保育についての理解を深める科目である。保育者をめざす者は保育観を構築していかなければならないが、そのためには過去の人間による子ども観を振り返りながら、自らの子ども観を問い直すことが必要である。そこで本講義では、歴史を振り返り、ヨーロッパ中世から近代にかけての子ども観の変遷を社会的なアプローチに基づきながら理解したり、近代以降の子育て観の変遷と関連付けて考察したりする。また、こうした歴史の変遷が子どもに何をもたらしたかを多角的に講義する。

【到達目標】

1. 子ども観と保育観の関連性を理解し、自らの保育観の基盤を作る。
2. 保育に関する基礎理論について多面的に考察することができる。
3. 子ども理解の幅を広げ、自らの保育に還元することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション—子ども観の変遷
 第2回 絵画に見る子ども観の変遷①中世
 第3回 絵画に見る子ども観の変遷②近代以降
 第4回 絵画に見る子ども観の変遷③絵画に見る子どもの遊戯、衣服、玩具：絵画を年代ごとにまとめて翌週提出（復習60分）
 第5回 近代の子育て観
 第6回 近代の子育て観と児童文化財①児童文学の発生と変遷
 第7回 近代の子育て観と児童文化財②19世紀以降の児童文学：アンデルセン絵本を選択し翌週持参（予習60分）
 第8回 近代の子育て観と児童文化財③近代の玩具市場の発生と変遷
 第9回 教育及び保育と玩具の関係性①フレーベルの恩物理論
 第10回 教育及び保育と玩具の関係性②フレーベルの恩物の体験
 第11回 教育及び保育と玩具の関係性③フレーベルの恩物の展開
 第12回 教育及び保育と玩具の関係性④モンテッソーリの教具理論
 第13回 教育及び保育と玩具の関係性⑤モンテッソーリ教具の理解
 第14回 近代の子育て観と乳幼児死亡率の変遷
 第15回 まとめ

【授業の進め方】

講義を中心とするが、画集にて近代絵画を探したり、木製玩具、恩物、教具等の体験も含みながら授業を進めていく。映像資料をDVDやパワーポイント等で提示することも多い。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

配布資料を使用する。

【参考図書】

アニタ・ショルシュ 北本正章訳『絵でよむ子どもの社会史』新曜社 1992年。
 森洋子『ブリュッゲルの「子供の遊戯」』未来社 1989年。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%
 特記事項

- ・グループワークを一部取り入れるため、受講態度として協働性の有無についても評価する。
- ・絵本他、持参するものがあるため注意する。忘れた場合は受講態度評価から減点する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。
 受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

全回出席を原則とする。

【科目のレベル、前提科目など】

保育原理 教育基礎論 を履修していることが望ましい。

【備 考】

保育士資格取得のための重要な科目である。

科目名	乳児保育
	授業形態：演習/授業回数：30回（60時間）
教員名	【前期】高橋 美保【後期】高橋 美保・若盛 清美

【授業の内容】

乳児保育で学ぶ対象は0,1,2歳（3歳未満児）である。生涯のうちで最も発育や発達が顕著な時期であり、発達の連続性と保育の継続性について生活や遊びをとおして理解を深める。

【前期】

こどもの「育つ力」を発達の視点で捉え、こどもの発達と保育について事例を挙げ具体的に学ぶ。全身や手指の運動機能、言葉や人間関係などの精神発達の過程において、子どもはどのように生活力を身につけ自立を獲得していくのか、特に保育者の関わりと環境構成の視点から学ぶ。また、乳児保育の社会的意義とこれからの在り方を模索する。

【後期】

発達途上である3歳未満児への保育環境について、「もの」「場」「人」の具体的事例をあげ、保育実践として生活や遊びへの適合性を検討する。保育計画や指導計画の成り立ちやその意義を理解し、そのうえで特に低年齢児の指導計画作成には欠かせない健康増進、保健管理について、家庭や関係機関との連携を含んだ保健活動への理解を深める。

【到達目標】

1. 乳児保育の理念と歴史の変遷および低年齢児に対する保育の役割について学ぶ。
2. 乳児が育つ場の検証から、家庭保育、集団保育（保育所、乳児院等）における保育の現状と課題を知る。
3. 3歳未満児の発育・発達について学び、健やかな育ちを保障する3歳未満児の生活と遊びについて理解する。
4. 日常生活での保育環境である「もの」「場」「人」との関わりが、育ちを方向付けることを理解する。
5. 乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等について学ぶ。
6. 乳児における保護者や関係機関、地域子育て支援体制との連携について学ぶ。

【授業計画】

第1回 乳児保育とはなにか

1. 乳児保育の理念と歴史の変遷
2. 乳児保育の現状と課題からみる役割と機能

第2回 乳・幼児が育つ場の検討（Ⅰ）

1. 家庭における子育ての特徴
 - 1) 家庭における基本的生活習慣の獲得と子育て（家族形態と養育環境の検討）
 - 2) 対人関係の発達と保育（母子関係）
2. 家庭保育を取り巻く問題と子育てに関する親の状況

第3回 乳・幼児が育つ場の検討（Ⅱ）

1. 集団保育の種類とその内容
 - 1) 基本的生活習慣の獲得と保育（保育形態と保育環境の検討）
 - 2) 対人関係の発達と保育（こどもと保育者、職員間の連携、家庭との連携）
2. 集団保育を取り巻く現状と課題
3. 保育所保育指針を読み解く
4. 集団保育（保育所、乳児院、家庭的保育等）の1日（デイリープログラムについて）

第4回 乳・幼児が育つ場の検討（Ⅲ）

1. 子育てをめぐる家族の責任と権利
2. 「親へのアンケート」を基に、自己の養育・保育環境を知る
3. アンケートの結果から思うこと

第5回 3歳未満児の発達と保育内容

1. 運動機能（全身・手指）の発達
2. 情緒・社会性（言語・人間関係）の発達
3. 乳児保育における基本的な知識と技術に基づく援助や関わり

第6回 6か月未満児の発達と保育内容

1. 発育・発達の特徴

第7回 2. 生活や遊びの援助（基本的な知識と技術に基づく援助や関わり）

- 1) 生活の援助
 - (1) 健康と生活（健康観察、生活リズム）
 - (2) 食生活と栄養（授乳の方法）
 - (3) 衣生活（排泄の世話）
- 2) 遊びの援助
 - (1) 感覚遊びの特徴とおもちゃ

第8回 6か月から1歳3か月未満児の発達と保育内容

1. 発育・発達の特徴

第9回 2. 生活や遊びの援助（基本的な知識と技術に基づく援助や関わり）

- 1) 生活の援助

- (1) 食生活と栄養
 - ① 離乳の進め方（咀嚼行動の発達とその援助）
- 2) 遊びの援助
 - (1) 運動・感覚遊びの特徴とおもちゃ
- 第10回 1歳3か月から2歳未満児の発達と保育内容
 - 1. 発育・発達の特徴
- 第11回
 - 2. 生活の援助（基本的な知識と技術に基づく援助や関わり）
 - 1) 基本的な生活習慣の自立へむけて（Ⅰ）
 - (1) 食事（食行動の発達とその援助）
 - (2) 排泄（トイレット・トレーニング）
 - (3) 睡眠（睡眠時間の変化と環境づくり）
- 第12回
 - 3. 遊びの援助（基本的な知識と技術に基づく援助や関わり）
 - 1) 基本的な生活習慣自立へ向けての媒体の検討
 - 2) 演習①：「低年齢児（0,1,2歳児）絵本」の作成（計画）
- 第13回 2歳児の発達と保育内容
 - 1. 発育・発達の特徴
- 第14回
 - 2. 生活の援助（基本的な知識と技術に基づく援助や関わり）
 - 1) 基本的な生活習慣の自立にむけて（Ⅱ）
 - (1) 清潔（手洗い、歯磨きのトレーニング）
 - (2) 着脱（自立の過程と3, 4, 5歳にむけたトレーニングの継続）
 - 3. 子どもの遊び
 - 1) 遊びの発達とおもちゃ
- 第15回 乳・幼児が育つ「もの」の検討（Ⅰ）
 - 1. 演習②：「低年齢児（0,1,2歳児）本の作成」（発表・振り返り）
- 第16回 乳児保育の環境
 - 1. 子どもが育つ環境 - 「人」との検討-
 - 1) 保育者の役割
 - 2) 保育者の自覚と責任（子どもの育ちはどう寄り添うか）
- 第17回
 - 2. 子どもが育つ環境 - 「もの」との検討-
 - 1) 子どもの生活と遊び
 - (1) おもちゃ、遊具
 - (2) 絵本、紙芝居
- 第18回
 - 3. 子どもの育つ環境 - 「場」との検討-
 - 1) 集団保育と園内・外の環境
 - (1) 園舎、保育室、園庭など
 - (2) 散歩ロード、広場、公園など
- 第19回
 - 4. 物的（もの）(場)環境と乳児保育
 - 1) 保育環境をデザインする
 - 2) 演習：「子どものおもちゃを作ろう」「保育室をデザインしよう」「お散歩マップを作ろう」
- 第20回 保育の計画
 - 1. 計画の必要性
 - 2. 計画の内容
 - 1) 保育の記録
 - 2) 発達区分別の保育課程（ねらいと内容）
 - 3) 指導計画
 - 4) 評価と反省（職員の協力体制）
- 第21回
 - 3. 計画の作成
 - 1) 保育課程に基づく指導計画作成の基本
 - 2) 観察・記録の残し方
 - 3) 演習：「保育計画を作成してみよう」
- 第22回
 - 4. 保育の自己評価と反省
 - 1) 低年齢児における個別計画の意義
 - 2) 保育の記録と計画・実践・評価
 - 3) 演習：「保育実践の振り返りチェックをつくろう」
- 第23回 乳児保育における連携と課題
 - 1. 保護者とのパートナーシップ
 - 2. 家庭、地域の関係諸機関との連携
- 第24回
 - 3. 子育て支援
 - 1) グループ・ワーク①「情報や先行研究、事例の収集」
 - 2) グループ・ワーク②「事例研究・発表」
 - 3) 子育て支援の現状と今後の課題

- 第25回 4. 職員間の連携
1) グループ研究 「保育士の専門性と乳・幼児を集団で保育することの課題」
- 第26回 2) グループ研究の発表、総評、まとめ
- 第27回 乳児保育における保健活動（日常の健康管理）
1. 子どもへの健康管理
2. 子どもや家庭への健康支援
- 第28回 3. 病気の予防と看護
1) 子どもの主な病気と特徴
(1) 感染症
(2) アレルギー
2) 園での病気の予防と看護
- 第29回 4. 事故予防と安全対策
1) 乳・幼児に多い事故とその予防
2) 集団保育の場での応急処置
3) 災害・危機に対する予防と対策
- 第30回 乳児保育の未来
1. 子どもの育つ環境の変化
2. 子育て意識の変化
3. 求められる保育者の意識変革
4. これからの子どもの福祉・教育

【授業の進め方】

前期は、乳幼児の発達の特徴や生活、遊びの援助をより具体的に理解するために、子どもの育ちの連続性をビデオで検証しながら進めていく。また、保育所保育指針を読み解きながら、生活や遊びにおける援助のポイントや環境構成についても論ずる。

後期は、保育実践や計画、保健活動や家庭との連携など事例を交え、育ちの具体性がイメージでき、乳児への関心が一層深まるように進めていく。乳幼児の姿をとおり、育ちを支える保育者の専門性についても論ずる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①乳児の生活と保育 ②松本園子 編 ③ななみ書房 ⑤21,00円

資料： 適宜、配布する
指定図書： 保育所保育指針

【参考図書】

参考図書： 随時紹介していく

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 20% レポート・課題 20% 受講態度 10%

特記事項

前・後期定期試験、授業内小テスト、課題やレポート、製作物の提出、取り組む姿勢で総合的に評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

乳児とのふれあい体験を持って授業に臨むこと。生まれ育った自分の状況を知って、授業に臨むこと。
保育士資格取得に向けた熱意をもち、主体的な態度で授業に臨むこと。原則は全回出席である。

【科目のレベル、前提科目など】

発育・発達学、発達心理学や保育の心理学、子どもの保健や子どもの食と栄養、家庭支援論などの継続履修で、一層の学習効果が望める。保育という営みは、5領域が交わりながら進められる。そのために、子どもの生活全体を視野にいたした学修姿勢が求められる。

【備考】

保育士資格取得のための必修科目である。

科目名	障害児保育
	—就学前までの発達への支援—
	授業形態：演習/授業回数：15回（30時間）
教員名	伊勢 正明

【授業の内容】

保育園・幼稚園などにおいても特別な支援を必要とする子どもが数多く在籍し、近年ではそのニーズが多様であることが明らかになってきた。また、発達早期における支援の有効性についての知見が集積され始めている。子どもの発達に関わる皆さんには、障害児保育についての基本的な知識に基づき、多専門的な連携の中で、適切な支援を行うことが求められている。この演習では、一人ひとりのニーズに合わせた支援を行うために必要な知識や支援方法について学ぶ。

【到達目標】

1. 障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。
2. 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。
3. 障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。
4. 障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。
5. 障害のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。

【授業計画】

- 第1回 障害児保育を学ぶ意義
- 第2回 「障害」の概念と障害児保育の歴史の変遷
- 第3回 障害児保育の基本
- 第4回 視覚障害児の理解と援助
- 第5回 聴覚障害児の理解と援助
- 第6回 肢体不自由児の理解と援助
- 第7回 知的障害児の理解と援助
- 第8回 発達障害児の理解と援助：学習障害（LD）サスペクトの概要
- 第9回 発達障害児の理解と援助：学習障害（LD）サスペクトの支援
- 第10回 発達障害児の理解と援助：注意欠如多動症（ADHD）概要
- 第11回 発達障害児の理解と援助：注意欠如多動症（ADHD）アセスメント
- 第12回 発達障害児の理解と援助：注意欠如多動症（ADHD）指導法
- 第13回 発達障害児の理解と援助：自閉スペクトラム症（ASD）概要
- 第14回 発達障害児の理解と援助：自閉スペクトラム症（ASD）アセスメント
- 第15回 発達障害児の理解と援助：自閉スペクトラム症（ASD）指導法
- 第16回 発達の違いを理解する
- 第17回 アセスメントと支援計画①
- 第18回 アセスメントと支援計画②
- 第19回 個々の発達を促す生活や遊びの環境
- 第20回 日常保育と行事への参加の支援①
- 第21回 日常保育と行事への参加の支援②
- 第22回 個別の関わり①
- 第23回 個別の関わり②
- 第24回 早期発見と早期療育
- 第25回 地域における多様な連携と個別の支援計画の作成
- 第26回 就学と連続性のある支援に向けて
- 第27回 事例演習①
- 第28回 事例演習②
- 第29回 事例演習③
- 第30回 まとめ

前半は、主に定義や歴史の変遷、各種障害の概要把握に努めるために講義形式が多い。後半は、グループ活動や調べ学習などが中心となる。

【授業の進め方】

- ・できるだけ多くの事例の資料を呈示しながら授業を進める。
- ・より理解を深めるために体験活動・資料情報収集を行う。
- ・不定期にリアクションペーパーやワーキングペーパーの提出を求める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

毎回資料によって講義・演習を行うが、参考図書は講読しておくことが望ましい。

【参考図書】

- ・「保育における特別支援」(2013)竹田契一監修 日本文化科学社
- ・「こんなとき、どうする?発達障害のある子への支援 幼稚園・保育園(特別支援教育をすすめる本)」(2009)内山登紀夫(監修), 諏訪利明・安倍陽子(編) ミネルヴァ書房
- ・「障害児保育ワークブック」(2012)星山麻木編著 萌文書林
- ・「つながる・つなげる障害児保育 かかわりあうクラスづくりのために」(2015)七木田 敦・松井剛太(編) 保育出版社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 10% レポート・課題 30% 受講態度 10%

特記事項

- ・期末テストを実施する。
- ・レポートの課題は講義の中で発表する。
- ・授業感想・質問票の提出及び記述により、受講態度の評価とする。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。
- ・受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

- ・全回出席を原則とする。

【科目のレベル、前提科目など】

- ・保育士資格取得のための重要な科目である。

科目名	家庭支援論
	授業形態：講義/授業回数：15回（30時間）
教員名	佐藤 ちひろ

【授業の内容】

保育士は「子育て家庭の支援」という重要な役割を担っている。

そこで、家庭支援の意義とその機能、子育て家庭を取り巻く社会的状況について理解する。

さらに、子育て家庭の支援体制、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について学ぶ。

【到達目標】

- 1.家庭支援の意義と役割について理解する
- 2.子育て家庭をめぐる社会的状況について理解する
- 3.子育て支援体制について理解する
- 4.多様な子育て支援と関係機関との連携について理解する

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・家庭及び家族の概念と定義
家庭や家族の定義や概念をさまざまな分野でどのようにとらえているのか知る
- 第2回 家庭支援の意義と役割①
家庭支援の意義と機能について知る
- 第3回 家庭支援の意義と役割②
家庭支援の必要性と現代の子育て家庭を取り巻く環境について知る
- 第4回 家庭支援の意義と役割③
保育士が行う家庭支援の原理について知る
- 第5回 家庭生活を取り巻く社会的状況①
現代の家庭における人間関係とその関係性について知る
- 第6回 家庭生活を取り巻く社会的状況②
地域社会の変遷と家庭支援について知る
- 第7回 家庭生活を取り巻く社会的状況③
男女共同参画社会とワークライフバランスについて学ぶ
- 第8回 子育て家庭の支援体制①
子育て家庭の福祉を図るための社会資源について知る
- 第9回 子育て家庭の支援体制②
子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進について学ぶ
- 第10回 多様な支援の展開と関係機関との連携①
子育て支援サービスの概要について知る
- 第11回 多様な支援の展開と関係機関との連携②
保育所入所児童の家庭への支援について学ぶ
- 第12回 多様な支援の展開と関係機関との連携③
地域の子育て家庭への支援について学ぶ
- 第13回 多様な支援の展開と関係機関との連携④
要保護児童及びその家庭に対する支援について学ぶ
- 第14回 多様な支援の展開と関係機関との連携⑤
子育て支援における関係機関との連携と今度の課題
- 第15回 まとめ
保育者としての子育て支援家庭について再考する

【授業の進め方】

教科書・配布プリントに基づく講義形式授業である。参考資料・統計データは随時配布する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①保育と家庭支援 ②上田衛 ③みらい

未定 講義開始時まで指示

【参考図書】

保育所保育指針解説書(厚生労働省編)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 20%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は「履修規定」に準ずる。
受験資格は「保育士資格規定」に準ずる。

【科目のレベル、前提科目など】

保育士指定科目である。

科目名	障害者福祉論
	障害のある人の自立と支援の方法
	授業形態：講義
教員名	根岸 洋人

【授業の内容】

障害を持つ人々の存在は太古の昔から知られている。そしてその処遇は、その時代背景とともに変化してきている。現代を生きる我々には何が必要とされ、どんな課題が積み上げられているのだろうか。本講義では障害者福祉に関する基本的事項を理解し、歴史的背景にたつ現代の問題点を学習していく。

【到達目標】

- 1.障害のある人の暮らしを理解し、現代社会の問題点と関連づけ説明することができる
- 2.障害者福祉の制度を理解し、その意義、問題点を指摘できる
- 3.歴史や制度を関連づけて障害のある人の自立とその支援方法を説明できる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
学習課題：授業で取り上げた歴史上の事項などを、インターネットなどを使用し復習しておく（60分）
- 第2回 障害の定義・理念
学習課題：ICFや福祉理念の提唱人物などの背景を調べる（60分）
- 第3回 障害別の視点から 知的障害①
学習課題：知的障害の特性について、心理学など他分野からの見方を調べる（60分）
- 第4回 障害別の視点から 知的障害②
学習課題：知的障害のある人の統計について調べる（60分）
- 第5回 障害別の視点から 身体障害①
学習課題：身体障害の種類、特徴などを復習する（60分）
- 第6回 障害別の視点から 身体障害②
学習課題：障害者の自立をめぐる概念をさらに調べてみる（60分）
- 第7回 障害別の視点から 精神障害
学習課題：精神障害の特性について復習する（60分）
- 第8回 障害をめぐる基本的施策（障害者基本法とその周辺）
学習課題：障害者基本法の変遷について復習を行う（30分）
- 第9回 障害者総合支援法による施策
学習課題：障害者総合支援法の成立過程について整理する（60分）
- 第10回 障害者の所得保障
学習課題：健常者の年金制度について、授業内容と比較しながら調べる（60分）
- 第11回 障害のある人の雇用・就労
学習課題：障害者雇用の先進事例などをインターネット等を使用し調べる（60分）
- 第12回 障害のある人の教育
学習課題：障害以外の特別なニーズについて調べ比較を行ってみる（60分）
- 第13回 バリアフリーとユニバーサルデザイン
学習課題：身近なバリアフリーやユニバーサルデザインについてどんな事例があるか調べる（60分）
- 第14回 諸外国の障害者福祉
学習課題：パーソナルアシスタント制度について調べ、わが国の制度と比較を行う（60分）
- 第15回 前期のまとめと振り返り
学習課題：夏休み等を利用してボランティア活動などを行い、障害のある人との接点を持つ
- 第16回 後期オリエンテーション
学習課題：障害の表記について自分の身の回りの表記方法を確認してみる（30分）
- 第17回 障害理解の到達点
学習課題：小学生に障害を教える場合に教材となるものを探してみる（60分）
- 第18回 知的障害者の地域生活を考える
学習課題：障害のない人の自立や親離れについて授業内容と比較し検討を行う（60分）
- 第19回 障害のある人の余暇支援
学習課題：障害のある人が楽しめる余暇について調べる（60分）
- 第20回 障害者の権利擁護・成年後見制度
学習課題：成年後見制度について調べる（60分）
- 第21回 障害者と家族
学習課題：障害者家族の手記などを図書館等で探し、読んでみる（120分）
- 第22回 諸外国の障害者福祉
学習課題：発展途上国の障害者福祉についてインターネット等を用い調べる（60分）
- 第23回 発達障害とその支援
学習課題：発達障害者の手記等を読む（60分）

- 第24回 障害者ときょうだい
学習課題：障害者家族の手記などからきょうだいの問題を考える（60分）
- 第25回 重症心身障害児
学習課題：出生前診断の近年の統計についてインターネット等で調べる（60分）
- 第26回 障害者と映画・文学
学習課題：障害をテーマとした文学作品や映画を鑑賞する（120分）
- 第27回 就労支援の問題点
学習課題：ジョブコーチについて調べる（60分）
- 第28回 障害者と高齢化
学習課題：介護保険制度と障害者福祉制度の違いを調べる（30分）
- 第29回 援助者の基本姿勢・連携
学習課題：自分自身が障害について学ぼうと思った原点を考え直してみる（30分）
- 第30回 まとめ
学習課題：定期試験に向けて後期のテーマを振り返り学習する（120分）

【授業の進め方】

基本的に講義形式ですすめていく。

前期は障害者福祉の理念、障害別の課題等から障害者福祉の基礎的事項と概要を理解する。授業において障害者福祉論が対象とする領域の全体像がつかめるように概論的に構成する。

後期は障害者福祉の法制度、諸外国との比較、問題点に焦点を当てて授業を行う。前期で取り上げた内容をさらに深めていくためにひとつひとつの項目に焦点をあて、各論的に構成する。内容としては様々な問題についてトピックス的に取り上げ、毎回テーマが変更するような90分完結型の講義で学習していく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない

【参考図書】

社会福祉の新潮流3「障害者福祉論」基本と事例 学文社

その他は授業中に指示する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 0%

特記事項

授業内で毎回実施するリアクションペーパーによる参加（評価比率ではレポートとして表示 30%）

前期および後期の期末に定期試験を実施（前期35%＋後期35%＝通年70%）

【履修上の心得】

障害のある人の支援に興味のある人の履修を希望します。

【備 考】

リアクションペーパーの提出や、資料の配付などで電子メールやPCの使用を前提とする部分があります。

科目名	福祉施設経営論
	授業形態：講義
教員名	川瀬 善美

【授業の内容】

「社会福祉サービスの消費」と云う新しい時代展開の中で、社会福祉法人・医療法人を始めとする様々な福祉サービス供給主体がどのような経営管理を行っていく事が求められるのかについて考えて見たい。介護保険導入によって部分的ではあるにせよ「市場原理」が導入されたことにより、「経営」と言うこれまでに配慮をする必要がなかった視点からの分析・事業展開が求められることになりました。介護サービス経営の領域に於いて求められている経営理念・方針・戦略を確立することに始まり、経営分析・人事管理・人材育成・サービスの品質管理・コスト管理・利用者のニーズの把握とCS向上活動など経営的な課題について考えて見たい。また、新しいサービス商品の開発を始めとして、あらたなサービスメニューの展開、サービスの高付価値化の追求、サービスの差別化などについても考えて行きたいと考えています。今後介護サービス事業は、介護職員不足、労働生産性の低さからの脱却、高騰する一方の利用者負担、そしてそれを原因とする利用者の利用抑制、など解決を迫られることになる課題が山積しています。それらについても考えて行きたいと思っています。

【到達目標】

社会福祉に経営的な視点から考え、事業の企画・提言を行い、新規事業や新商品開発、さらには経営管理の視点に立ったチェックを行うために必要な知識・技術・情報の獲得を目指します。

【授業計画】

- 第1回 福祉施設経営とは何か
- 第2回 福祉産業の現状
- 第3回 福祉産業の課題
- 第4回 社会法人会計の諸表を読む (1)
- 第5回 社会法人会計の諸表を読む (2)
- 第6回 経営分析 定量法とは何か
- 第7回 経営分析 定情法とは何か
- 第8回 経営管理 サービス品質管理
- 第9回 経営管理 人事管理
- 第10回 経営管理 コスト管理
- 第11回 経営管理 人材育成
- 第12回 経営管理 マーケットリサーチ
- 第13回 経営管理 商品開発
- 第14回 介護ビジネスの現状と課題
- 第15回 チャイルドビジネスの現状と課題

今年度は、幼稚園・保育所経営を含めチャイルドビジネスにスポットを当てながら、授業展開をしていく。

【授業の進め方】

主として講義方式で進めるが、グループ討論・研究も行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

適時、必要に応じて指示する。また、プリントを渡す。

【参考図書】

適時、必要に応じて指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

テスト期間中に、テストを行う。具体的内容については、講義の第13回目ないし14回目に説明を行う。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

記述式試験で行う

【履修上の心得】

国の社会保障・社会福祉等の動向、福祉ビジネスに関する情報等について新聞等の切り抜きを行うなど常に関心を持つこと。

科目名	発達心理学
	授業形態：講義/授業回数：15回（30時間）
教員名	浅田 晃佑

【授業の内容】

人は生涯を通して発達してゆく存在である。この講義では、様々な側面から人の発達について理解できるよう、発達心理学の原理、認知、自己、感情、言語、社会性、人間関係、生涯発達などについて教授する。

この講義を受講する学生の多くが、将来、子どもの教育や保育に関心を持っていることが予想されることから、乳幼児期から児童期までの子どもの発達については特に詳しく伝えていく。

また、子どもの発達においては、大人をはじめとする環境が重要な役割を持つことについてもふれていく。

生涯発達における乳幼児期の重要性について認識することを通して、この時期の子どもの発達を援助する教育者および保育者の役割の意義についても考えていきたい。

【到達目標】

- ・ 発達心理学の基礎的な知識を習得する
- ・ 乳幼児期から児童期における子どもの発達の全体像を詳しくイメージできる
- ・ 子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する
- ・ 生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、教育および保育との関連を考察する

【授業計画】

- 第1回 子どもの発達の理解とその意義
復習：発達心理学の概略について振り返る（30分）
- 第2回 子どもの発達と環境
復習：授業で取り上げた内容について各自復習する（30分）
- 第3回 感情の発達と自我
復習：授業で取り上げた内容について各自復習する（30分）
- 第4回 身体的機能と運動機能の発達
復習：授業で取り上げた内容について各自復習する（30分）
- 第5回 知覚と認知の発達
復習：授業で取り上げた内容について各自復習する（30分）
- 第6回 言葉の発達と社会性
復習：授業で取り上げた内容について各自復習する（30分）
- 第7回 基本的信頼感の獲得
復習：授業で取り上げた内容について各自復習する（30分）
- 第8回 他者とのかかわり
復習：授業で取り上げた内容について各自復習する（30分）
- 第9回 社会的相互作用
復習：授業で取り上げた内容について各自復習する（30分）
- 第10回 学習の過程と理論
復習：授業で取り上げた内容について各自復習する（30分）
- 第11回 発達障害と虐待（1）：知的障害・自閉スペクトラム症・ADHD・LDなど
復習：授業で取り上げた内容について各自復習する（30分）
- 第12回 発達障害と虐待（2）：虐待など
復習：授業で取り上げた内容について各自復習する（30分）
- 第13回 胎児期および新生児期の発達
復習：授業で取り上げた内容について各自復習する（30分）
- 第14回 乳幼児期の発達
復習：授業で取り上げた内容について各自復習する（30分）
- 第15回 学童期以降の発達
復習：授業で取り上げた内容について各自復習する（30分）

【授業の進め方】

教科書および配付レジュメをもとに、資料やDVDなどの視覚教材を使用しながら、講義、説明をする。グループディスカッション・グループワークを実施し、意見交換から学びを深める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①保育の心理学I ②公益財団法人児童育成協会（監修） 杉村伸一郎・白川佳子・清水益治（編集） ③中央法規 ④2015年11月30日 ⑤2160円 ⑥978-4-8058-5208-8

詳細については、1回目の授業で伝える。

テーマに合わせてレジュメや資料を配布する。

【参考図書】

「発達心理学」 福本俊・西村純一（編） 2012年 ナカニシヤ出版

「グラフィック乳幼児心理学」 若井邦夫・高橋道子・高橋義信・堀内ゆかり（著） 2006年 サイエンス社

「発達心理学I」 無藤隆・子安増生（編） 2011年 東京大学出版会

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 10%

特記事項

定期試験、課題の提出、授業への参加姿勢（例：積極的な発言）などで評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。

受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

全回出席を原則とする。

【科目のレベル、前提科目など】

発達心理学における基礎的事項を習得する科目である。

保育士資格取得のために欠かせない大切な科目である。

【備 考】

保育士資格のための重要な科目である。

科目名	青年心理学
	授業形態：講義/授業回数：15回（30時間）
教員名	益子 行弘

【授業の内容】

青年心理学は、思春期・青年期における心理現象や行動特性について研究し、青年の理解・支援をめざす心理学の一領域であり、発達心理学、社会心理学、臨床心理学など心理学の諸領域とも密接な関連をもつ。本講義では青年期の心理・行動に関わる様々なトピックについて、日常生活にみられる具体的事例などを適宜採りあげながら学んでいく。

【到達目標】

人間の発達段階において、青年期は重要な時期であり、一個人の人生において非常に大きな意味を持っている。本講義では、人間の発達段階における青年期の特徴、青年期の心理・行動特性、青年期と社会との関係、青年期の不適応行動などについて学習し、青年期の特徴と青年期における様々な問題に関する理解を深めることをねらいとする。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 ライフサイクルの中の青年期
- 第3回 青年期とアイデンティティ
- 第4回 青年期の思考と感情（1）
- 第5回 青年期の思考と感情（2）
- 第6回 思春期の身体発達
- 第7回 青年期の悩み
- 第8回 青年期と恋愛（1）
- 第9回 青年期と恋愛（2）
- 第10回 青年期における友人関係
- 第11回 青年期の親子・家族関係（1）
- 第12回 青年期の親子・家族関係（2）
- 第13回 青年期における心理・行動の問題（1）
- 第14回 青年期における心理・行動の問題（2）
- 第15回 まとめ

【授業の進め方】

講義においては、青年心理の問題に関わる映像教材（ドラマ、ドキュメンタリーなど）の視聴や、トピックに関連した心理テストを実施し、レポート課題（授業内レポートを含む）に取り組むことを通じて、青年期の心理・行動に関わる多様な問題について履修者自身に考察してもらいたい。

【教科書（必ず購入すべきもの）】

教科書は使用しない。スライドと配布資料を用いて講義を進める。適宜映像教材を用いる。

【参考図書】

特に指定しない。必要に応じて講義中に紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 20% 受講態度 20%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。
受験資格は「保育士資格規程」に準ずる（幼保コース）。

【履修上の心得】

全回出席を原則とする。学生証不携帯は欠席扱いとなるので注意すること。

【科目のレベル、前提科目など】

教養科目「心理学A・B」、「社会心理学A・B」などで既に心理学全般の基礎を学習していると、本講義の理解がより容易になると思うが、それらの科目を履修していなくても特に差し障りはない。

【備考】

保育士資格取得のための重要な科目である（幼保コース）。

科目名	認知心理学
教員名	神戸 文朗

【授業の内容】

認知心理学は現代心理学の基幹をなす研究部門です。認知心理学という言葉で表される領域は非常に広範ですが、その中でも幾つかの領域は神経科学やコンピュータ科学等の隣接科学と結びついて現在の心理学のhottest spotを形成しています。この領域を満遍なく正確に理解するためには高度の数学的、工学的、大脳生理学的・神経学的・心理学的な背景知識が必要で、私自身もよくそれをするものではありません。

しかしこの大きな心理学の流れが半世紀の間にどのように誕生し、現在に到ったかを知ることは、現代心理学の問題意識を理解する上で不可欠だと思います。「認知心理学」ではこの学問領域の進歩を推し進めてきた理論家の学説の紹介を主とし、それらから現在に至る研究の動向にも触れてみたいと思います。

本講義と私の担当する「心理学B」では一部重複するテーマもありますが、「心理学B」では心理学的ないし神経学的に既知の事象の紹介をより重視し、本講義ではそれぞれのテーマに関する心理学的理論の紹介により重きを置いています。

授業では対話を通して学生諸君が諸学説の基本的理解に達するよう努力するつもりです。また学説は単に受け入れるものではなく、批判的考察の対象とすべきです。そのためには諸君自身が当該理論に関心を持ち、更には理論の背景となる知識を蓄積する必要があります。それ故、当該領域に対して諸君自身が持続的に興味を持ち、自発的な知識収集を行うことを期待しています。

【到達目標】

認知心理学の問題意識と代表的な研究領域に関する基本的知識を習得することを目標とします。

【授業計画】

- 第1回 現代心理学における認知心理学:認知心理学の誕生(復習2時間)
- 第2回 視覚:生態学的知覚論・肌理の情報と運動・知覚的循環理論(復習2時間)
- 第3回 生理学的にみた視覚1:網膜・視覚伝導路・第1次視覚野(復習2時間)
- 第4回 生理学的にみた視覚2:高次視覚野の機能(復習2時間)
- 第5回 背景と物体:明暗コントラスト・エッジ/ライン/スリット・輪郭・図と地(復習2時間)
- 第6回 物体の再構築と認識:視覚の計算理論・非偶然的特性・RBC理論(復習2時間)
- 第7回 パターン認知:鋳型照合・特徴比較・典型性・意味空間(復習2時間)
- 第8回 初期知覚:原始的特徴・特徴探索・肌理の分離(復習2時間)
- 第9回 高次知覚:特徴統合理論・注意・誘導的探索(復習2時間)
- 第10回 短期記憶:アトキンソンとシフリンのモデルとその限界(復習2時間)
- 第11回 長期記憶:エピソードと知識・宣言的記憶と非宣言的記憶(復習2時間)
- 第12回 作動記憶:記憶容量・注意・処理資源の配分(復習2時間)
- 第13回 神経学的にみた記憶:神経細胞間結合強度・長期的増強(復習2時間)
- 第14回 知覚と表象:イメージと命題・心的回転・視覚とイメージの共通性(復習2時間)
- 第15回 工学的にみた認識:神経回路網と並列分散処理(PDP)理論(復習2時間)

テーマ毎に授業計画を立てましたが、授業において説明すべき情報量はテーマによって一定ではありません。それ故、週を越えて1つのテーマを扱うこともあります。

【授業の進め方】

授業はパワーポイントを使用して進行します。同じ内容を資料として配布します。必ず資料は持参してください。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

単一の教科書等は指定しません。多数の資料を配布します。授業はパワーポイントを使って進行します。

復習として配布資料を読み直して理解するだけでなく、キーワード等を使用した積極的な文献検索や書店や図書館における関連専門書の購買・講読を期待します。

【参考図書】

以下の参考図書は例示でありそれに限定されるものではありません。理解度に応じて適切な文献を参照してください。

- 乾敏郎(編)(1995) 認知心理学1 知覚と運動 東大出版
- 高野陽太郎(編)(1995) 認知心理学2 記憶 東大出版
- 塩入論(編)(2007) 感覚・知覚の科学 視覚:視覚系の中期・高次機能 朝倉出版
- 安西祐一郎、他(1994) 岩波講座認知科学2 脳と心のモデル 岩波書店
- 乾敏郎・安西祐一郎(編)(2001) 認知科学の新展開4 イメージと認知 岩波書店
- ラメルハート、D. E. 他(甘利俊一監訳)(1987) PDPモデル 認知科学とニューロン回路網の探索 産業図書

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

成績評価は基本的には定期試験の結果に基づきます。出席率は受験資格の確認に使用します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

試験は穴埋め形式を予定しています。全学生の試験の得点分布から成績段階の境界点を決定し、それに基づき各学生の成績を評価します。

【履修上の心得】

ここで述べられる内容は私の心理学Bを受講した人以外はほとんど初めて聞く内容だと思います。なるべく分かりやすく説明するつもりですので、最後まで興味を持って挑戦を続けてください。そのためには、資料を忘れないこと、そして黒板への書きこみだけでなく口頭での説明もノートを取ってください。

【科目のレベル、前提科目など】

この科目は私の担当する「心理学B」の内容を引き継ぐものですので、私の「心理学B」も受講することを期待します。心理系専門科目に該当すると考えます。認定心理士区分：選択科目D

【備 考】

特にありません。

科目名	臨床心理学
	授業形態：講義/授業回数：15回（30時間）
教員名	伊東 孝郎

【授業の内容】

臨床心理学とは、人間存在を深く見つけ、理解するための学問である。それはまた単なる理論にとどまらず、悩みや問題を抱えている人の「こころ」を援助する活動とともにある学問といえる。この百余年の間に、我々はさまざまな理論と実践を手にしてきた。

本講義においては、臨床心理学の理論と実践の基礎について、幅広く学ぶことを目的とする。

【到達目標】

臨床心理学の理論と実践の基礎を理解する。

【授業計画】

- 第1回 臨床心理学とは
予習（60分）臨床心理学について調べる。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第2回 臨床心理学の歴史
予習（60分）臨床心理学の歴史について調べる。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第3回 性格の形成と発達段階
予習（60分）教科書の該当ページを読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第4回 学校・社会と性格
予習（60分）教科書の該当ページを読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第5回 欲求について
予習（60分）教科書の該当ページを読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第6回 適応について
予習（60分）教科書の該当ページを読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第7回 不適応について
予習（60分）教科書の該当ページを読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第8回 心理査定について—観察、面接
予習（60分）教科書の該当ページを読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第9回 心理査定について—検査
予習（60分）教科書の該当ページを読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第10回 心理療法1—精神力動的な心理療法
予習（60分）教科書の該当ページを読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第11回 心理療法2—人間性心理学
予習（60分）教科書の該当ページを読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第12回 心理療法3—認知行動療法、他
予習（60分）教科書の該当ページを読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第13回 発達段階と問題
予習（60分）教科書の該当ページを読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第14回 発達障害と精神障害
予習（60分）教科書の該当ページを読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第15回 臨床心理学の実践
予習（60分）教科書の該当ページを読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。

【授業の進め方】

本講義は、人間の「こころ」の深部をとり扱う、デリケートなものである。人間一般を知るには、まず自分自身を知る必要があるため、講義の中で、時に自らを見つめる作業を指示することもある。この学問から学ぶことの重要性を考え、真摯にかつ積極的に受講してほしい。

授業内で学んだこと、考えたことについて、不定期にリアクションペーパーへの記述を求める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①生きる力を育てる臨床心理学 ②小林芳郎編著 ③保育出版社 ④2013 ⑤2381円＋税

【参考図書】

授業内で指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。

受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

全回出席を原則とする。

本講義は、臨床心理学という膨大な知と実践の領域の入門編である。講義では時間的制約から、そのごく一部を紹介するにとどまるが、自ら積極的に関連する書物にあたるなど、学習を深めてくれることを期待する。

【科目のレベル、前提科目など】

心理学専攻の学生の場合、すでに「心理学概論A」「心理学概論B」を受講済みであること。また臨床心理学系諸科目を履修するための前提となる重要科目なので、同分野に関心をもつ学生は、なるべく早い段階で履修をすること。

人間を深く学ぶ臨床心理学は、心理学という科学的な学問分野の中にあって、技法を通しての実践(援助)という「直接の効果」を期待されることの多い、特殊な学問である。将来、心理臨床や教育、福祉の分野に進む学生にとっては、きわめて得るところの大きい学問領域であるといえる。

同時に、自己との対話もさまざまな場面で行うことになる。積極的に参加することで、自己理解も深まることが期待される。

心理学専攻カリキュラムの中では、専攻専門科目として位置づけられる。

また本講義は、認定心理士資格申請の選択科目(G.臨床心理学・人格心理学)に区分される予定の科目である。資格取得希望者は、計画的な履修を行うこと。

保育士資格取得者にとっては、資格取得のための重要な科目である。

【備考】

出席確認はカード型端末機のみで行う。学生証不携帯は欠席扱いとなるので注意すること。

科目名	精神保健学
	体育科教師・健康運動指導士を目指す人のために
	授業形態：講義/授業回数：15回（30時間）
教員名	伊崎 純子

【授業の内容】

- 1) 精神保健の意味するものを講義や調査学習を通じて理解する。
- 2) 発達段階に応じた成長と生じやすい問題を理解し、対応について学ぶ。

【到達目標】

こころの健康について多様な様相を捉え、適切に対処できるようになる。
自身の精神的健康のみならず、生徒や身近な人物の健康にも配慮できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 インTRODクシヨン—心の健康とは—
復習：授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
- 第2回 精神保健概説と児童期までの発達
復習：授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
- 第3回 思春期の発達の様子と自閉症スペクトラム障害：身近な『レインマン』・知的能力障害（知能検査）『WISC-4』
復習：ASDとIDについて各自復習する（60分）。
- 第4回 発達障害とは？：注意欠如・多動症、学習障害について『AD/HD理解のため』
復習：AD/HDとLDについて各自復習する（60分）。
- 第5回 摂食障害と人格障害：『17歳のカルテ』にみる狂気
復習：授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
- 第6回 強迫性障害：『恋愛小説家』にみるこだわり
復習：授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
- 第7回 精神病的な混乱：うつ病／双極性障害（自傷、多量服薬を含む）
復習：授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
- 第8回 精神病的な混乱：『統合失調症』
復習：授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
- 第9回 非社会的な問題行動：不安障害、不登校、ひきこもり
復習：不登校児童生徒に対する支援など、最近の動向を文部科学省のHPで確認する（60分）。
- 第10回 反社会的な問題行動：暴力・いじめ『ネットいじめと向き合うために』
復習：授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
- 第11回 虐待をめぐる諸問題：『ルーマニアの孤児たち』
復習：授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
- 第12回 運動による心の健康づくり：『成熟と老化』
復習：授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
- 第13回 ストレスアセスメントと対処法：ストレスとコーピング、ストレス関連疾患としての心身症
復習：授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
- 第14回 誤ったコーピング：喫煙、アルコール、ネット中毒、薬物依存：『飲酒・喫煙と健康』
復習：授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
- 第15回 総括：学校における専門職の役割
復習：これまでの授業内容を各自復習し、資料やノートをまとめる（90分）。

【授業の進め方】

この講義では、主に教科書の順に従うが、必要に応じて板書・プリント配布し、授業を進める。教科書のほか映像資料などを通して知識の定着を図る。中・高の教職に関連する科目であることから、児童期以前の発達および精神保健については概説にとどめ、思春期以降に生じやすい諸問題（摂食障害、強迫性障害、不登校、ひきこもりなど）の理解とその対応について詳細を学ぶ。特に、発達障害のなかでも「自閉症スペクトラム障害」や知的能力障害の中でも「境界知能」など、幼少期には目立たなかった諸問題に関しても触れ、最新の情報を検索調査する課題を通じて学習を深める。さらに、「健康運動指導士資格」に関連する科目であることから、ストレスと健康づくりについても詳述し、厚生労働省の心の健康に関する資料や文部科学省の不登校対策に関する資料の検索を通して、主体的に学習していく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①14歳からの精神医学 ②宮田雄吾 ③日本評論社 ④2011/10/20 ⑤1404 ⑥978-4535983465

学内書店等で各自購入しておくこと

【参考図書】

『入門 子どもの精神疾患』・山登敬之、斎藤環編・日本評論社

『中高生のためのメンタル系サバイバルガイド』・松本俊彦著・日本評論社
『児童・思春期の精神保健マニュアル』・根岸敬矩編著・東山書房

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・出席は試験実施規程に基づく受験資格の確認にのみ使用する。
- ・成績評価基準は、定期試験の得点分布によって決定する。

【履修上の心得】

教科書を各自持参すること。ノートは各自の判断でとること(教科書やプリントへの書き込みでも可能)。私語は禁止。

【科目のレベル、前提科目など】

- ・中学校教諭一種免許状(保健体育)・高等学校教諭一種免許状(保健体育) 必修科目【教科に関する科目：学校保健(小児保健、精神保健、学校安全および救急処置を含む)】に該当する。
- ・健康運動指導士資格に関連する科目でもある。

科目名	心理学研究法
教員名	伊崎 純子・伊東 孝郎・神戸 文朗・玉宮 義之・平田 乃美

【授業の内容】

心理学の研究方法の特徴、さまざまな実証的研究方法(実験法, 行動観察法, 質問紙調査法, 面接法, 検査法, など)それぞれの特徴と基礎知識、具体的な研究技法・手順を学習していく。また、質的研究法の特徴と実際、および他の特殊な研究法についても学習をしていく。あわせて、こうした研究を行う際に必要になる、インフォームド・コンセントやインフォームド・アセントについても学習する。

【到達目標】

- 1) 心理学における科学的・実証的な研究手法についての基本的な知識を得るとともに、目的に応じた適切な方法を使用できるようになる。
- 2) 心理学における実証的研究の基盤となる実験計画法について理解する。また、実技の中心となる基礎的統計処理法、実験データ処理の技法を習得する。
- 3) 心理学の研究を行う上で従うべき倫理指針について理解し、自分の研究に反映できるようになる。研究を行うにあたって必要なインフォームド・コンセントだけでなくインフォームド・アセント等についても、十分な知識をもてるようになる。

【授業計画】

第1回

①心理学研究の手法

予習 (90分): 心理学事典や関連文献で当該課題について調べる

復習 (90分): 講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第2回

②心理学研究の倫理

予習 (90分): 心理学事典や関連文献で当該課題について調べる

復習 (90分): 講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第3回

③ (①～③の) 理解の確認とまとめ

予習 (90分): 心理学事典や関連文献で当該課題について調べる

復習 (90分): ①～③の講義で学んだことや疑問点等をまとめる

【①～③担当: 玉宮】

第4回

④適切な観測と適切な実験

予習 (90分): 当該課題について調べ配布資料を熟読する

復習 (90分): 配布資料を熟読しそれを批判的に考察する

第5回

⑤実験結果の評価と仮説の維持・棄却

予習 (90分): 当該課題について調べ配布資料を熟読する

復習 (90分): 配布資料を熟読しそれを批判的に考察する

第6回

⑥仮説演繹法と公共的知識

予習 (90分): 当該課題について調べ配布資料を熟読する

復習 (90分): ④～⑥の配布資料を熟読し批判的に考察する

【④～⑥担当: 神戸】

第7回

⑦質問紙法の基礎1

予習 (90分): 心理学事典や関連文献で当該課題について調べる

復習 (90分): 講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第8回

⑧質問紙法の基礎2

予習 (90分): 心理学事典や関連文献で当該課題について調べる

復習 (90分): 講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第9回

⑨ (⑦～⑨の) 理解の確認とまとめ

予習 (90分): 心理学事典や関連文献で当該課題について調べる

復習 (90分): ⑦～⑨の講義で学んだことや疑問点等をまとめる

【⑦～⑨担当: 平田】

第10回

⑩心理検査法（質問紙法の実習を含む）

予習（90分）：心理学事典や関連文献で当該課題について調べる

復習（90分）：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第11回

⑪行動観察法（観察例の提示を含む）

予習（90分）：心理学事典や関連文献で当該課題について調べる

復習（90分）：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第12回

⑫（⑩～⑫の）理解の確認とまとめ

予習（90分）：心理学事典や関連文献で当該課題について調べる

復習（90分）：⑩～⑫の講義で学んだことや疑問点等をまとめる

【⑩～⑫担当：伊崎】

第13回

⑬質的研究法とは

予習（90分）：心理学事典や関連文献で当該課題について調べる

復習（90分）：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第14回

⑭研究実践例—質的データの収集と分析

予習（90分）：心理学事典や関連文献で当該課題について調べる

復習（90分）：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第15回

⑮面接法と事例研究法

予習（90分）：心理学事典や関連文献で当該課題について調べる

復習（90分）：⑬～⑮の講義で学んだことや疑問点等をまとめる

【⑬～⑮担当：伊東】

【授業の進め方】

心理学専攻の教員によるオムニバス方式で、心理学における各種の研究法を概観する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に使用しない。プリントを配布する。

【参考図書】

必要に応じて授業の中で紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 100% 受講態度 0%

特記事項

各授業担当教員の授業時提出課題の評価合計点に基づく絶対評価とする。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業担当教員ごとの提出課題を評価対象にするので、課題は必ずすべて提出すること。

【履修上の心得】

心理学を専攻する上で、必須の知識をえる授業の一つである。専攻学生には必ず履修するようにしてほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

2年次に心理学基礎実験演習、心理学実験・調査演習を併せて履修することが望ましい。

科目名	教育の測定と評価
教員名	平田 乃美

【授業の内容】

教育測定とは、教育効果の客観的な情報を得ること、つまり学力テストや偏差値に代表される「教育効果の数値化」といえます。そのため測定においては、科学的な信頼性や妥当性が保証されねばなりません。そして教育評価は、客観的に測定された現象の意味を学習に役立つ情報として、学習者や教師自身の指導計画に「フィードバック」することといえます。本授業では、教師をはじめ他者を評価する立場にある者にとって欠かすことのできない、教育の測定評価に関する専門知識・技術について紹介します。また、教育効果として見落とされがちな学力以外の成果についても実際の教育実践記録等を通して考えます。

【到達目標】

- 1) 教育測定と記述の知識・技術、教育評価の意義と知識・技術を学ぶ。
- 2) 教育実践における教育測定の技術と評価の重要性について理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 研究史：教育における測定評価の意義
 予習 (90分)：シラバスを読み当該課題について調べる
 復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる
- 第2回 知能検査を考える (1) IQの歴史
 予習 (90分)：配布資料を読み当該課題について調べる
 復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる
- 第3回 知能検査を考える (2) 現状と展望
 予習 (90分)：配布資料を読み当該課題について調べる
 復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる
- 第4回 学力評価を考える (1) 少数大課題方式、評定段階の設定
 予習 (90分)：配布資料を読み当該課題について調べる
 復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる
- 第5回 学力評価を考える (2) 細目積上げ方式、学力テストの尺度論
 予習 (90分)：配布資料を読み当該課題について調べる
 復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる
- 第6回 絶対評価と相対評価
 予習 (90分)：配布資料を読み当該課題について調べる
 復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる
- 第7回 古典的テスト理論
 予習 (90分)：配布資料を読み当該課題について調べる
 復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる
- 第8回 信頼性と妥当性 (1) 項目分析 (G-P分析, S-P表の作成)
 予習 (90分)：配布資料を読み当該課題について調べる
 復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる
- 第9回 信頼性と妥当性 (2) 測定誤差, 論理的・内容的妥当性の問題
 予習 (90分)：配布資料を読み当該課題について調べる
 復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる
- 第10回 学力テストを作ろう (1) テスト項目の作成
 予習 (90分)：項目分析のためテスト項目を準備する
 復習 (90分)：テスト項目と選択肢を作成する
- 第11回 学力テストを作ろう (2) 選択肢の作成
 予習 (90分)：作成したテスト実施の準備を行う
 復習 (90分)：平均正答率と弁別指数を算出する
- 第12回 学力テストを作ろう (3) 項目分析と問題改善
 予習 (90分)：GP分析の手続きを確認する
 復習 (90分)：講義を踏まえてGP分析の結果をまとめる
- 第13回 教育成果を考える (1) 情報処理の技術 (偏差値、標準得点、視覚的表現)
 予習 (90分)：作成したテスト項目の分析結果をまとめる
 復習 (90分)：結果報告のプレゼンテーション準備を行う
- 第14回 教育成果を考える (2) 学習者に有益なフィードバックであるために
 予習 (90分)：結果報告のプレゼンテーション準備を行う
 復習 (90分)：プレゼンテーションの実行内容を総括する
- 第15回 課題の総括
 予習 (90分)：配布資料を読み当該課題について調べる

復習（90分）：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

【授業の進め方】

講義の区切り毎に課題（データ処理や学習内容の要約）を実施します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業時間内に配布します。教科書や文献の購入はありません。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 60% レポート・課題 40% 受講態度 0%

【履修上の心得】

[出席について]

出席確認はカード型端末機のみで行い、学生証不携帯は欠席扱いとなります。

[課題について]

指定期間に提出した場合のみ、成績評価対象とします。未提出への対応策はありません。

[成績について]

評価基準の個別対応は一切ありません。

個別の結果について、成績発表前の問い合わせには返答できません。評価内容についても、成績調査期間外に調べることはできません。

[資料について]

講義資料のスライド(動画、写真等)を複製してお譲りすることはお断りしています。再度確認したい資料があれば、授業終了後、機器の電源を切る前に声を掛けてください。

【科目のレベル、前提科目など】

認定心理士資格区分:「教育心理学・発達心理学」(教育測定・教育評価)

科目名	国語科教育法
	国語教育実践研究
	授業形態：講義
教員名	大上 忠幸

【授業の内容】

1. 国語科教育の基礎となる実践理論の内容について理解を深めるとともに、国語科教育の知識と方法を習得する。
2. 学習指導要領国語科編の三領域「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」と、一事項「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関して理解を深め、国語科学習指導の授業構成について実践的に探究する。
3. 国語科教員としての豊富な知識と技能を身につけ、かつ、応用的な実践力を養う。

【到達目標】

1. 国語科教員としての教材を見る方法（主に文章のとらえ方）を習得することができる。
2. 国語科教員としての「文章を書く力」を養うことができる。
3. 子どもたちの「話し合い」など音声言語指導の技術を習得することができる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス（授業の概要）・・・授業の進め方について説明する。また、使用するテキスト、参考文献について説明する。
- 第2回 小学校国語科の学習内容と学習指導要領・・・学習内容の全体について講義する。また、学習指導要領の国語科の目標について解説を加える。さらに最近の教育現場におけるICTの国語科での活用を紹介する。
- 第3回 小学校低学年の国語科授業と学習指導案・・・低学年の「話す・聞くの指導」について、実践事例をもとに講義する。また、学生に、その事例について意見を述べさせる。
- 第4回 教材「おてがみ」の読解指導・・・文学教材の教材研究の仕方を講義する。その後、具体的な教材「おてがみ」について、教材研究の仕方を演習させる。
- 第5回 小学校中学年の国語科授業と学習指導案・・・中学年の国語教材の教材研究の仕方を講義する。その後、具体的な教材「一つの花」について、教材研究の仕方を演習させ、学習指導案の例を示す。
- 第6回 教材「ごんぎつね」の読解指導・・・具体的な教材「ごんぎつね」について、教材研究の仕方を演習させ、学習指導案の例を示す。
- 第7回 小学校低学年における「話し言葉」の指導・・・具体的な教材「あったらいいなこんなもの」について、教材研究の仕方を演習させ、学習指導案の例を示す。
- 第8回 授業内レポートの作成・・・これまでの講義で受けた学習成果をもとに、各自、レポートを作成する。
- 第9回 教材「もうどう犬の訓練」の読解指導・・・説明文教材「もうどう犬の訓練」について、教材研究の仕方を演習させ、学習指導案の例を示す。
- 第10回 教材「白いぼうし」の教材研究と学習指導・・・文学教材「白いぼうし」について、教材研究の仕方を演習させ、学習指導案の例を示す。
- 第11回 小学校高学年の国語科授業と学習指導案・・・高学年の国語教材の教材研究の仕方を講義する。その後、具体的な教材「千年の釘にいどむ」について、教材研究の仕方を演習させ、学習指導案の例を示す。
- 第12回 教材「平和のとりでを築く」の読解指導・・・説明文教材「平和のとりでを築く」について、教材研究の仕方を演習させ、学習指導案の例を示す。
- 第13回 作文指導の方法・・・小学校における作文指導の基本について講義する。また、学生各自に、「自分が受けてきた作文指導」について報告させる。次回行う「国語科教育の今日的課題」について予告し、課題を出す。
- 第14回 国語科教育の今日的課題・・・国語科教育に求められる「PISA型読解力」、「ICTを活用した指導」「学力到達度評価」、「伝統的な言語文化の指導」などについて、講義するとともに、学生たちの調べてきたことを発表させる。
- 第15回 まとめ・・・小学校国語科教育の全体像をもう一度確認し、あわせて、今求められる課題について学生各自に意見を発表させる。

1. 国語教育の実践理論の考察

分野・領域は、読解・読書を中心とする。他に、時間があれば、作文、話し言葉、言語事項（文法や漢字）なども取り上げる。

現在の国語教育理論のみならず、明治期以来の代表的な国語教育理論についても考察する。

2. 現行国語教科書（小学校）所収の教材を取り上げ、「言葉」を中心とした授業構成について考える。
文学教材の指導、説明文の指導、作文の指導、話し言葉の指導など。
4. 教材をもとにした学習指導計画、学習指導案を検討する。時間があれば、模擬授業を体験する。

第1回 ガイダンス（授業の概要）

- 第2回 小学校国語科の学習内容と学習指導要領
- 第3回 小学校低学年の国語科授業と学習指導案
- 第4回 読解指導－教材を通して（1）
- 第5回 小学校中学年の国語科授業と学習指導案
- 第6回 読解指導－教材を通して（2）

- 第7回 小学校低学年における「話し言葉」の指導
- 第8回 授業内レポートの作成
- 第9回 読解指導－教材を通して（3）
- 第10回 具体的な教材からの教材研究と学習指導
- 第11回 小学校高学年の国語科授業と学習指導案
- 第12回 読解指導－教材を通して（4）
- 第13回 作文指導の方法
- 第14回 国語科教育の今日的課題
- 第15回 まとめ

【授業の進め方】

主として教員のほうから講義・説明をしますが、後半の時間は学生の皆さんによる発表、質疑応答、討論となります。討論の中で、教員が指導・助言を行います。また、授業の中で、資料を読んだり、気づいたことを書かせたりします。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

国語科教育の理論、および、国語科教育の実践報告に関する資料を、そのつど配布します。

また、テキストを購入してもらいます。

『小学校学習指導要領解説 国語編』を用意してください。

【参考図書】

特にありません。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 0%

特記事項

授業内発表、レポート作成、記述式テスト（定期試験）など。

レポート作成30%、記述式テスト（定期試験）70%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

特にありません。

【履修上の心得】

特にありません。

【科目のレベル、前提科目など】

国語概説Ⅰを履修した上で受講することが望ましい。

小学校教員免許の取得にかかわる「教職に関する科目」の一つ「国語科教育法」として位置づけられています。国語科の授業を行う上での基本となる科目ですから、その自覚をもって授業に臨んでください。

科目名	社会科教育法
	授業形態：講義
教員名	奥澤 信行

【授業の内容】

小学校社会科の授業展開について第3学年からの各学年ごとの指導計画や指導案の作成について講義する。小学校の社会科は、地理に関する内容に多くの時間が配当されている。第3・4学年で学ぶ「学区における地域の見方」をベースにして、その面的スケールを拡大することで、学校所在地の市町村から都道府県の学習へと発展させ、さらに国家のあり方を学ぶことになる。そして確固たる国家観を形成することで、世界各国と我が国との関係を理解することが可能となる。本講では、こうした社会科の学習目標を見据えて、実際に児童を指導する際の教材の扱いやICTを活用した指導方法についての講義を進めた後、実際に教壇に立つことを想定した模擬授業も行う。模擬授業にあっては、学習内容に関わることに留まらず、教室内で起こるであろう事態を想定した実践的な授業展開についても指導したい。また地理学において不可欠なフィールドワークを実施して、大学周辺の自然環境や経済活動を自分の目で確認することの重要性を認識させた上で、地域学習での指導方法を体得させる。

【到達目標】

社会科学習での実践的な授業展開ができるための基礎的知識と指導上のテクニックを身に付けることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 社会科の指導方法① 動機づけ（社会科に対する興味・関心の程度は、他教科に比べて児童によって大きく異なる。したがって授業の導入部分での指導が特に大切である点を理解する。／復習30分）
- 第2回 社会科の指導方法② 児童の主体性（受講生が小学生であった時に、どのような姿勢で授業に臨んでいたか発表できるように整理しておく。／予習30分）
- 第3回 社会科の指導方法③ 教師の指導性（受講生の記憶に残っている小・中・高での教師について、その指導力に関する見解を整理しておく。／予習30分）
- 第4回 社会科の指導方法④ 社会科学的認識の指導（社会科学習には道徳的側面もみられるが、科学的視点からの考察も重要であることを理解する。／復習30分）
- 第5回 各学年における指導計画① 第3・4学年の指導計画（地域学習の概要を説明した上で、パソコン等を使用して通学範囲の情報を入手する指導法を考察する。／復習30分）
- 第6回 各学年における指導計画② 第5・6学年の指導計画（我が国の自然・人文事象の概要を理解するとともに、明治期以降の歴史を確実に把握することで、日本人としてのアイデンティティの確立が重要であることを認識する。／復習30分）
- 第7回 フィールドワークの事前指導（調査方法のポイントを指導するとともに実査に確認すべき項目を列挙するので、事前にICTを活用して情報を収集する。／復習60分）
- 第8回 大学周辺の自然環境や経済活動を確認するフィールドワーク（地形図の読図によって調査地の概要を把握しておく。／予習60分）
- 第9回 フィールドワークの事後指導（調査地の地理的事象を整理した上で、そこに展開される地域性についてグループごとにディスカッションを行い、その結果を考察する。／復習30分）
- 第10回 学習指導案の作成① 細案（細案作成の手順を説明する際に、記載すべき項目をグループ・ディスカッションによって列挙する。／復習30分）
- 第11回 学習指導案の作成② 略案（模擬授業で使用する略案の作成において留意すべき点を検証する。／復習30分）
- 第12回 模擬授業① 地理的分野（地理で扱う対象はその多くが現時点で展開されているので、問題解決学習を念頭に置いた授業展開が重要となる。模擬授業後のディスカッションでは、この点を踏まえた議論に期待したい。／復習30分）
- 第13回 模擬授業② 歴史的分野（歴史学習の基本となる史実の原因・経過・結果の流れが反映された模擬授業であったか考察する。／復習30分）
- 第14回 模擬授業③ 公民的分野（地理や歴史に比べて児童の興味や関心の低い分野であるため、授業展開での創意工夫が必要であることを理解する。／復習30分）
- 第15回 模擬授業の反省（3回の模擬授業を授業者だけでなく受講生全員がその内容を整理した上で、グループ・ディスカッションにより検証する。／予習60分）

【授業の進め方】

【授業計画】の第1回から第6回までは、講義により授業を進めるが、模擬授業は代表者が教壇に立ち、これをグループ・ディスカッションによって論評する形で行う。また発見学習の指導と関連するフィールドワークに際しては、その手法が地域学習で活かせるように、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を図ることを念頭に、ICTの活用による事前指導やグループ・ディスカッションによる事後指導に重点を置く。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は特に使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考図書】

『小学校学習指導要領解説（社会編）』 文部科学省 日本文教出版
『アクティブ・ラーニングでつくる新しい社会科授業』 北 俊夫・向山 行雄 著 学芸みらい社
『子供の思考をアクティブにする社会科の授業展開』 澤井 陽介 著 東洋館出版社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

特記事項

定期試験と授業中の態度や発言などで評価する。特に模擬授業に積極的に関わった学生にはより高い評価を与える。また毎時間出席カードを配布して厳格に出席管理を行う。IDカードによる出席も併用するが、出席カードとの間に差異が生じた場合には、出席カードのデータを優先する。定期試験はマークシート形式（5択100問）で、ノート等の持ち込みは許可しない。

【履修上の心得】

小学校の教員希望者を対象としているため、教育現場の実態に触れつつ授業を進める。受講生は常に学校や教育に関わる問題には関心を持って、自分なりの考えをまとめる努力をしてもらいたい。また概説の授業とは異なり、「教壇に立つ」ことを前提とした実践的な内容となるので、教員志望をより明確にして授業に臨むことが大切である。

【科目のレベル、前提科目など】

「社会科概説Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。また地理学全般を把握する意味から、「地理学A・B」の履修を勧める。小学校社会科の学習内容を実際に授業を展開することを前提として説明する。また模擬授業では「教えること」の技術的な側面にも言及する。

科目名	社会科教育法
	授業形態：講義
教員名	原口 美貴子

【授業の内容】

社会科教育の目的（使命）は大きく二つあります。それは、「子どもの社会認識を育てること」と「公民的資質の基礎を育てること」です。本授業ではこの二つの目的を念頭に置き、小学校社会科教員として必要な専門性（資質、能力）の基礎を指導します。

具体的には、学習指導要領の構成と内容を理解した上で、社会生活に対する理解と公民的資質の基礎を育むことにつながる学習指導や授業展開の実践的手法について学びます。また、学生自身が教材開発や模擬授業に取り組み、互いに批判検討しながら指導力の向上を目指します。

【到達目標】

- ・小学校社会科の目標、内容を理解し、学習指導案を作成できる。
- ・小学校社会科の授業を立案・実施・評価するための基礎的な知識や技術を身につけている。

【授業計画】

- 第1回 授業内容及び授業計画説明、模擬授業ワーキンググループ分け等
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は1時間以上
- 第2回 模擬授業ガイダンス／小学校社会科の指導計画
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は1時間以上
- 第3回 小学校社会科の単元構成の方法と学習過程
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は1時間以上
- 第4回 小学校社会科の主な指導技術と学習環境（ICT活用を含む）
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は1時間以上
- 第5回 模擬授業ガイダンス／小学校社会科学学習指導案の書き方
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は1時間以上
- 第6回 生活科、総合的な学習の時間、道徳教育との関連
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は1時間以上
- 第7回 模擬授業事前指導①小学校社会科授業の実際から学ぶ
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は1時間以上
- 第8回 模擬授業事前指導②学習指導案作成中間チェック
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は1時間以上
- 第9回 模擬授業事前指導③模擬授業進行案内、教材・資料相談
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は1時間以上
- 第10回 模擬授業及び授業検討会（1）—身近な地域の学習—
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は1時間以上
- 第11回 模擬授業及び授業検討会（2）—身近な地域の学習—
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は1時間以上
- 第12回 模擬授業及び授業検討会（3）—地理的分野—
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は1時間以上
- 第13回 模擬授業及び授業検討会（4）—歴史的分野—
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は1時間以上
- 第14回 模擬授業及び授業検討会（5）—公民的分野—
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は1時間以上
- 第15回 学びの振り返り、まとめ
学習課題は全回の振り返りとレポート作成、時間は1時間以上

【授業の進め方】

- 第1回講義の際に模擬授業のワーキンググループ分けをしますので、必ず出席して下さい。また、教育実習・介護実習などで欠席する人の日程を確認しますので、該当者は報告できるよう準備しておいて下さい。
- 第1回～第9回は、講義形式で進めていきますが、受講生の社会科体験や各テーマに関する意見交換（対話）も大切にしますので、各自リーダーシップを発揮して、互いに学び合う姿勢で、毎時のクラス作りに積極的に参画してください。
- 第10回～第15回は演習形式で、それまでの講義内容を活かした小学校社会科の学習指導案の作成、模擬授業にグループで取り組みます。授業をする者は、頭の中に浮かんだ内容を一貫性を持って学習計画や指導案に表現し、実行することができるか。また、授業を受けた者は、その授業の良さや問題点・改善点を発見し、指摘することができるか。授業者も被授業者も客観的な授業観を持てるよう、互いに学びあいながら進めていきます。
- 出席と授業の理解度を確認するために、随時リアクションペーパーやレポートを提出して頂きます。
- 各回の具体的な学習課題は随時授業で提示します。
- 受講生数や実習欠席予定者の時期・人数によって、授業計画を変更する場合があります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①『小学校学習指導要領解説社会編(平成20年)』 ②文部科学省 ③東洋館出版社 ④2015年10月 ⑤208円(税込)
⑥9784491031606

○適宜プリント(レジュメ、資料)を用意します。

【参考図書】

- 『新版社会科教育事典』平成24年 日本社会科教育学会編 ぎょうせい
○月刊『社会科教育』 明治図書

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 85% 受講態度 15%

特記事項

- レポート・課題についての内訳は下記の通りです。
リアクションペーパーの提出と内容：15%
学習指導案他課題レポートの提出と内容：70%
○受講態度は、学習課題の取り組みを含む授業への主体的・積極的な姿勢を評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- 授業分析やグループ討論など演習的な活動をとり入れますので、正当な理由のない遅刻や早退は厳禁です。
○各種実習参加で欠席する場合は前もって欠席届を提出してください。実習で2回以上欠席する人には別途講義内容に関わるレポートを課します。
○全授業回数の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。
○リアクションペーパー、学習指導案等、課題の提出期限は守ってください。期限を守らない場合は原則受け取りませんので評価の対象外とします。なお、極端に記述内容が少なかったり、筆記が薄くて読みづらかったり、他者の書いた物の写しが疑われたりする場合も評価の対象外とします。

【履修上の心得】

- 配布したプリント類は適切にファイリングし、知識の定着や指導案作成、模擬授業準備に役立ててください。また、教科書と配布プリントは毎回必ず持ってきて下さい。
○授業内容に関する文献や書籍を主体的・積極的に探して読んでください。
○新聞・メディア等に日常的に目を通し、教育に関わる者の視点から社会的事象に対する関心と問題意識を持ってください。
○双方向的な授業作りを目指しますので、ただ聴いているだけでなく、主体的な参画意識を持って授業に臨んでください。
○各自が小学校で学習した社会科授業も適宜活かしていきます。シェアができるよう思いだしておいてください。
○グループによる演習では“結合改善”が重要です。各自リーダーシップを発揮し、アイデアや意見をたくさん出して、課題を達成して下さい。なお、実習等で欠席したメンバーには、作業内容や課題等をグループの責任において伝達して下さい。
○代返や代筆、飲食は厳禁です。携帯・スマホは電源を切るかマナーモードにして、バッグの中に入れて下さい(特例は除く)。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目 社会科概説Ⅰ

※小学校社会科の学習内容を取り上げた「社会科概説Ⅰ」の履修を前提に、講義及び演習(模擬授業)を展開していきます。

科目名	算数科教育法
	授業形態：講義
教員名	榎本 哲士

【授業の内容】

本授業は算数科の学習指導に関する必要な基礎能力を育成することを目指し、小学校算数科の目的・目標、学習指導内容(数と計算、量と測定、図形、数量関係、数学的な考え方)および学習指導方法(問題解決、問題づくり等)について理解し、算数科の授業を実践できるようにする。

【到達目標】

一般目標：小学校の教員として算数科の学習指導を担当するために必要な基礎能力を育成することを目指し、算数科の目標、学習指導内容および学習指導方法に関する知識を身に付け、実践で活かせるようにする。

到達目標：

1. 小学校算数科の目標、内容及び学習指導方法に関する基礎的な知識を獲得する。(知識・理解)
2. 小学校算数科の内容やその学習指導方法への関心・意欲を高め、授業実践に活かそうとする態度を形成する。(関心・意欲・態度)
3. 小学校算数科に関する児童の実態及び学習指導についての考えを深める。(思考)
4. 小学校算数科の学習指導内容について考え、具体的な問題を用いて表現できる。(表現)

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：授業の受け方、算数科に関する児童の実態
- 第2回 算数科の目的・目標
- 第3回 数と計算領域の学習指導(1)：数の概念
- 第4回 数と計算領域の学習指導(2)：計算(加法、減法、乗法、除法)
- 第5回 量と測定領域の学習指導(1)：量の概念、測定指導
- 第6回 量と測定領域の学習指導(2)：求積、単位量当たりの大きさ
- 第7回 図形領域の学習指導：図形の概念形成、図形の感覚
- 第8回 数量関係領域の学習指導(1)：表・グラフ・式、関数の考え
- 第9回 数量関係領域の学習指導(2)：統計の考え、場合の数と確率
- 第10回 模擬授業と振り返り
- 第11回 模擬授業と振り返り
- 第12回 模擬授業と振り返り
- 第13回 ICTを用いた算数科学習指導
- 第14回 算数科授業にみる日本の授業の特徴と教師の役割
- 第15回 次期学習指導要領における資質・能力と学習のプロセス

【授業の進め方】

主に講義中心に進めていきます。講義では、小学校算数科の学習指導事例を各領域ごとに扱うとともに、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。

毎回授業の終わりには、授業のまとめ・自分の考えをペーパーにして提出します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

〔教科書〕「小学校学習指導要領解説・算数編 平成20年8月(文部科学省)」東洋館出版社、250円

【参考図書】

授業中に適宜紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 20%

特記事項

講義に2/3出席していない学生は評価対象(履修者)とはみなしません。

最終試験(50%)、小レポート(30%)、受講態度(20%)により評価する。

最終試験では、授業内容を踏まえて、算数科の目標、内容および学習指導方法に関する知識を身に付け、活用できるようになっているかを評価する。

【履修上の心得】

遅刻や欠席をしないように心がけましょう。特に、30分以上遅刻をしないようにしましょう(欠席扱いにします)。出欠は出席カードで調べますが、必ず授業開始30分以内にカードを受け取り、授業の間無くさないように持って下さい。また、遅刻3回で欠席1回とします。やむをえない理由で早退する場合は断って退出して下さい。早退は遅刻と同じ扱いとします。カードは授業内に提出して下さい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目は算数概説Ⅰ、関連科目としては算数概説Ⅱがあります。
小学校教員免許状関連の「教職に関する科目」です。

科目名	算数科教育法
	算数科教育法
	授業形態：講義
教員名	石井 勉

【授業の内容】

この授業は、小学校の算数科指導の在り方について、目標、内容、指導方法を全般的に理解することをねらいとして講義を行います。講義では、算数科指導の現状と課題、数学的な考え方の重要性、算数科の各領域・各学年の指導内容の体系・系統の理解の上に立った算数科指導の考え方を取り上げます。

【到達目標】

この授業の大きな目標は、きちんとした学習指導案が書けるようになることです。年間あるいは単元の指導計画との関わりや、観点別評価の評価計画をどのような形式で指導案に取りこむかなど、大切なことがいくつかあります。その授業が他の学年の指導内容とどのように繋がっているのか、他の単元とどう関連しているのかを考慮する必要があります。算数は他の教科と比べて「指導の系統性」が非常に明確なのです。「すでに学んだこと」とその授業で「はじめて学ぶこと」とが明確でないとよい指導案になりません。

もう一つの大切なことは、算数の基本的な概念をきちんと理解することです。例えば「かけ算」あるいは「乗法」の意味は、学年が進むに従ってその意味も深まっていきます。各段階でどのように扱われているのかを知ることが重要になります。ある事柄を「筋道を立てて説明する」とき、基本となる概念が共有されていないと意味がありません。学習指導要領の算数科の目標の一つに「筋道を立てて考える能力を育てる」とありますが、この授業でもこれを目標の一つにしたいと思います。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス(授業概要の説明、教育における算数科の役割と特質)
- 第2回 算数科における学び合いの指導
- 第3回 算数科における問題解決の指導
- 第4回 第1学年1～2学期の教材と指導のポイント
- 第5回 第1学年2～3学期の教材と指導のポイント
- 第6回 第2学年1～2学期の教材と指導のポイント
- 第7回 第2学年2～3学期の教材と指導のポイント
- 第8回 第3学年1～2学期の教材と指導のポイント
- 第9回 第3学年2～3学期の教材と指導のポイント
- 第10回 第4学年1～2学期の教材と指導のポイント
- 第11回 第4学年2～3学期の教材と指導のポイント
- 第12回 第5学年1～2学期の教材と指導のポイント
- 第13回 第5学年2～3学期の教材と指導のポイント
- 第14回 第6学年1～2学期の教材と指導のポイント
- 第15回 第6学年2～3学期の教材と指導のポイント

【授業の進め方】

数名の学生による意見交換を取り入れ、場合によっては議論を深めながら講義を進めていきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

〔教科書〕初回の講義の中で指示をします(価格として2千円程度のものを予定)

【参考図書】

半田進、考えさせる授業実践編、東京書籍、2,800円、ISBN4-487-75724-X

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 0%

特記事項

レポートを25%、学習指導案を25%、テストを50%として、全体を勘案して相互的に評価します。なお、Sは積極的な参加及び質的に特に優れたものを、Aは積極的な参加及び質的に優れたものを、Bは十分な参加及び質的に優れたものを、Cは十分な参加及び質的に満足できるものを、Dは十分な参加及び質的に許容できるものを位置づけ、これらに及ばないものをDとします。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

詳細は講義の中で指示します。

【履修上の心得】

テキストを必携すること。

【科目のレベル、前提科目など】

大学教育学部在学学生として一般的なレベルの講義です。

【備 考】

特になし。

科目名	算数科教育法
	授業形態：講義
教員名	森本 明

【授業の内容】

算数授業の理論と実践に必要な教師の基礎的・基本的な資質・能力を、作業や議論の協同的な活動を通して、身に付けます。

【到達目標】

次に掲げる基礎的・基本的な資質・能力を、学生が作業や議論の協同的な活動を通して、身に付けることが到達目標です。

- 1 算数授業の理論と実践に興味・関心をもつことができる；
- 2 算数授業の理論と実践についての知識・理解をもつことができる；
- 3 算数授業の理論と実践の知識・理解をもとに、今日的な算数教育の課題やその改善の方策について深い考察ができる

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
授業の到達目標及びテーマを明らかにし、今後の学習を見通した明確な問題意識を持つことができる
- 第2回 算数の授業とカリキュラムを捉える視点
算数の授業実践事例の考察を通して、算数の授業とカリキュラムを捉える視点を獲得
- 第3回 算数数学教育の目的と算数科の目標
算数数学教育の目的と算数科の目標を明らかにする。主体的・対話的で深い学びの視点を獲得
- 第4回 算数授業における子どもの学びの事実
授業記録の視聴を通して、算数における子どもの学びを捉える視点を獲得
- 第5回 数学的な見方と考え方をはぐくむということ
子どもにはぐくみたい数学的な見方と考え方を捉える視点を獲得
- 第6回 算数における問題解決の理論と実践
算数の授業実践事例の考察を通して、算数における問題解決の理論と実践の視点を獲得
- 第7回 算数の授業とカリキュラムの理論と実践：「数と計算」（その1）
下学年の授業過程の構想と模擬実践に向けた作業と議論の協同的な活動を通して、「数と計算」の授業とカリキュラムを捉える視点を獲得
- 第8回 算数の授業とカリキュラムの理論と実践：「数と計算」（その2）
上学年の授業過程の構想と模擬実践に向けた作業と議論の協同的な活動を通して、「数と計算」の授業とカリキュラムを捉える視点を獲得
- 第9回 算数の授業とカリキュラムの理論と実践：「量と測定」（その1）
下学年の授業過程の構想と模擬実践に向けた作業と議論の協同的な活動を通して、「量と測定」の授業とカリキュラムを捉える視点を獲得
- 第10回 算数の授業とカリキュラムの理論と実践：「量と測定」（その2）
上学年の授業過程の構想と模擬実践に向けた作業と議論の協同的な活動を通して、「量と測定」の授業とカリキュラムを捉える視点を獲得
- 第11回 算数の授業とカリキュラムの理論と実践：「図形」（その1）
下学年の授業過程の構想と模擬実践に向けた作業と議論の協同的な活動を通して、「図形」の授業とカリキュラムを捉える視点を獲得
- 第12回 算数の授業とカリキュラムの理論と実践：「図形」（その2）
上学年の授業過程の構想と模擬実践に向けた作業と議論の協同的な活動を通して、「図形」の授業とカリキュラムを捉える視点を獲得
- 第13回 算数の授業とカリキュラムの理論と実践：「数量関係」（その1）
下学年の授業過程の構想と模擬実践に向けた作業と議論の協同的な活動を通して、「数量関係」の授業とカリキュラムを捉える視点を獲得
- 第14回 算数の授業とカリキュラムの理論と実践：「数量関係」（その2）
上学年の授業過程の構想と模擬実践に向けた作業と議論の協同的な活動を通して、「数量関係」の授業とカリキュラムを捉える視点を獲得
- 第15回 今日的な算数教育の課題とその改善
TIMSSやPISAといった国際調査ならびに全国学力・学習状況調査の結果の分析と考察を通して、今日的な算数教育の課題とその改善の方策の視点を獲得とともにICT活用について考える。

【授業の進め方】

作業や議論の協同的な活動を通して学びます。

毎回、授業の終わりには、自らの学習を振り返りメモに記述、提出します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①小学校学習指導要領解説 算数編 ②文部科学省 ④2008

授業中に適宜紹介します。

【参考図書】

『算数・数学科教育』2015年(一藝社)他
授業中に適宜紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 10% 受講態度 40%
特記事項

評価の条件は授業回数の2/3以上出席していることです。

その上で、定期試験、受講態度、レポート・課題により評価します；

- ・定期試験の評価(「定期試験」50%)
- ・毎回の作業や議論の協同活動への参画状況および貢献度(「受講態度」40%)
- ・振り返り記述メモの評価(「レポート・課題」10%)

科目名	理科教育法
	授業形態：講義
教員名	山野井 貴浩

【授業の内容】

実際に観察・実験を体験することで、学習指導要領に基づく小学校理科の内容と理科の教育方法について理解を深め、理科の授業を実施できる知識技能を習得することが目的である。

【到達目標】

- ・学習指導要領に基づく小学校理科の内容を説明できる。
- ・小学校理科で扱う実験内容を説明できる。
- ・子どもが関心を持つような探究的な授業方法を考えることができる。
- ・小学校理科の問題解決能力の育成を考慮した授業案を考えることができる。
- ・科学的な考え方を養成する授業案を考えることができる。

【授業計画】

- 第1回 エッグドロップコンテストー探究的な授業に必要な要素とはー
復習：ワークシートの考察課題（60分）
- 第2回 風とゴムの力で動くおもちゃ（小学校3年生理科）
予習：小学校理科の教科書を読み、講義で扱う単元の内容を確認する（30分）
復習：ワークシートの考察課題（60分）
- 第3回 身近な自然の観察（小学校3年生理科）
予習：小学校理科の教科書を読み、講義で扱う単元の内容を確認する（30分）
復習：ワークシートの考察課題（60分）
- 第4回 昆虫のからだのつくりと進化を理解させる観察（小学校3年生理科）
予習：小学校理科の教科書を読み、講義で扱う単元の内容を確認する（30分）
復習：学習指導案の作成（60分）
- 第5回 小学校で扱う電気～直列回路と並列回路（小学校4年生理科）を中心に～
予習：小学校理科の教科書を読み、講義で扱う単元の内容を確認する（30分）
復習：ワークシートの考察課題（60分）
- 第6回 金属と水の温まり方（小学校4年生理科）
予習：小学校理科の教科書を読み、講義で扱う単元の内容を確認する（30分）
復習：ワークシートの考察課題（60分）
- 第7回 対照実験から発芽の条件を探る（小学校5年生理科）
予習：小学校理科の教科書を読み、講義で扱う単元の内容を確認する（30分）
復習：ワークシートの考察課題（60分）
- 第8回 溶けた食塩はどこにあるのかを実験で検証する（小学校5年生理科）
予習：小学校理科の教科書を読み、講義で扱う単元の内容を確認する（30分）
復習：ワークシートの考察課題（60分）
- 第9回 メダカの観察（小学校5年生理科）
予習：小学校理科の教科書を読み、講義で扱う単元の内容を確認する（30分）
復習：ワークシートの考察課題（60分）
- 第10回 水の中の生き物の観察ーICT機器の利用方法の検討ー（小学校5年生理科）
予習：小学校理科の教科書を読み、講義で扱う単元の内容を確認する（30分）
復習：ワークシートの考察課題（60分）
- 第11回 水溶液の性質と化学変化（小学校6年生理科）
予習：小学校理科の教科書を読み、講義で扱う単元の内容を確認する（30分）
復習：ワークシートの考察課題（60分）
- 第12回 ヒトの体のつくり①呼吸、消化、循環（小学校6年生理科）
予習：小学校理科の教科書を読み、講義で扱う単元の内容を確認する（30分）
- 第13回 ヒトの体のつくり②煮干し（もしくはマイワシ）の解剖（小学校6年生理科）
予習：小学校理科の教科書を読み、講義で扱う単元の内容を確認する（30分）
- 第14回 ヒトの体のつくりをどうやって教えるかーグループ発表準備ー
- 第15回 グループ発表

【授業の進め方】

小学校理科で扱う観察・実験を実際に体験しながら、「探究的な授業」「問題解決能力の育成」「環境教育」「ICT教育」について考えることができるような授業を展開する。ICT教育については、スマートフォンやタブレットの授業での利用方法、映像教材やデジタル教科書を使った授業方法等を紹介する。毎回、次の授業までにワークシートの課題をまとめ、提出する必要がある。教育実習でその授業を扱うことになった場面を想定しながら、その指導法について考えを深めてほしい。最終回の授業で行うグループ発表では、観察・実験の実施が難しい「ヒトの体のつくり」の単元において、

どのような授業展開をすると良いかについて、プレゼンテーションを行う（模擬授業形式も可）。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①小学校学習指導要領解説理科編 ②文部科学省 ③大日本図書 ④2008年 ⑤65円

特に指定しない。

【参考図書】

必要に応じて紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 20%
特記事項
授業ワークシート50% グループ発表30%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

観察・実験は時間内で班員が協力して実施することが必要であり、遅刻・欠席は実験実施に障害になるため評価を減点する。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目 理科概説Ⅰ
関連科目 理科概説Ⅱ 生物学 化学 物理学 環境科学A・B

科目名	生活科教育法
	授業形態：講義
教員名	田村 恵美

【授業の内容】

生活科の目標・内容・方法、教師の役割を理解するとともに、生活科の授業についてイメージをつかみ、生活科の年間指導計画・単元計画・授業を構成する能力を身につける。さらに、実際に指導計画を作成し、模擬授業を行う。

【到達目標】

- ・小学校学習指導要領に基づき、生活科の目標・内容・方法について理解をしたうえで、生活科の授業を計画・実施・評価するための基礎的な知識や技能を身につける。
- ・生活科の教材研究について考え、生活科の指導計画を作成することができる。
- ・模擬授業を通して、子どもの実態や地域の特性を踏まえた生活科の授業をどのように実践したらよいかを学習する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 生活科の目標と内容―1年生―
- 第3回 生活科の目標と内容―2年生―
- 第4回 ICTを活用した学習評価
- 第5回 生活科と他教科との関連
- 第6回 生活科の学習指導案作成
- 第7回 模擬授業事前指導（1）教師の構えと子どもの見とり
- 第8回 模擬授業事前指導（2）教材研究
- 第9回 模擬授業事前指導（3）年間指導計画と単元計画
- 第10回 模擬授業及び授業検討会（1）
- 第11回 模擬授業及び授業検討会（2）
- 第12回 模擬授業及び授業検討会（3）
- 第13回 模擬授業及び授業検討会（4）
- 第14回 模擬授業及び授業検討会（5）
- 第15回 学びの振り返りと講義のまとめ

【授業の進め方】

- ・本講義では、講義形式の他に、数人で学習活動を行うグループワーク形式を取り入れ、進めてゆく。
- ・模擬授業事前指導においては、自然体験や自然観察、自然の素材を利用した制作物等、生活科の実践事例を挙げて説明を行う。
- ・学生による指導案作成および模擬授業を実施する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ・「小学校学習指導要領」文部科学省、平成20年3月告示
- ・「小学校学習指導要領解説・生活編」文部科学省、平成20年8月
- ・「小学校学習指導要領解説・総合的な学習の時間編」文部科学省、平成20年8月
- ・講義の中で、プリントを適宜配布する。

【参考図書】

- ・講義の中で、適宜紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 30%

特記事項

- ・定期試験、レポート、受講態度により、総合的に評価する。
- ・受講態度には、授業内で実施されるリアクションペーパーの提出、模擬授業の評価を含む。
- ・当該科目のすべての授業回数の3分の2以上に出席していること。
- ・病欠等で欠席する場合は、必ず連絡をすること。
- ・レポートの詳細については、授業内で指示をする。

【履修上の心得】

- ・事前に「小学校学習指導要領」および「小学校学習指導要領解説・生活編」を読み、予習をすること。
- ・「生活科教育法」は「生活科概説Ⅰ」を前提科目としているため、受講者は「生活科概説Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【科目のレベル、前提科目など】

- ・ 前提科目：「生活科概説Ⅰ」
- ・ 関連科目：「生活科概説Ⅱ」

科目名	生活科教育法
教員名	伊藤 哲章

【授業の内容】

本講義は、小学校生活科を担当する教員として基本的な力量を身につけることを目的とする。そのため、生活科の授業研究の動向を踏まえつつ、生活科の教材研究、ワークシートの作成・発表、模擬授業を行う。

【到達目標】

小学校生活科の授業を実践する上で必要となる基礎的・基本的な知識と理論を習得することを目標とする。

【授業計画】

第1回 講義ガイダンス 生活科の目標

学習課題

予習 生活科の学習指導要領の内容の概略を把握する。(60分)

復習 生活科の学習指導要領の内容を詳細を把握する。(30分)

第2回 ゲームを取り入れた自然体験活動1 (動物交差点・私は誰でしょう・コウモリとガ)

学習課題

予習 ネイチャーゲームの概略を調べる。(60分)

復習 実践したゲームのねらいをまとめる。(30分)

第3回 ゲームを取り入れた自然体験活動2 (カモフラージュ・カメラゲーム)

学習課題

予習 授業で自然体験活動を実施する際の注意点をまとめる。(60分)

復習 実践したゲームのねらいをまとめる。(30分)

第4回 身近な自然観察1 (大学周辺)

学習課題

予習 授業で自然観察を実施する際の注意点をまとめる。(30分)

復習 観察した生物の特徴をまとめる。(60分)

第5回 身近な自然観察2 (思川周辺)

学習課題

予習 授業で自然観察を実施する際のポイントをまとめる。(30分)

復習 観察した生物の特徴をまとめる。(60分)

第6回 身近な自然観察 教材研究発表

学習課題

予習 教材研究の発表準備を行う。(30分)

復習 各発表のポイントをまとめる。(60分)

第7回 ICTを活用した学習評価

学習課題

予習 小学校における学習評価について調べる。(30分)

復習 ICTを活用した学習評価を確認する。(60分)

第8回 自然の素材を利用した制作

学習課題

予習 生活科の授業で利用できる自然の素材について調べる。(30分)

復習 自然の教材を利用する利点についてまとめる。(60分)

第9回 自然の素材を利用した制作 発表

学習課題

予習 授業の実践例を考案する。(30分)

復習 授業の実践例を修正する。(60分)

第10回 他教科との関連の考慮、指導・評価の検討、単元計画作成

学習課題

予習 生活科の内容構成をまとめる。(60分)

復習 生活科の単元計画を修正する。(30分)

第11回 生活科の指導案作成

学習課題

予習 指導案の原案を作成する。(60分)

復習 指導案を修正する。(30分)

第12回 生活科の模擬授業準備

学習課題

予習 指導案の原案を作成する。(60分)

復習 指導案を修正する。(30分)

第13回 模擬授業1 (1班～3班)

学習課題

予習 模擬授業の準備を行う。(60分)

復習 模擬授業の改善点をまとめる。(30分)

第14回 模擬授業2 (4班～6班)

学習課題

予習 模擬授業の準備を行う。(60分)

復習 模擬授業の改善点をまとめる。(30分)

第15回 模擬授業3 (7班～9班)

学習課題

予習 模擬授業の準備を行う。(60分)

復習 模擬授業の改善点をまとめる。(30分)

教材化に関する研究は、グループ・ワークやフィールドワークを実施する。

【授業の進め方】

- ・野外で活動するときは、動きやすい服装・持ち物を準備すること。
- ・野外で活動するときは、天候や自然状況によって授業内容の変更もありえる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①小学校学習指導要領解説 生活編 ②文部科学省 ③日本文教出版 ④平成20年8月 ⑤104円

【参考図書】

適宜紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 20%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

定期考査、レポート、課題、受講態度を総合して成績を評価する。

【履修上の心得】

受講者は、「生活科概説Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目 「生活科概説Ⅰ」

関連科目 「生活科概説Ⅱ」

科目名	音楽科教育法
	授業形態：講義
教員名	富田 英也

【授業の内容】

小学校における音楽科の、目標、内容、領域、歴史などを理解するとともに、指導に必要な基礎的・基本的な知識・技能を修得することを目的とします。さらに自ら学び自ら考える力の育成をはかり、創意工夫と特色のある教育活動を展開し個性を生かした指導ができるような資質と能力を身に付ける。

【到達目標】

小学校学習指導要領に掲げる音楽科の指導内容を含み、授業に対する必要な知識・技能を身に付け、各学年の発達段階を理解し対応できるような、豊かな感性と豊かな情操が養えるような教育者を目標としている。

- ☆学習指導要領の意義と理解
- ☆小学校教育における音楽科の役割
- ☆小学校における音楽科教育の目標
- ☆指導計画案づくりと模擬授業

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、音楽教育の変遷と小学校教育における音楽科の役割を考える。
学習課題（予習、復習30分）
- 第2回 音楽科教育の目標と児童期の音楽的発達について講義し、ペアワークで理解を深める。低学年の共通教材と演習(1)。
学習課題（予習30分、復習30分）
- 第3回 音楽科教育の学習指導要領について学ぶ。ペアワークで理解を深める。低学年の共通教材と演習(2)。
学習課題（予習30分、復習1時間）
- 第4回 学習指導要領の解説について学び、さらにペアワークで意見交換し理解を深める。中学年の共通教材と演習(1)。
学習課題（予習、復習1時間）
- 第5回 歌唱指導についてテキストで学んだ後、グループワークで学年毎の歌唱指導のあり方や教材についてまとめる。中学年の共通教材と演習(2)。
学習課題（予習、復習30分）
- 第6回 器楽指導についてテキストで学んだ後、グループワークで学年毎の器楽指導のあり方や教材についてまとめる。高学年の共通教材と演習(1)。
学習課題（予習、復習30分）
- 第7回 音楽づくりについてテキストで学んだ後、グループワークで学年ごとの音楽づくりの在り方や教材についてまとめる。高学年の共通教材と演習(2)。
学習課題（予習、復習30分）
- 第8回 鑑賞についてテキストで学んだ後、グループワークで学年ごとの鑑賞の在り方や教材についてまとめる。今までのまとめとして授業内小テストを行う。
学習課題（予習1時間、復習30分）
- 第9回 日本音楽について、伝統的なものや郷土の民謡などについてテキストで学んだ後、実際に楽器に触れ体験する。日本の音楽の教材研究をグループワークでまとめる。
学習課題（予習30分、復習30分）
- 第10回 学習指導計画の意義と目的について学ぶ。低学年や中学年では、どんな内容や課題の指導案が考えられるかグループワークで研究する。
学習課題（予習30分、復習30分）
- 第11回 学習指導計画指導案の作成、例を基に学習し指導案の作成を行う。その後ペアワークでパソコン等を使って簡易な作成法を学ぶ。
学習課題（予習30分、復習30分）
- 第12回 ペアワークで学習指導計画の指導案作成をパソコンで行い、発表を行い質疑応答やディスカッションをしながらモジペーションを高める。
学習課題（予習30分、復習30分）
- 第13回 3組のペアを1グループにし、模擬授業の準備として作成した学習指導案を基に教材研究をする。
学習課題（予習、復習1時間）
- 第14回 グループによる模擬授業の試み（2組、対象：低学年、内容：歌唱・器楽）。終了後ディスカッション。
学習課題（予習、復習1時間）
- 第15回 グループによる模擬授業の試み（2組、対象：中学年、内容：鑑賞・音楽づくり）。終了後ディスカッション。各自作成の指導案の課題提出。
学習課題（予習1時間、復習30分）

【授業の進め方】

テキストを基本とした講義を中心に、低・中・高学年の課題と共通教材を取り上げた演習を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①教員養成課程 小学校音楽科教育法 ②有本真紀、他 ③教育芸術社 ⑤1.680 ⑥978-4-87788-491-8

『小学校学習指導要領解説 総合版』文部科学省、教育芸術社等

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 30% 受講態度 20%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

課題等期限のあるものは必ず期日までに提出すること。

【履修上の心得】

受講者それぞれの経験を踏まえながら児童の前で指導と支援をすることを考え、歌唱や器楽の実技活動も進んで行いその方法や習得する努力を惜しまないこと。教育実習等で抜けた部分は必ず補って学習をすること。

【科目のレベル、前提科目など】

音楽概説Ⅰ、音楽実技Ⅰ、音楽実技Ⅱ、ソルフェージュ、小学校教諭資格取得関連科目を修得していることが望ましい。

【備 考】

子どもの目線で子どもの立場になって物事を理解する視点が必要である。

科目名	音楽科教育法
	授業形態：講義
教員名	新井 恵美

【授業の内容】

小学校における音楽科について、目標、内容、領域、歴史などを理解するとともに、指導に必要な知識・技能を身に付けることを目的とします。

【到達目標】

小学校音楽科の授業を行うにあたって必要な知識・技能を身に付けることを目標とします。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、音楽教育と音楽科教育について
- 第2回 音楽（科）教育の歴史（1）明治～大正
- 第3回 音楽（科）教育の歴史（2）昭和～現在
- 第4回 学習指導要領（1）目標
- 第5回 学習指導要領（2）内容の概説
- 第6回 表現（1）歌唱－1 内容、指導上の注意点（ICTの活用を含む）
- 第7回 表現（1）歌唱－2 変声期について
- 第8回 表現（2）器楽－1 内容、鍵盤ハーモニカの指導
- 第9回 表現（2）器楽－2 リコーダーの指導
- 第10回 表現（2）器楽－3 打楽器の指導（ICTの活用を含む）
- 第11回 表現（3）音楽づくり（ICTの活用を含む）
- 第12回 鑑賞－1 内容、音楽を形づくっている要素との関連（ICTの活用を含む）
- 第13回 鑑賞－2 音楽の形式や歴史との関連
- 第14回 学習指導計画
- 第15回 評価

【授業の進め方】

講義を中心に、演奏や演習も行います。授業の最後にリアクションペーパーを提出してもらいます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①教員養成課程 小学校音楽科教育法 ②有本真紀・阪井恵・山下薫子編著 ③教育芸術社

【参考図書】

『小学校学習指導要領解説 音楽編』文部科学省、教育芸術社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%
 特記事項
 毎回のリアクションペーパーの記入状況 30%

【履修上の心得】

受講者それぞれが経験なども踏まえながら、小学校音楽科の授業について考えるきっかけになればと思います。よく「音楽は楽しければいい」と言われますが、「楽しい」とはどういうことなのかを考えていって欲しいと思います。音楽が苦手な人には、教師として子どもたちを支援できるよう、その方法を習得する努力を惜しまない学生を望みます。

【科目のレベル、前提科目など】

小・中学校での音楽の授業で習得した知識・技能を有していることが望ましいです。また、音楽概説Ⅰを習得していることが望ましいです。
 小学校教諭免許状取得のための基礎科目。

科目名	図画工作科教育法
	授業形態：講義
教員名	益田 勇一

【授業の内容】

図画工作科は表現領域と鑑賞領域に分かれ、表現領域には「材料や場所をもとにした造形活動（造形遊び）」「絵や立体、工作に表わす活動」といった内容が含まれる。鑑賞領域には表現活動の一環として友だちが作った作品を見ること、製作と関連した芸術作品を鑑賞することが含まれる。この講義では、図画工作科の学習内容、基礎的な技法・材料・道具についての知識、学習指導案の作成方法などについて学ぶとともに、教科内容の適切な指導法について検討する。

【到達目標】

図画工作科の学習内容とそれに対応した指導法の理解。

【授業計画】

- 第1回 造形遊びの指導
学習課題：学習指導要領の該当箇所をあらかじめ読んでおく
- 第2回 絵に表す活動の指導
学習課題：学習指導要領の該当箇所をあらかじめ読んでおく
- 第3回 立体・工作に表す活動の指導
学習課題：学習指導要領の該当箇所をあらかじめ読んでおく
- 第4回 色彩の基礎理論
- 第5回 陶芸の指導（1）陶芸の基礎知識
- 第6回 陶芸の指導（2）製作の手順と要点
- 第7回 版画の指導（1）凸版形式・凹版形式
- 第8回 版画の指導（2）平版・孔版形式
- 第9回 木工の基礎知識
- 第10回 鑑賞学習の指導 アクティブ・ラーニングを取り入れた鑑賞学習
学習課題：学習指導要領の該当箇所をあらかじめ読んでおく
- 第11回 鑑賞指導のための美術の基礎知識（1）西洋美術
- 第12回 鑑賞指導のための美術の基礎知識（2）日本美術
- 第13回 鑑賞学習のためのデジタル教材の作成
学習課題：パワーポイントを用いた鑑賞教材を作成してみる
- 第14回 図画工作科学習指導案作成上の留意点
- 第15回 模擬授業
学習課題：1時間分の学習指導案を作成しておく

【教科書（必ず購入すべきもの）】

教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考図書】

- 『小学校図画工作科の指導』新井哲夫他、建帛社、2010年。
- 『小学校学習指導要領解説 図画工作編』文部科学省。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項
定期試験による評価。

【科目のレベル、前提科目など】

小学校教員免許を取得するための教職科目。

科目名	図画工作科教育法
	授業形態：講義
教員名	金子 亨

【授業の内容】

学校教育における図画工作科の意義と役割を理解し、図画工作科の教育内容と指導法、造型教育史、造型表現発達、教材、基礎的な造型表現の知識・技術、指導法等の調査学習を行った上で、班別の調査、協働作業、グループ・ディスカッションにより、理解を深める。主体的に協働的に各自学びながら、班構成による受講者発表形式で学習を深める。

【到達目標】

- ・初等図画工作科教育の基本的知識と指導力とを主体的、対話的、調査学習手法により習得する。また学校教育のみならず社会での図画工作科の意義と目的について、各自、日常生活の中で美術館・博物館、地域の文化財等に視野を広げ、図画工作科の社会での役割を理解し、各自の美術教育観を深め、初等図画工作科教育プログラムの役割を社会一般の中での理解を明確にする。
- ・発表形式により学校教育現場での図画工作授業実践ができるように、指導案の作成、授業実践のための、教材等の知識と運用の仕方を主体的、協働的に身につける。

【授業計画】

第1回	第1回、テーマ 図画工作科教育法で何を学ぶのか（オリエンテーション）、
第2回	第2回 テーマ 図画工作科教育の意義と役割（1）図画工作科授業の実践（映像教材使用）、小レポート提出（課題の予習、授業後の復習90分）
第3回	第3回 テーマ 図画工作科の意義と役割（2）図画工作科の教育内容 小レポート提出（課題の予習、授業後の復習90分）
第4回	第4回 テーマ 子どもの造形表現にみられる発達段階（1）ナンシー・スミスの説（低学年）、小レポートの提出、（課題の予習、授業後の復習90分）
第5回	第5回 テーマ 子どもの造形表現にみられる発達段階（2）ナンシー・スミスの説（高学年）、小レポートの提出、（課題の予習、授業後の復習90分）
第6回	第6回 テーマ 造形教育史（1）明治から昭和初期 小レポート提出（発表班はパワーポイントでの内容作成、整理に90分）
第7回	第7回 テーマ 造形教育史（2）昭和以降： 小レポート提出、（発表班はパワーポイントでの内容作成、整理に90分）
第8回	第8回 テーマ 図画工作科学習指導要領（1）改定の変遷とねらい：（発表班はパワーポイントでの内容作成、整理に90分）
第9回	第9回 テーマ 学習指導論（1）絵に表す活動 小レポート提出（発表班はパワーポイントでの内容作成、グループ討論整理に90分）
第10回	第10回 テーマ 学習指導論（2）立体・工作に表す活動 小レポート提出（発表班はパワーポイントでの内容作成、グループ討論、整理に90分）
第11回	第11回 テーマ 学習指導論（3）鑑賞 小レポート提出、（発表班はパワーポイントでの内容作成、グループ討論、整理に90分）
第12回	第12回 テーマ新学習指導要領の解説（1）図画工作編 小レポートの提出（発表班はパワーポイントでの内容作成、グループ討論、整理に90分）
第13回	第13回、テーマ図画工作科の授業（1）図画工作科の指導計画の作成（⑥課題の発表班はパワーポイントでの内容作成、整理に90分）
第14回	第14回 テーマ図画工作科の授業（2）評価:発表 小レポート提出（課題の発表班はパワーポイントでの内容作成、整理に90分）
第15回	第15回 テーマ図画工作科の授業（3）写真・映像メディアを活用した教育について（発表班はパワーポイントでの内容作成、整理に90分） 最終レポート提出

毎回の授業計画の最初に、記載しておいたが、基本的課題の発表の為の班別のグループディスカッション、準備としての調査学習、発表の為のパワーポイント作成等のグループワークの時間。課題発表の為の準備は90分位が必要である、

【授業の進め方】

発表内容の概要のプリントの配布、教員の指導、学生の発表はパワーポイントを使用し進める

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①小学校学習指導要領解説 ②文部科学省 ③日本文教出版 ⑤81+税 ⑥978-4-536-59001-3

必要に応じて講義概要のプリントを配布する。

【参考図書】

『小学校図画工作教育科の研究』宮脇理編著 建帛社
『図画工作・美術教育研究』藤澤英明 水島尚喜 編 教育出版
『美術家教育の方法論と歴史』金子一夫 中央公論美術出版

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

発表の時に、介護等体験と重なった時、もしくはインフルエンザ等で出席できない時は発表者の順番の交代等で対処する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

(小レポート・発表、最終レポート)と授業態度で総合的に評価する

【履修上の心得】

学校教育における今日的課題と美術教育との関りに目をむけ、意欲的に授業に参加することを希望します。

【科目のレベル、前提科目など】

図画工作概説Ⅰを受講している事が望ましい
小学校教員免許を取得する学生のための科目

【備 考】

小レポート、小実技時の欠席者に対しては提出日を指定し不利益とならないように対応する。
最終レポート提出日の欠席者に対しては提出日を指定し不利益とならないように対応する。
小レポートは授業内容の理解度を知らる為に必要に応じ実施、小実技は授業の進行に合わせて随時実施する。

科目名	家庭科教育法
	授業形態：講義
教員名	宇津野 花陽

【授業の内容】

小学校家庭科を中心に家庭科の歴史、目標、内容、評価、学習方法、教材、教具、年間指導計画の組み立て方などを検討し、小学校家庭科について全体的な理解を深める。さらに、具体的な授業の場面を想定しながら学習指導案を作成し、模擬授業を行う。

【到達目標】

小学校家庭科の目標と内容、学習方法、評価等について理解し、学習指導案の作成、模擬授業ができるようになることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 家庭科とは：次回の予習として、身近にいる、自分とは世代の異なる大人に、小学生～高校生の頃、どのような家庭科を学んだかインタビューする（30分）。
- 第2回 家庭科の歴史：授業で取り上げた重要事項を復習する（60分）。
- 第3回 家庭科の目標と内容：授業で取り上げたキーワードについて復習する（30分）。
- 第4回 様々な学習方法と教材、教具（ICTの活用を含む）：授業で取り上げたキーワードについて復習する。また、ICTを活用した指導方法について、インターネットを用いて各自調べる（60分）。
- 第5回 小学校家庭科の学習内容 A家庭生活と家族：授業で取り上げた重要事項について復習する。児童が楽しく学べる指導例を考える（60分）。
- 第6回 小学校家庭科の学習内容 B日常の食事と調理の基礎：授業で取り上げた重要事項について復習する。児童が楽しく学べる指導例を考える（60分）。
- 第7回 小学校家庭科の学習内容 C快適な衣服と住まい（ミシンの使い方を含む）：授業で取り上げた重要事項について復習する。児童が楽しく学べる指導例を考える（60分）。
- 第8回 布を用いたものの製作（1）計画（ミシンの使い方を含む）：基礎的な技能の復習をし、定着をはかる（30分）。
- 第9回 布を用いたものの製作（2）製作（ミシンの使い方を含む）：基礎的な技能の復習をし、定着をはかる（30分）。
- 第10回 小学校家庭科の学習内容 D身近な消費生活と環境：授業で取り上げた重要事項について復習する。児童が楽しく学べる指導例を考える（60分）。
- 第11回 年間指導計画、学習指導案の作り方：授業で取り上げた重要事項について復習する（30分）。
- 第12回 学習指導案の作成（1）題材の設定：学習指導案および教具の研究をする（60分）
- 第13回 学習指導案の作成（2）指導案の作成：学習指導案および教具の研究をする（60分）。
- 第14回 学習指導案の作成（3）教具の作成：学習指導案および教具の研究をする（60分）。
- 第15回 模擬授業：これまでの授業内容について復習する（60分）。

【授業の進め方】

講義のほか、グループごとの作業やディスカッション、意見交換などを取り入れつつすすめていく。ICTを活用した指導内容のあり方についても必要に応じて取り上げる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

指定しない。

【参考図書】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領』平成20年
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』平成20年
- ・小学校家庭科教科書『新編 新しい家庭』東京書籍
- ・小学校家庭科教科書『わたしたちの家庭科』開隆堂

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 90% 受講態度 10%

特記事項

- ・レポート・課題90%：作品10%、授業内提出物20%、学習指導案・期末レポート60%
- ・受講態度は、授業への取り組みや発言、グループでのアクティビティへの取り組みなどを評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

小学校教員になるために必要な科目である。よい学習環境をつくるために大切なことについて考え、守ること。

【履修上の心得】

家庭科で何を教えたらいいか、どのように教えたらいいかを考えながら受講してほしい。グループでのアクティビティを行う際も、積極的に参加してほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：「家庭科概説Ⅰ」

関連科目：「教育法演習B」「家庭科概説Ⅱ」

「家庭科概説Ⅰ」をふまえ、「家庭科教育法」では、小学校家庭科の内容や方法についての理解を深め、学習指導案の作成、模擬授業ができるようにする。「家庭科教育法」の学習の上に、さらに「家庭科概説Ⅱ」や「教育法演習B」では、模擬授業や製作・実習を通して実践力を高めていく。

科目名	家庭科教育法
	授業形態：講義
教員名	和田 早苗

【授業の内容】

小学校家庭科を担当するために必要な基礎知識（家庭科の歴史、教科目標、内容、評価等）について学び、社会の変化を考慮した教育法や題材の選び方を学ぶ。それらをふまえ、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。

【到達目標】

小学校家庭科の目標や内容、学習方法、評価等について理解し、学習指導案の作成、模擬授業ができるようになることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス、家庭科とは：授業で取り上げた重要事項を復習する（30分）。
- 第2回 家庭科教育の理念、歴史的変遷、教科目標：授業で取り上げた重要事項を復習する（30分）。
- 第3回 小学校家庭科の学習内容（1）家庭・家族：授業で取り上げた重要事項を復習し、指導例を考える（60分）。
- 第4回 小学校家庭科の学習内容（2）食生活：授業で取り上げた重要事項を復習し、指導例を考える（60分）。
- 第5回 小学校家庭科の学習内容（3）住生活：授業で取り上げた重要事項を復習し、指導例を考える（60分）。
- 第6回 小学校家庭科の学習内容（4）衣生活（ミシンの使い方を含む）：授業で取り上げた重要事項を復習し、指導例を考える（60分）。
- 第7回 布を用いたものの製作（1）計画と製作（ミシンの使い方を含む）：基礎的な技能を復習する（30分）。製作の記録を作成する（30分）。
- 第8回 布を用いたものの製作（2）製作（ミシンの使い方を含む）：基礎的な技能を復習し定着をはかる（30分）。製作の記録を作成する（30分）。
- 第9回 小学校家庭科の学習内容（5）消費生活：授業で取り上げた重要事項を復習し、指導例を考える（60分）。
- 第10回 小学校家庭科の学習内容（6）環境：授業で取り上げた重要事項を復習し、指導例を考える（60分）。
- 第11回 年間指導計画と学習指導案の作り方：授業で取り上げた重要事項を復習し、学習指導案作成の準備をする（60分）。
- 第12回 家庭科の評価、学習指導案の作成（1）題材の設定：学習指導案の研究を行う（60分）
- 第13回 家庭科の学習方法と教具・教材（ICTの活用を含む）、学習指導案の作成（2）指導案の作成：学習指導案および教具等の研究を行う（60分）。また、ICTを活用した指導方法について、インターネットを用いて各自調べる（60分）。
- 第14回 学習指導案の検討：学習指導案を検討し、気づいた点をまとめる（90分）。
- 第15回 模擬授業、まとめ：これまでの授業内容について復習する（60分）。

【授業の進め方】

講義のほか、グループごとの作業やディスカッション、意見交換などを取り入れつつすすめていく。ICTを活用した指導内容のあり方についても必要に応じて取り上げる。また、取り上げた内容に関する授業内提出物を数回実施する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

指定しない。

【参考図書】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領』平成20年
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』平成20年
- ・小学校家庭科教科書『新編 新しい家庭』東京書籍
- ・小学校家庭科教科書『わたしたちの家庭科』開隆堂

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 90% 受講態度 10%

特記事項

- ・レポート・課題90%：作品・製作記録10%、授業内提出物20%、学習指導案・期末レポート：60%
- ・受講態度は、授業への取り組みや発言、グループでのアクティビティへの取り組みなどを評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

よい学習環境をつくるために大切なことについて考え、守ること。

【履修上の心得】

家庭科で何を教えたらいいか、どのように教えたらいいかを考えながら受講してほしい。授業では受け身にならないよう、積極的に発言・参加してほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：「家庭科概説Ⅰ」

関連科目：「教育法演習B」「家庭科概説Ⅱ」

「家庭科概説Ⅰ」をふまえ、「家庭科教育法」では、小学校家庭科の内容や方法についての理解を深め、学習指導案の作成、模擬授業ができるようにする。「家庭科教育法」の学習の上に、さらに「家庭科概説Ⅱ」や「教育法演習B」では、模擬授業や製作・実習を通して実践力を高めていく。

科目名	体育科教育法
	授業形態：講義
教員名	大津 展子

【授業の内容】

小学校体育授業における基礎的知識、授業計画の考え方や評価方法などを学び、それらを生かした模擬授業を行う。学期末には、試験を行い、60点以上で合格とする。

【到達目標】

- ・小学校体育授業における基礎基本を理解することができる。
- ・「よい体育授業」の基礎基本を踏まえた授業を計画し展開することができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション(自己紹介含)

第2回 よい体育授業についてⅠ

よい体育授業についてのDVDを元に、なぜその授業がよい体育授業なのかグループで話し合い、誘導発見学習を行う。

第3回 よい体育授業についてⅡ

DVDよい体育授業についての体験学習を行う。

第4回 よい体育授業についてⅢ

講義の他参考にすべき教師行動のVTRを活用し、その内容を元にグループディスカッション等を取り入れて進める。

第5回 小学校学習指導要領体育編/年間指導計画/単元計画/指導案等の理解

講義に加え、グループディスカッションとペア学習を取り入れて学習内容の確認を行う。

第6回 よい体育授業の教材研究Ⅰ 陸上運動系

陸上運動系のよい体育授業をVTRで確認し、教室内でできる陸上運動系の体験学習を行う。

第7回 よい体育授業の教材研究Ⅱ 表現運動系及びダンス

講義やVTRを参考にグループワークを行い、表現運動系及びダンスの授業に関しての考えをまとめる。

第8回 よい体育授業の教材研究Ⅲ ボール運動系

学習指導要領を中心に、ボール運動系の講義を行い、グループワークを行う。

第9回 よい体育授業の教材研究Ⅳ ボール運動系の具体的教材例

ボール運動系の具体的教材の例（VTR）を学習し、その教材について、体験学習を行う。

第10回 学習指導案作成のための考え方

学習指導案の書き方を学習し、そのまとめをグループで行う。

第11回 学習指導案の書き方

前回の復習を生かしつつ、グループや個人で学習指導案を作成するために、内容をまとめる。

第12回 学習指導案作成①

個々で学習指導案を作成する。

第13回 学習指導案作成②

個々で学習指導案を作成する。

第14回 学習指導案作成③

個々で学習指導案を作成する。

第15回 まとめ

学習指導案を作成し、提出する。

授業のまとめをグループやペアで行う。

「よい体育授業」の実現のために必要なスキルを学習します。そのスキルとは、授業を計画し実践できることに加え、教師行動も重要な1つです。よって、知識を身に着けたうえで模擬授業で教師としての行動や態度も練習します。

【授業の進め方】

出席は毎回必ずとります。授業開始時間の前までに、机上・服装などの学習ができる準備を整えて着席していただきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

小学校学習指導要領解説 体育編 文部科学省 東洋館出版社

新版 体育科教育学入門 高橋健夫他 編著 大修館書店

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

遅刻/早退/欠席は、事前連絡をすること。授業開始時刻前には、学習ができるように(机の上/服装など)準備をして、開始時刻と同時に挨拶を行い、授業を開始します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席/授業態度/提出物を点数化して評価します。

【履修上の心得】

「体育の先生」の卵であるという認識をお忘れなく(出席・授業態度)。

【科目のレベル、前提科目など】

特になし。

【備 考】

特になし。

科目名	体育原理
教員名	内山 須美子

【授業の内容】

スポーツと体育の本質を考え、スポーツと体育の原理・原則を学ぶ。

スポーツと体育の現状と問題点を知る。

スポーツと体育の歴史を知る。

【到達目標】

スポーツと体育の本質を考え、スポーツと体育の原理・原則を知ることができる。

スポーツと体育の現状と問題点を知ることができる。

スポーツと体育の歴史を知ることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
[内容]「体育原理」の輪郭と学問領域
- 第2回 体育とは何か? : その1
[内容] 前提としての歴史認識：古代～近世
- 第3回 体育とは何か? : その2
[内容] 前提としての歴史認識：近代～現代
- 第4回 体育とは何か? : その3
[内容] 体育の概念と歴史
- 第5回 体育とは何か? : その4
[内容] 体育理論の変遷
- 第6回 体育と体育教師：その1
[内容] 体育の存在意義と学校体育
- 第7回 体育と体育教師：その2
[内容] 専門職としての体育教師
- 第8回 体育と体育教師：その3
[内容] 体育と人間形成
[確認テスト]
- 第9回 体育・スポーツの諸問題：その1
[内容] スポーツの概念と歴史
- 第10回 体育・スポーツの諸問題：その2
[内容] 文化としてのスポーツ
- 第11回 体育・スポーツの諸問題：その3
[内容] 運動嫌いと体力低下
- 第12回 体育・スポーツの諸問題：その4
[内容] 体育・スポーツと暴力、勝利至上主義
- 第13回 体育・スポーツの諸問題：その5
[内容] スポーツとビジネス
- 第14回 体育・スポーツの諸問題：その6
[内容] スポーツとジェンダー
- 第15回 体育・スポーツの諸問題：その7
[内容] スポーツとドーピング

1. 講義中は静寂を保つこと。
2. 本講義においては、諸知識の記憶も大切ですが、それをを用いて考えることが重要です。積極的な受講態度を求めます。

【授業の進め方】

毎回、テーマ（内容）に沿って講義が進められるとともに、グループごとの作業やペアワークが採り入れられる。毎授業の終わりに、授業のまとめとして自分の考えをペーパーとして提出する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に使用しません。毎時間、プリントを使用します。

【参考図書】

友添秀則・岡出美則著：「教養としての体育原理」：大修館書店

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 80% レポート・課題 0% 受講態度 20%

【履修上の心得】

体育やスポーツの基礎、現状、問題点、体育の歴史を学ぶことで、自分の研究テーマを見つけ出してください。

科目名	体育心理学
教員名	島崎 崇史

【授業の内容】

本授業では、まず前半の第1回から第7回の授業において競技力の向上、試合での実力発揮、および人間的成長を目的としたメンタルトレーニングの要素を取り入れた体育・スポーツ指導の方法について体験学習を通じて学ぶ。また、第8回から第15回については、体育・スポーツ指導において、生徒や選手の心理面を考慮した教育、およびコーチングができるようになることを目的とし、スポーツ心理学の知見を活かした効果的な指導のポイントについて学習する。

【到達目標】

本授業では、体育・スポーツ心理学の知識の向上・体験学習を通じて、a) 受講者自身のメンタル面強化、およびb) 体育・スポーツ指導において生徒や選手の心理面を考慮した指導・コーチングができるようになること、を到達目的とする。また、体験学習型の体育心理学の講義を受講することにより、学生が教育者となり、児童・生徒に対して本講の内容を伝える際、児童生徒が主体的に学習できる、いわゆるアクティブラーニングの視点による知識の理解を計画・実施できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 体育・スポーツ心理学とは？
：体育・スポーツ心理学とは何かを理解し、心理面での長所、短所を理解するセルフモニタリング(自己分析)を体験学習する。
- 第2回 やる気を高める方法
：やる気(モチベーション)が高まるしくみを理解し、目標設定によるやる気を高める方法を体験する。
- 第3回 プレッシャーに勝つためのセルフコントロール
：プレッシャーのメカニズムを理解し、プレッシャーを上手にコントロールする方法を学ぶ。
- 第4回 試合で実力を発揮するための理想的な心理状態
：最もパフォーマンスを発揮できる理想的な心理状態「ゾーン」について理解し、ゾーンを導き出す方法を学ぶ。
- 第5回 集中力を高める方法
：集中力を高める方法を実際に体験し、保健・体育の授業や部活動の指導の中に活かすことができるようになる。
- 第6回 イメージトレーニングを上手く使って上達を早める
：効果的なイメージトレーニングの方法を体験し、保健・体育の授業や部活動の指導の中に活かすことができるようになる。
- 第7回 パフォーマンスと自信
：個人やチームの持つ自信が、個人の上達やチームに与える影響について理解し、選手の自信を高める方法を学ぶ。また、スランプや伸び悩みのメカニズムについて学ぶ。
- 第8回 指導者の哲学とリーダーシップ
：教員、スポーツ指導者としての行動を左右する指導哲学について学ぶ。また、望ましい指導者のあり方についてグループディスカッションをおこなう。
- 第9回 チームを強くする効果的なコミュニケーション
：言葉がけや身振り手振り、ジェスチャー、アイコンタクトといった非言語的コミュニケーションを活用した効果的なコミュニケーションについて学ぶ。
- 第10回 選手に対する効果的な言葉がけ(フィードバック)
：選手に対してアドバイスをする際のタイミングや話し方のコツについて学び、実践できるようになる。
- 第11回 ジュニアスポーツ指導の心理学
：子どもに対して指導する際のポイント、および保護者をチームに上手く取り込んで聞く方法を知り、実践できるようになる。
- 第12回 スポーツ傷害に対する心理的支援
：スポーツ傷害が起こる理由について学び、スポーツ傷害を抱える選手に対するコミュニケーション方法を実践できるようになる。また、スポーツ傷害に起因する心理的諸問題を抱える選手に対するコミュニケーションの方法について解決学習をする。
- 第13回 チームビルディングとグループダイナミクス
：チームワークを高める具体的な方法と、チームや集団の運営の方法について知り、実践できるようになる。
- 第14回 スポーツ選手の心身の諸問題に対する支援
：スポーツ活動に伴い生じる心身の問題(スポーツ傷害、摂食障害、およびバーンアウト)といった問題について学ぶ。
- 第15回 教育と競技力向上ライフスキル
：スポーツの経験やスポーツを通じて学んだことが、その後の人生や日常生活に及ぼす好影響について理解する。また、児童生徒のライフスキルを育成するグループ・ワークを体験する。

【授業の進め方】

上記の授業計画に基づき、板書、配布資料、および映像資料を用いて講義を進める。また、授業内で適宜グループワーク・ディスカッションの機会を設ける。毎回の授業の最後にリアクションペーパーを配布し、授業に対する感想、要望および疑問点について記載を求める。特に講義の内容と関連の高い要望、および疑問点については、次回授業において返答する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は指定しない。適宜資料を配布する。

【参考図書】

参考図書としては、基礎から学ぶメンタルトレーニング（高妻容一著、B.B.M社）、トップアスリートのための心理学（市村操一編著、同文書院）、および運動指導の心理学（杉原隆著、大修館書店）を勧める。さらに深く学びたい学生については、スポーツメンタルトレーニング教本（日本スポーツ心理学会編、大修館書店）、およびFoundations of Sport and Exercise Psychology (Weinberg & Gould著、HUMAN KINETICS)を参照されたい。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 20%

特記事項

- ・定期試験は、論述式でおこなう。
- ・授業態度は、リアクションペーパーへの回答状況、および授業への参加状況により評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回、授業時間内にリアクションペーパーの提出・することによって、出席および講義内容の理解の確認とする。教育実習や部活動等で欠席する場合、その旨を考慮するので必ず欠席届を提出すること。

【科目のレベル、前提科目など】

体育・スポーツ心理学の基礎的内容を扱う。運動・スポーツにおける競技力向上をキーワードとした心と身体の間を学ぶ基礎的科目として位置づけられる。

【備 考】

中学校・高等学校一種免許状（保健体育）関連科目である。「認定心理士」資格申請を希望する場合は受講することが望ましい。前提科目は特にないが、心理学、生理学、スポーツ医学等、関連科目の履修を勧める。

科目名	スポーツ行政論
教員名	中村 祐司

【授業の内容】

諸外国におけるスポーツ振興政策も紹介しつつ、サッカーくじの導入やワールドカップ開催などを契機に、国や地方自治体のスポーツ環境がどのように変容し、どのような課題に直面しているのかを新聞報道等にもとづいて明らかにする。財政難や行政のスリム化傾向の中で、従来のスポーツ行政組織機構の再編や統合などの動きにも注目する。そして、グループ討議の実施も視野に入れつつ、スポーツに関わるサービスをめぐって、公的セクター（行政）、私的セクター（民間企業）、ボランティアセクターがパートナーシップ関係を構築していくための方策を探る。とくに、総合型地域スポーツクラブの設立・運営をめぐり、クラブが掲げる理念の共有、実際に直面する課題の解決策、住民の参画方法や地域コミュニティ活性化の方途、さらには企業からの支援の在り方などについても考察する。具体的な授業の進め方としては、2020年東京五輪開催に関する話題など新聞報道を情報源として、その時々々のスポーツ行政やスポーツ政策に関わる課題を取り上げていくこととする。2011年3月11日の東日本大震災後のスポーツ関連政策の実施を通じた復旧・復興支援をめぐる諸課題や、スポーツ基本法の制定(同年6月)とその施行をめぐる関係者間の協働の課題などについても取り扱う。また、とくに2020年東京五輪をめぐる諸課題についても多角的な視点から取り上げる。

【到達目標】

スポーツ行政やスポーツ政策に関わる様々な課題について、新聞報道をもとに、事例に沿った形で考察する力を受講生が身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 スポーツ行政とは何か、スポーツ行政研究とは何か。具体的なスポーツ行政に関わる課題として何が挙げられるか復習の中で提示する（30分）。
- 第2回 スポーツ活動と行政活動との接点。たとえばスポーツ公共施設をめぐる運営の具体的課題を列挙してくる（60分）。
- 第3回 スポーツガバナンスの時代とスポーツ行政。スポーツのガバナンスがスポーツ行政に及ぼす影響について考察する（60分）。
- 第4回 2020年東京五輪をめぐるスポーツ振興と政府の関係。競技会場の整備をめぐるコスト負担の在り方について各自の考えをまとめる（60分）。
- 第5回 国のスポーツ行政と自治体のスポーツ行政。両者の性格の違いを各自で明確にする（60分）。
- 第6回 スポーツ行政と国家予算。スポーツ行政に関連した国家予算にはどのようなものがあるか列挙してくる（60分）。
- 第7回 スポーツ事業実施における資金獲得をめぐる課題。スポーツ大会の実施に掛かるコストとその調達方法について各自が事例を挙げて考察する（60分）。
- 第8回 スポーツクラブ・地域密着型プロスポーツと行政との協働。地域スポーツクラブ等への行政の支援策にはどのようなものがあるのか事前に列挙してくる（60分）。
- 第9回 スポーツ事業と震災復興。震災復興の貢献するスポーツ事業の事例には何があるのかを考える（60分）。
- 第10回 スポーツ行政と国際交流—2020年東京五輪をめぐる諸課題も含めて—。国際交流にスポーツ行政が果たすことのできる役割を具体的に挙げる（60分）。
- 第11回 スポーツ関係省庁の機能と課題—2020年東京五輪の開催をめぐって—。とくにスポーツ庁が東京五輪事業にどのように関わっているのかについて考察する（60分）。
- 第12回 スポーツ事業支援をめぐる行政の役割—五輪開催をめぐる日本とイギリスの比較を視野に—。2012年ロンドン五輪におけるレガシーとは何かについて挙げる（60分）。
- 第13回 総合行政におけるスポーツ行政の位置づけ。授業で取り上げたキーワードについて各自復習する（30分）
- 第14回 スポーツ行政と文化行政。授業で取り上げたキーワードについて各自復習する（30分）。
- 第15回 これからのスポーツ行政。これまでの授業内容について復習する（120分）。

その時々々の新聞報道をもとに授業を進めていくが、たとえばより具体的な項目事項では以下ようになる。

1. スポーツ行政研究の意義
2. 先進諸国におけるスポーツ行政の趨勢
3. イギリスのスポーツ政策の変容
4. 日本におけるスポーツ行政の歴史
5. 日本におけるスポーツ振興策の課題
6. オーストラリアのスポーツ行政と産業振興
7. スポーツ行政と地域社会
8. ローカルガバナンスと地域スポーツ活動
9. 総合型地域スポーツクラブの実践と課題
10. スポーツ行政をめぐる現代的課題
11. 日本におけるスポーツ政策の近年の変容状況—ブラジルとの比較も含めて—

12. スポーツ行政予算をめぐる事業仕分けの特徴
13. スポーツ・ガバナンスの考え方と実践課題—リオデジャネイロ五輪を念頭に—
14. 政党とスポーツ政策・スポーツ基本法
15. 民主党政権下、自民政権下のスポーツ行政の方向性—ブラジル政府との比較を念頭に—
(なお、各講義における素材としては主に複数紙の新聞報道を用いる)

【授業の進め方】

スポーツ行政を研究する意義について受講生に共通の認識を持たせるようにする。そして、中央政府と地方自治体がどのような意図とスタンスでスポーツ振興に取り組んでいるのかを、諸外国の事例も含めて明らかにする。さらに、政府が提供するスポーツ政策とこれを実質的に担う私的セクター（民間企業）やボランタリーセクター（市民団体など）がどのような課題に直面しているのかを把握する。なお、受講生に対する質問を心掛け、教員による一方通行的な説明のみではなく、受講者と一緒に課題解決に向けて知恵を出し合うような授業にしたい。なお、ICT活用の指導内容として、関連のネット情報も積極的に活用し、スクリーン上に投影しつつ授業を進めるケースもある。また、授業の中で教員から受講生に対して課題を投げかけ、教員と受講生との間でのやり取りあるいは受講生間でのグループ討議を行う時間帯を設ける。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

とくに教科書は用意しないが、板書が中心となるのでノートを必ず用意すること。

【参考図書】

授業の中で適宜紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

期末テスト、平常点（授業への貢献、積極性、発言等）

期末テスト70%、平常点30%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回の授業に出席して説明を理解しながら、板書内容をノートに取ることが大切。

【履修上の心得】

国と地方自治体が提供するスポーツ行政とスポーツ政策に関わる課題への問題意識を持って授業に臨んでほしい。質問の時間もできるだけ確保したいので、事実確認以上に考え方や視点をめぐる質問を積極的に行ってほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

実際のスポーツ活動に従事しているかいないかにかかわらず、また、好き嫌いにかかわらず、スポーツに関わる政府の活動や政策に何らかの関心を有していることを受講の前提としたい。また、関連科目として「スポーツ社会学/体育社会学」（以下スポーツ社会学）がある。

講義を行う教員の基本的スタンスについては同様であるが、どちらかといえばこの授業では取り上げたテーマの政策面や組織マネジメント面等に注目し、スポーツをめぐる行政や政策の課題をかなり突き詰めて紹介する。個々のテーマの基本的前提や概略説明については「スポーツ社会学」においてやっていきたい。

【備考】

講義内容を理解しながらノートを取ることが大切である。

科目名	運動学 I
教員名	濱崎 裕介

【授業の内容】

運動の発達論、学習位相論、技術論、観察論について学習し、運動指導を行う上で理解しておくべき一般的原則について理解を深める。なお、第9から12回授業（運動指導①～④）においては運動方法学の内容を含んでいる。

【到達目標】

1. 運動主体の立場で運動を捉えるという学問論の立場を理解できるようになる。
2. 運動の学習過程には位相と呼ばれる段階があることを理解し、それぞれの位相での学習及び指導における留意点を理解できるようになる。
3. 運動指導における系統性、段階性について理解し、自身の指導能力の向上に役立てることができるようになる。

【授業計画】

- 第1回 スポーツ運動学とはどのような学問か
運動学の学問的特徴について
- 第2回 自然科学的な運動分析と現象学的な運動分析の違い
絶対時間・絶対空間と体験時間・体験空間について
- 第3回 運動発達
新生児期から高齢期までのそれぞれの時期での運動発達の特徴について
(自分自身成長を振り返ったり、身近な人物の例を挙げてグループ・ディスカッションを行う)
- 第4回 マイネルの学習位相論①（粗協調）
粗協調段階の運動の特徴と運動学習の際の留意点について
(専門種目ごとに小グループを作り、初心者指導の方法に関して具体例を出し合う)
- 第5回 マイネルの学習位相論②（精協調、最高精協調）
精協調段階、最高精協調段階の運動の特徴と運動学習の際の留意点について
(専門種目ごとに小グループを作り、中級および上級者指導の方法に関して具体例を出し合う)
- 第6回 金子の運動形成論①（原志向位相、動きのパトス世界）
学習しようとする運動への“なじみ”について
(特に子どもの運動指導の際の留意点について事例を挙げて講義する)
- 第7回 金子の運動形成論②（探索位相、偶発位相）
コツやカンを探り、まぐれでできるという段階の特徴について
- 第8回 金子の運動形成論③（形態化位相、自在化位相）
動きの質を高めていく段階、わざの極致に登りつめようとする段階の特徴について
(五輪のメダリストやプロとして活躍しているアスリートたちの練習や試合に向けた準備について)
- 第9回 運動指導①（管理的評価と観察的評価）運動の科学的研究者と現場の指導者
体育教師や運動指導者の専門性とは何かについて
(ブレーンストーミングによって出たアイデアをKJ法で分類していく)
- 第10回 運動指導②（運動の技術指導）
運動技術の特性について
(専門種目の運動技術の変遷について調査する)
- 第11回 運動指導③（運動の系統性）
運動の系統性について
- 第12回 運動指導④（運動の修正指導）
動きの修正について
- 第13回 運動観察①（運動の何を見るのか）
自己観察と他者観察について
- 第14回 運動観察②（人間の観察眼）
見ることと見抜くことの違いについて
- 第15回 まとめ
運動学習および運動指導における基礎理論について

【授業の進め方】

運動学習や運動指導に関して自身の経験を他の履修者と共有するため、グループワークやグループディスカッションを多く取り入れる。

調査学習の成果をWebclassにアップする方法をとり、興味深い報告については授業内で紹介する。

授業は各時間とも、講義内容に関する授業内小レポートを課す。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要資料は適宜配布する。

【参考図書】

『運動学講義』：金子明友・朝岡正雄（大修館書店）
『教師のための運動学』：吉田茂,三木四郎 編著（大修館書店）
『新しい体育授業の運動学』：三木四郎（明和出版）
『スポーツ運動学』：金子明友（明和出版）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 0%

特記事項

授業内小レポートは15回分で成績評価の60%を占める。

【履修上の心得】

スライドをすべて写して暗記する必要はない。重要だと思われる点を自分なりにまとめることが重要である。

科目名	運動学Ⅱ
教員名	濱崎 裕介

【授業の内容】

運動学Ⅰで学習した内容を基に、運動の発生論、構造論、運動質論について学習する。また、運動学習や運動指導の具体例について自身の運動経験と照らし合わせて考えることで、対象に合わせた指導方法の選択についての理解を深める。

【到達目標】

1. 人間の運動の発生理論について理解し、対象に合わせた指導方法を選択できるようになる。
2. 動きを質的に捉えることの重要性を理解できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 学校体育の教育的使命とは何か
他教科では代替できない体育の独自性について
(ブレンストーミングによって出たアイデアをKJ法で分類していく)
- 第2回 身体知とは何か
科学的知識と身体の智慧について
- 第3回 「体づくり運動」で扱われる運動の構造およびその指導
- 第4回 「器械運動」で扱われる運動の構造およびその指導
- 第5回 「陸上競技」で扱われる運動の構造およびその指導
- 第6回 「水泳」で扱われる運動の構造およびその指導
- 第7回 「球技」で扱われる運動の構造およびその指導①(ゴール型)
- 第8回 「球技」で扱われる運動の構造およびその指導②(ネット型・ベースボール型)
- 第9回 「武道」および「ダンス」で扱われる運動の構造およびその指導
- 第10回 学校体育の指導現場
集団指導と個別指導を考える
- 第11回 運動質論①(運動の局面構造・運動リズム)
- 第12回 運動質論②(運動伝導・運動流動)
- 第13回 運動質論③(運動弾性・運動先取り)
- 第14回 運動質論④(運動正確性・運動調和)
- 第15回 まとめ
対象に合わせた運動指導の方法について

【授業の進め方】

運動学習や運動指導に関して自身の経験を他の履修者と共有するため、グループワークやグループディスカッションを多く取り入れる。

調査学習の成果をWebclassにアップする方法をとり、興味深い報告については授業内で紹介する。

授業は各時間とも、講義内容に関する授業内小レポートを課す。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

適宜資料を配布する。

【参考図書】

- 『スポーツ運動学』：K.マイネル(大修館書店)
『新しい体育授業の運動学』：三木四郎(明和出版)
『中学校学習指導要領解説保健体育』：文部科学省

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 100% 受講態度 0%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業内小レポート15回(60%)、期末レポート(40%)とする。

【科目のレベル、前提科目など】

運動学Ⅰの履修を前提とする。

科目名	スポーツコーチング総論
教員名	網野 友雄

【授業の内容】

生涯スポーツが叫ばれている今日、種々のスポーツ種目において、またどのような競技レベルにおいても「競技力」の向上は、誰もが望むものである。コーチングとは、競技力の向上を目指して計画的、意図的に行われる行為として、指導者が行う目的々な行為である。

コーチング総論では、これらの目的々な行為が、どのように計画され、実行され、評価されるのかを全体的に知るものである。

【到達目標】

将来、いろんな形で運動の教育、指導に携わったとき、状況に応じたトレーニングないしコーチング計画を作成できるための基本知識を会得する。

【授業計画】

- 第1回 理論としてのコーチングないしトレーニングの概要（オリエンテーションを含む）
- 第2回 コーチングとトレーニングの概念
- 第3回 トレーニングないしコーチングの目的と課題
- 第4回 トレーニングないしコーチングの期間の区分（グループワーク・ディスカッション）
- 第5回 準備期・試合期・移行期のそれぞれの期間におけるトレーニングおよびコーチングの主要課題（グループワーク・ディスカッション）
- 第6回 幼少期・若年期のトレーニングおよびコーチングの主要課題
- 第7回 成人期トレーニングおよびコーチングの主要課題
- 第8回 高齢期トレーニングおよびコーチングの主要課題
- 第9回 体カトレーニングにおけるコーチングの方法と実際
- 第10回 技術トレーニングにおけるコーチングの諸問題
- 第11回 戦術トレーニングにおける集団技能の形成に関するコーチングの諸問題
- 第12回 コーチング能力に関する諸問題
- 第13回 コーチングないしトレーニング計画の立案を巡る諸問題（グループワーク・ディスカッション）
- 第14回 タレント発掘のための基本事項
- 第15回 その他、トレーニングを巡る諸問題

【授業の進め方】

上記の内容について、順次講義を行うとともに、課題に応じたレポートを作成して提出する。

講義内容により、自身の考えを他者と共有するために、グループワークやディスカッションを実施する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

適宜資料を配布する。

【参考図書】

『スポーツの戦術入門』,ヤーン・ケルン著,朝岡正男/水上 一,中川 昭 監訳,大修館書店

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

平素のレポートで評価はおのおの60%が合格の目安となる。

【履修上の心得】

自主的な調査研究、レポートなどの提出を積極的に行うこと。

【科目のレベル、前提科目など】

各種の実技・実習、運動学の履修を前提として、自主的に取り組むこと。

選択必修科目。

科目名	競技スポーツ理論
教員名	竹島 克己

【授業の内容】

勝敗を競う競技スポーツについて学ぶ。競技スポーツは体力を身体的な面、精神的な面から鍛えることによって、自分に勝ち、競う相手に勝とうとするものである。競技で勝つために必要なことを、多方面から学ぶ。競技に関してどのような感覚を持つべきか学んでほしい。

【到達目標】

競技スポーツにおける基本を理解する。
 競技スポーツにおいて何をどのように行うか実例を知る。
 競技スポーツにおける事象を理論的に説明できるようにする。

【授業計画】

- 第1回 競技スポーツとは
 スポーツとは、競技とは何かを知る
 国における、県における競技スポーツの位置づけを解説する。
 予習：スポーツの始まり。
- 第2回 競技スポーツの歴史
 文化であるスポーツの歴史について知る
 古代オリンピック。近代オリンピックについて解説する。
 予習：オリンピックの歴史。
- 第3回 スポーツにおける基本的生活習慣：スポーツに関する職業
 スポーツが私たちの実生活にどのように係るか解説する。
 予習：生活習慣病について。
- 第4回 競技力と体力について
 体力の要素について学ぶ。
 スポーツと健康にとって何が大切なのか、自分の考えを持ち、説明できるようにしたい。
 予習：体力の要素。
- 第5回 トレーニングの方法：ウエイトトレーニング。サーキットトレーニングなど
 どのようなトレーニングがどのような効果を生むのか解説する。
 予習：トレーニングとは。
- 第6回 スポーツと呼吸・姿勢
 呼吸と姿勢の関係。姿勢と運動の関係について解説する。
 予習：呼吸について。
- 第7回 競技力と人体生理の関係
 主に酸素摂取量と、持久力について解説する。
 予習：最大酸素摂取量について。
- 第8回 競技力と栄養の関係
 スポーツと栄養の関係を解説する。
 予習：5大栄養素について。
- 第9回 競技力と運動力学（歩行、ランニング動作、水中動作など）の関係
 関節の動きについて解説する。特に、股関節・肩甲骨の動きについて。
 予習：関節の種類。
- 第10回 競技とスランプ
 競技にはスランプが付きもの。
 スランプの原因。それを脱する方法を解説する。
 予習：スランプとは。
- 第11回 競技と協応性：スポーツビジョンについて
 スポーツの能力は視ることが8割を占めると言われる。
 見る能力とは何か。どのように鍛えると良いのか、解説する。
 予習：視ることについて。
- 第12回 スポーツと水分摂取
 水分摂取や汗の働きについては誤った知識が多い。
 正しく運動能力を発揮するために、どのようにすれば良いのか解説する。
 予習：水分の摂取。
- 第13回 スポーツと姿勢・マッサージについて
 姿勢は各々必ず傾きがある。傾きを最小限にすることにより、能力を最大限発揮することができる。
 姿勢を直す方法。スポーツマッサージの方法についても解説

第14回 コーチングの理論

スポーツでコーチするという事は単に勝つ事を求める事だけではない。

勝つことと、人間的成長や幸福を求めていかなければならない。

予習：コーチングについて。

第15回 競技スポーツ理論のまとめ

競技スポーツ理論の授業の中でまとめたノートから、実践してみたい題材を考察する。

知識を言葉で表わす事ができる様まとめ上げる。

【授業の進め方】

講義形式で行ないます。競技に関して知識を広め、掘り下げてもらいたい。それぞれが、スポーツを実施するなかで知った知識を整理してってもらいたい。自分の体験した競技スポーツの知識・技術を発表する機会もあります。また自分が受けた指導で良かったこと、改善したほうがよい事などを確認し、今後の競技生活・指導に活かしてもらいたい。競技にプラスになる情報を交換しあいたい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要な資料は授業中配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 25% レポート・課題 50% 受講態度 25%

特記事項

授業に取り組む姿勢を評価する。

ノートをしっかりとる。

競技スポーツをよく理解し、正しい理論と実践を表現したレポートを提出する。

【履修上の心得】

授業ではしっかり板書を書き取り、発表された内容もノートすること。競技スポーツに関する知識を広めること。競技スポーツに関する考え方を確固たるものにしてほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

1～4年生の教科専門科目

科目名	生理学
教員名	金田 健史

【授業の内容】

本講義では、体育科学、健康科学を学ぶために必要となる生命活動の基礎と本質を学習するとともに、身体運動と身体諸機能との関連を理解するための基礎学問としての生理学の重要性も理解する。したがって、神経、筋、呼吸、循環、血液、内分泌などの基礎となる生理機能について概説し、今後必要とされる学校体育の授業や健康・スポーツ関連の現場において、欠くことのできないベースとなる知識の確立を目指す。さらに、運動生理学の基礎的な知識を加えて説明していく。

【到達目標】

生理学に関する基本的な知識を獲得する。

これまでに学習してきた身体に関する知識と、生理学的知識を結びつけ、理解を深める。

【授業計画】

1. 生理学の概要、導入
2. 神経の構造と機能
3. 中枢、末梢神経系の分類、活動電位の伝導、シナプス伝達
4. 筋の種類、骨格筋の構造、滑走説
5. 鷗分収縮連関、筋収縮の型
6. 筋へのエネルギー供給系
7. 筋繊維のタイプ分類
8. 筋収縮の様式、筋力に影響する要因
9. 循環系の概要、心臓の構造と機能、心臓の興奮伝導系
10. 心電図、血圧
11. 心拍数と心拍出量、運動時の心拍数と心拍出量
12. 動脈、静脈での循環、毛細血管の循環
13. スポーツ心臓、血液量の配分
14. 代謝（基礎代謝、安静時代謝）
15. まとめ

【授業の進め方】

授業では、パワーポイントなどを用い、視覚的にイメージをしやすいようにし、またプリントなどから復習できるように進めていく予定である。

ほぼ毎回の講義において講義終盤の15分程度を本日の振り返り課題に充てる。これは当日の講義で解説した内容を問うものであり、資料等を参考に個人で解いても、任意のグループで話し合っ解いてもよい。この振り返り課題は講義内容から出された課題であり、この課題について自分の言葉で説明することにより、自分の理解が十分でない点や理解できた内容を確認するためのものである。また、次回講義の最初に振り返り課題について再度説明をした上で新しい学習内容について学びを進めていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- 生理学テキスト 第4版（文光堂）
- 生理学 Minor textbook 第6版（金芳堂）
- 高校時代に生物、化学等を受講していた学生は教科書を活用することもよい。
- 健康・体力のための運動生理学（杏林書院）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

成績は学期末試験において評価する。

【履修上の心得】

高校時代における生物、化学等の知識は役立つと思われるが、そうでない学生でもプリント、映像から理解できるようにおこなう。しっかりと予習、復習をすることで十分に知識は得られるものと考えている。一年次前期に開講される解剖学（基礎）を受講した後、履修することが望ましい。

【科目のレベル、前提科目など】

解剖学(基礎)、競技スポーツ理論、運動生理学、スポーツ生理学、スポーツ科学実験演習、専門演習AB

専門科目、教員免許取得に必要な単位

健康運動指導士養成校制度での認定科目

科目名	公衆衛生学
教員名	荒井 信成

【授業の内容】

人間は環境との関わりの中で生きている。しかも、個人の健康状態は集団の健康に、集団の健康は個人の健康に相互に影響を及ぼしている。科学が進歩しているにもかかわらず地球環境が取り返しのつかない事態を引き起こしつつある。この授業では環境や生活に関わる基本的知識を学習する。将来への責任を含めて、生きていくうえでの住みやすい環境について考える契機となる授業をめざす。

【到達目標】

- ①受講後、新聞、マスコミなどで報道される公衆衛生に関するニュースにこれまでより興味を持って接するようになる。
- ②日常生活の衣食住を科学的な面から考える習慣が身につく健康な生活への生活の変容が出てくる。

【授業計画】

第1回 健康の定義と概念

健康の様々な定義や健康づくりの歴史の変遷を主に取り扱う。

学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）

第2回 衛生学からみた生活習慣病予防

現代社会の最大の健康課題となっている生活習慣病の現状と特定健診・特定保健指導、予防方法（運動、食事、休養、禁煙など）について取り扱う。1次予防、2次予防、3次予防の重要性について説明し、ポピュレーションアプローチやハイリスクアプローチの方法とその実践例を紹介する。

学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）

第3回 我が国の健康づくり施策（健康日本21（第二次））

健康日本21（第二次）を中心に取り扱う。

学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）

第4回 我が国の健康づくり施策と健康関連専門家

健康づくりのための身体活動基準2013について説明し、医師や保健師、栄養士、健康運動指導士などの健康関連専門家の社会的役割についても紹介する。

学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）

第5回 疫学・保健統計

疫学研究について主に取り扱う。疫学研究の方法論や歴史などについて触れ、これまでの疫学研究から得られたエビデンス（科学的根拠）をいくつか紹介する。

学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）

第6回 母子保健

母子保健について主に取り扱う。乳児死亡率の推移や乳幼児突然死症候群（SIDS）の現状、子育て支援などの国の施策について説明する。

学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）

第7回 成人保健

成人期の健康について主に取り扱う。成人期のライフイベント（就職や結婚、出産など）に伴う、健康課題を紹介する。

学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）

第8回 産業保健

労働者の健康問題について主に取り扱う。労働安全衛生法や労働基準法などの関連法規について解説し、健康な職場づくりなどについて説明する。

学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）

第9回 老人保健

高齢者の健康について主に取り扱う。老老介護の現状について触れ、介護予防と介護保険制度について説明する。

学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）

第10回 環境保健

ヒトを取り巻く環境が与えるヒトへの健康影響について主に取り扱う。周囲の人々との信頼や支援（ソーシャルサポート、社会関係資本（ソーシャルキャピタル）など）が個人の健康を促進させることについて触れ、ヘルスプロモーションの概念を説明する。

学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）

第11回 精神保健

労働安全衛生法（平成26年改正）により義務化されたストレスチェックなどのストレス評価尺度を用いて、実際に測定をする。その測定結果を参考に、その後の健康づくりへの手立てなど、健康相談についても触れる。

学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）

第12回 障害者保健

障害者に対する国の健康施策について主に扱う。障害者自立支援法から名称変更された障害者総合支援法（平成25年）の内容や、それに伴う障害福祉サービスについて紹介する。

学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）

第13回 感染症

新興感染症や再興感染症について歴史の変遷を含めながら説明する。また、病原体の感染経路とその予防方法について紹介し、感染症予防に関する事例検討を行う。

学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）

第14回 国際保健

国際保健について主に扱う。WHOなどの国際機関が行っている健康施策や、世界的に問題になっている健康格差の問題について解説する。

学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）

第15回 医療保険制度

日本の医療保険制度について主に扱う。健康保険制度の内容や仕組みを紹介する。平成20年からスタートした長寿医療制度についても関連法規などに関連させ、解説する。

学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）

【授業の進め方】

基本的には講義形式の授業である。しかし、取り扱うテーマによっては、履修者同士でディスカッションや意見交換をし、理解を深める機会を設ける。

統計データ等の参考資料は適宜配布する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用しない。

【参考図書】

授業内で適宜示す。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

【履修上の心得】

日頃から身の回りの健康促進要因や阻害要因について意識しておくこと。

科目名	学校保健 I
教員名	荒井 信成

【授業の内容】

将来教職に就く者にとって、学校という場において子どもの健康や安全をどのように守っていくのか、また、それらに関わる子ども自身の能力をどのように育てていくのかについて理解しておくことは重要である。

本講義では、学校において子どもの健康や安全を保障するための主要なシステムや活動、担当者の役割等について理解すると共に、健康や安全に関わる子ども自身の実践力を育成するためのアプローチのあり方等について思考する能力を身につけることを到達目標とする。

【到達目標】

学校保健の領域、内容を理解し、児童・生徒等の健康の保持増進がどのように考えられ、進められているのかを理解する。

また、学校という空間において集団で生活する子ども達の健康維持には特別な配慮が求められる。そのような問題についても理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 学校保健の意義、目的
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）
- 第2回 学校保健の特性
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）
- 第3回 学校保健の領域構成
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）
- 第4回 学校保健の行政と関連法規
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）
- 第5回 小児保健
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）
- 第6回 児童・生徒の健康の現状
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）
- 第7回 学校保健管理の領域と内容
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）
- 第8回 学校保健教育の領域と内容
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）
- 第9回 学習指導要領と保健学習
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）
- 第10回 保健指導、性・エイズ教育
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）
- 第11回 障害のある子どもとその指導
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）
- 第12回 学校安全の意義、目的
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）
- 第13回 学童期の事故・災害と救急処置
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）
- 第14回 学校給食と食育
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）
- 第15回 教職員の健康
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）

学校保健 I では、児童・生徒の健康維持管理のための制度、法律、領域等について学んでゆく。

学校において子どもの健やかな発育・発達を守られてはじめて教育が成り立つとも考えられるが、保健体育教師がそこにおいては重要な役割を果たすことになる。

既に来上がっている制度を理解するとともに新たな問題の発見、解決のための手立てを考える基礎を身に付けなければならない。

【授業の進め方】

各回のテーマについての講義を中心に行なうが、適宜、グループワークやディスカッション等を取り入れて授業を実施したいと考えている。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

購入方法については授業内で案内します。

【参考図書】

授業内で適宜紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 20%

特記事項

学期末テスト（全講義回数の2/3以上出席していない者は受験できない）

レポートや授業への積極的な参加は高く評価する

授業中の私語は評価に影響することもある

【履修上の心得】

学校保健の内容は広範なものです。自らの学習でさらに理解を深める努力を期待しています。

【科目のレベル、前提科目など】

関連科目：公衆衛生学，学校保健Ⅱ

中学校・高等学校教諭免許状(保健体育)の取得を目指す者の必修科目である。

受講生自身もこれまでの学校生活において学校保健制度に守られてきている。自身の問題として考えながら授業に臨むことを希望します。

科目名	学校保健Ⅱ
教員名	荒井 信成

【授業の内容】

本講では、学校保健Ⅰの履修を前提に学校という場における子どもの健康を管理と教育の両面から捉えなおし、学校で取り組むべき保健管理、健康教育の方法、内容等について考えてゆく。

【到達目標】

児童・生徒の健康は同年代の子どもが学校という同じ空間で長時間一緒に生活する特殊な状況を斟酌して考える必要があり、そこに学校保健の存在理由もある。法律などで規定されている事項も多いが健やかな子どもを育てる制度、活動であることを理解し、子どもの健康問題を発見し、適切な対応が出来る能力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 学校保健管理の意義
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）
- 第2回 学校保健管理と学校保健教育の相互関係
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）
- 第3回 学校保健管理の特質
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）
- 第4回 学校における保健管理の領域構成、内容
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）
- 第5回 学校保健管理の機能と展開過程
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）
- 第6回 学校保健管理における保健指導の役割
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）
- 第7回 児童・生徒の健康の評価（健康診断）
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）
- 第8回 児童・生徒の健康の評価（健康観察、体力測定）
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）
- 第9回 ヘルスプロモーションの考え方と健康教育
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）
- 第10回 健康増進のための保健活動（学校給食、体育指導等）
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）
- 第11回 健康障害の管理（疾病管理、感染症予防等）
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）
- 第12回 学校環境衛生の意義、目的
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）
- 第13回 学校環境衛生管理の方法
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）
- 第14回 学校保健における組織活動
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）
- 第15回 特別活動における学校保健
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードの中で自身の理解度の低いものについて調べる（30分）

この学校保健Ⅱにおいては学校保健管理を中心に講義を進める予定である。児童・生徒の健康の維持・増進は保健教育との協調が必須であるが、そこにおいて保健管理が果たすべき役割、内容、方法等について学習する。

【授業の進め方】

各回のテーマに基づき講義を行うが、その問題に関する履修者同士の意見交換も行いたい。

【教科書（必ず購入すべきもの）】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①学校保健概論 ②渡邊正樹編 ③光生館 ④2014.3.31 ⑤2,160 ⑥978-4-332-52020-7

購入方法については授業内で案内します。

【参考図書】

授業内で適宜紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 20%

特記事項

学期末テスト（全講義回数の2/3以上出席していない者は受験できない）

レポートや授業への積極的参加は高く評価する

授業中の私語は評価に影響することもある

【履修上の心得】

学校保健の内容は広範なものです。自らの学習でさらに理解を深める努力を期待しています。

【科目のレベル、前提科目など】

関連科目：公衆衛生学，学校保健Ⅰ

小・中・高校教諭として子どもの健康をどのように守り育てゆくのか、受講生自身も問題意識を持って出席すること。

科目名	発育発達学
教員名	金田 健史

【授業の内容】

本講義では、人間の成長や発育発達をさまざまな視点から捉え、子どもの成長を大きく捉えるとともに、各ステージでの特徴的な変化を取り上げて講義を進めていく。

また、発達段階そのときどきでの変化に注目して、からだの中で一体どのような変化が時々刻々と起こりながら、子どもが成人へと変わっていくのかを受講生自身で考え進めることを目的としている。

【到達目標】

発育発達に関わる基本的、かつ専門的知識を獲得する

ただ単に知識の積み上げをするだけでなく、内容を理解し、自分自身の言葉で説明することができるようになる

【授業計画】

1. 講義の概要に関するオリエンテーション
2. 自分自身の発育発達と運動・スポーツとの関わり
3. 子どもの体力低下に関する現状、課題、こどもの遊びと体力問題
4. 発育発達とは？いろいろな成長パターン、成長曲線
5. 胎児期、乳幼児期の発育発達①
6. 胎児期、乳幼児期の発育発達②
7. 小児期、児童期の発育発達①
8. 小児期、児童期の発育発達②
9. ゴールデンエイジと運動発達
10. 発育発達に伴う運動機能の変化とその特徴①
11. 発育発達に伴う運動機能の変化とその特徴②
12. 思春期、青年期における発育発達と運動・トレーニング①
13. 思春期、青年期における発育発達と運動・トレーニング②
14. 発育、発達にともなう一貫した指導の取り組み、トップアスリートの育成について①
15. 発育、発達にともなう一貫した指導の取り組み、トップアスリートの育成について②

【授業の進め方】

適宜、プリント等による資料、パソコンを用いる説明、ビデオやDVDによる映像を用いて行う予定である。本授業では、講義を受けるというだけでなく、学生自身も考え、意見を出しあって一緒に発育発達について考えていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- からだの発達 (大修館書店)
- 事典・成熟・運動 (大修館書店)
- 小児のスポーツ医学 (金芳堂)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

定期試験が評価のベースとなるが、授業における活発な意見、質問等を含む授業態度、授業ファイルの完成度などから総合的に判断する。

授業への取り組み、授業における活発な意見、質問等を含む授業態度 (40%)

定期試験 (40%)

授業用ファイルの完成度 (20%)

【履修上の心得】

基本的な知識は非常に大切であり、不可欠なものであるが、それ以上にこれまで学習してきた人間のからだについての知識をさらに深めたいという姿勢が強く望まれる。

漠然と講義を聴くというイメージで講義を受講するものには向いていない。

【科目のレベル、前提科目など】

生理学、運動生理学、スポーツ生理学

科目名	トレーニング実習 I
教員名	浜野 学

【授業の内容】

トレーニングは、むやみに体を動かしても目的としている効果は得られず、常にけがのリスクがあります。リスクを伴う活動であるからこそ、正しい知識でリスクを最小限に抑えて目的を達成する知識と方法を得る必要があります。

本授業では、解剖・生理学、トレーニングの原理原則、心理的限界と心構え、トレーニングプログラムを各競技で立案し実行、もしくは指導できるようにするためのトレーニング全般について講義と実技を組み合わせた内容となります。

*人間の体は適切なトレーニングによってこれらの能力は改善される。トレーニングの目的は高度の競技スポーツから健康維持のため、と幅がある。自分自身の体力向上と指導者となったときに適切な指導ができるよう、本授業に取り組み、トレーニングに対する知識と経験を身につけてほしい。

【到達目標】

1. トレーニングの目的, リスク管理, デモンストレーションを示せるようにする。
2. 行動変容を意図したプログラム開発の具体的方策を学び, また実習を通して, エビデンスを示すことで, コンプライアンスではなく運動アドヒアランス強化を目的とした個別カウンセリングの方法を身につける。
3. 対象者(幼児, 青少年, 中高年, 疾患患者, 障がい者, 高齢者など)の特徴やニーズを把握するためにフォーマティブ・リサーチの重要性を理解する。
4. フォーマティブ・リサーチに基づいたプログラムの立案とPDCAサイクルによる実践を身につける。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
本授業の概要、評価方法、スポーツを通じて学もの、アスリートに必要なもの
- 第2回 解剖と運動生理学
骨格と関節運動について、筋の構造、神経-筋単位、筋の種類、筋収縮の特性とトレーニング効果、心理的限界と生理的限界、エネルギー代謝
- 第3回 トレーニングの原理原則
トレーニング時のルール、目標の明確化（目標、時期）、トレーニング処方作成について
- 第4回 ストレッチングと柔軟体操の実際（関節可動域を大きくする）
スタティックストレッチング、ダイナミックストレッチング、ペアストレッチング（リラクセス&コントラクト、PNF）、
- 第5回 反射を利用したインナーマッスルトレーニング（体と関節のバランス：安定したフォームと体の使い方）
プロプリオセプティブトレーニング（上肢、下肢）
- 第6回 レジスタンストレーニングⅠ（ウエイトトレーニングの基礎）
フリーウエイトを用いたトレーニング：デッドリフト、ベンチプレス、スクワット、ハイクリーン
- 第7回 レジスタンストレーニングⅡ（自分の体重を利用したトレーニング）
ローインパクト：バウンディング(both leg, single leg), ランジジャンプ, 股割り, サイドステップ, ラウガング, プッシュマンドリル, ハンドスタンプ
- 第8回 レジスタンストレーニングⅢ（自分の体重を利用したトレーニング）
ハイインパクト：バウンディング(both leg, single leg), 5段跳び, 2段蹴り
(プライオメトリックを意識したトレーニング)
- 第9回 レジスタンストレーニングⅣ（自分の体重を利用したトレーニング）
スプリントドリル系：ペンギンラン, チキンラン, サイドステップスプリント, ウインドスプリント
- 第10回 コーディネーショントレーニング
アジリティードリル, ステップワーク, 反射反応
- 第11回 サークットトレーニング
ローインパクト, ハイインパクト
耐乳酸性トレーニング
- 第12回 フォーマティブリサーチの重要性と活用
対象者の特徴, ニーズに基づいた目的と種目の選択を的確に行う. 継続的な行動変容につながる意識付けと方法を提示. PDCAサイクルのチェックにあたる測定の実用と年間計画
- 第13回 実習・行動変容を意図したプログラム開発およびカウンセリングⅠ（年代による違い：幼児期から高齢者）
各年代の特性と適正負荷, コンプライアンスではないアドヒアランスな行動変容を強化するカウンセリングの実際. (フォーマティブリサーチによる目的の明確化, 継続性の障害となる習慣の明確化, 修正方法の提示)
- 第14回 実習・行動変容を意図したプログラム開発およびカウンセリングⅡ（状態による違い：障がい者, 疾患患者, 傷害者）
対象者の禁忌の確認と種目の選択, コンプライアンスではないアドヒアランスな行動変容を強化するカウンセリングの実際. (フォーマティブリサーチによる目的の明確化, 継続性の障害となる習慣の明確化, 修正方法

の提示)

第15回 行動変容にかかわるプロセス評価とプロダクト評価

行動変容に関わるプロセス評価 (system, actor, management) , プロダクト評価 (output, outcome, impact), 生活習慣チェックシートの活用と測定による評価, パフォーマンスの評価.

【授業の進め方】

主に自体重を利用したトレーニングの方法を学ぶ。個別性の原則を踏まえ自分が体験し、指導する立場になった時、安全で効果的な指導方法を考えながら行う。体調を整えて参加すること。トレーニングの効果を自分で感じるためには、変化を感じる集中力が必要だ。日常生活で使える内容を教えるので、ヒントを持ち帰り研究してほしい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要な資料は配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 20% レポート・課題 30% 受講態度 50%

特記事項

参加度：授業に真剣に取り組む姿勢を求める。

トレーニングに関して正確に理解した理論と、実践が盛り込まれた内容のレポートを提出する。

【履修上の心得】

授業にふさわしい服装で参加すること。体調を整えて参加すること。トレーニングの効果を自分で感じるためには、変化を感じる集中力が必要だ。他の授業参加者の変化にも注意をはらってほしい。安全に留意すること。

【科目のレベル、前提科目など】

トレーニング実習Ⅱ

2～4年生の教科関連科目

科目名	トレーニング実習Ⅱ
教員名	齊藤 武利・浜野 学

【授業の内容】

スポーツ現場における様々なトレーニング方法のうち、一般的な体力要素に視点を当てて、体力トレーニング法（主に筋力トレーニング）の実際について、各種の器具を用いて実施する。また、学校教育におけるスポーツ指導の観点から、指導者の視点に立って体力測定の方法などの課題についても、解説を行う。

【到達目標】

トレーニングの原理、原則に従って、筋力トレーニングや持久的トレーニングなどの正しく、安全な方法で、実技することができる。特に、フリーウェイトによる筋力トレーニングの方法等については、安全性と正確に実施する事にできるように注意する。

【授業計画】

- 第1回 体力測定の意義（有酸素トレーニングと筋力トレーニングの原則等）
- 第2回 フリーウェイトを用いた測定法と注意点
- 第3回 正しいリフティング技術の習得
- 第4回 スポーツ医科学と器具を用いたトレーニング方法への応用など
- 第5回 持久的トレーニングの評価法と実際
- 第6回 各種フィットネステストの紹介と実践
- 第7回 <対象者に応じた各種フィットネステストと様々なトレーニング>
女性に対するフィットネス評価とトレーニング
- 第8回 中高年（特に、運動療法が必要となる）に対する評価とトレーニング
- 第9回 高齢者に対する（特に、転倒（介護）予防）評価とトレーニング
- 第10回 <生活習慣病に対する運動療法（プログラム作成）の実際>
生活習慣病予防のための運動プログラム
- 第11回 肥満症や糖尿病への運動プログラム
- 第12回 高血圧や脂質異常症への運動プログラム
- 第13回 虚血性心疾患，ロコモティブシンドロームへの運動プログラム
- 第14回 中高齢者への運動プログラム
- 第15回 まとめ

・体力の構成要素である形態と機能について、それぞれの構成要素それぞれについて正しい測定方法を学習し、実践を行い、体力測定と記録、評価法の実際について整理する。特に、器具を使用したトレーニング（筋力トレーニングや心肺機能のトレーニング）について重点的に実技、実習を行う。計測したDATAに基づいて受講生同士での検討や議論も行う予定である。

【授業の進め方】

- ・実習形式の授業のため、必ず出席し、毎回出される課題については、安全にかつ、確実に実施しなければならない。
- ・実施した課題を複数グループで記録し、その結果について検討し、レポートとして提出する。
- ・複数の教員で同時に開催するために、グループ編成等については、授業内で随時変更する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特別に、教科書等は指定しない。必要に応じて資料を配布する。

個人の発表などの場合、視聴覚機材を使って、プレゼンテーションを行うこともある。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 40% 受講態度 30%

特記事項

全体の2/3以上の出席（授業の参加）が、期末試験やレポート提出により成績を評価するための前提条件とする。器具を使用したトレーニング実習のため、安全への配慮から、授業の導入部は非常に重要であり、安全確保のために、原則遅刻は、認めない。

【履修上の心得】

受講する学生は、トレーニング実習Ⅰ、の単位を取得済み、あるいは、トレーニング論Ⅰ、Ⅱの単位習得済みの学生が履修が望ましい。安全への配慮から、上履きなど、トレーニングに適切な服装での参加が必要である。

【科目のレベル、前提科目など】

トレーニング実習Ⅰ、トレーニング論Ⅰは、単位修得済みのこと。

スポーツ健康専攻の専門的実習科目であるため、スポーツ健康に関する基本的な用語等については、既修として授業を

行う。
健康運動指導士の受験資格申請のために必要科目。

科目名	児童文学
	子どもの本への多様なアプローチ
	授業形態：講義
教員名	鈴木 宏枝

【授業の内容】

昔話、ファンタジー、リアリズム、絵本、幼年童話など様々なジャンルから子どもの本の豊かな世界を理解する。

【到達目標】

1. 子どものために書かれた本の特徴を理解し、歴史や概要を知る。
2. 子どもの本に対する一定の評価軸を持ち、読者の年齢や状況に応じた本選びができる。

【授業計画】

- 第1回 第1章 子どもの本の分類
 予習：テキストの第1章を読んでおく(目安:30分)
 復習：授業内で扱った重要用語とそれに関係する作家・作品についてまとめておく(目安:1時間)
- 第2回 第2章 英米の子どもの本の歴史
 予習：テキストの第2章を読んでおく(目安:30分)
 復習：授業内で扱った重要用語とそれに関係する作家・作品について整理する(目安:30分)
- 第3回 第3章 日本の子どもの本の歴史
 予習：テキストの第3章を読んでおく(目安:30分)
 復習：授業内で扱った重要用語とそれに関係する作家・作品について整理する(目安:30分)
- 第4回 第4章 伝承から子どものための物語へ——神話・伝説・昔話
 予習：テキストの第4章を読んでおく(目安:30分)
 復習：授業内で扱った重要用語とそれに関係する作家・作品について整理する(目安:30分)
- 第5回 第5章 ファンタジー——空想と魔法、架空の世界
 予習：テキストの第5章を読んでおく(目安:30分)
 復習：授業内で扱った重要用語とそれに関係する作家・作品について整理する(目安:30分)
- 第6回 第6章 リアリズム——日常・家族・学校・友情・人生
 予習：テキストの第6章を読んでおく(目安:30分)
 復習：授業内で扱った重要用語とそれに関係する作家・作品について整理する(目安:30分)
- 第7回 第7章 冒険物語——探索・試練・挑戦・救出・サバイバル
 予習：テキストの第7章を読んでおく(目安:30分)
 復習：授業内で扱った重要用語とそれに関係する作家・作品について整理する(目安:30分)
- 第8回 第8章 歴史小説——過去という舞台の上で
 予習：テキストの第8章を読んでおく(目安:30分)
 復習：授業内で扱った重要用語とそれに関係する作家・作品について整理する(目安:30分)
- 第9回 第9章 ノンフィクション——知識の本
 予習：テキストの第9章を読んでおく(目安:30分)
 復習：授業内で扱った重要用語とそれに関係する作家・作品について整理する(目安:30分)
- 第10回 第10章 子どものための詩——わらべうたから現代詩まで
 予習：テキストの第10章を読んでおく(目安:30分)
 復習：授業内で扱った重要用語とそれに関係する作家・作品について整理する(目安:30分)
- 第11回 第14章 絵本のいろいろ
 予習：テキストの第11章を読んでおく(目安:30分)
 復習：授業内で扱った重要用語とそれに関係する作家・作品について整理する(目安:30分)
- 第12回 第15章 幼年文学とYA文学
 予習：テキストの第12章を読んでおく(目安:30分)
 復習：授業内で扱った重要用語とそれに関係する作家・作品について整理する(目安:30分)
- 第13回 第11章 読んでおきたい古典
 第12章 児童文学の世界地図
 第13章 戦争と平和を考える
 予習：テキストの第11,12,13章を読んでおく(目安:30分)
 復習：授業内で扱った重要用語とそれに関係する作家・作品について整理する(目安:30分)
- 第14回 アクティビティ① 絵本の読み聞かせ
 予習：テキストの第14章を読んでおく(目安:30分)
 配布プリントに従い、授業内で読み聞かせをする絵本を用意し、準備作業をおこなう(目安:3時間)
 復習：授業内で扱った重要用語とそれに関係する作家・作品について整理する(目安:30分)
- 第15回 アクティビティ② 児童文学の紹介
 予習：テキストの第14章を読んでおく(目安:30分)
 配布プリントに従い、授業内で紹介する児童文学作品を用意し、準備作業をおこなう(目安:3時間)
 復習：授業内で扱った重要用語とそれに関係する作家・作品について整理する(目安:30分)

【授業の進め方】

教科書を中心に進め、パワーポイントや資料も用いる。グループでの実践がある場合は、各自で本を入手し、事前準備をおこなうこと。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①児童文学の教科書 ②川端有子 ③玉川大学出版部 ④2013年2月 ⑤¥2,300+税

教科書を中心に進め、必要に応じてパワーポイントやプリントを用いる。

【参考図書】

日本児童文学学会『児童文学事典』東京書籍

鳥越信『はじめて学ぶ日本児童文学史』ミネルヴァ書房

桂宥子、牟田おりえ『はじめて学ぶ英米児童文学史』ミネルヴァ書房

桂宥子『はじめて学ぶ英米絵本史』ミネルヴァ書房

野上暁『いま、子どもに読ませたい本』七つ森書館

野上暁『子どもの本ハンドブック』三省堂出版

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 20% 受講態度 30%

【備 考】

本講義は児童文学の入門である。本講義の後も自主的に児童文学を読み、楽しみ、学ぶ姿勢を持つことが望ましい。

科目名	救急法
	授業形態：講義
教員名	山下 圭輔

【授業の内容】

1. 心肺蘇生法
2. 救急医療体制
3. 救急医療を取り巻く環境について
4. 救急医療を支える職種について

【到達目標】

1. 心肺蘇生法と簡単な救急処置を理解し実施できる。
2. 救急医療の成り立ち（傷病者の発生から病院での治療まで）を理解し、かかわりのある職種の役割を述べるができる。
3. 現在の救急医療のさまざまな問題点を理解でき、解決に向けた提言をすることができる。
4. 大学のある小山地区の救急医療の向上を通して、安全で暮らしやすい社会を作ること、自分から貢献できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション 救急とは、救急医療とは
全体の講義内容を概括します。市民参加型の救急医療と、現在日本全国で起こっている救急搬送拒否の問題を取り上げて、イントロダクションにしたいと思います。
- 第2回 心肺蘇生法の基礎
心肺蘇生法をもう一度復習します。今まで習ってきた心肺蘇生法を思い出してもらい、最新の心肺蘇生法（ガイドライン2010）との違いを指摘することができるのが目標です。
- 第3回 心肺蘇生法の理論
心肺蘇生法を理論的に解析します。なぜ胸を押すのか、その回数はなぜ少なくとも100回/分なのかなど、またなぜ蘇生法が更新されてきたのかなど、について理論武装します。
- 第4回 電気ショックとは
心肺蘇生法の目玉の一つである電気ショックは、一般市民の人が行うことのできる医療行為です。どうして医師でないのにやってもいいのか、その理論と実際はなどについて学習します。
- 第5回 小児に特有な救急疾患とその処置1（内因性）
小児に関わる職種を目指す方も多いため、小児の心肺蘇生法、小児が多くかかる救急疾患について、簡単な処置法や病院のかかり方についてまとめる予定です。虐待などの話もする予定です。
- 第6回 小児に特有な救急疾患とその処置2（外因性）
小児の死亡率の1位を占める不慮の事故への対策、簡単な処置法、救急車の呼び方など、外因性疾患についてまとめる予定です。
- 第7回 救急医療体制、メディカルコントロール体制、消防機関、救急車、救急救命士の役割
救急医療というものが、医師や救急車だけで成り立っているのではないことを理解し、現場から病院までの医療体制やそれに関わる職種の役割について勉強します。ドクターカーやドクターヘリの役割についても勉強します。
- 第8回 救急における看護の役割（自治医大看護学部）
救急医療において、看護師はどのような役割を果たしているのか、看護とは何かについて、現職の看護師から、直接お話を伺ってディスカッションをしたいと思います。
- 第9回 救急救命士とは、予防救急とは（総務省消防庁）
現職の救急救命士の方とディスカッションをしながら、さまざまな医療関連職種のつながりとそれぞれの役割について理解を深めます。また、予防救急の概念についても勉強します。
- 第10回 有害動植物に関する救急処置
救急医療の中の特殊分野である、有害動植物や、中毒などについて解説します。
- 第11回 救急処置
成人の救急処置（内因性・外因性）を勉強します。副木固定や三角巾の使い方についても勉強する予定です。また普通救命講習に備えて、蘇生法の復習も行います。
- 第12回 ファーストレスポonder
蘇生率の更なる改善のためにはどのようなシステムを構築したらいいのか、世界のファーストレスポonderを紹介しながら、いっしょに考えてみたいと思います。
- 第13回 普通救命講習1（小山消防署）
- 第14回 普通救命講習2（小山消防署）
2回連続で、大学の地域の消防署である小山消防本部の協力で、普通救命講習を受講します。救命講習の試験に合格して受講証を入手することが、この科目の合格のための必須条件です。
- 第15回 まとめ

なお、講師の都合で、講義内容が前後することがあります。

【授業の進め方】

講義目的と講義内容に沿って、実習を多く組み込みながら、救急医療とはどのようなものかが理解できるようにするつもりです。そのなかで、救急医療のさまざまな問題点を提示し、救急医療とは「病気になったら病院に行って直してもらおう」という単純なものではなく、予防からアフタケアまで、現場から病院まで、さらにそれらがスムーズに連携するためのシステム作り、などいろいろな視点から解決を図る必要がある、ということを理解できるように、ディスカッションをしながら、講義を進めたいと思っています。スムーズに授業が進められるようにご協力をお願いします。特に、授業と関係ない私語については、慎むようお願いします。

また、外部講師を多く依頼して、実際に現場で活躍している人たちの話をお聞きして、議論が深められるようにするつもりです。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に指定しませんが、最近の新聞には目を通して、救急医療の問題が指摘されていることを理解するように努めてください。

【参考図書】

特にありません。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

平常点 10%

普通救命講習 10%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

普通救命講習は合格が必須です。

【履修上の心得】

実習の場合は積極的に参加すること。

講義の場合はディスカッションに積極的に参加すること。

将来、自分が教育する立場に立った時に、恥ずかしくなく教えられるように、授業には自分で責任を持って出席すること。

【科目のレベル、前提科目など】

救急医療に興味があれば、十分に内容は理解可能なものと考えます。特に前提条件はありませんが、大学の授業を受けるのにふさわしい態度は身につけておいていただきたいと思います。

科目名	レクリエーション実技
	授業形態：演習
教員名	藤井 和彦

【授業の内容】

多様なレクリエーション活動の展開のために必要な実践技能を身につけることをねらいとする。

対象者の中にある「楽しさ」や「喜び」を最大限に引き出す活動を展開するということを常に意識しつつ、その為の計画の作成から実践、評価までを実習・演習形式で体験する。まずは与えられた時間的条件の中で、「レクリエーション支援者」として立ち振る舞えることを目標に各種活動に挑戦する。より高度な到達目標としては対象者の特性に応じて、工夫されたオリジナリティあふれる支援計画を作成できるようになることを目指す。

実技科目ではあるが、授業は必要に応じて教室での支援案作成なども織りまぜながらグループ活動を中心に進めていく。

【到達目標】

- ・多様な実技のレパトリーを持つようになっている
- ・その中から「my activity」を見つける
- ・それらを実習等の実践の中で活用できるようになっている

【授業計画】

- 第1回 アイスブレイキング(1)緊張を解きほぐすアクティビティ
- 第2回 アイスブレイキング(2)出会いのアクティビティ
- 第3回 アイスブレイキング(3)イニシアティブにつなげるアクティビティ
- 第4回 イニシアティブ・ゲーム(1)協力と課題解決のアクティビティ
- 第5回 イニシアティブ・ゲーム(2)運動量の多い活発なアクティビティ
- 第6回 ニュー・スポーツ体験
- 第7回 チャレンジ・ザ・ゲーム(1)
- 第8回 チャレンジ・ザ・ゲーム(2)
- 第9回 イニシアティブ・ゲーム(3)更に難易度の高いアクティビティ
- 第10回 レクリエーションプログラムの企画と運営
- 第11回 グループ発表(1)
- 第12回 グループ発表(2)
- 第13回 グループ発表(3)
- 第14回 グループ発表(4)
- 第15回 まとめとレポートへの取り組み

上記の内容を中心に構成するが時間（時限）の配分は適宜調整しながら進める。

【授業の進め方】

実技を中心とするが必要に応じて教室での解説や支援計画作成・グループ討議などの時間をとる。特に後半からまとめにかけては、実際のレクリエーション活動のシミュレーションとして、自分たちで場の設定、プログラムの考案、進行ができるような形を目指す。適宜実技の感想やレポート課題を課す。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

グループワークやアクティビティ集などの書籍を適宜紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

受講態度には、終盤のグループ発表への取り組みを含む。期末レポートは、レクリエーション実践に関する論述と支援プログラム作成・評価等の内容で構成する。

【履修上の心得】

レクリエーション・インストラクター資格取得のための必修科目であるが、資格を取らない場合でもレクリエーションに関心のある学生の履修を歓迎する。

「レクリエーション」はそこに参加する一人ひとりの楽しもうという姿勢が極めて重要である。このことを理解した上で存分に楽しもうという意識を持って授業に臨んでいただきたい。

【科目のレベル、前提科目など】

レクリエーション理論

レクリエーション実技の初級編であるが、唯一の科目であり、レクリエーション・インストラクター資格取得希望者は必修。

科目名	レクリエーション実技
	授業形態：演習
教員名	藤井 和彦

【授業の内容】

多様なレクリエーション活動の展開のために必要な実践技能を身につけることをねらいとする。

対象者の中にある「楽しさ」や「喜び」を最大限に引き出す活動を展開するということを常に意識しつつ、その為の計画の作成から実践、評価までを実習・演習形式で体験する。まずは与えられた時間的条件の中で、「レクリエーション支援者」として立ち振る舞えることを目標に各種活動に挑戦する。より高度な到達目標としては対象者の特性に応じて、工夫されたオリジナリティあふれる支援計画を作成できるようになることを目指す。

実技科目ではあるが、授業は必要に応じて教室での支援案作成なども織りまぜながらグループ活動を中心に進めていく。

【到達目標】

- ・多様な実技のレパトリーを持つようになっている
- ・その中から「my activity」を見つける
- ・それらを実習等の実践の中で活用できるようになっている

【授業計画】

- 第1回 アイスブレイキング(1)緊張を解きほぐすアクティビティ
- 第2回 アイスブレイキング(2)出会いのアクティビティ
- 第3回 アイスブレイキング(3)イニシアティブにつなげるアクティビティ
- 第4回 イニシアティブ・ゲーム(1)協力と課題解決のアクティビティ
- 第5回 イニシアティブ・ゲーム(2)運動量の多い活発なアクティビティ
- 第6回 ニュー・スポーツ体験
- 第7回 チャレンジ・ザ・ゲーム(1)
- 第8回 チャレンジ・ザ・ゲーム(2)
- 第9回 チャレンジ・ザ・ゲーム(3)
- 第10回 チャレンジ・ザ・ゲーム(4)
- 第11回 グループ発表(1)
- 第12回 グループ発表(2)
- 第13回 グループ発表(3)
- 第14回 グループ発表(4)
- 第15回 まとめとレポートへの取り組み

上記の内容を中心に構成するが時間（時限）の配分は適宜調整しながら進める。

【授業の進め方】

実技を中心とするが必要に応じて教室での解説や支援計画作成・グループ討議などの時間をとる。特に後半からまとめにかけては、実際のレクリエーション活動のシミュレーションとして、自分たちで場の設定、プログラムの考案、進行ができるような形を目指す。適宜実技の感想やレポート課題を課す。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

グループワークやアクティビティ集などの書籍を適宜紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

受講態度には、終盤のグループ発表への取り組みを含む。期末レポートは、レクリエーション実践に関する論述と支援プログラム作成・評価等の内容で構成する。

【履修上の心得】

レクリエーション・インストラクター資格取得のための必修科目であるが、資格を取らない場合でもレクリエーションに関心のある学生の履修を歓迎する。

「レクリエーション」はそこに参加する一人ひとりの楽しもうという姿勢が極めて重要である。このことを理解した上で存分に楽しもうという意識を持って授業に臨んでいただきたい。

【科目のレベル、前提科目など】

レクリエーション理論

レクリエーション実技の初級編であるが、唯一の科目であり、レクリエーション・インストラクター資格取得希望者は必修。

科目名	卒業研究(竹島)
教員名	竹島 克己

【授業の内容】

スポーツ健康専攻に所属する学生にとって、スポーツと健康に関する研究を4年次に行うことは、大学生活の集大成としてたいへん意義がある。スポーツと健康に関わり、関心を持ったことについて、1年間研究し論文を作成し発表する。スポーツや健康に関しての研究は、測定・調査・分析・文献研究などを組み合わせ、独自性のあるものが多い。自分なりの研究を深め、スポーツの精神や健康を涵養する姿勢を、体育人として身につけてほしい。

【到達目標】

自分の興味に対してよく研究すること。多くの本を読むこと。
研究した内容をまとめ、論文を完成させ、発表する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス 卒業論文作成の概要
- 第2回 年間スケジュールの作成
- 第3回 テーマの設定 論文購読
- 第4回 テーマの設定 論文購読
- 第5回 テーマの設定 論文購読
- 第6回 文献検索 先行研究のまとめ
- 第7回 文献検索 先行研究のまとめ
- 第8回 文献検索 先行研究のまとめ
- 第9回 文献検索 先行研究のまとめ
- 第10回 研究の目的・方法の整理
- 第11回 研究の目的・方法の整理
- 第12回 文献研究・測定・調査など
- 第13回 文献研究・測定・調査など
- 第14回 文献研究・測定・調査など
- 第15回 文献研究・測定・調査など
- 第16回 文献研究・測定・調査など
- 第17回 文献研究・測定・調査など
- 第18回 文献研究・測定・調査など
- 第19回 文献研究・測定・調査など
- 第20回 文献研究・測定・調査など 論文作成にあたって基本事項の確認
- 第21回 論文作成
- 第22回 論文作成
- 第23回 論文作成
- 第24回 論文作成
- 第25回 論文作成
- 第26回 論文作成
- 第27回 論文作成
- 第28回 論文作成
- 第29回 論文作成
- 第30回 論文完成

【授業の進め方】

まず、研究の方向性を明らかにする。できるだけ、なんらかの測定を継続していく。協力者を依頼する。たとえば、ウエイトトレーニングをある一定期間行い、筋力と走力の関係について研究するなど、研究材料を確保したい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

文献、各種測定器具、パソコンなど。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

評価にあたっては、卒業研究への参加および卒業論文・研究ノートの提出が必要となる。

論文・研究ノートの提出(発表を含む) 60%

研究への取り組み、知識の獲得度合い、実験の実践能力 40%

【履修上の心得】

日頃から問題意識や好奇心を持ってスポーツや健康に注目してほしい。自分自身の関心が、研究の対象となる。問題意識が様々な工夫となり、スポーツ技術の向上につながり、健康に対する意識づけとなる。

【科目のレベル、前提科目など】

専門演習

専門演習をはじめとした研究の、総まとめの活動として位置づけられる。

科目名	卒業研究(宇津野)
	授業形態：演習
教員名	宇津野 花陽

【授業の内容】

家庭科教育、家庭科教育史に関して、受講者それぞれの関心に即したテーマを決定し、卒業研究を行う。

【到達目標】

家庭科教育と生活の歴史的な変化を理解し、戦前から現代までの家庭科教育について広く理解を深めた上で、その中から課題を見つけ、研究を行い、卒業論文を作成できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 テーマの決定
- 第3回 研究の目的
- 第4回 先行研究の整理
- 第5回 研究の方法
- 第6回 研究調査1
- 第7回 研究調査2
- 第8回 研究調査3
- 第9回 研究調査4
- 第10回 研究調査5
- 第11回 研究調査6
- 第12回 研究調査7
- 第13回 研究調査8
- 第14回 研究調査9
- 第15回 研究調査10
- 第16回 論文作成の方法
- 第17回 論文作成1
- 第18回 論文作成2
- 第19回 論文作成3
- 第20回 論文作成4
- 第21回 論文作成5
- 第22回 論文作成6
- 第23回 論文作成7
- 第24回 論文作成8
- 第25回 論文作成9
- 第26回 論文作成10
- 第27回 論文作成11
- 第28回 抄録の作成
- 第29回 研究発表の方法
- 第30回 研究発表の練習

【教科書(必ず購入すべきもの)】

指定しない。

【参考図書】

必要に応じて紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

- ・受講態度は、「発表、議論」を評価します。
- ・受講態度以外に、「卒業論文」(70%)を評価します。

科目名	卒業研究(荒井弘)
	音楽表現研究「音楽の魅力とは」
	授業形態：演習
教員名	荒井 弘高

【授業の内容】

「音楽の魅力とは」をテーマに、人と音楽との関わり合いを探りながら各自児童音楽教育に関する題目を決定し、演奏および論文作成を行う。

【到達目標】

論文作成を通して音楽的素養を深めることを目標とする。同時に文書作成能力の向上を目指す。

【授業計画】

- 第1回 資料の収集及び整理1 (予習：毎日60分)
- 第2回 資料の収集及び整理2 (予習：毎日60分)
- 第3回 資料の収集及び整理3 (予習：毎日60分)
- 第4回 資料の収集及び整理4 (予習：毎日60分)
- 第5回 題目決定 (予習：毎日60分)
- 第6回 資料の収集及び整理5 (予習：毎日60分)
- 第7回 資料の収集及び整理6 (予習：毎日60分)
- 第8回 資料の収集及び整理7 (予習：毎日60分)
- 第9回 資料の収集及び整理8 (予習：毎日60分)
- 第10回 資料の整理及び中間発表資料作成開始 (予習：毎日最低60分)
- 第11回 資料の整理及び中間発表資料作成2 (予習：毎日最低60分)
- 第12回 資料の整理及び中間発表資料作成3 (予習：毎日最低60分)
- 第13回 資料の整理及び中間発表資料作成4 (予習：毎日最低60分)
- 第14回 資料の整理及び中間発表資料作成5 (予習：毎日最低60分)
- 第15回 資料の整理及び中間発表資料作成6 (予習：毎日最低60分)
- 第16回 資料の整理及び中間発表資料作成7 (予習：毎日最低60分)
- 第17回 中間発表会 (予習：毎日最低60分)
- 第18回 論文作成1 (予習：毎日最低60分)
- 第19回 論文作成2 (予習：毎日最低60分)
- 第20回 論文作成3 (予習：毎日最低60分)
- 第21回 論文作成4 (予習：毎日最低60分)
- 第22回 論文作成5 (予習：毎日最低60分)
- 第23回 論文作成6 (予習：毎日最低60分)
- 第24回 論文作成7 (予習：毎日最低60分)
- 第25回 論文作成8 (予習：毎日最低60分)
- 第26回 論文作成9 (予習：毎日最低60分)
- 第27回 論文作成10 (予習：毎日最低60分)
- 第28回 論文抄録作成 (予習：毎日最低60分)
- 第29回 卒業論文発表会資料作成 (予習：毎日最低60分)
- 第30回 卒業論文発表会準備 (予習：毎日最低60分)

大学発表の卒業研究スケジュール(掲示板参照)に沿って進めるが、おおよそ上記の計画に基づき授業を進める。

【授業の進め方】

学生が主体となり、自ら計画を立てた課題に基づき、実技・論文指導を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要に応じて指示する。

【参考図書】

必要に応じて指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

中間発表会、卒業論文発表会に対しては十分時間をかけ準備を行うこと。

【履修上の心得】

研究内容に対しての準備および資料収集を積極的に行うこと。

【科目のレベル、前提科目など】

ゼミナールの授業を履修済みのこと。

音楽関連科目の卒業研究である。

科目名	卒業研究(伊崎)
教員名	伊崎 純子

【授業の内容】

学生自身が関心のある社会現象について仮説をたて、心理学的な研究手法を用いて調査研究し、結果をまとめ発表できる能力を養うことを目的とする。

【到達目標】

心理学的な研究手法を実践し、統計による仮説の検証ができるようになる。
ICTを用いて、文献検索・資料の作成・発表の準備ができる。

【授業計画】

- 第1回 テーマの決定／先行研究のレビュー
- 第2回 テーマの決定／先行研究のレビュー
- 第3回 テーマの決定／先行研究のレビュー
- 第4回 テーマの決定／先行研究のレビュー
- 第5回 予備実験・調査データの収集
- 第6回 予備実験・調査データの収集
- 第7回 予備実験・調査データの収集
- 第8回 予備実験・調査データの収集
- 第9回 データの分析／調査デザインの再検討
- 第10回 データの分析／調査デザインの再検討
- 第11回 データの分析／調査デザインの再検討
- 第12回 データの分析／調査デザインの再検討
- 第13回 中間発表準備
- 第14回 中間発表準備
- 第15回 中間発表準備
- 第16回 実験・調査データの収集
- 第17回 実験・調査データの収集
- 第18回 実験・調査データの収集
- 第19回 実験・調査データの収集
- 第20回 実験・調査データの収集／統計的分析
- 第21回 実験・調査データの収集／統計的分析
- 第22回 実験・調査データの収集／統計的分析
- 第23回 実験・調査データの収集／統計的分析
- 第24回 実験・調査データの収集／統計的分析
- 第25回 論文作成＋卒論発表会準備
- 第26回 論文作成＋卒論発表会準備
- 第27回 論文作成＋卒論発表会準備
- 第28回 論文作成＋卒論発表会準備
- 第29回 論文作成＋卒論発表会準備
- 第30回 プレゼンテーションの検討

学生自身のペースによるので、上記計画はおおよその目安である。就職活動や教員採用試験対策等、各自でスケジュールのマネジメントを確実にすること。

各回に予復習の時間を記載しないが、授業時間のみの学習で卒業研究が完成することはなく、課外の努力が必要であることは当然である。

【授業の進め方】

課題研究(ゼミナール)で学んだ、資料や情報収集・分析・結果に対する考察の仕方を駆使して、自分なりの社会の見方を発表できるように各自が自分のペースで研究をすすめていく。

教員は必要に応じて、適宜資料を指示したり、方向性を確認したり、学生の研究を援助していく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない
適宜指示する

【参考図書】

『よくわかる卒論の書き方』・白井利明他著 ミネルヴァ書房 2008 2,625円

『改訂新版 心理学論文の書き方 卒業論文や修士論文を書くために』・松井豊著 河出書房新社 2011 1,700円

『心理学論文の書き方』・都筑学著 有斐閣アルマ 2006 1900円

『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方』・浦上昌則他著 東京図書 2008 2800円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

卒論制作のプロセス（30%）と卒論・抄録の内容（70%）で評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

特になし

【履修上の心得】

自分の卒論である。学生自身が目的をもって積極的に学んでいくことを期待する。

【科目のレベル、前提科目など】

同じ教員の「心理学特別研究A」または「同B」を履修しておくといよい(場合によっては同時履修も相談の上認めることがある)。

「認定心理士」資格申請では、「領域 I・その他の科目」（心理学関連科目）に区分される科目である。

科目名	卒業研究(岩城)
	授業形態：演習
教員名	岩城 淳子

【授業の内容】

授業の内容は卒業研究作成に向けての指導が中心である。領域は健康・教育・保育・体育で、各自がそれらの領域から研究テーマを設定し、一つの結論までたどり着くことが目標である。完成までに現時点で何が分かり、何が分からないのかをはっきりさせることと、多角的なものの見方が必要と考えているので、進行状況の報告とそれについての学生間の意見交換を重視する。

【到達目標】

授業の到達目標は、以下の3点である。

1. 設定したテーマについて、必要な文献や資料を収集できるようになる。
2. 得られた成果とそれに対する自分の考えを、人に分かりやすく報告できるようになる。
3. 論理的な文章で表現することができるようになる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業研究の基礎
- 第3回 文献、資料の収集方法
- 第4回 テーマと研究計画報告（1）
- 第5回 テーマと研究計画報告（2）
- 第6回 テーマと研究計画報告（3）
- 第7回 テーマと研究計画報告（4）
- 第8回 テーマと研究計画報告（5）
- 第9回 テーマと研究計画報告（6）
- 第10回 テーマと研究計画報告（7）
- 第11回 テーマと研究計画報告（8）
- 第12回 テーマと研究計画報告（9）
- 第13回 テーマと研究計画報告（10）
- 第14回 個人報告からの課題
- 第15回 全体討議
- 第16回 論文作成の基礎
- 第17回 先行研究の検討
- 第18回 中間発表（1）
- 第19回 中間発表（2）
- 第20回 中間発表（3）
- 第21回 中間発表（4）
- 第22回 中間発表（5）
- 第23回 中間発表（6）
- 第24回 中間発表（7）
- 第25回 中間発表（8）
- 第26回 中間発表（9）
- 第27回 中間発表（10）
- 第28回 中間発表からの課題
- 第29回 全体討議
- 第30回 最終発表

【授業の進め方】

演習形式で、報告、発表、全体討論を中心とする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

卒業研究の内容、ディスカッションへの参加状況、活動への取り組みなどで総合的に評価する。

【履修上の心得】

得られた知識や情報は自身の思考で再構成することにより、初めて知恵として活用出来るようになる。

学ぶ姿勢を重視する。

【科目のレベル、前提科目など】

ゼミナール

科目名	卒業研究(奥澤)
	授業形態：演習
教員名	奥澤 信行

【授業の内容】

第3学年で履修済みの「ゼミナール」での成果を踏まえ、卒論作成にあたって留意する事項を指導する。

【到達目標】

児童教育専攻で定められた分量（30000字）以上の卒論作成を目標とする。またフィールドワークによって自ら収集した資料や聞き取り調査によって得られた情報をベースにして執筆できるようにする。

【授業計画】

- 第1回 卒論作成の手順① テーマ設定
- 第2回 卒論作成の手順② テーマに即した調査方法
- 第3回 卒論作成の手順③ フィールドワークの手法
- 第4回 11名のゼミ生による調査地の概要説明①
- 第5回 11名のゼミ生による調査地の概要説明②
- 第6回 11名のゼミ生による調査地の概要説明③
- 第7回 11名のゼミ生による調査地の概要説明④
- 第8回 11名のゼミ生による調査地の概要説明⑤
- 第9回 11名のゼミ生による調査地の概要説明⑥
- 第10回 11名のゼミ生による調査地の概要説明⑦
- 第11回 11名のゼミ生による調査地の概要説明⑧
- 第12回 11名のゼミ生による調査地の概要説明⑨
- 第13回 11名のゼミ生による調査地の概要説明⑩
- 第14回 11名のゼミ生による調査地の概要説明⑪
- 第15回 現地調査に際しての諸注意
- 第16回 調査結果の整理
- 第17回 卒論執筆にあたっての諸注意
- 第18回 卒業研究中間発表
- 第19回 11名のゼミ生による調査結果の発表①
- 第20回 11名のゼミ生による調査結果の発表②
- 第21回 11名のゼミ生による調査結果の発表③
- 第22回 11名のゼミ生による調査結果の発表④
- 第23回 11名のゼミ生による調査結果の発表⑤
- 第24回 11名のゼミ生による調査結果の発表⑥
- 第25回 11名のゼミ生による調査結果の発表⑦
- 第26回 11名のゼミ生による調査結果の発表⑧
- 第27回 11名のゼミ生による調査結果の発表⑨
- 第28回 11名のゼミ生による調査結果の発表⑩
- 第29回 11名のゼミ生による調査結果の発表⑪
- 第30回 卒論提出後の反省

【授業の進め方】

少人数のゼミナール形式であるため、講義と各自の進捗状況に応じた研究発表を組み合わせる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

各自の研究テーマに合わせた文献や資料を指示する。

【参考図書】

『卒論作成マニュアルーよりよい地理学論文作成のために』 正井泰夫・小池一之 編 古今書院

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

卒論の完成度を第一に重視するのは言うまでもない。そしてこれに加えて、調査や執筆の進捗状況に応じた発表内容、さらに授業中の発言などを総合して評価する。

【履修上の心得】

ゼミ生各自が研究テーマを設定することになるが、いずれの場合も特定の地域を事例として取り上げなければならない。そして文献調査に加えて、実際に現地に赴いて景観観察・聞き取り調査・アンケート調査等のフィールドワークを

行うことを必須とする。また大学生活の集大成である卒論の作成には、多くの困難が伴うであろうが、これを乗り越える強靱な精神力と迅速な行動力が要求される。そして卒論完成という共通目標に向かってお互いに切磋琢磨できるゼミ生同士の人間関係の構築にも気配りできる心を持ってほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

第3学年の「ゼミナール(奥澤)」を履修済みであることが前提となる。「ゼミナール」から継続履修し、関心のあるテーマに対する地理学的視点からの分析能力を身に付けていなければならない。

科目名	卒業研究(川瀬)
	授業形態：演習
教員名	川瀬 善美

【授業の内容】

我が国は、少子高齢社会となり経済の低迷と相まって我が国の将来に影を落としています。少子高齢化は、若年労働力の現象、若年層・現役世代への社会保障費負担の増大、介護や看護等の人材確保の困難、さらには消費市場の冷え込みといった形で表れ始めています。

この傾向に歯止めがかからず、出生数の減少傾向の継続と共に医療の発達などによる日本人の平均寿命は延びの結果、百歳以上の高齢者が3万人を越す状況が生まれています。

また、長期にわたる我が国経済の低迷は、雇用状況の悪化や非正規雇用の増大をもたらし、家計の圧迫も厳しさを増しています。

このような状況から生活保護受給人口・世帯数とも増え続け、社会保障予算の増大の原因となっています。また、雇用の不安定化から、ニートと呼ばれるような定職を持たない若者や、大学は卒業したけれど就職できない「就職氷河き」などの問題現象も出現しています。

また、家族機能のさらなる弱体化による、保育、介護支援を求める声も日増しに大きくなってきています。晩婚化・未婚化の問題も深刻化し、最近では「婚活」と呼ばれるほど結婚自体が以前よりもしにくくなっていると言われています。このことが少子化の大きな要因になっています。また、出産しても働ける労働環境も以前よりも良くなってはいてもまだまだ充実していないこともあり、働く女性の出産意欲が低下へつながり、子育てをしている人を支援する社会環境や地域整備が緊急の課題となっています。

教育に目を転ずれば、「いじめ」「学級崩壊」「M教師」など教育の荒廃に心を痛めるような問題が次々に起こっています。

そこで、社会の中で、子どもや高齢者を取り巻くさまざまな問題について、履修者と共に研究を行っていきます。

【到達目標】

卒業論文の提出、発表会での発表、卒論抄録への掲載を最低ノルマとして、日々の生活の中で研究を積み重ねる力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 卒業論文を書くにあたって
- 第2回 論文作成の方法とルール
- 第3回 卒業論文のテーマの設定
- 第4回 テーマへの研究アプローチの方法
- 第5回 文献研究法とは
- 第6回 調査法について 観察法
- 第7回 調査法について インタビュー法
- 第8回 調査法について アンケート調査
- 第9回 調査法について 調査結果の処理と信頼度
- 第10回 参考文献、資料の取集と利用について
- 第11回 論文作成 1
- 第12回 論文作成 2
- 第13回 論文作成 3
- 第14回 論文作成 4
- 第15回 論文作成 5
- 第16回 中間発表 1
- 第17回 中間発表 2
- 第18回 中間発表についての討論
- 第19回 論文作成 6
- 第20回 論文作成 7
- 第21回 論文作成 8
- 第22回 論文作成 9
- 第23回 論文作成 9
- 第24回 論文作成 10
- 第25回 中間発表 3
- 第26回 中間発表 4
- 第27回 中間発表についての討論 2
- 第28回 論文作成 11
- 第29回 論文作成 12
- 第30回 卒業論文完成

卒業論文完成に向けて、学生個々人が主体的に取り組むこと、10月に予定されている中間発表会において、卒業論文

の内容、作成の方法、進捗状況等の報告を行うこと、定められた期限内に卒業論文を提出すること、2月に予定されている卒業論文発表会において卒業論文の詳細について発表することを目標とし卒業論文を作成することを履修学生に求めます。

【授業の進め方】

卒業研究は、各自が定めた(本年度は履修を予定している学生共同で定めた)研究テーマにそって、研究に必要な調査、文献研究等を行い、分析結果等をそれぞれ論文としてまとめる事を最終目標としたものです。研究に用いる方法論の主なもの、問題の明確な認識の方法、問題の全体像の把握方法(問題の論理構造の分析)、事実の把握の方法、仮設定の方法、仮設検証法(科学的方法、実験的方法、数量的方法、質的方法、実験法)、科学的推論(帰納法、演繹法、類推法、因果律法)問題解決の非合理的要素(経験、想像)などがあります。いずれの研究方法を採用し、研究を行うかについては学生それぞれが選択をします。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要なものは適時指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 70%

特記事項

論文(30000字)25ページ以上の論文を作成し、その内容等について査読し、口答試問の結果により判定を行う。論文・研究ノート等を未提出者はD評価とする。

【履修上の心得】

卒業研究は日々の研究の積み重ねによって成しとげられると考えられるので、スケジュールを立て、それに添ってコツコツと研鑽すること。

【科目のレベル、前提科目など】

特にないが、可能なかぎり福祉関連講義は履修することが望ましい。卒業研究は定められた日時に中間発表及び論文提出(規定通りの枚数をもって)が単位取得要件となっている。

科目名	卒業研究(小久保)
	授業形態：演習
教員名	小久保 裕

【授業の内容】

子どもにとって、美術に関する諸能力を育てることは、単に、教養や情操の陶冶のみならず、人間性や想像的創造力を育む上で欠くことのできない営みと言える。

ここでは、美術（主に絵画）と子どもの育ちとの関わりを探りつつ、教師に求められる造形表現力と指導力の獲得を踏まえて、各自の興味関心のあるテーマを設定し、卒業研究の完成をめざす。

【到達目標】

明確な問題意識を持ち、卒業研究（卒業制作 および 論文）を完成させることを目標とする。

【授業計画】

第1回	ガイダンス、各自の卒業研究テーマの発表	
第2回	文献収集と卒業研究完成までのプラン、スケジュールなど随時発表する	①
第3回	文献収集と卒業研究完成までのプラン、スケジュールなど随時発表する	②
第4回	文献収集と卒業研究完成までのプラン、スケジュールなど随時発表する	③
第5回	文献収集と卒業研究完成までのプラン、スケジュールなど随時発表する	④
第6回	文献収集と卒業研究完成までのプラン、スケジュールなど随時発表する	⑤
第7回	文献収集と卒業研究完成までのプラン、スケジュールなど随時発表する	⑥
第8回	卒業研究テーマの再設定（確認）と研究方法の検討	①
第9回	卒業研究テーマの再設定（確認）と研究方法の検討	②
第10回	調査・研究、各自の進行状況報告	①
第11回	調査・研究、各自の進行状況報告	②
第12回	調査・研究、各自の進行状況報告	③
第13回	中間発表準備	①
第14回	中間発表準備	②
第15回	中間発表準備	③
第16回	中間発表準備	④
第17回	各自の卒業研究テーマに即して個別指導（卒業制作と論文を同時並行して進める）	①
第18回	各自の卒業研究テーマに即して個別指導（卒業制作と論文を同時並行して進める）	②
第19回	各自の卒業研究テーマに即して個別指導（卒業制作と論文を同時並行して進める）	③
第20回	各自の卒業研究テーマに即して個別指導（卒業制作と論文を同時並行して進める）	④
第21回	各自の卒業研究テーマに即して個別指導（卒業制作と論文を同時並行して進める）	⑤
第22回	各自の卒業研究テーマに即して個別指導（卒業制作と論文を同時並行して進める）	⑥
第23回	各自の卒業研究テーマに即して個別指導（卒業制作と論文を同時並行して進める）	⑦
第24回	各自の卒業研究テーマに即して個別指導（卒業制作と論文を同時並行して進める）	⑧
第25回	各自の卒業研究テーマに即して個別指導（卒業制作と論文を同時並行して進める）	⑨
第26回	各自の卒業研究テーマに即して個別指導（卒業制作と論文を同時並行して進める）	⑩
第27回	各自の卒業研究テーマに即して個別指導（卒業制作と論文を同時並行して進める）	⑪
第28回	各自の卒業研究テーマに即して個別指導（卒業制作と論文を同時並行して進める）	⑫
第29回	各自の卒業研究テーマに即して個別指導（卒業制作と論文を同時並行して進める）	⑬
第30回	各自の卒業研究テーマに即して個別指導（卒業制作と論文を同時並行して進める）	⑭

【授業の進め方】

各自テーマに沿って、個別に制作、研究を行う。又、教室外学習、実践活動、美術館見学等も積極的に行いたい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

テキストは使用せず、プリント等配布する。画材については適宜指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

卒業制作および論文の完成度による。

【履修上の心得】

自主性を期待する。

【科目のレベル、前提科目など】

特にないが、ゼミナールを履修していることが望ましい。

科目名	卒業研究(富田)
	授業形態：演習
教員名	富田 英也

【授業の内容】

音楽は、心を慰め癒し、メッセージを伝え、表現し、喜びを共有して、人間の心に感動を与えることができる。人間特有の反応と行動様式や、感性の育成で、音楽の価値が人間の心身の成長に影響を与える。音楽を愛好する心情が培われることで、美的情操を育み望ましい人間形成に繋がる。それらを深く認識し、探求心を持って主体的に研究することを願っている。

【到達目標】

音楽と人間の歴史や文化、音楽と人間のかかわりを学び、音楽とは何か音楽する喜びや音楽と感動を体験し、自分の得意な分野を含め、音や音楽に対する興味や関心を模索し探究する。そして、将来音楽を活用し生活を明るく豊かにして生き生きとした人生を養うことを目標にする。

【授業計画】

- 第1回 前期オリエンテーション
- 第2回 音楽とは何か、音楽の感動等々を討論する
学習課題（予習1時間、復習30分）
- 第3回 課題の設定
学習課題（予習1時間、復習1時間）
- 第4回 先行研究の調査1
学習課題（予習1時間、復習1時間）
- 第5回 先行研究の調査2
学習課題（予習1時間、復習1時間）
- 第6回 情報・文献収集1
学習課題（予習1時間）
- 第7回 情報・文献収集2
学習課題（予習1時間）
- 第8回 テーマの立案と考察
学習課題（予習1時間、復習1時間）
- 第9回 調査・検証の案を考える
学習課題（予習1時間、復習1時間）
- 第10回 調査依頼の発送、中間発表要旨を考える
学習課題（予習1時間、復習1時間）
- 第11回 持論の分析と追求、中間発表レジメの作成
学習課題（予習1時間）
- 第12回 テーマの分析と追求
学習課題（予習1時間、復習1時間）
- 第13回 各自のテーマについて討論する
学習課題（予習1時間、復習1時間）
- 第14回 テーマの修正と調査の回収
学習課題（予習1時間、復習2時間）
- 第15回 調査の回収と集計
学習課題（予習1時間、復習2時間）
- 第16回 後期オリエンテーション
学習課題（復習1時間）
- 第17回 課題とテーマの見直し
学習課題（復習1時間）
- 第18回 論文の章立てと構成
学習課題（復習2時間）
- 第19回 統計データの分析
学習課題（復習3時間）
- 第20回 課題研究
学習課題（復習3時間）
- 第21回 課題研究
学習課題（復習3時間）
- 第22回 課題研究と論文作成
学習課題（復習3時間）
- 第23回 課題研究と論文作成、討議
学習課題（予習1時間、復習1時間）

- 第24回 課題研究と論文作成
学習課題（復習 3 時間）
- 第25回 課題研究と論文作成
学習課題（復習 1 時間）
- 第26回 課題研究と論文作成、査読と指導
学習課題（予習 1 時間、復習 3 時間）
- 第27回 論文作成、査読と指導
学習課題（予習 1 時間、復習 3 時間）
- 第28回 論文作成、査読と指導
学習課題（予習 1 時間、復習 3 時間）
- 第29回 発表レジメとパワーポイントの作成
学習課題（予習 1 時間、復習 3 時間）
- 第30回 課題発表の準備
学習課題（予習 3 時間、復習 1 時間）

学習課題の時間はおよその予測である。実際はもっと時間がかかると思われる。

【授業の進め方】

文献や資料収集、テーマの設定、アンケート調査、調査集計、構成と分析、考察とまとめ、論文作成完了まですべて自分の力である。最後までめげないで頑張ること。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要に応じ文献の紹介や指示をする。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

論文の内容、取り組む態度や積極性

【履修上の心得】

卒業論文は決められた授業時間だけで出来るものではない、音楽に対する興味関心と、日常生活で発案することや普段の努力によって達成されるものである。

【科目のレベル、前提科目など】

ゼミナール課題研究 A・B

課題研究や今まで培ってきた音楽関連科目の様々な経験を生かし、総まとめの場である。

科目名	卒業研究(平田)
教員名	平田 乃美

【授業の内容】

担当教員の指導のもとで、心理学関連領域の研究テーマを設定して論文を作成します。卒業研究への従事を通して、これまで学んできた知識や技術への理解が深まり、それらが学習者の生きた力になることを目指します。研究課題の設定や、実現可能な計画作成、計画的な研究遂行によって、卒業研究は学習者の自主的な学習態度や行動力を養う機会となることが期待されます。研究テーマの設定から論文作成まで、指導教員は個別指導を行います。すべての作業には学習者が主体的に取り組まねばなりません。

【到達目標】

- 1) 問題解決志向を持って研究テーマを設定、卒業研究を計画する。
- 2) 心理学領域の先行研究と研究遂行に必要な技術や倫理等を学ぶ。
- 3) 1), 2) を経て、卒業研究（心理学）を作成する。

【授業計画】

第1回 研究指導01

予習 (90分): 研究テーマを準備する

復習 (90分): 研究テーマを検討する

第2回 研究指導02

予習 (90分): 研究テーマを準備する

復習 (90分): 研究テーマを検討する

第3回 研究指導03

予習 (90分): 先行文献を収集する

復習 (90分): 先行文献を熟読する

第4回 研究指導04

予習 (90分): 先行文献を収集する

復習 (90分): 先行文献を熟読する

第5回 研究指導05

予習 (90分): 先行文献を収集する

復習 (90分): 先行文献を熟読する

第6回 研究指導06

予習 (90分): 先行文献を収集する

復習 (90分): 先行文献を熟読する

第7回 研究指導07

予習 (90分): 先行文献を収集する

復習 (90分): 先行文献を熟読する

第8回 研究指導08

予習 (90分): 先行文献を収集する

復習 (90分): 先行文献を熟読する

第9回 研究指導09

予習 (90分): 先行文献を収集する

復習 (90分): 先行文献を熟読する

第10回 研究指導10

予習 (90分): 先行文献を収集する

復習 (90分): 先行文献を熟読する

第11回 研究指導11

予習 (90分): 実現可能な研究計画を作成する

復習 (90分): 実現可能な研究計画か検討する

第12回 研究指導12

予習 (90分): 実現可能な研究計画を作成する

復習 (90分): 実現可能な研究計画か検討する

第13回 研究指導13

予習 (90分): 実現可能な研究計画を作成する

復習 (90分): 実現可能な研究計画か検討する

第14回 研究指導14

予習 (90分): 10月初旬開催予定《中間発表会》準備をする

復習 (90分): 発表内容を確認する

第15回 研究指導15 (中間発表会)

予習 (90分): 《中間発表会》発表準備をする

- 復習 (90分)：発表内容の振り返りをおこなう
- 第16回 研究指導16
予習 (90分)：計画的な研究遂行を準備する
復習 (90分)：計画的な研究準備を確認する
- 第17回 研究指導17
予習 (90分)：計画的な研究遂行を準備する
復習 (90分)：計画的な研究準備を確認する
- 第18回 研究指導18
予習 (90分)：計画的な研究遂行に従事する
復習 (90分)：計画的な研究遂行を確認する
- 第19回 研究指導19
予習 (90分)：計画的な研究遂行に従事する
復習 (90分)：計画的な研究遂行を確認する
- 第20回 研究指導20
予習 (90分)：計画的な研究遂行に従事する
復習 (90分)：計画的な研究遂行を確認する
- 第21回 研究指導21
予習 (90分)：計画的な研究遂行に従事する
復習 (90分)：計画的な研究遂行を確認する
- 第22回 研究指導22
予習 (90分)：計画的な研究遂行に従事する
復習 (90分)：計画的な研究遂行を確認する
- 第23回 研究指導23
予習 (90分)：データ分析を計画する
復習 (90分)：データ分析を実施する
- 第24回 研究指導24
予習 (90分)：データ分析を実施する
復習 (90分)：データ分析を確認する
- 第25回 研究指導25
予習 (90分)：論文を執筆する
復習 (90分)：論文を執筆する
- 第26回 研究指導26
予習 (90分)：論文を執筆する
復習 (90分)：論文を執筆する
- 第27回 研究指導27
予習 (90分)：論文を執筆する
復習 (90分)：論文を執筆する
- 第28回 研究指導28
予習 (90分)：抄録を作成する
復習 (90分)：抄録を確認する
- 第29回 研究指導29
予習 (90分)：卒業研究を完成する
復習 (90分)：卒業研究を総括する
- 第30回 研究指導30
予習 (90分)：2月初旬開催予定《卒業研究発表会》準備をする
復習 (90分)：発表内容を確認する

【授業の進め方】

上記の授業計画を基本としますが、個人の進捗状況に応じて計画の修正・更新を随時相談しながら進めます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

研究計画の初期段階で指導教員が紹介する参考文献をもとに、各自が自主的に関連領域の先行研究を収集します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

【科目のレベル、前提科目など】

認定心理士資格区分：「卒業研究」（心理学関連科目）心理学領域の研究課題のみ申請対象となります。

科目名	卒業研究(高橋)
	授業形態：演習
教員名	高橋 美保

【授業の内容】

4年間の学習成果とゼミナール(3年次)での研究を基に、興味や関心のあるテーマとその内容について追究し、卒業論文として集約する。そのためには、自身の研究テーマと内容を再検討し、掘り下げ、文献検索や資料蒐集といった初期作業を改めて行い研究方法を確定する。その上で調査紙や記録紙を作成し、得られた結果を分析し考察を加えて論文作成にあたる。

中間報告会では要旨を作成し、発表を経て研究の方向性を再確認する。時期的にも実習や就活と重なり、迷いや不安、苦悩や混乱といった精神的負担にも直面し、研究の難しさや面白さを経験する。

常に課題意識を持って自分と向き合い、解決の糸口を探り、課せられた問題を追究して明らかにするなど、論文完成に至るまでのプロセスは、正に学びへの向上心を一層刺激する経験となる。

【到達目標】

4年間の集大成となる総合的な学びである。課題を追究し物事の本質や真相を捉えるため、本科目の到達目標となる。

1. 卒業研究論文の作成
2. 論理性、論旨の正確さ、的確な手法と表現力の習得

【授業計画】

第1回	はじめに： 卒論に向けたゼミ(4年次)の進め方
第2回	研究テーマと内容について： 質疑と研究の方向性
第3回	先行研究の調査(1)： 論文検索と資料収集、資料の整理法
第4回	先行研究の調査(2)： その他の情報収集方法、フィールドワーク
第5回	先行研究の調査(3)： 文献・資料・情報の要約と理解
第6回	文献の要約と理解(1)： 要旨の作成
第7回	文献の要約と理解(2)： 発表とディスカッション
第8回	研究テーマの絞り込み(1)： 仮説と研究方法など、研究計画
第9回	研究テーマの絞り込み(2)： 調査方法と統計処理
第10回	予備調査(1)： 質問紙作成と統計処理の実際
第11回	予備調査(2)： 結果と考察
第12回	中間発表会(1)： 要旨発表・グループディスカッション
第13回	中間発表会(2)： 要旨発表・グループディスカッション
第14回	研究方法の反省と新たな研究課題
第15回	文献の批判的理解と多角的視点
第16回	課題研究(1)： 先行研究と研究テーマの確認
第17回	課題研究(2)： 研究倫理の重要性「日本保育学会研究倫理基準」の内容を知る
第18回	課題研究(3)： 実践と個人指導
第19回	課題研究(4)： 実践と個人指導
第20回	課題研究(5)： 実践と個人指導
第21回	課題研究(6)： 実践と個人指導
第22回	課題研究(7)： 要旨発表・グループディスカッション
第23回	課題研究(8)： 要旨発表・グループディスカッション
第24回	課題研究(9)： 研究計画の修正、仮説と研究方法の修正と再検討
第25回	課題研究(10)： 新たな情報収集
第26回	課題研究(11)： 新たな情報収集で明らかになったこと
第27回	課題研究(12)： 結果と考察
第28回	課題研究(13)： 反省点と新たな研究課題
第29回	課題研究(14)： 多角的視点の必要性和今後の課題
第30回	課題研究(15)： おわりに

【授業の進め方】

各自がテーマを設定し、年間スケジュールを立てて進めていく。

ゼミでの報告やディスカッションを通して、他者の意見も取り入れ、共に学び合い考え進めていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要に応じて随時示す

【参考図書】

必要に応じて随時示す

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

到達目標1, 2共に、論文で評価 (80%)

発表(要旨、発表)の完成度 (10%)

研究への学習意欲・取り組む姿勢 (10%)

【「成績評価の方法」に関する注意点】

卒論は、一朝一夕に出来あがるものではない。

卒論作成を通して、学びに対する姿勢や意欲など、人間形成に欠かせない向上心を評価する。したがって取りくむ姿勢を重視する。

【履修上の心得】

自己の興味や関心を具体化し文章化する作業であるため、進めていくうえで困難をとまなうことも予測される。

計画通りにいかないことも体験するが、自身で乗り越え、完成に向け自己実現しようと取り組む姿勢は意義深い。

【科目のレベル、前提科目など】

課題研究(3年次ゼミナール)の履修が前提となる。課題研究(ゼミ)で学んだ内容を発展させる専門選択科目である。

【備 考】

卒業研究論文の作成を通して喜びや苦悩、仲間との絆を体験し、自己を振り返る姿勢を身に付けると、次のステージ(社会人)では必ずや活かされる。

科目名	卒業研究(内山)
教員名	内山 須美子

【授業の内容】

専門演習において設定した研究テーマをもとに卒業論文を作成する。

【到達目標】

正式な論文の形式に則った卒業論文を制作する。

【授業計画】

- 第1回 1. ガイダンス：卒業研究の進め方と諸注意
- 第2回 2. テーマの設定：その1
- 第3回 3. テーマの設定：その2
- 第4回 4. テーマの設定：その3
- 第5回 5. 先行研究の検討：その1
- 第6回 6. 先行研究の検討：その2
- 第7回 7. 先行研究の検討：その3
- 第8回 8. 仮説の設定と検証の手続き：その1
- 第9回 9. 仮説の設定と検証の手続き：その2
- 第10回 10. 調査方法：その1
- 第11回 11. 調査方法：その2
- 第12回 12. 調査尺度の作成：その1
- 第13回 13. 調査尺度の作成：その2
- 第14回 14. 中間発表および討議：第1グループ
- 第15回 15. 中間発表および討議：第2グループ
- 第16回 16. 調査手続き：その1
- 第17回 17. 調査手続き：その2
- 第18回 18. 調査：その1
- 第19回 19. 調査：その2
- 第20回 20. 入力と入力データのクリーニング
- 第21回 21. 解析：その1
- 第22回 22. 解析：その2
- 第23回 23. 解析：その3
- 第24回 24. 解析：その4
- 第25回 25. 解析：その5
- 第26回 26. 考察：その1
- 第27回 27. 考察：その2
- 第28回 28. 考察：その3
- 第29回 29. 結論
- 第30回 30. まとめ・完成・発表準備

各自が論文作成計画を立て、研究活動を行う。

【授業の進め方】

各自が各自の論文作成計画の下に進めるものではありませんが、授業時間の中では全員に必要な作業を中心に進めていきます。全員を3人のグループに分け、グループごとに進捗状況の確認、内容に関する議論、フォーマットのチェックなどを行う、グループ・ワークの形式で作業を進めていきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に指定しない。

【参考図書】

授業の中で紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

評価にあたっては、卒業研究への参加および卒業論文の提出が必要となります。

論文・研究ノートの提出（発表を含む） 60%

研究への取り組み、知識の獲得度合い、実験の実践能力 40%

【履修上の心得】

自ら進んで学ぶ姿勢を持つこと。授業を休まないこと。仲間と共に協力し合い、励ましあって、論文作成に全力を尽くす覚悟をもって取り組むこと。

【科目のレベル、前提科目など】

専門演習(内山須美子)の単位取得を済ませていること。

3年次に単位取得を済ませていない場合には、4年次に卒業研究と並行して受講すること。

科目名	卒業研究(益田)
	授業形態：演習
教員名	益田 勇一

【授業の内容】

卒業論文の作成。

【到達目標】

文献を読み解く力、論理的に思考し、それを文章にまとめる力の獲得。

【授業計画】

- 第1回 卒業論文の作成の手順について
- 第2回 文献検索の方法について
- 第3回 テーマの検討（1）
- 第4回 テーマの検討（2）
- 第5回 アウトラインの作成
- 第6回 アウトラインの検討
- 第7回 アウトラインの発表
- 第8回 文献検索・調査（1）
- 第9回 文献検索・調査（2）
- 第10回 文献の分析（1）
- 第11回 文献の分析（2）
- 第12回 文献の分析（3）
- 第13回 進捗状況の報告（1）
- 第14回 進捗状況の報告（2）
- 第15回 進捗状況の報告（3）
- 第16回 卒論中間発表の準備（1）プレゼンテーションの作成
- 第17回 卒論中間発表の準備（2）プレゼンテーションの作成
- 第18回 卒論中間発表と討論（1）
- 第19回 卒論中間発表と討論（2）
- 第20回 論文作成の個別指導（1）
- 第21回 論文作成の個別指導（2）
- 第22回 論文作成の個別指導（3）
- 第23回 論文作成の個別指導（4）
- 第24回 論文作成の個別指導（5）
- 第25回 論文作成の個別指導（6）
- 第26回 論文作成の個別指導（7）
- 第27回 提出原稿の確認とファイリング
- 第28回 図書館保存用抄録の作成
- 第29回 卒論発表会の準備（1）
- 第30回 卒論発表会の準備（2）

各自の問題意識に応じたテーマを設定し、卒業論文を作成する。文献・資料の収集方法、論文作成の手順について指導する。

【授業の進め方】

各自のテーマに即して進める。進行状況に応じて途中経過の発表を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない。

【参考図書】

必要に応じて紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%
 特記事項
 卒業論文とその作成過程による評価。

科目名	卒業研究(伊東)
教員名	伊東 孝郎

【授業の内容】

これまでの学修の総仕上げとして、各自が興味関心に従って研究を計画・実行し、卒業論文を作成するものである。臨床心理学、人格心理学、発達心理学、教育心理学等の領域の研究に限る。

原則としてゼミ形式で行われるが、それに加え、必要に応じて個別指導も行われる。内容や方法に関するアドバイスを教員から受け、また学生同士も活発に討議していくことで、各自が研究の質を高め、心理学の方法論に則った卒業論文を完成させることを目的とする。

【到達目標】

臨床心理学、人格心理学、発達心理学、教育心理学等に関するテーマの卒業論文を作成する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 予習 (90分)：卒業研究の構想を練ると同時に、新年度ゼミでの自らの役割について考える
 復習 (90分)：授業を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第2回 各自の卒業研究構想について発表1
 予習 (90分)：卒業研究の構想を練る
 復習 (90分)：授業を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第3回 各自の卒業研究構想について発表2
 予習 (90分)：卒業研究の構想を練る
 復習 (90分)：授業を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第4回 各自の卒業研究構想について発表3
 予習 (90分)：卒業研究の構想を練る
 復習 (90分)：授業を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第5回 先行研究を紹介1
 予習 (90分)：卒業研究にかかわる先行研究を探す
 復習 (90分)：授業を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第6回 先行研究を紹介2
 予習 (90分)：卒業研究にかかわる先行研究を探す
 復習 (90分)：授業を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第7回 先行研究を紹介3
 予習 (90分)：卒業研究にかかわる先行研究を探す
 復習 (90分)：授業を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第8回 先行研究を紹介4
 予習 (90分)：卒業研究にかかわる先行研究を探す
 復習 (90分)：授業を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第9回 先行研究を紹介5
 予習 (90分)：卒業研究にかかわる先行研究を探す
 復習 (90分)：授業を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第10回 各自の卒業研究についての経過報告1
 予習 (90分)：卒業研究を進める
 復習 (90分)：授業を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第11回 各自の卒業研究についての経過報告2
 予習 (90分)：卒業研究を進める
 復習 (90分)：授業を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第12回 各自の卒業研究についての経過報告3
 予習 (90分)：卒業研究を進める
 復習 (90分)：授業を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第13回 研究目的と方法についての論文作成指導1
 予習 (90分)：卒業研究の目的と方法を執筆する
 復習 (90分)：授業を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第14回 研究目的と方法についての論文作成指導2
 予習 (90分)：卒業研究の目的と方法を執筆する
 復習 (90分)：授業を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第15回 研究目的と方法についての論文作成指導3
 予習 (90分)：卒業研究の目的と方法を執筆する
 復習 (90分)：授業を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる

- 第16回 卒業研究中間発表準備 1
 予習 (90分)：卒業研究の中間発表ポスターの作成準備をする
 復習 (90分)：授業を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第17回 卒業研究中間発表準備 2
 予習 (90分)：卒業研究の中間発表ポスターの作成準備をする
 復習 (90分)：授業を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第18回 卒業論文作成指導 1
 予習 (90分以上)：卒業研究の研究を進める
 復習 (60分)：授業を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第19回 卒業論文作成指導 2
 予習 (90分以上)：卒業研究の研究を進める
 復習 (60分)：授業を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第20回 卒業論文作成指導 3
 予習 (90分以上)：卒業研究の研究を進める
 復習 (60分)：授業を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第21回 卒業論文作成指導 4
 予習 (90分以上)：卒業研究の研究を進める
 復習 (60分)：授業を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第22回 卒業論文作成指導 5
 予習 (90分以上)：卒業研究の研究を進める
 復習 (60分)：授業を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第23回 卒業論文作成指導 6
 予習 (90分以上)：卒業研究の研究を進める
 復習 (60分)：授業を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第24回 卒業論文作成指導 7
 予習 (90分以上)：卒業研究の研究を進める
 復習 (60分)：授業を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第25回 卒業論文作成指導 8
 予習 (90分以上)：卒業研究の研究を進める
 復習 (60分)：授業を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第26回 卒業論文作成指導 9
 予習 (90分以上)：卒業研究の研究を進める
 復習 (60分)：授業を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第27回 卒業論文作成指導10
 予習 (90分以上)：卒業研究の研究を進める
 復習 (60分)：授業を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第28回 卒業論文作成指導11
 予習 (90分以上)：卒業研究の研究を進める
 復習 (60分)：授業を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる
- 第29回 卒業研究抄録作成指導
 予習 (90分以上)：卒業研究の抄録作成をする
 復習 (90分以上)：卒業研究の抄録を完成させる
- 第30回 卒業研究発表準備
 予習 (90分以上)：卒業研究発表会の発表ポスターの作成準備をする
 復習 (90分以上)：卒業研究発表会の発表ポスターを完成させる

上記の授業計画は、履修学生の研究進捗および卒業論文提出／発表会のスケジュールによって、変更の可能性が
 ある。

【授業の進め方】

卒業研究に関する個別及び全体指導、進捗状況の発表、および討議を基本とする。

前期は、先行研究等の論文講読も行う。

なお夏に、「心理学特別研究」の履修者と合同で、「研究に関するディスカッションと自己理解/対人関係向上のため
 のワークショップ」を行う合宿を開催する。必ず参加すること。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

指定しない。

【参考図書】

講義の中で適宜紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 100% 受講態度 0%

特記事項

卒業論文作成の過程と内容により評価する。

【履修上の心得】

強い意志を持って研究を完遂すること。

報告連絡相談を遅滞なく行うこと。

困難な状況が生じたら、後回しにせず、その都度的確に対処すること。

【科目のレベル、前提科目など】

卒業研究は、卒業要件を満たすための必修科目である。4年間の学びの集大成として、全力で課題を達成すること。

研究の内容が心理学に関係しているならば、認定心理士資格申請において「3. その他の科目」に区分される予定の科目である。

科目名	卒業研究(金田)
教員名	金田 健史

【授業の内容】

卒業研究では、専門演習ABにおいて学んできた研究方法と、各自の興味あるテーマを、より一層洗練されたものとして、研究テーマへと作り上げていく。その際、丁寧且つ正しい手順でまとめることを学び、正確且つ客観的に研究データを捉えられる方法を用い、自分自身で研究テーマを調査していくという一連の流れを学習していく。

大学生活を通して学んできた論理的に考えるという演習授業の学部段階でのまとめというような意味合いがあるものと思われる。実社会、スポーツに関わる各種の仕事、または教員という仕事では、多くの疑問を解決し、自分自身だけでなく、他者に対してもその疑問に思った内容をしっかりと理解できるように説明できる能力が必要である。卒業研究において、自分の研究テーマを絞り、それを客観的視点から突き詰め、論理的思考をもって考察するというものを経験することによって、これから社会へ羽ばたくために必要な最低限の能力を身につける。

【到達目標】

一年間を通して培った基礎的な知識を整理して説明する力を身につける

実験を組み立て、実践する力をつける

卒業研究を論理的に考え、まとめ上げる力をつける

【授業計画】

卒業論文作成に繋がる過程で必要な事項をひとつひとつクリアしていく。開始当初には、各自の研究テーマを決定するために、文献調査や基礎的な知識を書籍などから収集する活動を中心におこなう。それによって各自のおこないたい研究テーマに即した実験計画を精査していく。実験の実施が可能と判断される実験計画ができあがったのち、被験者、実験スケジュールの調整をおこない、予備実験、本実験へと移行していく。

論理的思考力を養い、客観的な視点での考察が可能となるよう訓練する。

1. 授業の実施に関する説明、および年間予定の確認
- 2～6. 研究テーマの設定、話し合い、実験機器のデモ
- 7～14. 実験機器を用いた演習、実験の実施
15. 実験データの処理
- 16～30. 本実験の準備、本実験の実施、データの分析処理

本授業は演習科目であり、開講時間帯以外の時間をも有効に利用して、卒業研究の背景となる先行研究の文献調査や文献整理を各自でおこなう。また、実験デモンストレーションなどを通して、実務的な力をつけることにより、卒業研究の研究テーマを明らかにしていくための本実験を実施する。なお、本実験は授業時間に縛られずに、被験者のスケジュールに応じて適宜実施していき、得られた結果を考察し、研究テーマをまとめていく。

【授業の進め方】

各自の研究テーマについて、全体での討論とともに、個人的な方向性の修正、改善へむけた個別相談を実施しながら、各自の研究テーマに関する実験計画を作成し、実験の実施およびデータ処理、論文執筆、発表準備までを各自でおこなう。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- 関連する研究テーマを扱った学術論文（英文、和文）
- 図書館等にある図書、雑誌類
- 測定機器の製造、販売会社のインターネット・ホームページ
- 機器の取り扱い説明書

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

評価にあたっては、卒業研究への参加および卒業論文・研究ノートの提出が必要となる。

論文・研究ノートの提出（発表を含む） 60%

研究への取り組み、知識の獲得度合い、実験の実践能力 40%

【履修上の心得】

専門演習ABにおいて体験してきたデータ処理の方法、実験内容やデータのまとめ方について卒業論文を作成し、提出、審査までを評価に含むものとする。

【科目のレベル、前提科目など】

生理学、運動生理学、スポーツ生理学、体育スポーツの測定と評価、専門演習AB

専門演習をはじめとした研究の総まとめの活動として位置づけられる。

科目名	卒業研究(齊藤武)
教員名	齊藤 武利

【授業の内容】

専門演習A Bで積み上げてきた各自の興味あるテーマを、より一層洗練されたものとして、卒業論文の研究テーマへと作り上げて行く。その際、自分自身で探究する研究テーマの目的に沿って、正しい手順でまとめることを学習する。

論理的に考えるという、演習授業形式での学部段階でのまとめを卒業研究において行う。自分の研究テーマを絞り、それを客観的視点から突き詰め、論理的思考をもって考察するという経験をすることによって実社会で必要な最低限の能力を身につける。

【到達目標】

自分の研究テーマを決定して、論文作成に必要な計画を策定して、実際に卒業研究を進めていく。その過程を通じて、客観的で論理的な思考を身につけて、最終的には、卒業論文形式での提出、発表を目指す。

【授業計画】

- 第1回 卒業論文作成に係るオリエンテーション
- 第2回 これまでの専門演習A B等から、見いだされた課題や検討項目の見直し 1
- 第3回 これまでの専門演習A B等から、見いだされた課題や検討項目の見直し作業 2
- 第4回 研究テーマ、ならびに研究計画の立案と見直しについて、シートを作成 その1
- 第5回 研究テーマ、ならびに研究計画の立案と見直しについて、シートを作成 その2
- 第6回 研究テーマ、ならびに研究計画の立案と見直しについて、シートを作成 その3
- 第7回 研究テーマ、ならびに研究計画の立案と見直しについて、シートをもとにした討議と修正課題の抽出 その1
- 第8回 研究テーマに沿った文献等の検索作業 1
- 第9回 研究テーマに沿った文献等の検索作業 その2、文献複写等の依頼作業 その1
- 第10回 研究テーマに沿った文献等の検索作業 その3、文献複写等の依頼作業 その2
- 第11回 研究テーマ、ならびに研究計画の立案と見直しについて、シートをもとにした討議と修正課題の抽出 その2
- 第12回 研究テーマ、ならびに研究計画の立案と見直しについて、シートをもとにした討議と修正課題の抽出 その3
- 第13回 卒業論文に関連する文献の誦読と討議、ならびに研究方法の検討 その1
- 第14回 卒業論文に関連する文献の誦読と討議、ならびに研究方法の検討 その2
- 第15回 卒業論文に関連する文献の誦読と討議、ならびに研究方法の検討 その3
- 第16回 関連文献の整理と発表、ならびに 研究計画と方法論の見直し作業 その1
- 第17回 関連文献の整理と発表、ならびに 研究計画と方法論の見直し作業 その2
- 第18回 関連文献の整理と発表、ならびに 研究計画と方法論の見直し作業 その3
- 第19回 研究テーマにそった卒業論文の具体的な作業（実験ならびに調査等を含む）の遂行 その1
- 第20回 研究テーマにそった卒業論文の具体的な作業（実験ならびに調査等を含む）の遂行 その2
- 第21回 研究テーマにそった卒業論文の具体的な作業（実験ならびに調査等を含む）の遂行 その3
- 第22回 ・研究テーマにそった卒業論文の具体的な作業（実験ならびに調査等を含む）の遂行 その4
・分析作業 1
- 第23回 ・研究テーマにそった卒業論文の具体的な作業（実験ならびに調査等を含む）の遂行 その5
・分析作業 2
- 第24回 ・研究テーマにそって実施された実験ならびに調査等に関する分析作業の集約と検討 その1
- 第25回 ・研究テーマにそって実施された実験ならびに調査等に関する分析作業の集約と検討 その2
- 第26回 ・研究テーマにそって実施された実験ならびに調査等に関する分析作業の集約と検討 その3
・本学卒業論文の形式にしたがった論文構成の修正と検討
- 第27回 ・研究論文ならびに研究ノートの資料作成と実験結果と考察、まとめ等についての検討 その1
- 第28回 ・研究論文ならびに研究ノートの資料作成と実験結果と考察、まとめ等についての検討 その1
- 第29回 ・最終校正作業 その1
- 第30回 ・最終校正作業 その2

卒業論文作成に繋がる過程で必要な事項について、実現に向けて準備していく。これまでの専門演習A Bを通して進めてきた各自の研究テーマに即した実験や調査、分析計画を検討し、実験計画などのスケジュールの調整をおこない、順次に本調査、本実験へと移行していく。

【授業の進め方】

各自の研究テーマについて、全体での討論とともに、個人的な方向性の修正、改善へむけた個別相談を実施しながら、各自の研究テーマに関する実験計画を作成し、実験の実施およびデータ処理、論文執筆、発表準備までを各自おこなう。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- 関連する研究テーマを扱った学術論文（英文、和文）
- 図書館等にある図書、雑誌類
- 測定機器の製造、販売会社のインターネット・ホームページ
- 機器の取り扱い説明書
- 各種VTR

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

評価にあたっては、卒業研究への参加および卒業論文・研究ノートの提出が必要となる。

論文・研究ノートの提出（発表を含む） 60%

研究への取り組み、知識の獲得度合い、実験の実践能力 40%

【履修上の心得】

各自が興味のある研究テーマ、研究領域について、さらに探究し、各自の研究方法等を検討して、卒業論文としての、体裁を整えて作成し、提出、発表、審査によって評価する。

【科目のレベル、前提科目など】

専門演習をはじめとした研究の総まとめの活動として位置づけられる。

科目名	卒業研究(藤井)
教員名	藤井 和彦

【授業の内容】

研究の領域は「スポーツ（レクリエーションを含む）をめぐる経営活動、マネジメント、マーケティング」とする。課題研究A Bで得た基礎的知識に基づき、各自の興味・関心に応じた研究テーマを設定し、卒業論文の作成に取り組む。

あわせて、上述の研究領域の中で、自己の調査結果や見解を、論理的に構成し論文として表現していく方法を学ぶ。

【到達目標】

自身の関心に基づき、調査概念を操作化し量的または質的な調査を実施。結果を分析・考察し論文にまとめるという一連の研究遂行能力が身についている。

【授業計画】

1回目：テーマ設定の方法

2～7回目：研究テーマの検討，仮説を含む研究の枠組みの完成

8回目：中間発表会

9回目：先行研究・資料のまとめ方

10～15回目：先行研究・資料の収集とまとめ

夏休み：合宿による他大学との研究交流及び中間発表

16回目～20回目：質問紙調査，インタビュー調査等の調査設計

21回目～25回目：調査結果の集計，分析，考察

26回目～：論文完成に向けた取り組み

30回目：論文要旨，抄録，発表会資料等の作成方法

上記の内容で、原則としては各個人のペースで論文作成のための研究を進める。定期的に発表会を実施し、研究内容についての見直しを行う。

【授業の進め方】

上記の通り

【教科書(必ず購入すべきもの)】

その都度資料を配付、或いは持ち寄り、それを中心に進めていく。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

評価にあたっては、卒業研究への参加および卒業論文・研究ノートの提出が必要となる。

論文・研究ノートの提出（発表を含む） 60%

研究への取り組み、知識の獲得度合い、実験の実践能力 40%

【履修上の心得】

指導方針：自発的な学習姿勢、独創的な問題意識・主張、組織的な取組を重視する。

注意事項：スポーツやレクリエーションのフィールドに自ら飛び出す行動力が必要となる。下記の視察研修や時間外の研究活動などを行う場合もある。最低限、これらに対応できる学生であってほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

専門演習A、専門演習B、体育経営管理学、体育社会学、スポーツ行政論、レクリエーション理論Ⅰ・Ⅱなど専門演習をはじめとした研究の総まとめの活動として位置づけられる。

科目名	卒業研究(内田)
教員名	内田 雄三

【授業の内容】

これまで保健体育科教育法や専門演習で学習した内容の総まとめが本科目の目的である。

【到達目標】

自身の設定した問題を焦点化し、先行研究や資料を多角的に検討しながら論文作成に取り組む。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
卒業研究の意義 研究テーマ設定について
- 第2回 先行研究の検討1
研究テーマと関連する先行研究・資料の探索
- 第3回 先行研究の検討2
研究テーマと関連する先行研究・資料の探索
- 第4回 先行研究の検討3
研究テーマと関連する先行研究の概略報告会
- 第5回 先行研究の検討4
研究テーマと関連する先行研究の概略報告会
- 第6回 研究テーマと研究方法1
研究内容と研究方法との整合性
- 第7回 研究テーマと研究方法2
研究方法の紹介（自然科学系の研究論文から）
- 第8回 研究テーマと研究方法3
研究方法の紹介（人文科学系の研究論文から）
- 第9回 研究テーマと研究方法4
体育授業観察法・評価法
- 第10回 研究テーマと研究方法5
授業の記録方法について（VTR撮影、映像データの管理など）
- 第11回 研究テーマ設定に向けて1
問題意識の明確化と適した研究方法の検討
- 第12回 研究テーマ設定に向けて2
問題意識の明確化と論文の表現・表記方法
- 第13回 研究テーマの仮決定と報告会1
- 第14回 研究テーマの仮決定と報告会2
- 第15回 中間まとめ
各研究テーマの検討
- 第16回 研究論文作成に向けて1
参考文献の探索と整理
- 第17回 研究論文作成に向けて2
研究の目的～研究方法の整理
- 第18回 研究論文作成に向けて3
研究の目的～研究方法の文章化
- 第19回 中間発表会1
各論文についての検討と今後の進め方の確認
- 第20回 中間発表会2
各論文についての検討と今後の進め方の確認
- 第21回 論文作成1
- 第22回 論文作成2
- 第23回 論文作成3
- 第24回 論文作成4
- 第25回 論文の読み合わせ
- 第26回 論文作成5
- 第27回 論文作成6
- 第28回 論文作成7
- 第29回 論文および抄録作成
- 第30回 論文発表会準備

各自が研究テーマを設定し、その課題を探索し論文としてまとめる。テーマ設定、先行研究の収集と検討、研究方法の

検討、実地調査、分析、論文の執筆等を行う。中間発表会、論文発表なども行う予定である。

【授業の進め方】

週に一度、履修者が全員集まり進捗状況を報告する。さらに、個別の対応が必要な場合には、時間外に集合する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①体育授業を観察評価する ②高橋健夫編著 ③明和出版 ④2003 ⑤2,200 ⑥978-4-901933-03-2

【参考図書】

高橋健夫他編著,新版 体育科教育学入門 (大修館書店)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

評価にあたっては、卒業研究への参加および卒業論文・研究ノートの提出が必要となる。

論文・研究ノートの提出（発表を含む） 60%

研究への取り組み、知識の獲得度合い、実験の実践能力 40%

【履修上の心得】

これまでの学生生活や講義、実習等から得た問題意識にもとづいて論文作成を進めていくことになる。その解決や検討に向けて多くの先行研究にあたり、自分自身の独善的な解釈に陥らないよう研究を進めていくことが肝要。学生生活の集大成として、真剣かつ意欲的に取り組むことを期待している。

【科目のレベル、前提科目など】

専門演習をはじめとした研究の総まとめの活動として位置づけられる。

科目名	卒業研究(今田)
	音楽に関する研究
	授業形態：演習
教員名	今田 政成

【授業の内容】

「アンサンブルの音楽」をテーマに、児童教育の音楽に関する分野の中から自分にあったテーマを研究する。論文作成及び演奏を行ない音楽的素養を向上させることを目的とする。

【到達目標】

児童教育の音楽に関する分野から決めたテーマを研究し、規定の枚数及び字数の範囲で卒業論文を書き上げる。

【授業計画】

- 第1回 音楽に関する自分にあったテーマを選ぶ
- 第2回 テーマにあった資料を収集しまとめたものを発表1
- 第3回 テーマにあった資料を収集しまとめたものを発表2
- 第4回 テーマにあった資料を収集しまとめたものを発表3
- 第5回 資料のまとめ
- 第6回 資料のまとめをプレゼンテーションで発表1
- 第7回 資料のまとめをプレゼンテーションで発表2
- 第8回 資料のまとめをプレゼンテーションで発表3
- 第9回 資料のまとめの発表グループ別1
- 第10回 資料のまとめの発表グループ別2
- 第11回 資料のまとめの発表グループ別3
- 第12回 資料のまとめの発表グループ別4
- 第13回 資料のまとめの発表グループ別5
- 第14回 資料をまとめてレポート作成したものを発表1
- 第15回 資料まとめてレポート作成したものを発表2
- 第16回 論文第1章始めに作成1
- 第17回 論文第1章始めに作成2
- 第18回 論文第2章作成1
- 第19回 論文第2章作成2
- 第20回 論文第3章作成1
- 第21回 論文第3章作成2
- 第22回 論文第4章作成1
- 第23回 論文第4章作成2
- 第24回 論文第5章作成1
- 第25回 論文第5章作成2
- 第26回 論文第6章作成1
- 第27回 論文第6章作成2
- 第28回 論文考察作成
- 第29回 論文章まとめ おわりに
- 第30回 論文まとめ おわりに

考察部分で自論がしっかり述べられるように文献・資料を収集し研究する。実際に現場を調査したりアンケート等からも分析できるようにする。

【授業の進め方】

学生が決めたテーマに基づき、実技・論文指導する

【教科書(必ず購入すべきもの)】

テーマにあった資料及び楽譜を配布する

【参考図書】

それぞれのテーマにあった資料及び参考文献をそろえる。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

卒業研究及び論文の内容について評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回の卒論指導にしっかり取り組む。

【履修上の心得】

研究内容の準備を毎回すること。

【科目のレベル、前提科目など】

課題研究A・B

音楽関連科目の卒業研究である。

【備 考】

音楽に関するテーマを選びテーマに沿った研究をする事。

科目名	卒業研究(神戸)
教員名	神戸 文朗

【授業の内容】

この研究において諸君は、自らの問題意識に基づいた卒業論文を作成・提出することが求められている。そのためには、(a)自らの心理学的知識を特定分野において体系化させ、(b)同分野における特定の問題意識を設定し、(c)その問題意識を適切に具体化した仮説を定立し、(d)調査や実験（具体化された問題意識）を適切に行い、(e)得られた結果を適切に評価し、(f)評価された結果に基づき仮説の妥当性や有効性を検証・考察すること、が必要となる。

すなわち、この研究が成果をもたらすためには、諸君が現在所有している心理学的および関連分野の知識の体系化、新しい文献資料の収集と知識の蓄積、研究史的に妥当な仮説の定立、適切な調査・実験計画の策定、適切な調査・実験の実施、適切な統計処理と仮説検定の実施、論理的に許容される議論の展開、心理学的に標準的な論文の作成（特にAPA書式の順守）、が必要である。換言すれば、諸君の心理学徒として蓄積したこれまでのすべての知識と能力を最大限に発揮することがこの科目の目的である。

【到達目標】

上記「授業の内容」に記したとおり。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 論文作成指導
標準的には文献検索4時間以上
- 第3回 論文作成指導
標準的には文献検索4時間以上
- 第4回 論文作成指導
標準的には文献検索4時間以上
- 第5回 論文作成指導
標準的には文献検索4時間以上
- 第6回 論文作成指導
標準的には文献検索4時間以上
- 第7回 論文作成指導
標準的には仮説定立の準備4時間以上
- 第8回 論文作成指導
標準的には仮説定立の準備4時間以上
- 第9回 論文作成指導
標準的には仮説定立の準備4時間以上
- 第10回 論文作成指導
標準的には仮説定立の準備4時間以上
- 第11回 論文作成指導
標準的には仮説定立の準備4時間以上
- 第12回 論文作成指導
標準的には研究計画作成の準備4時間以上
- 第13回 論文作成指導
標準的には研究計画作成の準備4時間以上
- 第14回 論文作成指導
標準的には研究計画作成の準備4時間以上
- 第15回 論文作成指導
標準的には研究計画作成の準備4時間以上
- 第16回 論文作成指導
標準的には研究計画書の作成4時間以上
- 第17回 論文作成指導
標準的には中間発表会での発表資料の作成4時間以上
- 第18回 論文作成指導
標準的には研究実施のための準備4時間以上
- 第19回 論文作成指導
標準的には研究実施のための準備4時間以上
- 第20回 論文作成指導
標準的には研究実施のための準備4時間以上
- 第21回 論文作成指導
標準的には研究実施のための準備4時間以上

第22回 論文作成指導

標準的には研究実施2時間以上

第23回 論文作成指導

標準的には研究実施2時間以上

第24回 論文作成指導

標準的には研究（調査・実験）の実施4時間以上

第25回 論文作成指導

標準的には研究結果の収集・分析4時間以上

第26回 論文作成指導

標準的には論文の作成10時間以上

第27回 論文作成指導

標準的には論文の作成10時間以上

第28回 論文作成指導

標準的には論文の作成10時間以上

第29回 論文作成指導

標準的には論文の作成10時間以上

第30回 論文提出

研究抄録の作成と卒論発表会での発表資料の作成4時間以上

この科目を取得した学生は卒業論文提出日から逆算して研究スケジュールを立て、自発的に資料を収集し、自らの問題意識の妥当性を常に問い続けなくてはならない。学生は毎週研究の進捗状況や研究において生じた疑問点等を報告し、他学生や教員との意見交換を行うことや助言を得ることが求められている。標準的なスケジュールは、4月から6月前半はテーマ選定、先行研究の検索と要旨作成；6月後半は仮説定立と実験（調査）方法の考案；7月は実験（調査）方法の具体化；8月から9月は実験（調査）の実施、結果処理；10月は分析結果の検討、仮説の妥当性の検討、補足的実験（調査）の必要性の検討；11月は分析結果関連の文献検索、論文の構想；12月から1月は論文の作成、論文の提出；といったこととなろう。しかし途中様々な要因が関与してくると思われるので、論文提出が締め切りに間に合うことを条件として、必ずしもこのスケジュールに拘泥する必要はない。その場合でも学生は常に教員に状況を報告し、指導を求めなくてはならない。

【授業の進め方】

上記授業計画と重複する。この科目の単位を取得するためには心理学論文としての必要条件を備えた論文を締切日までに提出することが要求される。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

なし。

【参考図書】

なし。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

論文内容は10点満点につき、前文の内容（広範性、的確性、体系性と焦点化）に3；引用の厳密性に1；方法の適切性に2；結果と考察内容（処理の適切性、解釈の妥当性と議論の論理性、前文との対応性）に3；書式の適切性に1；を配分して評価し、それらの総和x7点を論文の評価とする。

研究態度は授業の態度・状況によって30、20、10、0点のいずれかで評価する。研究態度以外の条件も±10点の範囲でこれに勘案することがある。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

なし。

【履修上の心得】

論文作成は諸君自身の批判的思考と教員の批判的指摘を通じての問題意識の尖鋭化、結晶化のプロセスといえる。教員との対話を密にするとともに、諸君には真摯に問題に直面し、最後まで心理学徒としての誠実さを全うすることを期待する。

【科目のレベル、前提科目など】

認定心理士申請科目のその他科目に該当する。

【備考】

なし。

科目名	卒業研究(結城史)
	授業形態：演習
教員名	結城 史隆

【授業の内容】

本ゼミナールには教育学部の児童教育専攻、スポーツ健康専攻、英語教育専攻、心理学専攻、経営学部の経営学専攻、BC専攻とさまざまな専攻に属している学生が所属している。したがって、卒業研究のテーマは、社会や地域、文化などにつながる課題であれば、限定はしない。自分で資料を集め、読んで整理し、論文として構成して、文章を紡いでいくことが重要である。

【到達目標】

1. 研究テーマを設定する。
2. 資料・データを集める。
3. 資料・データを分析する。
4. 研究発表・プレゼンテーション
5. 論文の執筆

【授業計画】

- 第1回 春休み課題・ゼミ論の発表1と講評
- 第2回 春休み課題・ゼミ論の発表2と講評
- 第3回 卒業論文の書き方と今後のプロセス
- 第4回 各自卒論のテーマと内容を発表
- 第5回 各自卒論のテーマと内容を発表
- 第6回 社会課題に関する本を読みまとめる
- 第7回 社会課題に関する本を読みまとめる
- 第8回 卒業研究指導
- 第9回 卒業研究指導
- 第10回 卒業研究指導
- 第11回 卒業研究指導
- 第12回 卒業研究指導
- 第13回 卒業研究指導
- 第14回 卒業研究指導
- 第15回 卒業研究指導
- 第16回 卒業研究指導
- 第17回 卒業研究指導
- 第18回 卒業研究指導
- 第19回 卒業研究指導
- 第20回 卒業研究指導
- 第21回 卒論合宿（1泊2日）
- 第22回 卒業研究指導
- 第23回 卒業研究指導
- 第24回 卒業研究指導
- 第25回 卒業研究指導
- 第26回 卒業研究指導
- 第27回 卒業研究指導
- 第28回 卒業研究指導
- 第29回 卒業研究指導
- 第30回 卒業研究指導

研究論文のテーマの例としては

1. まちづくり・地域づくりの実践している企画や団体の活動を分析研究し、課題と展望をまとめる。
2. まちづくり・地域づくり活動のための手法を研究する。
3. ボランティア団体の機能や活動を研究する。
4. NPOの立ち上げ方や企画運営の方法論を研究する。
5. 国際交流、国際理解教育などについて研究する。
6. 在住外国人について研究する。
7. 教育現場における課題について研究する。
8. 児童・生徒の発達障害の状況と対応について研究する。
11. その他、文化や社会に関すること全般

【授業の進め方】

ゼミ内での研究発表を積み重ねることで論文制作につなげる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

状況に合わせて随時紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

研究のプロセスと卒業論文の内容により評価する。

【履修上の心得】

最低限でも社会人になって恥ずかしくない問題発掘能力、プレゼンテーション能力、企画力、交渉力、運営力だけは身につけて欲しい。

また、ゼミ生どうしの連絡網をつくり、連絡を密にするだけでなく、親睦をはかっていきたい。

【科目のレベル、前提科目など】

特になし

科目名	卒業研究(大木)
教員名	大木 俊英

【授業の内容】

卒業研究は、各学生が決めたテーマについて資料や文献を読み、調査・分析を行い、最終的には卒業論文・研究ノート・研究プロジェクト(あわせて以下卒論と表記)のいずれかを完成させることを目的とする。

【到達目標】

- ・自分の興味関心にもとづいて研究テーマを絞りこみ、具体的な研究質問を立てることができる。
- ・卒論を完成させることができる。

【授業計画】

- 第1回 年間のスケジュールの確認(30分)、春休みの進捗状況の発表(60分)
 第2回 ワークショップ「文献を読んでRQを考えよう」(90分)
 第3回 学生の発表と討議(1周目-①)
 第4回 学生の発表と討議(1周目-②)(90分)
 第5回 学生の発表と討議(1周目-③)(90分)
 第6回 講義「卒論の構成」(30分)、ワークショップ「文献の引用」(60分)
 第7回 学生の発表と討議(2周目-①)(90分)
 第8回 学生の発表と討議(2周目-②)(90分)
 第9回 学生の発表と討議(2周目-③)(90分)
 第10回 学生の発表と討議(3周目-①)(90分)
 第11回 学生の発表と討議(3周目-②)(90分)
 第12回 学生の発表と討議(3周目-③)(90分)
 第13回 構想発表会(90分)
 第14回 アウトライン作成(90分)
 第15回 研究動機執筆(90分)
 第16回 3年生との交流会(90分)
 第17回 3年生の夏休み中の活動(訪問インタビュー、学会参加等)の発表
 第18回 中間発表会(90分)
 第19回 ワークショップ「研究結果のまとめ方」(45分)、英語劇①(ディクテーション)(45分)
 第20回 4年生の進捗状況の発表(20分)、英検解説(30分)、英語劇①(発表準備)(40分)
 第21回 4年生の進捗状況の発表(20分)、英検解説(30分)、英語劇①(発表準備)(40分)
 第22回 4年生の進捗状況の発表(20分)、英検解説(30分)、英語劇①(発表本番)(40分)
 第23回 4年生の進捗状況の発表(20分)、英検解説(30分)、英語劇②(ディクテーション)(40分)
 第24回 4年生の進捗状況の発表(20分)、英検解説(30分)、英語劇②(発表準備)(40分)
 第25回 4年生の進捗状況の発表(20分)、英検解説(30分)、英語劇②(発表準備)(40分)
 第26回 4年生の進捗状況の発表(20分)、英検解説(30分)、英語劇②(発表本番)(40分)
 第27回 交流会(90分)
 第28回 3年生の研究テーマ発表①(90分)
 第29回 3年生の研究テーマ発表②(90分)
 第30回 卒研最終発表会(90分)

研究のスケジュール

<前期>

- ・発表と討議を通して研究を深めていく。
- ・構想発表会

<夏期休業中>

- ・夏期ゼミ(1~2回実施予定)
- ・リサーチ計画を立てる

<後期>

- ・中間発表会(10月上旬)
- ・卒論仮提出(12月1日)
- ・卒論提出(1月上旬)
- ・最終発表会(卒論提出の2週後)

【授業の進め方】

各自が研究の進捗状況を報告し、全体での議論を通して研究内容を深めていくことが中心となる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

ありません。適宜配付します。

【参考図書】

American Psychological Association. (2009). Publication Manual of the American Psychological Association.

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

「レポート・課題」は卒論の完成度を指す(15%は副査の評価)

「受講態度」には各種発表会や3年生と行うグループ活動への参加度などが含まれます。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

卒論が提出日に提出されなかった場合は評価対象としない。

【履修上の心得】

卒業論文を執筆し「S」評価をもらうには、10月の中間発表会までに第1章と第2章の執筆、および必要なデータの収集が終了していることが条件となる(これらを満たしたからといってS評価がもらえるとは限らない。その権利を継続できるというだけ)。

【科目のレベル、前提科目など】

課題研究からの研究の継続が求められる。自分の専門性・独自性を高める活動である。

科目名	卒業研究(宮里)
教員名	宮里 恭子

【授業の内容】

卒業研究は、自ら決めたテーマについて文献や資料を読み、調査・分析を行い、卒業論文か研究ノート、または研究プロジェクトを完成させることを目標とする。

【到達目標】

1. 基本的な卒論の構成を知り、研究方法、引用の仕方や先行研究の方法を理解する。
2. 研究分野を絞り、文献学修を通してその領域の知識を広げ、先行研究をまとめて仮説を設定する。
3. 研究方法を決定し、研究を実施する。
4. 研究結果をまとめ、分析や考察を行う。
5. 以上の手続きを経て、適切な卒業論文、研究ノート、研究プロジェクトを執筆する。
6. 中間発表会や卒研発表会などの研究発表を効果的に行うとともに、発表ハンドアウトや抄録を作成する。
7. ピアレビューを通して、他の学生の研究に適切なコメントができ、自らの研究の参考にできる。
8. 指導教員からの個人指導の際、論文の修正などの課題を期日通りに実行し計画的に研究するなど自己管理能力を育む。
9. 進路について、指導教員と相談しながら必要な行動をとり、社会にでる準備をする。
10. ゼミのメンバーと励ましあいながら卒論執筆をやり遂げたり、勉強会やゼミ旅行を通してゼミ員との親睦を図り、社会性や協調性を育む。
11. ゲストスピーカーなどとの交流を通して、社会で活躍する人の実体験に触れ、見識を高める。

【授業計画】

- 第1回 コース説明、卒論・研究ノートとは、論文とは？ 先行研究についての再確認 1年間のスケジュール
- 第2回 研究方法についての講義
- 第3回 個人指導1 グループとピアレビュー（先行研究）
- 第4回 個人指導2 グループとピアレビュー（先行研究）
- 第5回 引用の仕方の講義
- 第6回 個人指導1・ピアレビュー（先行研究）
- 第7回 個人指導2・ピアレビュー（先行研究）
- 第8回 個人指導1・ピアレビュー（問題提起と研究方法について）
- 第9回 個人指導2・ピアレビュー（問題提起と研究方法について）
- 第10回 ゲストスピーカー講話
- 第11回 構想発表会（構想中のテーマ（仮設定）、テーマの設定の理由、アウトライン、問題提起、研究方法、引用文献などを発表）
- 第12回 情報分類の仕方
- 第13回 結果とりまとめと分析
- 第14回 個人指導1・ピアレビュー（前半部分）
- 第15回 個人指導2・ピアレビュー（前半部分）
- 第16回 中間発表会の準備・リハーサル
- 第17回 中間発表会
- 第18回 個人指導1・前半部分完成
- 第19回 個人指導2・前半部分完成
- 第20回 分析・考察と結論の講義
- 第21回 個人指導1・ピアreview（結果・考察）
- 第22回 個人指導2・ピアreview（結果・考察）
- 第23回 目次、まえがき、付録、注、索引、あとがき、謝辞、文体の講義
- 第24回 仕上げ原稿チェック 個人指導1・ピアreview（内容最終仕上げ）
- 第25回 仕上げ原稿チェック 個人指導2・ピアreview（内容最終仕上げ）
- 第26回 文献表の書き方、体裁、引用の仕方確認、抄録の書き方
- 第27回 最終執筆チェック 個人指導1・ピアreview（論文体裁、(文体、誤字・脱字)
- 第28回 卒研発表会予行演習、抄録仮提出
- 第29回 卒研発表会予行演習続き、抄録完成
- 第30回 卒論発表会

[前期の主なテーマ]

4～5月は論文の書き方や引用の仕方の復習、研究方法などについての教師による講義を行うが、各自が先行研究を夏休みまでに完成させることが目標である。6～7月には、指導教師による個人指導を通し、仮説の設定・研究方法の策定を行い、夏休み中までに研究を実施する。また、クラスメートとの各自の研究に関する進捗状況の発表、および討議などの活動を適宜行う。

夏休みの宿題

1. 論文執筆（先行研究、問題提起、研究方法）

- (1) 構想発表会の資料をもとに、問題提起が妥当であるか、研究方法の実行可能性を確認して、実際の研究を行う。
研究結果を分類・取りまとめして文章にしておく。
- (2) 構想発表会のコメントをもとに、先行研究を完成しておく
- (3) 引用をルールに沿って書き足す。直接引用はできるだけ最小限度とし、自分の言葉で言い換えしておく。
- (4) 中間発表会時に提出する仮論文を完成させる。

2. 中間発表会資料作成

- (1) 構想発表会で使ったハンドアウトをもとに中間発表会の概要を作成する。先行研究や、アウトラインに具体的なタイトルをいれること。このためには、上記の論文が少なくとも結果取りまとめの前まで執筆されていることが肝要。
- (2) 5分以内に発表をできるよう、練習しておく。

【後期の主なテーマ】

夏休みに研究を行い、その結果を各自まとめていく。10月上旬に「中間発表会」（仮論文・仮研究ノートの提出）を実施し、その後は結果のとりまとめ、分析をして結論を含む最終執筆へ本格的に着手する。指導教師の指導のもと、内容を精査、修正し、同時に3～4人の小グループでピアreviewを行い、お互いに意見交換やアドバイスをしながら、12月中旬までに卒論を完成させていく。1月中旬完成論文を提出し、1月下旬の「卒業研究発表会」において、副査の審査を受ける。抄録集のための抄録も作成する。

上記のスケジュールは、ゼミ員の実習などの都合により、多少変更の可能性がある。

【授業の進め方】

<前期>

- ・卒業論文・研究ノートの書き方、引用の仕方、基礎研究や調査の仕方などの講義
- ・テーマの仮設定、テーマの設定の理由、アウトライン、引用文献、を各自準備
- ・個々の学生ごとに論文執筆指導
- ・教員採用試験や企業への就職活動の報告や採用試験の対策・研究なども適宜行う

<後期>

- ・10月上旬 「中間発表会」（仮論文・仮研究ノートの提出）
- ・個々の進行状況の報告とディスカッションを行い、最終執筆へ
- ・ゼミ員同士によるピアレビュー、意見交換、フォーマット確認
- ・「卒論発表会」
- ・3年生の卒研構想発表会への参加と助言

【教科書(必ず購入すべきもの)】

卒論（研究ノート）の書き方などに関するプリントを適宜配布する。3年次に使用した論文に関するテキストも参考とする。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

- ①研究成果の完成度（中間発表と最終発表のプレゼン内容も含む） 中間発表15%、卒研発表会の副査の評定15%、卒論50%
- ②研究への取り組みの姿勢や討論への貢献の度合い、ピアグループでの協力など

【「成績評価の方法」に関する注意点】

卒論（研究ノート）が締切日までに提出されない場合は、評価の対象としない。また、提出しない場合は卒業できなくなるので、注意をすること。中間発表段階での仮論文・仮研究ノートの提出がない場合も同様に対象外とする。卒研発表会と中間発表会に参加しない場合も評価対象としない。

【履修上の心得】

卒業論文か研究ノート、研究プロジェクトのいずれかを選択できるが、卒業論文を執筆する場合は、10月の中間発表（仮論文提出）の段階で承認を得ることになる。中間発表会までに先行研究（最低10頁）が完成していない場合は、研究ノートか研究プロジェクトに変更する。

【科目のレベル、前提科目など】

課題研究からの研究の継続が前提である。自分の専門性・独自性を高める活動で、学習の集大成との位置づけである。卒業のための必修科目であるため、必ず全うする覚悟をもって臨むこと。

科目名	卒業研究(Lorraine Reinbold)
	English Thesis Research
教員名	Lorraine Reinbold

【授業の内容】

This is a supervised research course which is designed to help students write their required graduation theses or notes in English during their fourth year in university. Students conduct research, communicate the research, critically analyze the literature, verify sources, present results, and relate the topic to future studies. Knowledge acquired in Academic Writing and English Seminar Studies will enable students to work independently in producing their final research paper for graduation and in their future careers. 本科目は学生が英語で卒業論又は卒業研究ノートを作成する際の指導を行うことを目的とする。学生は希望するテーマを選び、それを詳細に検討し、Academic Writing & 課題研究で学んだ理論や分析法を適用し、研究論文を作成しなければならない。

【到達目標】

Students who successfully complete English Thesis Research Course will be able to do the following:

- A. write a graduation thesis (double-spaced, on A4 paper including reference list) in English;
- B. find and use evidence in support of their ideas, to include
 1. locating reference materials in the library and on the Internet,
 2. taking notes from different sources for use in their writing,
 3. creating a bibliography for a research paper in the APA format with references in English or Japanese,
 4. recognizing plagiarism and knowing how to avoid it,
 5. paraphrasing/summarizing material from references,
 6. integrating quotations from references into an argument;
- C. read more critically, to include
 1. distinguishing facts from opinion,
 2. analyzing the logic in written arguments,
 3. identifying the point of view of an essay,
 4. outlining the organization of an essay;
- D. and, explain their conclusions in an oral presentation.

本科目の単位を取得するためには以下の条件が満たされなければならない。

- A. 英文の卒業論文を作成すること、
- B. 自己の考えを支持する証拠を提示すること。それには、図書館およびインターネットにおいて引用文献を検索すること、多様な引用元からのメモをとること、APAの書式に従って文献リストを作成すること、剽窃の危険性を認識しそれを避けること、引用文献を分析し言い換えたり要約すること、引用を統合し議論の筋道をつけること、が必要となる。
- C. 文献を批判的に講読すること。それには、意見と事実を峻別すること、論理分析をおこなうこと、当該文献の主張点を明確化すること、当該文献の構成の枠組みを理解すること、が必要となる。
- D. そして口頭発表の場で結論を説明すること。

【授業計画】

- 第1回 Make research paper time management plan (teacher training, nursing, prefectural teacher examinations, etc.)(1年の卒論計画を立てること。) English Research Paper vs. Notes
- 第2回 Submit time plan. Review research papers: introduction, thesis statement, literature review, citations (1年の卒論計画を立てることを提出。) 研究論文の概観と主題文、論文等を読見、本研究)
- 第3回 Group 1 Conferencing (研究テーマ、話し合い、etc.) Prepare research method in class
- 第4回 Group 2 Conferencing (研究テーマ、話し合い、etc., Prepare research method in class
- 第5回 Submit introduction, edited literature review with outlines, Peer review.
- 第6回 Conferences Group 1, HW: Work on and complete Draft one Introduction and Literature Review (本研究,下書き第1回目の締切日,ピアによる修正)
- 第7回 Conferences Group 2, HW: Work on and complete Draft one (本研究、下書き第1回目の締切日,ピアによる修正)
- 第8回 Submit Draft 1; Submit research proposal
- 第9回 Group 1: Peer evaluation and conferencing
- 第10回 Group 2: Peer evaluation and conferencing
- 第11回 Culture Exchange Project Tentative Date, Submit analysis of research.
- 第12回 Conference. Work on PowerPoint Slides (話し合い, パワポイント)
- 第13回 Submit Draft 2, Presentation practice (課題=論文下書き2を提出、話し合い、発表会リハーサル)
- 第14回 Presentations of papers (論文発表)
- 第15回 Presentations of papers (論文発表) *Class will meet in summer to revise papers. (*Not during sabbatical year)
- 第16回 Group 1: Rehearsal for mid-year presentation (中間発表の準備、リハーサル)
- 第17回 Group 2: Rehearsal for mid-year presentation (中間発表の準備、リハーサル)

- 第18回 Mid-term Presentations,
- 第19回 Submit analysis and results, Peer review
- 第20回 Review citations and reference list, HW: Finish your paper: research, methods, analysis, charts and graphs.
- 第21回 Submit Final Draft 15-20 pages. Peer review (最終版締切, ピアレビュー)
- 第22回 Continue with Peer review (ピアレビュー)
- 第23回 Submit Table of Contents, Abstract, Appendix, Cover Page, References, Peer review
- 第24回 Final edits, Homework: Submit paper with Cover page, Table of Contents, Abstract, Introduction, Research, Method, Results, Graphs and Charts, Analysis, Discussion and Conclusion, References, and Appendix
- 第25回 Group 1: Peer review. NO MORE ADDITIONS OR CHANGES, (from now on, only grammar or typing errors can be changed)
- 第26回 Group 2: Peer review. NO MORE ADDITIONS OR CHANGES, (from now on, only grammar or typing errors can be changed)
- 第27回 Group 1: Peer Review of final papers
- 第28回 Group 2: Peer Review of final papers
- 第29回 Put papers into formal folders, Presentation practice
- 第30回 Presentations (発表)

*The schedule is subject to change based on instructor-determined student needs.
 授業計画は仮のものであり、授業の進行状況により変更になるかもしれません。

【授業の進め方】

Students continue working on their research papers which they started in their 3rd year seminar courses. At the end of the spring semester, they are required to submit their papers and give a short presentation. In January, they must submit their graduation papers, summaries for the Hakuoh Proceedings Booklet, and give presentations.
 研究論文のさらなる完成を目指す。学生は週ごとに進展具合を報告しなければならない。前期の終わりまでに仮論文の提出と中間発表を行い、

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①アカデミックライティング入門 ②吉田友子 ③慶応義塾大学出版会 ④2008 ⑤¥2,000 ⑥9784766407198

【参考図書】

"Basic Steps to Writing Research Papers." Kluge, D. & Taylor, M. (2007). Tokyo: Cengage Learning. ISBN 978-4-902902-89-1, ¥2500
 "Writing Research Papers: From Essay to Research Paper." Zemach, D., Broudy, D., & Valvona, C.(2011). Oxford: Macmillan Education.

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%
 特記事項

Class participation, timely completion of assignments, and research paper.
 (クラスにおける参加度、期限を守り課題を提出すること、研究論文)

Final Paper 40 points and Presentation 20 points, Mid-term Presentation 10 points, Timely Completion of Assignments 10 points, Participation 20 points

【「成績評価の方法」に関する注意点】

卒論(研究ノート)が締切日までに提出されない場合は、評価の対象としない。中間発表段階での仮論文・仮研究ノートの提出がない場合も同様に対象外とする。

*卒業論文か研究ノート、研究プロジェクトのいずれかを選択できるが、卒業論文を執筆する場合は、10月の中間発表(仮論文提出)の段階で承認を得ることになる。

【履修上の心得】

Students who do nursing care training or teaching practicum must contact their instructor before starting these activities. Those who do not do so may not receive course credit. 介護体験や教育実習を受講している学生はこれらの活動に参加する前に担当教員にその旨を伝えなくてはならない。これを怠ると単位取得ができないこともある。

【科目のレベル、前提科目など】

Students who wish to write a research paper should have TOEFL scores above 480. It is recommended for students who have TOEFL scores below 480 write notes or a project paper. 英語で論文を書きたい学生はTOEFL得点が480以上であること。480以下の学生は研究ノート/プロジェクトを作成することを勧めます。

科目名	卒業研究(Jeffrey Miller)
	Graduation Thesis Research 卒業研究 (Miller)
教員名	Jeffrey Miller

【授業の内容】

The Graduation Thesis Research 卒業研究 (J. Miller) class is for fourth year student research resulting in a solid, academic thesis 15~20, A-4 pages long, written in higher level English (or shorter graduation notes).

(Some students who take the Graduation Thesis Research 卒業研究 (J. Miller) course may also plan to apply to graduate schools outside of Japan. The instructor will assist those students in selecting and applying to such schools.)

卒業研究は、四年生のこれまでの研究成果をA-4紙15~20頁の高レベル英文で書かれたアカデミック論文(またはより短い卒業ノート)としてまとめあげる。

(このクラスを取る学生の中には海外の大学院を目指す学生もいる。教員はこうした学生に大学院の選択や出願の手助けをする)

【到達目標】

The Graduation Thesis Research 卒業研究 (J. Miller) class aims to successfully: explore, guide, encourage, and correct drafts of fourth year students.

【授業計画】

- 第1回 week 1 Overview of the thesis process, discussions about individual interests
- 第2回 week 2 Discussion of possible research topics and how to conduct research
- 第3回 week 3 Tentative title selection and further research methodology discussions
- 第4回 week 4 Written 200 word summary outline of entire thesis including most subsections due
- 第5回 week 5 Further discussions and most probable title selection (changes possible but strongly discouraged)
- 第6回 week 6 Draft of any subsection (250 words) due
- 第7回 week 7 Corrected draft returned and discussed (revise draft)
- 第8回 week 8 Draft of any other subsection (250 words) due
- 第9回 week 9 Corrected draft returned and discussed (revise draft)
- 第10回 week 10 Draft of any other subsection (500 words) due
- 第11回 week 11 Corrected draft returned and discussed (revise draft)
- 第12回 week 12 Draft of any other subsection (500 words) due
- 第13回 week 13 Corrected draft returned and discussed (revise draft)
- 第14回 week 14 Draft of any other subsection (500 words) due; discussion of mid-term presentation
- 第15回 week 15 Corrected draft returned and discussed (revise draft); outline of presentation 200 words. Preparation practice for mid-term oral presentations.
- 第16回 week 16 Mid-term oral presentations with one-page English A-4 handouts
- 第17回 week 17 Complete revision of corrected 8 (or more) pages, plus 500 more words
- 第18回 week 18 Corrected draft returned and discussed (revise draft)
- 第19回 week 19 Draft of any other subsection (500 words) due
- 第20回 week 20 Corrected draft returned and discussed (revise draft)
- 第21回 week 21 Draft of any other subsection (500 words) due
- 第22回 week 22 Corrected draft returned and discussed (revise draft)
- 第23回 week 23 Completed 10 to 20 page thesis (notes) first draft due
- 第24回 week 24 Corrected 10 to 20 page thesis (notes) first draft returned and discussed (revise draft)
- 第25回 week 25 Corrected 10 to 20 page second draft due online to J. Miller (final changes). After J. Miller revision, prepare two complete copies.
- 第26回 week 26 Completed 10 to 20 page thesis (notes) final reports submitted by the set deadline in early January.
- 第27回 week 27 Final presentation outline and handout practice
- 第28回 week 28 Final presentation outline and handout practice
- 第29回 week 29 Final presentation outline and handout
- 第30回 week 30 Look back at the thesis process, presentations, and your future

After an initial review of the mechanics of thesis (or notes) research and writing, the students will work closely with the instructor to plan their individual research goals. The following overview is of the weekly contents of the course leading to a successful 15~20, A-4 page English graduation thesis (or shorter graduation notes).

始めに卒業論文や卒業ノートの大まかな構造を論じた後、教師と共に個々人の研究の到達点を計画する。A4, 15~20頁の英文卒業論文(卒業ノート)を成功裏に仕上げるための週ごとの授業内容は上に記したとおり。

【授業の進め方】

Advanced-level English will be used throughout the class. The Graduation Thesis Research 卒業研究 (J. Miller) course will, after the first month of general material, be individually focused with the instructor helping each student research and write the best thesis (or notes) possible.

Although the "road" to a final, acceptable English thesis (or notes) is long and demanding, the process greatly improves the student

【教科書(必ず購入すべきもの)】

There will not be any single textbook for the Graduation Thesis Research 卒業研究 (J. Miller) course, but the instructor will photocopy appropriate material for the students.

The initial Academic Writing and thesis research and writing sections will be general. Once the individual students have identified their research topics the information provided will be highly specific.

特定の教科書はないが、教員により適切な教材がプリントされ準備される。

アカデミックライティング、卒論リサーチ、卒論ライティングは学生全員同じ教材。それぞれの学生のテーマが決まった後には、個々人に適した教材が提供される。

【参考図書】

"The Story of English" Robert McCrum et al, Viking Press 1989

"Introducing Global Englishes" Nicola Galloway and Heath Rose, Routledge Press, 2015

"How English Became English" Simon Horobin, Oxford University Press, 2016

"Words on the Move" John McWhorter, Henerly Holt Publisher, 2016

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 50% 受講態度 0%

特記事項

Writing one's graduation thesis or notes in English requires timely: careful thought, discussion, planning, research, draft writing, and draft rewriting during the full-year course.

英文で卒業論文や卒業ノートを書くためには、注意深く考察し、討議し、計画を立て、リサーチし、草稿を何度も書く。1年を通してこうしたことを適時に仕上げて行くことが大切。

【履修上の心得】

Researching and successfully writing their 15~20-page graduation theses in English (a second language for almost all Hakuoh students) requires a great deal of prior effort developing their written English proficiency. Therefore, a minimum TOEFL score of 480 will be required to write either a thesis or notes in English, also to write a thesis in English the student must have passed Academic Writing.

Focused determination during the Graduation Thesis Research 卒業研究 year-long course is essential to produce a solid, academic thesis (or notes).

15~20頁のリサーチ卒論を英文(ほとんどの白鷗生にとっては第二外国語)で成功裏に仕上げるためには、かなりの努力と熟練したライティング力が必要とされる。従って、英文卒論ノートや英文卒論を書くためには、TOEFLスコアが最低480点必要。英文卒論を書くためには、アカデミックライティングのクラスを修めることが必要。確固としたアカデミック論文(ノート)を仕上げる上で、この通年の卒業研究クラスにおいては、物事に集中し概念を明らかにしていく力が必要不可欠となる。

【科目のレベル、前提科目など】

To take this class students should have a TOEFL score of 480 or above and have passed Hakuoh University Beginning, Intermediate, Advanced and -- especially -- Academic Writing courses.

このクラスを履修するためには、TOEFLスコア480点以上をとっていること。またライティング初級・中級・上級のすべてと、特にアカデミックライティングの履修者であること。

科目名	卒業研究(渋川)
	授業形態：演習
教員名	渋川 美紀

【授業の内容】

3年次のゼミナールで学習したプログラミングの知識を生かし、プログラムの設計・作成がおこなえることを目指して学習を進めていきます。学んだデータ処理の技術を実社会に応用し、アンケート等で得たデータの分析を的確に行えるようにも学習を進めます。研究活動を通じて未知のものを知る楽しさを感じて下さい。

【到達目標】

1. プログラミングができる。
2. 目的に応じた教材が作成できる。
3. データ分析が行える。

【授業計画】

- 第1回 プログラミング言語について復習(1)
- 第2回 プログラミング言語について復習(2)
- 第3回 プログラミング言語について復習(3)
- 第4回 プログラミング言語について復習(4)
- 第5回 プログラミング言語について復習(5)
- 第6回 テーマの選択
- 第7回 アンケート項目の検討
- 第8回 アンケートの作成(1)
- 第9回 アンケートの作成(2)
- 第10回 アンケートの実施(1)
- 第11回 アンケートの実施(2)
- 第12回 アンケートの集計(1)
- 第13回 アンケートの集計(2)
- 第14回 アンケートの集計(3)
- 第15回 アンケートの分析(1)
- 第16回 中間発表準備
- 第17回 アンケートの分析(2)
- 第18回 アンケートの分析(3)
- 第19回 アンケートの評価・分析結果の考察(1)
- 第20回 アンケートの評価・分析結果の考察(2)
- 第21回 アンケートの評価・分析結果の考察(3)
- 第22回 まとめ・論文作成(1)
- 第23回 まとめ・論文作成(2)
- 第24回 まとめ・論文作成(3)
- 第25回 まとめ・論文作成(4)
- 第26回 まとめ・論文作成(5)
- 第27回 まとめ・論文作成(6)
- 第28回 まとめ・論文作成(7)
- 第29回 まとめ・論文作成(8)
- 第30回 卒業研究発表会準備

【授業の進め方】

実習・実験を中心に進めていきます。研究に必要な統計学・脳波の基礎知識についても学習します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書および参考書は講義開始時に指定します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

成績の評価は以下1・2によって評価します。

- 1 出席は講義回数の2/3以上。
- 2 レポート等の提出。

【科目のレベル、前提科目など】

教育の現場においては常に創意工夫に努めなければなりません。それぞれの児童の個性に応じたよりよい教材の開発は

これからの教育においてますます必要となることと思います。これまでに獲得した知識を応用して研究を行う科目です。

科目名	卒業研究(野間)
教員名	野間 明紀

【授業の内容】

論文作成に当たり各自が考えたテーマに対してその都度個人的に指導していく。また全員対しては論文の作成方法やデータの収集方法や解析の仕方を指導していく。

【到達目標】

卒業論文の完成と発表。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 各自のテーマの決定と方法の確認 1
- 第3回 各自のテーマの決定と方法の確認 2
- 第4回 各自のテーマの決定と方法の確認 3
- 第5回 各自のテーマの決定と方法の確認 4
- 第6回 論文の書き方について 1
- 第7回 論文の書き方について 2
- 第8回 論文の書き方について 3
- 第9回 論文の書き方について 4
- 第10回 論文の書き方について 5
- 第11回 各自で先行研究の論文等を探し、まとめる。
- 第12回 各自で先行研究の論文等を探し、まとめる。
- 第13回 各自で先行研究の論文等を探し、まとめる。
- 第14回 各自で先行研究の論文等を探し、まとめる。
- 第15回 各自で先行研究の論文等を探し、まとめる。
- 第16回 各自で実験、調査等を行う。
- 第17回 各自で実験、調査等を行う。
- 第18回 各自で実験、調査等を行う。
- 第19回 各自で実験、調査等を行う。
- 第20回 各自で実験、調査等を行う。
- 第21回 各自で実験、調査等を行う。
- 第22回 各自で実験、調査等を行う。
- 第23回 各自で実験、調査等を行う。
- 第24回 各自で実験、調査等を行う。
- 第25回 各自で実験、調査等を行う。
- 第26回 論文の作成の指導（最終的には発表まで指導する。）
- 第27回 論文の作成の指導（最終的には発表まで指導する。）
- 第28回 論文の作成の指導（最終的には発表まで指導する。）
- 第29回 論文の作成の指導（最終的には発表まで指導する。）
- 第30回 論文の作成の指導（最終的には発表まで指導する。）

【教科書(必ず購入すべきもの)】

自分の研究に必要な論文および参考図書

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

評価にあたっては、卒業研究への参加および卒業論文・研究ノートの提出が必要となる。

論文・研究ノートの提出（発表を含む） 60%

研究への取り組み、知識の獲得度合い、実験の実践能力 40%

科目名	卒業研究(有馬)
	授業形態：演習
教員名	有馬 知江美

【授業の内容】

子ども理解を深めることをテーマに、主体的に文献や資料を収集して考察を重ね、卒業論文を作成する。

【到達目標】

1. これまでの学びを経て、自分が深く考察したいと思った研究テーマを設定する。
2. 設定したテーマに関する先行研究を知り、自分の研究の独自性がいかなるものであるのかを認識する。
3. 文献等の調べ方や収集方法を理解する。
4. 研究論文のまとめ方を理解し、論文を作成する。

【授業計画】

- 第1回 テーマ設定
- 第2回 設定したテーマに関する先行研究の概観
- 第3回 設定したテーマに関する先行研究の概観
- 第4回 研究計画を立てる
- 第5回 先行研究を改めて読む
- 第6回 先行研究を改めて読む
- 第7回 テーマの再確認
- 第8回 文献、資料等の収集と考察
- 第9回 文献、資料等の収集と考察
- 第10回 文献、資料等の収集と考察
- 第11回 文献、資料等の収集と考察
- 第12回 文献、資料等の収集と考察
- 第13回 文献、資料等の収集と考察
- 第14回 履修者による発表
- 第15回 研究内容の再確認
- 第16回 論文作成の方法の理解
- 第17回 論文作成の方法の理解
- 第18回 論文作成
- 第19回 論文作成
- 第20回 論文作成
- 第21回 論文作成
- 第22回 論文作成
- 第23回 論文作成
- 第24回 論文作成
- 第25回 論文作成
- 第26回 論文の引用文献等の最終確認
- 第27回 論文の作成のまとめ
- 第28回 発表の方法
- 第29回 発表の方法
- 第30回 まとめ

【授業の進め方】

各自が主体的にテーマを設定し、論文完成をめざす。履修者同士での発表も行いながら個別指導も行う。文献による考察のみならず、フィールドワーク等を必要とする場合はその旨申し出る。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用しない。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

卒業論文完成度と作成過程を総合的に評価する。

科目名	卒業研究(岡田)
教員名	岡田 晴恵

【授業の内容】

これまでの講義や実習での学習とゼミナールでの成果をもとに、感染症の理解と予防教育等の関連領域での研究テーマを設定して、卒業研究に取り組み、それらを論文としてまとめる。研究テーマの設定から、資料収集、文献検索、研究方法の模索から実施、その結果データを解析し、結論を導き出して、とりまとめる一連の作業を経験することになる。研究の難しさに直面することとなるが、指導担当者と共に、学習者は主体的に取り組むことが必要である。また、資料や文献を読み解く力を身につけ、論文作成の中ではわかりやすい文章を書く力や読む側に伝わる表現力を養っていくことを目指す。

【到達目標】

感染症（うつる病気）の知識を正しく子供たちに伝え、予防を実践に結び付けていく教育方法を研究しながら、学ぶ。問題を解決する志向をもって、テーマを考え、卒業研究に取り組む。

これらをもって、卒業研究をとりまとめる。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 テーマの設定
- 第3回 テーマの設定
- 第4回 テーマの設定
- 第5回 全体の構成を考え、論文作成に到る年間スケジュールを作成
- 第6回 資料収集、文献検索
- 第7回 資料収集、文献検索
- 第8回 資料収集、文献検索
- 第9回 資料収集、文献検索
- 第10回 研究方法の検討
- 第11回 研究方法の検討
- 第12回 研究方法の検討
- 第13回 研究方法の検討
- 第14回 研究計画作成
- 第15回 研究計画作成
- 第16回 調査と実験の実施
- 第17回 調査と実験の実施
- 第18回 調査と実験の実施
- 第19回 調査と実験の実施
- 第20回 調査と実験の実施
- 第21回 調査と実験の実施
- 第22回 データの解析
- 第23回 データの分析
- 第24回 データの分析
- 第25回 データの分析
- 第26回 論文作成の具体的な指導
- 第27回 論文の作成指導
- 第28回 論文の作成指導
- 第29回 論文の作成指導
- 第30回 卒業研究総括

【教科書(必ず購入すべきもの)】

研究計画策定の初期の段階では、指導教員が参考文献等を紹介しますが、研究実施にあたっては、なるべく学習者が自主的に資料、文献を収集して利用して学習する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

総合点で評価する

研究成果 作品など

研究の態度

【「成績評価の方法」に関する注意点】

卒論の指導にはきちんと出席すること

【履修上の心得】

うつる病気、感染症の予防教育に関する研究課題で行う。

科目名	卒業研究(山野井)
	理科教育学
教員名	山野井 貴浩

【授業の内容】

各自の研究テーマに基づき研究を進める。研究テーマは私の専門とする領域の中あるいは周辺から選択することが望ましい。必ずデータを取り、データに基づき結果を分析する必要がある。研究テーマ設定後は自主的に研究をすすめてもらうが、定期的に研究の進捗状況を発表する。学会（日本理科教育学会・日本生物教育学会・日本環境教育学会等）で研究発表することを目標として研究を進めること。

【到達目標】

- ・理科教育学研究の研究手法を身に付ける。
- ・データの取り扱い、および基礎的な統計検定の手法を身に付ける。
- ・プレゼンテーションの技術を向上させる。
- ・研究論文の書き方を身に付ける。

【授業計画】

- 第1回 春休みの自由研究についての発表、卒論作成のスケジュールの確認、計画発表の方法についての説明
- 第2回 卒業研究の計画発表（1）（3名）
- 第3回 卒業研究の計画発表（2）（3名）
- 第4回 卒業研究の計画発表（3）（3名）
- 第5回 卒業研究の計画発表（4）（3名）
- 第6回 論文レビューについての説明
- 第7回 論文レビューの準備(1)
- 第8回 論文レビューの準備(2)
- 第9回 研究テーマに関連する論文レビュー（1）（2名）
- 第10回 研究テーマに関連する論文レビュー（2）（2名）
- 第11回 研究テーマに関連する論文レビュー（3）（2名）
- 第12回 研究テーマに関連する論文レビュー（4）（2名）
- 第13回 研究テーマに関連する論文レビュー（5）（2名）
- 第14回 研究テーマに関連する論文レビュー（6）（2名）
- 第15回 前期のまとめおよび後期の発表スケジュールの決定
- 第16回 卒業研究の進捗状況の発表（1）（3名）
- 第17回 卒業研究の進捗状況の発表（2）（3名）
- 第18回 卒業研究の進捗状況の発表（3）（3名）
- 第19回 卒業研究の進捗状況の発表（4）（3名）
- 第20回 中間発表の練習
- 第21回 中間発表会
- 第22回 データ分析と論文執筆に関する個別指導（1）方法の書き方
- 第23回 データ分析と論文執筆に関する個別指導（2）結果の書き方
- 第24回 データ分析と論文執筆に関する個別指導（3）はじめにおよび考察の書き方
- 第25回 データ分析と論文執筆に関する個別指導（4）論文構成案の提出について
- 第26回 データ分析と論文執筆に関する個別指導（5）
- 第27回 データ分析と論文執筆に関する個別指導（6）
- 第28回 データ分析と論文執筆に関する個別指導（7）
- 第29回 卒論発表会に向けての発表練習（1）（6名ずつ）
- 第30回 卒論発表会に向けての発表練習（2）（6名ずつ）

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特になし。

各自研究に必要な文献を準備する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

特記事項

論文レビューおよび進捗状況報告発表20%、卒業論文70%

科目名	卒業研究(荒井信)
教員名	荒井 信成

【授業の内容】

専門演習で学んできた知識や技術、興味のあるテーマを基に各自の研究テーマを絞り、研究を進めていく。授業の前半は、文献読解と討論を中心に行い、各自の研究テーマを決定する。その後、個人的な方向性の修正、改善へむけた個別相談を実施しながら、各自の研究テーマに関する調査計画を作成し、調査の実施およびデータ分析、論文執筆、発表準備までを各自でおこなう。

【到達目標】

これまでに獲得した知識や技術を説明することができる
各自興味のあるテーマを基に調査計画を立案し、実行することができる
定められた形式で締切日までに論文を執筆・提出することができる
実施した研究についてわかりやすく発表することができる

【授業計画】

- 第1回 年間予定の確認と今後の授業の進め方について
- 第2回 論文読解とディスカッション①
それぞれが持ち寄った研究論文の読み合わせをし、内容等について意見を交換する。
学習課題（復習）：読み合わせをした研究論文について、わからなかった用語や統計手法等について調べ学習をする（60分）
- 第3回 論文読解とディスカッション②
それぞれが持ち寄った研究論文の読み合わせをし、内容等について意見を交換する。
学習課題（復習）：読み合わせをした研究論文について、わからなかった用語や統計手法等について調べ学習をする（60分）
- 第4回 論文読解とディスカッション③
それぞれが持ち寄った研究論文の読み合わせをし、内容等について意見を交換する。
学習課題（復習）：読み合わせをした研究論文について、わからなかった用語や統計手法等について調べ学習をする（60分）
- 第5回 論文読解とディスカッション④
それぞれが持ち寄った研究論文の読み合わせをし、内容等について意見を交換する。
学習課題（復習）：読み合わせをした研究論文について、わからなかった用語や統計手法等について調べ学習をする（60分）
- 第6回 研究テーマの設定
自身の興味のある研究テーマを見つけ、発表する。
学習課題（予習）：自身の興味のある研究テーマを見つけ、少数に絞ってくる（60分）
- 第7回 調査計画の設定①
自身の研究計画を立案する。
学習課題（復習）：研究計画の実現可能性について検討する（15分）
- 第8回 調査計画の設定②
自身の研究計画を立案する。
学習課題（復習）：研究計画の実現可能性について検討する（15分）
- 第9回 調査票の作成①
自身の研究目的を達成できるような調査票を作成する。
学習課題（復習）：研究目的に対して、方法が適しているか検討する（30分）
- 第10回 調査票の作成②
自身の研究目的を達成できるような調査票を作成する。
学習課題（復習）：研究目的に対して、方法が適しているか検討する（30分）
- 第11回 予備調査
作成した調査票を用いて、実際にデータを収集する。
学習課題（復習）：予備調査で明らかになった研究上気をつけるべきことをレポートにまとめる（60分）
- 第12回 調査票の修正
自身の研究目的を達成できるような調査票を修正する。
学習課題（復習）：研究目的に対して、方法が適しているか検討する（30分）
- 第13回 本調査の実施①
調査を実施する。
学習課題（復習）：調査で明らかになった研究上気をつけるべきことをレポートにまとめる（60分）
- 第14回 本調査の実施②
調査を実施する。
学習課題（復習）：調査で明らかになった研究上気をつけるべきことをレポートにまとめる（60分）

- 第15回 調査データ処理①
データを入力する。
学習課題（復習）：データ入力で明らかになった研究上気をつけるべきことをレポートにまとめる（60分）
- 第16回 調査データ処理②
データを入力する。
学習課題（復習）：データ入力で明らかになった研究上気をつけるべきことをレポートにまとめる（60分）
- 第17回 調査データ分析①
データを分析する。
学習課題（復習）：データ分析で明らかになった研究上気をつけるべきことをレポートにまとめる（60分）
- 第18回 調査データ分析②
データを分析する。
学習課題（復習）：データ分析で明らかになった研究上気をつけるべきことをレポートにまとめる（60分）
- 第19回 調査データ分析③
データを分析する。
学習課題（復習）：データ分析で明らかになった研究上気をつけるべきことをレポートにまとめる（60分）
- 第20回 分析結果のまとめ方
分析結果を図表や文章で表現する。
学習課題（復習）：再度自身の文章を読み直し、学術的かつ平易な表現に修正する（60分）
- 第21回 分析結果の解釈①
分析結果を解釈し、文章にする。
学習課題（復習）：再度自身の文章を読み直し、学術的かつ平易な表現に修正する（60分）
- 第22回 分析結果の解釈②
分析結果を解釈し、文章にする。
学習課題（復習）：再度自身の文章を読み直し、学術的かつ平易な表現に修正する（60分）
- 第23回 論文執筆①（イントロダクション）
緒言を執筆する。
学習課題（復習）：再度自身の文章を読み直し、学術的かつ平易な表現に修正する（60分）
- 第24回 論文執筆②（目的と方法）
目的と方法を執筆する。
学習課題（復習）：再度自身の文章を読み直し、学術的かつ平易な表現に修正する（60分）
- 第25回 論文執筆③（結果）
結果を執筆する。
学習課題（復習）：再度自身の文章を読み直し、学術的かつ平易な表現に修正する（60分）
- 第26回 論文執筆④（考察）
考察を執筆する。
学習課題（復習）：再度自身の文章を読み直し、学術的かつ平易な表現に修正する（60分）
- 第27回 プレゼンテーション練習①（スライド作成）
パワーポイントの操作方法を学び、プレゼンテーション資料を作成する。
学習課題（復習）：新たに学んだパワーポイントの操作方法を確認する（15分）
- 第28回 プレゼンテーション練習②（発表練習）
実際に調査結果を発表する。
学習課題（復習）：聴衆から指摘された改善点を修正する（30分）
- 第29回 プレゼンテーション練習③（スライド修正）
プレゼンテーション資料を修正する。
学習課題（復習）：修正に合わせて、原稿も修正する（30分）
- 第30回 まとめ
卒業研究報告会に向けて、プレゼンテーション資料の最終チェックをする。
学習課題（復習）：見つけた不備等を修正する（30分）

【授業の進め方】

週に一度、履修者が全員集まり研究進捗状況の報告と、各回に設定した内容の講義を行う。さらに、個別の対応が必要な場合には、時間外に集合する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

資料は適宜配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

評価にあたっては、卒業研究への参加および卒業論文・研究ノートの提出が必要となる。

論文・研究ノートの提出（発表を含む） 60%

研究への取り組み、知識の獲得度合い、実験の実践能力 40%

【履修上の心得】

日頃から学校保健や健康に関するテーマに注目しておくこと。

【科目のレベル、前提科目など】

専門演習

専門演習をはじめとした研究の、総まとめの活動として位置づけられる。

科目名	卒業研究(鈴木)
教員名	鈴木 宏枝

【授業の内容】

いろいろな「読み方」「探し方」「まとめ方」「発表の仕方」を各自の興味関心に従って学ぶ。先行研究を踏まえて、具体的かつ狭い範囲での問いを立て、調査をおこない、まとめ、考察を加えて自分の研究を完成させる。重要な点は2つある。1つめは、どのように小さなことでもかまわないので、なんらかの新しい発見をおこなうこと。2つめは、自己完結した感想文を書くのではなく、自分の関心事がより大きな体系の中ではいかに位置づけられるのかを認識することである。

【到達目標】

1. 関心のあるテーマについて問題を設定し、先行研究や資料にあたって調査できる。
2. 1つのテーマで首尾一貫した卒業研究を完成させることができる。
3. 文学をはじめとする創作物をより深く読み解き、社会や個人の生き方との連関の中で論じることができる。
4. アクティビティを通じて英語能力を高める
5. 教員からの指導を受けて「形式」を整え、期日を守って提出することができる。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション：卒業論文・研究ノートの書き方の確認、参考文献の書き方、今後のスケジュール
ディスカッション『絵本の絵を読む』①
- 第2回 リーディングマラソン
ディスカッション『絵本の絵を読む』②
- 第3回 リーディングマラソン
ディスカッション『絵本の絵を読む』③
- 第4回 リーディングマラソン
ディスカッション『絵本の絵を読む』④
- 第5回 リーディングマラソン
ディスカッション『絵本の絵を読む』⑤
- 第6回 リーディングマラソン
第2回から第5回を踏まえて絵本の分析①
- 第7回 リーディングマラソン
第2回から第5回を踏まえて絵本の分析②
- 第8回 リーディングマラソン
卒論への道① 春休みの成果をふまえて先行研究について発表
- 第9回 リーディングマラソン
卒論への道② 春休みの成果をふまえて先行研究について発表
- 第10回 リーディングマラソン
卒論への道③ 春休みの成果をふまえて先行研究について発表
- 第11回 リーディングマラソン
卒論への道④ 春休みの成果をふまえて先行研究について発表
- 第12回 リーディングマラソン
卒論への道⑤ 春休みの成果をふまえて先行研究について発表
- 第13回 リーディングマラソン
卒論への道⑥ 春休みの成果をふまえて先行研究について発表
- 第14回 リーディングマラソン
卒論への道⑦ 春休みの成果をふまえて先行研究について発表
- 第15回 リーディングマラソン
卒論への道⑧ 春休みの成果をふまえて先行研究について発表
夏休みの課題と中間発表に向けて
- 第16回 リーディングマラソン
卒論中間発表会に向けて①レジュメの草稿チェックとピアレビュー
- 第17回 リーディングマラソン
卒論中間発表会に向けて②レジュメ集の作成と中間発表会準備
- 第18回 公開卒論中間発表会
- 第19回 リーディングマラソン
テーマ活動：The Making of the Modern Christmas①
- 第20回 リーディングマラソン
テーマ活動：The Making of the Modern Christmas②
- 第21回 リーディングマラソン
テーマ活動：The Making of the Modern Christmas③

- 第22回 多読活動 英語の本を読んできて4分間で発表する
 テーマ活動：The Making of the Modern Christmas④
- 第23回 リーディングマラソン
 テーマ活動："Christmas"(Washington Irving)①
- 第24回 リーディングマラソン
 テーマ活動："Christmas"(Washington Irving)②
- 第25回 リーディングマラソン
 テーマ活動："The Night Before Christmas"(C. Moore)
- 第26回 リーディングマラソン
 テーマ活動："Christmas"(L.I.Wilder)
- 第27回 リーディングマラソン
 テーマ活動：クリスマスの絵本
- 第28回 リーディングマラソン
 テーマ活動："The Night Before Christmas"
- 第29回 リーディングマラソン
 卒論を持参し、ピアレビュー。
- 第30回 リーディングマラソン
 卒論発表会のレジュメと抄録の確認。発表のピアレビュー。

1. 卒業研究を完成させるために、アカデミックな作法を身につける⇒練習⇒各自のテーマ設定⇒実践⇒推敲のプロセスをていねいにたどっていく。ゼミで学んだことをどのように社会で生かすかを意識しながらものを考え、就職活動にもしっかり取り組んでほしい。
2. 情報力と指導力のある進路指導室・教採支援室を必ず利用し、目標に向かうこと。SPIや一般常識の対策は、ゼミ時間外に自主グループを作って学習に励んでほしい。
3. 定められた発表日に相応の準備をして臨むことも社会人になるにあたって重要である。就職活動ややむを得ない事情で発表日を交代する場合は、受講者相互で連絡をとりあい、教員とゼミ生全員に周知すること。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①絵本の絵を読む ②ジェーン・ドゥーナン ③玉川大学出版部 ④2013年

ゼミの時間外に個人指導をおこなっていく。必須文献は各自にそれぞれ指示する。しかしながら、自分の研究の参考文献は自分で発掘しにいくのだという姿勢を忘れないように。文献・論文を10本以上読むこと。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項
 課題の提出、授業内の発表、中間発表、卒業研究を総合して判断する。

科目名	卒業研究(小泉)
	教育課程、教育方法、教育評価(学力評価)、学級経営の研究
教員名	小泉 祥一

【授業の内容】

本卒業研究のテーマは、教育課程、教育方法、教育評価(学力評価)、学級経営の研究である。

どの分野でもいいので、各自の問題意識をもとに資料や情報、データを収集し、分析、整理し、その教育問題や事実を確かめたり、改善方を提示したりする研究を行う。

その方法は、研究課題に基づき文献や資料を収集し、分析する文献研究による方法か、または実際にデータを収集し、分析し結果を導くという実証的調査研究による方法かのいずれかを用いる。部屋は、教員の研究室である。

なお、コンピュータを用いて資料や情報、データを収集したり分析を行ったりする。

【到達目標】

- ① 文献や資料を読んで、まとめて発表できること
- ② 研究課題を設定し、それに必要な文献研究、または調査研究の計画が立てられること
- ③ 研究に必要な文献や資料、データを収集できること
- ④ 収集した文献や資料、データを分析し、整理できること
- ⑤ 卒業研究ゼミでの議論に主体的に参加できること
- ⑥ 研究論文を作成し、発表できること

【授業計画】

基本的には、以下のような項目に分けて、研究を行う。

- ① 研究課題に基づく文献研究または調査研究
各自関心のある問題をもとに設定した研究課題に基づき文献や資料を収集し、分析する文献研究、または実際にデータを収集し、分析し結果を導く実証的調査研究を行う。
研究計画を作成する。
文献・資料収集、面接調査、質問紙調査など、必要な調査を実施する。
調査資料・データを分析し、整理する。
必要に応じて学外の教育研究会や教育関係学会に参加する。
- ② 研究レポートおよび研究論文の作成と発表
文献研究または調査研究を整理し、研究経過と研究内容をレジュメ、および研究論文にまとめ、発表する。
1回のゼミで2～3名が発表します。
発表されたレポートについて、質問、意見等、気が付いたことを発言し、検討します。
- ③ 論文の書き方研究
論文の書き方と段取りについて学習する。
- ④ 調査研究の方法
面接調査、質問紙調査など調査研究の方法について学習する。
- ⑤ メディア活用研究
わかりやすい情報提示の仕方について学習する。
- ⑥ 教員採用試験対策研究
教員採用試験の教職教養科目について、どのように学習したら理解しやすいかを研究する。
- ⑦ 面接のスキル向上の研究
面接の仕方を分析し、その改善をめざすことを目的にして研究する。

第1回～第15回 学生自身による研究と発表、夏季休業中に、合宿形式で、各自の研究を発表し議論する。

第16回～第30回 学生自身による研究の遂行と発表、冬季休業中に、論文を仕上げる。

【授業の進め方】

ゼミのルールとマナーをしっかり守る。

ゼミ生それぞれ役割・世話役・係を決め、分担し、協力し運営する。

全員出席を原則とする。欠席が多いと単位は認めない。

事前の準備と事後の整理・記録を重視する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書はないが、図書館や研究室にある文献や、CiNiiなどで、文献を収集する。

【参考図書】

文献や資料については、図書館や研究室にある文献、インターネット(CiNiiなど)などで探したり、収集したりする。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

卒業研究ゼミへの出席と取り組み状況、論文の作成、論文の発表で、評価する。

卒業研究ゼミへの取り組み状況は、積極的な発言・発表・提案、討論、記録、調査研究計画の提出、調査研究活動、感想・意見の小カードの提出などで行う。

【履修上の心得】

卒業研究の経験が、教員生活はもとより、これからの社会人生活にとってもきわめて重要であり、その取り組み姿勢を評価する。

ゼミ生同士がお互い教え合い、助け合い、支え合い、高め合うことを期待する。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目として、ゼミナールがある。教職希望の学生にとっても、官庁や企業に就職する学生にとっても、きわめて重要な内容であり、もっとも大学生らしい活動が、卒業研究である。

【備 考】

卒業研究自体が、ゼミ生を鍛え、高め、進路につながるように、話し合う。

科目名	卒業研究(荒川)
教員名	荒川 麻里

【授業の内容】

これまでの学修の集大成である卒業論文の執筆を通して、教育学研究の方法や論理的表現について学びます。

【到達目標】

- ①論理的な思考と表現力を身につける。
- ②自らの関心に基づき探究することができる。
- ③教育学の調査研究の方法を身につける。

【授業計画】

- 第1回 自分自身を知る
- 第2回 問題意識を共有する①
- 第3回 問題意識を共有する②
- 第4回 問題の所在に関するデータ収集①
- 第5回 問題の所在に関するデータ収集②
- 第6回 問題の所在に関するデータ収集③
- 第7回 問題の所在に関するデータ収集④
- 第8回 問題の所在に関するデータ収集⑤
- 第9回 テーマに関する歴史的背景を知る①
- 第10回 テーマに関する歴史的背景を知る②
- 第11回 テーマに関する歴史的背景を知る③
- 第12回 テーマに関する歴史的背景を知る④
- 第13回 テーマに関する歴史的背景を知る⑤
- 第14回 テーマに関する研究成果発表①
- 第15回 テーマに関する研究成果発表②
- 第16回 テーマに関する研究成果発表③
- 第17回 テーマに関する研究成果発表④
- 第18回 テーマに関する研究成果発表⑤
- 第19回 文献一覧の作成①
- 第20回 文献一覧の作成②
- 第21回 文献一覧の作成③
- 第22回 分析結果の発表①
- 第23回 分析結果の発表②
- 第24回 分析結果の発表③
- 第25回 分析結果の発表④
- 第26回 分析結果の発表⑤
- 第27回 論文の完成①
- 第28回 論文の完成②
- 第29回 論文の完成③
- 第30回 口述審査

【教科書(必ず購入すべきもの)】

適宜、指示します。

【参考図書】

テーマに応じて適宜、指示します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 100% 受講態度 0%

特記事項

執筆途中の複数回の発表および完成した卒業論文と、それに基づく口述審査により評価します。

通例10月に行われる「卒業研究中間発表」および論文提出後の「卒業研究発表会」での発表は、単位認定の必須の課題です。

【履修上の心得】

採用試験の勉強と研究の両立を楽しみましょう。

科目名	卒業研究(原口)
教員名	原口 美貴子

【授業の内容】

初等社会科教育領域の内容・方法に関する研究論文の執筆および研究成果の発表

【到達目標】

- 初等社会科教育の諸領域に関して、学部講義や実習、ゼミナール等で培った学びをもとに、自ら興味関心のあるテーマについて調査研究を行い、その成果を論文にまとめて発表できる。
- 問題解決に向けての科学的な研究方法および論文の書き方を身につけている。

【授業計画】

- 第1回 卒業研究ガイダンス
学習課題は本時の復習と次回の発表準備、時間は任意
- 第2回 中間発表と協議1
学習課題は本時の復習と次回の発表準備、時間は任意
- 第3回 中間発表と協議2
学習課題は本時の復習と次回の発表準備、時間は任意
- 第4回 中間発表と協議3
学習課題は本時の復習と次回の発表準備、時間は任意
- 第5回 中間発表と協議4
学習課題は本時の復習と次回の発表準備、時間は任意
- 第6回 中間発表と協議5
学習課題は本時の復習と次回の発表準備、時間は任意
- 第7回 中間発表と協議6
学習課題は本時の復習と次回の発表準備、時間は任意
- 第8回 中間発表と協議7
学習課題は本時の復習と次回の発表準備、時間は任意
- 第9回 中間発表と協議8
学習課題は本時の復習と次回の発表準備、時間は任意
- 第10回 中間発表と協議9
学習課題は本時の復習と次回の発表準備、時間は任意
- 第11回 中間発表と協議10
学習課題は本時の復習と次回の発表準備、時間は任意
- 第12回 中間発表と協議11
学習課題は本時の復習と次回の発表準備、時間は任意
- 第13回 中間発表と協議12
学習課題は本時の復習と次回の発表準備、時間は任意
- 第14回 中間発表と協議13
学習課題は本時の復習と次回の発表準備、時間は任意
- 第15回 中間発表と協議14
学習課題は本時の復習と次回の発表準備、時間は任意
- 第16回 夏季休業中の研究成果発表と今後の研究の検討
学習課題は本時の復習と次回の発表準備、時間は任意
- 第17回 研究内容の発表と検討1
学習課題は本時の復習と次回の発表準備、時間は任意
- 第18回 研究内容の発表と検討2
学習課題は本時の復習と次回の発表準備、時間は任意
- 第19回 研究内容の発表と検討3
学習課題は本時の復習と次回の発表準備、時間は任意
- 第20回 研究内容の発表と検討4
学習課題は本時の復習と次回の発表準備、時間は任意
- 第21回 研究内容の発表と検討5
学習課題は本時の復習と次回の発表準備、時間は任意
- 第22回 研究内容の発表と検討6
学習課題は本時の復習と次回の発表準備、時間は任意
- 第23回 研究内容の発表と検討7
学習課題は本時の復習と次回の発表準備、時間は任意
- 第24回 研究内容の発表と検討8
学習課題は本時の復習と次回の発表準備、時間は任意

- 第25回 研究内容の発表と検討9
学習課題は本時の復習と次回の発表準備、時間は任意
- 第26回 研究内容の発表と検討10
学習課題は本時の復習と次回の発表準備、時間は任意
- 第27回 研究内容の発表と検討11
学習課題は本時の復習と次回の発表準備、時間は任意
- 第28回 研究内容の発表と検討12
学習課題は本時の復習と次回の発表準備、時間は任意
- 第29回 卒業研究論文抄録準備
学習課題は本時の復習と次回の発表準備、時間は任意
- 第30回 卒業研究発表会の準備・練習および年間のまとめと補足、質疑
学習課題は全回の振り返りと卒業研究発表会に向けた発表練習（時間は任意）

【授業の進め方】

- 前期は各自の問題意識に基づいて研究テーマや章立てを設定し、先行研究や関連資料の収集や分析結果の発表を通して、今後の研究内容や方法について具体的に協議します。
- 後期は前期の成果に基づいて章ごとに論文を執筆・発表し、研究テーマの解明に向けて科学的な検討を加えながら、最終的な卒業研究として完成させていきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①『小学校社会科学習指導要領解説社会（平成20年）』 ②文部科学省 ③東洋館出版社 ④2015年10月 ⑤208円（税込） ⑥9784491031606
- ①『この一冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』 ②石黒圭 ③日本実業出版社 ④2012年 ⑤1512円（税込） ⑥9784534049278
- ①『新版大学生のためのレポート・論文術』 ②小笠原喜康 ③講談社現代新書2021 ④2009年 ⑤740円（税別） ⑥978406288021-3

- その他適宜プリント（レジュメ、資料）を用意します。

【参考図書】

- 『新版社会科教育事典』平成24年 日本社会科教育学会 ぎょうせい

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

- レポート・課題では、卒業研究に関する内容を評価します。
- 受講態度では、卒業研究に取り組む主体的・積極的・計画的な姿勢を評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- 各自の研究計画を作り、自主的、積極的、計画的に取り組んでください。また、取り組んだ結果は随時文章や図表に適切にまとめて下さい。
- 発表回時は欠席をしないよう、十分な体調管理・スケジュール管理をして下さい。発表文章の作成には時間がかかるので、日々少しずつ作業を進め、発表前にはあらかじめ余裕を持って指導教員に提出し、内容の確認を取ってください。
- 指導教員との直接・間接的な連絡を密に取りながら進めるとともに、課題の締切を指定された場合はそれを守って下さい。
- 自身の研究だけでなく、ゼミメンバーの研究に対しても関心を持ち、積極的な意見交換・情報交換を交わしながら、互いの研究が深まるよう切磋琢磨してください。

【履修上の心得】

- 研究に必要な情報は原則書籍や文献、現場から積極的に得てください。ネットに載っている情報ばかり安易に頼らないこと。
- やむを得ない理由で発表回を欠席する場合は、あらかじめゼミメンバーに相談して発表できる人と交替してください。また、欠席届を提出して下さい。

【科目のレベル、前提科目など】

「社会科概説Ⅰ」「社会科概説Ⅱ」「社会科教育法」「3年次ゼミナール(原口)」を受講済であることを前提とします。

科目名	卒業研究(濱崎)
教員名	濱崎 裕介

【授業の内容】

体育・スポーツに関わる各自の関心事について調査し、卒業研究としてまとめる。第1回から第8回までの授業では「卒業論文の書き方」の説明、「文献検索・文献講読」、「各自のテーマ決め」のためのグループディスカッションを行う。その後は個別または少人数ごとに指導を行っていくが、定期的に進捗状況についての報告会を実施する。

【到達目標】

- ・問題解決のために適切な方法論を選択し、論文としてまとめることができる。
- ・論文の基本構成を理解し、形式に則った論文を作成できる。
- ・プレゼンテーションにおいて、研究内容を的確に伝えることができる。

【授業計画】

- 第1回 卒業研究の進め方について（論文の書き方、文献検索の方法、年間スケジュールの確認）
 第2回 文献検索／先行研究の概要理解1
 第3回 文献検索／先行研究の概要理解2
 第4回 文献検索／先行研究の概要理解3
 第5回 テーマの選定1
 第6回 テーマの選定2
 第7回 研究計画と方法について発表および討議1
 第8回 研究計画と方法について発表および討議2
 第9回 資料およびデータ収集1
 第10回 資料およびデータ収集2
 第11回 資料およびデータ収集3
 第12回 資料およびデータ収集4
 第13回 資料およびデータ収集5
 第14回 中間報告1
 第15回 中間報告2
 第16回 資料及びデータの分析1
 第17回 資料及びデータの分析2
 第18回 資料及びデータの分析3
 第19回 資料及びデータの分析4
 第20回 資料及びデータの分析5
 第21回 論文作成1
 第22回 論文作成2
 第23回 論文作成3
 第24回 論文作成4
 第25回 論文作成5
 第26回 プレゼンテーションの方法について
 第27回 卒業論文の体裁確認／発表準備1
 第28回 発表準備2
 第29回 発表準備3
 第30回 論文抄録、発表会資料の作成

【教科書(必ず購入すべきもの)】

各自の卒業研究のテーマに応じて適時指示する。

【参考図書】

学術論文や各自の専門競技の研究誌
 テキストマイニングや質的研究のためのソフトウェアの入門書

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

評価にあたっては、卒業研究への参加および卒業論文の提出が必要となる。

論文の提出（発表を含む） 60%

研究への取り組み、知識の獲得度合い、実験の実践能力 40%

【履修上の心得】

文章の書き方、WordやExel、PowerPoint等の操作、またプレゼンテーション能力の向上に努めてもらいたい。

科目名	卒業研究(山本)
教員名	山本 良子

【授業の内容】

発達心理学に関連する自分の興味・関心を、1つの研究テーマとして設定し、研究計画をたて、実施していきます。心理学の調査方法を用い、自分自身でデータを収集し、結果をまとめ、考察するという、一連の流れを経験することになります。

また、実際に、研究内容を1本の論文にまとめるということを通して、論理的な思考や表現力を身につけてもらいたいと考えています。

【到達目標】

1. 各自のテーマについて、適切な研究計画をたて、それに沿って研究を実行することができる
2. 調査によって得られたデータを研究結果として分かりやすくまとめ、その内容について深く考察し記述することができる
3. 研究内容について、過不足なく簡潔に発表するスキルを身につける

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒論研究計画発表①
- 第3回 卒論研究計画発表②
- 第4回 卒論研究計画発表③
- 第5回 卒論研究計画発表④
- 第6回 卒論研究経過発表①
- 第7回 卒論研究経過発表②
- 第8回 卒論研究経過発表③
- 第9回 卒論研究経過発表④
- 第10回 卒論研究経過発表⑤
- 第11回 卒論研究経過発表⑥
- 第12回 卒論研究経過発表⑦
- 第13回 卒論研究中間発表会資料作成①
- 第14回 卒論研究中間発表会資料作成②
- 第15回 卒論研究中間発表会資料作成③
- 第16回 夏期休業期間中の研究成果発表①
- 第17回 夏期休業期間中の研究成果発表②
- 第18回 論文執筆「方法」①
- 第19回 論文執筆「方法」②
- 第20回 論文執筆「結果」①
- 第21回 論文執筆「結果」②
- 第22回 論文執筆「問題」①
- 第23回 論文執筆「問題」②
- 第24回 論文執筆「考察」①
- 第25回 論文執筆「考察」②
- 第26回 論文執筆全体①
- 第27回 論文執筆全体②
- 第28回 卒業研究論文抄録の作成
- 第29回 卒業研究発表会の資料作成
- 第30回 卒業研究発表会の発表練習

【授業の進め方】

学生がそれぞれのスケジュールに基づいて綿密な研究計画を立て、主体的に自分のペースで研究を進めてもらいます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①改訂新版 心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために ②松井豊(著) ③河出書房新社 ④2010年

【参考図書】

『心理学マニュアル 質問紙法』 鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中沢潤(編著) 1998年 北大路書房
 他、テーマに応じて適宜、指示します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

卒業論文の完成度、各自の研究に取り組む姿勢や、他のゼミ生の研究に関する討論への参加態度などを含め、総合的に評価する。

【履修上の心得】

基本的には、学生がそれぞれのスケジュールに基づいて自分のペースで研究を進めてもらいますが、ゼミにおいて発表担当になっているときは、必ず出席し発表できるように、体調とスケジュールの管理をしてもらう必要があります。

科目名	卒業研究(森本)
	算数の授業とカリキュラムの研究
教員名	森本 明

【授業の内容】

卒業研究のテーマは『算数の授業とカリキュラムの研究』です。算数の授業とカリキュラムの理論と実践に必要な教師の基礎的・基本的な資質・能力を、ア) 文献の講読、イ) 授業過程の観察と記録、ウ) 授業過程の構想と実践の作業や議論の協同的な活動を通して、身に付けます。

【到達目標】

次に掲げる基礎的・基本的な資質・能力を、学生が作業や議論の協同的な活動を通して、身に付けることが到達目標です。

1. 算数の授業とカリキュラムの理論と実践を、算数の立場から捉える眼を、文献の講読を通して身に付けます。
2. 算数の授業とカリキュラムの理論と実践を、子どもの学びの事実から捉える眼を、授業過程の観察と記録を通して身に付けます。
3. 算数の授業とカリキュラムの理論と実践を、教師の立場から捉える眼を、授業過程の構想と実践を通して身に付けます。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
授業の到達目標及びテーマを明らかにし、今後の学習を見通した明確な問題意識を持つことができる
- 第2回 自らの研究テーマに基づいて文献を選ぶ
自ら研究してみたいテーマを持ち、文献を選ぶことができる
- 第3回 自らの研究テーマに関する基本文献の講読：
文献の講読を通して、算数の授業とカリキュラムの理論と実践について、自ら問いを持つことができる（その1）
- 第4回 自らの研究テーマに関する基本文献の講読：
文献の講読を通して、算数の授業とカリキュラムの理論と実践について、自ら問いを持つことができる（その2）
- 第5回 自らの研究テーマに関する基本文献の講読：
文献の講読を通して、算数の授業とカリキュラムの理論と実践について、自ら問いを持つことができる（その3）
- 第6回 自らの研究テーマに関する基本文献の講読：
文献の講読を通して、算数の授業とカリキュラムの理論と実践について、自ら問いを持つことができる（その4）
- 第7回 自らの研究テーマに関する基本文献の講読：
文献の講読を通して、算数の授業とカリキュラムの理論と実践について、自ら問いを持つことができる（その5）
- 第8回 自らの研究テーマに関する関連文献の講読：
文献の講読を通して、算数の授業とカリキュラムの理論と実践について、自らの問いを深めることができる（その1）
- 第9回 自らの研究テーマに関する関連文献の講読：
文献の講読を通して、算数の授業とカリキュラムの理論と実践について、自らの問いを深めることができる（その2）
- 第10回 自らの研究テーマに関する関連文献の講読：
文献の講読を通して、算数の授業とカリキュラムの理論と実践について、自らの問いを深めることができる（その3）
- 第11回 自らの研究テーマに関する関連文献の講読：
文献の講読を通して、算数の授業とカリキュラムの理論と実践について、自らの問いを深めることができる（その4）
- 第12回 自らの研究テーマに関する関連文献の講読：
文献の講読を通して、算数の授業とカリキュラムの理論と実践について、自らの問いを深めることができる（その5）
- 第13回 自らの研究テーマに基づいた授業過程の観察と記録：
算数の立場からの授業過程の観察と記録から、自らの問いについて探ることができる（その1）
- 第14回 自らの研究テーマに基づいた授業過程の観察と記録：
算数の立場からの授業過程の観察と記録から、自らの問いについて探ることができる（その2）
- 第15回 自らの研究テーマに基づいた授業過程の観察と記録：
算数の立場からの授業過程の観察と記録から、自らの問いについて探ることができる（その3）
- 第16回 自らの研究テーマに基づいた授業過程の観察と記録：
子どもの学びの事実からの授業過程の観察と記録から、自らの問いについて探ることができる（その1）

- 第17回 自らの研究テーマに基づいた授業過程の観察と記録：
子どもの学びの事実からの授業過程の観察と記録から、自らの問いについて探ることができる（その2）
- 第18回 自らの研究テーマに基づいた授業過程の観察と記録：
子どもの学びの事実からの授業過程の観察と記録から、自らの問いについて探ることができる（その3）
- 第19回 自らの研究テーマに基づいた授業過程の観察と記録：
子どもの学びの事実からの授業過程の観察と記録から、自らの問いについて探ることができる（その4）
- 第20回 自らの研究テーマに基づいた授業過程の構想と実践：
模擬実践や検証授業実践を通して、自らの問いについて解決の方向性を創り出すことができる（その1）
- 第21回 自らの研究テーマに基づいた授業過程の構想と実践：
模擬実践や検証授業実践を通して、自らの問いについて解決の方向性を創り出すことができる（その2）
- 第22回 自らの研究テーマに基づいた授業過程の構想と実践：
模擬実践や検証授業実践を通して、自らの問いについて解決の方向性を創り出すことができる（その3）
- 第23回 自らの研究テーマに基づいた授業過程の構想と実践：
模擬実践や検証授業実践を通して、自らの問いについて解決の方向性を創り出すことができる（その4）
- 第24回 自らの研究テーマに基づいた実践の省察：
実践の省察を通して、自らの問いについて自分なりに解決するとともに新たな問いを発見することができる（その1）
- 第25回 自らの研究テーマに基づいた実践の省察：
実践の省察を通して、自らの問いについて自分なりに解決するとともに新たな問いを発見することができる（その2）
- 第26回 自らの研究テーマに基づいた実践の省察：
実践の省察を通して、自らの問いについて自分なりに解決するとともに新たな問いを発見することができる（その3）
- 第27回 自らの研究テーマに基づいた実践の省察：
実践の省察を通して、自らの問いについて自分なりに解決するとともに新たな問いを発見することができる（その4）
- 第28回 自らの研究テーマに基づいた実践の省察：
実践の省察を通して、自らの問いについて自分なりに解決するとともに新たな問いを発見することができる（その5）
- 第29回 自らの研究の成果と今後の課題の明確化：
自らの研究の過程を振り返り、その成果と課題を言語化することができる（その1）
- 第30回 自らの研究の成果と今後の課題の明確化：
自らの研究の過程を振り返り、その成果と課題を言語化することができる（その2）

【授業の進め方】

作業や議論の協同的な活動を通して学びます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業中に適宜紹介します。

【参考図書】

授業中に適宜紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 10% 授業内小試験 10% レポート・課題 30% 受講態度 50%

特記事項

評価の条件は授業回数の2/3以上出席していることです。

その上で、定式試験、受講態度、レポート・課題、授業内小試験により評価します；

- ・前期は定期試験、後期は授業内小試験の評価（「定期試験」10%「授業内小テスト」10%）
- ・毎回の作業や議論の協同活動への参画状況および貢献度（「受講態度」50%）
- ・振り返り言語化された報告の評価（「レポート・課題」30%）

科目名	卒業研究(清水)
教員名	清水 浩

【授業の内容】

特別支援教育に関わるテーマを一人ひとりが興味・関心に従って決定し、文献購読、事例研究、保育・教育現場での実践的研究、討論を通して、掘り下げていくことを課題とする。併せて、論文作成の基礎となる文章作成及び情報リテラシー能力を高めるために、先行研究や文献、インターネット等から情報を収集し、自らの興味・関心の探索と問題意識の形成を図る。以上のことを通して、特別支援教育における諸課題や様々な障害について理解し、障害のある幼児及び児童生徒への具体的な支援の方法について学び、主体的に研究・実践を進める力を身に付ける。

【到達目標】

- ・卒業論文の研究テーマを決定し、主体的に情報を収集しまとめる力を身に付ける。
- ・子ども一人ひとりの特性に合わせた指導や支援について主体的に決定するための基礎的な力を身に付ける。
- ・有機的に連携、協力し、役割分担をしながら課題を決定していく力を身に付ける。
- ・特別支援教育における諸課題について主体的に学び、また、発表を重ねることにより、学術的な資質や態度を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 特別支援教育の関心テーマについての概要を学び討論する
- 第3回 関心テーマに関する資料・論文のまとめを発表し討論する
- 第4回 収集した資料について発表し討論する①
- 第5回 収集した資料について発表し討論する②
- 第6回 収集した資料について発表し討論する③
- 第7回 収集した資料について発表し討論する④
- 第8回 研究テーマに関する問題意識と目的のまとめ①
- 第9回 研究テーマに関する問題意識と目的のまとめ②
- 第10回 研究テーマに関する問題意識と目的のまとめ③
- 第11回 研究テーマに関する問題意識と目的のまとめ④
- 第12回 事例検討会①
- 第13回 事例検討会②
- 第14回 事例検討会③
- 第15回 研究計画の立案①
- 第16回 研究計画の立案②
- 第17回 資料・データ等の収集と進捗状況の報告・討論①
- 第18回 資料・データ等の収集と進捗状況の報告・討論②
- 第19回 資料・データ等の収集と進捗状況の報告・討論③
- 第20回 資料・データのまとめと卒業論文構成の検討（研究方法・目的の再検討）
- 第21回 資料・データ等の収集と進捗状況の報告・討論④
- 第22回 資料・データ等の収集と進捗状況の報告・討論⑤
- 第23回 資料・データの分析①
- 第24回 資料・データの分析②
- 第25回 論文第2章「方法」第3章「結果」検討
- 第26回 論文第4章「考察」検討
- 第27回 論文まとめ
- 第28回 卒業研究発表会資料の作成①
- 第29回 卒業研究発表会資料の作成②
- 第30回 卒業論文抄録の作成

第2回目以降は、毎回1週間の研究活動を報告し次週の活動計画を決める。

同時に、以下に示すような基礎を実践的に学ぶ。

- ・各種発達検査やチェックリストを用いたアセスメント
- ・個別の支援計画に基づく指導案の作成
- ・指導の振り返りと、計画の修正／改善

【授業の進め方】

- ・毎回、卒業論文の進捗状況をプレゼンする時間を設ける。
- ・研究に必要な情報収集や統計処理の方法についても適宜指導する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ・関連分野の書籍や文献を使用し、資料の配布も行う。

【参考図書】

- ・ 柘植雅義(2013)特別支援教育 多様なニーズへの挑戦、中公新書
- ・ 梅永雄二、島田博祐(2015)障害児者の教育と生涯発達支援、北樹出版

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

- ・ 毎週の進捗状況の報告内容と、取り組み姿勢を重視した評価とする。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・ 研究の過程と成果を評価する。
- ・ 毎週、研究活動が滞りなく進捗しているかどうかを評価する。

【履修上の心得】

- ・ 各自が決めたテーマに真摯に向き合い、卒業論文作成に向けた取り組みを継続的に行うこと。

【科目のレベル、前提科目など】

- ・ 保育指針、幼稚園教育要領、学習指導要領など、特別支援教育の関連項目について学習しておくこと。

科目名	卒業研究(和田)
教員名	和田 早苗

【授業の内容】

衣生活に関する内容について、各自がテーマを設定し卒業論文を作成する。

【到達目標】

自ら設定したテーマに即した文献や資料を収集することができる。
資料やデータを分析し、考察することができる。
自分の考えを論文にまとめることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
自分の研究テーマについて考えておく (60分)。
- 第2回 研究テーマの設定
自分の研究テーマについて考えておく (60分)。
- 第3回 研究計画
今後の研究計画をたてる (60分)。
- 第4回 研究調査の方法 (1)
研究テーマを検討する (60分)。
- 第5回 研究調査の方法 (2)
研究方法を検討する (60分)。
- 第6回 先行研究 (1)
研究テーマに関する先行研究を調べる (60分)。
- 第7回 先行研究 (2)
研究テーマに関する先行研究を調べる (60分)。
- 第8回 資料の収集・調査 (1)
資料の収集および整理を行う (60分)。
- 第9回 資料の収集・調査 (2)
資料の収集および整理を行う (60分)。
- 第10回 資料の収集・調査 (3)
資料の収集および整理を行う (60分)。
- 第11回 研究の進捗状況報告 (1)
研究についての報告資料を作成する (60分)。
- 第12回 研究の進捗状況報告 (2)
研究についての報告資料を作成する (60分)。
- 第13回 研究の進捗状況報告 (3)
研究についての報告資料を作成する (60分)。
- 第14回 資料の収集・調査 (4)
資料の収集および整理を行う (60分)。
- 第15回 資料の収集・調査 (5)
資料の収集および整理を行う (60分)。
- 第16回 中間発表 (1)
研究成果の報告資料を作成する (60分)。
- 第17回 中間発表 (2)
助言をもとに研究内容を検討する (60分)。
- 第18回 論文の書き方 (1)
資料を収集し、論文を執筆する (120分)。
- 第19回 論文の書き方 (2)
資料を収集し、論文を執筆する (120分)。
- 第20回 論文作成 (1)
資料を収集し、論文を執筆する (120分)。
- 第21回 論文作成 (2)
資料を収集し、論文を執筆する (120分)。
- 第22回 論文作成 (3)
資料を収集し、論文を執筆する (120分)。
- 第23回 論文作成 (4)
資料を収集し、論文を執筆する (120分)。
- 第24回 論文作成 (5)
資料を収集し、論文を執筆する (120分)。

- 第25回 論文作成 (6)
資料を収集し、論文を執筆する (120分)。
- 第26回 論文作成 (7)
論文を執筆する (120分)。
- 第27回 論文作成 (8)
論文を完成させる (120分)。
- 第28回 論文抄録の作成
研究内容をまとめ、抄録を作成する (60分)。
- 第29回 卒論発表会準備 (1)
卒論発表会に向けて準備をする (60分)。
- 第30回 卒論発表会準備 (2)
卒論発表会に向けて準備をする (60分)。

【授業の進め方】

各自が研究テーマを設定し、計画を立てて進めていく。
研究の進捗状況を報告し、意見交換を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない

【参考図書】

必要に応じて紹介する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

卒業論文 (70%)

研究への取り組み、発表、発言など (30%)

【履修上の心得】

研究に対して主体的であり、積極的に取り組むことを望む。

科目名	卒業研究(玉宮)
教員名	玉宮 義之

【授業の内容】

卒業論文の作成を通じて、習得した知識の精緻化を目指します。

【到達目標】

社会における問題を顕在化し、その問題を実証的に検討する能力を身につけることを目指します。

【授業計画】

第1回	研究指導01	前期ガイダンス
第2回	研究指導02	研究テーマの検討と先行研究の調査1
第3回	研究指導03	研究テーマの検討と先行研究の調査2
第4回	研究指導04	研究テーマの検討と先行研究の調査3
第5回	研究指導05	研究テーマの検討と先行研究の調査4
第6回	研究指導06	研究計画の立案1
第7回	研究指導07	研究計画の立案2
第8回	研究指導08	研究計画の立案3
第9回	研究指導09	研究計画の立案4
第10回	研究指導10	研究計画の立案5
第11回	研究指導11	研究計画の立案6
第12回	研究指導12	研究計画の立案7
第13回	研究指導13	研究計画の立案8
第14回	研究指導14	研究計画のまとめ
第15回	研究指導15	後期ガイダンス
第16回	研究指導16	研究実施の準備1
第17回	研究指導17	研究実施の準備2
第18回	研究指導18	研究実施の準備3
第19回	研究指導19	研究実施1
第20回	研究指導20	研究実施2
第21回	研究指導21	研究実施3
第22回	研究指導22	研究実施4
第23回	研究指導23	データ解析1
第24回	研究指導24	データ解析2
第25回	研究指導25	結果の解釈1
第26回	研究指導26	結果の解釈2
第27回	研究指導27	結果の解釈3
第28回	研究指導28	論文執筆1
第29回	研究指導29	論文執筆2
第30回	研究指導30	まとめ

【授業の進め方】

前期はゼミ形式で行い、各自のテーマ設定・文献収集・研究計画を立案します。後期は個別活動を行い、各自で調査・実験を行います。研究相談を随時行い、適切なスケジュールで卒業研究をまとめていきます。また、ゼミ生同士の情報共有を図るため、後期も適宜全体ミーティングを行います。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

とくになし

【参考図書】

適宜指示

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

【履修上の心得】

何事も主体的に取り組むことが望まれます。

科目名	卒業研究(藤森)
教員名	藤森 吉之

【授業の内容】

英語教育または英語での発信についてのデータ収集と分析について学び、それを論文としてまとめる方法を指導する。

【到達目標】

英語教育または英語での発信に関する調査と分析の

【授業計画】

- 第1回 前期オリエンテーション
- 第2回 論文の書き方 構成
- 第3回 論文の書き方 先行研究調査
- 第4回 論文の書き方 研究目的
- 第5回 論文の書き方 研究方法
- 第6回 論文の書き方 分析の方法
- 第7回 論文の書き方 結果
- 第8回 論文の書き方 考察
- 第9回 データ処理の方法 (初歩の統計)
- 第10回 グラフの作成方法 (エクセル)
- 第11回 テーマと論文のアウトライン発表
- 第12回 スライド作成 (パワーポイント)
- 第13回 プレゼンテーションの方法と留意点
- 第14回 参考文献の書き方
- 第15回 前期まとめ
- 第16回 後期オリエンテーション
- 第17回 論文作成指導1
- 第18回 論文作成指導2
- 第19回 論文作成指導3
- 第20回 論文作成指導4
- 第21回 授業内中間発表会
- 第22回 論文作成指導5
- 第23回 論文作成指導6
- 第24回 論文作成指導7
- 第25回 論文作成指導8
- 第26回 パワーポイントスライドの確認 (個別)
- 第27回 パワーポイントスライドの確認 (個別)
- 第28回 授業内論文発表会 (1)
- 第29回 授業内論文発表会 (2)
- 第30回 まとめ

【授業の進め方】

前期は主に論文の書き方や調査方法といったhow toについての指導が中心となるが、後期は各自の論文作成の指導が中心となる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

なし

【参考図書】

門田修平 『SLA研究入門ー第二言語の処理・習得研究のすすめ方』 くろしお出版
 竹内理・水本篤 「外国語教育研究ハンドブック」 松伯社
 石川慎一郎・前田忠彦・山崎誠 「言語研究のための統計入門」 くろしお出版
 鈴木進 「英文エッセーを書く技術」 アルク
 赤野一郎・堀正広・投野由起夫 「英語教師のためのコーパス活用ガイド」 大修館書店
 投野由起夫 can-doリスト作成・活用 英語到達度指標cefr-jガイドブック 大修館書店
 Woods, Geraldine 「Reserch Papers for Dummies」 Hungry Minds, Inc.

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

授業への積極的参加姿勢、論文、発表を総合的に評価する。

科目名	卒業研究(網野)
教員名	網野 友雄

【授業の内容】

各自が専門演習で学習した知識を活かし、研究テーマを設定し卒業論文を作成する。

【到達目標】

定められた形式で締め切り日までに卒業論文を作成する。
実施した研究をわかりやすく発表することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 テーマの設定①
- 第3回 テーマの設定②
- 第4回 テーマの設定③
- 第5回 先行研究の検討①
- 第6回 先行研究の検討②
- 第7回 先行研究の検討③
- 第8回 仮説の設定と検討①
- 第9回 仮説の設定と検討②
- 第10回 調査計画の設定①
- 第11回 調査計画の設定②
- 第12回 調査票の作成①
- 第13回 調査票の作成②
- 第14回 予備調査
- 第15回 中間発表とディスカッション①
- 第16回 中間発表とディスカッション②
- 第17回 調査票の修正
- 第18回 本調査
- 第19回 本調査データの処理①
- 第20回 本調査データの処理②
- 第21回 本調査データの分析①
- 第22回 本調査データの分析②
- 第23回 分析結果のまとめ
- 第24回 論文執筆①
- 第25回 論文執筆②
- 第26回 論文執筆③
- 第27回 プレゼンテーション①
- 第28回 プレゼンテーション②
- 第29回 プレゼンテーション③
- 第30回 まとめ・発表準備

【授業の進め方】

各自の論文作成計画に沿って進めるが、週に一度、進捗状況の報告と講義を行う。個別の対応が必要な場合は時間外に対応する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に指定しない。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

評価にあたっては、卒業研究への参加および卒業論文・研究ノートの提出が必要となる。

論文・研究ノートの提出(発表も含む) 60%

研究への取り組み、知識の獲得度合い、実験の実践能力 40%

【履修上の心得】

自ら学ぶ姿勢を持ち、日頃から各自の研究テーマに関することに注目しておくこと。

【科目のレベル、前提科目など】

専門演習の単位取得を済ませておくこと。

科目名	卒業研究(伊勢)
教員名	伊勢 正明

【授業の内容】

一人一人が興味・関心に従って決定して特別支援教育とその周辺領域に関わるテーマを、文献購読と討論を行いながら、事例研究、保育・教育現場での実践的研究、または行動指標や生理心理学的な指標を用いた基礎的研究等を通して掘り下げていくことが課題である。

子ども一人一人の特性に応じた保育や教育を実現することのできる力（調査力、実践力、省察力、等）を身につけ、指導法や支援法の開発に資することを目指して卒業研究を進めていく。

【到達目標】

- ・特別支援教育とその周辺領域における最近の課題について、その内容と試みられている実践内容を探索することができる。
- ・テーマに関連した情報を広く収集し、それぞれの情報の価値についての軽重を判断することができる。
- ・整理した情報を基に、テーマに即した具体的な問題を設定することができる。
- ・設定した問題を解説するための方法を幾つか案出し、試行錯誤することができる。
- ・以上の諸活動について、論文執筆の基本的な方法に依拠して卒業論文としてまとめる。
- ・アセスメントやPDCAサイクルの考え方を理解し、メンバー間で有機的に連携を行いながら実践的な課題を解決していくための基礎的な知識・技能・態度を身につける。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 各自の関心テーマに関する資料・論文等の配布と討論
- 第3回 資料の収集方法と分析方法
- 第4回 収集資料の内容報告と討論（第1回目）
- 第5回 収集資料の内容報告と討論（第2回目）
- 第6回 収集資料の内容報告と討論（第3回目）
- 第7回 収集資料の内容報告と討論（第4回目）
- 第8回 各自の問題意識と目的の報告と討論（第1回目）
- 第9回 各自の問題意識と目的の報告と討論（第2回目）
- 第10回 各自の問題意識と目的の報告と討論（第3回目）
- 第11回 各自の問題意識と目的の報告と討論（第4回目）
- 第12回 事例の報告と検討・討論（第1回目）
- 第13回 事例の報告と検討・討論（第2回目）
- 第14回 事例の報告と検討・討論（第3回目）
- 第15回 研究計画の立案方法
- 第16回 各自の進捗状況の報告と討論（第1回目）
- 第17回 各自の進捗状況の報告と討論（第2回目）
- 第18回 各自の進捗状況の報告と討論（第3回目）
- 第19回 各自の進捗状況の報告と討論（第4回目）
- 第20回 各自の進捗状況の報告と討論（第5回目）
- 第21回 各自の進捗状況の報告と討論（第6回目）
- 第22回 各自の進捗状況の報告と討論（第7回目）
- 第23回 各自の進捗状況の報告と討論（第8回目）
- 第24回 論文執筆状況の報告と討論（第1回目）
- 第25回 論文執筆状況の報告と討論（第2回目）
- 第26回 論文執筆状況の報告と討論（第3回目）
- 第27回 論文執筆状況の報告と討論（第4回目）
- 第28回 卒業研究発表会資料の作成（第1回目）
- 第29回 卒業研究発表会資料の作成（第2回目）
- 第30回 卒業論文抄録の作成

研究とあわせていかに示すような実践的スキルの向上を測る機会を設ける。

- ・各種発達検査やチェックリストを用いたアセスメント
- ・アセスメントに基づく、個別支援計画の立案
- ・個別の支援計画に基づく指導案の作成
- ・指導ノ振り返りと計画の修正や改善

【授業の進め方】

- ・毎回、卒業論文の進捗状況をプレゼンテーションする時間を設ける。

- ・研究に必要な情報収集や統計処理の方法についても適宜指導する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

関連分野の書籍や文献を使用し、資料の配布も行う。

【参考図書】

随時、紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

- ・毎週の進捗状況の報告内容と取り組み姿勢を重視した評価を行う。
- ・討論やプレゼンテーションのスキル向上も重視する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・研究活動（試行錯誤）の過程と成果を評価します。
- ・毎週、研究活動が滞りなく進捗しているかどうかを評価します。

【履修上の心得】

各自が決定したテーマですから、真摯に向き合い、卒業論文作成に向けた取り組みが継続的に行われることが重要です。

【備 考】

- ・卒業後の進路を見据え、役に立つ内容となるように相談しながら進める。
- ・毎時間、パソコンを使用する予定である。

科目名	卒業研究(齋藤)
	美術教育のための造形素材・教材研究
教員名	齋藤 千明

【授業の内容】

描きたい、作りたいという欲求は、おとな、子どもを問わず日々の生活の中で感性を刺激された場景や出来事などから発生する。その欲求を自分の手と眼を通して具現化する美術造形表現には多種多様なものがある。卒業研究では指導者としての視点で発想を広げ、造形意欲を引き出すには何が必要なのか、効果的な題材開発と指導方法を研究すると共に創造する喜びを子どもたちと共感できる能力を培っていただきたい。

【到達目標】

美術表現のための素材・技法研究と美術鑑賞の実践を重ねる中から各自の研究課題、テーマを見つけ卒業研究を完成させる。また、社会生活に必要な教養と保育者、指導者として豊かな知識を身に付けることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 各自の卒業研究テーマの発表
 第2回 卒業研究テーマについての個別指導
 第3回 卒業研究(論文・研究制作)の進め方について 具体的なプラン、スケジュールの作成 個別指導
 第4回 卒業研究(論文・研究制作)の進め方について (文献収集の方法) プラン、スケジュールを決定 個別指導
 第5回 卒業論文作成の為に文献収集 個別指導
 第6回 卒業論文作成の為に文献収集 個別指導
 第7回 卒業論文作成 個別指導
 第8回 卒業論文作成 個別指導
 第9回 卒業論文進捗状況報告 卒業研究テーマの確認と研究方法の検討
 第10回 卒業論文進捗状況報告 卒業研究テーマの確認と研究方法の検討
 第11回 卒業論文作成 個別指導
 第12回 卒業論文作成 個別指導
 第13回 卒業論文作成 中間発表準備
 第14回 卒業論文作成 中間発表準備
 第15回 卒業論文作成 中間発表準備
 第16回 中間発表に向けての卒業論文進捗状況報告 個別指導
 第17回 卒業論文作成 中間発表準備
 第18回 卒業論文作成 中間発表
 第19回 中間発表にて問題点が生じた場合は、調査・研究の不足部分を明確にし卒業研究完成までの計画を立て直す。個別指導
 第20回 各自の卒業研究テーマに即して個別指導 (卒業論文とそれに付随する研究制作を同時並行して進める。)
 第21回 各自の卒業研究テーマに即して個別指導 (卒業論文とそれに付随する研究制作を同時並行して進める。)
 第22回 各自の卒業研究テーマに即して個別指導 (卒業論文とそれに付随する研究制作を同時並行して進める。)
 第23回 各自の卒業研究テーマに即して個別指導 (卒業論文とそれに付随する研究制作を同時並行して進める。)
 第24回 各自の卒業研究テーマに即して個別指導 (卒業論文とそれに付随する研究制作を同時並行して進める。)
 第25回 各自の卒業研究テーマに即して個別指導 (卒業論文とそれに付随する研究制作を同時並行して進める。)
 第26回 各自の卒業研究テーマに即して個別指導 (卒業論文とそれに付随する研究制作を同時並行して進める。)
 第27回 各自の卒業研究テーマに即して個別指導 (卒業論文とそれに付随する研究制作を同時並行して進める。)
 第28回 各自の卒業研究テーマに即して個別指導 (卒業論文とそれに付随する研究制作を同時並行して進める。)
 第29回 各自の卒業研究テーマに即して個別指導 (卒業論文とそれに付随する研究制作を同時並行して進める。)
 第30回 各自の卒業研究テーマに即して個別指導 (卒業論文とそれに付随する研究制作を同時並行して進める。)

【授業の進め方】

各自のテーマに添って個別に研究、制作を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

テキストは使用せずプリント等を配布する。

【参考図書】

テーマ別に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

【履修上の心得】

美術館、博物館、教育機関で行われるワークショップ等に積極的に参加し、実践活動を通して調査・研究を深めて頂き

たい。

【科目のレベル、前提科目など】

ゼミナールを履修していることが望ましい

科目名	卒業研究(金井)
教員名	金井 正

【授業の内容】

テーマは、学生各自の興味・関心の深いものとする。

内容は、学校教育に求められているもの、あるいは求められるであろうと考えられるもの。

方法は、文献・資料の収集→分析、整理→求める教師像等の設定→実証(授業等実践から)等とし、常に論理的な思考の基に進める。

研究は各自の自主的なものとするが、毎週進捗状況を発表しグループ・ディスカッション等を通して深い学びの視点に立つ。

【到達目標】

- ・論理的な思考と表現力を身に付ける。
- ・探究心を持ち、論文としてまとめ上げる。
- ・研究論文の書き方を身に付け、プレゼンテーション力をつける。
- ・より良い教師として、学び続ける力を付ける。

【授業計画】

第1回 自分自身を知る。

論文の必要性を理解する。

各授業とも、グループ・ディスカッションで進める。

- ・学習課題(予習・復習)：配布したレジュメ等資料を基に授業ノートを充実させる。

予習は本シラバスによって、復習は授業時に発表、ディスカッションした内容について行う。

以下、各回の授業に対して、予習・復習を行い、その時間は90分程度を目安にする。

第2回 問題意識を共有する。①

第3回 問題意識を共有する。②

第4回 テーマを設定する。①

第5回 テーマを設定する。②

第6回 テーマに関する文献・資料の収集、分析、整理①

第7回 テーマに関する文献・資料の収集、分析、整理②

第8回 テーマに関する文献・資料の収集、分析、整理③

第9回 求める教師像等の設定①

第10回 求める教師像等の設定②

第11回 求める教師像等の設定③

第12回 論文の概要検討①

第13回 論文の概要検討②

第14回 論文の概要検討③

第15回 論文の概要検討④

- ・学習課題(予習・復習)：配布したレジュメ等資料を基に授業ノートを充実させる。

予習は本シラバスによって、復習は授業時に発表した内容、ディスカッションした内容を基に行う。

以下、各回の授業に対して、予習・復習を行い、その時間は120分程度を目安にする。

第16回 研究テーマに関する論文中間発表①

第17回 研究テーマに関する論文中間発表②

第18回 研究テーマに関する論文中間発表③

第19回 研究テーマに関する論文中間発表④

第20回 研究テーマに関する実証①

- ・個人、グループ・ワーク、フィールドワークを取り入れて行う。

第21回 研究テーマに関する実証②

第22回 研究テーマに関する実証③

第23回 研究テーマに関する実証④

第24回 研究テーマに関する実証⑤

第25回 論文の完成①

- ・実際の論文清書に入る。

第26回 論文の完成②

第27回 論文の完成③

第28回 論文のプレゼンテーション①

- ・プレゼンテーションソフトを使い、分かりやすさに努める。

第29回 論文のプレゼンテーション②

第30回 論文提出後の感想

【授業の進め方】

- ・ゼミナール形式で進める。(進行を輪番で行う。)
- ・課題解決学習型を重視し、調査学習、検証的手法を取り入れる。
- ・各自の進捗状況を尊重する。
- ・授業は、自主研究の進捗状況発表、グループ・ディスカッションの時間をとる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①小学校学習指導要領 ②文部科学省 ③東京書籍 ④平成20年 ⑤227 ⑥ISBN978-4-487-28695-9
- ①小学校学習指導要領解説 総則編 ②文部科学省 ③東洋館出版社 ④平成20年 ⑤108 ⑥ISBN978-4-494-02370-0
- ①生徒指導提要 ②文部科学省 ③教育図書 ④平成22年 ⑤276 ⑥ISBN978-4-87730-274-0

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

卒論の作成をとおして、学びの基本を体得し、内容については将来にわたって「学び続ける」ように意識する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

提出物については、常に最高を意識する。

【履修上の心得】

研究生同士がお互いに仲良く協力し、補完し合いながらチームとしての力を付けていく。

必ず、授業ノートをつくり、構造化、論理的な思考の詳細な記録、研究の足跡を残す。

【科目のレベル、前提科目など】

第3学年のゼミナールの知識、思考力が前提となるので、事前に復習をしておくこと。

【備 考】

できるだけ具体的に、分かる楽しい授業となるように心がけて進行していく。

科目名	教師論
	活力ある教師になるための基本を学ぶ
	授業形態：講義
教員名	金井 正

【授業の内容】

教え、伝えたい内容をしっかりと把握し、質の良い教材・教具を用い、人が人に教える。人とは教師であり、児童生徒である。「教育は人なり。」という言葉があるが、最終的に教育の担い手である教師が教育の成果に大きく関わってくる。

現在、教育には多くのことが期待されている。その期待に応え、成果を上げるためには、教師が使命感を認識し、学び続けることができ、何を教えることが必要なのかをしっかりと把握している必要がある。

そこで本講義では、教師たる資質・能力（条件）を学校現場の立場から考察し、「自信と誇りを持って子供たちと向き合える教師」の養成を目指すとともに、教員採用試験に備え、自己の能力・適性等について客観的な考察を図るものである。

【到達目標】

- ・教師に求められる今日的な力量についての理解
特に、学習者が課題を発見し解決に向けて主体的・協動的に学んでいくための方法を体得する。
- ・教師として、備えなければならない人間性についての理解と自己考察
- ・生徒指導や学習指導、学級経営等における専門性についての実践的な理解
- ・教職を目指す自己の適正等の分析

【授業計画】

- 第1回 1 教師に求められる基本的な力量
- 1) 教師像の歴史の変遷
 - 2) 現代の教師に必要な資質・能力
特に、学習者が課題を発見し解決に向けて主体的・協動的に学んでいくための方法（アクティブ・ラーニング）
・学習課題（予習・復習）：配布したレジュメ等資料を基に授業ノートを充実させること。
予習は本シラバスによって、復習は授業時配布したレジュメ等資料を基に行うこと。
以下各回の授業に対して、予習・復習を行い、その時間は90分程度を目安にする。
- 第2回 2 人間的信頼に関わる基本的な力量
- 1) コミュニケーション能力
- 第3回 2) 教師に求められる人権意識（体罰等）
- 第4回 3) 学び続ける教師（知識基盤社会に生きる教師）
- 第5回 4) 教員の服務と懲戒、身分保障
- 第6回 3 専門性に関わる基本的な力量
- 1) 生徒指導－生徒指導についての考え方
- 第7回 2) 生徒指導－生徒指導と特別活動
- 第8回 3) 生徒指導－学業指導の充実
- 第9回 4) 学習指導－学習指導要領と教育課程（カリキュラム）
- 第10回 5) 学習指導－確かな学力の向上
- 第11回 6) 学習指導－学習意欲と保護者の理解・協力
- 第12回 7) 学級経営－学校経営と学級経営（運営）
- 第13回 8) 学級経営－学級経営の実際
- 第14回 9) 通常の学級における特別支援教育
- 第15回 4 教師力量の確認
- 1) チーム学校
 - 2) 教員養成と免許法、採用試験

【授業の進め方】

- ・授業レジュメを毎回配布し、それに沿って進める。
- ・課題の発見、解決等を重視し、ディスカッション等により主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業とする。
- ・具体的な例を示し、わかる授業に努める。
- ・系統性を重視した授業に努める。
- ・学生は、授業ノートを作成し、充実に努める。特に復習に時間をかけるようにする。
- ・学生は、次時の内容について（レジュメで確認）、関係する図書やインターネット等で予習をして授業に臨むこと。

【教科書（必ず購入すべきもの）】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①小学校学習指導要領 ②文部科学省 ③東京書籍 ④平成20年 ⑤227 ⑥ISBN978-4-487-28695-9

毎回授業用のレジュメ等資料を配布するので、順よくファイルし教科書として活用すること。また、必ず授業ノートをつくること。

【参考図書】

参考資料や図書はその都度紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

定期試験は記述式で行う。

受講態度は、授業への取組（質問に対する発言、質問、学習態度等）を重視する。

【履修上の心得】

- ・教職に就こうとする者は、教師としての適性、能力が問われる。従って、それなりの授業態度を要求する。
- ・理由書、学生証の不正使用は、依頼者、行為者ともに重大な欠席扱いとする。

科目名	教師論
	活力ある教師になるための基本を学ぶ
	授業形態：講義
教員名	金井 正

【授業の内容】

教え、伝えたい内容をしっかりと把握し、質の良い教材・教具を用い、人が人に教える。人とは教師であり、児童生徒である。「教育は人なり。」という言葉があるが、最終的に教育の担い手である教師が教育の成果に大きく関わってくる。

現在、教育には多くのことが期待されている。その期待に応え、成果を上げるためには、教師が使命感を認識し、学び続けることができ、何を教えることが必要なのかをしっかりと把握している必要がある。

そこで本講義では、教師たる資質・能力（条件）を学校現場の立場から考察し、「自信と誇りを持って子供たちと向き合える教師」の養成を目指すとともに、教員採用試験に備え、自己の能力・適性等について客観的な考察を図るものである。

【到達目標】

- ・教師に求められる今日的な力量についての理解
特に、学習者が課題を発見し解決に向けて主体的・協動的に学んでいくための方法を体得する。
- ・教師として、備えなければならない人間性についての理解と自己考察
- ・生徒指導や学習指導、学級経営等における専門性についての実践的な理解
- ・教職を目指す自己の適正等の分析

【授業計画】

- 第1回 1 教師に求められる基本的な力量
- 1) 教師像の歴史の変遷
 - 2) 現代の教師に必要な資質・能力
特に、学習者が課題を発見し解決に向けて主体的・協動的に学んでいくための方法（アクティブ・ラーニング）
・学習課題（予習・復習）：配布したレジュメ等資料を基に授業ノートを充実させること。
予習は本シラバスによって、復習は授業時配布したレジュメ等資料を基に行うこと。
以下各回の授業に対して、予習・復習を行い、その時間は90分程度を目安にする。
- 第2回 2 人間的信頼に関わる基本的な力量
- 1) コミュニケーション能力
- 第3回 2) 教師に求められる人権意識（体罰等）
- 第4回 3) 学び続ける教師（知識基盤社会に生きる教師）
- 第5回 4) 教員のサービスと懲戒、身分保障
- 第6回 3 専門性に関わる基本的な力量
- 1) 生徒指導－生徒指導についての考え方
- 第7回 2) 生徒指導－生徒指導と特別活動
- 第8回 3) 生徒指導－学習指導の充実
- 第9回 4) 学習指導－学習指導要領と教育課程（カリキュラム）
- 第10回 5) 学習指導－確かな学力の向上
- 第11回 6) 学習指導－学習意欲と保護者の理解・協力
- 第12回 7) 学級経営－学校経営と学級経営（運営）
- 第13回 8) 学級経営－学級経営の実際
- 第14回 9) 通常の学級における特別支援教育
- 第15回 4 教師力量の確認
- 1) チーム学校
 - 2) 教員養成と免許法、採用試験

【授業の進め方】

- ・授業レジュメを毎回配布し、それに沿って進める。
- ・課題の発見、解決等を重視し、ディスカッション等により主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業とする。
- ・具体的な例を示し、わかる授業に努める。
- ・系統性を重視した授業に努める。
- ・学生は、授業ノートを作成し、充実を努める。特に復習に時間をかけるようにする。
- ・学生は、次時の内容について（レジュメで確認）、関係する図書やインターネット等で予習をして授業に臨むこと。

【教科書（必ず購入すべきもの）】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①中学校学習指導要領 ②文部科学省 ③東山書房 ④平成22年度一部改正 ⑤307 ⑥ISBN978-4-8278-1540-5

毎回授業用のレジюме等資料を配布するので、順よくファイルし教科書として活用すること。また、必ず授業等ノートをつくること。

【参考図書】

参考資料や図書はその都度紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

定期試験は記述式で行う。

受講態度は、授業への取組（質問に対する発言、質問、学習態度等）を重視する。

【履修上の心得】

- ・教職に就こうとする者は、教師としての適性、能力が問われる。従って、それなりの授業態度を要求する。
- ・理由書、学生証の不正使用は、依頼者、行為者ともに重大な欠席扱いとする。

科目名	教師論
	授業形態：講義/授業回数：15回（30時間）
教員名	山路 千華

【授業の内容】

保育者を目指すうえで、保育者とはどのような職業なのかを探るとともに、現代社会において求められる保育者について理解する。保育者の役割と専門性について考察しながら、保育職についての理解を深める。

【到達目標】

保育者の仕事と役割について理解する。
 保育者になるためにはどのような学びが必要なのかを考察する。
 保育者に求められる資質と専門性について理解する。

【授業計画】

- 第1回 授業の進め方・オリエンテーション
- 第2回 保育者の仕事と役割①幼稚園教諭
- 第3回 保育者の仕事と役割②保育士
- 第4回 保育者の仕事における「教育」と「養護」に見る諸側面
- 第5回 保育者の仕事における子どもとの信頼関係
- 第6回 子どもの眼差しと大人の眼差しの差異に見る保育者像
- 第7回 保育者の仕事における保護者との信頼関係
- 第8回 子育て支援と保育者の役割
- 第9回 保育者の仕事における同僚性
- 第10回 協働する保育者と自身の成長
- 第11回 現代社会における保育者の課題と現状
- 第12回 保育者の見える専門性と見えにくい専門性
- 第13回 保育者の倫理と体罰等の禁止
- 第14回 多様化する保育ニーズと関係諸機関や地域との連携
- 第15回 まとめ

「教師」について学ぶ授業であるが、幼稚園教諭としての専門性と、保育士の専門性を併せて学習することから、本シラバス授業計画においては「保育者」という言葉を使用している。

【授業の進め方】

講義を中心とするが、映像から考察したり、学生同士の意見交換やグループ・ディスカッションを行ったりする機会を設ける。また、保育者を目指す人材として積極的に子ども・保育文化財についての探求心を持つことができるよう、学習内容に合わせて教材研究や調査学習を行う機会を設けていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針 ②内閣府 文部科学省 厚生労働省
- ③チャイルド本社 ④2014/07 ⑤540 ⑥978-4-8054-0228-3

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 10%

特記事項

定期試験、課題への取り組みなど総合的に評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。
 受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

全回出席を原則とする。

【科目のレベル、前提科目など】

保育原理 教育基礎論 教育方法論を履修していることが望ましい。

【備考】

幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための重要な科目である。

科目名	幼児教育論
	授業形態：講義
教員名	有馬 知江美

【授業の内容】

人間形成における幼児期の教育の意義を考察するための科目である。幼児を取り巻く諸事項にあたりながら幼児教育の必要性を様々な角度から考察する。具体的には、幼児にとっての遊戯、時間、空間、感性、身体性、人権等々をキーワードとしながら講義する。

【到達目標】

1. 幼児をめぐる現状を理解する。
2. 人間形成における幼児期の意義を理解する。
3. 幼児を取り巻く諸事項の意義を理解し、考察することができる。
4. 幼児教育の必要性を根拠を示しながら説明することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 第2回 現代社会における幼児（1）幼児と家庭：幼児の生活に関する資料のダウンロードと事前の資料理解（予習60分）
 第3回 現代社会における幼児（2）幼児と家庭教育
 第4回 現代社会における幼児（3）幼児と学校
 第5回 遊戯（1）—人間形成における遊戯の意義
 第6回 遊戯（2）—子どもの時間と大人の時間
 第7回 遊戯（3）—子どもの遊び場における子どもの遊戯の理解：小レポート作成（復習90分）
 第8回 遊戯（4）—遊戯の省察（ディスカッションを含む）
 第9回 身体（1）—感性と知性の関係史
 第10回 身体（2）—幼児に必要な36の動き
 第11回 身体（3）—子どもの遊び場における子どもの身体性の育成の理解：小レポート作成（復習90分）
 第12回 人権（1）—幼児期からの人権教育
 第13回 人権（2）—幼児の感性を通じた人権保育
 第14回 人権（3）—幼児が生きる諸空間の人間学的意義
 第15回 まとめ—幼児教育の再考

【授業の進め方】

諸資料を提示しながら講義を中心として授業を進めていく。講義内容の理解を深めるために、子どもの遊び場においてフィールドワークを実施し、それに即した小レポートを課す。フィールドワーク時に欠席すると小レポートも作成できなくなるため注意すること。一部グループワークを取り入れる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①幼稚園教育要領解説 ②文部科学省 ③フレーベル館 ④2008年 ⑤200円
 ①幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 ②内閣府 文部科学省 厚生労働省 ③フレーベル館 ④2015年 ⑤269円

諸資料を多数配布する。

【参考図書】

授業時に随時紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 20%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。

【履修上の心得】

全回出席を原則とする。

【科目のレベル、前提科目など】

保育原理 教育基礎論 を履修していることが望ましい。

科目名	教育心理学
教員名	浅田 晃佑・平田 乃美・細田 一秋

【授業の内容】

教育心理学には、教育の効果を高めるために役立つ心理学的知見・技術の教育場面への適用という側面と、教育的営みの中で培われる総合的な人間研究という側面があります。本講義では学校現場における保育・教育の実践において、問題行動や発達障害等も含めた子どもの個性や行動を理解するための手掛りとなるであろう教育心理学の基礎知識を紹介します。

【到達目標】

- 1) 幼児、児童及び生徒の発達や行動、環境との関わりなどに関する心理学理論の基礎を学ぶ。
- 2) 心理学の理論や知見を通して、教育効果を高める要因について理解を深める。
- 3) 上記の知見の教育実践での活用について考える。

【授業計画】

第1回 研究史：教育心理学

予習 (90分)：配布資料・テキストを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第2回 教育心理学の研究手法

予習 (90分)：配布資料・テキストを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第3回 教育における測定と評価：統計データを読む

予習 (90分)：配布資料・テキストを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第4回 教育における測定と評価：教育データの数値化

予習 (90分)：配布資料・テキストを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第5回 待つ教育と促す教育：遺伝と環境

予習 (90分)：配布資料・テキストを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第6回 発達理論と教育環境：生涯発達の観点

予習 (90分)：配布資料・テキストを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第7回 発達理論と教育環境：親子関係と愛着

予習 (90分)：配布資料・テキストを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第8回 個人差の理解：知的能力・認知の発達

予習 (90分)：配布資料・テキストを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第9回 個人差の理解：不適応・障害のある子どもの心身の発達と学習の過程

予習 (90分)：配布資料・テキストを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第10回 学習の理論1：行動主義

予習 (90分)：配布資料・テキストを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第11回 学習の理論2：認知理論

予習 (90分)：配布資料・テキストを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第12回 教育場面における個人と集団

予習 (90分)：配布資料・テキストを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第13回 学習における動機づけ：内発的・外発的動機づけ

予習 (90分)：配布資料・テキストを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第14回 学習における動機づけ：幼児、児童及び生徒の意欲を育む

予習 (90分)：配布資料・テキストを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第15回 要点のまとめ

予習 (90分)：配布資料・テキストを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

【授業の進め方】

授業の一部に協働・体験学習を含む。詳細は、各クラスの担当教員が初回授業で指示する。
グループ・ワーク形式の課題では、グループ・ディスカッションへの参加度も評価対象とする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①やさしい教育心理学 第4版 ②鎌原雅彦・竹綱誠一郎 ③有斐閣アルマ ④2015/8/25 ⑤2052円 ⑥464122059X

教科書・参考図書はクラスごとに異なる。

浅田晃佑クラス：上記教科書に基づき授業を行うが、必ずしも購入の必要はない。

細田一秋クラス：上記教科書を学内書店等にて各自購入してください。

平田乃美クラス：初回授業で配布資料をダウンロードします（購入不要）。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

受験資格は『白鷗大学試験規則』に準ずる。

成績評価の方法は『履修規程』に準ずる。

【履修上の心得】

各クラスの担当教員が初回授業で指示する。

【科目のレベル、前提科目など】

教職に関する科目では「教育の基礎理論に関する科目」、認定心理士資格申請では「選択科目」（教育心理学・発達心理学）に区分される科目です。

科目名	国語概説 I (書写を含む)
	国語基礎研究
	授業形態：講義
教員名	菊地 真貴子

【授業の内容】

- 1 日本語の特色
- 2 国語教育の歴史と目標の変遷
- 3 三領域一事項について、過去の優れた実践や研究の成果をもとにした理論研究と実践の分析
- 4 書写についての基礎・基本
- 5 これからの社会を生き抜く上で要請されることばの力

【到達目標】

- 1 日本語の特色をつかみ、国語教育実践に生かそうとする。
- 2 国語教育についての歴史と目標の変遷について知る。
- 3 過去の優れた実践や研究の成果について検討し、考えを深める。
- 3 書写についての基礎的な事項を習得する。
- 4 これからの社会を生き抜く上で要請されることばの力について、知見をもつ。

【授業計画】

- 第1回 日本語の特色 ～音韻・文字・文法を中心として～
- 第2回 方言をめぐる作品世界と方言研究
- 第3回 国語教育の歴史 ～教育目標の変遷を軸にして～
- 第4回 「伝え合うこと」の理論的基盤と意義 ～コミュニケーション論・対話～
- 第5回 「読む」ための理論と実践例 ～読者論・批評理論の視点から～
- 第6回 読書指導と図書館教育
- 第7回 書くことと考えること
- 第8回 生活綴方の実践に学ぶ
- 第9回 書写① 楷書 …実習をするので毛筆の道具、半紙を用意すること
- 第10回 書写② かな …実習をするので毛筆の道具、半紙を用意すること
- 第11回 古典との出会い① 散文
- 第12回 古典との出会い② 韻文
- 第13回 ことばの教育とICT
- 第14回 大村はまの実践
- 第15回 アクティブラーニングと国語教育

- 1 国語(日本語)に関する全体論
- 2 国語教育で培う各能力「聞くこと・話すこと」「読むこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に対応する内容

* 国語についての理解を深め、自分なりの知見を蓄積していけるよう、基礎的・基本的な内容を選んでいるので、是非、興味・関心を持って取り組んでほしい。

【授業の進め方】

- 1 受講人数によって、また内容によって、グループ学習、討議、その他の授業形態を取り入れる。
- 2 授業の終わりに、出席票に講義に関する内容(感想・意見・創作)を書くことによって、言語経験を深めていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①小学校学習指導要領解説 国語編 ②文部科学省 ③東洋館出版社 ④2015/09 ⑤220 ⑥9784491031590

国語学・国語教育の理論、および、国語教育の実践報告に関する資料をそのつと配布します。

資料を綴じる紙挟みを一冊用意し、全体を概括したり、復習したりできるようにしてください。

【参考図書】

特に指定はありません。講義の中で紹介していきます。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 30% レポート・課題 10% 受講態度 10%

特記事項

書写実技の際には必ず毛筆書道のできる道具と半紙を持参してください。この時は、講義の終わりに出席票の代わりに

仕上げた作品を提出してもらいます。作品の巧拙ではなく、基礎的な事項を理解できているかどうかを評価します。それを「レポート」として扱います。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席票に書いてもらう内容を「授業内小試験」として評価していきます。

【履修上の心得】

「聞くこと・話すこと」は国語の重要な言語能力です。教員となるにふさわしい態度で聞いていただきたいと思います。

科目名	国語概説Ⅱ(書写を含む)
	国語応用研究
	授業形態：講義
教員名	大上 忠幸

【授業の内容】

1. 国語科教育の基礎となる語句指導、語彙指導の内容について理解を深めるとともに、国語学の知識を習得する。
2. 学習指導要領国語科編の三領域「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」および「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関して理解を深め、国語科学習指導の授業構成について探究する。
3. 書写指導の理論について考察する。
4. 国語科教員としての基本的な知識と技術を身につけ、かつ、応用的な実践力を養う。

【到達目標】

1. 語句、語彙の指導に関する国語学の知識を習得することができる。
2. 「聞くこと・話すこと」の指導に関する基礎的な方法と技術を習得することができる。
3. 文学的文章と説明的文章の「読むこと」の指導方法を習得することができる。
4. 書写指導の教材と技術について理解することができる。
5. 国語科教員としての指導上の配慮事項について理解することができる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス 授業の概要と展開について述べる。また、発表の割り当てを行う。国語科教員の心構えについても講義する。
- 第2回 小学校国語科の学習内容 国語科の内容を全体的に概観する。表現領域、理解領域、さらに言語事項などについて講義する。
- 第3回 小学校低学年の国語科授業・・・ 低学年国語科の教材について講義する。また、学生個々について、読解と表現の教材研究の仕方を演習させる。
- 第4回 小学校中学年の授業・・・ 中学年国語科の教材について講義する。また、学生個々について、読解と表現の教材研究の仕方を演習させる。
- 第5回 小学校高学年の授業・・・ 高学年の教材について講義する。また、学生個々について、読解と表現の教材研究の仕方を演習させる。
- 第6回 書写の授業についての考察・・・ 国語科書写の授業について、先行の「すぐれた実践例」をもとに演習形式で考察させる。
- 第7回 語句・語彙、文法、漢字の指導・・・ いわゆる「言語事項」の指導について、先行の「すぐれた実践例」をもとに演習形式で考察させる。
- 第8回 授業内レポートの作成・・・ これまでの講義や演習を振り返り、課題に沿ったレポートを作成する。
- 第9回 読書指導の基本事項・・・ 読書指導の「すぐれた実践例」について、先行研究をもとに考察する。
- 第10回 読書指導の様々な方法・・・ 「読み聞かせ」「読書感想文」「ブックレポート」「本の帯づくり」「ブックポスター」「読書感想画」など、読書指導の様々な方法について講義し、かつ、演習させる。
- 第11回 文学教材の読解と鑑賞・・・ 教科書教材の発展として、様々な文学教材について取り上げ、学生個々について読解させ、かつ、鑑賞させる。
- 第12回 読書と作文をつなぐ「読書レポート」・・・ 自分の好きな本（自分のお気に入りの本）を取り上げ、それに関するレポートを書かせる。その準備段階としての指導を行う。
- 第13回 「本の帯づくり」「ブックポスター」・・・ これらの作成を行うにあたり、その準備段階として理論を講義する。その次に、学生個々について、本の帯、及び、ブックポスターを作らせる。
- 第14回 説明文教材の読解と読書・・・ 教科書教材の発展として、様々な説明文教材の読解指導に関して講義する。その後、説明文教材の読解の発展として「読書」の言語活動があることを知らせ、その「読書」のあり方について講義する。
- 第15回 まとめ・・・ これまでの講義のまとめをするとともに、学生個々について、課題に沿ったレポートを作成させる。あらかじめ、参考図書などを読んできて、情報を整理させ、レポートを作成させる。

【授業の進め方】

教員による講義がメインになりますが、後半は学生の皆さんによる発表、質疑応答、討論を行ないます。討論の中で、教員が指導・助言をします。また、授業の中で資料を読んだり、気づいたことを書かせたりします。物語や詩についてのレポートや学習指導案を書かせることがあります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

国語学・国語教育の理論、および、国語教育の実践報告に関する資料を、そのつど配布します。

また、テキストを購入してもらいます。テキストは開講時に指示します。

『小学校学習指導要領解説 国語編』(東洋館出版社)を用意してください。

【参考図書】

開講時に提示します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 70% レポート・課題 30% 受講態度 0%

特記事項

授業内記述式テスト、レポート作成など。
授業内記述式テスト70%、レポート作成30%。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

特にありません。

【履修上の心得】

特にありません。

【科目のレベル、前提科目など】

国語概説Ⅰを履修した上で受講することが望ましいです。また、国語科教育法と関連します。

小学校教員免許の取得にかかわる「教科に関する科目」の一つ「国語(書写を含む)」として位置づけられており、国語科の授業を行なう上での基盤となる科目ですから、その自覚をもって授業に臨んでください。

【備 考】

特にありません。

科目名	社会科概説 I
授業形態	講義
教員名	奥澤 信行

【授業の内容】

小学校社会科の学習内容のうち主として地理的分野と歴史的分野を扱う。社会科は第3学年から履修が始まるが、第5学年までは地理、第6学年で歴史および公民の内容を扱っており、地理に関する分量が多くなっている。地理的な内容で扱う空間については、身近な地域から始まって、市町村・都道府県・国・世界の中の日本へと面的スケールを順次拡大させる構成になっているが、それぞれの空間に関して、単に地名や特産品を暗記させる無味乾燥な学習は排除されなければならない。ここで重要なのは、地理的事象を観察・調査した上で具体的な資料をICTも活用して、地域社会の特色や地域間相互の関係を考える「問題解決学習」の展開なのである。本講義ではこのような地理の本来あるべき姿に主眼を置いて、地理の面白さを受講生が感じ取れるようにした上で、さらにこれを児童に伝える方法にまで踏み込んだ説明を行う。また歴史学習に関しては、各国が自国の存在を強調するようになってきた現状を直視し、我が国のこれからの方向性について明治期以降の歴史を再検討する。そして日本人としてのアイデンティティの確立が小学校段階から必要であることに言及する。

【到達目標】

小学校での社会科学習の指導内容を学習指導要領の変遷をベースにして理解する。

【授業計画】

- 第1回 社会科の成立と変遷① 社会科の成立（社会科学習に対するイメージを再確認しておく。／予習30分）
- 第2回 社会科の成立と変遷② 学習指導要領にみる社会科の変遷[昭和20・30年代]（創設時の特色を理解する。／復習30分）
- 第3回 社会科の成立と変遷③ 学習指導要領にみる社会科の変遷[昭和40・50年代]（社会構造の変化に伴う学習内容の変遷を理解する。／復習30分）
- 第4回 社会科の成立と変遷④ 学習指導要領にみる社会科の変遷[平成時代]（ゆとり教育と学習内容の関係を理解する。／復習30分）
- 第5回 社会科の成立と変遷⑤ 学習指導要領にみる社会科の変遷[現在および今後の方向性]（学習量の増加と国内外の情勢が社会科にもたらす影響を理解する。／復習60分）
- 第6回 社会科の成立と変遷⑥ 学習指導要領の変遷を踏まえた上での「ゆとり教育」の是非をテーマとしたディベートおよびグループディスカッション（ディベートとグループディスカッションを参考にして、「ゆとり問題」についての考察を深める。／復習60分）
- 第7回 社会科教育の目標① 教科目標[小学校教育の目標と社会科]（小学校の社会科は暗記教科でないことを認識する。／復習30分）
- 第8回 社会科教育の目標② 教科目標[学習指導要領での目標]（中学校社会科との連携も踏まえた教科目標を理解する。／復習30分）
- 第9回 社会科教育の目標③ 学年目標[知識・理解に関わる目標]（地理や歴史の学習に際して最低限の知識が必要であることを理解する。／復習30分）
- 第10回 社会科教育の目標④ 学年目標[関心・態度に関わる目標]（社会事象に対して積極的に情報を入手し、それを分析する姿勢が重要であることを認識する。／復習30分）
- 第11回 社会科教育の目標⑤ 学年目標[観察・資料活用に関わる目標]（ICTの活用による観察データの処理や資料の収集・分析が、児童の学習意欲を向上に繋がることを理解する。／復習60分）
- 第12回 社会科教育の内容① 第3学年および第4学年の内容[第3学年]（社会科学習の導入として、生活科との連携が重要であることを理解する。／復習30分）
- 第13回 社会科教育の内容② 第3学年および第4学年の内容[第4学年]（地域学習が地理的な物の見方を身に付ける上で、最も重要であることを認識する。／復習30分）
- 第14回 社会科教育の内容③ 第5学年の内容（我が国の自然環境や経済活動、世界の中での位置について、日本人としてのアイデンティティの確立が、混沌とした時代を迎えつつある現状を鑑みたときに極めて重要であることを認識する。／復習60分）
- 第15回 社会科教育の内容④ 第6学年の内容（明治期以降の歴史を今一度見直して、現在の日本が先人の優れた業績の上に成立していることを理解し、日本人としての誇りを改めて考察する。／復習60分）

【授業の進め方】

小学校社会科の概観を理解することが目的であるため講義が中心となるが、ゆとり教育の是非についてそれぞれの立場でディベートを行う。そして双方の意見に関してグループディスカッションを実施することで、教育問題を深く考察する姿勢を身に付けさせる。なお小学校の現場で発生した諸問題については、これを授業で即座に取り上げ、受講生同士が積極的に対話することで、教育への関心をより深化させたい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

テキストは特に使用せず必要に応じてプリントを配布する。

【参考図書】

『小学校学習指導要領 社会編』 文部科学省

『小学校学習指導要領新旧比較対照表』 日本教材システム編集部 編 教育出版

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

特記事項

定期試験と授業中の態度や発言などで評価する。また毎時間出席カードを配布して、厳格に出席管理を行う。IDカードによる出席も併用するが、出席カードとの間に差異が生じた場合には、出席カードによる記録を優先する。定期試験はマークシート方式（5択100問）で、ノート等の持ち込みは一切認めない。

【履修上の心得】

この科目は小学校教員免許取得希望者が履修している点を踏まえ、教育現場の実態についても具体例を挙げて説明するので、受講生も常に教育問題に関心を持って授業に臨んでもらいたい。学校や教育に関わる社会問題については、これを生きた教材として利用したいので、自分なりの考えをまとめる習慣を身に付けておくことを希望する。また教員希望であるからには、基本的に真面目であることが前提となる。真摯な態度で授業に取り組んでもらいたい。

【科目のレベル、前提科目など】

より実践的な内容の「社会科教育法」へと継続する科目であるので、1年次で単位を修得してもらいたい。また地理学全般を概観する意味から「地理学A・B」の履修を勧める。小学校社会科で扱う基本事項の講義である。

科目名	社会科概説 I
	授業形態：講義
教員名	原口 美貴子

【授業の内容】

本講義は、日本の社会科の歴史や特質、小学校社会科の内容について理解を深めていく。

社会科の歴史や特質については、戦後の社会変化と度重なる学習指導要領改訂の中で、日本の社会科はどのような期待や課題を担ってきたかを理解し、今後の社会科のあり方を考える力を養いたい。

社会科の内容については、総合社会科としての各分野の意義、現行指導要領に記された社会的事象の基礎的・基本的な内容、他教科や諸活動、諸施設等との連携を理解し、実際の教材事例を検討しながら、多面的・多角的に授業を構想する基盤力を育てたい。

【到達目標】

- ・我が国における社会科の特質について理解している。
- ・小学校社会科の学習内容及び教材研究の方法について基礎的・基本的な知識を身につけている。

【授業計画】

- 第1回 授業内容および授業計画紹介等
学習課題は本時の復習と次回の準備・予習、時間は1時間以上
- 第2回 社会科の特質
学習課題は本時の復習と次回の準備・予習、時間は1時間以上
- 第3回 社会科の歴史1（社会科発足期の様子）
学習課題は本時の復習と次回の準備・予習、時間は1時間以上
- 第4回 社会科の歴史2（社会科発足期以降の動向）
学習課題は本時の復習と次回の準備・予習、時間は1時間以上
- 第5回 小学校社会科の教科目標
学習課題は本時の復習と次回の準備・予習、時間は1時間以上
- 第6回 カリキュラム構成の特色
学習課題は本時の復習と次回の準備・予習、時間は1時間以上
- 第7回 小学校社会科の内容「身近な地域（郷土）学習の内容」
学習課題は本時の復習と次回の準備・予習、時間は1時間以上
- 第8回 小学校社会科の内容「身近な地域（郷土）学習の教材」
学習課題は本時の復習と次回の準備・予習、時間は1時間以上
- 第9回 小学校社会科の内容「地理的学習の内容」
学習課題は本時の復習と次回の準備・予習、時間は1時間以上
- 第10回 小学校社会科の内容「地理的学習の教材」
学習課題は本時の復習と次回の準備・予習、時間は1時間以上
- 第11回 小学校社会科の内容「歴史的学習の内容」
学習課題は本時の復習と次回の準備・予習、時間は1時間以上
- 第12回 小学校社会科の内容「歴史的学習の教材」
学習課題は本時の復習と次回の準備・予習、時間は1時間以上
- 第13回 小学校社会科の内容「公民的学習の内容」
学習課題は本時の復習と次回の準備・予習、時間は1時間以上
- 第14回 小学校社会科の内容「公民的学習の教材」
学習課題は本時の復習と次回の準備・予習、時間は1時間以上
- 第15回 小学校社会科の内容「現代的課題の内容と教材」
学習課題は全回の復習、時間は1時間以上

【授業の進め方】

- 小学校社会科の特質及び内容理解に関する授業なので講義中心となりますが、受講生の社会科体験や各テーマに関する意見交換（対話）も大切にしますので、各自リーダーシップを発揮しつつ、互いに学び合う姿勢で、積極的に授業参画してください。
- 毎時の終わりにリアクションペーパーを書いて提出していただき、次時の学習につなげます。
- 各回の具体的な学習課題は随時授業で提示します。

【教科書（必ず購入すべきもの）】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①『小学校学習指導要領解説社会編（平成20年）』 ②文部科学省 ③東洋館出版社 ④2015年10月 ⑤208円（税込）
⑥9784491031606

- 適宜プリント（レジュメ、資料）を用意します。

【参考図書】

- 『新版社会科教育事典』平成24年 日本社会科教育学会編 ぎょうせい
- 月刊『社会科教育』 明治図書

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 15% 受講態度 15%

特記事項

- レポート・課題とは、毎時提出するリアクションペーパーの内容です。
- 受講態度は、学習課題の取り組みも含む授業への主体的・積極的な姿勢を評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- 各種実習参加で欠席する場合は、前もって「各種実習参加に伴う授業欠席届」を提出してください。2回以上連続して実習欠席する者には、講義内容に関わるレポートを課し、受講態度に加味します。
- 全授業回数の3分の2以上に出席した者に定期試験の受験資格を与えます。
- リアクションペーパーには講義の意見、感想、疑問のほか、各自が関心を持っている折々の時事ニュースを書いていただきます。新聞・メディア等に日常的に目を通すとともに、特に関心ある記事を集めた時事問題ファイルを作ってください。なお、記述内容が少なかったり、筆記が薄くて読みづらかったり、他者の書いたものの写しが疑われたりする場合は評価の対象外とします。

【履修上の心得】

- 双方向的な授業作りを目指しますので、ただ聴いているだけでなく、主体的な参画意識を持って授業に臨んでください。
- 各自が小学校で学習した社会科授業も適宜活かしていきたいと思います。シェアができるよう思いだしておいてください。
- 授業内容に関する文献や書籍を主体的・積極的に探して読んでください。
- 配布プリント類は各自適切に保管し、知識の定着や試験対策に役立ててください。教科書と配布プリントは毎回忘れずに持ってきてください。
- 遅刻、代返、代筆、飲食は厳禁です。携帯・スマホは電源を切るかマナーモードにして、バッグの中に入れてください（特例は除く）。

【科目のレベル、前提科目など】

より実践的・技術的な授業力を育てる「社会科教育法」につながる基礎的科目ですので、1年次での単位取得を望みます。

科目名	社会科概説Ⅱ
	授業形態：講義
教員名	原口 美貴子

【授業の内容】

平成18年に改正された教育基本法に「郷土」という用語が新たに採り入れられ、教育現場から様々な関心を集めています。郷土とは身近な地域と同義語であることから、身近な地域を学習する小学校社会科において、郷土をどう捉えるか、またどう扱うかは重要な課題です。

本授業では、郷土の本質や郷土概念について探求するとともに、郷土（身近な地域）を題材にした日本古来の文化・郷土かるたを小学校社会科教育の一内容及び一教材として取り上げ、各種郷土かるたの内容研究や郷土かるた制作などの演習も取り入れながら、郷土（身近な地域）の教育的意義を検討・考察していきます。

【到達目標】

- 社会科教育の観点から郷土の本質や郷土概念、郷土（身近な地域）の教育的意義について理解できている。
- 各種郷土かるたの内容研究を通して地域を理解する視点を身につけている。
- 郷土かるたの制作演習を通して、身近な地域の調査手法や郷土（身近な地域）教材の作り方を身につけている。

【授業計画】

- 第1回 授業の内容・授業計画の説明、ワーキンググループ分け、フェイスシート記入
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は1時間以上
- 第2回 郷土（身近な地域）の本質
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は1時間以上
- 第3回 郷土（身近な地域）の社会科教育的意義
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は1時間以上
- 第4回 郷土（身近な地域）の調査手法と留意点①
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は1時間以上
- 第5回 郷土（身近な地域）の調査手法と留意点②
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は1時間以上
- 第6回 郷土（身近な地域）の調査手法と留意点③
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は1時間以上
- 第7回 郷土かるた概論
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は1時間以上
- 第8回 郷土かるたの内容研究①
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は1時間以上
- 第9回 郷土かるたの内容研究②
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は1時間以上
- 第10回 郷土かるたの内容研究③
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は1時間以上
- 第11回 郷土かるた制作演習①
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は1時間以上
- 第12回 郷土かるた制作演習②
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は1時間以上
- 第13回 郷土かるた制作演習③
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は1時間以上
- 第14回 郷土かるた制作演習④
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は1時間以上
- 第15回 郷土かるた大会及び講義のまとめ
学習課題は全回の復習とレポート作成、時間は1時間以上

【授業の進め方】

- 第1回講義の際に、ワーキンググループ分けをしますので、必ず出席して下さい。また、教育実習・介護実習等で欠席する人の日程を確認しますので該当者は報告できるよう準備しておいて下さい。
- 講義だけでなく演習の内容（文献調査、フィールドワーク、プレゼンテーション、言語・絵画表現活動）を取り入れて進めていきます。
- 受講人数や実習欠席予定者の時期・人数によって、授業計画を変更する場合があります。
- 出席と授業の理解度を確認するために、随時リアクションペーパーやレポートを提出して頂きます。
- 各回の具体的な学習課題は随時授業で提示します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①『小学校学習指導要領解説社会編（平成20年）』 ②文部科学省 ③東洋館出版社 ④2015年10月 ⑤208円（税込）

プリント（レジュメ、資料）を使用します。

【参考図書】

月刊『社会科教育』 明治図書

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 85% 受講態度 15%

特記事項

- レポート・課題の内訳は下記の通りです。
 - リアクションペーパーの内容：15%
 - 文献及びフィールドワークレポートの内容：50%
 - 制作した読み札・絵札：20%
- 受講態度は、学習課題の取り組みも含む授業への主体的・積極的な姿勢を評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- グループで協力して行う演習的な活動を取り入れていくので、正当な理由のない遅刻や早退は厳禁です。
- 各種実習参加で欠席する場合は、前もって「各種実習参加に伴う授業欠席届」を提出してください。実習で2回以上欠席する者には、講義内容に関わるレポートを課し、受講態度に加味します。
- 全授業回数の3分の2以上に出席した者を成績評価対象とします。
- リアクションペーパー、文献レポート、フィールドワークレポート、読み札・絵札の提出期限は必ず守ってください。期限を守れない場合は原則受け取りませんので評価の対象外とします。なお、各種提出物について、極端に記述内容が少なかったり、筆記が薄くて読みづらかったり、他者の書いたものの写しが疑われたりする場合も評価の対象外とします。

【履修上の心得】

- 双方向的な授業作りを目指しますので、ただ聴いているだけでなく、主体的な参画意識を持って授業に臨んでください。
- グループによる演習活動では“結合改善”が重要です。各自リーダーシップを発揮し、アイデアや意見をたくさん出して、課題を達成してください。なお、実習等により欠席したメンバーには、作業内容や課題等をグループの責任において伝達して下さい。
- かるた札作りの際にはサインペンや水彩道具が必要になりますので、準備をしてください。
- 配布プリント類は各自適切に保管し、知識の定着やかるた作りに役立ててください。
- 授業内容に関する文献や書籍を主体的・積極的に探して読んでください。
- 正当な理由のない遅刻や早退、代返、代筆、飲食は厳禁です。携帯・スマホは電源を切るかマナーモードにして、バッグの中に入れてください。

【科目のレベル、前提科目など】

“社会科教材”としての郷土かるたを制作しますので、「社会科概説Ⅰ」及び「社会科教育法」履修者が望ましいです。

科目名	算数概説 I
	授業形態：講義
教員名	渋川 美紀

【授業の内容】

この講義では、小学校算数科で取り扱われる教科内容と算数科の目的・目標について概説します。算数の指導内容は4領域に分割され、さらに幾つかの小項目に分かれています。多くの項目は学年ごとに繰り返し扱われ、回り階段を昇るようにして進んでいきます。例えば、位取り記数法を用いて表される数は、第1学年では百までの整数ですが、学年を追って桁数を増し、第4学年では億、兆の単位までになります。さらに小数の記数法が扱われますが、これらはすべて十進位取り記数法というひとつの原理に基づいています。たったひとつのこの原理から、多くの興味深い事柄を導くことができます。この授業で取り上げる教材は、ほとんどが小学校算数科の教材ですが、必要と考えられる中学校の教材も勉強します。

【到達目標】

算数や数学は決して暗記科目ではありません。根本にある数少ない原理を理解すれば、そこから多くのことを学ぶことができます。算数に興味をもつことが第一の目標ですが、基礎的な知識を身につけ、数学的な表現・処理、問題の解決ができるようになることを目指します。算数の問題を解くときには、どのように考えるのが大切です。「答えは問題に書いてある」とも言われます。答えを推理するコツを掴んで、ゲームをする感覚で算数を楽しんでください。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 整数と記数法
- 第3回 約数と倍数
- 第4回 小数と記数法
- 第5回 乗法の意味
- 第6回 除法の意味
- 第7回 分数
- 第8回 無理数
- 第9回 円周率
- 第10回 作図
- 第11回 等積変形
- 第12回 角の三等分
- 第13回 正五角形
- 第14回 立体と展開図
- 第15回 まとめ・その他

【授業の進め方】

主に講義中心ですが、ペアワークやグループワークなどを通して学びます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①小学校学習指導要領解説 算数編 ②文部科学省 ④ 2008

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 20%

【履修上の心得】

遅刻や欠席をしないように心がけましょう。特に、30分以上遅刻をしないようにしましょう（欠席扱いにします）。出欠は出席カードで調べますが、必ず授業開始30分以内にカードを受け取り、授業の間無くさないように持って下さい。また、遅刻3回で欠席1回とします。やむをえない理由で早退する場合は断って退出して下さい。早退は遅刻と同じ扱いとします。カードは授業内に提出して下さい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目はありません。

科目名	算数概説 I
	授業形態：講義
教員名	榎本 哲士

【授業の内容】

この講義では、小学校算数科で取り扱われる教科内容と算数科の目的・目標について概説します。小学校の教科に位置付けられている算数科は、人間形成上大きな役割を持ちます。小学校算数科が担う役割を理解するとともに、基本的な内容の理解が、この講義の目的です。

【到達目標】

小学校の教科に位置付けられている算数科が持つ人間形成上の役割について、講義内容に基づき、自分の考えを述べるができるようになる。また、小学校算数科で取り扱われる基本的な内容について理解し、身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、算数科の目標について
- 第2回 算数科の目的・目標：数学的な考え方と算数的活動
- 第3回 数学的な考え方と算数的活動：問題解決と問題づくり
- 第4回 数学的な考え方の学習指導：発展的な学習
- 第5回 数と計算領域の系統：数え上げと整数、記数法
- 第6回 数と計算領域の系統：約数と倍数
- 第7回 数と計算領域の系統：加法、乗法、除法
- 第8回 量と測定の系統：量の概念、測定と有理数
- 第9回 量と測定の系統：面積公式、等積変形、倍積変形
- 第10回 図形領域の系統：図形概念と作図
- 第11回 図形領域の系統：多角形の性質、空間図形
- 第12回 数量関係領域の系統：関数の考え
- 第13回 数量関係領域の系統：資料の整理と活用
- 第14回 算数科における資質・能力：次期学習指導要領が目指すもの
- 第15回 算数科における問題発見・問題解決のプロセス：次期学習指導要領が目指すもの

【授業の進め方】

主に講義中心ですが、ペアワークやグループワークなどを通して学びます。毎回授業の終わりには、授業のまとめ・考えたことをペーパーにして提出します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業中に適宜紹介します。

【参考図書】

- 『新編 算数科教育研究』, 算数科教育学研究会 編, 学芸図書株式会社
- 『教科教育の理論と授業：理数編』, 大高泉・清水美憲 編, 協同出版

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 30% レポート・課題 0% 受講態度 20%

特記事項

講義に2/3出席していない学生は評価対象(履修者)とはみなしません。

最終試験(50%), 小テスト(30%), 受講態度(20%)により評価する。

最終試験では、授業内容を踏まえて、算数科の目標、内容に関する知識を身に付け、活用できるようになっているかを評価する。

【履修上の心得】

遅刻や欠席をしないように心がけましょう。特に、30分以上遅刻をしないようにしましょう(欠席扱いにします)。出欠は出席カードで調べますが、必ず授業開始30分以内にカードを受け取り、授業の間無くさないように持って下さい。また、遅刻3回で欠席1回とします。やむをえない理由で早退する場合は断って退出して下さい。早退は遅刻と同じ扱いとします。カードは授業内に提出して下さい。

科目名	算数概説Ⅱ
	授業形態：講義
教員名	森本 明

【授業の内容】

算数授業の理論と実践に必要となる教師の基礎的・基本的な資質・能力のうち、算数概説Ⅰや算数科教育法で取り上げた算数の学習内容を統合したり発展したりするのに必要となる数学を、作業や議論の協同的な活動を通して、身に付けます。

【到達目標】

次に掲げる基礎的・基本的な資質・能力を、学生が作業や議論の協同的な活動を通して、身に付けることが到達目標です。

- 1 算数の学習内容を統合したり発展したりするのに必要となる数学に興味・関心をもつことができる；
- 2 算数の学習内容を統合したり発展したりするのに必要となる数学についての知識・理解をもつことができる；
- 3 中・高等学校の数学の学習内容と関連付けて算数の学習内容について深い考察ができる

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
授業の到達目標及びテーマを明らかにし、今後の学習を見通した明確な問題意識を各自に持てるようにする。
- 第2回 統計の考え：1つの数に縮約する
問題解決を通して、平均値と標準偏差など統計の基礎的・基本的な知識・理解を得る。
- 第3回 統計の考え：目に見える形にする
問題解決を通して、ヒストグラムや度数折れ線グラフ、箱ひげ図など統計の基礎的・基本的な知識・理解を得る。
- 第4回 統計の考えの活用
問題解決を通して、日常の事象や社会の事象の考察に統計の考えを活用する経験を積む。
- 第5回 整数・小数の四則
小数の四則計算を整数の四則計算に帰着して考えるときに役立つ数の相対的な見方を得る。
- 第6回 有理数の四則
自然数から有理数まで数を拡張すれば四則すべての演算について閉じるなどのような数の体系的な見方を得る。
- 第7回 量の考え
問題解決を通して、量やその大小関係についての基礎的・基本的な知識・理解を得る。
- 第8回 平面図形の求積
問題解決を通して、直線に囲まれた図形から曲線に囲まれた図形に広げて求積を考える経験を積む。
- 第9回 空間図形の求積
問題解決を通して、空間図形の表面積など平面でとらえて考える経験を積む。
- 第10回 割合の考え
問題解決を通して、割合についての基礎的・基本的な知識・理解を得る。
- 第11回 図形の合同と相似
問題解決を通して、合同や相似の図形の作図や性質についての基礎的・基本的な知識・理解を得る。
- 第12回 対称な図形・図形の移動
問題解決を通して、線対称・点対称や平行移動・対称移動・回転移動についての基礎的・基本的な知識・理解を得る。
- 第13回 関数の考え
問題解決を通して、関数についての基礎的・基本的な知識・理解を得る。
- 第14回 関数の考えの活用
問題解決を通して、日常の事象や社会の事象の考察に関数の考えを活用する経験を積む。
- 第15回 振り返り
これまでの学習を振り返り、課題を各自が持てるようにする。

【授業の進め方】

作業や議論の協同的な活動を通して学びます。

毎回、授業の終わりには、自らの学習を振り返りメモに記述、提出します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①小学校学習指導要領解説 算数編 ②文部科学省 ④2008

授業中に適宜紹介します。

【参考図書】

授業中に適宜紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 10% 受講態度 40%

特記事項

評価の条件は授業回数の2／3以上出席していることです。

その上で、定期試験、受講態度、レポート・課題により評価をします；

- ・定期試験の評価（「定期試験」50%）
- ・毎回の作業や議論の協同活動への参画状況および貢献度（「受講態度」40%）
- ・振り返り記述メモの評価（「レポート・課題」10%）

科目名	理科概説 I
	授業形態：講義
教員名	山野井 貴浩

【授業の内容】

PISAやTIMSSなどの国際学力調査を踏まえ、日本の理科教育の課題を扱う。続いて小学校理科の学習指導要領に基づき、各学年で扱う内容(観察実験を含む)、および児童が理解しにくい内容を扱う。構成主義や社会構成主義、アクティブ・ラーニング等の教授理論や教授法についても扱う。

それらの理解を踏まえて、小学校理科の授業をどのように行うかについてグループ発表を行ってもらおう。なお、すべての講義において、主体的に取り組めるようグループ・ディスカッションや発表を多く取り入れる。

【到達目標】

国際学力調査の結果を踏まえた日本の理科教育の課題、小学校理科の各学年の問題解決能力、児童が理解しにくい内容(素朴概念)等を把握し、それらを配慮した授業を組み立てることができるようになる。

【授業計画】

- 第1回 理想的な理科の授業とは
- 第2回 理科離れは本当に起きているのかーグループ・ディスカッションを通して考える
- 第3回 国際学力調査の結果を踏まえた日本の理科教育の課題
予習 PISAとTIMSS調査の概要を調べる (30分)
復習 授業内容の復習 (30分)
- 第4回 小学校3年生の理科の単元構成と児童が理解しにくい内容
予習 小学校理科3年生の内容確認 (30分)
復習 問題プリントおよび授業内容の復習 (60分)
- 第5回 小学校3年生の問題解決能力の育成を意識した授業方法ーどのような実験を行えば良いかを考える
復習 授業ワークシートの作成 (60分)
- 第6回 小学校4年生の理科の単元構成と児童が理解しにくい内容、問題解決能力の育成を意識した授業方法
予習 小学校理科4年生の内容確認 (30分)
復習 問題プリントおよび授業内容の復習 (60分)
- 第7回 現行の学習指導要領における理科教育と理科教育の変遷
復習 授業内容の復習 (30分)
- 第8回 小学校5年生の理科の単元構成と児童が理解しにくい内容
予習 小学校理科5年生の内容確認 (30分)
復習 問題プリントおよび授業内容の復習 (60分)
- 第9回 小学校5年生の問題解決能力の育成を意識した授業方法ーふりこの実験
復習 授業ワークシートの作成 (60分)
- 第10回 小学校6年生の理科の単元構成と児童が理解しにくい内容
予習 小学校理科6年生の内容確認 (30分)
復習 問題プリントおよび授業内容の復習 (60分)
- 第11回 小学校6年生の問題解決能力の育成を意識した授業方法ー月と太陽の実験
- 第12回 理科教育の方法ー行動主義・構成主義・社会構成主義、アクティブ・ラーニングー
復習 授業内容の復習 (30分)
- 第13回 グループ活動①小学校理科の授業案を創るーどの単元の授業をどのような展開で行うか
- 第14回 グループ活動②小学校理科の授業案を創るー発表準備
- 第15回 グループ活動③発表

【授業の進め方】

理科教育の基礎と小学校理科の内容を全般的に理解できるように、講義形式に加えて、グループ活動や簡単な実験も取り入れる。講義は基本的にパワーポイントと配付資料を用いて行う。観察実験は主に、関連科目である「理科教育法」で実施する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①小学校学習指導要領解説 理科編 ②文部科学省 ③大日本図書 ⑤65円

【参考図書】

- 「新学習指導要領に定める理科教育」理科教育研究会(著) 東洋館出版社 2009年
- 「人はいかに学ぶか」稲垣佳世子・波多野諄余夫(著) 中公新書 1989年
- 「子どもはどう考えているのかーとらえやすい自然認識と科学概念」日置光久・星野昌治(編著) 東洋館出版社 2007年

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%
特記事項
グループ発表30%

【履修上の心得】

小学校の現場で自分が授業することをイメージして真剣に受講してほしい。現場に出た際に少しでも良い授業（良い授業とはどのような授業かについても考えてほしい）をできるよう、講義で気になったことは質問したり、自分でさらに調べるなどをして、様々な知識を貪欲に吸収していただきたい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：なし

関連科目：「理科概説Ⅱ」、「理科教育法」

教養科目として「生物学」、「化学」、「物理学」、「環境科学」がある。

科目名	理科概説 I
	授業形態：講義
教員名	大高 泉

【授業の内容】

本講義は、小学校理科を担当する教員としての基本的な力量を身につけることを目的とする。そのため、現代理科教育研究の動向を踏まえつつ、理科の目的・目標論、内容論、教授・学習論、教材論、評価論をはじめとした、初等理科教育の理論と実践について解説する。

【到達目標】

小学校理科を実践する上で必要となる基礎的・基本的な知識と理論を習得することを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 講義についてのオリエンテーション
新学習指導要領小学校理科編の特徴
- 第2回 科学と技術、その共通点と差異点：自然の一つの見方としての自然科学、事実と科学
- 第3回 近代科学の自然観の形成1：ギリシャの問題設定とキリスト教の影響
- 第4回 近代科学の自然観の形成2：アラビア世界、ペストの流行、高級職人層の出現
- 第5回 日本の伝統的自然観1：日本の生活と文化
- 第6回 日本の伝統的自然観2：易学、理気二元論、古医方、天文方
- 第7回 教科「理科」の出現とその歴史解釈1：明治19年の「理科」出現とその変化
- 第8回 教科「理科」の出現とその歴史解釈2：理科出現の歴史的解釈
- 第9回 理科教育の目的・目標と科学リテラシー
- 第10回 理科カリキュラム論1：科学カリキュラム改革運動と学問中心カリキュラム
- 第11回 理科カリキュラム論2：科学カリキュラムの内容領域の拡大とSTSカリキュラム
- 第12回 理科学習論1：構成主義学習論とミスコンセプション
- 第13回 理科学習論2：概念変容としての学習と革新的教授モデル
- 第14回 理科評価論1：ブルームの評価論と探究力の評価
- 第15回 理科評価論2：目標に準拠した評価、観点別評価、ポートフォリオ評価、パフォーマンス評価

【授業の進め方】

現代理科教育の基礎的理論とその基礎にある科学論について、系統的に学べるように授業を進める。アクティブラーニングの様々なストラテジー（討論、グループ活動、フィールドワーク等々）を導入し、受講者の主体的対話的で深い学びを実現したい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は、特になし。
適宜、印刷資料を配付する

【参考図書】

- できれば、以下の文献を入手してほしい。
- ・文部科学省：『小学校学習指導要領解説 理科編』、大日本図書、2008。
 - ・大高泉・清水美憲（編著）、『教科教育の理論と授業Ⅱ理数編』、協同出版、2012。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 15% 受講態度 15%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

期末試験を中心にするが、レポート、出席状況、授業態度を総合して成績を評価する。

【履修上の心得】

現代理科教育の基礎的理論を学び、教師になってからの実践で活用できる基礎を作してほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目はない。関連科目には、「理科教育法」がある。また、教養科目に「生物学」、「物理学」、「環境科学」がある。小学校理科について最初に学ぶ講義であるため、主として小学校理科の目標と内容構成を理解することが求められる。

【備考】

この科目の内容の理解をもとにして「理科概説Ⅱ」、「理科教育法」が展開される。

科目名	理科概説Ⅱ
	授業形態：講義
教員名	大高 泉

【授業の内容】

小学校の理科という教科について全体的・一般的な理解を深めるとともに、理科概説Ⅰの基礎の上に、小学校理科の内容および教授学習法について解説する。「理科教育法」に加えてさらに理科についての指導力を高め、幅をひろげたいと望む学生に対応することを目指している。

【到達目標】

小学校理科授業作りの基礎理論と技能を習得し、小学校理科内容のポイントを理解する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、
理科授業の多様性と規定要因：典型的な理科授業
- 第2回 理科学力の問題（1）：TIMS、PISA、教育課程実施状況調査、全国学力学習状況調査
- 第3回 理科学力の問題（2）：TIMS、PISA、教育課程実施状況調査、全国学力学習状況調査
- 第4回 学習指導要領の全体的特徴と小学校理科
- 第5回 小学校理科学習指導要領改訂のポイント
- 第6回 理科教授学習論（1）：構成主義的学習論とミスコンセプション
- 第7回 理科教授学習論（2）：ミスコンセプションの特徴、理科学習への影響、概念変容、革新的授業モデル
- 第8回 理科授業作りの視点（1）：理科学習の意義認識、共有化、メタ認知
- 第9回 理科授業作りの視点（2）：探究活動の充実（探究の全体像の理解、プロセススキルの学習、仮説設定）
- 第10回 小学校理科の誤りやすい内容（1）：物理領域（力と運動、密度、重さと質量、他）
- 第11回 小学校理科の誤りやすい内容（2）：物理領域（電気）
- 第12回 小学校理科の誤りやすい内容（3）：（化学領域）
- 第13回 小学校理科の誤りやすい内容（4）：（生物・地学領域）
- 第14回 理科実験の安全指導（1）：事故事例、事故対応、判例
- 第15回 理科実験の安全指導（2）：加熱器具、気体の発生と捕集、気体の性質

まず、典型的な理科授業のビデオを視聴し、その後の授業理解の基礎となる共通経験とし、続いて理科授業の多様性とその規定要因を理解し、その規定要因にかかわる理論を踏まえ、理科授業作りの主要な視点を習得できるように計画している。

【授業の進め方】

理科教育の全般の基礎的理解を図るとともに、特に小学校理科の内容とその授業作りに重点を置いて授業を進める。アクティブラーニングの様々なストラテジー（討論、グループ活動、フィールドワーク等々）を導入し、受講者の主体的対話的で深い学びを実現したい。

【教科書（必ず購入すべきもの）】

教科書は、特になし。適宜、印刷資料を配付する。

【参考図書】

参考文献は、そのつど紹介していく。できれば、以下の文献を入手してほしい。

- ・文部科学省：『小学校学習指導要領解説 理科編』、大日本図書、2008。
- ・大高泉・清水美憲（編著）、『教科教育の理論と授業Ⅱ理数編』、協同出版、2012。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 15% 受講態度 15%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

期末試験および毎回の講義終了時に実施する講義レポートを中心に成績を評価する。

【履修上の心得】

小学校理科は、どのような目標と内容が規定された教科であるのかを深く理解してほしい。そのためには、小学校学習指導要領および解説に記載されている内容を正確に理解することが重要である。また、現代理科教育が抱える様々な問題点についても解説する予定である。自分自身が受けてきた理科授業を思い出しながら、それらの問題点の改善に向けた有効な方策を考えてみてほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目は「理科概説Ⅰ」。

関連科目には、「理科教育法」がある。また、教養科目に「生物学」、「物理学」、「環境科学」がある。

【備 考】

特になし。

わからないことがあれば、適宜、質問するように。

科目名	生活科概説 I
	授業形態：講義
教員名	田村 恵美

【授業の内容】

生活科の教育目標・内容・方法について、理論と実践の両側面から理解と習得をはかる。

【到達目標】

- ・小学校学習指導要領に基づき、生活科の成立過程の背景、教科の目標及び内容構成について理解をする。
- ・教科としての生活科の本質と独自性について理解した上で、具体的な活動を通じて、子どもの実態や地域の特性を踏まえた生活科の授業を展開していくために必要な基礎的な知識・技能を身につける。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 学習指導要領の変遷と生活科の成立過程
- 第3回 生活科とカリキュラム論
- 第4回 生活科の目標と内容—1年生—
- 第5回 生活科の目標と内容—2年生—
- 第6回 生活科の評価
- 第7回 動物とのふれ合い授業（獣医師ゲストティーチャー）
- 第8回 生活科と幼小接続—小1プロブレムとスタートカリキュラム—
- 第9回 生活科と総合的な学習の時間との関連
- 第10回 「学校探検マップを作ろう」—フィールドワーク・教材研究—
- 第11回 「学校探検マップを作ろう」—制作活動—
- 第12回 発表会とディスカッション1
- 第13回 発表会とディスカッション2
- 第14回 発表会とディスカッション3
- 第15回 学びの振り返りと講義のまとめ

【授業の進め方】

- ・本講義では、具体的な活動や体験を通じて学習することを重視するため、講義形式の他に、数人で学習活動を行うグループワーク形式でも進めてゆく。また、ディスカッションやフィールドワーク、インタビュー調査など主体的・協働的な学習を行う。
- ・「動物とのふれ合い授業」については、獣医師をゲストティーチャーに迎え、講義と体験学習を行う。講師の都合により、日程変更の可能性はある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ・「小学校学習指導要領」文部科学省、平成20年3月告示
- ・「小学校学習指導要領解説・生活編」文部科学省、平成20年8月
- ・「小学校学習指導要領解説・総合的な学習の時間編」文部科学省、平成20年8月
- ・講義の中で、プリントを適宜配布する。

【参考図書】

- ・講義の中で、適宜紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 30%

特記事項

- ・定期試験、レポート、受講態度により、総合的に評価する。
- ・受講態度には、授業内で実施されるアクションペーパーの提出、グループ発表の評価を含む。
- ・当該科目のすべての授業回数の3分の2以上に出席していること。
- ・病欠等で欠席する場合は、必ず連絡をすること。
- ・レポートの詳細については、授業内で指示をする。

【履修上の心得】

- ・事前に「小学校学習指導要領」および「小学校学習指導要領解説・生活編」を読み、予習をすること。
- ・「生活科概説I」は、「生活科概説II」および「生活科教育法」を履修するための前提となる科目であるため、単位取得に努力すること。

【科目のレベル、前提科目など】

関連科目：「生活科教育法」「生活科概説II」

科目名	生活科概説Ⅱ
	授業形態：講義
教員名	伊藤 哲章

【授業の内容】

小学校の生活科という教科について全体的・一般的な理解を深めるとともに、生活科概説Ⅰの基礎の上に、小学校生活科の内容及び教授学習法について学習する。

【到達目標】

小学校生活科の授業作りの基礎理論と技能を習得し、小学校生活科の内容のポイントを理解する。

【授業計画】

第1回 講義ガイダンス 生活科の目標及び内容構成

学習課題

予習 生活科の学習指導要領の概略を把握する。(30分)

復習 生活科の学習指導要領の詳細を確認する。(60分)

第2回 地域の自然の教材化研究1 (大学周辺)

学習課題

予習 地域の自然について調べる。(30分)

復習 地域の自然を教材化する利点をまとめる。(60分)

第3回 地域の自然の教材化研究2 (思川周辺)

学習課題

予習 地域の自然について調べる。(30分)

復習 地域の自然を教材化する利点をまとめる。(60分)

第4回 地域の自然の教材化研究 発表

学習課題

予習 地域の自然について調べる。(30分)

復習 地域の自然を教材化する利点をまとめる。(60分)

第5回 地域の素材の教材化研究1 (資料収集)

学習課題

予習 地域の素材を調べる。(30分)

復習 地域の素材を教材化する利点をまとめる。(60分)

第6回 地域の素材の教材化研究2 (教材開発)

学習課題

予習 地域の素材を調べる。(30分)

復習 地域の素材を教材化する利点をまとめる。(60分)

第7回 地域の素材の教材化研究 発表

学習課題

予習 地域の素材を調べる。(30分)

復習 地域の素材を教材化する利点をまとめる。(60分)

第8回 動植物の飼育・栽培に関する研究1 (主に動物)

学習課題

予習 動植物の飼育・栽培について調べる。(30分)

復習 動植物を飼育・栽培する有効性についてまとめる。(60分)

第9回 動植物の飼育・栽培に関する研究2 (主に植物)

学習課題

予習 動植物の飼育・栽培について調べる。(30分)

復習 動植物を飼育・栽培する有効性についてまとめる。(60分)

第10回 動植物の飼育・栽培に関する研究 発表

学習課題

予習 動植物の飼育・栽培について調べる。(30分)

復習 動植物を飼育・栽培する有効性についてまとめる。(60分)

第11回 地域文化と生活科研究1 (資料収集)

学習課題

予習 地域文化について調べる。(30分)

復習 地域文化を教材化する利点をまとめる。(60分)

第12回 地域文化と生活科研究2 (教材開発)

学習課題

予習 地域文化について調べる。(30分)

復習 地域文化を教材化する利点をまとめる。(60分)

第13回 地域文化と生活科 発表（1班～3班）

学習課題

予習 地域文化について調べる。（30分）

復習 地域文化を教材化する利点をまとめる。（60分）

第14回 地域文化と生活科 発表（4班～6班）

学習課題

予習 地域文化について調べる。（30分）

復習 地域文化を教材化する利点をまとめる。（60分）

第15回 地域文化と生活科 発表（7班～9班）

学習課題

予習 地域文化について調べる。（30分）

復習 地域文化を教材化する利点をまとめる。（60分）

教材化に関する研究はグループ・ワークやフィールドワークを実施する。

【授業の進め方】

- ・ 野外で活動するときは、動きやすい服装・持ち物を準備する。
- ・ 野外で活動するときは、天候や自然状況によって指導内容が前後したり、変更もありうる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①小学校学習指導要領解説 生活編 ②文部科学省 ③日本文教出版 ④平成20年8月 ⑤104円

【参考図書】

適時紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 20%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

定期考査、レポート、課題、受講態度を総合して成績を評価する。

【履修上の心得】

受講者は、「生活科概説Ⅰ」及び「生活科教育法」を履修していることが望ましい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目「生活科概説Ⅰ」及び「生活科教育法」

科目名	家庭科概説 I
	授業形態：講義
教員名	宇津野 花陽

【授業の内容】

小学校家庭科の内容および様々な学習方法について検討し、それぞれの単元、小単元の重要なポイントを確認していく。

【到達目標】

小学校家庭科の内容および様々な学習方法を理解し、それぞれの単元、小単元におけるポイントが分かるようになる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：授業で取り上げた重要事項を復習する（30分）。小レポートの準備をする（60分）。
 第2回 自分の成長と家族：授業で取り上げた重要事項の復習をする（30分）。小レポートの準備をする（60分）。
 第3回 家庭生活と仕事：授業で取り上げた重要事項の復習をする（30分）。小レポートの作成をする（60分）。
 第4回 家族や近隣の人々とのかかわり：授業で取り上げた重要事項の復習をする（30分）。次回の予習として、身近な人に”思い出の食べ物”についてインタビューする（30分）。
 第5回 食事の役割：授業で取り上げた重要事項の復習をする（30分）。
 第6回 栄養素の働き：授業で取り上げた重要事項の復習をする（30分）。
 第7回 栄養を考えた食事：授業で取り上げた重要事項の復習をする（30分）。
 第8回 調理の基礎：授業で取り上げた重要事項の復習をする（30分）。
 第9回 衣服の着用と手入れ：授業で取り上げた重要事項の復習をする（30分）。
 第10回 いろいろな縫い方：基礎的な技能の復習をし、定着をはかる（30分）。
 第11回 小物づくりの計画：基礎的な技能の確認をする（30分）。
 第12回 小物の製作：基礎的な技能の復習をし、定着をはかる（30分）。期末レポートのテーマを選び調査をすすめる（60分）。
 第13回 快適な住まい方：授業で取り上げた重要事項を復習する（30分）。期末レポートのテーマを選び調査をすすめる（60分）。
 第14回 身近な消費生活と環境：授業で取り上げた重要事項を復習する（30分）。期末レポートを作成する（60分）。
 第15回 まとめ：これまでの授業内容について復習する（60分）。

【授業の進め方】

講義のほか、グループ・ワーク(グループディスカッション、ディベートなど)も取り入れていく。家庭科における、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等アクティブ・ラーニングの展開の仕方について、大学生自身にも体験してもらいながら考えていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

指定しない。

【参考図書】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領』平成20年
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』平成20年

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

- ・レポート・課題80%：作品10%、小レポート10%、期末レポート60%
- ・受講態度は、授業への取り組みや発言、グループでのアクティビティへの取り組みなどを評価する。

【履修上の心得】

家庭科で何を教えたらいいか、どのように教えたらいいかを考えながら受講してほしい。グループでのアクティビティを行う際も、積極的に参加してほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：なし

関連科目：「家庭科教育法」「教育法演習B」「家庭科概説II」

「家庭科概説I」をふまえ、「家庭科教育法」では、小学校家庭科についての理解を深め、学習指導案の作成、模擬授業ができるようにする。「家庭科教育法」の学習の上に、さらに「家庭科概説II」や「教育法演習B」では、模擬授業や製作・実習を通して実践力を高めていく。

科目名	家庭科概説Ⅱ
	授業形態：講義
教員名	宇津野 花陽

【授業の内容】

小学校家庭科について教材研究を行い、学習指導案、教材、教具の選定および作成を行う。さらに、それをもとにした模擬授業を行う。

【到達目標】

小学校家庭科について、適切に題材や学習内容を設定し、学習方法、教材、教具の選定および作成ができるようにする。さらに、授業の流れや時間配分、教材、教具の使用法、黒板の使い方、話し方や態度のポイントを理解し、指導の実践力を高めることを目的とする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：模擬授業担当箇所について、楽しく学ぶことのできる題材、学習内容を考える(60分)。
 第2回 題材、学習内容の設定：模擬授業担当箇所について、学習方法や教材、教具を考える(60分)。
 第3回 学習方法、教材、教具の設定：学習指導案の作成に向けて、教材研究を進める(60分)。
 第4回 学習指導案の作成：教材、教具の作成準備をする(40分)。
 第5回 教材、教具の作成：模擬授業準備および練習をする(120分)。模擬授業1の学習内容、指導方法、評価について予習する(30分)。
 第6回 模擬授業1：模擬授業1の学習内容、指導方法、評価についてまとめる(30分)。模擬授業2の学習内容、指導方法、評価について予習する(30分)。
 第7回 模擬授業2：模擬授業2の学習内容、指導方法、評価についてまとめる(30分)。模擬授業3の学習内容、指導方法、評価について予習する(30分)。
 第8回 模擬授業3：模擬授業3の学習内容、指導方法、評価についてまとめる(30分)。模擬授業4の学習内容、指導方法、評価について予習する(30分)。
 第9回 模擬授業4：模擬授業4の学習内容、指導方法、評価についてまとめる(30分)。模擬授業5の学習内容、指導方法、評価について予習する(30分)。
 第10回 模擬授業5：模擬授業5の学習内容、指導方法、評価についてまとめる(30分)。模擬授業6の学習内容、指導方法、評価について予習する(30分)。
 第11回 模擬授業6：模擬授業6の学習内容、指導方法、評価についてまとめる(30分)。模擬授業7の学習内容、指導方法、評価について予習する(30分)。
 第12回 模擬授業7：模擬授業7の学習内容、指導方法、評価についてまとめる(30分)。模擬授業8の学習内容、指導方法、評価について予習する(30分)。
 第13回 模擬授業8：模擬授業8の学習内容、指導方法、評価についてまとめる(30分)。模擬授業9の学習内容、指導方法、評価について予習する(30分)。
 第14回 模擬授業9：模擬授業9の学習内容、指導方法、評価についてまとめる(30分)。模擬授業10の学習内容、指導方法、評価について予習する(30分)。
 第15回 模擬授業10：模擬授業10の学習内容、指導方法、評価についてまとめる(30分)。これまでの授業内容について復習をする(120分)。

【授業の進め方】

講義のほか演習形式ですすめる。グループごとに1回ずつ模擬授業を実施し、学生相互および教員による検討を行う。発見学習、問題解決学習、調査学習、グループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク、フィールドワーク等の方法を用いながら、児童が楽しく学べる家庭科の授業をグループごとに考え、模擬授業で実施する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

小学校家庭科教科書『新しい家庭』東京書籍

【参考図書】

必要に応じて紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

- ・受講態度は、「模擬授業の内容や議論における貢献度」を評価します。
- ・レポート・課題70%：レポート40%、ノート30%

【履修上の心得】

日頃から、新聞や本を読んで家庭生活に関する現代的課題などについて興味・関心を広げたり、日々の生活の中で、家庭科の教材化に役立つような情報を収集しておくことよ。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：「家庭科概説Ⅰ」「家庭科教育法」

関連科目：「教育法演習B」

「家庭科概説Ⅰ」「家庭科教育法」の学習の上に、さらに家庭科の指導力を高めるための科目である。

科目名	音楽概説 I
	授業形態：講義
教員名	富田 英也

【授業の内容】

音楽の意味や機能を捉え、音楽の基礎や知識を理解し、豊かな感性と認知能力の向上をねらいとする。音楽の起源から、さらに音楽の歴史と音楽教育者・思想家の教育観や理念を理解する。また教職試験に関わる内容も含める。

【到達目標】

音楽的教養を培い、音によるコミュニケーションを通して、生活や社会とかかわり親しみ継承する態度を育む。芸術や文化のよさを味わい情操を培い、生涯にわたって明るく潤いのある生活をし、社会に生かした豊かな態度を養う。

【授業計画】

- 第1回 音楽って何だろう。語源や音楽の起源を知る。ロゴスとパトス等と音楽の成立を学ぶ。
学習課題（復習30分）
- 第2回 古代の音楽と定義。音楽の成立した時代の文化と特徴。
学習課題（復習30分）
- 第3回 中世の音楽の発達。中世時代の文化と音楽の特徴。
学習課題（復習30分）
- 第4回 音楽の要素と音楽定義の成立。音の種類や要素と音楽として成り立つ定義。
学習課題（復習30分）
- 第5回 音楽思想家と音楽観・教育理念。音楽の成り立ちについての定義や理念と主張など音楽の思想家について学ぶ。
学習課題（復習30分）
- 第6回 音楽の基礎Ⅰ：音階。音階の成り立ちから音階の構造と種類を学ぶ。
学習課題（復習1時間）
- 第7回 音楽の基礎Ⅱ：音程。音と音の隔たりと種類等を学ぶ。
学習課題（復習1時間）
- 第8回 音楽の基礎Ⅲ：近親調、移調と転調。楽曲の基本となる主調から他の調へ移したり、途中から変わることを学ぶ。
学習課題（復習1時間）
- 第9回 音楽の基礎Ⅳ：和音と和音の連結。和音の種類と転回和音、その連結等を学ぶ。
学習課題（復習1時間）
- 第10回 音楽の基礎Ⅴ：楽式論。音楽の種類と構成、その特徴等を学ぶ。
学習課題（復習30分）
- 第11回 音楽の楽しみ（西洋音楽）。特にヨーロッパの児童向けの音楽や、かわった音楽を聴いたり、その特徴や楽しさについて知る。
学習課題（復習30分）
- 第12回 音楽の楽しみ（民族音楽）。ヨーロッパ以外の音楽や、アジアの音楽を聴き、その特徴や楽しさについて知る。
学習課題（復習1時間）
- 第13回 音楽の楽しみ（日本音楽）。我が国伝統の音楽や郷土に根ざした音楽と、日本の文化として今でも伝わっている特徴のある音楽を聴いたり再認識する。
学習課題（復習1時間）
- 第14回 今まで学んだ音楽の歴史や基礎を基にして、世界では音楽がどのように活用されているかペアワークで問題解決学習をする。
学習課題（予習30分、復習1時間）
- 第15回 音楽の様式や様々なジャンルを含め、我々の心の糧となっている音楽とは何か、どんなことをペアワークで問題解決学習をし、発表とディスカッションを行う。
学習課題（予習30分、復習1時間）

【授業の進め方】

講義中心の授業である。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書はないが、必要に応じてプリントする。

【参考図書】

- 1、小学校音楽科教育法 教育芸術社 1,680円
- 2、「音楽の歴史と音楽観」 笠原潔著 日本放送出版協会
- 3、「はじめての音楽史」 片桐功他共著 音楽之友社
- 4、「奏でることの力」 若尾裕 春秋社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 20% 受講態度 10%

特記事項

定期試験、受講ノートの提出、平常点（授業に取り組む態度）

【履修上の心得】

音楽の役割や目標を考えると、人間の根源的で基本的な幸福の価値観にあると考える。それは、現代社会の問題点を反映しており、人とのかかわりと心や愛情に問題のあることが計り知れる。そうした時代を超越し音楽について概観する。

【科目のレベル、前提科目など】

音楽科教育法、音楽実技Ⅰ（ピアノ）、音楽実技Ⅱ（子どもの音楽）、ソルフェージュ、小学校教諭資格取得関連科目、幼稚園教諭資格取得関連科目

科目名	音楽概説 I
	授業形態：講義
教員名	新井 恵美

【授業の内容】

小学校の教員が授業を行う際に必要な音楽理論の習得を目的としています。

【到達目標】

小学校の教員が授業を行う際に必要な音楽理論の修得を目標とします。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、音楽とは
- 第2回 五線と音符
- 第3回 拍子とリズム
- 第4回 問題演習（1） 第3回までの内容
- 第5回 調とメロディー（1） 長調
- 第6回 調とメロディー（2） 短調
- 第7回 和音
- 第8回 速度や曲想の表し方
- 第9回 楽曲の形式（1） 一部形式、二部形式など
- 第10回 楽曲の形式（2） ソナタ形式、ロンド形式など
- 第11回 問題演習（2） 第10回までの内容
- 第12回 オーケストラの楽器
- 第13回 西洋音楽史（1） 古典派まで
- 第14回 西洋音楽史（2） ロマン派以降
- 第15回 日本音楽、世界の諸民族の音楽

【授業の進め方】

講義を中心とし、問題演習や実技も含まれます。授業の最後にリアクションペーパーを提出してもらいます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①CDで聴く 一冊でわかる楽典 ③成美堂出版

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項
毎回のリアクションペーパーの記入状況 30%

【履修上の心得】

この授業で扱う内容は非常に多いです。予習、復習をきちんとしてください。

【科目のレベル、前提科目など】

小・中学校で習得した音楽の知識・技能。
小学校教諭免許状取得関連科目。

科目名	音楽概説Ⅱ(声楽)
	授業形態：講義
教員名	荒井 弘高

【授業の内容】

音楽科の目標は「表現及び鑑賞を通して音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的能力を培い、豊かな情操を養う。」である。これらを実現するためには、まず教育者自身に音楽を愛好する心情、感性が備わっていなければならない。本授業は、小学校音楽科の学年毎の歌唱教材研究を主な柱として、音楽科の内容である表現・鑑賞領域の歌唱についての理解、および音楽技術の修得を行いながら、自らの感性を高める指導を行う。

なお、教員採用試験のための「弾き歌い」指導も行う。

【到達目標】

音楽科の内容である表現・鑑賞領域の歌唱についての理解を深めることを目的とする。同時に自らの音楽技術を高め、音楽を楽しむ心及び感性を養うことを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 授業の概要説明、発声法入門（復習30分）
- 第2回 子どもの歌及び唱歌の歴史、呼吸法（予習・復習30分）
- 第3回 小学校第1学年の歌唱教材研究と歌唱表現指導、発声法における筋肉トレーニング（予習・復習60分）
- 第4回 小学校第2学年の歌唱教材研究と歌唱表現指導、発声法総合練習（予習・復習60分）
- 第5回 小学校第1学年・第2学年歌唱教材歌唱表現指導のまとめ、及び鑑賞（予習・復習60分）
- 第6回 発声練習および小学校第3学年の歌唱教材研究と歌唱表現指導（予習・復習60分）
- 第7回 発声練習および小学校第4学年の歌唱教材研究と歌唱表現指導（予習・復習60分）
- 第8回 小学校第3学年・第4学年歌唱教材歌唱表現指導のまとめ、及び鑑賞（予習・復習60分）
- 第9回 発声練習及び小学校第5学年の歌唱教材研究と歌唱表現指導（予習・復習60分）
- 第10回 発声練習および小学校第6学年の歌唱教材研究と歌唱表現指導（予習・復習60分）
- 第11回 小学校第5学年・第6学年歌唱教材歌唱表現指導のまとめ、及び鑑賞（予習・復習60分）
- 第12回 第一グループの個人別歌唱法指導、全員での歌唱法に関するディスカッション（予習・復習60分）
- 第13回 第二グループの個人別歌唱法指導、全員での歌唱法に関するディスカッション（予習・復習60分）
- 第14回 第三グループの個人別歌唱法指導、全員での歌唱法に関するディスカッション（予習・復習60分）
- 第15回 個人別歌唱法指導及び留意点のまとめ（予習・復習60分）

毎回共通教材における伴奏法および歌唱表現法中心に、個人に合わせた指導を行う。なお、歌唱法については、伴奏・歌唱を各自それぞれ担当し、お互いのグループによる歌唱法研究を行いながら向上を目指す。また、みんなの前で発表し合うことも行いたい。

【授業の進め方】

お互いに伴奏を弾き合い、伴奏と歌唱両面からグループワークで歌唱表現法を研究する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①教員養成課程 小学校音楽科教育法 ②有本真紀、他 ③教育芸術社 ⑤1.680円

必要に応じて資料を配布する

【参考図書】

適時指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 50%

【履修上の心得】

- ・歌唱教材の暗譜を目標に、日々努力すること。

【科目のレベル、前提科目など】

- ・ソルフェージュを履修済みであること。
- ・音楽実技Ⅰ、音楽概説を履修済みであることが望ましい。
- ・音楽概説Ⅰの歌唱表現・鑑賞分野をより具体的に理解する科目である。
- ・小学校の学年別に配置されている共通教材曲を主として取上げる。

科目名	音楽概説Ⅲ(器楽)
	授業形態：講義
教員名	今田 政成

【授業の内容】

音楽における表現・鑑賞領域の教育内容の器楽について理解を深めます。

音楽表現の能力とは、リズム、旋律、強弱、速度、音色、和音や和声、拍の流れやフレーズなど、音楽を特徴付けている諸要素に対する感受性と、それらを基盤とした音楽的な表現の技能及び楽譜についての理解や聴奏等の能力を指し、音楽を確実に表現するためには身につけていなければならない。

ピアノを演奏する際に必要なメカニク及び表現の習得法を具体的に学び更にピアノの歴史や表現様式の変遷等にも触れます。

ピアノの歴史と並行して作曲家の特徴を捉え器楽曲を分析します。

音楽の授業で必要とされる和音（コード）伴奏の理解や、弾き歌いの技術も学ぶ。

【到達目標】

ピアノの歴史や表現様式の変遷を理解し、ピアノを演奏する際に必要なメカニク及び表現の習得法を学び身につける。

【授業計画】

- 第1回 授業の概要と進め方を説明
- 第2回 鍵盤楽器の種類及びその音楽史について解説
- 第3回 ピアノ演奏の基本を学ぶ（座り方、腕の位置、ピアノからの距離）
- 第4回 ピアノ演奏の基本を学ぶ（指使い、タッチ、ペダルの効果）
- 第5回 演奏解釈への展開（楽譜の読み方、練習の仕方）
- 第6回 バロックの作曲家バッハとヘンデルの器楽曲について解説、分析し代表曲を演奏する。
作曲家の映像を鑑賞しグループトークする。
曲の復習をしっかりとやる。
- 第7回 古典派の作曲家ベートーヴェンとモーツァルトの器楽曲について解説、分析し代表曲を演奏する。
作曲家の映像を鑑賞しグループトークする。
曲の復習をしっかりとやる。
- 第8回 ロマン派の作曲家ショパンの器楽曲について解説、分析し代表曲を演奏する。
作曲家の映像を鑑賞しグループトークする。
曲の復習をしっかりとやる。
- 第9回 ロマン派の作曲家シューマンの器楽曲について解説、分析し代表曲を演奏する。
作曲家の映像を鑑賞しグループトークする。
曲の復習をしっかりとやる。
- 第10回 ロマン派の作曲家リストの器楽曲について解説、分析し代表曲を演奏する。
作曲家の映像を鑑賞しグループトークする。
曲の復習をしっかりとやる。
- 第11回 バロック・古典派・ロマン派の演奏様式についてまとめと調べてきたことを発表する。
- 第12回 連弾ピアノアンサンブル合奏
古典派ベートーベンの連弾曲の解説、指導
楽器の割り当て・配置をして模擬指導をする。
担当楽器の復習をする。
- 第13回 クラビノーバ使用して器楽合奏の練習、合奏
古典派ベートーベンの器楽合奏曲を演奏する。
楽器の割り当て・配置をして模擬指導をする。
担当楽器の復習をする。
- 第14回 アンサンブル合奏
楽器の割り当て・配置をして模擬指導をする。
担当楽器の復習をする。
- 第15回 音楽史（器楽）の流れについてのまとめ、発表

【授業の進め方】

講義内容にしたがって器楽の講義・演奏を中心に進めていく

器楽合奏の担当を決めて模擬指導をする。

音楽史より作曲家を選び研究、プレゼンテーションで発表する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

毎時間楽譜・プリントを用意します

【参考図書】

はじめての音楽史 片桐功 他共著 音楽之友社 2009年3月 2160円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

平常の受講態度や進捗努力

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回の講義、演習の評価

【履修上の心得】

日々の努力と探求心により、毎時間の課題をしっかりと消化し、次のステップとなるための予習、復習を必ず行うこと。

【科目のレベル、前提科目など】

音楽実技Ⅰ(基礎) 音楽実技Ⅱ(こどもの音楽)

音楽実技Ⅰにおいて基礎を学び、当授業において現場に必要な技術を習得する

【備 考】

音楽史の流れをしっかりと勉強しいろいろな作曲家の器楽曲を理解する

科目名	図画工作概説 I
	授業形態：講義
教員名	益田 勇一

【授業の内容】

近代教育制度が確立した明治以降の美術教育の歴史を概観し、「図画工作科」が成立した経緯を学ぶ。それをもとに現在の初等教育における図画工作科の意義、果たすべき役割とそれを達成するために必要とされる学習内容について、学習指導要領とその変遷を踏まえて概説する。

【到達目標】

美術教育の歴史の変遷を概観することで、現在の図画工作科に求められている内容を理解する。

【授業計画】

- 第1回 美術教育の歴史(1) 明治初期：鉛筆画教育の時代
- 第2回 美術教育の歴史(2) 明治中期：毛筆画教育の時代
- 第3回 美術教育の歴史(3) 明治後期：教育的図画の時代
- 第4回 美術教育の歴史(4) 大正期：自由画教育の時代
- 第5回 美術教育の歴史(5) 昭和初期：戦時下と戦後
- 第6回 学習指導要領の解説(1) 材料や場所をもとにした造形活動
- 第7回 学習指導要領の解説(2) 絵や立体、工作で表す活動
- 第8回 学習指導要領の解説(3) 材料と用具
- 第9回 学習指導要領の解説(4) 鑑賞
- 第10回 評価について
- 第11回 美術教育の方法論(1) 題材と主題／イメージ生成の手法
- 第12回 美術教育の方法論(2) 技法指導の問題点
- 第13回 現代の美術教育論 ハーバート・リード／エリオット・アイズナー
- 第14回 デジタル教科書について
- 第15回 図画工作科におけるアクティブ・ラーニング

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用しない。必要に応じて参考資料を配布する。

【参考図書】

小学校学習指導要領解説「図画工作編」、文部科学省。
金子一夫『美術教育の方法論と歴史』、中央公論美術出版。
ハーバート・リード『芸術による教育』、美術出版社。
E・W・アイズナー『美術教育と子どもの知的発達』、黎明書房。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

定期試験による評価。

【科目のレベル、前提科目など】

小学校教員免許を取得するための教職科目(選択科目)。

科目名	図画工作概説 I
	授業形態：講義
教員名	金子 亨

【授業の内容】

美術教育においては他の教科と同じように社会教育、教養教育、生涯教育の一環として学校教育を中心として広く行われている。現在、図画工作科教育は小学校学習指導要領 図画工作編にそって、造型遊び、絵にあらわす、立体にあらわす、工作、鑑賞教育であるが、内容をより深める為には発見学習、調査学習、体験学習が必要である。図画工作科の教科の意義と目的を理解し内容の理解を深め、教育現場で求められる教育力を高める為には、基礎的知識の深さに立脚した課題の発見、授業実践に必要な創造性と主体的に学びをとおして、協働してして問題解決に当たれる指導力、実践力を高め、養う事が求められる。

【到達目標】

小学校図画工作科の目標や内容及び特性への理解を深める。理解を深めるため、毎回小レポートにより学習課題を明確にしておく事。また小実技を通して実践的な指導力を身につけて、理論と実践を連動して指導できる力を身につける。

【授業計画】

第1回	第1回	テーマ	オリエンテーション (1) 授業計画、内容等、成績評価等の説明、図画工作に関する意識調査用紙提出
第2回	第2回	テーマ	小学校学習指導要領解説図画工作編について (1) 図画工作の学習指導要領とは何か 小レポート提出 (予習として図画工作指導要領の理解90分)
第3回	第3回	テーマ	造形表現の発達と類型 (1) 発達の一般的性質と描画の発達理論 (映像含む) 小レポート提出 (予習として図画工作指導要領の理解90分)
第4回	第4回	テーマ	図画工作のありよう (1) 平面について (映像含む) 小レポート提出 (予習として図画工作指導要領の理解90分)
第5回	第5回	テーマ	図画工作のありよう (2) 立体について 小レポート提出 (予習として図画工作指導要領の理解90分)
第6回	第6回	テーマ	図画工作のありよう (3) 工作について 小レポート提出 (予習として図画工作指導要領の理解90分)
第7回	第7回	テーマ	図画工作のありよう (4) 造型遊びについて 小レポート提出 (予習として図画工作科指導要領の理解 90分)
第8回	第8回	テーマ	図画工作のありよう (5) 映像メディア学習 小レポート提出 (予習として図画工作指導要領の理解90分)
第9回	第9回	テーマ	表現法 (1) 点・線・面 小レポート・小実技作品提出 (HB鉛筆持参) (予習として図画工作科指導要領の理解90分)
第10回	第10回	テーマ	表現法 (2) 遠近法 小レポート・小実技作品提出 (定規、HB鉛筆持参) (予習として図画工作指導要領の理解90分)
第11回	第11回	テーマ	表現法 (3) 明暗法 小レポート・小実技作品提出 (鉛筆H/HB/2B持参) (予習として図画工作指導要領の理解90分)
第12回	第12回	テーマ	表現法 (4) 多視点、キュービズム 小レポート・小実技作品提出 (鉛筆HB持参) (予習として図画工作科指導要領の理解90分)
第13回	第13回	テーマ	表現法 (5) 色彩、ホービズム等 小レポート提出 (予習として図画工作科指導要領の理解90分)
第14回	第14回	テーマ	鑑賞教育研究 (!) 対話型鑑賞教育 小レポート提出 (予習として図画工作科指導要領の理解90分)
第15回	第15回	テーマ	鑑賞教育題材研究 (2) 鑑賞教育まとめ、最終レポート提出

授業は各回完結型を目指し、授業の最後に簡単に授業をまとめた小レポートを提出。また、予習として毎回、調査学習をしておく事。

【授業の進め方】

必要に応じ授業の概要を記した授業概要を配布、指導ははパワーポイント、ビデオ、DVDを使い進めるが講義の他、グループごとの作業を取り入れる。また、受講者数が適正で可能な時はグループによる発表を取り入れる。毎回、学習内容の要点をまとめた小レポートの提出、関連した描画作品の提出を求める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①小学校学習指導要領解説図画工作編 ②文部科学省 ③日本文教出版 ④平成20年8月 ⑤81+税 ⑥978-4-536-59001-3

小学校学習指導要領解説 図画工作編

【参考図書】

『小学校新学習指導要領ポイントと授業作り図画工作』藤江充、辻政博編著 東洋館出版社
「小学校図画工作科 基礎基本と学習指導の実際—計画・実践・評価のポイント 板良敷敏編著 東洋館出版社
『図画工作の指導と評価』板良敷敏編著 東洋館出版社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

課題最終レポート、小レポート、（小実技（課題）はシラバスに記載がありませんが、評価の対象になります）受講態度も加え総合的に評価する

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回授業の最後に提出する小レポートも成績評価の対象となります

【履修上の心得】

持参物：筆記用具、ノート

小実技のときは前週に指示するので持参物を忘れないこと。

【科目のレベル、前提科目など】

図画工作科の基礎理解

【備 考】

小レポート、小実技時（課題）の欠席者に対しては提出日を指定し不利益とならないように対応する。

最終レポート提出日の欠席者に対しては提出日を指定し不利益とならないように対応する。

科目名	図画工作概説Ⅱ(立体)
	授業形態：講義
教員名	金子 亨

【授業の内容】

当講座では、現在の初等教育における図画工作教育の果たす役割とその意義について、学習指導要領を踏まえて概説する内容としたい。特に我々の身近にある三次元である、立体について考察することを主たる目的に据えて学ぶこととする。

【到達目標】

学習指導要領を踏まえて、特に立体についての知識を身近にある立体物を観察しながら、その機能と役割を検証する。図画工作で立体物の制作に使われる粘土や木材の特徴と加工法を学びながら、制作法、指導法を身につける。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション： 講義内容と受講にあたっての心構えと注意点の説明。(班構成等で調べたり発表する)
- 第2回 平面から立体へ：アントニオ・ロペスの作品をもとにして解説(平面・レリーフ・丸彫り等)(予習30分)
- 第3回 立体造形について1：ギリシャ、ペルシャの彫刻等の解説。(画集、インターネットでしらべておく。予習30分)
- 第4回 立体造形について2：ルネサンス彫刻から現代彫刻の解説(画集・インターネットで知識は得ておく事、予習・レポート作成180分)
- 第5回 粘土を使用した制作1(彫塑)食卓を題材とした作品制作、発想 粘土等、用具等の準備90分
- 第6回 粘土を使用した制作2(彫塑)：制作時間不足分は(復習90分)
- 第7回 粘土を使用した制作3(彩色)：彩色の為の用具準備、完成度を高めの(予習・復習90分)
- 第8回 木材の研究：木の種類と特徴についての解説と作品制作(作図)(作図の完成30分、次回準備30分)
- 第9回 木材の研究：作品制作(切断)・・・(不足制作時間90分)
- 第10回 木材の研究：作品制作(木組み)・・・(不足時間制作90分)
- 第11回 木材の研究：作品制作(着色)(着色剤の準備、乾燥90分)
- 第12回 模擬授業：前回の授業作品を使用した対話型鑑賞教育(準備・小レポート90分)
- 第13回 模擬授業：彫刻、木工作品等の立体物を使った対話型鑑賞教育 中学年対象(授業準備・小レポート90分)
- 第14回 模擬授業：彫刻、木工作品等の立体物を使った対話型鑑賞教育 高学年対象(授業準備・小レポート90分)
- 第15回 14回の講義及び実践で学んだ復習。(課題付きレポート)(90分)

【授業の進め方】

参考資料等のプリントや板書で説明と同時演習も加える。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

参考資料プリントを使用し参考書は使用しない。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

グループ(班)で制作発表を行っていくので、遅刻等は迷惑をかける事になりますので注意

【「成績評価の方法」に関する注意点】

最後までやり遂げる力をつけてほしい。

【履修上の心得】

歴史上重要な建築、彫刻、工芸品等の作品は調べておくこと。身近にある三次元(立体)について興味を持ち、その中から問題意識が芽生えることを期待する。

【科目のレベル、前提科目など】

図画工作概説Ⅰ

初等教育免許を取得する目的の学生対象

科目名	図画工作概説Ⅲ(平面)
	授業形態：講義
教員名	金子 亨

【授業の内容】

子供の美術表現は人間性を養うための重要な営みであり、絵を描くことを通して、対象の理解や自分の世界が深められ、感動する心、イメージする力を培うことが出来る。さらに作品を創る過程において、あるいは完成した作品を通して、対象理解や感動を共有することが出来る。このように心を共有しあえるという側面は、クラスの子供たちの相互理解や信頼感を高めるために今日、重視されるべきことである。

ここでは、主に絵画を通して、美術に関する諸能力を高めることを主眼に置き、絵画、版画、デザインなどについての理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

児童美術についての理解と、教員としての指導力を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス：授業の進行，平面系の作品制作に必要な用具・材料等について説明を行う。
- 第2回 表現の為の描画材：絵具、支持体、伝統的な技法、モダンテクニック等について、準備：各自90
- 第3回 絵画指導の実際（予習で各自、図画教育史の中の観察画とは何か調べてきて話し合いながら各自描く、
- 第4回 絵画指導の実際：（予習で各自、図画教育史の中の生活画とは何か調べてきて話し合いながら各自描く、予習30分、自宅制作60分）スケッチブックF6、クレヨン、色鉛筆
- 第5回 絵画指導の実際：（予習で各自、図画教育史の中の構想画とは何か調べてきて話し合いながらまとめ、各自制作する、予習30分、自宅制作60分）スケッチブックF6、クレヨン、色鉛筆
- 第6回 絵画指導の実際：（版画①各自版画の種類を調べ、班別に話し合いながら、翌週の制作の準備をする。予習30）紙版画、木版画等
- 第7回 絵画指導の実際：（版画②）前回の話し合いをもとに、各自、制作を行う。予習・準備90分）紙版画、木版画等
- 第8回 絵画指導の実際：（共同制作①）前回の話し合いをもとに、各自、制作手順のプリント、担当の用具、材料等をそろえる、予習・準備90分）紙版画、木版画等
- 第9回 絵画指導の実際：（共同制作②）：話し合った結果を踏まえ、分担しながら、制作を進める。（紙、描画材は用意しておく事、準備30分）
- 第10回 絵画指導の実際：班別に指導要領をもとに、低学年から中学年、高学年までの指導に当たったの問題点を検証する。（授業までに予習30分）
- 第11回 望ましい教師像：班別に個人が、図画工作の教員の理想像を話し合いながら、個人が自分の図画教員の理想像をレポートにまとめる（120分）
- 第12回 模擬授業：表現 ①絵画 高学年対象（準備：各自90分以上）
- 第13回 模擬授業：鑑賞 ②対話型鑑賞教育 低学年対象（準備：各自90分）
- 第14回 模擬授業：鑑賞 ③対話型鑑賞教育 高学年対象（準備：各自90分）
- 第15回 子どもの絵と想像力、まとめ

【授業の進め方】

要点はプリント、板書、参考作品によって解説を加える。その理解のために小グループによる実技実習から発表まで行う。学生の能力と資質に応じた計画と指導をめざす。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

テキストは必要に応じて紹介する、また、プリント等配布する。画材を必要とするが、その都度指示する。

【参考図書】

必要に応じて、その都度指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

「履修規定」に準ずる。提出された作品、レポートによる。また、発表する意欲も重視する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

定期試験は実施しないが、制作態度は重視する。

【履修上の心得】

予習・復習の時間は個人差があるので、記載時間は目安である。課題は最後まで頑張って制作する事。

【科目のレベル、前提科目など】

図画工作概説Ⅰ、図画工作科教育法

小学校教員免許を取得する学生の為の科目

科目名	体育概説 I
授業形態	講義
教員名	体育担当教員

【授業の内容】

本科目の目的は、小学校学習指導要領に示されている体育科の内容に関して学ぶことである。

【到達目標】

小学校における体育科の位置づけを知り、授業運営や教材研究の進め方などを講義や実技を通して理解する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- ・授業の進め方について
 - ・とり上げる運動領域について
 - ・グルーピングについて……3グループを編成する
- 第2回 グループA ボール運動①……ゴール型ゲームで育てたい子どもたちの力や態度
 グループB 表現運動①……表現運動で育てたい子どもたちの力や態度
 グループC 器械運動①……器械運動で育てたい子どもたちの力や態度
- 第3回 グループA ボール運動②……ゲームに必要となる技術と技能習熟
 グループB 表現運動②……表現運動における教材のとらえ方
 グループC 器械運動②……器械運動における技術の系統と教材のとらえ方
- 第4回 グループA ボール運動③……ゴール型ゲームのルールや戦術のとらえ方
 グループB 表現運動③……表現運動における授業展開の実際
 グループC 器械運動③……器械運動における学習内容と方法
- 第5回 グループA ボール運動④……ボール運動における評価
 グループB 表現運動④……表現運動における評価
 グループC 器械運動④……器械運動における評価
- 第6回 グループB ボール運動①……ゴール型ゲームで育てたい子どもたちの力や態度
 グループC 表現運動①……表現運動で育てたい子どもたちの力や態度
 グループA 器械運動①……器械運動で育てたい子どもたちの力や態度
- 第7回 グループB ボール運動②……ゲームに必要となる技術と技能習熟
 グループC 表現運動②……表現運動における教材のとらえ方
 グループA 器械運動②……器械運動における技術の系統と教材のとらえ方
- 第8回 グループB ボール運動③……ゴール型ゲームのルールや戦術のとらえ方
 グループC 表現運動③……表現運動における授業展開の実際
 グループA 器械運動③……器械運動における学習内容と方法
- 第9回 グループB ボール運動④……ボール運動における評価
 グループC 表現運動④……表現運動における評価
 グループA 器械運動④……器械運動における評価
- 第10回 グループC ボール運動①……ゴール型ゲームで育てたい子どもたちの力や態度
 グループA 表現運動①……表現運動で育てたい子どもたちの力や態度
 グループB 器械運動①……器械運動で育てたい子どもたちの力や態度
- 第11回 グループC ボール運動②……ゲームに必要となる技術と技能習熟
 グループA 表現運動②……表現運動における教材のとらえ方
 グループB 器械運動②……器械運動における技術の系統と教材のとらえ方
- 第12回 グループC ボール運動③……ゴール型ゲームのルールや戦術のとらえ方
 グループA 表現運動③……表現運動における授業展開の実際
 グループB 器械運動③……器械運動における学習内容と方法
- 第13回 グループC ボール運動④……ボール運動における評価
 グループA 表現運動④……表現運動における評価
 グループB 器械運動④……器械運動における評価
- 第14回 小学校における体育授業の実際
 授業映像や学習指導案にもとづいた教材や授業展開の考え方
- 第15回 全体総括
 小学校教育における体育科の教科性と意義（グループ・ディスカッション）

本科目の内容は、小学校学習指導要領の概要、7領域のうち「器械運動」「表現運動」「ボール運動」の技術や理論についてである。

小学校学習指導要領の概要については、教科の目標、各領域の大まかな内容と構造等について学んでいく。加えて、小学生の体力の現状や体育授業の現状についても事例をもとに学んでいく。

「器械運動」については、マット、鉄棒、跳び箱運動の小学校6年間を見通した授業づくりの考え方を理論と簡易な

実技を通じて学んでいく。

「表現運動」については、フォークダンスや創作表現をしていく上での基礎的な動きやリズムに合わせた動き等を学んでいく。

「ボール運動」では、ゴール型ゲームとベースボール型ゲームの二つを取り上げる。

なお、「器械運動」「ボール運動」のうち本講義で扱わない運動と「陸上運動」「体づくり運動」の内容については、体育概説Ⅱで扱うこととする。

【授業の進め方】

授業は3名の教員で担当をする。初回及び14、15回目は全体講義とする。2回目から13回目まではグループに分かれて授業を行う。実技授業の回には自らの身体を動かして技能習得にも努めてもらう（体験学習）。また、グループ内で指導し合ったり（グループ・ワーク）、演技や発表の仕方に関する話し合い（グループ・ディスカッション）を通して、教員という立場で授業運営を行っていく際の注意点などについて学んでいく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

資料は適宜配布する。

【参考図書】

小学校学習指導要領解説体育編・文部科学省・東洋館出版社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 20% レポート・課題 40% 受講態度 40%

特記事項

授業参加時の学習態度や意欲を重視する。実際に児童生徒の立場に立つことと教員（授業者）の立場に立つことの両面から本講義の意義を考えてほしい。

講義の際に提示した課題の提出や講義内に作成するレポート、講義への参加態度等を総合的に判断する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

3人の教員がローテーション方式で担当する。各教員の講義は4回となるが、このうち2回欠席とならないよう留意してほしい。

【履修上の心得】

本科目は、単に体を動かすだけの科目ではない。小学校の体育において必要とされる技術的なポイントや動きの基礎などを知的に理解することも含んでおり、「できる」と「わかる」の統一を目指している。そのため毎時間必ず筆記用具を持参し、ポイントを積極的にメモすること。また、実技を兼ねて行う場合、運動着で参加をすること。体育は、教育実習においても指導しなくてはならない可能性が高く、子どもの安全管理に直結する科目でもある。実習先で困惑しないためにもしっかりと基礎的なルールや技術を理解してもらいたい。

【科目のレベル、前提科目など】

本科目は、体育科教育法、体育概説Ⅱと関連している。

体育概説Ⅰは、小学校において体育を指導するための入門となる科目である。

【備 考】

実技授業の際にはフードのついていないウエアを着用すること。

科目名	体育概説 I
教員名	授業形態：講義 体育担当教員

【授業の内容】

本科目の目的は、小学校学習指導要領に明示されている体育科の内容に関して学ぶことである。

【到達目標】

小学校における体育科の位置づけを知り、授業運営や教材研究の進め方などを講義や実技を通して理解する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- ・授業の進め方について
 - ・とり上げる運動領域について
 - ・グルーピングについて……2グループを編成する
- 第2回 グループA：陸上運動1 走・跳の基礎的な運動
グループB：器械運動1 基礎的な運動感覚を養う運動
- 第3回 グループA：陸上運動2 低学年のリレー遊び
グループB：器械運動2 マット遊び
- 第4回 グループA：陸上運動3 低学年の「跳ぶ」を中心とした運動遊び
グループB：器械運動3 とび箱遊び
- 第5回 グループA：ボール運動1 投捕の技能を高める運動遊び
グループB：体づくり運動1 多様な動きづくり
- 第6回 グループA：ボール運動2 ボール投げをもとにしたゲーム
グループB：体づくり運動2 用具を使った運動遊び
- 第7回 グループA：ボール運動3 ボールけり遊び
グループB：体づくり運動3 用具を使った運動遊びと遊びづくり
- 第8回 グループB：陸上運動1 走・跳の基礎的な運動
グループA：器械運動1 基礎的な運動感覚を養う運動
- 第9回 グループB：陸上運動2 低学年のリレー遊び
グループA：器械運動2 マット遊び
- 第10回 グループB：陸上運動3 低学年の「跳ぶ」を中心とした運動遊び
グループA：器械運動3 とび箱遊び
- 第11回 グループB：ボール運動1 投捕の技能を高める運動遊び
グループA：体づくり運動1 多様な動きづくり
- 第12回 グループB：ボール運動2 ボール投げをもとにしたゲーム
グループA：体づくり運動2 用具を使った運動遊び
- 第13回 グループB：ボール運動3 ボールけり遊び
グループA：体づくり運動3 用具を使った運動遊びと遊びづくり
- 第14回 小学校の体育授業づくり
授業映像にもとづいた教材や授業展開の考え方と授業実践
- 第15回 総括
体育科で育てたい力をどのように実現していくか

本科目の内容は、小学校学習指導要領の概要と内容で示されている7領域のうち「器械運動」「ボール運動」「陸上運動」「体づくり運動」の技術や理論について体を動かしながら学ぶことである。主に低学年に焦点を当てて授業内容を設定する。

小学校学習指導要領の概要については、教科の目標、各領域の大まかな内容と構造等について学んでいく。加えて、小学生の体力の現状や体育授業の現状についても事例をもとに学んでいく。

【授業の進め方】

授業は、2名の教員で担当をする。初回および14、15回は全体講義とする。2回目から13回目まではグループに分かれて授業を行う。毎時間は、理論と実技で構成される。実技授業の回には自らの身体を動かして技能習得にも努めてもらう（体験学習）。また、グループ内で指導し合ったり（グループ・ワーク）、演技や発表の仕方に関する話し合い（グループ・ディスカッション）を通して、教員という立場で授業運営を行っていく際の注意点などについて学んでいく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

資料は適宜配布する。

【参考図書】

小学校学習指導要領解説体育編・文部科学省・東洋館出版社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 60%

特記事項

授業参加について、学習意欲や参加態度を重視する。実際に児童生徒の立場に立つことと教員（授業者）の立場に立つことの両面から本講義の意義を考えてほしい。講義の際に提示した課題の提出、講義内に作成するレポートや講義への参加態度等を総合的に判断する。

【履修上の心得】

本科目は、単に体を動かすだけの科目ではない。小学校の体育において必要とされる技術的なポイントや動きの基礎などを知的に理解することも含んでおり、「できる」と「わかる」の統一を目指している。そのため、毎時間、必ず、筆記用具を持参し、ポイントを積極的にメモすること。また、実技を兼ねて行う場合、各種運動に適した服装で参加をすること。体育は、教育実習においても指導しなくてはならない可能性が高く、子どもの安全管理に直結する科目でもある。

【科目のレベル、前提科目など】

本科目は、子どもの運動、体育科教育法、体育概説Ⅱと関連している。

体育概説Ⅰは、小学校において体育を指導するための入門となる科目である。

科目名	体育概説Ⅱ
	授業形態：講義
教員名	内田 雄三

【授業の内容】

本科目の目的は、小学校学習指導要領に示されている体育科の内容に関して学ぶことである。

【到達目標】

体育概説Ⅰで学んだ内容にもとづき、各運動領域における授業づくりについて実技を通して理解する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
授業の概要説明 提出物等の説明
- 第2回 陸上運動1
短距離走・リレーの学習内容と授業の考え方
- 第3回 陸上運動2
ハードル走の学習内容と授業の考え方
- 第4回 陸上運動3
走り幅跳び・走り高跳びの学習内容と授業の進め方
- 第5回 陸上運動4
陸上運動領域の授業づくり
- 第6回 ボール運動1
ネット型・連係プレイ型のゲーム（ソフトバレーボール）
- 第7回 ボール運動2
ネット型・連係プレイ型のゲーム（プレルボール）
- 第8回 ボール運動3
ベースボール型・投捕を中心としたゲーム～「打つ」を採り入れたゲーム
- 第9回 ボール運動4
ボールゲームの授業づくり
- 第10回 器械運動1
器械運動に共通する多様な運動感覚と、感覚づくりの運動遊び
- 第11回 器械運動2
跳び箱運動における翻転系の技と学習の進め方
- 第12回 器械運動3
跳び箱運動における回転系の技と学習の進め方
- 第13回 器械運動4
鉄棒遊び～鉄棒運動の学習の進め方
- 第14回 器械運動5
器械運動領域の授業づくりのポイント
- 第15回 総括 小学校教育における体育の教科性と授業づくり
授業映像と学習指導案にもとづく体育授業実践の紹介

本科目の内容は、小学校学習指導要領の概要と高学年で示されている7領域のうち「陸上運動」「器械運動」「ボール運動」「体づくり運動」の技術や理論の学習を進め、小学校において体育を指導できるようにすることである。その際、アクティブ・ラーニングの視点に立った体育授業における問題解決学習の在り方について、実技の場面を通して採り上げていく。「体づくり運動」については他の3領域と関連させながら各授業で運動例等を紹介する。

【授業の進め方】

本科目は、教室・体育館（グラウンド）のいずれも使用する。教室では現場の授業映像や実際に用いられた学習指導案などを資料とし、指導のポイントや背後にある理論について実技を通して学ぶ。体育館であっても半分の時間は理論学習である。また小学校の体育授業で実践されているICTを利用した指導法についても紹介しながら、その効果的な利用方法について検討する場面を設定する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

資料を適宜配布する。

【参考図書】

文部科学省、小学校学習指導要領解説体育編、東洋館出版社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 20% レポート・課題 40% 受講態度 40%

特記事項

受講態度と授業内のグループワークを重視する。運動領域によって授業づくりの手だては異なり、また特徴的である。すべての領域をカバーして授業づくりの見通しを持つ必要がある。その他レポートによる講義内容の確認と講義中の意欲的な参加を期待している。

【履修上の心得】

本科目の履修者は3年生以上であり、教育実習を目前に控えている学生がいる。教育実習先で安全且つ楽しく授業を進めるには授業者の用意周到な準備が必要となる。本科目では、「陸上運動」「器械運動」「ボール運動」「体づくり運動」の実技を交えながら、そうした準備の重要性を実感してもらいたい。

【科目のレベル、前提科目など】

本科目は、体育科教育法、体育概説Ⅰと関連している。

体育概説Ⅱは、小学校において体育を指導するための応用科目として位置づけている。

科目名	子どもの運動
	授業形態：演習/授業回数：15回（30時間）
教員名	内山 須美子

【授業の内容】

保育者あるいは教員として、以下の通りの必要な資質を身につける。

1. 子どもの身体の発達や運動能力の発達について理解していること
2. こどもの体育指導の基礎的な理解と指導援助法を身につけていること

【到達目標】

1. 子どもの身体の発達や運動能力の発達について理解できる。
2. こどもの体育指導の基礎的な理解と指導援助法を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス：授業の進め方と内容および成績評価について説明。
- 第2回 保育士や教員の仕事における幼児体育の位置づけを理解するとともに、保育士や教員の仕自身の健康の維持や体力の必要性について理解する。
- 第3回 一般的な身体発達・運動能力の発達について理解するとともに、幼児期の身体発達・運動能力の発達について理解する。
- 第4回 年齢に見合った運動遊びや体育の学習内容について理解する。
- 第5回 運動遊びや体育学習が、身体・運動発達だけでなく社会性・協調性・思考力を育むものであることを理解するとともに、具体的な運動遊びや体育の学習を通して、安全管理のポイント、指導・援助の方法について学ぶ。
- 第6回 指導事例1：仲間との交流を大切にした運動遊び：幼児期は能動的な社会的行動が可能になる時期であるので、仲間との交流が内発的動機付けを高めるような活動となる必要がある。体が触れ合う、目と目を合わせ、友達の声が聞こえるなど身体感覚的、情緒的な経験をもたらす運動遊びについて学ぶ。
- 第7回 指導事例2：ルールのある運動遊び：子どもの運動遊びにおいてはルールのないところから始まり、次に行動、勝敗、空間、時間、用具、チーム、役割などからルールを工夫し発展させることが重要である。運動遊びの場面で、ルールや決まりをめぐって主体的経験をすることによって、子どもの運動への関心が異なることについて学ぶ。
- 第8回 指導事例3：表現を引き出す運動遊び：子どもが感じ・考えたことを動きで表すことができるような模倣遊び、運動遊びについて学ぶ。
- 第9回 指導事例4：リズムを引き出す運動遊び：音楽に合わせて体を動かすことで、音を感じて楽しむこと、仲間との協調性やリズム感も身につけることができるリズム遊びや運動遊びについて学ぶ。
- 第10回 模擬授業1：多様な動きを経験する運動遊び：幼児期の発達にふさわしい多様な運動パターンの獲得を、遊びにつなげながら子どもに保障していくための環境構成について学ぶ。
- 第11回 模擬授業2：ボールを使った多様な動きを引き出す運動遊び：ボールへの慣れ、ボールの特徴を知る、転がす、投げる、蹴るなど、ボールを扱う基本的な動きができるような運動遊びと指導法について学ぶ。
- 第12回 模擬授業3：体のバランスをとる動きを引き出す運動遊び：幼児期運動指針に示されている体のバランスをとる動き（渡る、もぐる、座る、しゃがむ、転がる、まわる、さかさまになる）を経験させる運動遊びと指導法について学ぶ。
- 第13回 模擬授業4：体を移動する動きを引き出す運動遊び：幼児期運動指針に示されている体を移動する動き（のぼる、下りる、滑る、歩く、走る、跳ぶ、這う、よける、かわす、くぐる、逃げる）を経験させる運動遊びと指導法について学ぶ。
- 第14回 模擬授業5：用具を操作する動きを引き出す運動遊び1：幼児期運動指針に示されている用具などを操作する動き（運ぶ、持つ、上げる、つかむ、乗る、こぐ）を経験させる運動遊びと指導法について学ぶ。
- 第15回 模擬授業：用具を操作する動きを引き出す運動遊び2：幼児期運動指針に示されている用具などを操作する動き（投げる、捕る、投げ入れる、当てる、ぶつける、転がす、蹴る、打つ、振り回す、押す、引く、引っ張る）を経験させる運動遊びと指導法について学ぶ。

【授業の進め方】

保育園、幼稚園での運動遊び、体育指導の内容を学んだ上で、自分達で調べた運動遊びをプログラム化し、模擬的に指導を実施します。模擬授業の準備と実施はグループ・ワークになります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に指定しない

【参考図書】

幼児期における運動発達と運動遊びの指導：遊びの中で子どもは育つ。杉原隆・河邊貴子。ミネルヴァ書房。2014年5月30日。2400円。ISBN978-4-623-07022-0。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

受講態度・模擬授業の内容と取り組みの様子の2点から評価します。

レポート・課題→模擬授業の内容と取り組み方 70%

受講態度→30%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。
- ・受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

仲間と共に問題を発見し、それを解決しようとする主体的な姿勢で授業に取り組むこと。

科目名	教育基礎論
	授業形態：講義
教員名	小泉 祥一

【授業の内容】

教育基礎論の目的は、現実の教育現場におきるさまざまな問題や現象を、教育の本質から考察し、理解する視点を養うことである。教師は、教育現場においては、多種多様な問題に遭遇し、その度に適切な判断を求められる。その判断は、生きている子ども達を対象にしているため、責任があると同時に、状況に応じては、きわめて難しい。正解を求めることよりも、事実に基づき、教育の本質から、あるべき姿を求め続ける態度を養うことも、本科目の目的である。

【到達目標】

- ① 教育の基本的な考え方を理解すること
- ② 教育の課題について、自分の考えを表現できること
- ③ 教育のあり方について、考察できること
- ④ 教育の課題解決に向けて、自分で計画できること
- ⑤ 教育の諸課題について、議論できること

【授業計画】

- 第1回 全体の構成
- 第2回 教育とは何か、学びとは何か
- 第3回 発達と教育の関係
- 第4回 教育の思想と歴史（近代）
- 第5回 教育の思想と歴史（現代）
- 第6回 日本の教育史
- 第7回 いじめ問題
- 第8回 不登校問題
- 第9回 学級経営とは何か
- 第10回 教育課程とは何か
- 第11回 学力評価とは何か
- 第12回 学校改革とは何か
- 第13回 特別支援教育とは何か
- 第14回 教師とは何か
- 第15回 教育の国際化の動向

【授業の進め方】

基本的な内容を講義する。

講義内容に関連した課題を出すので、問題をどうとらえるか、どう理解するか、どう対応するかについて、自分の意見を、小論文形式で書く。

この方法によって、教育現場の問題を、どう考え、判断するかという視点と態度を養う。

関連する情報を収集したり、映像を視聴したりすることもある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない。

プリントを配布する。

【参考図書】

- 日本教育方法学会編『教育方法学研究ハンドブック』学文社、2014年10月
 日本教育方法学会編『現代教育方法事典』図書文化社、2004年10月（共編著）
 日本カリキュラム学会編『現代カリキュラム事典』ぎょうせい、2001年2月（共編著）
 安彦忠彦・新井郁男他編『新版 現代学校教育大事典』ぎょうせい、2002年
 細谷俊夫・奥田真丈・河野重男・今野喜清編『新教育学大事典』第一法規、1990年
 吉本均編『現代授業研究大事典』明治図書、1987年3月
 教育実践事典刊行委員会編『教育実践事典』労働旬報社、1982年
 梅根・海老原・中野編『資料日本教育実践史』全5巻、三省堂、1979年
 赤堀侃司（著）『新版 教育工学への招待』（株）ジャムハウス、2013年2月

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 30% 授業内小試験 20% レポート・課題 30% 受講態度 20%

特記事項

授業内小テスト、レポート・課題、平常点、定期試験で行う。

【履修上の心得】

自分で考える習慣を身につけること、人前で自分の意見を発表できることが、基本になる。
授業では、必ず自分の意見を求められるので、恥ずかしがらないで、意見を述べること。
ノートすること、まとめて書くことが、基本なので、毎時間の授業で、練習していただきたい。

【科目のレベル、前提科目など】

教職の免許を取得する学生にとっては、必修科目であり、教育学の基礎的な内容である。

科目名	教育基礎論
教員名	金井 正

【授業の内容】

今我が国は、知識基盤社会が進展する中、グローバル化や少子化・高齢化など社会が急激に変化し、それに伴う学力や児童生徒の問題行動等に対応する学校教育への期待が一層高まっている。

そこで本講義は、人づくりという重大な使命を担う教職の世界に生起する様々な問題や現象について、改めてその本質から考察し理解する視点を養うことにより、教師としての適切な判断力を持ち、明確な理念の下に教育活動が実践できる教員の養成を図るとともに、その担い手となるべく教員採用試験を突破できる実践的な力量を培うものである。

【到達目標】

- ・教育の基本的な考え方について理解できる。
- ・教職の在り方について、考察できる。
- ・教職を取り巻く課題解決に対して、自分の考えを述べることができる。
- ・採用試験に向け、今後の自分の在り方を考え、より良い方向に向け努力することができる。

【授業計画】

第1回 1 教育とは

- 1) 教育、学校の誕生とその歩み
 - ・学習課題(予習・復習)：配布したレジュメ等資料を基に授業ノートを充実させること。
 - 予習は本シラバスによって、復習は授業時に配布したレジュメ等資料を基に行うこと。
 - 以下、各回の授業に対して、予習・復習を行い、その時間は90分程度を目安にする。

第2回 2 教育を取り巻く環境

- 1) 公教育と私教育

第3回 2) 学校教育の今日的課題

第4回 3) 開かれた学校教育の推進

第5回 4) 教育委員会制度と教育行政の地方分権

第6回 3 教員の世界

- 1) 教員養成と採用試験
 - これからの時代に求められる教員の資質能力の養成
 - アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善

第7回 2) 教員組織の特徴と組織マネジメント

第8回 3) 教員の職務と専門性

第9回 4) 教員の校務と多忙感

第10回 5) 教員の身分と指導力不足(不適切)教員

第11回 6) 教員評価と人事考課制度

第12回 7) 教員のサービスと懲戒

第13回 4 教職に関わる制度改革

- 1) 教員免許制度改革と免許更新制度

第14回 2) 小中一貫教育と学校2学期制

第15回 3) 学校選択制

【授業の進め方】

- ・授業レジュメ(内容の詳細)を毎回配布し、それに沿った授業を展開する。
- ・課題の発見、解決等を重視し、ディスカッション等により主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業とする。
- ・具体的な例示や質問、感想等を活用し、わかる授業に努める。
- ・系統性を重視した講義に努める
- ・学生は、必ず授業ノートを作成し、充実に努める。特に復習に時間をかけるようにする。
- ・学生は、次時の内容について(レジュメで確認)、関係する書籍やインターネット等を活用し予習をして授業に臨むこと。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①中学校学習指導要領 ②文部科学省 ③東山書房 ④平成22年一部改正 ⑤370 ⑥4-8278-1540-5

毎回授業用のレジュメ等資料を配布するので、順よくファイルし教科書として活用すること。
 また、必ず授業ノートをつくること。

【参考図書】

参考図書等は、その都度紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

定期試験は記述式で行う。

受講態度は、授業への取組（質問に対する発言、質問、学習態度等）を重視する。

【履修上の心得】

- ・理由書の提出または学生証の不正使用は、依頼者、行為者ともに重大な欠席とする。
- ・教職に就こうとする者は、教育者としての適性、能力が問われる。従って、それなりの授業態度を要求する。

科目名	教育基礎論
	授業形態：講義/授業回数：15回（30時間）
教員名	有馬 知江美

【授業の内容】

教師や保育者を目指す者にとって、教育の原理を学ぶことは不可欠である。人間とは何か、人間形成とは何かを常に考えながら子どもの人間形成に寄与しうる教師や保育者となるために、教育に関する基礎理論の理解が必要である。本科目ではまず教育の意義にはじまり、教育をめぐる思想と歴史の変遷を辿ることとする。その際、諸外国及び我が国の教育思想とそれに基づく諸実践や、近代学校及びその後の学校教育等を、その根底にある制度的及び法的理解を含みながら学ぶものとする。さらに、我が国の現在の学校教育を中心に、目的、内容、方法の関係性を理解しながら諸実践を捉え、今後の望ましい教師及び保育者のあり方について考えるものとする。

【到達目標】

1. 教育の意義、目的及び児童福祉等とのかかわりについて理解する。
2. 教育の思想と歴史の変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。
3. 学校教育について内容、方法、実践の関係性を理解する。
4. 教育実践のさまざまな取り組みについて理解する。
5. 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。

【授業計画】

- 第1回 教育の意義（1）人間形成とは何か
 第2回 教育の意義（2）生涯にわたる学び
 第3回 教育の意義（3）生きる権利・学ぶ権利・遊ぶ権利の保障：ユニセフ『世界子供白書』のダウンロード（予習30分）。同資料に基づき小レポートの作成（復習90分）。
 第4回 教育の意義（4）人間形成と家庭・学校等・地域・社会との関連性
 第5回 教育をめぐる思想と歴史の変遷（1）子どもと大人の関係史（子どもと大人の関係を可視化し、ディスカッションする。）
 第6回 教育をめぐる思想と歴史の変遷（2）子どもの発見（教育史年表を作成しながら受講する。第6回から第10回まで）
 第7回 教育をめぐる思想と歴史の変遷（3）子どもの感性の育成をめぐる教育思想（教材の体験学習を含む。）
 第8回 教育をめぐる思想と歴史の変遷（4）近代学校教育とその変遷①近代学校教育の思想
 第9回 教育をめぐる思想と歴史の変遷（5）近代学校教育とその変遷②近代学校教育の変遷
 第10回 教育をめぐる思想と歴史の変遷（6）現代の学校教育と課題：現代の我が国の子どもの問題をWEB上で調べておく（予習30分）。
 第11回 学校教育の目的
 第12回 教育課程
 第13回 教育の実践
 第14回 教育と保育の関係性
 第15回 まとめ—期待される教師像及び保育者像

授業内でグループワークを取り入れることが多いため、積極的に参加する。

【授業の進め方】

講義を中心とするが、グループごとの作業やディスカッション等も取り入れて進めていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①幼稚園教育要領解説 ②文部科学省 ③フレーベル館 ④2008年 ⑤200円
 ①保育所保育指針解説書 ②厚生労働省 ③フレーベル館 ④2008年 ⑤200円
 ①幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 ②内閣府 文部科学省 厚生労働省 ③フレーベル館 ④2015年 ⑤249円
 ①小学校学習指導要領 ②文部科学省 ③東京書籍 ④2008年 ⑤245円

各回、資料を配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 20% レポート・課題 10% 受講態度 10%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。
- ・受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

- ・全回出席を原則とする。

【科目のレベル、前提科目など】

- ・教職科目の基礎科目である。
- ・保育士資格取得のための重要な科目である。

科目名	教育課程論P
授業形態	講義/授業回数：15回（30時間）
教員名	福崎 淳子

【授業の内容】

「教育課程」とは、入園から修了までの園生活全期間のなかで、子どもが身につける経験内容の総体を示したものであり、保育を展開していくためのおおまかな道筋が示されています。園生活の全体を見通した最も大きな計画（全体的な計画）といえます。

乳幼児の集団を一定の時間と期間預かり、保育・教育する集団的な保育施設における保育は、保育の専門家である幼稚園教諭、保育士、保育教諭によって、意図的・計画的に進められており、高い専門性が求められています。

本科目では、高い専門性の求められる保育において、保育の内容の充実と質の向上をめざし、保育の基本理念を理解するとともに、保育の過程（計画→実践→省察・評価→改善）の連続性を学びながら、子どもの特性に沿った計画を立案できるように、「教育課程」の意義およびその編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む）を学びます。

【到達目標】

1. 教育・保育内容の充実と質の向上に資する計画と評価について理解する。
2. 教育課程をふまえた指導計画の作成方法について理解する。
3. 計画、実践、省察・評価、改善の過程について、全体構造を把握しながら、その連続性を理解する。
4. カリキュラム・マネジメントの三つの側面について理解する。

【授業計画】

- 第1回 保育とは - 保育の基本および教育課程の意義 -
育児と保育の違いについてのグループディスカッションをふまえながら、教育課程の意義について考える
学習課題：育児と保育の違いは、どこにあるのだろうか、その違いについて考えておく（30分）
- 第2回 幼稚園、保育所、認定こども園について - 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」をもとに考える -
学習課題：幼稚園・保育所・認定こども園のもつ役割を考えておく（30分）
- 第3回 保育のしくみ① - 保育の場と計画性について -
学習課題：幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容を確認しておく（45分）
- 第4回 保育のしくみ② - 願いをもって保育にかかわるとは -
実践事例をもとに、グループ・ディスカッション
学習課題：保育者が願いをもつとはどういうことが、考えておく（30分）
- 第5回 保育の過程① - 過程としての保育実践 -
エピソードをもとに、グループ・ディスカッション
学習課題：前回のグループ・ディスカッションの内容を整理し、自分の考えをまとめておく（45分）
- 第6回 保育の過程② - 子ども理解と指導計画の作成 -
エピソードをもとに、グループ・ディスカッションを行いながら、指導計画の作成のしかたについて考える
学習課題：前回のグループ・ディスカッションの内容を整理し、自分の考えをまとめておく（45分）
- 第7回 保育の過程③ - 保育実践の展開とその振り返り -
学習課題：保育を振り返ることの意味を考えておく（30分）
- 第8回 カリキュラム・マネジメントのとらえ方を深めるために - 三つの側面について -
学習課題：教育課程の意義について、再度確認しておく（30分）
- 第9回 保育の専門性 ビデオによる実践的映像をもとに、グループ・ディスカッション
学習課題：保育の専門性とはなにか、自分なりの考えを整理しておく（30分）
- 第10回 指導計画（長期的・短期的）の作成の基本とその方法
学習課題：指導計画の意味について、再確認しておく（30分）
- 第11回 保育の省察と記録について
実践事例をもとに、グループ・ディスカッション
学習課題：記録する意味について、再確認しておく（30分）
- 第12回 教育課程にもとづく教育活動の質的向上をめざして① - 理想の園（教育課程を軸に）の要覧づくりにむけての話し合い -（グループワーク）
学習課題：自分が理想とする園への提案を、各自整理しておく（30分）
- 第13回 教育課程にもとづく教育活動の質的向上をめざして② - 理想の園の要覧づくりの取り組み -（グループワーク）
学習課題：前回のグループワークの内容を整理し、具体的な要覧づくりにむけて、各自準備する（60分）
- 第14回 教育課程にもとづく教育活動の質的向上をめざして③
理想の園の要覧づくりのグループ発表
学習課題：グループ発表にむけて、各自の役割を確認しておく（60分）
- 第15回 全体的なまとめ - 生活と発達の連続性をふまえて（カリキュラム・マネジメントを含む） -
学習課題：カリキュラム・マネジメントの三つの側面について、再確認しておく（30分）

【授業の進め方】

これまでの保育に関連する授業での学びをふまえながら、将来保育の担い手となるために、できるだけ多くの実践事例やエピソードをもとに、グループディスカッションやディベートを重ねていきたいと考えています。積極的な参加とともに、他者の意見に耳を傾けながら、保育の根底にある大切な考え方や教育課程にもとづく教育活動（カリキュラム・マネジメントを含む）の理解を深めていけるように進めていきます。

そして、その学びをもとに、自分が考える理想の要覧づくりを課題に、グループワークを行います。グループ発表に向けて、有意義なグループワークになるよう真摯に取り組んでくださることを願っています。

なお、授業の進度によって、授業計画の順番や内容を一部変更する場合があります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に指定しません。授業にあわせた資料（平成29年告示の「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を含む）を適宜配付します。

【参考図書】

- ・「保育方法の探究」柴崎正行編著 建帛社 2011年
 - ・平成20年告示「幼稚園教育要領」文部科学省 平成20年告示「保育所保育指針」厚生労働省 平成26年告示「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府
- なお、授業中にも適宜紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 25% レポート・課題 50% 受講態度 25%

特記事項

- ・「授業内小試験」とは、授業内において適宜行う「復習シート」や課題（授業の振り返りなど）の取り組みです。
- ・「レポート・課題」とは、主に最終のまとめのレポートです。レポート課題の指示を出しますので、その内容に即してまとめてください。
- ・「受講態度」は、グループ・ディスカッションやグループ・ワークに取り組む姿勢および授業への参加の姿勢です。グループ活動に積極的に取り組むとともに、真摯な姿勢で授業に臨んでください。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・成績評価の方法は、「履修規程」に準じます。
- ・受験資格は、「保育士資格規定」に準じます。
- ・授業内における課題やまとめのレポートは、その課題内容を理解してまとめることが重要です。
- ・評価基準に基づき、グループワークの取り組みやその発表の成果、復習シート、課題提出、レポート提出を含め、総合的に評価します。

【履修上の心得】

- ・全回出席を原則とします。
- ・できるだけ日常的な保育の生活文脈における実践事例やエピソードを、配付資料やビデオを通して紹介していきますので、自らもかかわりある事象として子どもの姿をとらえながら、自分だったら子どもとどのようにかかわるだろうか、と考えながら授業に臨んでください。
- ・適宜グループ・ディスカッションやグループ・ワークを行いますので、積極的に話し合いに参加し、自分の考えをしっかりと示すとともに、他者の意見にも耳を傾けながら、真摯な姿勢で授業に臨んでください。

【科目のレベル、前提科目など】

- ・保育の内容・方法に関する科目に位置付けられた保育士資格取得のための重要な科目です。
- ・教職課程科目として、幼稚園教諭免許取得のための重要な科目です。

科目名	教育課程論P
	授業形態：講義/授業回数：15回（30時間）
教員名	小泉 祥一

【授業の内容】

教育課程に関する基礎的考察をおこない、実践上の留意点を理解する。

教育課程は、教育内容を体系的に構成したものであるが、具体的な内容は、学年や教科毎に、学習指導要領に明示される。

本科目では、教育課程の概念と構造のような基礎的な内容も含むが、中心は、現在の教育課程の内容を取り扱う。教育課程の編成が中心的な内容で、実際に学習指導案を作成する。

また現在では、育成すべき能力、学力と人格、総合的学習、教育課程経営(カリキュラム・マネジメントを含む)、学校評価など、教育目標と教育課程に関わる事項に関心を集めている。これらの取り組みの現状と課題、あるべき姿について、議論する。

【到達目標】

- ① 学校教育における教育課程の役割を理解するとともに、教育課程の概念と構造を理解すること
- ② 教育課程編成をめぐる歴史的変遷と現代における教育課程改革について理解すること
- ③ 各教科および教科外活動の教育内容や教材研究等に関する基礎的・基本的な事項を理解すること
- ④ ①～③をもとに、教育課程の実施としての学習指導案を作成できること

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
－全体の概要と学校教育における教育課程の役割－
- 第2回 教育課程の概念と構造
－教育課程とカリキュラムと指導計画の関係、学力の構造と教育課程－
- 第3回 小学校学習指導要領の変遷
－戦後初期新教育の教育課程における児童中心主義－
- 第4回 小学校学習指導要領の変遷
－昭和30、40年代の教育課程における科学・学問中心主義－
- 第5回 小学校学習指導要領の変遷
－昭和50年代以降の教育課程における人間中心主義－
- 第6回 現代における教育課程改革の課題（1）
－教育課程における生活と科学と人間－
- 第7回 現代における教育課程改革の課題（2）
－新教科「地域共生科」の開発－
- 第8回 教育目標、教育内容と教材・教具の関係
- 第9回 教育課程の編成と指導計画の作成
- 第10回 総合的学習の意義と課題
- 第11回 学力評価と教育課程評価
- 第12回 教育課程経営（カリキュラム・マネジメントを含む）と地域性
- 第13回 教育課程の実施としての学習指導案の作成
- 第14回 小学校学習指導案の検討・改善
- 第15回 教育課程研究のまとめ

【授業の進め方】

講義形式をとることが多いが、必要に応じて受講者に直接、意見や発表を求める。また、授業内課題の提出がある。

準備学習として、テキストを事前に読み、感想と疑問点をまとめる。

講義の後、毎回最後の10分程度の時間をとって、その日の講義内容についての感想や意見を書いていただく。

次回の講義の最初に10分程度の時間をとって主なものを紹介し、若干のコメントを加えて、次の講義を進める。

講義をもとに、受講生は各自関心のある授業テーマを設定し、学習指導案を作成する。

その指導案についての検討を踏まえ、指導案を改善する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①教育課程論 ②鈴木由美子編著 ③協同出版 ④2014年4月1日 ⑤2200円＋税 ⑥978-4-319-10675-2

【参考図書】

文部科学省『小学校学習指導要領』（文部科学省のホームページからダウンロードできます）

田中耕治編『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房

安彦忠彦『改訂版 教育課程編成論』放送大学教育振興会

安彦忠彦編『新版 カリキュラム研究入門』勤草書房

山崎準二編『教育課程』学文社
柴田義松編著『教育課程論 第二版』学文社
柴田義松『教育課程 –カリキュラム入門』有斐閣
赤堀侃司『教育工学への招待 新版』ジャムハウス
赤堀侃司『授業デザインの方法と実際』高陵社書店
日本カリキュラム学会編『現代カリキュラム事典』ぎょうせい
日本教育方法学会編『教育方法学研究ハンドブック』学文社
日本教育方法学会編『現代教育方法事典』図書文化
安彦忠彦他編『新版 現代学校教育大事典』ぎょうせい

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 30% 授業内小試験 20% レポート・課題 30% 受講態度 20%

特記事項

授業への参加(積極的な発言・発表・提案、討論、記録、感想・意見のコメントペーパーの提出など)、授業内小テスト、レポート・課題、学習指導案の作成、および定期試験で行う。

【履修上の心得】

受講者の主体的参加を期待する。(私語厳禁、意見発表などの授業のルールとマナーを守ること)
自分で考える習慣を身につけること、人前で自分の意見を発表できることが、基本になる。
授業では、必ず自分の意見を求められるので、恥ずかしがらないで、意見を述べること。
小論文を課すことがある。

【科目のレベル、前提科目など】

関連科目として、教育基礎論、教育方法論、教育制度論、教師論がある。
教職の免許を取得する学生にとっては、必修科目であり、教育学の基礎的な内容である。

科目名	教育法演習A
	ICTを利用した算数科学習指導について
	授業形態：演習
教員名	榎本 哲士

【授業の内容】

この講義では、ICTを利用した小学校算数科の授業実践例を紹介するとともに、ICTを利用した授業の構想と実践を行います。

【到達目標】

算数科だけでなく他の教科で取り扱われる教材の特徴に合わせてICTを利用することができるようになる。ICTを利用した授業を構想し、実践することができるようになる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス（授業の説明と、発表の割り当て）
- 第2回 算数科におけるICTを利用した授業例とその教材の特徴1：数と計算領域
- 第3回 算数科におけるICTを利用した授業例とその教材の特徴2：量と測定領域
- 第4回 算数科におけるICTを利用した授業例とその教材の特徴3：図形領域
- 第5回 算数科におけるICTを利用した授業例とその教材の特徴4：数量関係領域
- 第6回 ICTを利用した授業の構想と教材開発1（グループワーク）：数と計算領域
- 第7回 ICTを利用した授業の構想と教材開発2（グループワーク）：量と測定領域
- 第8回 ICTを利用した授業の構想と教材開発3（グループワーク）：図形領域
- 第9回 ICTを利用した授業の構想と教材開発4（グループワーク）数量関係領域
- 第10回 ICTを利用した模擬授業と振り返り1
- 第11回 ICTを利用した模擬授業と振り返り2
- 第12回 ICTを利用した模擬授業と振り返り3
- 第13回 ICTを利用した模擬授業と振り返り4
- 第14回 ICTを利用した授業の長所と短所
- 第15回 まとめ：ICTを利用した授業における教師の役割

【授業の進め方】

第5回までは講義を行います。それ以降は、受講生が教材を考え、授業を構想・実践します。受講生の行う実践について、質疑応答、討論を行い、討論の中で、教員が指導・助言を行います。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教育方法の理論、および、実践報告に関する資料を、適宜配布します。
また、テキストを購入してもらうことがあります。

【参考図書】

『小学校学習指導要領 平成20年3月告示』，東京書籍

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 100% 受講態度 0%

特記事項

出席が2/3に満たない場合、履修者（評価対象者）とは認めません。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

特にありません。

【履修上の心得】

特にありません。

【科目のレベル、前提科目など】

教育実習の体験と関連します。

【備考】

特にありません。

科目名	教育法演習B
	授業形態：演習
教員名	宇津野 花陽

【授業の内容】

小学校家庭科における調理実習や布を用いたものの製作について実習を行い、指導方法を学ぶ。

【到達目標】

家庭生活の基本的な技能について理解し、できるようになるとともに、指導の際のポイントがわかるようになることを目標とする。児童が家庭生活を営むための土台となる力を身につけられるよう、指導ができるようになることを目指す。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、実習用ワークシートの作成：ICTを用いた楽しくわかりやすいワークシートの作成方法について復習する（30分）。
- 第2回 手縫いによる製作 ボールづくり（計画・製作）：基礎的技能の復習をする（30分）。
- 第3回 手縫いによる製作 ボールづくり（製作・発表）：手縫いの基礎の効果的な指導法について考える（60分）
- 第4回 手縫いによる製作 刺し子の花ふきん（計画・製作）：基礎的技能の復習をする（30分）。文化としての刺し子について調べ理解を深める（30分）。
- 第5回 手縫いによる製作 刺し子の花ふきん（製作）：日本の各地域における刺し子の文化についてまとめる（60分）。
- 第6回 手縫いによる製作 刺し子の花ふきん（仕上げ・発表）：刺し子の教材としての意味について考える（60分）。
- 第7回 ミシンの使い方：ミシンの使い方に関する基礎知識を復習をする（30分）。
- 第8回 ミシンの直線縫いによる製作：ミシンの基礎的技能の復習をする（30分）。
- 第9回 調理室の使い方：調理室の安全な使い方について復習する（30分）
- 第10回 「ゆでる」の調理（1）白玉団子：基礎知識および効果的な指導方法についてまとめる（60分）。
- 第11回 「ゆでる」の調理（2）青菜と卵：基礎知識および効果的な指導方法についてまとめる（60分）。
- 第12回 米飯および味噌汁の調理：基礎知識および効果的な指導方法についてまとめる（60分）。
- 第13回 「炒める」の調理：基礎知識および効果的な指導方法についてまとめる（60分）。
- 第14回 会食：基礎知識および効果的な指導方法についてまとめる（60分）。
- 第15回 1食分の食事づくり：基礎知識および効果的な指導方法についてまとめる（60分）。これまでの学習内容を復習する（120分）。

【授業の進め方】

実習を中心にすすめる。ICTの効果的な使い方についても考えていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

指定しない。

【参考図書】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領』平成20年
- ・牧野カツコ編 お茶の水女子大学付属学校家庭科研究会著『家庭科の底力「作る手が子どもを輝かす」一家庭科が育てるミニマムエッセンシャルズ・ライフスキル』地域教材社 2009年
- ・流田直監修『家庭科の基本』学研教育みらい 2012年
- ・澤田悦子『明日の授業に使える小学校家庭科』大月書店 2008年
- ・柳昌子・中屋紀子編著『家庭科の授業をつくる』学術図書出版社 2009年

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

レポート・課題80%：作品40%、期末レポート40%

【履修上の心得】

- ・教員になった際、児童にどのように教えたらよいかを考えながら受講してほしい。
- ・実習の際には安全に注意し、グループでの共同作業は協力して行うこと。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：「家庭科概説Ⅰ」「家庭科教育法」

関連科目：「家庭科概説Ⅱ」

「家庭科概説Ⅰ」「家庭科教育法」をふまえ、さらに小学校家庭科教育に関する指導力を向上させるための、実践的内容の科目である。

科目名	教育法演習C
	授業形態：演習
教員名	富田 英也

【授業の内容】

小学校音楽科指導のための基礎知識と基礎技能を修得し、小学校音楽科教育法の授業に含めることができなかった演習等々、児童のための歌唱や合奏、創造的な音楽と音楽鑑賞の指導等々、新たな表現教材開発の可能性を探る。児童期の多様な経験は生涯にわたる人間形成の基礎が培われる重要な時期である。この時期に音との出会いや興味関心をもち、音楽の楽しさを味わい、思いを深めることは、感性の豊かさを育て、情緒的な面や知的な面の発達とよりよく生きるための基礎を育てることに繋がります。歌うこと、演奏すること、音楽づくりをすること、音楽を聴くこと等々が自分一人ではなく友達と一緒にあって共有することができ、音楽はその一端を担っていると考えられます。音楽を通して子どもたちとの望ましいかわり方が築けるよう強く望んでおります。

【到達目標】

小学校音楽科の各学年にふさわしい歌唱や合奏と創造的音楽の試みや、鑑賞音楽と日本の音楽についての知識と教材研究を目的とする。

【授業計画】

- 第1回 教育法演習についての計画とオリエンテーション
- 第2回 低学年にふさわしい楽器の使用と合奏について、グループワークで体験学習や教材研究を行う。
学習課題（予習30分、復習30分）
- 第3回 低学年の合奏について、楽曲の理解とグループワークで体験学習や教材研究を行う。
学習課題（予習30分、復習30分）
- 第4回 中学年にふさわしい楽器の使用と合奏について、グループワークで体験学習や教材研究を行う。
学習課題（予習30分、復習30分）
- 第5回 中学年の合奏について、楽曲の理解とグループワークで体験学習や教材研究を行う。
学習課題（予習30分、復習30分）
- 第6回 高学年にふさわしい楽器の使用と合奏について、グループワークで体験学習や教材研究を行う。
学習課題（予習30分、復習30分）
- 第7回 高学年の合奏について、楽曲の理解とグループワークで体験学習や教材研究を行う。
学習課題（予習30分、復習30分）
- 第8回 低学年において、音を素材としてイメージする音楽づくりをグループワークで体験学習する。
学習課題（予習30分、復習30分）
- 第9回 中学年において、音を素材としてイメージする音楽づくりをグループワークで体験学習する。
学習課題（予習30分、復習30分）
- 第10回 高学年において、音を素材としてイメージする音楽づくりをグループワークで体験学習する。
学習課題（予習30分、復習30分）
- 第11回 低学年において音楽を鑑賞し、ペアワークで楽器やリズムなどのおもしろさを発見し学習する。またそれらを発表し合う。
学習課題（予習30分、復習30分）
- 第12回 中学年において音楽を鑑賞し、ペアワークで音楽を形作っている要素を発見し学習する。またそれらを発表し合う。
学習課題（予習30分、復習30分）
- 第13回 高学年において音楽を鑑賞し、ペアワークで要素の関わり合いと楽曲の構造を理解し学習する。またそれらを発表しあう。
学習課題（予習30分、復習30分）
- 第14回 日本の伝統的な音楽や郷土の民謡などを鑑賞し、ペアワークでどんな楽器や素材が使われていたかを発見学習する。
学習課題（予習30分、復習30分）
- 第15回 日本の伝統的な音楽や郷土の民謡などを鑑賞し、さらに近隣のアジアの国々の音楽を鑑賞し、ペアワークで何を表現している音楽なのか問題解決し学習する。
学習課題（予習1時間、復習30分）

【授業の進め方】

最初に各回のテーマを概説し、関連した楽曲や作品を取り上げ、実際に練習し体験する。グループ活動が主になる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要に応じプリントする。

【参考図書】

教員養成課程 小学校音楽科教育法 教育芸術社出版

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

課題に取り組む積極的な態度を重視する。発表等課題達成ができたか。

【履修上の心得】

すべての楽器がそろっているわけではないので、簡単な楽器は一部持参する。チャレンジ的精神で頑張してほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

音楽概説Ⅰ、音楽科教育法

科目名	保育内容指導法(健康)
	授業形態：講義
教員名	岩城 淳子

【授業の内容】

授業は、保育内容演習（健康）の応用として、実際の保育場面を想定しての健康教育活動の立案と実施を行なうものである。現在乳幼児の生活は、急速な社会状況の変化や価値観の多様化などにより、あまり健康的ではない方向へと変容している傾向がある。将来保育者として、子どもの置かれている状況と健康生活との調整ができるよう、子どもや保護者に対するよりよい対応の可能性を探ることを目的とする。

【到達目標】

授業の到達目標は、以下の2点である。

1. 幼稚園教育要領を理解する。
2. 総合的に指導・援助が行えるように、実践的な力を身につけられるようになる。
3. 健康領域を知るとともに、他の領域とのつながりが分かるようになる。

【授業計画】

- 第1回 健康の概念、健康観
- 第2回 安全管理と安全教育
- 第3回 健康行動の形成
- 第4回 データから読み取る子どもの発育の現状
- 第5回 データから読み取る子どもの発達の現状
- 第6回 健康問題の発見
- 第7回 健康問題グループディスカッション
- 第8回 健康問題グループディベート
- 第9回 健康教育と保健指導
- 第10回 指導法の検討
- 第11回 指導内容の計画
- 第12回 保健教材の検討
- 第13回 健康教育活動の体験学習
- 第14回 健康教育活動のまとめ
- 第15回 評価と統括討議

【授業の進め方】

授業は講義とグループワークである。

授業では

1. 各自が問題や課題を発見する
2. それらの解決に向けて、グループで調査やフィールドワークを行う
3. ディスカッションやディベートを行う
4. ICTを活用した教材を作成する

などを通して、主体的、協働的に学ぶことを目標にする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①実践保育内容シリーズ1『健康』 ②谷田貝公昭 ③(株)一藝社 ④2014.4.1. ⑤2000円

前年度、保育内容演習（健康）を履修していない小学校コース学生については、授業開始以降一括購入するので、指示を待つこと。

【参考図書】

幼稚園教育要領
 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 30% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 30%

特記事項

授業内活動、課題への取り組みなどから総合的に評価する。

【履修上の心得】

自主的な取り組みと、創意工夫を期待する。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目は、保育内容演習(健康)である。

【備 考】

幼稚園教諭免許状取得のための重要な科目である。

科目名	保育内容指導法(人間関係)
	授業形態：講義
教員名	馬場 康宏

【授業の内容】

幼稚園教育要領に示されている領域「人間関係」の内容と考え方を理解し、幼児期の人とかかわる力および幼児期前後の対人関係の発達について理解を深め、保育者の援助や指導のあり方について考える。

【到達目標】

- ・領域「人間関係」の内容と考え方を理解する。
- ・対人関係の発達を理解する。
- ・保育者の援助・指導のあり方について多角的に検討できるようにする。

【授業計画】

- 第1回 授業の概要および進め方
 幼児の人と関わる力の育ちと幼稚園教育の意義（本時の内容の復習と要点整理：60分）
- 第2回 幼稚園教育要領の変遷と領域「人間関係」
 保育所保育指針との整合性
 （事前に幼稚園教育要領および保育所保育指針の指定箇所を読む：90分）
 （本時の内容の復習と要点整理：90分）
- 第3回 対人関係の発達に関する諸理論（乳児期から幼児後期）（本時の内容の復習と要点整理：90分）
- 第4回 対人関係の発達に関する諸理論（児童期から成人期）（本時の内容の復習と要点整理：90分）
- 第5回 「幼稚園教育要領解説」から幼児期の「人と関わる力」について考える
 （事前に「幼稚園教育要領解説」を読む：90分）
- 第6回 実際の幼児の姿を領域「人間関係」内容の視点から捉える（本時の要点について復習：30分）
- 第7回 保育者との信頼関係を中心とした仲間関係の広がり
 復習課題1（これまでの授業内容について復習：150分）
- 第8回 保育の具体的な場面における保育者の対応について考える（本時の内容の復習と要点整理：90分）
- 第9回 保育者との信頼関係形成の前提としての幼児理解（本時の内容の復習と要点整理：90分）
- 第10回 友達とのぶつかり合いの発達の意義
 保護者対応のあり方（本時の内容の復習と要点整理：90分）
- 第11回 3歳児の「人とかかわる力」と援助・指導のポイント（本時の内容の復習と要点整理：60分）
- 第12回 4歳児の「人とかかわる力」と援助・指導のポイント（本時の内容の復習と要点整理：60分）
- 第13回 5歳児の「人とかかわる力」と援助・指導のポイント（本時の内容の復習と要点整理：60分）
- 第14回 事例について検討（本時の内容の復習と要点整理：60分）
- 第15回 授業のまとめ
 復習課題2（これまでの授業内容について復習：150分）

【授業の進め方】

講義を中心に進めるが、適宜グループ・ディスカッションを伴う演習課題を取り入れる。
 また、板書に加えICT活用としてプロジェクターを使用したパワーポイントによる資料やDVD教材の提示も行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない。
 必要な資料を配布あるいは提示する。

【参考図書】

- ・文部科学省 平成20年 「幼稚園教育要領」
- ・文部科学省 平成20年 「幼稚園教育要領解説」
- ・内閣府・文部科学省・厚生労働省 平成26年 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
- ・内閣府・文部科学省・厚生労働省 平成26年 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 0%

特記事項
 授業内で行う演習課題（4回分）を評価対象とする 40%

【履修上の心得】

能動的な受講姿勢を期待する。

科目名	保育内容指導法(環境)
	授業形態：講義
教員名	山路 千華

【授業の内容】

保育内容の領域の一つである「環境」のねらい及び内容を踏まえ、環境の特性を明らかにする。子どもが身近な環境とのかかわることでのどのような力が育つのかを考え、そのための保育者の援助の在り方について学ぶ。

【到達目標】

領域「環境」に関する知識を習得する。

様々な素材を保育教材化する方法を身につけ、保育における環境と子どもとのかかわりについて理解する。

【授業計画】

- 第1回 幼児教育の基本と領域「環境」についての考え方
- 第2回 子どもの生活と環境
- 第3回 子どもの育ちと環境とのかかわり
- 第4回 環境を通した保育の実際と保育内容における「必要感」についての基本的考え方
- 第5回 保育における人的環境と保育者の役割
- 第6回 保育の基本と保育内容—領域「環境」に基づく指導計画
- 第7回 地域を知る—領域「環境」に基づく保育計画のために
- 第8回 「環境を通した保育」の体感的学び（調査と保育計画）
- 第9回 「環境を通した保育」の体感的学び（子どもから見た環境への気付き/保育計画への見直し）
- 第10回 保育における物質的環境とその教材化
- 第11回 保育における社会的環境とその教材化
- 第12回 保育における自然環境とその教材化
- 第13回 保育における情報環境とその教材化
- 第14回 環境素材と教材化の実際—ICT情報の活用
- 第15回 まとめ

フィールドワーク等、教室外における活動があるので、天候などの条件により指導内容を前後したり、変更したりすることもある。身近な環境との関わりと保育展開についての体験学習を基にグループで協力して調査結果をまとめ発表する課題を授業内に設ける。

【授業の進め方】

体験や観察を伴う講義については、教室にて説明後に屋外に出て行う。その際は、あらかじめ授業の内容や準備物などを知らせる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針 ②内閣府 文部科学省 厚生労働省
- ③チャイルド本社 ④2014/07 ⑤540 ⑥978-4-8054-0228-3

【参考図書】

柴崎正行・若月芳浩編『最新保育講座9 保育内容「環境」』（ミネルヴァ書房）
田宮緑『体験する 調べる 考える 領域「環境」』（萌文書林）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%
特記事項
調査課題の状況、フィールドワーク、考察とまとめの発表、その学生評価などにより総合的に評価する。

【履修上の心得】

環境における自然に関する知識や理解については、白鷗大学のキャンパス、周辺の緑地、通学路など普段から自然に関心を持つ態度が必要である。また、保育者としての感性を必要とするため、自分の身近な”ひと””もの””こと”への眼差しを大事にしようとする心持が不可欠である。

【科目のレベル、前提科目など】

保育内容「環境」は5領域のひとつであり、幼稚園教諭、保育士を育成するために必要とされている必須科目である。

科目名	保育内容指導法(言葉)
	授業形態：講義
教員名	福崎 淳子

【授業の内容】

保育内容における5領域のうち、ことばの獲得に関する領域「言葉」のとらえ方とその内容についての学びを深めながら、ことばの環境として大切な保育者の援助のあり方や役割について考えるとともに、日常的な保育の生活文脈の中でとらえる子どものことばがもつ意味世界や不思議さについての理解を深めていきます。

また、子どもは、どのようにことばを獲得し、育っていくのか、具体的なエピソードや事例をもとに学んでいきます。これらのエピソードや事例をもとに、園生活を通して子どもが豊かなことばを育み、そのことばの育ちが小学校教育へとなめらかに繋がっていくための指導のあり方についても考えていきます。

【到達目標】

1. 保育内容のとらえ方および領域「言葉」の意味とその位置づけについての理解を深める。
2. ことばの環境として大切な保育者の援助のあり方や役割について、その理解を深める。
3. 子どものことばがもつ意味世界や不思議さについて理解し、子ども理解を深める。
4. ことばの指導における保育者の援助や役割について、その考え方を深めながら、指導案などの立案力を培う。

【授業計画】

- 第1回 ことばについて考える
「子どもから聞かれたら、どのように応えるだろうか」という課題をもとに、個人ワークとともに、グループディカッションを行う
学習課題：人間社会において「ことば」が存在していなかったらどうなるだろうか、そんな視点からことばについて考えておく(30分)
- 第2回 保育内容における領域「言葉」について
学習課題：『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』における領域「言葉」のねらい及び内容を確認しておく(30分)
- 第3回 ことばの育ち① -コミュニケーションの視点から考えてみよう-
「コミュニケーションの成立とことばの豊かさ」について、2つのエピソードをもとに、個人ワークとグループディスカッションを行う。
学習課題：コミュニケーションの意味について考えておく(30分)
- 第4回 ことばの育ち② -乳児期のことばの特徴-
学習課題：乳児期の子どもの姿を思い浮かべながら、その特徴的な子どもの姿を、数点思い描いておく(30分)
- 第5回 ことばの育ち③ -幼児期のことばの特徴-
学習課題：幼児期の子どもの姿を思い浮かべながら、その特徴的な子どもの姿を、数点思い描いておく(30分)
- 第6回 子どものことばの特徴 -子ども理解をめざして-
エピソードをもとに、子どもの視点、おとなの視点についてグループディスカッションを行いながら、保育者としての役割を考える
学習課題：子どもの視点と大人の視点の違いが、どのようなときに生まれているか、考えておく(30分)
- 第7回 子どもの「なぜ」に答えてみよう① -身近な世界を子どもの視点で見つめる- (個人ワーク)
学習課題：なぜ、どうして、と質問してくる子どもの姿を思い浮かべておく(30分)
- 第8回 子どもの「なぜ」に答えてみよう② -個人ワークをもとに、子どもへの応えを考える- (グループワーク)
学習課題：個人ワークの内容を整理し、まとめておく(45分)
- 第9回 ことばの育ちを支える文化財
絵本、紙芝居、物語、パネルシアターおよび保育におけるデジタル教材の活用などについて
学習課題：乳幼児期に親しんだ絵本や物語について、どのようなものがあつたか振り返っておく(30分)
- 第10回 ことばを育てる指導と指導計画① -ことばを豊かにするために-
音箱づくりとイメージの共有(グループワーク)
学習課題：音の響きやリズムとことばのつながりについて、考えてみる(30分)
- 第11回 ことばを育てる指導と指導計画② -保育活動(ICTを利用した教材づくりも含む)を考える-
音箱を利用した遊びの提案(グループワーク)
学習課題：音箱を利用した遊びについて、グループワークで提案できるように各自考えておく(45分)
- 第12回 ことばを育てる指導と指導計画③ -指導案(ICTを利用した指導案づくりも含む)を考える-
模擬保育に向けて(グループワーク)
学習課題：指導案作成に向けて、教育活動の進め方について、各自整理しておく(45分)
- 第13回 ことばを育てる指導と指導計画④
模擬保育の発表(グループ発表)
学習課題：模擬保育にむけて、各自、発表の役割について準備をしておく(60分)

第14回 ことばの育ちと心の育ち ―心をこめて聴くこと―

学習課題：心をこめて聴くことの意味について、考えておく（30分）

第15回 まとめ ―園生活においてことばが育まれるために―

学習課題：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について、領域「言葉」に示されているねらいの内容を、再度確認し、復習しておく（30分）

子どものことばの世界について、自らもかかわりある事象としてその意味の深さをとらえながら、将来保育の担い手となるために必要とされる「ことば」についての知識や理解を深めるとともに、子どもを理解しようとする真摯な態度で取り組むことを願っています。

また、次週までに確認しておく内容や発表のための課題および授業の準備課題などが適宜出されます。授業時間以外での取り組みも学びを深めるための大切な取り組みです。積極的に取り組んでください。

【授業の進め方】

授業では、園生活の中で展開される子どもと保育者あるいは子ども同士のことばのやりとりの現象をできるだけ具体的なエピソードや事例で示していきます。これらのエピソードをもとに、他者と気持ちを繋ぎ合う重要な機能をもつことばの深さと、ことばに込められた子どもの思いについて、グループによるディスカッションやディベートなども取り入れながら進めていきます。

また、問題解決型学習をめざし、各テーマにあわせ、課題や問題（問題解決学習）を提起しながら、ともに学び合い、考え合うことができるような場を大切に、授業を進めていきたいと考えています。

なお、授業の進捗によって、授業計画の順番や内容を一部変更する場合があります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に指定しません。授業にあわせた資料(平成29年告示の「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を含む)を必要に応じて配付します。

【参考図書】

- ・「コンパス 保育内容 言葉」内藤知美他編 建帛社 2017年
- ・平成20年告示「幼稚園教育要領」文部科学省 平成20年告示「保育所保育指針」厚生労働省 平成26年告示「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 50% 受講態度 20%

特記事項

- ・「授業内小試験」とは、授業内において適宜行う「復習シート」の取り組みです。前週に学んだ内容について、復習のために行います。
- ・「レポート・課題」とは、授業内において適宜行う記述式の課題(授業の振り返り)や提出物 および「まとめのレポート(期末時のレポート)」を含みます。課題や提出物、まとめのレポートの指示を出しますので、その指示の内容に即してまとめてください。
- ・グループ討議への参加、模擬保育のグループワークの取り組みなどを含め、その発表の成果も受講態度として評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・授業内における課題の内容を理解してまとめることが大切です。
- ・授業態度は評価比率に含まれていませんが、授業内に行う復習シートや課題などの提出物に対して、それに取り組む姿勢として反映されます。
- ・グループワークの取り組みやその発表の成果、復習シート、課題なども含め、総合的に評価します。

【履修上の心得】

講義やグループワークに積極的に参加し、他者の意見に耳を傾けながら、真摯に取り組むことを期待しています。

また、日常的に子どものことばにふれる機会はたくさんあります。授業以外にも、電車のなかや公園など、日常的に目にする子どもの姿を通して、子どもとおとな、あるいは子ども同士のことばのやりとりに耳を傾けてみてください。

【科目のレベル、前提科目など】

- ・教職課程科目として、幼稚園教諭免許取得のための重要な科目です。

科目名	保育内容指導法(表現①)
	授業形態：講義
教員名	富田 英也

【授業の内容】

自発的な活動としての幼児のあそびは、心身の調和の取れた発達の基礎を培うものである。また、幼児の発達は心身の諸側面が関連し合い多様な経過をたどって成し遂げられるものである。「表現」領域は「かんじたことや考えたことを自分なりに表現することを通して豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことである。本講義の目的は、音楽を通して幼児の主体的な活動を促し、自己を十分発揮できるよう幼児一人一人の特性に応じ、発達の過程に即した指導や援助を行えるような保育者を目的とする。幼児の主体的な活動を促すには、興味・意欲・関心を育てることであり、幼児の表現しようとする意欲を受け止め生活の中で幼児らしい様々な表現を楽しむことである。そのために保育者としての知識と援助できることは何かを学習し、音楽を通して心身の発達を促し、音楽性を豊かにして、創造性を高め、望ましい人間形成の基礎を培うことである。

【到達目標】

- ☆保育所保育指針・幼稚園教育要領の理解
- ☆感性と表現について理解
- ☆音楽的活動についての理解と実践
- ☆指導計画の立案と作成、模擬授業

【授業計画】

- 第1回 講義内容と授業計画、評価の仕方、保育内容領域「表現」のプロセスと認識
授業計画と進め方や評価の仕方などを説明する。また、領域「表現」がどのような過程で現在のようになっていくか講義する。
学習課題（予習30分、復習30分）
- 第2回 教育要領と保育指針、教育要領「表現」と保育指針「表現」についての、ねらいや内容について理解する。
学習課題（予習30分、復習30分）
- 第3回 乳幼児の心身の発達と音楽的機能の発達、子どもは身体の発達とともに日々音楽を感じる能力も向上している。月齢的な心身の発達と体の機能の関係から、音楽的発達について理解する。
学習課題（予習30分、復習30分）
- 第4回 童謡の変遷とこどもの歌の重要性。歌とは何なのかを理解し、童謡がどんな過程でうたわれてきたのか、あそびの中での情緒とうたう行為について理解し、色々なジャンルの歌と子供の歌について理解する。
学習課題（予習30分、復習30分）
- 第5回 感性と表現の理解と発表。先ず自分たちの経験から色々なものを見たり聴いたりして印象に残っていることを話し合い、次に子どもの感じたことや考えたことまた、表現することをテーマに、7人前後で1つのグループになりディスカッションをして、主なものを発表しあう。
学習課題（予習30分、まとめ30分）
- 第6回 イメージと動き、お遊戯と身体表現。人間の日常での意識しない動きは、眠っている時などで、殆ど意識を持った動きである。しかし、イメージしたり思い描いて動くということは、ただ意識して動くことよりも格段の差があることは確かである。それらは芸術の面でもスポーツの面でも明らかである。さらに、音楽に合わせて動きを付けたり踊ったりすることは楽しいことであり、子どもにとっても楽しい遊びとなる。したがって、歌や音楽に振りを付けたり、お遊戯を考えて動く活動を考えることは必要であり重要である。グループ活動で行う。
学習課題（復習30分）
- 第7回 乳幼児のわらべ歌あそびと伝承あそび。わらべ歌には、色々な大切な要素が含まれている。先ず、歌には音程やリズムがあり、言葉、動きや仕草、友達の仲間意識等々が含まれており、遊んでいるだけで重要な要素が身につくものである。同様に伝承遊びもスキンシップや子育ての知恵を知ることができる。グループ活動で実践的に行う。
学習課題（復習30分）
- 第8回 幼児のわらべ歌あそびと集団あそび。前回と同様な意味があるが、特に集団遊びで仲間意識を高められることを行う。実践的なグループ活動を行う。
学習課題（復習30分）
- 第9回 手あそび指あそび、特性と意義。手や指を使うことで機能を高め、脳の動きを促進させたり、自己表現力や創造力が豊かになることで、子供の成長が育むことができる。スキンシップなどで親子間や友情の深まりも築くことができる。グループ活動。
学習課題（復習30分）
- 第10回 手あそび指あそび、発達の視点で捉える。まねて遊ぶ1～2歳児、仲間づくりの盛んな3～4歳児、知能的な発達が著しい4～5歳児など、自分たちの好きな手遊びにアレンジしたり、何回も繰り返して楽しめるような手あそびを考える。グループ活動。
学習課題（復習30分）

- 第11回 楽器の基礎技能と演奏法。弾く・打つ等身の回りにあるリズム楽器等々の扱い方。楽器特有の音色の美しさを感じられるような基本となる演奏法を身に付ける。グループ活動。
学習課題（復習30分）
- 第12回 幼児の合奏の試み。子どもの歌に合わせた簡単な楽器から、木琴や鍵盤ハーモニカ等の鍵盤楽器を含めた合奏へと発展する、音楽活動を体験する。
グループ活動。
学習課題（予習30分、復習30分）
- 第13回 教材研究と指導計画の作成。今までに学習した経験を基に、どんな音楽活動が自分にとってふさわしい教材なのか、どんな音楽が楽しい活動となるか教材研究をし、さらに部分的な授業や本授業の指導計画案を作成する。指導計画は簡略化を図るため、模範となるサンプルを準備しワードやエクセルを応用と工夫して行う。
学習課題（予習30分、復習30分）
- 第14回 指導計画の作成と模擬授業の試み。作成した授業計画案を持ち寄りグループで読み合い、参考になったり模範になると思われるものを選出し、パソコン等の利用で指導計画をまとめ、選出された指導計画案をもとに授業の準備をする。
学習課題（予習30分、復習30分）
- 第15回 グループによる模擬授業の試み。指導計画案の作成者を代表の先生代表にして、グループの中から2名の補助の先生にして20分程度の模擬授業を行う。音楽活動の模擬授業で、主になる先生をが指導をして、他の2名の先生役は展開の相談をしたりチームティーチングのように授業を行う。準備等を考え3組の模擬授業を行い、終了後に反省点や意見を述べあう。指導計画案の提出。
学習課題（予習1時間、復習1時間）

【授業の進め方】

テキストを中心とした講義とそれに基づく演習を行う。また、こどもの心身の発達と音楽的能力を認識し、季節や行事と様々な事象等にふさわしい指導計画や音楽表現活動の実践をする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①楽しい音楽表現 ②高御堂愛子、他 ③圭文社 ⑤2,500+税 ⑥978-4-87446-067-2
①幼稚園教育要領解説 ②文部科学省 ③フレーベル館 ⑥978-4-577-81245-7

【参考図書】

- ・保育所保育指針解説書 厚生労働省編 ISBN:978-4-577-81242-6
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府（文部科学省 厚生労働省）
- ・うたっておどっておもちゃ箱Part2 教育芸術社 2,200円+税

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 20% 受講態度 10%

特記事項

提出物および平常の取組む意欲や態度。定期試験。

【履修上の心得】

全回出席を原則とする。

【科目のレベル、前提科目など】

保育内容指導法(表現) 演習、ソルフェージュ、音楽実技Ⅰ(ピアノ基礎技能)、音楽実技Ⅱ(子どもの音楽)。
保育士資格取得科目、幼稚園教諭資格取得関連科目。

科目名	保育内容指導法(表現②)
	授業形態：講義
教員名	益田 勇一

【授業の内容】

造形ならびに造形教育の歴史を概観することで、造形表現に何が求められてきたかを理解し、さらに、子どもの絵の発達段階を学ぶことを通して、子どもにとっての造形表現の意義と役割、指導法について考察する。

子どもは1歳前後から絵を描き始めるが、その形態は抽象的で、写実的な絵画を見慣れた大人の目には奇異なものに映り、子どもが何を表現しようとしているかを理解することは困難である。しかし、子どもの絵の発達の段階を注意深く観察することで、子どもの絵には大人とは異なる固有の造形原理があることがわかってくる。子どもはなぜ描くのか、子どもが描く独特の形にどのような意味があるのかを理解してはじめてその造形表現の指導も可能となる。

【到達目標】

幼児における造形表現の意味と特性を理解し、それに応じた指導法を習得する。

【授業計画】

- 第1回 「表現」という言葉の意味
- 第2回 造形表現の歴史(1) 古代から中世へ
- 第3回 造形表現の歴史(2) ルネサンスから近世へ
- 第4回 造形表現の歴史(3) 19世紀から20世紀へ
- 第5回 グループ活動「造形表現の歴史について学んで気づいたこと疑問に思ったことについて」
学習課題：気づいたことや疑問点についてまとめておく
- 第6回 芸術の必要性について
- 第7回 幼児造形教育の歴史(1) 明治前期：フレーベル、ペスタロッチ
学習課題：フレーベルの恩物について調べておく
- 第8回 幼児造形教育の歴史(2) 明治後期から大正：モンテッソーリ
学習課題：モンテッソーリの感覚教具の種類について調べておく
- 第9回 幼児造形教育の歴史(3) 昭和初期から第二次世界大戦後まで
- 第10回 グループ活動「幼児造形教育の歴史を学んで気づいたこと疑問に思ったことについて」
学習課題：気づいたことや疑問点についてまとめておく
- 第11回 児童画の発達段階(1) なぐりがき期／象徴期
- 第12回 児童画の発達段階(2) 前図式期／図式期
- 第13回 ローウェンフェルドの造形教育論 造形の教育的・社会的意味／子どもの成長と造形
- 第14回 幼稚園教育要領（表現領域）及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の解説
- 第15回 ICTを活用した造形表現

【教科書(必ず購入すべきもの)】

子どもの造形表現研究会編『たのしい造形表現』、圭文社。

【参考図書】

鬼丸吉弘『児童画のロゴス』、勁草書房。
『幼稚園教育要領解説』、文部科学省。
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

定期試験による評価。

【履修上の心得】

この授業では作品製作は行なわないが、日頃から子どもの描いたもの、作ったものに関心を持ち、その意味について考えてみるのが大切である。なぜその色や形なのか？疑問をもつことが子どもの造形表現を理解する出発点となる。

【科目のレベル、前提科目など】

幼稚園教諭免許を取得するための教職科目。

科目名	保育内容指導法(表現③)
	ダンスを通じて
	授業形態：講義
教員名	松村 朋子

【授業の内容】

子供たちと一緒に表現を楽しむために、まずは、受講生自らも楽しみ、リズム感を高め、柔軟な身体づくりを心がけ、表現力豊かな保育者としての資質を高めてほしいと思います。その上で、本授業では、幼児教育における「身体表現」のねらいを把握し、幼児がリズムカルな身体活動を楽しみ、情緒豊かに育っていくように、現場で生きる応用力、指導法について体験学習を行うことを目的としています。

振付した後でのグループディスカッションによる振り返りで、自分たち、あるいは、他のグループの踊りを検討し、それぞれの年齢に適した動きがなされているか等の問題を発見していきます。

ダンスの基礎理論、表現遊びの基礎、幼児に適したフォークダンス、リズム遊び、手具を作って利用した表現を行います。また、グループに分かれての模擬指導をします。

【到達目標】

①ストレッチ ②遊びの体験 ③リズム運動 ④創作表現 ⑤遊具制作などの実習を通して指導法を学びます。主にグループ・ワークで、創作や発表をすることで、協力し、自己表現できる力を育てます。

数多くのダンスの体験学習によって、歌や音楽に合わせて、振付したり踊ったりすることに対する抵抗をなくし、保育者自らが楽しく動けることを習得してほしいです。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス：授業の進め方を説明します
幼児教育における身体表現とは何か学びます
ダンス表現：童謡にダンスを振り付けるにはどうするか（4月のダンス）
- 第2回 ダンス表現①：表現の手掛かりになるもの、表現のイメージづくりをする方法を学びます
歌詞のイメージを表現してみよう（5月のダンス）
- 第3回 ダンス表現②：ダンスにはリズムや音楽がつきものです。リズムに乗って楽しく踊る方法を学びます
- 第4回 親子で踊れるダンス、みんなで踊れるフォークダンスを学びます。子供に適したフォークダンス
ダンス表現③：音のリズムを利用して踊りを作ります（夏のダンス）
- 第5回 ダンス表現④：表現遊びは模倣から。
イメージしたものをすぐに表現できるようにチャレンジします。
- 第6回 ダンス表現⑤：リボンや新聞紙など身近なものを使って、表現をよりはっきりとさせて楽しみましょう。
- 第7回 ダンス表現⑥：グループによる大きな動きを使って、全体で見せるダンスをつくりましょう。
- 第8回 ダンス表現⑦：グループによる動きを他のグループに教えることで、指導時の留意点などを見つけて問題を解決できるようにしましょう。
- 第9回 日本に伝わるわらべうた遊びの中で、主に集団で行われることが多い遊びをやってみます。
- 第10回 模擬指導の準備①
学生を8-10名の9つのグループに分けて、模擬指導の計画。
使用する曲の選曲、発表準備、指導の立案など
- 第11回 模擬指導の準備②
指導案を完成させて、模擬指導のリハーサル。
提出された指導案に改善点があれば、改めてディスカッション。
使用する用具の準備。
- 第12回 模擬指導① 3グループの発表
1つのグループ8名が役割を分担して、20分の部分指導。
残りの学生は指導を受講して、評価。
学生間のディスカッション、担当グループのディスカッションにより、フィードバックを受けます
- 第13回 模擬指導② 3グループの発表
1つのグループ8名が役割を分担して、20分の部分指導。
残りの学生は指導を受講して、評価。
学生間のディスカッション、担当グループのディスカッションにより、フィードバックを受けます
- 第14回 模擬指導③ 3グループの発表
1つのグループ8名が役割を分担して、20分の部分指導。
残りの生徒は指導を受講して、評価。
学生間のディスカッション、担当グループのディスカッションにより、フィードバックを受けます
- 第15回 グループ指導の反省と評価
記録ノートの完成・提出

本授業では

- 1 身体感覚を呼び覚ます、
- 2 様々なリズムを捉える、

3 身体感覚を通して他者と共感する、

4 実際に保育の現場で生きる力となる、子どものためのダンスを創作する、など、様々な側面から身体表現の特性を楽しむ、また創作したダンスを発表するまでの全体の流れを把握し、創作過程、練習過程、発表、という「創作活動」の持つ意義を学ぶ授業展開をします。

【授業の進め方】

身体をよく動かせるように、各自ストレッチを十分にしてください。

毎回授業の終わりに、授業のまとめ、自分の感じたこと、新しく発見したことなどリアクションペーパーに記入して提出となります。各自が授業に対して積極的に向き合うようにしましょう。

毎回の授業内容を記録した授業ノートは重要です。返却されたリアクションペーパーも貼って、次回の受講姿勢につなげて下さい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特になし（プリントを毎回配布します）

【参考図書】

「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育保育要領」

「子どもの運動・表現遊び」 宮下恭子編 大学図書出版

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 10% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 20%

特記事項

- ・定期試験は、実技テストを行います。
- ・「レポート・課題」とは、リアクションペーパーの提出評価、授業記録ノートの内容、模擬指導の内容、授業内でのグループ発表を含みます。
- ・「受講態度」には、授業への積極性はもとより、グループワーク時の取り組み、授業準備、授業時の服装なども含みます。

ノート類や学生カードの忘れ物も減点对照です。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

当科目は本人が授業の中で実際に動くことが重要であるので、基本的に欠席は認めない。

授業時間の中で、積極的に動くことを最も重視する。

始業時間から20分までを遅刻とし、それ以降は欠席扱いとなる。また、遅刻3回で欠席1回とする。

交通機関での遅れの場合は、遅延証明書などで理由を明確にすること。

【履修上の心得】

全回出席を原則とする。

初回から用意するもの：体操着、A4サイズのノート（40枚綴り）、A5サイズ以上の名前ゼッケン、はさみ、のり、セロテープ、折り紙1袋。

体操着（ジャージ）を準備すること（高校時の体操着可）。タンクトップ不可。袖のあるシャツを着用。髪の毛は結ぶ。

胸に名前の書いたゼッケン（A5サイズ）をつける。

出席して体験することが重要な授業であるので、欠席はしないこと。見学は不可、事情がある場合は相談のこと。

【備 考】

特になし

科目名	道徳教育の理論と方法P
	児童の心に響き、生きて働く道徳性を育成する道徳教育及び「特別の教科 道徳」の理論と指導法の研究
	授業形態：講義
教員名	中山 和彦

【授業の内容】

本科目の目的として、次の3点を設定する。

- 1 幼稚園教育及び学校教育全体を通して行われる道徳教育の意義について理解できる。
- 2 小中学校における道徳教育の「要」となる「特別の教科 道徳」（以下、「道徳科」とする。）の役割及び教科化の経緯を理解できる。
- 3 小学校における「道徳科」の指導案作成の手順と方法を学ぶとともに、授業展開の仕方について体験的な学習を通して理解できる。

以上3点の目的を設定して講義を進めることにより、教職に対する夢やあこがれを一層高めるようにする。

【到達目標】

本科目の3点の目的達成のために、次の3点の到達目標を設定する。

- 1 幼稚園教育と学校教育全体を通して行われる道徳教育の意義を理解できるようになる。
- 2 道徳教育の「要」となる「道徳科」の役割及び教科化の経緯を理解できるようになる。
- 3 「道徳科」の授業の指導法を学ぶとともに、指導案作成の手順と方法を理解できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 1 道徳の本質
 (1) 道徳の語義 (2) 「倫理」と道徳 (3) 「法」と道徳
 2 道徳教育の本質
 (1) 道徳教育とは何か
 (2) 訓育及び陶冶としての道徳教育
 (3) 価値観の形成と確立
 3 道徳性とは何か (第1回)
 ・本時で取りあげた「道徳」「道徳教育」「道徳性」について、その意義や関係性について復習する。(30分)
- 第2回 1 道徳性とは何か (第2回) (1) 道徳性の発達と教育 (2) 幼児期における道徳性を培う指導 (第1回)
 2 戦前と戦後の道徳教育
 (1) 修身科の成立
 (2) 「教育勅語」と道徳教育
 (3) 敗戦後の教育改革と道徳教育
 (4) 道徳の時間の特設
 3 「改正教育基本法」のもとでの道徳教育
 ・道徳性の発達および「改正教育基本法」のもとでの道徳教育の位置づけについて復習する。(30分)
- 第3回 1 幼児期における道徳性を培う指導 (第2回)
 2 「学習指導要領」一部改正と「道徳科」設置の経緯
 3 改正学習指導要領における道徳教育と「道徳科」の目標
 4 道徳の指導計画
 (1) 道徳教育の全体計画 ・教育活動全体で推進する道徳教育
 ・道徳教育と道徳科の目標について復習する。(30分)
- 第4回 1 幼児期における道徳性を培う指導 (第3回)
 2 「道徳科」の特質 (特質を表すキーワードについて、グループ・ワークを通して検討する。)
 3 「道徳科」の内容の基本的性格(第1回)
 4 道徳の指導計画
 ・年間指導計画の意義と内容
 ・道徳科の特質を表すキーワードについて復習してノートにまとめる。(45分)
- 第5回 1 「道徳科」の内容の基本的性格 (第2回)
 2 「道徳科」の特質 (特質を表すキーワードについて、グループ・ワークを通して検討する。)(第2回)
 3 「道徳科」の特質を生かした授業構想 (第1回)
 (1) 「道徳科」の授業における「基本型」(「基本型」の意義、成果と課題)
 (2) 本時の主題とねらいについて
 (3) 「発問」と「質問」の違い (グループ・ワークを通して協議した上で、違いを明確にする。)
 ・「発問」と「質問」の違いを復習する。(20分)
 ・教材「ブラッドレーのせいきゅう書」を読み、ねらいとする道徳的価値について検討する。(予習 30分)
- 第6回 1 「道徳科」の特質を生かした授業構想 (第2回)
 (1) 「道徳科」の授業における導入の役割と工夫
 (導入の進め方を児童の立場で体験することにより役割を学ぶ。)
 (2) 「道徳科」の授業における教材提示の工夫

- 2 小学校中学年教材「ブラッドレーのせいきゅう書」を読んで、本時の主題、ねらいとする道徳的価値を検討する。(個人→ペア学習)
- ・道徳授業における「発問」についての資料を読んで、発問のあり方等について予習する。(30分)
- 第7回 1 「道徳科」の特質を生かした授業構想(第3回)
- (1) 「道徳科」の授業における「展開」の役割と工夫
 - (2) 「本時のねらい」設定の仕方
- 2 「道徳科」の授業における「発問」
- 3 本時のねらいを踏まえて、教材「ブラッドレーのせいきゅう書」を読む。
- ・道徳授業における「発問(基本発問、中心的な発問、補助発問)」の役割を復習してノートにまとめる。(30分)
- 第8回 1 「道徳科」の特質を生かした授業構想(第4回)
- (1) 「道徳科」の授業における「終末」の役割と工夫
 - (2) 「本時のねらい」に迫るために、教材「ブラッドレーのせいきゅう書」の発問を考える。
 - (3) 「展開案」作成(第1回)・・・グループごとに協議しながら作成する。(個別指導を行う。)
- 2 「学習指導案」とは何か ・「道徳科」の学習指導案の内容(第1回)
- 3 「いじめ問題」と道徳教育(第1回)
- ・いじめの定義 ・いじめの実態
 - ・次回までに展開案作成を進める。(予習30分)
- 第9回 1 「道徳科」の特質を生かした授業構想(第5回)
- (1) 「本時のねらい」に迫るために、教材「ブラッドレーのせいきゅう書」の発問を設定する。
 - (2) 「展開案」における「指導上の留意点」とは何かを理解し、書き方を学ぶ。
 - (3) 「展開案」作成(第2回)・・・グループごとに協議しながら作成する。(個別指導を行う。)
- 2 「道徳科」の学習指導案の内容(第2回)
- 3 「いじめ問題」と道徳教育(第2回)
- ・いじめの種類 ・いじめの影響 ・いじめ防止のための全校体制
 - ・次回までに展開案作成を進める。(予習30分)
- 第10回 1 「道徳科」の特質を生かした授業構想(第6回)
- (1) 「中心的な発問」と「価値の内面的自覚を図る発問」
 - (2) 「展開案」作成(第3回)・・・グループごとに協議しながら作成する。(個別指導)
- 2 「展開案」を基にした代表者による模擬授業(第1回)とグループ及び全体協議(発表・学び合い)
- 3 「道徳科」の板書の理論と方法(第1回)
- ・「板書」の役割と方法について復習する。(30分)
- 第11回 1 「道徳科」の特質を生かした授業構想(第7回)
- 2 「展開案」を基にした代表者による模擬授業(第2回)とグループ及び全体協議(発表・学び合い)
 - 3 「道徳科」の板書の理論と方法(第2回)
 - 4 「展開案」修正
 - 5 学習指導案作成の手順(方法)(第1回)
- ・模擬授業から学んだことをノートにまとめる。(30分)
 - ・事前配布資料を読んで、「道徳科の評価」留意事項を確認する。(予習30分)
- 第12回 1 「展開案」を基にした代表者による模擬授業(第3回)とグループ及び全体協議(発表・学び合い)
- 2 「道徳科」の板書の理論と方法(第3回)
 - 3 「展開案」修正、学習指導案作成の手順(方法)(第2回)
 - 4 「道徳科」の評価(第1回)
- ・「道徳科」の評価留意事項について復習する。(30分)
- 第13回 1 模擬授業と協議から明確になった「道徳科」の特質を生かした授業展開(第1回)
- 2 「道徳科」の評価(第2回)
 - 3 「展開案」修正、学習指導案作成の手順(方法)(第3回)
 - 4 「いじめの未然防止」を意識した「道徳科」の授業(中山による模擬授業)(第1回)
- ・「道徳科」の評価留意事項について復習する。(30分)
 - ・中山の模擬授業から学んだことをノートにまとめる。(30分)
- 第14回 1 模擬授業と協議から明確になった「道徳科」の特質を生かした授業展開(第2回)
- 2 「道徳科」の評価(第3回)
 - 3 「展開案」修正、学習指導案作成の手順(方法)(第4回)
 - 4 「いじめ未然防止」を意識した「道徳科」の授業(中山による模擬授業)(第2回)
- ・「道徳科」の評価について、学習指導案へどのように位置付けるかを復習する。(30分)
 - ・中山の模擬授業から学んだことをノートにまとめる。(30分)
- 第15回 1 「道徳科」の評価(第4回)
- 2 「道徳科」と言語事項の充実 ・「道徳科」における「話し合い」の目的
 - 3 家庭や地域と連携して進める道徳教育
 - 4 講義全体のまとめ
- ・「道徳科」における言語事項及び「話し合い」の目的について復習する。(30分)

【授業の進め方】

小学校で作成し、活用されている指導計画、指導案、授業の資料や補助教具を示しながら、また、時には私自身が学生に対して模擬授業を展開しながら、小学校の道德教育とその要となる道德科授業について講義と演習を行う。理論を丁寧に整理して説明するとともに、常に理論と実践の関連を明確にして、教育実習の際や小学校の担任としてすぐに役立つ実践的な講義を行う。

講義においては、ペア学習、グループワーク、体験的な学習や活動を取り入れると共に、学生には積極的な挙手発言を求めたり意図的指名を行ったりして「学びの当事者として講義を通して成長し続ける」という意識を高める。そのための手段として、毎回「リアクションカード」へのまとめ及び「自己評価」の時間を確保するとともに、次回までにコメントを入れて返却する。学生には「学びの足跡」を確実に積み上げさせる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

改正された学習指導要領解説道德編が出版されていないため、必ず購入すべき教科書はない。

担当者が、講義に係る資料をその都度作成・印刷して配布する。(文部科学省ホームページよりダウンロードは可能である。)

【参考図書】

「小学校学習指導要領解説 道德編」(平成20年8月)東洋館出版社

「私たちの道德 低中高学年」 3分冊

いずれも文部科学省

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

「リアクションカード」を毎回提出させ、主体的な学びができているかを中心に評価する。また、講義中の態度や取組の意欲について主に観察により評価する。特に、話を真剣に聞く、自ら発言する姿について重視する。教師を目指す者として、児童の学ぼうとする意欲を大切にすることを今からもってほしい。

定期テストは、授業内容の理解度を主な評価の基準とする。

【履修上の心得】

- 1 講義を傾聴する態度を重視する。児童の学ぶ姿勢の基本は「聞くこと・聴くこと」である。将来に備えて、児童の立場で学びを体験する。
- 2 意見発表、学び合い、演習等を重視する。
- 3 「リアクションカード」には、自身が学びを深めたこと、成長できたことをまとめるようにすると共に、毎回の講義への取組態度について自己評価する。(評価項目に回答する。)

【科目のレベル、前提科目など】

教育活動全体を通して行う道德教育は、教職に関する全科目に関連する。また、各教科においても道德教育が重視されていることも重要なポイントになる。

科目名	特別活動の理論と方法P
	特別活動と人間形成
	授業形態：講義
教員名	金井 正

【授業の内容】

特別活動は、児童生徒が望ましい集団活動を通して、生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養うことにある。学校教育の中で意図的に行い、望ましい集団づくりに大きく関わる活動である。

本講義では、児童生徒が集団の一員として、よりよい生活や人間関係を築いていくために、教師がいかに特別活動の時間を効果的に運営していくか、その理論と方法を、具体的な事例を使いながら理解する。あわせて、教職を目指す学生が学校現場に立ち、特別活動の指導の際に必要なとされる指導力の基礎的・基本的な資質と能力を養うことを目的とする。

【到達目標】

- ・特別活動の意義や指導原理を理解することができる。
- 特に、学習者が課題を発見し解決に向けて主体的・協動的に学んでいくための方法
- ・学習指導要領に示された特別活動の目標や内容を理解することができる。
- ・特別活動の各内容の具体的指導法の基礎を理解することができる。

【授業計画】

- 第1回 1 特別活動の意義
- 1) 特別活動の意義と内容
 - ・学習課題(予習・復習)：配布したレジュメ等資料を基に授業ノートを充実させること。
 - 予習は本シラバスによって、復習は授業時に配布したレジュメ等資料を基に行うこと。
 - 以下、各回の授業に対して、予習・復習を行い、その時間は90分程度を目安にする。
- 第2回 2) 特別活動の変遷
- 第3回 2教育課程と特別活動
- 1) 教育課程の内容
- 第4回 2) 特別活動の教育課程上の位置と内容
- 第5回 3) 特別活動と他の教科、領域との関係や保護者、地域との関係
- 第6回 3特別活動と学級経営、学校経営
- 1) 学級経営と学校経営
- 第7回 2) 特別活動の指導内容、方法
- 第8回 4学級活動、ホームルームの活動の内容と指導
- 1) 活動内容
- 第9回 2) 指導の重点、方法、留意点
- 第10回 5児童会、生徒会活動の内容と指導
- 第11回 6クラブ活動の内容と指導
- 第12回 7学校行事の内容と指導
- 1) 学校行事の内容
- 第13回 2) 学校行事の指導
- 第14回 8特別活動の評価
- 1) 評価の観点と趣旨
- 第15回 2) 指導と評価の関連

【授業の進め方】

- ・授業レジュメを毎回配布し、それに沿って進める。
- ・課題の発見、解決等を重視し、ディスカッション等により主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業とする。
- ・具体的な例を示し、わかる授業に努める。
- ・系統性を重視した授業に努める。
- ・学生は、授業ノートを作成し、内容の充実に努める。特に復習に時間をかけるようにする。
- ・学生は、シラバスで次時の内容を確認し、関連する書籍やインターネット等を活用し予習をして授業に臨むこと。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①小学校学習指導要領解説 特別活動編 ②文部科学省 ③東洋館出版 ④平成20年 ⑤134 ⑥ISBN978-4-491-02379-3

毎回の授業用レジュメ等資料を配布するので、順よく整理し教科書として活用すること。
 また、必ず授業ノートをつくること。

【参考図書】

「特別活動の理論と方法」 学芸図書 など

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

定期試験は、記述式で行う。

履修態度は、授業への取組（質問に対する発言、質問、学習態度等）を重視する。

【履修上の心得】

- ・教職に就こうとする者は、教師としての適格性、能力が問われる。従って、それなりの授業態度を要求する。
- ・理由書、学生証の不正利用は、依頼者、行為者ともに重大な欠席扱いとする。

科目名	教育方法論P
	授業形態：講義/授業回数：15回（30時間）
教員名	山路 千華

【授業の内容】

教師にとって必要な教育方法及び技術を学び、幼児の主体的な生活を基盤に意図的及び計画的な教育を実践する方法を考える。教師(保育者)がねらいや見通しをもって行う教育方法・保育形態について理解する。

【到達目標】

幼児教育における様々な教育方法や保育形態を理解する。

実際の教育現場において子どもとかわるうえで必要な知識及び技能を活用し、実践的視点から考察できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 幼児教育の基本と教育方法の考え方
- 第2回 教育方法を学ぶ意義と環境を通して行う教育の基本的考え方
- 第3回 子ども理解に基づく環境の構成と保育の展開
- 第4回 子どもの主体性を育む教育と保育者の意図
- 第5回 様々な保育の場面と保育方法
- 第6回 様々な保育方法と保育の形態
- 第7回 遊びのなかで学びを育む共感性と保育の方法
- 第8回 子どもの「時」概念形成と保育における年中行事の意義
- 第9回 園だより、クラスだよりの実際とICT情報活用の課題
- 第10回 保育活動に見る保育の計画と教育効果
- 第11回 保育の活動と教材研究の実際・指導計画の実際
- 第12回 保育活動にみるメディア利用とその教材化
- 第13回 社会と子ども/社会の中の家族と育ち
- 第14回 保育方法と保育者の役割-子育て親支援の拠点として
- 第15回 子どもを取り巻く人や社会との連携方法/異校種間連携

【授業の進め方】

基本的には講義形式で行うが、教育方法での学びを実践できる体験学習や模擬保育的な実践、グループ・ディスカッションなどの機会を設ける。また、指導計画の立案、教材作成、おたよりの作成等を課題として課すこともある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針 ②内閣府 文部科学省 厚生労働省
- ③チャイルド本社 ④2014/07 ⑤540 ⑥978-4-8054-0228-3

【参考図書】

大豆生田啓友・渡辺英則・森上史朗『最新保育講座6 保育方法・指導法』（ミネルヴァ書房）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 20%

特記事項

定期試験及び課題、実践的学習の取り組みで総合的に評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・成績評価の方法は「履修規程」に準ずる。
- ・受験資格は「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

- ・全回出席を原則とする。

【科目のレベル、前提科目など】

幼稚園教諭免許・保育士資格取得のための重要な科目である。

科目名	教育方法論P
	授業形態：講義
教員名	池野 正晴

【授業の内容】

- 教育現場の授業づくりや学習指導において大いに役立つ学問上の基礎・基本を精選して重点的に扱うこととする。
- よい授業を形成している要因を理解し、授業づくりの基礎・基本を修得できるようにする。
- A「授業づくりネタクイズ」、B「教育方法論の基本概念」、C「実際の授業づくり」の3本柱で構成する。
- よい授業とは何か。できるだけ具体的事例を通して「アクティブ・ラーニング」型の学習指導のあり方について考えることを中心としていく。

【到達目標】

- 1 授業づくりにおける基本概念(教育内容, 教材, 教具, 教授行為(発問, 指示, 説明など)等)について理解できる。
- 2 学習モデル(アクティブ・ラーニング型学習等)及び教授理論, 授業の原理・技術, 授業の計画・実施・評価, 学習形態などについて理解できる。
- 3 教育工学, 情報機器の操作・活用等について理解できる。

【授業計画】

- 第1回 教育方法論・そのプロローグー「教育方法論」○×チェックー
※A「授業づくりネタクイズ」、B「教育方法論の基本概念」、C「実際の授業づくり」の3本柱で構成する。
(B, Cについては, 並行して扱うものとする。)
- 第2回 B:教育内容と教材Ⅰー教材とは, 教育内容とはー(パワーポイント資料等使用, 以下「P」と略)
C:「授業力」の上達 (テキスト使用, 以下「T」と略)
- 第3回 B:教育内容と教材Ⅱー区別する論理・意義と教材観ー児童観の転換ー (P)
C:教育現場における俗説と理念だおれの研究Ⅰ (T)
- 第4回 B:教材と教授行為Ⅰー授業Aと授業Bとで考えるー (P)
C:教育現場における俗説と理念だおれの研究Ⅱ (T)
- 第5回 B:教材と教授行為Ⅱー教授行為と授業の成立ー (P)
C:子どもの育ちをいかに援助するか (T)
- 第6回 B:発問, 指示, 説明とはⅠー「発問」とはー (P)
C:活動を主体化させる授業改革 (T)
- 第7回 B:発問, 指示, 説明とはⅡー「指示」,「説明」ー (P)
C:個を生かす指導原理Ⅰ
ー多様性・妥当性・有効性, ゴールフリー・活動の多様化の原理ー (T)
- 第8回 B:系統学習モデルと経験学習モデルⅠー形式的教授段階説ー (P)
C:個を生かす指導原理Ⅱー個人差重視・指導方法の多様化の原理ー (T)
- 第9回 B:系統学習モデルと経験学習モデルⅡー問題解決学習ー (P)
C:個を生かす指導原理Ⅲ
ーATI研究, Doする学習, グループ・ワーク, ディベート等ー (T)
- 第10回 B:発見学習モデルと一般的な教授学習過程Ⅰ
ー問題解決学習と発見学習, 及びアクティブ・ラーニング型学習ー (P)
C:「授業崩壊」の要因と遠因Ⅰー教師の力量の問題ー (T)
- 第11回 B:発見学習モデルと一般的な教授学習過程Ⅱー一般的な教授・学習過程ー (P)
C:「授業崩壊」の要因と遠因Ⅱー子どもの変容と家庭教育ー (T)
- 第12回 B:学習指導に生かす教育工学Ⅰーメディアリテラシーと教育方法ー (P)
- 第13回 B:学習指導に生かす教育工学Ⅱー教育におけるコンピュータ利用ー (P)
- 第14回 B:学習指導に生かす教育工学Ⅲ
ー教育におけるインターネット利用とICT活用の工夫・情報倫理ー (P)
- 第15回 教育方法論・そのエピローグ

【授業の進め方】

- 対話形式を重視し,「その場において, 実例等について実際に考えること, ともに考えること」をたいせつにしていきたい。
- 適宜,「授業づくりネタクイズ」を通して, 授業づくりについて具体的に考えることができるようにする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- (1) 印刷教材「教育方法論の基本概念等」(パワーポイント用スライド等の資料を, 事前に印刷・製本し, 配付する予定)
- (2) 池野正晴『新しい時代の授業づくり』(実際の授業づくりについて述べたもの), 東洋館出版社, 2015年(第4版)

【参考図書】

- 佐藤学『教育の方法』，左右社，2010年
- 中川・苑編『メディアと学校教育』，放送大学教育振興会，2013年
- 水越敏行他『これからの教育とメディアの教育』，図書文化，2005年

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

- 試験及び授業への参加・参画度，貢献度，参加・参画態度，発言内容等（平常点）で評価をする。
- 試験 70%
- 参画度 30%（授業への参加・参画度，貢献度，参加・参画態度，発言内容等）

【履修上の心得】

- 全回出席を原則とする。（毎回）
- 「その場において，話し合いに参加する」ことを大事にしたい。
（「教師になる」という当事者意識をもって参加・参画する。）

【科目のレベル、前提科目など】

- 「教育課程論」，「各科教育法」
- 教育に関する学問の基礎科目である。

【備考】

- 次回の該当箇所（印刷テキスト及び書籍テキスト）をよく読んで，ノートにまとめておく。
- 印刷テキストの「穴空き部分」について，前もって自分なり考えて，適切と考える語句をうめておく。
- 毎回，これまでに学習者として受けてきた授業を思い出しながら，その工夫点などについて講義で扱った視点から考察するようにする。

科目名	生徒指導論(進路指導を含む)
	ライフキャリア開発の視点から生徒指導を問い直す
教員名	榎本 和生

【授業の内容】

生徒指導の意義は、個々の児童生徒が社会的な自立を図るために必要な能力や態度の育成にあります。すなわち、人間いかに生きるべきかという自己指導能力に裏打ちされた人間形成への教育的な営みと捉えることができます。本講義では、教育の機能的及び領域的な側面から、生徒指導の原理、歴史の変遷、学校現場における実践上の課題等を踏まえ、生徒指導（進路指導を含む）の理論と実践力を深め、今日的な教育課題に対応できる教師の育成を目指した授業を展開します。具体的には、受講生自らがライフキャリア（人生）に必要な諸能力を身につけるような授業を展開する。

【到達目標】

受講後、次のことができるようになる。

1. 生徒指導および進路指導の原理や理論を整理して述べることができる。
2. プログラムモデルに基づく生徒指導および進路指導の実践ができる。
3. ライフキャリア(人生)に必要な諸能力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：授業の内容や進め方について説明する。また、生徒指導及び進路指導の被体験から想起する。
予習：あらかじめ小・中・高校での生徒指導及び進路指導の体験を文書にまとめておく。
復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第2回 学習へのモチベーションアップを図る。
予習：前時に紹介した刈谷剛彦著『学力と階層』を読んでおく。
復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第3回 生徒指導の歴史と用語の多義性について説明する。
予習：配付資料を読んでおく。
復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第4回 生徒指導の意義と役割について説明する。
予習：配付資料を読んでおく。
復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第5回 生徒指導で育成する諸能力について検討する。
予習：テキストを読んでおく。
復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第6回 プログラムモデルに基づく生徒指導について説明する。
予習：配付資料を読んでおく。
復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第7回 生徒指導関係者の役割と校内体制の在り方について説明する。
予習：配付資料を読んでおく。
復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第8回 キャリア教育（進路指導）歴史と発展について説明する。
中間試験（小試験）を実施する。
予習：テキストを読んでおく。
復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第9回 キャリア教育に関する基礎知識について説明する。
予習：テキストを読んでおく。
復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第10回 キャリアに関する諸理論、特に社会学習理論と比較しながら検討する。
予習:テキストを読んでおく。
復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第11回 進路指導（キャリア教育）の現状と課題について検討する。
予習:テキストを読んでおく。
復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第12回 進路指導（キャリア教育）の視点からの教育課程の改善について検討する。
予習：配付資料を読んでおく。
復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第13回 進路指導（キャリア教育）の望ましい実践を紹介する。
予習:配付資料を読んでおく。
復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第14回 生徒指導と進路指導（キャリア教育）の関係を検討する。
予習:配付資料を読んでおく。

復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
第15回 学習した内容を復習しながら、知識を確実にする。
予習:配付資料を読んでおく。
復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。

【授業の進め方】

講義は、毎時間のつながりを重視して(今日の疑問が次時に解明される)展開しますので、休まず受講すること。各自、予めテキストを熟読し、各章の概要を作成します。その概要作成したものを発表し、討論する方法で授業を進めます。また、生徒指導の被体験談等を基に、学校における様々な教育場面における生徒指導を考察していきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①大学生のためのライフキャリアデザイン ②榎本和生・横山明子編著 ③さんぽう ④2013.5 ⑤2,000円

【参考図書】

「生徒指導の手びき」文部省400円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 80% レポート・課題 0% 受講態度 20%

【履修上の心得】

テキストや配布した資料を前もって熟読しておくこと。配布する資料等を保存するための専用クリアホルダー（A4、30ポケットで可）の準備を願いたい。

【科目のレベル、前提科目など】

機能としての生徒指導は特別活動の領域で実践されます。したがって特別活動の講義内容も確実に理解することを希望します。

今日、教員が直面する課題は、多忙感であると多くの教師が答えています。その背景として、生徒指導における種々の困難性に加え、保護者や地域からの非難の目(責任放棄、非協力)から、教師の自信もゆらぎ、忙しさが多忙感として心理的な圧迫要因に変質するものと考えます。また、生徒指導を「難しく大変」と受け止め、一人で悩み、その絶望感から教師を辞めたいと思う教師も少なくありません。本講義では、発達課題の達成を指導・援助する生徒指導の本質を理解し、だれもが協働できる、開かれた(児童生徒も参加できる)生徒指導を習得するなど、教師生命の根幹を身につける授業と理解されたい。

科目名	生徒指導論(進路指導を含む)
	次期学習指導要領を考慮して主体的な学習姿勢を育てる生活指導(進路指導含む)の理論・方法論の基礎を学ぶ。
	授業形態：講義
教員名	須藤 勝

【授業の内容】

学校は学習指導要領に基づき教育課程を編成・実施し、学校教育の目的や目標を達成させるために教育活動を行う。この学習指導要領の改訂時期が近づいている。新たな概念として、アクティブラーニングの方法と、ICT活用能力が求められることが予想される。また、特別な教科「道徳」、小学校5年生からの教科「外国語（英語）」などの導入、充実が予想される。しかし、現行の学習指導要領でも「生徒指導（進路指導・教育相談）」については学習指導要領に項目立てはない。次期学習指導要領にも項目立てはないと予想されるが、生徒指導の機能として求められる内容は微妙に上記の新たな概念とリンクしてくると考えられる。

本講座でも、「生徒指導提要（文部科学省・2010年3月）を根拠とした内容を中心としつつ、次期学習要領が求めるであろう「21世紀型の資質・能力」を意識して、アクティブラーニングの要素を分析し、主体的な学び、生活行動の指導を究明していく。進路指導の分野も、次期学習指導要領で育つ児童を想定しつつ、主体性や協調性を育てる方法の工夫を織り交ぜて進める。中学生になると部活動がある。その接続部分についても考慮することで、中1ショックを緩和させ、学校生活の活性化を考えさせる。

本講座は、この「生徒指導提要」を下敷きとしつつ、進路指導も含めてそのエッセンスを学ばせるとともに、学生の教育現場における実践力を養う目的で講義・演習を行う。具体的には、指定したテキストの沿って進めるが、テキストに記述されていることをなぞるような授業はしない。講師の35年を超える経験を生かして、具体的な事例を紹介し、学生に考えさせる形で講義を進める。それゆえに、前提として、学生がテキストを読み込んで来ていることを想定しているのだから、しっかり読んで、自分なりに問題意識をもって受講してほしい。

また、現今、大きな課題となっている、いじめ、体罰、不登校や高校中退、部活動、子どもの貧困、教員の多忙化などにもしっかりと向き合った授業を展開する。

【到達目標】

1. アクティブラーニングなどの学習活動に適應できる児童生徒の資質・能力を育てる生徒指導の在り方を考えさせる。
2. 生徒指導の意義や理論を的確に理解し、それを実践に生かせる力を身につける。
3. 進路指導の理論や技術を学ぶことで、児童生徒に自己の将来を展望させ、自己教育力を育む指導力を身につける。
4. 教育相談の知識と技法にも触れる中で、的確な生徒理解と応用の利く指導力を高める。
5. 一教師として、自己理解を深め、自己の課題解決に取り組む姿勢を身につけ、組織における役割を自覚しつつも、豊かな個性が発揮できる人材を目指す。生徒指導の目標である「児童生徒の帰庫教育力の育成」を図る生徒指導の在り方を理解し、実践できる人材を育てる。

【授業計画】

- 第1回 受講オリエンテーション。講義中の心構え、ルール。試験、成績などについてのガイダンス
総論
- 1 「アクティブラーニングの学習にも対応できる生徒指導とは」… 一般論としての生徒指導の定義、意義。
 - 2 「課題と内容」… 新たな概念が導入される現代の学校における生徒指導の課題、生徒指導の内容、範囲など。
 - 3 「人間観、自己指導力の育成」… 生徒指導の理論の底に流れる人間観について。その上で育てる自己指導力の内容と方法。
- ※（予習）「生徒指導提要」には載っていない「アクティブラーニング」について、事前に調べておく。
（復習）生徒指導の機能とアクティブラーニングの学習に適應できる能力の育成との関連性について理解を深める。
- 第2回 4 集団指導… 学校は集団指導が原則。個別指導との連携など。
5 援助・指導の仕方… 自ら考え、解決する支援・援助と適切な指導の組み合わせ
6 生徒理解、方法… 生徒理解とは。その方法について。
※（予習）テキストの該当箇所を読み込んでおく
（復習）学校は集団指導が原則である理由を整理する。
個別指導と生徒理解の関係を考える。適切な指導と助言・支援の関係。
ノンバーバルコミュニケーションについても考える
- 第3回 各論
- 1 生徒指導の意義と内容… 現場に即した生徒指導。ケースごとの内容、方法。
 - 2 生徒指導の主体、校務分掌としての生徒指導部… 生徒指導の主体はどこか。校内組織を生かした生徒指導とは。
- ※（予習）生徒指導が必要なケースを事例としていくつか書き出してみる。
（復習）学校が組織であることの意味をまとめる。校務分掌の意味を深く理解する。
- 第4回 3 校務分掌組織について… 生徒指導部の位置づけと他の分掌組織との連携
4 教師間の共通理解… 共通理解と意思統一の違い、共通理解の可能性
5 教科教育（授業）における生徒指導… 学級づくりと授業や特別活動などとの相互関係
6 道徳の時間を通じての生徒指導… 生き方、人権尊重、人間関係の構築とりわけ、いじめ、不登校、

- そして教員の体罰についても考えさせる
- 7「特別活動」の中での生徒指導… ルールの遵守、相互理解のコミュニケーションによる連帯感、達成感、責任感など
- ※(予習)生徒指導の方針(校則など)と教員間の共通理解、意思統一について調べてみる(校務分掌も考慮する)
(復習)教科外活動(道徳や特別活動など)と生徒指導の場面をいろいろと想定してみる。
- 第5回 8 家庭との連携… 生活は学校の中だけではない、家庭生活の把握と指導
9 地域との連携… 地域の教育力、地域への感謝と貢献、開かれた学校
10 問題行動… 問題行動とは、問題行動の分類、問題行動の早期発見、とりわけ、いじめ、不登校、教師の体罰について再度考えさせる
- ※(予習)テキストの該当箇所を読み込んでおく
(復習)家庭・地域との連携と問題行動解決の関係をまとめておく
- 第6回 進路指導
1 進路指導の歴史的な概略
2 進路指導の意味と目標(主体的な選択)
3. キャリア教育の考え方
- ※(予習)「生きる意味」と「生きる力」について考えを深める
(復習)学級活動、ホームルーム活動を活用した進路学習のアクティブラーニングの方法を考える
- 第7回 4. 教育相談の機能、効果
3 進路指導と教育相談との関連、カウンセリングマインドやコーチングについて
4 進路指導の内容、領域
- ※(予習)進路指導における教育相談について小・中・高での経験をまとめておく
(復習)校務分掌の各担当と進路指導部との連携について考えてみる(特に学年担任団や学級担任との関係)
- 第8回 5 校内組織における進路指導担当部門の役割
6 指導計画と計画的対応、全体計画、学年計画、学級計画
7 進路学習、キャリアガイダンス、職業体験など
8 進路相談の方法、今日的課題
- ※(予習)第8回の復習から学校全体の進路指導体制を想定してみる
(復習)「進路指導」ではなく「進路学習」とする意味をアクティブラーニングを含めて考える
- 第9回 教育相談とその関連事項
1 教育相談の意味と意義
2 学校における特質
3 教育相談の内容と領域
- ※(予習)員路指導以外の教育相談一般についてどんなものがあるか書き出してみる
(復習)教育相談は児童、生徒だけが対象ではなく、保護者も対象である。どんな相談事があるか考えてみる
- 第10回 4 学校における教育相談組織
5 専門職の相談員(学校医、養護教諭、スクールカウンセラー等)との連携
- ※(予習)自分が児童・生徒だったころ教育相談を受けたことがあったか思い出してみる
(復習)「チーム学校」という言葉の意味を理解し、その課題も整理しておく
- 第11回 6 学級担任の役割
7 教科担当などの学級担任以外の教員の役割
8 教員以外の学校職員との連携
- ※(予習)生徒指導(進路指導も含む)に関わる教員は誰かを考えてみる
※(復習)学校には教員以外にどんな職員がいるかを洗い出してみる。それらの職員が生徒指導にどう関係しているかを考える
- 第12回 9 守秘義務
10 校内研修、個人研修、OJTなど
11 教育相談展開計画
- ※(予習)学校におけるコンプライアンス(法令や規則遵守)にはどんなものが考えられるか書き出してみる
※(復習)学校の組織的な研修方法や組織的な計画を策定をしてみる
- 第13回 12 教育相談の場、教育相談のプロセス
13 教育相談の今日的課題
14 スクールカウンセラーの社会的地位、教育相談の限界
- ※(予習)教員による教育相談とスクールカウンセラーによるカウンセリングの違いを整理してみる
(復習)学校医や学校薬剤師とスクールカウンセラーの共通点と相違点をまとめてみる
- 第14回 本講座全体の総括と教師の自律性
1 生徒指導・進路指導・教育相談の相互の関連・連携
2 学校における教師の服装、生活態度、そして自らの人格形成
- ※(予習)今まで13回の講義を振り返り、生徒指導論の全体像をまとめてみる
(復習)生徒指導における教員のあるべき姿を内面、外面共に書き出してみる
(授業の終わりに試験の例題5問プリントを配布する)
- 第15回 3 論文を書く(レポート・論文における用字用語の基礎知識、事実と意見、引用と自分の意見、論理的な組み立てなど)

4 論文を書く テーマを与え、実際に書く練習

※（予習）原稿用紙の使い方、文章の構想など高校までに習ってきたことを整理しておく

（復習）プリントの5問すべて1000字以上で書いてみる（この5問の中から1問が出題される）

（試験は50分、小論文形式で出題する。採点基準は「内容・個性」、「段落・論理」、「修辞・表記」の3観点で総合的に評価する）

例年、90人前後の受講生がいるため、大教室においてマイクを使った授業となるので難しいのだが、できるだけアクティブラーニングを意識し、前後左右の学生と話し合わせたり、私が教壇を降りて学生席に入りマイクを向けて質問したりして、できるだけ学生参加型の講義にしている。週一回で半期の講座なので、なかなか全員の学生の名前を覚えられないため、公平を期す意味で授業中の発言や質問を平常点には算入してはいない。ただし、毎回リアクションペーパーを書かせている。これは毎回採点している。

【授業の進め方】

- ・講義形式中心の授業となる。ただし受講者への発問や小グループ討議を必要に応じて取り入れることもある。
- ・グループ討議、ディベートなど受講者参加型の実習も受講者数によっては実施することもある。時間があれば各種実習、インターン体験者には体験を語る時間も設ける
- ・講義の終りに、大学の定型様式のリアクション・ペーパーを課す（3段階で採点する）。
- ・リアクション・ペーパーは質問用紙に使用してもよいが、必ず自分の意見も付すこと。毎回コメントをつけて返却できるように努めている。
- ・原則として、リアクション・ペーパーに記述して提出した者のみを出席とみなす。
- ・最終回は、レポート・論文の書き方を指導し、時間があれば実作の練習もする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①「生徒指導・進路指導・教育相談テキスト」 ②鈴木康明／編 ③北大路書房 ④最新版を ⑤2100円＋税 ⑥978-4-7628-2433-3 C3037

①「生徒指導提要」 ②文部科学省 ③教育図書 ④2010年3月 ⑤290円（税込み） ⑥978-87730-274-0C3037 Y276E

必ず、受講の初日までに購入し、各回の予習・復習などに使ってほしい。現職教員になっても役に立つと考える。この他に、教育小六法や学校小六法も一冊あると役に立つ。2～3年前の古本(かなり安くなる)でもとりあえずは可。

【参考図書】

（書名）学校心理学が変える新しい生徒指導

（著者名）石隈利紀 監修／山口豊一 編著

（出版社）学事出版

（価格）2,000円＋税

※学校心理学という新しい視点で、子どもサポートに主眼が置かれた生徒指導論であり、興味深い。進路指導には随所で触れているが章立てはされていない。興味深いのが、授業ではあまり使わない。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 20%

特記事項

- 1 毎回のリアクション・ペーパー（レポート・課題に相当する）の採点結果、授業内の発表などの受講態度やリアクション・ペーパーの提出状況（全て数値化）を定期試験と合計して評価する。
- 2 定期試験は小論文形式とする（1200字程度）。講義で得た知識を生かして、自分の考えを論理的に記述させる。
- 3 毎回提出するリアクション・ペーパーは出席の証しであるとともに、論文試験の練習を兼ねているので、自分の考えやその根拠を必ず書く。（詳しくは1回目の授業で述べる）
- 4 取組姿勢には、講義中の態度や遅刻・早退なども、その程度によっては含まれる。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・提出されたリアクション・ペーパーの質問・内容なども、評価できるものは加点する。
- ・毎回のリアクション・ペーパーの記述は、課された内容に即していないと0点になる。ただし出席にはなる。（ルールとして、リアクションペーパーをその日に提出しないと出席とは扱わない。）
- ・教育実習で休んだ場合は、欠席回数も多くなるので、実習レポートを別に課すか、授業中に発表してもらうことで回復措置をとる。その他の欠席届は、日頃の出席状況などによって判断して出席扱いとする。

【履修上の心得】

- ・原則として6回以上の欠席は未履修（定期試験が受けられない）とするので注意する（大学の規則）。
- ・30分以上の遅刻、早退は欠席扱いとする（交通機関の遅延証明があれば考慮する。ただし、原則として欠席は回復できない。）

- ・ 前述の通り、遅刻・早退が多い場合は、取組姿勢の観点で減点の対象とすることがある。

【科目のレベル、前提科目など】

教職に関する必修科目に位置付けられているので、教員免許取得における履修要件がある。(文部科学省)

【備 考】

国や都道府県の教育方針などに変化が生じた場合は、シラバスの内容を一部変更することもありうる。その場合は、大学と協議の上、事前に書面にて告知する。

科目名	教育相談P
	授業形態：講義
教員名	伊崎 純子

【授業の内容】

- 1) 体験を通して教育相談の基礎を学ぶ
- 2) 講義やいくつかの実習を通して、コミュニケーション能力を養う
- 3) 「いじめ問題」を含めた時事問題について自主学習できる力（スタディ・スキル）を養う

【到達目標】

- ・ 幼児の理解を含めた教育相談の基礎的な知識を獲得できる
- ・ 講義や演習を通して、カウンセリングマインドやコミュニケーションスキルを身につけることができる
- ・ いじめ問題に関する認識を深め、いじめ防止、いじめの早期発見及び適切な対処を模索できる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション:教育相談とは何か
復習：授業で取り上げたキーワードを各自復習する（20分）。
- 第2回 発達・知能検査（講義）
復習：授業で取り上げたキーワードを各自復習する（20分）。
- 第3回 発達・知能検査（視聴／実習）
復習：授業で出された課題に取り組む（90分）。
- 第4回 行動観察（講義）
復習：授業で取り上げたキーワードを各自復習する（20分）。
- 第5回 カウンセリングの基本的な技術（面接について）：みる・きくワークの体験学習
復習：授業で取り上げたキーワードを各自復習する（20分）。
- 第6回 情報の収集（概説・記録の取り方）：主訴の取り出し
復習：授業で取り上げたキーワードを各自復習する（20分）。
- 第7回 カウンセリングの基本的な技術（グループ・ワーク）
復習：授業で出された課題に取り組む（30分）。
- 第8回 危機管理：虐待・学校安全
復習：授業で取り上げたキーワードを各自復習する（60分）。
- 第9回 保護者への対応
復習：授業で取り上げたキーワードを各自復習する（20分）。
- 第10回 教育・保育に活かすカウンセリング 1(例:不登校・親との面接)
復習：授業で取り上げた対応法を各自復習する（30分）。
- 第11回 教育・保育に活かすカウンセリング 2(例:発達障害の疑い・学級崩壊)
復習：授業で取り上げた対応法を各自復習する（30分）。
- 第12回 教育・保育に活かすカウンセリング 3(例:いじめ・子ども同士の関係)
復習：授業で取り上げた対応法を各自復習する（30分）。
- 第13回 教育・保育に活かすカウンセリング 4(例:就学の相談・療育機関との関係)
復習：授業で取り上げた対応法を各自復習する（30分）。
- 第14回 情報の収集と発信（実習）
復習：授業で出された課題に取り組む（120分）。
- 第15回 総括：生徒指導、進路指導との関係
復習：これまでの授業内容を復習する（30分）。

詳細は第1回のオリエンテーションの際に説明する。

【授業の進め方】

教育相談は、幼稚園および小学校という教育現場における幼児・児童とその保護者を対象とした相談である。いわゆるクリニックや児童相談所といった相談機関におけるカウンセリングとの違いは、①幼稚園や小学校に通園・通学している間のみ相談を受けるという期間限定的な関係であること、②幼児・児童という言葉のみによるカウンセリングに限界のある年齢の子どもの相談が中心であること、③多様な保護者と上手に関係を作り、相談終了後もその関係を維持する必要があること、④相談を受けつつも、その他の生活場面も共にすること、⑤受容しつつも、対象となる親子の将来を見据えた教育的側面も必要になること、⑥マスコミがとりあげる時事問題に則した相談内容が多くなりやすいこと、⑦学内外の専門職や専門機関との連携の重要性があげられる。上記の特徴を踏まえて、この講義では、幼児・児童の特徴を理解するための方法を先行研究から学び、時事問題に対するマクロ的な視野を得るべく情報を収集・分析する能力を養い、それを幼児や児童およびその保護者にどのように伝えるのかという表現を模索し、いかに適切かつ誠実に相談にのっていくのかというカウンセリングの基本的な技術を講義と体験学習によって学ぶ内容とする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない

適宜プリントを配布する

【参考図書】

『教師のための初等教育相談：日常から子どもに向き合うインクルーシブな発達支援』・西本絹子 萌文書林

『教師のためのカウンセリングゼミナール』・菅野純著 実務教育出版

『教師のためのカウンセリングワークブック』・菅野純著 金子書房

『エッセンス 学校教育相談心理学』・石川正一郎／藤井泰編著 北大路書房

『保護者支援スキルアップ講座』・柏女霊峰監修・編著 ひかりのくに

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 90% 受講態度 10%

特記事項

定期試験は実施しない。

3～4回程度のリアクションペーパーのほか、期末レポートの提出を求める。

レポート・課題の内訳は、期末レポートの内容50%、リアクションペーパーの提出状況と内容で40%である。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席が3分の2以下の場合には評価対象外となる（履修規程に準ずる）

【履修上の心得】

教職科目であるため、幼稚園教諭一種免許あるいは小学校教諭一種免許取得希望者ならびに他専攻免許（小学校教諭一種免許）取得希望者にとって必修科目となっている。

【科目のレベル、前提科目など】

幼稚園教諭一種免許および小学校教諭一種免許の必修科目【教職に関する科目：教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)の理論及び方法／(幼稚園教諭のみ) 幼児理解の理論及び方法】に該当する。

科目名	音楽実技 I
	授業形態：演習/授業回数：30回（60時間）
教員名	音楽担当教員

【授業の内容】

教育現場での実践に不可欠なピアノ演奏技術修得のために、当授業では基礎力向上をはかります。
ML（Music Laboratory）システムを使用して、ピアノ基礎指導の授業を行う。

ピアノ技術は個々の音楽経験により、それぞれの進度がまちまちであるが基礎を学ぶため教本バイエルを使用する。

1：入門グループ……教本「Let's play the BEYER」毎時間2～3曲仕上げる

2：初・中級グループ…教本「Let's play the BEYER」毎時間2～3曲仕上げる＋小品集より曲
基本姿勢、打鍵法、運指法、レガート奏法等の内容を組み合わせながら授業を行う。

【到達目標】

教本バイエルの曲を表情豊かに全曲演奏できるようにする。

【授業計画】

第1回	ピアノ基礎知識	教本1番～5番
第2回	6番～10番	
第3回	11番～14番	
第4回	15番～17番	
第5回	18番～20番	
第6回	21番～23番	
第7回	24番	
第8回	25番～27番	
第9回	28番～31番	
第10回	32番～35番	
第11回	36番～38番	
第12回	ハ調長音階	41番
第13回	ト調長音階	42番～44番
第14回	45番～46番	
第15回	47番～48番	
第16回	演奏（演奏会形式で発表）	
第17回	ニ調長音階	49番～50番
第18回	51番～52番	
第19回	イ調長音階	53番
第20回	54番～55番	
第21回	ホ調長音階	56番～57番
第22回	58番～59番	
第23回	60番～62番	
第24回	63番～64番	
第25回	イ調短音階	65番～67番
第26回	ヘ調長音階	68番～70番
第27回	71番～72番	
第28回	変ロ調長音階	73番～74番
第29回	75番～76番	
第30回	77番～78番	

毎回の練習・復習をしっかりとやり進捗表に決められた曲から遅れていかないようにする。

【授業の進め方】

ML（Music Laboratory）システムを使用して、担当教員が1人ずつ指導する授業を行う。
前半30分位毎回の曲について予習・復習の解説を入れ教員が曲の演奏をする。

【教科書（必ず購入すべきもの）】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①「Let's play the BEYER」教本 ②荒井弘高・今田政成 他 共著 ③圭文社 ④2010年4月 ⑤1500円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 20%

特記事項

毎回の授業の平常点と演奏の評価

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。

受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。

毎回の授業で課題の演奏に対しての評価をする。(平常点)

前期、後期1回演奏会形式で評価する。

【履修上の心得】

全回出席を原則とする。

日々の練習と探究心により、毎時間の課題曲をしっかりと消化し、次の音楽実技Ⅱへのステップとなるための予習、復習を必ず行うこと。

【科目のレベル、前提科目など】

ソルフェージュ

保育士資格取得のための重要な科目である。

【備 考】

毎日の練習が大切である。1日一回練習しましょう。

科目名	音楽実技II
	授業形態：演習
教員名	今田 政成・伊藤 裕美・高岩 利恵

【授業の内容】

ML (Music Laboratory) システムを使用して、童謡・唱歌など「こどもの歌」の弾き歌いを指導する。具体的には、こどもの生活や行事、季節を題材とした童謡やこどもの歌、行進曲など児童教育の現場においてすぐに役立つ弾き歌いや伴奏法を指導する。

前期…春・夏の季節に関する歌、行事やいろいろな歌等

後期…秋・冬の季節に関する歌、行事やいろいろな歌等

また、コードネームの説明（ハ長調、ト長調、ヘ長調の主要三和音、属七和音）を行い、楽譜に頼らない自由な伴奏を行える弾き歌いも指導する。

【到達目標】

児童教育の現場における曲の弾き歌いが表現豊かに演奏できるようにする。指導法も身につける。

【授業計画】

- 第1回 春の季節に関する歌3曲 コードC
チューリップ 朝のうた てをたたきましょう 弾き歌いの解説、指導
- 第2回 春の季節に関する歌3曲 コードC
春の小川 お帰りのうた ハッピーバースディ 弾き歌いの解説、指導
- 第3回 春の季節に関する歌3曲 コードC
春が来た おかあさん ぞうさん 弾き歌いの解説、指導
- 第4回 夏の季節に関する歌3曲 コードC
蝶々 トマト おべんとう 弾き歌いの解説、指導
- 第5回 夏の季節に関する歌3曲 コードF
アメフリ やぎさんゆうびん めだかの学校 弾き歌いの解説、指導
- 第6回 夏の季節に関する歌3曲 コードF
とんぼのめがね うれしいひなまつり 春よ来い 弾き歌いの解説、指導
- 第7回 行事に関する歌3曲 コードF
かたつむり たなばたさま 思い出のアルバム 弾き歌いの解説、指導
- 第8回 行事に関する歌3曲 コードF
夏は来ぬ シャボン玉 こぶたぬきつねこ 弾き歌いの解説、指導
- 第9回 行事に関する歌3曲 コードG
うみ お正月 ふしぎなポケット 弾き歌いの解説、指導
- 第10回 行事に関する歌3曲 コードG
おつかいありさん てるてる坊主 われは海の子 弾き歌いの解説、指導
- 第11回 いろいろなジャンルの歌 コードG
虫の声 茶つみ いぬのおまわりさん 弾き歌いの解説、指導
- 第12回 いろいろなジャンルの歌 コードG
むすんでひらいて コイノボリ バスごっこ 弾き歌いの解説、指導
- 第13回 いろいろなジャンルの歌 コードB
せんせいとおともだち 南の島のハメハメハ大王 かえるの合唱 弾き歌いの解説、指導
- 第14回 いろいろなジャンルの歌 コードB
まとめと発表
- 第15回 コード記号の伴奏法
解説、指導
- 第16回 演奏（演奏会形式で発表）
夕焼小焼 紅葉 日の丸の旗
- 第17回 秋の季節に関する歌3曲 コードB
まつぱっくり やきいもグーチーパー どんぐりころころ 弾き歌いの解説、指導
- 第18回 秋の季節に関する歌3曲 コードB
赤蜻蛉 里の秋 ふじの山 弾き歌いの解説、指導
- 第19回 秋の季節に関する歌3曲 コードD
あくしゅでこんにちは 七つの子 故郷 弾き歌いの解説、指導
- 第20回 冬の季節に関する歌3曲 コードD
きのこ 雪 大きなたいこ 弾き歌いの解説、指導
- 第21回 冬の季節に関する歌3曲 コードD
まっかな秋 世界中のこどもたちが 雨ふりくまのこ 弾き歌いの解説、指導
- 第22回 冬の季節に関する歌3曲 コードD
たきび 冬景色 揺籠のうた 弾き歌いの解説、指導

- 第23回 行事に関する歌3曲 コード伴奏曲
あわてんぼうのサンタクロース とけいのうた 山のワルツ 弾き歌いの解説、指導
- 第24回 行事に関する歌3曲 コード伴奏曲
かわいいかくれんぼ お花がわらった おなかのへるうた 弾き歌いの解説、指導
- 第25回 行事に関する歌3曲 コード伴奏曲
ミッキーマウスマーチ 小さな世界 うさぎ 弾き歌いの解説、指導
- 第26回 行事に関する歌3曲 コード伴奏曲
おぼろ月夜 一年生になったら アイアイ 弾き歌いの解説、指導
- 第27回 いろいろなジャンルの歌 伴奏曲
ホ！ホ！ホ！ ジングルベル 歌の町 弾き歌いの解説、指導
- 第28回 いろいろなジャンルの歌 伴奏曲
弾き歌いの解説、指導
- 第29回 いろいろなジャンルの歌 伴奏曲
弾き歌いの解説、指導
- 第30回 いろいろなジャンルの歌 伴奏曲
まとめと発表

【授業の進め方】

講義内容にしたがって、弾き歌いの授業を中心に進める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①日本の子どもの歌 ―唱歌童謡140年の歩み― ②全国大学音楽教育学会 ③音楽之友社 ④2013年5月 ⑤2600円

【参考図書】

やさしいピアノ伴奏法 桶谷弘美 他共著 音楽之友社 2007年3月 1400円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 20%

特記事項

前期・後期の実技試験、平常の態度や進捗努力

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回の課題曲の弾き歌いを行い評価する。

【履修上の心得】

音楽実技Ⅰ（基礎）同様、弾き歌いの能力向上を目指し、日々の予習・復習を必ずすること

【科目のレベル、前提科目など】

音楽実技Ⅰが履修済みが前提条件である。音楽実技Ⅰでピアノの基礎技術を身につけることにより、幼稚園・保育園・小学校の現場で求められる弾き歌いの技術を充分身につけることができる。さらに音楽実技ⅢA・Bと進むことができる

音楽実技Ⅰにおいて基礎を学び、当授業において現場に必要な技術を習得する

【備考】

毎日の練習が重要である。

科目名	音楽実技ⅢA
教員名	音楽形態：演習 音楽担当教員

【授業の内容】

- ・ピアノを使用し指使い等の基本的技術の確認を行うと共により確実な演奏法を学習する（ハノン等も使用）
- ・指導の現場を想定した弾き歌いを行う
- ・ソロのクラシック課題の他に連弾も行う

【到達目標】

- 1 楽譜を見て指がスムーズに動くようする
- 2 本科目では、1・2年次で学んだ事柄を基礎とし、各自がより自在に楽器をこなせるよう技術・表現力を習得することを目的とする。さらに、幼児曲・小学校のうた等のレパートリーを広げると共により確実な弾き歌いができるようになる
- 3 実習等に即対応できる能力を身につける

【授業計画】

- 第1回 授業ガイダンス（チェックシートの使用方法について説明・練習の仕方・演奏時のポイント・留意点についての説明等）
- 第2回 幼児曲・小学校のうたの指導（朝のうたor春がきた）
- 第3回 幼児曲・小学校のうたの指導（お帰りのうたor春がきた）
- 第4回 幼児曲・小学校のうたの指導（おはようのうたor春の小川）
- 第5回 幼児曲・小学校のうたの指導（おべんとうor春の小川）
- 第6回 幼児曲・小学校のうたの指導（さよならのうたor茶つき）
- 第7回 幼児曲・小学校のうたの指導（ピーマーチor茶つき）
- 第8回 幼児曲・小学校のうたの指導（うつくしいながれorふるさと）・連弾曲の選曲
- 第9回 幼児曲・小学校のうたの指導（チェックシートⅠ課題曲orふるさと）・連弾
- 第10回 幼児曲・小学校のうたの指導（各チェックシート課題曲）・連弾
- 第11回 幼児曲・小学校のうたの指導（各チェックシート課題曲）・連弾
- 第12回 幼児曲・小学校のうたの指導（各チェックシート課題曲）・連弾
- 第13回 幼児曲・小学校のうたの指導（各チェックシート課題曲）・連弾
- 第14回 幼児曲・小学校のうたの指導（各チェックシート課題曲）・連弾
- 第15回 幼児曲・小学校のうたの指導（各チェックシート課題曲）・連弾仕上げ・夏休み課題の説明と後期クラシック課題の選曲
- 第16回 課題曲の指導・うた（おべんとうメドレー・さんぽorおぼろ月夜）
- 第17回 課題曲の指導・うた（子守歌・歯をみがきましょうorおぼろ月夜）
- 第18回 課題曲の指導・うた（ミッキーマウスマーチorとんび）・課題曲に関するレポート提出
- 第19回 課題曲の指導・うた（ミッキーマウスマーチorとんび）
- 第20回 課題曲の指導・うた（6月のうたorとんび）
- 第21回 課題曲の指導・うた（6月のうたorわれは海の子）
- 第22回 課題曲の指導・うた（6月のうたorわれは海の子）
- 第23回 課題曲の指導・うた（9月のうたor冬げしき）
- 第24回 課題曲の指導・うた（9月のうたor冬げしき）
- 第25回 課題曲の指導・うた（9月のうたorもみじ）
- 第26回 課題曲の指導・うた（9月のうたorもみじ）
- 第27回 課題曲の指導・うた（9月のうたorチェックシートⅡ課題曲）
- 第28回 課題曲の指導・うた（2月のうたorチェックシートⅡ課題曲）
- 第29回 課題曲の指導・うた（2月のうたorチェックシートⅡ課題曲）
- 第30回 課題曲の指導・仕上げ

- ・各自の習熟度により計画は若干前後する場合がある

【授業の進め方】

- ・各自の課題を授業の中で個別指導する（当講義ではそれぞれの目的に合わせた課題を与える）
- ・前期は幼児曲・小学校のうたを中心に、後期は各自が決めた自由選択曲（クラシック曲）も行う
- ・弾き歌いに関しては幼児曲（チェックシートⅠ）小学校のうた（チェックシートⅡ）の課題を渡すのでそれに基づいて進める。弾き歌い時には指導現場を想定し、曲への導入の仕方・歌詞の説明・演奏しながら歌詞を先取りする練習等も行う
- ・指の分離・運指法習得の為、毎回ハノン・バイエル後半の教材を練習する
- ・各曲は最終的に暗譜で仕上げる

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業内にて指示する(ハノン等に関しては担当教員が各学生のレベルに合う教材を指定する)

A4のクリアファイルを用意すること

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 20% 受講態度 30%

特記事項

- ・レポート・課題の評価には前期実技発表も含む
- ・受講態度は、能力の個人差を考慮した上で、日々の課題への取り組み方を重要視する

【履修上の心得】

- ・本科目は実技が中心となる。従って各自、日々の練習・努力に努めること
- ・チェックシートはピアノレッスンノートに貼付し授業時に担当教員の確認印をもらうこと

「継続は力なり」である。能力を問わず意欲ある者の受講を望む

【科目のレベル、前提科目など】

音楽実技Ⅰ・Ⅱ・ソルフェージュ既習者対象 ・ 基礎をふまえた上での応用レベルである

科目名	音楽実技ⅢB
授業形態	演習
教員名	音楽担当教員

【授業の内容】

- ・これまで学んできた事柄を基礎として、より確かな技術を習得しピアノ演奏の向上を目指す
- ・幼児曲・小学校のうたのレパートリーを増やすと共に日常よく歌われる曲の再確認も行う
- ・ソロクラシック課題の他に連弾も行う

【到達目標】

- 1 実際の指導現場において各自がスムーズに対応できるようにピアノを使いこなせる技術・表現力・即興性を養う
- 2 教員採用試験・就職試験に対応できる力を身につける

【授業計画】

- 第1回 授業ガイダンス(チェックシートの使用方法について説明・練習の仕方・演奏時のポイント・留意点等の説明)
- 第2回 幼児曲・小学校のうたの指導(共通必修曲or1年生のうた)
- 第3回 幼児曲・小学校のうたの指導(共通必修曲・まっぼっくりor1年生のうた)
- 第4回 幼児曲・小学校のうたの指導(共通必修曲・どんぐりころころor2年生のうた)
- 第5回 幼児曲・小学校のうたの指導(6月のうた・実習曲or2年生のうた)
- 第6回 幼児曲・小学校のうたの指導(6月のうた・実習曲or3年生のうた)
- 第7回 幼児曲・小学校のうたの指導(6月のうた・実習曲or3年生のうた)
- 第8回 幼児曲・小学校のうたの指導(6月のうたor4年生のうた)
- 第9回 幼児曲・小学校のうたの指導(6月のうたor4年生のうた)
- 第10回 幼児曲・小学校のうたの指導(6月のうたor5年生のうた)
- 第11回 幼児曲・小学校のうたの指導(6月のうたor5年生のうた)
- 第12回 幼児曲・小学校のうたの指導(6月のうたor6年生のうた)
- 第13回 幼児曲・小学校のうたの指導(9月のうたor6年生のうた)
- 第14回 幼児曲・小学校のうたの指導(9月のうたor6年生のうた)
- 第15回 幼児曲・小学校のうたの指導(9月のうたor6年生のうた)・後期クラシック課題曲の選曲と夏休み課題の説明
- 第16回 課題曲の指導・うた(夏の課題・各チェックシート選択曲)
- 第17回 課題曲の指導・うた(夏の課題・各チェックシート選択曲)
- 第18回 課題曲の指導・うた(夏の課題・各チェックシート選択曲)
- 第19回 課題曲の指導・うた(2月のうた・各チェックシート選択曲)・課題曲に関するレポート提出
- 第20回 課題曲の指導・うた(2月のうた・各チェックシート選択曲)・連弾曲の選曲
- 第21回 課題曲の指導・うた(各チェックシート選択曲)・連弾パート別指導
- 第22回 課題曲の指導・うた(各チェックシート選択曲)・連弾パート別指導
- 第23回 課題曲の指導・うた(各チェックシート選択曲)・連弾パート別指導
- 第24回 課題曲の指導・うた(各チェックシート選択曲)・連弾パート別指導
- 第25回 課題曲の指導・うた(各チェックシート選択曲)・連弾の指導
- 第26回 課題曲の指導・連弾の指導
- 第27回 課題曲の指導・連弾の指導
- 第28回 連弾曲の発表会
- 第29回 課題曲の指導・うたの仕上げ
- 第30回 課題曲の仕上げ

各自の習熟度により計画は若干前後する場合がある

【授業の進め方】

- ・各自の課題を授業の中で個別指導する(当講義では個々の目的に合わせた課題を与える)
- ・前期は幼児曲・小学校のうたが中心となる。幼稚園実習・小学校採用試験の課題曲にも対応する
- ・後期は各自が決めた自由選択曲(クラシック)に取り組み連弾も行う。前期に続き弾き歌いのレパートリーを増やす。(採用試験課題曲への対応もする)
- ・基本的にチェックシートⅠ(幼児曲)チェックシートⅡ(小学校のうた)を使用するが、ノルマをクリアした学生にはチェックシートⅢ(最近よく歌われる幼児曲)も使用
- ・弾き歌い時には指導現場を想定し、曲への導入の仕方・歌詞の説明・演奏しながら歌詞を先取りする練習等も行う
- ・指の分離・運指法確立の為、毎回ハノン・バイエル後半の教材を練習する
- ・各曲は最終的に暗譜で仕上げる

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業にて指示する(ハノン等に関しては担当教員が各学生のレベルに合わせて指定する)

A4のクリアファイルを用意すること

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 20% 受講態度 30%

特記事項

- ・レポート・課題の評価には前期実技発表も含む
- ・受講態度は、能力の個人差も考慮した上で、日々の課題への取り組み方を重要視する

【履修上の心得】

- ・本科目は実技が中心となる。従って各自、日々の練習・努力に努めること
- ・チェックシートⅠ・Ⅱ・Ⅲはピアノレッスンノートに貼付し授業時において担当教員の確認印をもらうこと
- ・採用試験等においての実技試験の対応も各自の申告により随時行う

「継続は力なり」である。能力を問わず意欲ある者の受講を望む

【科目のレベル、前提科目など】

音楽実技Ⅰ・Ⅱ・ソルフェージュ既習者対象 ・ 応用レベル

科目名	人権教育
	授業形態：講義/授業回数：15回（30時間）
教員名	荒川 麻里

【授業の内容】

人権に関する知識を深め、人権教育の内容や方法について考察する授業です。各週のテーマを設定して、関連資料を読み解きながら取り組みます。

【到達目標】

- ①人権問題に気づいて行動することができる
- ②人権に関する基本的な知識を身につける
- ③人権教育について多面的に考察することができる

【授業計画】

- 第1回 人権教育とは何か
- 第2回 死
- 第3回 犯罪
- 第4回 年齢
- 第5回 教育
- 第6回 容姿
- 第7回 信仰
- 第8回 出自
- 第9回 性
- 第10回 差異
- 第11回 研究発表および討論（1）
- 第12回 研究発表および討論（2）
- 第13回 研究発表および討論（3）
- 第14回 相互評価
- 第15回 人権教育とは何か

前半は、各週のテーマについて取り組む。視聴覚資料等を用いて、議論を進めます。後半は、各自が設定したテーマに基づく研究発表により議論を進める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

適宜、資料を配布します。

【参考図書】

- ・『人権の絵本』全6巻、大月書店、2000年
- ・辻村 みよ子『人権をめぐる十五講—現代の難問に挑む』岩波書店、2013年
- ・小口 尚子／福岡 鮎美『子どもによる子どものための「子どもの権利条約」』小学館、1995年
- ・喜多明人ほか『子どもとマスターする50の権利学習—イラスト版子どもの権利』合同出版、2006年
- ・子どもの権利条約NGOレポート連絡会議『子どもの権利条約から見た日本の子ども』現代人文社、2011年
- ・谷口真由美『日本国憲法 大阪おばちゃん語訳』文藝春秋、2014年

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 60% 受講態度 0%

特記事項

調査研究の成果発表およびレポート提出を必須課題とします。
発表後、レポート持参のうえで相互評価を実施します。
ここでの取り組みは重要な評価の対象となります。

【履修上の心得】

第1回の講義において履修に関する重要な説明を行います。いかなる理由があっても、初回到欠席・遅刻の場合は履修放棄とみなします。やむを得ない事情がある場合は、事前にメールで連絡をしてください。講義に参加するために、やさしさと勇気が必要な授業です。

【科目のレベル、前提科目など】

「教育制度論」および「比較教育論」を履修していることが望ましい。

科目名	特別支援教育概論
授業形態	講義
教員名	伊勢 正明

【授業の内容】

様々な要因によって障害の重度・重複化、多様化などが進み、文部科学省（2012）の調査によると通常の学級にも6.5%の割合で特別な支援が必要な子どもたちが在籍している。そのような背景の中で障害のある子どもの教育に対する社会的なニーズも多様化してきている。この講義では、「特殊教育」から「特別支援教育」に転換された障害児教育の理念や制度と現状を学ぶとともに、子ども一人一人の教育的ニーズや今日的な課題に対応できる特別支援教育の在り方について理解を深めていく。

【到達目標】

- ①特別支援教育の意義と概要について理解する。
- ②一人ひとりの自立に向けた教育の重要性について理解する。
- ③学校等における特別支援教育システムと教師の役割について理解する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 特別支援教育の理念と対象
- 第3回 特別支援教育の法的な整備と動向
- 第4回 障害についての基礎知識と教育的対応：知的障害
- 第5回 障害についての基礎知識と教育的対応：発達障害（自閉症）
- 第6回 障害についての基礎知識と教育的対応：発達障害（高機能自閉症・アスペルガー症候群）
- 第7回 障害についての基礎知識と教育的対応：発達障害（学習障害）
- 第8回 障害についての基礎知識と教育的対応：発達障害（注意欠陥／多動性障害）
- 第9回 障害についての基礎知識と教育的対応：肢体不自由、病弱・身体虚弱
- 第10回 個別指導計画と個別の教育支援計画
- 第11回 学校における特別支援教育体制
- 第12回 特別支援学校のセンター的機能と特別支援教育コーディネーターの役割
- 第13回 各機関の連携による特別支援教育
- 第14回 早期発見・早期療育
- 第15回 個別移行支援計画と就労支援および社会参加

【授業の進め方】

- ・リアクションペーパーやワーキングペーパーの提出を求める。
- ・また、第2単元（「障害についての基礎知識と教育的対応」）の6回の中で、講義による学修内容や自己学習による調査内容を用いたディベートの機会を設定する。
- ・ディベートでは、「教育的対応」についての応酬の他に学生相互の評価活動を導入する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

講義資料を配布する

【参考図書】

- ・「特別支援学校学習指導要領」「特別支援学校学習指導要領解説」文部科学省
- ・「特別支援教育の理論と実践I・II」（2012）竹田契一、上野一彦、花熊 暁、特別支援教育士資格認定協会

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 10% レポート・課題 40% 受講態度 10%

特記事項

- ・平常点、定期試験、レポートなどに基づいて総合的に評価する。
- ・レポート課題は講義の中で発表する。インターネット上の情報の“コピペ”のみの内容は厳禁とする。

【履修上の心得】

関連書籍は数多く出版されているため、本講義をきっかけとして、積極的に自学自習を進めることを期待する。

【科目のレベル、前提科目など】

現場では、すべての教室に特別な支援を必要とする子どもが学習していることを考えれば、本講義は、すべての教職課程履修の学生を対象として受講されるのがのぞましい。

【備 考】

- ・前・後期に各1コマずつ開講(通年ではない)し、担当教員は異なるが、基本的な講義内容は共通している。
- ・実習等でやむを得ない欠席の予定がない半期に講義を受講することが望ましい。

科目名	特別支援教育概論
教員名	清水 浩

【授業の内容】

様々な要因によって障害の重度・重複化、多様化などが進み、文部科学省（2012）の調査によると通常の学級にも6.5%の割合で特別な支援が必要な子どもたちが在籍している。そのような背景の中で障害のある子どもの教育に対する社会的なニーズも多様化してきている。この講義では、「特殊教育」から「特別支援教育」に転換された障害児教育の理念や制度と現状を学ぶとともに、子ども一人ひとりの教育的ニーズや今日的な課題に対応できる特別支援教育の在り方について理解を深めていく。

【到達目標】

- ①特別支援教育の意義と概要について理解する。
- ②一人ひとりの自立に向けた教育の重要性について理解する。
- ③学校等における特別支援教育システムと教師の役割について理解する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 特別支援教育の理念と対象
- 第3回 特別支援教育の法的な整備と動向
- 第4回 障害についての基礎知識と教育的対応：知的障害
- 第5回 障害についての基礎知識と教育的対応：発達障害（自閉症）
- 第6回 障害についての基礎知識と教育的対応：発達障害（高機能自閉症・アスペルガー症候群）
- 第7回 障害についての基礎知識と教育的対応：発達障害（学習障害）
- 第8回 障害についての基礎知識と教育的対応：発達障害（注意欠陥／多動性障害）
- 第9回 障害についての基礎知識と教育的対応：肢体不自由、病弱・身体虚弱
- 第10回 個別指導計画と個別の教育支援計画
- 第11回 学校における特別支援教育体制
- 第12回 特別支援学校のセンター的機能と特別支援教育コーディネーターの役割
- 第13回 各機関の連携による特別支援教育
- 第14回 早期発見・早期療育
- 第15回 個別移行支援計画と就労支援及び社会参加

【授業の進め方】

- ・リアクションペーパーやワーキングペーパーの提出を求める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

講義資料を配布する。

【参考図書】

- ・「特別支援学校学習指導要領」「特別支援学校学習指導要領解説」文部科学省
- ・「特別支援教育の理論と実践I・II」(2012)竹田契一、上野一彦、花熊 暁、特別支援教育士資格認定協会

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 10% レポート・課題 40% 受講態度 10%

特記事項

- ・平常点、定期試験、レポートなどに基づいて総合的に評価する。
- ・レポート課題は講義の中で発表する。インターネット上の情報の“コピー”のみの内容は厳禁とする。

【履修上の心得】

関連書籍は数多く出版されているため、本講義をきっかけとして、積極的に自学自習を進めることを期待する。

【科目のレベル、前提科目など】

現場では、すべての教室に特別な支援を必要とする子どもが学習していることを考えれば、本講義は、すべての教職課程履修の学生を対象として受講されるのが望ましい。

【備考】

- ・前・後期に各1コマずつ開講(通年ではない)し、担当教員は異なるが、基本的な講義内容は共通している。
- ・実習等でやむを得ない欠席の予定がない半期に講義を受講することが望ましい。

科目名	相談援助
	授業形態：演習/授業回数：15回（30時間）
教員名	小出 真由美

【授業の内容】

保育所や児童福祉施設などの児童福祉現場において、保育・児童・家庭福祉の専門職として、援助者が子どもとのかかわり、親からの子育て相談、発達相談への対応など技術が必要である。「相談援助」では、それらの児童福祉現場において、対人サービスので基礎となるケースワーク、グループワーク、コミュニティワークの基礎知識及び基礎技術を学び、児童の成長、発達のためにおこなう子育て相談、発達相談家族相談などの子育て支援や家庭支援に対応できるよう能力を身につけるようにする。

授業の進め方としては、ロールプレイなどの演習を通して広く子どもを取り巻く家庭環境や地域への目配りなどを体験から学ぶ。

講義などから乳幼児期から18歳までの子どもの育ち・健全育成・社会的養護の援助技術についても具体的に学ぶ。

また、家族相談については、子どもと家庭をささえるしくみを理解し、広く社会福祉、児童・家庭福祉の授業で学んだ知識を活かして、実際の相談でどのようにアドバイスし解決すればよいか、事例研究を通して学ぶ。

【到達目標】

- 社会福祉全般の今日的課題について理解する
- 様々な福祉における相談援助システムについて理解する
- 相談援助の方法と技術について理解する
- 保育現場における相談援助について事例分析を通して理解する

【授業計画】

- 第1回 保育士と相談援助：子ども家庭福祉の歴史の変遷から今日の保育士等に求められる家庭支援や相談援助の概要を理解する。
- 第2回 相談援助の意義：家族と家庭について：家庭を取り巻く社会の動向を含め、家族と家庭について理解する。
- 第3回 相談援助の体験：自分たちが問題を解決するとき相談をする事を通して、当事者性を理解する
- 第4回 虐待という権利侵害：児童虐待などの法律や実情について理解する。
- 第5回 相談援助の機能①虐待対応について：児童虐待対応などの相談における介入的役割について理解する。
- 第6回 相談援助の機能②乳幼児の育ちについて：子育て経験のない保護者へどのように子どもの育ちを説明したらよいかを含めて、乳幼児の育ちを理解する。
- 第7回 障害児と障害者について：障害をもった児童とその後の人生についてどのような社会資源等があるかを理解する。また、保護者の障害受容についても理解する。
- 第8回 サービス提供の説明について：様々な子育てサービスを理解し、その説明を保護者へするときの留意点を含め、学ぶ。
相談援助の記録について：保護者へ援助をする中での記録の取り方について学ぶ。
- 第9回 相談援助の対象①
家族の役割について①：性別役割分業や子育てをしている保護者の立場を理解する。
- 第10回 相談援助の対象②
家族の役割について②：様々な保護者像や保育者として子どもの立場を考えることについて理解する。
- 第11回 保護者への支援等について①：さまざまな不安に寄り添いながら親子ともに支援することについて理解する。（ひとり親支援を中心に）
- 第12回 保護者への支援等について②：さまざまな不安に寄り添いながら親子ともに支援することについて理解する。（DV等権利侵害を中心に）
- 第13回 子どもの自立について：児童養護施設等を利用し、自立を支援することについて理解する。そして、児童養護施設職員としての子どもへの支援のあり方を学ぶ。
- 第14回 ロールプレイ①：さまざまな事例を通して、援助者となった時にどのような解決方法がいいか、それぞれが体験を通して学ぶ。（当事者の理解と援助者としての心構え）
- 第15回 ロールプレイ②：さまざまな事例を通して、援助者となった時にどのような解決方法がいいか、それぞれが体験を通して学ぶ。（ラ・ポールからアセスメントまで）

この授業は、保育所実習・児童福祉施設実習・保育相談支援の授業につながっています。授業内容はそれらの授業でもご活用ください。

【授業の進め方】

最初に授業のテーマ・授業内容の要点について板書し、説明します。ノートを持参してください。現場の事例や生活記録について、テキストの該当する章や補足のプリント、映像で考察します。グループに分かれて発表していただくことがあります。（ロールプレイ）
終了時、コメントペーパーに、授業の中で気づいたことなどを書いてください。（ミニレポート）

【教科書(必ず購入すべきもの)】

『絆を伝えるソーシャルワーク入門』宮武正明著、大空社 2015 刊
毎回テキストは必ず使用しますので、持参してください。

【参考図書】

その日のテーマに関連する出版物があれば授業の中で紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

- ・授業ごとのミニレポートには気づいたことをまとめてください。
- ・グループ発表では、各自が役割を発揮してください。
- ・授業への積極的参加が成績に反映されます。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。
- ・受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

- ・毎回テーマが異なるので、全回出席に努めてください。
- ・積極的な参加を望みます。
- ・教科書の内容をすべて扱うことはできませんので、各自で復習と共に扱えなかった部分も読んでいただきたいと思います。

科目名	児童家庭福祉
	授業形態：講義/授業回数：15回（30時間）
教員名	佐藤 ちひろ

【授業の内容】

現代社会における児童家庭福祉の意義を理解し、児童家庭福祉の歴史の変遷、児童家庭福祉と保育との関係、児童家庭福祉の制度と実施体制、児童家庭福祉の現状と課題及び児童家庭福祉の動向と今後の展望等を学ぶ。

【到達目標】

- ・現代社会における児童家庭福祉の意義と保育との関係を理解する。
- ・児童家庭福祉の歴史の変遷を理解する。
- ・児童家庭福祉の制度と実施体制を理解する。
- ・児童家庭福祉の現状と今後の展望を理解する。

【授業計画】

- 第1回 授業オリエンテーション・児童家庭福祉の理念と概念
児童家庭福祉の理念と概念を理解し、保育との関係について理解する。
- 第2回 児童家庭福祉の歴史の変遷
今日にある児童家庭福祉の成り立ちを理解し、それぞれの時代の子ども観と児童家庭福祉の関係を理解する。
- 第3回 児童の権利
児童の権利条約を学び、子どもが置かれている状況を理解する。
- 第4回 児童家庭福祉にかかわる法制度①
児童福祉法について、その内容と改正の変遷を理解する。
- 第5回 児童家庭福祉にかかわる法制度②
児童家庭福祉に関係する様々な法制度を理解する。
- 第6回 児童家庭福祉の実施体制と行財政
児童家庭福祉を展開するための実施体制や実施機関、及び行財政について理解する。
- 第7回 児童福祉施設と児童家庭福祉の専門職
児童福祉施設を知ると共に、児童家庭福祉に携わる専門職とその職務を理解する。
- 第8回 少子化と子育て支援
日本の少子化の実態を理解し、子育て支援サービスの現状と課題を理解する。
- 第9回 母子保健と児童の健全育成
母子保健、児童の健全育成の意義を理解し、実情を把握する。
- 第10回 家庭内暴力への支援
児童虐待、DVの実態と対応について理解する。
- 第11回 障がいのある児童への対応
肢体不自由児、知的障がい児、発達障がいなど障がいのある児童への支援について理解する。
- 第12回 少年非行と情緒障がい児への対応と支援
少年非行への福祉、司法による対応と支援を理解する。
- 第13回 ひとり親家庭への支援・保育サービス
ひとり親家庭の生活の実態を知り、支援について理解する。待機児童問題等の保育の現状を理解し、多様な保育サービスを知る。
- 第14回 他分野・多種職との連携とネットワーク
保育・教育・療育・保健・医療等の連携のあり方やネットワークングについて理解する。
- 第15回 まとめ
授業総括を行う。

【授業の進め方】

教科書・配布プリントに基づく講義形式授業である。参考資料・統計データは随時配布する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①保育と児童家庭福祉 ②櫻井奈津子 ③みらい

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は、「履修規程」「保育士資格規程」に準ずる。

【科目のレベル、前提科目など】

保育士指定科目である。

科目名	保育原理
	授業形態：講義/授業回数：15回（30時間）
教員名	有馬 知江美

【授業の内容】

本講義は保育士資格取得のための必修科目であり、保育と保育者のあり方について保育の原理を学ぶものである。保育の意義、保育をめぐる歴史と現状、保育制度、保育所保育指針の基本的理解、保育内容及び方法、保育者の専門性等を学ぶ。

【到達目標】

1. 保育の意義を理解する。
2. 保育所保育指針における保育の基本を理解する。
3. 保育の内容と方法の基本を理解する。
4. 保育の思想と歴史の変遷を理解する。
5. 保育の現状と課題を考察する。

【授業計画】

- 第1回 人間形成における保育の意義—子どもの最善の利益を考慮した保育
 第2回 保育の理念—乳幼児期にふさわしい生活とは
 第3回 子ども理解の変遷と保育の歴史
 第4回 保育所保育指針における保育の基本（1）養護と教育の一体性
 第5回 保育所保育指針における保育の基本（2）環境を通して行う保育
 第6回 保育所保育指針における保育の基本（3）発達過程に応じた保育：乳幼児の発達についてテキストを復習（45分）。後日小テストを実施。
 第7回 保育所保育指針における保育の基本（4）保護者との連携
 第8回 保育所保育指針と幼稚園教育要領等の関係
 第9回 保育の目的及び目標
 第10回 保育の内容（1）保育のねらいと内容
 第11回 保育の内容（2）領域の理解：保育所保育指針で保育の内容についてテキストを復習（45分）。後日小テストを実施。
 第12回 保育の方法—生活と遊びを通した総合的な保育
 第13回 保育の計画—保育課程の編成と指導計画
 第14回 保育の評価—PDCAサイクル
 第15回 保育の課題—保育士としての専門性を高めるために

【授業の進め方】

講義を中心として進めていく。
 資料を随時配布する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①保育所保育指針解説書 ②厚生労働省 ③フレーベル館 ④2008年 ⑤200円
 ①幼稚園教育要領解説 ②文部科学省 ③フレーベル館 ④2008年 ⑤200円
 ①幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 ②内閣府 文部科学省 厚生労働省 ③フレーベル館 ④2015年 ⑤249円

【参考図書】

『新保育ライブラリ 保育原理』民秋言・河野利津子編著 北大路書房 1785円 2011年。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 20% レポート・課題 0% 受講態度 20%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。
- ・受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

- ・全回出席を原則とする。

【科目のレベル、前提科目など】

入門的かつ基礎的な科目である。

「教育基礎論」の内容を踏まえた学びも多い。

【備 考】

保育士資格取得のための重要な科目である。

科目名	社会的養護
	授業形態：講義/授業回数：15回（30時間）
教員名	山中 定雄

【授業の内容】

社会福祉の基礎構造改革に伴う制度改革は、児童養護の危機的状況とは、ある意味無関係に進行している。このことは児童の分野に限らず、真に福祉的施策を必要とする人々からの乖離でもあるが、それゆえ、施策に対しては真剣に注目しておく必要がある。そして、連日散見される児童虐待や育児放棄・非行、また、児童を守るべき『施設』での権利侵害など、児童を取り巻く環境は本来、家庭が持つ子供の『養育』機能の低下あるいは脆弱化によってもたらされているともいえるが、一方ではこれまで果たしてきた地域社会による子育て支援の機能も、社会経済状況の変化と相俟って弱体化している現実のなかで、児童養護の現場における責任と役割は極めて重要な位置付けを持つ。

児童相談所・児童養護施設をはじめとする社会的養護の重要性は一段と強化されなければならない。

講義では児童の『養護』とは何か、今何が不足しているのかなど、少し広い視野で考える。

【到達目標】

社会的養護の制度と現状を理解する。
実践に向けた理論を構築する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 子どもを取り巻く状況
- 第3回 児童養護の体系
- 第4回 子ども観と児童養護の展開
- 第5回 児童養護の仕組み
- 第6回 児童福祉の法体系
- 第7回 児童養護の今日的課題
- 第8回 措置制度と利用契約制度
- 第9回 児童福祉施設の種別と機能 I
- 第10回 児童福祉施設の種別と機能 II
- 第11回 児童福祉施設の種別と機能 III
- 第12回 児童養護の基本的実践
- 第13回 虐待を受けている子どもの養護
- 第14回 自立支援と家族支援
- 第15回 児童虐待の現状

【授業の進め方】

児童の問題に関しては社会の動向にも気を配りながら、理論を現場で強化する学び方をしてほしい。
そのため、テキストだけでなく多くの時事問題を考えながら進めます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①よくわかる 社会的養護 ②山縣文治 編 ③ミネルヴァ書房 ⑤2500円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 10%

特記事項

課題レポート

定期試験

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。
- ・受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

- ・全回出席を原則とする。
- ・法定資格化された保育士としての専門性と、そのことの意味と重要性を意識し、また、施設実習に向けての基礎知識獲得を目指してほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

社会福祉、児童家庭福祉など保育の本質・目的の理解に関する科目
施設実習に向けての基礎知識修得

科目名	保育の心理学
	授業形態：演習/授業回数：15回（30時間）
教員名	浅田 晃佑

【授業の内容】

「発達心理学」の授業で学んだ内容を更に深化させ、さまざまな分野における子どもの発達に関する理解を促す。生活や遊びを通じた子どもの学びなど、子どもの発達のありようや発達の諸側面が複雑に関係していることを学んでいく。また、子どもが育つ環境の重要性を理解し、大人をはじめとする環境が発達において重要な役割を持つことについても理解し、子どもの発達を援助する保育者の役割の意義について考えていく。

【到達目標】

- ・子どもの心身の発達と保育実践についての理解を深める
- ・生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する
- ・保育における発達援助を学ぶ

【授業計画】

- 第1回 子ども理解における発達の把握
復習：授業で取り上げた内容について各自復習する（30分）
- 第2回 個人差や発達過程に応じた保育
復習：授業で取り上げた内容について各自復習する（30分）
- 第3回 身体感覚をともなう多様な経験と環境との相互作用
復習：授業で取り上げた内容について各自復習する（30分）
- 第4回 環境としての保育者と子どもの発達
復習：授業で取り上げた内容について各自復習する（30分）
- 第5回 子ども相互のかかわりと関係づくり
復習：授業で取り上げた内容について各自復習する（30分）
- 第6回 子ども集団と保育の環境
復習：授業で取り上げた内容について各自復習する（30分）
- 第7回 子どもの生活と学び
復習：授業で取り上げた内容について各自復習する（30分）
- 第8回 子どもの遊びと学び
復習：授業で取り上げた内容について各自復習する（30分）
- 第9回 基本的な生活習慣の獲得
復習：授業で取り上げた内容について各自復習する（30分）
- 第10回 自己主張と自己抑制
復習：授業で取り上げた内容について各自復習する（30分）
- 第11回 主体性の形成
復習：授業で取り上げた内容について各自復習する（30分）
- 第12回 生涯にわたる生きる力の基礎を培う
復習：授業で取り上げた内容について各自復習する（30分）
- 第13回 発達と学びの連続性と就学支援
復習：授業で取り上げた内容について各自復習する（30分）
- 第14回 発達援助における協働
復習：授業で取り上げた内容について各自復習する（30分）
- 第15回 現代社会における子どもの発達と保育の課題
復習：授業で取り上げた内容について各自復習する（30分）

【授業の進め方】

教科書およびレジュメをもとに、配布資料やDVDなどの視覚教材を使用しながら、講義、説明をする。子どもの発達に応じた援助の在り方などグループディスカッションを行う。積極的な姿勢が望まれる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①保育の心理学II ②公益財団法人児童育成協会（監修） 清水益治・森俊之・杉村伸一郎（編集） ③中央法規 ④2015年11月20日 ⑤2160円 ⑥978-4-8058-5209-5

詳細については、1回目の授業で伝える。

テーマに合わせたレジュメや資料の配布をする。

【参考図書】

「乳幼児のこころ -子育て・子育ての発達心理学-」 遠藤利彦・佐久間路子・徳田治子・野田淳子（著） 2011年 有

斐閣アルマ

「発達が分かれば子どもが見える -0歳から就学までの目からウロコの保育実践-」 田中真介（監修） 乳幼児保育研究会（編著） 2009年 ぎょうせい

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 20% 受講態度 20%

特記事項

定期試験、課題の提出、演習シート、授業への参加姿勢が評価対象となる。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は「履修規程」に準ずる。

受験資格は「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

全回出席を基本とする。

【科目のレベル、前提科目など】

心理学、教育心理学、発達心理学などの知識を含んだ、子どもを理解するために欠かせない科目である。

保育士資格取得のために欠かせない大切な科目である。

【備 考】

保育士資格のための重要な科目である。

『発達心理学』を履修した後、受講するのが望ましい。

科目名	子どもの保健Ⅰ
	子どもの保健 元気な子どもを保育しよう！
	授業形態：講義/授業回数：30回（60時間）
教員名	寺門 道之

【授業の内容】

子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について解説します。
 子どもの身体発育や生理機能および運動機能並びに精神機能の発達と保健について解説します。
 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について解説します。
 子どもの精神保健とその課題等について解説します。
 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について解説します。
 施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について解説します。

【到達目標】

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解します。
2. 子どもの身体発育や生理機能および運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解します。
3. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解します。
4. 子どもの精神保健とその課題等について理解します。
5. 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解します。
6. 施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解します。

【授業計画】

- 第1回（第〇章）とあるのは、教科書の該当箇所です。
 （第1章） 1, 子どもの健康と保健の意義
 （1）生命保持と情緒の安定に関わる保健活動の意義と目的
 （2）健康概念と健康指標（3）地域における保健活動と児童虐待防止
- 第2回（第2章） 2, 子どもの発育・発達と保健 その第1回
 （1）生物としてのヒトの成り立ち（2）身体発育と保育
- 第3回（第2章） 2, 子どもの発育・発達と保健 その第2回
 （1）生物としてのヒトの成り立ち（2）身体発育と保育
- 第4回（第3章）（3）生理機能の発達と保健 その第1回
- 第5回（第3章）（3）生理機能の発達と保健 その第2回
- 第6回（第4章）（4）運動機能の発達と保健 その第1回
- 第7回（第4章）（4）運動機能の発達と保健 その第2回
- 第8回（第5章）（5）精神機能の発達と保健
- 第9回 4, 子どもの精神保健
 （1）子どもの生活環境と精神保健（2）子どもの心の健康とその課題
 （第7章 子どもの生活環境）（第8章 子どもの精神保健） その第1回
- 第10回（第7章 子どもの生活環境）（第8章 子どもの精神保健） その第2回
- 第11回（第15章乳幼児期の病気 16 こころ、精神、神経の病気）
- 第12回（第6章 子どもの食事） その第1回
- 第13回（第6章 子どもの食事） その第2回
- 第14回（第9章 環境）
- 第15回（第10章 保育の多様化）
- 第16回（第11章 新生児）
- 第17回（第12章 健康と病気）
- 第18回 第13章 異常、事故と応急処置
- 第19回 第14章 感染症と予防接種
- 第20回 3, 子どもの疾病と保育
 （1）子どもの健康状態の把握と主な疾病の特徴（2）子どもの疾病の予防と適切な対応について学びます。
 教科書（第15章 乳幼児期の病気） その第1回
 1 感染症
- 第21回（第15章 乳幼児期の病気） その第2回
 2 食中毒 3 栄養と発育の障害
- 第22回（第15章 乳幼児期の病気） その第3回
 4 アレルギーの病気 5 消化器の病気
- 第23回（第15章 乳幼児期の病気） その第4回
 6 呼吸器の病気 7 循環器の病気
- 第24回（第15章 乳幼児期の病気） その第5回
 8 血液の病気 9 泌尿器と生殖器の病気
- 第25回（第15章 乳幼児期の病気） その第6回
 10 代謝の病気 11 内分泌の病気

- 第26回 (第15章 乳幼児期の病気) その第7回
12 皮膚の病気 13 へその病気
- 第27回 (第15章 乳幼児期の病気) その第8回
14 運動器の病気 15 眼・耳・鼻の病気
- 第28回 (第15章 乳幼児期の病気) その第9回
17 悪性腫瘍 18 その他の病気
- 第29回 5, 環境及び衛生管理並びに安全管理および健康・安全の実施体制
(1) 保育環境整備と保健 (2) 保育現場における衛生管理 (3) 保育現場における事故防止及び安全対策並びに危機管理
(第16章 母子保健の現状)
- 第30回 6, 健康及び安全の実施体制
(1) 職員間の連携と組織的取組 (2) 母子保健対策と保育 (3) 家庭・専門機関・地域との連携
(第17章 母子保健行政)

【授業の進め方】

教科書に準拠し、必要に応じて、図表、写真などをパワーポイントで映し出して、理解を助けるようにします。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

子どもの保健 巷野悟郎編 第7版 2017年1月発行 出版社：診断と治療社 学内書店で購入可能

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

前期試験・後期試験の正解合計が6割以上を合格とします

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。
- ・受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。
- ・出席を偽った者は、試験の受験資格を与えません。

【履修上の心得】

- ・全回出席を原則とする。
- ・話しかけられた学生が迷惑するので、私語は厳禁です。
- ・内容が毎年変わるので、前年度の教科書を先輩から借りて使うことは勧められません。

科目名	子どもの保健Ⅱ
	授業形態：演習/授業回数：15回（30時間）
教員名	松本 朱美

【授業の内容】

「子どもの保健Ⅰ」の講義で習得している子どもの健康や保健活動に関する知識を踏まえ、健康観察から発達の援助、子どもの疾病や事故の予防対策及び適切な対応について、講義や演習を通して具体的に学ぶ。

また、現代社会における子どもの健康問題や母子保健問題、子どもをとりまく地域保健活動のあり方を学ぶ。

【到達目標】

- 子どもの心とからだの健全な姿を思い描くことができるようにする。
- 子どもの健康を保持・増進するための養護及び教育を理解し、その具体的な方法や手順がわかるようにする。
- 子どもの健康を阻害する要因を予測し、予防と対策を講じ、対応する技術を習得しようとする。
- 子どもの健康や安全に係る地域保健活動の計画及び評価、一連の流れについて理解する。

【授業計画】

- 第1回 子どもの保健と保育環境
 - 第2回 子どもの健康観察と健康管理
 - 第3回 子どもの発育の観察と評価（グループ演習）
 - 第4回 子どもの発達の観察と評価
 - 第5回 子どもの健康増進と生活習慣 発達援助 その1
 - 第6回 子どもの健康増進と生活習慣 発達援助 その2（グループ演習）
 - 第7回 子どもの疾病と適切な対応 その1
 - 第8回 子どもの疾病と適切な対応 その2、個別的配慮の必要な子どもの健康問題と適切な対応
 - 第9回 子どもの事故防止及び安全管理
 - 第10回 子どもの救急処置 救急蘇生法の実際（グループ演習）
 - 第11回 子どもにおきやすい事故の応急手当
 - 第12回 子どもの予防すべき感染症
 - 第13回 感染症の対策と予防
 - 第14回 保健活動と保健計画及び評価（グループ活動）
 - 第15回 母子保健対策と地域保健活動、集団保育における健康管理
- 定期試験

講義と演習を交えて授業を行います。ゲストスピーカーの講師の都合により、内容が前後することがあります。

〔演習の例〕

成長曲線、統計データ利用の評価法、身体計測、沐浴、バイタルサイン測定、応急手当、子どもの救急蘇生法（※）

【授業の進め方】

テキストを中心に、配布資料、パソコンやDVD活用による講義とそれに基づく演習を行います。

- ・母子健康手帳（母子手帳）を活用する学習
- ・ベビー人形等を使用するグループ演習
- ・小山消防署（ゲストスピーカー）の協力による演習（※）
- ・レポートや課題、リアクションペーパーの提出を求めます
- ・復習ワークテストも行います

◆学生自身の『母子健康手帳（母子手帳）』を準備してください。

◆演習などに準備するものや課題は、学部掲示板にも掲示するので、毎回確認してください。

【教科書（必ず購入すべきもの）】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①新時代の保育双書『子どもの保健Ⅱ』 ②今井 七重編 石河真紀 内山有子 小木曾加奈子 柴田益江 中根淳子 野村敬子 堀純子 真鍋智江 森久子 ③（株）みらい出版 ④2015年 ⑤2100円（税別） ⑥978-4-86015-256-7

◆初回授業から使用します。

「Booksナカジマ（学内書店）」で1人1冊購入し、毎回持参してください。

【参考図書】

必要な資料は、その都度配布します。各自管理してください。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 10%

特記事項

- ・定期試験、授業内小試験、レポート・課題、リアクションペーパー、受講態度（授業への貢献度や発言、演習の参加態度等）から総合的に評価します。
- ・レポート、課題、リアクションペーパーを複数回行います。提出期限の意識を含め、すべて評価対象になります。
- ・演習の際には、装飾品をはずし、髪や爪を整え、エプロン（必要時）を着用し、身支度を整えて参加してください。演習の服装や参加態度は、受講態度に含めて評価します。演習に遅刻した場合、減点対象になります。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。
- ・受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

- ・全回出席を原則とする。演習、グループ活動を体験することが重要な科目です。真面目に、積極的に参加してください。なお、遅刻3回につき1回欠席の扱いとします。
- ・「子どもの保健Ⅰ」の講義内容を復習しておくこと。関連付けて学習していくことで理解を深めます。
- ・常日頃から子どもの保健に関する情報（ニュースや新聞等）に関心をもつこと。

【科目のレベル、前提科目など】

- ・前提科目 「子どもの保健Ⅰ」
- ・関連科目 「乳児保育」「子どもの食と栄養」「保育の心理学」など他領域に関連がある。

【備 考】

保育士資格取得のための必修科目です。

科目名	子どもの食と栄養
	授業形態：演習/授業回数：30回（60時間）
教員名	高橋 美保

【授業の内容】

子どもの食と栄養は、乳汁から離乳食、移行食から幼児食、普通食へと、成長にそって摂取機能や食事内容が変化していく。健康な生活の基本である食生活の意義や栄養に関する基礎知識を学び、発達にそった食事の提供や援助・対応する力を身につける。

生活の定点である食事が子どもの心身の健全育成に深く関与することの理解を深め、集団保育をとおした食指導や食育活動の進め方を学ぶ。その上で、地域社会や文化との関係性から食育の内容や環境を理解し、子育て支援や地域の健康支援に活かす力を培う。

この授業のねらいは、正しい食生活を導いていく保育・教育者としての力を育てることにある。まずは保育者を志す自身の食生活を正しく営み、実践力を身に付け、振り返りや改善する力を培うなど、授業の学びを生活に活かす姿勢から始まる。

【到達目標】

1. 子どもの食生活や栄養は心身の健康や生活習慣の形成など、生涯にわたる生活の基盤になることへの理解を深める。
2. 子どもの発育・発達と食生活との関係性を理解し、発達にそった食に対応する力を身につける。
3. 特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養について、職種間の連携をとおした食事提供のあり方を理解する。
4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題を把握し、食の自立へ向け子どもを導く力を培う。
5. 食育の基本と内容や環境を、地域や社会、文化との関わりの中で理解を深め、実践する力を身につける。

【授業計画】

第1回 健康と食生活の意義

- 講義： 1. 子どもの健康と食生活の意義
- 1) 子どもの心身の健全育成に関わる食生活
 - 2) 現代の子どもの食生活の現状と課題
2. 食育の意義と必要性

演習： 1. 保育者を志す自身の日常生活における食事の実態把握と振り返り、各自食生活実態評価(60分)。

第2回 子どもの発育・発達と食生活

- 講義： 1. 身体の発育(こどもの頭が大きいわけ)
2. 精神の発達、対人関係の発達
 3. 運動機能の発達、食行動の発達
- 演習： 1. 身体発育と栄養状態の評価 (30分)

第3回 乳児期の授乳の意義と食生活

- 講義： 1. 胎児に影響する母体の健康
2. 哺乳行動の発達とその援助
 3. 乳汁栄養(母乳栄養、人工栄養、混合栄養)
- 実習： 1. 乳汁栄養とその実際(調乳実習・60分)

第4回 乳児期の離乳の意義と食生活(Ⅰ)

- 講義： 1. 咀嚼行動の発達とその援助 ①
- 1) 離乳の意義
 - 2) 咀嚼行動の発達と支援のポイント

実習： 1. 離乳の意義とその実際(手作りとし販の離乳食比較・60分)

第5回 乳児期の離乳の進め方と食生活(Ⅱ)

- 講義： 2. 咀嚼行動の発達とその援助 ②
- 3) 離乳の進め方と食品の選び方
 - 4) 離乳期における問題と対応
 - 5) 移行期食の位置づけと意義

実習： 2. 進め方と与え方の実際(大人の食事から取り分け離乳食・90分)

第6回 家庭や集団における食事と栄養

復習小テスト①(15分)

食生活における調理の基礎知識

- 講義： 1. 家庭における食事と栄養、
2. 集団での調理、衛生の基礎知識
 3. 食事摂取基準と食品構成・献立作成・調理の基本)

実習： 1. 調理の基本(朝食献立・80分)

第7回 幼児期の心身の発達と食生活(Ⅰ)

- 講義： 1. 食行動の発達とその援助
- 1) 食行動の発達
 - 2) 幼児期の食事摂取基準と食品構成

- 実習： 2. 幼児食献立（旬をつかって・80分）
- 第8回 幼児期の心身の発達と食生活（Ⅱ）
 講義： 1. 食習慣形成にむけた援助、健康教育への対策
 1) 間食の必要性（こどもにおやつが必要なわけ）
 2) 幼児期におこる食の問題と対応
 実習： 1. 間食献立（80分）
- 第9回 特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養
 復習小テスト②（15分）
 病気、障害をもつ子どもの食
 講義： 1. 子どもの病気と食生活
 1) 体調不良の子どもへの対応
 2) 食物アレルギーの子どもへの対応
 3) 障害のある子どもへの対応
 2. 児童福祉施設における食と栄養
 1) 児童福祉施設での給食や食育活動
- 第10回 学童期の心身の発達と食生活
 講義： 1. 学童期における心身の特徴と食生活
 2. 学校給食と弁当
 3. 生涯発達と食生活
 実習： 1. 弁当献立（90分）
- 第11回 栄養に関する基本的知識
 講義： 1. 身体の構成成分としての栄養
 2. 栄養の基本的概念
 3. 栄養素の種類と機能
 演習： 栄養教育 1. 幼児への媒体づくり（60分）
 2. 発表（栄養媒体を活用して・30分）
- 第12回 食育の基本と内容（Ⅰ）
 1. 食育のための環境
 講義： 1. 食生活の指導や食をとおした家庭、地域への支援
 2. 社会環境としてのこどもをめぐる行事と食
 実習： 1. 行事食(90分)
- 第13回 食育の基本と内容（Ⅱ）
 2. 食育における養護と教育の一体化
 3. 食育の内容と計画および評価
 講義： 1. こどもの食育をめぐる動向（今、なぜ食育の推進なのか）
 2. 発達に応じた食育の内容と計画の考え方、作り方、進め方
 演習： 1. 保育所(幼稚園)における食育の推進
 グループワーク①（食育計画の立案・60分）
- 第14回 演習： 2. グループワーク②（食活動の実践・食育発表・100分）
- 第15回 演習： 3. グループワーク③（食育の評価・60分）
- まとめ：全体発表講評
 1. 食育の内容と計画および評価について
 2. 職員間の連携
 3. 今、なぜ食育か

【授業の進め方】

通年科目であるが、2コマ続きで講義と栄養実習、講義と演習やグループワークなど、オムニバス形式で行う。
 保育実習で得た食行動の観察結果や事例など、発表形式を取り入れながら授業を進めていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①子どもの食と栄養 ②岡崎光子編 ③同文書院 ⑤2100円

資料： 毎回配布する。

【参考図書】

随時紹介していく。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 20% レポート・課題 50・20% 受講態度 10%
 特記事項

1. 授業への姿勢

2. 課題レポート(演習2区分) ⇒ 提出レポートをまとめ、「子どもの食と栄養マイブック」として冊子を作成
 3. 食育の計画・実践・評価 ⇒ グループワーク(食育発表)、個人作成 (栄養教育媒体づくり)
- 総合的に評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。
受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

全回出席を原則とする。
食育を通し生き方や人間形成、食文化などを理論的に考察し活動の振り返り法を学ぶため、自らの生活力や食習慣を確立して授業に臨むこと。
講義と実習を組み合わせた演習形式で行なうため、班編成によっては連携が重要な課題ともなる。
評価は個人評価を主とするが、グループワークも含むため、協力体制が問われるケースも生じる。

【科目のレベル、前提科目など】

子どもの健やかな心情と身体の成長・発達を促すためには、欠かせない科目である。「保育の心理学」「子どもの保健」「家庭支援論」などとの関連性が深く、「保育の対象の理解に関する科目」である。

【備 考】

自らの生活を振り返り、生活する力や食習慣を確立してから授業に臨むこと。
特に、朝食は自分で作り必ず食べるなど、実践力が求められる。
保育士資格取得のためには重要な科目である。

科目名	社会的養護内容
	授業形態：演習/授業回数：15回（30時間）
教員名	中山 万里子

【授業の内容】

社会的養護とは、十分かつ適切に養育（＝家庭での子育て）されない子ども（＝要保護児童）の、人間として子どもとして当然の幸福を実現するための社会的なしくみと方法を意味します。

児童養護の問題は、親の死亡・病気・貧困という普遍的原因から、現在は、虐待をはじめとする多種多様な原因に変容しています。したがってその援助には、より高水準かつ多方面の専門知識・技術を要します。

要保護児童の「子どもの最善の利益」を実現するために、保育者の果たす役割とその方法について考えます。

【到達目標】

1. 社会的養護の意味を理解する。
2. 要保護児童の権利擁護の基本理念を理解する。
3. 要保護児童の背景と心身の特徴を理解する。
4. 施設入所児童・里親委託児童とその家族への具体的な援助技術の基礎を理解し、習得しようとする。
5. 施設職員としての、望ましい態度と専門性を理解し、習得しようとする。

【授業計画】

- 第1回 社会的養護とは？
- 第2回 要保護児童のための施設（児童養護施設とは？乳児院とは？その他の施設は？）
- 第3回 施設の小規模化・児童の権利擁護（権利ノート、アドボカシー）
- 第4回 指導・援助の技術
- 第5回 アドミッションケア（十分な説明と同意への努力、迎え方、児童相談所との連携）
- 第6回 インケア（日常生活への援助、受容・傾聴・共感・寄添い、一貫性のある長期継続的なケア、信頼関係、アタッチメント形成）
- 第7回 インケア（個人への援助、集団への援助、プライバシー保護、体罰の禁止）
- 第8回 インケア（遊び、余暇、行事、生活の質、年少・年長児への援助）
- 第9回 インケア（問題行動・いじめ・暴力への対応と援助、職員間の連携・専門職との連携）
- 第10回 リーピングケア（自立への援助、家庭復帰への援助、家族への援助、社会資源との連携）
- 第11回 アフターケア（自立困難な現状・自立援助ホーム）
- 第12回 特別支援・治療的養護（発達障害児・被虐待児への援助）
- 第13回 特別支援・治療的養護（喪失・分離への援助）
- 第14回 里親制度とファミリーホーム（基礎知識、動向と課題、施設との連携）
- 第15回 施設職員に求められる態度や専門性

随時、最新の社会的養護の動向・関連するニュースを採り上げます。新聞・テレビ・ネットなどで日頃から情報収集する習慣を身につけ、問題意識を持つよう心がけて下さい。保育者の立場からだけでなく、「もし自分がその子だったら、その子の親だったら」という当事者への想像力・共感力を働かせることが不可欠です。

社会的養護の対象となるのは施設に入所している児童のみではありません。一般家庭にも、要保護児童が数多く存在します。施設への就職希望者のみならず幼稚園・保育園等に就職希望の人も、潜在的な要保護児童への援助技術を身につけて下さい。

【授業の進め方】

毎時、レジュメ式ノートを各自が作成。

実践技術に関しては、具体的場面をイメージしやすいよう、適宜ビデオ教材を使用します。視聴後、発言を求めたり、リアクションペーパーを提出してもらいます。また、グループワークも行います。専門家としてどのように援助するか、学生同士、互いの意見や感想をシェアします。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用しません。都度、レジュメ・資料を配布。

【参考図書】

必要に応じて授業で紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 20%

特記事項

1. 受講態度（グループワーク等授業へ貢献度および学習意欲）…20%
2. レポート・課題（リアクションペーパー…20% レジュメ式ノートの提出…20%）…40%
3. 定期試験…40%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。
筆記試験の受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

全回出席を原則とします。私語その他の迷惑行為は、厳に慎んで下さい。

【科目のレベル、前提科目など】

社会的養護内容(実践技術)の入門レベルです。

科目名	保育実践演習
	授業形態：演習/授業回数：30回（60時間）
教員名	【前期】有馬・【後期】岩城

【授業の内容】

保育にかかわる課題の分析、考察、検討を行い、その課題について子どもや保護者を援助するための技術、方法等を学修する。さらに、問題を発見し、その問題を解決する過程や解決内容について再検討する手立てを習得する。

【到達目標】

1. 保育科目に関する横断的な学習能力を習得する。
2. 保育に関する今日の課題について現状分析や考察並びに検討を行い、保育活動に結びつける技術、方法等について学習する。
3. テーマを多角的に捉え、問題解決のための対応や判断方法等についての学びを深める。また、資料、児童文化財(絵本、紙芝居等)の収集法を学び、その活かし方を身につける。
4. これまでの自らの学習を振り返り、保育士として必要な知識や技能の修得状況を確認し、さらに、今後必要とされる学びを認識する。
5. 他者との協働性や同僚性を培うために、レポート作成、発表準備、保育計画の立案や実践等、共同的学習をとおしてその特徴をいかしながら進める。

【授業計画】

- 第1回 保育士養成課程における本科目の意義
- 第2回 テーマの設定
- 第3回 テーマに関する資料収集の方法について
- 第4回 テーマに関する資料収集（図書館等）
- 第5回 テーマに関する資料収集（図書館等）
- 第6回 テーマに関する資料収集（保育実践のインターネット検索等）
- 第7回 テーマに関する資料収集（保育実践のインターネット検索等）
- 第8回 テーマに関する資料収集（保育者等実践者による講話）
- 第9回 テーマに関する発表（発表準備）
- 第10回 テーマに関する発表（発表準備）
- 第11回 テーマに関する発表（グループ発表）
- 第12回 テーマへの理解を深める①（例：テーマに関する児童文化財等に触れる）
- 第13回 テーマへの理解を深める①（例：テーマに関する児童文化財等に触れる）
- 第14回 テーマへの理解を深める①（例：テーマに関する児童文化財等に触れる）
- 第15回 まとめ
- 第16回 保育士養成課程における本科目の意義を改めて理解する
- 第17回 テーマへの理解を深める②（昨今の保育をめぐる諸問題との関連性をディスカッション）
- 第18回 テーマへの理解を深める②（課題を抽出する）
- 第19回 テーマへの理解を深める②（子ども・親・保育者を観察する）
- 第20回 テーマへの理解を深める②（背景を探る）
- 第21回 テーマへの理解を深める②（対応策を考える）
- 第22回 テーマに関する模擬保育（保育の計画・保育課程について）
- 第23回 テーマに関する模擬保育（指導計画について）
- 第24回 テーマに関する模擬保育（模擬保育指導案作成）
- 第25回 テーマに関する模擬保育（模擬保育指導案作成）
- 第26回 テーマに関する模擬保育（実践や発表の準備）
- 第27回 テーマに関する模擬保育（模擬保育発表）
- 第28回 テーマに関する模擬保育（模擬保育発表）
- 第29回 テーマに関する模擬保育（振り返り）
- 第30回 まとめ（改善やさらなる実践に向けて）

【授業の進め方】

図書館での資料収集、情報検索、グループ発表、グループ作業に取り組むほか、外部講師による講話や諸施設見学等を取り入れ、前期、後期を通して進めていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①教科書については各クラスで指示する。

随時資料を配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。
- ・受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

具体的なテーマについては各担当教員が示す。

前・後期を通した履修となる。

全回出席を原則とする。

各回、集合場所等に注意する。

グループでの学びが多いので、遅刻や欠席をしない。

グループワークや発表等が主となるため、自主性と積極性が必要である。

保育や子どもの生活に関する内容に興味や関心を持ち、授業に参加する。

【科目のレベル、前提科目など】

保育を学ぶということは、人間学を学ぶということである。

したがって、全ての教科目および受講者の生活態度が学びの基盤となる。

【備 考】

保育士資格取得のための重要な科目である。

科目名	児童学研究法(概説)
	児童学研究入門
	授業形態：講義/授業回数：15回（30時間）
教員名	有馬 知江美

【授業の内容】

他の多くの学問分野に比べ、子どもを研究対象とする児童学の歴史は浅いということがいえるが、この授業では特に乳幼児期の子どもの研究対象として捉える場合の様々な観点・研究方法を論じる。子どもを研究するにあたりどのような手法や場があるか、また、児童文化財を研究・活用する場合のアプローチにはいかなるものがあるのか等を講義する。講義を踏まえながら研究方法について考察する。

【到達目標】

1. 子どもを研究する際に必要とされる研究方法を理解することができる。
2. 子どもに関わる研究を行う際に、研究に適した方法を選び取り、実際に研究を行うことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション—児童学研究法の概観
- 第2回 児童学研究に関する参考図書（1）
- 第3回 児童学研究に関する参考図書（2）
- 第4回 児童学研究に関する諸文献
- 第5回 児童文化財研究（児童文学）（1）
- 第6回 児童文化財研究（児童文学）（2）
- 第7回 児童文化財研究（児童文学）（3）
- 第8回 児童文化財研究（児童文学）—ブルーナー研究（グループワーク）：事前にブルーナーの絵本を選択し、持参する。（60分）
- 第9回 児童文化財研究（児童文学）—ブルーナー研究（グループワーク）
- 第10回 児童文化財研究（児童文学）—ブルーナー研究の発表（グループワーク）
- 第11回 児童文化財研究（玩具）（1）
- 第12回 児童文化財研究（玩具）（2）
- 第13回 児童学研究の方法の考察（1）
- 第14回 児童学研究の方法の考察（2）
- 第15回 児童学研究の方法の考察（3）

【授業の進め方】

講義の他、授業時に配布するワークシートに記載したり、グループワークを取り入れたたりすることもある。また、図書館利用や情報機器操作を含めて授業を進めることもある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリント、ワークシートを使用する。
授業時に資料を提示する。

【参考図書】

授業時に随時紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

レポート、課題（授業時に配布するワークシートを含む）への取り組み状況、受講態度を総合的に評価する。グループワークもあるため、協働性も重視する。持参物を忘れた場合は受講態度から減点するので注意する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。
受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

全回出席を原則とする。

【備考】

保育士資格取得のための重要な科目である。

科目名	保育内容総論
	授業形態：演習/授業回数：15回（30時間）
教員名	福崎 淳子

【授業の内容】

保育内容とは、保育の内容のことであり、幼稚園・保育所・認定こども園において子どもの発達を意識して組み立てられた生活のすべてをさしています。つまり、園生活のなかで子どもたちが体験するすべてのことであるといえることができます。そして、この子どもの生活をとらえる視点として、「幼稚園教育要領」では「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」という5領域が、「保育所保育指針」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」では5領域に加えて「養護」的な内容が設けられています。これらの内容の意義と目的をとらえながら、相互の関連を理解し、保育とはなにかということについて学んでいきます。

本科目では、多くの保育に関連する具体的な実践事例やエピソードを紹介します。それらを通し、自らもかかわりある事象として子どもの姿をとらえながら、保育内容はどのように構成されていくのか、そして、保育の根底にある考え方(保育の目標)や保育のあり方を総合的に学んでいきます。

【到達目標】

1. 子どもの生活をとらえる視点としての「5領域」と「養護」的な内容およびその結びつきについて学び、保育の全体的な構造を理解する。
2. 子どもの発達と保育内容のかかわりについて理解する。
3. 保育内容における遊びの意義について理解する。
4. 保育について具体的なイメージをもちながら、保育内容と子ども理解とのかかわりについて、その学びを深める。
5. 保育の多様な展開について理解する。

【授業計画】

- 第1回 保育内容総論へのいざない -保育とは、保育内容とは-
- 第2回 エピソードをもとに保育について考える（グループ・ディスカッション）
- 第3回 幼稚園・保育所・認定こども園について
学習課題：それぞれの特徴について、調べてみる
- 第4回 保育内容の歴史の変遷について
- 第5回 保育内容と子どもの発達① -乳幼児期の発達とその特徴-
- 第6回 保育内容と子どもの発達② -発達の課題と保育内容-
- 第7回 保育内容と子どもの発達③ -発達と子どもの好奇心-
エピソードをもとにグループ・ディスカッション
- 第8回 子どもの遊びの姿から保育内容について考える
エピソードをもとにグループ・ディスカッション
- 第9回 保育内容と環境について① -子どもにとっての環境-
- 第10回 保育内容と環境について② -環境とかわる力を育てる-
- 第11回 保育内容におけるカリキュラムについて
- 第12回 保育内容の相互関連性について①
エピソードをもとにグループ・ディスカッション
- 第13回 保育内容の相互関連性について②
理想の保育内容の提案づくり（グループ・ワーク）
- 第14回 保育内容の相互関連性について③
理想の保育内容の提案づくり（グループ発表）
- 第15回 まとめ -保育内容の課題もふまえながら-

【授業の進め方】

将来保育の担い手となるために、保育内容を実践に即して総合的にとらえていける目を培うことをめざしながら進めていきます。そのために、単に保育の理論や事例・エピソードの紹介に終わるのではなく、日常的な保育の生活文脈における具体的な実践事例やエピソードについて、グループ・ディスカッションを重ねていきます。積極的な参加とともに、他者の意見に耳を傾けながら、保育の根底にある大切な考え方について学んでいきたいと思えます。

そして、その学びをもとに、自分が考える理想の保育内容の提案づくりを課題に、グループワークを行います。有意義なグループワークになるよう、真摯に取り組んでください。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に指定しません。授業にあわせた資料を必要に応じて配付します。

【参考図書】

- ・「エピソードから楽しく学ぼう保育内容総論」福崎淳子・山本恵子編著 創成社 2015年
- ・「幼稚園教育要領」文部科学省、「保育所保育指針」厚生労働省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 25% レポート・課題 50% 受講態度 25%

特記事項

- ・「授業内小試験」とは、授業内において適宜行う「復習シート」や課題（授業の振り返りなど）の取り組みです。
- ・「レポート・課題」とは、主に最終のまとめのレポートです。レポート課題の指示を出しますので、その内容に即してまとめてください。
- ・「受講態度」は、グループ・ディスカッションやグループ・ワークに取り組む姿勢および授業への参加の姿勢です。グループ活動に積極的に取り組むとともに、真摯な姿勢で授業に臨んでください。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・成績評価の方法は、「履修規程」に準じます。
- ・受験資格は、「保育士資格規定」に準じます。
- ・授業内における課題やまとめのレポートは、その課題内容を理解してまとめることが重要です。
- ・評価基準に基づき、グループワークの取り組みやその発表の成果、復習シート、課題提出、レポート提出を含め、総合的に評価します。

【履修上の心得】

- ・全回出席を原則とします。
- ・できるだけ日常的な保育の生活文脈における実践事例やエピソードを、配付資料やビデオを通して紹介していきますので、自らもかかわりある事象として子どもの姿をとらえながら、自分だったら子どもとどのようにかかわるだろうか、と考えながら授業に臨んでください。
- ・適宜グループ・ディスカッションやグループ・ワークを行いますので、積極的に話し合いに参加し、自分の考えをしっかりと示すとともに、他者の意見にも耳を傾けながら、真摯な姿勢で授業に臨んでください。

【科目のレベル、前提科目など】

「保育の内容・方法に関する科目」に位置付けられた保育士資格取得のための重要な科目です。

科目名	児童家庭福祉B
	授業形態：講義/授業回数：15回（30時間）
教員名	山中 定雄

【授業の内容】

今日の社会において、児童もまた危機の中にある。児童の権利に関する条約に謳われた『児童の最善の利益』をどのようにして守るのかを、今、真剣に問わなければならない。

様々な制度改革の中であって、児童福祉も大きく転換しようとしている。家庭、地域、親、そして子ども、それらが直面している現状を検証する。

【到達目標】

児童福祉の基礎理論を学ぶ。

児童福祉の現状を理解する。

【授業計画】

- 第1回 子どもたちを取り巻く現状
- 第2回 現代の家族・児童問題
- 第3回 児童の権利
- 第4回 児童福祉の法体系 I
- 第5回 児童福祉の法体系 II
- 第6回 改正児童福祉法の要点
- 第7回 児童福祉サービスの体系と動向
- 第8回 児童福祉と家庭支援
- 第9回 要保護児童と社会的養護 I
- 第10回 要保護児童と社会的養護 II
- 第11回 児童の健全育成と子育て支援
- 第12回 保育と子育て支援
- 第13回 保育と教育
- 第14回 21世紀の子どもたち
- 第15回 一人親家庭の状況

【授業の進め方】

児童問題の今日的话题や問題を取り上げながら、これからの児童福祉を考える。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①児童福祉を学ぶ ②松本園子/堀口美智子/森和子 著 ③ななみ書房 ⑤2520円

【参考図書】

福祉6法

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%
 特記事項
 定期試験

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。
- ・受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

- ・全回出席を原則とする。
- ・広く社会的関心を持ち、情報の収集と科目の関連を考えながら学んで欲しい。

【科目のレベル、前提科目など】

社会福祉、保育原理、家庭支援論など
 保育士選択必修の科目、社会福祉士必修の科目

科目名	保育内容演習（表現）
	授業形態：演習/授業回数：15回（30時間）
教員名	齋藤 千明・富田 英也

【授業の内容】

幼児の日常生活は新鮮な発見と驚きの連続であり、美しいもの、優れたもの、心に残る出来事に出合うなどの経験によって人間的な感性が培われていく。それを励まし、表現する意欲へと高め、想像力豊かな人間を育成することが、幼児指導者に課せられた責務である。

この講座の「表現」とは、幼児の音楽、美術表現を内容とする。授業では時間数が少ないことを考慮し、初歩的な人形劇、ミュージカル等を中心に行う。感じたこと考えたことを自ら表現することを通して、豊かな感性や表現力を養い、のびやかな創造力を培っていただきたい。

【到達目標】

幼児の表現能力の理解と指導方法について学び、個性を生かしながら指導者としてのセンスと表現技術の習得をめざす

【授業計画】

- 第1回 授業のガイダンス 人形劇について(パペット・マリオネット・パネルシアターの作り方、演出を中心に解説)
- 第2回 キャラクターデザインの基礎(動物を題材にしてアイデアスケッチ)
- 第3回 キャラクターデザインの基礎(動物を題材にしたデザインを決定し描画)
- 第4回 キャラクターデザインの基礎(動物キャラクターを完成させ発表、ディスカッション) 人形劇制作に向けてグループに分かれ表現方法と制作計画を決める
- 第5回 人形劇(グループ制作) キャラクター制作
- 第6回 人形劇(グループ制作) キャラクター制作
- 第7回 人形劇(グループ制作) 背景、その他モチーフを作る
- 第8回 発表会と講評(グループディスカッション)
- 第9回 オリエンテーション、動きとパントマイム、音楽と動き、子どものミュージカル作品の紹介、グループ決め
- 第10回 ミュージカル作品の内容理解と音楽の把握、配役決め
- 第11回 歌やセリフ、動きの練習、伴奏音楽の練習と合わせ
- 第12回 音楽に合わせて歌や動きを付ける、衣装・小道具・背景等の検討
- 第13回 音楽に合わせた稽古、通し稽古、衣装・小道具・背景等の作成
- 第14回 通し稽古とリハーサル、衣装・小道具・背景等の作成
- 第15回 発表会と反省会

【授業の進め方】

グループワークやディスカッションを交えた課題制作と発表を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない。必要に応じてプリント配布

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

「履修規程」に準ずる。作品、発表内容と完成度による。また、発表意欲も重視する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は、履修規程に準ずる。

受験資格は、保育士資格規程に準ずる。

【履修上の心得】

自主的、創造的に課題を完成させること。全授業出席が原則。

【科目のレベル、前提科目など】

入門的レベル、＜前提科目なし＞。関連科目として「保育内容指導法」

科目名	フィールドワーク
	授業形態：演習/授業回数：15回（30時間）
教員名	山路 千華

【授業の内容】

観察、インタビュー調査、事例研究法等の基本的な研究法を理解し、保育現場で観察できる力を育成する。観察や調査した内容をプレゼンテーションをすることで、子ども理解を深める。

【到達目標】

- ・保育・教育というフィールドで何を見るのかという自身のテーマを構築することができるようになる。
- ・フィールドでの観察、インタビュー調査・事例研究法などの基本的な研究法を理解する。
- ・テーマの設定の仕方、適切な方法選択などを踏まえ、観察する目（子どもを見る目）を身に付ける。

【授業計画】

- 第1回 授業の進め方、オリエンテーション
- 第2回 観察方法について
- 第3回 インタビュー方法について
- 第4回 事例研究について
- 第5回 観察記録の書き方
- 第6回 調査の準備と保育文化の理解
- 第7回 フィールドワークの実際① 物的対象の観察
- 第8回 観察内容の整理
- 第9回 フィールドワークの実際② 人的対象の観察
- 第10回 調査内容の整理
- 第11回 プレゼンテーションの準備
- 第12回 プレゼンテーション 発表①
- 第13回 プレゼンテーション 発表②
- 第14回 プレゼンテーションのまとめ
- 第15回 振り返り 子どもとのかかわりについて

フィールドワークを体験することで、保育現場で子どもを観察できる力を身に付ける。

【授業の進め方】

- ・観察場所については、授業内で伝えていく。
- ・天候等により、観察日を変更することもある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

目的に沿った技法により適時紹介する。

【参考図書】

適時紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

- ・プレゼンテーション
- ・課題提出

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・成績評価の方法は「履修規程」に準ずる。
- ・受験資格は「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

- ・全回出席を原則とする。
- ・観察や発表を行うため自ら行動し、積極的に取り組む姿勢が求められる。
- ・幼稚園などの保育施設への観察を行う際には、ふさわしい身だしなみを整える必要がある。

科目名	児童学研究法
	授業形態：講義/授業回数：15回（30時間）
教員名	浅田 晃佑

【授業の内容】

卒業論文を作成する際に、質問紙法、実験法、観察法、インタビュー法、などの方法を用いて、卒業論文を書こうとする学生のための授業である。おもに「心理学」の領域での卒業論文であり、心理学で一般的に用いられる調査に関する実践的な知識を身に付けてもらうことを目的としている。

【到達目標】

- 1 卒業論文を作成する上で必要な実践的なスキルの習得
- 2 子どもを観察・記録し、行動を客観的に把握できるようにする
- 3 実験・観察方法の立案、質問紙項目・インタビュー項目の作成、実施上の配慮を理解した上での調査の実施
- 4 結果を整理し、データを分析できるようにする
- 5 子どもの行動や心を心理学の手法を用いて分析し、理解する

【授業計画】

- 第1回 心理学の研究法
復習：心理学の研究法の概略について復習する（30分）
- 第2回 研究の目的・計画
復習：研究の目的や計画の立案について復習する（30分）
- 第3回 研究の倫理
復習：研究を実施する上で重要な倫理的問題について復習する（30分）
- 第4回 論文の構成
復習：論文の書き方について復習する（30分）
- 第5回 論文の書き方
復習：論文の書き方について復習する（30分）
- 第6回 先行研究調査の重要性・先行研究を調べる
復習：先行研究調査の方法について理解し、自分で実施できるようにする（30分）
- 第7回 さまざまな研究法①質問紙法
復習：質問紙法の研究手法について理解する（30分）
- 第8回 さまざまな研究法②インタビュー法
復習：インタビュー法の研究手法について理解する（30分）
- 第9回 さまざまな研究法③観察法
復習：観察法の研究手法について理解する（30分）
- 第10回 さまざまな研究法④実験法
復習：実験法の研究手法について理解する（30分）
- 第11回 さまざまな研究法⑤投影法
復習：投影法の研究手法について理解する（30分）
- 第12回 さまざまな研究法⑥作業検査法
復習：作業検査法の研究手法について理解する（30分）
- 第13回 データを取る
復習：データを取る際に気を付けるべき点について復習する（30分）
- 第14回 データの整理
復習：取得したデータの扱い方について復習する（30分）
- 第15回 データの分析・統計
復習：データの分析方法や統計手法について復習する（30分）

【授業の進め方】

パワーポイントのスライドを使用し、さまざま研究法を学ぶ。その後、実際に調査を体験、実施し、結果の整理と考察を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

参考図書を参照

【参考図書】

- 「心理学研究法入門—調査・実験から実践まで」 南風原朝和・市川伸一・下山晴彦（編） 2001年 東京大学出版会
「改訂新版 心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために」 松井豊（著） 2010年 河出書房新社
「心理学マニュアル 観察法」 中沢潤・大野木裕明・南博文（編著） 1997年 北大路書房
「心理学マニュアル 質問紙法」 鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤（編著） 1998年 北大路書房
「心理学マニュアル 面接法」 保坂亨・中澤潤・大野木裕明（編著） 2000年 北大路書房

「心理学マニュアル 要因計画法」 後藤宗理・大野木裕明・中澤潤（編著） 2000年 北大路書房
「心理学マニュアル 研究法レッスン」 大野木裕明・中澤潤（編著） 2002年 北大路書房

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 20%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。
受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

全回出席を原則とする。

【科目のレベル、前提科目など】

データの集計、心理統計などの要素が含まれる。

科目名	保育相談支援
	授業形態：演習/授業回数：15回（30時間）
教員名	伊崎 純子・浅田 晃佑

【授業の内容】

「保育相談支援」は、現代的課題に応えるために新設された科目の一つであり、改訂保育所保育指針第6章の「保護者に対する支援」を踏まえて、保育士の専門性を高める内容となっている。子どもが好きだから保育士を目指したとしても、子どもの心身を支える保護者を視野に入れずに保育士業務は成立しない。この演習科目では、保護者支援の原則を学ぶと同時に実践での応用が可能となるような実践知を獲得してほしい。

【到達目標】

1. 保育相談支援の意義と原則について理解する
2. 保護者支援の基本を理解する
3. 保育相談支援の実践を学び、内容や方法を理解する
4. 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実践について理解する

【授業計画】

第1回 保育相談支援の定義と意義

復習：教科書をもとに保護者に対する相談支援の意義をまとめる（60分）。

第2回 保育相談支援の基本：子どもの最善の利益

復習：教科書をもとに子どもの人権について復習する（60分）。

第3回 保育相談支援の基本：保護者への支援

予習：各自の成長について母子手帳や養育者の話を参考にして振り返る（30分）。

第4回 保育相談支援の基本：話の聴き方

復習：授業で取り上げたキーワードについて各自復習する（30分）。

第5回 保育相談支援の科目設定の背景を考える1

復習：授業で出された課題に取り組む（90分）。

第6回 保育相談支援の科目設定の背景を考える2

復習：グループ発表をもとに、これまでの授業内容を復習する（30分）。

第7回 保育相談支援の基本：地域の関係機関等との連携

復習：地域の社会資源について調べる（90分）。

第8回 保育相談支援の実践：支援の実践

復習：授業で取り上げたキーワードについて各自復習する（30分）。

第9回 保育相談支援の実践：支援の内容

復習：授業で取り上げたキーワードについて各自復習する（30分）。

第10回 保育相談支援の実践：方法と技術

復習：授業で取り上げたキーワードについて各自復習する（30分）。

第11回 保育相談支援の実践：支援計画からカンファレンスまで

復習：授業で取り上げたキーワードについて各自復習する（30分）。

第12回 児童福祉施設における保育相談支援：保育所

復習：教科書をもとに保育所における保育計画を検討する（60分）。

第13回 児童福祉施設における保育相談支援：特別な対応を要する家庭への支援（一人親家庭や外国籍家庭など）

復習：授業で取り上げたキーワードについて各自復習し、地域の社会資源を精査する（60分）。

第14回 児童福祉施設における保育相談支援：児童養護施設／障害児施設／母子生活支援施設

復習：虐待事例への理解や対応法について各自復習する（30分）。

第15回 保育士に求められる保育相談支援

復習：これまでの授業内容をまとめる（120分）。

演習形態の授業であり、ゲストスピーカーを招くなど大学と現場をつなぐ実践知を学ぶ場としたい。

【授業の進め方】

主に教科書に従って授業を進める。不定期にリアクションペーパーの提出を求める。即戦力として職場で活躍できるよう、積極的な学習姿勢を期待する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①保育相談支援 ②大嶋恭二・金子恵美 ③建帛社 ④2011/4/25 ⑤1944 ⑥978-4-7679-3290-3

【参考図書】

『保護者支援スキルアップ講座（保カリBOOKS）』柏女霊峰ほか（2010）ひかりのくに

『保育相談支援』柏女霊峰ほか（2011）ミネルヴァ書房

『演習 保育相談支援』小林育子 (2010) 萌文書林

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 30% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 40%

特記事項

平常点 (リアクションペーパーの提出状況、授業への参加態度) と定期試験の得点によって評価する

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる
- ・受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる

【履修上の心得】

- ・全回出席を原則とする

科目名	病児病後児保育
授業形態	講義/授業回数：15回（30時間）
教員名	沼口 知恵子

【授業の内容】

保育は古くからの子育て支援の中心的な役割です。保育現場において、保護者にとって最も苦慮することに、子どもの病気のときの世話であることが多くの調査書に示され、社会的要望も高まっています。

近年の女性の就労や、核家族、少子化などの社会情勢の急激な変化に伴い、保育への要望は著しく多様化し、慢性疾患や障害を抱えながら成長する子どもの増加などに伴い、医療知識を必要とする保育の場面が急速に増加しています。病児保育施設の設置も徐々に増え、病児保育士の社会的ニーズは高まっています。

この科目では、病児を親に変わり保育するために必要な子どもの病気や生活の変化、成長との関連性を理解し、病児病後児保育の専門性について理解をします。また、近年、呼吸器感染症や胃腸炎など施設内で拡大する感染性疾患が増えています。感染を拡大させないための予防策などの知識を習得できるよう支援します。

【到達目標】

- ・急性期疾患の初期的な病状が観察できることを目標とする。
- ・慢性期疾患を理解し、家庭における療育の継続ができることを目標とする。
- ・感染症に対する知識と防御がわかることを目標とする。
- ・アレルギー性疾患を理解し、保育における観察・緊急時の対応ができることを目標とする。
- ・病児の病状の制限をふまえた遊びの提供ができることを目標とする。
- ・家族・医療との連携がわかるようになることを目標とする。
- ・医療の現場における医療保育士の活動がわかるようになることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 医療保育とは。病児・病後児保育の専門性。
- 第2回 子どもの観察と対応（救急処置含む）
- 第3回 急性疾患と保育（発熱・嘔吐・下痢など）
- 第4回 急性疾患と保育（呼吸器疾患・けいれんなど）
- 第5回 アレルギー疾患と保育
- 第6回 食物アレルギーと保育
- 第7回 慢性疾患と保育（先天疾患・生活習慣病など）
- 第8回 施設内で拡大する感染症とその予防策
- 第9回 事故とその対応・予防・救急処置・乳幼児突然死症候群について
- 第10回 疾患をもつ子どもの家族・医療・地域との連携
- 第11回 病児の遊びと生活
- 第12回 医療的ケアを必要とする子どもの保育
- 第13回 病棟保育士の活動
- 第14回 病気の子ども、発達障害のある子どもとその家族の心理
- 第15回 病児病後児保育のまとめ

【授業の進め方】

適宜資料を配布し、必要に応じて写真などを映し出して、理解を助けるようにします。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用せずに、プリントを使用します。

【参考図書】

乳児保育 改訂10版 石原栄子著 南山堂 定価2000円
 医療保育 ぜひ知っておきたい小児科知識 改訂4版 梶谷喬著 診断と治療社 定価2700円
 必須 病児保育マニュアル Vol.2 帆足英一監修 一般社団法人全国病児保育協議会 定価4000円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 0%

特記事項

定期試験と課題レポートで総合的に評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。
- ・受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

- ・全回出席を原則とする。
- ・他の学生の迷惑になる私語は慎んでください。

科目名	地域子育て支援論
授業形態	講義/授業回数：15回（30時間）
教員名	高橋美保・若盛清美

【授業の内容】

我が国は現在、子育てが困難な状況にある。子どもは人との関わりや自然環境の中で育つが、その環境が保障されなくなっている。そのため親による子育てが、社会的支援として求められるようになり、「子育て支援」という活動が地域社会に広がった。

改めて今、子育て支援について考え、支援の内容や質について検証する。

1. 家庭生活を取り巻く社会的状況を理解したうえで、支援体制としての社会資源について学ぶ。
(親が子どもと行きたい子育ての「場」とは?)
2. 保育所で進める事例から支援の内容を知り、支援の役割について理解を深める。
(保育者がおこなう子育て「環境」には何が必要か)
3. 保育士等が行う家庭支援の原理を理解したうえで、子育て支援の進め方を学ぶ。
(環境の設定⇒関係の構築⇒課題の把握⇒支援の内容⇒振り返り)
4. 多様な支援の展開を知り、関係機関との連携について学ぶ。

【到達目標】

1. 子育てを取り巻く社会的状況から、地域への子育て支援に対する内容と役割を理解する。
2. 保育士等が行う家庭支援の原理から、子育て支援者としての具体的な技術やスキルを身に付ける。
3. 現在行われている多様な支援の展開から、その実態や事例を基に支援のあり方や課題について考える。

【授業計画】

- 第1回 地域の子育て家庭への支援について
- 第2回 地域で取り組む子育て支援の内容（居心地良い環境設定には何が必要か）
- 第3回 地域で取り組む子育て支援の事例（コラム「エプロンは何のため」から検証する）
- 第4回 保育士等が行う家庭支援の原理（支援者と利用者の関係で配慮する点）
- 第5回 保育士等が行う家庭支援の内容（コラム「こどもに届く支援を」から検証する）
- 第6回 保育所入所児童の家庭支援の展開（保育所における「子育て支援」の実際①）
- 第7回 地域の子育て家庭への支援の展開（保育所における「子育て支援」の実際②）
- 第8回 子育て支援の課題Ⅰ（利用者の問題や課題を知る）
- 第9回 子育て支援の課題Ⅱ（課題解決の方法や話し方を学ぶ）
- 第10回 子育て支援の課題Ⅲ（支援者としての振り返りと学び合い）
- 第11回 子育て支援の実際Ⅰ（子育て相談・親支援にむけて）
- 第12回 子育て支援の実際Ⅱ（子育て相談の事例によるロールプレイ）
- 第13回 子育て支援の実際Ⅲ（子育ての場の環境づくり①）
- 第14回 子育て支援の実際Ⅳ（子育ての場の環境づくり②）
- 第15回 子育て支援の実際Ⅴ（発表：保育者として仕事をしたい「子育てひろば」）

【授業の進め方】

講義を基に、より理解を深めるために映像や写真を用いて事例検証しながら授業を進める。
ディスカッションやグループワークを経て、子育て支援のあり方や内容について追究する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用しない。プリント資料を配布する。

【参考図書】

「…育つ・つながる…子育て支援 具体的な技術・態度を身につける32のリスト」
子育て支援者コンピテンシー研究会/編著 チャイルド社 1,800円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 40・40% 受講態度 20%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。
- ・受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。
- ・授業への取り組み姿勢、レポート・課題等の提出で、総合的に評価する。

【履修上の心得】

- ・全回出席を原則とする。
- ・子育て家庭の意義とその機能、子育て家庭を取り巻く社会状況を理解して授業に臨むこと。

科目名	遊びと運動
	授業形態：演習/授業回数：15回（30時間）
教員名	松村 朋子

【授業の内容】

幼児教育における「運動と遊び」のねらいを把握し、その指導法について学習して行ってほしいです。また、受講生自らも楽しみ、リズム感を高め、柔軟な身体づくりを心がけ、表現力豊かな保育者としての資質を高めてほしいと思います。

【到達目標】

- ・幼児教育における「遊びと運動」のねらいを把握する。
- ・幼児主体の運動遊びを保育の中でどう展開していくか、その指導法を学習する。
- ・演習を通して、幼児の身体発育に即した運動遊びを考案する。
- ・少人数による指導計画の作成および模擬実習を行う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 幼児期における運動の必要性
授業ノートの作成方法
- 第2回 運動遊びの指導、運動遊びの種類とその実際、ラジオ体操、ステップ
- 第3回 「歩く、跳ぶ」「走る」運動 鬼ごっこ、走りっこ
- 第4回 小型遊具を使った遊び ①ボール ②フープ
- 第5回 小型遊具を使った遊び ③棒 ④縄
- 第6回 小型遊具を使った遊びの指導例の発表
- 第7回 身近なものを使った遊び ①新聞紙 ②リボン ③布
- 第8回 大型遊具をつかった遊び ①マット ②跳び箱 ③平均台
- 第9回 固定遊具をつかった遊び
屋外での自由遊び
- 第10回 表現的な遊び（自由表現とリズム表現）動物体操
- 第11回 グループ分け 模擬指導のための指導案の作成
- 第12回 年齢に相当した運動遊びの指導案の作成と模擬指導1
- 第13回 年齢に相当した運動遊びの指導案の作成と模擬指導2
- 第14回 年齢に相当した運動遊びの指導案の作成と模擬指導3
- 第15回 模擬指導の評価と反省 動きのテスト（スキップ、ツーステップ、前転など） まとめ

本授業では

- 1：感じたことや考えたことを自分なりに身体表現する、
- 2：人と関わって身体表現をする、
- 3：遊びやダンス小品を創作する、
- 4：発表し、意見を交わし合うなどの多様な側面から身体表現の特性を楽しみ、身体感覚を通して他者と共感する意義を学びます。

【授業の進め方】

身体をよく動かせるように各自ストレッチを十分にして下さい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①保育と幼児期の運動あそび ③萌文堂

特になし（必要に応じて配布する）

【参考図書】

特になし

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0%	授業内小試験 10%	レポート・課題 50%	受講態度 40%
特記事項			
授業内小試験	10%		
ステップや動きのテスト			
レポート・課題	50%		
リアクションペーパーの提出			

模擬指導の取り組み方
学習記録ノート

受講態度 40%

受講態度には、服装も含む
受講態度は、授業への積極性を評価します。
服装の準備ができていない、ノート、教科書、学生カードの忘れ物も減点对照です。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

当科目は本人が授業の中で実際に動くことが重要であるので、基本的に欠席は認めない。
授業時間の中で、積極的に動くことを最も重視する。
始業時間から20分までを遅刻とし、それ以降は欠席扱いとなる。また、遅刻3回で欠席1回とする。
交通機関での遅れの場合は、遅延証明書などで理由を明確にすること。

【履修上の心得】

全回出席を原則とする。見学は不可、事情がある場合は事前に相談のこと。
初回から用意するもの：体操着、A4ノート、A5サイズの名前ゼッケン、はさみ、のり
体操着を準備すること

【科目のレベル、前提科目など】

特になし

【備 考】

特になし

科目名	ゼミナール(荒井弘)
	「うたってあそぼう」音楽の魅力とは
	授業形態：演習
教員名	荒井 弘高

【授業の内容】

「音楽の魅力とは」を探るため、うたってあそびながら各自それぞれ音楽表現におけるテーマを設定し、研究活動を行う。

具体的な例として、わらべうた・童謡・現代のこどものうたなどを主な教材とし、その中から幼稚園・保育所及び小学校などの現場で使用するであろう「うた」をピックアップ、その「うた」のつくられた時代背景・ルーツ・作曲家・作詞家・歌詞の内容および伴奏法・歌唱表現法などから、学生自身が課題を設定し、研究を行なう、などが挙げられる。

また、歌唱にピアノ・ハンドベル・打楽器・リコーダーなどの楽器を加えての音楽における総合表現法の研究を行い、幼稚園・小学校などでの発表会などにも挑戦したい。

さらには、音楽的感性を高めることを目的とし、積極的に童謡コンクール・ミュージカルなど様々な演奏会にも足を運びたい。

【到達目標】

自分自身の音楽的素養を高めることを目的とする。特に歌唱に関してのより高い表現技術の習得を目指し、実践力を高めたい。

【授業計画】

- 第1回 講義概要の説明
- 第2回 資料の整理および研究発表1（予習：最低60分）
- 第3回 実技指導1（復習60分）
- 第4回 資料の整理および研究発表2（予習：最低60分）
- 第5回 実技指導2（復習60分）
- 第6回 資料の整理および研究発表3（予習：最低60分）
- 第7回 実技指導3（復習60分）
- 第8回 資料の整理および研究発表4（予習：最低60分）
- 第9回 実技指導4（復習60分）
- 第10回 資料の整理および研究発表5（予習：最低60分）
- 第11回 実技指導5（復習60分）
- 第12回 資料の整理および研究発表6（予習：最低60分）
- 第13回 実技指導6（復習60分）
- 第14回 前期研究発表のまとめ（予習：最低60分）
- 第15回 前期実技のまとめ
- 第16回 資料の整理および研究発表7（予習・復習60分）
- 第17回 総合表現法の研究1（復習60分）
- 第18回 資料の整理および研究発表8（予習・復習60分）
- 第19回 総合表現法の研究2（予習・復習60分）
- 第20回 資料の整理および研究発表9（予習・復習60分）
- 第21回 総合表現法の研究3（予習・復習60分）
- 第22回 資料の整理および研究発表10（予習・復習60分）
- 第23回 総合表現法の研究4（予習・復習60分）
- 第24回 音楽発表会の準備1（予習・復習60分）
- 第25回 音楽発表会の準備2（予習・復習60分）
- 第26回 音楽発表会の準備3（予習・復習60分）
- 第27回 音楽発表会の準備4（予習・復習60分）
- 第28回 音楽発表会の準備5（予習・復習60分）
- 第29回 音楽発表会の準備6（予習・復習60分）
- 第30回 幼稚園での音楽発表会（予習60分）

当授業はおおよそ前記の日程で行う予定である。音楽関係の文献および楽譜等を参考にしながら自分自身の課題を見つけ出し、研究を行なう。

【授業の進め方】

学生が主体となり、自ら計画を立て、課題を決定する。これらに基づき指導を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ・必要に応じて指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

【履修上の心得】

研究内容に対しての資料収集等の準備を積極的に行うこと。

【科目のレベル、前提科目など】

- ・ソルフェージュを履修済みであること。
- ・音楽研究活動の実践の場、および卒業研究のための基礎研究の場としたい。

科目名	ゼミナール(今田)
	授業形態：演習
教員名	今田 政成

【授業の内容】

「器楽（ピアノ）のアンサンブルの魅力とは」をテーマに器楽音楽の研究を行い、音楽表現の基礎を高めることを目的とする。

具体的には、ピアノの連弾曲や2台のピアノ曲などを教材として、アンサンブルの研究を行う。幼稚園、小学校などで使われている曲の伴奏法等の研究を行う。研究課題は学生自身が設定する。

【到達目標】

アンサンブル的教育価値観の高い連弾や2台ピアノの研究及び練習し、表現豊かに演奏することができるようにする。アンサンブルの研究から器楽合奏の表現豊かな演奏ができるようにする。

【授業計画】

- 第1回 ピアノアンサンブルについての解説
- 第2回 ピアノ連弾・2台ピアノについての解説
- 第3回 ピアノ連弾曲（古典）の練習、指導1
- 第4回 ピアノ連弾曲（古典）の練習、指導2
- 第5回 ピアノ連弾曲（古典）の練習、指導3
- 第6回 連弾曲発表、グループトーク
- 第7回 器楽合奏の練習、指導1
- 第8回 器楽合奏の練習、指導2
- 第9回 器楽合奏の練習、指導3
- 第10回 作曲家の器楽曲について研究、プレゼン発表1
- 第11回 作曲家の器楽曲について研究、プレゼン発表2
- 第12回 作曲家の器楽曲について研究、プレゼン発表3
- 第13回 連弾曲、器楽合奏演奏の発表1
- 第14回 連弾曲、器楽合奏演奏の発表2
- 第15回 連弾曲、器楽合奏演奏の発表3
- 第16回 ピアノ連弾曲（ロマン派）の練習、指導1
- 第17回 ピアノ連弾曲（ロマン派）の練習、指導2
- 第18回 ピアノ連弾曲（ロマン派）の練習、指導3
- 第19回 ピアノ連弾曲発表1
- 第20回 ピアノ連弾曲発表2
- 第21回 器楽合奏曲（大編成）練習、指導1
- 第22回 器楽合奏曲（大編成）練習、指導2
- 第23回 器楽合奏曲（大編成）練習、指導3
- 第24回 総合曲（物語ナレーション付き）の練習、指導1
- 第25回 総合曲（物語ナレーション付き）の練習、指導2
- 第26回 総合曲（物語ナレーション付き）の練習、指導3
- 第27回 総合曲（物語ナレーション付き）の練習、指導4
- 第28回 総合曲（物語ナレーション付き）の練習、指導5
- 第29回 発表会
- 第30回 演奏のまとめ

現場におけるいろいろな音楽教材のピアノ曲や伴奏法などを、さらに充実させるため、アンサンブル的教育価値観の高い連弾や2台ピアノの研究を行う。MLシステムのクラビノーバ多重録音機能を使い、アンサンブルの研究を行う。

【授業の進め方】

関心のある作曲家・曲等具体的に自ら設定し、計画をたてて課題を決定する。これらに基づき指導を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要に応じてプリントする。

【参考図書】

連弾集
ナレーション付き楽譜

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

課題研究への取り組み姿勢や、内容により総合的に評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回、課題の演習にしっかり取り組む。

【履修上の心得】

研究内容に対しての練習、準備を行うこと。

【科目のレベル、前提科目など】

音楽実技Ⅰ（基礎） 音楽実技Ⅱ（こどもの音楽）

課題研究Bも続いて履修すること。

【備 考】

アンサンブルなので個人練習を必ずすること。

科目名	ゼミナール(岩城)
	授業形態：演習
教員名	岩城 淳子

【授業の内容】

授業の内容は、文献購読、レジュメ作成、プレゼンテーション、問題提起、全体討議、グループ研究などである。領域は健康・教育・保育・体育で、各自がそれらの領域から課題を発見し、それを深めながら問題を解決していく過程を学んでいくことである。

【到達目標】

授業の到達目標は、以下の4点である。

1. 購読した文献の内容を理解し、ポイントをつかめるようになる。
2. その内容を、人に分かりやすく報告できるようになる。
3. 問題を焦点化し、共有化することができるようになる。
4. 論文作成のために必要な基礎技能を習得する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献購読の基礎
- 第3回 レジュメ作成とプレゼンテーションの基礎
- 第4回 個人発表（1）
- 第5回 個人発表（2）
- 第6回 個人発表（3）
- 第7回 個人発表（4）
- 第8回 個人発表（5）
- 第9回 個人発表（6）
- 第10回 個人発表（7）
- 第11回 個人発表（8）
- 第12回 個人発表（9）
- 第13回 個人発表（10）
- 第14回 個人発表からの課題
- 第15回 全体討議
- 第16回 グループ研究の基礎
- 第17回 グループ研究テーマの決定
- 第18回 グループ発表（1）
- 第19回 グループ発表（2）
- 第20回 グループ発表（3）
- 第21回 グループ発表（4）
- 第22回 グループ発表（5）
- 第23回 グループ発表からの課題
- 第24回 卒業研究テーマの検討
- 第25回 テーマと計画発表（1）
- 第26回 テーマと計画発表（2）
- 第27回 テーマと計画発表（3）
- 第28回 テーマと計画発表（4）
- 第29回 テーマと計画発表（5）
- 第30回 全体討議

【授業の進め方】

演習形式で発表、全体討論を中心とする。
毎回発表後、翌週までに討論の報告書を作成する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない。

【参考図書】

授業の中で指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

レジュメの内容とプレゼンテーション、ディスカッションへの参加状況、活動への取り組みなどで総合的に評価する。

【履修上の心得】

得られた知識や情報は自身の思考で再構成することにより、初めて知恵として活用出来るようになる。
学ぶ姿勢を重視する。

【科目のレベル、前提科目など】

保育内容演習(健康)、保育内容指導法(健康)

科目名	ゼミナール(奥澤)
	授業形態：演習
教員名	奥澤 信行

【授業の内容】

小学校の社会科学習では、地理的分野の比率が高く、その中でも総合的な学習との関わりで、地域学習が重視されている。居住地や通学区の地理的事象を客観的に把握し、その成立要因を探求するという地理学における基本的な姿勢は、面的スケールを拡大することによって、市町村・都道府県・国家・世界各国の状況を理解する際にも有効である。それでは地域の実態を把握する際に、人々のどのような活動に着目しているのだろうか。1980年代までは農業や工業などの生産活動に主眼を置いた学習が中心であった。しかし現在は消費の面からみた商業活動や、情報技術に関する事項に重点が置かれ、まさにわが国の産業構造の変容を理解させる内容となっている。そしてこれらの活動の舞台である都市の姿を正しく理解することが不可欠となっている。本ゼミナールでは、都市における経済活動の実態を把握することで「地域の見方」を指導する。

【到達目標】

4年次での卒論作成に際して必要なフィールドワークにおける景観観察・聞き取り踏査などの基本的な技術を身に付ける。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス・地理学的視点からのもの見方
 第2回 15名のゼミ生によるテキストの分担箇所の発表とディスカッション①
 第3回 15名のゼミ生によるテキストの分担箇所の発表とディスカッション②
 第4回 15名のゼミ生によるテキストの分担箇所の発表とディスカッション③
 第5回 15名のゼミ生によるテキストの分担箇所の発表とディスカッション④
 第6回 15名のゼミ生によるテキストの分担箇所の発表とディスカッション⑤
 第7回 15名のゼミ生によるテキストの分担箇所の発表とディスカッション⑥
 第8回 15名のゼミ生によるテキストの分担箇所の発表とディスカッション⑦
 第9回 15名のゼミ生によるテキストの分担箇所の発表とディスカッション⑧
 第10回 15名のゼミ生によるテキストの分担箇所の発表とディスカッション⑨
 第11回 15名のゼミ生によるテキストの分担箇所の発表とディスカッション⑩
 第12回 15名のゼミ生によるテキストの分担箇所の発表とディスカッション⑪
 第13回 15名のゼミ生によるテキストの分担箇所の発表とディスカッション⑫
 第14回 夏期休業中に実施する大阪巡検の説明
 第15回 小山市内の巡検
 第16回 15名のゼミ生によるテキストの分担箇所の発表とディスカッション⑬
 第17回 15名のゼミ生によるテキストの分担箇所の発表とディスカッション⑭
 第18回 15名のゼミ生によるテキストの分担箇所の発表とディスカッション⑮
 第19回 グループごとの調査地に関する概要発表①（自然環境）
 第20回 グループごとの調査地に関する概要発表②（生産活動）
 第21回 グループごとの調査地に関する概要発表③（消費活動）
 第22回 調査地でのフィールドワーク①（関係機関での聞き取り調査）
 第23回 調査地でのフィールドワーク②（商業施設での来店者へのアンケート調査）
 第24回 関係機関での聞き取り調査の結果発表とディスカッション①（市役所を始めとする公的機関）
 第25回 関係機関での聞き取り調査の結果発表とディスカッション②（商業施設）
 第26回 商業施設での来店者へのアンケート調査の結果発表とディスカッション
 第27回 フィールドワークの総括
 第28回 レポート執筆に関する指導①（資料分析）
 第29回 レポート執筆に関する指導②（文章表現）
 第30回 まとめ（フィールドワークの重要性と卒論の題目設定）

【授業の進め方】

少人数のゼミナール形式であるため、文献講読については、各自が担当箇所のレジュメを作成し、関連事項の検索結果とともにその内容を発表する。地域調査法に関しては、講義形式で行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①『商店街はいま必要なのか「日本型流通」の近現代史』 ②満菌 勇 ③講談社 ④2015.7.16 ⑤907円 ⑥9784062883252

【参考図書】

『商店街はなぜ減びるのか』 新雅史 著 光文社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

テキストの分担箇所のレジュメや発表の状況、フィールドワークにおける行動状況で評価する。

【履修上の心得】

最近の学生を見ていると、無駄なお喋りには大声を張り上げるが、肝心の授業となると自分の意見も満足に言えない場面がよくある。また発言しても蚊の鳴くような声である場合が多い。必要なことをきちんと明瞭な声で発言できないのは、とりわけ教員を目指す人にとっては致命的なことといえる。もし受講生諸君がこのように小声で発言しているのであれば、このゼミ形式の授業によってそのような態度を改めてもらいたい。そして自信ある発言ができるためには、授業で扱う内容だけでなく世の中の出来事に常に関心を払い、自分なりの考えをまとめる訓練をすることが大切である。さてゼミは大学生活の中核をなすものと考えられる。教職であれ、民間企業であれ、就職に際してゼミで何を学んできたかが問われるのは常識である。それは学問に関するだけでなく、そこで培われた教員とゼミ生、またゼミ生同士の人間関係こそが、就職のときに重要な意味を持つことによる。したがってゼミの行事には積極的に参加し、有意義な学生生活を送ってほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

本ゼミナールでは人文地理に関する内容を主として扱うので、自然地理についても取り上げる「地理学A・B」を履修することを希望する。高校で「地理」を履修していなくても問題ない。地理的なものの見方を基本から指導したい。

科目名	ゼミナール(川瀬)
	授業形態：演習
教員名	川瀬 善美

【授業の内容】

少子化問題とは、その名の通り日本において、生れる子供の数が減少し、現在の人口を維持できないばかりか、経済全般／社会保障（特に年金問題）／労働市場などに大きな影響を与える深刻な問題です。高齢化社会の原因にもなっています。

少子化がすすんできた理由として、①女性の高学歴化、②晩婚化、③未婚化、④住環境の問題などがあげられています。

一般的に、女性の高学歴化が進み、男女間の給与所得の格差が小さくなったことの結果、女性が職場を離れることにより女性自身のあるいは家族の、経済状況の低下につながるようになりました。その結果として女性の晩婚化・未婚化が進み、初産年齢がそれに伴い上昇し、少子化が進んできたと言われていています。

もちろん、少子化の原因は女性にあるばかりではありません。

むしろ、男性もしくは現在の男性社会に大きな原因があるように感じています。

長時間勤務が常態化しており、その結果、仕事・会社中心の生活を送っている男性に対して女性は余り魅力を感じなくなったのかもしれませんが。また、高度成長期のように、男性が外で稼いでくる給料だけで家族の生活費・家のローンや子供の教育費等をまかなえる時代ではなくなってきています。別の言い方をすると、女性がもたらす給与所得の比重が増してきている現状があります。にも関わらず、女性が勤務と家庭を両立できるような社会の仕組みにもなっていません。こんな世の中では、女性は自らのキャリアを捨ててまで結婚に踏み切ろうとは思わないのも当然と考えられます。

「子育てをしない男を父親とは呼ばない！」衝撃的だった厚生省のポスターに象徴されるように、男性の育児参加が不十分である為に、女性の子育てに関する負担が過度になり「育児の楽しさ」を満喫する前に「苦痛」のみを女性が感じる事により、「あと一人・・・」「もう少しは二人きりで・・・」と出産・子育てに踏みきれないケースも多いのではないかと思います。

そこで、今年度は子育て・子育てに関する問題を取り上げ、研究と検討を行いたいと考えています。

【到達目標】

ゼミナール活動を通じて、4年生での卒業論文のテーマを定め研究計画を定める。

【授業計画】

- 第1回 研究方法論について 1
- 第2回 研究方法論について 2
- 第3回 研究方法論について 3
- 第4回 研究方法論について 4
- 第5回 我が国の社会保障・社会福祉の現状と課題 少子社会について
- 第6回 我が国の社会保障・社会福祉の現状と課題 家族・家庭支援について
- 第7回 我が国の社会保障・社会福祉の現状と課題 子育て支援について
- 第8回 我が国の社会保障・社会福祉の現状と課題 保育問題について
- 第9回 我が国の社会保障・社会福祉の現状と課題 介護・老後問題について
- 第10回 我が国の社会保障・社会福祉の現状と課題 介護・老後問題について（介護保険法）2
- 第11回 我が国の社会保障・社会福祉の現状と課題 介護・老後問題について（認知症）3
- 第12回 我が国の社会保障・社会福祉の現状と課題 障害児・者問題について（特別支援教育）
- 第13回 我が国の社会保障・社会福祉の現状と課題 障害児・者問題について（障害者総合福祉法）
- 第14回 我が国の社会保障・社会福祉の現状と課題 障害児・者問題について（雇用と自立支援）
- 第15回 我が国の社会保障・社会福祉の現状と課題 社会保障・社会福祉のサービス体系と実施体制について
- 第16回 我が国の社会保障・社会福祉の現状と課題 社会保障・社会福祉の財源の現状と課題
- 第17回 研究テーマ設定 学生一人一人のテーマ設定
- 第18回 研究方法について 文献研究
- 第19回 研究方法について 調査研究
- 第20回 研究方法について 実験研究
- 第21回 研究発表 1 （以降2人の研究中間発表を行う）
- 第22回 研究発表 2
- 第23回 研究発表 3
- 第24回 研究発表 4
- 第25回 研究発表 4
- 第26回 研究発表 5
- 第27回 研究発表 6
- 第28回 研究発表についての討論と検討
- 第29回 研究発表についての全体講評
- 第30回 卒業論文テーマ（予定）の発の表と論文作成計画について

特に後期は、ゼミ生一人一人の研究テーマ設定とそれに基づく研究実践を行う。

【授業の進め方】

昨年の「こどもの日」に総務省が発表した平成21年4月1日現在の子ども数（15歳未満人口）は1,714万人と昨年より11万人下回り、昭和57年以来28年連続で減少した。総人口に占める子どもの割合も13.4%と35年連続して低下しており、世界的にもアメリカの20.2%、フランスの18.3%、イギリスの17.6%などと比べて大変低い水準となっています。

このような少子化傾向に対して政府は様々な少子化対策を講じていますが、今後、わが国の人口が増加する可能性は低いです。何故ならば、日本の人口ピラミッドを見ると、今後、出生力の高い20歳代から30歳代の女性の数が急激に減少しているからです。しかもこのことは、急速な高齢化の進展と高齢者が死亡数の増加をもたらすことで、出生数の減少と相まって日本の総人口の「自然減」は続き本格的な人口減少時代がやってくるのです。

したがって今後の少子化対策は、子どもの数が減る少子・人口減少社会を前提に、生まれた子どもが健やかに育つことのできる環境を整え、親が子育てを楽しみ、子どもを持つ喜びを実感できる「豊かな少子社会」に向けた「子育て・子育て」支援を行うことが重要だと考えられます。

これまで子育ては家族や地域の中でき自然に行われてきました。三世帯世帯が多かった時代には、母親が働いていても祖父母や兄弟姉妹など家族の誰かが子育てを担っていました。また、地域の中ではわが子だけでなく、隣近所の子どもも分け隔てなく世話をすることはごく普通に見られる現象でした。

しかし、核家族化が進み、特に都市部では地域コミュニティも希薄化する中で、家族や地域社会の「子育て力」が失われてきています。三世帯世帯などでは子育てのノウハウが世代を超えて継承されてきましたが、核家族化が進展して家庭内に押しとどめられた子育ては、親の孤立感を深めています。また、少子化の影響で兄弟姉妹が少なくなり、自分の子どもを持つ以外に子育てに関わる機会が減少しています。このように今日では家族や地域社会の「子育て力」が低下した結果、社会的な「子育て・子育て」支援が求められているのです。

そこで、子育て・子育てについての支援策について検討して行くことにしたいと考えています。

具体的には保育所問題・待機児童・認定子ども園・学童保育、子ども手当・児童扶養手当・生活保護の母子加算、地域子育て支援・ママさんサークル・公園デビュー、次世代育成支援計画などについてそれぞれ検討を行いたいと考えています。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要なものについては適時指示をします。

また、レポーターは他のゼミ生にレポートに関するレジメを配布してもらいます。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 60%

特記事項

ゼミ生が各1回分のテーマについてレポートをまとめてもらいますが、責任テーマのレポート・自己設定のテーマのレポートの発表を行わない者はD評価とします。

【履修上の心得】

指導教員と履修学生が共同で行う調査研究である事と充分認識し、主体的に研究に臨むことをのぞみます。

後期は卒業研究につながるテーマをゼミ生各自で設定しレポートをまとめてもらいます。それを4年次には卒業研究として深化してもらいます。

【科目のレベル、前提科目など】

課題研究は、4年次の卒業研究と連動して履修することが望ましい。

科目名	ゼミナール(渋川)
	効果的な学習教材の作成法
	授業形態：演習
教員名	渋川 美紀

【授業の内容】

文部科学省は、2020年度からの新学習指導要領小学校でプログラミング教育の必修化を検討すると発表しました。また、情報通信技術を最大限活用した21世紀にふさわしい学びと学校が求められているとも言っています。スマートフォン等の普及により、最近の小学生にとってプログラミングは身近なものとなってきています。そこで、本ゼミナールではExcelのVBAを中心に基本的なプログラムの学習を行います。プログラミングを通じて、物づくりを楽しむとともに、研究活動を通じて未知のものを知る楽しさを感じてほしいと思っています。一人一人の個別の教育が重んじられるようになった現代では、個人の個性に柔軟に対応した効果的な教育を実現することが重要な問題となっています。多種多様なメディアも使われるようになりました。そのような現代の状況の中で、将来プログラミングを指導することができ、またより効果的な学習の教材を自分で創意工夫して構築することができるようになることを目指して講義を進めていきたいと考えています。

【到達目標】

1. Excel VBA等をもちいてプログラミングの基本を理解する。
2. 目的に応じたプログラムの作成ができる。

【授業計画】

- 第1回 プログラミンの実習
- 第2回 PowerPoint・Excelの学習
- 第3回 Excel VBAの学習
- 第4回 Excel VBAの学習
- 第5回 Excel VBAの学習
- 第6回 Excel VBAの学習
- 第7回 Excel VBAの学習
- 第8回 Excel VBAの学習
- 第9回 Excel VBAの学習
- 第10回 Excel VBAの学習
- 第11回 Excel VBAの学習
- 第12回 Excel VBAの学習
- 第13回 Excel VBAの学習
- 第14回 Excel VBAの学習
- 第15回 Excel VBAの学習
- 第16回 その他のプログラミング言語について学習
- 第17回 その他のプログラミング言語について学習
- 第18回 その他のプログラミング言語について学習
- 第19回 その他のプログラミング言語について学習
- 第20回 その他のプログラミング言語について学習
- 第21回 その他のプログラミング言語について学習
- 第22回 その他のプログラミング言語について学習
- 第23回 その他のプログラミング言語について学習
- 第24回 その他のプログラミング言語について学習
- 第25回 その他のプログラミング言語について学習
- 第26回 その他のプログラミング言語について学習
- 第27回 その他のプログラミング言語について学習
- 第28回 その他のプログラミング言語について学習
- 第29回 その他のプログラミング言語について学習
- 第30回 その他のプログラミング言語について学習

【授業の進め方】

実習を中心に進めていきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

講義開始時に指定します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

【履修上の心得】

遅刻や欠席をしないように心がけましょう。特に、30分以上遅刻をしないようにしましょう（欠席扱いにします）。また、遅刻3回で欠席1回とします。やむをえない理由で早退する場合は断って退出して下さい。早退は遅刻と同じ扱いとします。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目は特にありません。プログラムについての知識がなくても大丈夫です。

教育の現場においては常に創意工夫に努めなければなりません。それぞれの児童の個性に応じたよりよい教材の開発はこれからの教育においてますます必要となることと思います。そのための基礎学習となる授業です。

【備 考】

その他のプログラミング言語としてはC言語またはJavaを検討しています。

科目名	ゼミナール(宇津野)
	授業形態：演習
教員名	宇津野 花陽

【授業の内容】

前半は、家庭科教育、家庭科教育史に関する文献をいくつか取り上げ、読み合わせを行う。後半は、受講者それぞれの研究をすすめる。

【到達目標】

家庭科教育と生活の歴史的な変化を理解し、戦前から現代までの家庭科教育について広く理解を深める。その中から課題を見つけ、先行研究の整理を行い、研究の目的、方法が定められるようになる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 学術研究とは
- 第3回 文献講読1
- 第4回 文献講読2
- 第5回 文献講読3
- 第6回 文献講読4
- 第7回 文献講読5
- 第8回 文献講読6
- 第9回 文献講読7
- 第10回 文献講読8
- 第11回 文献講読9
- 第12回 文献講読10
- 第13回 テーマの仮決定
- 第14回 先行研究の探し方
- 第15回 先行研究の調査1
- 第16回 先行研究の調査2
- 第17回 研究の方法（量的方法）
- 第18回 研究の方法（質的方法）
- 第19回 研究テーマおよび研究方法の決定
- 第20回 研究報告1
- 第21回 研究報告2
- 第22回 研究報告3
- 第23回 研究報告4
- 第24回 研究報告5
- 第25回 研究報告6
- 第26回 研究報告7
- 第27回 研究報告8
- 第28回 研究報告9
- 第29回 研究報告10
- 第30回 論文作成の方法

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業の中で指示をする。

【参考図書】

必要に応じて紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

受講態度は、「発表内容や議論への貢献度」を評価します。

科目名	ゼミナール(高橋)
	授業形態：演習
教員名	高橋 美保

【授業の内容】

研究にむけての文献検索、資料収集、文献の要約と多角的な視点での内容の理解、研究方法の検討など、卒業研究にむけての基本的な作業を通して、保育・教育学研究について学ぶ。

前期は、子どもの発達や生活環境、子育てや保育・教育に関する文献を講読する。

各自が関心あるテーマを絞り込むために資料を集め、要旨を作成し発表し、ディスカッションなどをおとして、研究の難しさや面白さを体験する。人を対象とした基礎研究の方法、行動観察の記録のとり方などについても学ぶ。課題解決に向けて力や他者に理解されるような表現力を身に付ける。

後期は、各自が研究テーマを見つけ、設定した課題を深く掘り下げていく。

次年度に行う卒業研究にむけて問題や課題の意識化をし、研究方法の確立、講読した文献の整理など研究の手順をまとめ、先行研究や予備調査に取り組む。中間報告会において再び要旨作成、発表、ディスカッションなどをおして研究の方向性を再検討する。必要に応じて聞き取りやアンケート調査など、学外での研究活動も有り得る。関心や興味のあり様によっては個別、テーマ別グループにわけ探求していくこともある。卒業研究に向け基本的な学びを集約する。

また、研究と同時に畑での農作業（畑おこしから収穫まで）から調理までの一連の作業をおとして、「いのち」や「食育」についての体験的な学びを年間を通して行う。

【到達目標】

以下の力を身に着けることを到達目標とする

1. 考える力 ⇒ 本を読む習慣を身に付ける
2. イメージする力 ⇒ 自分が研究したいテーマ、問題や課題を抽出する力を身に付ける
3. 表現する力 ⇒ 研究成果をレジメにまとめ、プレゼンテーション力を身に付ける
4. 会話する力 ⇒ 意見を聞き、意見を述べる、ディスカッションする力を身に付ける
5. まとめる力 ⇒ 課題を探る方法を確認し、卒論にむけての研究手順を考える

これらの力を身に付けたいうでの到達目標

- ・文献講読により保育・教育研究の一端に触れ、内容を検証する。
- ・研究のための手順を体験し、卒業研究のテーマ、進め方を考える。
- ・フィールドにて現状を把握する。
- ・環境や自然、いのち、食育について、畑作業をおとして体験的に理解する。

【授業計画】

- 第1回 はじめに（オリエンテーション）
1. 自己紹介
 2. ゼミの進め方
- 第2回 食農作業（畑起こし・種植え）
1. (水やりなど)当番制で畑の管理
 2. 生育を観察する ⇒ 各自、栽培観察記録
- 第3回 研究テーマについて（何を知りたいか研究の方向性）
- 健康と食生活の意義
1. 我が国の食生活の現状と課題
 2. 食育の意義と重養性
 3. 教育者・保育者をめざす学生の食生活診断
- 第4回 先行研究調査(1) 文献検索の方法と資料収集
- 第5回 先行研究調査(2) 図書館での情報収集と文献の整理
- 第6回 先行研究調査(3) 様々な情報収集の方法とフィールドワーク
- 第7回 文献の要約と理解(1)
- レジメの書き方・まとめ方
1. 読み込んだ文献箇所をレジメにまとめ、発表の準備をする
 2. 各自、文献を読み込む、レジメ作成などは自己学習
- 第8回 文献の要約と理解(2)
- 読み取った結果を考察し発表する（I）
1. 発表結果をディスカッションする
- 第9回 研究テーマの絞り込みと研究倫理
- 「日本保育学会研究倫理基準」を理解する
- 第10回 仮説と研究方法(1): 研究計画
1. フィールドワーク(行動観察)の準備をする
 - 1) テーマを選定し、観察法を検討する
 - 2) 観察内容を検討する

2. 保育者や教育者・食農関係者に聞き取り調査を行う準備をする
 - 1) テーマを選定し、調査方法を検討する
 - 2) 聞き取り調査の内容を検討する
- 第11回 仮説と研究方法(2)： 研究方法と統計処理
1. 研究方法の検討
 - 1) 面接法 ・聞き取り調査
 - 2) 質問紙法・アンケート調査
 - 3) 行動観察・エピソード
 - 4) 教材研究・指導法
 2. 研究方法の準備
 - 1) 調査紙作成
 - 2) 実験・観察記録紙作成
 - 3) 媒体の製作
 3. 統計処理
 - 1) 集計、エクセルで表計算
- 第12回 仮説と研究方法(3)： 結果と考察
1. 考察の書き方
 2. 報告書作成
- 第13回 研究方法の反省点と新たな研究課題
- 第14回 フィールド見学
農作物の流通経路を知る。「道の駅」見学
1. 生産者から話を聞き、日本が抱える食糧需給についての課題を知る。
 2. TTPについて
- 第15回 前期のまとめと後期のガイダンス
食農作業で育てた食材を用いて、調理実習をおこなう。
- 第16回 課題研究(1)： 先行研究と研究テーマ
- 第17回 課題研究(2)： 文献の要約と要旨作成
- 第18回 課題研究(3)： 要旨・発表①・ディスカッション
- 第19回 課題研究(4)： 要旨・発表②・ディスカッション
- 第20回 課題研究(5)： 要旨・発表③・ディスカッション
- 第21回 課題研究(6)： 要旨・発表④・ディスカッション
- 第22回 課題研究(7)： 要旨・発表⑤・ディスカッション
- 第23回 課題研究(8)： 研究テーマの絞り込み
課題研究(9)： 仮説と研究計画・研究方法の検討
- 第24回 課題研究(10)： 仮説と研究計画・研究方法の修正と再検討
- 第25回 課題研究(11)： 情報収集
- 第26回 課題研究(12)： 情報収集で明らかになったこと
- 第27回 課題研究(13)： 結果と考察
- 第28回 課題研究(14)： 反省点と新たな研究課題
- 第29回 課題研究(15)： ゼミ冊子を作成する（取り組んだ成果を文章化する）
- 第30回 課題研究(16)： おわりに（まとめ）

【授業の進め方】

【前期】

興味のある文献研究をとおして自分の意見を発表し、互いのテーマについてディスカッションしながら進める。
保育・教育者自身の考え方や実践方法を知るために聞き取り調査を行い、得られた結果から実態を考察して報告しよう。
夏休み前に自分の研究課題を提示する。

【後期】

研究テーマを明確化し、研究方法を検討して解決にむけた結果を導き出し、得られた結果をPCを用いて報告する。
卒論へのテーマを調整する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

随時、紹介していく

【参考図書】

随時、紹介していく

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

発表要旨・発表・ディスカッション (50%)

情報収集・調査への取り組み (30%)

畑作業やフィールドへの取り組み (30%)

【「成績評価の方法」に関する注意点】

取り組みとは、担当箇所以外の予習や積極的な発言など、授業への貢献度や受講態度も含む。

【履修上の心得】

次年度の卒業研究を踏まえた演習となるため、主体的かつ積極的な参加が必要となる。

科目名	ゼミナール(有馬)
	子ども理解のための教育哲学研究
	授業形態：演習
教員名	有馬 知江美

【授業の内容】

本ゼミナールでは、子どもにとって「遊戯」、「孤独」、「対話」、「芸術」、「他者」、「空間」、「身体」等がどのような意味を持っているのかを哲学的に考察し、子どもの人間形成に関わる者に不可欠である子ども理解の力を身につけ、乳幼児期の人間形成の意義を問う。また、美術館等で幼児を対象としたプログラム実践を行う。さらに、後期後半から卒業研究の内容構成を考えていくが、研究に必要な文献等を探す力と、研究したことをまとめる力を培う。

【到達目標】

1. 子どもの人間形成に関わる者に不可欠である子ども理解の力を身につける。
2. 研究に必要な文献等を探す力と、研究したことをまとめる力を身につける。
3. 他者との協働性の必要性を再確認した上で、自分の考えをまとめる力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 ゼミナールの意義
- 第2回 子ども理解のための教育哲学
- 第3回 考察する事項の選択と考察
- 第4回 研究の方法について
- 第5回 研究の方法について
- 第6回 事項についての研究の概観
- 第7回 事項についての研究
- 第8回 事項についての研究
- 第9回 事項についての研究
- 第10回 事項についての研究
- 第11回 事項についての研究
- 第12回 事項についての研究
- 第13回 事項についての研究
- 第14回 事項についての研究報告
- 第15回 まとめ
- 第16回 実践についての研究
- 第17回 実践についての研究
- 第18回 実践についての研究
- 第19回 実践についての研究
- 第20回 実践についての研究
- 第21回 実践についての研究
- 第22回 卒業研究の内容構成
- 第23回 卒業研究の内容構成
- 第24回 卒業研究の内容構成
- 第25回 卒業研究の内容構成
- 第26回 卒業研究の内容構成
- 第27回 卒業研究の内容構成
- 第28回 卒業研究の内容構成
- 第29回 卒業研究の内容構成
- 第30回 まとめ

【授業の進め方】

ゼミ開講後受講者と話し合い、上記の事項のうち1つを選択し、各事項について全員で考察する。ゼミの進め方としては、各事項に沿って文献講読やディスカッションをする。一部講義も取り入れる。さらに、その事項に関連する絵本、絵画作品、音楽作品、新聞記事、映像資料等々を探す課題においてそれらを紹介しあったり、各事項が人間形成の場でどのように扱われているかを保育現場や美術館等を見学することで理解したりする。また、美術館等で幼児を対象としたプログラム実践も試みる。後期の後半に、各自が関心を持った事項をめぐり、卒業研究に向けて内容構成を考えていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリント等を使用する。
随時文献を紹介し、また、関連資料を配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

【履修上の心得】

全回出席とする。

文献研究の際は必ず予習をしてゼミナールに臨む。

【科目のレベル、前提科目など】

保育原理Ⅱ、幼児教育論を履修していることが望ましい。

科目名	ゼミナール(益田)
	授業形態：演習
教員名	益田 勇一

【授業の内容】

前期：対話型鑑賞法、VTS（Visual Thinking Strategies）に関する文献を読む。

後期：文献講読と鑑賞教材の作成

【到達目標】

ある程度専門性の高い文献の読解力をつけること、読み取った内容を文章にまとめる力をつけること。

【授業計画】

- 第1回 ゼミナールの進め方について
- 第2回 テキスト講読
- 第3回 テキスト講読
- 第4回 テキスト講読
- 第5回 テキスト講読
- 第6回 テキスト講読
- 第7回 テキスト講読
- 第8回 テキスト講読
- 第9回 テキスト講読
- 第10回 テキスト講読
- 第11回 テキスト講読
- 第12回 テキスト講読
- 第13回 テキスト講読
- 第14回 テキスト講読
- 第15回 テキスト講読
- 第16回 レポート課題と作成の手順について
- 第17回 テキスト講読・発表
- 第18回 テキスト講読・発表
- 第19回 テキスト講読・発表
- 第20回 テキスト講読・発表
- 第21回 テキスト講読・発表
- 第22回 テキスト講読・発表
- 第23回 鑑賞教材の構想と検討
- 第24回 鑑賞教材の構想と検討
- 第25回 鑑賞教材の製作
- 第26回 鑑賞教材の製作
- 第27回 鑑賞教材の製作
- 第28回 鑑賞教材の製作
- 第29回 鑑賞教材の発表（グループ1）
- 第30回 鑑賞教材の発表（グループ2）

【授業の進め方】

前期は教員が中心にテキストの講読を行い、文献の読み方について解説する。後期は、受講生がテキストの分担箇所をまとめ、その内容を発表する。また、実際に鑑賞教材を製作する。

発表者は難解な部分を解りやすく解説できるように、わからない用語や概念について、関連する資料などを利用してよく調べておくようにする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

テキストは準備するので、購入の必要はない。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

レポートとテキスト分担箇所の発表内容による評価。

【履修上の心得】

発表者以外の受講生もあらかじめテキストを読み、疑問点や自分の考えをまとめて授業に出席すること。

科目名	ゼミナール(岡田)
	うつる病気(感染症)の理解と教育現場での予防と対策を考えて、感染症に強い教師を目指すゼミ
	授業形態: 演習
教員名	岡田 晴恵

【授業の内容】

幼稚園、保育園、小学校で流行しやすい感染症について知り、その予防や対処の方法を学びます。さらに、こどもたちへのうつる病気の理解や予防教育を実践的に進めるため、そのテキスト創りや絵本、紙芝居、カルタづくり等を行います。うつる病気をわかりやすく、楽しく教えることによって、感染症の予防教育を幼少期から身につけることは、健康を生涯にわたって守ることに通じます。

【到達目標】

正しい感染症知識を身につけその予防を実践できるようになること。またそれを分かりやすく子供に教える力、保護者に説明できる能力を身につけること。資料を読み、その要点をまとめ、説明できる能力を得る。

【授業計画】

- 第1回 ゼミナールの意味と進め方
- 第2回 感染症の歴史を学ぶ
- 第3回 感染症の歴史を学ぶ
- 第4回 古来よりの人と感染症の関りを考える
- 第5回 古来よりの人と感染症の関りを考える
- 第6回 現代、問題とされる感染症とは何かを学ぶ
- 第7回 現代社会生活における感染症流行のマイナス面とプラスの面を考える
- 第8回 現在の若い世代に特に問題な感染症を考える
- 第9回 現在の学校現場で問題となる感染症を学ぶ
- 第10回 学校現場での感染症の予防方法を考える
- 第11回 学校での生徒、学生への感染症教育を考える
- 第12回 学校での生徒、学生への感染症教育を考える
- 第13回 保護者への実践的説明方法を学ぶ
- 第14回 保護者への実践的説明方法を学ぶ
- 第15回 前期まとめ 夏の自主学習テーマを決める
- 第16回 自主学習の報告
- 第17回 子供が分かる教材づくり(絵本、紙芝居などを考える)
- 第18回 子供が分かる教材づくり(絵本、紙芝居などを考える)
- 第19回 子供が分かる教材づくり(絵本、紙芝居などを考える)
- 第20回 子供が分かる教材づくり(絵本、紙芝居などを考える)
- 第21回 子供が分かる教材づくり(実践)
- 第22回 子供が分かる教材づくり(実践)
- 第23回 子供が分かる教材づくり(実践)
- 第24回 子供が分かる教材づくり(実践)
- 第25回 感染症の予防教育テキストを作成する(保護者向け)
- 第26回 感染症の予防教育テキストを作成する(保護者向け)
- 第27回 感染症の予防教育テキストを作成する(保護者向け)
- 第28回 感染症の予防教育テキストを作成する(教員同僚への理解)
- 第29回 感染症の予防教育テキストを発表する
- 第30回 後期まとめ

【授業の進め方】

前期の前半は講義形式、後半は対話形式。
後期は自分で教材づくりをします。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

なし。必要に応じて資料を用意します。

【参考図書】

- 「人類vs感染症」 岡田晴恵 岩波ジュニア新書
- 「感染症は世界史を動かす」 岡田晴恵 ちくま新書
- 「病気の魔女と薬の魔女」 岡田晴恵 学研
- 「新型インフルエンザの学校対策」 岡田晴恵 東山書店
- 「うつる病気のひみつがわかる絵本 シリーズ」 岡田晴恵著 ポプラ社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

議論参加への積極性、課題として作成した教材（絵本、紙芝居、カルタなど）により評価します

【「成績評価の方法」に関する注意点】

積極性を重視します。

実際に絵本や紙芝居、カルタ、テキストなどの作品作成をします。

【履修上の心得】

出席を重視して、それを前提にゼミナールを進めます。

感染症について、また、予防とその教育方法について興味をもって参加することを望みます。

【科目のレベル、前提科目など】

とくに前提科目はなし。卒業研究へとつなげる。

科目名	ゼミナール(山野井)
	理科教育学
	授業形態：演習
教員名	山野井 貴浩

【授業の内容】

前期は実験授業と教科書分析を行う。実験授業は、小学校理科の実験を含む授業を全員が教師役となって行う。実験授業ではデジタル教科書の利用を推奨する。教科書分析は、各自、実験授業で担当した単元の内容に関して、複数社の教科書を調べ、出版社ごとにどのような特徴があるのかを分析する。その分析結果をゼミ内で発表するとともに、夏季休業中に、実際に出版社に訪問し、発表する予定である。後期は、小中学校理科の問題演習、子ども総合科学館で開催される科学フェスティバルへの出展準備、全国学力学習状況調査の結果についてのグループ発表、アクティブ・ラーニングに関する発表を行う。また、理科教材メーカーの方を招き、最新の理科教育機器を体験する授業も実施する。

【到達目標】

- ・小学校理科の実験を含む授業の展開方法を身に付ける。
- ・小学校理科の教科書の特徴を理解できるようになる。
- ・多くの子どもたちにとって小学校および中学校理科のどの単元の内容が理解しにくいのかを知る。
- ・中学校理科の内容を踏まえて小学校理科の内容を理解する。
- ・パワーポイントを用いたプレゼンテーションの一般的な技術を身につける。

【授業計画】

- 第1回 講義ガイダンス・自己紹介・実験授業担当の順番決め
 第2回 実験授業①
 第3回 実験授業②
 第4回 実験授業③
 第5回 実験授業④
 第6回 実験授業⑤
 第7回 実験授業⑥
 第8回 実験授業⑦
 第9回 実験授業⑧
 第10回 実験授業⑨
 第11回 実験授業⑩
 第12回 実験授業⑪
 第13回 教科書分析①
 第14回 教科書分析②
 第15回 教科書分析③（発表）
 第16回 ガイダンスとグループ分け
 第17回 小中学校理科の問題演習①
 第18回 小中学校理科の問題演習②
 第19回 小中学校理科の問題演習③
 第20回 科学フェスティバル準備①
 第21回 科学フェスティバル準備②
 第22回 科学フェスティバル準備③
 第23回 全国学力・学習状況調査 グループ活動①
 第24回 全国学力・学習状況調査 グループ活動②
 第25回 全国学力・学習状況調査 グループ活動 発表
 第26回 アクティブ・ラーニングに関する発表準備①
 第27回 アクティブ・ラーニングに関する発表準備②
 第28回 アクティブ・ラーニングに関する発表
 第29回 卒業研究のテーマの決定
 第30回 最新の理科教育教材を体験する（外部講師）

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業開始時に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 20%

特記事項

実験授業20%、教科書分析発表20%、全国学力学習状況調査発表20%、アクティブ・ラーニング発表20%

【科目のレベル、前提科目など】

山野井が担当している教養選択科目(環境科学A・環境科学B)を受講していることが望ましい。

科目名	ゼミナール(小泉)
	教育課程、教育方法、教育評価(学力評価)、学級経営の研究
	授業形態：演習
教員名	小泉 祥一

【授業の内容】

本ゼミナールのテーマは、教育課程、教育方法、教育評価(学力評価)、学級経営の研究である。

教育課程、教育方法、教育実践、教育評価(学力評価)、学級経営等、学校や教師に関する諸問題の中から、各自の関心をもとに自由に研究課題を設定し、その課題にもとづき、必要な文献・資料調査、または、学校や教育行政機関等への実態調査等を行い、その内容や結果を分析、整理し、レポートを作成し、発表するという研究方法の基礎を習得する。

コンピュータを用いて、情報やデータを収集したり、分析したりする。

その場合、今まで受けてきた教育や将来自らが行うであろう教育の諸問題について、各自が児童・生徒時代の気持ちを基礎として、多面的に考えること。

【到達目標】

- ① 文献や資料を読み込み、まとめ、発表できること
- ② 研究課題を設定し、それに必要な文献研究、または調査研究の計画が立てられること
- ③ 必要な文献や資料、データを収集できること
- ④ 収集した文献や資料、データを分析し、整理できること
- ⑤ ゼミでの議論や共同作業に自主的に参加できること
- ⑥ 研究レポートを作成し、発表できること

【授業計画】

基本的には、以下のような項目に分け、文献・資料調査、または実態調査を行い、発表し議論する。

- ① 研究方法の研究
調査の仕方、レポート・論文の書き方などに関する基本的な文献学習を行う。
- ② 研究課題の設定と研究課題に基づく調査研究作業
関心のある問題を基に研究課題を設定する。
調査研究計画を作成する。
文献・資料収集、面接調査、質問紙調査など、必要な調査を実施する。
調査資料・データを分析し、整理する。
必要に応じて学外の教育研究会や教育関係学会に参加する。
- ③ 研究レポートの作成と発表
調査研究を整理し、研究経過と研究内容をレジュメおよびレポートにまとめ、発表する。
1回のゼミで2～3名が発表します。
発表されたレポートについて、質問、意見等、気が付いたことを発言し、検討します。
- ④ 教員採用試験対策研究
教員採用試験の教職教養科目について、どのようなことが重視されているかを分析し、研究する。

なお、授業計画は、以下のとおりである。

第1回～第15回 学生自身による文献・資料調査、または実態調査を行い、レポートを作成、発表し、議論する。夏季休業中に、合宿形式で、各自の研究を発表し議論する。

第16回～第30回 学生自身による研究の遂行と討論を行う。研究内容の総括的な討論を行い、最終レポートを作成する。春季休業中に、合宿形式で、教員採用試験対策研究を行う。

【授業の進め方】

ゼミのルールとマナーをしっかり守る。

ゼミ生それぞれ役割・世話役・係を決め、分担し、協力し運営する。

全員出席を原則とする。欠席が多いと単位は認めない。

事前の準備と事後の整理・記録を重視する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業開始時に受講生の要望等を踏まえ、使用するテキストを決定する(要購入。レポート・論文の書き方、調査研究の方法に関するテキスト)

【参考図書】

文献や資料については、図書館やインターネット(CiNiiなど)などで探したり、収集したりする。

小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社

戸田山和久『新版 論文の教室』NHK出版

白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

酒井聡樹『これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版』共立出版

田尾雅夫・若林直樹編『組織調査ガイドブック』有斐閣

藤原文雄他『学校組織調査法』学事出版

佐藤郁哉『質的データ分析法』新曜社

S・B・メリアム/E・L・シンプソン著、堀薫夫監訳『調査研究法ガイドブック－教育における調査のデザインと実施・報告－』ミネルヴァ書房

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

ゼミへの出席と取り組み状況（積極的な発言・発表・提案、討論、記録、調査研究計画の提出、調査研究活動、感想・意見の小カードの提出など）、研究成果の発表と最終レポートで行う。

【履修上の心得】

ゼミナールの経験が、教員希望者のもとより、社会人にとってもきわめて重要であり、その取り組み姿勢を評価する。ゼミ生同士がお互い教え合い、助け合い、支え合い、高め合うことを期待する。

【科目のレベル、前提科目など】

関連科目として、教育方法論、教育課程論がある。教職希望の学生にとっても、官庁や企業に就職する学生にとっても、きわめて重要な内容であり、もっとも大学生らしい活動が、ゼミナールである。

【備 考】

本人の進路を中心に考えて、進路に適したゼミナールの内容にする。

科目名	ゼミナール(原口)
	授業形態：演習
教員名	原口 美貴子

【授業の内容】

小学校の社会科は、将来自立した市民として生きていくために必要な社会認識の基礎を養う教科です。この観点から本ゼミでは、以下2つの大きなテーマに基づき進めていきます。

1つは、小学校社会科の目標や内容、方法に関する本質的理解です。1・2年次に履修した「社会科概説」「社会科教育法」の学びをもとに、さらに小学校社会科を指導する上で必要な諸能力を高めるため、教員が指定する文献の精読等を通して議論や意見交換をしたり、公開授業等の見学を通して学習指導の現場を体験したりします。

もう1つは、身近な地域（郷土）認識の育成や諸能力の向上など幅広い教育的価値を持つ「郷土かるた」づくりです。単なる遊びではなく、初等教科教育及び諸活動での活用も視野に入れた教材としての郷土かるたづくりに取り組むとともに、その有効性について検証していきます。

【到達目標】

- 市民性及び社会認識育成の観点から、小学校社会科の内容や方法について本質的な理解ができています。
- 郷土かるたの幅広い教育的価値について、郷土かるたづくりを通して理解するとともに、小学校社会科をはじめとした初等教育における活用方法を考案し、その有効性について検証することができる。

【授業計画】

- 第1回 授業内容と授業計画の説明
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は2時間以上
- 第2回 小学校社会科の内容と方法①
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は2時間以上
- 第3回 小学校社会科の内容と方法②
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は2時間以上
- 第4回 小学校社会科の内容と方法③
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は2時間以上
- 第5回 小学校社会科の内容と方法④
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は2時間以上
- 第6回 小学校社会科の内容と方法⑤
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は2時間以上
- 第7回 小学校社会科の内容と方法⑥
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は2時間以上
- 第8回 小学校社会科の内容と方法⑦
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は2時間以上
- 第9回 小学校社会科の内容と方法⑧
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は2時間以上
- 第10回 小学校社会科の内容と方法⑨
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は2時間以上
- 第11回 小学校社会科の内容と方法⑩
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は2時間以上
- 第12回 小学校社会科の内容と方法⑪
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は2時間以上
- 第13回 小学校社会科の内容と方法⑫
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は2時間以上
- 第14回 小学校社会科の内容と方法⑬
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は2時間以上
- 第15回 前期のまとめと後期に向けて
学習課題は前期の復習と後期に向けた準備、時間は任意
- 第16回 郷土かるたの教材化①
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は任意
- 第17回 郷土かるたの教材化②
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は任意
- 第18回 郷土かるたの教材化③
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は任意
- 第19回 郷土かるたの教材化④
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は任意
- 第20回 郷土かるたの教材化⑤
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は任意

- 第21回 郷土かるたの教材化⑥
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は任意
- 第22回 郷土かるたの教材化⑦
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は任意
- 第23回 郷土かるたの教材化⑧
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は任意
- 第24回 郷土かるたの教材化⑨
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は任意
- 第25回 郷土かるたの教材化⑩
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は任意
- 第26回 郷土かるたの教材化⑪
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は任意
- 第27回 郷土かるたの教材化⑫
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は任意
- 第28回 郷土かるたの教材化⑬
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は任意
- 第29回 郷土かるたの教材化⑭
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は任意
- 第30回 後期のまとめと次期に向けて
学習課題は全回の復習と次期に向けた研究準備、時間は任意

【授業の進め方】

- 前期（第1回～第15回）の授業では、市民性及び基礎的な社会認識の育成を目指す小学校社会科の内容や方法に関する文献を講読し、その発表や議論、意見交換を行います。
- 後期（第16回～第30回）の授業では、小学校社会科を軸とした初等教科教育及び諸活動における「郷土かるた」作りにフィールドワークを取り入れながら取り組みます。完成後は教材としての活用方法を考えたり、郷土かるたの有効性について検証したりします。
- 通年随時、公開研究会やフィールドワーク等の課外活動への参加を課します。
- 各回の具体的な学習課題は随時授業で提示します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①『小学校社会科学習指導要領解説社会編（平成20年）』 ②文部科学省 ③東洋館出版社 ④2015年10月 ⑤208円（税込） ⑥9784491031606
- ①『この一冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』 ②石黒圭 ③日本実業出版社 ④2012年 ⑤1,512円(税込) ⑥9784534049278

- 上記外の教科書は開講時に指示します。
- その他適宜プリント（レジュメ・資料）を用意します。

【参考図書】

『新版社会科教育事典』平成24年 日本社会科教育学会 きょうせい

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

- レポート・課題とは、文献発表レジュメと、各種課題レポートです。
- 受講態度は、授業への主体的・積極的な姿勢を評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ゼミは休まず全回出席できるよう体調やスケジュール管理に努めてください。やむを得ず欠席する場合は事前に必ず連絡をしてください（無断欠席厳禁）。また、各種実習参加で欠席する場合は前もって欠席届を出して下さい。
- 授業分析や討論など演習的な活動を進めていきますので遅刻は厳禁です。ゼミ仲間と協力して深い学びができるよう授業に臨んで下さい。
- ゼミのテーマや自身に関心のある内容に関する書籍文献を主体的・積極的に探して読んでください。
- 各種課題の提出期限は守って下さい。期限を守らない場合は原則受け取りませんので評価の対象外です。なお、発表や記述内容が極端に少なかったり、筆記が薄くて読みづらかったり、他者の書いたものの写しが疑われたりする場合も評価の対象外とします。

【履修上の心得】

- 授業で配布したプリント類は適切にファイリングし、教科書類と合わせて毎回必ず持ってきて下さい。
- 新聞・メディアに日常的に目を通し、教育に関わる者の視点から社会的事象に対する関心と問題意識を持って下さ

い。

○ゼミ内容に関する情報は、書籍、文献、資料、ネット等を適宜組み合わせて適切に収集して下さい（ネットばかりに安易に頼らないこと）。

【科目のレベル、前提科目など】

小学校社会科に関する演習的な内容が多いので、「社会科概説Ⅰ」及び「社会科教育法」履修者が望ましい。

科目名	ゼミナール(森本)
	算数の授業とカリキュラムの研究への誘い
教員名	森本 明

【授業の内容】

ゼミナールのテーマは『算数の授業とカリキュラムの研究への誘い』です。算数の授業とカリキュラムの理論と実践に必要な教師の基礎的・基本的な資質・能力を、ア) 文献の講読、イ) 授業過程の観察と記録、ウ) 授業過程の構想と実践 の作業や議論の協同的な活動を通して、身に付けます。

【到達目標】

次に掲げる基礎的・基本的な資質・能力を、学生が作業や議論の協同的な活動を通して、身に付けることが到達目標です。

1. 算数の授業とカリキュラムの理論と実践を、算数の立場から捉える眼を、文献の購読を通して身に付けます。
2. 算数の授業とカリキュラムの理論と実践を、子どもの学びの事実から捉える眼を、授業過程の観察と記録を通して身に付けます。
3. 算数の授業とカリキュラムの理論と実践を、教師の役割から捉える眼を、授業過程の構想と実践を通して身に付けます。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
授業の到達目標及びテーマを明らかにし、今後の学習を見通した明確な問題意識を持つことができる。
- 第2回 算数教育研究の文献とその検索
算数教育研究の文献を知るとともに検索の仕方を知る
- 第3回 基本文献の講読：算数的活動
算数の立場から算数の授業とカリキュラムの理論と実践を深めることができる（その1）
- 第4回 基本文献の講読：算数的活動
算数の立場から算数の授業とカリキュラムの理論と実践を深めることができる（その2）
- 第5回 基本文献の講読：「数と計算」
算数の立場から算数の授業とカリキュラムの理論と実践を深めることができる（その1）
- 第6回 基本文献の講読：「数と計算」
算数の立場から算数の授業とカリキュラムの理論と実践を深めることができる（その2）
- 第7回 基本文献の講読：「量と測定」
算数の立場から算数の授業とカリキュラムの理論と実践を深めることができる（その1）
- 第8回 基本文献の講読：「量と測定」
算数の立場から算数の授業とカリキュラムの理論と実践を深めることができる（その2）
- 第9回 基本文献の講読：「図形」
算数の立場から算数の授業とカリキュラムの理論と実践を深めることができる（その1）
- 第10回 基本文献の講読：「図形」
算数の立場から算数の授業とカリキュラムの理論と実践を深めることができる（その2）
- 第11回 基本文献の講読：「数量関係」
算数の立場から算数の授業とカリキュラムの理論と実践を深めることができる（その1）
- 第12回 基本文献の講読：「数量関係」
算数の立場から算数の授業とカリキュラムの理論と実践を深めることができる（その2）
- 第13回 低学年の算数の授業とカリキュラム：
子どもの学びの事実から算数の授業とカリキュラムの理論と実践を深めることができる（その1）
- 第14回 低学年の算数の授業とカリキュラム：
子どもの学びの事実から算数の授業とカリキュラムの理論と実践を深めることができる（その2）
- 第15回 中学年の算数の授業とカリキュラム：
子どもの学びの事実から算数の授業とカリキュラムの理論と実践を深めることができる（その1）
- 第16回 中学年の算数の授業とカリキュラム：
子どもの学びの事実から算数の授業とカリキュラムの理論と実践を深めることができる（その2）
- 第17回 高学年の算数の授業の観察と記録：
子どもの学びの事実から算数の授業とカリキュラムの理論と実践を深めることができる（その1）
- 第18回 高学年の算数の授業の観察と記録：
子どもの学びの事実から算数の授業とカリキュラムの理論と実践を深めることができる（その2）
- 第19回 高学年の算数の授業の観察と記録：
子どもの学びの事実から算数の授業とカリキュラムの理論と実践を深めることができる（その3）
- 第20回 低学年の算数の授業過程の構想と実践：
模擬実践の構想と実践から算数の授業とカリキュラムの理論と実践を深めることができる（その1）
- 第21回 低学年の算数の授業過程の構想と実践：
模擬実践の構想と実践から算数の授業とカリキュラムの理論と実践を深めることができる（その2）

- 第22回 低学年の算数の授業過程の構想と実践：
模擬実践の構想と実践から算数の授業とカリキュラムの理論と実践を深めることができる（その3）
- 第23回 中学年の算数の授業過程の構想と実践：
模擬実践の構想と実践から算数の授業とカリキュラムの理論と実践を深めることができる（その1）
- 第24回 中学年の算数の授業過程の構想と実践：
模擬実践の構想と実践から算数の授業とカリキュラムの理論と実践を深めることができる（その2）
- 第25回 中学年の授業過程の構想と実践：
模擬実践の構想と実践から算数の授業とカリキュラムの理論と実践を深めることができる（その3）
- 第26回 高学年の算数の授業過程の構想と実践：
模擬実践の構想と実践から算数の授業とカリキュラムの理論と実践を深めることができる（その1）
- 第27回 高学年の算数の授業過程の構想と実践：
模擬実践の構想と実践から算数の授業とカリキュラムの理論と実践を深めることができる（その2）
- 第28回 高学年の算数の授業過程の構想と実践：
模擬実践の構想と実践から算数の授業とカリキュラムの理論と実践を深めることができる（その3）
- 第29回 ゼミナールの成果と今後の課題の明確化：
自らの学習を振り返り、その成果と課題を言語化することができる（その1）
- 第30回 ゼミナールの成果と今後の課題の明確化：
自らの学習を振り返り、その成果と課題を言語化することができる（その2）

【授業の進め方】

作業や議論の協同的な活動を通して学びます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業中に適宜紹介します。

【参考図書】

授業中に適宜紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 10% 授業内小試験 10% レポート・課題 30% 受講態度 50%

特記事項

評価の条件は授業回数の2/3以上出席していることです。

その上で、定期試験、受講態度、レポート・課題、授業内小テストにより評価します；

- ・前期は定期試験、後期は授業内小試験の評価(「定式試験」10%「授業内小試験」10%)
- ・毎回の作業や議論の協同活動への参画状況および貢献度(「受講態度」50%)
- ・振り返り言語化された報告の評価(「レポート・課題」30%)

科目名	ゼミナール(荒川)
	命を守る教育学
教員名	荒川 麻里

【授業の内容】

卒業論文に向けて中間論文を作成することを通して、教育学研究の方法と論理的表現について学びます。

【到達目標】

- ①論理的な思考と表現力を身につける。
- ②自らの関心にに基づき探究することができる。
- ③教育学の調査研究の方法を身につける。

【授業計画】

- 第1回 自分自身を知る
- 第2回 問題意識を共有する①
- 第3回 問題意識を共有する②
- 第4回 問題意識を共有する③
- 第5回 問題意識を共有する④
- 第6回 問題意識を共有する⑤
- 第7回 問題意識を共有する⑥
- 第8回 問題の所在に関するデータ収集①
- 第9回 問題の所在に関するデータ収集②
- 第10回 問題の所在に関するデータ収集③
- 第11回 問題の所在に関するデータ収集④
- 第12回 問題の所在に関するデータ収集⑤
- 第13回 問題の所在に関するデータ収集⑥
- 第14回 テーマに関する研究成果発表①
- 第15回 テーマに関する研究成果発表②
- 第16回 テーマに関する研究成果発表③
- 第17回 テーマに関する研究成果発表④
- 第18回 テーマに関する研究成果発表⑤
- 第19回 テーマに関する研究成果発表⑥
- 第20回 文献一覧の作成と検討①
- 第21回 文献一覧の作成と検討②
- 第22回 文献一覧の作成と検討③
- 第23回 中間発表会①
- 第24回 中間発表会②
- 第25回 中間発表会③
- 第26回 論文の完成①
- 第27回 論文の完成②
- 第28回 論文の完成③
- 第29回 口述審査①
- 第30回 口述審査②

【教科書(必ず購入すべきもの)】

適宜、指示します。

【参考図書】

テーマに沿って適宜、指示します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 100% 受講態度 0%

特記事項

執筆途中の複数回の発表および完成した中間論文と、それに基づく口述審査により評価します。

【履修上の心得】

研究は自分自身と向き合う作業です。研究が進むほどに自分や仲間の素晴らしさに気づくはずですが、

研究成果をまとめて、世界に向けて発信しましょう。

履修生と相談の上、ゼミ合宿を行う予定です。

2月に行われる4年生の卒業論文発表会への出席を求めます。

科目名	ゼミナール(山本良)
	発達心理学
教員名	山本 良子

【授業の内容】

前期では、発達心理学について書かれた1冊の本を読むことを通して、人の発達について広く理解することを目指します。

テキストを読み通していくことで、各自で、どの発達段階の、どういう事柄に関心があるのかを探ってもらい、それが次年度の卒論研究につなげていけるかどうかを共に考えていきたいと思います。

後期では、発達心理学に関する研究論文の講読を通して、研究を行う際および論文を執筆する際に必要となる知識(研究計画の立て方や研究方法、分析方法、考察の深め方および論文の形式や発表の仕方など)を学んでいきます。

【到達目標】

- ・文献を読み、その内容を理解できるようになる
- ・発達心理学について、いずれの発達段階についても基礎的な知識を得る
- ・研究論文の構成について理解する
- ・研究方法や分析方法について理解する
- ・分かりやすく効果的な発表ができるようになる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 発達心理学について
- 第3回 レジューメの作成方法および発表方法について
- 第4回 文献講読および討議①
- 第5回 文献講読および討議②
- 第6回 文献講読および討議③
- 第7回 文献講読および討議④
- 第8回 文献講読および討議⑤
- 第9回 文献講読および討議⑥
- 第10回 文献講読および討議⑦
- 第11回 文献講読および討議⑧
- 第12回 文献講読および討議⑨
- 第13回 文献講読および討議⑩
- 第14回 文献講読および討議⑪
- 第15回 前期のまとめ
- 第16回 研究計画の立て方、研究方法および分析方法について
- 第17回 研究論文の形式および発表の仕方について
- 第18回 文献講読および討議⑫
- 第19回 文献講読および討議⑬
- 第20回 文献講読および討議⑭
- 第21回 文献講読および討議⑮
- 第22回 文献講読および討議⑯
- 第23回 文献講読および討議⑰
- 第24回 文献講読および討議⑱
- 第25回 文献講読および討議⑲
- 第26回 文献講読および討議⑳
- 第27回 文献講読および討議㉑
- 第28回 文献講読および討議㉒
- 第29回 卒業研究に向けての研究テーマの絞り込み
- 第30回 後期のまとめ

【授業の進め方】

前期・後期ともに、ゼミ生の発表が中心となります。発表担当者は、文献の概要についてレジューメを作成、発表し、その後、ゼミ生全員で討議を行います。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①発達心理学 ②無藤隆・久保ゆかり・遠藤利彦 ③岩波書店 ④1995年5月10日 ⑤3000円 ⑥9784000039222

初回授業時に詳細についてお話しします。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

授業は発表と討議が中心となるため、発表内容(作成したレジュメの完成度、発表方法など)と、討議への積極的な姿勢など受講態度を特に重視します。

【科目のレベル、前提科目など】

心理学について基礎的な知識と発達心理学に関心があることが好ましい

科目名	ゼミナール(和田)
	(衣生活)
教員名	和田 早苗

【授業の内容】

1. 衣生活を様々な面から捉え、ディスカッションを行う。
2. 小学校の家庭科の教材となるもの、生活を豊かにするものなどを作成する。
3. 各自で興味のあるテーマを選び、資料を収集し、研究を行う。

【到達目標】

- ・衣生活について、物質の面から理解を深めることができる。
- ・人の心と結びつく部分として、人と衣服とのかかわりについて自分なりに考察することができる。
- ・目的を持って自分なりに工夫した手芸品の製作を行うことができる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス レポートに関する調査を行う (30分)。
 第2回 衣服とは? 調査レポートを作成する (60分)。
 第3回 衣生活文化・服飾表現を考える (1) 取り上げた内容について実生活の中で考える (30分)。
 第4回 衣生活文化・服飾表現を考える (2) 取り上げた内容について実生活の中で考える (30分)。
 第5回 衣生活文化・服飾表現を考える (3) 取り上げた内容について実生活の中で考える (30分)。
 第6回 衣生活文化・服飾表現を考える (4) 取り上げた内容について実生活の中で考える (30分)。
 第7回 素材の面から衣服を考える (1) 取り上げた内容について実生活の中で考える (30分)。
 第8回 素材の面から衣服を考える (2) 取り上げた内容について実生活の中で考える (30分)。
 第9回 素材の面から衣服を考える (3) 取り上げた内容について実生活の中で考える (30分)。
 第10回 素材の面から衣服を考える (4) 取り上げた内容について実生活の中で考える (30分)。
 第11回 衣服の着方を考える (1) 取り上げた内容について実生活の中で考える (30分)。
 第12回 衣服の着方を考える (2) 取り上げた内容について実生活の中で考える (30分)。
 第13回 衣服の着方を考える (3) 取り上げた内容について実生活の中で考える (30分)。
 第14回 衣服の着方を考える (4) 取り上げた内容について実生活の中で考える (30分)。
 第15回 研究テーマの設定、前期のまとめ 研究テーマについて考えておく (60分)。
 第16回 夏期休暇中の研究成果発表 研究成果発表の準備をする (60分)。
 第17回 文献紹介 (1) 資料を収集し、報告資料を作成する (60分)。
 第18回 文献紹介 (2) 資料を収集し、報告資料を作成する (60分)。
 第19回 文献紹介 (3) 資料を収集し、報告資料を作成する (60分)。
 第20回 手芸品の製作 (1) 作成するものを考えておく (30分)。
 第21回 手芸品の製作 (2) 製作の記録を作成する (30分)。
 第22回 手芸品の製作 (3)、作品中間発表会 製作の記録を作成し、発表の準備をする (45分)。
 第23回 手芸品の製作 (4) 製作の記録を作成する (30分)。
 第24回 手芸品の製作 (5) 製作の記録を作成する (30分)。
 第25回 作品発表会 発表の準備をする (30分)。
 第26回 各自で設定したテーマについての研究報告 (1) 研究テーマを設定し、情報を収集する (60分)。
 第27回 各自で設定したテーマについての研究報告 (2) 報告資料を作成する (60分)。
 第28回 各自で設定したテーマについての研究報告 (3) 報告資料を作成する (60分)。
 第29回 各自で設定したテーマについての研究報告 (4) 報告資料を作成する (60分)。
 第30回 まとめ 助言をもとに研究内容を検討する (60分)。

【授業の進め方】

前期は主に講義形式で、内容についてのディスカッションをしながら授業を進める。また、簡単な実験も行う。後期は、各自で目的を持って手芸品を作成し、興味のあるテーマについて研究を進めていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

指定しない。

【参考図書】

授業の中で紹介する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

- ・レポート・課題50%：作品および製作記録：20%、レポート30%
- ・受講態度は、課題への取り組みや発言などを評価する。

【履修上の心得】

学ぶことに対して主体的であり、積極的に取り組むことを望む。

科目名	ゼミナール(清水)
教員名	清水 浩

【授業の内容】

特別支援教育に関わるテーマを一人ひとりが興味・関心に従って決定し、文献購読、事例研究、保育・教育現場での実践的研究、討論を通して、掘り下げていくことを課題とする。併せて、論文作成の基礎となる文章作成及び情報リテラシー能力を高めるために、先行研究や文献、インターネット等から情報を収集し、自らの興味・関心の探索と問題意識の形成を図る。以上のことを通して、特別支援教育における諸課題や様々な障害について理解し、障害のある幼児及び児童生徒への具体的な支援の方法について学び、主体的に研究・実践を進める力を身に付ける。

【到達目標】

- ・卒業論文につながる研究テーマを決定し、主体的に情報を収集しまとめる力を身に付ける。
- ・子ども一人ひとりの特性に合わせた指導や支援について主体的に決定するための基礎的な力を身に付ける。
- ・有機的に連携、協力し、役割分担をしながら課題を決定していく力を身に付ける。
- ・特別支援教育における諸課題について主体的に学び、また、発表を重ねることにより、学術的な資質や態度を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
特別支援に対する各自の興味・関心についての発表
- 第2回 特別支援教育の現状と課題①（保育園、幼稚園等）
- 第3回 特別支援教育の現状と課題②（小学校、中学校）
- 第4回 特別支援教育の現状と課題③（特別支援学校）
- 第5回 特別支援教育の現状と課題④（特別支援学校）
- 第6回 特別支援教育の現状と課題⑤（卒業後支援）
- 第7回 特別支援教育指導法研究①
- 第8回 特別支援教育指導法研究②
- 第9回 特別支援教育指導法研究③
- 第10回 特別支援教育指導法研究④
- 第11回 事例に基づく実践研究紹介と討論①
- 第12回 事例に基づく実践研究紹介と討論②
- 第13回 事例に基づく実践研究紹介と討論③
- 第14回 事例に基づく実践研究紹介と討論④
- 第15回 各自の興味・関心について発表・討論①
- 第16回 各自の興味・関心について発表・討論②
- 第17回 資料収集の方法について
- 第18回 資料収集の演習と討論①
- 第19回 資料収集の演習と討論②
- 第20回 資料収集の演習と討論③
- 第21回 資料収集の演習と討論④
- 第22回 各自の興味・関心について発表・討論③
- 第23回 各自の興味・関心について発表・討論④
- 第24回 研究課題の決定
- 第25回 研究の進捗状況の発表と討論①
- 第26回 研究の進捗状況の発表と討論②
- 第27回 研究の進捗状況の発表と討論③
- 第28回 研究の進捗状況の発表と討論④
- 第29回 研究発表①
- 第30回 研究発表②

第2回目以降は、毎回1週間の研究活動を報告し次週の活動計画を決める。

同時に、以下に示すような基礎を実践的に学ぶ。

- ・各種発達検査やチェックリストを用いたアセスメント
- ・個別の支援計画に基づく指導案の作成
- ・指導の振り返りと、計画の修正／改善

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ・それぞれのテーマに合わせて、資料や文献等を入手する。

【参考図書】

- ・柘植雅義(2013)特別支援教育 多様なニーズへの挑戦、中公新書

・梅永雄二、島田博祐(2015)障害児者の教育と生涯発達支援、北樹出版

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 60%

特記事項

①具体的な評価方法

・毎週の進捗状況の報告と、その内容に基づいた討論等が中心となるため、報告の内容・発表、討論への参加状況により評価する。

②評価方法の比率

・レポート及び課題（報告）＝40%

・受講態度（平常点及び討論への参加）＝60%

科目名	ゼミナール(金井)
教員名	金井 正

【授業の内容】

現在の日本は、知識基盤社会の中、グローバル化、少子・高齢化が進み、多くの解決すべき課題を教育に求めている。

教育は、生涯にわたり学び続ける人々を教え、育てるものであるが、学校教育は大きな柱と考える。

学校教育を背負う教員として必要な、基礎的資質・能力とは何か。そして、学校現場で教員として活躍し、中堅教員(10年後を想定)として自信と誇りをもって頼られる存在になるための方法を学ぶ。現在の学校現場での必要な教員になるためには、過去の教育の方法や内容を知り、現在の教育を展開するための力を身に付け、将来の教育を想定して、学び続けることが必要である。また、過去から将来までをつら貫く、しっかりとした理念を持つことが大切である。本ゼミでは、これらの課題を明確にし、自ら解決していこうとする中で学び考えることのできる教員の育成を目指す。

【到達目標】

- ・学校現場で、即戦力となる教員としての資質・能力を付ける。
- 特に、学習者が課題を発見し解決に向けて主体的・協動的に学んでいくための方法を体得する。
- ・教員として10年後を想定し、自信と誇りをもって頼られる存在になるための学びの方法を身に付ける。

【授業計画】

第1回 テーマ 1 : 「人格の完成」をめざす教育とはどうあるべきか。

- 1) 学習指導要領から
 - ・「知、徳、体」の調和と人格の関連について
 - ・「生きる力」と人格の関連について
 - ・学習課題(予習・復習): 配布した資料、ディスカッションを基に授業ノートを充実させること。

第2回 2) 協議・討論
前時についての課題や疑問 → 協議・討論 → 次時の課題

第3回 3) 協議・討論

第4回 4) 協議・討論

テーマ1について自分の考えをまとめる。

第5回 5) テーマ1についての総括

各自の発表と質疑応答

第6回 テーマ2: 教師に求められる「教育観」「指導観」とはどうあるべきか。

- 1) 指導と支援
 - ・教え、育てるとは
 - ・発達課題について

第7回 2) 協議・討論

第8回 3) 協議・討論

第9回 4) 協議・討論

テーマ2について自分の考えをまとめる。

第10回 5) テーマ2についての総括

各自の発表と質疑応答

第11回 テーマ3: 学校教育で目指す「学力」とは何か。

- 1) 学力観の変遷

第12回 2) 協議・討論

第13回 3) 協議・討論

第14回 4) 協議・討論

テーマ3について自分の考えをまとめる。

第15回 5) テーマ3についての総括

各自の発表と質疑応答

第16回 テーマ4: 個別指導と集団指導の方法原理

- 1) 個と集団の関わり

第17回 2) 協議・討論

第18回 3) 協議・討論

第19回 4) 協議・討論

テーマ4について自分の考えをまとめる。

第20回 5) テーマ4についての総括

各自の発表と質疑応答

第21回 テーマ5: 学級経営と学校経営

- 1) 学級経営と学校経営の内容と方法

第22回 2) 協議・討論

- 第23回 3) 協議・討論
- 第24回 4) 協議・討論
テーマ5について自分の考えをまとめる。
- 第25回 5) テーマ5についての総括
各自の発表と質疑応答
- 第26回 テーマ6：ゼミ生の質問や要望に応じたテーマ
特に、これからの時代の教員に求められる資質能力として、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善について、具体例を基にディスカッションする。
- 第27回 テーマ7：ゼミ生の質問や要望に応じたテーマ
- 第28回 発表会1
教員として在り方について発表
- 第29回 発表会2
教員として在り方について発表
- 第30回 まとめ
・学校現場で、即戦力となる教員としての資質・能力
・教員として10年後を想定し、自信と誇りをもって頼られる存在になるための学びの方法

【授業の進め方】

- ・輪番で司会者、記録者を立て、全員参加のディスカッション形式で進める。
- ・授業ノートを作成し、充実に努める。
- ・各テーマに5コマ程度の時間をかけてディスカッションする。
- ・各テーマの第1時には、課題を提示し導入としたり、学生自らの課題を提示する。第2時からは前時の討論における疑問点や課題等について各自が調査、研究し臨むこと。
- ・個別テーマ終了(総括)毎にレポートを提出し、それに基づく質疑応答を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①小学校学習指導要領 ②文部科学省 ③東京書籍 ④平成20年 ⑤227 ⑥ISBN978-4-487-28695-9
- ①小学校学習指導要領解説 総則編 ②文部科学省 ③東洋館出版社 ④平成20年 ⑤108 ⑥ISBN978-4-494-02370-0
- ①生徒指導提要 ②文部科学省 ③教育図書 ④平成22年 ⑤276 ⑥ISBN978-4-87730-274-0
- ①中学校学習指導要領 ②文部科学省 ③東山書房 ④平成22年一部改正 ⑤307 ⑥ISBN978-4-8278-1540-5

- ・各テーマ毎に導入のレジュメを配布する。
- ・授業ノートを充実させ、ディスカッションの経過を記録し、深い学びに結びつける。

【参考図書】

その都度紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

- ・レポート等の提出と参加態度を重視する。

【備考】

- ・将来教員として、学校現場で子どもたちのために努力する者の参加を望む。

科目名	ゼミナール(浅田)
教員名	浅田 晃佑

【授業の内容】

発達心理学をテーマにゼミナールを行う。「子どもの発達を心理学で理解する」ための知識・方法を、文献研究に基づく発表、心理検査（知能検査・発達検査）を用いた実習などを通して学ぶ。また、定型発達・非定型発達両方について学ぶ。

【到達目標】

- ・過去の文献研究や実習を通して、卒業論文の研究テーマを決定する。
- ・子どもの発達を捉える様々な視点を身に着ける。
- ・学生同士がお互い意見を伝えあい、チームとして連携していく力を身に着ける。

【授業計画】

- 第1回 講義ガイダンス・自己紹介・文献研究発表の順番決め
- 第2回 発表方法についての解説
復習：以降の自分の発表に役立てられるよう、発表の方法について学んだことを復習する（30分）
- 第3回 文献研究発表①
予習：自分の興味のあるテーマを探し、他の学生に分かりやすく説明できる資料作成をする（60分）
- 第4回 文献研究発表②
予習：自分の興味のあるテーマを探し、他の学生に分かりやすく説明できる資料作成をする（60分）
- 第5回 文献研究発表③
予習：自分の興味のあるテーマを探し、他の学生に分かりやすく説明できる資料作成をする（60分）
- 第6回 文献研究発表④
予習：自分の興味のあるテーマを探し、他の学生に分かりやすく説明できる資料作成をする（60分）
- 第7回 文献研究発表⑤
予習：自分の興味のあるテーマを探し、他の学生に分かりやすく説明できる資料作成をする（60分）
- 第8回 文献研究発表⑥
予習：自分の興味のあるテーマを探し、他の学生に分かりやすく説明できる資料作成をする（60分）
- 第9回 心理検査実習①新版K式発達検査2001
予習：新版K式発達検査2001の手続きについて学び、実際に実施できるようにする（60分）
- 第10回 心理検査実習②新版K式発達検査2001
予習：新版K式発達検査2001の手続きについて学び、実際に実施できるようにする（60分）
- 第11回 心理検査実習③新版K式発達検査2001
予習：新版K式発達検査2001の手続きについて学び、実際に実施できるようにする（60分）
- 第12回 心理検査実習④WISC-IV
予習：WISC-IVの手続きについて学び、実際に実施できるようにする（60分）
- 第13回 心理検査実習⑤WISC-IV
予習：WISC-IVの手続きについて学び、実際に実施できるようにする（60分）
- 第14回 心理検査実習⑥WISC-IV
予習：WISC-IVの手続きについて学び、実際に実施できるようにする（60分）
- 第15回 研究方法についての紹介と討論①
復習：実際に自分の研究計画に使用できるように学んだことを復習する（30分）
- 第16回 研究方法についての紹介と討論②
復習：実際に自分の研究計画に使用できるように学んだことを復習する（30分）
- 第17回 研究計画発表①
予習：各自が興味を持ったテーマに基づき、先行研究を踏まえた研究計画の発表資料を作成する（60分）
- 第18回 研究計画発表②
予習：各自が興味を持ったテーマに基づき、先行研究を踏まえた研究計画の発表資料を作成する（60分）
- 第19回 研究計画発表③
予習：各自が興味を持ったテーマに基づき、先行研究を踏まえた研究計画の発表資料を作成する（60分）
- 第20回 研究計画発表④
予習：各自が興味を持ったテーマに基づき、先行研究を踏まえた研究計画の発表資料を作成する（60分）
- 第21回 研究計画発表⑤
予習：各自が興味を持ったテーマに基づき、先行研究を踏まえた研究計画の発表資料を作成する（60分）
- 第22回 研究計画発表⑥
予習：各自が興味を持ったテーマに基づき、先行研究を踏まえた研究計画の発表資料を作成する（60分）
- 第23回 研究計画に関する討論
復習：各自の研究計画について振り返り、修正を加える（60分）

- 第24回 研究成果発表①
予習：実際にデータ収集・分析などの研究を行い、それをまとめた発表資料を作成する（60分）
- 第25回 研究成果発表②
予習：実際にデータ収集・分析などの研究を行い、それをまとめた発表資料を作成する（60分）
- 第26回 研究成果発表③
予習：実際にデータ収集・分析などの研究を行い、それをまとめた発表資料を作成する（60分）
- 第27回 研究成果発表④
予習：実際にデータ収集・分析などの研究を行い、それをまとめた発表資料を作成する（60分）
- 第28回 研究成果発表⑤
予習：実際にデータ収集・分析などの研究を行い、それをまとめた発表資料を作成する（60分）
- 第29回 研究成果発表⑥
予習：実際にデータ収集・分析などの研究を行い、それをまとめた発表資料を作成する（60分）
- 第30回 研究成果に関する討論
復習：各自の研究の進捗状況について振り返り、卒業論文に向けての計画を立案する（60分）

【授業の進め方】

学生の発表を中心に、授業を進める。また、適宜、研究法や心理検査についての指導を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

各自の研究テーマに合わせて指示する。

【参考図書】

各自の研究テーマに合わせて指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 100% 受講態度 0%

科目名	ゼミナール(伊勢)
教員名	伊勢 正明

【授業の内容】

特別支援教育とその周辺領域に関わるテーマを一人一人が興味・関心に従って決定し、文献購読、事例研究、保育・教育現場での実践的研究、討論、等を通して掘り下げていくことが課題である。主体的に探求する力を身につけることを目指している。

【到達目標】

- ・卒業論文につながる研究テーマを決定し、主体的に情報を収集し、まとめ、安定的に得られたまとめを表現及び説明をすることができる。
- ・子ども一人一人の特性を把握し、その特性に応じた指導や支援について主体的に決定するために必要な基礎的な知識・技能を身につけている。
- ・メンバー間で有機的に連携して課題を解決していくプロセスを体験し、保育・教育現場における協調性や同僚性のある行為を説明することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 第2回 事例に基づく実践研究紹介と討論（第1回目）
 第3回 事例に基づく実践研究紹介と討論（第2回目）
 第4回 事例に基づく実践研究紹介と討論（第3回目）
 第5回 事例に基づく実践研究紹介と討論（第4回目）
 第6回 特別支援教育におけるアセスメント（第1回目）
 第7回 特別支援教育におけるアセスメント（第2回目）
 第8回 特別支援教育におけるアセスメント（第3回目）
 第9回 特別支援教育におけるアセスメント（第4回目）
 第10回 特別支援教育におけるアセスメントのまとめと討論
 第11回 アセスメントに基づく支援計画の立案（第1回目）
 第12回 アセスメントに基づく支援計画の立案（第2回目）
 第13回 アセスメントに基づく支援計画の立案（第3回目）
 第14回 アセスメントに基づく支援計画の立案（第4回目）
 第15回 各自の興味・関心についての発表と討論（第1回目）
 第16回 各自の興味・関心についての発表と討論（第2回目）
 第17回 資料収集の方法について
 第18回 アセスメント・資料収集の演習と討論（第1回目）
 第19回 アセスメント・資料収集の演習と討論（第2回目）
 第20回 アセスメント・資料収集の演習と討論（第3回目）
 第21回 アセスメント・資料収集の演習と討論（第4回目）
 第22回 各自の興味・関心についての発表と討論（第3回目）
 第23回 各自の興味・関心についての発表と討論（第4回目）
 第24回 研究課題の決定
 第25回 研究の進捗状況の発表と討論（第1回目）
 第26回 研究の進捗状況の発表と討論（第2回目）
 第27回 研究の進捗状況の発表と討論（第3回目）
 第28回 研究の進捗状況の発表と討論（第4回目）
 第29回 研究成果報告（第1回目）
 第30回 研究成果報告（第2回目）

それぞれの単元が4回構成としているのは、各回での報告者を3名程度と設定しているためである。

なお、第15回、第16回、第22回、第23回、第29回、第30回については、報告者を6名程度で運用することとする。

【授業の進め方】

第2回目以降は、毎回1週間の研究活動を報告し、次週の活動計画を決める。

同時に、以下に示すようなスキルの基礎を実践的に学ぶ。

- ・各種発達検査やチェックリストを用いたアセスメント
- ・アセスメントに基づく、個別支援計画の立案
- ・個別の支援計画に基づく指導案の作成
- ・指導内容の振り返りと計画の修正及び改善

【教科書(必ず購入すべきもの)】

それぞれのテーマに合わせて、資料や文献等を入手する。

【参考図書】

随時、紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 100% 受講態度 0%

特記事項

毎週の進捗状況の報告と、その内容に基づいた討論等が中心的な学修活動になるため、報告の内容とその発表の様子、討論への参加状況等により評価を行う。

【履修上の心得】

自らが決めた行動目標に基づく学修活動を期待します。

科目名	ゼミナール(齋藤)
	美術表現のための造形素材・教材とアートコミュニケーション研究
教員名	齋藤 千明

【授業の内容】

造形美術表現のための素材・技法研究と美術鑑賞の実践を重ね、その創作活動を通して各自のテーマを選択し研究を進めて行く。

積極的に美術館に足を運びギャラリートークやワークショップに参加することにより造形表現の多様性を把握し鑑賞能力を身につけることで子どもの創作、造形活動を読み解く力と教育者、指導者としての視点を持てるようにする。

【到達目標】

学生自ら造形表現技術を主体的に学び身につけることで社会生活に必要な教養と指導者として豊かな知識を深めることを目的とする

卒業研究に向けた具体的な研究テーマを設定することを目標とする

【授業計画】

- 第1回 ゼミナールの進め方について ガイダンス、自己紹介
- 第2回 現代美術の領域①ミクストメディアの絵画及び平面作品の表現技法 (作品解説)
- 第3回 現代美術の領域②ミクストメディアの絵画及び平面作品の表現技法 (作品制作)
- 第4回 現代美術の領域③ミクストメディアの絵画及び平面作品の表現技法 (作品制作)
- 第5回 版表現の領域①4版種 (木版画・銅版画・シルクスクリーン・リトグラフ) の技法と作品解説
- 第6回 版表現の領域②伝統木版画 (浮世絵) の技法と作品解説 北斎漫画について
- 第7回 版表現の領域③伝統木版画 (浮世絵) から現代コミックマンガの描画表現まで
- 第8回 美術館での作品鑑賞 (アーティストトーク、学芸員による作品解説などへの参加)
- 第9回 美術館での作品鑑賞 (レポートを作成し発表をする)
- 第10回 提示されたテーマでレポート作成と発表・ディスカッションを行い、今後の研究課題を見つける
- 第11回 提示されたテーマでレポート作成と発表・ディスカッションを行い、今後の研究課題を見つける
- 第12回 提示されたテーマでレポート作成と発表・ディスカッションを行い、今後の研究課題を見つける
- 第13回 アートコミュニケーション (ワークショップについて)
- 第14回 アートコミュニケーションの試み (ワークショップの企画立案) グループディスカッション
- 第15回 アートコミュニケーションの試み (ワークショップの企画案発表) グループディスカッション
- 第16回 アートコミュニケーションの試み (ワークショップ模擬実習) グループディスカッション
- 第17回 アートコミュニケーションの試み まとめ
- 第18回 作家研究 レポート作成
- 第19回 作家研究 レポート作成
- 第20回 作家研究 レポート作成
- 第21回 作家研究 レポート発表
- 第22回 各自卒業研究を見据えた目標・テーマを設定し随時発表 個別指導
- 第23回 各自卒業研究を見据えた目標・テーマを設定し随時発表 個別指導
- 第24回 各自卒業研究を見据えた目標・テーマを設定し随時発表 個別指導
- 第25回 各自卒業研究を見据えた目標・テーマを設定し随時発表 個別指導
- 第26回 各自卒業研究を見据えた目標・テーマを設定し随時発表 個別指導
- 第27回 各自卒業研究を見据えた目標・テーマを設定し随時発表 個別指導
- 第28回 各自卒業研究を見据えた目標・テーマを設定し随時発表 個別指導
- 第29回 各自卒業研究を見据えた目標・テーマを設定し随時発表 個別指導
- 第30回 まとめとレポート提出

【授業の進め方】

前期は美術表現のための素材・技法研究と美術鑑賞、ワークショップ等への参加など幅広い実践を行う。後期はその活動の中から各自のテーマを選択して研究を進めて行く。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用しない。必要に応じて資料を配付する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

【履修上の心得】

講座外学習 (美術館、教育施設等に於けるアートワークショップ) に積極的に取り組む姿勢が望まれる。

【科目のレベル、前提科目など】

造形、美学、保育内容演習(表現)

科目名	ゼミナール(福崎)
	保育学を基盤に、子どもの心の世界を紐解く
教員名	福崎 淳子

【授業の内容】

おとなはみな、子ども時代を生きてきました。おとなの誰もが子ども時代を体験しています。しかし、すべてのおとなが子どものことを理解しているといえるのでしょうか。たとえ子ども時代を生きてきたとしても、子どもを理解することは、そう簡単なことではありません。しかし、保育の原点には、「子ども理解」があります。この「子ども理解」に向けて、日常的な保育の生活文脈の中で生まれるさまざまなエピソードや保育の実践事例をもとに、そのときを生きる子どもの思いや願いを紐解きながら、ディスカッションを重ね、子どもの心の世界の追究とともに、保育者としてのあり方についても考えていきます。

また、近隣や都内の幼稚園・保育所・認定こども園やおもちゃ美術館などの見学・保育体験を通して、自分の心に残る子どもや保育者の姿をエピソード記録として描きながら、自分の関心あるテーマを絞り、卒論研究に向けて、保育の実践的な研究論文をまとめていくための研究方法についても学びます。

【到達目標】

1. 日常的な保育におけるエピソードを通し、子どもの思いや願いに対する見方や考え方、解釈のしかたについての学びを深める。
2. 議論や見学・体験を通し、日常的な保育の生活文脈におけるエピソード記録の描き方を理解する。
3. 保育の実践的な研究をまとめていくための研究方法として、観察の仕方や質的な分析方法を理解する。
4. 議論を重ねながら、自分なりの「保育の哲学」の確立をめざして、保育の見方、考え方を深める。

【授業計画】

第1回 ゼミナールを進めていくために

学習課題：現時点での自分の関心ある保育に関することからについて、まとめてみる

第2回 エピソード記録のとり方① -保育におけるエピソードとは-

学習課題：保育におけるエピソードの位置づけについて考えをまとめておく

第3回 エピソード記録のとり方② -観察の仕方とエピソードの描き方-

学習課題：エピソードの描き方について、その難しさや疑問点を整理しておく

第4回 保育の実践的なビデオを通して、保育について考える

学習課題：保育の日常とはどのようなことをさすか、考えてみる

第5回 おもちゃ美術館などの施設見学・体験

学習課題：見学に向けて、学びの視点を整理しておく

第6回 施設見学・体験の意見交換

学習課題：施設見学から得られた知見や感想をまとめておく

第7回 幼稚園・保育所・認定こども園への見学・観察体験①

学習課題：観察の視点（自分の関心）を整理しておく

第8回 幼稚園・保育所・認定こども園への見学・観察体験②

学習課題：前回の観察園の記録をまとめるとともに、次の園の観察の視点（自分の関心）を整理しておく

第9回 幼稚園・保育所・認定こども園への見学・観察体験③

学習課題：前回の観察園の記録をまとめるとともに、次の園の観察の視点（自分の関心）を整理しておく

第10回 園に関するエピソード記録の意見交換①

学習課題：観察園の記録をまとめるとともに、心に残るエピソードを描いておく

第11回 幼稚園・保育所・認定こども園への見学・観察体験④

学習課題：前回までの観察の振り返りとともに、次の観察に向けての視点を整理しておく

第12回 幼稚園・保育所・認定こども園への見学・観察体験⑤

学習課題：前回までの観察の振り返りとともに、次の観察に向けての視点を整理しておく

第13回 幼稚園・保育所・認定こども園への見学・観察体験⑥

学習課題：前回までの観察の振り返りとともに、次の観察に向けての視点を整理しておく

第14回 園に関するエピソード記録の意見交換②

学習課題：観察の振り返りとともに、心に残るエピソードを整理しておく

第15回 子ども理解にむけてのまとめ

学習課題：エピソードの描き方の振り返りと体験学習の振り返りをまとめておく

第16回 施設や園での体験を深めるために

学習課題：前半の見学や体験をもとに、各自振り返り、課題を整理しておく

第17回 エピソード記録の意味① 保育者にとってのエピソード

学習課題：保育者にとって、エピソードとはどのような意味をもつかについて、整理しておく

第18回 エピソード記録の意味② エピソード記録の難しさと解釈の仕方について考える

学習課題：エピソード記録をまとめていく上で、難しかった点をまとめておく

第19回 実践体験をふかめるために① -幼稚園・保育所・認定こども園への見学・観察体験-

学習課題：前期の観察をもとに、その問題点と新たな観察の視点について、整理しておく

第20回 実践体験をふかめるために② ー幼稚園・保育所・認定こども園への見学・観察体験ー

学習課題：前回の観察をもとに、その問題点と新たな観察の視点について、整理しておく

第21回 実践体験をふかめるために③ ー幼稚園・保育所・認定こども園への見学・観察体験ー

学習課題：前回の観察をもとに、その問題点と新たな観察の視点について、整理しておく

第22回 エピソード記録の意見交換

学習課題：これまでの観察記録を整理しておく

第23回 保育に関連する文献購読①

学習課題：自分の関心あることがらについて、整理しておく

第24回 保育に関する文献購読② さらに深めるために

学習課題：前回の文献購読からの学びを整理しておく

第25回 保育に関するビデオから、子ども理解を深める①

学習課題：子どもに理解において大切な視点を考えておく

第26回 保育に関するビデオから、子ども理解を深める②

学習課題：前回のビデオ内容を整理し、自分の課題を考えておく

第27回 保育に関するビデオから、子ども理解を深める③

学習課題：子ども理解をさらに深めるために、これまでのビデオ内容や体験を整理し、自分の課題を考えておく

第28回 卒論研究に向けて①

学習課題：これまでの見学や体験をもとにしたエピソード記録や意見交換などを振り返り、自分の関心あるテーマについて考えてみる

第29回 卒論研究に向けて② 研究方法についてのまとめ

学習課題：自分の取り組むテーマに即した研究方法について、考えてみる

第30回 卒論研究に向けて③

学習課題：自分の取り組むテーマについて、発表するための整理をしておく

保育におけるフィールド研究は、地道な観察の積み重ねが要求されます。根気強さとともに、何よりも子どもに魅せられ、さりげない日常の中に見られる子どもの行為の奥深さを真摯に見つめ、追究する姿勢をもって臨んでくださることを願っています。

また、園や施設見学と共に、お互いのエピソード記録についての意見交換も重ねていきますので、積極的に自分の意見を述べながら、保育について学びを深めていけるようにしていきたいと思います。次週までに確認しておく内容や発表のための課題など、授業時間以外での取り組みも学びを深めるための大切な取り組みです。積極的に取り組んでください。

【授業の進め方】

「子ども理解」に向けて、さまざまなエピソードを紹介しながら、そのエピソードに登場する子どもたちの姿や保育者の姿について、ディスカッションを重ね、子どもの心の世界とともに、保育者としてのあり方についても、一緒に考えていきます。

また、身体を通しての学びの体験も大切にしたいと考えていますので、近隣や都内の幼稚園・保育所・認定こども園などの見学や保育体験、都内にあるおもちゃ美術館への見学なども行います。その体験を通して、自分の心に残る子どもや保育者の姿をエピソード記録として描きながら、自分の関心あるテーマを絞り、卒論研究に向けて、保育の実践的な研究論文としてまとめていけるように進めていきたいと思っています。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に指定しません。授業にあわせた資料を必要に応じて配付します

【参考図書】

- ・「保育のためのエピソード記述入門」鯨岡峻・鯨岡和子著 ミネルヴァ書房 2007年
- ・「エピソードから楽しく学ぼう 子ども理解と支援」福崎淳子編著 創成社 2015年

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

「保育」という営みについて、園生活で繰り返し広げられるさまざまなエピソードをもとに、ご一緒に議論しながら、「保育」のむずかしさ、たのしさ、おもしろさ、そして奥深さについて追究していきましょう。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・園や施設の見学や体験に関する記録をまとめ、積極的に意見交換にも参加してください。自分の考え方もしっかり述べ、さらに他者の意見に耳を傾けながら、議論を深めていこうとする真摯な姿勢を、受講態度として反映されます。
- ・園や施設の見学や体験に関する記録やまとめの課題などの提出物は、レポート・課題として評価に加えます。

【履修上の心得】

ゼミのグループワークに積極的に参加し、他者の意見に耳を傾けながら、真摯に取り組むことを期待しています。

また、さまざまな園や施設の見学や体験も取り入れていきたいと思っていますので、積極的に参加し、子どもや保育者の

姿を通して、保育の学びを深めてください。

【科目のレベル、前提科目など】

大学での学びの集大成となる「卒論研究」につなげていくための、大切な演習科目です。

科目名	ゼミナール(山路)
教員名	山路 千華

【授業の内容】

絵本やお話し、手遊びや遊戯、遊具や玩具など、子どもの文化財は豊富にあり、その活用方法や場面も多岐に渡ります。これら「子ども文化」の概念には、子どものためにおとなが創って与える文化と、子どもみずからが創造する文化の2つの視座がありますが、本ゼミナールでは、その両側面から研究を進めていきます。学生自らがそれら文化財に出会う体験的な学習を通し、文化的価値を見出す感性を育みながら、次年度に繋がる研究テーマを見つけ、決めていきます。また、ディスカッションを通し、体験学習から感じたことを他者に伝えたり、想いを共有し共感したりしながら、研究テーマの学習を掘り下げ、文献の検索や事例観察のフィールドを探す等の研究に必要な基礎力を培っていきます。

【到達目標】

1. 自分なりの保育観や子ども観を言葉や文章で表現することができる。
2. 子ども文化財、保育文化財を中心に、自身の探求したいテーマを見つけることができる。
3. 次年度の卒業研究に向けて、基礎的な研究方法を身に付ける。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 問題意識やテーマの方向性についての検討
- 第3回 自身のテーマに基づく体験学習の企画・方法の検討
- 第4回 テーマや問題意識、学習計画の紹介と共有①
- 第5回 テーマや問題意識、学習計画の紹介と共有②
- 第6回 テーマや問題意識、学習計画の紹介と共有③
- 第7回 体験学習の年間計画と役割分担、手続きの確認
- 第8回 体験学習①の調べ学習と、しおり作り
- 第9回 体験学習①
- 第10回 体験学習①の振り返り
- 第11回 体験学習②の調べ学習と、しおり作り
- 第12回 体験学習②
- 第13回 体験学習②の振り返り
- 第14回 体験学習の意義・研究テーマについてのディスカッション
- 第15回 前期のまとめ
- 第16回 後期のゼミナール学習計画の確認
- 第17回 体験学習③の調べ学習と、しおり作り
- 第18回 体験学習③
- 第19回 体験学習③の振り返り
- 第20回 体験学習④の調べ学習と、しおり作り
- 第21回 体験学習④
- 第22回 体験学習④の振り返り
- 第23回 体験学習の意義・研究テーマについてのディスカッション
- 第24回 研究テーマの確認と研究計画案の作成
- 第25回 個人研究①
- 第26回 個人研究②
- 第27回 個人研究の進捗状況の発表と意見交換①
- 第28回 個人研究の進捗状況の発表と意見交換②
- 第29回 個人研究の進捗状況の発表と意見交換③
- 第30回 1年間のまとめ

【教科書(必ず購入すべきもの)】

各自の研究テーマに合わせ検討します

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

【履修上の心得】

体験学習は全員参加を基本とします。体験学習は計画に基づき実施され、終了後にはレポート課題を提出します。体験学習で学びを深めながら研究テーマを常に自身に問うことを心がけ、興味関心に基づいた研究に邁進できる自分づくりをしていってください。

様々な事象に文化的価値を見出すことで視野が広がり、新たな自分が見つかるかもしれません。

科目名	ゼミナール(榎本)
教員名	榎本 哲士

【授業の内容】

このゼミナールでは、算数教育、数学教育について研究します。

ゼミナールの目標は、参加する一人ひとりが問題意識をもとに算数教育に関するテーマを設定し、そのテーマの考究に必要な文献・資料調査、または、小学校等への実態調査を行い、その内容や結果についてレポートするという研究方法の基礎を習得することです。

【到達目標】

- ① 文献や資料を精読し、レポートできること
- ② 研究課題を設定し、それに必要な文献研究、または調査研究の計画が立てられること
- ③ 必要な文献や資料、データの収集ができること
- ④ 収集した文献や資料、データを分析し、整理できること
- ⑤ ゼミでの議論や共同作業に自主的に参加できること
- ⑥ 研究レポートを作成し、発表できること

【授業計画】

基本的には、以下のような項目に分け、文献・資料調査、または実態調査を行い、発表し議論する。

- ① 研究方法の研究
調査の仕方、レポート・論文の書き方などに関する基本的な文献学習を行う。
- ② 研究課題の設定と研究課題に基づく調査研究作業
関心のある問題を基に研究課題を設定する。
調査研究計画を作成する。
文献・資料収集、面接調査、質問紙調査など、必要な調査を実施する。
調査資料・データを分析し、整理する。
必要に応じて学外の教育研究会や教育関係学会に参加する。
- ③ 研究レポートの作成と発表
調査研究を整理し、研究経過と研究内容をレジュメおよびレポートにまとめ、発表する。
1回のゼミで2～3名が発表します。
発表されたレポートについて、質問、意見等、気が付いたことを発言し、検討します。
- ④ 教員採用試験対策
教員採用試験の教職教養科目について、どのようなことが重視されているかを分析し、研究する。

なお、授業計画は、以下のとおりである。

第1回～第15回 学生自身による文献・資料調査、または実態調査を行い、レポートを作成、発表し、議論する。

第16回～第30回 学生自身による研究の遂行と討論を行う。研究内容の総括的な討論を行い、最終レポートを作成する。

【授業の進め方】

ゼミナールのルールとマナーをしっかりと守る。

ゼミ生各々がそれぞれ係を決め、分担し、協力し運営する。

全員出席を原則とする。

事前の準備と事後の整理・記録を大切にす。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業開始時に受講生の要望等を踏まえ、使用するテキストを決定する(要購入。レポート・論文の書き方、調査研究の方法に関するテキスト)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

ゼミへの出席と取り組み状況(積極的な発言・発表・提案、討論、記録、調査研究計画の提出、調査研究活動など)、研究成果の発表と最終レポートで行う。

【履修上の心得】

このゼミナールでは「自立」と「自主性」を重んじます。

ゼミナールにおいては、自分自身で考えた研究の成果だけでなく、受講する皆さんそれぞれの成長を期待しています。

ゼミ生同士で考え、助け合い、支え合い、高め合えるようになってほしいと期待しています。

科目名	福祉とボランティア
	授業形態：講義/授業回数：15回（30時間）
教員名	川瀬 善美

【授業の内容】

ボランティア活動は、人間だけができる行為である。それは自由を前提として、はじめて存在できる行為です。

また、違う視点から考えるとボランティア活動は、「しょうがい」者や高齢者や病人などがかかえている福祉的課題を解決するために、これを他人事とせず、進んで仲間となり、問題にかかわり、協働し重荷を分かち合うことであると考える。

福祉は、かつては与えられるものだと考えられてきたが、今や「作る福祉」「消費する福祉」へと時代は変化している。

すべてのサービスが有償化となる中で、無償のサービスの意味を考えてみることにする。言い換えれば、このような時代の中だからこそ、ボランティアとは何かを問い直す必要性が生まれてきており、この講義ではそれを行うことにする。

また、学生それぞれと社会・地域との関係や、自分の身の回りの人との関係を問い直す時間ともしたいと考えている。

【到達目標】

- ・ボランティアの性格である「主体性」「公共性」「無償性（非営利性）」の意味を理解し、今日的なボランティア活動の役割、課題を理解する。
- ・ボランティアマネジメントに関する現状を理解する。
- ・ボランティア活動に参画する意欲を持つ、あるいは活動のきっかけを掴む

【授業計画】

- 第1回 人はなぜボランティア活動をするのか
 第2回 ボランティア活動を支える理念・思想
 第3回 ボランティア活動の歴史①
 第4回 ボランティア活動の歴史②
 第5回 生活を支えるボランティア活動
 第6回 ボランティア活動の今日的役割
 第7回 市民活動と NPO・NGO
 第8回 災害とボランティア活動
 第9回 地域の主体形成とボランティア活動
 第10回 ボランティアセンターの機能と役割
 第11回 ボランティア活動と組織
 第12回 地域社会に出かけよう ～地域の課題を発見してみる
 第13回 住民の視点から解決を探る
 第14回 ボランティア活動の展開方法、組織運営の課題
 第15回 ボランティア活動 ～自ら選択するもう一つの生き方 各自のボランティア活動計画を立てる

【授業の進め方】

基本的には、講義を中心に進めるが第11回目の講義時に各自のボランティア活動計画作成・発表を、第14回目の講義時に各自のボランティア活動経過報告を行ってもらう。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①学生のためのボランティア論 ②岡本榮一・菅井直也・妻鹿ふみ子 編 ③大阪ボランティア協会

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

講義中に課す課題への取り組み状況、講義への参加態度、指定された提出物、期末試験などから総合的に評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。
- ・受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。

【履修上の心得】

全回出席を原則とする。

1. テキストを中心に、講義の際に配布する資料を中心に講義を進めます。積極的に参加してください。
2. 自分自身の生活に引きつけて学習を進めてください。できれば、学生のみなさんもボランティア活動に実際に参画していただくとよいと思います。ボランティア活動の場さがしも積極的に応援します。

【科目のレベル、前提科目など】

「福祉社会」,「社会福祉B」を履修済みか、履修していることが望ましい。

科目名	レクリエーション理論
	授業形態：講義
教員名	藤井 和彦

【授業の内容】

今日、「レクリエーション」という用語は様々な場所や機会に使用されるようになったが、改めて考えてみるとその概念の多義性や曖昧性に気づく。

そもそも「レクリエーション」とは何か？「レクリエーション」をめぐる理論的な定義、現代における社会的要請・意義、制度的側面、事業を遂行する各種組織や団体の役割や機能といった側面から、「レクリエーション」の意味に迫り、解説や議論を通して理解を深めることをねらいとする。

【到達目標】

- ・レクリエーションの概念を説明できる。
- ・レクリエーション運動の歴史を説明できる。
- ・レクリエーション支援の概念を説明できる。
- ・具体的なレクリエーション支援計画を立案する力が身についている。

【授業計画】

- 第1回 今日の地域スポーツ振興とレクリエーション・インストラクターの役割
 第2回 レクリエーションの基礎理論(1)現代社会とレクリエーション
 第3回 レクリエーションの基礎理論(2)レクリエーション運動の歴史（その1）
 第4回 レクリエーションの基礎理論(2)レクリエーション運動の歴史（その2）
 第5回 我が国におけるスポーツやレクリエーション実施の現状
 第6回 スポーツやレクリエーション振興施策の理解
 第7回 レクリエーション支援論(1)支援の概念と全体像
 第8回 レクリエーション支援論(2)レクリエーション素材の内容と支援の実感
 第9回 レクリエーション支援論(3)コミュニケーション・ワーク
 第10回 レクリエーション支援論(4)各レクリエーション種目ほか
 第11回 目的にあわせたレクリエーション・ワークと素材の選択
 第12回 対象にあわせたレクリエーション・ワークの基本技術
 第13回 今日の人々の生活との関係からレクリエーションの意味を考える
 第14回 レクリエーション事業への参加方法
 第15回 まとめと試験対策

上記の内容を中心に構成するが時間（時限）の配分は適宜調整しながら進める。

【授業の進め方】

講義形式を中心として進める。下記の指定テキストの内容に対応した講義ノート(資料)を毎回配布する。講義では、解説を聞きながら各自がその講義ノートを作成していくことになる。講義の終わりには「講義の感想・質問票」を毎回提出する。その他、2、3度のレポート課題を課すことがある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

「レクリエーション支援の基礎 楽しさ・心地よさを活かす理論と技術」日本レクリエーション協会編 2100円 を参考教材とする。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

定期試験の内容には、テスト1回（期末）、レポート学期2－3回を含む。レポートの提出は必修とし単位取得のための条件とする。

試験は、配布された講義ノートを範囲として持込を不可として実施する。キーワードに関する穴埋め問題と、論述問題から構成される。

受講態度は、毎回の「講義の感想・質問票」の内容、講義に臨む態度を判断し各回加算し評価の材料とする。

【履修上の心得】

レクリエーションの楽しさは誰にでも味わうことができるが、その楽しさを最大限に発揮させ他者に楽しんでもらう役割を担う場合には、一定の理論的な土台と技術が必要である。この講座は「理論編」でありその意味では「楽しさを提供できるようになるための土台づくり」でもある。このことを理解した上で、その自覚を持って授業に臨んでいただきたい。

【科目のレベル、前提科目など】

レクリエーション実技、体育・スポーツ経営学など

レクリエーション・インストラクター資格取得希望者は必修

科目名	レクリエーション理論
	授業形態：講義
教員名	藤井 和彦

【授業の内容】

今日、「レクリエーション」という用語は様々な場所や機会に使用されるようになったが、改めて考えてみるとその概念の多義性や曖昧性に気づく。

そもそも「レクリエーション」とは何か？「レクリエーション」をめぐる理論的な定義、現代における社会的要請・意義、制度的側面、事業を遂行する各種組織や団体の役割や機能といった側面から、「レクリエーション」の意味に迫り、解説や議論を通して理解を深めることをねらいとする。

【到達目標】

- ・レクリエーションの概念を説明できる。
- ・レクリエーション運動の歴史を説明できる。
- ・レクリエーション支援の概念を説明できる。
- ・具体的なレクリエーション支援計画を立案する力が身についている。

【授業計画】

- 第1回 今日の地域スポーツ振興とレクリエーション・インストラクターの役割
 第2回 レクリエーションの基礎理論(1)現代社会とレクリエーション
 第3回 レクリエーションの基礎理論(2)レクリエーション運動の歴史（その1）
 第4回 レクリエーションの基礎理論(2)レクリエーション運動の歴史（その2）
 第5回 我が国におけるスポーツやレクリエーション実施の現状
 第6回 スポーツやレクリエーション振興施策の理解
 第7回 レクリエーション支援論(1)支援の概念と全体像
 第8回 レクリエーション支援論(2)レクリエーション素材の内容と支援の実感
 第9回 レクリエーション支援論(3)コミュニケーション・ワーク
 第10回 レクリエーション支援論(4)各レクリエーション種目ほか
 第11回 目的にあわせたレクリエーション・ワークと素材の選択
 第12回 対象にあわせたレクリエーション・ワークの基本技術
 第13回 今日の人々の生活との関係からレクリエーションの意味を考える
 第14回 レクリエーション事業への参加方法
 第15回 まとめと試験対策

上記の内容を中心に構成するが時間（時限）の配分は適宜調整しながら進める。

【授業の進め方】

講義形式を中心として進める。下記の指定テキストの内容に対応した講義ノート(資料)を毎回配布する。講義では、解説を聞きながら各自がその講義ノートを作成していくことになる。講義の終わりには「講義の感想・質問票」を毎回提出する。その他、2、3度のレポート課題を課すことがある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

「レクリエーション支援の基礎 楽しさ・心地よさを活かす理論と技術」日本レクリエーション協会編 2100円 を参考教材とする。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

定期試験の内容には、テスト1回（期末）、レポート学期2－3回を含む。レポートの提出は必修とし単位取得のための条件とする。

試験は、配布された講義ノートを範囲として持込を不可として実施する。キーワードに関する穴埋め問題と、論述問題から構成される。

受講態度は、毎回の「講義の感想・質問票」の内容、講義に臨む態度を判断し各回加算し評価の材料とする。

【履修上の心得】

レクリエーションの楽しさは誰にでも味わうことができるが、その楽しさを最大限に発揮させ他者に楽しんでもらう役割を担う場合には、一定の理論的な土台と技術が必要である。この講座は「理論編」でありその意味では「楽しさを提供できるようになるための土台づくり」でもある。このことを理解した上で、その自覚を持って授業に臨んでいただきたい。

【科目のレベル、前提科目など】

レクリエーション実技、体育・スポーツ経営学など

レクリエーション・インストラクター資格取得希望者は必修

科目名	野外運動A(キャンプ)
	キャンプ実習
	授業形態：演習
教員名	体育担当教員

【授業の内容】

教育学部に学ぶ学生であれば、学生時代に是非経験しておいて欲しい野外活動の基礎を経験するキャンプ実習である。このキャンプでみた景色、このキャンプで口にした食事、このキャンプで歌った歌、このキャンプで培った人との繋がりは、間違いなく将来の自分の糧になることでしょう。特に教員をはじめ広く教育に関わる職を目指している人にとっては、次代を担う子どもたちに対して、人生の素晴らしさ、自然の素晴らしさ、仲間と関わることの素晴らしさを「熱く」語っていかねばなりません。このキャンプでの経験は皆さん自身の価値観を激しく揺さぶり、将来子どもたちに語る多くの材料を残してくれることでしょう。

【到達目標】

- ・野外調理やロープワークなど基本的なキャンプスキルを学ぶ
- ・アイスブレイクの提供などコミュニケーションやレクリエーション活動を学ぶ
- ・キャンプソングやスタンツなど野外での音楽を楽しむ
- ・カヌープログラムやシャワークライミングなどで自然を満喫する

【授業計画】

山間及び水辺に立地する施設の環境を活用しながら、全ての参加者が自律的にプログラムに取り組み、到達目標の達成を目指す。本実習で経験する活動は以下の通りである。

- ・野外調理
- ・常設テント泊
- ・ナイトハイク
- ・ソロビバーク
- ・イニシアティブの活動
- ・カヌープログラム
- ・シャワークライミング（沢登り）
- ・ソングプログラム（みんなで歌う）
- ・キャンプファイヤー及びスタンツ 他

全ての活動は、8人程度のグループで行う。各グループには学生リーダーがつく他、スポーツ健康専攻の教員及び現地の指導員が指導にあたる。

【授業の進め方】

本年度より、場所、内容を一新し、8月下旬に福島県裏磐梯小野川湖周辺施設で実施する。日程は3泊4日、参加費用は1万9千円程度を予定している（参加者数等により若干変動）。詳細は年度初めのガイダンスで説明を行うので必ず出席すること。

その後、前期中に履修者を対象としたガイダンスを行い、スケジュールや持ち物などの事前指導を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

持ち物等は、履修者を対象とした事前ガイダンスで連絡する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 70%

【履修上の心得】

設定された環境の中とはいえ、野外活動には常に危険がつきまとう。野外活動に対する強い関心と、未知の経験に対する強い欲求を持った学生に履修してもらいたい。

科目名	野外運動B(雪上)
	授業形態：演習
教員名	体育担当教員

【授業の内容】

教育現代の教育課題である「生きる力」の育成を射程に入れて展開する。野外体験系宿泊集中授業を通して、学生が自らのこころと身体を使い、仲間と切磋琢磨する「体験」の機会を組織し、こうした対人関係の深まりの中で、自己理解、他者理解、自然（環境）等への気付きを助長することを目的とする。

【到達目標】

雪上の空間の中で、普段の生活では感じる事ができない環境から自分自身の新しい発見をする。
スキー、スノーボード経験の有無にかかわらず、技能の上達を目指す。
集団生活の中で新しい人間関係を築き上げる。

【授業計画】

野外体験系宿泊集中授業形式で行う。アウトドアスポーツとして、学校体育のみならず生涯スポーツとしても今も幅広く社会全体に親しまれているスキー・スノーボードについて、その運動特性、技術、指導法及び生涯スポーツとしてのあり方、自然との親しみの心を持つことを習得し、団体行動・生活を通じてそのあり方をも研修する。また、基礎技術、応用技術、発展技術だけでなく救急処置についても講義を行う。

三泊四日の集中形式の中で、以下の点について実習していく。

- ①スキー、スノーボードの技能講習
- ②技能講習を受けての振り返り
- ③グループ毎でのグループワーク
- ④雪上という空間を含めた自然への理解

【授業の進め方】

プログラムについては、「挑戦」「課題解決」「成功体験」「達成感」「感動」の一連の流れを核にするという視点で構成し、その中で様々な「体験」の場を保障することをねらいとし、次のとおりである。

- ①普段、気付くことのなかった自分の姿を発見する体験（自己理解）
- ②普段、気付くことのなかった友人の姿を発見する体験（他者理解）
- ③困難な活動や生活に挑戦し、それを成し遂げる体験（課題解決能力）
- ④「何か」を成し遂げる体験（友情、連帯、役割、責任、感動）
- ⑤経験ない活動を行い、自分の世界を拡大する体験（新しい技能の獲得）

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に指定する教材はないが、必要な場合はその都度指示します。また、必要に応じて資料を配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

実習への参加・出席、野外運動実習ノートの完成度、グループ討議における積極的な取り組み・積極性、技能的な習熟度・上達度から総合的に評価する。

実習への参加・出席（50%）

野外運動実習ノートの完成度（30%）

グループ討議における積極的な取り組み・積極性、技能的な習熟度・上達度（20%）

【履修上の心得】

場所・日程については4月上旬の事前説明会で詳しく説明いたします。

教育学部4専攻同時開講で冬期休業中もしくは春期休業中に行われます。

事前説明会や事前指導が数回予定されています。（欠席の場合は、履修・単位の修得ができませんので注意してください。）

また、宿泊集中授業なので別途実習参加費がかかります。

【科目のレベル、前提科目など】

野外運動A

より充実した学業・学生生活や生涯スポーツ・レクリエーション基礎活動として位置づけられます。

科目名	早期英語教育
	Teaching English to Young Learners
	授業形態：講義
教員名	S. Bergman 三宅

【授業の内容】

This course is designed to help students become effective teachers of English to young learners. Through group work and individual practice, students will engage themselves in content-based speaking, listening, reading, and writing activities to enable them to teach in English and create educational activities for children.

この授業は、幼児児童に英語を教える教員になるのを助けることを目的とする。グループ活動や個別学習を通して、学生は、英語で指導したり、子供のための教育的活動するために、内容中心のリスニング、スピーキング、ライティング活動を行っていく。

【到達目標】

Upon successful completion of this course, students should be able to: plan a child-centered lesson; integrate the four skills (reading, writing, speaking, & listening) to create meaningful communicative language games and activities; manage classroom behavior; and learn English "teacher language," language that is often used in the classroom.

この授業の履修完了により学生は以下のことが可能となる：児童を中心とした授業の計画、有意義なゲームやアクティビティを創作するための四技能の統合、教室における児童の行動の管理、と教室英語(教師が教室で頻繁に使用する英語)を学ぶことである。

【授業計画】

- 第1回 Course introduction, Shadowing practice with CD, Chapter 1 (シャドイング、1章)
- 第2回 Chapters 1-2 (1-2章)
- 第3回 Chapters 3-4 (3-4章)
- 第4回 Chapters 5-6 (5-6章)
- 第5回 Chapters 7-8
- 第6回 Chapters 9-10
- 第7回 Chapters 11-12
- 第8回 Chapters 13-14
- 第9回 Chapters 15-16
- 第10回 Chapters 17-18
- 第11回 Chapters 19-20
- 第12回 Group work
- 第13回 Group work (英語模擬授業プレゼンテーションの練習)
- 第14回 Teaching Project (最終英語模擬授業プレゼンテーション)
- 第15回 Teaching Project (最終英語模擬授業プレゼンテーション)、Evaluation (授業評価)

* Read the next chapters before class, and prepare for your chapter presentation.

課題：毎週事前に次の章を読むこと、発表に備えること。

【授業の進め方】

Class work consists of discussions, group work, and presentations on related topics in English. For assignments, students will be required to give chapter presentations. In addition, they will create and teach educational games to the class. There will be periodic tests based on listening passages, class discussions and vocabulary words from the textbook.

授業内容は、関連のある題材についてのディスカッション・グループ活動・プレゼンテーションで構成されている。課題として、学生は各章についてプレゼンテーションを行う。加えて、学生はクラス全体に向けた学習活動を考え、披露してもらう。また、クラスディスカッションとテキストから抜粋した語彙とリスニングCDを基に、定期的に小テストを行うものとする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

Textbook will be announced in class.

【参考図書】

子ども中心ではじめる英語レッスン—学ぶ力を育む英語の教え方
デイビッド ポール (著)、金森 強 (翻訳)、桐原書店

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 20% 受講態度 30%

特記事項

Grades will be determined by active participation, course work, presentations, and tests.
評価は、積極的授業参加、課題、プレゼンテーション、テストを基に決められる。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Students who miss more than 1/3 of class sessions will not pass the course. Being late three times will count as one absence.

Students are required to bring their textbooks to class every week.

NO LATE HOMEWORK will be accepted unless you have a valid reason.

授業の3分の1以上欠席した生徒は落第とする。遅刻は3回を欠席1回として数える。

必ず教科書を持って来るように。

正当な理由なく課題提出が遅れた場合は、原則受け取らないものとする。

【履修上の心得】

You will create games in English to teach children the fundamentals of the English language.

Be prepared to study hard. Come to class with an open mind and be creative when planning to teach educational games to children.

子供に英語の基礎を教えることを目的としたゲームなどを作ります。

授業では、懸命に学び、友好的な気持ちで参加し、創意創作すること。

【科目のレベル、前提科目など】

You should have completed two years of English and received high grades in order to successfully complete this course.

この授業を修了するためには、2年間の英語学習を完了し、且つ高い評価を受けていることが必須となる。

【備 考】

Students who do nursing care training or teaching practicum must contact their instructor before starting these activities.

Those who do not do so may not receive course credit.

教育実習や介護体験に行く人は、前もって知らせてください。そうでないと、必要な課題等ができないために、単位取得が困難になるケースが出ます。

科目名	e-ラーニング
	授業形態：演習
教員名	奥山 慶洋

【授業の内容】

パソコンを使って、TOEICの試験対策の演習を行います。

【到達目標】

TOEICの試験で受講前より高い得点が得られるようになるのが目標です。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（90分）
- 第2回 プレテスト（90分）
- 第3回 e-ラーニング実践演習（90分）
- 第4回 e-ラーニング実践演習（90分）
- 第5回 e-ラーニング実践演習（90分）
- 第6回 e-ラーニング実践演習（90分）
- 第7回 e-ラーニング実践演習（90分）
- 第8回 e-ラーニング実践演習（90分）
- 第9回 e-ラーニング実践演習（90分）
- 第10回 e-ラーニング実践演習（90分）
- 第11回 e-ラーニング実践演習（90分）
- 第12回 e-ラーニング実践演習（90分）
- 第13回 e-ラーニング実践演習（90分）
- 第14回 e-ラーニング実践演習（90分）
- 第15回 e-ラーニング実践演習（90分）
- 第16回 期末試験（90分）

【授業の進め方】

各自のペースで各自のレベルに合った問題をパソコンを使って解きます。自習が中心で、自分で勉強する意思が重要です。インターネットに接続していれば、教室外でも演習することが可能です。

授業中、担当講師は教室を回って歩きますので、質問等あれば、遠慮なく質問してください。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使わない。

【参考図書】

特になし。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 0% 受講態度 70%

特記事項

一般の英語の授業とは異なり、本人の努力と、当初の段階からどれくらい英語力が向上したかを重視します。

【履修上の心得】

リスニングの問題があるので、イヤホーンを持参してください（但し3回目以降から、読解問題を中心に行うと自分で決めた日には必要ありません）。

辞書等も毎回持参し、必要に応じて参照してください。

【科目のレベル、前提科目など】

原則としてどのような英語力の受講生にも対応出来る授業です。

科目名	教育情報処理
	授業形態：演習
教員名	渋川 美紀

【授業の内容】

ユビキタス・ネットワーク社会が発展し続ける現代、小学校教育においてもパソコンが導入され授業で使用されています。また、それぞれの教育現場において目的に応じた教材を作成することは、児童の学習意欲の高揚に役立ち、学習に対する動機付けを与えることも可能となります。そこで、このような教材の自己開発技能を会得することを目指し、本講義ではWord・Excelを使いこなすことに加えて、パソコンについてより広い学習を行います。

【到達目標】

- 1.Wordにより論文が作成できる。
- 2.HTMLによりホームページが作成できる。
- 3.Accessを使うことができる。
- 4.PowerPoint・ExcelのVBA等により教材をつくることができる。
- 5.ExcelのVBAにより成績の管理ができる。
- 6.Excelの分析ツールにより簡単な統計解析ができる。

【授業計画】

- 第1回 Wordの実習・HP作成
- 第2回 HTML実習・HP作成
- 第3回 PowerPointによる教材の作成(1)
- 第4回 PowerPointによる教材の作成(2)
- 第5回 Wordの実習・論文形式の文書の作成(1)
- 第6回 Wordの実習・論文形式の文書の作成(2)
- 第7回 Accessの実習(1)
- 第8回 Accessの実習(2)
- 第9回 Excelの実習・関数(1)
- 第10回 Excelの実習・関数(2)
- 第11回 Excelの実習・VBA(1)
- 第12回 Excelの実習・VBA(2)
- 第13回 Excelの実習・VBA(3)
- 第14回 Excelの実習・VBA(4)
- 第15回 まとめ・その他

【授業の進め方】

テキスト・プリント・その他を使用して実習を行います。例題を解いたのち、課題を作成するという形式ですすめていきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は講義開始時に指示します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

講義回数の2/3以上出席した学生を成績評価の対象とする。

【履修上の心得】

遅刻や欠席をしないように心がけましょう。特に、30分以上遅刻をしないようにしましょう（欠席扱いにします）。出欠は出席カードで調べますが、必ず授業開始30分以内にカードを受け取り、授業の間無くさないように持って下さい。また、遅刻3回で欠席1回とします。やむをえない理由で早退する場合は断って退出して下さい。早退は遅刻と同じ扱いとします。カードは授業内に提出して下さい。

【科目のレベル、前提科目など】

情報処理の続きとなる科目ですので、情報処理が前提科目です。

全ての科目で必要とされるレポートの作成力・データの分析力を養う科目です。

科目名	陸上運動 I
教員名	竹島 克己

【授業の内容】

陸上競技はすべての競技の基本。走る・跳ぶ・投げる基本はどのようなものかを考える。陸上競技について正しい理論、安全な練習方法、指導方法を学ぶ。

将来教職に就いた時、児童生徒に対し知識・技能・思考力・判断力・表現力をどのように育てるか。学びに向かう力・人間性をどの様に涵養するか。教育の能力を高め得るような授業を行う。

【到達目標】

スポーツにおける礼儀を尊重する。

安全に配慮して授業を展開していけるようにする。

個人差に十分に配慮する態度を養う。

走・跳・投の基本を理解し、大事なポイントは試技できるようにする。

記録を尊重できるようにする。

【授業計画】

第1回 陸上競技の基本についてガイダンス

立ち方、歩き方、走り方について理論を解説する

走る、投げる。跳ぶについて解説する

事故防止・ケガをしないように配慮できるようにする

協力して、授業が進められるようにする

学習課題：要点をレポートとして提出する

第2回 ウォーキング、ジョギング

ケガをしないよう準備を行う

楽しくジョギングする

競走ではないランニングの楽しさを知る

実技開始にあたり、事故・ケガが起こらないように配慮できるように話し合う

学習課題：ウォーキング・ジョギングを楽しく自ら行うためには何がポイントか話し合う

第3回 砲丸投げ

オブライエン投法のグライドを習得する

オブライエン投法を教えることができるようにする

安全に協力しながら授業を進められるようにする

学習課題：投げる動作に共通するとは何か話し合う

安全の意識を身につけ、お互い注意しあう

投げるにはどのような体力の要素が必要か話し合う

第4回 砲丸投げ

オブライエン投法の練習

グライドができるか試験を行う

学習課題：どのようにフォームを作れば飛ばせる事ができ、楽しくなるのか話し合う

第5回 砲丸投げ

オブライエン投法の練習

学習課題：いろいろな投げ方を行い、砲丸投げで全身を鍛えることをである事を話し合う

砲丸投げがいろいろな種類のボールの投げ方の基本でもある事を話し合う

第6回 砲丸投げ

記録測定

協力して記録を測れるようにする

学習課題：協力して安全に、記録測定を行う。記録の大きさを話し合う

第7回 80mハードルの基本練習

ハードルの技術について知る

ふり上げ足・抜き足について意識する

低く飛ぶようにする

ハードルに関する危険な行為を認識する

学習課題：ハードルを上手に跳ぶ、走るにはどのような体力の要素が必要か話し合う

第8回 80mハードルの基本練習

基本技術の復習

ハードルにおける多彩な予備練習がある事を知る

学習課題：1台目までの集中が大事で、記録にも影響する事を話し合う

第9回 80mハードル

記録測定1回目

学習課題：協力して安全に、記録測定を行う。記録の大事さを話し合う

第10回 80mハードル

記録測定2回目

学習課題：1回目測定しどのように工夫したか話し合う

第11回 短距離走

階段・坂を使った練習方法を知る

学習課題：単調な練習にならぬよう、どのように工夫したら良いか話し合う

第12回 短距離走

スタートダッシュの練習

加速走の練習

学習課題：スタートダッシュ・加速走の練習の意味や走ってみた感触を話し合う

第13回 短距離走

50m走の記録測定測定

学習課題：協力して安全に、記録測定を行う。記録の大事さを話し合う

自分の体力を過去と比較してどうか話し合う

第14回 短距離走

100m走の記録測定

学習課題：協力して安全に、記録測定を行う。記録の大事さを話し合う

第15回 陸上運動のまとめ

再度記録を測定したい種目の測定に挑戦する

時間をおいてイメージが変わり、記録が伸びる可能性を試す

学習課題：実行している時は気がつかなかった事も、時間が経てば気がつく事もある

時間が経ち理解が深まった事を話し合う

【授業の進め方】

陸上運動 I では、動きの基本を学習する。立ち方・歩き方・走り方から順を追って体験・体得する。競技種目は、砲丸投げ・80mハードル・短距離を行う。砲丸投げでは正しい物の投げ方を体得する。ハードルでは、スピード・パワー・巧緻性・柔軟性などを育成する。短距離ではスピードとピッチの関係、正しいフォームを学び、速く走るための理論を理解する。

けがをしないさせないよう、安全に対するポイントを体得する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

資料は授業中配布する。測定した記録は配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 30% 受講態度 40%

特記事項

真剣に授業に取り組むこと。自分と他の安全を心掛けているか。よりよい記録に挑戦する工夫があるか。これらができているかどうか評価する。

【履修上の心得】

陸上競技に適した服装・靴を準備すること。記録に強い関心を持つこと。安全と健康の確保に留意する。

【科目のレベル、前提科目など】

1～4年生の教科専門科目

科目名	陸上運動Ⅱ
教員名	竹島 克己

【授業の内容】

陸上競技はすべての競技の基本。走る・跳ぶ・投げる基本は何かを考える。陸上競技について正しい理論、安全な練習方法、指導方法を学ぶ。

【到達目標】

スポーツにおける礼儀を尊重する。

走・跳・投の基本を理解し、大事なポイントは試技できるようにする。

安全に授業を進めるための、配慮について理解する。

記録を尊重できるようにする。

将来教職に就いた時、児童生徒に問題を発見・解決したり、自分の考えを形成したり、思いを基に構想・創造する資質を涵養できるようにする

【授業計画】

第1回 ガイダンス

陸上競技の基本について

走り幅跳び・ハードル走・長距離走に関して解説する

運動には正しい姿勢であることが重要である

学習課題：体力を広く深く理解し陸上競技を通じて高めていけるよう話し合う

第2回 ウォーキング、ジョギング

ケガをしないよう準備を行う

楽しくジョギングする

競走ではないランニングの楽しさを知る

実技開始にあたり、事故・ケガが起こらないように配慮できるようにする

学習課題：単調になりがちな陸上競技をどのように動機づけしていくか話し合う

第3回 走り幅とび

いろいろなジャンプ運動を行う

人間は本来ジャンプすることが大好きである

ジャンプ運動のメニューを経験する

学習課題：どのようにジャンプの種目を楽しんだら良いか話し合う

第4回 走り幅とびの基本

助走・踏切フォームの習得

走スピードと助走距離、走スピードと跳躍可能距離の理論を学習する

学習課題：ポイントをつかみ一生懸命実施しなければ結果が出てこないことを学習し話し合う

第5回 走り幅跳び

空中フォーム・着地フォームの習得

児童生徒に対するポイントのつかませ方を学習する

学習課題：助走・踏切に続き空中フォーム・着地を結び付ける

細かい技術が記録の向上に大事な事を話し合う

第6回 走り幅跳び

記録測定1回目

学習課題：協力して安全に、記録測定を行う。記録の大事さを話し合う

第7回 走り幅跳び

記録測定2回目

学習課題：1回目の測定を踏まえどのように工夫すると記録が伸びるか話し合う

第8回 80mハードル

フォームの習得

ハードルに関する、予備的練習を体得する

学習課題：前期に体験し、気がついた技術面・安全面について話し合う

第9回 80mハードル

フォームの習得

陸上競技特有の補助練習を行う

記録測定のための1台目までの練習を念入りに行う

第10回 80mハードル

記録測定

学習課題：協力して安全に、記録測定を行う。記録の大事さを話し合う

第11回 長距離走

長距離走はペース配分が重要である

ペース配分について深く認識する

歩きから、ジョギング、レースペースまで体験する

やみくもにスピードを上げないようにする

学習課題：長距離走について自らの体験を話し合う

第12回 長距離走

インターバルトレーニング 200mを6本～8本

教育現場での長距離走の授業の実例を示す

学習課題：施設・設備に応じた授業の展開方法を話し合う

第13回 長距離走

1500m走・1000m走の記録測定

学習課題：ペースの学習を踏まえた測定を行う事ができたか話し合う

第14回 長距離走

1500m走・1000m走の記録測定

学習課題：1回目の測定を踏まえ、自分に合ったペースで走りきる

前回の測定と比較して、状況を分析し話し合う

第15回 陸上運動のまとめ

再度記録を測定したい種目の測定に挑戦する

時間をおいてイメージが変わり、記録が伸びる可能性を試す

学習課題：実施している時は気がつかなかった事も、時間が経てば気がつく事もある

時間が経ち理解が深まった事を話し合う

【授業の進め方】

陸上運動Ⅱでは、基本から導入する。立ち方・歩き方・走り方について順を追って体験・体得する。競技種目は、走り幅跳び・80mハードル走・長距離走を行う。走り幅跳びでは助走、踏切、空中姿勢、着地を部分的に練習し、それを組み合わせて総合的なフォームをつくる。ハードルでは、スピード・パワー・巧緻性・柔軟性などを育成する。長距離走では生涯スポーツとしてジョギングの大切さを知ってほしい。男子は1500m、女子は1000mのトライアルを行う。日ごろから体を鍛える意識を持ってほしい。けがをしない、順を追った授業の展開を学ぶ。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

資料は授業中配布する。測定した記録はまとめて配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 30% 受講態度 40%

特記事項

真剣に授業に取り組んでいるか。

自分と他の安全を心掛けているか。

よりよい記録に挑戦する工夫があるか。

陸上競技のルール、技術、記録に関して理解があるかどうか。

【履修上の心得】

陸上競技に適した服装・靴を準備すること。記録に強い関心を持つこと。安全と健康の確保に留意する。

【科目のレベル、前提科目など】

1～4年生の教科専門科目

科目名	器械運動 I
教員名	濱崎 裕介

【授業の内容】

器械運動（マット運動、跳び箱運動、鉄棒運動、平均台運動）で行われる技の基本技術と指導法について学習する。それぞれの技の運動構造を理解し、系統的・段階的に技を習得していく。また、安全に配慮し、練習環境の整備や補助法についても正しく理解する。

【到達目標】

器械運動の技の技術および指導法について学ぶことをテーマとし、以下の2つを到達目標とする。

1. 各器械種目の基本技を習得し、それぞれの技の技術を指導できるようになる。
2. 補助法について理解し、適切に実践することができるようになる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の方法、諸注意）、支持系回転系の運動遊び
 第2回 マット運動：接転系技群（前転技群、後転技群）の基本技、体育実技授業におけるタブレット活用法の紹介
 第3回 マット運動：接転系技群（前転技群、後転技群）の発展技
 第4回 マット運動：はね起き技群と巧技系技群の基本技術および補助法の理解、補助の実践（グループ・ワーク）
 第5回 マット運動：側方倒立回転、ロンダートの基本技術
 第6回 マット運動：前方倒立回転とびの技術および補助法の理解、補助の実践（グループ・ワーク）
 第7回 マット運動：技の組み合わせ（前転技群、後転技群、ほん転技群）
 第8回 鉄棒運動：支持、懸垂、回転系の運動遊び、下り技
 第9回 鉄棒運動：支持回転技群の基本技、上がり技、補助の実践（グループ・ワーク）
 第10回 鉄棒運動：支持回転技群の発展技、け上がりの技術、補助の実践（グループ・ワーク）
 第11回 鉄棒運動：技の組み合わせ（上がり技、支持回転技、下り技）
 第12回 跳び箱運動：跳び箱運動につながる運動遊び
 第13回 跳び箱運動：切り返し系の基本技と発展技
 第14回 跳び箱運動：回転系の基本技と発展技、補助の実践（グループ・ワーク）
 第15回 平均台運動：歩行・ジャンプ・ターンの基本技術

【授業の進め方】

実技科目であるため、自身の身体で「できる」ということを重視する（体験学習）。

補助法について学ぶため、いくつかの技はペアまたはグループで補助をシェア（グループ・ワーク）。

受講者の実技能力を把握したところでいくつかのグループに分ける。グループ内での教え合いの活動も重視する（グループ・ディスカッション）。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要な資料は適宜配布する。

【参考図書】

- 『マット運動』『鉄棒運動』『跳び箱、平均台運動』：金子明友（大修館）
 『中学・高校器械運動の授業づくり』：三木四郎、加藤澤男他（大修館）
 『ビジュアル新しい体育実技』：岡出美則ほか（東京書籍）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 0% 受講態度 50%

特記事項

マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動に関しては、授業内において技能習得の確認テストを行う。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

各器械種目の基本技を習得できているのみならず、他の学生への指導や補助ができているかも評価の対象とする。

【履修上の心得】

将来教員や指導者を目指すものとして、技能向上とともに指導法や補助法の理解を深めようとする態度で臨むこと。

【備考】

フードのついていないウェアを着用すること。

科目名	器械運動Ⅱ
教員名	濱崎 裕介・渡辺 良夫

【授業の内容】

器械運動Ⅰで習得した技能を踏まえて、より高い技能の習得を目指す。また、仲間への指導や補助に関しても実践力を高めていく。

【到達目標】

器械運動の技の技術および指導法について、器械運動Ⅰの学習内容をベースとして以下の2つを到達目標とする。

1. 各器械種目の発展技を習得し、それぞれの技の技術を指導できるようになる。
2. 補助法や練習の場づくりの工夫について理解し、適切に実践することができるようになる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の方法、諸注意）、接転系技群（前転技群・後転技群）習得のための運動アナログ
- 第2回 マット運動：接転系技群（前転技群・後転技群）の発展技、教師として理解しておくべき技能評価の観点
- 第3回 マット運動：はね起き技群と巧技系技群の技術および補助法、練習の場づくりについて
- 第4回 マット運動：ほん転技群（ロンダート、前方倒立回転とび）の技術および補助法、練習の場づくりについて
- 第5回 マット運動：技の組み合わせ、グループ内での指導
- 第6回 鉄棒運動：支持回転技群の基本技術および補助法、練習の場づくりについて
- 第7回 鉄棒運動：足かけ上がり、け上りの基本技術および補助法、練習の場づくりについて
- 第8回 鉄棒運動：基本的な技の組み合わせ（上がり技、支持回転技、下り技）、グループ内での指導
- 第9回 鉄棒運動：発展的な技の組み合わせ（上がり技、支持回転技、下り技）、グループ内での指導
- 第10回 跳び箱運動：切り返し系技群習得のための運動アナログ
- 第11回 跳び箱運動：回転系技群習得のための運動アナログ
- 第12回 跳び箱運動：用具、練習の場づくりの工夫、グループ活動
- 第13回 平均台運動：平均台を用いた運動遊び、歩行・ジャンプの基本技術
- 第14回 平均台運動：技の組み合わせ（上がり技、歩行、ジャンプ、ターン、下り技）
- 第15回 器械運動指導における系統的・段階的指導の重要性、体育教師の専門性としての動きの他者観察

【授業の進め方】

実技科目であるため、自身の身体で「できる」ということを重視する（体験学習）。
補助法について学ぶため、いくつかの技はペアまたはグループで補助をシェア（グループ・ワーク）。
仲間の動きを観察し（他者観察）、できない原因を探り、指導段階や補助法について考える（発見学習）。
グループ内での教え合いの活動も重視する（グループ・ディスカッション）。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要な資料は適宜配布する。

【参考図書】

- 『マット運動』『鉄棒運動』『跳び箱、平均台運動』：金子明友（大修館書店）
『中学・高校器械運動の授業づくり』：三木四郎、加藤澤男他（大修館書店）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 20% 受講態度 50%

特記事項

マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動に関しては、授業内において技能習得の確認テストを行う。
毎回の授業で仲間の動きの習熟過程を記録し、15回目の授業時に観察記録のレポートとして提出する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

各器械種目の基本および発展技を習得できているのみならず、他の学生への指導や補助ができているかも評価の対象とする。

【履修上の心得】

将来教員や指導者を目指すものとして、技能向上とともに指導法や補助法の理解を深めようとする態度で臨むこと。

【科目のレベル、前提科目など】

器械運動Ⅰの履修を前提とする。

【備 考】

フードのついていないウェアを着用すること。

科目名	ダンス I
教員名	内山 須美子

【授業の内容】

1. 学習指導要領を基に、中学・高校でのダンス指導について学ぶ。
2. 中学・高校で学ばれるダンスの内容（「フォークダンス」「現代的なリズムのダンス」）を学ぶ。
3. 基本的なダンスの技能を学ぶ。

【到達目標】

1. 学習指導要領を基に、中学・高校でのダンス指導について理解できる。
2. 中学・高校で学ばれるダンスの内容を知ることができる。
3. ダンスの授業を行う上で必要となる基本的なダンスの技能を習得できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：講義の目的、学習指導要領におけるダンスの位置づけ、授業の進め方、成績、グループ分けについて説明する。
- 第2回 実技1：エアロビックダンス1：マーチ、グレイプバインステップ、Vステップを習得するとともに、グループで教えあいながらマスターする。
- 第3回 実技1：エアロビックダンス2：マンボステップ、ビハインドステップ、レッグカールを習得するとともに、グループで教えあいながらマスターする。エアロビックダンス1と2を連続させてエアロビックダンスのコンビネーションとし、授業の終わりにグループごとに成果を発表することを確認テストとする。
- 第4回 実技2：ロックダンス1：ロック、ファンキーチキン、スキータを習得するとともに、グループで教えあいながらマスターする。
- 第5回 実技2：ロックダンス2：スクーバ、ファンキージャンプ、トワルを習得するとともに、グループで教えあいながらマスターする。
- 第6回 実技2：ロックダンス3：シルバーダラー、クロスハンド、スクーバを習得するとともに、グループで教えあいながらマスターする。ロックダンス1と2と3を連続させてロックダンスのコンビネーションとし、授業の終わりにグループごとに成果を発表することを確認テストとする。
- 第7回 実技3：ヒップホップダンス1：ボックスステップ、サイドステップ、ツーステップを習得するとともに、グループで教えあいながらマスターする。
- 第8回 実技3：ヒップホップダンス2：スケート、ニュージャックスイング、ポップコーンを習得するとともに、グループで教えあいながらマスターする。
- 第9回 実技3：ヒップホップダンス3：クロスステップ、クロスターンを習得するとともに、グループで教えあいながらマスターする。ヒップホップダンス1と2と3を連続させてヒップホップダンスのコンビネーションとし、授業の終わりにグループごとに成果を発表することを確認テストとする。
- 第10回 実技4：創作ダンス1：第2回から第9回の授業で学んだステップを用いてオリジナルの作品を創作する。構成の技術としてユニゾンについて学び、作品創作に採り入れる。授業の終わりにはグループごとに成果を発表する。
- 第11回 実技4：創作ダンス2：第2回から第9回の授業で学んだステップを用いてオリジナルの作品を創作する。構成の技術としてシンメトリーについて学び、作品創作に採り入れる。授業の終わりにはグループごとに成果を発表する。
- 第12回 実技4：創作ダンス3：第2回から第9回の授業で学んだステップを用いてオリジナルの作品を創作する。構成の技術としてカノンについて学び、作品創作に採り入れる。授業の終わりにはグループごとに成果を発表する。
- 第13回 実技4：創作ダンス4：第2回から第9回の授業で学んだステップを用いてオリジナルの作品を創作する。構成の技術として隊形と移動について学び、作品創作に採り入れる。創作ダンス1、2、3、4を連続させて創作ダンス作品とし、授業の終わりにはグループごとに成果を発表することを確認テストとする。
- 第14回 実技5：フォークダンス：ジェンカ、マイムマイム、オクラホマミクサーの踊り方を習得するとともに、グループで教えあいながらマスターする。
- 第15回 講義：学習指導要領におけるダンスの内容・指導法・評価法について学ぶとともに、中学校におけるダンス授業の現状について学ぶ。授業の終わりにこれまでの授業の感想、ダンス授業に対する自分の考え方をまとめペーパーにして提出する。

1. 実技：現代的なリズムのダンス、フォークダンスおよびその他のダンス
エアロビックダンス・ストリートダンス（ロックダンス、ヒップホップダンス）・フォークダンス

2. 理論
学習指導要領におけるダンスの内容・指導法・評価法について

【授業の進め方】

毎回の授業は、仲間と共に主体的に問題を発見し、それを解決するグループ・ワークを中心に進めます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要に応じて配布します。

【参考図書】

特にありません。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 80% レポート・課題 0% 受講態度 20%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

実技テストと確認テストの点数および受講態度から総合的に評価します。

【履修上の心得】

体育の学習で生徒を感じる一番のストレスは「仲間のふまじめ」「仲間からの中傷」であるとの研究結果が出ています。「恥ずかしさ」から悪ふざけをして、他の受講者のストレスになることは謹んでください。体育教師になった時にダンスの指導ができるようになることを目指して「真摯に取り組む」ことを心がけてください。

【科目のレベル、前提科目など】

引き続き、実技理論・実習ダンスⅡを履修することが望ましい。

【備 考】

特にありません。

科目名	ダンスⅡ
教員名	内山 須美子

【授業の内容】

1. ダンスの表現法、創作法、作品構成、音響効果、衣装、道具等について理解し、上演の実践を通して表現力、上演能力を養う。
2. ダンスⅠよりも高度なダンス技能を学ぶ。
3. 白鷗大学ダンスコレクションに出演し、ダンス発表会での演技、運営等について体験する。

【到達目標】

1. ダンスの表現法、創作法、作品構成、音響効果、衣装、道具等について理解し、上演の実践を通して表現力、上演能力を養うことができる。
2. ダンスⅠよりも高度なダンス技能を習得することができる。
3. 白鷗ダンスコレクションに出演し、ダンス発表会での演技、運営等について体験できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：講義の目的、授業の進め方、成績、グループ分けについて説明する。
- 第2回 ストリートダンス（ロックダンス・ヒップホップダンス）の創作理論と創作法を学ぶ
- 第3回 ストリートダンス（ロックダンス・ヒップホップダンス）の表現形式の理解とその技法を学ぶ
- 第4回 ダンスのレパートリーワーク1：ロックダンス：リズム（アップ、ダウン）の取り方、ノック&ペイシングについて習得するとともに、グループで教えあいながらマスターする。
- 第5回 ダンスのレパートリーワーク2：ロックダンス：ポイント、ダブルロック、ストップ&ゴーについて習得するとともに、グループで教えあいながらマスターする。
- 第6回 ダンスのレパートリーワーク3：ロックダンス：キックウォーク、ロックステディについて習得するとともに、グループで教えあいながらマスターする。
- 第7回 ダンスのレパートリーワーク4：ヒップホップダンス：ランニングマン、スポンジボブについて習得するとともに、グループで教えあいながらマスターする。
- 第8回 ダンスのレパートリーワーク5：ヒップホップダンス：ビズマーキー、スネークについて習得するとともに、グループで教えあいながらマスターする。
- 第9回 ダンスのレパートリーワーク6：ヒップホップダンス：チャールストン、リーボック、クラブステップについて習得するとともに、グループで教えあいながらマスターする。
- 第10回 ダンスのレパートリーワーク7：ヒップホップダンス：クリップウォーク、キック&オープンについて習得するとともに、グループで教えあいながらマスターする。
- 第11回 ダンスのレパートリーワーク8：ヒップホップダンス：ラコステ、ブルックリン、フライングターンについて習得するとともに、グループで教えあいながらマスターする。
- 第12回 ダンスのレパートリーワーク9：トゥループ、ホーシング、ポニーステップについて習得するとともに、グループで教えあいながらマスターする。
- 第13回 ダンスのレパートリーワーク10：ロックザボート、ロジャーラビット、インアウトについて習得するとともに、グループで教えあいながらマスターする。
- 第14回 グループワーク1：レパートリーワーク1から10を用いてオリジナル作品を創作する。授業の終わりにグループごとに成果を発表することを確認テストとする。
- 第15回 グループワーク2：レパートリーワーク1から10を用いてオリジナル作品を創作する。授業の終わりにグループごとに成果を発表することを確認テストとする。これまでの授業の感想、グループごとの発表の評価をまとめ、ペーパーにして提出する。

1. 実技

- ・ストリートダンス（ロックダンス・ヒップホップダンス）作品の創作と発表
- ・ダンス発表会での演技

2. 理論

- ・ストリートダンス（ロックダンス・ヒップホップダンス）の表現法・創作法
- ・ダンス発表会の運営方法

【授業の進め方】

授業は、仲間と共に主体的に問題を発見し、それを解決するグループワークを中心に進めます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要に応じて配布します。

【参考図書】

特にありません。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

創作作品・授業への日頃の取り組みの2点から総合的に評価します。

1. 創作作品：50点
2. 授業への取り組み：50点

【履修上の心得】

ダンスの授業は中学校で必修科目となりました。教師がはつらつとした「師範」を示せることは生徒の学習意欲を高めます。どの種目もそうですが、教師が師範を示せることは重要な条件です。ダンスⅠで習得した基本技能に、この授業で磨きをかけ、生徒の前に自信をもって立てるようになってほしいと思います。

【科目のレベル、前提科目など】

ダンスⅡはダンスⅠの履修が前提となる。

【備 考】

授業内で創作したダンス作品で、年に一度開催される「白鷗大学ダンス発表会」に出演することができます。ダンス発表会の開催はダンスの授業をするうえで必ず必要となります。この機会に発表会の体験して、上演方法、運営方法を理解してください。

科目名	バスケットボール
教員名	佐藤 智信

【授業の内容】

バスケットボールにおける様々な技術の構造、ルールを理解し、その特性を通して技術・戦術論の立場から集団的技能や個人的技能を分析、考察を加え、それらを構成する体力・技術・戦術の習得を中心として、基礎的なゲーム展開の方法を実習する。また、このスポーツを通して、体力の向上・スポーツの楽しみ方・モラルの育成・競技の歴史などを学習し、集団（チーム）スポーツの意義や生涯スポーツを楽しめるスタンスを生むようなモデルを提案し実習する。

【到達目標】

以下の内容の理解・習得・考察が目標となる。

- ・技術の構造、ルールを理解
- ・集団的技能や個人的技能の実践
- ・ファウンダメンタルの実践と理解
- ・ボールゲーム・チームスポーツ・生涯スポーツの理解と考察

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
スキルテスト→班分け
ワンハンドショット①
- 第2回 ワンハンドショット②
- 第3回 レイアップ、リバウンド
- 第4回 審判法、ルールの理解
- 第5回 第1回目リーグ戦（試しのゲーム、グループ・ワーク）
- 第6回 場所の優先順位
- 第7回 空間へのパス
- 第8回 パス&ラン（グループ・ワーク）
- 第9回 ハーフコート3対3①（グループ・ワーク）
- 第10回 ハーフコート3対3②→4対4（グループ・ワーク）
- 第11回 ハーフコートからオールコートへ（グループ・ワーク）
- 第12回 第2回目リーグ戦（達成度評価ゲーム、グループ・ワーク）
- 第13回 ドリブルを効果的に使う
- 第14回 スキルテスト、ピック・スクリーン（グループ・ワーク）
ノート提出
- 第15回 トーナメントゲーム（グループ・ワーク）
ノート返却

【授業の進め方】

「ゲーム－発問・応答・考察－練習－ゲーム」という流れで授業を展開し、技術練習を毎時間の適切な場面で行うことやゲームにおける戦術的状况の中で技術を用いることで、戦術と技術を関連付けて指導する。そこで戦術的気づき（問題解決能力の選択能力）を助長する。バスケットボールはチームスポーツであるために、他者との関わりグループワークは必須である。また、ほぼ毎時間授業内スキルテスト・資料配布があるのでノート作成を義務づける。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に無いが、日本バスケットボール協会発行の書籍に目を通すと役に立つでしょう。

【参考図書】

バスケットボール競技規則（ルールブック）
JBA公式テキストVOL1～3

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 15% レポート・課題 15% 受講態度 70%

特記事項

授業内スキル到達度、上達度、参加態度、ノート作成

【「成績評価の方法」に関する注意点】

特に出席、取り組み、スキル評価、ノート作成が重視されます。

【履修上の心得】

体育館シューズ・運動できる服装で出席する事。また各自ホイッスルを準備すること。

【科目のレベル、前提科目など】

専門演習

教職の教科の科目

科目名	バスケットボール
教員名	網野 友雄

【授業の内容】

バスケットボールにおける様々な技術の構造、ルールを理解し、その特性を通して技術・戦術論の立場から集団的技能や個人的技能を分析、考察を加え、それらを構成する体力・技術・戦術の習得を中心として、基礎的なゲーム展開の方法を実習する。また、このスポーツを通して、体力の向上・スポーツの楽しみ方・モラルの育成・競技の歴史などを学習し、集団（チーム）スポーツの意義や生涯スポーツを楽しめるスタンスを生むようなモデルを提案し実習する。

【到達目標】

以下の内容の理解・習得・考察が目標となる。

- ・技術の構造、ルールを理解
- ・集団的技能や個人的技能の実践
- ・ファウンダメンタルの実践と理解
- ・ボールゲーム・チームスポーツ・生涯スポーツの理解と考察

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
スキルテスト→班分け
ワンハンドショット①
- 第2回 ワンハンドショット②
- 第3回 レイアップ、リバウンド
- 第4回 審判法、ルールの理解
- 第5回 第1回目リーグ戦（試しのゲーム、グループ・ワーク）
- 第6回 場所の優先順位
- 第7回 空間へのパス
- 第8回 パス&ラン（グループ・ワーク）
- 第9回 ハーフコート3対3①（グループ・ワーク）
- 第10回 ハーフコート3対3②→4対4（グループ・ワーク）
- 第11回 ハーフコートからオールコートへ（グループ・ワーク）
- 第12回 第2回目リーグ戦（達成度評価ゲーム、グループ・ワーク）
- 第13回 ドリブルを効果的に使う
- 第14回 スキルテスト、ピック・スクリーン（グループ・ワーク）
ノート提出
- 第15回 トーナメントゲーム（グループ・ワーク）
ノート返却

【授業の進め方】

「ゲーム－発問・応答・考察－練習－ゲーム」という流れで授業を展開し、技術練習を毎時間の適切な場面で行うことやゲームにおける戦術的状况の中で技術を用いることで、戦術と技術を関連付けて指導する。そこで戦術的気づき（問題解決能力の選択能力）を助長する。バスケットボールはチームスポーツであるために、他者との関わりグループワークは必須である。また、ほぼ毎時間授業内スキルテスト・資料配布があるのでノート作成を義務づける。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に無いが、日本バスケットボール協会発行の書籍に目を通すと役に立つでしょう。

【参考図書】

バスケットボール競技規則（ルールブック）
JBA公式テキストVOL1～3

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 15% レポート・課題 15% 受講態度 70%

特記事項

授業内スキル到達度、上達度、参加態度、ノート作成

【「成績評価の方法」に関する注意点】

特に出席、取り組み、スキル評価、ノート作成が重視されます。

【履修上の心得】

体育館シューズ・運動できる服装で出席する事。また各自ホイッスルを準備すること。

【科目のレベル、前提科目など】

専門演習

教職の教科の科目

科目名	テニス
教員名	野間 明紀

【授業の内容】

大学卒業後に就職した現場において活用できる様にテニスの基本的技術、理論、ルール等を実技を通して指導していく考えです。

【到達目標】

テニスの基本的な技術及び理論の習得に加えダブルスのゲームができるようになること。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 班分け
- 第3回 ボールに慣れる（初心者）
- 第4回 フォアハンドストロークの練習（基本）
- 第5回 フォアハンドストロークの練習（応用）
- 第6回 バックハンドストロークの練習（基本）
- 第7回 バックハンドストロークの練習（応用）
- 第8回 サーブの練習（基本）
- 第9回 サーブレシーブの練習（応用）
- 第10回 ボレー、スマッシュの練習
- 第11回 ゲーム形式
- 第12回 ゲーム1
ゲームにおいてダブルスの場合、2人でゲームのやり方や、どうやれば勝てるかなどを相談する。
- 第13回 ゲーム2
各コートにおいてダブルスのリーグ戦を行う。
- 第14回 ゲーム3
前回のリーグ戦の結果に基づいてコートを決めダブルスのリーグ戦を行う。
- 第15回 技術チェック

【授業の進め方】

テニスコートが3面なのでグループを3つに分けて（学籍番号順）授業をおこない、最終的に、ダブルスのゲームができるように指導していく考えです

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ・テニスシューズが必要です。
- ・ラケットは貸し出します。
- ・服装は運動しやすいもの（ジーパン等の普段着は不可）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 10% レポート・課題 0% 受講態度 90%

特記事項

授業態度、技術で評価します。

【履修上の心得】

欠席は2回までとし、3回以上欠席した場合、単位は修得できません。遅刻は2回で欠席1回とします。コートの面数の関係上人数制限（24名以下）があります。

【科目のレベル、前提科目など】

1 から 4 年次の選択必修科目です。

科目名	サッカー
教員名	石崎 聡之

【授業の内容】

サッカーの技術・戦術の基本的な習得はもちろんのこと、安全で楽しくゲームを進めるための「手法」を学習する。また、学生同士が先生（コーチ）役・生徒（選手）役に分かれて、テーマ毎に指導実践を行い、「教える」ことの楽しさ、大変さ、奥深さを学ぶ。

※単にサッカーのゲームをする授業ではない。

【到達目標】

- ・サッカーの基本技術・戦術を理解できる。
- ・安全かつ楽しいゲームを実践できる。
- ・指導の基礎を学ぶことができる。
- ・正しい指導実践ができる。

【授業計画】

- 第1回 内容及び展開に関するオリエンテーション
 第2回 道具（ボール・マーカー・コーンなど）を使った遊び（ボールフィーリング）とゲーム
 第3回 ボールを扱う（パス&コントロール）
 第4回 ゴールを目指す（シュートと突破）
 第5回 ボールを奪う（守備）
 第6回 ゴールを守る（グループ戦術）
 第7回 コーチングのポイント
 第8回 指導実践のプランニング
 第9回 指導実践（1）パス&コントロール
 第10回 指導実践（2）観る
 第11回 指導実践（3）守備・ゴールを守る
 第12回 指導実践（4）攻撃・ゴールを奪う
 第13回 指導実践（5）ポゼッション
 第14回 指導実践（6）4VS4+GK
 第15回 指導実践の振り返り、まとめ

【授業の進め方】

基本的には着替えてグラウンドに集合し、授業を始める。授業の前半では、サッカーの技術・戦術の基本的な部分を学習し、後半では前半の内容を基に各学生が指導実践を行う。なお、雨天時などは体育館で行うことがあるので、インドアシューズを用意しておくこと。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない。

必要に応じて資料を配付する。

【参考図書】

サッカー指導教本2016 JFA公認C級コーチ

サッカー指導教本2016 JFA公認D級コーチ

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 10% 受講態度 50%

特記事項

授業態度、指導実践、指導実践計画等から総合的に評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業の欠席が多い学生、指導実践を行わない学生、授業態度が悪い学生は単位を付与しない。

【履修上の心得】

1. 自ら積極的に行動する。
2. 他学生とコミュニケーションを取りながら授業に参加できる。
3. スポーツマンシップを理解し、実践する。

【科目のレベル、前提科目など】

サッカーの技術向上のみならず、指導者としての基礎力がつくことを目的としている。

【備 考】

- ・実技種目ではあるが，筆記用具，バインダーなどを用意すること。
 - ・指導実践の際には，笛，時計などは必ず用意すること。
 - ・授業に遅刻・欠席しないこと(遅刻してもきちんと事情を話すこと)。
 - ・ケガ予防のため，ピアス，ネックレス，時計などは外すこと。
-
- ・スパイクの利用は不可。
 - ・授業の初回と最後は講義をするので着替える必要はありません。

科目名	水泳
教員名	椿本 昇三

【授業の内容】

水泳について理論・実習を学習する。主に、学校体育の水泳指導方法論を理解する。また、自らの水泳技能の向上を目指す。

【到達目標】

1. クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライが正確に泳げるようになる。
2. 水泳の指導方法がわかるようになることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（グループ分け）
- 第2回 初心者指導（水慣れ、水中遊戯）
- 第3回 エレメンタリ-ストローク（初歩的な泳法指導）
- 第4回 泳法指導（クロール）
- 第5回 泳法指導（平泳）
- 第6回 泳法指導（背泳）
- 第7回 泳法指導（バタフライ）
- 第8回 水中ボールゲーム
- 第9回 水中リズム泳
- 第10回 水中運動（ウォーキング）
- 第11回 水中運動（エクササイズ）
- 第12回 水中安全教育（セルフリスクュー）
- 第13回 生涯スポーツとしての水泳（水中運動）
- 第14回 生涯スポーツとしての水泳（マスターズスイミング）
- 第15回 まとめ

集中講義で学外実習を行う。

【授業の進め方】

<学習内容>

1.
 - ・水の物理的特性：「水遊び」と「Elementary stroke（初歩的な泳法）」
 - ・ビート板を用いた遊び（グループ学習体験）の工夫・発表会
 - ・エレメンタリー・ストローク（浮くこと、呼吸をすること、進むことの初歩的な泳法）の体験
2.
 - ・水中での「体ほぐし運動」と「体力作りのプログラム」の趣旨を踏まえた指導
 - ・水中walking(歩行)
 - Forward stride(ナンバ歩き、twist)
 - Backward stride(floating, balance)
 - Side stride(cross, 四股)
3. グループ学習
 - ・感想文の書き方「心・技・体」
 - ・10分間泳後の感想記述による用語の分析（未発表資料）
4. 着衣泳・水中ボールゲーム・リズム泳
5. タイム・泳法の測定と評価

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要に応じて配布

【参考図書】

「タイムを縮めて勝つ!競泳上達のポイント50(コツがわかる本!)」
著者：椿本 昇三 監修：武田 剛 メイツ出版 2010年6月

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 50%

特記事項

- ・泳法検査（25m泳法検査；4種目×5点） 20%
- ・復習のレポート（自己評価と課題） 20%
- ・グループ記録証（グループ活動の記録） 10%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

集中講義で学外実習のため、若干日程が不規則になるので、学生各自の予習復習を重要視する。

【履修上の心得】

集中授業のため、出席が重要視される。

- ・競泳用水着、ゴーグル、スイムキャップ
- ・タオル、T-シャツ、学生教育災害保険加入者のみ

【科目のレベル、前提科目など】

教職の教科の科目

科目名	柔道
教員名	蓬田 正郎

【授業の内容】

柔道の基本である、体さばきや受身の技術向上はもちろん、それらの練習を通して、日常生活における障害防止や護身にも役立つことを学習する。また、固め技や投げ技を習得することによって、技術も向上し柔軟性も高まることを知る。そして、武道としての特性から相手を尊重する態度や、協力する態度を養い、社会人として必要な礼儀作法を身につけるとともに健康・安全に留意することの大切さを学ぶ。

【到達目標】

柔道が正しく安全に指導され、指導法を自ら工夫・研究し、初心者の方でも初心者を指導できるような指導者の育成を到達目標とする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（授業に関する諸注意・進め方・ねらい等について説明）
- 第2回 礼法（座礼・立礼・服装や態度の指導）
- 第3回 投げ技の基本動作（姿勢・組み手・崩し・体さばき・受身）
- 第4回 固め技の基本動作（固め技の体さばき・固め技への入り方）
- 第5回 投げ技の打ち込み（手技・腰技・足技）
- 第6回 立ち技の連絡変化（大内刈りから大外刈りなど）＜グループワーク＞
- 第7回 寝技の連絡変化（けさ固め・上四方固めなど）＜グループワーク＞
- 第8回 寝技の打ち込み
- 第9回 立ち技の投げ込み
- 第10回 寝技の乱取り＜グループワーク＞
- 第11回 立ち技の乱取り＜グループワーク＞
- 第12回 試合の進め方（試合場についての説明）
- 第13回 審判・勝負規定（国内ルールの説明）
- 第14回 審判・勝負規定（国際ルールの説明）
- 第15回 世界の柔道について

【授業の進め方】

柔道場において実技重視で進め、講義と実技を同時に実施する。＜体験学習＞

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない。

【参考図書】

- 『ベスト柔道』 猪熊功・佐藤宣践共著 講談社インターナショナル
- 『寝技で勝つ柔道』 柏崎克彦著 ベースボールマガジン社
- 『闘魂の柔道』 山下泰裕著 ベースボールマガジン社
- 『DVDでわかる！柔道入門』 中西英敏著 若松範彦発行 (株)西東社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%
 特記事項
 実技テスト 40%
 授業中の修学状況 60%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

実技テスト、授業に対し取り組む姿勢を重視し、総合的に評価する。

【科目のレベル、前提科目など】

運動生理学・スポーツコーチング総論

人間生活の基盤となる礼儀作法や基礎体力の増進を、日本の伝統武道である柔道を通して培い現代社会に対応できる能力を身に付ける。

科目名	剣道
教員名	荒井 一美

【授業の内容】

武道は格闘形式の運動であり、打ち合う動作に伴って生じやすい人間の本能的感情を抑制したり、克己心を養うことが大切である。

また、武道は礼儀作法や相手を尊重する態度・公正な態度、さらには健康や安全に配慮する態度が重視される。と考える。今後、生きていく上で必要なこれらの態度を、剣道の試合や練習の場で実践し、体験し学ばせたいと考える。

【到達目標】

修得した技を使い試合ができるようになる。

審判法を理解し、試合を運営できるようになる。

指導法を身につけ、模範を示しながら指導できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 一斉学習（剣道の歴史・基本動作・素振り・足さばき）
スキルテスト(竹刀連打・竹刀縦打ち)
- 第2回 一斉学習（防具のつけ方・一本打ち・元立ちの方法）
スキルテスト(竹刀連打・竹刀縦打ち・跳躍面)
- 第3回 一斉学習（体当たり・引き技・追い打ち）
スキルテスト(連続打ち)試合練習(互角練習・使えた技の発見)
- 第4回 一斉学習（二・三段の技・払い技）
スキルテスト(連続打ち)試合練習(互角練習・使えた技の発見)
- 第5回 一斉学習（応じ技・引き技・出端技・互角練習の仕方について）
スキルテスト(跳躍面)試合練習(互角練習・使えた技の発見)
- 第6回 一斉学習（応じ技・すり上げ技・試合、審判法について）
スキルテスト(跳躍面・すり上げ面)試合練習(試合、審判の練習・使えた技の確認)
- 第7回 一斉学習（応じ技・返し技・試合を3人組で行う）
スキルテスト(面返し胴)試合練習(試合・審判の練習・得意技の確認と練習)
- 第8回 グループ学習（応じ技の研究・団体試合）
スキルテスト(各班で設定した課題をもとに)試合練習(団体戦の方法・得意技の練習と課題の発見)
- 第9回 グループ学習（応じ技の研究・団体試合）※審判員の位置取り
スキルテスト(各班で設定した課題をもとに)試合練習(団体戦の方法・得意技の練習と課題の発見)
- 第10回 実技テスト
- 第11回 指導法の研究・グループワーク(団体戦・審判・記録係等)(各役割の確認)
- 第12回 指導法の研究・グループワーク(団体戦・審判・記録係等)(オーダーの決め方について)
- 第13回 指導法の研究・グループワーク(団体戦・審判・記録係等)(各オーダーの役割について)
- 第14回 指導法の研究・グループワーク(団体戦・審判・記録係等)(審判法の再確認)
- 第15回 個人戦：まとめの試合

【授業の進め方】

- (1) 剣道の礼儀作法や基本動作を正しく身につけ、互いに相手を尊重しながら公正な態度で練習や試合ができる。
(関心・意欲・態度)
- (2) 自己の技能の程度により課題を設定し、その解決のために練習の方法や内容を工夫することができる。
(思考・判断)
- (3) 基本動作と対人的技能を身につけ、簡易ルールでの試合ができる。(技能)
- (4) 練習や簡易ルールによる試合を通じて、剣道の特性や有効打突について理解できる。(知識・理解)

【教科書(必ず購入すべきもの)】

剣道具一式は学校で準備。

竹刀・手ぬぐいと垂れネーム（名札）は各自で用意。（希望者に剣道着・袴・小手下・面下）

【参考図書】

「剣道授業の展開」（財）全日本剣道連盟

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

授業中の修学状況（平常点）：70%

その他（実技テスト・審判法・試合・指導法）：30%

ア. 運動への関心・意欲・態度

- ①自分に適した技を習得し、相手の動きや技に対応した攻防や勝敗を競い合う武道の楽しさや喜びを味わおうとする。
- ②礼儀作法を重んじて相手を尊重し、自分で自分を律する態度を取ろうとする。
- ③勝敗や結果を受け入れようとする。
- ④用具や服装、練習場などの安全を確かめたり、禁じ技を用いないなど、練習や試合をする上での安全に留意しようとする。

イ. 運動についての思考・判断

- ①基本動作と対人的な技能との関連を図っている。
- ②得意技を身につけることができるよう練習や試合の中で、隙や打突する方法を見つけている。
- ③試合では、個人・団体形式や体格別などを踏まえて、それぞれ判定の基準などを選んだりしている。

ウ. 運動の技能

- ①基本動作と自分の能力に適した対人的技能で練習することができる。
- ②自分の能力に適した対人的技能のうちから得意技とすることができる。
- ③得意技で相手の動きに対応した練習や試合をすることができる。

エ. 運動についての知識・理解

- ①剣道の特性や学習の進め方、基本動作や対人的な技術の構造、自分や相手の課題にあった練習や試合の仕方、練習計画の立て方を知っている。

【履修上の心得】

『五気』やる気・元気・本気・根気・活気を持ち、武道の精神を学ぼうとする意欲的な態度で、一緒に授業に取り組みましょう。礼に始まり、礼に終わる。

【科目のレベル、前提科目など】

2011年度より、中学校において武道が必修となりました。それにともない、体育教師にも武道の資格(級や段位)が義務づけられています。

科目名	バレーボール
教員名	大関 孝雄

【授業の内容】

初心者にとっては「難しい、痛い、楽しくない。」と思われることの多いバレーボールを、自らがゲームを楽しめる技術を習得するとともに、指導者として楽しませることができるような指導方法を学習する。

安全管理、技術、指導方法やルールの学習を基本として、主に授業や部活動として行われている競技性の高い6人制と、競技性とレクリエーション性のバランスがとれており、生涯スポーツとしての位置付けが高い9人制の両方について実習していく。

将来の教員・指導者として、技術の習得のみならず、理論やマナー、安全管理も大切にしていきたい。

【到達目標】

指導者としての意識の向上。

バレーボールの技術の向上やマナーを理解することで、自分自身が安全に楽しくゲームを行えるようにする。

指導者として、バレーボールの技術の向上やマナーを理解させることで、生徒や競技者が安全に楽しくゲームを行えるようにする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 施設や用具の点検確認及び設置方法等について
- 第3回 パスの基本と応用
- 第4回 パス、サーブ及びサーブレシーブの練習
- 第5回 パス、スパイク、トスの練習（グループワーク）
- 第6回 パス、ブロックの練習
- 第7回 6人制のゲーム、ルール・審判方法の説明
- 第8回 試合【6人制：サーブとサーブレシーブに重点を置き、勝敗よりもラリーを続けることを意識する】（グループワーク）
- 第9回 試合【6人制：フォーメンションを意識し、サーブレシーブからスパイクまでの動きに重点を置く】（グループワーク）
- 第10回 試合【6人制：攻守の切り換えに重点を置き、ゲーム制を高める】（グループワーク）
- 第11回 9人制のゲーム、ルール・審判方法の説明
- 第12回 試合【9人制：6人制との違いを理解する】（グループワーク）
- 第13回 実技テスト（パス・スパイク）
- 第14回 実技テスト（試合）
- 第15回 救急処置【2人1組で足首のテーピングをしあうことで、より理解を深める】（グループワーク）、試合

【授業の進め方】

上記の講義内容について、漠然と技術のみを練習するのではなく、技術、ルール、施設・用具等の説明を記載したプリントを利用してポイントやコツ、安全性を学びながら技術を習得する。また、必要に応じてプリントに書き込み、教員や指導者としての意識も高める。

チームスポーツとしての性格上、すべての技術には関連があり、また他者とのコミュニケーションは必要不可欠である。その為、試合だけでなく、すべてにおいてグループワークは重要視している。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

資料は配付します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 80% レポート・課題 0% 受講態度 20%

特記事項

実技試験における技術点を基準とし、積極性、授業態度（安全に対する意識やマナーも含む）、授業への貢献度（準備・かたづけ・デモンストレーション・審判等）等で加点減点をし総合的に評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績については総合的に判断するため、実際の授業の様子により評価方法の比率を変更することもあります。

【履修上の心得】

- 1、運動着・体育館用シューズ・筆記用具を用意すること。
- 2、怪我防止の為、アクセサリ類（指輪・ネックレス・ピアス等）や爪は注意して欲しい。
- 3、授業態度（安全に対する意識やマナーも含む）等、技術以外の部分も重視します。
- 4、将来、指導する立場になることを意識して欲しい。

科目名	野球(ソフトボール)
教員名	金田 健史

【授業の内容】

生涯スポーツが叫ばれる今日、自分の選択したい興味関心を持つスポーツを選択することにより、今後自分が運動・スポーツに関わる際の基礎知識、応用的なプレーや試合の楽しみ方を学習していく。また、ただ単に自分がプレーすることだけでなく、男女混合、技術のばらつきを考慮したチーム編成などによって、状況に適した練習、試合でのルール作りなどについて考える力を養う。

さらに、実技種目は多くの仲間と交流できるよい機会であるので、学年を問わず積極的に授業に参加し、新しい仲間、関係作りを目指してもらいたい。

【到達目標】

ソフトボールというチームスポーツの中で、個人の技術の向上だけでなく、チームとして成熟していく過程を体験し、チームスポーツの楽しさを感じる。

投げる、捕る、打つという動作の基礎とルール、そして男女が一緒におこなうことができる本授業独特のルールを用いることで新たなソフトボールの楽しみかたを考える。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（班分けや授業内容、道具の使い方、ルールの確認）
- 第2回 キャッチボール（ボールの握り方、投げ方）、ボールハンドリング
- 第3回 スイング（バットの握り方、振り方）、トスバッティング
- 第4回 キャッチボール（ワンバウンド送球、捕球）、前後左右のボールへの対応
- 第5回 スイング（打球のポイントと打球方向）、シャトル、テニスボールを用いての打撃練習
- 第6回 守備技能：打球への対応、ゴロ処理
- 第7回 打撃技能：ティーバッティング、ハーフバッティング
- 第8回 チーム毎での課題練習（守備：内野ゴロ処理、外野フライ捕球）、男女混合でのゲーム
- 第9回 チーム毎での課題練習（打撃：ゴロやフライを意識的におこなう）、男女混合でのゲーム
- 第10回 チーム毎での課題練習（守備：ダブルプレー、野手間フライ）、男女混合でのゲーム
- 第11回 チーム毎での課題練習（打撃：引っ張り、流し打ち）、男女別でのゲーム
- 第12回 実践を意識したチーム練習（ランナーがいる状況での内野守備）、男女混合でのゲーム
- 第13回 実践を意識したチーム練習（シートバッティング、ゴロ打ち）、男女混合でのゲーム
- 第14回 実践を意識したチーム練習（ケースバッティング）、男女混合でのゲーム
- 第15回 男女別でのゲーム、まとめ

【授業の進め方】

90分間を大体半分に分け、授業の前半は基礎技術の練習を中心に行ない、後半は試合を取り入れるという流れで行なう。授業回数を重ね、試合が円滑に行える状態になった段階でリーグ戦へと移行していく。

各チームでの課題練習やチーム練習においては各チームにおける課題を見つけ、グループで課題を改善するために話し合い、練習内容を決定する。合わせて、練習後におこなう実践において課題が解決したかについて検討し、次回の授業におけるチーム練習において生かす取り組みをおこなう。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業時における服装、シューズ

- 1)服装：ジャージ、トレーナー、Tシャツなど運動に適した服装であれば構わない。高校までに使っていたもので可。Gパン、スカートなどの私服は不可。
- 2)シューズ：運動靴であれば可。野球や陸上などの金具のスパイクは不可。
なお、雨天時には室内で実技をおこなう可能性があるため、室内履きも用意しておくこと。

【参考図書】

うまくなるソフトボール、吉村 正、ベースボール・マガジン社
 図解野球・ソフトボールの教室、功力靖雄、北隆館

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

成績は授業への取り組み、技能の習熟度、技術的な上達度、授業内での態度、積極性やチーム活動への貢献度から総合的に評価する。

授業への取り組み(60%)

技能の習熟度、技術的な上達度(20%)

授業内での態度、積極性やチーム活動への貢献度(20%)

【履修上の心得】

実技科目は講義科目に比べて本人が授業の中で実際に取り組むことが重要であるので,基本的に病気等による場合以外の欠席は認めない.

このため,出席率が全授業回数の80%を超えることが最低条件である.

【科目のレベル、前提科目など】

中学校・高等学校(保健体育)の教員免許取得に関わる科目

科目名	ラグビー
教員名	齊藤 武利

【授業の内容】

団体球技系スポーツ種目、特にチームスポーツとしてのラグビーを研究するにあたり、必要となるラグビー競技の特性を理解する。わが国における青少年のラグビー指導のあり方を検証する。また、ラグビーの指導法研究を推進するための専門的な知識と指導能力を得ることを目標とする。

/Increase awareness about Rugby as a Team sport rather than a Power sport.

【到達目標】

ラグビー競技の競技特性を理解し、さまざまな技術構造を正しく理解して、個人スキル、ユニットスキルについて安全に実践する。女性については、ノンコンタクトのリードアップ競技として、「フラグフットボール」「タグラグビー」等を正しく実践できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 ラグビーの特性と特徴について理解する
 ・ラグビーの歴史と基本原理 (Rugby history)
 ・ラグビー憲章(Playing charter)について
- 第2回 ラグビーのゲーム構造(7人制と15人制)について理解する。
 7人制と15人制の違いについて、グループで討議し、その相違について整理して、発表する。
 VTR教材等を用いて、実際のプレーの相違について、整理する。
- 第3回 ラグビーのスキルとドリルの実践
 ・ハンドリングスキルとドリル その1 パス
- 第4回 ・ハンドリングスキルとドリル その2 スピンパス
- 第5回 ・ハンドリングスキルとドリル その3 簡易ゲーム
 (簡易ゲームについては、VTR等の映像確認しながら、グループ内で討議、互いに修正し、チームでの向上を目指す)
- 第6回 ・キッキングスキルとドリル その1 パントキック
- 第7回 ・キッキングスキルとドリル その2 プレースキック
 プレースキックについては、グループ内で観察、討議、修正を繰り返して上達を計る。
- 第8回 ・キッキングスキルとドリル その3 ドロップキック
- 第9回 ・コンタクトスキルとドリル その1 コンタクトバックによる
- 第10回 ・コンタクトスキルとドリル その1 対人による
- 第11回 ・コンタクトスキルとドリル その3 ラック&モール
- 第12回 ・ラインアウトスキルとドリル
 ・ユニットスキル (fws bks)
 ・チームスキル その1 (連携のとれた連続プレー)
- 第13回 ・スクラムスキルとドリル
 ・ユニットスキル (fws bks)
 ・チームスキル その2 (15人制でのサインプレーを考え、即時にVTRを見て、修正検討する)
- 第14回 ・ユニットスキル (fws bks)
 ・チームスキル その3 (相手をつけて、チームで活動する)
- 第15回 実技テストとまとめ

ラグビーのコーチング、および指導方法についても同時に実施する。

(男女別で実技は実施し、女性については、小、中学生を対象としたノンコンタクトの教材を用いて授業を行うこととする。)

- ・各種リードアップゲームについて
- ・タグラグビー(Tag Rugby)、フラグフットボールについて
- ・タッチラグビーについて

【授業の進め方】

必要な資料は、必要時に配布し、特に教科書は指定しない。

経験したことのない受講生がほとんどの場合、1、2回は、ゲーム理解のための見学等を実施する予定である。

(watch Live training session)

【教科書(必ず購入すべきもの)】

OHP、VTR、映像遅延用ICTソフトなど視聴覚教材を使用する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 20% 受講態度 40%

特記事項

理論および実習形式の授業なので、経験することを優先する。

チームスキルを遂行するために、チームやグループ内で協力して活動できることが前提である。

成績の評価は、実技課題の遂行状況、およびレポートおよび実技テスト評価。

【履修上の心得】

今後、ラグビーの指導者を志すもの。あるいは、ラグビーに関係した専攻科目を希望するものは、コーチング実技の課題を並行して行う。

Rugby player students to participate in teacher/coaching class/session

コンタクトスポーツのため、「学生教育研究災害傷害保険」に必ず、加入していること。

女性は、ノンコンタクトのゲーム、フラッグフットボール、タグラグビー (TAG-Rugby) を中心に行うので、小学校教員免許取得希望者は、体験することが望ましい。

【科目のレベル、前提科目など】

グラウンドは、人工芝のグラウンドである。実際に実技を実施する時、汚れても問題のない、運動できる服装をすること。

安全性確保のため、実技のときに、金属類、装飾品については、装着を認めない。

他専攻教員免許を取得の学生の履修も、本授業では、積極的に認める。

科目名	体づくり運動
教員名	本谷 聡

【授業の内容】

「体づくり運動」は、主に「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」で構成されている。平成20年に小学校および中学校学習指導要領、平成21年に高等学校学習指導要領が改訂され、「体づくり運動」は、より一層、充実した実践をすることが求められる領域に位置づけられた。また、「体づくり運動」は、学校教育における小学1年生から高校3年生までのすべての学年において充実した実践が求められている唯一の必修領域でもある。

そこで、各学年におけるねらいや課題に応じた運動を理解するとともに、実践したり、お互いに指導したりしながら、実践力ならびに指導力の育成を目指す。

【到達目標】

1. 目的に応じた運動の行い方を理解し、動き方を創意工夫することができる。
2. 仲間と協力し、楽しくかつ安全に運動を行うことができる。
3. 体をほぐすための運動、体力を高めるための運動を指導できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の方法、諸注意）
 第2回 体ほぐしの運動（仲間と交流する）
 第3回 体ほぐしの運動（体の調子を整える）
 第4回 体ほぐしの運動（心と体の関係にきづく）
 第5回 体力を高める運動（ペアでの運動）
 第6回 体力を高める運動（グループでの運動）
 第7回 ペア・グループ運動の演技構成と指導
 第8回 体力を高める運動（Gボール：基本）
 第9回 体力を高める運動（Gボール：発展）
 第10回 体力を高める運動（縄：基本）
 第11回 体力を高める運動（縄：発展）
 第12回 体力を高める運動（オリジナル用具：基本）
 第13回 体力を高める運動（オリジナル用具：発展）
 第14回 各用具を活用した演技構成と指導
 第15回 各用具を活用した演技発表

【授業の進め方】

実技中心の授業である。体づくり運動の目標やねらいに応じて、ひと（個人、ペア、グループ、全員）、もの（様々な用具）、おと（音楽）を用いた課題を実践しながら理解を深めると同時に、指導能力の育成にも努める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特になし（関係の書籍全般）。必要に応じて資料を配布する。

【参考図書】

- ・佐伯年詩雄ほか編、本谷聡ほか：2016中学体育実技 体づくり運動、学習研究社、p5-32、2016
- ・野村良和、長谷川悦示、本谷聡監修：小学校体育実技DVD体づくり運動1－低学年の体づくり運動－、東京書籍、2009
- ・野村良和、長谷川悦示、本谷聡監修：小学校体育実技DVD体づくり運動2－中学年の体づくり運動－、東京書籍、2009
- ・野村良和、長谷川悦示、本谷聡監修：小学校体育実技DVD体づくり運動3－高学年の体づくり運動－、東京書籍、2009
- ・深瀬吉邦、本谷聡：おとなのためのGボール運動あそび、ギムニク、p1-131、2001

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 0% 受講態度 50%

特記事項

授業内小試験は演技発表を含む。

【履修上の心得】

ペアまたはグループでの活動を主とする。

科目名	体育・スポーツ経営学
教員名	藤井 和彦

【授業の内容】

体育・スポーツ経営学は、スポーツ科学の中でも特に「人とスポーツとの関わり」を問題にする点に特徴のある学問である。今日の多様な体育・スポーツ現象を視野に入れながら、体育・スポーツ経営学の基礎的な理論を解説する。この学問は歴史の浅い学問ではあるが、その時々々の体育やスポーツの実践現場における「管理」や「経営」といった営みの必要性に応える形で発展してきた。「体育管理学」から「スポーツ経営学」への流れを理解し、「体育・スポーツ経営」とはどのような活動かを理解することを目的とする。学校体育や地域スポーツ、生涯スポーツといった実践領域において「人とスポーツとの関わり」の現状にどのような課題があり、どのような経営の働きが求められているのか、自分なりの見解を持つことができるようになることを講義の最終的な到達目標とする。

【到達目標】

- ・体育・スポーツ経営学の概念が説明できる。
- ・今日の日本社会における体育・スポーツ現象に関する基礎的な知識を深める。
- ・そうした体育・スポーツ現象をスポーツ経営学的な視点からみることができる。

【授業計画】

- 第1回 体育・スポーツへの「接近行動」を考える～少子高齢化と健康・スポーツの現状～
 第2回 「経営」の意味と体育・スポーツ経営学の概念・構造
 第3回 「運動者」と「運動生活」
 第4回 「運動者行動」の捉え方(1)接近行動の有無と実質性
 第5回 「運動者行動」の捉え方(2)運動生活の類型化
 第6回 体育・スポーツ事業論：概念編 施設・プログラム・クラブの概念
 第7回 体育・スポーツ事業論：実態編(1)スポーツ施設をめぐる今日の動向
 第8回 体育・スポーツ事業論：実態編(2)スポーツプログラム・イベントの変遷と現状
 第9回 体育・スポーツ事業論：実態編(3)地域スポーツクラブの必要性和意義
 第10回 マネジメント機能と経営評価の考え方
 第11回 我が国のスポーツ・健康づくり施策（スポーツプロモーション）の変遷
 第12回 スポーツ・健康づくり施策の考え方と推進体制
 第13回 スポーツ・健康づくり関連予算の現状
 第14回 スポーツ・健康づくり推進の様々な主体（競技団体や各種団体の現状）
 第15回 まとめと試験対策

上記の内容を中心に構成するが時間（時限）の配分は適宜調整しながら進める。

【授業の進め方】

講義形式で進めるが、数回はグループによるディスカッションやその結果のプレゼンテーションなども織り交ぜて進めていく。

下記の参考テキストの内容に対応した講義ノート（資料）を毎回配布する。講義では、解説を聞きながら各自がその講義ノートを作成していくことになる。講義の終わりには「講義の感想・質問票」を毎回提出する。その他、2-3度のレポート課題を課す。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

「体育・スポーツ経営学講義」

八代勉・中村平編著

大修館書店 2200円＋税

を参考テキストとする。体育・スポーツ経営学の入門書として購入することを薦める。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

定期試験の内容には、テスト1回（期末）、レポート学期2-3回を含む。

レポートの提出は必修とし単位取得のための条件とする。

試験は、配布された講義ノートを範囲として持込を不可として実施する。キーワードに関する穴埋め問題と、論述問題から構成される。

受講態度は、毎回の「講義の感想・質問票」の内容、講義に臨む態度を判断し各回加算し評価の材料とする。

【履修上の心得】

教職のために必要な科目であるばかりでなく、体育・スポーツの専門家として体育・スポーツ経営の考え方を理解し

ておくことは不可欠であると考え、その自覚を持って授業に臨んでいただきたい。
履修年次は2年次を標準と考えている。

【科目のレベル、前提科目など】

体育社会学、スポーツ行政論、スポーツ・マーケティングなど

体育・スポーツ経営学の概論、入門編と位置づける。関連科目の学習やゼミナールなどの演習を通して更に理解を深めて行くことを期待する。

【備 考】

健康運動指導士資格取得のための「健康づくり施策概論」箇所に対応した授業でもある。

科目名	スポーツ社会学
教員名	中村 祐司

【授業の内容】

現代社会における体育・スポーツをめぐる今日的な諸問題について、学校体育や地域スポーツからプロスポーツ、メディアとの関連まで、いくつかの事例を通して、政治・経済・文化・教育との関連から、あるいは高度化・大衆化といった点から考察を加える。また、スポーツレジャー産業やスポーツ・文化産業といった余暇産業に関わる民間企業によって形成される市場の動きにも注目する。スポーツ社会を単にスポーツ選手やスポーツ愛好者のみで構成される固有な社会としてではなく、さまざまな諸アクターが参入する小世界（マイクロコズム＝microcosm）における相互作用のダイナミズムとして認識する。グループ討議の実施も視野に入れつつ、現代スポーツ世界を多角的に検討することによって、スポーツが人間社会に果たす役割と課題を明確にしていきたい。具体的な授業の進め方としては、主要な新聞報道を情報源として、その時々スポーツ関連社会に関わる課題を取り上げていくこととする。2011年3月11日の東日本大震災以後の地域スポーツ環境の変容やスポーツ事業を通じた地域社会の再構築、スポーツ基本法の制定(同年6月)後の国家スポーツ・地域スポーツ・コミュニティスポーツをめぐる動態の変化と可能性、2020年東京五輪開催をめぐる社会的諸課題や新たな社会構築の可能性などを取り扱う。

【到達目標】

スポーツと社会に関わる様々な課題について、新聞報道をもとに、事例に沿った形で考察する力を受講生が身につけること。

【授業計画】

- 第1回 スポーツ社会学は何を研究するのか。具体的なスポーツ社会学に関わる課題として何が挙げられるか復習の中で提示する（30分）。
- 第2回 スポーツ社会とスポーツ活動。スポーツの社会的認知をめぐる具体的な課題を列挙してくる（60分）。
- 第3回 スポーツ社会を担う人々。スポーツ関連活動に従事する人に焦点を当て、それが地域社会に及ぼす影響について考察する（60分）。
- 第4回 スポーツをめぐる社会、政治、経済。社会、政治、経済の動きの中でスポーツとの関わりがある事例を挙げ、その在り方について各自の考えをまとめる（60分）。
- 第5回 スポーツ社会を生きる。国や地方自治体のスポーツ政策の意図と個人的なスポーツ活動の動機について、両者の性格の違いを各自で明確にする（60分）。
- 第6回 スポーツ社会とスポーツコミュニティ。コミュニティスポーツ活動に関連した国家・自治体・企業予算にはどのようなものがあるか列挙してくる（60分）。
- 第7回 スポーツ社会が直面する課題。スポーツの社会的活動を拡充するためのコストとその調達方法について各自が事例を挙げて考察する（60分）。
- 第8回 スポーツの社会化と社会のスポーツ化。地域スポーツクラブ等の社会的貢献にはどのようなものがあるのか事前に列挙してくる（60分）。
- 第9回 スポーツ社会と全般社会。たとえば震災復興においてスポーツ活動が社会の再構築に貢献する事例には何があるのかを考える（60分）。
- 第10回 スポーツ社会は何を目指すのか。スポーツが社会的に浸透することの価値を具体的に挙げる（60分）。
- 第11回 スポーツ社会における組織、人、制度、法律、ルール。制度や法律がスポーツ社会の構築とどのようなに関わっているのかについて考察する（60分）。
- 第12回 スポーツの社会的貢献とは何か。オリンピックなど大規模スポーツ大会のレガシーとは何かについて挙げる（60分）。
- 第13回 スポーツ社会の過去、現在、未来。授業で取り上げたキーワードについて各自復習する（30分）。
- 第14回 スポーツ社会と国家、世界。授業で取り上げたキーワードについて各自復習する（30分）。
- 第15回 これからのスポーツ社会学。これまでの授業内容について復習する（120分）。

その時々新聞報道をもとに授業を進めていくが、たとえば具体的な項目事項は以下ようになる。

1. 体育・スポーツ社会学研究の意義
2. 学校体育施設と地域のスポーツ活動
3. 公共スポーツ施設と地域社会
4. 体育・スポーツの歴史と社会
5. 体育・スポーツの高度化と大衆化
6. 中央政府・地方自治体と体育・スポーツ
7. 産業市場における体育・スポーツ
8. 国家戦略と体育・スポーツ活動
9. レジャー・余暇活動と体育・スポーツ
10. 体育・スポーツ社会のこれからの課題—ブラジルの場合との比較を含む—
11. 地域社会におけるプロスポーツの新たな役割—ブラジルの場合との比較を含む—

12. 企業スポーツの変容とスポーツクラブ運営の試行錯誤
13. スポーツ関連商品の市場における課題—ブラジルの場合との比較を含む—
14. スポーツ基本法と社会におけるスポーツ活動の新たな役割
15. スポーツ活動がもたらす恩恵の新しい可能性を求めて—リオデジャネイロ五輪をめぐる諸課題を含む—
(なお、各講義の素材は主に新聞報道を用いる)

【授業の進め方】

体育・スポーツを研究の対象とする意義について認識させた上で、日本とイギリス・オーストラリア、ブラジルなどの事例を挙げつつ、現代社会における体育・スポーツ活動は変容しつつあることを指摘する。そして、体育・スポーツを取り巻く様々な課題、例えば、サッカーワールドカップ大会やオリンピック大会のような大規模スポーツイベントが国家戦略やスポンサー企業の経営戦略とどのように絡み合っているのかについて論じる。また、消費活動としての「見るスポーツ」など、現代社会において体育・スポーツ活動の置かれている特異性についても触れる中で、体系的・多角的に体育・スポーツ社会を把握していきたい。なお、講義では受講生に対する問いかけを心掛ける。ネット情報もスクリーン等に提示しつつ積極的紹介する。なお、ICT活用の指導内容として、関連のネット情報も積極的に活用し、スクリーン上に投影しつつ授業を進めるケースもある。また、授業の中で教員から受講生に対して課題を投げかけ、教員と受講生との間でのやり取りあるいは受講生間でのグループ討議を行う時間帯を設ける。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

とくに教科書は用意しないが、板書が中心となるのでノートを必ず用意すること。

【参考図書】

必要に応じて資料を提示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

期末テスト、平常点（授業への貢献、積極性、発言等）

期末テスト70%、平常点30%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回の授業に出席して説明を理解しながら、板書内容をノートに取ることが大切。

【履修上の心得】

どのようなものであれ、体育・スポーツとこれに関連する課題に対する問題意識を持って授業に臨んでほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

体育・スポーツ活動に従事しているかいないかにかかわらず、また、好き嫌いにかかわらず、体育・スポーツに対する何らかの関心を有していることを受講の前提としたい。また、関連科目として「スポーツ行政論」がある。どちらかといえば、この授業ではスポーツに関わる社会動態を広範に把握する一方で、近隣社会やコミュニティレベルにおける社会的活動としての多くのスポーツの諸事例についても紹介していきたい。

【備考】

講義内容を理解しつつ、ノートを取ることが大切である。

科目名	運動生理学
教員名	金田 健史

【授業の内容】

生理学で学習した内容を基礎として、神経系、骨格筋系、呼吸循環系などの諸機能が運動・スポーツをすることに対してどのように関わっているか、また体育・スポーツ場面において実際に関連している応用的知識について、基礎的知識の確認も行ないながらしっかりと理解する。

上記の目的は運動生理学、スポーツ生理学を通じて同一と考えている。

【到達目標】

運動生理学に関する基本的な知識を獲得する。

これまでに学習してきた身体に関する知識と、生理学的知識を結びつけ、理解を深める。

【授業計画】

1. 運動生理学の概要. 我々人間にとって、運動はどのような役割を果たしているか？運動の必要性について考える。
2. 呼吸機能の概念、呼吸器の構造と機能、換気
3. ガス交換、肺換気量の変化、酸素摂取と酸素負債
4. 酸素摂取量と酸素負債、持久力の指標（最大酸素摂取量、乳酸性作業閾値（LT））
5. 脳・神経系の働きと分類、脳の構造と機能
6. 大脳皮質の区分と機能局在、大脳皮質の細胞構造
7. 脊髄の構造と機能、末梢神経系、運動単位
8. 運動単位の活動パターン、筋力に影響する要因（神経系）、筋力増強のメカニズム
9. 筋パワー、骨格筋で起こる変化
10. 骨格筋の感覚器、反射
11. 小脳、大脳基底核の構造と機能
12. 血液の働き、血液の組成と機能
13. 貧血、免疫機能
14. 運動と内分泌系の働き
15. まとめ
16. 定期試験

【授業の進め方】

授業では、パワーポイントなどを用い、視覚的にイメージをしやすいようにし、またプリントなどから復習できるように進めていく予定である。

ほぼ毎回の講義において講義終盤の15分程度を本日の振り返り課題に充てる。これは当日の講義で解説した内容を問うものであり、資料等を参考に個人で解いても、任意のグループで話し合っって解いてもよい。この振り返り課題は講義内容から出された課題であり、この課題について自分の言葉で説明することにより、自分の理解が十分でない点や理解できた内容を確認するためのものである。また、次回講義の最初に振り返り課題について再度説明をした上で新しい学習内容について学びを進めていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- 運動生理学20講 第2版（朝倉書店）
- トレーニング生理学（杏林書院）
- 運動適応の科学（杏林書院）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

成績は定期試験において評価する。

【履修上の心得】

一年次に履修した生理学において学習した内容をさらに深めて授業を進めていくため、生理学を履修した後、本講義を受講することが望ましい。

【科目のレベル、前提科目など】

生理学、スポーツ生理学、専門演習AB
 専門科目、教員免許取得に必要となる単位
 健康運動指導士養成校制度での認定科目

科目名	スポーツ科学入門
教員名	体育担当教員

【授業の内容】

スポーツ健康専攻の学生の導入科目として、スポーツ科学の全体像を解説する。「スポーツ」は万人に認知された一般的な用語であるが、学問の対象としてどの様に捉えられるのか。「スポーツ」という用語の定義、身体や運動に関わる知識、「スポーツ」という現象の理解、その歴史や現状、「スポーツと人との関わり」など、様々なスポーツをめぐる学問的「切り口」をオムニバス形式で解説する。

【到達目標】

これから4年間の専門的学びのスタートに際し、スポーツ科学全体に対する興味関心を高めると同時に、カリキュラムに設定されている各科目の特性や位置づけに関する理解を深め、一人ひとりが自らの専門性を構築していく土台づくりとなる知識の獲得を目指す。

【授業計画】

- 第1回 スポーツ科学入門の授業計画と進め方
- 第2回 保健科教育の意義やあり方
- 第3回 体育科教育の意義やあり方
- 第4回 スポーツ運動学から運動のコツを考える
- 第5回 運動学習と動機付け：内発的動機付けとしての「楽しさ」
- 第6回 運動生理学から考えるパフォーマンス
- 第7回 持久的運動への理解と長距離選手のトレーニング
- 第8回 いろいろな持久力を測定する
- 第9回 スポーツ栄養の意義と現場における栄養サポートの実際
- 第10回 競技力向上とスポーツ医科学の功罪（ドーピング含む）
- 第11回 バスケットボールにおけるチーム育成
- 第12回 チーム戦術から個人戦術を考える
- 第13回 コーチングからとらえるスポーツマンシップを考える
- 第14回 スポーツと豊かに関わるとはどのようなことか
- 第15回 ゲストスピーカー

【授業の進め方】

講義形式で行う。オムニバス形式のため各回完結の講義となる。各週の担当教員より授業の感想や小レポート等の課題が提示される。定期試験は実施せず、各回に提示されるレポートの総合点と出席状況を成績評価の対象とする。

各回のレポート提出にはWebClassを使用する場合と紙媒体での提出があるが、取り扱い等の詳細はオリエンテーションおよび各回の担当教員より説明する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

各回の担当教員より、必要に応じてその都度資料が配付される。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

平常点（各回の感想）および各回のレポートで評価を行う。

【履修上の心得】

大学での学びは、講義科目といえども全て受け身の姿勢ではいけない。質問や感想などを積極的に述べ、主体的な姿勢で授業に参加すること。この科目に対する取組姿勢が4年間の大学生活への取組姿勢に反映するといっても過言ではない。重要な導入の科目として高い意識で取り組むことを期待する。

【科目のレベル、前提科目など】

なし。

本科目が、スポーツ健康専攻の専門科目の前提となる。

スポーツ健康専攻1年生の必修科目

科目名	解剖学（基礎）
	－人体とはどのようなものなのかを知る－
教員名	小野 誠司

【授業の内容】

解剖学は身体の構造とその働きを理解する上で必須の学問である。

医学部の解剖学とは異なり、将来保健体育、スポーツ分野や児童教育に携わる諸君に実際に役立つ実践的な解剖学を学んでもらうことを目的にする。

そのため単に、身体部位の名称を暗記するだけでなく、人体とはどのようなものかを学ぶためにその構造と機能について幅広く講義していきたい。

【到達目標】

人体の動きを筋骨格系を通して説明することができる。

人体の諸内臓の所在とその形態と機能を説明することができる。

人体の活動を制御する仕組みを説明することができる。

解剖学を学ぶことの面白さや必要性を発見できる。

【授業計画】

- 第1回 解剖学総論
- 第2回 筋骨格系の構造と機能
- 第3回 上肢の構造と機能
- 第4回 下肢の構造と機能
- 第5回 体幹と骨盤の構造と機能
- 第6回 骨、関節の運動（単関節筋と多関節筋の働き）
- 第7回 脊柱、胸部の構造と機能
- 第8回 頭頸部の構造と機能
- 第9回 脳神経系の構造と機能
- 第10回 心肺機能
- 第11回 消化器の解剖と機能
- 第12回 肝臓の機能とアルコール代謝
- 第13回 腎機能のしくみ
- 第14回 循環器系の構造とその働き
- 第15回 まとめ

【授業の進め方】

配布資料並びにスライドによる講義を行なう。

単に人体の部位についての説明ではなく、なぜこのような構造になっているかを理解できるように多くの画像を用いて進める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

講義ノートとして配布資料を用いる。

【参考図書】

学内、図書館内所蔵の解剖学書を閲覧する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

定期試験

授業の出席、受講姿勢

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎講義終了時 5分間程度のチェック試験 15回 30点（1回受講毎に2点 所定用紙 記名方式）とする。

【履修上の心得】

講義は受講者を含む全員で作上げるものです。

大学生としての基本的なマナーは厳守する。

問題意識を持って聴講する。

科目名	トレーニング論 I
教員名	齊藤 武利

【授業の内容】

スポーツ場面における様々なトレーニングについて、多角的（体力的、精神的、技術的、戦術的）に捉えて、トレーニング全般を概説し、スポーツ現場におけるトレーニングの方法論等についても言及する。特に、スポーツ指導者の視点に立って、発育発達、老化や性別など様々な体力トレーニングの意義や方法等についても概説する。トレーニング論 1 では、特に体力トレーニングを中心に概説する。

【到達目標】

スポーツパフォーマンスの評価について、知識を増やし、トレーニングの原理、原則等について、正しく理解する。トレーニング計画の立案ができるようになり、特に、体力トレーニングの方法等については、客観的な観点から分析、検討できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 概要の説明、ならびに体力について
- 第2回 トレーニングの原理、原則について
- 第3回 トレーニングの条件およびトレーニング強度について
- 第4回 筋力増強のメカニズムとトレーニング効果について
- 第5回 体力テストの活用と筋力トレーニング（筋持久力、筋パワー増大）の方法とその効果について
- 第6回 有酸素能力向上（エアロビックス）のためのトレーニング方法（高地トレーニング含む）と効果について
- 第7回 発育、発達や加齢とトレーニング目標、計画について
- 第8回 障がい者に対する運動指導とトレーニングの目標と計画について
- 第9回 運動行動の変容が健康生活に及ぼす影響について（1）
- 第10回 運動行動の変容が健康生活に及ぼす影響について（2）
- 第11回 運動プログラム作成における注意点（運動強度、時間等と心拍数、自覚的運動強度の変化）
- 第12回 運動プログラム作成における注意点（運動の様式、種類の違いによるエネルギー消費量）
- 第13回 運動プログラム作成における注意点（服薬者に対する対応、薬物療法と運動療法との関連性）
- 第14回 <体力トレーニングの具体的な方法について>
各スポーツ競技、スポーツ種目別の専門的トレーニングの方法と効果①
- 第15回 各スポーツ競技、スポーツ種目別の専門的トレーニングの方法と効果②
- 第16回 テスト

数回の授業を一単位としてとらえ、各単位ごとに、各自の理解度の確認のためにレポート等の課題が出される。

【授業の進め方】

教科書は、特に指定しない。

参考となる図書等については、その都度、授業中に紹介する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

OHP、VTRなど視聴覚教材を使用する。
また、必要に応じてプリントを配布する。

【参考図書】

スポーツトレーニングの基礎理論。スポーツ・トレーニング理論

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 10% レポート・課題 10% 受講態度 0%

特記事項

全体の2/3以上の出席が試験を受けるため、もしくはレポート提出のための前提条件です。2/3以上、出席した学生のみ、最後に、試験もしくは、レポートの提出によって、成績評価を実施。

【履修上の心得】

トレーニング実習Ⅱは、この科目を修得後に履修した方がよい。

【科目のレベル、前提科目など】

生理学、解剖学を受講済みの方がよい。
スポーツ健康専攻の専門科目

科目名	トレーニング論Ⅱ
教員名	齊藤 武利

【授業の内容】

スポーツ場面における様々なトレーニングについて、多角的（心理的、技術的、戦術的）に捉えて、トレーニング全般を概説し、スポーツ現場におけるトレーニングの方法論等についても言及する。特に、スポーツ指導者の視点に立って、発育発達、老化や性別など様々な体力トレーニングの意義や方法等についても概説する。

トレーニング論Ⅰでは、主に、体力トレーニング等を概説したため、トレーニング論Ⅱでは、技術トレーニングと戦術トレーニングの実際について、主に概説する。また、スポーツ現場で実施されている様々な複合的な、トレーニング方法等についても、紹介する。

【到達目標】

トレーニング論Ⅱでは、技術トレーニングと心理、戦術トレーニングの実際について、正しく理解する。また、実際にさまざまなスポーツ現場で実施されている、複合的で多岐にわたる多くのトレーニング方法等について、客観的な視点から正しい理解をして、検証しすることができる。

【授業計画】

- 第1回 トレーニング論1の復習と体力トレーニング論のまとめ
トレーニング論2の概要とオリエンテーション
- 第2回 具体的な体力トレーニングの実際について
- 第3回 スポーツの技術と技術的トレーニングの現状と方法について
- 第4回 スポーツ活動、ならびに運動の分析と技術獲得の方法論について
- 第5回 技術獲得と運動学習との関連性について
- 第6回 技術トレーニングの方法論に関する一般的原則と理論
- 第7回 特殊環境下（高温環境、寒冷地、高地低酸素）におけるパフォーマンス向上のための体力、技術トレーニングの実際と問題点
- 第8回 戦術的トレーニングの現状と方法
スポーツ場面における戦略的、戦術的活動とは
- 第9回 戦術トレーニングとは、戦略的トレーニングの方法とは
- 第10回 戦術トレーニングのコーチングへの一般的な活用法について
- 第11回 戦術トレーニングと様々なスポーツ場面のサポートについての関連性について
- 第12回 最新のスポーツ戦術活動の実情について
- 第13回 我が国における戦術的トレーニングの方法と効果について
- 第14回 集団的スポーツ種目、団体球技スポーツにおける戦術トレーニングの実際
- 第15回 心理的トレーニングの現状と方法
メンタルトレーニングとイメージトレーニングの実際
- 第16回 テスト

最新の戦術トレーニングの実際について、
各種スポーツ競技、スポーツ種目別の専門的トレーニングの方法と効果についても紹介する。

【授業の進め方】

OHP、VTRなど視聴覚教材を使用する。また、必要に応じてプリントを配布する。
課題について、グループでの討議、発表形式の時間もある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は、特に指定しない。
参考となる図書等については、その都度、授業中に紹介する。

【参考図書】

スポーツ技術のトレーニング。スポーツの戦術入門

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 10% レポート・課題 30% 受講態度 20%

特記事項

全体の2/3以上の出席が 試験を受けるため、もしくはレポート提出のための前提条件です。2/3以上、出席した学生のみ、最後に、試験もしくは、レポートの提出によって、成績評価を実施。

【履修上の心得】

トレーニング論1、トレーニング実習1の双方を習得済みが望ましい。

【科目のレベル、前提科目など】

運動生理学、生理学、トレーニング論1 トレーニング実習1の単位修得済みの学生を対象とする。
スポーツ健康専攻の専門的科目であり、基本的なスポーツ関連の用語等については、予習してくる事。

科目名	スポーツ指導者論 I
教員名	齊藤 武利・網野 友雄

【授業の内容】

本講義は、スポーツ指導者現場・活動において、スポーツ指導者として社会に求められる背景と役割について理解し、その活動内容を的確に効果的に指導するための指導者の心構えと視点・競技者育成プログラム等について学ぶ。また、指導を実践する上で基本となるスポーツ科学・コーチングスキル・一貫指導システム・競技者個人やチームを対象とした指導計画と評価等を修得する。

【到達目標】

- ・スポーツ指導者として社会に求められる背景と役割について理解できるようになる。
- ・指導者として効果的に指導するための心構えと視点が分かるようになる。
- ・コーチングスキル、競技者育成プログラムについて理解する。
- ・競技者個人やチームを対象とした指導計画と評価等を作成することができるようになる。

【授業計画】

- 第1回 概要とオリエンテーション
- 第2回 スポーツ指導者とは（指導者の役割・現状）
- 第3回 スポーツ指導者の心構え・視点について
- 第4回 コーチングフィロソフィーについて（プレーヤーとの望ましい関係）
- 第5回 すべての選手の可能性を引き出す育成・強化のプログラムの理念について（タレント発掘と育成、一貫性指導システム等）
- 第6回 スポーツ事故とその対応、ならびにスポーツ指導者における法的責任等について
- 第7回 様々なスポーツ活動と安全管理、安全の確保について
- 第8回 様々なコーチング・スキルについて
- 第9回 コーチング・スキル・コミュニケーション（ミーティングの方法など）の様々な方法について
- 第10回 コーチング・スキル・マネジメント（競技力向上のためのチームマネジメント含む）の考え方とその方法について
- 第11回 ティーチングとコーチング
- 第12回 情報戦略・戦術及びスポーツ科学と各種トレーニングの方法等について
- 第13回 指導計画及びトレーニング計画の立案について
- 第14回 国際的な舞台で活躍するためのトップアスリート育成・強化活動の重要性とそのトップコーチ、指導者の役割について
- 第15回 国際舞台（オリンピック）を目指すアスリート（ジュニア含む）の育成と様々なプログラムの活用と指導者の役割

上記の内容に沿って授業を展開する

【授業の進め方】

基本的には講義形式で進めていくが、コーチングスキル・指導計画立案等などで、対象別や専門競技等でグループ別の作業－ディスカッション－発表を行っていく予定である。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特になし。必要に応じて、授業中に配布するプリント等。参考図書として（財）日本体育協会、公認スポーツ指導者養成テキストがある。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 10% レポート・課題 30% 受講態度 20%

【履修上の心得】

7割以上の出席と課題提出。

【科目のレベル、前提科目など】

専門演習

スポーツ指導者を目指すものを対象とします。

科目名	スポーツ指導者論Ⅱ
教員名	内山 須美子

【授業の内容】

体育教員およびスポーツ指導者として必要な資質と力について学びます。授業の主たる内容は「楽しい体育の授業」「運動部活動」「ジュニアのスポーツ指導」です。それらを学ぶ前提として、「スポーツと動機づけ」「コーチングの方法」「リーダーシップ理論」についても学びます。

【到達目標】

「スポーツ指導者」として必要な資質と力について知ることができる。
「楽しい体育の授業」「運動部活動」「ジュニアのスポーツ指導」について知ることができる。
「スポーツと動機づけ」「コーチングの方法」「リーダーシップ理論」について知ることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：講義の目的、授業の内容、進め方、評価についての説明
- 第2回 スポーツと動機づけ
- 第3回 スポーツとリーダーシップ理論
- 第4回 スポーツとコーチング
- 第5回 楽しい体育の授業1：「楽しい体育」理論の変遷
- 第6回 楽しい体育の授業2：「楽しい」の意味・本質
- 第7回 楽しい体育の授業3：「楽しい体育授業」実践事例検討1
- 第8回 楽しい体育の授業4：「楽しい体育授業」実践事例検討2
- 第9回 運動部活動1：運動部活動の現状
- 第10回 運動部活動2：運動部活動の歴史に継承される問題点
- 第11回 運動部活動3：運動部活動の問題点を解決する論考の検討
- 第12回 運動部活動4：運動部活動の本質と今後の方向性
- 第13回 ジュニア期のスポーツ指導1：心身の発達と運動指導の至適時期
- 第14回 ジュニア期のスポーツ指導2：ジュニア期のスポーツ障害と対策
- 第15回 ジュニア期のスポーツ指導3：トップアスリートの育成

【授業の進め方】

基本事項のレクチャーも行いますが、グループ・ワークやディスカッションも採り入れます。学んだ基本事項を、実際のシチュエーションで「どう活かすか」を考えてもらいます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に指定しません。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

グループ・ワークにおいて作成するレポートと日頃の受講態度から総合的に評価します。

【履修上の心得】

今、スポーツ指導者は指導者として自らを問い、様々な問題を真摯に考えていかなければならない時に来ています。体育の教員は優れた授業をしなければなりません。運動部活動には問題が山積しています。優れた指導者とは何か、優れた指導者が持つべきスキルとは、優れた指導者であるための倫理観…様々な視点から、自ら考え、学ぶ姿勢を持ってほしいと思います。授業の中には、卒業研究にふさわしいテーマがたくさん詰められています。次年度の卒業研究のテーマを見出してほしいと思います。

科目名	スポーツ生理学
教員名	金田 健史

【授業の内容】

生理学で学習した内容を基礎として、神経系、骨格筋系、呼吸循環系などの諸機能が運動・スポーツをすることに対してどのように関わっているか、また体育・スポーツ場面において実際に関連している応用的知識について、基礎的知識の確認も行ないながらしっかりと理解する。

上記の目的は生理学、運動生理学を通じて同一と考えている。

【到達目標】

これまで学んできた生理学、運動生理学から獲得した基本的な知識を、より実践的で応用できる能力を身につける。運動やスポーツ場面で必要とされる話題を取り上げ、知識を深めていく。

【授業計画】

1. 運動生理学の概要、運動といろいろな要素との関わり
2. 運動・スポーツと疲労
3. 運動・スポーツと休養、睡眠
4. 運動・スポーツと栄養（五大栄養素）
5. 運動・スポーツと栄養（運動と栄養素、グリコーゲンローディング）
6. 運動・スポーツと水分補給、熱中症の予防
7. 運動・スポーツと体温調節、色々な環境での調節機能（発汗など）
8. 運動・スポーツと暑熱環境、寒冷環境、水中環境
9. 運動・スポーツと低酸素環境、高所トレーニング
10. 運動・スポーツと発育発達
11. 運動・スポーツと老化・加齢
12. 運動・スポーツと内分泌系の関わり、（ホルモン、代謝）
13. 運動・スポーツと記憶、学習
14. 健康生活と運動スポーツ（生活習慣の変遷と現状、運動指針）
15. 健康生活と運動スポーツ（生活習慣病の予防と運動疫学の取り組み）
16. 定期試験

【授業の進め方】

授業では、パワーポイントなどを用い、視覚的にイメージをしやすいようにし、またプリントなどから復習できるように進めていく予定である。

また、授業における学生の能動的学修を目指し、各回のテーマについてグループでの課題学習を設け、その内容の発表を講義の最初におこなう。その発表内容を含め、テーマに関する知識をさらに深めるために講義を位置づけていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- 運動生理学20講 第2版（朝倉書店）
- トレーニング生理学（杏林書院）
- 運動適応の科学（杏林書院）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

成績は定期試験において評価する。

【履修上の心得】

生理学、運動生理学を通して身につけてきた基礎知識をもとに、スポーツに関連するより応用的な内容に興味をもって、いる学生が履修することが望ましい。

【科目のレベル、前提科目など】

生理学、運動生理学、専門演習AB、卒業研究
 専門科目、教員免許取得に必要となる単位
 健康運動指導士養成校制度での認定科目

科目名	スポーツ医学概論
	スポーツ現場や健康運動に必要な医学的知識
教員名	目崎 登

【授業の内容】

医学的知識があつてはじめて効果的な成果をあげ、事故や故障の少ないスポーツ活動、トレーニングが可能となることを学習・理解することを目的としている。

種々のスポーツ現場に関わる際に必要となる医学的基礎知識として、内科的、外科的な視点でスポーツと医療との関わりを捉えていく。

【到達目標】

スポーツ活動が身体に及ぼす影響、また健康運動指導士に必要な知識を習得する。

【授業計画】

- 第1回 スポーツ医学とは
- 第2回 発育期のスポーツ
- 第3回 スポーツと循環器系
- 第4回 スポーツと呼吸器系
- 第5回 スポーツと血液系
- 第6回 スポーツと特殊環境
- 第7回 スポーツと薬物
- 第8回 月経周期とスポーツ
- 第9回 スポーツと月経現象
- 第10回 頭部のスポーツ外傷・障害
- 第11回 脊椎のスポーツ外傷・障害
- 第12回 上肢のスポーツ外傷・障害(1)
- 第13回 上肢のスポーツ外傷・障害(2)
- 第14回 下肢のスポーツ外傷・障害(1)
- 第15回 下肢のスポーツ外傷・障害(2)

【授業の進め方】

原則として、PCを用いて授業を展開する。また、適宜必要な資料をプリントとして配布する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①スポーツ医学入門 ②目崎 登 ③文光堂 ④2009 ⑤3,500 ⑥978-4-8306-5153-3
 ①スポーツ指導者のためのスポーツ医学 ②小出清一、他 ③南江堂 ④2009 ⑤3,200 ⑥978-4-524-24034-0

【参考図書】

スポーツ医学研修ハンドブック (基礎科目, 応用科目) (文光堂)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 20% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

定期試験および授業中に適宜実施する授業内小試験(4回実施)の成績から総合的に判断する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

定期試験の比率が高いが、小試験(4回実施)も重視するので、予習・復習を欠かさないこと。

【履修上の心得】

スポーツ医学に関する基礎的な知識を習得することは、将来、スポーツ現場に関わる仕事に従事する際の最低限の知識となることを認識して、予習・復習も含めてしっかりと学習すること。

【科目のレベル、前提科目など】

「運動と健康(運動処方論)」と併せて履修することにより理解力が深まる。
健康運動指導士養成校制度での認定科目である。

科目名	スポーツマーケティング
教員名	藤井 和彦

【授業の内容】

スポーツに関わる仕事の多くは、スポーツサービスというサービス財を、(指導対象者や選手、児童・生徒、顧客などの)多様な対象に生産・提供することであるといえる。

これらの仕事の中では、対象のニーズや欲求を満たす質の良いサービスを生産することに加えて、質の良いサービスを如何にスムーズに効率的に生産・提供できるかということが重要である。単純に良いものであれば売れる・普及するというわけではなく、対象者との関係づくりがうまくいかなければ良いものでも広まらないという例がみられるのである。

この様にサービス財の生産者がその対象となるマーケットとの関係性を形成していくための活動がマーケティングであり、本講義ではスポーツサービスに関わるマーケティングの基礎理論と現状について解説していく。

【到達目標】

- ・スポーツサービスの特性を踏まえて、スポーツマーケティングの概念が説明できる。
- ・社会に氾濫する、広く健康やスポーツに関わる商品やサービスに対してマーケティング的な視点で考察することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション マーケティングの概念と「スポーツのマーケティング」
- 第2回 スポーツ組織の経営活動におけるマネジメントとマーケティングの考え方
- 第3回 マーケティングパラダイムの変遷①伝統的な交換マーケティングの考え方
- 第4回 マーケティングパラダイムの変遷②関係性マーケティングと「スポーツのマーケティング」
- 第5回 サービスの特性とスポーツプロダクト論
- 第6回 スポーツプロダクトの普及過程とライフサイクル
- 第7回 マーケティング・ミックスの基礎理論
- 第8回 プロモーションミックスとスポーツ事業のプロモーション
- 第9回 フィットネス産業における事業の変遷とマーケティング
- 第10回 地域スポーツクラブの事業とマーケティング
- 第11回 トップレベル(プロスポーツ)におけるマーケティングの役割
- 第12回 事例研究①「スポーツのマーケティング」の事例
- 第13回 事例研究②「スポーツによるマーケティング」の事例
- 第14回 事例研究発表
- 第15回 まとめとレポート課題への取り組み

上記の内容を中心に構成するが時間(時限)の配分は適宜調整しながら進める。

【授業の進め方】

講義ノート(資料)を毎回配布し、講義形式で進める。解説を聞きながら各自がその講義ノートを作成していくことになる。講義の終わりには「講義の感想・質問票」を毎回提出する。この他、2-3度のレポート課題を課す。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

マーケティング及びスポーツマーケティングに関する文献を適宜紹介していく。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 40% 受講態度 30%

特記事項

レポート(授業内小試験)を学期2-3回。レポートの提出は必修とし単位取得のための条件とする。期末レポートをプレゼンテーション形式で発表する。

受講態度は、毎回の「講義の感想・質問票」の内容から出席の有無、講義に望む態度を判断し各回加算し評価の材料とする。

【履修上の心得】

マーケティングは、体育・スポーツに関する専門的な知識として役立つばかりでなく、自身が「仕事」を遂行していく上での考え方や哲学に深く関わるものと考えている。

講義を将来の進路の決定に役立て、マーケティングから生き方を学んで欲しい。

履修年次は3年次を標準と考えている。

【科目のレベル、前提科目など】

体育・スポーツ経営学 体育・スポーツ実践事例研究 スポーツ・インターンシップ スポーツ社会学 スポーツ行

政論 など

内容的には、体育・スポーツ経営学の発展編と位置づけられる。専門演習等と合わせて更に理解を深めて行くことを期待する。

科目名	健康・スポーツの測定と評価
教員名	野間 明紀

【授業の内容】

スポーツをおこなう上での身体の動き、体力、運動能力を知ることは大切なことであり、そのためにはそれぞれの測定項目にあった方法を知ることが必要である。また、科学的な測定、分析を行い、個人の情報を多く知れば、個別の指導にも大いに役立つと考えられる。また、体育の授業においても上記のことが必要と考えられる。このことから本授業においては、形態から運動能力等までの測定方法及び評価方法を講義する。
また、対象の違いをふまえた体力測定の内容については、実際に測定をおこなうことからさらに理解を深める。

【到達目標】

形態及び運動能力等の測定方法を理解し、卒業研究等に利用できるようにすること。

【授業計画】

第1回 身体組成の測定法

- ・形態の測定評価他

第2回 運動指導において重要な健康診断の項目およびその基準値に関する理解

第3回 運動指導の際のセルフチェック，メディカルチェックの必要性和項目の理解

第4回 体力・運動能力に関する測定法の理解 1

- ・基礎運動能力の測定評価
- ・全身持久力の測定

第5回 体力・運動能力に関する測定法の理解 2

- ・基礎運動能力の測定評価
- ・全身持久力の測定

第6回 以下では、対象の違いをふまえた体力測定と評価を理解する

成人・中年への体力測定について 1

- ・新体力テスト、フィールドテストの項目と評価
- ・対象者の特徴をふまえた評価と実践

第7回 成人・中年への体力測定について 2

- ・新体力テスト、フィールドテストの項目と評価
- ・対象者の特徴をふまえた評価と実践

第8回 高齢者への体力測定について 1

- ・対象者の特徴と、測定項目
- ・対象者の特徴をふまえた評価と実践

第9回 高齢者への体力測定について 2

- ・対象者の特徴と、測定項目
- ・対象者の特徴をふまえた評価と実践

第10回 介護予防の観点での体力測定について 1

- ・対象者の特徴と、測定項目
- ・対象者の特徴をふまえた評価と実践

第11回 介護予防の観点での体力測定について 2

- ・対象者の特徴と、測定項目
- ・対象者の特徴をふまえた評価と実践

第12回 ⑫運動負荷テスト

第13回 ⑬筋力・筋持久力の測定法と評価

第14回 ⑭呼吸循環系能力の測定と評価

第15回 ⑮まとめ

※その他、データの測定やその評価と健康づくり、体力向上への取り組みについて考察していく。

【授業の進め方】

体育測定評価の基本的な考え方，取り組み方から実際の測定方法まで，幅広い項目において授業を進めて行く

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業中に資料を配布する

○参考図書 体力測定法(松浦義行) 朝倉書店

体力、運動能力測定法(西菌秀嗣他) 大修館書店

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 20%

特記事項

○テスト1回及び授業態度で評価する。

【履修上の心得】

○遅刻は2回で欠席1回となる。

○2/3の以上の出席がテストを受験する条件である。

【科目のレベル、前提科目など】

生理学、運動生理学、スポーツ生理学及び解剖学

◎2-4年次の選択科目である。

★健康運動指導士養成校制度での認定科目

科目名	スポーツリハビリテーション論(テーピングを含む)
教員名	齊藤 武利

【授業の内容】

スポーツ現場におけるスポーツリハビリテーションの意義、役割を学習し、その実践的な方法やあり方を考え、実際のスポーツ現場のリハビリテーション活動について検証する。

【到達目標】

スポーツにおけるリハビリテーションの意味や実践的な方法等について、正しく理解する。さらに、スポーツ現場での応急処置などの基本的なテーピングなどの実技を体験し、正確に実践できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 スポーツ現場におけるリハビリテーションとは、
- 第3回 アスレティックリハビリテーションの実際について
- 第4回 わが国におけるアスレティックトレーナー制度等、サポート活動について
- 第5回 スポーツリハビリテーションに従事する人たちについて
- 第6回 競技力向上におけるスポーツリハビリテーションの実際について
- 第7回 生涯スポーツにおけるスポーツリハビリテーションについて
- 第8回 保健体育教科（中学、高校の体育）における安全指導の実態等について
- 第9回
 - ・スポーツマッサージについて
 - ・アイシングについて
- 第10回 具体的なスポーツリハビリテーションの方法論の検討（実技を含む）
 - ・テーピングについて（集中形式での実技練習を行う。）
- 第11回
 - ・応急処置について
 - ・スポーツにおける理学療法について
 - ・鍼灸について
- 第12回
 - ・ストレッチングについて
 - ・柔道整復および整体について
 - ・その他
- 第13回 メディカルチェックの重要性とコンディショニング
- 第14回 コンディショニングと医学的リハビリテーション（手術、通院、投薬状況など）との関連について
- 第15回 まとめ

・メディカルチェックとリハビリテーションの関連性、あるいは、運動療法と運動プログラムの作成と実践についても順次触れていく。

【授業の進め方】

必要な資料は、毎回配布する。または、副読本の内容から抜粋して講義を進める。
 スポーツテーピングについては、実習集中形式（別日程、後日掲示）での実施となる。
 実技となる「テーピング実技」は、外部講師と2名体制での授業となる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ・OHP、VTRなど視聴覚教材を使用する。
 参考書、および参考資料については、講義で紹介する。
- ・副読本として、健康運動指導士養成講習会テキスト（上）（下）があるとより理解しやすい。
- ・テーピング実習では、各自テーピングテープ等の必要量と頻度が異なるため、一定量以上の実習教材については、各自実費の教材購入が必要である。（約1000円程度）

【参考図書】

スポーツリハビリテーション。健康運動指導士養成講習会テキスト（上）（下）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 30% 授業内小試験 30% レポート・課題 20% 受講態度 20%

特記事項

全体の2/3以上の出席が試験を受けるため、もしくはレポート提出のための前提条件です。2/3以上、出席した学生のみ評価対象となる。

最後に、実技テスト、試験もしくは、レポートの提出によって、成績評価を実施。

【履修上の心得】

「テーピング実技」が授業内容に含まれる。
集中日程形式での実技練習の時間が後日、授業時間内で案内、指定される。
実技への参加は、最終的な成績評価のための必要条件となる。
実技、実習を行うため、希望者多数の場合、選抜することもある。

【科目のレベル、前提科目など】

スポーツ医学概論とあわせて履修すると理解が深まる。
スポーツ健康専攻 専門領域の科目である。

科目名	障害者スポーツ
教員名	齊藤 武利

【授業の内容】

医療において治療の手段の一つとして、スポーツを利用して医療体育の一環として取り入れられたことから始まった「障がい者のスポーツ」について、その歴史的経緯や発展の過程、現在の状況等を概説する。また、現在も知られるようになりつつあるパラリンピックについても、概説し、その実際の状況等を説明して、今後のわが国における障がい者（児）のスポーツのあり方について考える。

【到達目標】

我が国における「障がい者スポーツ」の実態、現状について、正しい理解をするための基本的な知識と考え方を身につける。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 障がい者の定義や分類等についての概説
- 第3回 障がい者スポーツの歴史と発展過程について
- 第4回 我が国における医療体育およびリハビリテーションスポーツとしての経緯について
- 第5回 日本における障がい者スポーツ大会の推移について
- 第6回 世界における障がい者スポーツの歴史と大会開催等の経緯について
- 第7回 グッドマン博士の活動とパラリンピックについて
- 第8回 オリンピックとパラリンピックとの関係について
- 第9回 我が国の各地域におけるリハビリテーションセンターと障がい者のスポーツ活動の実態
- 第10回 各種障がい者スポーツの大会運営に係る注意点
- 第11回 アダプテッドスポーツとは、
- 第12回 障がい者スポーツの実際と競技スポーツとの関わりについて
- 第13回 最新のパラリンピック大会の事情とオリンピックとの関係性について
- 第14回 障がい者スポーツの実際に触れてみる
- 第15回 まとめ

「障がい児」についてのスポーツの関わりについても、おりに触れて概説する。

- ・障がい者（児）スポーツの現場における、様々な指導について
- ・健康増進や体力維持に及ぼす効果
- ・残存機能の向上および二次的疾患の予防
- ・QOLとの関係から
- ・自立・社会参加への促進

【授業の進め方】

基本的な知識や考え方等には、講義形式の形式で実施する。また、障がい者スポーツの体験学習も併せて行う。

授業で使用する必要な資料については、その都度配布する予定である。

講義の後半では、フィールドワーク等を行う。実際に「障がい者のスポーツ」の現場を見学し、その体験から、グループ討議により、共通理解を深め、活動のまとめを行う。

見学施設等については、学外の施設で行う予定である。詳細については、授業内で案内する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に指定は、しない。講義の内容に応じた資料等を配布して進める。

また、参考書等については、その都度、紹介する。

【参考図書】

参考図書：障害のある人々のスポーツ 総論、各論
アダプテッドスポーツの世界

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 30% 授業内小試験 20% レポート・課題 30% 受講態度 20%

特記事項

関心度、意欲度、グループ学習の成果、各種課題とレポート評価、定期テストで総合評価を行う。

【履修上の心得】

スポーツ健康専攻の専門的科目のため、履修のためには、既履修の科目を注意すること。

【科目のレベル、前提科目など】

生理学、解剖学、運動生理学、救急法、スポーツ医学概論、介護等体験を履修済みが望ましい。
医療、福祉、教育、スポーツなど様々な分野の基礎的、基本的知識を有した上で、受講してほしい。

科目名	運動と健康(運動処方論)
教員名	目崎 登

【授業の内容】

多くの健康問題が叫ばれている現代社会において、運動が心身の健康において重要であることが明らかにされてきている。スポーツ・運動指導の専門家として健康作りの重要性を認識・理解することを目的としている。スポーツ・運動の指導にあたる者としては、健常者だけでなく、有患者や高齢者なども対象とした運動処方が的確に行えるように、実践に即した理論的背景となる知識や実践能力を身に付ける必要がある。また、このような対象者に対して、どのようなかたちで運動を与えていくかについても理解を深めることが重要である。

【到達目標】

健康運動指導士に必要な医学的知識を習得する。

【授業計画】

- 第1回 運動処方とは
- 第2回 生活習慣病
- 第3回 メタボリックシンドローム
- 第4回 肥満症
- 第5回 高血圧症
- 第6回 脂質異常症
- 第7回 糖尿病
- 第8回 虚血性心疾患
- 第9回 ロコモティブシンドローム
- 第10回 関節リウマチと変形性関節症、骨粗鬆症
- 第11回 呼吸器疾患、運動誘発性喘息
- 第12回 がん
- 第13回 認知症
- 第14回 更年期障害
- 第15回 妊婦スポーツ

【授業の進め方】

原則としてPCを用いて授業を展開する。また、適宜必要な資料をプリントとして配布する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①運動療法と運動処方 ②佐藤祐三、他 ③文光堂 ④2008年 ⑤6,000 ⑥978-4-8306-5152-6
- ①スポーツ医学入門 ②目崎 登 ③文光堂 ④2009年 ⑤3,500 ⑥978-4-8306-5153-3

【参考図書】

スポーツ医学研修ハンドブック（基礎科目、応用科目）（文光堂）2004年

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 20% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

定期試験および授業中に適宜実施する授業内小試験（4回実施）の成績から総合的に判断する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

定期試験評価の比率が高いが、授業内小試験（4回実施）も重視するので、予習・復習を欠かさないこと。

【履修上の心得】

将来、スポーツに関わる仕事に就く、またリハビリテーションや介護などに従事する仕事に関わる者にとっては、身体の変化や異常についての基礎的な知識となることから、予習・復習を怠らず、真剣に受講すること。

【科目のレベル、前提科目など】

「スポーツ医学概論」と併せて履修するとより理解力が深まる。
健康運動指導士養成校制度での認定科目である。

科目名	スポーツ栄養学
教員名	鈴木 いづみ

【授業の内容】

保健行動の基本は、運動、栄養、休養である。また、スポーツにおける競技力向上には日々のトレーニングが不可欠であり、それを支えるのが栄養と休養である。それゆえ、保健行動のために身体活動量が高まっているときも、競技力向上を目指してトレーニングを積んでいるときも、スポーツ栄養学を活用することは有意義である。本講義では、運動やスポーツによって身体活動量の高まっている人における栄養の意義を理解し、また、身体組成を指標とした栄養評価、運動時のエネルギー補給、各栄養素と運動・スポーツとの関わり、スポーツにおける期別・目的別の栄養補給法等を、最新の科学をもとに学んでいく。

【到達目標】

受講後、以下について身につけていることを目標とする。

- ・運動・スポーツ時のエネルギーバランスのとり方
- ・五大栄養素の生理作用、欠乏症と運動・スポーツをする体との関わり
- ・運動部活動をする子どもに対する栄養指導方法
- ・健康運動指導士に必要な栄養知識

【授業計画】

- 第1回 運動・スポーツと食生活
- 第2回 栄養素の消化と吸収
- 第3回 栄養摂取とエネルギー消費量（推定法・METs）
- 第4回 食事摂取状況と栄養状態の評価（栄養アセスメント）
- 第5回 三大栄養素の代謝（糖質①リカバリー）
- 第6回 三大栄養素の代謝（糖質②試合前の栄養戦略）
- 第7回 三大栄養素の代謝（たんぱく質）
- 第8回 三大栄養素の代謝（脂質）
- 第9回 骨づくりとカルシウム摂取
- 第10回 貧血予防と鉄・たんぱく質摂取
- 第11回 水分補給と熱中症
- 第12回 コンディション維持とビタミン摂取
- 第13回 わが国の健康づくり対策（健康日本21、食生活指針、食事バランスガイド、食育基本法等）
- 第14回 食品の機能性（食品表示、健康食品、サプリメント等）
- 第15回 食品の安全性（食中毒、BSE、食品添加物、放射線照射食品等）

※ 健康、栄養、運動、スポーツに関する最新のトピックスを補足的に取り上げていきます。

【授業の進め方】

- ・教科書にもとづく講義形式授業である。参考資料は随時配布する。
- ・授業の最後にリアクションペーパーを提出、質問の記入があった場合次回の授業内で回答する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①体育・スポーツ指導者と学生のためのスポーツ栄養学 ②樋口満・田口素子編著 ③市村出版 ④2014年 ⑤2,700円（税抜き） ⑥ISBN978-4-902109-32-0

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 90% 受講態度 10%

特記事項

課題レポートを1回実施します。受講態度はリアクションペーパーに基づき「授業への貢献度や積極的な発言など」を評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の要件（規定の出席日数）に満たない者は成績評価の対象外となるので注意すること。

【履修上の心得】

自分に関わるスポーツの現場に関連付けて（イメージしながら）受講すると理解が深まる。また、新聞等で健康や栄養に関する新しいニュースに敏感になり、講義内容と関連付けると理解が広がる。

【科目のレベル、前提科目など】

健康運動指導士養成校制度での認定科目

科目名	スポーツ指導のバイオメカニクス
教員名	小野 誠司

【授業の内容】

スポーツ動作を指導するにあたって、その動作のどこに注目するかはとても大切なポイントとなる。スポーツ動作をみる際に、その動作を分解し、四肢の動きやその繋がりに注目し、身体で起こる力とその効果について学習するといったスポーツバイオメカニクスの視点はとても重要である。本講義では、バイオメカニクスの基礎的な知識を概説し知識を身につけるとともに、走・跳・投運動等を身体運動のバイオメカニクスの視点によって勉強する。これにより、実際のスポーツ指導場面において生かせる知識を獲得する。

【到達目標】

動作を理論的に考えられるようになる。
身体運動を主観だけでなく客観的な評価が出来るようになること。

【授業計画】

- 第1回 身体の力学的特性[5-2]
- 第2回 関節運動と身体の重心[5-1]
- 第3回 運動量と力積
- 第4回 運動における力学的エネルギーと仕事、パワー[5-7]
- 第5回 運動と力のモーメント[5-2]
- 第6回 角運動量と慣性モーメント[5-1]
- 第7回 関節トルクと関節パワー[5-2]
- 第8回 スポーツ指導とバイオメカニクス研究との繋がり①
- 第9回 データを読む力をつける(キネマティクス)
- 第10回 歩行・疾走・跳躍動作のバイオメカニクス[5-8]
- 第11回 投・打動作のバイオメカニクス
- 第12回 流体の力学(水泳、ボールが受ける力など)[5-9]
- 第13回 データを読む力をつける(キネティクス)
- 第14回 スポーツ指導とバイオメカニクス研究との繋がり②
- 第15回 まとめ

【授業の進め方】

配布資料並びにスライドによる講義を行う。
難解な力学の基礎をスポーツ動作の事例を出しながら平易な講義に努めます。
後で振り返ったとき分かるように、ノートをとにかくしっかり取ってください。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特にありません。

【参考図書】

[スポーツバイオメカニクス20講, 阿江通良ほか, 朝倉書店]を読むことを勧めます。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

授業の出席、受講姿勢

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎講義終了時5分間程のチェック試験15回30点(1回受講毎に2点所定用紙記名方式)とする。

【履修上の心得】

講義は受講者を含む全員で作上げるものです。
大学生としての基本的なマナーは厳守する。
問題意識を持って聴講する。

【科目のレベル、前提科目など】

特になし

健康運動指導士養成校制度での認定科目

科目名	ニュースポーツ
教員名	藤井 和彦

【授業の内容】

生涯スポーツの振興に伴い、様々なニュースポーツ（レクリエーションスポーツ）が誕生し、普及してきている。今日では地域のスポーツイベントや大会などでも、これらニュースポーツがその中心に位置づけられるようになってきている。

ニュースポーツの最大の特徴は、子どもからお年寄りまで、また障がいを持った方まで、誰もが今持つ力で、スポーツの競い合う楽しさ、体を動かす楽しさに触れることができる点である。それは、既存のスポーツ種目をもとにしたリ、スポーツ以外の活動をヒントにしたりしながら、用具やルールを工夫することによって可能になっている。

本科目では、多様なニュースポーツを体験し、生涯スポーツ指導者やレクリエーション指導者としてのバリエーションを増やしより高い実践力を身につけることを目的としている。

【到達目標】

ニュースポーツに関してたくさんのレパートリーを持ち、対象や目的に応じて自らプログラムを提供することができるようになる。

【授業計画】

第1回	ディスク系	(1) フライングディスク
第2回		(2) ディスクゴルフ
第3回	ゴルフ・スティック系	(1) グラウンドゴルフ
第4回		(2) ターゲットバードゴルフ
第5回	ネットプレー系	(1) インディアカ
第6回		(2) ラケットテニス
第7回	ゴール&シュート系	ユニバーサルホッケー
第8回	ボール系	(1) レクリエーションバレー
第9回		(2) キンボール
第10回	的当て系	(1) 輪投げなど
第11回		(2) 室内ペタンク（ニチレクボール）
第12回		(3) ペタンク
第13回		(4) カローリング
第14回	野球系	ティーボール
第15回	まとめとレポート作成	

上記のニュースポーツ種目を順次教材として取り上げていく。
履修者数などを考慮しながら内容を適宜選択してすすめていく。

【授業の進め方】

実技を中心とするが必要に応じて教室での解説や支援計画作成・グループ討議などの時間をとる。単にニュースポーツの体験に終わらないように、そのニュースポーツ素材を活用しながら、自分たちで活動内容の設定・進行ができるような形を目指す。適宜実技の感想やレポート課題を課す。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

ニュースポーツ全般や各々の種目の解説などの書籍・資料を適宜紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

期末のレポート課題、学期中の感想やレポート提出回数に加え、日常的な受講態度により総合的に評価する。

【履修上の心得】

履修年次は3年次を標準と考えている。できればレクリエーション理論や実技を履修済みであることが望ましい。

レクリエーション実技と同様に、ニュースポーツにおいてもそこに参加する一人ひとりの、楽しもうという姿勢が極めて重要である。このことを理解した上で存分に楽しもうという意識を持って授業に臨んでいただきたい。

【科目のレベル、前提科目など】

レクリエーション理論 レクリエーション実技

レクリエーション・インストラクター資格とは無関係であるが、レクリエーション実技の中でニュースポーツ種目に特化した科目内容と考えて差し支えない。

科目名	野外運動C(アドバンス)
	アドバンスキャンプ実習
教員名	体育担当教員

【授業の内容】

体育科教員や地域スポーツ指導者、子どもスポーツの指導者に必要な、野外活動に関する経験や知識を得ることを目的とする。

野外運動Aの上級編に位置づくアドバンスキャンプであり、履修者一人ひとりが役割を持ちながら自律的に計画・運営をすすめていく組織キャンプである。

【到達目標】

- ・より高度な野外活動を体験する
- ・参加者同士が協力しながら組織的なキャンプの運営ができる
- ・キャンプのスキルが上達する

【授業計画】

より自然のままの環境の中で、キャンプのスキルを発揮しながら、快適で居心地の良い空間を皆で協力しながら築き上げ、キャンプ活動を楽しむ。

【授業の進め方】

本年度は内容を一新して行う。実施時期や内容の詳細については年度初めのガイダンスで説明を行うので、参加を希望する者は必ず出席すること。この他、事前に参加者対象のガイダンスを行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

参加者対象のガイダンスにおいて資料を配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

事前準備への取り組み、本番のキャンプ活動への取り組み、振り返り活動の内容から総合的に評価する。

【履修上の心得】

設定された環境の中とはいえ、野外活動には常に危険がつきまとう。野外活動に対する強い関心と、未知の経験に対する強い欲求を持った学生のみ履修してもらいたい。特に、計画の段階で自律的な取り組みがみられない場合には本番のキャンプへの参加を認めないこともある。

【科目のレベル、前提科目など】

野外運動A レクリエーション理論 レクリエーション実技

特にスポーツ関連企業への進路を考えている学生には強く勧めたい。本科目を、インターンシップ等と関連づけながら、在学中から積極的にスポーツの実践現場に関わっていくことを勧める。

また、教員や公務員等を目指す学生にも、広くスポーツ推進の実態や課題を知る良い機会になるものと思われるため、受講を強くすすめたい。

科目名	スポーツ科学実験演習
教員名	体育担当教員

【授業の内容】

多くの講義によって得られる情報をただ受講しているだけでなく、実際に自分自身で測定したり、プログラムを作成したりすることによって、より深い知識や理解を目指すことを目的としている。演習においていろいろな機器を用いることによって、自分自身の興味や関心を深め、三年次以降に自分の専門性を絞っていく際や、卒業研究で実際に使用する際の良いきっかけになるものとも考えている。

A：片山奈理子，金田健史，B：野間明紀，C：齊藤武利

※いくつかの種類の実験内容に対して、担当教員が貼り付いて実施する。

【到達目標】

それぞれの実験演習の内容に関する目的，方法等について知識を深めるとともに，実際に自分自身が体験することによって，知識と実践を融合できる力を身につける。

【授業計画】

スポーツ，医療の現場において実施されている運動負荷テストや呼気ガス分析，心電図，筋電図，筋力・筋パワー測定といった項目に関する測定および分析方法を学ぶとともに，実践的な知識と技能を獲得する。

実験実習により多くの内容に触れると共に，体力測定，身体組成の測定項目についても体験し，内容についての理解を深める。

A. 運動負荷テストの実施と理解，呼気ガス分析，心電図

B. フィールドテスト（シャトルラン），最大無酸素パワー，インターミテッドテストの測定と分析

C. 等尺性，等速性最大筋力の測定と分析

<内容>

1. 運動負荷試験について（講義）

2. 体力測定，身体組成測定項目の説明と，実験でおこなう測定項目について（講義）

3. 等速性最大筋力測定について（講義）

4～7. 運動負荷試験を用いた測定実習（A）（トレッドミル，自転車エルゴメータを用いて）

8. 実習の始めに身体組成測定および体力測定をおこなう（B）

9～11. フィールドテスト，筋のパワーの測定実習（B）

12～15. 等速性最大筋力の測定実習（C）

講義については全体でおこない，実習（A）4～7，（B）8～11，（C）12～15は受講者を3グループ（各グループ15名程度）に分け，集中形式で実施する，

【授業の進め方】

AからCそれぞれの実験内容について担当教員が付き，受講生は3グループに分かれ，そのグループ毎で各実験をローテーションしておこなう。それぞれの実験の中身については上記の通りである。これまで色々な講義科目で学んできた知識を基にして，実際に自分自身の手で積極的に関わることで得られるものが多いので，積極的に取り組んでほしい。本演習は集中形式で講義3時間を受講生全員で，各実験演習3日間で3グループ別で集中的におこなう。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特になし

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

全ての講義，および実験実習に出席することが最低条件である。

講義内容の理解度，各実験演習に対する取り組みをレポート課題の完成度で総合的に評価する。

各実験内容に対する取り組み（50%）

レポート課題の完成度（50%）

【履修上の心得】

ただ受講することが狙いではないので，受身的な姿勢ではなく，積極的に機器の操作や測定に関わり，学習していくことが望まれる。

【科目のレベル、前提科目など】

生理学，運動生理学，スポーツ生理学，体育・スポーツの測定と評価，運動と健康(運動処方)，スポーツ医学概論，トレーニング論Ⅰ，Ⅱ，トレーニング実習Ⅰ，Ⅱ

健康運動指導士養成校制度での認定科目

科目名	スポーツ情報科学（入門）
教員名	齊藤 武利

【授業の内容】

21世紀に入ってさらに高度に進歩した様々な情報科学部門の領域から、スポーツの競技力向上、あるいはスポーツ障害科学、さらには健康づくりのためのスポーツに応用的に活用されてきているスポーツ情報科学の活用法等について概説し、その現場において、実践されている具体的な有効なスポーツ情報科学、情報戦略の方法論的検討を行う。

入門と演習の両科目の通じて、特に近年になって、急速に国際競技力向上のために積極的に活用されているスポーツ現場における画像、映像の利用法、解析分析、現場活用への道筋について、入門編で概説する。さらに、演習によって、より実践的な活用法を実地において経験をして、各自がスポーツ競技、種目における新しい魅力の拡大や指導者としての視点を持つための演習とする。

【到達目標】

応用的に活用されているスポーツ現場における情報科学活用の実態について、理解し、その活用方法について説明ができるようになる。さらに現在の我が国における国際競技力向上のためのスポーツシーンで、不可欠のアイテムであるマルチスポーツサポート活用的手段として、スポーツ情報科学の有効活用法について、整理したことを理解できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 スポーツにおける情報戦略活動、情報科学の活用法について
- 第3回 スポーツパフォーマンス向上のためのスポーツ情報活用の実際について
- 第4回 競技力向上（トップアスリートを目指す）のための人材発掘と育成・指導とスポーツ情報戦略活動について
- 第5回 競技力向上（アスリート育成）とスポーツ情報科学の活用法についての指導の実際 その1 個人スポーツ
- 第6回 競技力向上とスポーツ情報科学の活用法についての指導の実際 その2 団体スポーツ
- 第7回 競技力向上とスポーツ情報科学の活用法についての指導の実際 その3 球技スポーツ
- 第8回 競技力向上とスポーツ情報科学の活用法についての事例 その4 冬期スポーツ
- 第9回 スポーツ情報科学の活用法とスポーツにおける戦略的活動ならびに戦術的活動法について
- 第10回 スポーツ情報・情報科学の活用法の歴史背景とIT技術の進歩との関連について
スポーツにおける映像技術の進歩とパフォーマンス向上との関連性について（技術的側面から）
- 第11回 競技力向上とスポーツ情報科学の活用法についての事例
- 第12回 実際の現場におけるスポーツ情報科学活用法における注意点 その2 放映権や著作権の問題等
- 第13回 国際舞台で戦うため（トップアスリート育成強化）の選手の育成・強化活動とスポーツ情報戦略活動のあり方について その1
- 第14回 国際舞台で戦うため（トップアスリート育成強化）の選手の育成・強化活動とスポーツ情報戦略活動のあり方について その2
スポーツ情報科学の活用と今後の最新スポーツパフォーマンス向上との関連性について
- 第15回 まとめ

・オリンピックやワールドカップをはじめとして、トップレベルにあるスポーツ競技・種目においては、様々なスポーツシーンの情報を多角的に収集、整理、分析し、さらに使用しうる個人やチーム、あるいは競技団体に対して、その国際的な競技力の向上を目ざして複雑で多岐にわたる「スポーツ情報」を積極的に利用するようになってきている。また、勝利のためには、不可欠のアイテムとして位置づけられる競技種目も少なくない。こうした「スポーツ情報科学」の目覚ましい進歩や発展の過程を概説しながら、実際のスポーツ現場での活用方法等について、情報の収集、分析、反映を大きな柱としてとらえて授業計画を行い、毎回、順次説明、概説して、様々な角度からさらに有効な情報戦略活動について積極的な議論などを展開していく。

【授業の進め方】

入門編では、実際のスポーツ競技、種目における現状を数多くの事例を挙げながら、視聴覚教材やVTR、DVD、などを積極的に利用して概説しながら、説明等をしていく。

授業展開において、ポイントとなる多くのあらゆるシーンでは、受講者に質問をして、議論となるような展開とする。また、受講者にトレーニングやテクニカル活動の実践例などについて、ディスカッション対話形式で行うこともある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特別に、教科書等は指定しない。ただし、必要に応じて順次プリント等を配布する。また 個人の発表などの場合、視聴覚機材を使って、プレゼンテーションを行うこともある。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 30% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 30%

特記事項

全体の2／3以上の出席（授業の参加）が、期末試験やレポート提出により成績を評価するための前提条件とする。個人発表やディスカッションも行うため、授業の導入は非常に重要であり、原則的に遅刻は、認めない。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

数回実施される授業内でのレポート課題を、すべて提出しないものについては、定期試験等を受けることはできない、

【履修上の心得】

参加する学生は、自分が積極的に参加し、自らが興味のある課題を探究しようとして参加すること。学期の途中で履修を放棄することのないように積極的に参画すること。

【科目のレベル、前提科目など】

スポーツコーチング論、競技スポーツ理論を受講しておいた方がよい。

【備 考】

スポーツ健康専攻の専門領域の授業科目のため、授業への関心や意欲を高く、継続されることが望ましい。

科目名	スポーツ情報科学（分析）
教員名	齊藤 武利・金田 健史

【授業の内容】

21世紀に入ってさらに高度に進歩した様々な情報科学部門の領域から、スポーツの競技力向上、あるいはスポーツ障害科学、さらには健康づくりのためのスポーツに応用的に活用されてきているスポーツ情報科学の活用法等について概説し、その現場において、実践されている具体的で有効なスポーツ情報科学、情報戦略の方法論的検討を行う。つまり、情報そのもの意味～戦略・戦術・スカウティング等もの見方を大前提に「情報の収集」「情報の分析」「情報の反映」の3つの視点から、授業を展開していく。

また、分析では、特に近年になって、急速に国際競技力向上のために積極的に活用されているスポーツ現場における画像、映像の利用法、解析分析、そして現場への道筋について、実践をして、各自がスポーツ競技、種目における新しい魅力の拡大や指導者としての視点を持つための演習とする。したがって、スポーツ現場と共同して、実際に映像を使っの分析実践を行うものである。

【到達目標】

応用的に活用されているスポーツ現場における情報科学活用の実態について、理解し、現在の我が国における国際競技力向上のためのスポーツシーンでは、不可欠のアイテムにありつつあるマルチスポーツサポート活用のひとつの手段としての、スポーツ情報科学の活用方法について、整理する。

また、分析においては、実際のスポーツシーンにおける様々なスポーツシーンを記録する作業から編集、分析、解析、加工、活用法など、スポーツ現場における実践的な活用法を体験する。スポーツの現場でいかに、競技力向上などの目的に応じたスポーツ科学情報をどのように有効活用させることができるのか。その視点を、体験して身に着けることが目標となる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 映像・画像の取り込みから分析方法について
- 第3回 映像・画像によるスポーツ情報集の実践法
- 第4回 スポーツ活動における映像・画像の編集の方法（分析ソフトの紹介）
- 第5回 実際のスポーツ活動における映像・画像の編集の方法（分析ソフトの使い方 その1）
- 第6回 実際のスポーツ活動における映像・画像の編集の方法（分析ソフトの使い方 その2）
- 第7回 実際のスポーツ活動における映像・画像の編集作業（分析レポートの作成と作業 その1）
- 第8回 実際のスポーツ活動における映像・画像の編集作業（分析レポートの作成と作業 その2）
- 第9回 スポーツにおける映像分析・戦術分析の利用法と 分析の方法論的検討 ディスカッション その1
- 第10回 スポーツにおける映像分析・戦術分析の利用法と 分析の方法論的検討 ディスカッション その2
- 第11回 映像分析・戦術分析及びスカウティングレポート及び編集DVDの作成 その1
- 第12回 映像分析・戦術分析及びスカウティングレポート及び編集DVDの作成 その2
- 第13回 スポーツ指導者ならびにコーチング場面におけるスポーツ映像活用の編集 その1
- 第14回 スポーツ指導者ならびにコーチング場面におけるスポーツ映像活用の編集 その2
- 第15回 まとめとレポート作成

主に、スポーツ現場と共同して、映像を用いての分析実践を行う。

【授業の進め方】

- ・集中授業形式で2名の教員で担当分野を分けて、それぞれに分析実践を行う。
（具体的な日程については、別途提示する。撮影等の日程許可が終了時点で行う。）
- ・学外のスポーツ現場に出向いて、映像の撮影・現場での分析実践を行うため、欠席等は認めない。
- ・映像、データ（情報）について分析を行う。
- ・分析したデータ（情報）をスポーツ現場にフィードバックし、検討する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要な場合は、その都度提示する。

【参考図書】

必要な場合は、その都度、関連図書などについて提示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 20% レポート・課題 60% 受講態度 20%

特記事項

- ・分析、編集、加工の実践への取り組み

・集中した日程で実施するために、作成したレポート及び映像などで総合的に判断する。

【履修上の心得】

積極的な実践行動（取り組み）。

スポーツ現場それぞれのルール・マナー厳守。

スポーツ情報を科学すると行く観点から、みる力を養ってください。

【科目のレベル、前提科目など】

スポーツ情報科学(入門)

スポーツ指導者論、スポーツコーチング総論を受講しておいた方がよい。

【備 考】

スポーツ健康専攻の専門領域の授業科目のため、授業への関心や意欲を高く、継続されることが望ましい。

科目名	スポーツインターンシップⅠ
教員名	藤井 和彦

【授業の内容】

スポーツに関わる仕事の範囲は、今日では非常に多岐に渡りようになった。それぞれの業務の遂行には自らの実技能力や指導力などの専門的スキルだけでなく、マネジメントやプログラミング、マーケティングなどの広範な知識・スキルも求められる。これらの仕事に関わるスキルには、将来職務を遂行していく中で身につけていくものも多いが、学生時代の職場体験等でそのスキルに対する理解を深め、必要性を確認しておくことは非常に有効な学習である。

本講義では、実際にスポーツに関わる職場においてインターンシップを実施することにより、それぞれの職務において求められる専門的スキルに対する理解を深めるとともに、学生時代に獲得可能な基本的実践スキルの獲得を目指すものである。

【到達目標】

実習先施設や企業における業務のあり方を理解し、組織の一員として仕事ができるようになる。

【授業計画】

- 第1回 事前オリエンテーション
- 第2回 本実習（8時間勤務×5～7日間）
- 第3回 本実習（8時間勤務×5～7日間）
- 第4回 本実習（8時間勤務×5～7日間）
- 第5回 本実習（8時間勤務×5～7日間）
- 第6回 本実習（8時間勤務×5～7日間）
- 第7回 本実習（8時間勤務×5～7日間）
- 第8回 本実習（8時間勤務×5～7日間）
- 第9回 本実習（8時間勤務×5～7日間）
- 第10回 本実習（8時間勤務×5～7日間）
- 第11回 本実習（8時間勤務×5～7日間）
- 第12回 本実習（8時間勤務×5～7日間）
- 第13回 本実習（8時間勤務×5～7日間）
- 第14回 本実習（8時間勤務×5～7日間）
- 第15回 事後指導（実習日誌の作成に変える場合もある）

大学の定めるインターンシップ受け入れ先企業・組織の中から希望する実習先を選びインターンシップを行う。受け入れ可能人数・希望者等の状況により調整を行い実習先を決定する。なお、実習先としては民間フィットネスクラブ（健康産業施設）、社会体育行政組織、社会教育行政組織、公共スポーツ施設、プロスポーツ球団（チーム）等がある。

履修を希望する者は3月に実施するガイダンスに必ず出席すること。

【授業の進め方】

事前オリエンテーションから事後指導までを含め、「スポーツインターンシップ日誌」を用いて目標の設定、活動の記録、自己評価等を進めていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特になし

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 70%

特記事項

「受講態度」には、インターンシップ現場での取り組み、現場からの評価票の内容、「インターンシップ日誌」の作成状況を含む。これに事後レポートの状況を加えて、総合的に評価する。

【履修上の心得】

健康運動指導士資格の取得に必要なインターンシップⅡとは異なり、本科目は個人の興味・関心に基づいて自由に選択できる科目である。それだけに高いモチベーションと自立的な姿勢を持って参加してもらいたい。

また、レクリエーション・インストラクター資格取得希望者においては、本科目は教育実習と同様にレクリエーション実習の認定科目ともなる（インターンシップまたは教育実習を行うものは、レクリエーション実習の履修が必要なくなる）。

【科目のレベル、前提科目など】

体育・スポーツ実践事例研究を事前或いは同時に履修していることが望ましい。

科目名	スポーツインターンシップⅡ
教員名	体育担当教員

【授業の内容】

スポーツに関わる仕事の範囲は、今日では非常に多岐に渡りようになった。それぞれの業務の遂行には自らの実技能力や指導力などの専門的スキルだけでなく、マネジメントやプログラミング、マーケティングなどの広範な知識・スキルも求められる。これらの仕事に関わるスキルには、将来職務を遂行していく中で身につけていくものも多いが、学生時代の職場体験等でそのスキルに対する理解を深め、必要性を確認しておくことは非常に有効な学習である。

本講義では、実際にスポーツに関わる職場においてインターンシップを実施することにより、それぞれの職務において求められる専門的スキルに対する理解を深めるとともに、学生時代に獲得可能な基本的実践スキルの獲得を目指すものである。

【到達目標】

実習先施設や企業における業務のあり方を理解し、組織の一員として仕事ができるようになる。

【授業計画】

- 1 事前オリエンテーション
- 2～14 本実習（8時間勤務×7日間以上）
- 15 事後指導

大学の定めるインターンシップ受け入れ先企業・組織の中から希望する実習先を選びインターンシップを行う。受け入れ可能人数・希望者等の状況により調整を行い実習先を決定する。なお、実習は民間フィットネスクラブ（健康産業施設）にて実施する。

【授業の進め方】

事前オリエンテーションから事後指導までを含め、「スポーツインターンシップ日誌」を用いて目標の設定、活動の記録、自己評価等を進めていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特になし

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

現場での取り組み、現場からの評価票の内容、「インターンシップ日誌」の作成状況、事後レポートから総合的に評価する。

現場からの評価票の内容（40%）＋「インターンシップ日誌」（30%）＋事後レポート（30%）

【履修上の心得】

健康運動指導士養成校制度での認定科目となる。

上記資格に関連した実習先の選別・調整はオリエンテーション時に行う。また、場合によっては、実習先を自分で確保する可能性もある。

【科目のレベル、前提科目など】

体育・スポーツ実践事例研究(前提科目)

要件を満たす実習先に関しては、健康運動指導士養成校制度での健康産業施設等現場実習に置き換える。

(主たる要件)

- ・民間フィットネスクラブ等の健康産業施設
- ・実習期間7日間以上
- ・有資格者による実習指導(健康運動指導士)
- ・プログラム作成、運動指導等、一定の実習内容を含むこと

同様に要件を満たす実習先に関しては、レクリエーション・インストラクター養成校制度でのレクリエーション実習に置き換える。

(主たる要件)

- ・スポーツやレクリエーションに関わる民間(企業の)施設の他、公共スポーツ施設や財団法人等の施設
- ・受け入れ先の実習担当者による実習指導があること
- ・施設利用者やプログラム参加者等とのコミュニケーションを図る場面が設定されていること

科目名	専門演習A1・A2
教員名	内山 須美子

【授業の内容】

あなたが、社会の中でリーダーとなった時、構成員のモチベーションをあげることができたら、その人は、勝手にぐんぐん伸びていきます。できなければ誰もついてきません。どうしたら、人のモチベーションをあげることができるのでしょうか？実は「相手が望んでいることをしてあげる」ことが大事なようです。では、生徒は、プレイヤーは、フィットネススクラブの顧客は何を望んでいるのでしょうか？

教師になっても、コーチになっても、インストラクターになっても、母親になっても、父親になっても、営業職に就いても・・・あなたが将来何になるとしても、いかにして相手のモチベーションをあげるかを学んでおけば、必ずどこかで役立ちます。それを皆で学びましょう。「動機づけ」「モチベーション」「学習意欲」「やる気」…このあたりがこのゼミのキーワードと言えるでしょう。そこから、自分が興味を持てる研究テーマを見つけましょう。

卒業研究を進めるには「研究方法」を決めることも重要です。この演習では、統計処理の方法として「有意差検定」「テキストマイニング分析」「クラスタ分析」「重回帰分析」「パス解析」についてレクチャーします。「どの方法で」「何を明らかにするか」…この演習で学び卒業研究につなげてください。

【到達目標】

1. 卒業研究の作成方法を知ることができる。
2. 卒業研究のテーマを見つけることができる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
[内容]ゼミの特徴および卒業研究の作成計画とスケジュールについて
- 第2回 モチベーション理論の基礎
[内容]12のモチベーション理論を理解する。
- 第3回 テーマを見つける：その1
[内容]教師の言葉かけと学習意欲の関係
・やる気が上がる言葉・そがれる言葉
・教師の言葉が「ひいき」と認知されるケース
・好かれる教師と嫌われる教師の言葉かけ
- 第4回 テーマを見つける：その2
[内容]モチベーションに対する「楽しさ」の影響
・中学生が感じる体育授業の楽しさ
・スポーツ観戦者はどのようなモチベーションでスポーツを見るか
・至高体験とフロー体験—「楽しさ」と「内発的動機付け」
- 第5回 テーマを見つける：その3
[内容]意欲は成績に影響するのか
・スポーツ障害と競技意欲の関係
・ダイエット—瘦身願望および瘦身イメージとBMIの関係
・部活動—生徒は何を目的とし、指導者に何を求めるのか
- 第6回 テーマを見つける：その4
[内容]ネガティブストレスの学習意欲への影響
・体育授業の何がストレスとなるのか—無能感？教師の言動？仲間の悪ふざけ？
・運動が不得意な子どもは授業中何を考え、どう対処しているのか
・体育授業でストレスとなる領域—どうしたら長距離走は楽しくなるか
- 第7回 テーマを見つける：その5
[内容]学習動機付けを上げる技術
・話し方とほめ方のコツ
・教師がほめて評価の観点を与え「生徒同士の認め合いと励ましあい」を仕掛ける
・全体評価と個別評価の仕方
- 第8回 先行研究の検討1
- 第9回 先行研究の検討2
- 第10回 先行研究の検討3
- 第11回 先行研究の検討4
- 第12回 先行研究の検討5
- 第13回 先行研究の検討6
- 第14回 先行研究の検討7
- 第15回 先行研究の検討8

内容は以下の通りです。

1. テーマの見つけ方
2. テーマを解決する分析方法のレクチャー
3. 自分のテーマと分析方法の発見

【授業の進め方】

初回は受講生全員を対象に説明を行います。

その後、レクチャー、各自の発表、討議を通して、課題レポート（自分のテーマと分析方法）をまとめます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に指定はしません。演習の中で紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

受講態度・レポートから評価します。

【履修上の心得】

自分の興味を持てるテーマを発見するために、意欲的に取り組んでください。

【科目のレベル、前提科目など】

卒業研究受講のための前提となる授業です。

「体育原理」「スポーツ指導者論Ⅱ」を受講していることが望まれます。

科目名	専門演習A1・A2
教員名	金田 健史

【授業の内容】

専門演習では、これまで履修してきた生理学、運動生理学、スポーツ生理学の知識を深めるとともに、授業内で紹介した色々な知識や各種の測定・実験を実施する上で必要な基礎知識、注意事項を理解する。また、実際に測定機器を用いて測定を実施することから、その方法やデータの読み取り方を演習する。

だれしものが日々の生活の中や運動経験の中で「なぜ?」「どうして?」といった疑問を感じる機会は少なからずあると思うが、その疑問を解決したり、その疑問から新たな発見や課題をみつけたりするなどということまでおこなうことができる者は少ない。実社会やスポーツ指導の現場などに進んでいく者にとって、このような姿勢や意識をもっていうことはとても重要で、しかもその人の魅力を高めてくれるものであると思われる。これまで経験してきた与えられる授業から、専門演習では自ら獲得していく授業へと意識を切り替えて臨んでもらいたい。

【到達目標】

専門演習の授業を通して、複数の実験課題について演習をおこない、被験者に対する配慮、実験準備の重要性、測定上の注意、得られたデータの処理、結果の理解および考察という一連の研究活動に必要な知識を獲得すること。

【授業計画】

1. 授業内容の説明, 導入
2. 生理学データの分析方法演習 (1)
3. 生理学データの分析方法演習 (2)
4. 実験計画作成方法, および注意点 (1)
5. 実験計画作成方法, および注意点 (2)
6. 論文紹介と質疑応答
7. 論文紹介と質疑応答
8. 論文紹介と質疑応答
9. 論文紹介と質疑応答
10. 論文紹介と質疑応答
11. 論文紹介と質疑応答
12. 論文紹介と質疑応答
13. データ測定演習
14. データ測定演習
15. データ測定演習

【授業の進め方】

授業内ではパソコン室における実習, 実験室における実験などを中心におこなう。授業の前半で実験研究を進める上での基本的な情報を教授し, 中盤以降は実際に測定者, 被験者のそれぞれを経験し, 実践的な力, 知識を養っていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特になし。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

専門演習への取り組み, 実験内容の理解, 課題レポートの完成度から総合的に評価する。

専門演習への取り組み (40%)

実験内容の理解度 (40%)

課題レポートの完成度 (20%)

【履修上の心得】

専門演習ABでは、前期、後期を通じて専門的な知識、実験機器操作について学んでいくため、積極的に興味ある知見について調査する姿勢や、実験機器を丁寧にかつ正しい手法で使用するという姿勢が求められる。

【科目のレベル、前提科目など】

生理学、運動生理学、スポーツ生理学

卒業研究受講のための前提科目である。専門演習ABにおいて、運動生理学分野に興味をもったテーマについて卒業研究を進めていく上で基礎となる内容である。

科目名	専門演習A1・A2
教員名	内田 雄三

【授業の内容】

本専門演習の目的は、体育科教育学の基礎知識を深めることである。

【到達目標】

体育科教育学における諸問題について、その内容の把握に努め資料等から問題解決に向けて考えを深化発展させる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 体育科教育学の性格と領域
- 第3回 体育科・保健体育科はどのような教科か
- 第4回 体育と学習者
- 第5回 目標論・体力を高める運動の授業づくり
- 第6回 運動領域論・体ほぐしの授業づくり
- 第7回 教材教具論・器械運動の授業づくり
- 第8回 学習形態論・武道の授業づくり
- 第9回 指導技術論・ネット型ゲームの授業づくり
- 第10回 評価論・ゴール型ゲームの教材づくり
- 第11回 卒業研究に関わっての先行研究の検討①
- 第12回 卒業研究に関わっての先行研究の検討②
- 第13回 卒業研究に関わっての先行研究の検討③
- 第14回 卒業研究に関わっての先行研究の検討④
- 第15回 総括

2年次の保健体育科教育法で学んだ内容をさらに深め、専門的な内容を学習する。特に体育科教育の目的・運動領域論・教材教具論といった内容をテキスト中心に行っていく。

【授業の進め方】

毎週担当者を決め、内容についての要約・発表・質疑を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①新版 体育科教育学入門 ②高橋健夫他編著 ③大修館書店 ④2010 ⑤2,400 ⑥978-4-469-26701-3

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

要約・発表の実際・質疑応答など、また発表後のリフレクションシート作成等を評価の対象とする。また発表の場の進行についても加味し総合的に判断・評価を行う。

【履修上の心得】

教職を志すからという理由だけで本演習を履修することは勧めない。本演習では「体育科教育学」という学問に関心のある学生に集まってもらいたいと考えており、教育実習ですぐに役立ついわゆるハウツーを知る場ではないことを理解しておく。

【科目のレベル、前提科目など】

保健体育科教育法、教育実習事前事後指導と関連がある。
卒業研究に繋がる科目と考える。

科目名	専門演習A1・A2
教員名	齊藤 武利

【授業の内容】

- ・学校教育現場における様々な運動様式（特にボールゲーム）について、科学的視点を持って分析するために、体力、技術、メンタル、戦術面など様々な角度からスポーツを捕らえ、指導者の視点に立って課題を見つけだし、検討する。
- ・スポーツ医・科学分野における様々な評価の方法等に言及し、メディカルチェックの意義や方法、体力測定の方法（特に、筋力測定やフィールドテスト）について、実際のDATAを基に、活用方法等について検討する。

【到達目標】

スポーツ医・科学における、様々なトレーニング評価の方法等に言及し、メディカルチェックの意義や方法、体力測定の方法（特に、筋力測定やフィールドテスト）について、実際のDATAを基に分析することができるようになる。

【授業計画】

- 第1回 ・オリエンテーション
- 第2回 ・各自の専門とするスポーツ競技・種目の文献検索1
- 第3回 ・各自の専門とするスポーツ競技・種目の文献検索2
- 第4回 ・各自の専門とするスポーツ競技・種目の文献検索と誦読1
- 第5回 ・各自の専門とするスポーツ競技・種目の文献検索と誦読2
- 第6回 ・各種スポーツ競技・種目の書物・文献の整理とレポート作成1
- 第7回 ・各種スポーツ競技・種目の書物・文献の整理とレポート作成2
- 第8回 ・各種スポーツ競技・種目の書物・文献の整理とレポート作成3
- 第9回 ・各自作成した専門分野におけるレポートのプレゼンテーションと討議1
- 第10回 ・各自作成した専門分野におけるレポートのプレゼンテーションと討議2
- 第11回 ・各自作成した専門分野におけるレポートのプレゼンテーションと討議3
- 第12回 ・スポーツ医科学の最前線のトピックスを探る。
・スポーツを支える人々の活動について、課題を行う。
- 第13回 ・オリンピックなどエリートスポーツ選手の活動とそのサポートシステムについて、課題を行う。
- 第14回 ・ボールゲームにおけるテクニカルコーチ、コンディショニングコーチの役割について、課題を行う。
- 第15回 まとめと課題の提出

各自が自ら興味のあるスポーツ種目の専門的知識を深め、自分自身の専門的演習の課題を探すために、方法論の検討や議論も行いながら、課題を解決するための方策を実行する。

【授業の進め方】

筋力トレーニングなどについては、実技形式や実習形式で行う。
テクニカル活動の演習では、VTRを使用し、プレゼンテーション形式の演習を行う。
それ以外の内容については、様々な研究テーマについて、ディスカッション対話形式で行うこともある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特別に、教科書等は指定しない。ただし、個人の課題が明確に選定された場合は、個人の課題研究領域によっては、参考図書を指定し、研究を進める。

個人の発表などの場合、視聴覚機材を使って、プレゼンテーションを行うこともある。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 40% 受講態度 30%

特記事項

全体の2/3以上の出席（授業の参加）が、期末試験やレポート提出により成績を評価するための前提条件とする。個人発表やディスカッションも行うため、授業の導入は非常に重要であり、原則的に遅刻は、認めない。

【履修上の心得】

参加する学生は、自分が積極的に参加し、自らが興味のある課題を探求しようとして参加すること。学期の途中で履修を放棄することのないように積極的に参画すること。

【科目のレベル、前提科目など】

運動生理学、トレーニング論Ⅰ、トレーニング論Ⅱを受講しておいた方が、よい。

科目名	専門演習A1・A2
教員名	竹島 克己

【授業の内容】

専門演習Aでは、将来に備え就職活動の指導を行う。卒業論文作成のため文書の講読、レポートの作成に習熟するよう学習する。就職活動では履歴書、エントリーシートの書き方、面接の心得を研修する。自己分析しどのような職業に就きたいのか分析する。自己アピールの仕方を学習する。卒業論文作成のため、いろいろな文章を読みたい。書籍・論文・新聞・週刊誌などを読み見聞を広めたい。文章を書く力を高めるため、読んだ文書をまとめ、発表する。

【到達目標】

「自主独立」「自他共栄」「自己実現」のため自ら学ぶ姿勢を涵養する。自分の興味を広く、深く探究し、レポートを作成し、発表できるようにする。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
専門演習の方針
- 第2回 研究方法の検討1
論文の書き方
- 第3回 研究方法の検討2
文字入力の基本
- 第4回 研究方法の検討3
事例の研究：論文を読む
- 第5回 研究方法の検討4
事例の研究：論文を読む
- 第6回 研究方法の検討5
事例の研究：論文を読む
- 第7回 文書購読1
参考文献20冊以上を目標に読む
- 第8回 文書購読2
- 第9回 文書購読3
- 第10回 文書購読4
- 第11回 文書購読5
- 第12回 文書購読6
- 第13回 文書購読7
- 第14回 レポート作成1
- 第15回 レポート作成2

【教科書(必ず購入すべきもの)】

文献。各種測定器具など。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

総合的に評価する
レポートの作成精度
発表の妥当性

【履修上の心得】

日頃から問題意識や好奇心を持ってスポーツや健康に注目してほしい。自分自身の関心が、研究の対象となる。問題意識が様々な工夫となり、スポーツ技術の向上につながり、健康に対する意識づけとなる。

【科目のレベル、前提科目など】

卒業研究
3年生からの教科関連科目

科目名	専門演習A1・A2
	スポーツマネジメント・経営調査専門演習
教員名	藤井 和彦

【授業の内容】

本専門演習では前期のA、後期のBを通して、スポーツのマネジメントとりわけ経営調査と評価の手法を学ぶことを中心に据えて、内容を構成していく。

スポーツ経営とは、人々のスポーツへの接近行動の成立・維持・発展を目的とした組織的な営みである。具体的には経営資源を調達し、各種スポーツ事業を効率よく進めていく活動といえる。これら経営活動の効率性に関わる概念がスポーツのマネジメントであり、その効率性を測定・把握する方法が経営調査ということになる。

本専門演習では、以上のようなスポーツ経営やスポーツマネジメントの概念の理解を出発点に、質問紙調査やインタビュー調査等各種調査の手法やデータ解析の方法を学び、卒業研究に向けて自己の問題意識を絞り込んでいくことをねらいとしている。

【到達目標】

自身の関心に基づき、調査方法を選択し、調査を実施し結果を分析してまとめるという一連の研究の手続きを身につける。

【授業計画】

各回の内容は以下の通りである。

- ①～④回：グループワーク（資料等をあたり、人とスポーツとの関わりという質的な現象から課題を抽出する）
- ⑤～⑧回：質問紙調査の作成と実施（テーマを絞り質問紙を作成し実施。実際にデータを得る）
- ⑨～⑬回：データ解析と考察（SPSSを用いたデータ解析と分析の方法を学びレポートを作成する）
- ⑭～⑮回：プレゼンテーション（まとめたレポートをプレゼンテーションする）
- ⑯～⑲回：インタビュー調査の設計（インタビュー調査の手法を学び、テーマを決めて調査の設計をする）
- ⑳～㉓回：インタビュー調査の実施と分析（インタビュー調査を実施し結果を分析、レポートにまとめる）
- ㉔～㉕回：プレゼンテーション（まとめたレポートをプレゼンテーションする）
- ㉖～㉗回：卒論に向けたテーマ設定のディスカッション（各自のテーマを持ち寄りプレゼンテーションを繰り返す）

【授業の進め方】

上記の講義内容で進める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

八代勉・中村平編著「体育・スポーツ経営学講義」大修館書店を指定テキストとする。前半の演習はこのテキストの内容を中心に進めていく。

この他、適宜資料を配付する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 10% 受講態度 90%

特記事項

平常の授業への取り組みと分析レポートの成果から総合的に評価する。

【履修上の心得】

演習科目であるため自律的な学習姿勢を期待する。

【科目のレベル、前提科目など】

体育・スポーツ経営学 スポーツ社会学 スポーツ行政論 体育・スポーツ実践事例研究 等を履修していることが望ましい。

科目名	専門演習A1・A2
教員名	野間 明紀

【授業の内容】

体力、運動能力の測定方法やデータの解析の仕方および論文作成等を指導していく。またテニスやソフトテニスに必要な体力の説明やのゲーム分析及び障害調査等の方法を講義していく。受講人数によって内容が変更する可能性がある。

【到達目標】

4年次の卒業研究に必要な知識を習得すること。

【授業計画】

第1回	ガイダンス	
第2回	論文の作成方法の指導	1
第3回	論文の作成方法の指導	2
第4回	論文の作成方法の指導	3
第5回	論文の作成方法の指導	4
第6回	体力、運動能力のデータ解析（テニス等のゲーム分析や障害調査等の方法も含む。）	1
第7回	体力、運動能力のデータ解析（テニス等のゲーム分析や障害調査等の方法も含む。）	2
第8回	体力、運動能力のデータ解析（テニス等のゲーム分析や障害調査等の方法も含む。）	3
第9回	体力、運動能力のデータ解析（テニス等のゲーム分析や障害調査等の方法も含む。）	4
第10回	体力、運動能力のデータ解析（テニス等のゲーム分析や障害調査等の方法も含む。）	5
第11回	体力、運動能力のデータ解析（テニス等のゲーム分析や障害調査等の方法も含む。）	6
第12回	体力、運動能力のデータ解析（テニス等のゲーム分析や障害調査等の方法も含む。）	7
第13回	体力、運動能力のデータ解析（テニス等のゲーム分析や障害調査等の方法も含む。）	8
第14回	統計処理の方法について	1
第15回	統計処理の方法について	2

【教科書(必ず購入すべきもの)】

データ解析に使用する論文等（授業中に配布する予定）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

授業への取り組みと提出物で評価する。

【履修上の心得】

2/3以上の出席が単位取得のためには必要である。

科目名	専門演習A1・A2
教員名	荒井 信成

【授業の内容】

本専門演習では、各自興味のある学校保健や健康に関するテーマについて探求するとともに、文献収集、プレゼンテーション、ディスカッションを行い、卒業研究のテーマ設定を進めていく。そのため、日々の生活において学校保健や健康に関する事象に興味を持ち、積極的に探究する姿勢を持つ人に受講していただきたい。また、受講生は探求するにとどまらず、それを人にわかりやすく伝える努力もしていただきたい。

【到達目標】

学校保健や健康に関する文献を検索・収集することができる
論文を読解し、その内容を他者に説明することができる
研究の進め方について理解を深め、実際に調査・分析を行うことができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（今後の授業計画の確認）
アイスブレイク活動
- 第2回 文献検索の方法と実際
先行研究や新聞記事の検索方法と、図書館の利用方法について確認する。
学習課題（復習）：自身の興味があるテーマで先行研究を検索し、論文を1本プリントアウトする（30分）
- 第3回 論文読解とディスカッション①
それぞれが持ち寄った研究論文の読み合わせをし、内容等について意見を交換する。
学習課題（復習）：読み合わせをした研究論文について、わからなかった用語や統計手法等について調べ学習をする（60分）
- 第4回 論文読解とディスカッション②
それぞれが持ち寄った研究論文の読み合わせをし、内容等について意見を交換する。
学習課題（復習）：読み合わせをした研究論文について、わからなかった用語や統計手法等について調べ学習をする（60分）
- 第5回 研究の進め方について
自身の研究計画を立案する。
学習課題（復習）：研究計画の実現可能性について検討する（15分）
- 第6回 調査方法の種類
様々な研究手法とそれぞれのメリット・デメリットについて学ぶ。
学習課題（復習）：自身の行おうとしている卒業研究に合う研究手法を選考する（30分）
- 第7回 調査票の作成方法と実際①
様々な調査票の作成方法とそれぞれのメリット・デメリットを学ぶ。
学習課題（復習）：自身の行おうとしている卒業研究に合う調査票作成方法を選考する（30分）
- 第8回 調査票の作成方法と実際②
実際に調査票を作成し、データを収集する。
学習課題（復習）：回収した調査票のデータをエクセルに入力する（30分）
- 第9回 調査データの分析方法①
様々な統計手法を学ぶ。
学習課題（復習）：わからなかった用語について調べ学習する（30分）
- 第10回 調査データの分析方法②
自身の研究に合った統計手法を選択し、実際に分析をする。
学習課題（復習）：分析結果の解釈をする（15分）
- 第11回 調査データの分析方法③
自身の研究に合った統計手法を選択し、実際に分析をする。
学習課題（復習）：分析結果の解釈をする（15分）
- 第12回 調査結果のまとめ方について
図表の作成方法について学ぶ。
学習課題（復習）：授業内で作成した図表を見やすく修正する（30分）
- 第13回 調査結果のプレゼンテーション①
パワーポイントの操作方法を学び、プレゼンテーション資料を作成する。
学習課題（復習）：新たに学んだパワーポイントの操作方法を確認する（15分）
- 第14回 調査結果のプレゼンテーション②
実際に調査結果を発表する。
学習課題（復習）：聴衆から指摘された改善点を修正する（30分）
- 第15回 まとめ
改善したプレゼンテーション資料を紹介する。

学習課題（復習）：卒業研究のテーマを明確にする（30分）

【授業の進め方】

主に授業はパソコン室にて行う予定である。
初回授業時に紹介する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

資料は適宜配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

授業態度及び課題（又はレポート）提出により総合的に評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

課題（又はレポート）提出の締切は厳守すること。

【科目のレベル、前提科目など】

卒業研究受講のための前提科目である。

科目名	専門演習A1・A2
教員名	濱崎 裕介

【授業の内容】

「コーチング事例研究」および「運動の技術史・戦術史の研究」を演習のテーマとする。

「コーチング事例研究」においては、自らの競技力または指導力の向上を目的として、自身の専門種目の動きの構造を分析する。そこからその動き方の練習方法や指導方法を他の履修者にわかりやすく説明する。

「運動の技術史・戦術史の研究」においては、自身の専門種目の運動技術や戦術の変遷について調査し、レポート作成およびプレゼンテーションを行う。

【到達目標】

- ・自らのコーチング事例に関するレポート作成および発表を行い、自身の競技力または指導力の向上に役立てることができる。
- ・自身の専門種目の歴史について理解し、ルール変更や用具の改良によって、行われる動き方や用いられる戦術がどのように変化していったのかを説明することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（授業の進め方、評価の方法、レポートおよび発表課題の説明）
- 第2回 コーチングとは（運動指導者の役割および専門性とは何か）
- 第3回 運動の形成位相と指導方法
- 第4回 運動アナログを用いた運動指導の方法
- 第5回 コーチング事例研究①（連続写真の作成）
- 第6回 コーチング事例研究②（トレース画の作成）
- 第7回 事例発表および討議①
- 第8回 事例発表および討議②
- 第9回 事例発表および討議③
- 第10回 運動の技術史研究の事例紹介
- 第11回 運動の戦術史研究の事例紹介
- 第12回 専門種目の「技術史・戦術史」発表および討議①
- 第13回 専門種目の「技術史・戦術史」発表および討議②
- 第14回 専門種目の「技術史・戦術史」発表および討議③
- 第15回 まとめ

【教科書(必ず購入すべきもの)】

適時資料を配布する。

【参考図書】

- 『運動学講義』（大修館書店）
- 『体育史講義』（大修館書店）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

内訳は、レポート30%、発表30%、受講態度40%とする。

【履修上の心得】

運動の指導者を志す者の集まりである。自らの競技力または指導力の向上のために「動きの感じ」を言葉にするという課題、専門競技の歴史を学ぶという課題に真摯に取り組んでもらいたい。

科目名	専門演習A1・A2
教員名	網野 友雄

【授業の内容】

本専門演習ではコーチング学や組織作りに関する基礎知識を深め、各自が興味のある本専門演習に沿ったテーマについて探求するとともに、先行研究の検討、文献収集、プレゼンテーション、ディスカッションを行い卒業研究のテーマを設定していく。そのために積極的に学び、探求する姿勢のある学生の受講を希望する。

【到達目標】

自身の研究テーマに関する文献を検索、収集し、内容を他者に説明できるようにする。
研究の進め方を理解し、調査、分析を出来るようにする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 コーチング学の性格と領域
- 第3回 チームビルディング・組織づくりについて
- 第4回 グループワーク①（各自が経験してきた指導者やコーチングに関し発表する）
- 第5回 グループワーク②（各自が経験してきた指導者やコーチングに関し発表する）
- 第6回 研究の進め方と文献検索の方法について
- 第7回 論文読解とディスカッション①
- 第8回 論文読解とディスカッション②
- 第9回 調査方法の種類
- 第10回 調査票の作成方法と実施①
- 第11回 調査票の作成方法と実施②
- 第12回 調査データの分析方法①
- 第13回 調査データの分析方法②
- 第14回 調査結果のプレゼンテーション①
- 第15回 調査結果のプレゼンテーション②

【授業の進め方】

上記の講義内容で進める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特になし。資料は適宜配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

授業への取り組みと課題の達成度により総合的に評価する。

【科目のレベル、前提科目など】

卒業研究受講のための前提科目である

科目名	専門演習B1・B2
教員名	内山 須美子

【授業の内容】

あなたが、社会の中でリーダーとなった時、構成員のモチベーションをあげることができたら、その人は、勝手にぐんぐん伸びていきます。できなければ誰もついてきません。どうしたら、人のモチベーションをあげることができるのでしょうか？実は「相手が望んでいることをしてあげる」ことが大事なようです。では、生徒は、プレイヤーは、フィットネススクラブの顧客は何を望んでいるのでしょうか？

教師になっても、コーチになっても、インストラクターになっても、母親になっても、父親になっても、営業職に就いても・・・あなたが将来何になるとしても、いかにして相手のモチベーションをあげるかを学んでおけば、必ずどこかで役立ちます。それを皆で学びましょう。「動機づけ」「モチベーション」「学習意欲」「やる気」…このあたりがこのゼミのキーワードと言えるでしょう。そこから、自分が興味を持てる研究テーマを見つけましょう。

卒業研究を進めるには「研究方法」を決めることも重要です。この演習では、統計処理の方法として「有意差検定」「テキストマイニング分析」「クラスタ分析」「重回帰分析」「パス解析」についてレクチャーします。「どの方法で」「何を明らかにするか」…この演習で学び卒業研究につなげてください。

【到達目標】

1. 卒業研究の作成方法を知ることができる。
2. プレゼンテーションの方法を知ることができる。

【授業計画】

- 第1回 アンケート（調査尺度）の作成方法と調査方法
 第2回 分析方法について：その1
 [内容]平均と標準偏差、クロス集計
 第3回 分析方法について：その2
 [内容]有意差検定
 第4回 分析方法について：その3
 [内容]テキストマイニング分析
 第5回 分析方法について：その4
 [内容]クラスタ分析
 第6回 分析方法について：その5
 [内容]重回帰分析
 第7回 分析方法について：その6
 [内容]パス解析と解析モデルの作成
 第8回 アンケート（調査尺度）の作成1
 第9回 アンケート（調査尺度）の作成2
 第10回 アンケート（調査尺度）の作成3
 第11回 プレゼンテーションの方法1
 第12回 プレゼンテーションの方法1
 第13回 プレゼンテーションの方法1
 第14回 プレゼンテーションの方法1
 第15回 まとめ：発表

内容は以下の通りです。

1. テーマの見つけ方
2. テーマを解決する分析方法のレクチャー
3. 自分のテーマと分析方法の発見

【授業の進め方】

初回は受講生全員を対象に説明を行います。

その後、レクチャー、各自の発表、討議を通して、課題レポート（自分のテーマと分析方法）をまとめます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に指定はしません。演習の中で紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

受講態度・レポートから評価します。

【履修上の心得】

自分の興味を持てるテーマを発見するために、意欲的に取り組んでください。

【科目のレベル、前提科目など】

卒業研究受講のための前提となる授業です。

「体育原理」「スポーツ指導者論Ⅱ」を受講していることが望まれます。

科目名	専門演習B1・B2
教員名	金田 健史

【授業の内容】

専門演習では、これまで履修してきた生理学、運動生理学、スポーツ生理学の知識を深めるとともに、授業内で紹介した色々な知識や各種の測定・実験を実施する上で必要な基礎知識、注意事項を理解する。また、実際に測定機器を用いて測定を実施することから、その方法やデータの読み取り方を演習する。

だれしものが日々の生活の中や運動経験の中で「なぜ?」「どうして?」といった疑問を感じる機会は少なからずあると思うが、その疑問を解決したり、その疑問から新たな発見や課題をみつけたりするなどということまでおこなうことができる者は少ない。実社会やスポーツ指導の現場などに進んでいく者にとって、このような姿勢や意識をもっていうことはとても重要で、しかもその人の魅力を高めてくれるものであると思われる。これまで経験してきた与えられる授業から、専門演習では自ら獲得していく授業へと意識を切り替えて臨んでもらいたい。

【到達目標】

専門演習の授業を通して、複数の実験課題について演習をおこない、被験者に対する配慮、実験準備の重要性、測定上の注意、得られたデータの処理、結果の理解および考察という一連の研究活動に必要な知識を獲得すること。

【授業計画】

1. 授業内容の説明, グループ発表
2. 生理学データの分析方法演習 (1)
3. データ測定演習 (1-1) 呼気ガス分析と心拍数測定
4. データ測定演習 (1-2) 呼気ガス分析と心拍数測定
5. データ測定演習 (2-1) 三次元動作解析測定法
6. データ測定演習 (2-2) 三次元動作解析測定法
7. データ測定演習 (3-1) 床反力, 筋電図計測法
8. データ測定演習 (3-2) 床反力, 筋電図計測法
9. データ測定演習 (4-1) 運動制御と脳波, 脳電位計測法
10. データ測定演習 (4-2) 運動制御と脳波, 脳電位計測法
11. データ測定演習 (5-1) ゲーム分析
12. データ測定演習 (5-2) ゲーム分析
13. 実験内容の検討と実験実習①
14. 実験内容の検討と実験実習②
15. 実験内容の検討と実験実習③

【授業の進め方】

授業内ではパソコン室における実習, 実験室における実験などを中心におこなう。授業の前半で実験研究を進める上での基本的な情報を教授し, 中盤以降は実際に測定者, 被験者のそれぞれを経験し, 実践的な力, 知識を養っていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特になし。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

専門演習への取り組み, 実験内容の理解, 課題レポートの完成度から総合的に評価する。

専門演習への取り組み (40%)

実験内容の理解度 (40%)

課題レポートの完成度 (20%)

【履修上の心得】

専門演習ABでは, 前期, 後期を通じて専門的な知識, 実験機器操作について学んでいくため, 積極的に興味ある知見について調査する姿勢や, 実験機器を丁寧にかつ正しい手法で使用するという姿勢が求められる。

【科目のレベル, 前提科目など】

生理学, 運動生理学, スポーツ生理学

卒業研究受講のための前提科目である。専門演習ABにおいて, 運動生理学分野に興味をもったテーマについて卒業研究を進めていく上で基礎となる内容である。

科目名	専門演習B1・B2
教員名	内田 雄三

【授業の内容】

本専門演習の目的は、体育科教育学の基礎知識を深めることである。

【到達目標】

体育科教育学における諸問題についてその内容の把握に努め資料から問題解決に向けて考えを深化発展させる。また授業記録や授業観察、撮影等を通し体育授業への関心を高め卒業研究への見通しを持つ。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 体育授業の特徴
- 第3回 体育授業の映像を通した記録法の実践1
- 第4回 体育授業の映像を通した記録法の実践2
- 第5回 学生による模擬授業の撮影1
- 第6回 学生による模擬授業の撮影2
- 第7回 撮影した映像の分析1
- 第8回 撮影した映像の分析2
- 第9回 授業分析法の検討
- 第10回 授業分析・解釈の実施1
- 第11回 授業分析・解釈の実施2
- 第12回 卒業研究のテーマ検討1
- 第13回 卒業研究のテーマ検討2
- 第14回 卒業研究に向けたテーマの発表と討論
- 第15回 総括

2年次の保健体育科教育法で学んだ内容をさらに深め、専門的な内容を学習する。特に体育科教育の目的・運動領域論・教材教具論といった内容をテキスト中心に行っていく。

【授業の進め方】

毎週担当者を決め、内容についての要約・発表・質疑を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

(前期使用のテキスト)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

要約・発表の実際・質疑応答など、また発表後のリフレクションシート作成等が評価対象となる。また討論での参加状況も加味し総合的に判断・評価を実施する。

【履修上の心得】

教職を志すからという理由だけで本演習を履修することは薦めない。本演習では「体育科教育学」という学問に関心のある学生に集まってもらいたいと考えており、教育実習ですぐに役立ついわゆるハウツーを知る場ではないことを理解しておく。

【科目のレベル、前提科目など】

保健体育科教育法、教育実習事前事後指導と関連がある。
卒業研究に繋がる科目と考える。

科目名	専門演習B1・B2
教員名	齊藤 武利

【授業の内容】

- ・学校教育現場における様々な運動様式（特にボールゲーム）について、科学的視点を持って分析するために、体力、技術、メンタル、戦術面など様々な角度からスポーツを捕らえ、指導者の視点に立って課題を見つけだし、検討する。
- ・スポーツ医・科学分野における様々な評価の方法等に言及し、メディカルチェックの意義や方法、体力測定の方法（特に、筋力測定やフィールドテスト）について、実際のDATAを基に、活用方法等について検討する。

【到達目標】

スポーツ医・科学における、様々なトレーニング評価の方法等に言及し、メディカルチェックの意義や方法、体力測定の方法（特に、筋力測定やフィールドテスト）について、実際のDATAを基に分析することができるようになる。

【授業計画】

- 第1回 ・オリエンテーション
- 第2回 ・各自の専門とするスポーツ競技・種目の文献検索1
- 第3回 ・各自の専門とするスポーツ競技・種目の文献検索2
- 第4回 ・スポーツ医科学の最前線のトピックスを探る。
- 第5回 ・各自の専門とするスポーツ競技・種目の文献検索と誦読2
- 第6回 ・各種スポーツ競技・種目の書物・文献の整理とレポート作成1
- 第7回 ・各種スポーツ競技・種目の書物・文献の整理とレポート作成2
- 第8回 ・各種スポーツ競技・種目におけるスポーツ医学的なサポートシステムについて、調査し、レポート作成を行う。
- 第9回 ・各自作成した専門分野におけるレポートのプレゼンテーションと討議1
- 第10回 ・各自作成した専門分野におけるレポートのプレゼンテーションと討議2
- 第11回 ・各自作成した専門分野におけるレポートのプレゼンテーションと討議3
- 第12回 ・スポーツ医科学の最前線のトピックスを探る。
・スポーツを支える人々の活動について、課題を行う。
- 第13回 ・オリンピックなどエリートスポーツ選手の活動とそのサポートシステムについて、課題と行う。
- 第14回 ・ボールゲームにおけるテクニカルコーチ、コンディショニングコーチの役割について、課題と行う。
- 第15回 まとめと課題の提出

各自が自ら興味のあるスポーツ種目の専門的知識を深め、自分自身の専門的演習の課題を探すために、方法論の検討や議論も行いながら、課題を解決するための方策を実行する。

【授業の進め方】

トレーニングなどについては、実技形式や実習形式で行う。
テクニカル活動の演習では、VTRを使用し、プレゼンテーション形式の演習を行う。
それ以外の内容については、様々な研究テーマについて、ディスカッション対話形式で行うこともある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特別に、教科書等は指定しない。ただし、個人の課題が明確に選定された場合は、個人の課題研究領域によっては、参考図書を指定し、研究を進める。

個人の発表などの場合、視聴覚機材を使って、プレゼンテーションを行うこともある。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 40% 受講態度 30%

特記事項

全体の2/3以上の出席（授業の参加）が、期末試験やレポート提出により成績を評価するための前提条件とする。個人発表やディスカッションも行うため、授業の導入は非常に重要であり、原則的に遅刻は、認めない。

【履修上の心得】

参加する学生は、自分が積極的に参加し、自らが興味のある課題を探求しようとして参加すること。学期の途中で履修を放棄することのないように積極的に参画すること。

【科目のレベル、前提科目など】

運動生理学、トレーニング論Ⅰ、スポーツ情報科学入門等の関連科目を受講しておいた方が、よい。

科目名	専門演習B1・B2
教員名	竹島 克己

【授業の内容】

専門演習Bでは就職活動の指導と卒業研究の準備を行う。就職活動では希望する就職先の資料を収集し研究する。卒業研究の準備は興味ある資料を収集し、分析する。就職活動も卒業研究も、文章を読み、書く、発表するという作業が必要である。

まず、本を読むことを楽しみましょう。

【到達目標】

「自主独立」「自他共栄」「自己実現」のため自ら学ぶ姿勢を涵養する。自分の興味を広く、深く探究し、レポートを作成し、発表できるようにする。

【授業計画】

- 第1回 研究方法の検討1
エクセルによるデータ分析方法
- 第2回 研究方法の検討2
エクセルによるデータ分析方法
- 第3回 研究方法の検討3
エクセルによるデータ分析方法
- 第4回 研究方法の検討4
エクセルによるデータ分析方法
- 第5回 文書購読1
分析方法を踏まえ参考文献を購読
- 第6回 文書購読2
分析方法を踏まえ参考文献を購読
- 第7回 文書購読3
分析方法を踏まえ参考文献を購読
- 第8回 文書購読4
分析方法を踏まえ参考文献を購読
- 第9回 文書購読5
分析方法を踏まえ参考文献を購読
- 第10回 レポート作成1
- 第11回 レポート作成2
- 第12回 レポート作成3
- 第13回 発表会1
文書購読しレポートを作成し、成果を発表する
- 第14回 発表会2
文書購読しレポートを作成し、成果を発表する
- 第15回 発表会3
文書購読しレポートを作成し、成果を発表する

【教科書(必ず購入すべきもの)】

文献。各種測定器具など。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

総合的に評価する
レポートの作成精度
発表の妥当性

【履修上の心得】

日頃から問題意識や好奇心を持ってスポーツや健康に注目してほしい。自分自身の関心が、研究の対象となる。問題意識が様々な工夫となり、スポーツ技術の向上につながり、健康に対する意識づけとなる。

【科目のレベル、前提科目など】

卒業研究
3年生からの教科関連科目

科目名	専門演習B1・B2
	スポーツマネジメント・経営調査専門演習
教員名	藤井 和彦

【授業の内容】

本専門演習では前期のA、後期のBを通して、スポーツのマネジメントとりわけ経営調査と評価の手法を学ぶことを中心に据えて、内容を構成していく。

スポーツ経営とは、人々のスポーツへの接近行動の成立・維持・発展を目的とした組織的な営みである。具体的には経営資源を調達し、各種スポーツ事業を効率よく進めていく活動といえる。これら経営活動の効率性に関わる概念がスポーツのマネジメントであり、その効率性を測定・把握する方法が経営調査ということになる。

本専門演習では、以上のようなスポーツ経営やスポーツマネジメントの概念の理解を出発点に、質問紙調査やインタビュー調査等各種調査の手法やデータ解析の方法を学び、卒業研究に向けて自己の問題意識を絞り込んでいくことをねらいとしている。

【到達目標】

自身の関心に基づき、調査方法を選択し、調査を実施し結果を分析してまとめるという一連の研究の手続きを身につける。

【授業計画】

各回の内容は以下の通りである。

- ①～④回：グループワーク（資料等をあたり、人とスポーツとの関わりという質的な現象から課題を抽出する）
- ⑤～⑧回：質問紙調査の作成と実施（テーマを絞り質問紙を作成し実施。実際にデータを得る）
- ⑨～⑬回：データ解析と考察（SPSSを用いたデータ解析と分析の方法を学びレポートを作成する）
- ⑭～⑮回：プレゼンテーション（まとめたレポートをプレゼンテーションする）
- ⑯～⑲回：インタビュー調査の設計（インタビュー調査の手法を学び、テーマを決めて調査の設計をする）
- ⑳～㉓回：インタビュー調査の実施と分析（インタビュー調査を実施し結果を分析、レポートにまとめる）
- ㉔～㉕回：プレゼンテーション（まとめたレポートをプレゼンテーションする）
- ㉖～㉟回：卒論に向けたテーマ設定のディスカッション（各自のテーマを持ち寄りプレゼントディスカッションを繰り返す）

【授業の進め方】

上記の講義内容で進める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

八代勉・中村平編著「体育・スポーツ経営学講義」大修館書店を指定テキストとする。前半の演習はこのテキストの内容を中心に進めていく。

この他、適宜資料を配付する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 10% 受講態度 90%

特記事項

平常の授業への取り組みと分析レポートの成果から総合的に評価する。

【履修上の心得】

演習科目であるため自律的な学習姿勢を期待する。

【科目のレベル、前提科目など】

体育・スポーツ経営学 スポーツ社会学 スポーツ行政論 体育・スポーツ実践事例研究 等を履修していることが望ましい。

科目名	専門演習B1・B2
教員名	野間 明紀

【授業の内容】

来年度の卒業研究作成に向けて実験機器の操作を実践する。また知識を高め自分のやりたいことを見つけるために文献研究等を行う。

【到達目標】

4年次の卒業研究に必要な知識を習得すること。また卒業研究のテーマを決定すること。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 実験機器の操作 1
- 第3回 実験機器の操作 2
- 第4回 実験機器の操作 3
- 第5回 実験機器の操作 4
- 第6回 実験機器の操作 5
- 第7回 実験機器の操作 6
- 第8回 実験機器の操作 7
- 第9回 文献研究 1
- 第10回 文献研究 2
- 第11回 文献研究 3
- 第12回 文献研究 4
- 第13回 文献研究 5
- 第14回 卒業研究のテーマについて個人面談 1
- 第15回 卒業研究のテーマについて個人面談 2

【教科書(必ず購入すべきもの)】

文献については配布するか、個人で探す。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

授業のへの取り組みと提出物で評価する。

【履修上の心得】

2/3以上の出席が単位取得のためには必要である。

科目名	専門演習B1・B2
教員名	荒井 信成

【授業の内容】

本専門演習では、各自興味のある学校保健や健康に関するテーマについて探求するとともに、文献収集、プレゼンテーション、ディスカッションを行い、卒業研究のテーマ設定を進めていく。そのため、日々の生活において学校保健や健康に関する事象に興味を持ち、積極的に探究する姿勢を持つ人に受講していただきたい。また、受講生は探求するにとどまらず、それを人にわかりやすく伝える努力もしていただきたい。

【到達目標】

学校保健や健康に関する文献を検索・収集することができる
論文を読解し、その内容を他者に説明することができる
研究の進め方について理解を深め、実際に調査・分析を行うことができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（今後の授業計画の確認）
学習課題（復習）：次回の活動場所や内容等を確認する（5分）
- 第2回 文献検索の方法と実際
先行研究や新聞記事の検索方法と、図書館の利用方法について確認する。
学習課題（復習）：自身の興味があるテーマで先行研究を検索し、論文を1本プリントアウトする（30分）
- 第3回 論文読解とディスカッション①
それぞれが持ち寄った研究論文の読み合わせをし、内容等について意見を交換する。
学習課題（復習）：読み合わせをした研究論文について、わからなかった用語や統計手法等について調べ学習をする（60分）
- 第4回 論文読解とディスカッション②
それぞれが持ち寄った研究論文の読み合わせをし、内容等について意見を交換する。
学習課題（復習）：読み合わせをした研究論文について、わからなかった用語や統計手法等について調べ学習をする（60分）
- 第5回 研究の進め方について
自身の研究計画を立案する。
学習課題（復習）：研究計画の実現可能性について検討する（15分）
- 第6回 調査方法の種類
様々な研究手法とそれぞれのメリット・デメリットについて学ぶ。
学習課題（復習）：自身の行おうとしている卒業研究に合う研究手法を選考する（30分）
- 第7回 調査票の作成方法と実際①
様々な調査票の作成方法とそれぞれのメリット・デメリットを学ぶ。
学習課題（復習）：自身の行おうとしている卒業研究に合う調査票作成方法を選考する（30分）
- 第8回 調査票の作成方法と実際②
実際に調査票を作成し、データを収集する。
学習課題（復習）：回収した調査票のデータをエクセルに入力する（30分）
- 第9回 調査データの分析方法①
様々な統計手法を学ぶ。
学習課題（復習）：わからなかった用語について調べ学習する（30分）
- 第10回 調査データの分析方法②
自身の研究に合った統計手法を選択し、実際に分析をする。
学習課題（復習）：分析結果の解釈をする（15分）
- 第11回 調査データの分析方法③
自身の研究に合った統計手法を選択し、実際に分析をする。
学習課題（復習）：分析結果の解釈をする（15分）
- 第12回 調査結果のまとめ方について
図表の作成方法について学ぶ。
学習課題（復習）：授業内で作成した図表を見やすく修正する（30分）
- 第13回 調査結果のプレゼンテーション①
パワーポイントの操作方法を学び、プレゼンテーション資料を作成する。
学習課題（復習）：新たに学んだパワーポイントの操作方法を確認する（15分）
- 第14回 調査結果のプレゼンテーション②
実際に調査結果を発表する。
学習課題（復習）：聴衆から指摘された改善点を修正する（30分）
- 第15回 まとめ
改善したプレゼンテーション資料を紹介する。

学習課題（復習）：卒業研究のテーマを明確にする（30分）

【授業の進め方】

主に授業はパソコン室にて行う予定である。
初回授業時に紹介する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

資料は適宜配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

授業態度及び課題（又はレポート）提出により総合的に評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

課題（又はレポート）提出の締切は厳守すること。

【科目のレベル、前提科目など】

卒業研究受講のための前提科目である。

科目名	専門演習B1・B2
教員名	濱崎 裕介

【授業の内容】

体育・スポーツを対象とした研究にはどのようなものがあるのかを新聞記事、学術雑誌などを材料として探っていく。また、研究の方法論について学び、自身のテーマを解決するのに最も適したアプローチの仕方を検討する。

【到達目標】

- ・卒業研究の大まかなテーマを選択し、そのテーマに関する研究動向を把握する。
- ・研究の方法論について理解し、自身のテーマを解決するためのアプローチの仕方を選択することができる。

【授業計画】

- 第1回 体育・スポーツを対象とした研究にはどのようなものがあるのか
 第2回 研究の方法論①（総合領域としてのスポーツ科学）
 第3回 研究の方法論②（質的研究と量的研究）
 第4回 研究の方法論③（質的研究を行う際のソフトウェアの活用）
 第5回 質的研究ソフトウェアの活用例①（インタビュー調査）
 第6回 質的研究ソフトウェアの活用例②（アンケートにおける自由記述の分析）
 第7回 文献抄読①
 第8回 文献抄読②
 第9回 文献抄読③
 第10回 研究テーマに関するグループ・ディスカッション
 第11回 研究テーマの設定と討議①
 第12回 研究テーマの設定と討議②
 第13回 研究テーマの設定と討議③
 第14回 研究テーマの調査及び分析の方法
 第15回 まとめ（卒業研究に向けて）

【教科書(必ず購入すべきもの)】

適時資料を配布する。

【参考図書】

『QDAソフトを活用する実践質的データ分析入門』：佐藤 郁哉（新曜社）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 60%
 特記事項
 内訳は、発表40%、受講態度60%とする。

【履修上の心得】

卒業研究の下準備として、学術論文をたくさん読むこと。

科目名	専門演習B1・B2
教員名	網野 友雄

【授業の内容】

本専門演習ではコーチング学や組織作りに関する基礎知識を深め、各自が興味のある本専門演習に沿ったテーマについて探求するとともに、先行研究の検討、文献収集、プレゼンテーション、ディスカッションを行い卒業研究のテーマを設定していく。そのために積極的に学び、探求する姿勢のある学生の受講を希望する。

【到達目標】

自身の研究テーマに関する文献を検索、収集し、内容を他者に説明できるようにする。
研究の進め方を理解し、調査、分析を出来るようにする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 コーチング学の性格と領域
- 第3回 チームビルディング・組織づくりについて
- 第4回 グループワーク①（各自が経験してきた指導者やコーチングに関し発表する）
- 第5回 グループワーク②（各自が経験してきた指導者やコーチングに関し発表する）
- 第6回 研究の進め方と文献検索の方法について
- 第7回 論文読解とディスカッション①
- 第8回 論文読解とディスカッション②
- 第9回 調査方法の種類
- 第10回 調査票の作成方法と実施①
- 第11回 調査票の作成方法と実施②
- 第12回 調査データの分析方法①
- 第13回 調査データの分析方法②
- 第14回 調査結果のプレゼンテーション①
- 第15回 調査結果のプレゼンテーション②

【授業の進め方】

上記の講義内容で進める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特になし。資料は適宜配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

授業への取り組みと課題の達成度により総合的に評価する。

【科目のレベル、前提科目など】

卒業研究受講のための前提科目である

科目名	教育課程論S
教員名	小泉 祥一

【授業の内容】

教育課程に関する基礎的考察をおこない、実践上の留意点を理解する。

教育課程は、教育内容を体系的に構成したものであるが、具体的な内容は、学年や教科・科目毎に、学習指導要領に明示される。

本科目では、教育課程の概念と構造などの基礎的な内容も含むが、中心は、現在の教育課程の内容を取り扱う。

教育課程の編成が中心的な内容で、実際に学習指導案を作成する。

また現在では、育成すべき能力、学力と人格、総合的学習、教育課程経営（カリキュラム・マネジメントを含む）、学校評価など、教育目標と教育課程に関わる事項が関心を集めている。これらの取り組みの現状と課題、あるべき姿について、議論する。

【到達目標】

- ① 学校教育における教育課程の役割を理解するとともに、教育課程の概念と構造を理解すること
- ② 教育課程編成をめぐる歴史の変遷と現代における教育課程改革について理解すること
- ③ 各教科および教科外活動の教育内容や教材研究等に関する基礎的・基本的な事項を理解すること
- ④ ①～③をもとに、教育課程の実施としての学習指導案を作成できること

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
－全体の概要と学校教育における教育課程の役割－
- 第2回 教育課程の概念と構造
－教育課程とカリキュラムと指導計画の関係、学力の構造と教育課程－
- 第3回 中学校学習指導要領の変遷
－戦後初期新教育の教育課程における児童中心主義－
- 第4回 中学校学習指導要領の変遷
－昭和30、40年代の教育課程における科学・学問中心主義－
- 第5回 中学校学習指導要領の変遷
－昭和50年代以降の教育課程における人間中心主義－
- 第6回 現代における教育課程改革の課題（1）
－教育課程における生活と科学と人間－
- 第7回 現代における教育課程改革の課題（2）
－新教科「地域共生科」の開発－
- 第8回 教育目標、教育内容と教材・教具の関係
- 第9回 教育課程の編成と指導計画の作成
- 第10回 総合的学習の意義と課題
- 第11回 学力評価と教育課程評価
- 第12回 教育課程経営（カリキュラム・マネジメントを含む）と地域性
- 第13回 教育課程の実施としての学習指導案の作成
- 第14回 中学校学習指導案の検討と改善
- 第15回 教育課程研究のまとめ

【授業の進め方】

講義形式をとることが多いが、必要に応じて受講者に直接、意見や発表を求める。また、授業内課題の提出がある。

準備学習として、テキストを事前に読み、感想と疑問点をまとめる。

講義の後、毎回最後の10分程度の時間をとって、その日の講義内容についての感想や意見を書いていただく。

次回の講義の最初に10分程度の時間をとって主なものを紹介し、若干のコメントを加えて、次の講義を進める。

講義をもとに、受講生は各自関心のある授業テーマを設定し、学習指導案を作成する。

その指導案についての検討を踏まえ、指導案を改善する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①教育課程論 ②鈴木由美子編著 ③協同出版 ④2014年4月1日 ⑤2200円＋税 ⑥978-4-319-10675-2

【参考図書】

文部科学省『中学校学習指導要領』（文部科学省のホームページからダウンロードできます）

田中耕治編『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房

安彦忠彦『改訂版 教育課程編成論』放送大学教育振興会

安彦忠彦編『新版 カリキュラム研究入門』勤草書房

山崎準二編『教育課程』学文社
柴田義松編著『教育課程論 第二版』学文社
柴田義松『教育課程 –カリキュラム入門』有斐閣
赤堀侃司『教育工学への招待 新版』ジャムハウス
赤堀侃司『授業デザインの方法と実際』高陵社書店
日本カリキュラム学会編『現代カリキュラム事典』ぎょうせい
日本教育方法学会編『教育方法学研究ハンドブック』学文社
日本教育方法学会編『現代教育方法事典』図書文化
安彦忠彦他編『新版 現代学校教育大事典』ぎょうせい

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 30% 授業内小試験 20% レポート・課題 30% 受講態度 20%

特記事項

授業への参加(積極的な発言・発表・提案、討論、記録、感想・意見のコメントペーパーの提出など)、授業内小テスト、レポート・課題、および定期試験で行う。

【履修上の心得】

受講者の主体的参加を期待する。(私語厳禁、意見発表などの授業のルールとマナーを守ること)
自分で考える習慣を身につけること、人前で自分の意見を発表できることが、基本になる。
授業では、必ず自分の意見を求められるので、恥ずかしがらないで、意見を述べること。
小論文を課すことがある。

【科目のレベル、前提科目など】

関連科目として、教育基礎論、教育方法論、教育制度論、教師論がある。
教職の免許を取得する学生にとっては、必修科目であり、教育学の基礎的な内容である。

科目名	保健体育科教育法 I
教員名	内田 雄三

【授業の内容】

本科目の目的は、中学校・高等学校保健体育科の教科内容、授業に関する指導方法や理論の基礎について学ぶことである。

【到達目標】

- ・保健体育科の教科特性や教科の存在意義について理解する。
- ・授業実践を支える教授行為や学習評価の方法を知る。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
講義の概要と授業の進め方 提出物について
- 第2回 保健体育科の教科性
教科成立の背景と学校教育における保健体育科の意義
- 第3回 保健体育科がめざす生徒像と育てたい力
教科目標の変遷と現代に求められる教科内容
体力低下問題と体力づくり
- 第4回 学習指導要領における保健体育科の目標と内容
目標と内容から見た各運動領域の位置づけ
- 第5回 学習指導要領における保健体育科の変遷
社会情勢や時代背景との関係から見た保健体育科への期待
- 第6回 保健体育科の授業づくり1
さまざまな学習形態や学習指導、学習評価との関係
- 第7回 保健体育科の授業づくり2
生徒の学習意欲と授業づくりや教材との関係
- 第8回 陸上競技の授業づくりと指導法
- 第9回 器械運動の授業づくりと指導法
- 第10回 球技の授業づくりと指導法
- 第11回 水泳の授業づくりと指導法
- 第12回 武道の授業づくりと指導法
- 第13回 ダンスの授業づくりと指導法
- 第14回 体づくり運動・体育理論の授業づくりと指導法
- 第15回 総括
保健体育科の存在意義

保健体育科の授業を巡る制度的側面や教科の目標、生徒にとって評価される授業等について学習をする。具体的には、保健体育科の目標論、授業論、学習指導要領の変遷史、評価論、教師の言葉かけ、民間教育研究団体の動向などである。またアクティブラーニングの視点からの授業改善が求められている今日の状況を踏まえ、ICTを活用した授業実践例なども各授業で適宜紹介していく。

【授業の進め方】

本科目は、教室にて講義形式で実施する。体育授業の映像視聴や配付資料を参照しながら、指導のポイントや理論について学ぶ。また、発問を中心に展開する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①中学校学習指導要領解説保健体育編 ②文部科学省 ③東山書房 ④2008 ⑤386 ⑥978-4-8278-1463-7

〈購入図書〉

本科目のみならず教育実習事前指導、教育実習、教員採用試験等を想定し、以下の著書を全員購入すること。購入方法は、本科目1回目に指示する。

文部科学省、中学校学習指導要領解説 保健体育編、東山書房

【参考図書】

体育の授業を創る・高橋健夫編著・大修館書店
ビジュアル 新しい体育実技・東京書籍

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 20%

特記事項

授業内レポートと定期テストを実施する。

【履修上の心得】

本科目は、保健体育科教育法Ⅱ・Ⅳと併せてひとまとまりの科目である。なるべくⅠⅡⅣを併せて履修すること。

【科目のレベル、前提科目など】

本科目は、1年次から学んできたあらゆる種目・運動の実技、特別活動、学校保健など、全て関連している。

本科目は、教員養成の導入として位置づけられ、教育実習に直結する科目である。

科目名	保健体育科教育法Ⅱ
教員名	内田 雄三

【授業の内容】

本科目の目的は、体育授業の観察・分析・評価方法を学習することである。

【到達目標】

- ・模擬授業の計画、実施、評価という一連の授業づくりを通して、体育授業の運営について理解する。
- ・さまざまな授業評価や学習評価の方法を、模擬授業を通して実際に試す。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
授業の概要説明 提出物等の説明
- 第2回 学習者による授業評価
診断的・総括的授業評価と形成的授業評価
- 第3回 授業観察法1
期間記録法の概要と観察方法
- 第4回 授業観察法2
期間記録の記録法（演習形式）
- 第5回 授業観察法3
教師の相互作用行動と児童生徒の授業評価
- 第6回 授業観察法4
抽出見調査と授業観察
- 第7回 授業観察法5
フィールドノートによる授業記録
- 第8回 授業観察・授業評価と授業づくりとの関係
観察記録や評価を授業づくりに生かすために
- 第9回 ゲームパフォーマンス評価1
本評価法の概要と授業での活用
- 第10回 ゲームパフォーマンス評価2
アルティメットのゲーム観察（ICTを利用）
- 第11回 ゲームパフォーマンス評価3
アルティメットのゲーム分析
- 第12回 ゲームパフォーマンス評価4
フラッグフットボールのゲーム観察（ICTを利用）
- 第13回 ゲームパフォーマンス評価5
フラッグフットボールのゲーム分析
- 第14回 ゲーム分析のまとめと授業への活用
- 第15回 総括
授業観察と授業評価の意義

内容は、次の通りである。

- 1, 授業評価の方法についての講義および演習
- 2, 授業分析の手法を学び、体育授業を評価する。
体育科教育法Ⅰ並びに教育実習の事前指導と連動しながら、本科目では、授業担当者による模擬授業形式で実際の授業に即した学習方法を紹介していく。
- 3, 各種ゲームの観察に際して、タブレットを用いたゲーム観察及び記録の方法について体験的な学習を進める。

【授業の進め方】

本科目は、教室での講義と体育館およびグラウンドを中心とした演習形式の授業内容で構成する。教育実習を想定して、学ぶ側の生徒の立場を理解しながら授業に取り組む。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①中学校学習指導要領解説保健体育編 ②文部科学省 ③東山書房 ④2008 ⑤386 ⑥978-4-8278-1463-7

適宜資料を配布する。

【参考図書】

高橋健夫編著,体育授業を観察評価する,明和出版

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 20%

【履修上の心得】

特になし

【科目のレベル、前提科目など】

本科目は、これまで学んできた実技、特別活動、学校保健、体育科教育法ⅠⅢⅣなど全て関連している。

本科目は、教育実習事前指導や他の保健体育科教育法と大きく関連している。そのため、保健体育科教育法ⅠⅣも履修することを前提にしている。また本科目は体育教員養成の中核科目の一つとして位置づけられる。

科目名	保健体育科教育法Ⅲ(保健)
	保健科教育の創造
教員名	荒井 信成

【授業の内容】

小学校、中学校、高等学校における保健科教育の推移と現状を理解し、学習指導要領の内容に即した授業計画案の作成、教材開発、指導案の作成を行う。現代ではICT教育の充実が求められているため、タブレットなど電子媒体を用いた保健授業づくりにも試みる。

また、指導案の検討と改善を学生同士で行い、作成した指導案を基に模擬授業を実施する。

【到達目標】

教育内容の構成や系統性、教材づくり、教授行為などについて理解を深め、保健の授業を構成できる。

【授業計画】

- 第1回 保健科教育の構造と変遷
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードについて調べる（30分）
- 第2回 小学校、中学校、高等学校の保健学習目標とその内容
これまでに自身が受けてきた保健授業を振り返り、グループで意見を交換する。
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードについて調べる（30分）
- 第3回 教師に求められる資質・能力
自身の持つ「良い教師像」について、グループで意見を交換する。
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードについて調べる（30分）
- 第4回 保健科教育の学力と評価
これまでに自身が受けてきた保健学習における評価を紹介し合う。
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードについて調べる（30分）
- 第5回 指導方法の工夫①（ブレインストーミング、実習）
ブレインストーミングと実習といった指導方法について学び、実際にグループで行なってみる。
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードについて調べる（30分）
- 第6回 指導方法の工夫②（ロールプレイング、ケーススタディ）
ロールプレイングとケーススタディといった指導方法について学び、実際にグループで行なってみる。
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードについて調べる（30分）
- 第7回 指導案作成方法
指導案の作成方法について学ぶ。
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードについて調べる（30分）
- 第8回 指導案作成とその評価
実際に指導案を作成し、グループで互いの指導案を評価し合う。
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードについて調べる（30分）
- 第9回 模擬授業とその検討①（中学校「心身の機能の発達と心の健康」「健康と環境」）
模擬授業を行ない、意見交換を行なう。
学習課題（復習）：授業者は改善点をレポートにまとめ、学習者は授業者に対するコメントをレポートにする（60分）
- 第10回 模擬授業とその検討②（中学校「傷害の防止」）
模擬授業を行ない、意見交換を行なう。
学習課題（復習）：授業者は改善点をレポートにまとめ、学習者は授業者に対するコメントをレポートにする（60分）
- 第11回 模擬授業とその検討③（中学校「健康な生活と疾病の予防」）
模擬授業を行ない、意見交換を行なう。
学習課題（復習）：授業者は改善点をレポートにまとめ、学習者は授業者に対するコメントをレポートにする（60分）
- 第12回 模擬授業後の指導案の評価と再検討（中学校）
これまでの模擬授業を振り返り、ICT教育や主体的・対話的で深い学びを取り入れた改善策を考え、意見交換を行なう。
学習課題（復習）：授業者は改善点をレポートにまとめ、学習者は授業者に対するコメントをレポートにする（60分）
- 第13回 模擬授業とその検討④（高等学校「現代社会と健康」）
模擬授業を行ない、意見交換を行なう。
学習課題（復習）：授業者は改善点をレポートにまとめ、学習者は授業者に対するコメントをレポートにする（60分）
- 第14回 模擬授業とその検討⑤（高等学校「生涯を通じる健康」「社会生活と健康」）
模擬授業を行ない、意見交換を行なう。
学習課題（復習）：授業者は改善点をレポートにまとめ、学習者は授業者に対するコメントをレポートにする

(60分)

第15回 模擬授業後の指導案の評価と再検討(高等学校)

これまでの模擬授業を振り返り、ICT教育や主体的・対話的で深い学びを取り入れた改善策を考え、意見交換を行なう。

学習課題(復習): 授業者は改善点をレポートにまとめ、学習者は授業者に対するコメントをレポートにする(60分)

【授業の進め方】

基本的な内容については講義形式で解説する。

具体的あるいは実践的な内容については、教材研究などの作業を多く取り入れ、最終的には模擬授業や集団検討を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

中学校学習指導要領, 文部科学省, ¥232

中学校学習指導要領解説 保健体育編, 文部科学省, ¥368

高等学校学習指導要領, 文部科学省, ¥560

高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編, 文部科学省, ¥455

初回授業時に使用する教科書を紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 0%

特記事項

作業への取組状況および課題(又はレポート)の提出, 試験により総合的に評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

課題(又はレポート)提出の締切は守ること。

【履修上の心得】

授業への積極的学習参加を求める。

【科目のレベル、前提科目など】

中学校・高等学校教諭一種免許状(保健体育)取得に必要な科目である。

科目名	保健体育科教育法IV
教員名	内田 雄三

【授業の内容】

本科目の目的は、体育授業の典型教材について実技等を通じて学んでいくことである。

【到達目標】

- ・学習指導要領改訂に伴って新たに採り上げられた領域および各種運動について、求められる内容を理解し実技等を通して授業への具体化に向けた方策を考えることができる。
- ・自らが教材について検討し、加工修正された教材づくりに取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
授業の概要説明 提出物等の説明
- 第2回 なわとびの教材研究1
短なわとびの授業実践例の紹介とグループ創作
- 第3回 なわとびの教材研究2
長なわとび（ダブルダッチ）とグループ創作2
- 第4回 なわとびの教材研究3
グループ創作の発表と評価
- 第5回 ペースランニングの教材研究1
ペースランニングの教材価値と学習方法
- 第6回 ペースランニングの教材研究2
自分に合ったペースの発見とペース設定
- 第7回 ペースランニングの教材研究3
ペースアップと身体の変化との関係
- 第8回 器械運動の教材研究1
集団化によるマット運動の教材づくり（集団化の意図、学習集団のとらえ方）
- 第9回 器械運動の教材研究2
集団化によるマット運動の教材づくり（学習の進め方）
- 第10回 器械運動の教材研究3
集団化によるマット運動の教材づくり（発表会の運営）
- 第11回 体育理論の教材研究1
体育理論領域設定の経緯と背景
- 第12回 体育理論の教材研究2
体育理論での教材のあり方
- 第13回 体育理論の教材研究3
グループによる教材の選定～授業づくり・学習指導案作成
- 第14回 体育理論の教材研究4
プレゼンテーションおよび評価活動
- 第15回 総括
児童生徒の実態把握とそれにもとづく教材開発や教材選定

本科目の内容は、授業担当者によって提案された運動や題材を体験し、その教材の可能性や改善点について検討をしていく。タブレット端末を利用したグループワークなども各教材の授業づくりにおいて実施していく予定である。

【授業の進め方】

本科目では内容にも示したとおり、授業者が典型的な教材を示し実際に学生が実技をしていく。たとえば、短なわとびやダブルダッチ、ペースランニング、マット運動などでの典型的な教材を取り扱う。その際、学習評価とICTを利用した指導法との関連性についても採り上げていく。また現行学習指導要領より設けられた体育理論に関して、教材研究や模擬授業を行っていく予定である。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

書籍・資料等は適宜指定する

【参考図書】

中学校学習指導要領解説保健体育編、東山書房
高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編、東山書房

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

受講態度、レポート、提出物、活動への取り組み。

実際に経験を積むことにより、その教材のもつおもしろさや可能性を考えてほしい。

【履修上の心得】

教室と体育館の両方での実施となる。実技の準備をすること。また本科目は教職をめざす学生を念頭に授業実践レベルで展開することをねらいとしており、教職への意欲とともに授業づくりに向けて意識を高く持てる学生の履修を望む。

【科目のレベル、前提科目など】

保健体育科教育法ⅠⅡと教育実習事前指導と関連がある。

本科目は体育教員養成の中核科目の一つとして位置づけられる。

科目名	道徳教育の理論と方法S
	対話による道徳教育をめざして
教員名	菊地 真貴子

【授業の内容】

- 1 戦後から現在までの主な道徳教育論の特色と課題
- 2 学習指導要領の構造
- 3 道徳授業の展開と工夫
- 4 指導案の書き方
- 5 対話による道徳授業の可能性

【到達目標】

- 1 戦後から現在までの主な道徳教育論の特色をつかみ、その課題について自らの考えを深めることができる。
- 2 学習指導要領の構造を理解し、授業実践とのつながりを考えることができる。
- 3 主な道徳の授業の方法について理解し、それぞれのよさや課題をつかむことができる。
- 4 指導案の書き方を習得し、その流れを具体化してみることによって、よりよい授業のイメージをつかむことができる。
- 5 子どもたちが協同で価値を探求するために、教員はどのようにふるまったらよいか、考えることができる。

【授業計画】

- 第1回 戦後道徳教育論の展開
上田薫の道徳教育論を中心に
- 第2回 天野貞祐の道徳教育論と特設「道徳の時間」
- 第3回 「特別の教科道徳」までの道徳教育の変遷
- 第4回 学習指導要領の構造
- 第5回 指導内容項目と授業
- 第6回 学習指導要領と教材について
- 第7回 コールバーグの道徳性発達理論と道徳の授業
- 第8回 「資料分析の方法」による道徳の授業
- 第9回 授業における発問について
- 第10回 指導案作成の方法①
- 第11回 指導案作成の方法②
- 第12回 指導案による模擬授業
- 第13回 授業の分析と評価
- 第14回 教員の役割と子どもの学び
- 第15回 対話による道徳教育をめざして

過去の道徳教育から現在までを概観し、道徳教育がはらむ危険性や課題を把握した上で、よりよい道徳の授業を計画し、実践し、自らその評価ができるようになることを願って授業計画を立てました。

【授業の進め方】

まとまった内容をある程度は講義式に進めることもありますが、それぞれの主体的な考えを深めるために、時に生徒の立場で、時に教師の立場で書いてもらうことを授業の終わりに必ずやっていきたいと思えます。また、他者の意見に耳を傾け、自分の考えを拡げたり、深めたりする場もとりたいと考えています。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

文部科学省 「中学校学習指導要領解説 道徳」平成20年度版
出版され次第「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」

【参考図書】

中村 清「改訂 道徳教育論－価値観多様化時代の道徳教育」2005年 東洋館出版社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 30% レポート・課題 10% 受講態度 20%

特記事項

授業の後半に期日を指定し、指導案を提出してもらいます。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

定期試験では授業内容の理解を中心に出题する。また、道徳の指導案を課題として提出してもらい、評価する。講義終了時に提出してもらう小試験についても評価する。

【履修上の心得】

教員免許に関わる科目なので、まずは前向きな「聞く態度」で臨んでほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

特になし。

【備 考】

特になし。

科目名	特別活動の理論と方法S
	次期学習指導要領で導入が予想されるアクティブラーニングの学習に対応できる資質・能力の基礎固めができる特別活動の理論と方法を展開する講座である。
教員名	須藤 勝

【授業の内容】

現行の学習指導要領による特別活動の目標では「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸張を図り、集団（や社会の＝中学・高校）の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての（在り方＝高校）生き方についての考え（自覚＝中学・高校）を深め、自己を生かす能力を養う。」とある。

つまり、特別活動は「集団」による「活動」である。集団の中で生徒一人一人を成長させるとともに、集団の中で他者と意見を交え、協働的に活動し、集団自体も成長させる有意義な能力と環境を生み出す学習である。その活動は、教科などでのアクティブ・ラーニングの基礎的、基盤的な資質・能力の育成となる。

その意図を汲みつつ、この目標を達成させるための理論・方法論の基礎を講義すると共に、先進事例などを参考にし、場や状況を設定し、学生の志望校種の特別活動計画を各自で策定できる能力を養うことで理論の実践化と現場感覚とを体験させる授業である。

現場での特別活動の指導に教科書はない。児童・生徒は個性を持った個別の人間である。集団において、教員の指導の下、全員参加の話し合いや協力・協調によって一人ひとりが生活しやすい環境作りを築き上げ、学校生活が誰にとっても有意義なものとなるためには、まずよりよい学級組織作りが必要である。その上で、児童生徒が集団の中での自己を見出し、課題解決能力や自分の役割などを自覚させ、逞しく生きる力を身に付けさせる指導の在り方を学生個々に模索させる。

特別活動の目標達成には教科指導とは別の指導力も必要となる。またその成否が教科指導にも影響する。その意味を理解し、そこにやりがいがあることも実感できるように授業を工夫する。

つまり、特別活動は「集団」による「活動」であること的前提で、集団の中で生徒一人一人を成長させ、同時によりよい学級、学校づくりをすることである。この基板の上に、アクティブラーニングのような主体的で、協調的な学習が成立するのである。

【到達目標】

1. この講座そのものが一種の特別活動的な雰囲気のある教室をつくり、学生が個々に集団の中での自己を自覚し、自己表現と他者理解の力が発揮できる意識を高める。
2. その活動を通して、特別活動の意義や理論を的確に理解し、それを実践に生かす力につなげる。
3. 班活動、学級、委員会、クラブ・部活動などの様々な集団の担任・顧問教諭として、集団指導の資質・能力を身につける。
4. ワークショップ、グループエンカウンター、ディベートなどの運営・進行の技術を教え、ファシリテーターとしての資質を養い、思考力、判断力、表現力などの主体的学びの基本を、活動を通して育成できる資質・能力を身に付ける。
5. LD、ADHDなどの傾向を持つ児童・生徒も含めて望ましい学級活動の在り方を構想できる。
6. 昨今、教育における課題となっている「いじめ」「不登校や高校中退」「教師の体罰」「教師の多忙化」「教師の体罰」などとの関連も考慮して、自律的に解決できる力を持つ。
7. 特別活動には入らないが、部活動にも触れ、児童・生徒の自主性・主体性を伸ばす方法を幅広く思考できる。

【授業計画】

- 第1回 開講に当たってのガイダンス的な説明
 特別活動における基本事項
 教育課程の中の特別活動の位置づけ
 特別活動の歴史的変遷
 特別活動と人間形成
 特別活動の現代的意義（21世紀型スキルと生きる力）
 特別活動における指導の基本
- 第2回 前回の続き
 特別活動の特質「なすことによって学ぶ」（J・デューイ）
 生徒・児童の発達段階と特別活動
 特別活動と学級経営、ホームルーム経営
 特別活動の指導計画と活動計画
 特別活動の評価
 特別活動とわが国が目指している教育の在り方
- 第3回 小学校の特別活動
 小学校の特別活動の目標・内容・指導計画
 特別活動の目標
 特別活動の内容
 特別活動の指導計画
 学級活動の目標・内容・指導

- 第4回 前回の続き
児童会活動の目標・内容・指導
クラブ活動の目標・内容・指導
学校行事の目標・内容・指導
- 第5回 中学校・高等学校の特別活動の目標・内容・指導計画
特別活動の目標・内容
特別活動の指導計画
学級活動の目標・内容・指導計画
- 第6回 前回の続き
生徒会活動・ホームルーム活動の目標・内容・指導
学校行事の目標・内容・指導
教育課程外「部活動」について
- 第7回 特別活動と他の教育活動との連携
特別活動と各教科および外国語活動（小学校）
特別活動と道徳
特別活動と総合的な学習の時間
特別活動と生徒指導
特別活動と進路指導・キャリア教育
- 第8回 特別活動への期待
日本の教育の解くべき特である特別活動
現代の子どもに必要な集団活動や実践的・体験的な活動
特別活動で取り扱う様々な教育課題
- 第9回 前回の続き
いじめのない学校づくりと特別活動
特別活動における言語活動の推進
- 第10回 現代社会に必要な「生き抜く力」と特別活動
生涯学習社会を構築する「自立・協働・創造」・「生き抜く力」
特別活動で身につけさせたい「21世紀型能力」
「21世紀型能力」育成を踏まえたくべつかつどうの授業づくり
- 第11回 学級活動、ホームルーム活動での取り組み例
特別活動の基本は学級活動・ホームルーム活動
ワークショップと構成的グループ園カウンター
ファシリテーターの資質
小グループによる民主的な話し合い（他者理解と自己理解）
振り返り（リフレクション）
- 第12回 前回の続き
競技型ディベート
反対意見との出会い
グループ内での役割分担と協力体制（チーム）
論証による論理概念の理解（根拠の戦い）
- 第13回 前回の続き
ボランティア活動
なぜボランティア活動をする？
学校外の大人との接触、異年齢交流
地域貢献ボランティア活動独特の振り返り（リフレクション）
- 第14回 特別活動のまとめ
特別活動の効果
特別活動の可能性
特別活動の役割など
- 第15回 論文形式の文章作成（試験に備えて）
論文の基本とルール
論文でやってはいけないこと
文章作成の実習

例年、受講者は100名前後の人数になるが、机間巡視し、受講生にマイクを向けて質問したり、折り折りにグループディスカッションを取り入れたりして、できるだけ受講者が参加できる講義にしている。アクティブラーニングを導入した児童、生徒への指導対策でもある。計画が多少ずれても、現代的な課題に対しては、できるだけ学生と一緒に解決策を考えるように努めたいと考えている。また、すべての学部生が受講対象なので、教育学の関係の他教科をあまり受講していない学生もおり、そのことも配慮して講義を行っている。むしろ、多様な意見が出るので、効果的でもある。基本的には知識を得るだけでなく、得た知識を使って考える講義を心がける。

【授業の進め方】

- 1 第2回までは基本事項である。特別活動の何たるかを概略的に説明して、基本的理解を求めため、講義形式で授業を行う。ただし受講者への発問は多用し、マイクを向けて発言を促すこともある。
- 2 第3回～第14回はできるだけ学生参加型の授業にしたい。机が固定され、多人数で大教室なので、グループ討論とまでは行かないが、近隣の人と話し合う程度の時間は時々設けたい。
- 3 毎回、授業の最後に出席カードを兼ねたリアクション・ペーパーを課す。振り返りも兼ねて、その日の自分の学習成果を記入し提出させる。原則として、リアクションペーパーに必要事項を記入しその日のうちに提出しない者は出席とは見なさない方針である。
- 4 リアクション・ペーパーは、可能な限り全員にコメントを付す。私からのコメントが、講義内容の個人的な補足にもなるように心掛ける。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①特別活動の理論と実践(改訂版) ②中園大三郎ほか ③学術研究出版 ④2016年4月 ⑤1800円+税 ⑥978-4-86584-129-9 C0037

(購入方法) 大学校内の書店(ナカジマ)で購入可の手続きを取っておく、都市部の大型書店でも購入可。教科書は必ず購入すること。現職になった時にもきっと役立つ内容である。

【参考図書】

1. 学習指導要領解説「特別活動編」文部科学省
小学校は東洋館出版、134円(税込み) 中学校は株式会社ぎょうせい、109円+税 高等学校は海文堂出版、210円(税込み)
※ 学習指導要領(抄)は指定した教科書テキストの巻末にもあるから必ず購入ではないが、自分が目指す校種については持っているが便利。
2. もう少し詳しいテキストが読みたい人には、『特別活動—理論と方法』林尚示 編著、学文社刊、2016年4月に発行、2700円+税がおすすめ。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 20%

特記事項

- 1 毎回のリアクション・ペーパー(レポート・課題に相当する)の採点結果、授業内の発表などの受講態度やリアクション・ペーパーの提出状況(全て数値化)を定期試験と合計して評価する。
- 2 定期試験は小論文形式とする(1200字程度)。講義で得た知識を生かして、自分の考えを論理的に記述させる。
- 3 毎回提出するリアクション・ペーパーは出席の証しであるとともに、論文試験の練習を兼ねているので、自分の考えやその根拠を必ず書く。(詳しくは1回目の授業で述べる)
- 4 取組姿勢には、講義中の態度や遅刻・早退なども、その程度によっては含まれる。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- 1 実習等での欠席は原則として事前に欠席届けを提出する。その扱いは個別に指示する。
- 2 届けを出さない場合は原則としては欠席扱いとするが、事後でも事情によっては考慮することもある。

【履修上の心得】

- ・原則として6回以上の欠席は未履修(定期試験が受けられない)とするので注意する。(大学の規則)
- ・原則として30分を超えた遅刻、早退は欠席扱いとする。(交通機関からの遅延証明を提出したときは、遅れた時間によって配慮する)
- ・同じ講義がふたコマ連続のこともあるが、原則として自分が割り当てられた時間の講義を受けること。事情で別の時間に受講したい場合は事前に申し出ること。事情によっては許可することもある。

【科目のレベル、前提科目など】

- ・受講者としては原則として各学部2年生以上を想定している。
- ・教職の必履修科目であり、教員免許取得の履修要件である。(文部科学省)

【備考】

国や都道府県の教育方針などに変化が生じた場合は、シラバスの内容を一部変更することがある。その場合は大学と協議の上、事前に書面にて告知する。

科目名	教育方法論S
教員名	小泉 祥一

【授業の内容】

教育方法を理論的、実践的に研究する。

教育方法論は、狭義には、教授学習過程、すなわち、授業を対象にして、学習指導の方法（アクティブ・ラーニングを含む）を体系的に解説することが目的である。

しかし、実践的には、効果的な方法を、その背景となる理論を理解するとともに、実際の場面で使えるように習得することが、必要である。

そこで、本科目では、講義と演習を組み合わせた授業形態によって、背景的な理論と実践的な方法の両方を習得させるように、授業計画を構成している。

【到達目標】

- ① 教育方法に関する基礎的事項について理解すること
- ② 教育方法の理論的な背景について理解すること
- ③ 教育方法は、演習的な内容も含むので、学習指導案や教材などを作成できること
- ④ 教育評価について理解し、適切に実施できること
- ⑤ メディアと学習の関連について理解した上で、メディアを活用できること

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション ー全体の概要ー
- 第2回 教育実践における子ども理解
- 第3回 生きる力と学力
- 第4回 教育内容と教材
- 第5回 学習指導案の構想
- 第6回 学習方法（アクティブ・ラーニングを含む）、学習形態と学習規律
- 第7回 教育評価と学力評価
- 第8回 情報活用能力とコンピュータ利用授業
- 第9回 生徒指導
- 第10回 学級経営と子どもの自治活動
- 第11回 いじめ問題
- 第12回 不登校問題
- 第13回 学習指導案の作成と検討
- 第14回 模擬授業
- 第15回 学習指導案の改善と教育方法研究のまとめ

【授業の進め方】

本科目は、実践的な内容である。基本的に、始めに背景や理論的な内容を講義する。その講義を理解して、実際に演習的な活動を行う。

準備学習として、テキストを事前に読み、感想と疑問点をまとめる。

講義の後、毎回最後の10分程度の時間をとって、その日の講義内容についての感想や意見を書いていただく。

次回の講義の最初に10分程度の時間をとって主なものを紹介し、若干のコメントを加えて、次の講義を進める。

講義をもとに、受講生は各自関心のある授業テーマを設定し、学習指導案を作成する。

その学習指導案についてのアドバイスを踏まえ、学習指導案を検討する。

それをを用いて模擬授業を行う。模擬授業後、コメントをもとに学習指導案の改善を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①教育方法技術論 ②深澤広明編著 ③協同出版 ④2014年3月29日 ⑤2200円+税 ⑥978-4-319-10678-3

【参考図書】

文部科学省『中学校学習指導要領』（文部科学省のホームページからダウンロードできます）

田中耕治編『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房

田中耕治他著『新しい時代の教育方法』有斐閣

赤堀侃司『授業デザインの方法及び実際 ー教育方法論のテキスト』高陵社書店

赤堀侃司『教育工学への招待 新版』ジャムハウス

山下政俊他編著『新しい時代の教育の方法』ミネルヴァ書房

佐藤学『教育の方法』左右社

天野正輝『教育方法の探究』晃洋書房

日本教育方法学会編『日本の授業研究 下巻 ー授業研究の方法と形態』学文社

高野桂一・九州教育経営学会編著『地域に根ざす授業の条件づくり』明治図書、1983年（共編著）
日本教育方法学会編『教育方法学研究ハンドブック』学文社、2014年10月
日本教育方法学会編『現代教育方法事典』図書文化、2004年10月（共編著）
日本カリキュラム学会編『現在カリキュラム事典』ぎょうせい、2001年2月（共編著）
安彦忠彦・新井郁男他編『新版 現代学校教育大事典』ぎょうせい、2002年
細谷俊夫・奥田真丈・河野重男・今野喜清編『新教育学大事典』第一法規、1990年
吉本均編『現代授業研究大事典』明治図書、1987年3月
教育実践事典刊行委員会編『教育実践事典』労働旬報社、1982年
梅根・海老原・中野編『資料日本教育実践史』全5巻、三省堂、1979年

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 30% 授業内小試験 20% レポート・課題 30% 受講態度 20%

特記事項

授業への参加(積極的な発言・発表・提案、討論、記録、感想・意見のコメントペーパーの提出など)、授業内小テスト、レポート・課題(学習指導案等を含む)、定期試験で行う。

【履修上の心得】

受講者の主体的参加を期待する。(私語厳禁、意見発表などの授業のルールとマナーを守ること)

教育方法論は、実践的な力を身につけることがねらいであり、欠席すると学習指導案や教材を作成することができなくなるので、出席には、十分注意すること。

また、理論的な学習も重要なので、理解するように、授業中は、しっかりノートすること。

科目名	教育相談S
	キャリア開発の視点から教育相談を問い直す
教員名	榎本 和生

【授業の内容】

生徒指導 I における理論的な学習の上に、教師が教育相談を行うにあたって必要とされる基礎的な知識を身につけることを目的とするとともに、カウンセリングの模擬的演習を行い、学校教育相談を行う実践的な指導力を養う。

【到達目標】

受講後、次のことができるようになる。

1. 教育相談の原理や理論を整理して述べることができる。
2. スクールカウンセラーの職務を整理して述べるができる。
3. カウンセリングスキルを用いて、カウンセリングできる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：授業の内容と進め方について説明する。また、学校教育相談とは何かを考える。
 予習：配付資料を読んでおく。
 復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第2回 諸外国におけるカウンセリングのあり方を検討し、カウンセリングの現状を学習する。
 予習：配付資料を読んでおく。
 復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第3回 開発的・予防的な教育相談について説明する。
 予習：配付資料を読んでおく。
 復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第4回 カウンセリング技能-傾聴スキル-について説明する。
 予習：配付資料を読んでおく。
 復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第5回 カウンセリング技能-傾聴スキル-を演習する。
 予習：配付資料を読んでおく。
 復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第6回 学校教育相談の組織・運営の在り方について説明する。
 予習：配付資料を読んでおく。
 復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第7回 相談係、学級担任が行う教育相談の実例を示しながら、望ましい在り方を検討する。
 予習：配付資料を読んでおく。
 復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第8回 教科担任等が行う教育相談の主な内容と在り方を検討する。
 予習：配付資料を読んでおく。
 復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第9回 「いじめ・暴力行為」の理解と対応について検討する。
 予習：配付資料を読んでおく。
 復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第10回 「不登校」の理解と対応について検討する。
 予習：配付資料を読んでおく。
 復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第11回 「LD、ADHD」の理解と対応について検討する。
 予習：配付資料を読んでおく。
 復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第12回 望ましい人間関係づくりの方法について検討する。
 予習：配付資料を読んでおく。
 復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第13回 学校教育相談の問題と課題について検討する。
 予習：配付資料を読んでおく。
 復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第14回 学校教育における望ましい教育相談のあり方を検討する。
 予習：配付資料を読んでおく。
 復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第15回 既習の内容について振り返り、確実な知識にする。
 小試験を実施する。
 予習：配付資料を読んでおく。

【授業の進め方】

講義の都度に配布する資料等を基にして発表・討議で授業を進めます。したがって受講生からの質問等による対話を重視するとともに、学校教育の場で実際に行われる教育相談を想定した演習も多く実施する。積極的な発言や参加を期待したい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

なし。必要時に資料を配付する。

【参考図書】

榎本和生ほか編「大学生のためのライフキャリアデザイン」2013.4 さんぽう

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 80% レポート・課題 0% 受講態度 20%

【履修上の心得】

配布した資料を前もって熟読しておくこと。毎回配布する資料等を保存するための専用クリアホルダー(A4、30ポケットで可)の準備を願いたい。

【科目のレベル、前提科目など】

生徒指導論(進路指導) / 生徒指導Ⅰの実践・発展としてのⅡであるため、連続して履修することが効果的である。本講義では、治癒的な心理療法に基づくカウンセリングの技法習得ではなく、学校教育の専門家としての教師に求められる教育相談についての基礎・基本の習得を目指すものである。したがって講義の性格上、教育心理学を既習、または履修中であることが望ましい。

科目名	教育相談S
教員名	伊東 孝郎

【授業の内容】

本講義の目的は、中学高等学校における教育相談について学ぶことにより、さまざまな生徒支援のあり方を検討することにある。

同時に、その基礎的な態度ともいえるカウンセリング・マインドについて理解し、生徒や保護者を多角的視点から理解し、関わることの重要性を認識する。

将来、教員あるいは心理職として、相談活動はもちろん、予防的関与も含めた生徒指導全般において、生徒の立場に立った教育活動をしていくための基礎となる科目である。

【到達目標】

- 中学・高校における教育相談の実際を理解する。
- 中学生・高校生と保護者の悩みについて理解する。
- 学校と専門家（機関）との連携の重要性を理解する。
- カウンセリング・マインドとは何か、理解する。

【授業計画】

- 第1回 教育相談とカウンセリングマインド
 予習（60分）教育相談の定義について調べる。
 復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第2回 スクールカウンセリングの実際
 予習（60分）スクールカウンセリング制度について調べる。
 復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第3回 生徒指導と教育相談1 ― 生徒指導の概要と原理、児童生徒理解
 予習（60分）教科書1章を読む。
 復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第4回 生徒指導と教育相談2 ― 生徒指導の主体と組織、家庭・地域との連携、問題行動の理解と対応
 予習（60分）教科書2章を読む。
 復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第5回 進路指導1 ― 進路指導とは何か、その内容と領域について
 予習（60分）教科書3章1・2節を読む。
 復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第6回 進路指導2 ― 進路指導の組織と計画、進め方
 予習（60分）教科書3章3～5節を読む。
 復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第7回 教育相談の組織体制
 予習（60分）教科書4章1・2節を読む。
 復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第8回 教育相談の進め方
 予習（60分）教科書4章3節を読む。
 復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第9回 教育相談と連携
 予習（60分）教科書4章4・5節を読む。
 復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第10回 いじめ
 予習（60分）最近のいじめの状況について調べる。
 復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第11回 不登校
 予習（60分）最近の不登校の状況について調べる。
 復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第12回 発達障がい
 予習（60分）発達障がいについて調べる。
 復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第13回 児童・生徒との教育相談の実際
 復習（60分）授業で紹介された事例について検討する。
- 第14回 保護者との教育相談の実際
 復習（60分）授業で紹介された事例について検討する。
- 第15回 学校の危機における対応
 復習（60分）授業で紹介された事例について検討する。

【授業の進め方】

本講義は、教育相談に関する知識を単に伝達するにとどまらない。受講生自ら、事例について考え、発言する等の主体的な関わりが求められる。

授業内で学んだこと、考えたことについて、不定期にリアクションペーパーへの記述を求める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①生徒指導・進路指導・教育相談 ②鈴木康明編 ③北大路書房 ④2005 ⑤2100円＋税

学内書店等にて各自で購入しておくこと。

なお同書は2011年再版時に、大幅に内容が変更されて現在に至っている。奥付を確認して、それ以前の初版は購入しないこと。

【参考図書】

村山正治・山本和郎編(1998)「臨床心理士のスクールカウンセリング3－全国の活動の実際」誠信書房

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

【履修上の心得】

あらゆるものが不安定な現代にあって、心理職はもちろん、教職を目指す者たちにも、傷つきやすい心を持った児童・生徒を理解し、関わり続けるために、カウンセリング・マインドを持つことが強く求められている。教育相談についての学習は、きわめて重要な体験となるであろう。積極的に講義に参加することが求められる。

【科目のレベル、前提科目など】

免許法施行規則に定める「教職に関する科目」の中の授業科目で、中学校教諭の免許状・高等学校教諭の免許状を修得するためには必修となる。

また認定心理士資格申請において、「G.臨床心理学・人格心理学」に区分される予定の科目である。

教職志望者にとっては、本講義を通して、カウンセリング・マインドについて理解することにより、さまざまなメリットが得られる。一例を挙げるならば、他の教職関連科目一特に実習や事例に関する学習の際など、児童・生徒の立場に立つことで、情報を多角的に把握し、適切な対処方法をとれるようになることが期待される。

【備 考】

出席確認はカード型端末機のみで行う。学生証不携帯は欠席扱いとなるので注意すること。

科目名	ゼミナール(大木)
教員名	大木 俊英

【授業の内容】

以下の4点を主な授業内容とします。

- (1)英語の指導技術の向上
- (2)英語に関する基礎知識や運用能力(発音)の向上
- (3)学童保育クラブでの訪問授業を通じた社会貢献
- (4)卒業研究のテーマの絞り込み

【到達目標】

以下の4点を学生ができるようになることを目標とします。

- (1)文献や資料をもとに英語の効果的な指導法を考え実践できる。
- (2)英語の発音に関する基本的知識があり、授業実践や絵本の読み聞かせでそれを実践できる。
- (3)学童保育クラブへの訪問を通して、教育実習への心構えができる。
- (4)自分の興味あるテーマに関連した資料を集め、分析・考察することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション(15分)、ムブリオバトル発表順決め(15分)、アイスブレイキング(60分)
- 第2回 英検解説(30分)、ムブリオバトル①(60分)
- 第3回 英検解説(30分)、ムブリオバトル②(60分)
- 第4回 英検解説(30分)、ムブリオバトル③(60分)
- 第5回 英検解説(30分)、講義「英語の発音の特徴」(30分)、絵本選び(30分)
- 第6回 英検解説(30分)、講義「児童参加型の読み聞かせ」(15分)、読み練習(45分)
- 第7回 絵本読み聞かせフェスティバル(90分)
- 第8回 英検解説(30分)、学童訪問準備(バイリンガル絵本や活動用教材の作成)
- 第9回 英検解説(30分)、学童訪問準備(バイリンガル絵本や活動用教材の作成)
- 第10回 英検2次対策(45分)、学童訪問リハーサル①(45分)
- 第11回 英検2次対策(45分)、学童訪問リハーサル②(45分)
- 第12回 英検2次対策(45分)、学童訪問リハーサル③(45分)
- 第13回 卒研構想発表会の見学(90分)
- 第14回 OGOB教員訪問インタビューの準備(質問内容の検討)(90分)
- 第15回 ゼミ旅行の計画(90分)
- 第16回 4年生との交流会、夏期休業中の活動報告①
- 第17回 夏期休業中の活動報告②
- 第18回 中間発表会見学
- 第19回 4年生研究発表等
- 第20回 4年生研究発表等
- 第21回 学童訪問のための授業実践(30分×グループA①)、4年生研究発表 ※ゼミ公開
- 第22回 学童訪問のための授業実践(30分×グループB①)、4年生研究発表 ※ゼミ公開
- 第23回 学童訪問のための授業実践(30分×グループA②)、4年生研究発表 ※ゼミ公開
- 第24回 学童訪問のための授業実践(30分×グループB②)、4年生研究発表 ※ゼミ公開
- 第25回 4年生研究発表等
- 第26回 4年生研究発表等
- 第27回 年末イベント
- 第28回 研究テーマ発表
- 第29回 研究テーマ発表
- 第30回 総括、来年度の確認等

学童保育クラブへの訪問は、小学校の長期休業期間を利用して行います(8月中～下旬、12月下旬または1月上旬、3月上旬あたり)。また夏期休業中はOGO B教員への訪問インタビューと学会参加(希望者のみ)を行う予定です。

【授業の進め方】

前期は3年生のみ、後期は4年生と合同になります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

ありません。必要に応じて適宜配布します。

【参考図書】

ありません。必要に応じて適宜配布します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 0% 受講態度 50%

特記事項

「授業内小試験」にはムブリオバトル(10%)と読み聞かせフェスティバル(20%)でのパフォーマンス、及び研究テーマ発表(20%)での評価が含まれます。「受講態度」にはディスカッションや活動への貢献度や課題の提出状況等が含まれます。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

原則、欠席が年間で5回以上の者はB以下、7回を超えた者はC以下とします(教育実習は「公欠」の扱いにしますが、必ず届を出すこと)。

【履修上の心得】

グループでの活動を多く行いますので、意見交換や討論があるときは積極的に発言してください。また積極的に4年生とも関わってコミュニケーション能力を高めてください。

【科目のレベル、前提科目など】

卒業研究の準備科目。

科目名	課題研究(宮里)
	社会言語学と論文執筆準備、英文法総括と発音矯正
教員名	宮里 恭子

【授業の内容】

1. 社会と言語に関連する分野から外国語教育に関する以下のトピックについて考察し、文献学習を通して卒業研究の基礎を培う。
世界英語・NS-NNS問題・多言語多文化教育と言語政策・バイリンガリズム・異文化間コミュニケーション
2. 前期は、社会言語学に関わる文献6～7篇を精読し、文献内容をまとめて発表する練習をする。また、内容についてディスカッションをしながら意見交換し、様々な見解や考え方に触れ合うことでcritical thinkingの素地を整える。
3. 卒論執筆のための準備として、見本となる卒業生の卒論を2篇読み込み、先行研究のまとめ方や論理展開を学ぶ。また、指導教授との個人面談を通して卒業研究のための研究課題や仮説を設定し、各自で情報検索し文献収集して先行研究に着手する。また、4年生の卒研中間発表会や卒研発表会、合同の卒研構想発表会などに参加して、4年次の卒研の準備をする。
4. 1年を通して、毎回、ロイヤル英文法を使いながら文法事項の総復習と音読練習を行い、基礎英語力を増強する。
5. プロソディー中心の発音指導を毎回15分程度、徹底的に行う。また、各自で指定された発音矯正ソフトを自主学習して、その成果を検証する。
6. 指導教授や先輩、ゼミの仲間、進路指導部などから就活や教採についての情報を収集し、進路について考える。
7. 後期の実習中は、進路別のグループ学習期間とし、それぞれのニーズに合わせた勉強計画を立ててグループでサポートする体制を整える。
8. 各学期に招聘するゲストスピーカーの講話から、実社会のさまざまな問題について考え、視野を広める。
9. 新たなことに挑戦するため、夏休み挑戦プロジェクトを実践する。そのための計画・実践・発表を行いながら、企画力・実践力・プレゼン力を増強する。
10. ゼミ旅行や勉強会などを通して社会事情を広く見聞したり、4年生や卒業生との新年会や交流会などを通しゼミ員との親睦を深めながら協調性や社会性を育む。

【到達目標】

1. 論理的文章を読み、要旨を理解し、内容について発表することができる。
2. 文献学習を通して、自分の考えを的確に表現することができる。また、他の人の意見を聞き、様々な考え方を理解することができる。
3. 発表レジュメや基本的なレポートの書き方、引用のしかたなどを学ぶ。
4. 文法総復習、音読練習、発音矯正などを通して、基本的英語力を増強する。
5. 指導教授との個人面談を通して進路や卒研について考え、目的達成のために計画的にやるべきことを実践し、自己管理能力を高める。
6. ゼミ旅行や勉強会においてゼミ員や先輩・卒業生との親睦を図り、社会性・社交性・協調性を身に着ける。
7. 日本の教育事情に関する英語プレゼンのために、グループで計画、情報収集し、発表しながら、留学生と交流することができる。
8. 夏休みプロジェクトを通して、新たなことを企画、実践し、それを人前でプレゼンすることで自己肯定観を高める。

【授業計画】

- 第1回 コース説明・文献/採用試験担当決定・レジュメの書き方・社会言語学とは
テキスト批評という練習法 (pp. 14-29) レポート・論文の書き方入門 (pp. 14-29)
発音指導と発音ソフト自主学習について
- 第2回 *1. 世界英語についての講義
*ロイヤル英文法 1章
- 第3回 ① アメリカと英語、カナダと英語、オーストラリアと英語 ペアでの分担発表 (本名、本名、スイッペル, 2004) (世界は英語をどうつかっているかpp. 43-71)
*ロイヤル英文法 2章
- 第4回 ②ノンネイティブの英語事情 ペアでの分担発表 ((pp. 31-86のうちから、1, 6, 8, 11を除く, 世界の英語を歩く)
*ロイヤル英文法 3・4章
- 第5回 2. NS-NNS問題 講義
*ロイヤル英文法 5章
- 第6回 ③英語支配とアイデンティティー ペアでの分担発表 ((津田, 1990) (pp. 87-112)
*ロイヤル英文法 6章
- 第7回 ④日本人英語教師の現状－ネイティブ・ノンネイティブ問題の視点から (宮里, 2007) ペアでの分担発表
*ロイヤル英文法 7章
- 第8回 3. 多文化・多言語社会・グローカリゼーションと言語政策 (世界の言語政策1 p.1-7, グローカル化時代の言語教育政策p. 11-59) 講義
*ロイヤル英文法 8章
- 第9回 ⑤ 日本における外国人児童・生徒の就学状況 ペアでの分担発表
*ロイヤル英文法 9章

- 第10回 交換留学生・ゲストスピーカーへの発表準備
*ロイヤル英文法 10章
- 第11回 日本の教育事情—留学生との意見交換とプレゼン
- 第12回 4. バイリンガリズムの講義
*ロイヤル英文法 11章
- 第13回 ⑥バイリンガリズムの論文 ペアでの分担発表
*ロイヤル英文法 12章
- 第14回 発音テスト
ロイヤル前半テスト
- 第15回 ゲストスピーカー講話1
前期総括
- 第16回 進路別グループでの勉強計画・夏休みプロジェクト発表1
*ロイヤル英文法 15章
- 第17回 卒論の種類、テーマ設定に関する講義
*ロイヤル英文法 16・17章
- 第18回 中間発表会参加
- 第19回 卒論のための個人指導1（テーマ設定）夏休みプロジェクト発表続き
*ロイヤル英文法 18章
- 第20回 卒論のための個人指導2（テーマ設定）
*ロイヤル英文法 19章
- 第21回 卒論のための個人指導3（テーマ設定）
*ロイヤル英文法 20・21章
- 第22回 卒論のための個人指導4（テーマ設定）
*ロイヤル英文法 22章
- 第23回 卒論のための個人指導5（テーマ設定）
*ロイヤル英文法 23・24章
- 第24回 ゲストスピーカー2
- 第25回 論文とは？ 論文の構成の講義
- 第26回 先行研究とは
後期ロイヤルテスト・発音テスト
- 第27回 先行研究の書き方実践と研究方法
- 第28回 卒業生の卒論2篇（性差のコミュニケーション、離婚が与える子どもへの影響）
- 第29回 卒論構想発表会・4年生参加・交流会
- 第30回 卒論発表会見学

【授業の進め方】

(前期)

- 前半の45分は、英語力を増強させるための時間で、30分程度、『ロイヤル英文法』を使って音読練習をしながら、英文法の総ざらいをする。各章の内容を期日までに自宅学習しておき、授業で疑問点を質問しその内容について解説する。その後15分の英語の発音矯正のための時間を設け、発音の個人指導を徹底する。また、自宅学習用の発音矯正ソフトを毎週欠かさず勉強する。
- 後半45分の文献学習については、各トピックを3週かけて学んでいくが、第1週は教師による講義で各テーマの概論を学び、翌週と翌々週にかけて、一篇ずつ関連の文献を担当学生が発表し、その内容について皆で討議する。5トピック8篇の文献を読み込み、学究的文章や批判的思考に慣れていく。
- 海外からのゲストを招き、日本の教育事情についてプレゼンを英語で行う。そのための準備をグループごとに行う。また、留学生とのTTを行うために計画・練習をして発表する場合もある。

(後期)

- 前半45分の授業内容については前期と同様であるが、9月から11月までは実習期間で全体対象の授業ができないため、指導教授との個人面談を実施し、卒研のテーマ設定や進路の相談を行う。また、個人面談中の他の学生は、進路別のグループに分かれて教員採用試験の過去問題等を解いたり、就職試験のための勉強を行う。これをもとに授業外での自主的グループ勉強につなげるたい。また、この間、夏休み挑戦プロジェクトの発表を行う。11月下旬からは、卒論の書き方や文献収集の仕方、先行研究のまとめ方などを学び、春休み中に先行研究にとりかかる。4年生の中間発表会や卒研発表会への参加を通して、4年次の卒論執筆のイメージを作る。4年生参加の卒研構想発表会で、仮の卒研計画をプレゼンし、4年生からの助言を得る。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①レポート・論文の書き方入門 第3版 ②河野哲也著 ③慶應義塾大学出版会

①表現のための実践ロイヤル英文法 ②綿貫陽・マーク・ピーターセン著 ③旺文社

- ・宮里ゼミ論文集・模擬試験プリント集（初回到配布予定。各自コピーのこと）
- ・発音矯正プリント集

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 40% 受講態度 20%

特記事項

出席 授業貢献 文献発表 文献小テスト ロイヤル文法テスト、発音テスト、英語プレゼン、発音矯正自主学習結果など

【「成績評価の方法」に関する注意点】

[注意事項]

- *遅刻は30分まで認める。30分以降も入室を認めるが、欠席扱いとなる。また、その日のうちに遅刻を申し出ること。カードリーダーはこの授業ではカウントしない。
- *遅刻3回で欠席1回とみなす。10回以上欠席の場合はH、つまり不合格となる。また、6回以上欠席した場合は総合評価B以下となる。
- *ディスカッションを毎回行うので、積極的に発言すること。クラスでの発言について、授業貢献度のなかで考慮する。
 - 10 まじめに授業に臨み、授業中、数多く自ら進んで意見を述べ、授業に非常に貢献した。
 - 8 まじめに授業に臨み、授業中、自ら進んで意見を述べ、授業に貢献した。
 - 5 まじめに授業に臨んだが、自らは進んでは発言しなかった。
- 3~0 授業中、居眠りをしたりおしゃべり、携帯をいじるなどの授業態度に問題があった。

【履修上の心得】

積極的に議論に参加するため、自分の考えを発表すること。自分の割り当て分の論文だけでなく、全ての論文を精読して意見をまとめておくこと。

課題や役割をしっかりと果たすための責任感を持つこと。また、提出物の締め切りや面談の時間厳守、指導教授への連絡など基本的な社会ルールを順守すること。

この科目を合格しない限り、卒業研究をとることはできない。

【科目のレベル、前提科目など】

卒業研究で卒論を書く場合は、必ずこのコースを履修していること。

卒業研究の準備的立場づけとなる。

科目名	課題研究 (Jeffrey Miller)
	課題研究 (J. Miller) 21st Century Global English in Education and Business
教員名	Jeffrey Miller

【授業の内容】

21st Century Global English in Education and Business (グローバルイングリッシュ・21世紀、英語はどのように教えられビジネス社会で使われてきたか) studies how English is being taught in schools and used in business in Asia and Europe.

Students who are considering writing their graduation thesis (or notes) in English in 卒業研究 are strongly encouraged to take this course.

この科目では、アジアやヨーロッパにおいて、英語が学校教育でどのように教えられてきたか、またビジネス社会でどう使われてきたかについて学ぶ。卒業研究において英文で卒論(ノート)を書き上げようと考えている学生には、このクラスを受講することを勧める。

【到達目標】

21st Century Global English in Education and Business will examine a wide range of educational and business related topics. The course will be conducted in advanced English, and it aims to broaden student interest in educational and business English, especially in Asia.

広範囲にわたり英語教育やビジネス英語に関連したトピックスを取り上げ検討する。講義は上級英語で行われ、とりわけアジアにおける英語教育、ビジネス英語に対する学生の関心がより広く深まることを目指す。

【授業計画】

- 第 1 回 Course dual focus of education and business overview: required student reading, presentations and the steps toward the comprehensive final research report.
- 第 2 回 Lectures and discussions on English education in Japan (scope, background, current problems, etc.)
- 第 3 回 Continuation of lectures and discussions on English education in Japan (scope, background, current problems, etc.)
- 第 4 回 Continuation of lectures and discussions on English education in Japan (scope, background, current problems, etc.)
- 第 5 回 Lectures and discussions on English education in Asia (especially South Korea, China and Taiwan) also past research topic examples
- 第 6 回 Continuation of lectures and discussions on English education in other areas of Asia (homework assignment identify individual potential research topics)
- 第 7 回 Lectures and discussions on English education in Europe and Latin America (individual student week-9 education presentation topics due)
- 第 8 回 Continuation of lectures and discussions on English education in Europe and Latin America (150-word outlines of week 9 individual education presents due)
- 第 9 回 Graded student 5-minute education presentations with visual elements and one A-4 page handout of 150 words; J. Miller oral questions written for homework
- 第10回 Lecture and discussion about current Japanese business needs; Uniqlo reading
- 第11回 Continued lecture and discussion about current Japanese business needs; Uniqlo reading quiz
- 第12回 Continued lecture and discussion about current Japanese business English needs; Rakuten reading
- 第13回 Continued lecture and discussion about current Japanese business English needs; Rakuten quiz
- 第14回 Continued lecture and discussion about current Japanese business English needs; Nissan and Mikitani interview video clips
- 第15回 Lecture and discussion about current Asian business English needs; reading assignment
- 第16回 Continued lecture and discussion about current Asian business English needs; reading quiz
- 第17回 Lecture and discussion about current European and Latin American business English needs; reading assignment (individual student week-19 business English presentation topics due)
- 第18回 Continued lecture and discussion about current European and Latin American business English needs; reading assignment quiz (150-word outlines of week 19 individual business English presents due)
- 第19回 Graded student 5-minute presentations with visual elements and one A-4 page handout of 150 words; J. Miller oral questions written for homework
- 第20回 "Globish" lecture and discussion, reading assignment
- 第21回 Continuation of the "Globish" lecture and discussion, first reading assignment quiz; second reading assignment
- 第22回 Continuation of the "Globish" lecture and discussion, second reading assignment quiz; third reading assignment
- 第23回 The future of English in the 21st century lecture and discussion; third reading assignment quiz
- 第24回 Discussion of student final research papers four-A-4 pages, 1,000-words, with citations (tentative titles due) third

reading assignment quiz

- 第25回 Informal oral presentations 3-5 minutes on research paper contents, 150-word outline of the paper due
- 第26回 Outlines returned, discussions (individual conferences), final title due, first 250 words draft due
- 第27回 Corrected first 250 word draft returned, second 250 word draft due, discussion about citations and quotations
- 第28回 Corrected second 250 word draft returned, third 250 word draft due, discussion about citations and quotations
- 第29回 Corrected third 250 word draft returned, individual conferences
- 第30回 Final 1,000-word research report due

21st Century Global English in Education and Business (グローバルイングリッシュ・21世紀、英語はどのように教えられビジネス社会で使われてきたか) will study how English is being taught in schools and used in business in Asia and Europe. The course will be taught in advance-level English. Students will be exposed to a variety of material (print, broadcast, and Internet-based) to examine different aspects of authentic English currently used in education or business.

【授業の進め方】

After a comparison of mainly Asian English education the class will look at English needs in the “real world” of Japanese business (as well as, around Asia and Europe).

Students must write-up their research in an A-4 size four-page, 1,000-word report due on week 30.

おもにアジアにおける英語教育の比較をした後に、日本(同時にアジアやヨーロッパ)のビジネスの実社会における英語のニーズを見ていく。

30週目までにA 4 サイズ4枚、1,000 wordの課題研究レポートを仕上げる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

There will not be a single textbook for this course, the instructor will photocopy appropriate materials. Video clips will also be frequently used.

特に定められた教科書はない。教員は適切な資料をプリントして配る。ビデオ素材もしばしば用いられる。

【参考図書】

"English as a Global Language" David Crystal, Cambridge University Press, 2012

"The Language Revolution" David Crystal, Polity Press, 2004

"Globes The World Over" Jean-Paul Nerriere, International Globish Institute, 2009

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 50% 受講態度 0%

特記事項

Students are expected to be active, as well as to participate in class discussions, complete homework, study for periodic quizzes do research on related matters, make oral presentations, and write an A-4 size, four-page, 1,000-word English report due on week 30.

学生は積極性を持ちクラスでの討論には進んで参加する。宿題を済ませ、定期的な小テストの準備をし、関連する事柄についてのリサーチをすること。またオーラルプレゼンテーションが課せられ、30週目までにA 4 サイズ4枚、1,000 word の英文レポートを提出する。

【科目のレベル、前提科目など】

Students are expected to have passed the two required courses (Communication Skills and Study Skills).

2つの必修科目(コミュニケーションスキルとスタディスキルズ)を履修済みであること。

科目名	課題研究（鈴木）
教員名	鈴木 宏枝

【授業の内容】

1. 多読活動の中で様々な作品に出会うとともに英語力を養う
2. 文学批評の基本的枠組みを理解し、文学テキストを精読する
3. 興味関心のある作家、作品を見つけ、卒業研究の糸口をつかむ

【到達目標】

1. 多読の方法を身に着け、リーディングマラソンの中で多くの英文にふれる
2. 役割分担をしながら英文のテキストを読み、多様な読み方があることを理解する
3. 文学作品の背景となる社会事象、文化、作家について調査し、コンテキストの中で作品を理解できる
4. 「ブックトレイラー」作成を通じ、本を仲立ちにした自己表現に挑戦する

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
リーディングマラソン（多読）の説明
テキストの構造を理解するために①
『昔ばなし大学ハンドブック』1. 開講にあたって
- 第2回 リーディングマラソン
『昔ばなし大学ハンドブック』2. 白雪姫を読んでみよう
- 第3回 リーディングマラソン
『昔ばなし大学ハンドブック』3. 昔話が語る子どもの成長
- 第4回 リーディングマラソン
『昔ばなし大学ハンドブック』4. 昔話の語り口には法則がある
- 第5回 リーディングマラソン
『昔ばなし大学ハンドブック』5. 語りの魅力
- 第6回 リーディングマラソン
『昔ばなし大学ハンドブック』6. 語りの法則を発見するために
- 第7回 リーディングマラソン
『昔ばなし大学ハンドブック』7. 昔話のおもしろさの秘密
- 第8回 リーディングマラソン
昔話についての演習① 「トム・ティット・トット」 イギリスの昔話を英語で読み、構造分析する
- 第9回 リーディングマラソン
昔話についての演習② 「かしこいモリー」 イギリスの昔話を英語で読み、構造分析する
- 第10回 リーディングマラソン
昔話についての演習③ 「三びきのこぐま」 イギリスの昔話を英語で読み、構造分析する
- 第11回 リーディングマラソン
ブックトレイラーをつくる① 好きな本を選び、アプリを用いてブックトレイラーを制作する
- 第12回 リーディングマラソン
ブックトレイラーをつくる② 好きな本を選び、アプリを用いて制作したブックトレイラーを発表する
- 第13回 リーディングマラソン
レジュメの書き方-作品について書かれた論説を理解する①
- 第14回 リーディングマラソン
レジュメの書き方-作品について書かれた論説を理解する②
- 第15回 リーディングマラソン
レジュメの書き方-作品について書かれた論説を理解する③
夏休みの課題について
- 第16回 リーディングマラソン
夏休みの課題発表①②③
- 第17回 リーディングマラソン
夏休みの課題発表④⑤⑥
- 第18回 リーディングマラソン
『絵本の絵を読む』はじめに
- 第19回 リーディングマラソン
『絵本の絵を読む』第1章 よく見る方法-一般論
- 第20回 リーディングマラソン
『絵本の絵を読む』第2章 よく見る方法-絵本に沿って
- 第21回 リーディングマラソン
『絵本の絵を読む』第3章 よく見る方法-実践 ウーリィを見る

- 第22回 リーディングマラソン
『絵本の絵を読む』第3章 よく見る方法-実践 『くもりねこ』を見る
- 第23回 リーディングマラソン
『絵本の絵を読む』第4章 絵本を学ぶ授業
- 第24回 リーディングマラソン
『絵本の絵を読む』第4章 絵本を学ぶ授業
- 第25回 リーディングマラソン
絵本についての演習① 英語の絵本を一冊選び、読んだ「絵」について発表
- 第26回 リーディングマラソン
絵本についての演習② 英語の絵本を一冊選び、読んだ「絵」について発表
- 第27回 リーディングマラソン
絵本についての演習③ 英語の絵本を一冊選び、読んだ「絵」について発表
- 第28回 リーディングマラソン
絵本や文学についての論文を読む①
- 第29回 リーディングマラソン
絵本や文学についての論文を読む②
- 第30回 リーディングマラソン
絵本や文学についての論文を読む③
卒業論文について、春休みの課題の確認

【授業の進め方】

- 1) リーディングマラソン：平易な英文の本や絵本を辞書を引かずに大量に読む。毎回、その週に読んだものについて全員が簡単に報告する。
- 2) 昔話に係る文献、絵本に関する文献を精読し、「読む」ということを理解する。また、演習で理解したことを好きな作品にあてはめて発表する。
- 3) アクティビティとして「ブックトレーラー」作りにも挑戦する

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①昔ばなし大学ハンドブック ②小澤俊夫 ③読書サポート ④2016年 ⑤¥1,600+税
 ①絵本の絵を読む ②ジェーン・ドゥーナン ③玉川大学出版部 ④2013年 ⑤¥2,400+税

【参考図書】

授業内に適宜指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 60%

【履修上の心得】

1/3を超えて欠席した場合は不可とする。

科目名	課題研究(奥山)
教員名	奥山 慶洋

【授業の内容】

以下の内容について、講義だけでなく受講者による調査学習や演習などを通して学んでいきます

- 1) ICT(Information and Communication Technology)の歴史の変遷
- 2) ICTと英語教育の関係
- 3) ICTの英語授業での活用事例の検討
- 4) ICTを活用した教材作成
- 5) 卒業研究のテーマ設定

【到達目標】

以下のことが分かるようになることを目標とします

- 1) ICTの基本的な使用方法が分かる
- 2) ICTを英語授業実践（教育実習など）に積極的に活用する準備ができる
- 3) 実際にICTを活用した教材作成・それを用いたマイクロティーチングができる
- 4) 自分の興味・関心のあるテーマに関する情報収集や分析・考察ができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（90分）
- 第2回 ICT活用授業の概観
ICT活用教育の悩み・効果（90分）
- 第3回 ICT活用授業の概観
学校のICT環境・カリキュラムとの関連性（90分）
- 第4回 ICT活用授業の概観
ICT活用における様々な問題点（90分）
- 第5回 ICT活用授業の概観
ICT活用指導力・人材養成（90分）
- 第6回 ICT活用授業の概観
情報モラル教育・著作権問題（90分）
- 第7回 ICT機器の特徴をつかむ
総合的な機器（パソコン・タブレット・電子黒板）（30分）
提示装置（プロジェクター・書画カメラ・スキャナなど）（30分）
ネットワーク環境（Wifi・クラウド）（30分）
- 第8回 ICT活用授業の意義と授業モデル
デジタル教科書とプレゼンソフトによる手作り教材（90分）
- 第9回 ICT活用授業の意義と授業モデル
3つのICT活用モデル（ハイブリッドモデル・タブレットとデジタル教科書・国際交流プロジェクト）（90分）
- 第10回 基本の教材を作る
e-learning教材作成の専門家による講義（予定）（60分）
質疑・応答（30分）
- 第11回 基本の教材を作る
参考文献を参照し、実際の授業を想定して教材を作成する（90分）
- 第12回 基本の教材を作る
参考文献を参照し、実際の授業を想定して教材を作成する（90分）
- 第13回 基本の教材を作る
参考文献を参照し、実際の授業を想定して教材を作成する（90分）
- 第14回 基本の教材を作る
作成した教材を使ったマイクロティーチング（60分）
授業についてのディスカッション（30分）
- 第15回 基本の教材を作る
作成した教材を使ったマイクロティーチング（60分）
授業についてのディスカッション（30分）
- 第16回 教材を作る（実践編）
授業計画の作成と教材選び（90分）
- 第17回 教材を作る（実践編）
各自のアイデアに基づいてオリジナルの教材を作成する（90分）
- 第18回 教材を作る（実践編）
各自のアイデアに基づいてオリジナルの教材を作成する（90分）

- 第19回 教材を作る（実践編）
各自のアイデアに基づいてオリジナルの教材を作成する（90分）
- 第20回 教材を作る（実践編）
各自のアイデアに基づいてオリジナルの教材を作成する（90分）
- 第21回 教材を作る（実践編）
作成した授業計画と教材を使用したマイクロティーチング（60分）
授業についてのディスカッション（30分）
- 第22回 教材を作る（実践編）
作成した授業計画と教材を使用したマイクロティーチング（60分）
授業についてのディスカッション（30分）
- 第23回 卒業研究に向けて
卒業研究のテーマ設定に関する情報収集と進捗状況の確認（90分）
- 第24回 卒業研究に向けて
卒業研究のテーマ設定に関する情報収集と進捗状況の確認（90分）
- 第25回 卒業研究に向けて
卒業研究のテーマ設定に関する情報収集と進捗状況の確認（90分）
- 第26回 卒業研究に向けて
卒業研究のテーマ設定に関する情報収集と進捗状況の確認（90分）
- 第27回 卒業研究に向けて
卒業研究のテーマ設定に関する情報収集と進捗状況の確認（90分）
- 第28回 卒業研究に向けて
プログラミング等の専門家による講義（予定）（60分）
質疑・応答（30分）
- 第29回 卒業研究に向けて
卒業研究のテーマの発表と研究計画に関するディスカッション（90分）
- 第30回 卒業研究に向けて
卒業研究のテーマの発表と研究計画に関するディスカッション（90分）

専門家による講義は、都合により時期が変更する可能性があります。その際、他の講義内容と前後することがありますのでご了承ください。

【授業の進め方】

前期はICTに関する基礎知識の獲得とICT活用のための教材作成の基本を学び、その成果をマイクロティーチング形式で学生同士で発表・議論します。後期は、各自が1つ（または複数）の言語項目を実際の中学生（または小学生）に対して授業を行うことを想定して教材を作成し、前期と同様にマイクロティーチング形式で発表します。後期の終わりごろには、4年次の卒業研究のテーマ設定を行います。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①英語デジタル教材作成・活用ガイド ②唐澤博, 米田謙三 ③大修館書店 ④2014.08.10 ⑤1800円+税 ⑥978-4-469-24589-9

【参考図書】

『英語教師のためのコンピュータ活用法』 濱岡美郎著 大修館書店
『電子黒板で授業が変わる』 清水康敬著 高陵社書店
『感動する英語授業 教師のためのICT簡単面白活用術』 大塚謙二著 明治図書
『The Ultimate Guide to Using ICT Across the Curriculum』 Jon Audain著 Bloomsbury

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

原則、欠席が年間で5回以上の者はB以下、7回を超えた者はC以下とします(教育実習は「公欠」の扱いにしますが、必ず届を出すこと)。

【履修上の心得】

プログラミングの知識は必要としませんので初心者でも大丈夫です。ICT機器を積極的に使い、慣れてください。そして、英語授業に上手に取り入れる方法を探っていきましょう。

【科目のレベル、前提科目など】

卒業研究の準備科目です。

科目名	課題研究(齋藤)
教員名	齋藤 明宏

【授業の内容】

外国語習得プロセスの心理と行動を考察します。外国語習得の過程に影響する事象（言語習得プロセスの特に心理・行動・社会面）について理解を深め、自らの学習経験を振り返り考察しながら、効果的な外国語学習や外国語指導について判断する力をつけることを目的とします。卒業研究を見据えて、語学力、研究の視点、コミュニケーション力（発信、質問、議論）を強化します。

【到達目標】

1. 文法知識を応用し、理解可能な発音で口頭英作文を行う。
2. 外国語習得プロセスを説明する心理要因・行動様式を知り、具体的に述べる。
3. 外国語習得プロセスに係る心理・行動に関する事象、概念、理論を解釈し、議論する。
4. 効果的な外国語学習および外国語学習指導の方法を議論する。
5. 心理・行動面での個人の違いや指導方法が、外国語習得プロセスに及ぼす影響について仮説を立てる。
6. 研究論文の枠組みと執筆上の規範を理解し、論述する。

【授業計画】

- 第1回 インTRODakション（コース概要・成績評価説明、発表・講読分担決定、課題の作成方法概要）
（復習：reflective journal（30分））
- 第2回 外国語習得プロセス概観—普遍性と個人差
文法復習
（予習：指定文献の講読、文法問題（60分～）、復習：reflective journal（30分））
- 第3回 英語教育における理論と実践の現状、文法復習
（予習：指定文献の講読、文法問題（60分～）、復習：reflective journal（30分））
- 第4回 初等英語教育、文法復習
（予習：指定文献の講読、文法問題（60分～）、復習：reflective journal（30分））
- 第5回 中等英語教育（1）、文法復習
（予習：指定文献の講読、文法問題（60分～）、復習：reflective journal（30分））
- 第6回 中等英語教育（2）、文法復習
（予習：指定文献の講読、文法問題（60分～）、復習：reflective journal（30分））
- 第7回 生涯学習と自律性、文法復習
（予習：指定文献の講読、文法問題（60分～）、復習：reflective journal（30分））
- 第8回 第7回までのまとめ、文法復習
（予習：指定文献の講読、文法問題（60分～）、復習：reflective journal（30分））
- 第9回 インプットの役割、文法復習
（予習：指定文献の講読、文法問題（60分～）、復習：reflective journal（30分））
- 第10回 インプットと学習法および指導法、文法復習
（予習：指定文献の講読、文法問題（60分～）、復習：reflective journal（30分））
- 第11回 インタラクションと学習法および指導法、文法復習
（予習：指定文献の講読、文法問題（60分～）、復習：reflective journal（30分））
- 第12回 アウトプットの役割、文法復習
（予習：指定文献の講読、文法問題（60分～）、復習：reflective journal（30分））
- 第13回 アウトプットと学習法および指導法、文法復習
（予習：指定文献の講読、文法問題（60分～）、復習：reflective journal（30分））
- 第14回 Review of the key literature in the field、文法復習
（予習：指定文献の講読、文法問題（60分～）、復習：reflective journal（30分））
- 第15回 Open-book essay quiz & closed-book grammar quiz
（予習：クイズの準備（120分～））
- 第16回 動機づけ（1）、文法復習
（予習：指定文献の講読、文法問題（60分～）、復習：reflective journal（30分））
- 第17回 動機づけ（2）、文法復習
（予習：指定文献の講読、文法問題（60分～）、復習：reflective journal（30分））
- 第18回 後期の講座次第説明、打ち合わせ、学習ストラテジ（1）
（予習：指定文献の講読（60分～）、復習：reflective journal（30分））
- 第19回 学習ストラテジ（2）、文法復習
（予習：指定文献の講読、文法問題（60分～）、復習：reflective journal（30分））
- 第20回 学習者スタイル（1）、文法復習
（予習：指定文献の講読、文法問題（60分～）、復習：reflective journal（30分））

- 第21回 文献講読（1）—学習者スタイル（2）、文法復習
（予習：指定文献の講読、文法問題（60分～）、復習：reflective journal（30分））
- 第22回 文献講読（2）—外国語学習と性差、文法復習
（予習：指定文献の講読、文法問題（60分～）、復習：reflective journal（30分））
- 第23回 外国語学習と適性—適性テスト、文法復習
（予習：指定文献の講読、文法問題（60分～）、復習：reflective journal（30分））
- 第24回 文献講読（3）—外国語学習者の信念、文法復習
（予習：指定文献の講読、文法問題（60分～）、復習：reflective journal（30分））
- 第25回 外国語学習とイデオロギー、文法復習
（予習：指定文献の講読、文法問題（60分～）、復習：reflective journal（30分））
- 第26回 外国語学習とジェンダー、文法復習
（予習：指定文献の講読、文法問題（60分～）、復習：reflective journal（30分））
- 第27回 外国語学習の商品化、文法復習
（予習：指定文献の講読、文法問題（60分～）、復習：reflective journal（30分））
- 第28回 Open-book essay quiz & closed-book grammar quiz - Round 2
（予習：クイズの準備（120分～））
- 第29回 論文執筆のルール
（予習：指定文献の講読（60分～）、復習：reflective journal（30分））
- 第30回 プレゼンテーション（研究課題設定の発表）、振り返りと次年度の計画
（予習：指定文献の講読（60分～）、復習：reflective journal（30分））

授業計画は変更する可能性があります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

開講時に指示します。

【参考図書】

2と4を前期の教科書として予定していますが、開講時に指示します。

1. 平山篤, (2010/2016), 「問題を解いて中学・高校6年分の英文法を総復習する」, ベレ出版.
2. 廣森友人, (2016), 「英語学習のメカニズム—第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法」, 大修館.
3. 村野井仁, (2006/2014), 「第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法」, 大修館.
4. 白井恭弘, (2012/2016), 「英語教師のための第二言語習得論入門」, 大修館.
5. Gass, S. M., Behney, J., & Plonsky, L. (2013). Second language acquisition: An introductory course. Routledge.

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 20% 授業内小試験 10% レポート・課題 50% 受講態度 20%

特記事項

【授業内小試験】 <前期後期各1回>

Guided translation test (到達目標1)

Short essay quiz (open-book) (到達目標2, 3, 4, 5)

【レポート・課題】

<通年>

Reflective journal (到達目標2, 3, 4, 5): 学んだことをもとに経験を振り返り、着想を日記のように記述する(3週ごとに1エントリー)。

Presentation (到達目標2, 3, 4): 分担文献の内容を発表し、受講生・教員を交えて討議する。

<後期>

Summary and critique (到達目標3, 6): 興味のある論文要旨作成とその批評文を作成する(1件)。

Annotated bibliography (到達目標3, 6): 文献の方法論、分析、結果のまとめと批評(各自の関心に依じて)。

Identifying a researchable topic (到達目標5, 6): グループで調査可能な研究課題を設定する。

【履修上の心得】

3年次後期よりの卒業後の進路開拓活動を鑑み、少なくとも学年の早い時期に一度英語系検定試験を受験することが望ましい。

科目名	スピーキング & リスニング I A / コミュニケーション I A
	Speaking & Listening IA (Former Communication IA)
教員名	Jeffrey Miller ・ Richard Todd Leroux

【授業の内容】

Speaking & Listening IA is the beginning integrated speaking-and-listening-skills course for basic and oral/aural communication. emphasis is on rapid comprehension, accurate pronunciation, and clear responses in authentic English conversation. Through situation-based practice, more complex and longer exchanges will become possible. Expanded listening comprehension skills allow for the understanding of details, basic emotions, and non-verbal elements.

スピーキング&リスニングIAは、基本的な英会話に必要な、スピーキングとリスニングの初歩的なスキルを統合した授業である。当初は、簡単で確かな会話での素早い理解、正確な発音、そして適切な反応に重きを置く。さまざまな場面設定のある練習を多く行えば、より複雑で長い会話ができるようになる。また多様な聴解スキルがあれば、ディテールや感情、言葉以外のコミュニケーション要素を理解することができる。

【到達目標】

In this course, students will この授業を通して学生は：

- accurately identify and produce basic English phonological features (phonemes, stress, and word groupings), then more difficult contractions and reductions;
英語の基本的な音韻の特徴（音素、強調、語のまとまり）を、そしてより難度の高い短縮形や変化形を正確に判別できるようになる。
- respond with increasing accuracy and fluency to "who, what, when, and where" questions, then expand to more complex answers for "how and why" questions; 「誰、何、いつ、どこ」といった質問に、より正確にかつ流暢に答えることができ、そして「どうやって、なぜ」といったさらに複雑な質問にも答えることができる、
- recognize the basic plot of a story or the main ideas of a selection;
物語の基本的な流れや、ノンフィクションの主旨を理解することができる、
- pick out verbal clues to the speaker's mood or emotion, as well as key words and phrases from a listening passage; and
話し手の気分や感情を表す明白な手掛かりだけでなく、リスニングの文章に現れるキーワードやキーフレーズにも気づくことができる、
- use appropriate simple English for basic speech functions, such as introducing, inviting, apologizing, and asking for information or clarification.
自己紹介、招待、謝罪さらには情報や説明を請うなど基本的な会話の場面で、適切で簡潔な英語を使うことができる。

Students who complete the requirements of this course should be able to hold simple English conversations. They should be able to think and reply using phrases and sentences directly without translation from Japanese to English.

この授業での課題を成し遂げた学生は、簡単な英会話ができるようになる。また、日本語から英語への変換に頼ることなく、直接英語のままのフレーズや文を使って考えたり応答する事ができるようになる。

【授業計画】

- 第1回 Course introduction: grading work for each class, participation, listening, homework; in-class activities コースイントロダクション
- 第2回 Chapter 1; Health theme with various group, pair. and individual oral and written activities (p. 1-4) 教科書第一章
- 第3回 Speaking and listening activities using the CD and information-gap pairs for vocabulary boosting (p. 5-8) スピーキング & リスニング アクティビティ
- 第4回 Chapter 2; Animal-themed activities of paired conversations, and group discussions about pets (p. 9-12) 教科書第二章
- 第5回 Speaking and CD listening activities including an interview, animal rights drills for vocabulary boosting (p. 13-16) -スピーキング & リスニング アクティビティ
- 第6回 Chapter 3; Fashion choice stress graphic, comic elements, individual, paired, and group oral activities (p. 17-20) 教科書第三章
- 第7回 Speaking and CD listening to an interview, impressions, a truth game, and eating disorders discussion (p. 21-24) スピーキング & リスニング アクティビティ

- 第8回 Chapter 4; Family content with a three-generation home, and raising children pair work activities (p. 25-28) 教科書第四章
- 第9回 Speaking about extended and close families and a CD interview about divorced parents for listening (p. 29-32) スピーキング & リスニング アクティビティ
- 第10回 Chapter 5; Culture content with a humorous homestay graphic that shows cultural misunderstanding (p. 33-36) 教科書第五章
- 第11回 Speaking about studying abroad, keeping your culture survey, and discussion; plus CD listening about living abroad (p. 37-40) スピーキング & リスニング アクティビティ
- 第12回 Chapter 6; Love & Marriage theme with a funny graphic, and pair-work about "Happy Ever After" activities (p. 41-44) 教科書第六章
- 第13回 Speaking pairs, a role play, teacher read passage transcription listening activities (p 45-48) スピーキング & リスニング アクティビティ
- 第14回 Final graded activities presentations, impromptu talks, paired and three-person mini-discussions ファイナルアクティビティ
- 第15回 Final graded activities presentations, impromptu talks, paired and three-person mini-discussions ファイナルアクティビティ

Lessons focus on topics so students will develop situation-based communication strategies. Students do individual, pair, and group work to communicate and learn about different viewpoints. Practice will center on reinforcing active use of vocabulary and useful expressions. The listening component will increase student aural ability.

状況に応じたコミュニケーションストラテジーを向上させる為に特定の課題に重点的に取り組む。様々な視点を学んだり伝えたりする為、学生は個人、ペア、グループそれぞれのワークに取り組む。授業での練習は、ボキャブラリーや役立つ表現を実際に使えるよう強化することを中心としている。この課目のリスニング内容は学生の英語聴覚能力の向上に役立つ。

To improve listening and speaking skills, students complete the first half of the textbook. For extra practice, learners can visit the library Self-Access Learning Center.

教科書の前半を完了し、リスニング・スピーキングスキルを向上させる。学生は図書館のSelf-Access Learning Centerでさらなる練習を行う。

【授業の進め方】

Active student participation is expected in this course. The class atmosphere will be "fun and active" with students communicating their ideas in English.

この学習者が中心となる授業では学生の積極的な参加が期待される。色々なトピックスについて自分の意見を英語でコミュニケーションする学生たちで、授業の雰囲気は活発で楽しいものとなる。グループディスカッションは学生に非常に大切な学習法なので授業内でよくする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①Topic Talk Issues Second Edition ②McLean, Kristy ③EFL Press ④2009 ⑤¥2,550 ⑥N/A

Teacher-generated materials 教材は講師作成のもの

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 40% 受講態度 20%

特記事項

Students are encouraged to attend all class sessions.

学生の学習機会を最大にするべく、すべてのクラスセッションへの出席を勧める。

授業内小試験 = quizzes & oral presentations レポート・課題 = classwork & homework 受講態度 = participation

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Punctual attendance and participation are important in this course.

このスピーキング&リスニングコースに遅刻せず常時出席し参加することが大切である。

【履修上の心得】

Students can improve their English speaking and listening skills and develop confidence through constant practice and regular attendance.

学生は不断の練習とクラスに出席することを通して、スピーキング&リスニングスキルが向上し英語に対して自信をつける事ができる。

Students who do nursing care training or teaching practicum must contact their instructor before starting these activities. Students who do not do so may not receive course credit.

介護体験や教育実習へ行く学生は、事前に講師に連絡すること。そうでないと、単位取得が出来なくなる場合がある。

【科目のレベル、前提科目など】

Other courses that can help students improve their language and critical thinking skills are the following: Reading & Vocabulary I, II, and III; Basic, Intermediate, Advanced, and Academic Writing; Speaking & Listening IB, IIA, and IIB are subsequent courses in this Speaking & Listening series.

語学とクリティカルシンキングスキルの向上に役立つ他の科目は次の通りである。リーディング&ヴォキャブラリーI, II, それにIII; 初級、中級、上級及びアカデミックライティング。スピーキング&リスニングIB, IIAそれにIIBはこのスピーキング&リスニングシリーズの連続したコースである。

科目名	スピーキング&リスニング I B/コミュニケーション I B
	Speaking & Listening IB (Former Communication IB)
教員名	Jeffrey Miller・Richard Todd Leroux

【授業の内容】

Speaking & Listening IB is the second speaking-and-listening course for lower intermediate oral (aural) communication and builds on the skills already learned. Emphasis is on actively initiating conversations using the students' ideas and opinions, while being able to pick up and use key information and make follow-up questions with fluency and accuracy. Learners should be able to summarize, paraphrase, and answer questions on complex listening sections. Oral sentence structures should include compound and complex sentences. Students should show sensibility to different register levels.

スピーキング&リスニングIBは、総合的なスピーキング&リスニングスキルコースの二番目のクラスである。前課程で学んだスキルを基に中級よりやや易しい口頭/聴覚コミュニケーション力を磨いていく。まずは学生が自分のアイデアや意見を活発に会話に生かしていくことから始めるのが重要である。会話のキーとなる情報を聞き取ってそれを使い、より正確な流暢さでフォローアップの質問を述べたり出来るようになる。さらにいっそう複雑なリスニング教材に対しても、より良く要約し言い換え口頭で答えることができるようになる。口頭で述べる文章は重文や複文を含み、状況に合わせて表現出来る感覚を磨く。

【到達目標】

In this course, students will この授業を通して学生は：

- meet the oral and aural objectives of the previous (Speaking & Listening IA) course;
前提科目のスピーキング&リスニングIAコースの目標を達する事が出来る
- identify the main points of dialogs with greater accuracy;
対話の要点などをすばらしい正確さでつかむことができる。
- actively initiate conversations, based on their ideas, and develop a deeper dialog with the partner's reactions;
自分の考えを基に活発な会話の口火を切ることができ、また相手の反応に合わせて柔軟により深みのある会話ができる。
- convey and understand emotional content and tone, as well as be able to identify causal relationships in a conversation;

会話の中のちょっとした関連に気づいたり、内容や声の調子で感情を伝えたり理解したりすることができる。

- use sophisticated English grammar and syntax patterns as well as demonstrate more sensitivity to variations in register (e.g., formal/informal and polite/casual).

様々な状況(例えばフォーマルかインフォーマルか、カジュアルかそうでないか)に対応可能な感性を表現できると同時に、より洗練された文法やシンタクスを使えるようになる。

Students who complete this course should be able to have conversations in English, thinking and replying using complex sentences directly in English without translating.

このコースで課せられた課題を達成すれば、学生は英語で会話をこなすことができる。訳に頼ることなしに複雑な構文を使い英語で直接に考えたり応答したりすることができる

【授業計画】

- 第1回 Course introduction; grading of work from each class, participation, and different in-class speaking and listening activities コースイントロダクション
- 第2回 Chapter 7; Jobs-themed activities include comprehension of the graphic dialog and paired information gathering (p. 49-52) 教科書第七章
- 第3回 Speaking about your part-time jobs, dialog drill, men vs women at work discussion and CD interview listening activities (p. 53-56) スピーキング&リスニング アクティビティ
- 第4回 Chapter 8; Shopping funny graphic dialog comprehension, a group shopping survey, and TV commercial making activities (p. 57-60) 教科書第八章
- 第5回 Speaking about shopping vocabulary,, pair practice with the vocabulary, and CD listening comprehension activities (p. 61-64) スピーキング&リスニング アクティビティ
- 第6回 Chapter 9; School theme with graphic dialog (bullying), group discussions about schools in Japan activities (p. 65-68) 教科書第九章
- 第7回 Speaking about problems at school, what can be done and a (successful high school drop-out) CD interview activities (p. 69-72) スピーキング&リスニング アクティビティ
- 第8回 Chapter 10; TV & Movies themed horror film graphic dialog, pros and cons of TV survey, your TV choices activities (p. 73-76) 教科書第十章
- 第9回 Speaking groups make some TV news, pros and cons of violence on screen, and CD interview with someone who hates TV (p. 77-80) スピーキング&リスニング アクティビティ
- 第10回 Chapter 11; Nature theme in the future graphic comprehension, pair work about your feelings, and mini-discussion activities (81-84) 教科書第十一章

- 第11回 Speaking interviewing a partner, group work about eco problems and CD listening about nature and the environment activities (p. 85-88) スピーキング&リスニング アクティビティ
- 第12回 Chapter 12; Review activities include a word crossword puzzle, dialog starters with a partner, and an opinions game (p. 89-92) 教科書第十二章
- 第13回 Speaking activities are quiz making, small group surveys, telling the larger group your results (as a listening activity) スピーキング&リスニング アクティビティ
- 第14回 Final activities presentations alone or groups, impromptu talks, and group discussions ファイナルアクティビティ
- 第15回 Final activities presentations alone or groups, impromptu talks, and group discussions ファイナルアクティビティ

Lessons focus on topics for students to develop situation-based communication strategies. Students will do individual, pair, and group work to communicate and learn about different viewpoints. Practice will center on active use of vocabulary and useful expressions. The listening part of the course will increase student aural ability.

一定のトピックスに集中して状況に応じたコミュニケーションストラテジーを養う。様々な視点を学びコミュニケーションできるように、個人、ペア、グループそれぞれのワークに取り組む。練習は英語のボキャブラリーや役立つ表現を実際に使えるよう強化することを中心とする。この課目のリスニング内容は学生の英語聴覚能力の向上に役立つ。

To improve listening and speaking skills, students will complete the second half of the textbook. For extra practice, learners can visit the library Self-Access Learning Center.

教科書の後半を完了しリスニングス、スピーキングスキルを向上させる。学生は図書館のSelf-Access Learning Centerでさらなる練習を行う。

【授業の進め方】

Active student participation is expected in this course. The class atmosphere will be "fun and active" with students communicating their ideas in English.

この学習者本位の授業に学生の積極的な参加を期待する。授業の雰囲気は楽しく活発で、学生は様々なトピックについて自分の意見を英語で伝え合う。グループディスカッションは学生に非常に大切な学習法なので授業内でよくする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①Topic Talk Issues Second Edition ②McLean, Kristy ③EFL Press ④2009 ⑤¥2,550 ⑥N/A

Teacher-generated materials 教材は講師作成のもの

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 40% 受講態度 20%

特記事項

Students are encouraged to attend all class sessions.

学生の学習機会を増すために、すべてのクラスセッションへの出席を勧める。

授業内小試験 = quizzes & oral presentations レポート・課題 = classwork & homework 受講態度 = participation

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Punctual attendance and participation are important in this course.

このスピーキング&リスニングコースに遅刻せず出席し、参加することが大切である。

【履修上の心得】

Students can improve their English speaking and listening skills and develop confidence through constant practice and regular attendance.

学生は常時練習し、きちんと出席することを通して、英語のスピーキング&リスニングスキル向上と英語に対する自信がつく。

Students who do nursing care training or teaching practicum must contact their instructor before starting these activities. Students who do not do so may not receive course credit.

介護体験や教育実習に行く人は、事前に講師に連絡すること。そうでないと、単位取得が出来なくなる場合がある。

【科目のレベル、前提科目など】

Other courses that can help students improve their language and critical thinking skills are the following: Reading & Vocabulary I, II, and III; and Basic, Intermediate, Advanced, and Academic Writing. Speaking & Listening IA, IIA, and IIB are related courses in this Speaking & Listening series. 語学とクリティカルシンキングスキル向上に役立つ他の科目

は次の通りである。リーディング&ヴォキャブラリーI, II, それにIII。初級、中級、上級及びアカデミックライティング。スピーキング&リスニングIA, IIAとIIBはこのスピーキング&リスニングシリーズの連続したコースである。

科目名	スピーキング & リスニング II A / コミュニケーション II A
	Communication IIA (Speaking & Listening IIA)
教員名	Michael Sorey

【授業の内容】

Speaking & Listening IIA is the third of four Listening and Speaking courses to help students develop effective communication strategies and critical thinking skills for use in academic and other environments. Through group work and individual practice, students will engage in content-based speaking, listening, and reading activities to improve their English skills and build their confidence.

スピーキング&リスニングIIAは、アカデミックその他の分野で効果的なコミュニケーションストラテジーと、クリティカルシンキングスキルを向上させることを目的とした、4つの連続したコースの3番目の科目である。グループワークや個人での練習を通して、学生はコンテンツベースのスピーキング・リスニング・リーディングアクティビティを体験し、英語スキルの向上をはかり英語に対して自信がつく。

【到達目標】

In Speaking & Listening IIA, students will スピーキング&リスニングIIAを通して学生は：

- successfully meet the oral and aural objectives of the Speaking & Listening IA and IB courses; 2つの前提科目(スピーキング&リスニングIAとIB)の目標を達成することができる
- expand their communicative language through subtler word choices to be able to make metaphors, similes, and analogies; より機微に富んだ語彙選択によりコミュニケーションにおける表現の幅を広げ、簡単な隠喩・直喩・類推表現を言うことができる
- be able to speak in conversations or in groups on topics (using discourse markers and transitional words); (談話標識や接続表現を使い、)事前に準備したトピックについて、会話やグループの前で効果的に話すことができる
- exhibit sensitivity to oral techniques used to convince, persuade, or inform, such as tone of voice, humor, and satire; and 誰かを説得したり、何かを知らせる際に使われる、声のトーン・ユーモア・皮肉といった話し手の技術に対する感性が身に付く
- become comfortable with rapidly identifying and using non-verbal clues to signify emotion, opinion, or status. 話し手や聞き手の感情や意見、状態を示す非言語情報を素早く見つけたり使ったりすることが、著しく簡単に出来るようになる。

Students who complete the course requirements are able to engage in discussions or debates in English. They should be able to organize information logically and separate facts from opinions. この授業で課せられることを全てやり遂げた学生は、英語での議論やディベートができるようになる。また、論理的な方法で情報を整理し、意見と事実を区別できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 Course Introduction; fluency practice with self-introductions and the basics of debate
- 第2回 Warm-up listening "rice" activity and the "Health Food" first chapter of the Breaking News Listening (BNL) textbook; also the basics of debate
- 第3回 Warm-up listening "Greenland" activity and the "History of Baseball" second chapter of the BNL textbook
- 第4回 Fluency practice, explaining Japanese proverbs; finish chapter two "History of Baseball" of the BNL textbook
- 第5回 Warm-up listening "The Grand Canyon" activity and first class debate on "Resolved that Baseball should be an Olympic Sport"
- 第6回 Warm-up listening "Loch Ness" activity and chapter three "Japanese Cars" from the BNL textbook
- 第7回 Fluency practice explaining English proverbs and complete the "Japanese Cars" third chapter of the BNL textbook
- 第8回 Vocabulary review quiz of units 1-3 of the BNL textbook and begin chapter four "Banning iPods"
- 第9回 Warm-up listening "Manila" activity and complete chapter four "Banning iPods" of the BNL textbook
- 第10回 Second class debate on "Resolved that Pedestrians should be prohibited from using electronic gadgets" and begin chapter five "Plastic Bags" of the BNL textbook
- 第11回 Warm-up listening "Thailand" activity and complete chapter five "Plastic Bags" of the BNL textbook
- 第12回 Chapter six "Aromatherapy" of the BNL textbook (including vocabulary and selected exercises)
- 第13回 Warm-up listening "Remote Island" activity and orientation about the final project presentations
- 第14回 Free Activity Presentations: presentation of research on a developing nation
- 第15回 Final Activity Presentations: conclusion

Lessons focus on specific topics to develop situation-based communication strategies. Students will do individual, pair, and group work to communicate and learn about different points of view. Much practice is on reinforcing active use of vocabulary and useful expressions. The listening component of the course increase student aural ability. 状況に応じたコミュニケーションストラテジーを向上させる為に特定の課題に重点的に取り組む。様々な視点を学んだり伝えたりする為、学生は個人、ペア、グループそれぞれのワークに取り組む。授業での練習はボキャブラリーや役立つ表現を実際に使えるよう強化することを中心にしている。この課目のリスニング内容は学生の英語聴覚能の向上に役立つ。

【授業の進め方】

Active student participation is expected in this learner-centered course. Students are expected to use library, Internet, and other resources for class preparation. このこの学習者本位のクラスでは、学生の積極的な参加が期待される。授業の準備の為に図書館やInternet、その他で情報を得ることが必要。グループディスカッションとディベートは学生に非常に大切な学習法なので授業内でよくする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①Breaking News Listening ②Kumai, N., Timson, S., & Banville, S. ③Macmillan ④2010 ⑤ ¥2,000 ⑥978-4-7773-6311-7

【参考図書】

望月和彦。(2003). 「ディベートのすすめ」。東京：有斐閣選書。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 40% 受講態度 20%

特記事項

Students are encouraged to attend all class sessions to maximize learning opportunities.

学生の学習機会を増すために、すべてのクラスセッションへの出席を勧める。

授業内小試験 = quizzes & oral presentations レポート・課題 = classwork & homework 受講態度 = participation

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Punctual attendance and participation are important in this Listening and Speaking course.

このリスニング&スピーキングコースに遅刻せず出席し、参加することが大切である。

【履修上の心得】

Students can improve their English speaking and listening skills and develop confidence through constant practice and regular attendance. 学生は常時練習し、きちんと出席することを通して、英語のスピーキング&リスニングスキル向上と英語に対する自信がつく。

Students who do nursing care training or teaching practicum must contact their instructor before starting these activities. Students who do not do so may not receive course credit. 介護体験や教育実習に行く学生は、事前に講師に連絡すること。そうでないと、単位取得が出来なくなる場合がある。

【科目のレベル、前提科目など】

Other courses that can help students improve their language and critical thinking skills are the following: Reading & Vocabulary I, II, and III; Basic, Intermediate, Advanced, and Academic Writing. Speaking & Listening IA, IB, and IIB are related courses in this Speaking & Listening series. 語学とクリティカルシンキングスキル向上に役立つ他の科目は次の通りである。リーディング&ヴォキャブラリーI, II, それにIII。初級、中級、上級及びアカデミックライティング。スピーキング&リスニング IA, IBとIIBはこのスピーキング&リスニングシリーズの連続したコースである。

科目名	スピーキング & リスニング II B / コミュニケーション II B
	Communication IIB (Speaking & Listening IIB)
教員名	Michael Sorey

【授業の内容】

Speaking & Listening IIB is the fourth of four Speaking courses to help students develop effective communication strategies and critical thinking skills for use in academic and other environments. Through group work and individual practice, students will engage themselves in content-based speaking, listening, and reading activities to improve their English skills and build their confidence.

スピーキング&リスニングIIBは、アカデミックその他の分野で効果的なコミュニケーションストラテジーと、クリティカルシンキングスキルを向上させることを目的とした、4つの連続したコースの4番目の科目である。グループワークや個人での練習を通して、学生はコンテンツベースのスピーキング・リスニング・リーディングアクティビティを体験し、英語スキルの向上をはかり英語に対して自信がつく。

【到達目標】

In this course, student will この授業を通して学生は：

- successfully meet the oral and aural objectives of the Speaking & Listening IA, IB, IIA courses; 3つの前提科目(スピーキング&リスニングIA、IBとIIA)の目標を達成することができる、
- be able to follow the basic plot of an English film as well as developing sensitivity to implied cultural information; 英語の映画の基本的な流れを追うことができ、状況に含まれる文化的な情報への感性を高めることができる、
- be able to take sides in a discussion and offer reasons for the position taken, as well as employ detail and elaboration to argue points; 議論において自分の立場を決め、理由を述べるだけでなく、論破するために詳細な内容を述べる事ができる、
- become increasingly comfortable speaking freely on unprepared subjects with greater fluency and sophistication. 事前の準備がない題材についても、より流暢な、また洗練された表現を用いて、さらに自由に話すことができるようになる。

Students who successfully complete the requirements of this course should be able to have discussions and do short debates and presentations in English. They should be able to explain and support their opinions. この授業で課せられることを全てやり遂げた学生は、英語での議論、及び短いディベートやプレゼンテーションをすることができる。また、自分の意見を述べ、その根拠を示すことができるようになる。

【授業計画】

- 第1回 Course introduction, fluency practice with individual self-introductions before the entire class
- 第2回 Beginning with "The Cost of Children" chapter 8 of Breaking News Listening (BNL), the same textbook as the previous course
- 第3回 Continue and finish BNL chapter eight "The Cost of Children", also do in-class mini-research presentations on "The Cost of Urban Living"
- 第4回 Practice in following trends and trend-related vocabulary use, begin BNL chapter nine "Biofuels"
- 第5回 Continue and finish BNL chapter nine "Biofuels", also do in-class mini-research presentations on "A Report on a Current Trend"
- 第6回 Begin BNL chapter ten "Cut and Paste Essays" and start group discussions about student reactions to the topic
- 第7回 Conclude BNL chapter ten "Cut and Paste Essays" exercises and group discussions about student reactions to the topic
- 第8回 Vocabulary review quiz: BNL Units 8-10 and trend vocabulary; class discussion/debate about "School Policies Concerning Plagiarism"
- 第9回 Begin BNL chapter eleven "Best Job in the World" and analyze advertisements
- 第10回 Chapter eleven "Best Job in the World" wrap-up and begin BNL chapter 12 "The Internet Helps Families"
- 第11回 Student in class Presentations: "Promoting Tourism to Your Hometown"
- 第12回 Conclude BNL chapter eleven "The Internet Helps Families" and final class debate (topic to be announced)
- 第13回 Vocabulary review quiz: BNL Units 11-12 plus advertising vocabulary, Final project guidance
- 第14回 Final Project Presentations: Research and present profile of a company
- 第15回 Final Project Presentations: conclusion

Lessons focus on specific topics for which students will develop situation-based communication strategies. Students will do individual, pair, and group work to communicate and learn about different points of view. Much practice will center on

reinforcing active use of vocabulary and useful expressions. The listening component of the course should help students increase student aural abilities. 状況に応じたコミュニケーションストラテジーを向上させる為に特定の課題に重点的に取り組む。様々な視点を学んだり伝えたりする為、学生は個人、ペア、グループそれぞれのワークに取り組む。授業での練習はボキャブラリーや役立つ表現を実際に使えるよう強化する事を中心としている。この課目のリスニング内容は学生の英語聴覚能力の向上に役立つ。

【授業の進め方】

Active student participation is expected in this learner-centered course. Students are expected to use library, Internet, and other resources for class preparation. この学習者本位の授業では学生の積極的な参加が期待される。授業の準備の為に図書館やInternet、その他で情報を得ることが必要。グループディスカッションとディベートは学生に非常に大切な学習法なので授業内でよくする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①Breaking News Listening ②Kumai, N., Timson, S., & Banville, S. ③Macmillan ④2010 ⑤ ¥2,000 ⑥978-4-7773-6311-7

【参考図書】

望月和彦。(2003). 「ディベートのすすめ」。東京：有斐閣選書。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 40% 受講態度 20%

特記事項

Students are encouraged to attend all class sessions to maximize learning opportunities.

学習の機会を増すために、すべてのクラスセッションへの出席を勧める。

授業内小試験 = quizzes & oral presentations レポート・課題 = classwork & homework 受講態度 = participation

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Punctual attendance and participation are important in this Speaking & Listening course.

このスピーキング&リスニングコースに遅刻せずに出席し、参加することが大切である。

【履修上の心得】

Students can improve their English speaking and listening skills and develop confidence through constant practice and regular attendance. 学生は常時練習し、きちんと出席することを通して、英語のスピーキング&リスニングスキル向上をはかり英語に対する自信がつく。

Students who do nursing care training or teaching practicum must contact their instructor before starting these activities. Students who do not do so may not receive course credit. 介護体験や教育実習に行く学生は、事前に講師に連絡すること。そうでないと、単位取得が出来なくなる場合がある。

【科目のレベル、前提科目など】

Other courses that can help students improve their language and critical thinking skills are the following: Reading & Vocabulary I, II, and III; Basic, Intermediate, Advanced, and Academic Writing. Speaking & Listening IA, IB, and IIA are related courses in this Speaking & Listening series. 語学とクリティカルシンキングスキル向上に役立つ他の科目は次の通りである。リーディング&ヴォキャブラリーI, II, それにIII。初級、中級、上級及びアカデミックライティング。スピーキング&リスニング IA, IBとIIAはこのスピーキング&リスニングシリーズの連続したコースである。

科目名	リーディング&ボキャブラリー I
	Reading and Vocabulary Building I (Level 1)
教員名	Jeffrey Miller・Harry Harris・Michael Sorey

【授業の内容】

Reading & Vocabulary Building Level 1 is the first in a series of English Reading courses designed to help students learn to become fluent readers by focusing on strategic learning. Students work with various texts doing different activities before, during, and after their reading to develop basic reading comprehension skills. To support English language acquisition, they will increase their vocabulary, learn to recognize the complex nature of reading (readers draw from and interact with textual information), and gain improved reading skills through extensive and intensive reading.

リーディング&ボキャブラリー I は、英語を流暢に読解するために効果的な学習法に焦点をあてた3つのリーディング科目の初級段階のコースです。基本的な読解技術を発達させるために、読解の前・中・後の様々な活動を行いながら、多様な文章を読んできます。英語の習得を助けるため、受講者は多読や精読を通して語彙を増やし、読解の複雑な性質を理解し、より良い読解技術を獲得します。

【到達目標】

Students will review or be introduced to and practice the following:

- 100 –150 new words and phrases (including TESOL related vocabulary);
- English reading strategies, such as previewing a text to determine the general topic, predicting what will come later,
- scanning, skimming for general comprehension, guessing meaning from context, and answering and formulating questions based on a text; and
- using timed and paced readings to increase reading speed and comprehension.

Students who successfully complete course requirements will be able to approach independent vocabulary learning with a combination of extensive/intensive reading and self-study strategies. They will have increased understanding of academic English and improved ability to read for comprehension and pleasure, and, as a result, improve relevant test scores

この講座において受講者は以下の技術を概観、訓練していきます：

- トピックは何か予測すること。
- 情報をざっと読み取ること。
- 文書の一節を拾い読みすること。
- 内容理解に関する 質問に答えたり、質問を組み立てること。
- 読解速度を増すこと。
- 語彙を増やすこと。

この講座の単位要件を満たした学生は、多読や自己学習方略を用いて自律した学習をすることが出来るようになります。知識の獲得と楽しみのためのより良い読解能力が身につくでしょう。

【授業計画】

- 第1回 *The schedule for 15 lessons is subject to change based on instructor-determined student needs.
*15回授業計画は仮のもので、授業の進行状況により変更になる場合があります。
Course Introduction, Library Tour (授業概要説明、図書館ツアー)
- 第2回 Unit 1: Chapter 1, TESOL Vocabulary (活動)
- 第3回 TESOL Vocabulary Quiz, Reading Fluency, Graded Reader: "Twenty Thousand Leagues under the Sea" (活動、段階別読み物、小テスト)
- 第4回 Unit 1: Chapter 2, Graded Reader: "Twenty Thousand Leagues under the Sea" (活動)
- 第5回 Unit 1: Chapter 3, Quiz (活動、小テスト)
- 第6回 Tie It All Together, Reading Fluency, Current Issues/Graded Readers (活動、段階別読み物)
- 第7回 Quiz, Unit 2: Chapter 1 (小テスト、活動)
- 第8回 Unit 2: Chapter 2 (活動)
- 第9回 Unit 2: Chapter 3 (活動)
- 第10回 Tie It All Together, Current Issues/Graded Readers (活動、段階別読み物)
- 第11回 Quiz, Unit 3: Chapter 1 (活動、小テスト)
- 第12回 Unit 3: Chapter 2 (活動)
- 第13回 Catch up, Reading Fluency (活動)
- 第14回 Quiz, Review (小テスト、復習)
- 第15回 Assessment & Course Evaluation (アセスメント、授業評価)

*** Assessment and schedule are subject to change based on instructor-determined student needs. 授業計画は仮のもので、授業の進行状況により変更になる場合があるかもしれません。小テスト予定は変わることがあります。

In this course:

- a. the following chapters from the textbook will be covered: Unit 1 Chapters 1~3, Unit 2 Chapters 1~3, and Unit 3 Chapters 1 and 2
- b. students will read 3 graded-readers (including course textbook "Twenty Thousand Leagues Under the Sea") and report on 2 current issues; and
- c. students will be tested on selected TESOL related terminology.

【授業の進め方】

Class time will include numerous individual, pair, and group English activities based on in-class and out-of-class readings. Students will do in-class SRA readings and out-of-class article readings (GRADED READERS & CURRENT ISSUES). There will also be periodic quizzes based on the readings and class discussions.

授業時間には、授業内外でのリーディングに基づいて、数多くの個人・ペア・グループでの英語活動が含まれます。受講者は授業内でのSRAリーディングと、授業外での記事読解 (GRADED READERS & CURRENT ISSUES)。また読んだテキストや授業での討論を基にした小テストも定期的に行います。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①For Your Information 3: Reading and Vocabulary Skills, Second Edition ②Karen Blanchard and Christine Root ③Pearson Longman ④2007 ⑥978-0-13-238008-9

①Twenty Thousand Leagues under the Sea: Level 1 ③Penguin Readers Simplified Text

【参考図書】

English English Dictionary 英英辞典
SRA

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 60% レポート・課題 30% 受講態度 10%

特記事項

Grades will be based on the following criteria: in-class assessment (including quizzes) (60%); graded readers, newspapers, and other instructor-announced report activities (30%); and active participation and punctual attendance (10%).

成績は以下の基準に基づきます：授業内アセスメント(小テストを含む) (60%)、グレイデイドリーダー、新聞記事、その他教師が発表するレポート活動 (30%)、出席し、積極的に授業参加 (10%)

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Students who miss more than one third of class sessions will not pass the course. Being late three times will count as one absence.

All students are required to bring their textbooks to class. No late homework will be accepted unless there is a valid reason.

If a student submits plagiarized assignments, machine translations, or work "borrowed" from others, s/he can fail this course.

授業の3分の1以上を欠席した受講者はこの講座を終了することは出来ません。遅刻を3回すると欠席を1回したことになります。

全ての学生がテキストブックを持参すること。

正当な理由のない限り宿題の提出が遅れることは認められません。

盗作した課題、機械を使って訳したもの、他人から「借用した」課題を提出した受講者は失格となります。

【履修上の心得】

Students who do nursing care training or teaching practicum must contact their instructor before starting these activities. Those who do not do so may not receive course credit.教育実習や介護体験に行く人は、前もって知らせてください。そうでないと、必要な課題等ができないために、単位取得が困難になるケースが出ます。

科目名	リーディング&ボキャブラリーII
	Reading and Vocabulary Building II (Level 2)
教員名	Michael Sorey

【授業の内容】

Reading & Vocabulary Building Level 2 is the second in a series of English Reading courses designed to help students learn to become fluent readers by focusing on strategic learning. Reading & Vocabulary Building Level 1, or its equivalent, is a prerequisite for this course. Students will continue to read various texts by means of pre-reading, during-reading, and post-reading instruction to improve reading comprehension while studying different styles of written English such as formal and informal, and spoken and academic language. To support English language acquisition, they will continue to review and increase their vocabulary, increase reading fluency, learn to critique the contents of a reading and improve reading skills through extensive and intensive reading.

リーディング&ボキャブラリーIIは、英語を流暢に読解するために効果的な学習法に焦点をあてた3つの英語読解講座の2番目のクラスです。基本的な読解技術を発達させるために、読解の前・中・後の様々な活動を行いながら、多様な文章を読んでいきます。英語の習得を助けるため、受講者は多読や精読を通して、学生は語彙を増やし、読解の複雑な性質を理解し、より良い読解技術を獲得します。

【到達目標】

In Reading & Vocabulary Building Level 2, students will review, be introduced to, and practice the following:

- 100–150 new words and phrases (including TESOL related vocabulary);
- pattern identification and paragraph comprehension;
- context guessing and root words, prefixes, and suffixes;
- linking reading to other skills (writing, speaking, listening)

Students who successfully complete the requirements of this course will continue to approach independent vocabulary learning by using a combination of extensive/intensive reading and self-study strategies. They will be better able to read rapidly for comprehension, draw from their vocabulary knowledge, think critically, evaluate information, and show that reading is a way to reinforce their language skills.

この講座では、学生はリーディング&ボキャブラリー I で習得した学習法を復習し、以下の技術の改善に取り組みます：

1) 推測すること。2)効果的な読解のために語彙知識を用いる。3)内容を理解する道しるべとして見出しを用いる。4)主題を見つけること。5) 討論やその他の活動における読解から得た情報を用いる。6)文書/口頭と、形式ばった/くだけた言語の違いを確認する。

【授業計画】

第1回 The schedule for 15 lessons is subject to change based on instructor-determined student needs.

*15回授業計画は仮のもので、授業の進行状況により変更になる場合があります。

Course Introduction (授業概要説明) TESOL Terminology

第2回 Unit 3:Chapter 3 (読み物)

第3回 Tie It All Together, TESOL Quiz, Graded Reader/Current Issues, (小テスト、段階別読み物)

第4回 Unit 4: Chapter 1, Quiz (読み物、小テスト)

第5回 Unit 4: Chapter 2 (読み物)

第6回 Unit 4: Chapter 3 (読み物)

第7回 Tie It All Together, Reading Fluency, Current Issues/Graded Readers (活動、段階別読み物)

第8回 Unit 5: Chapter 1, Quiz (読み物、小テスト)

第9回 Unit 5: Chapter 2 (読み物)

第10回 Unit 5: Chapter 3 (読み物)

第11回 Tie It All Together, Reading Fluency, Current Issues/Graded Readers (活動、段階別読み物)

第12回 Unit 6: Chapter 1, Quiz (読み物、小テスト)

第13回 Catch up, Reading Fluency, Current Issues/Graded Readers

第14回 Review, Quiz (復習、小テスト)

第15回 Final Assessment & Course Evaluation (アセスメント、授業評価)

Test (小テスト) quantity and schedule are subject to change based on instructor-determined student needs. 授業計画は仮のもので、授業の進行状況により変更になる場合があるかもしれません。小テスト予定は変わることがあります。

COURSE WORK:

In this course textbook, Unit 3, chapter 3; Unit 4, Chapters 1~3, Unit 5 Chapters 1~3, and Unit 6 Chapter 1 are covered.

Students are required to read a minimum of two graded-readers and two English newspaper or magazine articles, write response sheets, and then present them to the class.

【授業の進め方】

Class time will include numerous individual, pair, and group English activities based on in-class and out-of-class readings. Students will do in-class SRA readings and out-of-class article readings (GRADED READERS & CURRENT ISSUES). There will also be periodic quizzes based on the readings and class discussions.

授業時間には、授業内外でのリーディングに基づいて、数多くの個人・ペア・グループでの英語活動が含まれます。受講者は授業内でのSRAリーディングと、授業外での記事読解 (GRADED READERS & CURRENT ISSUES)。また読んだテキストや授業での討論を基にした小テストも定期的に行います。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①For Your Information 3: Reading and Vocabulary Skills, Second Edition ②Karen Blanchard and Christine Root ③ Pearson Longman ④2007 ⑥978-0-13-238008-9

【参考図書】

SRA

Graded Readers

英英辞典

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 60% レポート・課題 30% 受講態度 10%

特記事項

Grades will be based on the following criteria: in-class assessment (including quizzes) (60%); graded reader, news, and other instructor-announced report activities (30%); and active participation and punctual attendance (10%).

成績は以下の基準に基づきます：授業内アセスメント(小テストを含む) (60%)、グレイデドリーダー、新聞記事、その他教師が発表するレポート活動 (30%)、積極的に授業参加 (10%)

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Students who miss more than 1/3 of class sessions will not pass the course. Being late three times will count as one absence.

Students are required to come to class with their textbook for all class sessions.

Late homework will not be accepted without a valid reason.

If a student submits plagiarized assignments, machine translations, or work "borrowed" from others, s/he will fail this course.

授業の3分の1以上を欠席した学生はこの講座を終了することはできません。遅刻を3回すると欠席を1回したことになります。

全ての授業にテキストブックを持参して参加する必要があります。

正当な理由のない宿題の遅れは認められません。

盗作した課題、機械を使って訳したもの、他人から借りた宿題を提出した学生はこの講座の履修が失格となります。

【履修上の心得】

Students who do nursing care training or teaching practicum must contact their instructor before starting these activities. Students who do not do so may not receive course credit.

教育実習や介護体験に行く人は、前もって知らせてください。そうでないと、必要な課題等ができないために、単位取得が困難になるケースが出ます。

【科目のレベル、前提科目など】

It is recommended that students have successfully completed English Study Skills and Reading and Vocabulary Building I before taking this course.

英語スタディースキルズとリーディング&ボキャブラリーIを履修しておくことが、望ましい。

科目名	リーディング&ボキャブラリーⅢ
	Reading and Vocabulary Building III (Level 3)
教員名	Paul del Rosario

【授業の内容】

Reading & Vocabulary Building Level 3 is the third in a series of English Reading courses designed to help students learn to become fluent readers by focusing on strategic learning. To support English acquisition, students will read various content-based English texts as sources for research and other academic purposes while continuing to build their vocabulary, increase their reading fluency, and improve their critical analytical skills and ability to find support for/against a hypothesis.

英語を流暢に読解するために効果的な学習法に焦点をあてた3つの英語読解講座の3番目のコースです。英語の習得を助けるため、研究など学術的な目的のための内容重視の様々な読み物を通して、学生は語彙を増やし、読みの流暢さを養い、読み物の内容について批評することを学び、読解技術を向上させます。

【到達目標】

In Reading & Vocabulary Building Level 3, students will be introduced to and/or practice the following:

- 100 English vocabulary words (including TESOL related vocabulary), grammatical and lexical collocations; TESOLの語彙を含む100の英語のボキャブラリーや連語
- Structure and reference; 文章体型と参考文献
- Skimming, fluency training to read faster for better textual comprehension; スキミングや速読
- Reading aloud to improve pronunciation and listening skills. 発音、リスニング向上のための音読

Students who successfully complete the requirements of this course will be able to continue to approach independent learning by using skills they have acquired. They will develop an awareness of the reading process so that they will be able to read authentic English texts for enjoyment, business, research and other academic purposes.

この講座の単位要件を満たした学生は、多読や自己学習方略を用いて自律した学習をすることが出来るようになります。楽しみビジネス、研究、や他の研究的な目的のため本物の英語の読み物を読みこなすことができるようにリーディングのプロセスを意識していくことになります。

【授業計画】

第1回 *The schedule for 15 lessons is subject to change based on instructor-determined student needs.

*15回授業計画は仮のもので、授業の進行状況により変更になる場合があります。

Course Introduction (授業概要説明), TESOL Terminology

第2回 Unit 6: Chapter 2 (読み物)

第3回 Unit 6: Chapter 3 (読み物)

第4回 Tie It All Together; TESOL Quiz (小テスト); Current Issues/Graded Readers (活動)

第5回 Unit 7: Chapter 1; Quiz (読み物、小テスト)

第6回 Unit 7: Chapter 2 (読み物)

第7回 Unit 7: Chapter 3 (読み物)

第8回 Tie It All Together; Current Issues/Graded Readers (活動)

第9回 Unit 8: Chapter 1; Quiz (読み物、小テスト)

第10回 Unit 8: Chapter 2 (読み物)

第11回 Unit 8: Chapter 3 (読み物)

第12回 Tie It All Together; Current Issues/Graded Readers (活動)

第13回 Quiz; Catch up, Current Issues/Graded Readers (活動)

第14回 Catch up, Current Issues/Graded Readers (活動)

第15回 Assessment & Course Evaluation (アセスメント & 授業評価)

*Test (小テスト) quantity and schedule are subject to change based on instructor-determined student needs. 授業計画は仮のもので、授業の進行状況により変更になる場合があるかもしれません。小テスト予定は変わることもあります。

COURSE TEXTBOOK: Students will complete Unit 6, Chapters 2~3; Unit 7, Chapters 1~3; and Unit 8, Chapters 1~3.

Students are required to:

read a minimum of 2 graded-readers and read and report upon 2 topics about current issues.

2つのグレーディドリーダーを読み、時事問題について2つのトピックの読み物を読んでレポートを書くことが課題となります。

【授業の進め方】

Class time includes numerous individual, pair, and group English activities based on in-class and out-of-class readings. Students will be required to read several Graded Readers with CDs in the Self-Access Learning Center in the library and listen to the accompanying CDs. There will also be periodic quizzes based on the readings and class discussions.

授業時間には、授業内外でのリーディングに基づいた、数多くの個人・ペア・グループでの英語活動が含まれます。学生は、図書館のSALC(Self-Access Learning Center)にあるCD付きのGraded Readers のいくつかを読み、& 付属のCDを聴く。また読んだテキストや授業での討論を基にした小テストも定期的に行います。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①For Your Information 3: Reading and Vocabulary Skills, Second Edition ②Karen Blanchard and Christine Root ③Pearson Longman ④2007 ⑤978-0-13-238008-9

【参考図書】

SRA

Graded Readers

English English Dictionary

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 60% レポート・課題 30% 受講態度 10%

特記事項

Grades will be based on the following criteria: in-class assessment (including quizzes) (60%); graded reader, outside reading from newspapers, and other instructor-announced report activities (30%); and active participation and punctual attendance (10%).

成績は以下の基準に基づきます：授業内アセスメント(小テストを含む) (60%)、グレイデッドリーダー、新聞記事、その他教師が発表するレポート活動 (30%)、積極的に授業参加 (10%)

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Students who miss more than 1/3 of class sessions will not pass the course. Being late three times will count as one absence.

Students are required to bring their textbooks to all classes. Points may be deducted if they are found without their textbooks.

No late homework will be accepted.

If a student submits plagiarized assignments, machine translations, or work "borrowed" from others, s/he will fail the course.

大学規則に基づき、授業回数の3分の1以上を欠席した学生はH評価となります。また、3回の遅刻は1回の欠席とみなします。

学生は毎回教科書を持ってくること。忘れた場合は減点することがあります。

課題の提出が遅れた場合は、原則受け取りません。

盗作した課題、機械を使って訳したもの、他人から「借用した」宿題を提出した学生は失格となります。

【履修上の心得】

Students who do nursing care training or teaching practicum must contact their instructor before starting these activities. Those who do not do so may not receive course credit.

教育実習や介護体験に行く人は、前もって知らせてください。そうでないと、必要な課題等ができないために、単位取得が困難になるケースが出ます。

【科目のレベル、前提科目など】

It is recommended that students have taken Reading & Vocabulary Building Level I and II before enrolling this course. Reading and Vocabulary Building III may be taken upon special permission from the instructor.

リーディング&ボキャブラリービルディングレベルIとIIを履修済みであることが望ましい。教師からの特別許可により受講を許される場合があります。

科目名	ライティング初級
	Basic Writing
教員名	Jeffrey Miller・Harry Harris・Michael Morgan

【授業の内容】

Basic Writing is the first in a four-course series designed to help students develop English writing skills for use in academic and other environments.

ライティング初級は、学術及びその他の分野での英語のライティングスキルを伸ばすために、構成された4コースの第1コースである。

【到達目標】

Students who successfully complete Basic Writing should be able to do the following:

本講座の目的は下記の通りである。

meet deadlines;

作文提出の締切日厳守する、

use basic writing conventions with increasing accuracy and consistency;

正確且つ妥当な英語表現を増やしつつ、基礎的なライティングを学ぶ、

use various writing strategies, alone and in cooperation with others, to help formulate ideas, organize writing, and improve it;

考えを明確に表現し、ライティング整理し、その力を伸ばす為に、個人または他の学生と協力しあって様々なライティング技術を使う、

produce coherent paragraphs and short essays with some details and examples appropriate to the assignment, with increasingly complex language;

課題に合って、細かい情報や例などをあげ、複合語を増やししながら、理路整然とした文節や短いエッセイを作成する、

write on topics related to their daily lives;

履修学生の日常生活に関連した課題のライティングをする。

【授業計画】

- 第1回 Course introduction; journal partner set up; in-class work (授業の概要について、ジャーナルパートナーの決定、授業内活動)
- 第2回 Precis introduction; in-class work (要約について、授業内活動)
- 第3回 Precis peer evaluation; other in-class work (要約ピア評価、他の授業内活動)
- 第4回 Spatial description introduction; in-class work; conferencing (空間表現について、授業内活動、相談)
- 第5回 Spatial description peer evaluation; other in-class work (空間表現ピア評価、他の授業内活動)
- 第6回 Personal description introduction; in-class work; conferencing (個人的なことについての表現、授業内活動)
- 第7回 Personal description peer evaluation; other in-class work (個人的な表現ピア評価、他の授業内活動)
- 第8回 Chronological introduction; in-class work; conferencing (時間配列表現についての概要、授業内活動、相談)
- 第9回 Chronological peer evaluation; other in-class work (時間配列表現ピア評価、他の授業内活動)
- 第10回 Process introduction; in-class work; conferencing (工程に関する表現についての概要、授業内活動、相談)
- 第11回 Process peer evaluation; other in-class work (工程に関する表現ピア評価、他の授業内活動)
- 第12回 Prediction introduction; in-class work; conferencing (予測に関する表現についての概要、授業内活動、相談)
- 第13回 Process peer evaluation; in-class work (予測に関する表現ピア評価、授業内活動)
- 第14回 Paraphrasing activity; in-class final activity (相談、授業内パラフーズ活動、授業内最終活動)
- 第15回 Conferencing; paraphrasing activity; in-class final activity (相談、授業内パラフーズ活動、授業内最終活動)

【授業の進め方】

Students will be asked to write multiple drafts based on models of six rhetorical patterns that will be introduced during the semester. They will also be asked to keep journals, write e-mail, and do other assignments. In class, students will participate by doing individual and group work. The instructor will provide both written and conference-style feedback.

学期の間に学ぶ6つの修辞形のモデルに基づいて、履修学生は多数の原稿を提出しなければならない。日記をつけたり、Eメールを書いたり、その他の課題も求められる。個人作業とグループ作業の両方をしながら、クラス参加をする。講師は文書や会議のようなスタイルで指導意見を伝え、講義を進行する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

Course materials will be teacher-generated. 教材は講師作成のもの

【参考図書】

Supplementary text (補助教材): Blanchard, Karen & Root, Christine. (2010). Ready to Write Level 1: A First Composition Text. (3rd edition). White Plains: Pearson Longman. ISBN 9780131363304.

Oxford Learner's Pocket Thesaurus: A Dictionary of Synonyms for Learners of English. (2011). Oxford University Press. ISBN 100194752046 / ISBN 139780194752046.

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

レポート 80% (六つの作文、日記)

受講態度 20% (授業内試験、ピア評価、その他の教師による必要項目)

Students are encouraged to attend all class sessions to maximize learning opportunities.

履修学生の学習機会を増すために、常時出席を薦める。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Meet deadlines. 作文提出の締切日厳守

Plagiarized assignments, machine translations, or borrowed work can result in course failure.

盗作のもの、マシード翻訳のもの、借用のものは不合格になる事がある。

To complete course requirements, contact your instructor before doing nursing care training or teaching practicum.

授業の必要性到達する為には教育実習や介護体験に行く学生は事前に連絡する事。連絡がない場合は必要な課題等が出来ない為には単位取得が困難となる場合がある。

【履修上の心得】

Progress in English writing requires effort and peer cooperation. Do this and you will find your English (and Japanese) writing skills improving.

英語ライティングの進歩の為には努力と他学生との協力が必要である。それにより、英語（と日本語）のライティングスキルが向上したと分かる。

【備 考】

LATE HOMEWORK SUBMISSIONS CAN RESULT IN LOWER GRADES.

作文提出の期限を守らないと成績が下がることがあります。

PLAGIARIZED ASSIGNMENTS, MACHINE TRANSLATION, OR BORROWED WORK CAN RESULT IN COURSE FAILURE.

盗作のもの、マシード翻訳のもの、借用のものは不合格になる事がある。

科目名	ライティング中級
	Intermediate Writing
教員名	Jeffrey Miller・Harry Harris・Michael Morgan

【授業の内容】

Intermediate Writing is the second in a four-course series designed to help students develop English writing skills for use in academic and other environments.

ライティング中級は、学術及びその他の分野での英語のライティングスキルを伸ばすために、構成された4コースの第2コースである。

【到達目標】

Students who successfully complete Intermediate Writing should be able to do the following:

本講座の目的は下記の通りである。

meet objectives for Basic Writing;

ライティング初級の目的を達成する、

demonstrate a growing awareness of reader needs, evaluate their own writing success, and identify and correct some writing problems;

読み手のニーズの深い認識を実際に説明し、自分自身のライティングの正確な評価、及びライティングの間違をある程度見つけ、訂正する、

use cohesive devices with increasing accuracy;

より正確な結合法を使う、

paraphrase and summarize with increasing accuracy;

正確な要約や表現を言い換える、

show some awareness of the appropriateness of formal and informal language to a written context;

文章の内容について、フォーマル、インフォーマルな適切な英語を認識する、

write on topics not necessarily related to their daily lives.

日常生活に関連しない課題について作文を書く。

【授業計画】

- 第1回 Course introduction; journal partner set up; in-class work (授業の概要について、ジャーナルパートナーの決定、授業内活動)
- 第2回 Enumeration/classification introduction; in-class work (エニュマレーション/クラシフィケーション表現について、授業内活動)
- 第3回 Enumeration/classification peer evaluation; other in-class work (エニュマレーション/クラシフィケーション表現ピア評価、他の授業内活動)
- 第4回 Cause and Effect introduction; in-class work; conferencing (理由と結果の表現について、授業内活動、相談)
- 第5回 Cause and Effect peer evaluation; other in-class work (理由と結果の表現ピア評価、他の授業内活動)
- 第6回 Comparison description introduction; in-class work; conferencing (比較表現について、授業内活動)
- 第7回 Comparison peer evaluation; other in-class work (比較表現ピア評価、他の授業内活動)
- 第8回 Definition by Example introduction; in-class work; conferencing (例を使つての定義について、授業内活動、相談)
- 第9回 Definition by Example peer evaluation; other in-class work (例を使つての定義ピア評価、他の授業内活動)
- 第10回 Reporting introduction; in-class work; conferencing (レポートの仕方について、授業内活動、相談)
- 第11回 Reporting peer evaluation; other in-class work (レポートの仕方ピア評価、他の授業内活動)
- 第12回 Teacher's assignment-choice introduction; in-class work; conferencing (先生による宿題の選択について、授業内活動、相談)
- 第13回 Teacher's assignment peer evaluation; in-class work; (先生による宿題の選択ピア評価、授業内活動)
- 第14回 Conferencing; in-class final activity (相談、授業内最終活動)
- 第15回 In-class final activity (授業内最終活動)

【授業の進め方】

Students will be asked to write multiple drafts based on models of six rhetorical patterns that will be introduced during the semester. They will also be asked to keep journals, write e-mail, and do other assignments. In class, students will participate by doing individual and group work. The instructor will provide both written and conference-style feedback.

学期の間に学ぶ6つの修辭形のモデルに基づいて、履修学生は多数の原稿を提出しなければならない。日記をつけたり、Eメールを書いたり、その他の課題も求められる。個人作業とグループ作業の両方をしながら、クラス参加をする。講師は文書や会議のようなスタイルで指導意見を伝え、講義を進行する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

Materials for the course will be teacher-generated. 教材は講師作成のもの

【参考図書】

Supplementary text (補助教材): Blanchard, Karen & Root, Christine. (2010). Ready to Write Level 1: A First Composition Text. (3rd edition). White Plains: Pearson Longman. ISBN 9780131363304.

Oxford Learner's Pocket Thesaurus: A Dictionary of Synonyms for Learners of English. (2011). Oxford University Press. ISBN 100194752046 / ISBN 139780194752046.

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

レポート 80% (六つの作文、日記)

受講態度 20% (授業内試験、ピア評価、その他の教師による必要項目)

Students are encouraged to attend all class sessions to maximize learning opportunities.

履修学生の学習機会を増すために、常時出席を薦める。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Meet deadlines.

作文提出の締切日厳守

Plagiarized assignments, machine translations, or borrowed work can result in course failure.

盗作のもの、マシンの翻訳のもの、借用のものは不合格になる事がある。

To complete course requirements, contact your instructor before doing nursing care training or teaching practicum.

授業の必要性到達する為に教育実習や介護体験に行く学生は事前に連絡する事。連絡がない場合は必要な課題等が出来ない為に単位取得が困難となる場合がある。

【履修上の心得】

Progress in English writing requires effort and peer cooperation. Do this and you will find your English (and Japanese) writing skills improving.

英語ライティングの進歩の為に努力と他学生との協力が必要である。それにより、英語（と日本語）のライティングスキルが向上したと分かる。

【備 考】

BASIC WRITING OR INSTRUCTOR PERMISSION ARE PREREQUISITES FOR THIS COURSE.

このコースを取る為にライティング初級または、先生の許可が必要である。

LATE HOMEWORK SUBMISSIONS CAN RESULT IN LOWER GRADES.

作文提出の期限を守らないと成績が下がることがあります。

PLAGIARIZED ASSIGNMENTS, MACHINE TRANSLATION, OR BORROWED WORK CAN RESULT IN COURSE FAILURE.

盗作のもの、マシンの翻訳のもの、借用のものは不合格になる事がある。

科目名	ライティング上級
	Advanced Writing
教員名	Harry Harris・Michael Sorey

【授業の内容】

Advanced Writing is the third in a four-course series designed to help students develop English writing skills for use in academic and other environments.

ライティング上級は、学術及びその他の分野での英語のライティングスキルを伸ばすために、構成された4コースの第3コースである。

【到達目標】

Students who successfully complete Advanced Writing should be able to do the following:

本講座の目的は下記の通りである。

meet the Intermediate Writing objectives;

ライティング中級の目的を達成する、

use a greater variety of cohesive devices with increasing accuracy;

より正確且つヴァリエティに富んだ結合法を使う、

write on a greater variety of topics not related to their daily lives;

日常生活から離れた種々課題について作文を書く、

gauge the need for simple or complex structures in a writing context;

作文の分派や内容により、簡単又は複雑な文章構成の必要性を判断する、

use similes, metaphors, and basic analogies;

直喩、比喩、基本的な類似を使う、

use more elaborate supporting details and examples appropriate to the needs of the assignment;

宿題の課題の必要性に適した、より精巧な説明詳細や例を使う、

use formal or informal language and styles in their writing with some appropriateness and recognize it in that of others.

適確な作文でフォーマル、インフォーマルな英語の単語と文章表現を使い、他者の文章でその使い分けを認識する。

【授業計画】

- 第1回 Course introduction; journal partner set up; in-class work (授業の概要について、ジャーナルパートナーの決定、授業内活動)
- 第2回 Persuasion/Argumentation introduction; in-class work (説得と討論表現について、授業内活動)
- 第3回 Persuasion/Argumentation peer evaluation; other in-class work (説得と討論表現ピア評価、他の授業内活動)
- 第4回 Speculation introduction; in-class work; conferencing (推測表現について、授業内活動、相談)
- 第5回 Speculation peer evaluation; other in-class work (推測表現ピア評価、他の授業内活動)
- 第6回 First teacher's assignment-choice introduction; in-class work; conferencing (第一回の先生による宿題の選択について、授業内活動)
- 第7回 First teacher's assignment-choice peer evaluation; other in-class work (第一回の先生による宿題の選択ピア評価、他の授業内活動)
- 第8回 Analysis introduction; in-class work; conferencing (問題分析表現について、授業内活動、相談)
- 第9回 Analysis peer evaluation; other in-class work (問題分析表現ピア評価、他の授業内活動)
- 第10回 Critical Review introduction; in-class work; conferencing (評論表現について、授業内活動、相談)
- 第11回 Critical review peer evaluation; other in-class work (評論表現ピア評価、他の授業内活動)
- 第12回 Second Teacher's assignment-choice introduction; in-class work; conferencing (第二回の先生による宿題の選択について、授業内活動、相談)
- 第13回 Second Teacher's assignment-choice peer evaluation; in-class catch-up work (第二回の先生による宿題の選択ピア評価、授業内活動)
- 第14回 Conferencing; in-class final activity (相談、授業内最終活動)
- 第15回 In-class final activity (授業内最終活動)

【授業の進め方】

Students will be asked to write multiple drafts based on models of six rhetorical patterns that will be introduced during the semester. They will also be asked to keep journals, write e-mail, and do other assignments. In class, students will

participate by doing individual and group work. The instructor will provide both written and conference-style feedback.

学期の間に学ぶ6つの修辭形のモデルに基づいて、履修学生は多数の原稿を提出しなければならない。日記をつけたり、Eメールを書いたり、その他の課題も求められる。個人作業とグループ作業の両方をしながら、クラス参加をする。講師は文書や会議のようなスタイルで指導意見を伝え、講義を進行する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

Materials for the course will be teacher-generated.
教材は講師作成のもの

【参考図書】

Oxford Learner's Pocket Thesaurus: A dictionary of synonyms for learners of English. Oxford University Press. ISBN-10: 0194752046 / ISBN-13: 978-0194752046 / Publication Date: January 1, 2011

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項
レポート 80% (六つの作文、日記)
受講態度 20% (授業内試験、ピア評価、その他の教師による必要項目)

Students are encouraged to attend all class sessions to maximize learning opportunities.

履修学生の学習機会を増すために、常時出席を薦める。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Meet deadlines.
作文提出の締切日厳守

Plagiarized assignments, machine translations, or borrowed work can result in course failure.
盗作のもの、マシーン翻訳のもの、借用のものは不合格になる事がある。

To complete course requirements, contact your instructor before doing nursing care training or teaching practicum. 授業の必要性到達する為に教育実習や介護体験に行く学生は事前に連絡する事。連絡がない場合は必要な課題等が出来ない為に単位取得が困難となる場合がある。

【履修上の心得】

Progress in English writing requires effort and peer cooperation. Do this and you will find your English (and Japanese) writing skills improving.
英語ライティングの進歩の為に努力と他学生との協力が必要である。それにより、英語（と日本語）のライティングスキルが向上したと分かる。

【備考】

BASIC AND INTERMEDIATE WRITING OR INSTRUCTOR PERMISSION ARE PREREQUISITES FOR THIS COURSE.

このコースを取る為にライティング初級、ライティング中級のすべて、または、先生の許可が必要である。

LATE HOMEWORK SUBMISSIONS CAN RESULT IN LOWER GRADES.

作文提出の期限を守らないと成績が下がることがあります

PLAGIARIZED ASSIGNMENTS, MACHINE TRANSLATION, OR BORROWED WORK CAN RESULT IN COURSE FAILURE.

盗作のもの、マシーン翻訳のもの、借用のものは不合格になる事がある。

科目名	基礎英文法
教員名	斎藤 明宏

【授業の内容】

中等教育段階での既習事項を選択的に復習する。英文法全体の把握のカギとなる、動詞の変化に焦点を置く。演習と解説が中心だが、インプット・アウトプットのための活動も適宜行う。

【到達目標】

1. 動詞の変化形とそれが表現する時制や相を関連付ける。
2. 英文法の体系的な理解の土台となる動詞の変化ルールを類別する。
3. 英文法の規則性に則り動詞の形式を操作する。

【授業計画】

- 第1回 インTRODakション, 動詞
(予習: 次回授業内容の解説 (30分), 復習: 演習問題の復習 (60分))
- 第2回 時制
(予習: 次回授業内容の解説 (30分), 復習: 演習問題の復習 (60分))
- 第3回 助動詞 (1)
(予習: 次回授業内容の解説 (30分), 復習: 演習問題の復習 (60分))
- 第4回 助動詞 (2)
(予習: 次回授業内容の解説 (30分), 復習: 演習問題の復習 (60分))
- 第5回 受動態 (1)
(予習: 次回授業内容の解説 (30分), 復習: 演習問題の復習 (60分))
- 第6回 受動態 (2)
(予習: 次回授業内容の解説 (30分), 復習: 演習問題の復習 (60分))
- 第7回 Mid-term, 進行形
(予習: mid-termの準備 (120分~), 復習: 演習問題の復習 (60分))
- 第8回 完了形 (1)
(予習: 次回授業内容の解説 (30分), 復習: 演習問題の復習 (60分))
- 第9回 完了形 (2), 前回までのまとめ
(予習: 次回授業内容の解説 (30分), 復習: 演習問題の復習 (60分))
- 第10回 不定詞 (1)
(予習: 次回授業内容の解説 (30分), 復習: 演習問題の復習 (60分))
- 第11回 不定詞 (2)
(予習: 次回授業内容の解説 (30分), 復習: 演習問題の復習 (60分))
- 第12回 不定詞 (3)
(予習: 次回授業内容の解説 (30分), 復習: 演習問題の復習 (60分))
- 第13回 動名詞 (1)
(予習: 次回授業内容の解説 (30分), 復習: 演習問題の復習 (60分))
- 第14回 動名詞 (2)
(予習: 次回授業内容の解説 (30分), 復習: 演習問題の復習 (60分))
- 第15回 動名詞 (3)
(予習: 次回授業内容の解説 (30分), 復習: 演習問題の復習 (60分))

【授業の進め方】

解説を聞いて演習を行う。学習の習慣化の一環として、ペア・3人グループでの音声を利用した活動を行う。また、インプット・アウトプットの一環として適宜活動も行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

初回授業時に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 30% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

授業内小試験: Mid-term 30%

定期試験: Final 40%

受講態度: Contribution 30% (minute paperを含めた授業内で行う小課題、授業内活動への貢献度を評価)

【「成績評価の方法」に関する注意点】

適宜資料を配布し、その中からも出題します。

出席要件を満たすことが単位取得の前提となります。

【履修上の心得】

教科書または配布物忘れは欠席とします。但し、講義を受けることは可能です。
配布資料は紛失しないよう整理してください。
連続する遅刻は欠席として数えます。

【備 考】

授業計画は変更する場合があります。初回授業時に詳細をお伝えします。

科目名	初級英文法/英文法 I
教員名	大木 俊英

【授業の内容】

本講座では、高校までに習った英文法を、英語で書かれたテキストを使って学んでいく。四技能の基本となる英文法の体系的な知識を身につけるため、多くの練習問題に取り組む。

【到達目標】

1. 英文法の基礎的な知識の獲得。
2. 語彙力と読解力の向上。

【授業計画】

- 第1回 インTRODakション、Unit 1. Simple Present & Present Continuous、Unit 2. Simple Past & Used To
 第2回 Unit 3. Past Continuous & Simple Past、Unit 4. Present Perfect
 第3回 Unit 5. Simple Past & Present Perfect、Unit 6. The Future
 第4回 Unit 7. Can, Could & Be Able To、Unit 8. Must/Must Not & Have to/Don't Have To
 第5回 Unit 9. Relative Clauses、Unit 10. Nouns & Articles
 第6回 Unit 11. Quantifiers, Too & Enough、Unit 12. Past Perfect
 第7回 Unit 13. Questions & So/Neither、Unit 14. Should & May/Might
 第8回 Unit 15. First & Second Conditionals、Unit 16. Prepositions & Reflexive Pronouns
 第9回 Unit 17. Gerunds & Infinitives、Unit 18. Passive Voice
 第10回 Unit 19. Comparison of Adjectives & Adverbs of Manner、Unit 20. Present Perfect Continuous
 第11回 Review 1
 第12回 Review 2
 第13回 Review 3
 第14回 Review 4
 第15回 Review 5

【授業の進め方】

本講座は複数クラスでの開講である。教員が複数いる場合、授業の進め方が教員によって異なる可能性もあるが、どのクラスでも受講者は該当範囲を予習してから授業に臨むこと。受講者の理解度に合わせて進むので、シラバス通りの進度にならない場合もある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①Grammar Expert 1 ②Francesca Stafford ③Heinle, Cengage Learning ④2007 ⑤2718 ⑥978-9604032860

【参考図書】

必要に応じて適宜配付または指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 20% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

授業内小試験のかわりにレポートを課すこともある。「受講態度」には授業への参加態度、ディスカッションにおける貢献度、課題の提出状況などが含まれる。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業回数の3分の1を越えて欠席した者は不可(H評価)とする。教員によってはTOEFL(6・11月)のスコアを成績に加味する場合もある。

【履修上の心得】

英文法は英語を読み、聞き、話し、書く上で要となる知識である。自主的に英語の資格試験(英検、TOEFL、TOEIC)の学習にも取り組み、スコアアップを目指してほしい。英語の教員を目指している学生は、より深い理解を目指すため、自分が教員になったときのことを想像しながら受講してほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

初級英文法では初歩の復習的な文法事項を扱う。基礎をふまえた上でより英語力をつけたい学生は中級・上級の授業もとることが望ましい。

科目名	中級英文法/英文法Ⅱ
教員名	若狭 基道

【授業の内容】

英語で英語の文法を学ぶ。四技能の基本となる英文法の体系的な知識を身につけるため、多くの練習問題に取り組む。

【到達目標】

1. 英文法の応用的な知識の獲得
2. 語彙力と読解力の向上

【授業計画】

- 第1回 Unit 1. Simple Present & Present Continuous(45分)、Unit 2. Simple Past, Past Continuous & Used To(45分)
 予習：なし
 復習：授業で指示されたことを行う。
- 第2回 Unit 3. Present Perfect & Present Perfect Continuous(45分)、Unit 4. Past Perfect & Past Perfect Continuous(45分)
 予習復習：授業で指示されたことを行う。
- 第3回 Unit 5. Review of Future Forms(45分)、Unit 6. Future Continuous(45分)
 予習復習：授業で指示されたことを行う。
- 第4回 Unit 7. Nouns, Quantifiers & Articles(45分)、Unit 8. Future Perfect(45分)
 予習復習：授業で指示されたことを行う。
- 第5回 Unit 9. Can/Could/Be Able To & Must/Have To(45分)、Unit 10. Should/Ought To, Must/Can't & May/Might(45分)
 予習復習：授業で指示されたことを行う。
- 第6回 Unit 11. Conditionals(45分)、Unit 12. Passive Voice(45分)
 予習復習：授業で指示されたことを行う。
- 第7回 Unit 13. Wishes(45分)、Unit 14. Reported Speech I (45分)
 予習復習：授業で指示されたことを行う。
- 第8回 Unit 15. Reported Speech II (45分)、Unit 16. Adjectives & Adverbs(45分)
 予習復習：授業で指示されたことを行う。
- 第9回 Unit 17. Relative Clauses(45分)、Unit 18. Gerunds & Infinitives(45分)
 予習復習：授業で指示されたことを行う。
- 第10回 Unit 19. Causative Form(45分)、Unit 20. Clauses(45分)
 予習復習：授業で指示されたことを行う。
- 第11回 Review 1(90分)
 予習復習：授業で指示されたことを行う。
- 第12回 Review 2(90分)
 予習復習：授業で指示されたことを行う。
- 第13回 Review 3(90分)
 予習復習：授業で指示されたことを行う。
- 第14回 Review 4(90分)
 予習復習：授業で指示されたことを行う。
- 第15回 Review 5(90分)
 予習復習：授業で指示されたことを行う。

【授業の進め方】

受講者は該当範囲を予習して臨む。グループディスカッションを通して受講者どうしで解答を確認したのち、教員が解説を加えていく。受講者の理解度に合わせて進むので、シラバス通りの進度にならない場合もある。プリントで発展演習をおこなう場合もある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①Grammar Expert 2 ②Francesca Stafford ③Heinle, Cengage Learning ④2008 ⑤2718 ⑥978-9604032846

【参考図書】

必要に応じて授業にて適宜配付または指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

定期試験の成績と授業態度、宿題、授業内の課題等を参考にして総合的に判断する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業回数の3分の1を越えて欠席した者は不可(H評価)とする。

【科目のレベル、前提科目など】

初級英文法を履修していることが望ましい。

科目名	上級英文法/英文法Ⅲ
教員名	若狭 基道

【授業の内容】

英語で英語の文法を学ぶ。四技能の基本となる英文法の体系的な知識を身につけるため、多くの練習問題に取り組む。

【到達目標】

1. 英文法の発展的な知識の獲得
2. 語彙力と読解力の向上

【授業計画】

- 第1回 Unit 1. Simple Present & Present Continuous(45分)、Unit 2. Present Perfect & Present Perfect Continuous(45分)
予習：なし
復習：授業で指示されたことを行う。
- 第2回 Unit 3. Simple Past, Past Continuous, Used To, Be Used To & Get Used To(45分)、Unit 4. Past Perfect & Past Perfect Continuous(45分)
予習復習：授業で指示されたことを行う。
- 第3回 Unit 5. Future with Will, Be Going To & Present Tenses (Future Meaning)(45分)、Unit 6. Future Continuous, Future Perfect & Future Perfect Continuous(45分)
予習復習：授業で指示されたことを行う。
- 第4回 Unit 7. Passive Voice(45分)、Unit 8. Adjectives & Adverbs(45分)
予習復習：授業で指示されたことを行う。
- 第5回 Unit 9. Reported Speech(45分)、Unit 10. Modals I (45分)
予習復習：授業で指示されたことを行う。
- 第6回 Unit 11. Conditionals(45分)、Unit 12. Clauses(45分)
予習復習：授業で指示されたことを行う。
- 第7回 Unit 13. Nouns, Articles & Quantifiers(45分)、Unit 14. Modals II (45分)
予習復習：授業で指示されたことを行う。
- 第8回 Unit 15. Gerunds & Infinitives(45分)、Unit 16. Wishes & Preferences(45分)
予習復習：授業で指示されたことを行う。
- 第9回 Unit 17. Modals III(45分)、Unit 18. Causative Form(45分)
予習復習：授業で指示されたことを行う。
- 第10回 Unit 19. Questions(45分)、Unit 20. Phrasal Verbs & Verbs with Prepositions(45分)
予習復習：授業で指示されたことを行う。
- 第11回 Review 1(90分)
予習復習：授業で指示されたことを行う。
- 第12回 Review 2(90分)
予習復習：授業で指示されたことを行う。
- 第13回 Review 3(90分)
予習復習：授業で指示されたことを行う。
- 第14回 Review 4(90分)
予習復習：授業で指示されたことを行う。
- 第15回 Review 5(90分)
予習復習：授業で指示されたことを行う。

【授業の進め方】

受講者は該当範囲を予習して臨む。グループディスカッションを通して受講者どうしで解答を確認したのち、教員が解説を加えていく。受講者の理解度に合わせて進むので、シラバス通りの進度にならない場合もある。プリントで発展演習をおこなう場合もある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①Grammar Expert 3 ②Francesca Stafford ③Heinle, Cengage Learning ④2007 ⑤2920 ⑥978-9604032907

【参考図書】

必要に応じて授業中にて配付または指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

定期試験の成績と授業態度、宿題、授業内の課題等を参考にして総合的に判断する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業回数の3分の1を越えて欠席した者は不可(H評価)とする。

【科目のレベル、前提科目など】

初級英文法、中級英文法を履修していることが望ましい。

科目名	英語学概論
教員名	若狭 基道

【授業の内容】

言語の客観的研究である言語学の立場から英語を考察する。英語の仕組みを解き明かす授業と言ってもよい。音声、単語レベルの話、文レベルの話、意味、歴史、と多面的に検討する。日本語との対照も重視する。

【到達目標】

英語を客観的、帰納的、総合的な目で見られるようになることである。より具体的には、英語に於いて単語がどのように作られるか、文がどのような構造をしているのか、発話がどのようにして意味を伝えるのか、英語が時代とともにどのように変遷したのか、それ自体は物理現象である音声がどのように利用されているのか、といったことが実例と共に、あるいは日本語と比較して説明出来るようになることである。

【授業計画】

講義の予定：

- 第1回 導入
- 第2回 音韻論1 (音素、音節)
- 第3回 音韻論2 (アクセント、イントネーション、リズム)
- 第4回 形態論1 (語、形態素)
- 第5回 形態論2 (規則性の高くない語形成)
- 第6回 形態論3 (複合、派生)
- 第7回 統語論1 (生成文法1 句構造)
- 第8回 統語論2 (生成文法2 格と意味役割)
- 第9回 統語論3 (生成文法3 移動)
- 第10回 統語論4 (機能主義1 情報構造、関係節)
- 第11回 統語論5 (機能主義2 視点、数量詞の作用域)
- 第12回 意味論1 (形式意味論)
- 第13回 意味論2 (認知意味論)
- 第14回 語用論
- 第15回 英語史

【授業の進め方】

毎回教科書の指定箇所を読んで来たことを前提として受講者は授業に臨む。講義(練習問題の解説を含む)が中心となるが、受講生に指名することもあるので気を抜かないこと。毎回授業の最後に確認のための簡単なテストを行う。この試験は、リアクションペーパーも兼ねる。自分なりに授業をまとめ、自分なりの考えを書くこと。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①日英語対照による英語学概論 ②西光義弘編 ③くろしお出版

【参考図書】

授業中に指示する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 30% 授業内小試験 70% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

授業の最後に毎回簡単なテストを行い、それが評価の70%を占める。リアクションペーパーに書いた内容によって加点・減点があり得るので注意すること。

【履修上の心得】

教科書ではかなり高度なことも述べられている。しっかりと読んで来ること。早めに教科書を購入されたい。

【科目のレベル、前提科目など】

英語学の入門科目である。但し、高校で履修する程度の英語の知識は持っていて欲しい(あるいは受講と並行して身に付けるよう努力して欲しい)。

【備考】

特になし

科目名	音声学演習
	English Pronunciation
教員名	S.Bergman三宅

【授業の内容】

This course is designed to provide students with a basic knowledge of the sound system of English, including intonation, rhythm, and sounds as grammatical cues. Students learn how to listen to elements of English pronunciation and how to pronounce English more accurately to enable them to communicate better with international English speakers. Students practice words and short sentences with particular reference to pronunciation problems that Japanese people may have.

このコースはイントネーションやリズムなどを含む英語の音声システムについての基礎知識を習得することが目的です。受講生は国際的に英語でコミュニケーションがとれるよう英語をより正確に聞き・発音する方法について学びます、また日本人が抱えやすい発音上の問題に特に言及しながら、単語や短文の発音練習を行います。

【到達目標】

Students will cover the following areas in class:

学生は次の分野について授業で学びます：

Syllables(音節)
 Vowels and vowel rules(母音と母音規則)
 Consonants(子音)
 Word stress patterns(語強勢パターン)
 Emphasizing content words(内容語の強調)
 De-emphasizing structure words(機能語の非強調)
 Focus Words(焦点語)
 Emphasizing structure words(機能語の強調)
 Continuants and stops(連続音と閉鎖音)
 Sibilants(歯擦音)
 Voicing(音声化)
 Linking words(連結語)
 Thought groups(概念グループ)
 Rhythm, intonation, pitch, and melody(リズム、イントネーション、ピッチ、音調)

Students who successfully complete English Pronunciation and practice everyday should be able to communicate more easily and clearly in English. 毎日の練習を行い、この授業を修了した学生は、より容易に、またはっきりと英語で意志疎通できるようになるはずです。

*Course content and schedule is subject to change based on instructor-determined student needs.

*授業計画と内容は授業の進行状況により変更になるかもしれません。

【授業計画】

- 第1回 Course overview, Consonants, Syllables
- 第2回 Consonants, Phonics, International Phonetic Alphabet, (活動) Useful websites:
 The Phonetics Chart Explained: <https://www.youtube.com/watch?v=JfwVXfl0EnI>
 Ten English Pronunciation Errors by Japanese Speakers: <https://pronunciationstudio.com/japanese-speakers-english-pronunciation-errors/>
- 第3回 Katakana English vs. English: Avoiding unnecessary syllables, Consonant Clusters, Phonemic contrasts: minimal pairs P/V, B/V, L/R, S/TH, Fricatives th, Assessment: Tongue twisters (活動、アセスメント)
- 第4回 Vowels, The Two Vowel Rule, The One Vowel Rule, Schwa (活動)
- 第5回 Vowels: Diphthongs "Don't go slowly.", Vowel Positions (hit/heat, cut/cat, hut/hot) (活動)
- 第6回 Vowels: -er, -ir, -ur, -ear, Jazz Chants (活動)
- 第7回 Assessment: Write and perform limericks, Vowels (活動、アセスメント)
- 第8回 More syllable practice, Stress, Numbers, Addresses, Two-word verbs (活動)
- 第9回 Haiku (written and spoken assessment), Making contradictions, Emphasis, De-emphasis, Stress (活動)
- 第10回 Naturally stressed language in context, linking, reduced speech, short drama practice (活動)
- 第11回 Assessment: Drama (アセスメント、活動)
- 第12回 Reduced Speech, Listening activities (music) (活動)
- 第13回 Intonation, Tag questions (活動)
- 第14回 Pronunciation assessment (活動、アセスメント)
- 第15回 Catch up, Course Evaluation (授業評価、復習とまとめ)

* SALC に行きgraded-readerとCDを用いて毎日少なくとも5 - 10分シャドイングを練習をする必要である。

* 練習におすすめ！ Self-practice: <https://pronunciationstudio.com/japanese-speakers-english-pronunciation-errors/>

* Course schedule is subject to change based on instructor-determined student needs. 授業計画は授業の進行状況により変更になるかもしれません。

【授業の進め方】

Class work will mostly consist of formulating sounds, pair and group activities. There will be periodic dictations and other assessments. 授業内活動の多くは、発音の練習・教科書の要点の復習・ペア活動です。ディクテーションや、定期的に小テストも行う予定です。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

reference book: "Teaching Pronunciation", Marianne Celce-Murcia, Cambridge University Press, 2010

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 60% レポート・課題 20% 受講態度 20%

特記事項

Grades will be determined based on the following criteria: active participation, course work, homework, and tests. 評定は授業中の態度、参加度、課題、テストによって決定します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

*Students who miss more than 1/3 of class sessions will not pass the course. Being late three times will count as one absence.

*No late homework will be accepted.

*授業回数の3分の1以上を欠席した学生はH評価となります。また、3回の遅刻は1回の欠席とみなします。

*課題の提出が遅れた場合は、原則受け取りません。

【履修上の心得】

To master a new sound, it is necessary to practice it at least 1000 times! It is important to speak loudly and enunciate clearly. Practice short sentences until you can say them easily, with the right rhythm and melody to make more accurate sounds in English.

新しい音を習得するためには、少なくとも1000回練習する必要があります！大きな声で明瞭に発音することが大切です。正確な英語の音が出せるよう、正しいリズムとメロディーで難なく言えるようになるまで短文を練習して下さい。

科目名	音声学
教員名	若狭 基道

【授業の内容】

言語で用いられる音声について、基本的な事柄を一通り学ぶ。体のどこをどう使ってそれぞれの音を出しているのかを説明する。

言語を学ぶ（あるいは教える）場合に発音で大きくつまづくことがないように指導したい。特に英語と日本語に注意を払う。

【到達目標】

主要な音声の発音の仕方を説明出来るようになることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 音声学とは
- 第2回 子音の基礎
- 第3回 破裂音1（調音位置が前方のもの）
- 第4回 破裂音2（調音位置が後方のもの）
- 第5回 鼻音
- 第6回 ふるえ音、はじき音
- 第7回 摩擦音1（調音位置が前方のもの）
- 第8回 摩擦音2（調音位置が後方のもの）
- 第9回 接近音
- 第10回 二重調音
- 第11回 母音の基礎
- 第12回 各種母音
- 第13回 肺臓気流によらない音
- 第14回 超分節音
- 第15回 音のつながり

【授業の進め方】

講義形式であるが、実際に声を出して発音して貰ったり、様々な音源を聞いて貰ったりする。

毎回授業の終わりに確認のための簡単なテストを行う。

この試験は、リアクションペーパーも兼ねる。自分なりに授業をまとめ、自分なりの考えを書くこと。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

こちらでプリントを用意する。

【参考図書】

斎藤純男（2006）『日本語音声学入門』改訂版.東京：三省堂

その他は授業中に指示する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 30% 授業内小試験 70% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

毎回授業の終わりに簡単なテストを行い、それが評価の70%を占める。

リアクションペーパーに書いた内容によっては加点・減点があり得るので注意すること。

【履修上の心得】

独習が難しい側面があるので、きちんと出席すること。恥ずかしがらずに声を出して試みる事が大切である。

初回に配布する予定のIPAは毎回持って来ること。

【科目のレベル、前提科目など】

入門レベルの授業であり、前提となる知識は何も要求しない。

但し、言葉の音に関する興味は持っていて欲しい。

【備考】

特になし。

科目名	英文学概論
	イギリスの文学と歴史
教員名	鈴木 宏枝

【授業の内容】

イギリス文学の歴史についての概括的な基礎知識を獲得することを目的とする。詩、演劇、小説の各分野でイギリス文学を代表する作家・作品を理解し、その背景となるイギリスの歴史や社会の知識を修得する。

【到達目標】

1. イギリス文学の歴史と背景を知る。
2. イギリス文学上有名な作家と作品を知る。
3. 文学の様々な形式を理解する。

【授業計画】

- 第1回 第1章 『ベーオウルフ』－古英語時代（5世紀～12世紀）
 予習：テキストの第1章を読んでおく（目安:15分）
 復習：授業内に指示されたことを行う
 授業後に自分の考えや疑問点、それに対する推論をコメントペーパーで提出
- 第2回 第2章 チョーサー－中英語時代（12世紀～15世紀）
 予習：テキストの第2章を読んでおく（目安:15分）
 復習：授業内に指示されたことを行う
 授業後に自分の考えや疑問点、それに対する推論をコメントペーパーで提出
- 第3回 第3章 シェイクスピア－近代英語時代（16世紀～17世紀）
 予習：テキストの第3章を読んでおく（目安:15分）
 復習：授業内に指示されたことを行う
 授業後に自分の考えや疑問点、それに対する推論をコメントペーパーで提出
- 第4回 第4章 ミルトン－清教徒革命と王政復古の時代（17世紀）
 予習：テキストの第4章を読んでおく（目安:15分）
 復習：授業内に指示されたことを行う
 授業後に自分の考えや疑問点、それに対する推論をコメントペーパーで提出
- 第5回 第5章 ポープ－オーガスタン時代（18世紀）
 予習：テキストの第5章を読んでおく（目安:15分）
 復習：授業内に指示されたことを行う
 授業後に自分の考えや疑問点、それに対する推論をコメントペーパーで提出
- 第6回 第6章 デフォー－近代小説の誕生（18世紀）
 予習：テキストの第6章を読んでおく（目安:15分）
 復習：授業内に指示されたことを行う
 授業後に自分の考えや疑問点、それに対する推論をコメントペーパーで提出
- 第7回 第7章 リチャードソン－近代小説の発展（18世紀）
 予習：テキストの第7章を読んでおく（目安:15分）
 復習：授業内に指示されたことを行う
 授業後に自分の考えや疑問点、それに対する推論をコメントペーパーで提出
- 第8回 第8章 ワーズワース－ロマン主義の時代・前期（18世紀～19世紀）
 予習：テキストの第8章を読んでおく（目安:15分）
 復習：授業内に指示されたことを行う
 授業後に自分の考えや疑問点、それに対する推論をコメントペーパーで提出
- 第9回 第9章 キーツ－ロマン主義の時代・後期（19世紀）
 予習：テキストの第9章を読んでおく（目安:15分）
 復習：授業内に指示されたことを行う
 授業後に自分の考えや疑問点、それに対する推論をコメントペーパーで提出
- 第10回 第10章 オースティンとブロンテ姉妹－ヴィクトリア朝時代・小説Ⅰ（19世紀～20世紀）
 予習：テキストの第10章を読んでおく（目安:15分）
 復習：授業内に指示されたことを行う
 授業後に自分の考えや疑問点、それに対する推論をコメントペーパーで提出
- 第11回 第11章 エリオットとハーディ－ヴィクトリア朝時代・小説Ⅱ（19世紀～20世紀）
 予習：テキストの第11章を読んでおく（目安:15分）
 復習：授業内に指示されたことを行う
 授業後に自分の考えや疑問点、それに対する推論をコメントペーパーで提出
- 第12回 第12章 テニソン－ヴィクトリア朝時代・詩と散文（19世紀～20世紀）
 予習：テキストの第12章を読んでおく（目安:15分）
 復習：授業内に指示されたことを行う

- 授業後に自分の考えや疑問点、それに対する推論をコメントペーパーで提出
- 第13回 第13章 フォースター - 現代小説の発展 (20世紀)
予習: テキストの第13章を読んでおく (目安:15分)
復習: 授業内に指示されたことを行う
授業後に自分の考えや疑問点、それに対する推論をコメントペーパーで提出
- 第14回 第14章 エリオット - 20世紀の詩と演劇
予習: テキストの第14章を読んでおく (目安:15分)
復習: 授業内に指示されたことを行う
授業後に自分の考えや疑問点、それに対する推論をコメントペーパーで提出
- 第15回 第15章 オズボーンからリークルズへ - 第2次世界大戦以降の文学
予習: テキストの第15章を読んでおく (目安:15分)
復習: 授業内に指示されたことを行う
授業後に自分の考えや疑問点、それに対する推論をコメントペーパーで提出

【授業の進め方】

イギリスの歴史に沿ってその時代時代の主要な作家と作品を紹介する。作家の紹介とともに作品の一部を実際に鑑賞することにより英文学の作品にじかに触れる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①読んで愉しむイギリス文学史入門 ②白井義昭 ③春風社 ④2013年7月 ⑤1,500円+税 ⑥978-4-86110-327-8

教科書を中心に進め、パワーポイントや配布資料も用いる。

【参考図書】

石塚久郎他編『イギリス文学入門』(三修社)
川崎寿彦『イギリス文学史』(成美堂)
木下卓他『英語文学事典』(ミネルヴァ書房)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 20% 受講態度 30%

特記事項
受講態度、課題、定期試験の結果から総合的に判断する。

【履修上の心得】

英語教員として最低限の文学的知識を得るための科目である。全授業回数の1/3を越えて欠席した場合は不可とする。

【科目のレベル、前提科目など】

米文学概論

科目名	米文学概論
	米文学に見る自然
教員名	針生 進

【授業の内容】

そこに描かれたさまざまな「自然」に特に注目した米文学の通史を説く。親しみやすいこともあり、小説作品を主にとりあげる。プリマスに上陸したピューリタンたちを迎えた厳冬のニューイングランド、あるいはカリフォルニアから大型犬のバックが連れてこられたアラスカの氷原。これらの過酷な自然環境もあれば、美しい谷間や大河も小説の舞台になる。アメリカ本土を離れて大海に出ることもある。そして都会のジャングルも見なければならない。論点や事項中心の文学論ではなく、文学史という枠内で講義を進めていく。

【到達目標】

米文学にかかわる一般常識を理解する。

【授業計画】

- 第1回 未開と文明：植民地とピューリタニズム
- 第2回 歴史と自然：(1) ワシントン・アーヴィングと伝説の谷間
- 第3回 歴史と自然：(2) J.F.クーパーと西部山岳地帯
- 第4回 人間と自然：(1) エマソン、ソロー、超絶主義
- 第5回 人間と自然：(2) アメリカン・ルネサンス
- 第6回 人間と自然：(3) ホーソンと森
- 第7回 人間と自然：(4) メルヴィルと海
- 第8回 グループ発表と質疑応答(1)
- 第9回 北部と南部：(1) 南北戦争前後
- 第10回 北部と南部：(2) トム・ソーヤーとハックルベリー・フィン
- 第11回 自然主義と自然：自然主義の作家たち
- 第12回 東部と西部：(1) そして中西部
- 第13回 東部と西部：(2) モダニズムの作家たち
- 第14回 国内と国外：フォークナーとヘミングウェイ
- 第15回 グループ発表と質疑応答(2)

【授業の進め方】

半期科目という制約のなかでは、20世紀半ばあたりまで見られればいだろう。作品名や作者名を並べるだけの講義にはしたくないので、原作からの引用も頻繁に行いたい。とはいっても教室では、そのごく一部しかとりあげられない。受講生には翻訳でもよいので各作品に直接ふれてもらいたく、授業内容に応じた学習課題を何度か提示する。そのためにも、翻訳もあり、本学図書館に蔵書がある、あるいは文庫本などで購入しやすい作品を主にとりあげていきたい。なお、今年度はアクティブ・ラーニングの視点から第8回、第15回の授業時に、指定された小説などの文献についての受講者による複数のグループ発表およびそれに関する質疑応答の機会を設ける。詳しくは最初の授業時に説明する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に教科書は使わず、こちらで作成したプリント教材をほぼ毎回配付する。

【参考図書】

西田実『アメリカ文学史』(成美堂)
Peter B. High『An Outline of American Literature』

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 20%

特記事項

筆記試験を学期末の定期試験期間内に行う。これは、いかに多くの基本的にして正確な知識を身につけたかを問うもので、個人の感想や見解を求めるものではない。この試験の結果が成績評価に大きく関わる。結果が思わしくない場合でも、レポートなどを提出させて試験の点数に加算あるいは換算するような措置は講じない。受講態度などにかかわる平常点も最終評価に反映させる。

【履修上の心得】

受講に際して予備知識の有無は特に問わない。というより、くり返せば、そのような知識を与えるのがこの講義の目的のひとつである。

【科目のレベル、前提科目など】

くり返せば、あくまで米文学の一般常識をおさえてもらいたいため、あまり専門的な領域には立ち入らないが、前提

となる文学上の一般常識はすでにあるものとして授業を進めていく。前提科目というより関連科目としては「英米文学」「英米文学特講」など。

科目名	英米文学 I
	英米の短編小説
教員名	鈴木 宏枝

【授業の内容】

英語で書かれた短編を読んで読解力を鍛え、英米文学の世界に親しむ。

【到達目標】

1. 英語で書かれた短編小説の内容を把握できる。
2. 英米文学作品の文化的背景を理解できる。
3. 作品の内容を英語で要約できる。

【授業計画】

- 第1回 インTRODakション、ワークシート、グループワークの説明
英米文学における短編小説の位置づけ
予習：教科書を入手し、目を通しておく(目安: 1時間)
復習：配布されたプリントで英米文学における短編小説の位置づけを理解し、不明点は参考図書等で調べておく
- 第2回 The Story of the Futon of Tottori(Lafcadio Hearn)①
予習：当該作品を辞書を引かずに3回通読する(目安:30分)。
授業：グループワークで内容を理解する。
復習：当該作品を辞書を引かずに速読し、内容を理解できたことを確認する。不明な点は辞書やグロサリーで再確認しておく(目安: 30分)。
- 第3回 The Story of the Futon of Tottori(Lafcadio Hearn)②
予習：当該作品を通読し、内容を再確認する(目安: 15分)。
授業：ワークシートで構造分析や主題を理解する。
復習：当該作品を辞書を引かずに読み、内容を理解できたことを確認する。不明な点は辞書やグロサリーで再確認しておく(目安: 30分)。
- 第4回 The Little Girl(Katherine Mansfield)①
予習：当該作品を辞書を引かずに3回通読する(目安:30分)。
授業：グループワークで内容を理解する。
復習：当該作品を辞書を引かずに速読し、内容を理解できたことを確認する。不明な点は辞書やグロサリーで再確認しておく(目安: 30分)。
- 第5回 The Little Girl(Katherine Mansfield)②
予習：当該作品を通読し、内容を再確認する(目安: 15分)。
授業：ワークシートで構造分析や主題を理解する。
復習：当該作品を辞書を引かずに読み、内容を理解できたことを確認する。不明な点は辞書やグロサリーで再確認しておく(目安: 30分)。
- 第6回 The Luncheon (Somerset Maugham)①
予習：当該作品を辞書を引かずに3回通読する(目安:30分)。
授業：グループワークで内容を理解する。
復習：当該作品を辞書を引かずに速読し、内容を理解できたことを確認する。不明な点は辞書やグロサリーで再確認しておく(目安: 30分)。
- 第7回 The Luncheon (Somerset Maugham)②
予習：当該作品を通読し、内容を再確認する(目安: 15分)。
授業：ワークシートで構造分析や主題を理解する。
復習：当該作品を辞書を引かずに読み、内容を理解できたことを確認する。不明な点は辞書やグロサリーで再確認しておく(目安: 30分)。
- 第8回 A Shilling (Liam O'Flaherty)①
予習：当該作品を辞書を引かずに3回通読する(目安:30分)。
授業：グループワークで内容を理解する。
復習：当該作品を辞書を引かずに速読し、内容を理解できたことを確認する。不明な点は辞書やグロサリーで再確認しておく(目安: 30分)。
- 第9回 A Shilling (Liam O'Flaherty)②
予習：当該作品を通読し、内容を再確認する(目安: 15分)。
授業：ワークシートで構造分析や主題を理解する。
復習：当該作品を辞書を引かずに読み、内容を理解できたことを確認する。不明な点は辞書やグロサリーで再確認しておく(目安: 30分)。
- 第10回 Cat in the Rain (Ernest Hemingway)①
予習：当該作品を辞書を引かずに3回通読する(目安:30分)。
授業：グループワークで内容を理解する。

復習：当該作品を辞書を引かずに速読し、内容を理解できたことを確認する。不明な点は辞書やグロサリーで再確認しておく（目安：30分）。

第11回 Cat in the Rain (Ernest Hemingway)②

予習：当該作品を通読し、内容を再確認する（目安：15分）。

授業：ワークシートで構造分析や主題を理解する。

復習：当該作品を辞書を引かずに読み、内容を理解できたことを確認する。不明な点は辞書やグロサリーで再確認しておく（目安：30分）。

第12回 The Circus (William Saroyan)①

予習：当該作品を辞書を引かずに3回通読する（目安：30分）。

授業：グループワークで内容を理解する。

復習：当該作品を辞書を引かずに速読し、内容を理解できたことを確認する。不明な点は辞書やグロサリーで再確認しておく（目安：30分）。

第13回 The Circus (William Saroyan)②

予習：当該作品を通読し、内容を再確認する（目安：15分）。

授業：ワークシートで構造分析や主題を理解する。

復習：当該作品を辞書を引かずに読み、内容を理解できたことを確認する。不明な点は辞書やグロサリーで再確認しておく（目安：30分）。

第14回 The Last Leaf (O. Henry) ①

予習：当該作品を辞書を引かずに3回通読する（目安：30分）。

授業：グループワークで内容を理解する。

復習：当該作品を辞書を引かずに速読し、内容を理解できたことを確認する。不明な点は辞書やグロサリーで再確認しておく（目安：30分）。

第15回 The Last Leaf (O. Henry) ②

予習：当該作品を通読し、内容を再確認する（目安：15分）。

授業：ワークシートで構造分析や主題を理解する。

復習：当該作品を辞書を引かずに読み、内容を理解できたことを確認する。不明な点は辞書やグロサリーで再確認しておく（目安：30分）。

まとめ：読んできた作家・作品のまとめをおこない、「良い短編、良い文学とは何か」「傑作とは何か」を考える。

英米のよく知られた作家による短編小説を読む。毎回、各自で当該作品を予習してきた上で、グループワークにより、作品の和訳や内容理解の演習をおこなう。「課題」として、フォーマットに従った英文要旨の執筆をおこなう。受講生の理解度によって進度を変える場合があり、すべてシラバス通りとは限らない。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①A Dozen Gem-Like Stories: English and American ②Annotated by Yoshio Yasunaga ③金星堂 ④1978年/重版2006年 ⑤¥1,200+税

必要な資料をプリントで配布する場合もある。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 30%

【履修上の心得】

実習等を除き、全授業回数の1/3を越えて欠席した場合は不可とする。

【科目のレベル、前提科目など】

英文学概論、米文学概論、英米文学Ⅱ、英米文学Ⅲなど。

科目名	英米文学Ⅱ
	英詩を味わう
教員名	鈴木 宏枝

【授業の内容】

英米の名詩を原語で味わい、鑑賞し、暗誦する。詩の技法を理解する。弱強五歩格の四行詩を書く。

【到達目標】

1. 詩独自の表現を知る。
2. 詩のリズムやおもしろさを知る。
3. 学習した技法を用いて英詩を書ける。

【授業計画】

- 第1回 英詩の規則（韻律、詩型）の説明① - 弱勢・強勢について
- 第2回 英詩の規則（韻律、詩型）の説明② - 詩脚について
- 第3回 英詩の規則（韻律、詩型）の説明③ - 律格と詩型について
- 第4回 英詩の作り方① - リズムをつくる
- 第5回 英詩の作り方② - 韻を踏む
- 第6回 ソネット：William Shakespeare, Sonnets① - 作者、背景、ソネットについて
- 第7回 ソネット：William Shakespeare, Sonnets② - 分析と解釈
- 第8回 オード：Percy Bysshe Shelley, Ode to the West Wind① - 作者、背景、オードについて
- 第9回 オード：Percy Bysshe Shelley, Ode to the West Wind② - 分析と解釈
- 第10回 挽歌：Thomas Gray, Elegy Written in a Country Churchyard① - 作者、背景、エレジーについて
- 第11回 挽歌：Thomas Gray, Elegy Written in a Country Churchyard② - 分析と解釈
- 第12回 物語詩：Samuel Taylor Coleridge, The Rime of the Ancient Mariner① - 作者、背景、物語詩について
- 第13回 物語詩：Samuel Taylor Coleridge, The Rime of the Ancient Mariner② - 分析と解釈
- 第14回 英詩の暗誦と受講者による弱強五歩格四行連詩の鑑賞
- 第15回 受講者による弱強五歩格四行連詩の発表

英米の詩を読み、詩の独特の表現形式に親しむ。内容を理解するだけでなく、詩の技法を理解したり、音声的な魅力を味わったりすることも大切である。名詩を暗誦するとともに、実際に英詩を書くことにも挑戦する。

【授業の進め方】

1. 詩人と文化的背景の講義ののち、挽歌やソネットなど代表的な形式の詩を1編ずつ鑑賞する。授業で扱った詩の1編のうち一部を暗誦できるようにする。
2. 弱強五歩格で脚韻を踏む四行詩を書き、添削を受けたのち、発表する。互いの詩の鑑賞もおこなう。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリントを配布する。

【参考図書】

木下卓他『楽しく読める英米詩』ミネルヴァ書房。
尾島庄太郎『英詩の味わい方』研究社。
志子田光雄『英詩理解の基礎知識』金星堂。
西原洋子『英米詩への旅』晶文社
阿部公彦『英詩のわかり方』研究社。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 30% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 30%

特記事項

授業参加、作詩、暗記、期末テストで総合的に評価する。期限の過ぎた提出物は受け付けない。実習など特別な事情がある場合はメ切以前に提出すること。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

「レポート・課題」 英詩の暗誦10%、英詩の創作30%

【履修上の心得】

授業回数の1/3を越えて欠席した場合は不可となる。

【科目のレベル、前提科目など】

英文学概論、米文学概論

科目名	英米文学Ⅲ
	シェイクスピアの演劇を楽しもう
教員名	鈴木 宏枝

【授業の内容】

英米文学Ⅰでは短編小説、英米文学Ⅱでは詩を扱う。Ⅲでは演劇に焦点を合わせ、今年度は、ルネッサンス時代の巨匠シェイクスピアの作品にふれていく。戯曲は書かれたテキストであるが、演出家によって解釈され、俳優が演技し、観客が見ることによって一つの有機的な舞台となり、一回性の空間を作り出す。シェイクスピアは喜劇、悲劇、ロマンス劇などいくつかのジャンルにわたって傑作を残してきた。いずれも、おおもとの部分ではエンターテインメント性に富み、普遍的な人間の深い感情や心理を描くことによって、市井の観客の気持ちをつかみえたから残ってきたものといえるだろう。シェイクスピアの芝居がいかにかそのときどきの同時代性を持ち、現代の私たちにとって大きな示唆があるかを学んでいく。

【到達目標】

- ・シェイクスピアの作品の特質を理解する
- ・英文学における戯曲の位置づけを理解する

【授業計画】

- 第1回 イン트로ダクション
シェイクスピアとルネッサンス時代の演劇文化について
- 第1期 習作期の概要
- 第2回 第2期 円熟期より
「ロミオとジュリエット」①
プロットと構造、登場人物、テーマを理解する。
- 第3回 「ロミオとジュリエット」②
戯曲の一部を原文も参照しながら読みあい、舞台のイメージをふくらませる。
DVDなどで実際の演技や映像を確認し、鑑賞する。
- 第4回 「夏の夜の夢」①
プロットと構造、登場人物、テーマを理解する。
- 第5回 「夏の夜の夢」②
戯曲の一部を原文も参照しながら読みあい、舞台のイメージをふくらませる。
DVDなどで実際の演技や映像を確認し、鑑賞する。
- 第6回 「ヴェニスの商人」①
プロットと構造、登場人物、テーマを理解する。
- 第7回 「ヴェニスの商人」②
戯曲の一部を原文も参照しながら読みあい、舞台のイメージをふくらませる。
DVDなどで実際の演技や映像を確認し、鑑賞する。
- 第8回 「十二夜」①
プロットと構造、登場人物、テーマを理解する。
- 第9回 「十二夜」②
戯曲の一部を原文も参照しながら読みあい、舞台のイメージをふくらませる。
DVDなどで実際の演技や映像を確認し、鑑賞する。
- 第10回 第3期 悲劇の時代より
「ハムレット」①
プロットと構造、登場人物、テーマを理解する。
- 第11回 「ハムレット」②
戯曲の一部を原文も参照しながら読みあい、舞台のイメージをふくらませる。
DVDなどで実際の演技や映像を確認し、鑑賞する。
- 第12回 「マクベス」①
プロットと構造、登場人物、テーマを理解する。
- 第13回 「マクベス」②
戯曲の一部を原文も参照しながら読みあい、舞台のイメージをふくらませる。
DVDなどで実際の演技や映像を確認し、鑑賞する。
- 第14回 第4期 円熟期より
「テンペスト」①
プロットと構造、登場人物、テーマを理解する。
- 第15回 「テンペスト」②
戯曲の一部を原文も参照しながら読みあい、舞台のイメージをふくらませる。
DVDなどで実際の演技や映像を確認し、鑑賞する。
- まとめ

【授業の進め方】

毎回、新しい作品に入る前に、テキストの当該作品をあらかじめ読んでくることを求めます。ワークシートで作品の概要を理解し、次週にその「演劇化」がいかにおこなわれるかを確認します。積極的やとりくみを期待します。400年前の戯曲家であるシェイクスピアがいかに普遍的な人間性を理解し、だれにでもわかる形でドラマを組み立て、演出の余地を残して、多様な解釈を可能にしたかを楽しんで理解していきましょう。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①シェイクスピア物語 ②ラム ③岩波少年文庫 ④2001年 ⑤¥734

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 60%

【科目のレベル、前提科目など】

英米文学Ⅰ、英米文学Ⅱ、英文学概論

科目名	英米文学特講
	Postmodern Literature in English ポストモダン英米文学
教員名	Jeffrey Miller

【授業の内容】

Postmodern Literature in English, focuses on English literature since 1945, by chiefly non-UK or US authors, mostly still writing today. The course is taught in higher-level English and introduces 21st century authors (including recent Nobel Prize for Literature winners), and issues from a variety of many shorter works from Asia, Africa, and the Caribbean.

1945年以後に書かれた英米ポストモダン文学。なかでも英国人でも米国人でもないが英語で文学を書き表す作家たちは多くが現在も書き続けている。この科目では、こうした21世紀の作家たち(最近のノーベル文学賞受賞者たちを含む)を紹介する。アジア、アフリカ、カリブ海諸島の作家たちによる様々な短編にあたり内包する諸問題を考える。講義は高いレベルの英語で行う。

【到達目標】

In Postmodern Literature in English students will:

1. Link themes from pre-1945 English and American Literature to contemporary concerns.
2. Read and discuss original English shorter postwar works from Asia, Africa, and Caribbean authors.
3. Expand their active vocabulary with a collocation-based vocabulary training.
4. Develop a sensitivity for other postmodern English-using cultures through their recent literature in English.

ポストモダン英米文学のクラスにおいて、学生は、

1. 1945年以前の英米文学との比較で、現代人が抱える問題テーマを関連づける
2. アジア、アフリカ、カリブ海諸島の作家たちによる戦後の作品原本を読み、討論する
3. コロケーションを基本にしたボキャブラリー訓練により、アクティブ英語語彙を広げる
4. 最新の英語作品を通して、他の英語圏の文化への感受性を養う

【授業計画】

- 第1回 Week 1, course overview: readings, vocabulary work and the final exam, introduce Kazuo Ishiguro (read Ishiguro short story for homework)
- 第2回 Week 2, discuss the Kazuo Ishiguro short story; prepare for a quiz (Ishiguro vocabulary building homework assignment)
- 第3回 Week 3, K. Ishiguro quiz, introduce Yiyun Li (read Li short story for homework)
- 第4回 Week 4, discuss the Yiyun Li short story; prepare for a quiz (Li vocabulary building homework assignment)
- 第5回 Week 5, Y. Li quiz, introduce Chinua Achebe (read Achebe short story for homework)
- 第6回 Week 6, discuss the Chinua Achebe short story/excerpt; prepare for a quiz (Achebe vocabulary building homework assignment)
- 第7回 Week 7, C. Achebe quiz, introduce Doris Lessing [Nobel winner] (read Lessing short story for homework)
- 第8回 Week 8, discuss the Doris Lessing short story; prepare for quiz (Lessing vocabulary building homework assignment)
- 第9回 Week 9, D. Lessing quiz, introduce Salman Rushdie [Man-Booker winner] (read Rushdie short story for homework)
- 第10回 Week 10, discuss the Salman Rushdie short story; prepare for a quiz (Rushdie vocabulary building homework assignment)
- 第11回 Week 11, S. Rushdie quiz, introduce Derek Walcott [Nobel winner] (read both Walcott poems for homework)
- 第12回 Week 12, discuss the Derek Walcott poems; for a quiz (Walcott vocabulary building homework assignment)
- 第13回 Week 13, D. Walcott quiz, introduce Wole Soyinka "Telephone Conversation" poem [Nobel winner] (read Soyinka poem for homework)
- 第14回 Week 14, W. Soyinka poem quiz and vocabulary explanation. Quick overview of the final exam questions and vocabulary
- 第15回 Week 15, complete review for the final exam ALL questions and vocabulary put on blackboard.

A mixture of traditional lecture, close readings from key works (with collocation-based contemporary vocabulary study), and student discussions will characterize the class.

クラスは、講義、コロケーションベースのコンテンポラリーボキャブラリー勉強法を用いたキーワードによる読解、学生間の討論などで特徴づけられる。

【授業の進め方】

The class will meet weekly for a semester to discuss specific works and broader trends from the assigned outside reading. Students MUST complete the weekly reading homework, reflect on the work, and come to class ready to discuss the

ideas contained in the work. The final exam will cover general material from the Postmodern Literature in English course, but there will be a comprehensive review one week before the examination.

週1回のクラスは、与えられた課題のリーディングを通して、ある作品についてまたは作品の背景などについて討論する。学生は毎週のリーディング課題の宿題をこなす事が重要となる。読んだ作品を反芻し、作品に込められた考えについてクラスで討論する。定期試験の範囲はポストモダン英米文学クラスで取り上げた素材全体にわたるが、試験の一週間前のクラスで総括的な復習を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①MR Lit Col World Stories Adv ②Ceri Jones (editor) ③MacMillan Education ELT ④2013/1/1 ⑤900 yen ⑥ isbn-9780230441194

In addition to the textbook, the instructor will choose shorter works, or sections of longer works and background material. Photocopies will be distributed.

教科書に加え教員が短編や長編の一部を選び、それらの作品の背景を表す素材と共にプリントして渡す。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 60% レポート・課題 0% 受講態度 0%
特記事項

The course will require: class participation in discussions, regular quizzes, collocation-based vocabulary work and a written final exam.

クラス内での討論への積極的参加、定期的に行われる小テスト、コロケーションベースのボキャブラリーワークそして筆記による定期試験。

【履修上の心得】

For the class to be meaningful students MUST do the assigned readings and actively discuss them in class. The opportunity to read widely and think about the future of Postmodern Literature in English will help students improve their English.

有意義なクラスとするために、学生は課せられたリーディングをこなし、クラスでそれらについて積極的に発言する事。広範囲に英語を読み、ポストモダン英米文学の将来について考える機会は、学生の英語力の向上に役立つ。

科目名	異文化理解
教員名	Jeffrey Miller

【授業の内容】

In our increasingly globalized society we recognize expanded cultural diversity around us. This creates opportunities to come into contact with people from different cultural backgrounds. In order to understand each other better, first we must know our own culture well and then study other countries' cultures. This Cross-Cultural Understanding course aims to pick up various related topics for discussion and examination from various points of view to deepen our understudying. This course will be taught in low-intermediate level English and is open to exchange students studying at Hakuoh. In past years, the interaction between the exchange and regular Japanese students was stimulating and fun for all.

グローバル社会の中で、私たちの周りでも文化の多様性が認識され、様々な文化背景を持つ人々と関わる機会が増えてきています。異文化の人々との交流で互いによく理解するためには、まず自分の文化について良く知り、他国の文化についても学ぶことが重要となります。このコースでは、異文化に関するテーマを毎時扱い、様々な視点から考え意見交換することで、異文化理解の考察を深めることを目的とします。

このコースは初級と中級レベルの間の英語を使って行われ、白鷗大学で学ぶ交換留学生も受講することが出来ます。これまでに、クラスでの白鷗大学生と交換留学生との交流が、お互いの励みや楽しみとなっています。

【到達目標】

1. Read, understand, and be able to explain the content of various English passages in your own (English) words.
英語の文章を読んで理解し、内容について自分の言葉で英語で表現できる。
2. In English, express your own opinion about the various passages from the class.
授業で扱うトピックに関する自分の意見を、英語で表現できる。
3. Widen your knowledge about your own and other people's culture.
異文化・自文化について見識を広げることができる。

【授業計画】

- 第1回 Overview of class (unit readings, discussions, comprehension quizzes, vocabulary homework); Self introductions and a discussion of cross-cultural experiences; Introduction of Unit I [Homework: read Unit 1 for a content discussion and a comprehension quiz]
- 第2回 Unit 1 (I'm older than you) content discussion and comprehension quiz [Homework: Unit 1 collocation-based vocabulary or phrase usage classwork AND read Unit 2 for a discussion and a comprehension quiz]
- 第3回 Unit 2 (Where should I sit) content discussion and comprehension quiz [Homework: Unit 2 collocation-based vocabulary or phrase usage classwork AND read Unit 3 for a discussion and a comprehension quiz]
- 第4回 Unit 3 (Don't enryo) content discussion and comprehension quiz [Homework: Unit 3 collocation-based vocabulary or phrase usage classwork AND read Unit 4 for a discussion and a comprehension quiz]
- 第5回 Unit 4 (Saying "thank you" twice) content discussion and comprehension quiz [Homework: Unit 4 collocation-based vocabulary or phrase usage classwork AND read Unit 5 for a discussion and a comprehension quiz]
- 第6回 Unit 5 (Can't say "no"!) content discussion and comprehension quiz [Homework: Unit 5 collocation-based vocabulary or phrase usage classwork AND read Unit 7 - skip 6 - for a discussion and a comprehension quiz]
- 第7回 Unit 7 (Dirty work) content discussion and comprehension quiz [Homework: Unit 7 collocation-based vocabulary or phrase usage classwork AND read Unit 8 for a discussion and a comprehension quiz]
- 第8回 Unit 8 (Where do you belong?) content discussion and comprehension quiz [Homework: Unit 8 collocation-based vocabulary or phrase usage classwork AND read Unit 9 for a discussion and a comprehension quiz]
- 第9回 Unit 9 (Keeping a maiden name) content discussion and comprehension quiz [Homework: Unit 9 collocation-based vocabulary or phrase usage classwork AND read Unit 10 for a discussion and a comprehension quiz]
- 第10回 Unit 10 (Eldest child's destiny) content discussion and comprehension quiz [Homework: Unit 10 collocation-based vocabulary or phrase usage classwork AND read Unit 11 for a discussion and a comprehension quiz]
- 第11回 Unit 11 (Don't rock the boat!) content discussion and comprehension quiz [Homework: Unit 11 collocation-based vocabulary or phrase usage classwork AND read Unit 12 for a discussion and a comprehension quiz]
- 第12回 Unit 12 (Is it open today?) content discussion and comprehension quiz [Homework: Unit 12 collocation-based vocabulary or phrase usage classwork AND read Unit 13 for a discussion and a comprehension quiz]
- 第13回 Unit 13 (Whose home is this) content discussion and comprehension quiz [Homework: Unit 13 collocation-based vocabulary or phrase usage classwork AND read Unit 14 for a discussion and a comprehension quiz]
- 第14回 Unit 14 (The booming cannon) content discussion and comprehension quiz [Homework: Unit 14 collocation-based vocabulary or phrase usage classwork]
- 第15回 Cross-Cultural Understanding course 異文化理解 complete review for textbook-based questions and vocabulary (spoken - not written on the test paper) of the final exam.

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①Beyond Your Own Culture ②Wayne Sumida & Kyoko Miyazato ③Eihosha ④2002/7 ⑤1,900 yen ⑥ISBN4-269-14062-3 C1082

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 30% 授業内小試験 40% レポート・課題 30% 受講態度 0%

特記事項

The final examination (30%) is of material, both content and vocabulary, from the textbook. 「定期試験」は教科書の内容とボキャブラリーから出題します。Weekly quizzes (40%) are based on the textbook content and "report" (30%) are vocabulary homework assignments. 授業内小試験は教科書内容を基本にし、レポート・課題はボキャブラリーホームワークです。

【履修上の心得】

It is important to actively take part in discussion and activities

- ・ディスカッションやアクティビティーに、積極的に参加することが大切です。

It is also key that students do the assigned reading and ask about words and meanings that you don't understand.

- ・課せられたリーディングは、必ず予習し、分からない単語・箇所については質問することが鍵となります。

科目名	異文化間コミュニケーション論
教員名	宮里 恭子

【授業の内容】

21世紀に暮らす私たちはグローバル化の時代を生きている。これは、海外勤務・海外留学のみならず、国内においても多様な外国人と共に働いたり暮らす可能性が高くなることを意味する。その際、異文化による摩擦を回避し適切に対応していく能力を培うことが国際人の素養の一つとして重要であることは言うまでもない。このコースでは、自文化・異文化の認識、様々な文化の知識、異文化間コミュニケーションにおける感情の諸問題、適応スキルの4つをテーマに、教師によるレクチャー、及び、グループディスカッションや全体ディスカッション、グループでのプレゼンなど学生参加型の体験学習やアクティブラーニングを通して、自文化を発見し、文化にまつわる様々な問題を解決するための方法を深く探求する。また、このコースは留学生にも開放されているため、これらを異文化からの学生と共に学ぶことで、身近な問題として捉える機会にする。

【到達目標】

認識・知識・感情・スキルの4つのテーマについて、前半はテキストに沿って教師によるレクチャーを行う。後半はグループでの討論、ペアワーク、クラスディスカッション、小グループでの調査とプレゼン、ビデオ鑑賞と考察などを通して、異文化に関する様々な方面からの学生参加型体験学習やアクティブラーニングを実施する。

1. テキストの学習を通して異文化、自文化のawareness（認識）を深め、文化についてのknowledge（知識）を広める
2. 文化的価値観とculture shock、identity crisisなどのemotions（さまざまな感情）について、具体的なケーススタディーや文献学習、ビデオ鑑賞などを通して体験しながら考える。
3. 異文化による誤解時の適応skills、training（スキル）について学び、実践しながらプレゼンする。
4. 教育、ビジネスの場面での異文化間コミュニケーションの事例を学び、グループでディスカッションやクラスディスカッションできる。
5. 世界の非言語コミュニケーション、ビジネス慣行の違いについての英文をグループで読解し、その内容を日本語で発表することができる。
6. 異文化に関する英語のビデオを聞いて理解し、意見を述べ合うことができる。
7. 共に履修している留学生の出身国の文化について意見交換したり、小グループでのディスカッションやプレゼンを一緒に行いながら、異文化を実感し直に学びあうことができる。

【授業計画】

- 第1回 コース紹介・異文化コミュニケーションを学ぶ理由・捉え方
文化とは？
コミュニケーションとは？
異文化コミュニケーションとは？
- 第2回 [1] Awareness（講義）
文化のたまねぎモデル
価値観
Cultural awareness exercises
文化の次元
- 第3回 [2] Knowledge（講義）
1. Verbal communication
Communication style
自己開示
宿） Axtell's book: 3人一組でreadingを元に次週発表
- 第4回 2. Non-verbal communication (Gestures, Time, and space)
- 第5回 Presentation on Axtell's (Chapter 1, Different gesture across countries)
世界のジェスチャーに関する英文を小グループで読解し、グループプレゼンする。
宿） Essential 55に表れている米国の小学校教諭の教育観に関する英文を読み、日本の学校で受け入れられるか考えてくる。
- 第6回 3. Cultural effect on education
教育の場面での異文化の問題について考える。アメリカの小学校教諭の書いた Essential 55 についてグループディスカッションをした後、日本の教育的価値観と比較しながらクラスディスカッションをする
- 第7回 教育現場での異文化ミスマコミュニケーション（講義）
ビデオ: Preschool in Three Cultures
アメリカ、日本、中国での幼稚園教育の実態を示した英語のビデオを理解し、クラスディスカッションをする。
- 第8回 ビデオの続き・discussion
宿） 派遣者ハンドブックからのプリントを読んで、印象に残ったものを次回にグループで意見交換する。
- 第9回 4. Cultural effect on business
海外派遣者ハンドブックを読み、日本人ビジネスマンが海外で経験する様々な異文化の事例についてグルー

プディスカッションし、その後クラスディスカッションも行う。

第10回 ビデオ：The Colonel Comes to Japan

ケンタッキーフライドチキンの日本進出における様々な文化的葛藤についての英語番組を理解し、クラスディスカッションをする。

第11回 11回 [3] Emotion (講義)

1. Culture shock カルチャーショックとは何か、Uカーブ、Wカーブ

第12回 2. ビデオ: Class divided

偏見、先入観はどのように形成され、どのような葛藤を生むかについての教育現場でのシュミレーションビデオ(英語)を聞き取り、クラスディスカッションする。

第13回 [4] Skills (講義)

1. D.I.E. method ビデオ: A World of Diversity 異文化による誤解を解くスキルについて説明した英語のビデオを理解しながら、DIEについて学ぶ。

第14回 2. 異文化適応

異文化の捉え方(カテゴリー化、ステレオタイプ、認知的複雑性)

異文化への態度(文化相対主義、偏見、期待)

異文化適性の養成

第15回 ファイナルプレゼン (D.I.E.) 自分の身に起きた誤解をD.I.Eで分析し、小グループで発表し、その中の一人がクラス発表する。

授業総復習

【授業の進め方】

前半は教師のレクチャーによる授業、後半はグループやクラス全体によるディスカッションやアクティビティーなどの学生参加型授業を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①異文化トレーニング―ボーダレス社会をいいる ②八代京子他著 ③三修社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 20%

特記事項

普段の授業での貢献度などの平常点、及び、出席状況なども加味して最終の判定を行う。目安としては次のようになるが、詳しくは初回時に詳しく説明する。

グループプレゼン 1～2回、ファイナルレポート、試験、授業貢献度・授業態度

【「成績評価の方法」に関する注意点】

* 遅刻は30分まで認める。30分以降も入室を認めるが、欠席扱いとなる。また、その日の授業後に遅刻を申し出ること。申し出ない場合は欠席のままとなる。カードリーダーはこの授業ではカウントしないので注意すること。

* 遅刻3回で欠席1回とみなす。5回以上欠席の場合はH、つまり不合格となる。また、3回以上欠席した場合は総合評価B以下となる。

* 自分の担当の発表のときに、欠席する場合は必ず以下の連絡先に、自分で事前に連絡すること。事前連絡があった場合のみ、減点の上再チャンスを与える。ない場合は0点となる。

* ディスカッションを毎回行うので、積極的に発言すること。クラスでの発言について、授業貢献度のなかで考慮する。

10 まじめに授業に臨み、授業中、数多く自ら進んで意見を述べ、授業に非常に貢献した。

8 まじめに授業に臨み、授業中、自ら進んで意見を述べ、授業に貢献した。

5 まじめに授業に臨んだが、自らは進んで発言しなかった

3～0 授業中、居眠りをしたりおしゃべり、携帯をいじるなどの授業態度に問題があった。

【履修上の心得】

* ディスカッションやアクティビティーを毎回行うので、積極的に参加すること。クラスでの発言・参加について、授業貢献度のなかで考慮する。

【科目のレベル、前提科目など】

異文化理解を履修していることが望ましい。

科目名	英語圏地域研究
	English Speaking Area Studies
教員名	Jeffrey Miller

【授業の内容】

English Speaking Area Studies (英語圏地域研究) traces the development of English and its spread around the world. To understand the English world of today and tomorrow, we must know how the language came into being, how it has changed, and how it is likely to change in our lifetimes. Furthermore, English Speaking Area Studies provides students with an opportunity to discuss and research about English language topics of personal interest.

英語圏地域研究は英語の進化とそれが世界全体へと拡大浸透していく過程をみていく。現在そして未来の英語世界を理解するために、英語がどのように生まれ変化しさらに今後どのように変わっていくのかを知ることが必要。さらにこの科目では、学生がそれぞれ個人的に興味ある英語のトピックについて討論、研究する機会を与える。

【到達目標】

English Speaking Area Studies aims to give learners the basic background on the history of English and its probable future.

学生は英語の基本的な歴史的背景や予測されうる今後の英語圏状況を把握する。

【授業計画】

- 第1回 Week 1, Overview (weekly quizzes, video clips, English 750-word research papers and the final examination); "World Englishes," ENL, ESL, EFL, and L1 and L2
- 第2回 Week 2, discussion of "World Englishes" etc., before a quiz, "Story of English" video 1 clips [Homework: read "Who Owns English" Newsweek magazine article excerpts]
- 第3回 Week 3, "Who Owns English" discussion and quiz, finish video 1 clips) and explain research topics with examples [Homework: questions from the video excerpts AND think about English research paper]
- 第4回 Week 4, Old, Middle, Modern, and Postmodern English time lines and basics; start video 2 excerpts [Classwork: questions from the video clips; Homework: research topics are due]
- 第5回 Week 5, finish viewing video 2 clips; discussion of Norse influence on Old English; talk about refocusing of research topics. [Classwork or homework: questions from the video clips]
- 第6回 Week 6, view and discuss video clips, identify main Old English vs. Middle English differences [Homework: compare English in Beowulf to Chaucer's English on handouts]
- 第7回 Week 7, view and discuss Chaucer to Caxton to Shakespeare video clips, identify main Middle English vs. Modern English differences, 75-word (or more) research topic outlines due [Homework: compare Shakespeare's English to Chaucer's on handouts]
- 第8回 Week 8, view and discuss the beginnings of North American English video clips, identify the main British English and American English differences, J. Miller's written comments on student research paper outlines [Classwork or homework: questions from the video clips]
- 第9回 Week 9, view and discuss development of North American English video clips, identify the main US English regional and Canadian English differences [Classwork or homework: questions from the video clips]
- 第10回 Week 10, view and discuss the beginnings and growth of Aussie and New Zealand video clips, "Waltzing Matilda" handout [Classwork or homework: questions from the video clips]
- 第11回 Week 11, view and discuss development RP, BBC English and the postwar de-colonialization in Asia and Africa video clips in relation to rising "World Englishes" [Classwork or homework: questions from the video clips]
- 第12回 Week 12, view and discuss the spread of US English from the 1950s to today on the video clips [Classwork or homework: questions from the video clips]
- 第13回 Week 13, view and discuss spread of Postmodern Global English on the video clips, discuss future trends [Classwork or homework: questions from the video clips]
- 第14回 Week 14, initial review for the final exam (study guide), research papers due
- 第15回 Week 15, final review for the final exam (study guide)

English Speaking Area Studies begins with an overview of the 1,500 years of English language evolution and spread. However, the focus of the course is on how today's English is changing - especially here in Asia. A mixture of lecture (in intermediate level English), video, classroom discussion and three-page (750, or more, word) English written research paper on a topic of their own interest will characterize the class.

まずは言語としての英語の1500年わたる進化と拡大浸透の概要を見ていくことから始める。但し、この科目の主眼点は、英語の現状がいかに変わりつつあるかにある。とりわけこのアジアの地における変化に焦点を当てる。中級レベルの英語での講義、ビデオ、クラス内でのディスカッション、個々人の興味あるトピックを取り上げた3頁(750ワード以上)の英文でのリサーチ論文など。

【授業の進め方】

The class will meet once a week for a semester. Lectures, outside reading, and video excerpts will give the necessary information on the historic development of English. However, the main focus of the class is English in the postwar and especially post-2000 period, and how the language will change in the future. By the fourth week, students will select a research topic for their written research papers due at the end of the term. Students will be required to write an original three-page (750, or more, word) research paper, in English, based on a topic of their choice. English Speaking Area Studies REQUIRES students to do their own research for a three-page English term paper on a subject they are interested in. There also will be a final exam.

週1回の授業で、講義、読み物、ビデオ抜粋などから英語の歴史的進化に関する必要なインフォメーションを提示する。おもに戦後、わけても21世紀の英語に焦点を当てそれが今後どのように変わっていくのかを中心にみていく。第4回目までに、リサーチ論文のために自分の興味あるトピックを選ぶ。そのトピックを元に、期末にオリジナルの3頁英文リサーチ論文(750ワード以上)を仕上げる事が求められる。学生は期末に、期末試験に加え3頁のリサーチ論文が課せられる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

There is no textbook, but instructor-written and selected print and video materials will be used. Students are expected to take notes during lectures and when viewing video clips, as well as to keep all distributed materials in a folder that they bring to class each time.

基本的に教科書は使わない。但し、教員の作製したプリントやビデオ素材を使用。学生は毎回講義ノートを取る必要がある。また教員が準備し配布した資料をファイルにして授業に臨むこと

【参考図書】

"The History of the English Language" Brigit Viney, Oxford University Press, 2008

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 30% 授業内小試験 50% レポート・課題 20% 受講態度 0%

特記事項

The three-page (750, or more, word) English research papers on the approved topic are due on the last class day. Weekly attendance (including quizzes and homework) are required, and a short comprehensive final examination will be given.

最終クラスで3頁の英文リサーチ論文(許可を受けたトピックについて750ワード以上)の提出。毎回の出席。小テスト。宿題。そして期末の総合試験。

【履修上の心得】

This course should be both informative and eye-opening, as well as giving students the opportunity to do original research in English. So a strong motivation is key!

As there is much material to cover, regular attendance is vital. Also important is an interest in following world events. And lastly, when doing original research students must not plagiarize, but cite and adapt other peoples' ideas in their own words.

この科目は多くの情報が得られ啓発的。同時に、英語で独自のリサーチを行う機会を与える。従って、強固なモチベーションが鍵となる! 毎回たくさんの情報素材が提示されることから、出席が不可欠。また、今世界で起きている出来事への関心が大事。また独自のリサーチ論文を書く場合の注意点は、他人の考えを盗用するのではなく、それらを引用し咀嚼した上で自分の言葉で表すこと。

科目名	英語科教育法 I
教員名	大木 俊英・宮里 恭子・斎藤 明宏

【授業の内容】

現在、日本の英語教育は、英語が使える日本人の育成のための様々な改革が進行している。英語教育に関する基本的な知識を身につけ、現在の日本の英語教育に求められていることは具体的に何なのかを知り、どのようにそれに応えられるのかを考える。具体的には、英語科指導法に関する以下のテーマに沿って、英語教育全般の基礎知識や理論を講義形式で学び、ディスカッション、グループプレゼン等でどのように現場の授業に生かすかを考える。

【到達目標】

1. テキストの内容理解やパワーポイントでの講義を通して、英語教師として知っておかなければならない基礎知識、理論や関係分野の見識を広める。
2. 英語を教える様々な技法についての具体的な知識を得て、授業実践のための準備とする。
3. これからの英語教師の適性や、英語教育の在り方について考察し、今後の自身の英語学習・英語教育研究の指針とする。
4. 母語獲得と第二言語獲得の違いについての論文を、小グループで分担して協力して読みながら外国語獲得のメカニズムを理解すると共に、専門的な論文の読解に慣れ親しむ。また、得た知識についてパワーポイントなどを使い要点をまとめながら効果的に発表し理解を深める。
5. 英語教育に関する各回のトピックについて、自分の経験に照らして考察し、小グループでのディスカッションを経て、クラスディスカッションの場で、自分の意見や感想を積極的に発表する。

【授業計画】

- 第1回 コース説明、1章（英語教育と英語教育学）
 第2回 1章（英語教育学）続き、3章（学習指導要領）
 第3回 2章（英語の国際化）
 第4回 4章（学習者）
 第5回 5章（英語教員）
 第6回 7章（英語教授法）
 第7回 7章続き（英語教授法）
 第8回 論文発表（母語獲得と外国語習得の違い）パワーポイントを利用しての分担発表
 第9回 6章（小学校における外国語活動）
 第10回 8章（第二言語習得と英語教育）
 第11回 9章（コミュニケーション能力）・10章（リスニング）・11章（スピーキング）
 第12回 12章（リーディング）・13章（ライティング）
 第13回 18章（文法の学習と指導）・19章（語彙と辞書検索指導）・16章（EラーニングとCALL教室）
 第14回 14章（ティームティーチング）・15章（測定と評価）
 第15回 テキスト総復習・これからの英語教師のあり方

【授業の進め方】

授業は、講義とグループディスカッション、クラスディスカッションから成る。毎回の授業のテーマを前もって指示するので、必ず、テキストを事前に予習しておくこと。グループによる論文の分担発表や、小グループ・クラス全体での討論の場を作るので、積極的な参加を期待する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法 ②望月昭彦編著 ③大修館書店 ④2010.11.1 ⑤2300 ⑥978-4-469-24558-5
 ①学習指導要領外国語編 ②文部科学省 ③開隆堂 ⑤93 ⑥978-4-304-04210-2

この教科書は教育法ⅡやⅢで引き続き使用するので大事にとっておくこと。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 20%

特記事項

グループプレゼンテーション1回・ファイナルレポート、定期試験、授業態度・貢献など

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- * 遅刻は30分まで認める。その日のうちに遅刻を自ら申し出ること。後の訂正は原則として認めない。カードリーダーはこの授業ではカウントしないので、必ず自分で授業後に申し出ること。
- * 遅刻3回で欠席1回とみなす。やむを得ない状況を除き、5回以上欠席の場合は、Hとなる。また、原則3回以上欠席

した場合は総合評価B以下となる。

- * 11月のTOEFLの点数を評価に加味する。400点未満は減点の対象となる。
- * ディスカッションを毎回行うので積極的に発言すること。授業貢献度のなかで考慮する。
 - 10 まじめに授業に臨み、授業中、数多く自ら進んで意見を述べ、授業に非常に貢献した。
 - 8 まじめに授業に臨み、授業中、自ら進んで意見を述べ、授業に貢献した。
 - 5 まじめに授業に臨んだが、自らは進んでは発言しなかった。
 - 2 迷惑こそかけないが、授業にまじめに取り組む様子が見られなかった。
 - 0 授業中、しばしば居眠りをしたりおしゃべり、携帯をいじるなど授業態度に大いに問題があった。

【履修上の心得】

- * この授業は、英語教員になるための基礎知識を構築するための大切な授業である。免許取得のために真剣に取り組むべき授業であることを心に留め、全出席を目指してもらいたい。
- * 授業内容を理解することが大切な科目である。まじめに授業に臨み、各章ごとにきちんと理解しておくこと。特に前半は理論的枠組みについての講義なのでかなり難しい。後半は、具体的な項目についてのテクニックの紹介となる。定期試験は広範囲となるので、日頃から予習、復習を欠かさないこと。
- * ディスカッションを毎回行うので、積極的に発言すること。クラスでの発言について、授業貢献度のなかで考慮する。

【科目のレベル、前提科目など】

教育実習に行くにあたり、最低限の基礎知識となる。英語科教育法Ⅱ及びⅢは、内容・目的ともに直接関連している。

科目名	英語科教育法Ⅱ
教員名	大木 俊英・奥山 慶洋

【授業の内容】

本講座の目的は「理論」を中心に学んだ「英語科教育法Ⅰ」と、「実践」が中心となる「英語科教育法Ⅲ」の橋渡しをすることである。ミニ模擬授業の実践を通して、授業を行うことの難しさや課題を認識し、そのうえで指導法の礎となる重要な言語修得の理論を学んでいく。以上の活動を通して授業のスタンダードな手順を理解することが目標である。

【到達目標】

- ・ 模擬授業の実践を通して、指導上の自分の課題を見つけることができる。
- ・ 英語教育に関する基本的な理論の知識があり、それらと指導法との関連について理解している。
- ・ 学習指導要領の分析を通して、日本の英語教育の方針や今後の方向性について理解している。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション(20分)、ミニ模擬授業の日程決め(15分)、指導案の書き方(15分)、近年の英語教育の動向(40分)
- 第2回 中学校学習指導要領(外国語編)について(45分)、教室英語の種類と意義(45分)
- 第3回 公開授業DVDの鑑賞(60分)、グループでの意見交換(30分)
- 第4回 GW明け小テスト(学習指導要領と教室英語)(20分)、テストと評価について(70分)
- 第5回 ミニ模擬授業(2グループ)(90分)…読解1
- 第6回 ミニ模擬授業(2グループ)(90分)…読解2
- 第7回 ミニ模擬授業(2グループ)(90分)…読解3
- 第8回 ミニ模擬授業(2グループ)(90分)…文法1
- 第9回 ミニ模擬授業(2グループ)(90分)…文法2
- 第10回 模擬授業の振り返り(90分)
- 第11回 講義「読解の指導」(90分)
- 第12回 講義「読解の指導」(90分)
- 第13回 講義「文法の指導」(90分)
- 第14回 講義「文法の指導」(90分)
- 第15回 総括(90分)

クラスによってはミニ模擬授業と講義の順序が入れ替わる可能性もある。

【授業の進め方】

学生の主体的な学びを促すことを目的として、教員による講義だけでなくグループでのディスカッションやミニ模擬授業など、多面的な学習活動を展開する。なおディスカッションに際しては積極的にタブレット端末等を利用して情報収集をすることもある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法 ②望月昭彦 編著 ③大修館書店 ④2010 ⑤2484 ⑥978-4-469-24558-5
- ①中学校学習指導要領解説 外国語編 ②文部科学省 ③開隆館 ④2008 ⑤100 ⑥978-4-304-04161-7
- ①高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編 ②文部科学省 ③開隆館 ④2010 ⑤162 ⑥978-4-304-04164-8

【参考図書】

必要に応じて適宜配付する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 30% 授業内小試験 45% レポート・課題 0% 受講態度 25%

特記事項

「授業内小試験」はミニ模擬授業での評価(30%)およびGW明け小テスト(15%)を指す。「受講態度」には授業への参加度のほか、模擬授業の振り返りシートをはじめとした各種提出物や、模擬授業後のディスカッションにおける発言の積極性などが含まれる。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

模擬授業で教師の英語使用が極端に少ない場合は減点の対象にするので注意すること。

【履修上の心得】

6回以上欠席した場合は原則「H」となる。また遅刻3回で欠席1回とする。原則3回以上欠席した場合は「B」以下

となる。実習などのやむをない理由で欠席する場合は、事前に欠席届を提出すること。

【科目のレベル、前提科目など】

英語科教育法Ⅰを履修済みであることが望ましい。また英語科教育法Ⅲを受講する前に履修しておくことが望ましい。

科目名	英語科教育法Ⅲ
教員名	大木 俊英・奥山 慶洋・斎藤 明宏・宮里 恭子

【授業の内容】

この講座の目的は、中学校または高等学校における外国語としての英語の授業で、学習指導要領に示されている目標を達成するに足る実践的な指導能力を養うことである。英語指導法に関して英語科教育法Ⅰ、Ⅱなどで学んだ理論と実践を展開し、具体的な授業を想定し、中学校・高等学校の教科書を使用して指導案を作成し、模擬授業を行う。模擬授業の後は「模擬授業チェックリスト」で今後取り組むべき課題を明確にする。教育実習を想定して実際に自らが授業を行い、また、クラスメートの模擬授業を見て相互に学び合うことで実践的な授業力を養う。模擬授業では、教科書の文法などの学習項目を指導し、その内容を使えるようになるためのアクティビティーを取り入れること。

【到達目標】

このクラスの授業を終了した後は、学習指導要領に示されている目標を達成する授業を行うことが出来るようになっている。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション(20分)、模擬授業の日程決め(20分)、学習指導要領の要点の確認等(50分)
- 第2回 授業計画①(授業の流れ：30分、指導案の書き方：20分、題材の選定：40分)
- 第3回 授業計画②(発問&活動計画：90分)
- 第4回 授業計画③(教材&プリント作成：45分、板書計画：45分)
- 第5回 模擬授業①(45分×2名)…読解1
- 第6回 模擬授業②(45分×2名)…読解2
- 第7回 模擬授業③(45分×2名)…読解3
- 第8回 模擬授業④(45分×2名)…読解4
- 第9回 模擬授業⑤(45分×2名)…読解5
- 第10回 模擬授業⑥(45分×2名)…文法1
- 第11回 模擬授業⑦(45分×2名)…文法2
- 第12回 模擬授業⑧(45分×2名)…文法3
- 第13回 模擬授業⑨(45分×2名)…文法4
- 第14回 模擬授業⑩(45分×2名)…文法5
- 第15回 総括(90分)

模擬授業の実践を通して、基礎知識の指導、英語によるコミュニケーション能力養成のための指導、教具・教育機器の扱い方、小テスト作成などを実践する。模擬授業後、授業の分析と評価を行う。さらに、授業に関連した諸問題(教室英語、テーマテッチング、コミュニケーション指導、文法指導、発音指導、楽しい英語授業、わかる英語授業、感動する英語授業、意欲を高める授業、生徒からの答えに窮する質問への対応等)について議論する。

【授業の進め方】

学生による模擬授業とその後のディスカッションを中心として多面的な活動を行っていく。模擬授業の45分には準備とディスカッションの時間も含まれる。なおディスカッションに際しては積極的にタブレット端末等を利用して情報収集をすることもある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

なし

【参考図書】

望月昭彦 編著(2010)『改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』東京：大修館書店
 文部科学省(2008)『中学校学習指導要領解説 外国語編』東京：開隆館出版
 文部科学省(2010)『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』東京：開隆館出版
 ※上記3冊は英語科教育法Ⅱまでに購入済みのもの。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 25% 授業内小試験 50% レポート・課題 0% 受講態度 25%

特記事項

- ・定期試験の代わりにレポートや授業外課題を課すこともある。
- ・「授業内小試験」は模擬授業のことを指す。積極的に教室英語を使用した学生には加点する。反対に、極端に日本語の使用が多かった学生は減点することがあるので注意すること。
- ・「受講態度」には授業への参加度に加え、ディスカッションへの貢献度、課題の提出状況などが含まれる。担当教員により提出すべき課題は異なるのでよく確認すること。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・教育実習を想定した準備科目である。遅刻や無断欠席（教育実習で認められない）はしないこと。
- ・教育実習で欠席する場合は実習前に届け出を行うこと。事前の届けがない場合は公欠扱いにしないこともある。

【履修上の心得】

教育実習に備え、意識を高め、自主的に準備に取り組む（自律学習）ことが大切である。また、イングリッシュラウンジやセルフアクセスランゲージセンターを利用し英語を聞いたり話したりする機会を増やすこと。

【科目のレベル、前提科目など】

- ・英語科教育法Ⅰ及びⅡは、内容・目的ともに直接関連している。
- ・模擬授業を経験することで教育実習にそなえる。
- ・教育実習に行く者には、英語科教育法Ⅳまで履修することを勧める。

科目名	英語科教育法Ⅳ
教員名	大木 俊英

【授業の内容】

本講座は、将来中学校や高等学校で英語教師になることを本気で目指している人の、更なるスキルアップをねらいとして開講されている科目である。このねらいを達成するため、本講座では英語科教育法Ⅲまでに扱うことのできなかった発展的な内容や先進的な理論や授業の方法について、学生主体の活動を通して学んでいく。

【到達目標】

- ①学習指導要領解説をもとに技能統合型の活動を考え、模擬授業で実践することができる。
- ②次期学習指導要領でキーワードとなっている「アクティブ・ラーニング(以下 AL)」について学び、その理論を取り入れた文法指導を計画できる。
- ③英語の評価やテストに関する理論について基本的知識を身につけ、テストの信頼性や項目の弁別度を算出したり、テストを実際に作成したりすることができる。
- ④将来大学入試への導入が検討されている「TEAP(Test of English for Academic Purposes)」の問題構成を知り、問題を解くことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション(20分)、模擬授業のメンバー・日程の決定(20分)、技能統合型の活動(50分)
- 第2回 TEAP解説(20分)、テスト理論(四技能の構成概念、CEFR-Jなど)(30分)、グループでテスト作成(40分)
- 第3回 TEAP解説(20分)、作成したテストの妥当性を考える(30分)、項目弁別度とテストの信頼性(40分)
- 第4回 TEAP解説(20分)、AL型授業について(20分)、各種教科書の文法配列の調査(50分)
- 第5回 TEAP解説(20分)、AL型授業用文法プリントの作成(70分)
- 第6回 TEAP解説(20分)、文法プリントの相互チェック(70分)
- 第7回 模擬授業&ディスカッション(90分) ※時間配分は履修者の数による。
- 第8回 模擬授業&ディスカッション(90分)
- 第9回 模擬授業&ディスカッション(90分)
- 第10回 模擬授業&ディスカッション(90分)
- 第11回 模擬授業&ディスカッション(90分)
- 第12回 模擬授業&ディスカッション(90分)
- 第13回 模擬授業&ディスカッション(90分)
- 第14回 模擬授業&ディスカッション(90分)
- 第15回 模擬授業の振り返り(30分)、総括(60分)

授業の進度にあわせて予習復習課題はその都度指示する。

【授業の進め方】

教師が講義を行う時間もあるが、学生が主体となって行う活動をなるべく多く取り入れる予定である。議論には積極的に参加してほしい。また5回予定している「TEAP解説」では、その名が示す通り授業では解説しか行わないため、授業前に問題を解いてわからないところを明らかにしておくことが望まれる。なお議論に際しては積極的にタブレット端末等を利用して情報収集をすることもある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①大学入試合格のためのTEAP実践問題集 ②なし ③旺文社 ④2015 ⑤2000 ⑥978-4-01-094093-8
- ①中学校学習指導要領解説・外国語編 ②文部科学省 ③開隆堂 ④2008 ⑤69 ⑥978-4-304-04161-7
- ①高等学校学習指導要領・外国語編・英語編 ②文部科学省 ③開隆堂 ④2010 ⑤158 ⑥978-4-304-04164-8

【参考図書】

- ・静哲人(2002)『英語テスト作成の達人マニュアル』東京：大修館書店
- ・望月昭彦・深澤真・印南洋・小泉理恵 編著『英語4技能評価の理論と実践』東京：大修館書店
- ・小林昭文(2015)『アクティブラーニング入門』東京：産業能率大学出版部
- ・上山晋平(2016)『英語教師のためのアクティブ・ラーニング・ガイドブック』東京：明治図書
- ・寺島隆吉 監修(2016)『寺島メソッド 英語アクティブ・ラーニング』東京：明石書店
- ・西川純 編集(2016)『すぐ実践できる！アクティブ・ラーニング中学英語』東京：学陽書房

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 30% 授業内小試験 30% レポート・課題 20% 受講態度 20%

特記事項

「定期試験」は講義内容に加え、TEAPの問題集からも出題する。「授業内試験」は模擬授業を指す。「レポート・課題」

はグループで作成したテストとAL型文法プリントが含まれる(各10%)。「受講態度」はディスカッションにおける発言の積極性などを含む授業への参加度を指す。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

活動の内容にもよるが、模擬授業では指導言語に英語を70%以上用いること。日本語の使用が多い場合は減点の対象とする。

【履修上の心得】

大学の規則に則り、欠席が授業回数の1/3(5回)を超えた者には原則「H」評価を与える。また、授業内の活動を通して学ぶことが多いため、3回以上欠席した者には原則「B」以下の成績しか与えない。実習等のやむを得ない事情で欠席する場合は事前に届を提出すること。

【科目のレベル、前提科目など】

英語科教育法Ⅰ～Ⅲをすべて履修しておくことが望ましい。

科目名	教材研究
教員名	宮里 恭子

【授業の内容】

教材研究のマクロ的視野として、様々な学校教科書の教材分析と比較研究することにより、それぞれの教科書の言語観・教育観やカリキュラムの相違点を見出し、自分の教育観に照らし合わせる。また、具体的な授業運営のための授業準備の仕方を順序立てて学んでいく。更にアクティビティーの重要性を認識し、実際にマイクロティーチングのなかで実践練習をする。年間指導計画の立て方、単元目標に基づく単元計画の立て方も学ぶ。また、グループでのディスカッションやプレゼン、ペアや単独での授業実践などを通し、授業で学んだことをもとに深く考察したり、授業準備の実践に役立てる。

【到達目標】

1. 学習指導要領を理解し、それをもとに様々な学校教科書の教材分析と比較研究を行い、教科書の多様性に気付く。グループで分析した内容を、パワーポイントや電子黒板を使って発表する。
2. 授業展開の基本や授業に必要な教材研究の仕方を学ぶ。
3. 授業の補助として使えるさまざまな教材と教具についての知識を深める。
4. 批判的教材研究を行い、足りないものを補ったりや省いたり作り変えたりしながら補助教材作りのノウハウを学ぶ。
5. 指導目標に沿って年間指導計画や、単元目標に沿って単元計画案を作成することができる。与えられた教材をみて、どのくらいの時間をかけ、どのような手順で授業を行うか、具体的な授業内容も含めて計画を立てることができる。
6. アクティビティーをチームティーチング、または単独でマイクロティーチングをし、実践演習する。
7. クラスメートの授業実践に参加しながら、指導技術を相互に学び合い、ティーチング技術を高める。
8. 毎回の小グループでのディスカッションやクラスディスカッションを通して、批判的思考を深め、他人の意見を聞いてそれを参考にしながら自分なりの意見を構築する。

【授業計画】

- 第1回 コース説明・教材研究、教材分析
- 第2回 教材評価・学習指導要領読解/解説
- 第3回 学校英語教科書教材分析準備(グループ)
- 第4回 中学英語教科書教材研究グループ発表 新中1・中2・中3
パワーポイントや電子黒板を利用した分析発表とする。
- 第5回 中学英語教科書教材研究グループ発表 新旧中1・中2・中3
パワーポイントや電子黒板を利用した分析発表とする。
- 第6回 高校英語教科書教材研究グループ発表 コミュニケーション英語Ⅰ・英語会話
パワーポイントや電子黒板を利用した分析発表とする。
- 第7回 授業準備Ⅰ(挨拶・small talk・warm-up、前時の復習、導入、新出単語、発音練習)、小グループ実践
- 第8回 授業準備 授業準備Ⅱ(今日の文法・表現の説明、ドリル練習、音読)、小グループ実践
- 第9回 授業準備Ⅲ(英語・コミュニケーション活動、まとめ、留意点)
- 第10回 いろいろな教材(指導用マニュアル、コンピュータ教材)と教育機器
年間指導計画と単元計画の立て方
- 第11回 アクティビティーマイクロティーチング実践(グループ1、イントロで行うアクティビティー)
- 第12回 アクティビティーマイクロティーチング実践(グループ2、文法項目に沿ったアクティビティー)
- 第13回 アクティビティーマイクロティーチング実践(グループ3、ライティング・リーディングのアクティビティー)
- 第14回 アクティビティーマイクロティーチング実践(グループ4、4技能のアクティビティー)
- 第15回 マイクロティーチング省察、単元計画作成

【授業の進め方】

- * 講義については、教材研究のアプローチを概観し、各教材の評価・分析などの諸問題についてを学ぶ。毎回、小グループやクラス全体でのディスカッションの場を設けるので、自分の意見を述べたり他の人の意見を参考にしながら、その日のトピックについての理解を深める。
- * グループでそれぞれの検定教科書について長所や改善すべき点などについて考察し、その内容をパワーポイントや電子黒板を利用しながら全体での発表・ディスカッションを行う。その過程を通して、それぞれの教材に関する特徴を深く探求する。
- * 授業運営や授業展開の基本を学び、実際の授業のための準備のノウハウを習得する。特に、様々な英語活動についてその目的や実践方法などを学習し、チームティーチング、または単独での言語活動の授業実践を体験する。
- * 年間指導計画をもとに、指導目標を立て、単元計画の立て方を学ぶ。ある教材について、どのくらいの時間をかけ、どの手順で、どんな内容を盛り込んで授業をすべきか、教材分析や授業展開など学んだ内容を参考にしながら、綿密な単元計画を立てる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教材は特に使用しないが、ハンドアウトを配布する予定。教育法 I で使用した教科書を一部使用する。文科省の英語科学習指導要領も用いる。

【参考図書】**[推薦図書]**

言語活動成功事例集 藤井/バーケル 開隆堂 952円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 50% 受講態度 20%

特記事項

普段の授業での貢献度、及び、出席状況などを受講態度として評価に入れる。小グループでの教科書分析発表、チームティーチングでの授業実践、単元計画作成試験などを評価対象とする。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

* 遅刻は30分まで認める。その日のうちに遅刻を自ら申し出ること。後の訂正は原則として認めない。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。やむを得ない状況を除き、5回以上欠席の場合はHとなる。また、原則3回以上欠席した場合は総合評価B以下となる。

【履修上の心得】

- * ディスカッションやアクティビティを毎回行うので、積極的に参加すること。クラスでの発言・参加について、授業貢献度のなかで考慮する
- * 3年生以上で、教育実習で10月、11月中に3回以上欠席する場合は、原則履修を認めない。実習がある場合は担当教員に事前に相談し了承を得てから履修登録をすること。

【科目のレベル、前提科目など】

英語科教育法 I を履修済みであること。

科目名	コミュニケーション英語指導法
	Communicative English Teaching
教員名	Jeffrey Miller

【授業の内容】

Communicative English Teaching (コミュニケーション英語指導法) has Hakuoh students team-teach (TT) as a Japanese Teachers of English (JTE) with J. Miller or exchange students as an Assistant Language Teacher (ALT). Each practice JTE teacher and his/her peers will evaluate the good and bad elements of his/her teaching. Photocopies of Ministry of Education and Science (MEXT) junior high English textbooks and teachers' manuals will be used.

コミュニケーション英語指導法では、チームティーチング(TT)を学ぶ。学生が日本人の英語教師(JTE)の役割をし、教員(ミラー)又は交換留学生在が外国語指導助手(ALT)を演じ模擬授業を行う。授業の様はそのつどグループの他の学生が良かった点、改めるべき点など交えて批判し評価し合う。文部科学省検定済の中学校英語教科書と教師用マニュアルのプリントを使う。

【到達目標】

Communicative English Teaching (コミュニケーション英語指導法) is designed to provide future JTEs with the confidence and experience to successfully team-teach English classes "in English" with an ALT. This course focuses on using English as a communicative tool to maximize "output."

この科目では、将来英語教師(JET)を目指す学生が外国語指導助手(ALT)と行う授業に自信を持って臨めるよう、また上手なチームティーチング授業を体験できるように構成されている。また教室内で生徒達のアウトプットを最大にできるようなコミュニケーションツールとしての英語に焦点を当てる。

【授業計画】

- 第 1 回 Class overview, introduction of New Horizon middle school English textbook, schedule of practice Team Teaching (TT) with J. Miller or exchange students as the ALT; student self introductions and discussion about Communicative English Teaching [Classwork: students write opinions about successful JTE-ALT TT classes in 30-40 words]
- 第 2 回 Read student opinions, J. Miller observations about good TT classrooms. Divide the students into JTE and ALT teams for 10 minute TT mini-lessons (only text, NO activities) by date. When teaching, peers write evaluations for later analysis and discussions. MEXT junior high TT handbook handouts.
- 第 3 回 Initial 3/4 JTE-ALT (J. Miller or exchange students) TT pairs teach: first each JTE explains to the ALT in English from the written lesson plan, then they teach for 10 minutes based on the textbook. Peers write evaluations of one person in 30 words on what was good (2/3) and what needs improvement (1/3). Teacher students evaluate themselves in 45 words, at the same ratio. All evaluations are graded, some are read aloud and returned. Then the next two or three JTE-ALT pairs teach.
- 第 4 回 Last week's better corrected evaluations are read aloud by for feedback (without the writer's name). That day's 3-4 JTE ALT TT-pairs teach as in week 3. Other students evaluate one pair, teachers evaluate themselves.
- 第 5 回 Better corrected evaluations are read aloud for feedback. That day's 3-4 JTE ALT TT-pairs teach. Other students evaluate one pair, teachers evaluate themselves.
- 第 6 回 Better corrected evaluations are read aloud for feedback. That day's 3-4 JTE ALT TT-pairs teach. Other students evaluate one pair, teachers evaluate themselves. After all JTEs have taught the longer, 15-minute teaching teams are chosen, an activity is added to the required textbook teaching. [Homework: read first four pages of J. Miller's Okinawa English teacher research]
- 第 7 回 Better corrected evaluations are read aloud for feedback. J. Miller's 248 Okinawa English teacher survey research discussion and quiz. Second New Horizon teaching copies are distributed.
- 第 8 回 J. Miller's research quizzes returned. First of 3/4 longer (15-minute) student JTE-ALT TT mini-lessons. One minute to explain, teach for 15 minutes with an activity (written evaluations by peers, teachers analyze themselves, all are graded and returned). Second and third teams teach.
- 第 9 回 J. Miller reads aloud better analysis papers for feedback. First student group JTE-ALT TT mini-lessons while peers analyze. Written (graded) analysis of this first group will be on voice use and English pronunciation.
- 第10回 J. Miller reads aloud better analysis papers for feedback. Second student group JTE-ALT TT mini-lessons while peers analyze. Written (graded) analysis of this second group will be on the balance of Japanese and English in the mini-lessons.
- 第11回 J. Miller reads aloud better analysis papers for feedback. Third student group JTE-ALT TT mini-lessons while peers analyze. Written (graded) analysis of this third group will be on communicative activities the mini-lessons.
- 第12回 J. Miller reads aloud better analysis papers for feedback. Fourth student group JTE-ALT TT mini-lessons while peers analyze. Written (graded) analysis of this fourth group will be on learner participation in the mini-lessons.
- 第13回 J. Miller reads aloud better analysis papers for feedback. Fifth student group JTE-ALT TT mini-lessons while peers analyze. Written (graded) analysis of this fifth group will be on overall English teaching aspects of the

mini-lessons.

第14回 Initial review for the written and aural (including selected "classroom English" expressions spoken only ONCE, to be used) on the final exam.

第15回 Final review for the written and aural final exam.

Communicative English Teaching has students practice teaching using actual junior high school textbooks and teacher manuals. After a brief overview, future JTEs will learn how to make lesson plans, design interactive listening and speaking exercises, and effectively control an English class. J. Miller or exchange students will act as the ALT for future JTEs to team-teach with. Other students will be the "learners" and will evaluate the effectiveness of the TT session.

学生は実際の中学校教科書と教師マニュアルを用いて模擬授業を行う。簡単な概要の後、英語教師を目指す学生たちはレッスンプランの作り方、会話式のリスニングやスピーキング練習法の構成、また教室を効果的にコントロールする方法などを学ぶ。将来の英語教師の学生に対し、ミラー又は交換留学生在がALTの役目をしてチームティーチングを学ぶ。見守る他の学生たちは生徒の視点からチームティーチングの効果について評価する。

【授業の進め方】

The course will meet once a week for a semester and will be taught in intermediate level English. No set textbook will be used but the instructor will provide photocopies. Students should actively use classroom English that they already know with proper articulation.

週1回のクラスは中級レベルの英語で授業が行われる。決められた教科書はないが、教員が適切な資料を用意する。学生は明瞭な発音、適切な発声で実際の教室で使用する英語を積極的に使うこと。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

There is no fixed textbook but the instructor will photocopy material from a number of sources. The students are expected to keep all the material in a folder that they bring to class every time.

決められた教科書はなし。教員が様々な分野からの資料をプリントして配布する。学生はそれらを保存しファイルしたフォルダを毎回クラスに持ってくるのが求められる。

【参考図書】

MEXT Team-teaching handbook

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 60% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

The course will involve: JTE team-teaching with an ALT, evaluation, MEXT English textbook and J. Miller's 248 Okinawa English teacher research study.

ALTとのJTE チームティーチング、TTの評価、MEXT 英語教科書やミラーの248名の沖縄県英語教師に対するリサーチ論文学習。

【履修上の心得】

Regular attendance is absolutely required.

普段の出席が絶対的に必要

科目名	小学校英語教育/専門特講(小学校英語教育)
教員名	大木 俊英

【授業の内容】

小学校英語教育の現状と問題点を概観し、その意義と目的を考察する。また、具体的な指導法や評価、TTなどの諸問題、児童に適した言語活動などについて学ぶ。さらに『Hi, Friends』で扱われている言語材料やテーマを題材にしたマイクロティーチングを行い、児童に対する英語の教え方を実践する。

【到達目標】

1. 小学校英語教育の現状と問題点を概観し、その意義と目的について理解している。
2. 指導法や評価、TTなどの諸問題についての基本的知識がある。
3. 児童に適した言語活動やゲームを、ペアやグループで行うことができる。

【授業計画】

- 第1回 コース説明(20分)、過去の振り返り(20分)、近年の英語教育の動向(30分)、授業を通して学びたいこと(20分)
 第2回 教員によるデモンストレーション(60分)、質疑応答(15分)、学びたいことのまとめ(15分)
 第3回 小テスト(概論 第1・2章)(30分)、解説deクイズ(60分)
 第4回 小テスト(概論 第3・4章)(30分)、講義「児童英語教育に関わる諸理論」(30分)、動画視聴(30分)
 第5回 小テスト(概論 第5・6章)(30分)、講義「単元の指導計画」(30分)、動画視聴「表現導入の例：Whose footprint is this?」(30分)
 第6回 小テスト(概論 第7・8章)(30分)、講義「教室英語」(30分)、活動実践「定番のゲーム活動」(30分)
 第7回 小テスト(概論 第9・10章)(30分)、講義「英語の発音」(30分)、動画視聴「コミュニケーション活動の例：漢字の画数」(30分)
 第8回 小テスト(実践 第1・2章)(30分)、講義「ALTとのTT」(30分)、動画視聴「ALTを活かした異文化理解活動」(30分)
 第9回 小テスト(実践 第5・7章)(30分)、指導案の書き方(30分)、動画視聴「歌の指導」(30分)
 第10回 小テスト(実践 第8・10章)(30分)、マイクロティーチング準備(60分)
 第11回 学生マイクロティーチングおよびフィードバック(90分)
 第12回 学生マイクロティーチングおよびフィードバック(90分)
 第13回 学生マイクロティーチングおよびフィードバック(90分)
 第14回 学生マイクロティーチングおよびフィードバック(90分)
 第15回 総括(90分)

【授業の進め方】

小テストの解説を通して基本的概念や理論の確認を行う。アクティビティーの体験、授業ビデオの鑑賞などを適宜織り交ぜて授業を進める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①小学校外国語活動の進め方：「ことばの教育」として ②岡秀夫・金森強 ③成美堂 ④2012 ⑤3024 ⑥978-4791971541
 ①小学校学習指導要領解説 外国語活動編 ②文部科学省 ③東洋館出版社 ④2008 ⑤75 ⑥978-4491023779

【参考図書】

- ①文部科学省(2012)『Hi, Friends 1』東京：東京書籍
- ②文部科学省(2012)『Hi, Friends 2』東京：東京書籍
- ③直山木綿子・編著(2011)『英語ノート1を活用した英語活動の授業』東京：小学館
- ④直山木綿子・編著(2011)『英語ノート2を活用した英語活動の授業』東京：小学館

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 30% 授業内小試験 40% レポート・課題 20% 受講態度 10%

特記事項

「授業内小試験」には、授業のはじめに行う小テスト(20%)とマイクロティーチング(20%)が含まれる。「レポート・課題」は発音学習ソフト(発音検定)を用いた課外学習の成績を指す。「受講態度」には発言の積極性や提出物等での評価を指す。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

学則に則り、欠席が全授業回数の1/3(5回)を超えた場合は原則「H」評価とする。

【履修上の心得】

本講座は受講者一人一人の指導力を養うため、履修者数に制限を設けている。単位目的の学生は履修登録を遠慮してほ

しい。なお授業を欠席することは学生本人にとって大変な不利益となるため、欠席や遅刻にはくれぐれも注意すること。実習等で欠席した回の内容についても友人に資料をもらうなどして学習しておくこと。

【科目のレベル、前提科目など】

英語の指導に全く知識や経験のない人を対象とした初級講座である。選択科目の「早期英語教育」や専門特講の「Picture Books」とは分野が関連している。

科目名	小学校英語教育/専門特講(小学校英語教育)
教員名	佐久間 康之

【授業の内容】

小学校英語教育の現状と問題点を概観し、その意義と目的を考察する。また、具体的な指導法や評価、TTなどの諸問題、児童に適した言語活動などについて学ぶ。さらに『Hi, Friends』で扱われている言語材料やテーマを題材にしたマイクロティーチングを行い、児童に対する英語の教え方を実践する。

【到達目標】

1. 毎回授業に予習をして積極的に参加する。
2. 基礎的レベルの英語を理解できる。
3. 外国語活動全般の幅広い知識を得ることができる。
4. 外国語活動の授業を的確に観察できる。
5. 外国語活動の基本的な授業を実施できる。

【授業計画】

- 第1回 コース説明、外国語活動の振り返り、授業を通して学びたいこと
 第2回 外国語活動の意義と課題
 第3回 小テスト1、小学校英語教育の歴史、小中学校における英語教育の共通点と相違点、小・中・高の学習指導要領の特徴
 第4回 早期英語教育の現状と課題：海外&国内
 第5回 第二言語習得理論：心理言語学的視点（1）
 第6回 小テスト2、第二言語習得理論：心理言語学的視点（2）
 第7回 第二言語習得理論：心理言語学的視点（3）
 第8回 『Hi, Friends!』について、指導計画の立て方、定番のゲーム活動
 第9回 小テスト3、『実際の指導手順、歌・チャンツを用いた音声指導、インフォメーションギャップ活動
 第10回 指導案の書き方、TTについて、『Hi, Friends!』を使用した授業の展開事例（1）
 第11回 『Hi, Friends!』を使用した授業の展開事例（2）、マイクロティーチング準備
 第12回 小テスト4、学生マイクロティーチング(G1～4)
 第13回 学生マイクロティーチング(G5～8)
 第14回 学生マイクロティーチング(G9～12)
 第15回 総括

【授業の進め方】

『小学校外国語活動の進め方：「ことばの教育」として』をもとに、教師による理論と実践に関する講義、アクティビティの体験、授業ビデオの鑑賞などを適宜織り交ぜて授業を進める。さらに、音声理解の基礎体力として定期的に小テストとして『英語リスニング中級編』を基にリスニングテストを実施する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①小学校外国語活動の進め方：「ことばの教育」として ②岡秀夫・金森強 ③成美堂 ④2012年 ⑤2,800(税別)
 ⑥978-4-7919-7154-1
 ①4週間集中ジム 英語リスニング 日常・ビジネス編 ②松浦浩子・佐久間康之 ③アスク ④2016年 ⑤1,600(税別)
 ⑥978-4-87217-855-5

【参考図書】

- 文部科学省(2008)『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』
 文部科学省(2012)『Hi, Friends 1』東京書籍
 文部科学省(2012)『Hi, Friends 2』東京書籍

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 30% レポート・課題 10% 受講態度 10%
 特記事項
 授業への参加姿勢、小テスト、マイクロティーチング、定期試験により評価を行う。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

学則に則り、欠席が3分の1を超える場合は原則「H」評価となる。授業開始時刻30分を遅れて入室した場合、授業に参加できるが欠席扱いとする。

【履修上の心得】

本授業は、小学校教員に本気でなりたい学生を対象に、外国語活動の実践的な指導力を養うことを目的としているため、単位目的での履修は遠慮してほしい。なお、授業を欠席することは学生本人にとって大変な不利益となるので、欠席や遅刻にはくれぐれも注意すること。実習等で欠席した回の内容についても友人に資料をもらうなどして学習しておくこと。

【備 考】

<<注意>>履修希望者は最初の授業に必ず参加して下さい。その際に教科書の発注部数を確定いたします。なお、初回に参加しない方は自分でネット等を利用し教科書等を速やかに(1週間以内)に購入し授業に持参下さい。

科目名	英語コミュニケーション教育特講
	4領域統合による英語コミュニケーション授業
教員名	木村 記子

【授業の内容】

授業内容：現在の教育現場では、2013年より開始された高等学校新指導要領によって、「英語は英語で教える」ことを骨子とした授業が展開されている。更に、「次期学習指導要領に向けての審議のまとめ」の中にも見られるように、小学校の英語の教科化から始まり、中学校英語も一層コミュニケーション重視となり、高等学校英語も更に4技能統合によるオールラウンドの英語習得が進むことが予想される。この授業では、これから特に中学校・高校の英語教員を目指す学生に、この教育現場に合うようなコミュニケーション中心の英語教育と指導方法を学んでもらうことになる。

具体的には、Task-Based Language Teaching(TBLT)の理論と実践を通して、授業のTaskの作り方、授業の展開の仕方を学び、模擬授業を通して実践力を伸ばしていくことを目的にしている。TBLTの教材はこちらでプリントを準備する。模擬授業で使うテキストは、図書館で借りる等、自分で準備すること。

【到達目標】

中学校・高等学校での英語の授業を行うに当たり、実践的指導案の書き方、実践的指導方法を学び、自信を持って教科書、教材の展開・応用ができるようにする。

また、何回かの模擬授業（履修者の数による）を通して、授業観察の目的・方法を学び、相互評価をすることによって、自分自身の授業を振り返り、論理的、客観的に授業評価、授業観察ができるようにする。

【授業計画】

第1回 授業のIntroduction。自己紹介、授業の進め方、模擬授業の発表の準備等の話し合い。

第2回 Task-Based Language Teachingの講義。 論文紹介。現場での英語による授業の進め方のdiscussion。

第3回 第1回で決めた順序に従って、手持ちのテキスト、或いは図書館で借り出したテキストを使って模擬授業の発表スタート。

必ず、指導案、タスクを作成し、ハンドアウトを参加者全員に配布できるようにする。

プロジェクター等を使用する場合は前もって、教員に連絡をすること。

履修者が多い場合は、1回に2名ずつ、少ない場合は、1名ずつになる。

第4回 第1回で決めた順序に従って、手持ちのテキスト、或いは図書館で借り出したテキストを使って模擬授業の発表スタート。

必ず、指導案、タスクを作成し、ハンドアウトを参加者全員に配布できるようにする。

プロジェクター等を使用する場合は前もって、教員に連絡をすること

第5回 第1回で決めた順序に従って、手持ちのテキスト、或いは図書館で借り出したテキストを使って模擬授業の発表スタート。

必ず、指導案、タスクを作成し、ハンドアウトを参加者全員に配布できるようにする。

プロジェクター等を使用する場合は前もって、教員に連絡をすること

第6回 第1回で決めた順序に従って、手持ちのテキスト、或いは図書館で借り出したテキストを使って模擬授業の発表スタート。

必ず、指導案、タスクを作成し、ハンドアウトを参加者全員に配布できるようにする。

プロジェクター等を使用する場合は前もって、教員に連絡をすること

第7回 第1回で決めた順序に従って、手持ちのテキスト、或いは図書館で借り出したテキストを使って模擬授業の発表スタート。

必ず、指導案、タスクを作成し、ハンドアウトを参加者全員に配布できるようにする。

プロジェクター等を使用する場合は前もって、教員に連絡をすること

第8回 第1回で決めた順序に従って、手持ちのテキスト、或いは図書館で借り出したテキストを使って模擬授業の発表スタート。

必ず、指導案、タスクを作成し、ハンドアウトを参加者全員に配布できるようにする。

プロジェクター等を使用する場合は前もって、教員に連絡をすること

第9回 第1回で決めた順序に従って、手持ちのテキスト、或いは図書館で借り出したテキストを使って模擬授業の発表スタート。

必ず、指導案、タスクを作成し、ハンドアウトを参加者全員に配布できるようにする。

プロジェクター等を使用する場合は前もって、教員に連絡をすること

第10回 第1回で決めた順序に従って、手持ちのテキスト、或いは図書館で借り出したテキストを使って模擬授業の発表スタート。

必ず、指導案、タスクを作成し、ハンドアウトを参加者全員に配布できるようにする。

プロジェクター等を使用する場合は前もって、教員に連絡をすること

第11回 第1回で決めた順序に従って、手持ちのテキスト、或いは図書館で借り出したテキストを使って模擬授業の発表スタート。

必ず、指導案、タスクを作成し、ハンドアウトを参加者全員に配布できるようにする。

プロジェクター等を使用する場合は前もって、教員に連絡をすること

第12回 第1回で決めた順序に従って、手持ちのテキスト、或いは図書館で借り出したテキストを使って模擬授業の発表スタート。

必ず、指導案、タスクを作成し、ハンドアウトを参加者全員に配布できるようにする。

プロジェクター等を使用する場合は前もって、教員に連絡をすること

第13回 第1回で決めた順序に従って、手持ちのテキスト、或いは図書館で借り出したテキストを使って模擬授業の発表スタート。

必ず、指導案、タスクを作成し、ハンドアウトを参加者全員に配布できるようにする。

プロジェクター等を使用する場合は前もって、教員に連絡をすること

第14回 第1回で決めた順序に従って、手持ちのテキスト、或いは図書館で借り出したテキストを使って模擬授業の発表スタート。

必ず、指導案、タスクを作成し、ハンドアウトを参加者全員に配布できるようにする。

プロジェクター等を使用する場合は前もって、教員に連絡をすること

第15回 第1回で決めた順序に従って、手持ちのテキスト、或いは図書館で借り出したテキストを使って模擬授業の発表スタート。

必ず、指導案、タスクを作成し、ハンドアウトを参加者全員に配布できるようにする。

プロジェクター等を使用する場合は前もって、教員に連絡をすること

この授業は、半期の計画なので、実践授業をメインにして進めて行く。

授業履修者の人数にもよるが、Task-Basedの授業は展開に時間がかかるので1回ごとに1名が望ましいが、履修者の人数が決まってからの相談となる。

第3回目～15回目まで履修者による模擬授業は、各自、授業を録画するためのSDカードを準備し、お互いに録画をして、評価後の振り返りに利用する。

くれぐれも、授業当事者でない履修者は、観察力を磨き、自身の授業に活かしていくことが望まれる。授業中の各自のコメントも評価の対象になることを忘れないように。

【授業の進め方】

基本的には、数回の講義の後は履修者の模擬授業の発表と参加者との相互評価によるdiscussion、指導者によるadviceによって知識を積み上げて行く。中盤に講義についての小テスト、終盤に小さい論文のレポートが課せられる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

模擬授業で使う中学校・高校のテキストは、自分の実習校に問い合わせ、図書館で借りるか自分で購入する。

【参考図書】

Approaches and Methods in Language Teaching by Jack C. Richards and Theodore S. Rogers Cambridge

Beyond Training by Jack C. Richards Cambridge Language Teaching Library

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 30% 受講態度 40%

特記事項

授業内小試験は休まないこと。休んで後日再試験を受けると評価が下がります。

レポート課題は記述までに必ず提出すること。未提出の場合は、単位が取れないこともあり得ます。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

受講態度には、模擬授業の準備、発表態度、授業参加の態度、貢献度(授業者へのコメント発表の様子)等が含まれる。

自分の発表の順番でない時も積極的に授業に参加することです。

【履修上の心得】

主に、中学校、高等学校の英語教員を目指す学生に適しています。教育実習を控えている学生、または、教育実習を終えて、さらに教育技術を磨きたい学生に参加してもらいたいと思います。

【科目のレベル、前提科目など】

英語教育に興味、情熱のある学生、自主的に学べる学生を期待しています。

【備考】

特になし。

科目名	英語で話す日本文化
	Japanese Culture in English
教員名	Paul del Rosario

【授業の内容】

Quite often people think of Japanese culture as Tea Ceremony or Kabuki, but culture also includes language, customs, values, and communication styles. By developing self-consciousness of your own culture, you can begin to appreciate people of other cultures.

At times, actions which are appropriate in one culture may be misinterpreted and cause friction to a person of a different culture. With this in mind, this course is designed to enable students to interact with a wide range of people by letting them reflect upon their own culture and express themselves in English.

日本の文化、と聞くと我々は茶道や歌舞伎など非日常的なものを考えがちだが、文化とはその土地の言語や習慣、価値観、コミュニケーションスタイルなど、我々の身近なものを含めたものである。自分の文化に対する自意識を高めることによって、我々は異なる文化を持つ人々に対して正しく認識できるようになる。

時々、ある文化では適切とされる行動が、違う文化ではその行動が異なる意味を持ったり、また衝突の原因にもなる。このような文化に対する考えをもとに、この講義を通して、履修者は自分の文化を考察し、また英語を使って自分の文化を表現することによって、様々な文化を持つ人々と相互交流できる能力を身につける。

【到達目標】

This course is designed to help students talk about themselves and their culture in English. Topics to be covered will include cultural awareness, identity and values, diversity, stereotypes, culture shock, and traditional and modern Japanese culture.

Activities will include: whole group, small group discussions, short individual research tasks.

この講義は、履修者が自分自身のことや自分の文化について英語で表現できる能力を身につけるために構成されている。講義で取り上げる内容は、文化的意識、アイデンティティ、価値観、多様性、ステレオタイプ、カルチャーショック、そして伝統的なものから現代の日本文化を中心に講義で扱う。

活動には、グループ全体、小グループディスカッション、短い個別の研究課題が含まれます。

【授業計画】

- 第1回 Course introduction (授業の概要説明)
- 第2回 Japan Now (ジャパンなう) - More than Just Tokyo Tower
- 第3回 Technology (テクノロジー) - What happened to the Walkman?
- 第4回 Anime 1 (アニメ) - Soft Power
- 第5回 Otaku (おたく) - Trend Makers
- 第6回 Manga Culture (マンガ文化) - Soft Power II
- 第7回 Manga Abroad (海外マンガ) - Beyond Japan's Shores
- 第8回 Food! (食べ物) - Have you ever tried....?
- 第9回 Japanese Design (日本のデザイン) - Silence is everything.
- 第10回 Secret Japan (日本のひみつ) - Did you know....?
- 第11回 Film: Okuribito (映画: おくりびと) - Aesthetics in Film
- 第12回 Project Preparation (プロジェクトの準備)
- 第13回 Final project (最終プロジェクト)
- 第14回 Final project (最終プロジェクト)
- 第15回 Course evaluation (授業評価)

【教科書(必ず購入すべきもの)】

Reference: "The End of Cool Japan: Ethical, Legal, and Cultural Challenges to Japanese Popular Culture" by Mark McLelland
Students: DO NOT PURCHASE THIS BOOK.

Instructor will provide handouts.

講義内で配布する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 40% 受講態度 30%

特記事項

Grades on this course will be determined by attendance, class participation, timely completion of assignments, tests, and presentations.

成績は、授業参加、期日による課題提出、テスト、プレゼンテーションから決められる。

科目名	ベーシック・イングリッシュ
	Basic Englishベーシックイングリッシュ
教員名	Paul del Rosario

【授業の内容】

This course will focus on exercising students' English skills through controlled discussions including pair work, small group work, and some whole class discussions. Topics will focus on SNS and its impact in how we communicate. Towards the end of the course, students will engage in a small research project which they will then present with their group in a poster session.

このコースでは、ペアワーク、小グループでの作業、およびいくつかのクラス全体での議論も含めて制御された議論を通じて、学生の英語力を行使することに焦点を当てます。のトピックでは、SNS、我々はどのように通信するかでその影響に焦点を当てます。コースの終わりに向かって、生徒はその後のポスターセッションでそれらのグループに提示する小さな研究プロジェクトに従事します。

【到達目標】

The aim of this course is to enable students to practice their English speaking and listening skills with SOME practice in reading and writing.; increase vocabulary through out-of-class reading and writing activities, and to develop students' confidence in using English in small group settings.

アウト・オブ・クラスの読み取りおよび書き込み活動を通じて増加語彙、小で英語を使う学生の自信を開発するために、このコースの目的は、学生は読み取りと書き込みにいくつかの練習で自分の英語スピーキングとリスニングスキルを練習できるようにすることですグループの設定。

【授業計画】

- 第1回 Course Introduction (コース紹介)
- 第2回 You in the past (過去のあなた)
- 第3回 You now (今のあなた)
- 第4回 SNS revolution (SNS革命)
- 第5回 YouTube
- 第6回 Facebook
- 第7回 Twitter
- 第8回 Mini-project (ミニプロジェクト)
- 第9回 Free media (無料メディア)
- 第10回 Final project introduction (最終的なプロジェクトの導入)
- 第11回 Professional Presenters (プロのプレゼンター)
- 第12回 Group work (グループワーク)
- 第13回 Final project poster session group 1 (最終的なプロジェクトのポスターセッションのグループ1)
- 第14回 Final project poster session group 2 (最終的なプロジェクトのポスターセッションのグループ2)
- 第15回 Course evaluation (コースの評価)

【教科書(必ず購入すべきもの)】

Grades in this course will be determined by homework, class participation, and the final project / presentation.
このコースのグレードは、宿題、クラス参加、最終的なプロジェクト/プレゼンテーションによって決定されます。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 40% 受講態度 30%

特記事項

Grades on this course will be determined by class participation, mini-projects, final project.
このコースの成績は、クラス参加、ミニプロジェクト、最終的なプロジェクトによって決定されます。

科目名	アカデミック・レクチャー
	Academic Lecture
教員名	Harry Harris

【授業の内容】

Academic Lecture is designed to help students develop English listening and note-taking skills for use in academic and other environments.

アカデミック・レクチャーは、学術及びその他の分野での英語のリスニングとノートをとるスキルを伸ばすために、構成されたコースである。

【到達目標】

Students who complete Academic Lecture course requirements should demonstrate the following:

本講座な目的は下記の通りです。

improved ability to understand a variety of real-world content-based academic lectures in English;

英語のアカデミック・レクチャーに基づいたリアルワールドコンテンツベースレクチャーを理解する能力の上達、

greater comprehension of and ability to use general interdisciplinary content and function vocabulary;

一般的及び学際的なコンテンツと機能語彙をより理解したり使用する理解力の上達、

increased background knowledge of a variety of disciplines;

様々な分野の予備知識の向上、

improved note-taking and presentation skills, including the ability to summarize lecture material, confirm understanding of that material, and respond to inquiries about it.

レクチャー教材を要約したり、その教材の理解を確認したり、又それらの教材についての質問への応答等の能力を含め、ノートをとるスキルと発表のスキルの向上。

【授業計画】

第1回 Course introduction; Lecture 1 and activities (授業の概要について、第1レクチャー、活動)

第2回 Lecture 2 and activities (第2レクチャー、活動)

第3回 Lecture 3 and activities (第3レクチャー、活動)

第4回 Student lectures (学生のレクチャー)

第5回 In-class test; note submissions (授業内の試験、ノート提出)

第6回 Lecture 4 and activities (第4レクチャー、活動)

第7回 Lecture 5 and activities (第5レクチャー、活動)

第8回 Lecture 6 and activities (第6レクチャー、活動)

第9回 Student lectures (学生のレクチャー)

第10回 In-class test; note submissions (授業内の試験、ノート提出)

第11回 Lecture 7 and activities (第7レクチャー、活動)

第12回 Lecture 8 and activities (第8レクチャー、活動)

第13回 Lecture 9 and activities (第9レクチャー、活動)

第14回 Student lectures (学生のレクチャー)

第15回 In-class test; note submissions (授業内の試験、ノート提出)

【授業の進め方】

In this course, students will listen to lectures adapted to their needs and abilities and engage in activities that will help them understand the subject matter. Student or teacher lectures include TOEFL, TOEIC, and/or other test-related topics. Students will also present their own short lectures in order to practice information-gathering and presentational skills. Three in-class tests and periodic note submissions will help encourage students to review course material.

この科目では学生が自分の要求と能力に適応したレクチャーを聞いたり、テーマをもっと深くわかるような為の活動をしたりします。学生の又は教師のレクチャーはTOEFL, TOEIC, 且つ又、他の関連した試験についても話します。情報収集とプレゼンテーションスキルを磨く為に学生が自分のレクチャーを発表します。三回の授業内小試験と周期的なノート提出は授業で学ぶ情報を復習する目的です。

体験学習は学生に非常に大切な学習法なので講師だけではなく、学生も発表します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

Materials for the course will be teacher-generated. 教材は講師作成のもの

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 45% レポート・課題 45% 受講態度 10%

特記事項

A. In-class tests	授業内小試験	45%
B. Student lectures (30%) Notes (15%)	レポート・話題 (学生のレクチャー 30%)・(ノート 15%)	45%
C. Class participation/attitude	受講態度	10%

Students are encouraged to attend all class sessions to maximize learning opportunities.

履修学生の学習機会を増すために、常時出席を薦める。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Meet deadlines.

作文提出の締切日厳守

Plagiarized assignments, machine translations, or borrowed work can result in course failure.

盗作のもの、マシーン翻訳のもの、借用のものは不合格になる事がある。

To complete course requirements, contact your instructor before doing nursing care training or teaching practicum.

授業の必要性到達する為に教育実習や介護体験に行く学生は事前に連絡する事。連絡がない場合は必要な課題等が出来ない為に単位取得が困難となる場合がある。

【履修上の心得】

English listening and note-taking skill progress requires effort and cooperation.

英語リスニングとノートをとるスキルの進歩には努力と協力が必要である。

【備 考】

Information confirmation, idea summary, note review, and peer cooperation are important in this course.

情報の確認と要約、ノートのレビュー、ピア協力はこの科目にとって大切です。

科目名	ディスカッション・ディベート
	Discussion Debate
教員名	Paul del Rosario

【授業の内容】

In this course, students will share their opinions and practice their English skills through paired, small group, and whole class discussions on a variety of topics.

このコースでは、学生は自分の意見を共有し、ペア、小グループ、および様々なトピックでクラス全体の議論を通じて、英語のスキルを練習します。

【到達目標】

The focus of this course is simply to give students the opportunity to practice the vocabulary and language skills that they already know. There will be many opportunities for students to practice their speaking skills, so students will be expected to join in the class discussions.

このコースの焦点は、生徒達は、すでに知っている語彙と言語スキルを練習する機会を与えるために単にである。そこに彼らの話すスキルを練習する学生のための多くの機会となりますので、学生はクラス討論に参加することが期待されます。

【授業計画】

- 第1回 Introductions, Group Formation (自己紹介、グループの形成)
- 第2回 Getting to Know You (あなたのことが分かってきた)
- 第3回 Entertainment With Less Than 1000 Yen (1000円以下ではエンターテイメント)
- 第4回 Love & Romance (ラブ&ロマンス)
- 第5回 The Past (過去)
- 第6回 Technology Issues (技術的な問題)
- 第7回 Mid-term discussion (中期議論)
- 第8回 What's the Future Going to Be Like? (どのような未来は、次のようになるだろう?)
- 第9回 Best Places Domestic (国内最高の場所)
- 第10回 Best Places Abroad (海外で最高の場所)
- 第11回 Food & Drink (フード&ドリンク)
- 第12回 Money (マネー)
- 第13回 Fitness & Health (フィットネス&ヘルス)
- 第14回 Student-led discussion (学生主導の議論)
- 第15回 Final discussion (最終的な議論)

【教科書(必ず購入すべきもの)】

Instructor will provide handouts.

インストラクターは、配布資料を提供します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 40% 受講態度 30%

特記事項

Grades on this course will be determined by class participation, mid-term discussion interview, final discussion interview.

このコースの成績は、クラス参加、中期的な議論のインタビュー、最終的な議論の面接によって決定されます。

科目名	心理学概論A
教員名	玉宮 義之

【授業の内容】

- ・ 認知心理学、学習心理学、社会心理学、パーソナリティ心理学、臨床心理学、教育心理学など、心理学のどの領域を専門的に学習していく場合も、共通に知っておくべき心理学の基本的知識を習得すると同時に、それぞれの分野の学習への動機づけをはかるのが、概論の目的である。
- ・ 各領域の基礎的な知見について講義をするほかに、それらがさらに進んだ専門領域にどのように結びついていくかの糸口までを解説していく。

【到達目標】

- ・ 受講の前に持っていた単純な人間観が、受講後はエビデンスに基づいた多面的な人間観に変容する。
- ・ 心理学のさまざまな分野について基本的な知識を獲得する。
- ・ 知識の獲得にとどまらないで、そのような知識がどのような心理学的な論理と方法で得られたかを理解する。
- ・ 過去の知見や研究を学ぶだけでなく、その問題について最新の研究はどこまで到達しているかの知識をえる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 心理学の歴史
- 第3回 教育心理学
- 第4回 発達心理学
- 第5回 認知心理学
- 第6回 学習心理学
- 第7回 犯罪心理学
- 第8回 性格心理学
- 第9回 臨床心理学
- 第10回 判断と意思決定の心理学
- 第11回 産業心理学
- 第12回 組織心理学
- 第13回 心理学的測定
- 第14回 心理学の研究方法
- 第15回 概括

- ・ 授業の内容と順序は、学習状況に応じて柔軟に変更することがある。

【授業の進め方】

- ・ 授業の中でデモンストレーション実験を行ったり、受講者自身が簡単な実験や調査を行い報告するよう求めたりすることがある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ・ 教科書は使用しません。講義時にプリントを配布します。

【参考図書】

- ・ 「心理学概論」 星薫・森津太子(著) 2012 放送大学教育推進会
- ・ 「心理学 第5版」 鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃(編) 2015 東京大学出版会

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

- ・ 単位取得は、授業回数の3分の2以上に出席していることが要件です。
- ・ レポートは2種類あります。2回ごとに課されるミニレポートと期末のレポートです。
- ・ 受講態度は、「授業への積極的な参加および授業中の積極的な聴講姿勢」を評価対象とします。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・ 授業を欠席したときには、他の受講生から授業内容の確認を必ずしてください。

【履修上の心得】

- ・ 講義を受動的に聴くだけでなく自分でも小実験や調査をすることになるので、能動的に授業に参加することが求められる。

【科目のレベル、前提科目など】

- ・心理学概論Bとセットで心理学の広い領域をカバーすることになる。

【備 考】

- ・教養としての心理学一般に共通する知識の習得だけでなく、そのテーマについて最新の知見を紹介しながら、より深い理解を与える授業になることを目指している。

科目名	心理学概論B
教員名	玉宮 義之

【授業の内容】

- ・社会心理学、環境心理学など、心理学のどの領域を専門的に学習していくにも、必ず共通に知っておくべき心理学の基本的知識を習得すると同時に、それぞれの分野の学習への動機づけをはかるのが、概論の目的である。
- ・さらに、講義を通じて、心理学の研究の背後にある、人間の本質とはどんなものか、という“心理学の人間観”を考えていく。

【到達目標】

- ・心理学の入門レベルの基礎的な知識を習得する。
- ・心理学でさまざまな知見が得られる過程の研究がどのように具体的に行われているかについて知識を得る。
- ・知見をたんなる知識として得るだけでなく、授業の中でデモンストレーション実験を通じて知識を再確認する。
- ・心理学の個々のさまざまな知見が、人間の全体的な姿の中でどのような意味を持っているかを理解する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 消費者行動と心理学
- 第3回 社会心理学
- 第4回 環境心理学
- 第5回 神経心理学
- 第6回 メディア心理学
- 第7回 交通心理学
- 第8回 比較心理学
- 第9回 健康心理学
- 第10回 記憶
- 第11回 感覚
- 第12回 情動
- 第13回 言語
- 第14回 文化
- 第15回 概括

- ・授業の内容と順序は、学習状況に応じて柔軟に変更することがあります。

【授業の進め方】

- ・講義を中心に行いますが、受講者自身が簡単な実験や調査を行い報告するよう求めたりすることがあります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ・教科書は使用しません。講義時にプリントを配布します。

【参考図書】

- ・「心理学概論」 星薫・森津太子（著） 2012 放送大学教育推進会
- ・「心理学 第5版」 鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃（編） 2015 東京大学出版会

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

- ・単位取得は、授業回数の3分の2以上に出席していることが要件です。
- ・レポートは2種類あります。2回ごとに課されるミニレポートと期末のレポートです。
- ・受講態度は、「授業への積極的な参加および授業中の積極的な聴講姿勢」を評価対象とします。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・授業を欠席したときには、他の受講生から授業内容の確認を必ずしてください。

【履修上の心得】

- ・講義を受動的に聴くだけでなく自分でも小実験や調査をすることになるので、能動的に授業に参加することが求められる。

【備 考】

- ・教養としての心理学に共通する知識だけでなくそのテーマについて最新の知見を紹介することで、より深い理解を与える授業になることを目指している。

科目名	心理統計法 I
教員名	飯田 成敏

【授業の内容】

心理学の研究では、実験や調査において統計学や実験計画法が必須である。この科目では、卒業論文や実験実習等において心理学の研究を実践する際に必要とされる統計学の基本的事項を学ぶ。前半では統計学の基礎を学び、後半では統計的な処理技法の中でも特に基本的かつ頻繁に使用されるt検定や分散分析の基礎について説明する。

【到達目標】

心理統計の基礎の習得を目指す。より具体的には、1. 記述統計の基本を理解し度数分布や平均値・標準偏差などの基本的な計算が実践できること、2. 心理学における実験計画の基本を理解しその中で有意差検定の持つ意味合いを理解すること、3. 得られたデータの尺度や変数の関係性を理解し適切な分析手法を選択できるようになること、を目標とする。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

授業の進め方や受講にあたっての注意点について解説する。

第2回 尺度・度数分布

4つの尺度と度数分布について解説する。

第3回 代表値と散布度

算術平均などの代表値と標準偏差などの散布度について解説する。

第4回 正規分布

正規分布と標準得点、相対的位置の算出について解説する。

第5回 推計学の基礎

母集団と標本、標本抽出および心理学の研究の論理について解説する。

第6回 t検定①

対応のないt検定について解説する。

第7回 t検定②

対応のあるt検定について解説する。

第8回 t検定③

t検定実施時の注意点やウェルチ検定などの補足について解説する。

第9回 中央値の検定

U検定、符号付順位和検定について解説する。

第10回 分散分析①

1要因の分散分析について解説する。

第11回 分散分析②

多重比較について解説する。

第12回 2変量の関係性①

積率相関係数について解説する。

第13回 2変量の関係性②

偏相関と順位相関について解説する。

第14回 2変量の関係性③

単回帰分析について解説する。

第15回 ノンパラメトリック検定

主に χ^2 検定など比率の検定について解説する。

【授業の進め方】

端末室を利用し、各自が統計ソフトを操作しながら体験的に心理統計について学ぶ。使用する統計ソフトは主にMicrosoft Excelに留める予定である。また、毎回配布資料を用意し、資料を元に授業を進める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本 ②吉田 寿夫 ③北大路書房 ④1998年 ⑤2500円 ⑥978-4-7628-2125-7

【参考図書】

「心理統計学の基礎—統合的理解のために」 南風原 朝和(著) 有斐閣 2376円

「心理学のためのデータ解析テクニカルブック」 森 敏昭・吉田 寿夫(著) 北大路書房 3879円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 40% レポート・課題 0% 受講態度 0%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

学期末にテストを課す。また授業内で数回の小テストを実施する。

【履修上の心得】

本講では、科目の特性上、数学、特に確率・統計が関係する。文系の学生向けに、出来る限り数学的な専門知識はなくても理解できるよう講義を進めていく予定であるが、ある程度は数学が関係してくることを心得ておいて欲しい。

【科目のレベル、前提科目など】

特になし。

【備 考】

心理学を実践していく上で、心理統計学は必須である。そのため、心理学専攻の学生は必ず履修することを望む。また本講は心理統計の導入・入門的な科目であり、より実践・応用的な内容を学ぶにあたっては、本講を履修後に「心理統計法Ⅱ」を履修することを勧める。

科目名	心理統計法Ⅱ
教員名	飯田 成敏

【授業の内容】

心理学の研究では、実験や調査において統計学や実験計画法は必須である。この科目では、「心理統計法Ⅰ」で学んだことを基礎として、より高度な心理統計・心理測定に関わる手法について、データ解析実習を通じて学習する。具体的な内容は、相関分析や多変量解析など、調査データで使用される手法が中心となる。

【到達目標】

2年次に学習した「心理統計法Ⅰ」の内容を基礎として、データ解析という実践的な場面で心理統計を活用する方法を体得する。履修者が卒業論文などで調査・実験を行う際に適切なデータ解析を実施し、自身で結果の処理が行えるようになる事を目標とする。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 心理統計法Ⅰ復習とSPSS操作の基礎
- 第3回 SPSSによるt検定と中央値の検定
- 第4回 2変量の関係性(1)：積率相関係数
- 第5回 2変量の関係性(2)：偏相関と順位相関係数
- 第6回 単回帰分析(1)
- 第7回 重回帰分析(1)
- 第8回 多変量解析の基礎
- 第9回 重回帰分析(2)
- 第10回 判別分析
- 第11回 因子分析(1)
- 第12回 因子分析(2)
- 第13回 因子分析(3)
- 第14回 クラスタ分析
- 第15回 構造方程式モデリングの紹介

【授業の進め方】

本講義では、心理学を科学的に捉えるための手法として、測定データの扱い方とデータ解析の手法について学習する。代表的な統計パッケージのひとつであるSPSSを用いて、コンピュータ室でデータ解析を行う実習形式をとり講義を進める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用しない。スライドと配布資料を用いて講義を進める。

【参考図書】

特に指定しない。必要に応じて講義中に紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 30% レポート・課題 0% 受講態度 20%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は「履修規程」に準ずる。

【履修上の心得】

本講義はコンピュータを用いた実習形式をとるため、Windows OSと表計算ソフトウェアMicrosoft Excelを扱う初歩的な知識と経験があることが望ましい。統計パッケージSPSSの扱い方については講義中に実施するので、履修前に扱い方を理解しておく必要はない。

【科目のレベル、前提科目など】

本講義は2年次に「心理統計法Ⅰ」を履修し、心理統計の基礎を理解している事を前提とする。

【備考】

認定心理士資格申請においては「(1)基礎科目(b.心理学研究法)」に区分される科目である。

科目名	心理学実験・調査演習/心理学実験調査法
教員名	神戸 文朗・平田 乃美・玉宮 義之

【授業の内容】

心理学における実験研究と調査研究の前提となる考え方と具体的な方法を身につけるため、6つの課題を実施します。

【到達目標】

- 1) 心理学領域の研究手法を具体的に学び、その手続きを実習します。
- 2) 仮説と実験・調査の結果を客観的に記述・検証し、科学的枠組みについて学びます。
- 3) 1)、2)を通して、心理学研究に従事するための基礎能力を養います。

【授業計画】

- 第1回 **【1】プロトコル分析:言語データの解析 (全2回)**
- 第2回 プロトコルとは、いわゆる発話データを意味しますが、臨床心理学の内観報告法や社会学のエスノメソドロジーにおける談話記録とは厳密には異なるものです。ここでは信頼性・妥当性の高い科学的なデータとして、実験状況下での被験者の発話を記述・分析する手法について考えます。
- 第3回 **【2】SD法によるイメージの測定 (全2回)**
- 第4回 ある対象カテゴリー（たとえば“化粧品や自動車のブランド”，“ゲームやアニメのキャラクター”，あるいは種々の視覚的な刺激など）について、その対象のカテゴリーに属する個々のもののイメージ構造にどのようなちがいがあのか、形容詞語対による評定尺度を用いて分析します。
- 第5回 まとめ（担当：玉宮）
<毎回の自主学習>
予習（90分）：配布資料を熟読して実習課題のねらいを理解する
復習（90分）：実習内容を確認して報告書作成の準備をおこなう
- 第6回 **【3】質問紙調査の基礎 (全2回)**
- 第7回 人間の心理状態や行動傾向を調べるための技法の1つである質問紙法は、質問と回答の手続きに一定の形式を加えて洗練させたものです。ここでは、人間の心に関わることをできるだけ正確に測定するための「ものさし」としての尺度を作成する手続きを中心に質問紙法の基礎を学びます。
- 第8回 **【4】態度尺度の構成 (全2回)**
- 第9回 態度尺度の構成では、物理量としては測定できないが社会的実体として知覚される対象に対する「好ましさ」の程度を測定する心理尺度を構成します。調査票作成の過程ではインフォームドコンセントの重要性、データ分析過程では項目分析や平均値の差の検定などに基づく尺度の「信頼性と妥当性」について、学習します。
- 第10回 まとめ（担当：平田）
<毎回の自主学習>
予習（90分）：配布資料を熟読して実習課題のねらいを理解する
復習（90分）：実習内容を確認して報告書作成の準備をおこなう
- 第11回 **【5】系列位置効果 (全2回)**
- 第12回 記憶は短期記憶と長期記憶の2種類に分類されるという主張は現在一般の人々にも広く知れていると思います。そのような2分法は多くの実験結果によって支えられているわけですが、重要な根拠の一つとして系列位置効果があります。これは30個程度の単語を1語ずつ一定の速度で提示し、提示後ただちに自由再生（思いつく順に単語名を言う）させると、最初提示された数語と最後に提示された数語の再生率が中間部の再生率より高くなるという傾向を言います。この結果は、最初の数語の再生率の上昇は長期記憶に、最後の数語の上昇は短期記憶に所属すると解釈されています。皆さんもこの実験を実施することによって系列位置効果が再現するか否か確かめてください。
- 第13回 **【6】心的回転：認知過程の分析 (全2回)**
- 第14回 心的回転実験は当初、現実の物体を回転させるのと同じように「心の中」でも物体（即ち、物体のイメージ）を回転させるという主張を確かめるために考案されました。しかし現在では物体や形態の認識のための方法として心的回転はどこまで一般的か、どのような条件が心的回転に関与しているか、更には脳内のどのような情報処理経路が心的回転に関与しているか、など問題意識は広まっています。ここでは、さまざまな方向に提示された文字刺激に関して心的回転現象が実際に出現するかを確かめてください。
- 第15回 まとめ（担当：神戸）
<毎回の自主学習>
予習（90分）：配布資料を熟読して実習課題のねらいを理解する
復習（90分）：実習内容を確認して報告書作成の準備をおこなう

【授業の進め方】

実験器具の関係上、3つのグループに分かれて実習します。課題の実施順序はグループ毎に異なります。実習はグループで行いますが、結果の検証、統計的検定、報告書作成は個別に行います。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 ②日本心理学会認定心理士資格認定委員会編 ③金子書房
④2015/8/31 ⑤2700円 ⑥9784760830312

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 100% 受講態度 0%

【履修上の心得】

実習教室は、2 課題（5 週間）毎に移動します。
グループ編成・実習予定の変更等は、初回授業または掲示された日時の説明会で確認してください。
説明会に欠席した場合は、履修登録できません。

【科目のレベル、前提科目など】

認定心理士資格申請区分:「基礎科目B」(心理学研究法)

科目名	心理学基礎実験演習
教員名	神戸 文朗・平田 乃美・玉宮 義之

【授業の内容】

心理学における実験的研究の基礎を修得するため、心理学各領域の6つの課題を実習します。

【到達目標】

- 1) 心理学実験の一連の手続きを実習します。
- 2) 仮説と実験結果を客観的に記述・検証する科学的枠組みを学びます。
- 3) 1)、2)を通して、心理学研究に従事するための基礎能力を養います。

【授業計画】

第1回 実習案内①レポート作成法

ガイダンス（30分程度、実習内容・日程の確認、グループ分け等）をおこないます。

第1週は特に、時間厳守で集合してください。

ガイダンス後、第1週と第2週はレポート作成法の合同授業をおこないます。

予習（90分）：配布資料を熟読してレポート作成法を理解する

復習（90分）：授業を振り返り実験レポート作成法を確認する

第2回 実習案内②レポート作成法

予習（90分）：配布資料を熟読してレポート作成法を理解する

復習（90分）：学修計画を立て、レポート作成法を確認する

第3回 【1】 ストループ効果（全2回）

たとえば「あお」色のインクで書かれた「あか」という文字や「みどり」色のインクで書かれた「きいろ」という文字が連続する刺激で、「あか」「きいろ」と文字をそのまま読む場合の反応よりも、「あお」「みどり」と文字の色を言う反応の方が、ずっと遅くなったり、多くの誤りが起こったりします。

このように同じ刺激に対して二通りの違った情報の抽出と符号化（コーディング）が可能で、しかもその二通りの反応が矛盾する反応であるとき、一番普通の反応（文字刺激の文字を読む反応）よりも頻度が低い反応（文字の色を言う反応）が要求される場合に、なぜ独特な効果が生じるかについて実験的に検討をします。

<毎回の自主学習>

予習（90分）：テキストを熟読して実験課題のねらいを理解する

復習（90分）：実験内容を確認して報告書作成の準備をおこなう

第5回 【2】 日常的記憶の再生と再認（全2回）

われわれが日常の生活の中でふだん経験する対象についての記憶は、実験室などで記憶するように求められた対象の記憶とは違った特徴があります。この実験では、記憶にある対象を再現する「再生」実験を通して、日常的な記憶にはどんな特徴がみられるかを考えていきます。

<毎回の自主学習>

予習（90分）：テキストを熟読して実験課題のねらいを理解する

復習（90分）：実験内容を確認して報告書作成の準備をおこなう

第7回 【3】 錯視実験（全2回）

われわれは外側の世界の多くを視覚によって知りますが、目（厳密には網膜）に映った外側の世界は極めて曖昧なものです。その曖昧な網膜情報から信頼できる視覚世界を構築するために脳内では様々な情報処理や（擬人的に言えば）無意識的な解釈を行っています。しかし場合によっては解釈が行き過ぎてしまうことがあるかも知れません。ここでは、有名なミュラー・リヤー錯視を取り上げ刺激条件と錯視量の関係を確認します。

<毎回の自主学習>

予習（90分）：テキストを熟読して実験課題のねらいを理解する

復習（90分）：実験内容を確認して報告書作成の準備をおこなう

第9回 【4】 鏡映描写（全2回）

図形をなぞる時、直接図形やペン先を見るのではなく、鏡に映った像を通して見ると、像は左右が反転しているため、ヒトがそれまでに学習してきた知覚系と運動系の協応関係に不応が生じます。しかし更にこの鏡映描写を繰り返すと知覚系と運動系の協応関係に新たな適応が生じてきます。ここでは、知覚・運動学習に影響を与える条件とは何か、また1側で生じた運動学習が他側に転移することはどのような意味を持っているかについて検討します。

<毎回の自主学習>

予習（90分）：テキストを熟読して実験課題のねらいを理解する

復習（90分）：実験内容を確認して報告書作成の準備をおこなう

第11回 【5】 重量感覚（全2回）

物理量に対応して生起する心理量を測定する感覚尺度の構成を通して、精神物理学的な測定手法を学びます。ここでは、 $Y=f(X)$ ：物理量（重量 X ）を独立変数、心理量（重さの判断 Y ）を従属変数とする因果の関係を検討すること（関数の決定）を学びます。関数の決定（対数関数とべき乗関数の当てはめ）では線形回帰の適用について解説します。最後に、マグニチュード推定法とカテゴリー評定法の2手法の実験データに基づく感覚

尺度を構成して、仮説（物理量と心理量の関係性）と2尺度の論理的な関係式（関数関係）とを検証します。

<毎回の自主学習>

予習（90分）：配布資料を熟読して実験課題のねらいを理解する

復習（90分）：実験内容を確認して報告書作成の準備をおこなう

第13回 **【6】ストレス測定（全2回）**

第14回 近年、生理心理学の領域では、非侵襲性の指標を用いたストレス研究が進んでいます。特に唾液から抽出できるストレス測定は、血液や尿採取に比べて被験者の苦痛が少なく、より直接的な測定が可能です。ここでは、実験課題（ストループ効果や計算課題）によって与えられた心理的負荷や緊張が、ストレス指標（唾液アミラーゼ活性濃度、心拍または脳血流量）に及ぼす影響を検討します。

<毎回の自主学習>

予習（90分）：配布資料を読み、実験目的と注意事項（飲食、喫煙、薬剤服用の制限等）を確認する

復習（90分）：実験内容を確認して報告書作成の準備をおこなう

第15回 実習の総括

予習（90分）：実習を振り返り、学んだことや疑問点等をまとめる

復習（90分）：学修計画の達成度と実習した課題について総括する

【授業の進め方】

実験器具の関係上、3つのグループに分かれて実習します。課題の実施順序はグループ毎に異なります。

実習はグループで行いますが、結果の検証、統計的検定、報告書作成は個別に行います。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 ②日本心理学会認定心理士資格認定委員会編 ③金子書房

④2015/8/31 ⑤2700円 ⑥9784760830312

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 100% 受講態度 0%

特記事項

原則として全課題に実験者・被験者として実習参加の上、指定期限内に毎回レポートを提出した場合のみ、成績評価の対象となります。

【履修上の心得】

実習教室は、実習案内、総括、課題毎に移動します。

グループ編成・実習予定の変更等は、初回授業または掲示された日時の説明会で確認してください。

説明会に欠席した場合は、履修登録できません。

【科目のレベル、前提科目など】

認定心理士資格申請区分：「基礎科目C」（心理学実験実習）

科目名	社会心理学 I
教員名	玉宮 義之

【授業の内容】

本講義は、社会心理学を初めて学ぶ人のための授業です。私たち人間は「社会的動物 (social animal)」と言われるように、社会心理学の研究対象は、私たちの生活すべてに関わっています。そのため、社会心理学の扱うテーマは、非常に多岐に渡ります。本講義で扱う社会心理学のテーマとは、具体的には、「社会的影響」「対人認知」「態度」「自己」「攻撃行動」「メディア」などです。本講義では、社会心理学を初めて学ぶ人のために、こうした社会心理学の主要なテーマにおいて、それぞれ代表的なトピックを取り上げて紹介します。

【到達目標】

本講義を受講することによって、社会心理学の基礎的な知識を身につけることを第一の目標とします。そうして身につけた知識によって、自身の日常生活の中で社会心理学がどのように関わっているか、どのように役立っているかを考えていけるようになることを第二の目標とします。そして特に社会心理学は、私たちの生活により密着した研究領域ですので、受講生それぞれの日常生活を自分自身で振り返りながら、得られた知識を将来的に役立てていけるようになることを第三の目標とします。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- ・ 授業の進め方
 - ・ 成績のつけ方 (評価の仕方)
 - ・ 全15回の概要
 - ・ 社会心理学とはどのような学問なのか など
- 第2回 態度
- 第3回 ヒューリスティック
- 第4回 自己認知
- 第5回 自己呈示
- 第6回 印象形成
- 第7回 原因帰属
- 第8回 ステレオタイプ
- 第9回 社会的比較
- 第10回 対人魅力
- 第11回 規範
- 第12回 内集団ひいき
- 第13回 社会的促進
- 第14回 集団思考
- 第15回 総括

講義の内容・順番は、進度に応じて変更する場合があります。

【授業の進め方】

講義形式授業です。パワーポイントのスライドをスクリーンに映写しながら授業を進めていきます。必要に応じてプリント等を配布する場合があります。また、主要なテーマについてはミニディベートを適宜行い、社会心理学に対する深い理解を促します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用しません。必要に応じてプリント等を配布する場合があります。

【参考図書】

「徹底図解 社会心理学」 山岸俊男(監修) 2011 新星出版社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

- ・ 単位取得は、授業回数の3分の2以上に出席していることが要件です。
- ・ レポートは2種類あります。2回ごとに課されるミニレポートと期末のレポートです。
- ・ 受講態度は、「授業への積極的な参加および授業中の積極的な聴講姿勢」を評価対象とします。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

レポートと受講態度でもって、総合的に評価します。

【履修上の心得】

授業内容と関連のない私語は禁止します。私語を指摘された場合、受講態度の評価に大きく加味されます。

科目名	社会心理学II
教員名	玉宮 義之

【授業の内容】

本講義は、社会心理学を初めて学ぶ人のための授業です。私たち人間は「社会的動物 (social animal)」と言われるように、社会心理学の研究対象は、私たちの生活すべてに関わっています。そのため、社会心理学の扱うテーマは、非常に多岐に渡ります。本講義で扱う社会心理学のテーマとは、具体的には、「社会的影響」「対人認知」「態度」「自己」「攻撃行動」「メディア」などです。本講義では、社会心理学を初めて学ぶ人のために、こうした社会心理学の主要なテーマにおいて、それぞれ代表的なトピックを取り上げて紹介します。

【到達目標】

本講義を受講することによって、社会心理学の基礎的な知識を身につけることを第一の目標とします。そうして身につけた知識によって、自身の日常生活の中で社会心理学がどのように関わっているか、どのように役立っているかを考えていけるようになることを第二の目標とします。そして特に社会心理学は、私たちの生活により密着した研究領域ですので、受講生それぞれの日常生活を自分自身で振り返りながら、得られた知識を将来的に役立てていけるようになることを第三の目標とします。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- ・ 授業の進め方
 - ・ 成績のつけ方 (評価の仕方)
 - ・ 全15回の概要
 - ・ 前期の復習
- 第2回 意思決定
- 第3回 権威
- 第4回 メディア：新聞・テレビ
- 第5回 メディア：ネット・ゲーム
- 第6回 恋愛
- 第7回 表情
- 第8回 情動：ネガティブ
- 第9回 情動：ポジティブ
- 第10回 援助行動
- 第11回 攻撃行動
- 第12回 社会現象
- 第13回 文化
- 第14回 社会心理学の最前線
- 第15回 総括

講義の内容・順番は、進度に応じて変更する場合があります。

【授業の進め方】

講義形式授業です。パワーポイントのスライドをスクリーンに映写しながら授業を進めていきます。必要に応じてプリント等を配布する場合があります。また、主要なテーマについてはミニディベートを適宜行い、社会心理学に対する深い理解を促します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用しません。必要に応じてプリント等を配布する場合があります。

【参考図書】

「徹底図解 社会心理学」 山岸俊男(監修) 2011 新星出版社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

- ・ 単位取得は、授業回数の3分の2以上に出席していることが要件です。
- ・ レポートは2種類あります。2回ごとに課されるミニレポートと期末のレポートです。
- ・ 受講態度は、「授業への積極的な参加および授業中の積極的な聴講姿勢」を評価対象とします。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

レポートと受講態度でもって、総合的に評価します。

【履修上の心得】

授業内容と関連のない私語は禁止します。私語を指摘された場合、受講態度の評価に大きく加味されます。

科目名	学習心理学
教員名	飯田 成敏

【授業の内容】

学習とは、経験による行動変容を言う。我々の日常の行動は、そのほとんどが生後の経験を通して獲得・変容したものであることから、学習心理学の理解は心と行動を考える上で非常に重要である。本講では、行動変容の基本原則として考えられる2つの条件づけ(古典的条件づけとオペラント条件づけ)について中心的に取り上げる。

【到達目標】

古典的条件づけとオペラント条件づけの理解を目指す。これに加え、行動の原因を個体の内的原因ではなく外的環境と行動との関係性に求める考え方を理解することを目指す。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 条件づけの基礎：パヴロフとソーンダイク
- 第3回 古典的条件づけ①・基礎
- 第4回 古典的条件づけ②・諸現象
- 第5回 古典的条件づけ③・理論と応用
- 第6回 オペラント条件づけ①・基礎
- 第7回 オペラント条件づけ②・諸現象
- 第8回 オペラント条件づけ③・理論と応用
- 第9回 嫌悪統制 回避・逃避と罰
- 第10回 選択行動
- 第11回 刺激性制御・動物と言語
- 第12回 動物行動と学習心理
- 第13回 学習心理の歴史
- 第14回 行動分析学入門
- 第15回 社会的学習

【授業の進め方】

板書をしながらの講義形式で行い、毎回配布資料を配る予定である。必要に応じてビデオ等の供覧も行う。また、指定した教科書以外の参考図書の紹介は適宜行う予定である。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①学習の心理 行動のメカニズムを探る ②実森正子・中島定彦 ③サイエンス社 ④2000年 ⑤1500円 ⑥4-7819-0953-1

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

学期末に試験を課す。

【履修上の心得】

学習心理学は実験心理学・基礎心理学の一分野であり、歴史的にも心理学の中心的な分野の1つであったと言える。一方で、行動療法や応用行動分析の基礎でもあり、応用分野と関わりの深い分野である。そのため、基礎系の心理学を学びたい学生のみならず、臨床・応用系に関心のある学生の選択も望まれる。履修にあたっては、心理学に関する予備知識は一切必要としない。むしろ、漠然と抱いている心理学に対するイメージに固執せずに学んでもらいたい。

【科目のレベル、前提科目など】

特になし。

科目名	発達心理学 I
	乳幼児期の心理的発達を中心に
教員名	津野田 聡子

【授業の内容】

発達心理学は、生涯にわたっての心理的な変化をあつかう学問領域である。生涯にわたる心理的变化のうち、本講義では胎児期から青年期まで(特に乳幼児期)における発達を中心として、発達心理学における基礎的なトピックを取り上げる。

【到達目標】

- (1)発達心理学の基礎を学ぶことを通して、心の発達過程についてより深く理解できる。
- (2)発達心理学の主な研究手法について理解し、説明できる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- ・発達とは
 - ・発達心理学とは
 - ・赤ちゃんの能力: 変わりつつある「赤ちゃん観」
- 《第1回講義の前に、テキスト第1章を読み、心を理解するための発達のアプローチとはどのようなものかを各自予習する (30分)》
- 第2回 発達心理学の研究アプローチ
- ・発達心理学の基本的枠組みと問題
 - ・発達のアプローチの意義と問題
 - ・ピアジェの発達観とヴィゴツキーの発達観
 - ・発達心理学の研究手法
- 《テキスト第1章を読み、講義で取り上げたキーワードや映像資料の内容を各自整理し復習する (30分)。配布レジメとテキストを使用しての復習》
- 第3回 胎児期①
- ・胎児の発達: 身長体重、脳、消化器、呼吸器、運動機能
- 《テキスト第3章を読み、胎児期の身体的発達について講義内容を各自整理し復習する (30分)。配布レジメとテキストを使用しての復習》
- 第4回 胎児期②
- ・子宮外生活への準備
 - ・胎児期の嗅覚に関する研究
- 《テキスト第3章を読み、胎児期の機能的発達について講義内容を各自整理し復習する (30分)。配布レジメとテキストを使用しての復習》
- 第5回 乳児の認知と社会化①
- ・乳児の視覚認知機能とその検討手法: 選好注視法、馴化・脱馴化法、視覚的走査の測定
 - ・原始反射
 - ・共鳴動作
 - ・自発的微笑から社会的微笑
- 《事前にテキスト第4章を読み、乳児の認知能力を調べる手法を予習する (30分)。新生児期の認知的発達について講義で取り上げた内容を各自整理し復習する (30分)。配布レジメとテキストを使用しての復習》
- 第6回 乳児の認知と社会化②
- ・奥行き知覚
 - ・ピアジェの認知発達段階
 - ・物の永続性
 - ・社会的能力の発達
 - ・乳児と大人のコミュニケーション
- 《テキスト第4章を読み、乳児期の認知的発達および社会的能力の発達について講義内容を各自整理し復習する (30分)。配布レジメとテキストを使用しての復習》
- 第7回 乳幼児の家族関係①
- ・社会的参照
 - ・愛着の発達と愛着のタイプ
 - ・家庭学習の特徴
- 《テキスト第5章を読み、乳幼児期の愛着形成、家族関係、家庭内での学習といった講義で取り上げたキーワードを各自整理し復習する (30分)。配布レジメとテキストを使用しての復習》
- 第8回 乳幼児の家族関係②
- ・きょうだい誕生と家族の相互交渉パターンの変化
 - ・きょうだい誕生と子どもの変化
- 《テキスト第5章を読み、きょうだい誕生による家族関係について講義内容を各自整理し復習する (30分)。配

- 布レジメとテキストを使用しての復習》
- 第9回 認知①
- ・ピアジェの認知発達段階説
 - ・数の保存課題、中心化
- 《事前にテキスト第6章を読み、乳幼児期の認知発達はどのように研究されているかについて各自で予習する(30分)。講義で取り上げたピアジェの発達段階および関連するキーワードについて各自整理し復習する(30分)。配布レジメとテキストを使用しての復習》
- 第10回 認知②
- ・認知的情報処理理論による発達
 - ・知識構成における制約
 - ・素朴理論の獲得
- 《テキスト第6章を読み、講義で取り上げた認知的情報処理理論による発達の考え方および関連するキーワードについて各自整理し復習する(30分)。配布レジメとテキストを使用しての復習》
- 第11回 認知③
- ・心の理論の獲得
- 《テキスト第6章を読み、子どもが心の理論の獲得する発達の過程について講義内容を各自整理し復習する(30分)。配布レジメとテキストを使用しての復習》
- 第12回 ことば
- ・ことばの発生の基礎:共同注意、二項関係から三項関係、記号の獲得
 - ・音声言語の発達
 - ・文字言語の発達
- 《テキスト第7章を読み、ことばの発達過程について講義内容を各自整理し復習する。さらに、子どものことばの発達をうながす遊びにはどのようなものがあるかを各自考える(30分)。配布レジメとテキストを使用しての復習》
- 第13回 動機づけ
- ・マズローによる欲求階層説
 - ・内発的動機づけと外発的動機づけ
 - ・動機づけに関連した諸理論
- 《テキスト第12章を読み、講義で取り上げた動機づけについての諸理論を整理し、さらに講義で取り上げた動機づけに関連するキーワードを各自整理し復習する(30分)。配布レジメとテキストを使用しての復習》
- 第14回 自己・自我
- ・自己意識の発達段階
- 《テキスト第13章を読み、乳幼児期の自己意識の発達について講義内容を各自整理し復習する(30分)。配布レジメとテキストを使用しての復習》
- 第15回 まとめ
- 《講義内容全体の復習をする(120分)》

講義進行予定は上の通りである。箇条書きで示したものは講義で説明する予定の主なトピックであるが、ここに挙げているものが講義で説明するすべてではない。授業計画欄に《 》で記入しているものは、受講生自らが講義内容の理解のために予習復習をする内容である。なお、配布レジメについては、講義中に受講生各自が積極的にメモをとることを前提としている。

【授業の進め方】

基本的には、パワーポイントを中心とした講義形式で行う。必要に応じて視聴覚資料等も用いる予定である。また、可能な限りグループディスカッションの機会を設け、教員の指定する発達心理学的テーマについて主体的に考えていただく。授業の最後に、教員の出す課題についてリアクションペーパーの提出を求める場合がある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①発達心理学入門Ⅰ 乳児・幼児・児童 ②無藤隆、高橋恵子、田島信元 ③東京大学出版会

【参考図書】

適宜、講義において紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・「白鷗大学試験規則」に準じ、定期試験日を除いた全授業回数のうち3分の2以上の回数に出席した受講生のみ定期試験の受験資格が与えられるものとする。

【履修上の心得】

- ・身のまわりや社会の話題の中で、発達心理学に関連すると思われることがらに関心を持ち、積極的に考える姿勢を持って受講していただきたい。
- ・出席に関する不正は厳禁である。不正には厳しく対処する。
- ・受講の補助資料としてレジメを配布するが、教科書やレジメに書かれた内容が講義のすべてではない。必要事項については各自で積極的にメモを取ることを。
- ・講義は教科書の予習復習を前提にすすめる。受講生は事前に必ず教科書の該当章を読んで予習し、事後は必ず該当章を読んで復習すること。

【科目のレベル、前提科目など】

「心理学概論A」「心理学概論B」をすでに受講済みであること。

心理学専攻カリキュラムの中では、専攻専門科目として位置づけられる。

科目名	生理心理学
教員名	平田 乃美

【授業の内容】

生理心理学は、主に生理学的手段を用いて脳と心の関係の研究を行い、人間の心や行動を理解しようとする学問です。心と身体の関係解明をめざす生理心理学は、人間の諸問題の解決に一層の貢献が期待されています。本講義では、人体の構造と機能、および生理心理学的研究法の基礎を学び、健康増進や生活改善について考えます。

【到達目標】

- 1) 人体の構造と機能について基礎知識を学ぶ。
- 2) 生理心理学の研究成果から、脳と精神機能・行動の対応関係を理解する。
- 3) 1), 2) を踏まえて、健康増進や生活改善への応用を考える。

【授業計画】

第1回 研究史：生理心理学

予習 (90分)：シラバスを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：全15回の読了課題と復習サイトを確認して学修計画を立てる

第2回 脳の生理学的構造と構成要素

予習 (90分)：予習サイトの読了課題または動画を視聴する

復習 (90分)：復習サイトの設問にweb回答する

第3回 中枢神経系と末梢神経系

予習 (90分)：予習サイトの読了課題または動画を視聴する

復習 (90分)：復習サイトの設問にweb回答する

第4回 中枢神経系の構造と機能①

予習 (90分)：予習サイトの読了課題または動画を視聴する

復習 (90分)：復習サイトの設問にweb回答する

第5回 中枢神経系の構造と機能②

予習 (90分)：予習サイトの読了課題または動画を視聴する

復習 (90分)：復習サイトの設問にweb回答する

第6回 中枢神経系の機能と機能③

予習 (90分)：予習サイトの読了課題または動画を視聴する

復習 (90分)：復習サイトの設問にweb回答する

第7回 脳の信号①神経細胞、神経伝達物質

予習 (90分)：予習サイトの読了課題または動画を視聴する

復習 (90分)：復習サイトの設問にweb回答する

第8回 脳の信号②タンパク質の構造

予習 (90分)：予習サイトの読了課題または動画を視聴する

復習 (90分)：復習サイトの設問にweb回答する

第9回 脳の信号③タンパク質とアミノ酸

予習 (90分)：予習サイトの読了課題または動画を視聴する

復習 (90分)：復習サイトの設問にweb回答する

第10回 脳の信号④タンパク質とイオン

予習 (90分)：予習サイトの読了課題または動画を視聴する

復習 (90分)：復習サイトの設問にweb回答する

第11回 脳の信号⑤興奮と抑制のしくみ

予習 (90分)：予習サイトの読了課題または動画を視聴する

復習 (90分)：復習サイトの設問にweb回答する

第12回 心身の健康①薬物の影響

予習 (90分)：予習サイトの読了課題または動画を視聴する

復習 (90分)：復習サイトの設問にweb回答する

第13回 心身の健康②睡眠と食事

予習 (90分)：予習サイトの読了課題または動画を視聴する

復習 (90分)：復習サイトの設問にweb回答する

第14回 生命倫理 (映像資料の視聴)

予習 (90分)：予習サイトの読了課題または動画を視聴する

復習 (90分)：視聴した映像資料の報告書を作成する

第15回 まとめ

予習 (90分)：予習サイトの読了課題または動画を視聴する

復習 (90分)：全15回の読了課題と復習サイトを確認する

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業時に配布（ファイルをダウンロード）します。教科書や文献の購入はありません。

（配布資料を印刷する場合はカラーをお勧めします）

【参考図書】

授業で紹介されたテーマについて更に関心がある場合は毎回の配付資料に掲載される「参考文献」を参照してください。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

【履修上の心得】

[出席について]

出席確認はカード型端末機のみで行い、学生証不携帯は欠席扱いとなります。

[課題について]

指定期間に提出した場合のみ、成績評価対象とします。未提出への対応策はありません。

[成績について]

評価基準の個別対応は一切ありません。個別の結果について、成績発表前の問い合わせには返答できません。評価内容についても、成績調査期間外に調べることはできません。

[資料について]

講義資料のスライド(動画、写真等)を複製してお譲りすることはお断りしています。再度確認したい資料があれば、授業終了後、機器の電源を切る前に声を掛けてください。

【科目のレベル、前提科目など】

認定心理士資格申請区分:「選択科目」(生理心理学・比較心理学)

科目名	人格心理学
教員名	伊東 孝郎

【授業の内容】

人格（パーソナリティ）とは何か。持って生まれた気質をもとに、さまざまな経験が加わってできあがった、その人に特徴的な行動や考えなどを決定するものである。また外部観察者の視点に立つならば、その人の行動や考えに共通するパターンであるといえる。「性格」という語も、ほぼ同じような意味で使われることが多い。

本講義では、人格について多面的に学習し、人格に関する基礎的知識を身につけると同時に、自身を含めた人間の理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

- 人格に関する基礎的知識を身につける。
- 自身を含めた人間の理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 インTRODakション—人格、性格、気質
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第2回 自分の性格を知る—心理テストの実施
復習（60分）授業で実施した自分の心理テストの結果について検討する。
- 第3回 個人差について
予習（60分）教科書第1章を読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第4回 構成概念と環境の影響
予習（60分）教科書第2章を読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第5回 人格の測定
予習（60分）教科書第3章を読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第6回 人格検査の信頼性と妥当性
予習（60分）教科書第4章を読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第7回 類型論
予習（60分）教科書第5章を読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第8回 特性論
予習（60分）教科書第6章を読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第9回 尺度水準について
予習（60分）教科書第7章を読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第10回 知能について
予習（60分）教科書第8章を読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第11回 血液型性格判断のウソ
予習（60分）教科書第9・10章を読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第12回 遺伝と環境
予習（60分）教科書第11章を読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第13回 気質とその発達
予習（60分）教科書第12章を読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第14回 人格の適応的变化
復習(60分)授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第15回 人格と文化
復習(60分)授業で指示されたことを中心に復習する。

【授業の進め方】

本講義では、過去から現在に至る人格理論と研究の成果、人格理解の方法、人格の形成過程、および人格に関する問題等、人格について多角的に幅広く学ぶこととする。

講義は教科書を用いて進めるが、一部補助教材としてプリントを配布する。
授業内で、小グループによるディスカッションなども実施する。
授業内で学んだこと、考えたことについて、不定期にリアクションペーパーへの記述を求める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書：小塩真司(2010)「はじめて学ぶパーソナリティ心理学—個性をめぐる冒険」 ミネルヴァ書房 2500円＋税
学内書店等にて各自で購入しておくこと。

【参考図書】

講義の中で適宜紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

【履修上の心得】

人格について学ぶことは、ある意味、人間そのものを学ぶことと同義である。青年期の受講生にとって、きわめて大切な体験になるであろうし、当然、自己理解も深まることが予想される。本講義の意義を十分に理解した上で、真摯な姿勢で受講してほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

「心理学概論A」「心理学概論B」、または「心理学A」「心理学B」をすでに受講済みのこと。

心理学専攻カリキュラムの中では、専攻専門科目として位置づけられる。

心理学専攻の学生にとって、本講義は認定心理士資格申請の選択科目(G.臨床心理学・人格心理学)に区分される予定の科目である。資格取得希望者は、計画的な履修を行うこと。

他学部・他専攻の学生にとって、心理学専門科目である本科目の授業内容や試験の内容は、難易度が高いものと予想される。相応の覚悟を持って履修し、十分な予習復習をすること。

【備 考】

出席確認はカード型端末機のみで行う。学生証不携帯は欠席扱いとなるので注意すること。

科目名	犯罪心理学
	「犯罪」を通して知る人間の心と行動
教員名	湯川 進太郎

【授業の内容】

本講義は、心理学の入門（初心者）レベルの学習を経た人を対象に、「犯罪」についての心理学を講義する、より専門性の高い授業です。ここでは、授業の展開を大きく前半と後半の2つに分けています。はじめに前半（第2週～第10週）では、「犯罪者」に関わる心理について紹介します。続いて後半（第11週～第15週）では、「裁判・捜査」に関わる心理について解説します。

【到達目標】

本講義を受講することによって、犯罪心理学の基礎的な知識を得ることを第一の目標とします。そうして身につけた知識によって、実生活の中で自らが犯罪に巻き込まれないようにするために、また、警察・司法場面でどのようなことが起こりうるのかを知るために、犯罪心理学がどのように関わり、役立つのかを考えていけるようになることを第二の目標とします。さらには、受講生それぞれの日常生活からメディアで報道される事件や社会問題までを振り返りながら、「犯罪」という現象を通して人間存在そのものについて深く理解・考察することを第三の目標とします。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- ・ 授業の進め方
 - ・ 成績のつけ方（評価の仕方）
 - ・ 全15回の概要
 - ・ 犯罪心理学とは何か、など
- 第2回 パーソナリティと犯罪：マキャベリズム
- 第3回 パーソナリティと犯罪：ナルシズム
- 第4回 パーソナリティと犯罪：サイコパシー
- 第5回 暴力の心理学：攻撃
- 第6回 暴力の心理学：怒り
- 第7回 詐欺の心理学：嘘と欺瞞
- 第8回 詐欺の心理学：だましのテクニック
- 第9回 生理心理学から見た再犯：薬物依存と脳
- 第10回 生理心理学から見た再犯：性犯罪とホルモン
- 第11回 捜査・裁判における心理学：プロファイリング
- 第12回 捜査・裁判における心理学：目撃証言と記憶
- 第13回 捜査・裁判における心理学：ポリグラフ検査（嘘発見）
- 第14回 捜査・裁判における心理学：自白と冤罪
- 第15回 捜査・裁判における心理学：集団の圧力（同調）

【授業の進め方】

講義形式授業です。パワーポイントのスライドをスクリーンに映写しながら授業を進めていきます。必要に応じてプリント等を配布する場合がありますが、基本的には、各自がノート（メモ）を取りながら聴講してください。毎回（毎週）、授業の最後に、その授業に関連した事項について、小試験を実施します。

【教科書（必ず購入すべきもの）】

教科書は使用しません。必要に応じてプリント等を配布する場合があります。

【参考図書】

- 『面白いほどよくわかる！犯罪心理学』 内山絢子（監修） 2015 西東社
『知っておきたい最新犯罪心理学』 細江達郎（著） 2012 ナツメ社
『怒りの心理学』 湯川進太郎（編著） 2008 有斐閣
『バイオレンス：攻撃と怒りの臨床社会心理学』 湯川進太郎（著） 2005 北大路書房
『攻撃の心理学』 B.クラウエ（著） 秦一士・湯川進太郎（編訳） 2004 北大路書房

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 30% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

- ・ 定期試験の受験資格は、授業回数の3分の2以上に出席していることが要件です。
- ・ 授業内小試験は、授業の最後に、毎回（毎週）実施します。小試験の成績は、出席し解答した回（週）の答案の平均点を算出して評価します。
- ・ 受講態度は、「授業への積極的な参加および授業中の積極的な聴講姿勢」を評価対象とします。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

定期試験と授業内小試験と受講態度でもって、総合的に評価します。

【履修上の心得】

授業内容と関連のない私語は禁止します。私語を指摘された場合、受講態度の評価に大きく加味されます。

【科目のレベル、前提科目など】

応用レベルです。受講の前提として、独学で心理学に関する入門書を一冊以上読み終えているか、あるいは心理学に関する入門レベルの科目(たとえば『心理学A』『心理学B』など)の単位を取得済みであることが望ましいです。

科目名	健康心理学
教員名	島崎 崇史

【授業の内容】

本講は、(a)健康問題・健康行動と心理学(第1-4回)、(b)ストレスマネジメントとメンタルヘルスプロモーション(第5-7回)、(c)ライフステージと健康心理学(第8-10回)、および(d)健康づくりを支援するコミュニケーション方略(第11-15回)の単元により構成されている。それぞれの各論については、下記の授業内容を参照されたい。

【到達目標】

この授業では、(a)健康行動(身体活動の実施、食習慣の改善、ストレスの低減、禁煙など)の重要性に対する理解を深めること、および(b)日本や世界の抱える健康問題と健康増進の方法を理解し、自身の健康増進に役立てることはもちろんのこと、友人や家族をはじめとする自身の身近な人たちの心身の健康づくりを支援できるようになること、を目的とする。

【授業計画】

- 第1回 健康心理学とはなにか？
：健康の定義、および世界・我が国における健康の現状を統計データをもとに理解し、自身の健康状態について自己分析をおこなう。また、対象者の心理的面を考慮した健康支援の重要性を理解する。
- 第2回 食行動と心身の健康
：健康的・不健康な食習慣が心の健康に及ぼす影響を理解する。特に誤ったボディイメージの形成に起因する危険なダイエットによる摂食障害の危険性、および健康的な食習慣の形成について学ぶ。
- 第3回 運動・スポーツと心身の健康
：「する・みる・ささえる」運動・スポーツへの多様な関わりが、心身の健康増進に与える効果を理解し、運動・スポーツ行動の継続・習慣化の要件について学ぶ。
- 第4回 健康に影響する依存症の予防
：飲酒、喫煙、薬物依存、カフェイン、スマートフォンなど、個人の健康に大きな影響を及ぼす依存性の高い物質・行動への依存の心理学的メカニズムを理解し、対処について学ぶ。
- 第5回 ストレスと心身の健康
：ストレス反応のメカニズムについて学習し、ストレス対処、およびストレスと上手に付き合うストレスマネジメントについて学習する。
- 第6回 こころの健康づくりとメンタルヘルスプロモーション
：こころの健康づくりの方法であるメンタルヘルスプロモーションの概念を説明し、応用の例として災害後のこころの健康増進について触れる。
- 第7回 労働とストレス
：職業性ストレスの現状と対策について触れ、生き活きとした職業人としての生活を送るためのワークエンゲージメントの概念について学習する。
- 第8回 子どもの運動遊びと心身の発育発達
：現在の子どもの取り巻く社会環境を理解し、運動遊びが子どもの心身の発育発達に及ぼす肯定的な影響について、遊びにともなう感情状態であるプレイフルネスの視点から理解を深める。
- 第9回 高齢者の健康
：加齢に伴う心の変化について理解を深め、元気な老化「サクセスフルエイジング」を実現するための方法について学ぶ。
- 第10回 障害・疾病受容の心理学
：重篤な疾病への罹患後、身体障害の残る事故・疾病罹患後の心理的適応、障害・疾病受容について学習し、望ましい支援について考察する。
- 第11回 健康行動の開始
：ひとが健康行動を開始するメカニズムについて、行動変容の分野の知見をもとに学習し、健康行動の開始を支援する方略について理解する。
- 第12回 健康行動の継続・習慣化
：健康行動が習慣化する過程について習慣形成(habit formation)の分野の知見をもとに学習し、健康行動の継続・習慣化、不健康な行動への逆戻りを予防する方略について学習する。
- 第13回 健康メッセージの伝え方
：健康づくりに関する情報を知覚・認知する過程について理解し、他者に対して健康づくりに関する情報を効果的に伝えるためのコミュニケーションスキルについて学ぶ。
- 第14回 健康情報の普及
：健康情報を効果的に普及させる方法について、メディア心理学、マスコミュニケーション理論に基づいて解説する。
- 第15回 ソーシャルサポート・社会的孤立と健康
：家族、友人、近隣者の健康行動実施やサポートが、自身の健康づくりに及ぼす効果について理解し、社会的孤立を防ぐ方略について考察する。

【授業の進め方】

上記の授業計画に基づき、板書、配布資料、および映像資料を用いて講義を進める。また、授業内で適宜グループワーク・ディスカッションの機会を設ける。毎回の授業の最後にリアクションペーパーを配布し、授業に対する感想、要望および疑問点について記載を求める。特に講義の内容と関連の高い要望、および疑問点については、次回授業において返答する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は指定しない。適宜資料を配布する。

【参考図書】

健康心理学の概論については、島井他「健康心理学・入門」(有斐閣)を参照されたい。また、健康心理学の実践については、竹中「運動と健康の心理学」(朝倉書店)、島崎「ヘルスコミュニケーション：健康行動を習慣化させるための支援」(早稲田大学出版部)、竹中・富永「日常生活・災害ストレスマネジメント教育」(サンライフ企画)を参照されたい。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 20%

特記事項

- ・定期試験は、論述式でおこなう。
- ・13回目授業終了時に健康心理学の知見を活かした健康づくりを支援するポスター作成の課題をおこなう。
- ・授業態度は、リアクションペーパーへの回答状況、および授業への参加状況により評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回、授業時間内にリアクションペーパーを提出することによって、出席および講義内容の理解の確認とする。

【科目のレベル、前提科目など】

心と身体の間、ストレス、生活習慣病の予防、行動変容などへの理解を深めることによって、心と身体の間、健康の維持・増進について学ぶ科目として位置づけられる。「認定心理士」資格申請を希望する場合は受講することが望ましい。前提科目は特にないが、心理学関連科目の履修を勧める。

科目名	精神医学
教員名	片山 奈理子

【授業の内容】

心の問題を取り扱う精神医学の基本的な考え方について、精神神経科医の立場から講義する。発症頻度の高い代表的な精神疾患を広くとりあげ、事例をあげながら解説し、診断や治療について説明する。

【到達目標】

精神医学の基礎を理解し、一般的な疾患概念、診断と治療がわかるようになることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 精神医学の基本的な考え方を概説する。
授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
- 第2回 統合失調症（1）概念、疫学、症状、診断基準、成因仮説、最近の動向など。授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
- 第3回 統合失調症（2）治療法（薬物療法、精神療法、作業療法、SSTなど）について。抗精神病薬の作用・副作用。授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
- 第4回 気分障害（1）概念、疫学、症状、診断基準、成因仮説、最近の動向など。授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
- 第5回 気分障害（2）治療法（薬物療法、精神療法、電気療法など）について。抗うつ薬の作用・副作用。授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
- 第6回 不安障害と強迫性障害：疾患概念と診断、治療について。授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
- 第7回 ストレス関連障害と解離性障害：疾患概念と診断、治療について。授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
- 第8回 身体疾患による精神障害（器質性精神障害）：概念と診断、治療について。授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
- 第9回 発達障害、小児期の心身症と精神疾患：概念と診断、治療について。授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
- 第10回 パーソナリティ障害：概念と診断、治療について。授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
- 第11回 摂食障害、睡眠障害：概念と診断、治療について。授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
- 第12回 老年期の精神障害：認知症、老年期うつ病の概念と診断、治療について。授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
- 第13回 物質依存：アルコール依存症、覚せい剤依存などの概念と診断、治療についての概念と診断、治療について。授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
- 第14回 精神神経科領域の治療法について：薬物療法、精神療法、その他リハビリテーションなどについて。授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
- 第15回 総括

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリントを使用する

【参考図書】

現代臨床精神医学 改訂第12版 大熊輝雄 金原出版株式会社
カプラン 臨床精神医学テキスト DSM-5 診断基準の臨床への展開

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

科目名	障がい児・者心理学
教員名	金丸 隆太

【授業の内容】

障がいを持つということはどういうことなのか。本人と家族の心理を理解するための知識を学ぶ。自分自身や身近な人が障がいを持った時に役立つ知識を身につける。さらに将来、障がいを持つ人の援助に携わる仕事に就く際に必要なことを学ぶ。

【到達目標】

自分が障がいを持った時、他者が障がいを持っている時、その心理を適切に理解し、必要な援助を手に入れたり提供したりするための基礎知識を身につける。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：この授業の進め方、到達目標、評価の仕方などについて説明する。
- 第2回 様々な障がい：障がいと聞くと何を思い浮かべるだろうか。実は障がいには様々な種類があり、そのほとんどは当事者以外には知られていない。まずは障がいの種別について知識を得る。
- 第3回 身体障がい：外から見てわかりやすい四肢の障害以外にも、目や耳、あるいは内臓の障がいなどがある。これらも身体障がいであることを知り、どのような困難があるのかを学ぶ。
- 第4回 知的障がい：よく知られている障がいだが、偏見や差別も強い障がいである。知的障がいの詳細を学ぶ。
- 第5回 精神障がい：世界中で、最も偏見を持たれやすい障がいであるが、誰でも精神障がい者になる可能性がある。精神障がいについての正しい知識を身につけて、世間の、あるいは自分の差別意識に向き合う。
- 第6回 発達障がい(1)：知的障がいや精神障がいと重なる障がいだが、非常に人数が多く、特別な対応が必要とされる。発達障がいの子どもに対する援助を学ぶ。
- 第7回 発達障がい(2)：発達障がいは完治する障がいではなく、大人になっても困難は多い。発達障がいの大人に対する援助を学ぶ。
- 第8回 中間テスト：ここまでの理解度を確認する。
- 第9回 障がいと家族：障がい児の親、障がい者の子ども、障がい児のきょうだいたちには、世間であまり注目されていない独特の悩みがある。そのことを知り、自身の問題として考える。
- 第10回 障がい児・者の心理：障がいを持つ当事者が強く願っていることは「特別扱いすぎないで欲しい」ということと「独特の苦勞を理解して欲しい」ということである。当事者の心理をより深く学ぶ。
- 第11回 発達障がいの具体的な支援：これから学生の皆さんが様々な場面に関わる可能性のある発達障がいについて、何をすれば良いか、何をしない方が良いか、具体的な知識を身につける。
- 第12回 精神障がい者の具体的な支援：これから学生の皆さんが様々な場面に関わる可能性のある精神障がいの中から特にうつ病について、何をすれば良いか、何をしない方が良いか、具体的な知識を身につける。
- 第13回 障がい者による情報発信：インターネットなどを通して、障がいを持つ当事者の思いはより生々しく知ることができるようになった。最新の情報に触れる。
- 第14回 大規模災害と障がい者：災害弱者と呼ばれる障がい者達に対して、大震災などが起きたらどのような支援が必要なのかを学ぶ。
- 第15回 まとめと最終テスト：全ての授業を振り返り、知識を確認する。到達目標に達したかどうかをテストで評価する。

集中講義のため、各回の内容は多少前後が入れ替わる可能性もある。

【授業の進め方】

実際に障がいを持つ人や家族たちが登場するビデオやブログなどの視聴覚教材を用いながら、障がいを特別なことではなく、身近に感じられるように講義を進める。少人数での話し合いや質問の時間もおりませる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

指定図書は無し。授業中に適宜資料を配付する。

【参考図書】

「あたし研究」 小道モコ・クリエイツかもがわ・1800円

「怒りの川田さんー全盲だから見えた日本のリアル」 川田隆一・オクムラ書店・1470円

参考図書は必読ではないが、当事者と家族以外にはわかりにくい発達障がいと視覚障がいについて一冊ずつ、障がいを持つ人自身が書いた本を示した。これらを例に、自身で色々な関連書籍を手にとってほしい。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 30% 受講態度 20%

【履修上の心得】

授業中に小人数での話し合いの時間を取ることで、自分の意見を積極的に他人と交換したいという学生に履修してほしい。集中講義なので予習よりも復習を重視する。障がいについて授業中に関心を持った話題をインターネットで検索し、様々なウェブサイトを見ることが復習の第一として勧められる。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目はないが、関連科目は心理学関連の科目全てである。心理学を特定の狭い学問と見なさないよう、この科目も含めた様々な心理学の科目を履修し、心理学の全体を見渡してほしい。そうすれば将来、障がいを持つ人に関わるときにこの科目で学んだ内容をさらに効果的に活かすことが出来る。それは障がい者を援助する仕事の場合もあるし、そうではない職種の場合もあろう。

心理学は非常に幅の広い学問であり、心理学全体から見ればこの科目は応用的な科目である。しかし障がいに関する心理学という点では入門編の授業なので、特に前提となる知識や科目はない。

科目名	環境心理学 I
教員名	平田 乃美

【授業の内容】

環境心理学は、心理学の諸理論及び心理学の領域で発展してきた測定手法を生かして、環境と人間行動との関わりを明らかにしようとする学際的な研究領域です。この領域では、人間の行動に効果をもつ「環境」について、個々の要因分析とともに、全体としての効果やその文脈が検討されます。本授業では、人間-環境の相互作用から生じる人間の知覚・認知・行動の特性と背景を学び、それらの知見を生活空間の改善や景観のデザインに応用するための環境心理学的視点・手法について考えます。

【到達目標】

- 1) 人間-環境の相互作用の視点から、人間の知覚・認知・行動の特性と背景を理解する。
- 2) 心理学領域で発展してきた環境の測定・評価の手法について協働・体験学習を含めて学ぶ。
- 3) 1), 2) を生活空間の改善やデザインに応用するための環境心理学的視点をもつ。

【授業計画】

第1回 受講案内

- 予習 (90分): シラバスを読み環境心理学について調べる
- 復習 (90分): 講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第2回 研究史: 環境心理学の成立

- 予習 (90分): 配布資料を読み当該課題について調べる
- 復習 (90分): 当該領域の成立過程と時代背景を確認する

第3回 環境心理学の諸相

- 予習 (90分): 配布資料を読み当該課題について調べる
- 復習 (90分): 当該領域の諸相と問題をまとめる

第4回 感覚・知覚の基礎知識

- 予習 (90分): 配布資料を読み当該課題について調べる
- 復習 (90分): ヒトの感覚と知覚の特性について確認する

第5回 視覚の特性

- 予習 (90分): 配布資料を読み当該課題について調べる
- 復習 (90分): ヒトの視覚の特性について確認する

第6回 <体験学習> 環境の経験: 閉眼歩行

- 予習 (90分): 配布資料を読み当該課題について調べる
- 復習 (90分): グループごとに実施結果を話し合い報告書を作成する

第7回 環境認知と記憶, 目撃者証言

- 予習 (90分): 配布資料を読み当該課題について調べる
- 復習 (90分): ヒトの記憶の特性について確認する

第8回 環境の測定と評価

- 予習 (90分): 配布資料を読み当該課題について調べる
- 復習 (90分): 環境測定・評価の手法について確認する

第9回 SD法による景観評価

- 予習 (90分): 配布資料を読み当該課題について調べる
- 復習 (90分): SD法の手続きと活用法について確認する

第10回 <体験学習> 認知地図

- 予習 (90分): 指示された場所の認知地図を作成する
- 復習 (90分): 作成した地図を分析して報告書を作成する

第11回 <体験学習> 錯視体験: エイムズの部屋の製作

- 予習 (90分): 配布資料を読み当該課題について調べる
- 復習 (90分): グループごとに実施結果を話し合い報告書を作成する

第12回 <体験学習> 環境の経験: サウンドスケープ

- 予習 (90分): 配布資料を読み当該課題について調べる
- 復習 (90分): グループごとに実施結果を話し合い報告書を作成する

第13回 <体験学習> 環境の経験: パーソナルスペース

- 予習 (90分): 配布資料を読み当該課題について調べる
- 復習 (90分): グループごとに実施結果を話し合い報告書を作成する

第14回 色彩心理学

- 予習 (90分): 色の基本知識について調べる
- 復習 (90分): 色彩の心理的・生理的効果について確認する

第15回 環境美学

- 予習 (90分): 配布資料を読み当該課題について調べる

復習 (90分)：美しさの評価について学んだことや疑問点等をまとめる

【授業の進め方】

<体験学習>について

天候・学校行事等の事情で教室や順序が変更される場合があります。

一部はグループ・ワーク形式ですが、報告書は毎回各自が作成・提出します。

課題内のグループ・ディスカッションも評価対象となります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業時に配布 (ファイルダウンロード) します。教科書や文献の購入はありません。

【参考図書】

『朝倉心理学講座12 環境心理学』佐古順彦・小西啓史編 朝倉書店 (2007) ¥3,672 (ISBN-10: 4254526725)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 60% レポート・課題 40% 受講態度 0%

【履修上の心得】

[出席について]

出席確認はカード型端末機のみで行い、学生証不携帯は欠席扱いとなります。

[課題について]

実施時間に提出した場合のみ、成績評価対象とします。未提出への対応策はありません。

[成績について]

評価基準の個別対応は一切ありません。

個別の結果について、成績発表前の問い合わせには返答できません。評価内容についても、成績調査期間外に調べることはできません。

[資料について]

講義資料のスライド (動画、写真等) を複製してお譲りすることはお断りしています。再度確認したい資料があれば、授業終了後、機器の電源を切る前に声を掛けてください。

【科目のレベル、前提科目など】

認定心理士資格申請区分: 「選択科目」 (社会心理学・産業心理学)

科目名	ビジネス心理学
	—エビデンスによるビジネス—
教員名	玉宮 義之

【授業の内容】

- ・将来ビジネスに携わる上で大切な問題について、研究によるエビデンスを学習する。
- ・交渉、宣伝、よいデザインなどの心理学的研究を知る。
- ・「交渉」の問題を中心に講義プラス演習のかたちで学習する。さらに、交渉のシミュレーション実験を経験しながら、交渉に存在している心理学的な問題について知る。

【到達目標】

- ・ビジネスで出会う心理学的問題について、エビデンスに基づいた問題解決ができるようになる。

【授業計画】

- 第1回 ・ビジネス心理学の概要
- 第2回 ・交渉の心理学 (1)
- 第3回 ・交渉の心理学 (2)
- 第4回 ・交渉の心理学 (3)
- 第5回 ・交渉の心理学 (4)
- 第6回 ・交渉の心理学 (5)
- 第7回 ・宣伝・広告の心理学 (1)
- 第8回 ・宣伝・広告の心理学 (2)
- 第9回 ・宣伝・広告の心理学 (3)
- 第10回 ・宣伝・広告の心理学 (4)
- 第11回 ・デザインの心理学 (1)
- 第12回 ・デザインの心理学 (2)
- 第13回 ・デザインの心理学 (3)
- 第14回 ・デザインの心理学 (4)
- 第15回 ・講義総括

- ・授業は進捗状況に応じて、内容も順序も柔軟に変更することがある。

【授業の進め方】

- ・講義を中心に、演習を交えながら進めます。
- ・受講者同士でペアを組み、「交渉」の実践や「デザイン」について議論を行います。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ・教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。

【参考図書】

- ・授業時に、随時紹介していきます。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 60%

特記事項

- ・受講態度の評価は、授業への参加度に基づいて行います。
- ・レポートは3回（「交渉」「宣伝」「デザイン」）提出してもらいます。

科目名	心理学検査実習 I
教員名	伊崎 純子

【授業の内容】

- 1) 心理検査を実習を中心に学ぶ
- 2) 実施目的、実施方法、所見の書き方について体験しながら理解を深める
- 3) 知能検査・発達検査・人格検査（質問紙・作業検査法・投影法）から代表的なテストをとりあげる

【到達目標】

代表的な心理検査の目的・背景となる理論・分析方法を理解することができる
いくつかの心理検査の結果をもとに、自分自身を客観的に見つめる事ができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション:心理アセスメントにおける心理検査の役割
復習：授業で取り上げたキーワードについて各自復習する（30分）。
- 第2回 心理検査とアセスメント・レポートについて
復習：アセスメント・レポートの書き方について各自復習する（20分）。
- 第3回 個別式知能検査：ビネー式知能検査（ビネーV）とウェクスラー式知能検査①（WISC-IV、WAIS-III）
復習：ビネー式とウェクスラー式の知能検査の違いについてまとめる（30分）。
- 第4回 個別式知能検査：ウェクスラー式知能検査②（WISC-IV、WAIS-III）
復習：ウェクスラー式の知能検査（WPPSI、WISC-IV、WAIS-III）の相違をまとめる（60分）。
- 第5回 個別式知能検査と集団式知能検査:京大NX検査
復習：集団式知能検査についてまとめる（20分）。
- 第6回 ルリヤの神経心理学とCHC理論:カウフマン式知能検査（KABC-II）
復習：CHC理論について各自復習する（60分）。
- 第7回 発達検査：新版K式発達検査法2001年版
復習：発達検査と知能検査の違いについてまとめる（60分）。
- 第8回 人格検査（質問紙法）：MMPI新日本版①
復習：人格検査のうち、質問紙法について調べる（30分）。
- 第9回 人格検査（質問紙法）：MMPI新日本版②
復習：MMPIの結果を整理する（30分）。
- 第10回 人格検査（作業検査法）：内田クレペリン精神検査①
復習：人格検査のうち、作業検査法について調べる（30分）。
- 第11回 人格検査（作業検査法）：内田クレペリン精神検査②
復習：内田クレペリン精神検査の結果を整理する（30分）。
- 第12回 人格検査（投影法）：P-Fスタディ①
復習：人格検査のうち、描画を除く投影法について調べる（60分）。
- 第13回 人格検査（投影法）：P-Fスタディ②
復習：P-Fスタディの結果を整理する（30分）。
- 第14回 人格検査（投影法）：風景構成法①
復習：人格検査のうち、描画法について調べる（60分）。
- 第15回 人格検査（描画法）：風景構成法②
復習：風景構成法の結果を整理し、これまでの授業でとりあげた検査結果をまとめてレポートを作成する（120分）。

以上を予定しているが、検査が1, 2入れ替わる可能性もあるためその場合は事前に指示する

【授業の進め方】

医療・教育・福祉・産業などのメンタルヘルスに関する分野では、必要に応じて心理検査が用いられる。心理学専攻の学生として多少は心理検査の知識が必要だろう。しかし時間的な制約から全ての心理検査を網羅することやテスターとしての力量をつけることは困難である。ここでは代表的なものを「体験を通して知る」ことを最終的な目標とする。講義では概略を説明し、検査道具に触れてもらい、いくつかの課題を時間の許す限り被検査者として体験してもらう。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

適宜資料を配布

【参考図書】

- 『心理学基礎演習vol.5 心理検査の実施の初歩』 願興寺礼子ほか 編著・ナカニシヤ出版
『第4版 心理テスト法入門 基礎知識と技法習得のために』 松原達哉 編著・日本文化科学社
『心理アセスメントハンドブック 第2版』 上里一郎 編著・西村書店
『必携 臨床心理アセスメント』 小山充道 編著・金剛出版

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

レポートの提出状況40%・レポートの内容40%・受講態度20%を加え最終的に評価する。
講義期間中に複数回提出するレポートで成績を評価する。詳しくは、初回授業時に指示する。

【履修上の心得】

遊びでの参加は遠慮してほしい。また、受講者以外への安易な知識の乱用は禁忌である。

【科目のレベル、前提科目など】

心理学特講 I「心理アセスメント論」の講義を先に受講している方が望ましい。
認定心理士資格の該当領域については別紙で確認すること。

科目名	心理学相談実習 I
教員名	伊東 孝郎

【授業の内容】

心理相談は、さまざまな観点から分類することが可能である。学派別、目的別、対象別、場所別、等。

本実習では、主として学派ごと(一部 目的ごと)に臨床心理相談を学ぶ。それぞれ基本的な考え方を理解し、実際にセッションを見たり、自らセラピスト／クライアント体験をしたりすることで、各学派の臨床心理相談について基礎的な理解をすることを目的とする。

【到達目標】

さまざまな心理相談についての理論を知る。

心理相談を体験的に学習する。

【授業計画】

- 第1回 心理相談の分類
復習(60分)授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第2回 パーソン・センタード・アプローチ1
— ロジャースのカウンセリング
復習(60分)授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第3回 パーソン・センタード・アプローチ2
— エンカウンター・グループ
復習(60分)授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第4回 パーソン・センタード・アプローチ3
— ロールプレイ
復習(120分以上)授業で体験したロールプレイについて検討し、レポートを作成する。
- 第5回 REBT (ラショナル・エモーショナル・セラピー)
復習(60分)授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第6回 認知行動療法
復習(120分以上)自らをクライアントとして「自動思考記録表」を作成し、レポートを作成する。
- 第7回 ゲシュタルト療法
復習(60分)授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第8回 交流分析1
— 自我状態とエゴグラム
復習(60分)授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第9回 交流分析2
— 脚本分析
復習(60分)授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第10回 交流分析3
— 再決断療法
復習(120分以上)自らのクライアント体験についてレポートを作成する。
- 第11回 ブリーフ・セラピー1
— 理論について学ぶ
復習(60分)授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第12回 ブリーフ・セラピー2
— 技法について学ぶ ロールプレイ
復習(120分以上)自らのセラピスト／クライアント体験についてレポートを作成する。
- 第13回 学生相談
復習(60分)授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第14回 教育相談
— ロールプレイ
復習(120分以上)授業で実施したロールプレイについてレポートを作成する。
- 第15回 まとめ
復習 (120分) これまでの授業内容について復習する。

【授業の進め方】

各学派(および目的別相談)の理論や約束ごと等を学んだ後、実際にその技法の映像を見たり、体験したりすることを基本とする。

各学派の体験学習は、セラピスト／クライアントに分かれて体験をしてもらうロールプレイをするものと、担当教員がセラピストとなって実施するクライアント体験をするものに分かれる。

全ての体験学習は、実施後1週間以内にレポートを作成し、提出するものとする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は特に指定しない。

【参考図書】

必要に応じて、参考書を紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 75% 受講態度 25%

特記事項

成績評価は、受講態度（議論における発言、エクササイズへの参加）およびレポート（5本）によって行う。

【履修上の心得】

心理相談という、きわめて専門性の高い相談援助技法の基礎を体験的に学ぶ実習である。本演習を受講しただけで、実際の相談援助活動が行えるようになるわけではない。専門的な相談援助技法は、大学院臨床心理学専攻等に進学の後、充分かつ適切なトレーニングと実践を通じて身につけるべきものである。それでも、将来、教育および心理臨床の分野に進むことを考えている学生には、有用な体験となるであろう。

本演習では、安全面には十分に配慮するが、それでも自他の「こころ」に触れる体験をすることとなる。相応の覚悟をもって受講すること。

なお受講は、授業内で知った他者の情報などを守秘できる者に限る。

【科目のレベル、前提科目など】

「臨床心理学」をすでに受講済のこと。

心理学専攻カリキュラムの中では、専攻専門科目として位置づけられる。

また本講義は、認定心理士資格申請の選択科目(G.臨床心理学・人格心理学)に区分される予定の科目である。

【備 考】

出席確認はカード型端末機のみで行う。学生証不携帯は欠席扱いとなるので注意すること。

科目名	神経心理学
	神経心理学の基礎
教員名	津野田 聡子

【授業の内容】

脳と心のしくみを探るために、これまでさまざまなアプローチでの研究が行われてきている。こういったアプローチのひとつに神経心理学が位置づけられる。脳が何らかの損傷を受けると、言語や認知、記憶といった心的機能に障害が認められることがある。このような脳の損傷と心的機能の障害についてあつかう分野が神経心理学である。本講義では、神経心理学における基礎的なトピックを取り上げる。また、神経心理学と関連の深い、認知神経心理学的アプローチについても説明する。

【到達目標】

- (1)神経心理学の基礎を理解することを通して、言語や認知・記憶といった心的機能と脳との関係について考察できるようになる。
- (2)身のまわりや社会の話題の中で脳と心に関連すると思われることがらに関心を持ち、講義で学んだことに基づき、自ら考えられるようになる。

【授業計画】

第1回 ガイダンス

- ・「脳と心」の関係を探ること
- ・神経心理学と認知神経心理学

《第1回講義の前に、脳と心関係を明らかにするために有効な手法を各自で考える（30分）。神経心理学とはどのような学問であるかを講義内容に基づき整理し、事前に各自が考えた手法と比較して復習する（30分）》

第2回 脳の基礎知識：脳の構造と機能

- ・ヒトの神経系
- ・大脳の構造
- ・ブロードマンの脳地図
- ・脳の交差支配

《脳の基礎知識について講義で取り上げた内容を各自整理し復習する（30分）》

第3回 脳イメージングの手法

- ・脳構造のイメージングと脳機能のイメージング
- ・脳のイメージング手法の比較
- ・MRIの基本原則
- ・BOLD効果

《脳イメージングの手法について、それぞれの特徴を比較しつつ、講義で取り上げた内容を各自整理し復習する（30分）》

第4回 神経心理学小史①、神経心理学におけるキーワード

- ・神経心理学におけるキーワード：脳の機能局在、二重解離の原理、離断の原理
- ・脳の機能局在からみた神経心理学の小史

《講義で取り上げた神経心理学のキーワードを各自整理し復習する。また神経心理学がどのように脳と心関係を明らかにしようとしてきたかを各自整理し復習する（30分）》

第5回 神経心理学小史②

- ・ブローカ失語とウェルニッケ失語
- ・神経心理学症状の理論的説明

《神経心理学の歴史において、ブローカの報告とウェルニッケの報告がどのような意義をもつかを各自整理し復習する。さらに、脳の機能局在を明らかにする上で二重解離の原理がどのようにかわるかを各自整理し復習する（30分）》

第6回 言語の障害と脳①

- ・言語に関連する脳部位
- ・失語の症状

《言語に関連する脳部位および言語の障害について、講義で取り上げた内容を各自整理し復習する（30分）》

第7回 言語の障害と脳②

- ・失語症の分類
- ・ウェルニッケ=リヒトハイムの失語図式

《失語症の分類と特徴、およびその理論的説明について、各自整理し復習する（30分）》

第8回 記憶の障害と脳①

- ・記憶のモデル
- ・記憶の神経基盤と記憶形成のモデル

《記憶に関連する脳部位および記憶のモデルについて、講義で取り上げた内容を各自整理し復習する（30分）》

第9回 記憶の障害と脳②

- ・健忘：健忘症候群、認知症、一過性の記憶障害

《記憶の障害の分類と特徴について、講義で取り上げた内容を各自整理し復習する（30分）》

- 第10回 認知の障害と脳①
- ・視覚認知の障害（視覚失認）
 - ・視覚認知のモデルに基づく、視覚失認の理論的考察
- 《視覚失認の分類と特徴について、講義で取り上げた内容を各自整理し復習する。さらに、視覚失認の理論的説明を各自試みる（30分）》
- 第11回 認知の障害と脳②
- ・視覚処理の2つの経路
 - ・触覚失認
- 《講義で取り上げた視覚認知に関連する内容を各自整理し復習する。さらに、触覚における失認とはどのようなものかを各自復習する（30分）》
- 第12回 行為の障害と脳
- ・失行とは
 - ・失行の症状と脳
 - ・リープマンによる失行症状の説明
- 《失行の分類と特徴について、講義で取り上げた内容を各自整理し復習する。さらに、リープマンによる失行の理論的説明を整理し復習する（30分）》
- 第13回 脳梁と脳梁離断症候群
- ・脳梁の機能
 - ・大脳半球機能の側性化
 - ・脳梁離断症候群の症状とその理論的説明
- 《脳梁の機能と脳梁離断症候群について、講義で取り上げた内容を各自整理し復習する。さらに、脳梁離断症候群の症状について理論的説明を整理し復習する（30分）》
- 第14回 前頭葉の機能と前頭葉機能障害
- ・前頭葉(前頭前野)の機能とは
- 《前頭前野の機能と機能障害について、講義で取り上げた内容を各自整理し復習する。(30分)》
- 第15回 まとめ
- 《講義内容全体の復習をする（120分）》

講義進行予定は上の通りである。箇条書きで示したものは講義で説明する予定の主なトピックであるが、ここに挙げているものが講義で説明するすべてではない。授業計画欄に《 》で記入しているものは、受講生自らが講義内容の理解のために予習復習をする内容である。なお、配布レジメについては、講義中に受講生各自が積極的にメモをとることを前提としている。

【授業の進め方】

基本的には、パワーポイントを中心とした講義形式で行う。必要に応じて視聴覚資料等も用いる予定である。ほぼ毎回の授業の最後に、教員が出す課題について、リアクションペーパーの提出を求める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に指定しない。

【参考図書】

適宜、講義において紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

「白鷗大学試験規則」に準じ、定期試験日を除いた全授業回数のうち3分の2以上の回数に出席した受講生のみ定期試験の受験資格が与えられるものとする。

【履修上の心得】

- ・身のまわりや社会の話題の中で、脳と心に関連すると思われることがらに関心を持ちつつ、積極的に自ら考える姿勢を持って受講していただきたい。
- ・講義では、脳や神経心理学の専門用語も用いる。
- ・出席に関する不正は厳禁である。不正には厳しく対処する。
- ・受講の補助資料としてレジメを配布するが、レジメに書かれた内容が講義のすべてではない。必要事項については各自で積極的にメモを取ること。
- ・講義内容の復習をし、参考資料等を積極的に参照すること。

【科目のレベル、前提科目など】

「心理学概論A」「心理学概論B」をすでに受講済みであること。
心理学専攻カリキュラムの中では、専攻専門科目として位置づけられる。

科目名	青年心理学 I
教員名	伊東 孝郎

【授業の内容】

青年期は「疾風怒濤」の時期といわれるほど、悩み苦しみに満ちたものである。一方で青年期はまた、それまでとは違って変わった素晴らしい成長と出会いが待ち受けている時期でもある。当然、この時期に成し遂げなければならない発達上の課題が多々存在する。人は青年期に、これらの課題とどう向き合うかによって、その後の人生が決定づけられるといっても過言ではない。

本講義では、受講生の多くがそのただ中にある青年期の、心理的特徴について理解することを目的とする。同時に、受講生自らの成長につながる思索と体験の機会を提供する。

【到達目標】

青年期の心理的特徴について理解する。

自己理解を深め、自らの生き方について考えることができる。

【授業計画】

- 第1回 青年期とは
 予習（60分）青年期について調べる。
 復習（60分）授業で学んだ内容について考える。
- 第2回 青年期の特徴1
 ・一生の中の青年期
 ・社会的地位の変化
 ・身体発達の特徴
 予習（60分）教科書の当該ページを読む。
 復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第3回 青年期の特徴2
 ・信頼感と不信感
 ・自立性と恥
 ・主導性と罪悪感
 予習（60分）教科書の当該ページを読む。
 復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第4回 エリクソンの発達理論
 予習（60分）エリクソンの発達理論について調べる。
 復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第5回 アイデンティティの発達
 予習（60分）教科書の当該ページを読む。
 復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第6回 アイデンティティ・ステイタス
 予習（60分）教科書の当該ページを読む。
 復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第7回 青年期の恋愛
 予習（60分）教科書の当該ページを読む。
 復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第8回 青年期の性
 予習（60分）教科書の当該ページを読む。
 復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第9回 青年期の親子関係
 予習（60分）教科書の当該ページを読む。
 復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第10回 青年期の友人関係
 予習（60分）教科書の当該ページを読む。
 復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第11回 青年期と学校
 予習（60分）教科書の当該ページを読む。
 復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第12回 いじめと不登校
 予習（60分）教科書の当該ページを読む。
 復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第13回 社会に出ていくということ
 予習（60分）教科書の当該ページを読む。

復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。

第14回 フリーターとニート

予習（60分）教科書の当該ページを読む。

復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。

第15回 よりよい人間関係のためのエクササイズ

一さわやかな自己表現ができるようになるための、アサーション・トレーニングを実習する。

復習（60分）授業で気づきを得たことを中心に復習する。

【授業の進め方】

本講義は、青年期に関する知識を単に伝達するにとどまらず、自ら考え、グループで討議を行い、理解や洞察のための技法を経験するという体験型学習の形式も取り入れて進める。

授業内で学んだこと、考えたことについて、不定期にリアクションペーパーへの記述を求める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①)「エピソードでつかむ青年心理学」 ②大野久 編著 ③ミネルヴァ書房 ④2010 ⑤2600円+税

学内書店等にて各自で購入しておくこと。

【参考図書】

講義の中で適宜紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

【履修上の心得】

先に述べたように、本講義は体験型学習の側面もあわせ持つ。自ら積極的に授業に参加する覚悟をもって受講すること。

【科目のレベル、前提科目など】

「心理学概論A」「心理学概論B」をすでに履修済みであること。

人間発達の重要な時期である青年期の心理を学ぶことは、将来、人間の発達に関するどのような分野を学ぶにしても、きわめて重要である。もちろん、青年期を主な研究テーマと考えている者にとっては、必須の科目である。

また本講義は、認定心理士資格の選択科目(F.教育心理学・発達心理学)である。資格取得希望者は、計画的な履修を行うこと。

【備 考】

出席確認はカード型端末機のみで行う。学生証不携帯は欠席扱いとなるので注意すること。

科目名	精神分析学 I
教員名	伊崎 純子

【授業の内容】

「精神分析」は、20世紀初頭にウィーンでS・フロイトが始めた方法で、寝椅子を用い、1回45分ないし50分のセッションを週4回か5回定期的にもつ。

「精神分析」は古くさく実証性に乏しく、非科学的だとも言われる。その一方で米国精神科レジデント審査会は2010年に精神科医の必須の精神療法として「認知行動療法」「支持的療法」「長期精神力動的療法」の3つを挙げた。本授業では、精神分析の密で深い交流から得た知見を基礎におく「精神分析的な心理療法」を、理論と実践に即した知識の両側面から学習する。

【到達目標】

精神分析的人格理論（発達論、構造論、力動論、対象関係論）を説明できる
精神分析的病態論（発達不全、不適応、症状形成などの力動論）を説明できる
心理療法に関する技法の1つとして精神分析的な心理療法を説明できる

【授業計画】

第1回 精神分析の歴史と定義

復習：フロイト、自我心理学派、対象関係論学派、対人関係論学派について各自復習する（60分）。

第2回 構造論のまとめ

復習：超自我・自我・エスについて各自復習する（20分）。

第3回 力動論的観点：自我の諸機能と諸機制、不適応と症状形成

復習：局所論、自我機能について各自復習する（20分）。

第4回 自我の発達論：退行と発達不全

復習：防衛適応機制・症状形成について各自復習する（20分）。

第5回 対象関係論：一者心理学から二者心理学へ

復習：発達論・対象関係論について各自復習する（20分）。

第6回 心理療法を開始するまで

復習：これまでの授業の内容をまとめてレポートを作成し、期日までに提出する（90分）。

第7回 初期の聴き方と治療構造

復習：治療者の態度と治療構造の意義を復習する（20分）。

第8回 転移の理解

復習：陽性転移と陰性転移について各自復習する（20分）。

第9回 逆転移の理解

復習：逆転移・行動化について各自復習する（20分）。

第10回 抵抗の意味と対応

復習：抵抗・疾病利得・反復強迫について各自復習する（20分）。

第11回 解釈

復習：明確化と直面化について各自復習する（20分）。

第12回 夢の扱い

予習：授業の前1週間に見た夢があれば、夢日記をつけておく（10分）。

第13回 徹底操作と終結

復習：治療の終わりについて各自復習する（20分）。

第14回 児童面接と親面接

復習：児童の面接と親面接の相違点を各自でまとめる（30分）。

第15回 まとめと振り返り

復習：映像資料をもとにこれまでの学びをレポートにまとめ、期日までに提出する（120分）。

【授業の進め方】

事前にテキストを一読し、予習をしておくとう理解しやすい。授業中に各自の理解を確認し、事前や事後に紹介する文献を積極的に読破し、孫引きではない知識を身につけてほしい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①精神分析的な心理療法の実践－クライアントと出会う前に ②馬場禮子 ③岩崎学術出版社 ④1999 ⑤3456 ⑥4-7533-9906-0

【参考図書】

北山修「精神分析理論と臨床」、誠信書房、2001

馬場禮子「精神分析的人格理論の基礎－心理療法を始める前に」、岩崎学術出版社、2008

鐘幹八郎・名島潤慈「新版 心理臨床家の手引き」、誠信書房、2000
その他については、初回授業時に紹介します

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

受講態度は、出席時の態度や質疑応答の内容、レポートの提出状況を評価します。

【科目のレベル、前提科目など】

「臨床心理学」「人格心理学」等で得られる知識と関連するため、前後して受講すると理解がより深まると思います。

【備 考】

精神分析に親しみを感じる人もそうでない人も、「精神分析」を学ぶことで自身のオリエンテーションを確かなものにしてください。

科目名	心理学特別研究A
	発達・臨床ゼミナール
教員名	伊崎 純子

【授業の内容】

3年次前期のゼミナールでは卒業研究の準備期であることを意識して文献の検索方法、読み方、方法論、レジュメのまとめ方、口頭発表の方法などを学ぶ。本来「臨床心理学」は臨床現場があってこそ成り立つ学問なので、各種ボランティアを募集した際には積極的に参加することを期待する。

【到達目標】

先行研究を引用・参考文献として検索し、自ら学びを深めることができる
 次年度の卒業研究に向けて研究方法を実践的に使えるかどうかを考えることができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 復習：ゼミのネットワーク作成・テーマの検討（90分）
- 第2回 発表／質疑
 復習：先行研究の検索と要約（90分）
- 第3回 発表／質疑
 復習：先行研究の検索と要約（90分）
- 第4回 発表／質疑
 復習：先行研究の検索と要約（90分）
- 第5回 発表／質疑
 復習：先行研究の検索と要約（90分）
- 第6回 発表／質疑
 復習：先行研究の検索と要約（90分）
- 第7回 テーマ決め
 復習：テーマに沿った先行研究の検索（90分）
- 第8回 先行研究の整理、目的の検討
 予習：引用文献の記載方法の確認（90分）
- 第9回 方法論の検討
 復習：実験計画と統計的手法について整理する（90分）
- 第10回 尺度と統計的検定の関連
 復習：記述統計と推測統計について整理する（90分）
- 第11回 度数分布の比較
 復習：カイ2乗検定と残差分析について復習する（90分）
- 第12回 平均値の比較
 復習：t検定と分散分析（交互作用と多重比較を含む）について復習する（90分）
- 第13回 結果のまとまりを知る
 復習：因子分析について復習する（90分）
- 第14回 結果のまとまりから関連を知る
 復習：散布図、相関分析、重回帰分析について復習する（90分）
- 第15回 卒業研究に向けて
 復習：ここまでの授業をふまえて、卒業研究の研究計画をたてる（90分）

・課外には、実態調査やボランティアとして直接支援を試みる。

（例）乳幼児観察実習の部分参加

小山こども発達支援センター「リズム園」での勉強会や行事への参加

【授業の進め方】

1. 先行研究を選び、要約した資料（レジュメ）を作成する
2. 担当者は指定された日に、担当した研究をレジュメをもとに発表し、他の受講者は質疑に参加する
3. およそ、1回のゼミで2～3名が発表する
4. 一通り発表後は、ゼミ全体で方法から結果の書き方を復習する

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①改訂新版 心理学論文の書き方 卒業論文や修士論文を書くために ②松井豊 ③河出書房新社 ④2010 ⑤1836
 ⑥978-4309245225

学内書店等で各自購入すること

【参考図書】

適宜指示する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

受講態度は「課題への取り組み、質疑や課外活動への参加態度」を考慮する

【履修上の心得】

対社会的な活動も行うので、常識ある態度を踏まえること。失敗を恐れず果敢にチャレンジしてみること。

【科目のレベル、前提科目など】

「認定心理士」資格申請では別紙にて領域を確認すること。

科目名	心理学特別研究A
	臨床心理学の論文を読む
教員名	伊東 孝郎

【授業の内容】

臨床心理学は、以前は「応用心理学」のひとつとして、心理学領域全体からすると周辺分野という位置づけであった。しかし現代という不安定な時代において、現実の人間の具体的な問題や疾病と関わり、心の深淵を理解して、その解決や改善へ向けて援助していくという実践的なその研究は、大変に重要な成果を生み出すものとして、社会から広く認知され期待されるようになった。研究や実践に携わる者も増加の一途をたどり、今では心理学の主要な領域となってきた。

本研究では、臨床心理学の多くの研究論文を読み込むこと、および自ら主体的にグループ研究を行い発表することを通じて、その多様な研究領域と研究のためのスキルについて学ぶことを目的とする。

【到達目標】

臨床心理学についての幅広い研究について学び、理解を深める。

論文検索が充分できる。

担当論文のレジюме作成を通して、研究法のスキルを学ぶ。

積極的にディスカッションに参加できる。

グループ研究をはじめとする様々なゼミ活動を通して、コミュニケーション・スキルを高め、自律的な存在となる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
復習（60分）授業で指示された内容の学習を行う。
- 第2回 臨床に関する研究の紹介
復習（60分）紹介された論文について復習する。
- 第3回 受講生による研究紹介1
予習（60分以上）自分が興味を持った研究テーマについての論文を探し、レジюмеを作成する。
復習（60分）授業で紹介された論文について復習する。
- 第4回 受講生による研究紹介2
予習（60分以上）自分が興味を持った研究テーマについての論文を探し、レジюмеを作成する。
復習（60分）授業で紹介された論文について復習する。
- 第5回 受講生による研究紹介3
予習（60分以上）自分が興味を持った研究テーマについての論文を探し、レジюмеを作成する。
復習（60分）授業で紹介された論文について復習する。
- 第6回 受講生による研究紹介4
予習（60分以上）自分が興味を持った研究テーマについての論文を探し、レジюмеを作成する。
復習（60分）授業で紹介された論文について復習する。
- 第7回 受講生による研究紹介5
予習（60分以上）自分が興味を持った研究テーマについての論文を探し、レジюмеを作成する。
復習（60分）授業で紹介された論文について復習する。
- 第8回 受講生による研究紹介6
予習（60分以上）自分が興味を持った研究テーマについての論文を探し、レジюмеを作成する。
復習（60分）授業で紹介された論文について復習する。
- 第9回 受講生による研究紹介7
予習（60分以上）自分が興味を持った研究テーマについての論文を探し、レジюмеを作成する。
復習（60分）授業で紹介された論文について復習する。
- 第10回 受講生による研究紹介8
予習（60分以上）自分が興味を持った研究テーマについての論文を探し、レジюмеを作成する。
復習（60分）授業で紹介された論文について復習する。
- 第11回 受講生による研究紹介9
予習（60分以上）自分が興味を持った研究テーマについての論文を探し、レジюмеを作成する。
復習（60分）授業で紹介された論文について復習する。
- 第12回 受講生による研究紹介10
予習（60分以上）自分が興味を持った研究テーマについての論文を探し、レジюмеを作成する。
復習（60分）授業で紹介された論文について復習する。
- 第13回 受講生による研究紹介11
予習（60分以上）自分が興味を持った研究テーマについての論文を探し、レジюмеを作成する。
復習（60分）授業で紹介された論文について復習する。
- 第14回 グループ研究1
予習（90分以上）グループで興味を持った研究テーマについて研究する。
復習（90分以上）授業で話し合った内容について再度検討する。

第15回 グループ研究2

予習（90分以上）グループで興味を持った研究テーマについて研究する。

復習（90分以上）授業で話し合った内容について再度検討する。

【授業の進め方】

授業は毎回担当者を決め、担当者が興味を持った研究論文について報告し、それに基づいて全員でディスカッションするという形式が中心となる。当然、履修者全員が予習してくることを前提とするので、しっかりと学習する覚悟を持って履修すること。

後半には、小グループによる研究を行う。

なお「心理学特別研究」の履修者および「卒業研究」履修者合同で、「研究に関するディスカッションと自己理解/対人関係向上のためのワークショップ」を行う合宿を開催する。必ず参加すること。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に定めない。担当者が人数分のプリントを用意する。

【参考図書】

授業中に、必要に応じて紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 70%

特記事項

担当回のプレゼンテーション（作成資料、発表技術、内容）、授業・グループ研究・ゼミ活動への参加態度（関与度合、発言頻度、貢献度、自律性、協力）によって評価する。

【履修上の心得】

臨床心理学の研究をしようとする者にとって、同分野の先行研究について学ぶことは極めて重要である。研究の領域、着眼点や内容について知ることが重要なのはもちろんであるが、研究の方法や論文のまとめ方といった実務的なスキルも身につけなければ、研究を遂行し、論文として発表することはできない。その意味で、過去の研究論文を通して、臨床心理学を幅広く学ぶ本研究は、大切な学習機会となろう。

心理学全体という広い観点からみても、臨床心理学が提示する新たな方法論は、人間心理を研究していく上で大いに役立つと思われる。とりわけ、将来臨床心理士資格取得や対人援助職を目指す者にとって、臨床心理学の研究論文に触れることは、自らの専門性を維持発展させる上で、不可欠なこととなる。

どのような進路を目指すにせよ、自らのキャリアをしっかりと意識し、目的意識を十分に持った上で、自主的に参加する意志を持って受講すること。

【科目のレベル、前提科目など】

「心理学特別研究A」と「同B」は、連続性を持った科目である。

また、次年度「卒業研究」の前提となる科目である。

本科目は、認定心理士資格申請において「その他の科目」に区分される予定の科目である。

科目名	心理学特別研究A
教員名	神戸 文朗

【授業の内容】

この半期間の講座によって実験心理学、特に認知心理学の基本概念の習得を目指している。その中で諸君は認知心理学の問題意識とは何か、そしてそれを確かめるためにどのように実験が考案されてきたかをも学んで欲しい。使用する文献は認知心理学の中心テーマの一部をなす記憶の概論書である。多くの記憶の理論は心理学的実験結果に基づいて定立されているが、それら実験自体にも一定の限界がある。こうした点をも批判的に検討していきたい。実証的研究に興味のある学生の受講を期待している。

記憶に関する文献の講読と討議をテーマに授業を進めることを考えている。

【到達目標】

当該分野に関する基礎知識の習得と、同分野の代表的方法を知ること为目标とする。

【授業計画】

- 第1回 方針説明と分担の割当
- 第2回 第1章 記憶研究の2つの伝統
予習2時間・復習2時間
- 第3回 第1章 情報処理モデルの展開
予習2時間・復習2時間
- 第4回 第1章 記憶研究の新展開
予習2時間・復習2時間
- 第5回 第2章 記憶をさぐる
予習2時間・復習2時間
- 第6回 第3章 注意
予習2時間・復習2時間
- 第7回 第4章 短期記憶
予習2時間・復習2時間
- 第8回 第4章 作動記憶
予習2時間・復習2時間
- 第9回 第5章 長期記憶：情報の獲得
予習2時間・復習2時間
- 第10回 第6章 長期記憶：知識の構造
予習2時間・復習2時間
- 第11回 第7章 長期記憶：想起と忘却
予習2時間・復習2時間
- 第12回 第9章 記憶の喪失
予習2時間・復習2時間
- 第13回 第10章 潜在記憶
予習2時間・復習2時間
- 第14回 第11章 日常記憶
予習2時間・復習2時間
- 第15回 講評

参加学生の当該分野に関する知識状況に応じて上記計画は一部変更されることがある。

【授業の進め方】

本講座では学生は使用文献中の指定された特定範囲に関する要約を準備し、発表することが期待されている。発表用の要約は教員並びに学生分を前もって準備しておくこと。多くの学生にとって若干専門的で初めての内容になると思われるので、1回あたりの各人の担当範囲は比較的狭く設定しようと思う。しかし発表者は単に担当範囲を読み上げるだけでなく、初学者である他受講生にも理解できるように内容を解説することが求められる。本講座を通して参加学生の認知心理学への関心が高まることを期待している。本講座で扱う以外の領域の認知心理学に関心を持った学生も気軽に相談して欲しい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①認知心理学2 記憶 ②高野陽太郎(編) ③東大出版 ④1995

【参考図書】

なし。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 60%

特記事項

本授業の多くの内容は学生にとって未知のものだと思う。それ故、未知のテーマに積極的に取り組もうとしているかに評価の重点を置きたい。授業態度評価を60点、45点、30点とし、発表内容評価は40点、30点、20点とする。複数回の発表があった場合はその平均値を評価とする。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

なし。

【履修上の心得】

他の受講生に分かるように説明するためには発表者自身が内容を理解する必要がある。そのために本文献以外の資料等を参照することも必要になろうし、推奨される。その際は諸君にとって既知である引用の原則を守ること。猶、なんらの処置なく担当当日に欠席することは当日の授業を実施不能にするのでその場合は単位を付与しない。

【科目のレベル、前提科目など】

特にない。

認定心理士申請科目 その他の科目

科目名	心理学特別研究A
	環境心理学専門演習
教員名	平田 乃美

【授業の内容】

- 1) 環境心理学領域の英語文献を精読，映像資料を視聴する。
- 2) 論文執筆の手引き（公益社団法人 日本心理学会編）を参照して，心理学論文の構成や表記を学ぶ。

【到達目標】

- 1) 文献精読を通して，英語論文に読み慣れる。
- 2) 映像視聴を通して，人間と環境の諸問題について知見を広める。
- 3) 1), 2) を通して，自らが心理学研究に従事するための基礎技能と問題意識を得る。

【授業計画】

第1回 受講案内

- 予習 (90分)：論文執筆の手引きを一読する
- 復習 (90分)：課題の確認と学修計画の作成

第2回 心理学論文の精読1

- 予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する
- 復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第3回 心理学論文の精読2

- 予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する
- 復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第4回 心理学論文の精読3

- 予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する
- 復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第5回 心理学論文の精読4

- 予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する
- 復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第6回 心理学論文の精読5

- 予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する
- 復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第7回 映像教材の視聴1

- 予習 (90分)：配布資料を用いて課題について調べる
- 復習 (90分)：視聴した映像教材の報告書を作成する

第8回 統計解析1

- 予習 (90分)：配布資料を用いて練習課題を解く
- 復習 (90分)：学習内容を振り返り理解を深める

第9回 心理学論文の精読6

- 予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する
- 復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第10回 心理学論文の精読7

- 予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する
- 復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第11回 心理学論文の精読8

- 予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する
- 復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第12回 心理学論文の精読9

- 予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する
- 復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第13回 心理学論文の精読10

- 予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する
- 復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第14回 統計解析2

- 予習 (90分)：配布資料を用いて練習課題を解く
- 復習 (90分)：学習内容を振り返り理解を深める

第15回 映像教材の視聴2

- 予習 (90分)：配布資料を用いて課題について調べる
- 復習 (90分)：視聴した映像教材の報告書を作成する

【授業の進め方】

- 1) 全員が担当文献について口頭発表，関連課題を提出する。
- 2) 文献を通して，心理学研究の手法や統計解析についても学習する。
- 3) 希望があれば，関数電卓・統計解析の演習を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業時間に配布します。教科書や教材の購入はありません。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

【科目のレベル、前提科目など】

認定心理士資格区分:「その他の科目」(心理学関連科目)

科目名	心理学特別研究A
教員名	結城 史隆

【授業の内容】

本ゼミナールのタイトルは「まちづくり・国際協力・ボランティア」である。この三つに共通するのは、自分たちや困っている人が住んでいる地域を少しでも良くしたいという「情熱」と「行動力」である。そしてそれは自分の思考力を鍛えるとともに、さまざまな人々と触れ合うことで自分の居場所を見つけ、充実した時間をもつことにつながる。

そして将来的には地域のリーダーやファシリテーターとして活動、活躍するための基礎をつくることを目的としている。

具体的には、地域活性化に関する基本を学ぶとともに、ボランティアをはじめとした実践活動が重要となる。

【到達目標】

1. 各人が総合的にエンパワーメントすること。
2. 組織の運営力の向上。
3. イベントやプロジェクトの企画力・実践力の向上。
4. ファシリテーション能力の向上。
5. 学生以外の市民とのコミュニケーション能力の向上。

【授業計画】

- 第1回 読書手法：精読と速読
- 第2回 春休み課題レポートの発表と講評
- 第3回 なぜ、今、「まちづくり」か? : 「まちづくり」の意味と諸相
- 第4回 まちづくり事例研究1：大分県大山町（一村一品の原点）
- 第5回 まちづくり事例研究2：平松知事の目指したもの（一村一品運動の仕組み）
- 第6回 まちづくり事例研究3：別府はっとオンパク
- 第7回 まちづくり事例研究4：上勝町 彩事業
- 第8回 フィールド調査手法研究
- 第9回 フィールド調査実践：小山市寒川地区
- 第10回 フィールド調査実施報告
- 第11回 就職を考える：「働く図鑑」ワークショップ
- 第12回 オンパクと国際協力：小山市におけるコクハク（国際博覧会）企画研究1
- 第13回 オンパクと国際協力：小山市におけるコクハク（国際博覧会）企画研究2
- 第14回 海外ボランティア：青年海外協力隊OVによる講演とワークショップ
- 第15回 合宿準備：夏休みのゼミ合宿の準備：テーマ確認、レジュメ作成、報告手法など

「まちづくり・国際協力・ボランティア」で最低限学ぶべきことは以下の点である。

1. 対象となる地域が抱えている全体的状況を把握する。
2. その地域の問題や資源を発掘する。
3. 他の地域の事例を学び研究する。
4. 活動のための手法を習得する。
5. 現場において企画し、運営にあたる。
6. 実践をすすめ、問題解決に努めることによって、活動のありかたを学ぶ。

【授業の進め方】

発表、ワークショップ、ミーティングなど実践活動が中心となる。講義の時間以外にも活動があるのでそれに参加することが重要。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

状況に合わせて随時紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

ゼミ活動への参加意識、プレゼンテーション能力の向上、積極的な質疑応答、実践活動、合宿での研究成果などを総合的に評価する。

【履修上の心得】

最低限でも社会人になって恥ずかしくない問題発掘能力、プレゼンテーション能力、企画力、交渉力、運営力だけは身につけて欲しい。

また、ゼミ生どうしの連絡網をつくり、連絡を密にするだけでなく、親睦をはかっていきたい。

【科目のレベル、前提科目など】

特になし

科目名	心理学特別研究A
教員名	玉宮 義之

【授業の内容】

社会心理学の領域でこれまでに行われてきた研究を学ぶことで、卒業研究に必要な知識の獲得を目標とします。この演習では、参加する皆さんの主体性が推進力となります。論文の読み方や具体的な研究実施法など、基礎的なことは教員が解説しますが、前期に担当する論文を選ぶのは皆さん自身、後期に行う研究テーマを決めるのは皆さん自身となります。

【到達目標】

- ・関連する先行研究の探し方・読み方
- ・研究計画の立案
- ・実験実施
- ・データ分析
- ・結果の解釈

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 論文の探し方・読み方1
- 第3回 論文の探し方・読み方2
- 第4回 研究発表1
- 第5回 研究発表2
- 第6回 研究発表3
- 第7回 研究発表4
- 第8回 研究発表5
- 第9回 研究発表6
- 第10回 研究発表7
- 第11回 研究発表8
- 第12回 研究発表9
- 第13回 研究発表10
- 第14回 研究発表11
- 第15回 前期総括

【授業の進め方】

2・3人一組で演習を進めます。前期は、各組ごとに興味・関心のある論文を読んで、発表してもらいます。後期では、前期に学んだことを生かして、実際に自分たちで研究計画を考えて、実施します。そしてその結果をレポートにまとめます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特にありません

【参考図書】

必要に応じて講義中に指示します

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 60%

【履修上の心得】

社会心理学は、日常におけるありとあらゆる「なぜ」「どうして」を研究対象としています。世の中が不思議でたまらない好奇心旺盛な学生の参加を期待します。

科目名	心理学特別研究B
	発達・臨床ゼミナール
教員名	伊崎 純子

【授業の内容】

3年次後期のゼミナールでは卒業研究の準備期であることを意識して研究計画の立案、予備研究、抄録の作成、ポスター発表の方法を学ぶ。本来「臨床心理学」は臨床現場があってこそ成り立つ学問なので、各種ボランティアを募集した際には積極的に参加することを期待する。

【到達目標】

先行研究を引用・参考文献として検索し、自ら学びを深めることができる
 次年度の卒業研究に向けて研究方法を実践的に使えるかどうかを考えることができる

【授業計画】

- 第1回 研究計画の立案
 予習：先行研究となる文献を検索する（60分）
- 第2回 研究計画の立案
 復習：先行研究の結果をまとめ、自分の研究の目的を検討する（90分）
- 第3回 研究計画の立案
 復習：目的に沿った研究方法を検討する（60分）
- 第4回 研究計画の立案
 復習：予備研究のための準備をする（90分）
- 第5回 予備研究
 復習：調査方法の再検討をする（60分）
- 第6回 予備研究
 復習：予備調査を実施する（120分）
- 第7回 予備研究
 復習：結果を集計する（90分）
- 第8回 予備研究
 復習：結果の概要をまとめる（90分）
- 第9回 予備研究
 復習：統計ソフトによる検定結果を文章化する（60分）
- 第10回 予備研究
 復習：検定結果を踏まえて考察を文章化する（60分）
- 第11回 心理学論文の書き方
 復習：<http://www.psych.or.jp/publication/inst.html>の引用文献の書き方に沿って文献を整理する（60分）
- 第12回 抄録の作成
 復習：研究の目的・方法・結果・考察を文章にまとめ、全体の体裁を整える（90分）
- 第13回 ポスターの作成
 復習：パワーポイントを使い、ポスター発表の準備をする（60分）
- 第14回 ポスター発表
 予習：発表の練習をする（20分）
- 第15回 卒業研究に向けて
 復習：卒業研究のスケジュールを立てる（60分）

・課外には、実態調査やボランティアとして直接支援を試みる。

（例）乳幼児観察実習の部分参加

小山こども発達支援センター「リズム園」での勉強会や行事への参加

【授業の進め方】

ゼミ全体もしくは個別に卒論作成過程を体験する（ゼミ論にするか、各自の卒論の予備研究とするかはゼミ生と話し合って決める）

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない

公益社団法人日本心理学会発行「執筆・投稿の手びき」（2005年改訂版pdf形式ダウンロード可能 <http://www.psych.or.jp/publication/inst.html>）を参照の上、原則、研究の目的・方法・結果・考察・引用文献などの項目から構成される科学論文の要件を理解すること。

【参考図書】

適宜指示する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

受講態度は「課題への取り組み、質疑や課外活動への参加態度」を考慮する

【履修上の心得】

対社会的な活動も行うので、常識ある態度を踏まえること。失敗を恐れず果敢にチャレンジしてみること。

【科目のレベル、前提科目など】

「認定心理士」資格申請では別紙にて領域を確認すること。

科目名	心理学特別研究B
	臨床心理学の研究を読む、グループ研究を行う
教員名	伊東 孝郎

【授業の内容】

臨床心理学は、以前は「応用心理学」のひとつとして、心理学領域全体からすると周辺分野という位置づけであった。しかし現代という不安定な時代において、現実の人間の具体的な問題や疾病と関わり、心の深淵を理解して、その解決や改善へ向けて援助していくという実践的なその研究は、大変に重要な成果を生み出すものとして、社会から広く認知され期待されるようになった。研究や実践に携わる者も増加の一途をたどり、今では心理学の主要な領域となってきた。

本研究では、臨床心理学の多くの研究論文を読み込むこと、および自ら主体的にグループ研究を行い発表することを通じて、その多様な研究領域と研究のためのスキルについて学ぶことを目的とする。

【到達目標】

臨床心理学についての幅広い研究について学び、理解を深める。

論文検索が充分できる。

担当論文のレジュメ作成を通して、研究法のスキルを学ぶ。

積極的にディスカッションに参加できる。

グループ研究をはじめとする様々なゼミ活動を通して、コミュニケーション・スキルを高め、自律的な存在となる。

【授業計画】

- 第1回 グループ研究1
 予習（90分以上）グループで興味を持った研究テーマについて研究する。
 復習（90分以上）授業で話し合った内容について再度検討する。
- 第2回 グループ研究2
 予習（90分以上）グループで興味を持った研究テーマについて研究する。
 復習（90分以上）授業で話し合った内容について再度検討する。
- 第3回 グループ研究3
 予習（90分以上）グループで興味を持った研究テーマについて研究する。
 復習（90分以上）授業で話し合った内容について再度検討する。
- 第4回 グループ研究発表 予行演習
 予習（90分以上）発表の予行演習の準備を行う。
 復習（90分以上）発表予行演習の結果を踏まえて、本番に向けた改善を行う。
- 第5回 グループ研究発表 配布資料の検討
 予習（90分以上）発表時に配布する資料の案を作成する。
 復習（90分以上）配布資料を完成させる。
- 第6回 グループ研究発表の振り返り
 予習（60分）研究発表での感想を記述する。
 復習（60分）他の受講生の感想について考える。
- 第7回 グループ研究発表 来場者アンケートの分析
 予習（90分以上）研究発表来場者のアンケートを集計する。
 復習（60分）授業で分析した結果について検討する
- 第8回 受講生による研究紹介1
 予習（90分以上）卒業研究のテーマと重なる先行研究を探し、読み込む。
 復習（60分）授業で議論した内容について検討する。
- 第9回 受講生による研究紹介2
 予習（90分以上）卒業研究のテーマと重なる先行研究を探し、読み込む。
 復習（60分）授業で議論した内容について検討する。
- 第10回 受講生による研究紹介3
 予習（90分以上）卒業研究のテーマと重なる先行研究を探し、読み込む。
 復習（60分）授業で議論した内容について検討する。
- 第11回 受講生による研究紹介4
 予習（90分以上）卒業研究のテーマと重なる先行研究を探し、読み込む。
 復習（60分）授業で議論した内容について検討する。
- 第12回 受講生による研究紹介5
 予習（90分以上）卒業研究のテーマと重なる先行研究を探し、読み込む。
 復習（60分）授業で議論した内容について検討する。
- 第13回 受講生による研究紹介6
 予習（90分以上）卒業研究のテーマと重なる先行研究を探し、読み込む。
 復習（60分）授業で議論した内容について検討する。

第14回 卒業研究計画発表1

予習（90分以上）次年度の卒業研究の計画を立案する。
復習（90分以上）授業で議論した内容について検討する。

第15回 卒業研究計画発表2

予習（90分以上）次年度の卒業研究の計画を立案する。
復習（90分以上）授業で議論した内容について検討する。

【授業の進め方】

前半は、グループによる研究を進め、一般を対象とした研究発表を行う。

後半は毎回担当者を決め、担当者が自らの卒業研究につながり得る研究論文について報告し、それに基づいて全員でディスカッションするという形式が中心となる。当然、履修者全員が予習してくることを前提とするので、しっかりと学習する覚悟を持って履修すること。

なお「心理学特別研究」の履修者および「卒業研究」履修者合同で、「研究に関するディスカッションと自己理解/対人関係向上のためのワークショップ」を行う合宿を開催する。必ず参加すること。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に定めない。担当者が人数分のプリントを用意する。

【参考図書】

授業中に、必要に応じて紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 70%

特記事項

担当回のプレゼンテーション（作成資料、発表技術、内容）、授業・グループ研究・ゼミ活動への参加態度（関与度合、発言頻度、貢献度、自律性、協力）によって評価する。

【履修上の心得】

臨床心理学の研究をしようとする者にとって、同分野の先行研究について学ぶことは極めて重要である。研究の領域、着眼点や内容について知ることが重要なのはもちろんであるが、研究の方法や論文のまとめ方といった実務的なスキルも身につけなければ、研究を遂行し、論文として発表することはできない。その意味で、過去の研究論文を通して、臨床心理学を幅広く学ぶ本研究は、大切な学習機会となろう。

心理学全体という広い観点からみても、臨床心理学が提示する新たな方法論は、人間心理を研究していく上で大いに役立つと思われる。とりわけ、将来臨床心理士資格取得や対人援助職を目指す者にとって、臨床心理学の研究論文に触れることは、自らの専門性を維持発展させる上で、不可欠なこととなる。

どのような進路を目指すにせよ、自らのキャリアをしっかりと意識し、目的意識を十分に持った上で、自主的に参加する意志を持って受講すること。

【科目のレベル、前提科目など】

「心理学特別研究A」と「同B」は、連続性を持った科目である。必ず両科目とも履修すること。

また、次年度「卒業研究」の前提となる科目である。

本科目は、認定心理士資格申請において「その他の科目」に区分される予定の科目である。

科目名	心理学特別研究B
教員名	神戸 文朗

【授業の内容】

この半期間の講座によって実験心理学、特に認知心理学の基本概念の習得を目指している。その中で諸君は認知心理学の問題意識とは何か、そしてそれを確かめるためにどのように実験が考案されてきたかをも学んで欲しい。使用する文献は認知心理学の中心テーマの一部をなす視知覚と運動制御の概論書であるが、とりわけ視覚研究についての概括を行いたい。また考案された実験方法についても批判的に考察したい。

視覚情報処理に関する講読と討議をテーマに授業を進めることをかながえている。

【到達目標】

当該分野に関する基礎知識の習得と、同分野の代表的方法を知ること为目标とする。

【授業計画】

- 第1回 方針の説明と分担の割当
- 第2回 序章 知覚と運動1
予習2時間・復習2時間
- 第3回 序章 知覚と運動2
予習2時間・復習2時間
- 第4回 第1章 立体視1
予習2時間・復習2時間
- 第5回 第1章 立体視2
予習2時間・復習2時間
- 第6回 第2章 恒常性
予習2時間・復習2時間
- 第7回 第5章 視覚パターン認知1
予習2時間・復習2時間
- 第8回 第5章 視覚パターン認知2
予習2時間・復習2時間
- 第9回 第7章 視覚的注意1
予習2時間・復習2時間
- 第10回 第7章 視覚的注意2
予習2時間・復習2時間
- 第11回 第7章 視覚的注意3
予習2時間・復習2時間
- 第12回 第7章 視覚的注意4
予習2時間・復習2時間
- 第13回 第7章 視覚的注意4
予習2時間・復習2時間
- 第14回 第8章 空間視とその発達・障害
予習2時間・復習2時間
- 第15回 講評

参加学生の当該分野に関する知識状況に応じて上記計画は一部変更されることがある。

【授業の進め方】

本講座では学生は使用文献中の指定された特定範囲に関する要約を準備し、発表することが期待されている。発表用の要約は教員並びに学生分を前もって準備しておくこと。多くの学生にとって若干専門的で初めての内容になると思われるので、1回あたりの各人の担当範囲は比較的狭く設定しようと思う。しかし発表者は単に担当範囲を読み上げるだけでなく、初学者である他受講生にも理解できるように内容を解説することが求められる。本講座を通して参加学生の認知心理学への関心が高まることを期待している。本講座で扱う以外の領域の認知心理学に関心を持った学生も気軽に相談して欲しい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①認知心理学1 知覚と運動 ②乾敏郎(編) ③東大出版

【参考図書】

なし。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 60%

特記事項

本授業の多くの内容は学生にとって未知のものだと思う。それ故、未知のテーマに積極的に取り組もうとしているかに評価の重点を置きたい。授業態評価を60点、45点、30点とし、発表内容評価は40点、30点、20点とする。複数回の発表があった場合はその平均値を評価とする。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

なし。

【履修上の心得】

他の受講生に分かるように説明するためには発表者自身が内容を理解する必要がある。そのために本文献以外の資料等を参照することも必要になろうし、推奨される。その際は諸君にとって既知である引用の原則を守ること。猶、なんらの処置なく担当当日に欠席することは当日の授業を実施不能にするのでその場合は単位を付与しない。

【科目のレベル、前提科目など】

特にない。

認定心理士申請科目 その他の科目

科目名	心理学特別研究B
	環境心理学専門演習
教員名	平田 乃美

【授業の内容】

- 1) 環境心理学領域の英語文献を精読，映像資料を視聴する。
- 2) 論文執筆の手引き（公益社団法人 日本心理学会編）を参照して，心理学論文の構成や表記を学ぶ。

【到達目標】

- 1) 文献精読を通して，英語論文に読み慣れる。
- 2) 映像視聴を通して，人間と環境の諸問題について知見を広める。
- 3) 1), 2) を通して，自らが心理学研究に従事するための基礎技能と問題意識を得る。

【授業計画】

第1回 受講案内

- 予習 (90分)：論文執筆の手引きを一読する
- 復習 (90分)：課題の確認と学修計画の作成

第2回 心理学論文の精読1

- 予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する
- 復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第3回 心理学論文の精読2

- 予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する
- 復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第4回 心理学論文の精読3

- 予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する
- 復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第5回 心理学論文の精読4

- 予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する
- 復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第6回 心理学論文の精読5

- 予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する
- 復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第7回 映像教材の視聴1

- 予習 (90分)：配布資料を用いて課題について調べる
- 復習 (90分)：視聴した映像教材の報告書を作成する

第8回 統計解析1

- 予習 (90分)：配布資料を用いて練習課題を解く
- 復習 (90分)：学習内容を振り返り理解を深める

第9回 心理学論文の精読6

- 予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する
- 復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第10回 心理学論文の精読7

- 予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する
- 復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第11回 心理学論文の精読8

- 予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する
- 復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第12回 心理学論文の精読9

- 予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する
- 復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第13回 心理学論文の精読10

- 予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する
- 復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第14回 統計解析2

- 予習 (90分)：配布資料を用いて練習課題を解く
- 復習 (90分)：学習内容を振り返り理解を深める

第15回 映像教材の視聴2

- 予習 (90分)：配布資料を用いて課題について調べる
- 復習 (90分)：視聴した映像教材の報告書を作成する

【授業の進め方】

- 1) 全員が担当文献について口頭発表，関連課題を提出する。
- 2) 文献を通して，心理学研究の手法や統計解析についても学習する。
- 3) 希望があれば，関数電卓・統計解析の演習を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業時間に配布します。教科書や教材の購入はありません。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

【科目のレベル、前提科目など】

認定心理士資格区分:「その他の科目」(心理学関連科目)

科目名	心理学特別研究B
教員名	結城 史隆

【授業の内容】

本ゼミナールのタイトルは「まちづくり・国際協力・ボランティア」である。この三つに共通するのは、自分たちや困っている人が住んでいる地域を少しでも良くしたいという「情熱」と「行動力」である。そしてそれは自分の思考力を鍛えるとともに、さまざまな人々と触れ合うことで自分の居場所を見つけ、充実した時間をもつことにつながる。

そして将来的には地域のリーダーやファシリテーターとして活動、活躍するための基礎をつくることを目的としている。

具体的には、地域活性化に関する基本を学ぶとともに、ボランティアをはじめとした実践活動が重要となる。

【到達目標】

1. 各人が総合的にエンパワーメントすること。
2. 組織の運営力の向上。
3. イベントやプロジェクトの企画力・実践力の向上。
4. ファシリテーション能力の向上。
5. 学生以外の市民とのコミュニケーション能力の向上。

【授業計画】

- 第1回 夏休みゼミ合宿のふりかえり：論文の作成基礎
 第2回 映像から読み取る異文化理解
 第3回 外国人による英語講演による異文化理解（2014年はコンゴ人）
 第4回 イベントのつくり方（発想法と企画）
 第5回 イベントのつくり方（企画書作成）：小山市企画政策課と協働
 第6回 イベントの実践：小山一夜御殿
 第7回 ファシリテーション研究
 第8回 ファシリテーション実践
 第9回 セミナー企画手法1：社会課題テーマの洗い出しと集約
 第10回 セミナー企画手法2：グループ分けとテーマの深化
 第11回 社会で働くことの意味：「働く図鑑」ワークショップ
 第12回 セミナー企画手法3：ワークショップの型とセッション
 第13回 セミナー企画手法4：プログラムシートの作成
 第14回 セミナー企画手法5：プログラムシートの発表と相互コメント
 第15回 セミナー企画手法6：新ゼミ生向けセミナー実践準備
 卒論研究テーマの確認と春休みの課題・ゼミ論について

「まちづくり・国際協力・ボランティア」で最低限学ぶべきことは以下の点である。

1. 対象となる地域が抱えている全体的状況を把握する。
2. その地域の問題や資源を発掘する。
3. 他の地域の事例を学び研究する。
4. 活動のための手法を習得する。
5. 現場において企画し、運営にあたる。
6. 実践をすすめ、問題解決に努めることによって、活動のありかたを学ぶ。

【授業の進め方】

発表、ワークショップ、ミーティングなど実践活動が中心となる。講義の時間以外にも活動があるのでそれに参加することが重要。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

状況に合わせて随時紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

ゼミ活動への参加意識、プレゼンテーション能力の向上、積極的な質疑応答、実践活動、合宿での研究成果などを総合的に評価する。

【履修上の心得】

最低限でも社会人になって恥ずかしくない問題発掘能力、プレゼンテーション能力、企画力、交渉力、運営力だけは身につけて欲しい。

また、ゼミ生どうしの連絡網をつくり、連絡を密にするだけでなく、親睦をはかっていきたい。

【科目のレベル、前提科目など】

特になし

科目名	心理学特別研究B
教員名	玉宮 義之

【授業の内容】

社会心理学の領域でこれまでに行われてきた研究を学ぶことで、卒業研究に必要な知識の獲得を目標とします。この演習では、参加する皆さんの主体性が推進力となります。論文の読み方や具体的な研究実施法など、基礎的なことは教員が解説しますが、前期に担当する論文を選ぶのは皆さん自身、後期に行う研究テーマを決めるのは皆さん自身となります。

【到達目標】

- ・ 関連する先行研究の探し方・読み方
- ・ 研究計画の立案
- ・ 実験実施
- ・ データ分析
- ・ 結果の解釈

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマの設定と先行研究のレビュー1
- 第3回 研究テーマの設定と先行研究のレビュー2
- 第4回 研究計画の策定1
- 第5回 研究計画の策定2
- 第6回 研究計画の策定3
- 第7回 研究計画の策定4
- 第8回 実験・調査の実施1
- 第9回 実験・調査の実施2
- 第10回 データ解析1
- 第11回 データ解析2
- 第12回 データ解析3
- 第13回 研究発表1
- 第14回 研究発表2
- 第15回 後期総括

【授業の進め方】

2・3人一組で演習を進めます。後期では、前期に学んだことを生かして、実際に自分たちで研究計画を考えて、実施します。そしてその結果をレポートにまとめます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特にありません

【参考図書】

必要に応じて講義中に指示します

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 60%

【履修上の心得】

社会心理学は、日常におけるありとあらゆる「なぜ」「どうして」を研究対象としています。世の中が不思議でたまらない好奇心旺盛な学生の参加を期待します。

科目名	社会科教育法 I
教員名	熊田 禎介

【授業の内容】

この授業は、社会科教育法ⅡおよびⅢとともに、中学校社会科の教員免許状を取得するためには、必ず履修しなければならない教職科目である。本授業の目的は、わが国の社会科教育の歴史と現在について、初期社会科の理念、学習指導要領に見る社会科教育の変遷、そして社会科教育が抱えている諸課題等を学ぶことを通して、社会科教育に関する基本的な知識・理解を深めることである。

【到達目標】

わが国における社会科教育の歴史と現在について、初期社会科の理念、学習指導要領に見る社会科教育の変遷、そして社会科教育が抱えている諸課題等を学ぶことを通して、基本的な知識・理解を深めることができる。

【授業計画】

- 第1回 社会科教育法 I で何を学ぶのか (オリエンテーション)
- 第2回 社会科はどのような教科なのか (基本理念、初期社会科)
- 第3回 社会科はどのように変わってきたのか (学習指導要領、教科書)
授業で配布したプリントをもとに、学習指導要領の内容について、各自予習する(60分)。
- 第4回 社会科はどのように実践されてきたのか (カリキュラム構造、授業論)
- 第5回 社会科はどのような課題を抱えているのか (教科書問題、総合的な学習の時間、等)
- 第6回 中学校社会科地理的分野の内容構成 (目標・内容・方法)
授業で取り上げた学習指導要領の内容について、各自復習する(30分)。
- 第7回 中学校社会科歴史的分野の内容構成 (目標・内容・方法)
授業で取り上げた学習指導要領の内容について、各自復習する(30分)。
- 第8回 中学校社会科公民的分野の内容構成 (目標・内容・方法)
授業で取り上げた学習指導要領の内容について、各自復習する(30分)。
- 第9回 中学校社会科と「総合的な学習の時間」との関連
- 第10回 中学校社会科における学習指導法(調べ方・学び方やICT活用を活用した指導の方法)
- 第11回 中学校社会科が抱える課題 (評価のあり方、等)
- 第12回 中学校社会科の実践に学ぶ① (地理的分野・シミュレーション教材)
- 第13回 中学校社会科の実践に学ぶ② (歴史的分野・考える日本史)
- 第14回 中学校社会科の実践に学ぶ③ (公民的分野・法教育)
- 第15回 総括
これまでの授業について復習し、後期に向けて目標を立てる(60分)。

【授業の進め方】

基本的には、講義概要を示したレジュメをもとに講義形式で進めるが、適宜資料を配付し、教科書や参考書を参照する。その際、学習課題に基づくグループ・ディスカッションや体験活動なども取り入れ、将来の教職を目指す受講者自らが抱く社会科教育に関する課題意識を積極的に表現する機会を多く設定したい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①『中学校学習指導要領解説 社会編』 ②文部科学省 ③日本文教出版 ④平成20年9月 ⑤175円

学内書店等で購入すること。

【参考図書】

- 日本社会科教育学会編『新版 社会科教育事典』(ぎょうせい、2012年)
東京学芸大学社会科教育学研究室編『中高社会科へのアプローチ 社会科教師の専門性育成』(東京学芸大学出版会、2010年)
原田智仁編著『社会科教育のフロンティア—生きぬく知恵をはぐくむ—』(保育出版社、2010年)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 20% レポート・課題 50% 受講態度 30%

特記事項

授業への取り組み状況 (30%)、授業内レポート (20%)、最終レポート (50%) による総合評価。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

3分の2以上の出席を満たした者を評価対象とする。遅刻・早退は、原則として欠席と見なす。

【履修上の心得】

教職に就くことを強く希望し、かつ近年の教員採用試験の難化を乗り越えて教職を目指す覚悟を有する学生の受講を前提としている。したがって、単に教員免許だけを取得するという安易な考えで履修しないこと。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目 他の教職科目。

関連科目 社会科教育法Ⅱ、Ⅲ、社会科・公民科教育法。特に、社会科教育法Ⅱ、Ⅲの前提となっており、目的・内容ともに関連をはかっている。

科目名	社会科教育法Ⅱ
教員名	熊田 禎介

【授業の内容】

この授業は、社会科教育法ⅠおよびⅢとともに、中学校「社会」の教員免許状を取得するためには、必ず履修しなければならない教職科目である。本授業の目的は、中学校社会科における授業構成の方法について、基本的な理解と技能を習得することである。具体的には、社会科授業における導入の役割や各分野の内容や特性を生かした授業構成の方法を実践的に学ぶことを目指している。

【到達目標】

中学校社会科における授業構成の方法について、基本的な理解と技能を習得することができる。また、社会科授業における導入の役割や各分野の内容や特性を生かした授業構成の方法について、理解を深めることができる。

【授業計画】

- 第1回 社会科教育法Ⅱで何を学ぶのか（オリエンテーション）
 第2回 中学校社会科における授業構成の方法
 第3回 中学校社会科授業における「導入」を考える①（マイクロティーチングの実施1）
 第4回 中学校社会科授業における「導入」を考える②（マイクロティーチングの実施2）
 第5回 中学校社会科授業における「導入」を考える③（マイクロティーチングの振り返り）
 第6回 中学校社会科(地理的分野)における授業構成①（地理的分野における授業づくりの視点）
 第7回 中学校社会科(地理的分野)における授業構成②（「身近な地域の調査」に関する学習）
 授業で配布したプリントをもとに、各自復習する(30分)。
 第8回 中学校社会科(地理的分野)における授業構成③（動態的な地誌学習）
 第9回 中学校社会科(歴史的分野)における授業構成①（歴史的分野における授業づくりの視点）
 授業で配布したプリントをもとに、各自復習する(30分)。
 第10回 中学校社会科(歴史的分野)における授業構成②（「歴史のとらえ方」に関する学習）
 第11回 中学校社会科(歴史的分野)における授業構成③（歴史を大観する歴史学習）
 第12回 中学校社会科(公民的分野)における授業構成①（公民的分野における授業づくりの視点）
 授業で配布したプリントをもとに、各自復習する(30分)。
 第13回 中学校社会科(公民的分野)における授業構成②（「私たちと現代社会」に関する学習）
 第14回 中学校社会科(公民的分野)における授業構成③（社会的な見方・考え方を育成する授業）
 第15回 総括
 これまでの授業を通して学んだことについて振り返る(60分)。

【授業の進め方】

授業の前半は、各自で中学校社会科の授業の導入部分を構想・実践し、その振り返りを行う。また、授業の後半では、グループごとに各分野の特性・内容に即した授業構成を考え発表し、全体で検討する活動が中心になる。その際、各分野の特性・内容に応じて、地域調査やICTを活用した授業づくりの在り方についても具体的に考えていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①『中学校学習指導要領解説 社会編』 ②文部科学省 ③日本文教出版 ④平成20年9月 ⑤175円

学内書店等で購入すること。

【参考図書】

- 日本社会科教育学会編『新版 社会科教育事典』（ぎょうせい、2012年）
 東京学芸大学社会科教育学研究室編『中高社会科へのアプローチ 社会科教師の専門性育成』（東京学芸大学出版会、2010年）
 原田智仁編著『社会科教育のフロンティア—生きぬく知恵をはぐくむ—』（保育出版社、2010年）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 20% レポート・課題 50% 受講態度 30%

特記事項

授業への取り組み状況（30%）、授業内レポート（20%）、最終レポート（50%）による総合評価。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

3分の2以上の出席を満たした者を評価対象とする。遅刻・早退は、原則として欠席と見なす。

【履修上の心得】

教職に就くことを強く希望し、かつ近年の教員採用試験の難化を乗り越えて教職を目指す覚悟を有する学生の受講を前提としている。したがって、単に教員免許だけを取得するという安易な考えで履修しないこと。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目 他の教職科目、社会科教育法Ⅰ。

関連科目 社会科教育Ⅲ、社会科・公民科教育法。特に、社会科教育法Ⅲの前提となっており、目的・内容ともに関連をはかっている。

なお、本科目では、教育実習を行う際の基本的な内容を扱っているので、教育実習に行く前に履修すること。

科目名	社会科教育法Ⅲ
教員名	熊田 禎介

【授業の内容】

この授業は、社会科教育法ⅠおよびⅡとともに、中学校社会科の教員免許状を取得するためには、必ず履修しなければならない教職科目である。本授業の目的は、社会科教育法ⅠおよびⅡで学んだことをもとに、学習指導案作成および模擬授業を実施し、中学校社会科の授業に関する基本的な理解と技能を実践的に習得することである。

【到達目標】

中学校社会科の学習指導案作成および模擬授業を行うことを通して、中学校社会科の授業に関する基本的な理解と技能を習得することができる。

【授業計画】

- 第1回 社会科教育法Ⅲで何を学ぶのか（オリエンテーション）
- 第2回 社会科における授業づくりの方法①（授業づくりとその手順）
授業で配布したプリントをもとに、各自復習する(30分)。
- 第3回 社会科における授業づくりの方法②（地域調査・ICT等の活用方法）
授業で配布したプリントをもとに、各自復習する(30分)。
- 第4回 社会科における授業づくりの方法③（授業づくりの実際）
授業で配布したプリントをもとに、各自復習する(30分)。
- 第5回 社会科の実践に学ぶ①（学習指導案の書き方・作成）
- 第6回 社会科の実践に学ぶ②（学習指導案の作成）
- 第7回 社会科の実践に学ぶ③（模擬授業の目的と授業分析の方法）
- 第8回 社会科の実践に学ぶ④（地理的分野における模擬授業と検討）
- 第9回 社会科の実践に学ぶ⑤（地理的分野における授業分析）
- 第10回 社会科の実践に学ぶ⑥（歴史的分野における模擬授業と検討）
- 第11回 社会科の実践に学ぶ⑦（歴史的分野における授業分析）
- 第12回 社会科の実践に学ぶ⑧（公民的分野における模擬授業と検討）
- 第13回 社会科の実践に学ぶ⑨（公民的分野における授業分析）
- 第14回 社会科の実践に学ぶ⑩（社会科における授業づくりの方法と課題）
- 第15回 総括
これまでの授業を通して学んだことについて振り返る(60分)。

【授業の進め方】

中学校社会科の教育内容をもとに、各自(各グループ)が学習指導案の作成を行い、それに基づき模擬授業を行う。受講人数が多い場合には、各自(各グループ)が作成した模擬授業案に関するプレゼンテーションを実施することも視野に入れる。基本的には、学習指導案とこれを用いた模擬授業またはプレゼンテーションの様子を、生徒役である受講学生とともに検討する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①『中学校学習指導要領解説 社会編』 ②文部科学省 ③日本文教出版 ④平成20年9月 ⑤175円

学内書店等で購入すること。

【参考図書】

- 日本社会科教育学会編『新版 社会科教育事典』（ぎょうせい、2012年）
東京学芸大学社会科教育学研究室編『中高社会科へのアプローチ 社会科教師の専門性育成』（東京学芸大学出版会、2010年）
原田智仁編著『社会科教育のフロンティア—生きぬく知恵をはぐくむ—』（保育出版社、2010年）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 20% レポート・課題 50% 受講態度 30%

特記事項

授業への取り組み状況（30%）、授業内レポート（20%）、模擬授業・最終レポート（50%）による総合評価。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

3分の2以上の出席を満たした者を評価対象とする。遅刻・早退は、原則として欠席と見なす。

【履修上の心得】

教職に就くことを強く希望し、かつ近年の教員採用試験の難化を乗り越えて教職を目指す覚悟を有する学生の受講を前提としている。したがって、単に教員免許だけを取得するという安易な考えで履修しないこと。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目 他の教職科目、社会科教育法Ⅰ、社会科教育法Ⅱ。

関連科目 社会科・公民科教育法。

なお、本科目では、教育実習を行う際の基本的な内容を扱っているので、教育実習に行く前に履修すること。

科目名	社会科・公民科教育法
教員名	熊田 禎介

【授業の内容】

この授業は、中学校社会科および高等学校公民科の教員免許状の取得希望者のために、開講する教職科目である（なお、高等学校「公民」の教員免許状を取得するためには、必ず履修しなくてはならない教職科目である）。本授業の目的は、中等社会科公民的分野の持つ基本理念や各領域・科目の目標・内容・方法に関する基礎的な知識・理解を得るとともに、具体的な教材研究の方法を学ぶことを通して、社会科・公民科授業に関する基本的な理解と技能を習得することである。

【到達目標】

中等社会科公民的分野の持つ基本理念や各領域・科目の目標・内容・方法に関する基礎的な知識・理解を得ることができる。また、具体的な教材研究の方法を学ぶことを通して、社会科・公民科授業に関する基本的な理解と技能を習得することができる。

【授業計画】

- 第1回 社会科・公民科教育法で何を学ぶのか（オリエンテーション）
 第2回 中等社会科公民的分野の基本理念
 第3回 中等社会科公民的分野の目標・内容・方法
 授業で配布したプリントをもとに、学習指導要領の内容について、各自予習する(60分)。
 第4回 中学校社会科公民的分野の目標・内容・方法
 授業で取り上げた学習指導要領の内容について、各自復習する(30分)。
 第5回 高等学校公民科の目標・内容・方法
 授業で取り上げた学習指導要領の内容について、各自復習する(30分)。
 第6回 社会科・公民科における教材研究の方法①（中学校・高等学校における教材研究）
 第7回 社会科・公民科における教材研究の方法②（教材研究の手順、ICT活用の方法）
 第8回 社会科・公民科における教材研究の方法③（教材研究の実際）
 第9回 社会科・公民科における教材研究①（政治学習に関する教材研究と発表・検討）
 第10回 社会科・公民科における教材研究②（経済学習に関する教材研究と発表・検討）
 第11回 社会科・公民科における教材研究③（国際政治・経済学習に関する教材研究と発表・検討）
 第12回 社会科・公民科における教材研究④（倫理学習に関する教材研究と発表・検討）
 第13回 社会科・公民科における教材研究⑤（現代社会の特質と青年期に関する学習の教材研究と発表・検討）
 第14回 社会科・公民科における教材研究⑥（選択社会・学校設定科目に関する教材研究と発表・検討）
 第15回 総括
 これまでの授業を通して学んだことについて振り返る(60分)。

【授業の進め方】

授業の前半では、講義概要を示したレジュメをもとに講義形式で進めるが、適宜資料を配付し、教科書や参考書を参照する。また、各項目については、実践例を参考としながら、各領域・科目の目標・内容・方法を検討する。その際、学習課題に基づくグループ・ディスカッションや体験活動なども取り入れ、将来の教職を目指す受講者自らが抱く課題意識を積極的に表現する機会を多く設定したい。授業の後半では、中学校社会科公民的分野および高等学校公民科の各領域・内容に即して、各自（各グループ）で教材研究の方法を具体的かつ実践的に学ぶ活動を取り入れる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①『中学校学習指導要領解説 社会編』 ②文部科学省 ③日本文教出版 ④平成20年9月 ⑤175円
 ①『高等学校学習指導要領解説 公民編』 ②文部科学省 ③教育出版 ④平成22年6月 ⑤336円

学内書店等で購入すること。

【参考図書】

- 日本公民教育学会編『テキストブック公民教育』（第一学習社、2013年）
 日本公民教育学会編『公民教育事典』（第一学習社、2009年）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 20% レポート・課題 50% 受講態度 30%

特記事項

授業への取り組み状況（30%）、授業内レポート（20%）、模擬授業・最終レポート（50%）による総合評価。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

3分の2以上の出席を満たした者を評価対象とする。遅刻・早退は、原則として欠席と見なす。

【履修上の心得】

教職に就くことを強く希望し、かつ近年の教員採用試験の難化を乗り越えて教職を目指す覚悟を有する学生の受講を前提として講義を進める。したがって、単に教員免許だけを取得するという安易な考えで履修しないこと。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目 他の教職科目。

関連科目 社会科教育法Ⅰ、社会科教育法Ⅱ、社会科教育法Ⅲ、公民科教育法。

なお、本科目では、教育実習を行う際の基本的な内容を扱っているので、教育実習に行く前に履修すること。

科目名	公民科教育法
教員名	熊田 禎介

【授業の内容】

この授業は、高等学校公民科の教員免許状を取得するためには、必ず履修しなくてはならない教職科目である。本授業の目的は、高等学校公民科の目標・内容・方法をふまえた上で、学習指導案作成および模擬授業を実施し、公民科の授業に関する基本的な理解と技能を実践的に習得することである。

【到達目標】

高等学校公民科の目標・内容・方法に関して、基礎的な知識・理解を得ることができる。また、学習指導案作成および模擬授業を通して、公民科の授業に関する基本的な理解と技能を習得することができる。

【授業計画】

- 第1回 公民科教育法で何を学ぶのか（オリエンテーション）
 第2回 公民科の基本理念①（公民教育の存在意義と役割）
 第3回 公民科の基本理念②（教育課程における公民教育の位置）
 授業で配布したプリントをもとに、学習指導要領の内容について、各自予習する(60分)。
 第4回 公民科各領域の目標・内容・方法①（現代社会）
 授業で取り上げた学習指導要領の内容について、各自復習する(30分)。
 第5回 公民科各領域の目標・内容・方法②（政治経済）
 授業で取り上げた学習指導要領の内容について、各自復習する(30分)。
 第6回 公民科各領域の目標・内容・方法③（倫理、新しい領域）
 授業で取り上げた学習指導要領の内容について、各自復習する(30分)。
 第7回 公民科の実践に学ぶ①（授業構成の方法・ICTを活用した実践事例に基づく検討）
 第8回 公民科の実践に学ぶ②（学習指導案の書き方・作成）
 第9回 公民科の実践に学ぶ③（学習指導案の作成）
 第10回 公民科の実践に学ぶ④（「現代社会」に関する模擬授業と検討）
 第11回 公民科の実践に学ぶ⑤（「政治」に関する模擬授業と検討）
 第12回 公民科の実践に学ぶ⑥（「経済」に関する模擬授業と検討）
 第13回 公民科の実践に学ぶ⑦（「倫理」に関する模擬授業と検討）
 第14回 公民科の実践に学ぶ⑧（新しい領域に関する模擬授業と検討）
 第15回 総括
 これまでの授業について復習し、後期の授業に向けて目標を立てる(60分)。

【授業の進め方】

授業の前半では、講義概要を示したレジュメをもとに講義形式で進めるが、適宜資料を配付し、教科書や参考書を参照する。また、各項目については、実践例を参考としながら、各科目の目標・内容・方法を検討する。その際、学習課題に基づくグループ・ディスカッションや体験活動などを取り入れ、将来の教職を目指す受講者自らが抱く課題意識を積極的に表現する機会を多く設定したい。授業の後半では、公民科の教育内容をもとに、各自（各グループ）が学習指導案作成を行い、それに基づき模擬授業を行う。この模擬授業および学習指導案を、生徒役である受講学生とともに検討する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①『高等学校学習指導要領解説 公民編』 ②文部科学省 ③教育出版 ④平成22年6月 ⑤336円

学内書店等で購入すること。

【参考図書】

- 日本公民教育学会編『テキストブック公民教育』（第一学習社、2013年）
 日本公民教育学会編『公民教育事典』（第一学習社、2009年）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 20% レポート・課題 50% 受講態度 30%

特記事項

授業への取り組み状況（30%）、授業内レポート（20%）、模擬授業・最終レポート（50%）による総合評価。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

3分の2以上の出席を満たした者を評価対象とする。遅刻・早退は、原則として欠席と見なす。

【履修上の心得】

教職に就くことを強く希望し、かつ近年の教員採用試験の難化を乗り越えて教職を目指す覚悟を有する学生の受講を前提として授業を進める。したがって、単に教員免許だけを取得するという安易な考えで履修しないこと。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目 他の教職科目。

関連科目 社会科教育法Ⅰ、社会科教育法Ⅱ、社会科教育法Ⅲ、社会科・公民科教育法。

なお、本科目では、教育実習を行う際の基本的な内容を扱っているので、教育実習に行く前に履修すること。

科目名	キャリア心理学
教員名	伊東 孝郎

【授業の内容】

近年、社会における雇用環境の悪化と不安定な若者の就労状況を反映してか、あるいは将来への漠然とした心理的な不安が増加しているためか、キャリア教育の重要性が高まり、それに伴って「キャリア」という言葉がよく聞かれるようになった。その一方で、この「キャリア」という多様な意味を有する言葉のとらえ方はさまざまであり、その多様性がキャリア教育の弊害となっていることも否定できない。

本講義では、自らの生き方に関わる重要な「キャリア」の概念について理解し、関連するさまざまな心理学理論や実践を学ぶ。さらには、自らがどのようにキャリアを形成し、生きていくのかについて、授業を通して考えていく。

【到達目標】

キャリアの概念を理解している。

キャリアに関連する種々の心理学的な理論や実践について理解している。

自らのキャリア形成について考え、その方向性を見出している。

【授業計画】

- 第1回 キャリアとは何か
復習（60分）キャリアの概念についてまとめる。
- 第2回 社会人になるということ
予習（60分）「社会人になる」ことを自分なりにイメージする。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第3回 キャリア発達の心理学的理論1
—D.スーパーの理論について
復習（60分）スーパーの理論についてまとめる。
- 第4回 キャリア発達の心理学的理論2
—J.ホルランドの理論について
復習（60分）ホルランドの理論についてまとめる。
- 第5回 ホランド理論に基づく「VPI職業興味検査」の実施と解説
復習（90分）自分の検査結果を検討するとともに、「職業ガイド」を熟読し、さまざまな職業について学ぶ。
- 第6回 キャリア発達の心理学的理論3
—J.クランボルツの理論について
復習（60分）クランボルツの理論についてまとめる。
- 第7回 キャリア発達の心理学的理論4
—E.シャインの理論について
復習（60分）シャインの理論についてまとめる。
- 第8回 キャリア発達の心理学的理論5
—N.シュロスバーグの理論について
復習（60分）シュロスバーグの理論についてまとめる。
- 第9回 スポーツにおけるキャリア・トランジション
—Jリーグと日本プロ野球機構の場合
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第10回 女性のキャリア・トランジション
予習（60分）日本における女性のキャリア・トランジションについて考える。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第11回 ワーク・ライフ・バランス
予習（60分）ワーク・ライフ・バランスについて調べる。
復習（60分）ワーク・ライフ・バランスの観点から、自分のキャリア・デザインについて検討する。
- 第12回 障害者のキャリア形成
予習（60分）日本における障害者のキャリア形成について調べる。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第13回 「新型うつ」とは
予習（60分）「新型うつ」について調べる。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第14回 キャリア・カウンセリングとEAP（従業員支援プログラム）
予習（60分）EAPについて調べる。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第15回 ストレスチェック制度について
予習（60分）ストレスチェック制度について調べる。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。

【授業の進め方】

前半は、主にプリントを用いて講義形式ですすめる。

後半は自分のキャリアについて考えることが重要なテーマとなるため、講義に加えて、自己を見つめるワークや受講者同士のディスカッションを通じて、実際に深く考え、積極的に自らの意見を表明し、他者の意見から学ぶことが期待される。

授業内で学んだこと、考えたことについて、不定期にリアクションペーパーへの記述を求める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

指定しない。適宜、プリントを配布する。

【参考図書】

渡辺三枝子 編著 (2003) 「キャリアの心理学—働く人の理解<発達理論と支援への展望>」 ナカニシヤ出版

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

【履修上の心得】

人生という長い道のりをいかに生きていくか。現在、大学生という重要な岐路に立っている諸君にとって、「キャリア」に関する一般的な理論や実践について学び、さらには自らのキャリアをどう形作っていくかを考える機会となる本講義は、非常に重要な体験となり得るだろう。真摯かつ積極的な受講態度を期待する。

【科目のレベル、前提科目など】

心理学専攻カリキュラムの中では、専攻専門科目として位置づけられる。

「認定心理士」資格申請では「その他の科目」(i領域:心理学関連科目)に区分される予定の科目である。

【備 考】

出席確認はカード型端末機のみで行う。学生証不携帯は欠席扱いとなるので注意すること。

科目名	心理学特講 I (心理アセスメント論)
	心理アセスメント論
教員名	伊崎 純子

【授業の内容】

「心理学研究法」の「検査法」に関する講義で知能とパーソナリティに関わる心理検査を概観した。心理アセスメントは（臨床）心理査定ともいわれ、本来、面接や心理検査を通してその人の背景と現状、問題が生じるまでのプロセスや今後の見通しを把握することを指す（ケースフォーミュレーションとよばれる）。本講義では、心理検査の解説と並行しながらアセスメントの様子を想像してもらいたい。具体的には、①知能のアセスメント、②パーソナリティのアセスメント、③神経心理学的アセスメントの意義を学び、それぞれ代表的な心理検査をテキストの事例をもとに取り上げ、成り立ち、目的、実施法、研究の動向を紹介する。

【到達目標】

1. 心理検査の意義と原則について理解できる
2. 基礎的な心理検査の成り立ち、目的、実施法を理解できる
3. 心理検査法を用いた臨床例と研究の動向を理解できる

【授業計画】

- 第1回 心理アセスメントにおける検査法の位置づけ
予習:「心理学研究法」の心理検査法の資料を復習する(10分)
- 第2回 知能と知能検査・発達検査概論
復習:発達検査と知能検査の違いをまとめる(30分)
- 第3回 ウェクスラー式知能検査:WPPSI,WISC-IV,WAIS-III
復習:WISCの改訂に伴う相違点・修正点をまとめる(60分)
- 第4回 事例1:テキスト第7章(児童養護施設)
復習:知能検査を実施する意義についてまとめる(30分)
- 第5回 パーソナリティ検査概論
復習:質問紙法・作業検査法・投影法の手技別に各種パーソナリティ検査を一覧表にまとめる(60分)
- 第6回 TEG II,SCT,バウムテスト
復習:授業で取り上げた各検査について復習する(30分)
- 第7回 事例2:テキスト第4章(大学病院精神科)
復習:パーソナリティ検査のバッテリーについて復習する(20分)
- 第8回 HTPP,DAP
復習:授業で取り上げた各検査について復習する(20分)
- 第9回 事例3:テキスト第9章(民間企業内カウンセリングルーム)
復習:描画法について調べる(60分)
- 第10回 ロールシャッハ・テスト,内田クレペリン精神作業検査
復習:授業で取り上げた各検査について復習する(30分)
- 第11回 事例4:テキスト第2章(単科精神科病院)
復習:投影法の意義についてまとめる(20分)
- 第12回 神経心理学的検査概論
復習:脳とこころの関係についてまとめる(30分)
- 第13回 コース立方体組み合わせテスト,MMSE,WFT,CDT,HDS-R
復習:授業で取り上げた各検査について復習する(50分)
- 第14回 事例5:テキスト第5章(もの忘れ外来)
復習:認知症について調べる(30分)
- 第15回 司法場面、教育場面におけるアセスメントを含めたまとめ
復習:これまでの授業の内容をまとめ、知識を整理する(120分)

紹介する検査数が多いため、多少授業の内容が前後する可能性がある。できる限り全授業の出席を期待する。

【授業の進め方】

授業計画に従って、教科書の事例をもとに数多の心理検査法の成り立ち、目的、実施方法などについてパワーポイントで説明していく。授業の最後にリアクションペーパーを提出してもらうことがある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①事例でわかる 心理検査の伝え方・活かし方 ②竹内健児 ③金剛出版 ④2009 ⑤3672 ⑥978-4772411134

学内書店等にて各自購入しておくこと
各種検査については、別途資料を配布する

【参考図書】

『心理検査の実施の初歩（心理学基礎演習vol.5）』願興寺ほか（2011）ナカニシヤ出版
『心理アセスメントハンドブック』上里監修（2001）西村書店

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 50%

特記事項

平常点（リアクションペーパーの提出状況）と定期試験の得点で評価する

【科目のレベル、前提科目など】

心理検査法、心理アセスメントに関する入門レベル(専門用語の基礎知識の保有を目的とする)。

事前知識としては2年後期に「心理学研究法」を履修済み程度の知識を保有していること。

さらに実践的な内容を希望する場合には後期に開講される「臨床心理学検査実習1」（演習・1単位）を履修すると良い。

科目名	心理学特講 I (芸術療法)
教員名	伊東 孝郎

【授業の内容】

心理療法は、いわゆるカウンセリングに代表される言語的アプローチと、それ以外の表現を媒介として用いる非言語的アプローチとに大別される。芸術療法は、後者の代表的な心理療法である。

本講義においては、芸術療法、遊戯療法など、非言語的表現を用いる心理療法に焦点を当て、その理論や実際について学ぶことを目的とする。こうした学習を通して、自己表現についての意味や意義を考えることも重要である。

【到達目標】

- 芸術療法の理論、意義と、期待される効果について理解する。
- さまざまな芸術療法の実際について理解する。

【授業計画】

- 第1回 芸術療法とは
一言語的アプローチと非言語的アプローチ
予習 (60分) 芸術療法について調べる。
復習 (60分) 授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第2回 芸術療法の歴史
予習 (60分) 芸術療法の歴史について調べる。
復習 (60分) 授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第3回 芸術療法と心理検査
予習 (60分) 表現を用いる心理検査について調べる。
復習 (60分) 授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第4回 遊戯療法の諸理論 1
復習 (60分) 授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第5回 芸術療法の諸理論 2
復習 (60分) 授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第6回 芸術療法の諸理論 3
復習 (60分) 授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第7回 描画法
予習 (60分) 描画法について調べる。
復習 (60分) 授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第8回 箱庭療法
予習 (60分) 箱庭療法について調べる。
復習 (60分) 授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第9回 コラージュ療法
予習 (60分) コラージュ療法について調べる。
復習 (60分) 自分の制作したコラージュについて検討する。
- 第10回 サイコドラマ
予習 (60分) サイコドラマについて調べる。
復習 (60分) 授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第11回 音楽療法
予習 (60分) 音楽療法について調べる。
復習 (60分) 授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第12回 ダンス・ムーブメント療法
予習 (60分) ダンス・ムーブメント療法について調べる。
復習 (60分) 授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第13回 芸術療法の実際 1
復習 (60分) 授業で紹介された事例を検討する。
- 第14回 芸術療法の実際 2
復習 (60分) 授業で紹介された事例を検討する。
- 第15回 まとめ
復習 (120分) これまでの授業内容について復習する。

【授業の進め方】

前半は理論面に重点を置いた講義を行う。

後半はさまざまな芸術療法の実際について、実際に体験をしたり、事例を交えたりしながら学習する。授業内で学んだこと、考えたことについて、不定期にリアクションペーパーへの記述を求める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考図書】

講義中に適宜紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

【履修上の心得】

芸術療法について学ぶことを通して、人間にとっての「表現」について、深く考えることになる。心理臨床を目指す者に限らず、自己の表現そのものにも興味を持つ者にも広く受講してほしい。

また、実際に芸術療法を体験する機会もあるので、自らを見つめる覚悟をもって履修すること。

【科目のレベル、前提科目など】

「臨床心理学」をすでに受講済みのこと。

本講義は、認定心理士資格申請において「G.臨床心理学・人格心理学」に区分される予定の科目である。

【備 考】

出席確認はカード型端末機のみで行う。学生証不携帯は欠席扱いとなるので注意すること。

科目名	心理学特講 I (臨床心理実務倫理)/臨床心理実務倫理
教員名	伊東 孝郎

【授業の内容】

本講義は、臨床心理実務に関する倫理についての講義であるが、広く心理学研究全般についての倫理に関しても取り上げ、心理学専攻学生として必要な倫理的な態度を身につけることを目的とする。

【到達目標】

臨床心理実務に関する倫理について、さまざまな考え方を理解し、自分なりの倫理観の基礎を形成する。
心理学研究に関する倫理的な態度を身につける。

【授業計画】

- 第1回 心理学研究と倫理
復習 (60分) 授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第2回 心理学関連学会と職能団体の倫理綱領
復習 (60分) 各学会・団体の倫理綱領について復習する。
- 第3回 心理学と倫理1
—ワトソンの実験
復習 (60分) 授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第4回 心理学と倫理2
—ミルグラムの実験
復習 (60分) 授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第5回 心理学と倫理3
—映画「グロリアと三人のセラピスト」について
復習 (60分) 授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第6回 臨床心理実務倫理とは
復習 (60分) 授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第7回 価値と倫理
復習 (60分) 授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第8回 カウンセリングにおける守秘義務
予習 (60分) 守秘義務について調べる。
復習 (60分) 授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第9回 守秘義務の例外
—タラソフ事件を例に考える。
予習 (60分) タラ祖父事件について調べる。
復習 (60分) 授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第10回 多重関係
予習 (60分) 多重関係について調べる。
復習 (60分) 授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第11回 倫理違反とジレンマ解決プロセス
復習 (60分) 授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第12回 倫理と道徳原理
復習 (60分) 授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第13回 行動倫理学と「限定された倫理性」
復習 (60分) 授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第14回 事例検討1
復習 (60分) 授業で紹介された事例について検討する。
- 第15回 事例検討2
復習 (60分) 授業で紹介された事例について検討する。

【授業の進め方】

主にプリントを用いた講義形式で進める。

時に事例の検討も交える。ディスカッションを通じて、心理学における倫理について実際に深く考え、積極的に自らの意見を表明することが求められる。

授業内で学んだこと、考えたことについて、不定期にリアクションペーパーへの記述を求める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に指定しない。適宜プリントを配布する。

【参考図書】

鈴木光太郎(2008)「オオカミ少女はいなかった」新曜社
トーマス・プラス 野島久雄・藍澤美紀訳(2008)「服従実験とは何だったのか」誠信書房
パメラJ.バリー 青葉里知子・堀尾直美訳(2013)「『グロリアと三人のセラピスト』とともに生きて—娘による追想」
星雲社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

【履修上の心得】

倫理という、明確な解答のない問題について、その規準を理解した上で自分なりにしっかりと考え、一定の結論を導き出せるようになることは、どのような心理学研究を行う場合にも大切である。講義を通じて一般的な倫理についての考え方を学び、また事例を通して自分なりに考えるトレーニングを行うことで、倫理観を養うことができる。真摯かつ積極的な受講態度を期待する。

【科目のレベル、前提科目など】

「臨床心理学」をすでに受講済みであること。
心理学専攻カリキュラムの中では、専攻専門科目として位置づけられる。
また本講義は、認定心理士資格申請の選択科目(G.臨床心理学・人格心理学)に区分される予定の科目である。資格取得希望者は、計画的な履修を行うこと。

【備 考】

出席確認はカード型端末機のみで行う。学生証不携帯は欠席扱いとなるので注意すること。

科目名	心理学特講 I (実践に耐える教育工学)
教員名	鶴田 利郎

【授業の内容】

教育心理学は大きく「発達」、「教授・学習」、「認知」、「社会」、「測定・評価」、「学校」、「人格・臨床」、「特別支援教育」の8つの研究領域に分けられるが、本講義で取り上げる教育工学はその中の「測定・評価」に位置づけられるものである。

そしてこの教育工学の学問的な特徴の1つに「現実に教育の場で生じている教育課題を研究の対象とする」ことが挙げられる。教育は今まさに児童生徒がいる場で営まれているものであるが、この教育工学はその現実、事実、日々行われている実践に立脚しながら、教育に関わる諸問題を改善、解決していくことを指向しているためである。したがって教育工学に関わる研究は、教育が行われる実践の場に生きるものでなければならない、いわば「日々の教育の実践に耐えられる」ものでなければならないのである。

本講義では、学力問題、教師の成長、生涯学習、メディアやインターネットに関わる諸問題など、実際に学校教育現場において課題となっている事柄を取り上げる。そして、どのような方法によって改善、解決が試みられ、どのように日々の教育の実践に活かされているのかについて、具体的な事例を多く取り上げながら解説する。

【到達目標】

教育工学の学問的な特徴、また研究領域や研究方法の多様性について理解することができる。

実際の教育実践の場面における様々な教育的課題に対して、それを改善、解決するための新しい試行、方法を提案することができる。

【授業計画】

- 第1回 教育心理学における教育工学の位置づけー「実践に耐える」とは？ー
- 第2回 教育を測る・教育を評価するー全国学力・学習状況調査から見えるものー
- 第3回 表現力・活用力を育てるフィンランドメソッド
- 第4回 教師の持続的な成長を支える学校システム
- 第5回 eラーニングを活用した生涯学習システム
- 第6回 児童生徒のインターネット利用に関わる問題の改善・解決を目指した教育実践①ーインターネット依存の予防、改善を目指してー
- 第7回 児童生徒のインターネット利用に関わる問題の改善・解決を目指した教育実践②ーネットいじめや炎上の防止を目指してー
- 第8回 現代に必要なメディアリテラシーの育成を目指した教育実践①ーテレビ・ニュース・ラジオ・インターネットとの関わりについて考えるー
- 第9回 現代人に必要なメディアリテラシーの育成を目指した教育実践②ー情報の被害者・加害者にならないためにー
- 第10回 これからの情報化社会を担う児童生徒に必要な情報教育ー反転学習・アクティブラーニングの活用ー
- 第11回 学級力向上を目指した集団づくりーよりよい学級経営を目指してー
- 第12回 総合的な学習の時間の現状と課題
- 第13回 <グループワーク>現代の教育場面における教育課題の教育工学的な解決方法の検討と考察①
- 第14回 <グループワーク>現代の教育場面における教育課題の教育工学的な解決方法の検討と考察②
- 第15回 総括ー教育をよりよくしていくために教育工学が貢献できることー

【授業の進め方】

毎回の授業で資料を配布し、それをスクリーンにも提示しながら授業を進めます。各回の授業後にリアクションペーパーを配布し、授業に関する意見や感想などを書いていただきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特にありません

【参考図書】

必要に応じて適宜紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

レポート：テーマは授業内にて発表します。

受講態度：出席状況、リアクションペーパーの回答状況、授業への参加態度により評価します。

科目名	心理学特講 I (身体心理学)
	「こころ」と「からだ」の心理学
教員名	湯川 進太郎

【授業の内容】

本講義は、心理学の入門（初心者）レベルの学習を経た人を対象に、「からだ（身体）」についての心理学を講義する、より専門性の高い授業です。ここでは、授業の展開を大きく三段階に分けています。はじめに第一部として、私たち人間の「こころ（心）」の習慣（癖）について詳しく学びます（第2週～第5週）。このことを前提として、次に第二部として、「こころ（心）」と「からだ（身体）」が相互にどのように結びついているかを理解します（第6週～9週）。そして最後に第三部として、「からだ（身体）」で「こころ（心）」を調えるマインドフルネスにまつわるトピックを様々な角度から紹介します（第10週～第15週）。

【到達目標】

本講義を受講することによって、身体心理学の基礎的な考え方をすることを第一の目標とします。そうして身につけた知識によって、自身の日常生活の中で身体心理学がどのように関わっているか、どのように役立っているかを考えていけるようになることを第二の目標とします。さらには、受講生それぞれの日常生活を自分自身で振り返りながら、得られた知識を将来的に役立てていけるようになることを第三の目標とします。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- ・ 授業の進め方
 - ・ 成績のつけ方（評価の仕方）
 - ・ 全15回の概要
 - ・ 身体心理学とは何か、など
- 第2回 流れる心：意識、意識の流れ、潜在・顕在、フロイトモデル
- 第3回 さまよう心：マインドワンダリング、デフォルトモードネットワーク、内側前頭前皮質
- 第4回 再帰する心：心の時間旅行、心の理論、社会脳、進化的適応環境
- 第5回 反復する心：反すう、心配、思考抑制とリバウンド効果、ネガティブバイアス
- 第6回 心から身体1：闘争逃走反応、ストレスと身体
- 第7回 心から身体2：心身相関、心身症、アレキシサイミア
- 第8回 身体から心1：身体化された認知、表情フィードバック仮説
- 第9回 身体から心2：リラクセーション
- 第10回 マインドフルネス：気づき（アウェアネス）、今ここ（Here Now）と身体性、島、セイリエンスネットワークとセントラルエグゼクティブネットワーク
- 第11回 神秘体験：変性意識状態、フロー体験、魔境
- 第12回 心身一元論：心身一如（心身の統合）、レスパラント反応、心のモノサシ
- 第13回 呼吸と身体：呼吸のメカニズム、呼吸と心理
- 第14回 水のごとく：禅とタオ、仏家と道家の世界観
- 第15回 瞑想：ヨーガとタイチー、武術と武道、武道とスポーツ、芸道（茶道、華道、書道）

【授業の進め方】

講義形式授業です。パワーポイントのスライドをスクリーンに映写しながら授業を進めていきます。必要に応じてプリント等を配布する場合がありますが、基本的には、各自がノート（メモ）を取りながら聴講してください。毎回（毎週）、授業の最後に、その授業に関連した事項について、小試験を実施します。

【教科書（必ず購入すべきもの）】

教科書は使用しません。必要に応じてプリント等を配布する場合があります。

【参考図書】

- 『空手と太極拳でマインドフルネス』 湯川進太郎（著） 2017 BABジャパン
『空手と禅』 湯川進太郎（著） 2014 BABジャパン
『タオ・ストレス低減法』 R.サンティ（著）湯川進太郎（訳） 2014 北大路書房
『水のごとくあれ！』 J.カルディオ（著）湯川進太郎（訳） 2015 BABジャパン

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 30% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

- ・ 定期試験の受験資格は、授業回数の3分の2以上に出席していることが要件です。
- ・ 授業内小試験は、授業の最後に、毎回（毎週）実施します。小試験の成績は、出席し解答した回（週）の答案の平均点を算出して評価します。
- ・ 受講態度は、「授業への積極的な参加および授業中の積極的な聴講姿勢」を評価対象とします。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

定期試験と授業内小試験と受講態度でもって、総合的に評価します。

【履修上の心得】

授業内容と関連のない私語は禁止します。私語を指摘された場合、受講態度の評価に大きく加味されます。

【科目のレベル、前提科目など】

応用レベルです。受講の前提として、独学で心理学に関する入門書を一冊以上読み終えているか、あるいは心理学に関する入門レベルの科目(たとえば『心理学A』『心理学B』など)の単位を取得済みであることが望ましいです。

科目名	心理学特講 I (児童精神医学)
教員名	片山 奈理子

【授業の内容】

児童・思春期に生じる精神的問題とそれに対する治療法について学ぶ。子どもは成人を小型にしたものではなく、常に発達途中にあり、精神的問題への治療も大人とは異なる。両親を中心とする対人関係や環境の影響にも特殊性があり、将来の可能性を考えながら見立てをし、治療計画を立てなければならない。子どもの気質、家族力動、園や学校での行動など、様々な側面から総合的に評価する診断、治療、予防について説明する。

【到達目標】

児童精神医学のありかた、診断、治療について理解する。

【授業計画】

- 第1回 児童精神医学の総論：授業で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第2回 児童精神科面接について：授業で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第3回 心の発達・愛着理論・対象関係論、乳幼児精神医学：授業で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第4回 精神遅滞・発達障害：授業で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第5回 パーソナリティ障害・摂食障害・強迫性障害：授業で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第6回 気分障害：授業で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第7回 統合失調症：授業で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第8回 器質性精神障害：授業で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第9回 心身症・身体症状を訴える子供の対応：授業で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第10回 不登校やいじめ、虐待など：授業で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第11回 子供の問題に関連する社会資源など：授業で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第12回 臨床心理士の役割、心理検査など授業で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第13回 精神療法・心理療法：授業で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第14回 薬物療法：授業で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第15回 総括

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリントを使用

【参考図書】

テキストブック 児童精神医学 井上勝夫 日本評論社
 現代臨床精神医学 改訂第12版 大熊輝雄 金原出版株式会社
 カプラン 臨床精神医学テキスト DSM-5 診断基準の臨床への展開 日本語版第3版 メディカル・サイエンス・インターナショナル

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

科目名	外書講読(親子関係を理解する)
	Understanding 12-14-Year-olds
教員名	伊崎 純子

【授業の内容】

- 1) 心理学(親子関係)に関する内容の英語文献を精読する
- 2) 心理学は海外から学ぶことが多く、うまく日本語に置き換えることが難しい場合もあるため、翻訳に頼らず原語で読む努力も必要である
- 3) 大学院入試を多少意識しつつ、英語を読む習慣を身につけたい

【到達目標】

英語を読む習慣を身につける事ができる
イギリスにおけるメンタルヘルスの啓蒙の様相を理解する事ができる
思春期の心の発達と親子関係を理解する

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション:From Introduction to Groups; Inclusion and Exclusion
復習:思春期の心性について邦訳を読み、分からない用語は意味を調べる(90分)。
- 第2回 The pleasures of group life #1
予習:該当するページの分からない単語を意味を調べる(60分)。
- 第3回 The pleasures of group life #2
予習:該当するページの分からない単語を意味を調べる(60分)。
- 第4回 Gangs #1
予習:該当するページの分からない単語を意味を調べる(60分)。
- 第5回 Gangs #2
予習:該当するページの分からない単語を意味を調べる(60分)。
- 第6回 Isolation #1
予習:該当するページの分からない単語を意味を調べる(60分)。
- 第7回 Isolation #2
予習:該当するページの分からない単語を意味を調べる(60分)。
- 第8回 Isolation #3
予習:該当するページの分からない単語を意味を調べる(60分)。
- 第9回 A Question of Identity; "Who am I"
予習:該当するページの分からない単語を意味を調べる(60分)。
- 第10回 What it feels like
予習:該当するページの分からない単語を意味を調べる(60分)。
- 第11回 Rebelling and conforming #1
予習:該当するページの分からない単語を意味を調べる(60分)。
- 第12回 Rebelling and conforming #2
予習:該当するページの分からない単語を意味を調べる(60分)。
- 第13回 Experimenting and testing: music, clothes, leisure #1
予習:該当するページの分からない単語を意味を調べる(60分)。
- 第14回 Experimenting and testing: music, clothes, leisure #2
予習:該当するページの分からない単語を意味を調べる(60分)。
- 第15回 まとめ
復習:これまで読んだ内容を理解し、英単語を復習する(120分)。

【授業の進め方】

- ・毎回、教員を含む参加者全員で輪読する。
- ・一応の目安として各回に章を割り振っているが、毎回の進み具合は共有フォルダに保存されている翻訳原稿で確認すること。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない
初回時に配布するプリントを使用する

【参考図書】

Understanding 12-14-Year-olds, Mardot Waddell,2005, Jessica Kingsley Publishers, US\$13.95

英国にあるタビストッククリニックは、臨床、研究、精神保健に関する事業を行うことで有名な施設である。
今回選んだUnderstanding 12-14-Year-oldsは、大人になりgood enoughな親であると実感するためにタビストッククリ

ニックのスタッフによって編集されたシリーズの第7巻である。中学校教育に将来関わる人に読んでほしい一冊である。

現在、シリーズのうち、第1~4巻と第8巻がそれぞれ翻訳され「タビストック★子どもの心と発達シリーズ」の『子どもを理解する<0~1歳>』『子どもを理解する<2~3歳>』と『特別なニーズを持つ子どもを理解する』として岩崎学術出版社から発刊されている。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 50%

特記事項

定期試験の実施の有無は、履修者確定後に決定する。

履修者が20名以下の場合、毎回和訳を担当するため定期試験は実施せず、輪読への参加状況ならびに発表の内容で評価を行う。

その場合の評価は、受講態度100%で評価する。

履修者が20名を超える場合は、毎週あたることのないため、上記の通り、定期試験を実施し、定期試験50%・受講態度50%で評価する。

3分の2以下の出席は評価の対象外とする。

【履修上の心得】

英語が苦手だと自覚する人は、特に予習が必要である。名簿をもとに毎回、1~2文程度の邦訳を求められるので予習してきてほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

青年心理学の履修を前提とはしないが、知識を有する方が英文理解を助けるだろう。

【備 考】

翻訳原稿は大学内のサーバに保存されいつでも閲覧可能である。共有フォルダの開き方については授業内で紹介する。

科目名	外書講読(最新の心理学論文)
教員名	神戸 文朗

【授業の内容】

この講座の目的は受講者各人の心理学的知識と英語読解力の向上を目指すことにある。

【到達目標】

最新の心理学的知識を獲得すること、および受講者各人の英語読解能力を向上させること、を目標とする。

【授業計画】

- 第1回 講読論文の選定と発表者の分担指定
 第2回 講読・発表
 予習2時間
 第3回 講読・発表
 予習2時間
 第4回 講読・発表
 予習2時間
 第5回 講読・発表
 予習2時間
 第6回 講読・発表
 予習2時間
 第7回 講読・発表
 予習2時間
 第8回 講読・発表
 予習2時間
 第9回 講読・発表
 予習2時間
 第10回 講読・発表
 予習2時間
 第11回 講読・発表
 予習2時間
 第12回 講読・発表
 予習2時間
 第13回 講読・発表
 予習2時間
 第14回 講読・発表
 予習2時間
 第15回 講読・発表
 予習2時間

1回あたりの講読・発表者は2, 3名であるが、発表者以外も前もって講読予定範囲の予習を行っておかなければならない。

【授業の進め方】

論文選択後、各受講者に発表の予定日と担当範囲を指定する。各受講者は割り当てられた部分を日本語に翻訳し予定日に発表することが求められている。発表後当該部分の翻訳文を提出すること。各受講者が出来るだけ多数回発表できるよう1日あたり3人程度の発表者を割り当てようと思う。予定日にあたらない受講者も必ず予習しておくこと。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

アメリカ心理学会(APA)発行の雑誌(特にAmerican Psychologistを適切と考えている)の最新号から受講者の多数が関心を持つ論文を選定する。

【参考図書】

なし。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 25% 受講態度 75%

特記事項

この授業の目的は数回めぐってくる担当部分の発表を通して各人の英語力の測定を行うことではない。むしろ他学生の発表や教員の説明を通して自らの解釈能力の弱点に気付き、自発的に総合的な英語の読解力を高めることにある。そ

れ故、授業態度が重要になる。各回において熱心に講読に取り組んでいる場合は5点、それ以外は0点、1/3以上欠席の場合には評価対象から外れる。講読発表に関する内容評価は全体として25点、15点、5点のいずれかとする。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

なし。

【履修上の心得】

担当予定日に必ず要約文を完成して発表すること。なんら処置を行わずこれを怠った場合は、授業を妨害したものと
して発表内容評価を0にする。

【科目のレベル、前提科目など】

なし。

認定心理士区分：その他の科目

【備 考】

英語の読解能力の増進には英語への親近性を高める他はない。そのためには担当の有無にかかわらず前もって資料を
読んでおく必要がある。受身的な態度では初学者が陥りがちな解釈の誤りに気付くことはできない。表面的な英語表現
に関わらず常に著者の意図は何かを知ろうとする態度が必要である。

科目名	外書講読(心理学の時事英語)
教員名	平田 乃美

【授業の内容】

- 1) 心理学領域の英語文献を精読する。
- 2) 論文執筆の手引き（アメリカ心理学会，日本心理学会編）を参照して論文構成や表記方法を学ぶ。
- 3) 全員が1)の担当箇所を和訳・報告する。

【到達目標】

- 1) 心理学領域の諸研究に関する知見を深める。
- 2) 英文の心理学論文に読み慣れる。
- 3) 1), 2)を通して，自らが心理学研究に従事するための問題意識と基礎技能を得る。

【授業計画】

第1回 受講案内

予習 (90分)：論文執筆の手引きを一読する

復習 (90分)：課題の確認と学修計画の作成

第2回 英語論文の精読1

予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する

復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第3回 英語論文の精読2

予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する

復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第4回 英語論文の精読3

予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する

復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第5回 英語論文の精読4

予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する

復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第6回 英語論文の精読5

予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する

復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第7回 英語論文の精読6

予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する

復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第8回 前半まとめ

予習 (90分)：前半課題の報告準備

復習 (90分)：報告書作成とまとめ

第9回 英語論文の精読7

予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する

復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第10回 英語論文の精読8

予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する

復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第11回 英語論文の精読9

予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する

復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第12回 英語論文の精読10

予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する

復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第13回 英語論文の精読11

予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する

復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第14回 英語論文の精読12

予習 (90分)：課題内容について調べ和訳を作成する

復習 (90分)：心理用語統計表記の英単語を整理する

第15回 後半まとめ

予習 (90分)：後半課題の報告準備

復習 (90分)：報告書作成とまとめ

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業時間に配布します。教科書や教材の購入はありません。

【参考図書】

授業時間に配布します。参考図書や教材の購入はありません。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

【履修上の心得】

[出席について]

出席確認はカード型端末機のみで行い、学生証不携帯は欠席扱いとなります。

[課題について]

指定期間に提出した場合のみ、成績評価対象とします。未提出への対応策はありません。

[成績について]

評価基準の個別対応は一切ありません。

個別の結果について、成績発表前の問い合わせには返答できません。評価内容についても、成績調査期間外に調べることはできません。

[資料について]

講義資料のスライド(動画, 写真等)を複製してお譲りすることはお断りしています。再度確認したい資料があれば、授業終了後、機器の電源を切る前に声を掛けてください。

【科目のレベル、前提科目など】

認定心理士資格区分:「その他の科目」(心理学関連科目)

科目名	専門特講(ボランティア・コーディネーション)
教員名	結城 史隆

【授業の内容】

自治体の財政状況が硬直化し、一方で住民の行政に対するニーズが多様化する中で、よりよい地域をつくりあげるために、ボランティア活動が注目されるようになった。1995年の阪神淡路大震災のあとの復興において市民の力、ボランティアの活動がさらに見直され、「ボランティア元年」とも言われた。さらに、2011年3月の東日本大震災は、ボランティア活動のありかたを再び問うことになった。

大震災のあとには多くのボランティアが東北に向かった。しかし、ボランティア活動を促進していくためには、ボランティア・コーディネーターが重要であることが再確認された。被災した人々のニーズを掘り起こし整理し、意欲に燃えるボランティアにとりつき調整する役割である。このコーディネーションの機能が十分に働かないと、ボランティアに行ったのに「何をしていたかわからない」、「何もすることがなかった」ということになりかねない。コーディネーターの人材養成と活用が今後の地域にとって重要になっていることを理解する。

本講義では、「ボランティア・コーディネーション力検定3級」を視野にいれ、ボランティア・コーディネーションについて学ぶ。

さらに、日本ボランティアコーディネーター協会の検定試験3級を履修者全員が受験することを前提としている。

【到達目標】

ボランティアの歴史と意義を理解する。

「市民社会」とは何かを理解する。

ボランティア・コーディネーションの機能や役割を理解する。

ボランティアの事例を学ぶ。

ボランティアの課題や問題点を理解する。

ボランティア・コーディネーターの視点を身につける。

ボランティア・コーディネーション力3級検定試験に合格する。

【授業計画】

- 第1回 ボランティアの状況
- 第2回 ボランティアの語源とキーコンセプト
- 第3回 ボランティア活動の特徴
- 第4回 日本におけるボランティア活動の歴史
- 第5回 ボランティアのとらえ方
- 第6回 ボランティアの課題と弱点
- 第7回 ボランティア・コーディネーションの必要性
- 第8回 ボランティア・コーディネーションの機能
- 第9回 ボランティア・コーディネーションが発揮される場
- 第10回 ボランティア・コーディネーションの事例
- 第11回 中間支援センターの視察
- 第12回 各自のボランティア体験の発表報告
- 第13回 各自のボランティア体験の発表報告
- 第14回 ボランティア・コーディネーターの視点と役割
- 第15回 ボランティア・コーディネーターの主体として考える

【授業の進め方】

講義はパワーポイントを使用して説明する。

毎回、前回の講義に関して試験をするのでそれを勉強してくること。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①ボランティアコーディネーション力 ②早瀬昇・筒井のり子 ③中央法規出版 ④2015年 ⑤2200+税 ⑥978-4-8058-5188-3

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 100% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

アクティブ・ラーニングの発想の原点は、ただ講義をきいて知識をインプットしていた大学授業に、アウトプットの要素を取り入れることにある。本講義は履修者多数のために細かいワークショップを実施することは不可能であるが、アウトプットを重視するという意味で、毎回、前回の講義に関して試験を実施する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

試験毎回の試験の成績の合計点で評価をする。

試験の点数が低いことが続いた場合は、途中で不合格になることがある。

* 教育実習などで出席できなかった場合は、まとめて試験をする。を受けないと評価されない、点数が低いと評価されないことを十分に理解して欲しい。そのために、毎回、復習が重要となる。試験は○×か選択。

【履修上の心得】

必ず第1回目から出席すること。

一生懸命とりくみ、検定試験を受けるようにする。

テキストはこちらで用意するので、第1回目に料金（2200円：税金分割引き）を持参してください。

科目名	専門特講(学校の危機管理)
教員名	金井 正

【授業の内容】

我が国の教育は、人格の完成を目的とし、教育で多くのことが解決できるとの理念に基づき、世界に誇る学校文化を創り上げてきている。しかしながら今日、時代の変化とともに増加する児童生徒の問題行動等や教師の不祥事等から、学校教育に対する信頼がゆるぎ、学校教育の有り様が社会的、政治的関心事となっている。

このような状況から、教育委員会や各学校・教員には、改めて学校教育活動を阻害する要因(教員の意識)や事象(自然災害等)等の是正・改善を図り、学校教育への信頼回復が求められている。

本講義は、そのことに必要な危機管理能力についての基礎を修得すものである。

【到達目標】

- 1 「危機」への備えが、学校における日常的な課題であることについての理解
 - 2 学校をめぐる危機の所在と予防的対応、事後処理等についての理解
 - 3 社会の変化に伴う「危機」の種類や質の変化、対処の仕方や発想の見直し等についての理解
 - 4 個々の認識と実践に関わる問題であることについての理解
- ※ 理解の上に立ったディスカッション等を通して、深い学びに結び付ける。

【授業計画】

- 第1回 1 危機管理の意義と必要性
- ・学習課題(予習・復習)：配布したレジュメ等資料を基に授業ノートを充実させること。
 - 予習は本シラバスによって、復習は授業時に配布したレジュメ等資料を基に行うこと。
 - 以下、各回の授業に対して、予習・復習を行い、その時間は90分程度を目安にする。
- 第2回 2 教員に関わる危機管理
- 1) 体罰と懲戒
- 第3回 2) 酒気帯び(酒酔い) 運転の撲滅
- 第4回 3) セクハラ、わいせつ行為の撲滅
- 第5回 4) 個人情報の紛失及び公金着服の防止
- 第6回 3 児童生徒に関わる内容
- 1) 学校事故に関わる校内体制と個々の教師の役割
- 第7回 2) 危機を乗り越える力の育成
- 第8回 3) 暴力のない学校・学級
- 第9回 4) 「いじめ」問題の克服
- 第10回 5) 不登校の防止
- 第11回 6) 自殺予防
- 第12回 7) ネット社会への対応
- 第13回 8) 虐待や校内でのけが、病気への対応
- 第14回 4 自然災害等に関わる内容
- 1) 地震、雷、竜巻、津波、洪水、放射能汚染等への対応
- 第15回 5 モンスターペアレント

【授業の進め方】

- ・毎回レジュメを配布し、それに沿った講義を展開する。
- ・課題の発見、解決等を重視し、ディスカッション等により主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業とする。
- ・講義については、具体的な内容分析に基づく、実践的な危機管理能力が高められるようにする。
- ・学生は、授業ノートを作成し、充実に努める。
- ・学生は、次時の内容を(シラバスで確認)、関係する書籍やインターネット等で予習をして授業に臨むこと。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ・教科書になり得るレジュメを配布するので、冊子として整理し、活用すること。

【参考図書】

- ・参考資料や図書は、その都度紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

定期試験は記述式で行う。

受講態度は、授業に対する取組(質問に対する発言、質問、学習態度等)を重視する。

【履修上の心得】

- ・疑問点や明らかにしたいことを明確にして講義に臨むこと。
- ・出欠については、公欠、忌引き、病気入院は考慮されるが、それ以外は厳正に対処する。
- ・理由書の提出や学生証の不正使用は、依頼者・行為者ともに重大な欠席扱いとする。

科目名	専門特講(Situational Grammar)
	Situational Grammar
教員名	Harry Harris

【授業の内容】

In this course, students will improve their ability to recognize and produce grammatically correct and comprehensible English.

このコースで学生の文法的に正しい理解力、作成力、そして理解可能な英語力の向上する。

【到達目標】

Students who meet course requirements will be able to demonstrate improved understanding and ability to use the following grammar structures in in-class and homework activities and on tests:

コースの必要条件を満たす学生は向上した理解度を明らかにし、下記の文法構造をクラス内、宿題、テストで使用する能力を実際に表現する:

*Simple past/present perfect tenses	過去形、現在完了形
*Modals	モダル
*Passive voice	受動態
*Relative clauses	関係詞節
*Reported speech	間接話法
*First, second, and third conditionals	第一、第二、第三条件節;
*Articles	冠詞

to edit their own work and that of others to check for these forms;

これらの文形をチェックする為に、自分自身や他の学生が書いたものに手を加える;

to identify various sources that will help them learn and improve their grammar.

学生の文法を学んだり、その能力を向上させる為の様々なソースがあることを認識する。

【授業計画】

- 第1回 Course introduction; First grammar structure and activities (授業の概要について、第1文法構造、活動)
- 第2回 First grammar structure activities (第1文法構造活動)
- 第3回 First grammar structure test (第1文法構造テスト); Second structure and activities (第2文法構造、活動)
- 第4回 Second grammar structure activities (第2文法構造活動)
- 第5回 Second grammar structure test (第2文法構造テスト); Third structure and activities (第3文法構造、活動)
- 第6回 Third grammar structure activities (第3文法構造活動)
- 第7回 Third grammar structure test (第3文法構造テスト); Fourth structure and activities (第4文法構造、活動)
- 第8回 Fourth grammar structure activities (第4文法構造活動)
- 第9回 Fourth grammar structure test (第4文法構造テスト); Fifth structure and activities (第5文法構造、活動)
- 第10回 Fifth grammar structure activities (第5文法構造活動)
- 第11回 Fifth grammar structure test (第5文法構造テスト); Sixth structure and activities (第6文法構造、活動)
- 第12回 Sixth grammar structure activities (第6文法構造活動)
- 第13回 Sixth grammar structure test (第6文法構造テスト); Seventh structure and activities (第7文法構造、活動)
- 第14回 Seventh grammar structure activities (第7文法構造活動)
- 第15回 Seventh grammar structure test (第7文法構造テスト)

【授業の進め方】

In the course, we will review essential English grammar through English as the teaching medium. The instructor will present and explain contextualized English grammar structures, and students will do relevant language activities. Student progress will be assessed.

このコースでは教授方法として、英語を通して基本的な英文法の復習を行う。教師は状況に供わっている英文法の構造を提示説明し、学生はそれと関連した語学学習活動を行う。学生の向上度は成績評価される。

グループワークは学生に非常に大切な学習法なので授業内でよくする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

Teacher-generated materials. 教師が集めた教材。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 70% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

最終成績は下記の基準

授業内試験 70%

受講態度 30% (宿題、活発な授業参加)

Students are encouraged to attend all class sessions to maximize learning opportunities.

履修学生の学習機会を増すために、常時出席を薦める。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Meet deadlines.

作文提出の締切日厳守

Plagiarized assignments, machine translations, or borrowed work can result in course failure.

盗作のもの、マシーン翻訳のもの、借用のものは不合格となる場合がある。

To complete course requirements, contact your instructor before doing nursing care training or teaching practicum.

授業の必要性到達する為に教育実習や介護体験に行く学生は事前に連絡する事。連絡がない場合は必要な課題等が出来ない為に単位取得が困難となる場合がある。

【履修上の心得】

Progress with English grammar skills requires effort and cooperation.

英文法スキルの上達には努力と協力が必要である。

【備 考】

Information confirmation, note review, peer cooperation, and careful in-class attention are important in this course.

情報の確認、ノートの復習、仲間との協力及び、授業に注意深く集中することはこのコースに重要である。

科目名	専門特講(Media Project A)
	Media Project A
教員名	Paul del Rosario

【授業の内容】

Visual and web communication, Social Networking Service (SNS) play a big part in our global society. Most people have the image that Facebook, Twitter, etc. are just for sharing pictures. There's more to SNS than that. Learning how businesses and organizations use these tools to communicate their message is important. Media Project A will explore this area.

現代のグローバル社会において、視覚的なウェブでのコミュニケーション、すなわちソーシャルネットワーキングサービス (SNS) は重要な役割を果たしています。多くの人は、FacebookやTwitterなどが写真を共有するだけのものと考えています。しかしSNSにはそれ以上の使い方があります。企業や組織が、メッセージを発信するために、このようなツールをどのように用いているかを知ることは重要です。Media Project Aではこの分野を扱っていきます。

【到達目標】

Media Project A course is designed to teach students how to effectively use digital tools for wide communication.

Media Project Aは、幅広いコミュニケーションを行うためにはどのようにデジタルツールを使えばよいか教えることを意図した科目です。

【授業計画】

- 第1回 Orientation, group formation
オリエンテーション、グループ形成
- 第2回 Media History
メディア史
- 第3回 Media Today
今日のメディア
- 第4回 How is media powerful for you?
どのようにメディアはあなたのために強力なのか?
- 第5回 Media content and the tools for making them. Photo Essay Project
メディアコンテンツとそれらを作るためのツール。フォトエッセイプロジェクト
- 第6回 Final Project Introduction
最終的なプロジェクトの紹介
- 第7回 Workshop I
ワークショップI
- 第8回 Workshop II
ワークショップII
- 第9回 Final Project Explanation. What will you make?
最終的なプロジェクトの説明。あなたは何をするのだろうか?
- 第10回 Photo essay Project Exhibition
フォトエッセイプロジェクト展
- 第11回 Media in Business
ビジネスにおけるメディア
- 第12回 Final Project Explanation. What's the status?
最終的なプロジェクトの説明。ステータスは何ですか?
- 第13回 Influential People + Advertising
影響力のある人+広告
- 第14回 Final Project Exhibition
最終的なプロジェクト展
- 第15回 Summary
概要

【授業の進め方】

Grades on this course will be determined by attendance, class participation, timely completion of assignments, tests, and presentations. 成績は、授業参加、期日内による課題提出、テスト、プレゼンテーションから決められる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

Instructor will provide handouts.

講義内で配布する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 40% 受講態度 30%

科目名	専門特講(Media Project B)
	Media Project B
教員名	Paul del Rosario

【授業の内容】

The web and digital technologies is a democratic tool. Now, anyone can produce and communicate ideas to the entire world. Media Project B will explore this area.

ウェブやデジタルの技術は大衆的なツールです。今や誰もが考えを生み出し、それを全世界に向けて発信できるようになりました。Media Project Bはこの分野を扱っていきます。

【到達目標】

Media Project B is a continuation of Media A, but will explore additional aspects of web and visual communication. Students will also be trained in the skill of on stage presentation using visual aids and (PowerPoint, Keynote) slide design.

Media Project BはMedia Project Aの継続科目ですが、(Aでは扱わなかった)視覚的なウェブでのコミュニケーションの他の側面を探求していきます。受講者は、視覚補助やPower PointやKeynoteといったスライドデザインを用いて、ステージにおけるプレゼンテーションのスキルについても訓練していきます。

【授業計画】

- 第1回 Orientation, group formation
オリエンテーション、グループ形成
- 第2回 A brief look at cinema
映画の短い鑑賞
- 第3回 Cinema
シネマ
- 第4回 YouTube vs Television Commercials
YouTube vs テレビCM
- 第5回 Video-making and the tools for making them
ビデオ作り、それらを作るためのツール
- 第6回 Final Project Introduction
最終的なプロジェクトの紹介
- 第7回 Workshop I
ワークショップI
- 第8回 Workshop II
ワークショップII
- 第9回 Final Project Explanation - What will you make?
最終的なプロジェクトの説明 - あなたは何をするのだろうか？
- 第10回 Short movie viewing
短い映画鑑賞
- 第11回 Student feedback
学生のフィードバック
- 第12回 Final Project Explanation - What's the status?
最終的なプロジェクトの説明 - ステータスは何ですか？
- 第13回 Final Project Preparation
最終的なプロジェクト準備
- 第14回 Final Project Exhibition
最終的なプロジェクト展
- 第15回 Summary
概要

【授業の進め方】

Grades on this course will be determined by attendance, class participation, timely completion of assignments, tests, and presentations.

成績は、授業参加、期日内による課題提出、テスト、プレゼンテーションから決められる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

Instructor will provide handouts.

講義内で配布する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 40% 受講態度 30%

科目名	専門特講(Picture Books)
教員名	S. Bergman 三宅

【授業の内容】

This course will focus on children's literature, especially picture books for pre-school and elementary school children. We will examine the use of rhyme, repetition, art, imagination, problem solving, and early childhood development in popular books for young children.

この授業は児童文学、特に小学入学前の児童や小学生向けの絵本に焦点を当てます。子ども向けの有名絵本のなかで用いられている韻文の使い方、表現の繰り返し、美術、空想、問題解決、早期児童発達を調べていきます。

【到達目標】

Students will study children's literature (especially picture books for younger children) in English through reading, discussion, listening, and performance. Skills will improve in pronunciation (rhythmic and rhyming texts and dramatic storytelling) and grammar (through repetitive patterns common in children's stories), as well as reading and listening. Academic language skills will also be introduced as we touch on topics of childhood development and social problems facing children as reflected in Children's literature.

学生は子ども向け文学について、英語のリーディング・ディスカッション・リスニング・実演を通して学んでいきます。伸ばす英語のスキルは、リーディングやリスニングだけでなく、発音(韻をふんだ文章や戯曲における)や文法(児童文学で繰り返し用いられる表現の学習を通して)も含まれます。児童文学に反映される、子どもの発達や子供たちが直面する社会問題について触れることで、英語の教養的な知識も養われます。

【授業計画】

第1回	Introduction and course overview	導入および授業の概要説明
第2回	Picture Books: alphabet books, colors, and counting part 1	絵本：アルファベット本、色、数かぞえ Part 1
第3回	part 2	
第4回	part 3	
第5回	Rhyming and repetition, part 1	韻、繰り返し Part 1
第6回	part 2	
第7回	part 3	
第8回	Books about feelings, part 1	感情についての絵本、Part 1
第9回	part 2	
第10回	Books with social lessons, part 1	社会的教訓についての絵本、Part 1
第11回	part 2	
第12回	part 3	
第13回	Final presentations, performances and readings	最終発表、実演、読み物
第14回	Final presentations, continued	最終発表、続き
第15回	course conclusion, review, and evaluation	授業の総括、復習、評価

【授業の進め方】

This class will be conducted in simple English with active student participation expected. Students will work collaboratively together to read, perform, research, present on, and/or create their own picture books.

この授業は平易な英語を用いて進められ、学生の積極的な参加が期待されます。学生は協同的に、読解・実演・リサーチ・発表・絵本の創作などを行います。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

None なし

【参考図書】

Students may be asked to make use of various materials, such as reference books, anthologies, the library, and the internet, both in class and after school.

学生は授業内外において、参考書、選集、図書館、インターネットといった様々なマテリアルを活用するよう求められます。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

Grades will be based on the following criteria:

- 1) Participation
- 2) Successful completion of various projects.

成績は次の基準に基づいて行われます。

- 1) 授業への参加度
- 2) 創造的なライティングプロジェクトの完成度

- 1) Participation 50%
- 2) Class projects 50%
- 1) 授業への参加度 50%
- 2) クラスプロジェクト 50%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

According to the university policy, students who miss more than 1/3 of class sessions will automatically fail the course. In addition, regular attendance and positive attitude, willingness and ability to work with other students are essential. 学則に則り、授業の3分の1以上を欠席した者には単位を与えません。さらに、授業への継続的な出席および積極的な態度、他の学生との作業への積極性およびその能力は必要不可欠です。

科目名	専門特講(会社で働くということ)
教員名	柳川 高行

【授業の内容】

人はなぜ働くのでしょうか？第二次大戦敗戦の5年後に生まれた、私たちの年代には学校給食（超まずいパンと品質の悪いマーガリンとアメリカから購入させられた豚のえさである脱脂粉乳）だけが一日の食事だという子供たちもいて、欠食児童と呼ばれていました。日本中には、戦争で両親をなくした浮浪児が12万人もいて、ルンペンと呼ばれる大人の路上生活者もたくさんいました。その当時の日本人は、お腹を空かした人達が大半を占めていました。生きていくために、衣食住の内、食を最優先して私たちは無我夢中で働いていたのです。

1950年代から60年代にかけて、日本の経済は驚異的な急成長を実現し、名古屋大学経済学部の飯田経夫教授によれば、当時の日本は、アメリカのように衣食住共に豊かな生活をしたい（American way of life）という国民全員に共通の願望があったからである。（幸福の一元主義）この日本の高度経済成長は、マイナスからスタートした日本によって成し遂げられた経済的成果であり、外国の人々は、この事実を「日本の奇跡（Japanese miracle）」と呼びました。その当時は、大企業と中小企業の間で10対6くらいの企業規模別賃金格差が存在していましたが、失業者も殆んどおらず、定年までの雇用が慣行として保障され、ホワイトカラーのみならずブルーカラーも毎年賃金が上がっていく正社員として雇用されていました。このような労働者が、将来に向かって安心して働ける日本の労働者の状況に対して、外国の労働者はlucky country Japanと呼んでうらやましがりました。

ところが、2000年を過ぎた頃から日本の労働市場は、想像もできないくらいの変化に見舞われました。文部科学省の発表した2013年度大学卒業生の内定率は65%でした。内訳は、55万人の卒業生の内33万人が正社員として内定し、10万人以上が進学も就職もしない所謂ニート、無業者となっています。その差の12万人が非正規労働者で、5人に1人くらいの割合に見えますが、正社員として就職した大学生の35%が3年以内に離職します。そのかなりの割合は、正社員として再就職することはできず、非正規労働者とならざるを得ないと思われまます。全労働者のうち38%が非正規労働者（パート・アルバイト・フリーター・派遣社員）という統計もあります。

この講義を受講している学生の皆さんの、おおよそ3人に1人が非正規労働者、あるいは無業者になる高い可能性があります。何れの人々も親と同居して、経済的な援助をしてもらわなければ生活していくことができません。お父さんお母さんに部分的にか全面的にかの違いはありますが、パラサイトして生きて行き、その後は両親の年金にパラサイトし、最後は高齢貧困者とならざるを得ません。それくらい日本の労働者の置かれている現状は、この上もなく厳しいものとなっています。

この講義では、「激しく渦巻く流れに橋を架けて（like a bridge over troubled water）正社員への道」へと可能な限りたくさんの学生さんを導くことができると考えております。

【到達目標】

- ①会社とは何か、働くとはどういうことなのかを具体的にイメージできるようになる。
- ②大学卒の3分の2しか正社員になれない時代に、非正規社員にならないためにはどうすればよいか分かるようになる。
- ③企業で一番必要とされるコミュニケーション力の具体的な中身が分かるようになる。
- ④会社で働いて、リストラ（解雇）されないために、どうキャリアアップして行かなければいけないのかが分かる。

【授業計画】

- 第1回 会社で必要とされるスキルとは何か。
- 第2回 一番大切なコミュニケーション能力とは具体的になんだろうか。その1
- 第3回 一番大切なコミュニケーション能力とは具体的になんだろうか。その2
- 第4回 一番大切なコミュニケーション能力とは具体的になんだろうか。その3
- 第5回 一番大切なコミュニケーション能力とは具体的になんだろうか。その4
- 第6回 一番大切なコミュニケーション能力とは具体的になんだろうか。その5
- 第7回 一番大切なコミュニケーション能力とは具体的になんだろうか。その6
- 第8回 就活について。その1
- 第9回 就活について。その2
- 第10回 就活について。その3
- 第11回 就活について。その4
- 第12回 就活について。その5
- 第13回 就活について。その6
- 第14回 就活について。その7
- 第15回 就活について。その8

【教科書(必ず購入すべきもの)】

無し

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 25% レポート・課題 75% 受講態度 0%

特記事項
レポート提出
講義終了前20分間で書いて提出してもらう講義内ミニレポート

科目名	専門特講(TESOL概論B)
	英語教育と教員採用試験演習
教員名	木村 記子

【授業の内容】

実際に教職の現場に立つことを目指している学生のための講座です。
教員採用試験を受験する学生にとって大事な3点を授業の中に組み込み、各自の勉強の手助け、足がかりにするための授業です。

- ①英語教育用語の小テスト
 - ②基本的な英語教育の論文の読了。
 - ③教員採用試験の勉強
- 以上3点を組み合わせた講座です。

具体的には、

- ①必須の英語教育用語の小テストを毎回実施する。
- ②英語教育に関する論文を読み、持ち回りで、レジメを作成し、発表する。
- ③自分が受験する県の教職科目、一般教養科目、専門科目の中から問題を選択し、持ち回りで出題する。出題者が中心になり、解答を合わせる。

もちろん、この授業だけで充足できるものではなく、採用試験に向けて、自発能動の勉強が必要な事は当たり前です。授業内でのテスト、発表を十分価値あるものにするためにも、自分自身の勉強を頑張りましょう。

【到達目標】

上記の3点をトレーニングすることにより、採用試験の勉強の導入にもなり、実力練成にも繋がります。
英語教育用語、基本的な教育理論、採用試験問題共に実際の試験勉強と重なってくるものばかりです。この授業は半期完了なので、とても全てをやり切ることはできませんが、同じ目標を持った学生が、切磋琢磨する中に、必ず進歩が見えてくると思います。

教育全般の基本的な項目を学び、自主的に取り組む姿勢を育てて行くことに主眼を置きたいと思います。

【授業計画】

第1回	授業のIntroduction。自己紹介（校種等）。論文レジメ発表順と採用試験出題順を決める。	
第2回	①英語教育用語小テスト ②英語論文"Second Language Acquisition Myths" by Steven Brown & Jenifer Larson-Hall と発表 ③教員採用試験問題トレーニング	Michiganの読了
第3回	①英語教育用語小テスト ②英語論文"Second Language Acquisition Myths" by Steven Brown & Jenifer Larson-Hall と発表 ③教員採用試験問題トレーニング	Michiganの読了
第4回	①英語教育用語小テスト ②英語論文"Second Language Acquisition Myths" by Steven Brown & Jenifer Larson-Hall と発表 ③教員採用試験問題トレーニング	Michiganの読了
第5回	①英語教育用語小テスト ②英語論文"Second Language Acquisition Myths" by Steven Brown & Jenifer Larson-Hall と発表 ③教員採用試験問題トレーニング	Michiganの読了
第6回	①英語教育用語小テスト ②英語論文"Second Language Acquisition Myths" by Steven Brown & Jenifer Larson-Hall と発表 ③教員採用試験問題トレーニング	Michiganの読了
第7回	①英語教育用語小テスト ②英語論文"Second Language Acquisition Myths" by Steven Brown & Jenifer Larson-Hall と発表 ③教員採用試験問題トレーニング	Michiganの読了
第8回	①英語教育用語小テスト ②英語論文"Second Language Acquisition Myths" by Steven Brown & Jenifer Larson-Hall と発表 ③教員採用試験問題トレーニング	Michiganの読了
第9回	①英語教育用語小テスト ②英語論文"Second Language Acquisition Myths" by Steven Brown & Jenifer Larson-Hall と発表	Michiganの読了

	③教員採用試験問題トレーニング	
第10回	①英語教育用語小テスト ②英語論文"Second Language Acquisition Myths" by Steven Brown & Jenifer Larson-Hall ③教員採用試験問題トレーニング	Michiganの読了と発表
第11回	①英語教育用語小テスト ②英語論文"Second Language Acquisition Myths" by Steven Brown & Jenifer Larson-Hall ③教員採用試験問題トレーニング	Michiganの読了と発表
第12回	①英語教育用語小テスト ②英語論文"Second Language Acquisition Myths" by Steven Brown & Jenifer Larson-Hall ③教員採用試験問題トレーニング	Michiganの読了と発表
第13回	①英語教育用語小テスト ②英語論文"Second Language Acquisition Myths" by Steven Brown & Jenifer Larson-Hall ③教員採用試験問題トレーニング	Michiganの読了と発表
第14回	①英語教育用語小テスト ②英語論文"Second Language Acquisition Myths" by Steven Brown & Jenifer Larson-Hall ③教員採用試験問題トレーニング	Michiganの読了と発表
第15回	①英語教育用語小テスト ②英語論文"Second Language Acquisition Myths" by Steven Brown & Jenifer Larson-Hall ③教員採用試験問題トレーニング	Michiganの読了と発表

- ①英語教育用語テスト 毎回10題前後(記述の時は5題) 評価対象になる。
 ②論文発表は1人1セクション位の割合。テキストはAmazonで購入すること。予定はChapter4～必ずレジメを作成し、履修者全員に配布する
 ③採用試験の問題は各自本を購入して必要な部分をコピーして配布する。解答も印刷するか、発表するかにして下さい。

【授業の進め方】

授業を3パートに分けてテスト—論文読了—採用試験勉強と3部構成です。始まらないと各パートごとにかかる時間が厳密には分かりませんが、採用試験勉強に時間がかかりそうです。くれぐれも、教育用語と論文は予め勉強してきて下さい。英語教育用語辞典の参考文献を下の欄に挙げておきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①Second Language Acquisition Myths ②Steven Brown & Jenifer Larson-Hall ③University of Michigan Press ⑥13:978-0-472-03498-7

上記テキストはAmazonで買うと良いと思います。3,000円位で買えると思います。中古もあるかもしれません。

【参考図書】

英語教育用語辞典 by 白畑知彦・富田祐一・村野井仁・若林茂則 大修館書店

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 30% 受講態度 40%

特記事項

授業内小テストは休まないようにする。

レポートは必ず、記述までに提出する。提出しない場合は単位が危なくなるかもしれません。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業内小試験は英語教育用語のテストのことです。

受講態度は論文レジメ、採用試験問題出題と指導、授業時間の積極性、発言態度等を含んでいます。

レポートは論文テキストの中から1部出します。

【履修上の心得】

基本的に、中学校・高校英語教員を目指し、自主的に勉強のできる学生を期待しています。

【科目のレベル、前提科目など】

3年生以上

【備 考】

特になし

科目名	専門特講(SLAリサーチ演習)
教員名	大木 俊英

【授業の内容】

この講座の目的は卒業研究に必要となるリサーチ力を養うことです。リサーチ(=データの収集と分析)を行うには文献の収集と分析が欠かせませんが、文献を読むと様々な統計分析の手法が使われていることがわかります。したがって統計分析に関する知識なくして、文献を的確に理解したり、また批判的に読むことは出来なでしょう。

また巷に溢れている数字やグラフには、見た者を惑わす巧妙な仕掛けがあることも少なくありません。これらに騙されないようにするには、データの収集から、解釈および発表に到るまでのリサーチの一連の手順を経験し、科学的リテラシーを身につけるのが近道です。

本講座では主にSLA(Second Language Acquisition)分野を題材に、統計分析に関わる基礎的知識と実践的スキルを身につけることを目標としていますが、SLA以外の分野の例も用いながら解説していきます。英語教員になる人以外も念頭に授業を進めますので、できるだけ多くの学生に受講してほしいと思います。

【到達目標】

次の4点を達成することが目標になります。

- ①科学的リテラシーを高め、身の回りにある数字や情報を批判的に見ることができる。
- ②SLA分野の研究で用いられることの多い統計分析の手法や、その過程で扱われる統計量について基本的知識がある。
- ③研究手順について理解しており、その知識をもとに簡単なリサーチを実行することができる。
- ④計算ソフト(Excel、SPSS)の基本的な使い方がわかる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション(20分)、リサーチリテラシー(70分)
 第2回 リサーチの手順(20分)、文献の検索(20分)、文献の分析(RQを考える)(30分)、文献の整理(20分)
 予習課題：前週に指定された文献を読んでくる。
 第3回 分析①-1：データの傾向を調べる(記述統計、順位)(90分)
 第4回 分析①-2：データの傾向を調べる(偏差値)(90分)
 第5回 分析②：変数間の関係を調べる(相関分析)(90分)
 第6回 分析③：2つの平均値の差を検証する(t検定)(90分)
 第7回 分析④：3つ以上平均値の差を検証する(分散分析)(90分)
 第8回 分析⑤：変数の背後に潜む共通概念を検証する(因子分析)(90分)
 第9回 分析⑥：カテゴリーデータどうしの関連を調べる(クロス集計と独立性の検定)(90分)
 第10回 分析⑦：自然言語データの分析(自由記述式アンケートを用いた分析の例)(90分)
 第11回 分析⑧：変数間の因果関係を予測する(重回帰分析)(90分)
 第12回 文献研究の結果発表(90分)
 第13回 文献研究の結果発表(90分)
 第14回 先行文献のまとめ方(レポート課題の注意点)(90分)
 第15回 総括(90分)

【授業の進め方】

教師による講義だけでなく、コンピューター演習、ディスカッション、プレゼンテーションなど学生の参加が必要な活動も行っていきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

なし。必要なレジュメは適宜配布する。

【参考図書】

平井明代(編著) (2012) 『教育・心理系研究のためのデータ分析入門』 東京図書
 三浦省吾・他 (2004) 『英語教師のための教育データ分析入門—授業が変わるテスト・評価・研究』 大修館書店
 谷岡一郎 (2000) 『「社会調査」のウソ：リサーチリテラシーのすすめ』 文芸春秋

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 30% 授業内小試験 20% レポート・課題 20% 受講態度 30%

特記事項

- ・「定期試験」では、講義で説明した内容に関する知識を問う問題と、コンピューターを使用したデータ分析に関する演習問題の両方を出題します。
- ・「授業内小試験」は文献研究の発表会での評価を指します。
- ・「レポート・課題」は文献研究をまとめたレポートを指します。
- ・「受講態度」には授業への参加度、議論への貢献度、提出物の提出状況が含まれます。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

欠席が全授業回数の1/3(5回)を超えた者には、原則「H」評価を与える。また授業での活動を重視する目的で、欠席が3回またはそれ以上の者には「B以下」の評価しか与えない。同様の理由で遅刻が多い者は減点の対象とする。

【履修上の心得】

他の科目では学べない内容が多いため、1回でも欠席するとその回で学んだ内容を取り返すのが難しくなってしまいます。実習等でやむを得ず休まなければならない人も、休んだ間にどのようなことを学んだのか友人によく聞いて確認しておいてください(もちろん事前に届を提出すること)。

【科目のレベル、前提科目など】

卒業研究の準備を目的とした科目です。そのため3年次に履修することが望ましい。

【備 考】

座席に余裕があれば学び直しをしたい4年生の聴講も歓迎しますので、なるべく初回授業が始まる前に声をかけてください。ただし一度聴講すると決めたら、最後までちゃんと出席すること。

科目名	専門特講(学校感染症の対処法)
	学校で予防すべき感染症（学校感染症）の理解と教育現場での対応、予防方法を学ぶ
教員名	岡田 晴恵

【授業の内容】

学校は、うつる病気（感染症）が流行りやすい場所です。そのため、生徒や教職員の健康を守るため学校保健安全法の中に、学校で予防すべき感染症（学校感染症）とその対応が盛り込まれています。出席停止の基準や予防対策、対応のガイドライン等を知ること、教育現場で問題となる感染症が発生した場合にも円滑に適切な対応が取れることになります。

学校感染症は、1種、2種、3種、その他の感染症と多岐に亘りますが、特に流行の起こりやすい感染症を取り上げて、症状から予防対策、保護者への説明、子供たちへの対応、教職員自身が注意すべきことまで、網羅して学びます。

【到達目標】

学校感染症を理解し、適切に対応できる「感染症に強い教師」を目指します

【授業計画】

- 第1回 うつる病気 感染症とは？ 病原体、伝播経路からの予防方法を考える
- 第2回 学校保健安全法とは？ 学校で予防すべき感染症について
- 第3回 学校感染症 第1種感染症
- 第4回 学校感染症 第2種感染症
- 第5回 第2種感染症
- 第6回 第3種感染症
- 第7回 第3種感染症
- 第8回 第3種感染症
- 第9回 その他の感染症
- 第10回 その他の感染症
- 第11回 その他の感染症
- 第12回 感染症の予防方法の説明と実践
- 第13回 保護者への説明 お便りの作成
- 第14回 保護者への説明 お便りの作成
- 第15回 総括 とりまとめ

さまざまな感染症が、講義ごとに個別に取り上げられるので、混同しないように集中して学んでほしい

【授業の進め方】

教育現場で問題となりやすい、または、流行を起ししやすい学校感染症を個別に取り上げていきます

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①学校の感染症対策 ②岡田晴恵著 宮崎千明監修 ③東山書房

【参考図書】

感染症キャラクター図鑑 岡田晴恵監修 日本図書センター

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 30% レポート・課題 0% 受講態度 20%

特記事項

教科書を使用しながら、感染症の医学的な知識にまでふれていきます
自身の健康管理にも役立つと思われしますので、頑張って聴いてください

【「成績評価の方法」に関する注意点】

定期試験、講義内での小テスト、受講態度で評価します
教育実習、その他の公欠のある場合には、レポートを課します

【履修上の心得】

講義を受けている周囲の人に迷惑をかける行為は慎むこと

【科目のレベル、前提科目など】

教師として知っておくべき学校感染症について学びますので、基本的な内容です

【備 考】

生物A、Bを受講していると、より理解が深まる可能性がある

科目名	専門特講(Computing Essentials)
	COMPUTING ESSENTIALS
教員名	Paul del Rosario

【授業の内容】

Computer skills are the pen and paper of the digital age. If you do not know how to use these items, you are essentially illiterate in the 21st century.

コンピューターのスキルは、デジタル時代においてはペンや紙のようなものです。もし使い方がわかなければ、21世紀においては読み書きできないのと同じです。

【到達目標】

Students will be more adept at using the three “must-know” applications for general computing, as well as learn how to create an Internet presence.

履修者は一般的なコンピューター処理に必要な「知らなければならない」3種類のアプリケーションの使い方を磨き、またインターネットにおける自分の存在感を高める術も学んでいく。

【授業計画】

- 第1回 Orientation, group formation
オリエンテーション、グループ形成
- 第2回 Computing Skills Check
コンピューティングスキルチェック
- 第3回 Professional accounts
プロフェッショナルアカウント
- 第4回 Google Drive
グーグルドライブ
- 第5回 Google Docs
Googleドキュメント
- 第6回 Google Docs 2
Googleドキュメント 2
- 第7回 Google Sheets
Googleスプレッドシート
- 第8回 Google Sheets 2
Googleスプレッドシート 2
- 第9回 Google Slides
Googleスライド
- 第10回 Google Slides 2
Googleスライド 2
- 第11回 Final Project Explanation - Team Project
最終的なプロジェクトの説明 - チームプロジェクト
- 第12回 Case Study
ケーススタディ
- 第13回 Project Proposal
事業計画
- 第14回 Final Project Explanation - What's the status?
最終的なプロジェクトの説明 - ステータスは何ですか？
- 第15回 Final Project Deadline
最終的なプロジェクトの締め切り

【授業の進め方】

Grades on this course will be determined by attendance, class participation, timely completion of assignments, tests, and presentations.

成績は、授業参加、期日内による課題提出、テスト、プレゼンテーションから決められる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

Instructor will provide handouts.

講義内で配布する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 40% 受講態度 30%

科目名	専門特講(Social Networking)
	SOCIAL AND PROFESSIONAL NETWORKING
教員名	Paul del Rosario

【授業の内容】

Many people think Social Networking Services (SNS) like Facebook, Twitter, etc. are just for sharing pictures or telling about their daily lives. The function of SNS is actually much, much bigger than that.

多くの人が、FacebookやTwitterのようなソーシャルネット・ワーキング・サービス(SNS)は、単に写真を共有したり、日常生活を紹介したりするためにあると考えています。本当は、SNSの機能はそれよりも遥かに大きいのです。

【到達目標】

Students will learn how social media is used by professional people and large corporations, and become more active reaching out and making their own connections.

履修者はプロフェッショナルや大企業によってソーシャルメディアがどのように活用されているか学び、そのような人々とのつながりを積極的にもてるようにする。

【授業計画】

- 第1回 Orientation, group formation
オリエンテーション、グループ形成
- 第2回 Social Media
ソーシャルメディア
- 第3回 Linkedin
- 第4回 Gathering Information
情報の収集
- 第5回 Your professional identity
あなたの専門のアイデンティティ
- 第6回 Proposal Case Study
提案のケーススタディ
- 第7回 Proposal Case Study 2
提案のケーススタディ2
- 第8回 Your Proposal
あなたの提案
- 第9回 Review
レビュー
- 第10回 Final Project Explanation - Solo or Team Project
最終的なプロジェクトの説明 - ソロまたはチームプロジェクト
- 第11回 Business Cards
名刺
- 第12回 Failure. Don't give up.
失敗。あきらめてはいけない。
- 第13回 Final Project Explanation - What's the status?
最終的なプロジェクトの説明 - ステータスは何ですか？
- 第14回 Final Project Deadline
最終的なプロジェクトの締め切り
- 第15回 Summary
概要

【授業の進め方】

Grades on this course will be determined by attendance, class participation, timely completion of assignments, tests, and presentations. 成績は、授業参加、期日内による課題提出、テスト、プレゼンテーションから決められる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

Instructor will provide handouts.
講義内で配布する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 40% 受講態度 30%

科目名	専門特講(TOEFL II)
教員名	斎藤 明宏

【授業の内容】

複数のジャンルの文章に触れながら、TOEFLで求められる基礎力養成のための学習方法を身に着けます。TOEFLで出題される自然科学、人文科学、社会科学の分野のパスセージを使い、複数の学習法を展開していきます。

【到達目標】

1. TOEFLで求められる英語基礎力養成のための学習方法を実演する。
2. 英文のSVOCMを枠として統語構造を特定する。
3. 統語構造の理解に基づき、パスセージ内のセンスグループを特定する。
4. 統語構造とセンスグループの特定の速度を上げ、より多くの英文を読む。
5. 習得した統語の知識を適用し、英文を産出する。

【授業計画】

- 第1回 インTRODakション、American history A1
(復習：精読と音読30分)
- 第2回 American history A2
(予習：通読30分、復習：精読と音読60分)
- 第3回 Education 1
(予習：通読30分、復習：精読と音読60分)
- 第4回 Education 2
(予習：通読30分、復習：精読と音読60分、ライティング30分)
- 第5回 Environmental issues 1
(予習：通読30分、復習：精読と音読30分)
- 第6回 Environmental issues 2
(予習：通読30分、復習：精読と音読30分)
- 第7回 Quiz 1、American culture 1
(予習：クイズ準備120分、通読30分)
- 第8回 American culture 1
(予習：通読30分、復習：精読と音読30分)
- 第9回 American culture 2
(予習：通読30分、復習：精読と音読30分、ライティング30分)
- 第10回 Evolutionary theory 1
(予習：通読30分、復習：精読と音読30分)
- 第11回 Evolutionary theory 2
(予習：通読30分、復習：精読と音読30分)
- 第12回 American history B1
(予習：通読30分、復習：精読と音読30分)
- 第13回 American history B2
(予習：通読30分、復習：精読と音読30分、ライティング30分)
- 第14回 Economy 1
(予習：通読30分、復習：精読と音読30分)
- 第15回 Quiz 2, Economy 2
(予習：クイズ準備120分、通読30分、復習：精読と音読30分)

【授業の進め方】

解説を聞いて演習を行い、個人、ペア・3人グループでの音声を利用した活動を行う。また、インプット・アウトプットの一環として適宜ライティングも行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①TOEFL TEST対策 iBT & ITP 基礎演習 ②阿部友直 ③テイエス企画 ④2016 ⑤2,160円 ⑥9784887841796

【参考図書】

【はじめて問題演習をする人向けの参考書2冊】
田地野 彰. (2012/2015). TOEFL ITPテスト公式テスト問題&学習ガイド, 研究社.
Wadden, P. et al. (2014/2015). はじめてのTOEFLテスト完全対策, 旺文社.

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 30% 受講態度 20%

特記事項

授業内小試験：Quiz 1 25%, Quiz 2 25%

課題：ライティング 30%

受講態度：Contribution 20% (minute paperを含め、授業内活動への貢献度を評価)

【「成績評価の方法」に関する注意点】

適宜資料を配布し、その中からも出題します。

出席要件を満たすことが単位取得の前提となります。

【履修上の心得】

教科書忘れは欠席とします。但し、講義を受けることは可能です。

配布資料は紛失しないよう整理してください。

連続する遅刻は欠席として数えます。

【備 考】

授業計画、成績評価は変更することがあります。初回授業時に詳細をお伝えします。

科目名	専門特講(TOEIC II)
教員名	斎藤 明宏

【授業の内容】

英語トレーニングを行いながら、TOEIC L&Rで試される技能の基礎となる語彙力、読解力、聴解力を養います。会話文と説明文の2種類の英文形式で、レベル別のトレーニングを実践します。

【到達目標】

この科目を履修し単位を取得することによって、

- 1 TOEIC L&Rテスト素材に用いられるビジネスジャンルの頻出語彙・表現形式をコミュニケーションに使えるようになること、
 - 2 英語のさまざまな時制・相による表現形式の発話を聴解し、またそうした文章を読み、書けるようになること、および
 - 3 複数の学習方法を4技能発達の特性に応じて選択的に使えるようになること、
- が期待されます。

【授業計画】

第1回 Round 1 Pursuing a Client

(予習・復習) 授業中に上げた語彙学習, 基本構文の音読筆写&オンライン・プラクティス(30~60分)。

第2回 Round 2 Using Online Shipping

(予習・復習) 授業中に上げた語彙学習, 基本構文の音読筆写&オンライン・プラクティス(30~60分)。

第3回 Round 3 Taking the Stairs

(予習・復習) 授業中に上げた語彙学習, 基本構文の音読筆写&オンライン・プラクティス(30~60分)。

第4回 Round 4 Tuning Out Technology

(予習・復習) 授業中に上げた語彙学習, 基本構文の音読筆写&オンライン・プラクティス(30~60分)。

第5回 Round 5 Changing People's Jobs

(予習・復習) 授業中に上げた語彙学習, 基本構文の音読筆写&オンライン・プラクティス(30~60分)。

第6回 Round 6 Upgrading Your Job Skills

(予習・復習) 授業中に上げた語彙学習, 基本構文の音読筆写&オンライン・プラクティス, これまでの授業内容について復習(60~120分)。

第7回 Review of Rounds 1 to 6, Quiz 1

(予習) 第1-6回授業までで上げた語彙学習, 基本構文の音読筆写&オンライン・プラクティス(min. 120分)。

第8回 Round 7 Talking about Rugby

(予習・復習) 授業中に上げた語彙学習, 基本構文の音読筆写&オンライン・プラクティス(30~60分)。

第9回 Round 8 Picking Out the Perfect Gift

(予習・復習) 授業中に上げた語彙学習, 基本構文の音読筆写&オンライン・プラクティス(30~60分)。

第10回 Round 9 Taking Care of Some Guests

(予習・復習) 授業中に上げた語彙学習, 基本構文の音読筆写&オンライン・プラクティス(30~60分)。

第11回 Round 10 Working with a Partner

(予習・復習) 授業中に上げた語彙学習, 基本構文の音読筆写&オンライン・プラクティス(30~60分)。

第12回 Round 11 Planning a Weekly Schedule

(予習・復習) 授業中に上げた語彙学習, 基本構文の音読筆写&オンライン・プラクティス(30~60分)。

第13回 Round 12 Living on the Water

(予習・復習) 授業中に上げた語彙学習, 基本構文の音読筆写&オンライン・プラクティス(30~60分)。

第14回 Round 13 Changing Seats

(予習・復習) 授業中に上げた語彙学習, 基本構文の音読筆写&オンライン・プラクティス, これまでの授業内容について復習(60~120分)。

第15回 Review of Rounds 7 to 13, Quiz 2

(予習) 第8-14回の授業までで上げた語彙学習, 基本構文の音読筆写&オンライン・プラクティス(min. 120分)。

【授業の進め方】

さまざまな学習方法を実際に行いながら、本文を読解・聴解する活動を中心に行います。授業開始前と開始後での理解度の変化を毎回確認しながら進めます。音声によるインプットを中心とした活動が多くなります。形式に意識を向けるアウトプット活動として、一度理解したテキストの本文・会話をメモを取りながら再現するdictoglossも行います。途中ペア・3人程度のグループでの活動が入ります。過去問や実戦形式の問題演習は少しだけ行います。問題を解き教員の解説のみで15回全部の授業が終わるスタイルではありませんので、期待と違わないよう履修登録を検討してください。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①English Trainer (Vol. 47)予定 ②W. Priet, B. Maitland, R. Cassell, et al. ③株式会社ビズコム ④2016 ⑤2,000円
⑥なし

通常の書店で購入できない可能性があるため、初回授業で購入方法を案内します。テキスト本文すべての音声収録されたCDと教科書の活用ガイドが付属します。活用ガイドで学習方法を確認しながら自習することができます。

適宜資料を配布し、その内容からも試験や課題として出題します。

【参考図書】

TOEICテスト公式問題集 新形式問題対応編 Educational Testing Service編 国際ビジネスコミュニケーション協会
TOEIC(R)テスト英文法 プラチナ講義 濱崎潤之輔 監修/ジャパンタイムズ 編
TOEIC(R)テスト リーディング プラチナ講義 濱崎潤之輔 監修/ジャパンタイムズ 編

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 40% 受講態度 20%

特記事項

※教科書以外の配布資料からも試験や課題として出題します。

課題（レポートなし）：毎時の復習小テスト（vocabulary, dictation）（到達目標1, 3）

授業内小試験：Mid-semesterとfinalの計2回小試験（到達目標2, 3）

受講態度：ほかの受講生との活動取組みの姿勢（dictoglossとminute paperを含む）（到達目標2）

【「成績評価の方法」に関する注意点】

適宜資料を配布し、その内容からも小試験や課題として出題します。

必ず出席要件を満たすことが条件です。

【履修上の心得】

教科書忘れは欠席とします。但し、講義を受けることは可能です。

配布資料は紛失しないよう整理してください。

連続する遅刻は欠席として数えます。

【備 考】

受講人数やレベルにより上記内容の変更をすることがあります。初回授業時に詳細をお伝えします。

科目名	教育実習の事前事後指導P
	幼稚園実習の事前事後指導 授業形態：講義
教員名	山路 千華

【授業の内容】

幼稚園実習の目的、内容、方法、必要な手続き、留意事項などを具体的に理解し、実習ノートなどの記録方法、指導計画の作成、基礎的かつ実践的技術を身につける事前指導と、実習終了後の反省と今後の学習課題を各自が明確にするための事後指導で構成される。

【到達目標】

教育実習に行く前に必要とされる様々な知識、技能、態度を身につけることができる。
幼稚園実習での学びを振り返り、自己課題を明確にすることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、幼稚園の役割と幼稚園教育の特色
- 第2回 幼稚園教育実習の意義と実習段階
- 第3回 実習の心構えと実習前オリエンテーションについて
- 第4回 幼児と実習生のかかわり
- 第5回 実習における課題の明確化
- 第6回 実習ノート・記録の意義
- 第7回 実習ノートの記録内容
- 第8回 実習ノートの書き方
- 第9回 指導計画と実習
- 第10回 部分実習指導計画
- 第11回 責任（全日）実習指導計画
- 第12回 保育教材研究の実際
- 第13回 教育実習直前指導～自己紹介の実際
- 第14回 実習事後指導① 実習の振り返り
- 第15回 実習事後指導② 自己課題の明確化

【授業の進め方】

幼稚園実習に向けて、授業以外でも製作物の試作や保育教材の研究などの学習と準備が必要となる。
講義での学びの他、実習経験者である学生（先輩）等からの助言・指導・相談の時間を設けることもある。
実習指導において、即戦力となる技術の伝授を求める学生がいるが、受け身での受講姿勢では学びにならない。
誠意とやる気をもって授業に臨み、積極的に自分自身の課題をこなしていかない限り、実習で役に立つ実践力を身に付けることはできない。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド ②小櫃智子編 ③わかば社 ④2015年
- ①幼稚園教育要領解説 ②文部科学省 ③フレーベル館

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 60%

特記事項

真剣に誠実に取り組む決心をして受講してほしい。したがって、重大な理由がない限り欠席しないこと。理由がある場合は、必ず事前に連絡を入れ、後日に公的証明書を提出すること。遅刻ももちろん認めない。
実践、受講態度、提出物で総合的に評価する。
実習科目なので、定期試験は行わない。

【履修上の心得】

履修には一定の条件があるので、「免許および資格取得の手引き」で確認すること。

【科目のレベル、前提科目など】

保育内容指導法(5領域)
教職に関する科目に位置づけられている。

科目名	教育実習の事前事後指導P
	小学校
	小学校実習の事前事後指導 授業形態：講義
教員名	宇津野 花陽・榎本 哲士・富田 英也・益田 勇一・山野井 貴浩

【授業の内容】

小学校において教育実習を行う学生が受講する科目である。教育実習を行うに当たって必要となる基礎知識や授業実践について学ぶ事前指導と、教育実習終了後に行う事後指導とによって構成される。事前指導では、教育実習に関する諸手続き、教育実習の意義や目的、学習指導案の作成、模擬授業等を通して充実した実習のための基礎を構築する。事後指導では、実習先で行なった研究授業で作成した学習指導案や授業記録等を基に学習指導のあり方について検討する。

【到達目標】

小学校教育実習に必要な知識と指導力の獲得。

【授業計画】

- 第1回 教育実習の意義や目的
- 第2回 実習前・実習中の諸注意
- 第3回 模擬授業のオリエンテーションと準備
- 第4回 模擬授業と授業内容の検討（グループ1）
学習課題：学習指導案、板書計画、配布資料、教材の作成
- 第5回 模擬授業と授業内容の検討（グループ2）
学習課題：学習指導案、板書計画、配布資料、教材の作成
- 第6回 模擬授業と授業内容の検討（グループ3）
学習課題：学習指導案、板書計画、配布資料、教材の作成
- 第7回 模擬授業と授業内容の検討（グループ4）
学習課題：学習指導案、板書計画、配布資料、教材の作成
- 第8回 模擬授業と授業内容の検討（グループ5）
学習課題：学習指導案、板書計画、配布資料、教材の作成
- 第9回 模擬授業と授業内容の検討（グループ1）
学習課題：学習指導案、板書計画、配布資料、教材の作成
- 第10回 模擬授業と授業内容の検討（グループ2）
学習課題：学習指導案、板書計画、配布資料、教材の作成
- 第11回 模擬授業と授業内容の検討（グループ3）
学習課題：学習指導案、板書計画、配布資料、教材の作成
- 第12回 模擬授業と授業内容の検討（グループ4）
学習課題：学習指導案、板書計画、配布資料、教材の作成
- 第13回 模擬授業と授業内容の検討（グループ5）
学習課題：学習指導案、板書計画、配布資料、教材の作成
- 第14回 教育実習の報告
- 第15回 教育実習で明らかになった課題の検討

【授業の進め方】

模擬授業を中心に進める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用しない。

【参考図書】

- 「教育実習の手引き（小学校編）」
- 『小学校学習指導要領解説』（各教科）、文部科学省。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

模擬授業、授業への取り組み、実習報告による評価。

【履修上の心得】

毎回、出席すること。

【科目のレベル、前提科目など】

小学校教員免許を取得するための教職科目。

科目名	教育実習の事前事後指導S
教員名	内田 雄三
	中学校（保健体育）・高等学校（保健体育）の事前事後指導 授業形態：講義

【授業の内容】

本科目の目的は、次の通りである。

- ①教育実習に臨む上で事前に必要とされる諸々の知識、技能、態度を身につけること（事前指導）。
- ②教育実習の経験を省察すること（事後指導）。

【到達目標】

- ・教育実習にむけての心構えと知識、技能、態度を身につける。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
教育実習の意義および教育実習への心構え
- 第2回 教育実習生の生活1
日々の生活と3,4週間を見通した生活の送り方
- 第3回 教育実習生の生活2
授業観察の手法と学習指導案例
- 第4回 授業設計の手順
単元計画案および学習指導案作成
- 第5回 模擬授業実施グループによる教材研究1
模擬授業実施グループの決定と実施内容の検討
- 第6回 模擬授業実施グループによる教材研究2
模擬授業指導案（原案）の作成
- 第7回 模擬授業1
器械運動の授業実施と省察
- 第8回 模擬授業2
陸上競技の授業実施と省察
- 第9回 模擬授業3
球技（ゴール型）の授業実施と省察
- 第10回 模擬授業4
球技（ネット・ベースボール型）の授業実施と省察
- 第11回 模擬授業5
武道、ダンスの授業実施と省察
- 第12回 模擬授業6
体育理論・体づくり運動の授業実施と省察
- 第13回 模擬授業のまとめ
模擬授業実施と省察の総括
- 第14回 教育実習事後報告会1
発表用ポスターの作成
- 第15回 教育実習事後報告会2
実習概要の発表と質疑応答

本科目では、教育実習を想定して、次のような学習をする。

- ①前半では、実習生としての心構えや実習期間中の仕事内容について学ぶこと。
- ②後半では、体育科教育法と連動しながら学習指導案の作成や模擬授業を行うこと。なお体育科教育法では扱わない領域や内容について触れる。
- ③模擬授業の実施内容はグループの準備状況によって変更される場合がある。
- ④教育実習終了後に事後報告会の場でレポート発表を行うこと。

【授業の進め方】

事前指導は、学生が主体となり模擬授業を行ったり、スピーチ練習を行ったりする。また、毎回フレクシオンシートの提出を行う。

事後指導では、教育実習のレポートを作成し、ポスター発表をする。

模擬授業では受講者全員が授業者を担当できるよう、1講義内に2模擬授業を同時並行で実施する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

大学で配布する手引き、並びに学習指導要領や学習指導要領解説等を使用する。

【参考図書】

模擬授業実施に向けた授業実践例などは各グループで資料を準備すること。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 40% 受講態度 20%

特記事項

評価は、受講態度・提出物・模擬授業への参加態度など総合的に行う。

ただし、提出物や模擬授業への参加など、全ての課題がなされていない場合には評価を付与しない。

【履修上の心得】

欠席・遅刻は厳に慎むこと。提出物の未提出は原則として認めない。模擬授業他実技を行う場合には、教育実習を想定した服装を着用すること。明らかに不適切な服装を着用している場合には授業に参加させない場合もある。

【科目のレベル、前提科目など】

本科目は、これまで学んできたあらゆる実技、特別活動、学校保健、保健体育科教育法など、全て関連している。

本科目は、教員養成の中核科目として位置づけられ、教育実習に直結している。

科目名	教育実習の事前事後指導S
教員名	奥山 慶洋
	中学校(英語)・高等学校(英語)の事前事後指導 授業形態:講義

【授業の内容】

この科目は中学・高校で英語の教育実習を行う者が受講する。秋に実習に行く予定の学生は前期の事前指導クラスに登録すること。春に実習に行く学生は後期のクラスに登録すること。どちらも、実習前と実習後で、年間を通しての講義・演習を受けることになる。教育実習前の「事前指導」と実習後の「事後指導」からなる。事前指導では、実習の意義から教師の心得、観察参加実習などを行い、実習の準備を行う。事後指導では、実習体験を報告する報告会でプレゼンテーションを行う。最後に自分が今後取り組むべき課題を明確にして、課題克服のための計画をレポートに書く。

【到達目標】

受講学生は、実習に行く段階で、教育実習を成功させるために必要なことが全て分かっている、教育実習を無事終えることができる。実習終了後は、実習体験を公開の場で発表することができ、教職に就くうえで自分に不十分な点が明らかになっていて、今後の補強のための計画を立てることができる。

【授業計画】

- 第1回 シラバス説明(30分)、グループディスカッション(実習への不安などの共有)(30分)、教育実習の手引きの読み合わせ(30分)
- 第2回 中学校学習指導要領解説(外国語編)、授業観察の方法(90分)
- 第3回 中学校学習指導要領解説(道徳編)、道徳の指導手順(90分)
- 第4回 現職教員による講義(指導案の例、実習で注意すべきこと等)(90分)
- 第5回 実習ケーススタディ(こんなときどうする?)(90分)
- 第6回 模擬授業①(英語or道徳)(90分)
- 第7回 模擬授業②(英語or道徳)(90分)
- 第8回 模擬授業③(英語or道徳)(90分)
- 第9回 教育実習終了者による実習報告会①(90分)
- 第10回 教育実習終了者による実習報告会②(90分)
- 第11回 教育実習終了者による実習報告会③(90分)
- 第12回 直前指導(実習の準備状況確認、実習日誌の書き方等)(90分)
- 第13回 実習報告会準備(90分)
- 第14回 実習報告会参加(発表)(90分)
- 第15回 実習報告会参加(見学)(90分)

第1～12回は事前指導として実習前に行い、第13～15回は事後指導として実習後に行う。実習報告会は2回参加し、1回は自分の発表、もう1回は他の履修生の見学を行う。

【授業の進め方】

- ・前期のクラスに登録する学生は、4月から講義が始まり、6月に観察参加実習、秋に教育実習をした後、12月に実習報告会を行う。4月から12月までの9か月に渡る受講となる。
- ・後期のクラスに登録の学生は、その年の前期の6月に観察参加実習があり、講義は9月からとなる。教育実習は翌年春に行い、7月に実習報告会を行う。6月の観察参加実習から翌年の7月の実習報告会までの1年2か月に渡る受講となる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ・「教育実習ハンドブック [増補版]」柴田・木内(2012) ※2015年度に事前指導を受けた学生は購入不要
- ・「教育実習の手引き」(大学が配布)
- ・「中学校学習指導要領解説 外国語編」文部科学省 ※インターネットでDL可
- ・「中学校学習指導要領解説 道徳編」文部科学省 ※インターネットでDL可

【参考図書】

- ・「英語科教育実習ハンドブック」米山朝二・多田茂・杉山敏著(2013)
- ・「中学校道徳読み物資料集」文部科学省 ※インターネットでダウンロード可

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 70% 受講態度 0%

特記事項

- ・「授業内小試験」には「模擬授業の評価」および「実習報告会での発表」が含まれる(それぞれ15%)。
- ・「レポート・課題」には、現職教員による講演の感想(10%)、実習報告会の感想(10%×3回)、教科書の読解レポート(第1～3章、第4～6章、第7～8章、各10%)が含まれる。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・教育実習の一環であり、欠席および遅刻は原則として認めない。欠席する場合は、教務にある欠席届、又は欠席が避け難いものである証明書（実習指導室、進路指導室の用紙）を事前に提出すること。
- ・遅刻も、出席端末のデータとは関係なく、教員が出席を確認した時点でいない場合には欠席と扱う場合もあるので絶対に行わないこと。

【履修上の心得】

長期間に渡って不定期に授業があるので、掲示版に注意を払うこと

※実習では、TTの打ち合わせなど英語でのコミュニケーション力が不可欠であるので、その対策・準備をそれぞれで行うこと。

科目名	教育実習の事前事後指導S
教員名	黒澤 和人
	中学校（社会）・高等学校（公民・商業） 経営学部、法学部、心理学専攻に開設 授業形態：講義

【授業の内容】

- ・教育実習に参加する前の準備（事前指導）と、教育実習から帰ってきた後のまとめ（事後指導）を行う。
- ・事前指導では、教育実習の意義や心構え、また指導案の作成法等について学習する。
- ・事後指導では、教育実習の全体を振り返り、教師としての実践力強化のために今後さらに何が必要かを考える。

【到達目標】

- （１）教育実習の意義（目的と目標）が正しく理解できるようになる。
- （２）教材研究と指導案作りの意義が理解できるようになる。
- （３）教師としての実践力強化のための計画が立案できる。

【授業計画】

- 第1回 [事前指導] 教育実習の意義と目標
学習課題：WebClass上の資料に基づき、復習と予習を行う。(60分)
- 第2回 [事前指導] 教師の心得・職務
学習課題：WebClass上の資料に基づき、復習と予習を行う。(60分)
- 第3回 [事前指導] 特別活動とその指導
学習課題：WebClass上の資料に基づき、復習と予習を行う。(60分)
- 第4回 [事前指導] 教材研究の心得
学習課題：WebClass上の資料に基づき、復習と予習を行う。(60分)
- 第5回 [事前指導] 指導案作り
学習課題：WebClass上の資料に基づき、復習と予習を行う。(60分)
- 第6回 [事前指導] 模擬授業 1
学習課題：WebClass上の資料に基づき、復習と予習を行う。(60分)
- 第7回 [事前指導] 模擬授業 2
学習課題：WebClass上の資料に基づき、復習と予習を行う。(60分)
- 第8回 [事前指導] 模擬授業 3
学習課題：WebClass上の資料に基づき、復習と予習を行う。(60分)
- 第9回 [事前指導] 模擬授業 4
学習課題：WebClass上の資料に基づき、復習と予習を行う。(60分)
- 第10回 [事前指導] 模擬授業 5
学習課題：WebClass上の資料に基づき、復習と予習を行う。(60分)
- 第11回 [事前指導] 模擬授業 6
学習課題：WebClass上の資料に基づき、復習と予習を行う。(60分)
- 第12回 [事前指導] 模擬授業 7
学習課題：WebClass上の資料に基づき、復習と予習を行う。(60分)
- 第13回 [事前指導] 模擬授業 8
学習課題：WebClass上の資料に基づき、復習と予習を行う。(60分)
- 第14回 [事後指導] 教育実習報告会
学習課題：WebClass上の資料に基づき、復習と予習を行う。(60分)
- 第15回 [事後指導] 総括と今後の学習のための案内
学習課題：これまでの全学習内容を整理する。(120分)

【授業の進め方】

講義、演習、グループ学習、プレゼンテーションなどの形を織り交ぜながら進めていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

テキストには、本学実習指導委員会編集の「教育実習の手引き」を利用する。

【参考図書】

必要に応じて印刷教材を配布する。また、関連図書については、その都度指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 60%

特記事項

定期試験はない。

レポート・課題（提出物等）、受講態度（授業への貢献度、討議・発表等）による。

【履修上の心得】

教育実習を成功させるには、周到な準備が必要である。

対人面では、あらゆることが学習・体験の対象となっているので、気軽に考えず謙虚な気持ちで臨むこと。たとえば、実習先との事前事後の諸連絡に際しては、相手の立場に立ち誠意を持って対応すること。

学力面では、専門教科の勉強を怠らず、その成果を指導案作りに活かすよう努力すること。

生活面では、遅刻・欠席をしないこと。止むを得ずそのような事態になった場合は、連絡・報告をすること。

【科目のレベル、前提科目など】

科目レベル：教育実習を補完するために設けられた授業科目である。

関連科目：教職に関わる科目すべて。

【備 考】

教材の配布および課題の提出は、主に授業支援システムWebClassを通じて行う。

科目名	教育実習 I
	幼稚園実習（幼児教育・保育コース） 授業形態：実習
教員名	山路 千華

【授業の内容】

大学で学んだ理論的知識を基礎に、教員としての実践的指導力を養うために、実習園での担当教員の指導を受ける。「部分実習」「全日実習」などの実体験を通して、園組織の実際、保育者の仕事、園児の実態についての理解を深める。また、園児との日常的な関わりから、教師（保育者）としての自覚と使命感を高めていく。

【到達目標】

教師（保育者）としての自覚を持つことができる。

幼児の行動や保育者の動きを観察し、幼児と触れ合うことを通して、幼児の気持ちを理解し、子どもに対する言葉かけを学ぶことができる。

実習ノートの書き方や指導案の書き方を学ぶことができる。

【授業計画】

実習園の指導に従う。

【授業の進め方】

実習園の指導に従う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- 以下の2冊は教育実習（幼稚園）事前事後指導の授業において使用している。実習前に熟読すること。
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針（原文）』（内閣府文部科学省厚生労働省編集 チャイルド本社）
『幼稚園教育要領解説』（文部科学省 フレーベル館）
- 実習園から指定されたもの（歌の楽譜や読み聞かせ用の絵本など）を各自準備する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 70%

特記事項

実習園からの評価票、実習ノートの完成度などで総合的に評価する。

【履修上の心得】

教育実習は、大学での授業とは異なり、社会、学校、子ども（園児）を相手とする仕事であるから、時間厳守が当然のことであり、受講者には強い自覚と責任感が求められる。

教育実習の事前事後指導（講義）と教育実習（幼稚園）の両方が完了した段階で単位が与えられる。

【科目のレベル、前提科目など】

保育内容指導法(五領域)

教職に関する科目に位置付けられている。

科目名	教育実習 I
	小学校実習（小学校教育コース） 授業形態：実習
教員名	益田勇一

【授業の内容】

教育実習においては、以下の内容の研究を深める。

1. 授業観察
 - ・授業過程における教師と児童の活動
 - ・アクティブ・ラーニングの取り入れ方
2. 学習指導
 - ・教材の内容分析
 - ・指導の手順と指導過程の構成
 - ・学習指導案の作成
 - ・教材等の準備
 - ・発問計画、板書計画の作成
 - ・デジタル教材の活用
3. 生活指導

【到達目標】

教職に関して大学で学んだ知識、技術等を学校現場で生かすことで、実践的指導力の基礎を形成する。また、児童と触れ合うこと、学習指導以外の様々な活動を体験することで、児童理解、学校現場への理解を深める。

【授業計画】

教育実習校の指導に従う。

【授業の進め方】

教育実習校の指導に従う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

実習校で指定されたもの。

【参考図書】

実習校で指定されたもの。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

教育実習校による「教育実習評価表」、「教育実習ノート」の内容を教職等課程委員会で検討し、総合的に評価する。

【科目のレベル、前提科目など】

『免許および資格取得の手引き(基礎)』に記された「小学校教育実習参加の要件」参照。

科目名	教育実習 I
	中学校実習 授業形態：実習
教員名	内田 雄三・奥山 慶洋・黒澤 和人

【授業の内容】

教職に就くことを前提として、教育現場において実地体験を積むことが本科目の目的である。

【到達目標】

大学で学んだ知識、理論、技術等を基盤に教育現場での実践的指導力の基礎を体得する。

【授業計画】

教育実習では、主に下記の指導を観察したり、実際に自ら教師として指導したりする。

- 1 生徒指導
- 2 学習指導
- 3 部活動指導

指導の時間数・内容等については実習校によって異なるため、実習校の指導に従う。

【授業の進め方】

実習校の指導に従うこと。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

実習校から指定されたものを各自準備する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

教育実習100%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

教育実習校による「教育実習評価表」「教育実習ノート」の内容を教職等課程委員会で検討し、総合的に評価する。教育実習期間を満了することで単位が付与されるわけではない。

【履修上の心得】

中学校免許のみ希望者および中高両免許希望者は「教育実習 I」（4 単位）を履修し、原則として中学校での実習に参加すること。

【科目のレベル、前提科目など】

教職に関する科目、各教科に関する科目全般。

教職課程の集大成ともいべき実習である。

科目名	教育実習Ⅱ
	幼稚園実習（小学校教育コース） 授業形態：実習
教員名	山路 千華

【授業の内容】

大学で学んだ理論的知識を基礎に、教員としての実践的指導力を養うために、実習園での担当教員の指導を受ける。「部分実習」「全日実習」などの実体験を通して、園組織の実際、保育者の仕事、園児の実態についての理解を深める。また、園児との日常的な関わりから、教員（保育者）としての自覚と使命感を高めていく。

【到達目標】

教師としての自覚を持つことができる。

子どもの気持ちを理解し、子どもに対する言葉かけを学ぶことができる。実習ノートの書き方や指導案の書き方を学ぶことができる。

【授業計画】

実習園の指導に従う。

【授業の進め方】

実習園の指導に従う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- 以下2冊は教育実習（幼稚園）事前事後指導の授業で使用している。実習前に熟読すること。
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針（原本）』（内閣府文部科学省厚生労働省、チャイルド本社）
『幼稚園教育要領』（文部科学省、フレーベル館）
- 実習園から指定されたもの（歌の楽譜や読み聞かせ用の絵本など）を各自準備する。
- 教育実習（幼稚園）事前事後指導にて配布された資料等を整理し、日々、活用すること。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 70%

特記事項

実習園からの評価表、実習ノートの完成度などで総合的に評価する。

【履修上の心得】

教育実習は、大学での授業とは異なり、社会、学校、子ども（園児）を相手とする仕事であるから、時間厳守が当然のことであり、受講者には強い自覚と責任感が求められる。

教育実習（幼稚園）事前事後指導の授業で学んだことを復習し、幼稚園教育の特徴をしっかり捉えて、真摯な態度で実習に臨むこと。

教育実習の事前事後指導（講義）と教育実習（幼稚園）の両方が完了した段階で単位が与えられる。

【科目のレベル、前提科目など】

保育内容指導法(五領域)

教職に関する科目に位置付けられている。

科目名	教育実習Ⅱ
	高等学校実習 授業形態：実習
教員名	内田 雄三・奥山 慶洋・黒澤 和人

【授業の内容】

教職に就くことを前提として、教育現場において実地体験を積むことが本科目の目的である。

【到達目標】

大学で学んだ知識、理論、技術等を基盤に教育現場での実践的指導力の基礎を体得する。

【授業計画】

教育実習では、主に下記の指導を観察したり、実際に自ら教師として指導したりする。

- 1 生徒指導
- 2 学習指導
- 3 部活動指導

指導の時間数・内容等については実習校によって異なるため、実習校の指導に従う。

【授業の進め方】

教育実習校の指導に従うこと。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教育実習校から指定されたものを各自準備する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

教育実習100%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

教育実習校による「教育実習評価表」「教育実習ノート」の内容を教職等課程委員会で検討し、総合的に評価する。教育実習期間を満了することで単位が付与されるわけではない。

【履修上の心得】

高等学校免許のみ希望者は「教育実習Ⅱ」（2単位）を履修し、高校での実習に参加すること。

【科目のレベル、前提科目など】

教職に関する科目、各教科に関する科目全般。

教職課程の集大成ともいべき実習である。

科目名	教職実践演習(幼・小)
	幼児教育・保育コース開設
教員名	浅田 晃佑・岩城 淳子・山路 千華

【授業の内容】

ロールプレイや現地調査（フィールドワーク）の実施、現職教員（ゲストスピーカー）による講義を通じて、教育実習の振り返りを行うとともに、教職の使命と意義を深め、幅広い実践的指導力の向上を図るため、学生に主体的・体験的学習を用意する。履修カルテを補助資料として活用する。

【到達目標】

- ・教職の使命と意義についての理解を深める。
- ・主として幼稚園現場における指導力・幼児の理解力・学級経営力を実践的に身につける。
- ・同僚教員・地域住民・保護者等との実践的コミュニケーション能力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 教職実践演習の目的と演習内容について
 第2回 外部講師による講演(幼稚園関連と小学校関連、二人の講師を依頼：幼稚園、小学校の管理・経営的観点から)(幼・小全クラス合同で実施)
 第3回 前回講演内容からテーマを設定し、検討する。
 第4回 外部講師による講演(幼稚園関連と小学校関連、二人の講師を依頼：現職の園長、校長等)(幼・小全クラス合同で実施)
 第5回 前回講演内容からテーマを設定し、検討する。
 第6回 幼稚園における保育観察の課題設定と準備
 第7回 幼稚園における保育観察1(年少児クラス)
 第8回 幼稚園における保育観察2(年中児クラス)
 第9回 幼稚園における保育観察3(年長児クラス)
 第10回 保育観察のまとめとグループ討議
 第11回 SNSを利用した課題の討議(保育観察から浮かび上がった課題をツイッター、フェイスブック等を使って幅広く意見を集め、検討する。
 第12回 保育観察の成果発表(グループ1、2、3)
 第13回 保育観察の成果発表(グループ4、5、6)
 第14回 模擬保育プランの作成
 第15回 模擬保育と討論

* 外部講師及び保育観察実施園の都合により、授業計画の順番や授業内容が変更になる場合がある。

【授業の進め方】

演習形式で行う。現場の先生の話の聞いたり、実際に幼稚園の保育を観察したことをもとに、グループ単位で話し合い、その成果を発表する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない。

【参考図書】

必要に応じて紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

提出課題(レポート等)、授業への取り組み、履修カルテを総合的に評価する。

科目名	教職実践演習(幼・小)
	小学校教育コース開設
教員名	荒川 麻里・榎本 哲士・金井 正・小泉 祥一・益田 勇一

【授業の内容】

この科目は教員免許状取得にあたって必修となっている。その点を踏まえて教職の意義への理解を深め、より幅広い実践的指導力の向上を図るために、可能な限り学生が主体となった体験を中心とした内容となっている。また小学校の実態について管理職や現場の教員による講演も予定している。

【到達目標】

- ・教職の使命と意義について理解を深める。
- ・主として小学校の現場における指導力、児童の理解力、学級経営力を実践的に身につける。
- ・同僚教員や保護者、地域の住民等との良好な関係を構築するためのコミュニケーション能力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 「教職実践演習」の目的と演習内容（クラスごとに実施）
- 第2回 外部講師による講演①（小学校と幼稚園の管理職による講演を幼保コースと合同で実施）
- 第3回 前回の講演内容についての考察と討論①（クラスごとに実施）
- 第4回 外部講師による講演②（小学校と幼稚園の現場教員による講演を幼保コースと合同で実施）
- 第5回 前回の講演内容についての考察と討論②（クラスごとに実施）
- 第6回 小学校での授業観察の課題設定と準備（クラスごとに実施）
- 第7回 小学校での授業観察
- 第8回 授業観察のまとめとグループ討論（クラスごとに実施）
- 第9回 グループ討論の発表①（グループ1・2・3／クラスごとに実施）
- 第10回 グループ討論の発表②（グループ4・5・6／クラスごとに実施）
- 第11回 外部講師による講演③（最新の教育現場での諸問題や電子機器利用の授業等のテーマについて小学校コースのみで実施）
- 第12回 前回の講演内容についての考察と討論③（クラスごとに実施）
- 第13回 模擬授業と討論①（クラスごとに実施）
- 第14回 模擬授業と討論②（クラスごとに実施）
- 第15回 模擬授業と討論③（クラスごとに実施）

外部講師及び授業観察実施校の都合により、授業計画の順番や授業内容が変更になる場合がある。クラスごとの授業は、担当教員の時間割の関係上、同一の曜日・時限にならないこともある。また外部講師による講演は、土曜日や平日の6限に実施することもあるので、担当教員からの連絡や掲示に注意してもらいたい。

【授業の進め方】

演習形式による授業である。現場の先生方の講演や小学校の授業観察をもとに、グループ単位で話し合ってその成果を発表する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に使用しない。

【参考図書】

『小学校学習指導要領解説』（各教科）、文部科学省。
その他、必要に応じて紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

レポートや履修カルテ、授業への取り組みを総合的に評価する。

科目名	教職実践演習(中・高)
教員名	教育学部（スポーツ健康専攻・英語教育専攻・心理学専攻）に開設 荒井 信成・内田 雄三・大木 俊英・奥山 慶洋・伊東 孝郎

【授業の内容】

- ・ロールプレイや事例研究等を通じて、教員組織における自己の役割や、校務運営の重要性、保護者や地域との連携・協力の重要性等を理解しているか確認する。
- ・模擬授業の実施を通じて、教員としての表現力や授業力、生徒の反応を活かした授業づくり、皆で協力して取り組む姿勢を育む指導法等を身に付けているか確認する。
- ・教育現場などの観察調査を通して学生に主体的・体験的・実践的な探求の場を提供する。

【到達目標】

- ①使命感や責任感、教育的愛情等を持って、教科指導、生徒指導等を実践できる資質能力を最終的に形成する。
- ②教職課程の授業科目の履修や様々な活動を通じて、学生が身に付けた資質能力が、教員として必要な資質能力として有機的に統合、形成されたかを最終的に確認する。

【授業計画】

- 第1回 <教職実践演習の目的と予定について>（講義）
1学年次からの学生一人ひとりの学修課題と学校教育の課題について講義後、今後の予定・グループ討議の方法などについて説明し、グループごとに教職実践演習の目的と内容及び方法について検討し、グループごとに発表し、教職実践演習の内容と意義の理解を深める。
- 第2回 <教職の意義・教員の役割、職務内容、子どもに対する責任について>（講義・グループ討議）
学校教育の目標と教職の意義及び教員の役割について講義と小グループによる討議と発表。
- 第3回 <社会性や対人関係力について> 講義
学校内における組織と人間関係について現職校長から講義
- 第4回 <社会性や対人関係力についてⅡ>（グループ討議）Ⅱ
学校内における組織と人間関係について前時の講義をもとにグループ討議
- 第5回 <社会性や対人関係力についてⅢ>（講義・グループ討議）
保護者との地域社会における人間関係についてPTA会長等からの講演とグループ討議
- 第6回 <生徒理解及び学級経営について・学級経営案の作成Ⅰ>（講義、グループ討議）
現職教員または管理職による生徒理解及び学級経営案作成についての講義とグループワーク
- 第7回 <学級経営案の作成Ⅱ>
学生による学級経営案の作成と発表及び討論
- 第8回 <教育現場等の見学・調査>（学習指導上の課題、生活指導上の課題、学級経営上の課題など）
教育現場等の見学・調査・学習指導、生活指導、学級経営、保護者との対応等の課題などに関して、現場に向いて見学・調査する。
- 第9回 <教育現場等の見学・調査のまとめ>
前回の見学・調査について課題を個人またはグループで整理、発表し理解を深める。
- 第10回 <教科内容等の指導力について>（講義）
現職教員または管理職から「生きる力」に結びつく教科指導について講義と教科の指導力に関する課題のグループ討議と発表
- 第11回 <模擬授業と授業研究Ⅰ>（課題：道徳教育・生活指導）
学生による模擬授業と授業評価及び討論
- 第12回 <模擬授業と授業研究Ⅱ>（課題：総合的な学習の時間）
学生による模擬授業と授業評価及び討論
- 第13回 <模擬授業と授業研究Ⅲ>（課題：教科指導）
学生による模擬授業と授業評価及び討論
- 第14回 <資質能力の確認、まとめⅠ>
学生による教育課題に関する論文作成
- 第15回 <資質能力の確認、まとめⅡ>
学生による論文要旨の発表と指導教員による講評
* 授業を進める上で授業計画の順番は必ずしも上記の通りでない場合もある。
* 第3回、5回、6回、10回は外部講師による講演が中心の授業である。この授業は経営学部、法学部との合同授業である。
* 外部講師及び学校現場見学実施の都合により、授業計画の順番が変更になる場合がある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要となる資料は適宜作成、配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

論文形式での実施40% 授業内に実施する課題30% 修学状況30%

【科目のレベル、前提科目など】

教育実習事前事後指導、教育実習が終了し単位付与が予定される学生が履修できる科目である。

科目名	教職数学演習 I
教員名	榎本 哲士

【授業の内容】

高校数学で学ぶ「関数」「整数の性質」「確率」「図形」などを題材に、その基礎的事項の復習と演習を行う。高校の教科書 + α を時間をかけて丁寧に解説していく。同様に高校数学の問題 + α 程度の問題演習を行う。

【到達目標】

高校数学を題材にして理解を深め、数学的思考力や実践力を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 関数 (1) 関数の基本
- 第2回 関数 (2) 2次関数の基礎
- 第3回 関数 (3) 2次関数のグラフと最大・最小
- 第4回 関数 (4) まとめと演習
- 第5回 文章題と方程式 (1) 割合①
- 第6回 文章題と方程式 (2) 割合②
- 第7回 文章題と方程式 (3) 演習
- 第8回 文章題と方程式 (4) まとめと演習
- 第9回 整数の性質 (1) 素因数分解、最大公約数・最小公倍数
- 第10回 整数の性質 (2) n 進数について
- 第11回 確率 (1) ものの数え方 (樹形図・順列・組合せ)
- 第12回 確率 (2) 確率
- 第13回 確率 (3) まとめと演習
- 第14回 総合問題演習①
- 第15回 総合問題演習②

【授業の進め方】

基本的に板書と補助プリントにより授業を進めます。情報量が多い時などは忙しいでしょうがノート主体にならず講義にも耳を傾けるようにしてください。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用しません。適宜プリントを用意します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

特記事項

授業態度と定期試験により評価する。

【履修上の心得】

基本的に板書で授業を進めます。情報量が多い時などは忙しいでしょうがノート主体にならず講義にも耳を傾けるようにしてください。

【科目のレベル、前提科目など】

後期開講科目であるが、3年生での履修が望ましい。この科目は3年後期でI、4年前期でIIを履修することを想定しているが、他の学年での履修も可能である。しかし、受講希望者が多数の場合は、3年生を優先する。

科目名	教職数学演習Ⅱ
教員名	榎本 哲士

【授業の内容】

高校数学で学ぶ「関数」「図形」「確率」などを題材に、基礎から発展的なことまでを解説していく。発展内容では微分積分・線形代数などの大学で学ぶ知識などの解説も適宜行う。また理解度の確認のため、節目ごとに十分な演習を行う。

【到達目標】

高校数学で学ぶ「関数」「図形」「確率」のより高度な立場から理解し、数学的推理力を向上させるとともに関連する問題を確実に解けるようにする。

【授業計画】

- 第1回 関数（1） 関数について
- 第2回 関数（2） 関数における演習問題①
- 第3回 関数（3） 関数における演習問題②
- 第4回 関数（4） 関数における演習問題③
- 第5回 図形（1） 図形の基礎と応用
- 第6回 関数（2） 図形における演習問題①
- 第7回 関数（3） 図形における演習問題②
- 第8回 関数（4） 図形における演習問題③
- 第9回 整数の性質（1） 最大公約数・最小公倍数とn進数について
- 第10回 整数の性質（2） 整数に関する演習問題
- 第11回 場合の数と確率（1） 確率の考え方について
- 第12回 場合の数と確率（2） 確率に関する演習問題①
- 第13回 場合の数と確率（3） 確率に関する演習問題②
- 第14回 場合の数と確率（4） 確率に関する演習問題③
- 第15回 総合問題演習

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用しない。適宜プリントを使用する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 90% レポート・課題 0% 受講態度 10%

特記事項

授業態度、定期試験により評価する。

【履修上の心得】

基本的に板書と補助プリントにより授業を進めることとなります。情報量が多い時などは忙しいかもしれませんがノートをとることが主にならないようにしてください。

【科目のレベル、前提科目など】

前期開講科目であるが、4年生の履修が望ましい。この科目は3年後期でⅠ、4年前期でⅡを履修することを想定しているため、「教職数学演習Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。他の学年での履修も可能であるが、受講希望者が多数の場合は、4年生を優先する。

科目名	教職理科演習 I
教員名	奥中 栄二

【授業の内容】

実践的な理科(物理・地学)の学力向上を目指す内容です。物理と地学は高等学校時代あまり学んでいないと思われるので、中学校・高等学校の基礎的な内容から応用まで、具体的な自然現象や実験・観察結果の解明に向けた内容です。問題演習も行います。

【到達目標】

物理と地学の基礎的な内容の理解から応用まで、具体的な自然現象や実験・観察結果の解明に向けて、科学的なものの見方や考え方を学びとることが到達目標です。さらに、学校での教育活動に活用できることが目標です。

【授業計画】

- 第1回 物理Ⅰ (力とつりあいⅠ)
該当分野の予習復習を合わせて1時間
- 第2回 物理Ⅱ (力と運動Ⅰ)
該当分野の予習復習を合わせて1時間
- 第3回 物理Ⅲ (圧力・浮力・比重Ⅰ)
該当分野の予習復習を合わせて1時間
- 第4回 物理Ⅳ (熱と温度Ⅰ)
該当分野の予習復習を合わせて1時間
- 第5回 物理Ⅴ (波・音と光Ⅰ)
該当分野の予習復習を合わせて1時間
- 第6回 物理Ⅵ (電流と直流回路Ⅰ)
該当分野の予習復習を合わせて1時間
- 第7回 物理Ⅶ (電気と磁気Ⅰ)
該当分野の予習復習を合わせて1時間
- 第8回 物理Ⅷ (原子物理と放射線Ⅰ)
該当分野の予習復習を合わせて1時間
- 第9回 地学Ⅰ (地球とその運動Ⅰ)
該当分野の予習復習を合わせて1時間
- 第10回 地学Ⅱ (太陽系と宇宙Ⅰ)
該当分野の予習復習を合わせて1時間
- 第11回 地学Ⅲ (大気とその循環Ⅰ)
該当分野の予習復習を合わせて1時間
- 第12回 地学Ⅳ (気象と天気図Ⅰ)
該当分野の予習復習を合わせて1時間
- 第13回 地学Ⅴ (地震と火山Ⅰ)
該当分野の予習復習を合わせて1時間
- 第14回 地学Ⅵ (地球の構造と岩石Ⅰ)
該当分野の予習復習を合わせて1時間
- 第15回 地学Ⅶ (大地の変化と歴史Ⅰ)
該当分野の予習復習を合わせて1時間

【授業の進め方】

講義が30分、演習が60分です。講義は中学校・高等学校の物理と地学の基礎的な内容です。また、演習は中学校・高等学校の物理と地学の自然現象や実験・観察結果の解明に向けた問題演習です。さらに、問題演習では講義で説明できなかった内容も取り上げて説明します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書はありません。各回ごとにプリントを配布します。

【参考図書】

中学校・高等学校の物理と地学の教科書があれば参考になります。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 20%

【科目のレベル、前提科目など】

後期開講科目ですが、3年生での履修が望ましいです。この科目は3年後期でⅠ、4年前期でⅡを履修することを想定

していますが，他の学年でも履修は可能です。受講希望者が多数の場合は，3年生を優先します。

【備 考】

物理と地学の基礎的な内容です。

高等学校で物理・地学を学んでいなくてもよいです。

科目名	教職理科演習Ⅱ
教員名	奥中 栄二

【授業の内容】

実践的な理科(物理・地学)の学力向上を目指す内容です。物理と地学は高等学校時代あまり学んでいないと思われるので、中学校・高等学校の基礎的な内容から具体的な自然現象や実験・観察結果の解明に向けた内容です。問題演習も行います。

【到達目標】

物理と地学の基礎的な内容の理解から、具体的な自然現象や実験・観察結果の解明に向けて、科学的なものの見方や考え方を学びとることが到達目標です。学校で活用できることが目標です。

【授業計画】

- 第1回 物理Ⅰ (力とつりあいⅡ)
該当分野の予習復習を合わせて1時間
- 第2回 物理Ⅱ (力と運動Ⅱ)
該当分野の予習復習を合わせて1時間
- 第3回 物理Ⅲ (圧力・浮力・比重Ⅱ)
該当分野の予習復習を合わせて1時間
- 第4回 物理Ⅳ (熱と温度Ⅱ)
該当分野の予習復習を合わせて1時間
- 第5回 物理Ⅴ (波・音と光Ⅱ)
該当分野の予習復習を合わせて1時間
- 第6回 物理Ⅵ (電流と直流回路Ⅱ)
該当分野の予習復習を合わせて1時間
- 第7回 物理Ⅶ (電気と磁気Ⅱ)
該当分野の予習復習を合わせて1時間
- 第8回 物理Ⅷ (原子物理と放射能Ⅱ)
該当分野の予習復習を合わせて1時間
- 第9回 地学Ⅰ (地球とその運動Ⅱ)
該当分野の予習復習を合わせて1時間
- 第10回 地学Ⅱ (太陽系と宇宙Ⅱ)
該当分野の予習復習を合わせて1時間
- 第11回 地学Ⅲ (大気とその循環Ⅱ)
該当分野の予習復習を合わせて1時間
- 第12回 地学Ⅳ (気象と天気図Ⅱ)
該当分野の予習復習を合わせて1時間
- 第13回 地学Ⅴ (地震と火山Ⅱ)
該当分野の予習復習を合わせて1時間
- 第14回 地学Ⅵ (地球の構造と岩石Ⅱ)
該当分野の予習復習を合わせて1時間
- 第15回 地学Ⅶ (大地の変化と歴史Ⅱ)
該当分野の予習復習を合わせて1時間

【授業の進め方】

講義が30分、演習が60分です。講義は中学校・高等学校の物理と地学の基礎的かつ応用的な内容です。演習は中学校・高等学校の物理と地学の自然現象や実験・観察の解明に向けた問題演習です。さらに、問題演習では講義で説明できなかった内容も取り上げて説明します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書はありません。各回ごとプリントを配布します。

【参考図書】

中学校・高等学校の物理と地学の教科書があれば参考になります。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 20%

【科目のレベル、前提科目など】

前期開講科目ですが、4年生での履修が望ましいです。この科目は3年生でⅠ、4年生でⅡを履修することを想定して

います。「教職理科演習Ⅰ」を履修済みであることが望ましいが、初めて履修することも可能です。また、他の学年の履修も可能ですが、受講希望者が多数の場合は、4年生を優先します。

【備 考】

物理・地学の基礎的かつ応用的な内容です。
高等学校で物理・地学を学んでいなくてもよいです。

科目名	(他)国語概説 I (書写含む)
	国語基礎研究
教員名	菊地 真貴子

【授業の内容】

- 1 日本語の特色を理解する。
- 2 国語教育の歴史と目標の変遷について知る。
- 3 「伝え合う力」についての理論や実践例を理解し、考えを深める。
- 4 「読むこと」について、さまざまな理論や方法があることを知る。
- 5 読書指導のありかたについて実践例から考えを深める。
- 6 「書くこと」の意義について探求し、過去の実践について知る。
- 7 書写の指導について、実習し、基礎的な事柄を習得する。
- 8 古典の指導について、実際の授業を体験し、知見を深める。
- 9 ことばの力とICTの関連について考えを深める。
- 10 これからの時代を生きるためにどんなことばの力をつけたらよいか、探求する。

【到達目標】

- 1 日本語の特色をつかむことができる。
- 2 国語教育の目的や歴史の変遷について知ることができる。
- 3 国語教育で育成する「ことばの力」について、「聞く・話す」「読む」「書く」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」等の領域や事項ごとに内容を理解し、実践に生かそうとする。
- 4 書写指導についての基礎的な事項を習得することができる。
- 5 これからの生きぬく上で必要なことばの力についての考えを深めることができる。

【授業計画】

- 第1回 日本語の特色
- 第2回 方言の作品世界と方言研究
- 第3回 国語教育の歴史と国語教育の目標の変遷について
- 第4回 「伝え合う力」とは
- 第5回 「読み」を深めるための指導方法の工夫
- 第6回 読書指導と図書館教育
- 第7回 作文指導の実際①題材、構想
- 第8回 作文指導の実際②構成、叙述
- 第9回 書写実習① 楷書 …毛筆のできる道具と半紙を必ず持参すること
- 第10回 書写実習② かな …毛筆のできる道具と半紙を必ず持参すること
- 第11回 古典との出会い①韻文
- 第12回 古典との出会い②散文
- 第13回 「ことばの教育」とICT
- 第14回 総合単元的な国語学習
- 第15回 アクティブラーニングと国語教育

- 1 国語に関する全体論と領域・事項「聞くこと・話すこと」「読むこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に対応する内容とでシラバスを作成した。
- 2 国語についての理解を深め、自分なりの知見を蓄積していけるよう、基礎的・基本的な内容を選んでいるので、是非、興味・関心を持って取り組んでほしい。

【授業の進め方】

- 1 受講人数によって、また内容によって、グループ学習、討議、その他の授業形態を取り入れる。
- 2 授業の終わりには、出席票に講義に関する内容を書いてもらい、提出してもらう。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①小学校学習指導要領解説 国語編 ②文部科学省 ③東洋館出版社 ④2015/09 ⑤220 ⑥9784491031590

国語学・国語教育の理論、および、国語教育の実践報告に関する資料を、そのつど配布します。資料を綴じる紙挟みを一冊用意し、全体を概括したり、復習したりできるようにしてください。

【参考図書】

特に指定はありません。講義の中で紹介していきます。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 10% 受講態度 40%

特記事項

書写実技の際には必ず書道のできる道具と半紙を持参してください。講義の終わりに出席票の代わりに仕上げた作品を提出してもらいます。作品は巧拙ではなく、基礎的な事項を理解できているかどうかをみて、それを「レポート」として評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席票に書いてもらう内容（感想、意見、創作）を「授業内小試験」として毎回評価していきます。

【履修上の心得】

「聞くこと・話すこと」は国語の重要な言語能力です。教員となるにふさわしい態度で聞いていただきたいと思います。

科目名	(他)社会科概説 I
教員名	原口 美貴子

【授業の内容】

本講義は、日本の社会科の歴史や特質、小学校社会科の内容について理解を深めていく。

社会科の歴史や特質については、戦後の社会変化と度重なる学習指導要領改訂の中で、日本の社会科はどのような期待や課題を担ってきたかを理解し、今後の社会科のあり方を考える力を養いたい。

社会科の内容については、総合社会科としての各分野の意義、現行指導要領に記された社会的事象の基礎的・基本的な内容、他教科や諸活動、諸施設等との連携を理解し、実際の教材事例を検討しながら、多面的・多角的に授業を構想する基盤力を育てたい。

【到達目標】

- ・我が国における社会科の特質について理解している。
- ・小学校社会科の学習内容及び教材研究の方法について基礎的・基本的な知識を身につけている。

【授業計画】

- 第1回 授業内容および授業計画紹介等
学習課題は本時の復習と次回の準備・予習、時間は1時間以上
- 第2回 社会科の特質
学習課題は本時の復習と次回の準備・予習、時間は1時間以上
- 第3回 社会科の歴史1（社会科発足期の様子）
学習課題は本時の復習と次回の準備・予習、時間は1時間以上
- 第4回 社会科の歴史2（社会科発足期以降の動向）
学習課題は本時の復習と次回の準備・予習、時間は1時間以上
- 第5回 小学校社会科の教科目標
学習課題は本時の復習と次回の準備・予習、時間は1時間以上
- 第6回 カリキュラム構成の特色
学習課題は本時の復習と次回の準備・予習、時間は1時間以上
- 第7回 小学校社会科の内容「身近な地域（郷土）学習の内容」
学習課題は本時の復習と次回の準備・予習、時間は1時間以上
- 第8回 小学校社会科の内容「身近な地域（郷土）学習の教材」
学習課題は本時の復習と次回の準備・予習、時間は1時間以上
- 第9回 小学校社会科の内容「地理的学習の内容」
学習課題は本時の復習と次回の準備・予習、時間は1時間以上
- 第10回 小学校社会科の内容「地理的学習の教材」
学習課題は本時の復習と次回の準備・予習、時間は1時間以上
- 第11回 小学校社会科の内容「歴史的学習の内容」
学習課題は本時の復習と次回の準備・予習、時間は1時間以上
- 第12回 小学校社会科の内容「歴史的学習の教材」
学習課題は本時の復習と次回の準備・予習、時間は1時間以上
- 第13回 小学校社会科の内容「公民的学習の内容」
学習課題は本時の復習と次回の準備・予習、時間は1時間以上
- 第14回 小学校社会科の内容「公民的学習の教材」
学習課題は本時の復習と次回の準備・予習、時間は1時間以上
- 第15回 小学校社会科の内容「現代的課題の内容と教材」
学習課題は全回の復習、時間は1時間以上

【授業の進め方】

- 小学校社会科の特質及び内容理解に関する授業なので講義中心となりますが、受講生の社会科体験や各テーマに関する意見交換（対話）も大切にしますので、各自リーダーシップを発揮しつつ、互いに学び合う姿勢で、積極的に授業参画してください。
- 毎時の終わりにリアクションペーパーを書いて提出していただき、次時の学習につなげます。
- 各回の具体的な学習課題は随時授業で提示します。

【教科書（必ず購入すべきもの）】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①『小学校学習指導要領解説社会編（平成20年）』 ②文部科学省 ③東洋館出版社 ④2015年10月 ⑤208円（税込）
⑥9784491031606

- 適宜プリント（レジュメ、資料）を用意します。

【参考図書】

- 『新版社会科教育事典』平成24年 日本社会科教育学会編 ぎょうせい
- 月刊『社会科教育』 明治図書

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 15% 受講態度 15%

特記事項

- レポート・課題とは、毎時提出するリアクションペーパーの内容です。
- 受講態度は、学習課題の取り組みも含む授業への主体的・積極的な姿勢を評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- 各種実習参加で欠席する場合は、前もって「各種実習参加に伴う授業欠席届」を提出してください。2回以上連続して実習欠席する者には、講義内容に関わるレポートを課し、受講態度に加味します。
- 全授業回数の3分の2以上に出席した者に定期試験の受験資格を与えます。
- リアクションペーパーには講義の意見、感想、疑問のほか、各自が関心を持っている折々の時事ニュースを書いていただきます。新聞・メディア等に日常的に目を通すとともに、特に関心ある記事を集めた時事問題ファイルを作ってください。なお、記述内容が少なかったり、筆記が薄くて読みづらかったり、他者の書いたものの写しが疑われたりする場合は評価の対象外とします。

【履修上の心得】

- 双方向的な授業作りを目指しますので、ただ聴いているだけでなく、主体的な参画意識を持って授業に臨んでください。
- 各自が小学校で学習した社会科授業も適宜活かしていきたいと思います。シェアができるよう思いだしておいてください。
- 授業内容に関する文献や書籍を主体的・積極的に探して読んでください。
- 配布プリント類は各自適切に保管し、知識の定着や試験対策に役立ててください。教科書と配布プリントは毎回忘れずに持ってきてください。
- 遅刻、代返、代筆、飲食は厳禁です。携帯・スマホは電源を切るかマナーモードにして、バッグの中にしまってください（特例は除く）。

【科目のレベル、前提科目など】

より実践的・技術的な授業力を育てる「社会科教育法」につながる基礎的科目ですので、1年次での単位取得を望みます。

科目名	(他)音楽概説 I
教員名	新井 恵美

【授業の内容】

小学校の教員が授業を行う際に必要な音楽理論の習得を目的としています。

【到達目標】

小学校の教員が授業を行う際に必要な音楽理論の修得を目標とします。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、音楽とは
- 第2回 五線と音符
- 第3回 拍子とリズム
- 第4回 問題演習（1） 第3回までの内容
- 第5回 調とメロディー（1） 長調
- 第6回 調とメロディー（2） 短調
- 第7回 和音
- 第8回 速度や曲想の表し方
- 第9回 楽曲の形式（1） 一部形式、二部形式など
- 第10回 楽曲の形式（2） ソナタ形式、ロンド形式など
- 第11回 問題演習（2） 第10回までの内容
- 第12回 オーケストラの楽器
- 第13回 西洋音楽史（1） 古典派まで
- 第14回 西洋音楽史（2） ロマン派以降
- 第15回 日本音楽、世界の諸民族の音楽

【授業の進め方】

講義を中心とし、問題演習や実技も含まれます。授業の最後にリアクションペーパーを提出してもらいます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①CDで聴く 一冊でわかる楽典 ③成美堂出版

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項
毎回のリアクションペーパーの記入状況 30%

【履修上の心得】

この授業で扱う内容は非常に多いです。予習、復習をきちんとしてください。

【科目のレベル、前提科目など】

小・中学校で習得した音楽の知識・技能。
小学校教諭免許状取得関連科目。

科目名	(他)図画工作概説 I
教員名	村松 和彦

【授業の内容】

図画工作はどのように教えられてきたか、また新しい学習指導要領によってどう変わるのか。図画工作科は何を目指し、子どもたちに何をかなえようとしているのかについて解説する。子どもたちの表現と鑑賞について、実際に表現したり、鑑賞を体験したりすることから理解する。また、図画工作科の評価については作品や表現過程を元に評価の実践を試み評価の方法について概要をつかめるようにする。

【到達目標】

図画工作の目標や内容全般について理解している。
 題材のねらいを理解し、アイデアスケッチなどを描いて構想を深めることができる。
 材料や技能について理解し、安全への配慮を忘れずに製作することができる。

【授業計画】

- 第1回 図画工作とは・その目標と評価
- 第2回 図画工作科における立体表現の意味
- 第3回 立体表現・発想と表現
- 第4回 立体表現・表現と鑑賞
- 第5回 図画工作科における平面表現の意味
- 第6回 平面表現の表現及び鑑賞
- 第7回 独立した鑑賞の時間について
- 第8回 粘土を使った立体表現の意味
- 第9回 粘土を使った立体表現と鑑賞
- 第10回 デザイン（用と美）について「アルミ缶のデザイン」
- 第11回 アルミ缶のデザイン・発想と表現
- 第12回 アルミ缶のデザイン・表現と鑑賞
- 第13回 造形遊び（主として低学年）
- 第14回 造形遊び（主として高学年）
- 第15回 図画工作概説 I のまとめとテスト

【授業の進め方】

図画工作科で行われる題材を、全領域にわたって実際に表現・体験する。また、子どもの作品や芸術作品を鑑賞する。随時小レポート（ワークシート）で考えをまとめる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

集中講義期間は図画工作の教科書を貸し出すので各自が用意する必要はない。

【参考図書】

参考資料：『小学校学習指導要領解説 図画工作編』文部省 平成20年8月

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 70% 受講態度 0%

特記事項

集中講義のため、ほぼ毎日の小レポートの提出と作品及び講義への取り組み 70%

講義終了時のレポートの内容 30%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

15コマ全ての出席を単位取得の必須条件とするが、事前届出による公欠や病欠その他の場合は相談の上配慮する。

【履修上の心得】

図画工作を含めた造形教育のあり方全般について理解を深めて欲しい。

【科目のレベル、前提科目など】

この図画工作概説の履修後に図画工作科教育法を履修する事が望ましい。
 小学校教員免許を取得する学生のための科目

【備考】

鉛筆、水彩絵の具のセット、ハサミ、セロテープは各自で必ず用意すること。カッターやボンドなどは大学で用意する。その他については初日に連絡。

科目名	(他)家庭科概説 I
教員名	和田 早苗

【授業の内容】

小学校家庭科の内容および様々な学習方法について検討し、それぞれの単元、小単元の重要なポイントを確認していく。

【到達目標】

小学校家庭科の内容および様々な学習方法を理解し、それぞれの単元、小単元におけるポイントが分かるようになる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：授業で取り上げた重要事項を復習する（30分）。小レポートの準備をする（60分）。
 第2回 自分の成長と家族：授業で取り上げた重要事項を復習する（30分）。小レポートの準備をする（60分）。
 第3回 家庭生活と仕事：授業で取り上げた重要事項を復習する（30分）。小レポートを作成する（60分）。
 第4回 家族や近隣の人々とのかかわり：授業で取り上げた重要事項を復習する（30分）。小レポートの発表に向けて準備をする（60分）。
 第5回 食事の役割：授業で取り上げた重要事項を復習する（60分）。
 第6回 栄養素の働き：授業で取り上げた重要事項を復習する（60分）。
 第7回 栄養を考えた食事：授業で取り上げた重要事項を復習する（60分）。
 第8回 調理の基礎：授業で取り上げた重要事項を復習する（60分）。
 第9回 衣服の着用と手入れ：授業で取り上げた重要事項を復習する（60分）。
 第10回 いろいろな縫い方：基礎的な技能を復習し、定着をはかる（30分）。
 第11回 小物づくりの計画：基礎的な技能を復習する（30分）。製作の記録を作成する（30分）。
 第12回 小物の製作：基礎的な技能を復習し、定着をはかる（30分）。製作の記録を作成する（30分）。期末レポートの準備をする（60分）。
 第13回 快適な住まい方：授業で取り上げた重要事項を復習する（30分）。期末レポートの準備をする（60分）。
 第14回 身近な消費生活：授業で取り上げた重要事項を復習する（30分）。期末レポートを作成する（60分）。
 第15回 消費生活と環境、まとめ：これまでの授業内容について復習する（60分）。

【授業の進め方】

講義のほか、グループ・ワーク（グループディスカッション、ディベートなど）も取り入れていく。家庭科における、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等アクティブ・ラーニングの展開の仕方について、大学生自身にも体験してもらいながら考えていく。取り上げた内容に関する授業内提出物を数回実施する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

指定しない。

【参考図書】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領』平成20年
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』平成20年

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

- ・レポート・課題80%：作品・製作記録10%、小レポート10%、授業内提出物10%、期末レポート50%
- ・受講態度は、授業への取り組みや発言、グループでのアクティビティへの取り組みなどを評価する。

【履修上の心得】

家庭科で何を教えたらいいか、どのように教えたらいいかを考えながら受講してほしい。授業では受け身にならないよう、積極的に発言・参加してほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：なし

関連科目：「家庭科教育法」「教育法演習B」「家庭科概説II」

「家庭科概説I」をふまえ、「家庭科教育法」では、小学校家庭科についての理解を深め、学習指導案の作成、模擬授業ができるようにする。「家庭科教育法」の学習の上に、さらに「家庭科概説II」や「教育法演習B」では、模擬授業や製作・実習を通して実践力を高めていく。

科目名	(他)体育概説 I
教員名	内田 雄三

【授業の内容】

本科目の目的は、小学校学習指導要領に示されている体育科の内容に関して学ぶことである。

【到達目標】

- ・小学校体育科について、教科の意義や役割についての理解を深める。
- ・実技や講義を通して子どもたちの現状を知り、体育科に期待される力の育成についての考えをもつ。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
授業の概要説明 提出物等の説明
- 第2回 陸上運動1
陸上運動に必要な運動感覚と運動遊び
- 第3回 陸上運動2
短距離走・リレーの学習内容と授業の考え方
- 第4回 陸上運動3
ハードル走の学習内容と授業の考え方
- 第5回 陸上運動4
走り幅跳び・走り高跳びの学習内容と授業の考え方
- 第6回 器械運動1
器械運動に共通する多様な運動感覚と、感覚づくりの運動遊び
- 第7回 器械運動2
跳び箱運動における翻転系の技と学習の進め方
- 第8回 器械運動3
跳び箱運動における回転系の技と学習の進め方
- 第9回 器械運動4
低学年のマット遊び
- 第10回 器械運動5
中学年以降のマット運動の授業づくり
- 第11回 ボール運動1
低学年のゲーム（おに遊び、的当て遊び）
- 第12回 ボール運動2
中学年のゲーム（ネット型・連係プレイ型のゲーム）
- 第13回 ボール運動3
高学年のゲーム（ゴール型・シュートを中心としたゲーム）
- 第14回 ボール運動4
高学年のゲーム（ベースボール型ゲーム）
- 第15回 総括 小学校教育における体育の教科性と授業づくり
授業映像と学習指導案にもとづく体育授業実践の紹介

本科目の内容は、小学校学習指導要領の概要と各運動領域について実技を交えながら学ぶことである。

小学校学習指導要領の概要については、教科の目標、各領域の大まかな内容と構造等について学んでいく。加えて、小学生の体力の現状や体育授業の現状についても事例をもとに学んでいく。またアクティブ・ラーニングの視点に立った授業づくりに関して、体育授業における問題解決学習の在り方についても、実技を通して採り上げていく。

【授業の進め方】

本科目は、教室・体育館のいずれも使用する。教室では現場の授業映像や学習指導案等の資料に基づき、指導のポイントや背後にある理論について実技を通して学ぶ。可能な限りICTを利用した指導方法についても触れ、授業実践例やその可能性について採り上げていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

資料は適宜配布する。

【参考図書】

文部科学省,小学校学習指導要領解説体育編,東洋館出版社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 20% レポート・課題 40% 受講態度 40%

特記事項

課題レポートおよび実技指導のポイントなどを一定の講義回数ごとにまとめたものの提出による。

【履修上の心得】

本科目は、単に体を動かすだけの科目ではない。小学校の体育において必要とされる技術的なポイントや動きの基礎などを知的に理解することも含んでおり、「できる」と「わかる」の統一を目指している。そのため、毎時間、必ず、筆記用具を持参し、ポイントを積極的にメモすること。また実技を行う場合、運動着で参加をすること。各種運動を採り上げるが、その運動に適した服装を着用すること。

【科目のレベル、前提科目など】

本科目は、体育科教育法と関連している。

体育概説Ⅰは、小学校において体育を指導するための入門となる科目である。

科目名	(他)国語科教育法
	よりよい国語の授業のために
教員名	菊地 真貴子

【授業の内容】

- 『小学校学習指導要領』国語の内容理解に基づき、学習指導案の書き方や授業展開について学ぶ。
- 国語科における効果的な学習指導のあり方について探求する。

【到達目標】

- 小学校学習指導要領に規定された領域・事項ごとに、授業展開の方法を理解し、実践しようとしてすることができる。
- 児童の学びを深化させるために、効果的な学習指導のあり方を考えることができる。

【授業計画】

- 第1回 国語科に求められる力
* 「小学校学習指導要領解説 国語編」を必ず持参すること
- 第2回 「聞くこと・話すこと」～「伝え合う力」を育成する授業のあり方①聞くことの指導
- 第3回 「聞くこと・話すこと」～「伝え合う力」を育成する授業のあり方②対話・討論を中心に
- 第4回 学習指導案の書き方
- 第5回 「読むこと」～文学教材指導のあり方①低学年
- 第6回 「読むこと」～文学教材指導のあり方②高学年
- 第7回 「読むこと」～説明文指導のあり方
- 第8回 「書くこと」～小学校「書写」の指導法
- 第9回 「書くこと」～作文指導のあり方
- 第10回 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」①漢字・ことばの指導（ICTを活用して）
- 第11回 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」②古典の指導
- 第12回 国語科とアクティブラーニング①学習の共同性を高める
- 第13回 国語科とアクティブラーニング②主体的に取り組む
- 第14回 国語科とアクティブラーニング③学びを深める
- 第15回 国語科とアクティブラーニング④講義のまとめと課題の整理

国語科に求められる資質・能力を三領域・一事項ごとに事例や模擬授業などを通して具体的に学習していけるようシラバスを作成した。

【授業の進め方】

- 講義の最初に方法や事例について説明することが多いので、最初からしっかりと聞いて内容を理解し、学習活動に取り組んでほしい。
- 人数によってグループ内討論や話し合いなどをとり入れる。
- 講義内の言語経験そのものが国語で必要な能力につながっていくよう設計しているので、学習活動への積極的参加が望まれる。
- 講義の終わりには出席票に意見や感想、創作を書いてもらい、それを評価する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①小学校学習指導要領解説 国語編 ②文部科学省 ③東洋館出版社 ④2015/09 ⑤220 ⑥9784491031590

【参考図書】

『小学校新学習指導要領の展開 国語科編』（平成20年）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 10% 受講態度 40%

特記事項

国語科の一領域は「聞くこと・話すこと」であるので、まずはしっかりとした態度で聞き、講義に集中してほしい。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

3分の1（5回）以上、授業を欠席（遅刻は欠席の0.5回分）した場合には評価の対象としない（単位が出ない）。

【履修上の心得】

小学校教員免許取得を希望する学生のための科目である。受講者は第1回及び第2回は必ず出席すること。

【科目のレベル、前提科目など】

『国語概説Ⅰ(書写を含む)』を受講後に本科目を受講すること。

科目名	(他)社会科教育法
教員名	原口 美貴子

【授業の内容】

社会科教育の目的（使命）は大きく二つあります。それは、「子どもの社会認識を育てること」と「公民的資質の基礎を育てること」です。本授業ではこの二つの目的を念頭に置き、小学校社会科教員として必要な専門性（資質、能力）の基礎を指導します。

具体的には、学習指導要領の構成と内容を理解した上で、社会生活に対する理解と公民的資質の基礎を育むことにつながる学習指導や授業展開の実践的手法について学びます。また、学生自身が教材開発や模擬授業に取り組み、互いに批判検討しながら指導力の向上を目指します。

【到達目標】

- ・小学校社会科の目標、内容を理解し、学習指導案を作成できる。
- ・小学校社会科の授業を立案・実施・評価するための基礎的な知識や技術を身につけている。

【授業計画】

- 第1回 授業内容及び授業計画説明、模擬授業ワーキンググループ分け等
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は1時間以上
- 第2回 模擬授業ガイダンス／小学校社会科の指導計画
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は1時間以上
- 第3回 小学校社会科の単元構成の方法と学習過程
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は1時間以上
- 第4回 小学校社会科の主な指導技術と学習環境（ICT活用を含む）
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は1時間以上
- 第5回 模擬授業ガイダンス／小学校社会科学学習指導案の書き方
学習課題は本時の復習と次時の準備・予習、時間は1時間以上
- 第6回 生活科、総合的な学習の時間、道徳教育との関連
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は1時間以上
- 第7回 模擬授業事前指導①小学校社会科授業の実際から学ぶ
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は1時間以上
- 第8回 模擬授業事前指導②学習指導案作成中間チェック
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は1時間以上
- 第9回 模擬授業事前指導③模擬授業進行案内、教材・資料相談
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は1時間以上
- 第10回 模擬授業及び授業検討会（1）—身近な地域の学習—
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は1時間以上
- 第11回 模擬授業及び授業検討会（2）—身近な地域の学習—
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は1時間以上
- 第12回 模擬授業及び授業検討会（3）—地理的分野—
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は1時間以上
- 第13回 模擬授業及び授業検討会（4）—歴史的文化—
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は1時間以上
- 第14回 模擬授業及び授業検討会（5）—公民的分野—
学習課題は本時の復習と次時の準備、時間は1時間以上
- 第15回 学びの振り返り、まとめ
学習課題は全回の振り返りとレポート作成、時間は1時間以上

【授業の進め方】

- 第1回講義の際に模擬授業のワーキンググループ分けをしますので、必ず出席して下さい。また、教育実習・介護実習などで欠席する人の日程を確認しますので、該当者は報告できるよう準備しておいて下さい。
- 第1回～第9回は講義形式で進めていきますが、受講生の社会科体験や各テーマに関する意見交換（対話）も大切にしますので、各自リーダーシップを発揮して、互いに学び合う姿勢で、毎時のクラス作りに積極的に参画してください。
- 第10回～第15回は演習形式で、それまでの講義内容を活かした小学校社会科の学習指導案の作成、模擬授業にグループで取り組みます。授業をする者は、頭の中に浮かんだ内容を一貫性を持って学習計画や指導案に表現し、実行することができるか。また、授業を受けた者は、その授業の良さや問題点・改善点を発見し、指摘することができるか。授業者も被授業者も客観的な授業観を持てるよう、互いに学びあいながら進めていきます。
- 出席と授業の理解度を確認するために、随時リアクションペーパーやレポートを提出して頂きます。
- 各回の具体的な学習課題は随時授業で提示します。
- 受講生数や実習欠席予定者の時期・人数によって、授業計画を変更する場合があります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①『小学校学習指導要領解説社会編(平成20年)』 ②文部科学省 ③東洋館出版社 ④2015年10月 ⑤208円(税込)
⑥9784491031606

○適宜プリント(レジュメ、資料)を用意します。

【参考図書】

- 『新版社会科教育事典』平成24年 日本社会科教育学会編 ぎょうせい
○月刊『社会科教育』 明治図書

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 85% 受講態度 15%

特記事項

- レポート・課題についての内訳は下記の通りです。
リアクションペーパーの提出と内容：15%
学習指導案他課題レポートの提出と内容：70%
○受講態度は、学習課題の取り組みを含む授業への主体的・積極的な姿勢を評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- 授業分析やグループ討論など演習的な活動をとり入れますので、正当な理由のない遅刻や早退は厳禁です。
○各種実習参加で欠席する場合は前もって欠席届を提出してください。実習で2回以上欠席する人には別途講義内容に関わるレポートを課します。
○全授業回数の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。
○リアクションペーパー、学習指導案等、課題の提出期限は守ってください。期限を守らない場合は原則受け取りませんので評価の対象外とします。なお、極端に記述内容が少なかったり、筆記が薄くて読みづらかったり、他者の書いた物の写しが疑われたりする場合も評価の対象外とします。

【履修上の心得】

- 配布したプリント類は適切にファイリングし、知識の定着や指導案作成、模擬授業準備に役立ててください。また、教科書と配布プリントは毎回必ず持ってきて下さい。
○授業内容に関する文献や書籍を主体的・積極的に探して読んでください。
○新聞・メディア等に日常的に目を通し、教育に関わる者の視点から社会的事象に対する関心と問題意識を持ってください。
○双方向的な授業作りを目指しますので、ただ聴いているだけでなく、主体的な参画意識を持って授業に臨んでください。
○各自が小学校で学習した社会科授業も適宜活かしていきます。シェアができるよう思いだしておいてください。
○グループによる演習では“結合改善”が重要です。各自リーダーシップを発揮し、アイデアや意見をたくさん出して、課題を達成して下さい。なお、実習等で欠席したメンバーには、作業内容や課題等をグループの責任において伝達して下さい。
○代返や代筆、飲食は厳禁です。携帯・スマホは電源を切るかマナーモードにして、バッグの中に入れて下さい(特例は除く)。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目 社会科概説Ⅰ

※小学校社会科の学習内容を取り上げた「社会科概説Ⅰ」の履修を前提に、講義及び演習(模擬授業)を展開していきます。

科目名	(他)算数科教育法
教員名	榎本 哲士

【授業の内容】

本授業は算数科の学習指導に関する必要な基礎能力を育成することを目指し、小学校算数科の目的・目標、学習指導内容(数と計算、量と測定、図形、数量関係、数学的な考え方)および学習指導方法(問題解決、問題づくり等)について理解し、算数科の授業を実践できるようにする。

【到達目標】

一般目標：小学校の教員として算数科の学習指導を担当するために必要な基礎能力を育成することを目指し、算数科の目標、学習指導内容および学習指導方法に関する知識を身に付け、実践で活かせるようにする。

到達目標：

1. 小学校算数科の目標、内容及び学習指導方法に関する基礎的な知識を獲得する。(知識・理解)
2. 小学校算数科の内容やその学習指導方法への関心・意欲を高め、授業実践に活かそうとする態度を形成する。(関心・意欲・態度)
3. 小学校算数科に関する児童の実態及び学習指導についての考えを深める。(思考)
4. 小学校算数科の学習指導内容について考え、具体的な問題を用いて表現できる。(表現)

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：授業の受け方、算数科に関する児童の実態
- 第2回 算数科の目的・目標
- 第3回 数と計算領域の学習指導(1)：数の概念
- 第4回 数と計算領域の学習指導(2)：計算(加法、減法、乗法、除法)
- 第5回 量と測定領域の学習指導(1)：量の概念、測定指導
- 第6回 量と測定領域の学習指導(2)：求積、単位量当たりの大きさ
- 第7回 図形領域の学習指導：図形の概念形成、図形の感覚
- 第8回 数量関係領域の学習指導(1)：表・グラフ・式、関数の考え
- 第9回 数量関係領域の学習指導(2)：統計の考え、場合の数と確率
- 第10回 数学的な考え方の学習指導
- 第11回 算数科におけるICTを活用した問題解決と問題づくり
- 第12回 模擬授業の実践と振り返り1
- 第13回 模擬授業の実践と振り返り2
- 第14回 模擬授業の実践と振り返り3
- 第15回 算数科授業にみる日本の授業の特徴と教師の役割

【授業の進め方】

主に講義中心に進めていきます。講義では、小学校算数科の学習指導事例を各領域ごとに扱うとともに、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

〔教科書〕「小学校学習指導要領解説・算数編 平成20年8月(文部科学省)」東洋館出版社、250円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 0%

特記事項

最終試験(60%)、レポート(40%)により評価する。

最終試験では、授業内容を踏まえて、算数科の目標、内容および学習指導方法に関する知識を身に付け、活用できるようになっているかを評価する。

【履修上の心得】

遅刻や欠席をしないように心がけましょう。特に、30分以上遅刻をしないようにしましょう(欠席扱いにします)。出欠は出席カードで調べますが、必ず授業開始30分以内にカードを受け取り、授業の間無くさないように持って下さい。また、遅刻3回で欠席1回とします。やむをえない理由で早退する場合は断って退出して下さい。早退は遅刻と同じ扱いとします。カードは授業内に提出して下さい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目は算数概説Ⅰ、関連科目としては算数概説Ⅱがあります。小学校教員免許状関連の「教職に関する科目」です。

科目名	(他)生活科教育法
教員名	田村 恵美

【授業の内容】

生活科の目標・内容・方法、教師の役割を理解するとともに、生活科の授業についてイメージをつかみ、生活科の年間指導計画・単元計画・授業を構成する能力を身につける。さらに、実際に指導計画を作成し、模擬授業を行う。

【到達目標】

- ・小学校学習指導要領に基づき、生活科の目標・内容・方法について理解をしたうえで、生活科の授業を計画・実施・評価するための基礎的な知識や技能を身につける。
- ・生活科の教材研究について考え、生活科の指導計画を作成することができる。
- ・模擬授業を通して、子どもの実態や地域の特性を踏まえた生活科の授業をどのように実践したらよいかを学習する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 生活科の目標と内容―1年生―
- 第3回 生活科の目標と内容―2年生―
- 第4回 ICTを活用した学習評価
- 第5回 生活科と他教科との関連
- 第6回 生活科の学習指導案作成
- 第7回 模擬授業事前指導（1）教師の構えと子どもの見とり
- 第8回 模擬授業事前指導（2）教材研究
- 第9回 模擬授業事前指導（3）年間指導計画と単元計画
- 第10回 模擬授業及び授業検討会（1）
- 第11回 模擬授業及び授業検討会（2）
- 第12回 模擬授業及び授業検討会（3）
- 第13回 模擬授業及び授業検討会（4）
- 第14回 模擬授業及び授業検討会（5）
- 第15回 学びの振り返りと講義のまとめ

【授業の進め方】

- ・本講義では講義形式の他に、数人で学習活動を行うグループワーク形式を取り入れ、進めてゆく。
- ・模擬授業事前指導においては、自然体験や自然観察、自然の素材を利用した制作物等、生活科の実践事例を挙げて説明を行う。
- ・学生による指導案作成および模擬授業を実施する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ・「小学校学習指導要領」文部科学省、平成20年3月告示
- ・「小学校学習指導要領解説・生活編」文部科学省、平成20年8月
- ・「小学校学習指導要領解説・総合的な学習の時間編」文部科学省、平成20年8月
- ・講義の中で、プリントを適宜配布する。

【参考図書】

- ・講義の中で、適宜紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 30%

特記事項

- ・定期試験、レポート、受講態度により、総合的に評価する。
- ・受講態度には、授業内で実施されるアクションペーパーの提出、模擬授業の評価を含む。
- ・当該科目のすべての授業回数の3分の2以上に出席していること。
- ・病欠等で欠席する場合は、必ず連絡をすること。
- ・レポートの詳細については、授業内で指示をする。

【履修上の心得】

- ・事前に「小学校学習指導要領」および「小学校学習指導要領解説・生活編」を読み、予習をすること。
- ・「生活科教育法」は「生活科概説Ⅰ」を前提科目としているため、受講者は「生活科概説Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【科目のレベル、前提科目など】

- ・ 前提科目：「生活科概説Ⅰ」
- ・ 関連科目：「生活科概説Ⅱ」

科目名	(他)家庭科教育法
教員名	宇津野 花陽

【授業の内容】

小学校家庭科を中心に家庭科の歴史、目標、内容、評価、学習方法、教材、教具、年間指導計画の組み立て方などを検討し、小学校家庭科について全体的な理解を深める。さらに、具体的な授業の場面を想定しながら学習指導案の作成、模擬授業を行う。

【到達目標】

小学校家庭科の目標と内容、学習方法、評価等について理解し、学習指導案の作成ができるようになることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 家庭科とは：次回の予習として、身近にいる、自分とは世代の異なる大人に、小学生～高校生の頃、どのような家庭科を学んだかインタビューする（30分）。
- 第2回 家庭科の歴史：授業で取り上げた重要事項を復習する（60分）。
- 第3回 家庭科の目標と内容：授業で取り上げたキーワードについて復習する（30分）。
- 第4回 様々な学習方法と教材、教具（ICTの活用を含む）：授業で取り上げたキーワードについて復習する。また、ICTを活用した指導方法について、インターネットを用いて各自調べる（60分）。
- 第5回 小学校家庭科の学習内容 A家庭生活と家族：授業で取り上げた重要事項について復習する。児童が楽しく学べる指導例を考える（60分）。
- 第6回 小学校家庭科の学習内容 B日常の食事と調理の基礎：授業で取り上げた重要事項について復習する。児童が楽しく学べる指導例を考える（60分）。
- 第7回 小学校家庭科の学習内容 C快適な衣服と住まい（ミシンの使い方を含む）：授業で取り上げた重要事項について復習する。児童が楽しく学べる指導例を考える（60分）。
- 第8回 布を用いたものの製作（1）計画（ミシンの使い方を含む）：基礎的な技能の復習をし、定着をはかる（30分）。
- 第9回 布を用いたものの製作（2）製作（ミシンの使い方を含む）：基礎的な技能の復習をし、定着をはかる（30分）。
- 第10回 小学校家庭科の学習内容 D身近な消費生活と環境：授業で取り上げた重要事項について復習する。児童が楽しく学べる指導例を考える（60分）。
- 第11回 年間指導計画、学習指導案の作り方：授業で取り上げた重要事項について復習する（30分）。
- 第12回 学習指導案の作成（1）題材の設定：学習指導案および教具の研究をする（60分）
- 第13回 学習指導案の作成（2）指導案の作成：学習指導案および教具の研究をする（60分）。
- 第14回 学習指導案の検討（3）教具の作成：学習指導案および教具の研究をする（60分）。
- 第15回 模擬授業：これまでの授業内容について復習する（60分）。

【授業の進め方】

講義のほか、グループごとの作業やディスカッション、意見交換などを取り入れつつすすめていく。ICTを活用した指導内容のあり方についても必要に応じて取り上げる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

指定しない。

【参考図書】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領』平成20年
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』平成20年
- ・小学校家庭科教科書『新編 新しい家庭』東京書籍
- ・小学校家庭科教科書『わたしたちの家庭科』開隆堂

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 90% 受講態度 10%

特記事項

- ・レポート・課題90%：作品10%、授業内提出物20%、学習指導案・期末レポート60%
- ・受講態度は、授業への取り組みや発言、グループでのアクティビティへの取り組みなどを評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

小学校教員になるために必要な科目である。よい学習環境をつくるために大切なことについて考え、守ること。

【履修上の心得】

家庭科で何を教えたらいいか、どのように教えたらいいかを考えながら受講してほしい。グループでのアクティビティを行う際も、積極的に参加してほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：「家庭科概説Ⅰ」

科目名	(他)音楽科教育法
教員名	新井 恵美

【授業の内容】

小学校における音楽科について、目標、内容、領域、歴史などを理解するとともに、指導に必要な知識・技能を身に付けることを目的とします。

【到達目標】

小学校音楽科の授業を行うにあたって必要な知識・技能を身に付けることを目標とします。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、音楽教育と音楽科教育について
- 第2回 音楽（科）教育の歴史（1）明治～大正
- 第3回 音楽（科）教育の歴史（2）昭和～現在
- 第4回 学習指導要領（1）目標
- 第5回 学習指導要領（2）内容の概説
- 第6回 表現（1）歌唱－1 内容、指導上の注意点（ICTの活用を含む）
- 第7回 表現（1）歌唱－2 変声期について
- 第8回 表現（2）器楽－1 内容、鍵盤ハーモニカの指導
- 第9回 表現（2）器楽－2 リコーダーの指導
- 第10回 表現（2）器楽－3 打楽器の指導（ICTの活用を含む）
- 第11回 表現（3）音楽づくり（ICTの活用を含む）
- 第12回 鑑賞－1 内容、音楽を形づくっている要素との関連（ICTの活用を含む）
- 第13回 鑑賞－2 音楽の形式や歴史との関連
- 第14回 学習指導計画
- 第15回 評価

【授業の進め方】

講義を中心に、演奏や演習も行います。授業の最後にリアクションペーパーを提出してもらいます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①教員養成課程 小学校音楽科教育法 ②有本真紀・阪井恵・山下薫子編著 ③教育芸術社

【参考図書】

『小学校学習指導要領解説 音楽編』文部科学省、教育芸術社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項
毎回のリアクションペーパーの記入状況 30%

【履修上の心得】

受講者それぞれが経験なども踏まえながら、小学校音楽科の授業について考えるきっかけになればと思います。よく「音楽は楽しければいい」と言われますが、「楽しい」とはどういうことなのかを考えていって欲しいと思います。音楽が苦手な人には、教師として子どもたちを支援できるよう、その方法を習得する努力を惜しまない学生を望みます。

【科目のレベル、前提科目など】

小・中学校での音楽の授業で習得した知識・技能を有していることが望ましいです。また、音楽概説Ⅰを習得していることが望ましいです。
小学校教諭免許状取得のための基礎科目。

科目名	(他)図画工作科教育法
教員名	村松 和彦

【授業の内容】

子どもたちに好まれる図画工作を、どう指導すべきかだけでなく、子どもたちの思いや願いをどうかなえていくかを考え続けることが大切である。また図画工作は、他教科と同様に教科としてのねらいや内容を持つが、教える側の教師一人一人の個性が生かされる教科でもある。この講義では実践を中心に、子どもたちに図画工作を教えるための具体的な指導法とその楽しさをつかめるようにする。

【到達目標】

教科としての図画工作の目標や内容について理解している。
 題材のねらいを理解し、アイデアスケッチなどを描いて構想を深めることができる。
 材料や技能について理解し、安全への配慮を忘れずに製作することができる。
 題材の展開に基づいて授業を行うために適切な指導案を書く事ができる。

【授業計画】

- 第1回 図画工作を教えること
- 第2回 平面及び立体表現の総合題材「映画のワンシーンをつくろう」
- 第3回 総合題材における発想指導と平面表現の指導
- 第4回 総合題材における発想指導と立体表現の指導
- 第5回 総合題材その他の題材におけるデジタル・デバイスを用いた表現と鑑賞
- 第6回 鑑賞・評価・評定について
- 第7回 平面表現の指導について
- 第8回 平面表現の指導・心象表現「親しみのある俳句から」
- 第9回 平面表現の指導・写実表現「顔を描く」
- 第10回 デザインについて「生活を美しく」発想と表現
- 第11回 デザインについて「生活を美しく」表現と鑑賞
- 第12回 図画工作科指導案の書き方
- 第13回 指導案立案と参考作品づくり
- 第14回 指導案立案及び模擬授業
- 第15回 図画工作科教育法のまとめとテスト

【授業の進め方】

講義と表現・指導の実践。随時小レポート（ワークシート）で考えをまとめる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

集中講義期間は図画工作の教科書を貸し出すので各自が用意する必要はない。

【参考図書】

参考書：『小学校学習指導要領解説 図画 工作編』文部省、平成20年8月

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 70% 受講態度 0%

特記事項

集中講義のため、ほぼ毎日の小レポートの提出と作品及び講義への取り組み 70%
 7・8コマでの学習指導案の内容及び最終レポート 30%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

15コマ全ての出席を単位取得の必須条件とするが、事前届出による公欠や、病欠その他の場合は相談の上配慮する。

【履修上の心得】

指導に関わる実践的な内容が中心。指導の基本を身に付けて欲しい。図画工作概説より深まりのある内容である。

【科目のレベル、前提科目など】

図画工作概説 I

小学校教員免許を取得する学生のための科目

【備考】

鉛筆、水彩絵の具のセット、ハサミ、セロテープなどは各自で必ず用意すること。カッターやボンドなどは大学で用意する。その他については初日に連絡。

科目名	(他)体育科教育法
教員名	大津 展子

【授業の内容】

小学校体育授業における基礎的知識、授業計画の考え方や評価方法などを学び、それらを生かした模擬授業を行う。学期末には、試験を行い、60点以上で合格とする。

【到達目標】

- ・小学校体育授業における基礎基本を理解することができる。
- ・「よい体育授業」の基礎基本を踏まえた授業を計画し展開することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（自己紹介含）
- 第2回 よい体育授業についてⅠ
よい体育授業についてのDVDを元に、なぜその授業がよい体育授業なのかグループで話し合い、誘導発見学習を行う。
- 第3回 よい体育授業についてⅡ
DVDよい体育授業についての体験学習を行う。
- 第4回 よい体育授業についてⅢ
講義の他参考にすべき講師行動のVTRを活用し、その内容を元にグループディスカッション等を取り入れて進める。
- 第5回 小学校学習指導要領体育編/年間指導計画/単元計画/指導案等の理解
講義に加え、グループディスカッションとペア学習を取り入れて学習内容の確認を行う。
- 第6回 よい体育授業の教材研究Ⅰ 陸上運動系
陸上運動系のよい体育授業をVTRで確認し、教室内でできる陸上運動系の体験学習を行う。
- 第7回 よい体育授業の教材研究Ⅱ 表現運動系及びダンス
講義やVTRを参考にグループワークを行い、表現運動系及びダンスの授業に関する考えをまとめる。
- 第8回 よい体育授業の教材研究Ⅲ ボール運動系
学習指導要領を中心に、ボール運動系の講義を行い、グループワークを行う。
- 第9回 よい体育授業の教材研究Ⅳ ボール運動系の具体的教材例
ボール運動系の具体的教材（VTR）を学習し、その教材について、体験学習を行う。
- 第10回 学習指導案作成のための考え方
学習指導案の書き方を学習し、そのまとめをグループで行う。
- 第11回 学習指導案の書き方
前回の復習を生かしつつ、グループや個人で学習指導案を作成するために、内容をまとめる。
- 第12回 学習指導案作成①
個々で学習指導案を作成する。
- 第13回 学習指導案作成②
個々で学習指導案を作成する。
- 第14回 学習指導案③
個々で学習指導案を作成する。
- 第15回 まとめ
学習指導案を作成し、提出する。
授業のまとめをグループやペアで行う。

「よい体育授業」の実現のために必要なスキルを学習します。そのスキルとは、授業を計画し実践できることに加え、教師行動も重要な1つです。よって、知識を身に着けたうえで模擬授業で教師としての行動や態度も練習します。

【授業の進め方】

出席は毎回必ずとります。授業開始時間の前までに、机上・服装などの学習ができる準備を整えて着席していただきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①小学校学習指導要領解説 体育編 ②文部科学省 ③東洋館出版社
①新版 体育科教育学入門 ②高橋健夫他 編著 ③大修館書店

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

遅刻/早退/欠席は、事前連絡をすること。授業開始時刻前には、学習ができるように（机の上/服装など）準備をして、開始時刻と同時に挨拶を行い、授業を開始します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席/授業態度/提出物を点数化して評価します。

【履修上の心得】

「体育の先生」の卵であるという認識をお忘れなく（出席・授業態度）。

【科目のレベル、前提科目など】

特になし。

【備 考】

特になし。

科目名	(他)特別活動の理論と方法P
	特別活動と人間形成
教員名	金井 正

【授業の内容】

特別活動は、児童生徒が望ましい集団活動を通して、生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養うことにある。学校教育の中で意図的に行い、望ましい集団づくりに大きく関わる活動である。

本講義では、児童生徒が集団の一員として、よりよい生活や人間関係を築いていくために、教師がいかに特別活動の時間を効果的に運営していくか、その理論と方法を、具体的な事例を使いながら理解する。あわせて、教職を目指す学生が学校現場に立ち、特別活動の指導の際に必要なとされる指導力の基礎的・基本的な資質と能力を養うことを目的とする。

【到達目標】

- ・特別活動の意義や指導原理を理解することができる。
- 特に、学習者が課題を発見し解決に向けて主体的・協動的に学んでいくための方法
- ・学習指導要領に示された特別活動の目標や内容を理解することができる。
- ・特別活動の各内容の具体的指導法の基礎を理解することができる。

【授業計画】

- 第1回 1 特別活動の意義
- 1) 特別活動の意義と内容
 - ・学習課題(予習・復習)：配布したレジュメ等資料を基に授業ノートを充実させること。
 - 予習は本シラバスによって、復習は授業時に配布したレジュメ等資料を基に行うこと。
 - 以下、各回の授業に対して、予習・復習を行い、その時間は90分程度を目安にする。
- 第2回 2) 特別活動の変遷
- 第3回 2教育課程と特別活動
- 1) 教育課程の内容
- 第4回 2) 特別活動の教育課程上の位置と内容
- 第5回 3) 特別活動と他の教科、領域との関係や保護者、地域との関係
- 第6回 3特別活動と学級経営、学校経営
- 1) 学級経営と学校経営
- 第7回 2) 特別活動の指導内容、方法
- 第8回 4学級活動、ホームルームの活動の内容と指導
- 1) 活動内容
- 第9回 2) 指導の重点、方法、留意点
- 第10回 5児童会、生徒会活動の内容と指導
- 第11回 6クラブ活動の内容と指導
- 第12回 7学校行事の内容と指導
- 1) 学校行事の内容
- 第13回 2) 学校行事の指導
- 第14回 8特別活動の評価
- 1) 評価の観点と趣旨
- 第15回 2) 指導と評価の関連

【授業の進め方】

- ・授業レジュメを毎回配布し、それに沿って進める。
- ・課題の発見、解決等を重視し、ディスカッション等により主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業とする。
- ・具体的な例を示し、わかる授業に努める。
- ・系統性を重視した授業に努める。
- ・学生は、授業ノートを作成し、内容の充実に努める。特に復習に時間をかけるようにする。
- ・学生は、シラバスで次時の内容を確認し、関連する書籍やインターネット等を活用し予習をして授業に臨むこと。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①小学校学習指導要領解説 特別活動編 ②文部科学省 ③東洋館出版 ④平成20年 ⑤134 ⑥ISBN978-4-491-02379-3

毎回の授業用レジュメ等資料を配布するので、順よく整理し教科書として活用すること。
 また、必ず授業ノートをつくること。

【参考図書】

「特別活動の理論と方法」 学芸図書 など

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

定期試験は、記述式で行う。

履修態度は、授業への取組（質問に対する発言、質問、学習態度等）を重視する。

【履修上の心得】

- ・教職に就こうとする者は、教師としての適格性、能力が問われる。従って、それなりの授業態度を要求する。
- ・理由書、学生証の不正利用は、依頼者、行為者ともに重大な欠席扱いとする。

科目名	(他)教育実習の事前事後指導P
教員名	金井 正

【授業の内容】

この科目は、他専攻免許として小学校免許の取得のために小学校において教育実習を行う者が受講するものである。

その内容は、教育実習を行うに当たっての事前指導と教育実習終了時に行う事後指導とに分けられる。

事前指導では、教育実習の意義や目的、学習指導における小学校の特質（学校・学年体制や児童の発達段階）や授業を行う際に必要不可欠な学習指導案の作成等について、模擬授業の実施と授業分析等を通して修得する。

事後指導では、教育実習終了後教育実習で作成した学習指導案、授業記録等を基に学習指導案、授業実践について考察し、教師としての実践的指導力に結びつける。

上記のことを踏まえ、本科目では、教育実習の成果を上げるため、教師としての実践的指導力を育成することを目的とする。

【到達目標】

教育実習の意義について理解できる。

小学校の授業の特色について理解する。

小学校の科目の指導案を作成できる。

小学校のどの科目も授業を実践できる。

小学校の授業の板書計画を作成できる。

どの科目も興味関心を持たせながら展開できる。

どの科目も教材研究ができる。

教育実習に十分対応できる授業実践力を身につける。

生徒指導・課外活動について指導ができる。

【授業計画】

第1回 教育実習の意義と目的

- ・学習課題（予習・復習）：配布したレジュメ等資料を基に授業ノートを充実させること。

予習は本シラバスによって、復習は授業時にディスカッションしたことや資料を基に行うこと。

以下、各回の授業に対して、予習・復習を行い、その時間は90分程度を目安にする。

第2回 実習前・実習中の諸注意

第3回 児童からみた教育実習の意義

第4回 学校・教員からみた教育実習の意義

第5回 児童の発達段階の理解及び、学級経営、生徒指導、特別活動について

第6回 指導案作成における留意事項等

第7回 模擬授業実施等に伴う班編制と役割分担、単元等の決定（班活動）

第8回 模擬授業の検討：「国語」「算数」「理科」「社会」の班に分ける。

第9回 指導案の作成：全員（各班毎）

第10回 指導案の作成：全員（各班毎）

第11回 模擬授業と授業内容の検討（2班組）

第12回 模擬授業（2班組）

第13回 模擬授業と授業内容の検討：全体発表（代表班）

第14回 模擬授業と授業内容の検討：全体発表（代表班）

第15回 教育実習の報告と教育実習で明らかになった課題の検討

- ・教育実習で作成、実施した指導案の検討

この科目は小学校コース以外の他専攻の学生のためのものである。

各他専攻はそれぞれ特色があり、自分の専攻とは考え方や態度が異なる他専攻の学生と一緒に授業する場である。

お互いに他の専攻の特色や状況を認め合い協力すること。

模擬授業実施に当たっては、班全員での指導案作成と役割分担等に基づく授業を行うこと。

授業ノートを作成し、充実に努める。

【授業の進め方】

講義、演習、グループ学習、模擬授業等を中心に授業を進めていく。特に、意見発表、ディスカッション等を重視する。本科目では、学生自身が模擬授業を実施するなかで指導案作成・板書計画・教材研究・評価方法を学ぶことが重要であり毎回の授業が次の授業へ継続発展していくことに注意して積極的に模擬授業に取り組むこと。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①小学校学習指導要領 ②文部科学省 ③東京書籍 ④平成20年 ⑤227 ⑥ISBN978-4-487-28695-9

教育実習の手引き（小学校編）（本大学発行）
小学校教育実習記録

【参考図書】

必要に応じて指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

模擬授業への取り組みの態度と工夫・提出レポート（指導案）等で総合的に評価する。

【履修上の心得】

原則として無断欠席は認められないので注意すること。無断欠席が一回でもあれば単位は認めない。
授業は、指導案作成・模擬授業など実習の内容が多くなるので、自分自身のしっかりしたノート作成が重要である。
他者の模擬授業では児童役として積極的に協力するとともに他者の授業方法から積極的に学ぶこと。
自分の不得意な科目に積極的に挑戦すること。

【科目のレベル、前提科目など】

各教科の概説Ⅰなどの教科内容に関する科目

各教科の指導法に関する科目

2017年度 シラバス (講義概要)

白鷗大学 教育学部

平成29年 4月 1日 発行

編集・発行 白鷗大学事務局

〒323-8585

栃木県小山市大行寺1117番地

電話 0285-22-1111(代表)

ホームページ <http://hakuoh.jp/>
